弘前大学医学部医学科·医学部附属病院

自己評価報告書

- 2002年度-2003年度-

2005年3月

弘前大学医学部医学科 · 附属病院自己評価委員会

平成16年度自己点検評価刊行にあたって - 更なる飛躍を目指して-

弘前大学医学部長 兼 子 直

弘前大学医学部医学科では1994年3月に第1回,1997年10月に第2回,1999年3月に第3回,2001年3月に第4回,さらに2003年3月に第5回目と自己点検評価を重ねてきました。3回目までの自己評価を基に1999年11月に第1回目の外部評価を受け、さらに2000年9月には講座・部門の管理・運営に特化した第2回目の外部評価を受けてきました。

今回は第6回目の自己点検評価になります。外部評価を受けた後は直ちに外部評価具体化委員会を結成し、その具体化に努めてきました。その結果として、特に講座・部門の管理・運営に特化して行われた第2回目の外部評価で指摘された医局制度の問題点に関して、全国の医学部、医科大学に先駆けて行われた医局制度廃止に関しては、各方面に大きな衝撃を与えたことは既にご承知のことと思います。医局制度廃止は自己点検評価、外部評価を行い、その結果を我々が真摯に受けとめ具体化に努力した現れであり、大きな成果であります。現在、この制度の有用性を高め、更なる発展を期待しているところであります。

この自己評価制度をどのように利用して、教育・研究・社会貢献・管理運営を改善してゆくか現在再検討中です。インセンティブ経費の重点配分にも自己点検評価の結果が利用されていますが、これが引き金となり国際誌への掲載論文の増加、学位論文の英文化など医学部医学科における研究実績の向上には目覚ましいものがあります。

2001年4月より弘前大学医学部医学科,同附属病院の全教員ポストに導入された教員任期制の第1回の審査が2006年に実施されなければなりませんが、そのための資料としてこの自己点検評価が利用されます。このように自己点検評価が様々なことに利用されていきますので、評価方法については常に見直し、改良を加えながらさらにより良いものにしていく努力を続けていきたいと考えております。

自己評価報告書 2002-2003年度版刊行にあたって

弘前大学医学部医学科·附属病院自己評価委員会 委員長 **藏 田 潔** (牛理学第二講座)

弘前大学医学部医学科・附属病院ではこれまで隔年毎に5回の自己点検・評価を行い、その内容を公表してきた。この度、2002年度と2003年度の2年間の自己点検・評価を実施し、その内容をまとめたのがこの報告書である。今回の自己評価報告書作成にあたり、評価対象を前回までの教育、研究、管理・運営の3部門に加え、社会貢献もその対象として、合計4分野とすることとした。また、診療に関する項目は附属病院年報との重複を避けるため、従前どおり含まれていない。

社会貢献はこれまでの評価の中でも、その一部が教育活動の中に含まれて評価されていたが、特に近年、本学の地域社会における関わりが重視されてきており、独立した項目として評価することにした。その内容は、学会におけるさまざまな活動や国や地方自治体の審議会等における活動、産学共同事業や新技術の創出、本医学部医学科以外の教育機関における講義、地域医療への貢献、国際交流への貢献など、従来評価対象となっていなかった項目をも網羅している。このことにより、個々の教員、および研究単位での活動の全体像がより明確に捉えることができると思われる。本報告書の中で、社会貢献は2年間の途中である2002年度から自己評価を開始したため、本報告書の発行に合わせ、各講座部門が2003年に1年間の目標を立てた。本報告書には2003年度の社会貢献その1年間の目標に対する達成度と、今後2年間の目標が記載されている。次回の報告書からは教育・研究にあわせ、社会貢献もこれら2年間の目標に対する達成度が記載される予定である。

本報告書にまとめられた自己点検評価は個々の教員、および講座・部門での活動の全体像を示すものであるが、間もなく開始される個々の教員の任期制審査を行う上で、重要な役割を果たすものと期待される。また、各講座・部門における自己点検評価はスコア化され、研究基盤校費の傾斜配分の基礎資料として使われてきており、そのことが各講座・部門における意識と意欲の向上に果たした役割は極めて大きいといえよう。しかしながら、本年度の独立行政法人化以降、配分される研究基盤校費の総額は前年度より著しく減額されており、来年度以降も総額として1%ずつ減額されるという現実を鑑み、本資料を研究基盤校費の傾斜配分としてどのように用いるかについて、すでに検討が始まっているところである。

一方、本学の独立行政法人化に伴い、平成16年度から、全学の評価を行う機関として「評価室」が立ち上げられた。ここでは各教員、講座・部門、そして学部全体での評価システムが構築されつつある。 具体的には優れた業績をあげた個人・組織が適正に評価されるとともに、個人・組織がその能力・目標を最大限に達成できるような評価システム作りであり、そこでは明確な基準により評価の公平性や透明性を確保するとともに、目標を定めやすくする狙いがある。医学部医学科・附属病院においては他学部に先駆けてこのような評価システムがあり、これまでの自己点検・評価の大半を用いればすぐにこのシステムに対応できる点で、他学部をリードしているといえよう。

最後に、本報告書の作成にご協力いただいた医学部医学科と附属病院のすべての教員、自己評価委員 会の委員と事務職員各位に篤く御礼申し上げる。

目 次

第1章 教育活動

1.	解剖学第一講座	1
2.	解剖学第二講座	4
3.	生理学第一講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
4.	生理学第二講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
5.	生化学第一講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
6.	生化学第二講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	18
7.	薬 理 学 講 座	22
8.	病理学第一講座	26
9.	病理学第二講座	29
10.	細 菌 学 講 座	32
11.	衛 生 学 講 座·····	36
12.	公衆衛生学講座	39
13.	寄生虫学講座	42
14.	法 医 学 講 座	44
15.	内科学第一講座(診療科:第一内科を含む)	47
16.	内科学第二講座(診療科:第二内科を含む)	51
17.		54
18.	老年科学講座	57
	神経精神医学講座(診療科:神経科精神科を含む)	60
20.	小児科学講座(診療科:小児科を含む)	64
21.	外科学第一講座(診療科:第一外科を含む)	67
22.		72
23.	<u> </u>	77
24.	皮膚科学講座(診療科:皮膚科を含む)	81
	泌尿器科学講座(診療科:泌尿器科を含む)	
26.	眼 科 学 講 座 (診療科: 眼科を含む)	
27.		
28.		
	産科婦人科学講座(診療科:産科婦人科を含む)	
30.	麻 酔 学 講 座 (診療科: 麻酔科を含む)	
31.		
32.		
33.	救急・災害医学講座····································	
34.		
35.		
36.		
37.	分子病態部門(附属脳神経血管病態研究施設)	122

38.	脳血管病態部門(附属脳神経血管病態研究施設)	125
39.	機能回復部門(附属脳神経血管病態研究施設)	129
40.	神経統御部門(附属脳神経血管病態研究施設)	131
41.	細胞工学部門(附属脳神経血管病態研究施設)(客員部門のため資料なし)	133
42.	附属動物実験施設(施設長(教授、併任)については生理学第二講座で報告)	134
43.	小 児 外 科 (診療科)	136
44.	薬 剤 部	139
45.	手 術 部(部長(教授,併任)については外科学第二講座で報告)	141
46.	検 査 部 (部長 (教授、併任)、副部長 (助教授、併任) については臨床検査医学講座で報告) …	143
47.	放 射 線 部 (放射線医学講座で報告のため資料なし)	145
48.	救 急 部 (部長 (教授, 併任) については内科学第二講座で報告)	146
49.	輸 血 部(部長(教授,併任)については内科学第一講座で報告)	148
50.	集 中 治 療 部 (部長 (教授、併任) については麻酔学講座で報告)	150
51.	周産母子センター(部長(教授、併任)については産科婦人科学講座で報告)	152
52.		
53.	医療情報部	156
54.	光学医療診療部 (部長 (教授, 併任) については内科学第一講座で報告)	159
55.	リハビリテーション部(部長(教授,併任)については整形外科学講座で報告)	
	総合診療部	
	卒後臨床研修センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	メディカルスクール研究センター	
(別	表) 医学部医学科学生について資料 1 ~ 5	
	大学院生について資料 1 ~ 9	175
第2章 研		
	f動に関する自己点検・評価(記載説明) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	解剖学第一講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	解剖学第二講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	生理学第一講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	生理学第二講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	生化学第一講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	生化学第二講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	薬 理 学 講 座··································	
	病理学第二講座	
	細菌学講座	
	衛生学講座	
	公衆衛生学講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	寄生虫学講座	
14.	法 医 学 講 座	402

15.	内科学第一講座(診療科:第一内科を含む)	267
16.	内科学第二講座(診療科:第二内科を含む)	279
17.	内科学第三講座 (診療科:第三内科を含む)	289
18.	老年科学講座	299
19.	神経精神医学講座 (診療科:神経科精神科を含む)	305
20.	小児科学講座(診療科:小児科を含む)	320
21.	外科学第一講座 (診療科:第一外科を含む)	329
22.	外科学第二講座 (診療科:第二外科を含む)	337
23.	整形外科学講座 (診療科:整形外科を含む)	347
24.	皮膚科学講座(診療科:皮膚科を含む)	361
25.	泌尿器科学講座(診療科:泌尿器科を含む)	370
26.	眼 科 学 講 座 (診療科: 眼科を含む)	375
27.	耳鼻咽喉科学講座 (診療科:耳鼻咽喉科を含む)	384
28.	放射線医学講座(診療科:放射線科,診療部:放射線部を含む)	391
29.	産科婦人科学講座(診療科:産科婦人科を含む)	397
30.	麻 酔 学 講 座 (診療科: 麻酔科を含む)	406
31.	脳神経外科学講座(診療科:脳神経外科を含む)	418
32.	形成外科学講座 (診療科:形成外科を含む)	425
33.	救急•災害医学講座	430
34.	臨床検査医学講座	434
35.	臨床薬理学講座	440
36.	歯科口腔外科学講座 (診療科:歯科口腔外科を含む)	445
37.	分子病態部門(附属脳神経血管病態研究施設)	452
38.	脳血管病態部門(附属脳神経血管病態研究施設)	459
39.	機能回復部門(附属脳神経血管病態研究施設)	465
40.	神経統御部門(附属脳神経血管病態研究施設)	468
41.	細胞工学部門(附属脳神経血管病態研究施設)(客員部門のため資料なし)	475
42.	附属動物実験施設(施設長(教授、併任)については生理学第二講座で報告)	478
43.	小 児 外 科 (診療科)	482
44.	薬 剤 部	487
45.	手 術 部(部長(教授,併任)については外科学第二講座で報告)	492
46.	検 査 部 (部長 (教授, 併任), 副部長 (助教授, 併任) については臨床検査医学講座で報告) …	497
47.	放射線 部(放射線医学講座で報告のため資料なし)	501
48.	救 急 部 (部長 (教授, 併任) については内科学第二講座で報告)	504
49.	輸 血 部(部長(教授,併任)については内科学第一講座で報告)	510
50.	集中治療部(部長(教授、併任)については麻酔学講座で報告)	514
51.	周産母子センター(部長(教授、併任)については産科婦人科学講座で報告)	
52.		
	医療情報部	
54.	光学医療診療部(部長(教授、併任)については内科学第一講座で報告)	535

55.	リハビリテーション部(部長(教授,併任)については整形外科学講座で報告)	541
56.	総合診療部	547
57.	卒後臨床研修センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	551
58.	メディカルスクール研究センター	554
第3章 社	t会貢献活動	
1.	解剖学第一講座	557
2.	解剖学第二講座	559
3.	生理学第一講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	561
4.	生理学第二講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	563
5.	生化学第一講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	565
6.	生化学第二講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	572
7.	薬 理 学 講 座	574
8.	病理学第一講座	576
9.	病理学第二講座	579
10.	細 菌 学 講 座	581
11.	衛生学講座	583
12.	公衆衛生学講座	587
13.	寄生虫学講座	592
14.	法 医 学 講 座	594
15.	内科学第一講座 (診療科:第一内科を含む)	596
16.	内科学第二講座 (診療科:第二内科を含む)	600
17.	内科学第三講座 (診療科:第三内科を含む)	604
18.	老年科学講座(診療科を含む)	607
19.	神経精神医学講座 (診療科:神経科精神科を含む)	609
20.	小児科学講座(診療科:小児科を含む)	617
21.	外科学第一講座(診療科:第一外科を含む)	621
22.	外科学第二講座(診療科:第二外科を含む)	624
23.	整形外科学講座 (診療科:整形外科を含む)	627
24.	皮膚科学講座(診療科:皮膚科を含む)	633
25.	泌尿器科学講座 (診療科:泌尿器科を含む)	638
26.	眼 科 学 講 座 (診療科: 眼科を含む)	640
27.	耳鼻咽喉科学講座 (診療科:耳鼻咽喉科を含む)	643
28.	放射線医学講座(診療科:放射線科、診療部:放射線部を含む)	646
29.	産科婦人科学講座(診療科:産科婦人科を含む)	649
30.	麻 酔 学 講 座 (診療科:麻酔科を含む)	652
31.	脳神経外科学講座(診療科:脳神経外科を含む)	655
32.	形成外科学講座 (診療科:形成外科を含む)	657
33.	救急•災害医学講座	659
34.	臨床検査医学講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	661

35.	臨床薬理学講座	663
36.	歯科口腔外科学講座 (診療科:歯科口腔外科を含む)	665
37.	分子病態部門(附属脳神経血管病態研究施設)	668
38.	脳血管病態部門(附属脳神経血管病態研究施設)	670
39.	機能回復部門(附属脳神経血管病態研究施設)	672
40.	神経統御部門(附属脳神経血管病態研究施設)	674
41.	細胞工学部門(附属脳神経血管病態研究施設)(客員部門のため資料なし)	676
42.	附属動物実験施設(施設長(教授、併任)については生理学第二講座で報告)	677
43.	小 児 外 科 (診療科)	679
44.	薬 剤 部	681
45.	手 術 部 (部長 (教授, 併任) については外科学第二講座で報告)	683
46.	検 査 部 (部長 (教授, 併任), 副部長 (助教授, 併任) については臨床検査医学講座で報告)	685
47.	放 射 線 部 (放射線医学講座で報告のため資料なし)	687
48.	救 急 部 (部長 (教授, 併任) については内科学第二講座で報告)	689
49.	輸 血 部 (部長 (教授, 併任) については内科学第一講座で報告)	692
50.	集 中 治 療 部 (部長 (教授, 併任) については麻酔学講座で報告)	694
51.	周産母子センター (部長 (教授、併任) については産科婦人科学講座で報告)	696
52.	病 理 部 (部長 (教授, 併任) については病理学第一講座で報告)	698
53.	医療情報部	700
54.	光学医療診療部 (部長 (教授, 併任) については内科学第一講座で報告)	702
55.	リハビリテーション部(部長(教授、併任)については整形外科学講座で報告)	704
56.	総合診療部	706
57.	卒後臨床研修センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	708
58.	メディカルスクール研究センター	710
第4章 管	管理・運営	
I. Ā	所属委員会(医学部医学科・附属病院・全学)	711
II. B	医学部医学科及び附属病院役付職員一覧	723
Ⅲ. 芎	牟友会所属サークル一覧(体育系及び文化系)	724
IV. 孝	女官現員並びに諸会議・会合について	726
1.	解剖学第一講座	726
2.	解剖学第二講座	726
3.	生理学第一講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	727
4.	生理学第二講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	728
5.	生化学第一講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	728
6.	生化学第二講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	729
7.	薬理学講座	730
8.	病理学第一講座	730
9.	病理学第二講座	731
10.	細 菌 学 講 座	732

11.	衛 生 学 講 座	732
12.	公衆衛生学講座	733
13.	寄生虫学講座	734
14.	法 医 学 講 座	734
15.	内科学第一講座 (診療科:第一内科を含む)	735
16.	内科学第二講座 (診療科:第二内科を含む)	736
17.	内科学第三講座 (診療科:第三内科を含む)	736
18.	老年科学講座	737
19.	神経精神医学講座 (診療科:神経科精神科を含む)	738
20.	小児科学講座(診療科:小児科を含む)	739
21.	外科学第一講座 (診療科:第一外科を含む)	740
22.	外科学第二講座 (診療科:第二外科を含む)	740
23.	整形外科学講座 (診療科:整形外科を含む)	741
24.	皮膚科学講座(診療科:皮膚科を含む)	742
25.	泌尿器科学講座 (診療科: 泌尿器科を含む)	743
26.	眼 科 学 講 座 (診療科: 眼科を含む)	743
27.	耳鼻咽喉科学講座 (診療科:耳鼻咽喉科を含む)	744
28.	放射線医学講座 (診療科:放射線科, 診療部:放射線部を含む)	745
29.	産科婦人科学講座(診療科:産科婦人科を含む)	745
30.	麻 酔 学 講 座 (診療科:麻酔科を含む)	746
31.	脳神経外科学講座 (診療科:脳神経外科を含む)	747
32.	形成外科学講座 (診療科:形成外科を含む)	748
33.	救急 • 災害医学講座 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	748
34.	臨床検査医学講座	749
35.	臨床薬理学講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	749
36.	歯科口腔外科学講座(診療科:歯科口腔外科を含む)	750
37.	分子病態部門(附属脳神経血管病態研究施設)	751
38.	脳血管病態部門(附属脳神経血管病態研究施設)	751
39.	機能回復部門(附属脳神経血管病態研究施設)	752
40.	神経統御部門(附属脳神経血管病態研究施設)	752
41.	細胞工学部門(附属脳神経血管病態研究施設)(客員部門のため資料なし)	753
42.	附属動物実験施設	754
43.	小 児 外 科 (診療科)	756
44.	薬 剤 部	756
45.	手 術 部	757
46.	検 査 部	758
47.	放 射 線 部⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯	759
48.	材 料 部	759
49.	救 急 部	760
50.	輸 血 部	761

51.	集 中 治 療 部	762
52.	周産母子センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	762
53.	病 理 部	763
54.	医療情報部	764
55.	光学医療診療部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	765
56.	リハビリテーション部	765
57.	総合診療部	766
58.	強力化学療法室(ICTU) ······	767
59.	臨床テクノロジーセンター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	767
60.	治験管理センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	768
61.	卒後臨床研修センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	769
62.	メディカルスクール研究センター	769

教 育 活 動

第1章 教育活動

1. 解剖学第一講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

充分に到達できたと思う。

これから2年間の目標:

さらに工夫・努力する。

(1) 教 育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	職名	区 分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
00年度	正村 和彦	教授				生物学の基礎 IIB	5 回
03年度	目黒 玲子	助手				基礎ゼミナール	15回

2) 実習

	担当者名	職名	区分	授業科目名	回 数 又は期間
	正村 和彦	教授		基礎科学実験(生物)	4 回
03年度	目黒 玲子	助手		基礎科学実験(生物)	4 回
	浅野 義哉	助手		基礎科学実験(生物)	4 回

【学部教育】

1)講義

	担当者名 職名		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	正村	和彦	教授	人体の構造と機能 I	2年	15回
02年度	目黒	玲子	助手	基礎人体科学演習 基礎ゼミナール	1年	24回 12回
	浅野	義哉	助手	基礎人体科学演習	1年	12回
	正村	和彦	教授	人体の構造と機能 I	2年	15回
03年度	目黒	玲子	助手	基礎人体科学演習	1年	30回
	浅野	義哉	助手	チュートリアル教育	3年	12回

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			人体の構造と機能 I		
02年度	正村 和彦	教授	顕微解剖学	3年	24回
			脳の解剖学	3年	6 回
	正村 和彦	教授	人体の構造と機能 I		
03年度	目黒 玲子	助手	組織学実習	3年	15回
	浅野 義哉	助手	脳の解剖実習	3年	6 回

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数					指	導	者	名		
02年度	0名										
03年度	3名	正村	和彦,	目黒	玲子,	浅野	義哉				

【大学院】

1) 講 義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	正村 和彦	教授	生理系(2) 神経研究の進歩		1回
03年度	正村 和彦	教授	医学研究に必要な基礎知識		1 回

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	名 職名	名 称 等	
	正村 和	彦 教授		
02年度	目黒 玲	子 助手	チュートリアル教育	
	浅野 義	哉助手		
	正村 和	彦 教授		
03年度	目黒 玲	子 助手	チュートリアル教育	
	浅野 義	哉助手		

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名 職名		職名	回数	うちコ・メディカルの回数又は期間
	正村	和彦	教授	81回	80回
02年度	目黒	玲子	助手	1回	0 回
	浅野	義哉	助手	1回	0 回
03年度	正村	和彦	教授	42回	40回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
02年度	正村 和彦	教授	人体の構造と機能 I	90%以上
	正村 和彦	教授	人体の構造と機能 I 授業	出席取っていない
03年度	目黒 玲子	助手	人体の構造と機能 I 実習講義	1000/
	浅野 義哉	助手	人体の構造と機能 I 実習講義	100%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
02年度	正村 和彦	教授	人体の構造と機能	3.5(A), 3.4(B)
03年度	正村 和彦	教授	人体の構造と機能 I 授業	A=3.9; B=4.0

2) 専門教育の評価

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
人体の構造と機能 I 実習	3	21	63	4.1	4.0

2. 解剖学第二講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

学生が興味・関心を持って授業を受けており、またよく理解している。学士入学者もスムーズに入り込むことができ、興味・関心をもち理解できたことは良かった。

(ただし、医学部2年生の学生は講義時間数が半減した等のため、十分な授業は困難で、効果も不十分であったように思う。到達度約6割)

肉眼解剖学実習に経験の深い講師の協力を得て、実習マニュアルの作成を含め、精神面も含め実習内容の充実・改善ができた。新人助手もよく勉強し、進歩した。

学内外のコメデイカルの解剖学実習にも積極的に協力した。

講師はコメデイカル教育のシンポジウムにおいて解剖学実習に関する発表し、この方面で有意義な貢献をした。 全体として到達度8割

これから2年間の目標:

- 1. 医学部, 他学部, コメデイカル, 大学院学生に, 肉眼解剖学, 発達・老化学, 細胞・組織学, 機能形態学等を 興味をもって学習・修得できるような授業を行なう。
- 2. 医学部学生には、医学・医療の基本をきちんと学習・体得させるよう努力する。 また、3年次途中入学を含む新カリキュラムに対応できる体制づくりをする。 実習マニュアルを充実・完成させる。コアカリキュラムを考慮にいれて、発生学の講義プリント等を整理・充 実させる。
- 3. 講師・助手の教育能力を一層高めるよう経験をつませる。
- 4. 社会的貢献にも努力する。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	加地	隆	教授	教養	自然	人体の科学	動的及び構造的人体論	3 回
						健康	発達と老化	1 回
00年度	加地	隆	教授	21世紀教育	テーマ科目	健康	発達と老化(A)(2)	1回
03年度	外崎	敬和	講師	21世紀教育	テーマ科目	人間	生態系の中の人間(A)	3 回

2) 実習

	担当者名	職名	区分	授業科目名	回 数 又は期間
03年度	外崎 敬和	講師	21世紀教育 (基礎教育科目)	基礎科学実験(生物)	3 回

【学部教育】

1)講義

	担当者名 職名		授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	加地 隆	教授			
02年度	うち1回は3人で担当		1 44 0 Ht /t 1 146 6F T / 4 F7) 1 F7 77	9.45	1.5
02年度	外崎 敬和	講師	人体の構造と機能Ⅰ(1回は実習)	2年	15回
	渡邉 誠二	助手			
	加地 隆	教授	人体の構造と機能 I	2年	12回
03年度	外崎 敬和	講師	人体の構造と機能 I	2年	2 回
	渡邉 誠二	助手	補充講義	3 年次編入	6 回

2) 基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			基礎人体科学演習	1年	2 クール
	加地 隆	教授	基礎ゼミナール	1年	2 クール
			人体の構造と機能 I	3年	8 hr×38回
02年度	外崎 敬和	講師	基礎人体科学演習	1年	17クール
	クト吨」 切又不口	神神川	人体の構造と機能 I	3年	8 hr×38回
	渡邉 誠二	助手	基礎人体科学演習	1年	1 クール
	仮 瑄	助于	人体の構造と機能 I	3年	8 hr×38回
			人体の構造と機能 I 実習	3年	39回
	加地 隆	教授	人体の構造と機能I実習講義	3年	20回
	加地	3人1人	基礎人体科学演習	1年	2 クール
			チュートリアル	3年	2 クール
03年度			人体の構造と機能 I 実習	3年	39回
03千皮	外崎 敬和	講師	人体の構造と機能I実習講義	3年	9 回
	クト中引 切入小口	마타비	基礎人体科学演習	1年	1クール
			チュートリアル	3年	2 クール
	渡邉 誠二	助手	人体の構造と機能 I 実習	3年	39回
	/汉珍	成二 助手	基礎人体科学演習	1年	1 クール

02年度

* ほぼ毎回1時間前後の実習講義を行なった。

実習講義回数:加地24回,外崎1回,非常勤講師―鈴木5回,千葉4回 実習期間中に3回試験(実習同定試験+肉眼解剖学各論試験)を行なった。

* 正規の授業時間が終了後も,月曜日は14:00~20:00迄,火曜日・水曜日は17:30~20:00迄, $1\sim3$ 名の教官が随時指導した。

03年度

* 実習時間 火・水:5-10時限(3~4時限は実習講義) 木:3-10時限 正規の授業時間終了後も19:00~19:30迄、教官がかならず1~2名指導している。

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数					指	導	者	名		
02年度	5名	外崎	敬和,	渡邉	誠二,						
03年度	2 名	外崎	敬和,	渡邉	誠二						

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	加地 隆	教授	人体解剖学 • 顕微解剖学	1年	2 回

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	外崎 敬和	講師	人体解剖学	1年	1 回

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
02年度	外崎 敬和	講師	新任教官説明会(5/31) 科学研究費説明会(9/19) チュートリアル教育説明会(11/16)

	加地	隆	教授	科学研究費説明会(9 / 19) チュートリアル教育説明会(11 / 16)
03年度	加地	降	教授	The new Edinburgh medical curriculum (1996-2003)

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
	加地 隆	教授	保健学科看護3年	人体解剖学(カリキュラム外補講)実習	1回
03年度	外崎 敬和	講師	保健学科看護3年	人体解剖学(カリキュラム外補講)講義	1回
03平皮	21-呵 奴和	神训		人体解剖学(カリキュラム外補講)実習	1回
	渡邉 誠二	助手	保健学科看護3年	人体解剖学(カリキュラム外補講)実習	1回

【他大学・他施設における講義】

	担当	者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数
00年度	加地	隆	教授	1 回	1回
02年度	外崎	敬和	講師	1 回	1 回
00左连	外崎	敬和	講師	2 回	2 回
03年度	渡邉	誠二	助手	18回	18回

【学生授業出席率】

	担当	者名	職名	科 目 名	出席率						
	加地	降	教授	人体の構造と機能 I 講義(2年生)	85%以上						
02年度	//III	P/E.	3人1人	人体の構造と機能 I 実習(3年生)	95~100%						
02平皮	外崎	敬和	講師	人体の構造と機能 [実習 (3年生)	95~100%						
	渡邉	誠二	助手	人体の構造と機能 I 実習(3年生)	95~100%						
	加地	17/5	17/2	17/2	17/2	17夕	[7夕	降	教授	人体の構造と機能 I 講義(2年生)	85~90%以上
	/ILFE	PE	7人1又	人体の構造と機能 [実習 (3年生)	95~100%						
03年度	外崎	敬和	講師	人体の構造と機能 I 講義(2年生)	85~90%以上						
	クト四日	切入个口	神神川	人体の構造と機能 [実習 (3年生)	95~100%						
	渡邉	誠二	助手	人体の構造と機能 I 実習(3年生)	95~100%						

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者		職名	科 目 名	評 価									
	加地	降	降	降	降	路	路	降	路	降	路	教授	人体の構造と機能 I 講義 (2年生)	A:3.2, B:3.0*
02年度	711	PAE.	1717	人体の構造と機能 I 実習(3年生)	A:4.0, B:4.1									
02平及	外崎	敬和	講師											
	渡邉	誠二	助手											
03年度	加地	隆	教授	人体の構造と機能 I 講義(2 年生)	A:3.3, B:3.1									

02年度

* 2年生は講義回数が前年度の30回から15回へと変わったため、充分な内容をわかりやすく説明する事が困難であったようである。わかりやすく説明するためには内容を削減しなければならないが、今以上に内容を削減するのは適当ではないと思われる。

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
人体の構造と機能(I)	3 年生	39日	156	4.0	4.0

^{*} 実習指導については教官数を増やして欲しいとの希望あり。

3. 生理学第一講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

わかりやすい講義の実践という目標に対して、本講座の教員すべてが努力した。到達度は90%。

これから2年間の目標:

- 1. わかりやすく、しかも一歩踏み込んだ講義を行う。
- 2. 学生達が自ら学ぶような指導を心がける。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
00年度	菅野 隆浩	助教授	テーマ科目	健康	生活習慣病	生活習慣病と健康(B)	3 回
02年度	菅 世智子	講師	教養科目	自然領域	人体の科学	人体の機能とその調節	3 回
	泉井 亮	教授		基礎教育科目	自然系基礎	生物学の基礎	4 回
03年度	菅野 隆浩	助教授		テーマ科目	テーマ・情報	情報の伝達	3 回
	菅 世智子	講師		基礎教育科目	自然系基礎	生物学の基礎	5 回

2) 実習

	担当者名	職名	区分	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	泉井 亮	教授	基礎教育科目	基礎物理学	30回
02平皮	菅 世智子	講師	基礎教育科目	基礎生物学	3 回
	木村 良一	助手	自然系基礎	基礎科学実験(物理)	30回
03年度	泉井 亮	教授	自然系基礎	基礎科学実験(物理)	1回
	菅 世智子	講師	自然系基礎	基礎科学実験(生物)	4 回

【学部教育】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	泉井 亮	教授	人体の構造と機能Ⅱ	2年	12回
	水井 冗	7人1又	人体の構造と機能Ⅱ	3年	9 回
02年度	菅野 隆浩	助教授	人体の構造と機能Ⅱ	2年	4 回
02平及	官封 陸石	助教授	人体の構造と機能Ⅱ	3年	10回
	菅 世智子	講師	人体の構造と機能Ⅱ	2年	3 回
	自 匹省丁		人体の構造と機能Ⅱ	3年	8 回
		图 教授	人体の構造と機能Ⅱ	2年	13回
	泉井 亮		系統別講義(循環器系)	3年	1 回
03年度			系統別講義(代謝内分泌系)	3年	1 回
	菅野 隆浩 助教授 人体の構造と機能Ⅱ		2年	5 回	
	菅 世智子	講師	人体の構造と機能Ⅱ	2年	5 回

2)基礎実習

	担当者		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	白井	亮	教授	人体の構造と機能Ⅱ	2年	12回
00/5/5	泉井			人体の構造と機能Ⅱ	3年	16回
02年度	菅野	隆浩	助教授	人体の構造と機能Ⅱ	2年	12回
	官到			人体の構造と機能Ⅱ	3年	16回

	菅 世智子	講師	人体の構造と機能Ⅱ	2年	12回
00年度	1		人体の構造と機能Ⅱ	3年	16回
02年度	木村 良一	助手	人体の構造と機能Ⅱ	2年	12回
	水的 段一	助手	人体の構造と機能Ⅱ	3年	16回
	泉井 亮	教授	人体の構造と機能Ⅱ	2年	12回
00左座	菅野 隆浩	助教授	人体の構造と機能Ⅱ	2年	12回
03年度	菅 世智子	講師	人体の構造と機能Ⅱ	2年	12回
	木村 良一	助手	人体の構造と機能Ⅱ	2年	12回

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数		指	導	者	名
02年度	3名	菅野 隆浩, 菅 世智子				
	16名	木村 良一				
00左座	8名	菅 世智子				
03年度	8名	菅野 隆浩				
	8名	泉井 亮				

【大学院】

1)講義 該当なし。
 2)実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
			医学部医学科ファカルティ・デベロップメント(チュートリアル教育について)
	泉井 亮	教授	新採用ファカルティ・デベロップメント
02年度			教育評価ファカルティ・デベロップメント
02平及	菅野 隆浩	助教授	医学部医学科ファカルティ・デベロップメント (チュートリアル教育について)
	菅 世智子 講師		医学部医学科ファカルティ・デベロップメント (チュートリアル教育について)
	木村 良一	助手	医学部医学科ファカルティ・デベロップメント (チュートリアル教育について)
03年度	泉井 亮	教授	エジンバラ大学における医学教育
03平及	菅野 隆浩	助教授	エジンバラ大学における医学教育

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名 職名		回数	うちコ・メディカルの回数
02年度	泉井 亮	教授	1 回	
02平皮	菅 世智子	講師	43回	43回
03年度	菅 世智子	講師	30回	30回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
	泉井 亮	教授	人体の構造と機能Ⅱ (2年)	91%
	永升 冗	教授	人体の構造と機能Ⅱ (3年)	89%
09年度	菅野 隆浩	助教授	人体の構造と機能Ⅱ (2年)	96%
02年度	官到 隆宿	助教授	人体の構造と機能Ⅱ (3年)	93%
	菅 世智子	講師	人体の構造と機能Ⅱ (2年)	93%
	官 匹省丁		人体の構造と機能Ⅱ (3年)	83%
			人体の構造と機能Ⅱ	90%
	泉井 亮	教授	系統別講義(循環器系)	90%
03年度			系統別講義(代謝内分泌系)	90%
	菅野 隆浩	助教授	人体の構造と機能Ⅱ	90%
	菅 世智子	講師	人体の構造と機能Ⅱ	90%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名		抨	価		
	泉井 亮	教授	人体の構造と機能Ⅱ (2年)	Α :	3.8	В 3.7		
	氷井 冗	7人1又	人体の構造と機能Ⅱ (3年)	Α :	3.9	В 3.9		
02年度	菅野 隆浩	助教授	人体の構造と機能Ⅱ (2年)	A :	3.6	В 3.5		
02平皮	官野 隆浩	助教授	人体の構造と機能Ⅱ (3年)	Α :	3.7	В 3.6		
	菅 世智子	講師	人体の構造と機能Ⅱ (2年)	A :	3.8	В 3.8		
	自 匹省丁		人体の構造と機能Ⅱ (3年)	Α :	3.6	В 3.6		
		亮 教授	人体の構造と機能Ⅱ	前期A	4.0, 後	後期A 4.1		
	泉井 亮		系統別講義(循環器系)		受け	ず		
03年度			系統別講義(代謝内分泌系)		受け	ず		
	菅野 隆浩	助教授	人体の構造と機能Ⅱ	前期A 3.7				
	菅 世智子	講師	人体の構造と機能Ⅱ			後期A 3.6		

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B	
人体の構造と機能Ⅱ	2 年生	12日	36	4.0	4.0	

4. 生理学第二講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

2年前に「スタッフ (特に助手)の充実を図ることにより、学部および大学院学生により木目細かく、かつ高度な教育の実現を目指す」との目標を掲げたが、学部教育に関しては 100 %の目標を達成した。さらに、助手の採用とともに大学院生 1 名を受け入れている。全体としても 100 %の目標を達成した。

これから2年間の目標:

今後は、特に教育スタッフの育成と充実を図ることにより、学部および大学院学生により木目細かく、かつ高度な教育の実現を目指す。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名		職名	区 分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間	
02年度	藏田	潔	教授	教養	自然	人体の科学	動的及び構造的人体論(Ⅰ)	4 回	
02平及	相澤	寛	助教授	教養	自然	人体の科学	動的及び構造的人体論(Ⅰ)	2 回	
	-	************************************		健康		最新医学の現状(C)	1回		
00左连		係	教授	テーマ科目	情報		情報の伝達(B)	1回	
03年度		Les NIII eries	Let New Advantage		中本4	US NI	健康		最新医学の現状(C)
	相澤	相澤 寛 助教授		テーマ科目	情報		情報の伝達(B)	1回	

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者	名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	藏田	潔	教授	人体の構造と機能Ⅱ	2年	14回
00年度			叙坟	人体の構造と機能Ⅱ	3年	14回
02年度	40.)PB ##	寛	# 11. ***	人体の構造と機能Ⅱ	2年	9 回
	相澤	見	助教授	人体の構造と機能Ⅱ	3年	13回
00左庇	藏田	潔	教授	人体の構造と機能Ⅱ	2年	13回
03年度	相澤	寛	助教授	人体の構造と機能Ⅱ	2年	13回

2)基礎実習

	担当者名	名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	藏田	潔	教授	人体の構造と機能Ⅱ	2年	12回
02年度)	係		人体の構造と機能Ⅱ	3年	14回
02千及	相澤 寛	在	寛 助教授	人体の構造と機能Ⅱ	2年	12回
		見		人体の構造と機能Ⅱ	3年	14回
00年時	藏田	潔	教授	人体の構造と機能Ⅱ	2年	14回
03年度	相澤	寛	助教授	人体の構造と機能Ⅱ	2年	14回

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受入人数			指	導	者	名		
00年度	2名	藏田	潔						
02年度	1名	相澤	寛						
00左连	2名	藏田	潔						
03年度	2名	相澤	寛						

【大学院】

1)講義

	担当者	名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	藏田	潔	教授	生理系講義	1 • 2年	13回
00年時	藏田	潔	教授	生理学総論・人体生理学	2年	12回
03年度	相澤	寛	助教授	生理学総論・人体生理学	2年	12回

2) 実習

	担当者名 職名		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	藏田	潔	教授	生理系実習	1年	12回
00年度	藏田	潔	教授	生理学総論・人体生理学	2年	12回
03年度	相澤	寛	助教授	生理学総論・人体生理学	2年	12回

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者	4名	職名	名 称 等
00年度	藏田	潔	教授	チュートリアル教育(導入研修)
02年度	相澤	寛	助教授	チュートリアル教育(導入研修)

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者	3当者名 職名 回数		回数	うちコ・メディカルの回数
02年度	藏田	潔	教授	4 回	0 回
03年度	藏田	潔	教授	4 回	0 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
00年度	藏田 潔	教授	人体の構造と機能Ⅱ (2年)	約80%
02年度	瀬田 係	教技	人体の構造と機能Ⅱ (3年)	約80%
00年度	藏田 潔	教授	人体の構造と機能Ⅱ	85%
03年度	相澤 寛	助教授	人体の構造と機能Ⅱ	85%

【学生による授業評価】

1)授業評価

<u> </u>					
	担当者		職名	科 目 名	評価
	藏田	潔	教授	人体の構造と機能Ⅱ (2年)	3.4, 4.0
00左座	殿田	係	秋1文	人体の構造と機能Ⅱ (3年)	3.9
02年度	和海	寛	助教授	人体の構造と機能Ⅱ (2年)	3.5, 3.5
	相澤	見	助教技	人体の構造と機能Ⅱ (3年)	3.8
03年度	藏田	潔	教授	人体の構造と機能Ⅱ	3.9
03年度	相澤	寛	助教授	人体の構造と機能Ⅱ	3.5

2) 専門教育の評価 2002年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
人体の構造と機能Ⅱ	2年	14日	42	4.2	4.0
人体の構造と機能Ⅱ	3年	16日	48	4.2	4.1

2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
人体の構造と機能Ⅱ	2年	14日	42	4.1	4.0

5. 生化学第一講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

〈高垣〉

前回設定した三つの目標は、実際に行われた講義数、シラバスの改訂、学生による教育評価等から判断すると、ほぼ達成されたものと思われる。

(今)

学問の楽しさ、厳しさを伝える。そして、医師として医学研究者として早く自立し、しかも世界に目を向ける必要性を伝えることを目標にした。その結果、各講義担当者に対する学生のアンケートでも高い評価を得た。目標に到達した。

〈柿崎〉

2年前に設定した目標は、以下(太字)の3項目である。それぞれについて到達度を評価した。

1. 実習内容、進行方法の見直し、工夫を絶えず行う。

この目標については、改善の余地が多大にあるものの、自分のできる範囲で努力したので達成されたと考える。

2. 実習において、学生との会話を心掛け、研究に対する興味の向上を計る。

7月より8ヶ月間, 文部科学省在外研究員として米国に留学中であったため, 実習には直接参加することはできなかった。しかし、実習書等の改定を少し行った。

3. 医学部生の研究室研修と医療技術短大生の卒業研究において、基本的な実験操作と研究の進め方を体験しながら、ものごとを探究するおもしろさを感じてもらえるよう努力する。

研究室研修においては、基本的な実験技術を指導しながら、研究する者としては対等な立場で、よく意見を交換できた。この目標については達成できたと考える。

この他, 2年前の目標には設定項目として無かったが,2002年度より引き続き2003年度も、学部教育「代謝と栄養」の講義も分担する機会に恵まれた。また、チュートリアル、学士入学者の補充講義も経験できた。特に補充講義においては、学生と対話しながら、授業計画を立てたり、授業を進行したり、勉強になった。したがって、全体としては、目標は達成された。

これから2年間の目標:

(高垣)

- 1. 専門教育、大学院教育において講義を可能な限り担当する。
- 2. 講義内容の見直しを絶えず行う。
- 3. 出席率の向上を図る。

〈今〉

学問の楽しさ、厳しさを伝える。そして、医師として医学研究者として早く自立し、しかも世界に目を向ける必要性を伝える。この目標に変更は無い。

〈柿崎〉

- 1. 担当の授業について、学生のカラーに合わせた講義様式にするように雰囲気を見ながら講義等を進められるように努力する。(講義内容、方法の見直し)
- 2. 基礎実習において、基本的な技術の修得だけではなく、学生が研究への興味を持てるように工夫する。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区 分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
	高垣	啓一	教授	全学	21世紀科目	テーマ科目	科学・技術の発展	4 回
00年度							最新医学の現状	1回
03年度	今	淳	助教授				生物学の基礎	5 回
							国際交流科目	2 回

2) 実習

	担当者名	職名	区分	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	高垣 啓一	教授	医学部	基礎化学実験(化学)	2 回
03年度	高垣 啓一	教授	医学部	基礎科学実験(化学)	15回

【学部教育】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間	
			教授	代謝と栄養 (後期)	2年	5 回	
	高垣	啓一	助教授	代謝と栄養(前期)	2年	11回	
02年度			助教技	代謝と栄養(前期)	3年	11回	
02千及				代謝と栄養(前期)	2年	3 回	
	柿崎	育子	助手	代謝と栄養(後期)	2年	2 回	
				代謝と栄養(前期)	3年	17回	
	高垣	砂一	教授	代謝と栄養(前期)	2年	9 回	
	同坦	/台一	7人1又	代謝と栄養(後期)		6 回	
				系統別講義(皮膚・結合織系)	5年	1 回	
03年度	今	淳	助教授	免疫学•遺伝子科学	4年	2 回	
03千茂	学 学	仔	助叙权	免疫学•遺伝子科学	3年	2 回	
				代謝と栄養	2年	6 回	
	枯屹	柿崎 育子	助手	代謝と栄養	2年	2 回	
	Ալիաո		尚 育士	育士	助于	学士入学者の補充講義 (化学)	3年

2)基礎実習

	担当者	名	職名	授業科目	対象学年	回数又は期間	
	高垣 啓		教授	代謝と栄養実習(後期)	2年	10回	
	向坦 召		教授	教技	代謝と栄養実習(後期)	3年	10回
02年度	村崎 首	崎 育子	助手	代謝と栄養実習(後期)	2年	10回	
02平皮	以 柳崎 育士		助于	代謝と栄養実習(後期)	3年	10回	
	岩船美	台北7	助手	代謝と栄養実習(後期)	2年	10回	
	石加 夫		助于	代謝と栄養実習(後期)	3年	10回	
00左阵	高垣 啓	-	教授	代謝と栄養実習(後期)	2年	10回	
03年度	今	淳	助教授	代謝と栄養実習(後期)	2年	10回	

3)臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数					指	導	者	名		
02年度	2名	柿崎	育子,	工藤	大輔						
03年度	3名	今	淳,	柿崎	育子						·

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			生物物理化学	1年	15回
	高垣 啓	一 教授	糖鎖医学	1年	1 回
03年度			総合(1)	1年	1 回
03平皮	\$	淳 助教授	糖鎖医学	1年	2 回
	Ť	学 助教技	臨床医学と分子生物学	1年	1 回
	柿崎 育	子 助手	生理系(1)糖鎖医学	1年	1 回

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			生化学一般	1年	前期2単位
00年度		助教授	生化学一般	1年	後期2単位
03年度	今 淳		生物物理化学	1年	前期1単位
			生物物理化学	1年	後期1単位

3) 学位論文

	作成指	導者名	職名	指 導 論 文 名
02年度	高垣	啓一	教授	Effect of hyaluronan synthase suppressor, 4-methylumbelliferone on B16F-10 melanoma cell adhesion and locomotion
03年度	今	淳	助教授	紫外線誘導しわ形成に対するサンスクリーン効果の迅速評価法について

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加	者名	職名	名 称 等
02年度	高垣	啓一	教授	平成14年度医学部医学科 FD(チュートリアル教育)
	高垣	啓一	教授	平成15年度医学部医学科 FD(チュートリアル教育)
03年度	今	淳	助教授	平成15年度医学部医学科 FD(チュートリアル教育)
	柿崎	育子	助手	平成15年度医学部医学科 FD(チュートリアル教育)

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0 名

2) 研究生の人数

	研究生の人数
02年度	1名
03年度	1名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数
02年度	高垣 啓一	教授	8 回	8 回
03年度	高垣 啓一	教授	8 回	8 回

【学生授業出席率】

	担当	者名	職名	科 目 名	出席率
02年度	高垣	啓一	教授	代謝と栄養	90%
02平及	柿崎	育子	助手	代謝と栄養	90%
	高垣	啓一	教授	代謝と栄養(前期・後期)	90%
	同坦	合一	7人1又	代謝と栄養実習(後期)	98%
				系統別講義(皮膚・結合織系)	85~90%
03年度	今	淳	助教授	免疫学•遺伝子科学	85~90%
				代謝と栄養(前期・後期)	85~90%
	壮吹	女 て	助手	代謝と栄養(前期)	95%
	柿崎	育子	助手	学士入学者の補充講義(化学)	100%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者	名 職	哉名	科 目 名	評価
				代謝と栄養 (2年後期)	4.1
	高垣 啓	各一 教	效授	代謝と栄養実習(2年後期)	4.2
				代謝と栄養実習 (3年後期)	4.0
02年度		助教	代謝と栄養 (2年前期)	4.1	
02平反		4.1			
				代謝と栄養 (2年前期)	
	柿崎 育	育子 助	助手	代謝と栄養(2年後期)	3.8
				代謝と栄養 (3年前期)	3.4
				代謝と栄養(前期)	A(4.0) B(4.1)
	高垣 啓	各一 教	效授	代謝と栄養(後期)	A(4.1) B(4.0)
				代謝と栄養実習(後期)	A(4.1) B(4.0)
03年度				系統別講義(皮膚・結合織系)	平均4.1
03平及	今	淳 助教	教授	免疫学・遺伝子科学	平均3.9
	7	子 助 3	7人1又	免疫学・遺伝子科学	平均4.3
				代謝と栄養(前期)	平均3.8
	柿崎 育	子 助	加手	代謝と栄養(前期)	3.8

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
代謝と栄養実習(後期)	3年	10日	30コマ	4.1	4.0

6. 生化学第二講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

- 1 学生の理解を重視した講義を行い、70%程度の成果を得た。
- 2 成績の評価について、色々な出題形式を試み、改善に努めた。
- 3 大学院学生の教育について、自己の実験データの解析を通して、知識の具体化と体系化を図るように努めたが、50%程度の達成に留まった。

これから2年間の目標:

- 1 生命活動や病気の物質的基盤を理解するために必要な知識を与え、学生の理解度を確かめながら、学生の思考力、想像力、創造力を育成するように努める。
- 2 知識、記憶中心の評価から、運用能力、応用力を重視した評価を行うように、試験問題の改善に努める。
- 3 大学院学生の研究能力の向上を図るために、生命科学全般について、必要な知識を身につけられるよう、教育の充実に努める。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区 分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
00年度	土田	成紀	教授	テーマ	人間	人間の尊厳	生と死をめぐる問題	3 回
03年度	早狩	誠	助教授	テーマ	健康	薬と健康	薬と健康(A)	1回

2) 実習

	担当	i者名	職名	区 分	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	土田	成紀	教授	基礎教育科目	基礎科学実験(化学)	4 回
03年度	土田	成紀	教授	基礎教育科目	基礎科学実験(化学)	4 回

【学部教育】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
		成紀		代謝と栄養	2年	15回
	土田		教授	代謝と栄養	3年	19回
00年度				免疫•遺伝子科学	4年	3 回
02年度	早狩	誠	助教授	代謝と栄養	2年	4 回
	岩崎	晃	教授	代謝と栄養(RI 講義)	2年	2 回
	石剛			代謝と栄養(RI 講義)	3年	2 回
				代謝と栄養	2年	18回
03年度	土田	成紀	教授	免疫•遺伝子科学	3年	3 回
103千度				免疫•遺伝子科学	4年	3 回
	早狩	誠	助教授	代謝と栄養	2年	6 回

2)基礎実習

	担当者名	沿 職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	土田 成	紀 教授	代謝と栄養	2年	10回
	土田成	配	代謝と栄養	3年	10回
02年度	日約	誠 助教授	代謝と栄養	2年	10回
02平皮	早狩	讽 助教权	代謝と栄養	3年	10回
	大川恵	一	代謝と栄養	2年	10回
	人川 忠.	三 助手	代謝と栄養	3年	10回

02年度	山崎	尊彦	助手	代謝と栄養	2年	10回
02平皮	川岬	导彡	助手	代謝と栄養	3年	10回
				代謝と栄養実習	2年	10回
	土田	成紀	教授	人体科学演習	1年	30回
00年度				チュートリアル	3年	4 回
03年度	早狩	誠	助教授	代謝と栄養実習	2年	10回
	十五	砂火		チュートリアル	3年	7 回
	山崎	尊彦	助手	代謝と栄養	2年	10回

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

		受	入人	数			指	導	者	名		
03	年度		1名		山崎	尊彦						

【大学院】

1)講義

	担当者名 職名		職名	授業科目	対象学年	回数又は期間
02年度	土田	成紀	教授	酵素化学	2年	30回
	上田	几人术已	教授	分子生物学	2年	30回
	 早狩	誠	助教授	生物物理化学	1年	30回
	十五			臨床生化学	1年	60回
		成紀		酵素化学	2年	30回
	土田		教授	分子生物学	2年	30回
03年度				臨床生化学	1年	60回
	目粒	誠	誠 助教授	生物物理化学	1年	30回
	早狩			酵素化学	3年	30回

2) 実習

	担当	担当者名 職名		授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	土田	成紀	教授	生化学一般	2年	120回
	上田	几人市口	教授	酵素化学	2年	120回
02年度				分子生物学	2年	60回
	早狩	誠	助教授	生化学一般	1年	120回
				生物物理化学	1年	60回
	土田	成紀	2 教授	生化学一般	2年	120回
				酵素化学	2年	120回
				生化学一般	1年	120回
03年度				生化学一般	3年	60回
	早狩	誠	助教授	生物物理化学	1年	60回
				酵素化学	3年	120回
				分子生物学	2年	60回

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
02年度	土田 成紀	教授	Induction of non-apoptotic cell death by ethacrynic acid in a human colon cancer cell line DLD-1 and suppression by N-acetyl-L-cysteine (相澤 秀) Different susceptibility of polymorphic glutathione S-transferase subunit 3 in rat livers to carbon tetrachloride. Difference in their interaction with heat shock protein 90 (間山 淳)

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加	者名	職名	名 称 等
	土田	成紀	教授	弘前大学医学教育フォーラム(チュートリアル)
00年度	早狩	誠	助教授	弘前大学医学教育フォーラム(チュートリアル)
02年度	大川	恵三	助手	弘前大学医学教育フォーラム(チュートリアル)
	山崎	尊彦	助手	弘前大学医学教育フォーラム(チュートリアル)弘前大学医学部初任者研修
	土田	成紀	教授	弘前大学医学教育フォーラム
03年度	早狩	誠	助教授	弘前大学医学教育フォーラム
	山崎	尊彦	助手	弘前大学医学教育フォーラム

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	1名
03年度	1名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
02年度	土田 成	己 教授	留学生国際教育科目	免疫•遺伝子科学	7 回
03年度	土田 成	己 教授	留学生国際教育科目	免疫•遺伝子科学	5 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名		職名	回数	うちコ・メディカルの回数
02年度	早狩	誠	助教授	4回	
03年度	土田	成紀	教授	1回(つくば大学大学院医学研究科)	

【学生授業出席率】

	担当	者名	職名	科 目 名	出席率
				代謝と栄養2年	85%
				代謝と栄養3年	85%
	土田	成紀	教授	免疫•遺伝子科学4年	85%
				代謝と栄養実習2年	100%
				代謝と栄養実習3年	100%
02年度				代謝と栄養2年	85%
02千及	早狩	誠	助教授	代謝と栄養実習2年	100%
				代謝と栄養実習3年	100%
	大川	恵三	助手	代謝と栄養実習2年	100%
				代謝と栄養実習3年	100%
	山崎	尊彦	助手	代謝と栄養実習2年	100%
	ЩЩП			代謝と栄養実習3年	100%
				代謝と栄養	85%
	土田	成紀	教授	免疫•遺伝子科学(4年)	85%
03年度	ΔЩ	风风市山	7人1又	免疫•遺伝子科学(3年)	85%
03平皮				代謝と栄養実習	100%
	早狩	誠	助数场	代謝と栄養	85%
	一切	视	助教授	代謝と栄養実習	100%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者	音名	職名	科 目 名	評 価
			紀 教授	代謝と栄養 2 年	学生の理解を助けるためプリントに工夫を凝らしたが学生の評価は3点台であった。
	土田	成紀		代謝と栄養3年	学生の理解を助けるため授業の導入に工夫を 凝らしたが学生の評価 は3点台であった。
02年度				免疫·遺伝子科学 4 年	学生の理解を助けるため授業の導入に工夫を 凝らしたが学生の評価 は3点台であった。工 夫が逆に作用している ところがある。
	早狩	誠	助教授	代謝と栄養 2 年	学生の評価は3点台 後半
	土田 月 早狩	成紀誠	誠	代謝と栄養実習 2 年	学生の評価は3点台 であった。
	I	恵三 尊彦		代謝と栄養実習3年	学生の評価は 3 点台 であった。
				代謝と栄養	3.4
03年度	土田	成紀	教授	免疫•遺伝子科学(4年)	4.0
00十度				免疫•遺伝子科学(3年)	3.4
	早狩	誠	助教授	代謝と栄養	3.7

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
代謝と栄養実習	2年	10	30	3.9	3.8

7. 薬理学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

- ・「基礎人体科学演習」を医学科1年生の学習意欲・モチベーションの向上に役立てることができた。到達度80%
- ・コア・カリキュラムの実施、3年次編入学生に対するカリキュラムの実施に向けて、薬理学(治療の薬理学的基礎)の講義・実習の抜本的改革を進行中である。到達度70%
- ・21 世紀教育への積極的な参画、運営担当を行った。到達度 90 %
- ・編入試験の実施に積極的に参画した。到達度 70%
- ・大学院生の研究指導が実を結び、その成果を国際誌に報告できた。到達度 90 %
- ・最新の情報に基づき講義内容を見直し、講義方法の刷新を行った。到達度80%

これから2年間の目標:

- ・導入教育の重要性を認識し、21世紀教育、基礎人体科学等の内容の充実に注力する。
- ・コア・カリキュラムの実施、3年次編入学生に対するカリキュラムの実施に向けて、薬理学(治療の薬理学的基礎)の講義・実習の抜本的改革を更に進める。
- ・講義方法の改善を図り、双方向性の高いものにする。
- ・大学院生の教育の充実をはかり、研究成果に反映されるよう努力する。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
	元村	成	教 授	テーマ科目	健康		薬と健康	1回
	7643	JJX	秋 1又	導入科目			基礎ゼミナール	15回
02年度				基礎教育科目	自然系基礎		生物学の基礎 I B	5 回
	古川	賢一	助教授	テーマ科目			薬と健康	1回
				テーマ科目			最新医学の現状	1回
	元村	成	教授	テーマ科目	健康		薬と健康	1回
	<i>)</i> L/13	灰	狄汉	導入科目			基礎ゼミナール	15回
03年度				基礎教育科目	自然系基礎		生物学の基礎 I B	5 回
03平皮		賢一	助教授	テーマ科目			生物の科学と技術	5 回
		頁一	助教技	テーマ科目			薬と健康	1回
				テーマ科目			最新医学の現状	1回

2) 実習

	担当	者名	職名	区分	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	元村	成	教授	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	7 回
02平皮	古川	賢一	助教授	基礎教育科目	基礎化学実験(生物)	3 回
00年度	元村	成	教授	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	7 回
03年度	古川	賢一	助教授	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	4 回

【学部教育】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
				基礎人体科学演習	1年	30回
00年度	元村	成	教授	治療の薬理学的基礎	3年	30回
02年度				先端医学•東洋医学	3-6年	12回
	古川	賢一	助教授	治療の薬理学的基礎	3 • 4 年	13回
03年度	元村	成	教授	基礎人体科学演習	1年	30回

					治療の薬理学的基礎	3年	17回
03年	度				先端医学•東洋医学	3-6年	1 回
		古川	賢一	助教授	治療の薬理学的基礎	3年	11回

2)基礎実習

	担当者名 職名		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	元村	成	教授	治療の薬理学的基礎実習	4年	7 回
	ノレイリ	万 义	7人1又	研究室研修(説明会•発表会)	4年	6 回
02年度	古川	賢一	助教授	治療の薬理学的基礎実習	4年	7 回
02平皮	百川	貝一	助教权	研究室研修(説明会•発表会)	4年	6 回
	瀬谷	和彦	助手	治療の薬理学的基礎実習	4年	7 回
	橋本	橋本 美貴 助		治療の薬理学的基礎実習	4年	7 回
	元村	成		治療の薬理学的基礎実習	3年	7 回
			教授	治療の薬理学的基礎実習	4年	7 回
				研究室研修 (説明会・発表会)	4年	6 回
03年度				治療の薬理学的基礎	3年	7 回
03千皮	古川	賢一	助教授	治療の薬理学的基礎	4年	7 回
				研究室研修 (説明会•発表会)	4年	6 回
	瀬谷	和彦	助手	治療の薬理学的基礎	3年	7 回
	(棋台		助于	治療の薬理学的基礎	4年	3 回

3)臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数		指	導	者	名	
02年度	1名	古川 賢一					
00年度	2名	元村 成					
03年度	4名	古川 賢一					

【大学院】

1)講義

	担当	担当者名 職名 授業科目		対象学年	回数又は期間	
	元村		#L 100	実験薬理学・講義	1 • 2 年	1回
02年度	ノレイリ	成	教授	循環薬理学•講義	1 • 2 年	1 回
	古川	賢一	助教授	分子薬理学•講義	1 • 2 年	1回
	≕ ++	+ +	教授	実験薬理学・講義	1 • 2 年	1回
03年度	元村	成	教技	循環薬理学•講義	1 • 2 年	1回
	古川	賢一	助教授	分子薬理学•講義	1 • 2 年	1回

2) 実習

	担当者名		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間							
		:	44.45	実験薬理学・実験実習	1 • 2 年	1 回							
02年度	元村	成	教授	循環薬理学•実験実習	1 • 2 年	1 回							
	古川	賢一	助教授	分子薬理学・実験実習	1 • 2 年	1 回							
	元村	-12:	 	H÷	₽;	₽;	H:	-1);	:	* ************************************	実験薬理学・実験実習	1 • 2 年	1 回
03年度	儿们	成	教授	循環薬理学•実験実習	1 • 2 年	1 回							
	古川	賢一	助教授	分子薬理学・実験実習	1 • 2 年	1 回							

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名					
02年度	古川 賢一	助教授	1) Uni-axial Cyclic Stretch Induces Cbfa1 Expression in Spinal ligament Cells Derived from Patients with Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament 2) Analysis of mechanical stress-induced changes in gene expression in cultured spinal ligament cells derived from patients with ossification of the posterior longitudinal ligaments					
00左连	元村 成 (木村正臣) 元村 成 (小林孝男)	教授	Mechanism of ST elevation and ventricular arrhythmias in experimental Brugada syndrome model. Impaired longitudinal conduction innerista terminalis is necessary for sustenance of experimental etrial flutter.					
03年度	(小M子男)		experimental atrial flutter. A genome-wide transcriptome analysis of mechanical stress-induced gene expression					
	古川賢一	助教授	in spinal ligament cells derived from patients with ossification of the posterior longitudinal ligaments					

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名 職名			名 称 等
02年度	元村	成	教授	全学新任教官 FD (5/31) 21世紀教育 FD 研修会「適切な成績評価を考える」(12/14) チュートリアル教育について
02平皮	古川	賢一	助教授	チュートリアル教育について
	瀬谷	和彦	助手	チュートリアル教育について
	橋本	美貴	助手	チュートリアル教育について
				弘前大学医学部「医学教育FD」
03年度	元村	成	教授	弘前大学医学部附属病院「第3回卒後臨床研修教育ワークショップ」
00千尺	76/13)JX	77.17	弘前大学「21世紀教育 FD」
				弘前大学医学部「クリニカルクラークシップ FD」

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	2名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
03年度	瀬谷 和彦	助手	1年	薬理概論 (教育学部)	15回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名		職名	回数	うちコ・メディカルの回数		
03年度	年度 元村 成 教授		教授	2 回	0 回		

【学生授業出席率】

	担当者名		職名	科 目 名	出席率
00左座	元村	成	教授	治療の薬理学的基礎	約80%
02年度	古川	賢一	助教授	治療の薬理学的基礎	約80%
	元村	成	教授	治療の薬理学的基礎	約90%
03年度	古川	古川 賢一 助教授 治療の薬理学的基礎		治療の薬理学的基礎	80%程度
	瀬谷	和彦	助手	薬理概論 (教育学部)	ほぼ100%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名		職名	科 目 名	評 価
00年度	元村	成	教授	治療の薬理学的基礎	3.6
02年度	古川	賢一	助教授	治療の薬理学的基礎	4.2
00年時	元村	成	教授	治療の薬理学的基礎	2.6
03年度	古川	賢一	助教授	治療の薬理学的基礎	4.2

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
治療の薬理学的基礎実習	3 • 4年	7×2	21 × 2	4.1, 3.6	4.0, 3.6

8. 病理学第一講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

医学科学生に病理学の重要性を教えることはほぼ達成できた。

卒後教育では臨床・研究を並行して行わせることは困難であり、7~8割の到達後であった。

これから2年間の目標:

医学科学生に探求心を育て、病理臨床のみならず、研究意欲を育てる。

卒後教育では病理実習とともに研究を独自に行えるようにする。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	職名	区 分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	八木橋操六	教授			癌と成人病	病気の科学	1回
02平皮	黒滝日出一	助教授			人体の科学	動的及び構造的人体論	3 回
	八木橋操六	教授	教養科目	自然領域	病気の科学	癌・成人病とその予防	1回
03年度	八木橋法登	講師	教養科目	自然領域	生活習慣病,癌での 遺伝子解析の意義	最新医学の現状	1回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	八木橋操六	教授	人体の病理と病態(各論)	4年	2 回
02平及	黒滝日出一	助教授	人体の病理と病態(各論)	4年	3 回
	八木橋操六	教授	人体の病理と病態・総論	医学部3年	14回
	八个間探ハ	秋 按	人体の病理と病態・各論	医学部4年	8回
	八木橋法登	講師	基礎人体科学演習	医学部1年	6 回
03年度			人体の病理と病態・総論	医学部3年	6 回
03年度			人体の病理と病態・各論	医学部4年	6 回
		講師	人体の病理と病態・総論	医学部3年	5 回
	和田龍一		人体の病理と病態・各論	医学部4年	4 回
	山岸晋一朗	助手	基礎人体科学演習	医学部1年	6 回

2)基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	八木橋操六	教授	病理学各論実習	医学部4年	30回
00年度	八木橋法登	講師	病理学各論実習	医学部4年	30回
03年度	和田 龍一	講師	病理学各論実習	医学部4年	30回
	山岸晋一朗	助手	病理学各論実習	医学部4年	30回

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数	指
02年度	1名	和田 龍一
03年度	3名	八木橋法登, 和田 龍一, 山岸晋一朗

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	八木橋操六	教授	総合	全学年	1回
00左连	八木橋操六	教授	病理系(疾病の成因)		2 回
03年度	和田 龍一	講師	病理における分子診断		1 回

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	八木橋操六	教授	病理解剖学, 病理組織学	1 • 3 年	40回
03年度	八木橋操六	教授	病理組織学	1 • 2 年	40回

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
00年度	山岸晋一朗	助手	
02年度	和田 龍一	助手	

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	1名

	研究生の人数
02年度	2名
03年度	2名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
02年度	山岸晋一朗	助手	保健学科3年	病理学実習	18週間

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数
02年度	八木橋操六	教授	2回(山形大学・岩手医大)	
03年度	秋田大学医学部	非常勤講師	1 回	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
00年度	八木橋操六	教授	人体の病理と病態(各論)	95%
02年度	黒滝日出一	助教授	人体の病理と病態(各論)	95%
	八木橋操六	教授	人体の病理と病態	95%
03年度	八木橋法登	講師	人体の病理と病態	95%
	和田 龍一	講師	人体の病理と病態	95%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
00年度	八木橋操六	教授	人体の病理と病態(各論)	4.2
02年度	黒滝日出一	助教授	人体の病理と病態(各論)	2.8
03年度	八木橋操六	教授	人体の病理と病態・総論(前期)	4.2

			人体の病理と病態・総論(後期)	3.8
			人体の病理と病態・各論	4.2
03年度	1 十杯汁水	继布式	人体の病理と病態・総論(後期)	3.4
03平度	八木橋法登	講師	人体の病理と病態・各論	2.6
	4nm #5	继布式	人体の病理と病態・総論(前期)	4.3
	和田龍一	講師	人体の病理と病態・各論	4.2

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
人体の病理と病態実習	医学部4年	30	90	4.1	4.0

9. 病理学第二講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

学部教育,21世紀教育,研究室研修についてはいずれも積極的に貢献した。終了年次の大学院生1名の学位論文作成の指導も行った。コ・メディカルの教育,兼業,学会委員についても,本務に支障なく遂行できた。到達度は90%程度と考えている。

これから2年間の目標:

今後も学部教育,21世紀教育,研究室研修についてはいずれも積極的に貢献してゆく。大学院生の指導・論文作成も積極的に行なう。大学の Faculty Development (FD), Curriculum Development (CD) に参加し、大学教育全体を俯瞰しながら、自らの役割を行うように努める。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
00年度	工藤	_	教授			健康	最新医学の現状	1回
02年度	田中	正則	助教授	教養	自然	病気の科学	消化器疾患と放射線医学	4 回
00年度	田中	正則	助教授	テーマ科目	健康		最新医学の現状(B)	1回
03年度	田中	正則	助教技	テーマ科目	健康		最新医学の現状(C)	1回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	工藤		教授	人体の病理と病態②	4年次	10回
	上原		狄汉	人体の病理と病態①	3 年次	18回
02年度	田中	正則	助教授	人体の病理と病態②	4年次	9 回
02平皮	四十	正則	助教技	人体の病理と病態①	3 年次	7 回
	楠美	智巳	助手	人体の病理と病態②	4年次	3 回
	悄天	省口	助于	人体の病理と病態①	3年次	3 回
	田中	正則	助教授	人体の病理と病態 I	3 年次	2 回
03年度	四十	正則	助狄仅	人体の病理と病態Ⅱ	4 年次	4 回
	楠美	智巳	助手	人体の病理と病態Ⅱ	4年次	1回

2)基礎実習

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	工藤	_	教授	人体の病理と病態実習	4年次	45回
				人体の病理と病態実習	4年次	30回
02年度	田中	正則	助教授	基礎人体科学演習	1年次	24回
				基礎ゼミナール	1年次	12回
	楠美	智巳	助手	人体の病理と病態実習	4年次	45回
03年度	田中	正則	助教授	人体の病理と病態実習	4年次	15回
03平皮	楠美	智巳	助手	人体の病理と病態実習	4 年次	20回

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数		指	導	者	名	
00年度	3名	田中 正則					
02年度	1名	楠美 智巳					
03年度	3名	田中 正則					

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	田中 正則	ph **/	大学院講義総合(2)		1 回
02平皮	田中 正則	助教授	最新医学の現状		
	田中 正則	助教授	病理系「疾病の成因を求めて、その根幹に迫る」	1年	1 回
03年度	楠美 智巳	助手	総合(1)「医学研究に必要な基礎知識」	1年	1 回
	備夫 省口	助手	病理系「疾病の成因を求めて、その根幹に迫る」	1年	1回

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指導者名 職名		職名	指 導 論 文 名
02年度	田中	正則 智巳	助教授助手	1) An immunohistological evaluation of enzymes in metaplastic Paneth cells in ulcerative colitis. 2) Growth inhibition and differentiation in colon cancer cell lines induced by troglitazon, a ligand for peroxisome proliferator-activated receptor γ. 3) 後縦靭帯骨化症患者由来培養脊柱靭帯細胞に対するメカニカルストレスの影響の解析。 4) An immunohistochemical evaluation of extracellular matrix components in the spinal posterior logitudinal ligament and intervertebral disc of the tiptoe walking mouse. 5) Fusion process of the autografted tendon and bone tunnel: a histological and immunohistochemical evaluation in a rabbit model.

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加	者名	職名	名 称 等	
02年度	田中	正則	助教授	弘前大学 FD シンポジウム(みちのくホール)	
02平及	田十	正則	助教权	弘前大学医学部 FD(医学部基礎講堂)	
	田中	구매 배크	正則 助教料	助教授	弘前大学 FD シンポジウム(みちのくホール)
03年度	四十	止則	助叙仅	クリニカルクラークシップ講演会	
03平皮	技士	<i>\$</i> ∏ □	助手	Phillip A. Evans 先生講演会	
	楠美 智巳		己 助手	クリニカルクラークシップ講演会	

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数 2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
	工藤	教授	医短3年次	病理学実習	24回
02年度	田中 正則	正則 助教授 医短3年次 病理学実習		24回	
	楠美 智巳	助手	医短3年次	病理学実習	12回

【他大学・他施設における講義】

	担当	者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数
00年度	田中	正則	助教授	15回	15回
02年度	楠美	智巳	助手	15回	15回
00年度	田中	正則	助教授	15回	15回
03年度	楠美	智巳	助手	15回	15回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
			21世紀教育	80%
	T-846	教授	人体の病理と病態②	90%
	工藤	7人1又	人体の病理と病態①	90%
02年度			人体の病理と病態実習	98%
			共通教育	80%
		」 助教授	人体の病理と病態②	95%
	田中 正則		人体の病理と病態①	90%
			基礎人体科学演習	100%
			基礎ゼミナール	100%
	楠美 智巳	助手	人体の病理と病態②	90%
	佣夫 省口	助于	人体の病理と病態①	90%
	田中 正則	助教授	人体の病理と病態 [90%
03年度	四十 正則	助叙权	人体の病理と病態Ⅱ	90%
	楠美 智巳	助手	人体の病理と病態Ⅱ	95%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名	科 目 名	評	価
			人体の病理と病態②	A=2.9,	B = 2.5	
	工藤	_	教授	人体の病理と病態①	A=3.4,	B=3.1
				人体の病理と病態実習	A=3.9,	B = 3.5
02年度	02年度 田中 正則 助:	田山 正則 1	D++44-4-102	人体の病理と病態②	A=4.3,	B = 4.3
		止則	助教授	人体の病理と病態①	A=4.3,	B=4.2
	壮关	<i>4</i> :π □ 1	四工	人体の病理と病態②	A=2.2,	B=1.9
	楠美	智巳	助手	人体の病理と病態①	A=3.7,	B = 3.7
	шњ	元即	11-1-11-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-	人体の病理と病態 Ⅰ	A=3.6,	B=3.4
03年度	田中	正則	助教授	人体の病理と病態Ⅱ	A=4.5,	B=4.5
	楠美	智巳	助手	人体の病理と病態Ⅱ	A=3.7,	B = 3.7

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
人体の病理と病態実習	4年次	20	40	4.3	4.1

10. 細菌学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

- 1. 21世紀教育,専門教育,大学院教育において講義,実習を可能な限り担当した。
- 2. コアカリキュラムに準拠し、学生が理解しやすい講義を行うよう、研鑽しているが、まだ努力が必要である。
- 3. チュートリアル教育の実施は順調に開始された。
- 4. 学生と双方関係を持ちながら講義を進めているつもりである。

これから2年間の目標:

- 1. 21世紀教育,専門教育,大学院教育において講義,実習を可能な限り担当する。
- 2. コアカリキュラムに準拠し、学生が理解しやすい講義を行うよう、研鑽する。
- 3. チュートリアル教育の改善を行う。
- 4. 学生と双方関係を持ちながら講義を進める。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
				教養	自然科学	人体の科学	人体の機能とその調節	3 回
02年度	中根	DB +	夫 教授	基礎教育科目	自然	生物の基礎	基礎生物学 I	3 回
02平及	甲侬	明夫		導入科目			基礎ゼミナール	15回
				国際交流科目			Immunology & Genetic Science	3 回
				基礎教育科目	自然系基礎		基礎生物学 I	5 回
				テーマ科目	健康		最新医学の現状	2 回
03年度	中根	明夫	教授		環境		環境と生活	5 回
				導入科目			基礎ゼミナール	15回
				国際交流科目			Immunology & Genetic Science	3 回

2) 実習

	担当者名	職名	区分	授業科目名	回 数 又は期間
	中根 明夫	教授	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	3 回
00年度	胡 東良	助手	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	3 回
02年度	佐々木早苗	助手	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	3 回
	差波 拓志	助手	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	3 回
	中根 明夫	教授	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	3 回
03年度	胡 東良	講師	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	3 回
	差波 拓志	助手	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	3 回

【学部教育】

1)講義

	担当者名	出 職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			基礎人体科学演習	1年	30回
	 中根 明夫	- 夫 教授	感染と生体防御機構 I	2年	24回
中根明	中枢 明	大 教授	感染と生体防御機構 I	3年	30回
02年度			感染と生体防御機構 I	4年	12回
			免疫学•遺伝子科学	4年	3 回
	胡東	良助手	感染と生体防御機構 I	2年	2 回
			感染と生体防御機構 I	4年	2 回
02年度	中根明・	夫 教授	基礎人体科学演習	1年	30回
03年度 中根	中枢 明	大 教技	感染と生体防御機構 I	2年	25回

				感染と生体防御機構 [4年	12回
				免疫学•遺伝子科学	3年	4 回
				免疫学•遺伝子科学	4年	3 回
				チュートリアル	3年	11回
03年度				寄附講義「東洋医学」	全学年	1 回
03千度				感染と生体防御機構 I	2年	5 回
	胡	東良	講師	感染と生体防御機構 I	4年	2 回
				チュートリアル	3年	9 回
	佐々木	早苗	助手	チュートリアル	3年	3 回
	差波	拓志	助手	チュートリアル	3年	11回

2)基礎実習

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	中根	明夫	教授	感染と生体防御機構 I	2年	8 回
	十位	明大	叙坟	感染と生体防御機構 Ⅰ	4年	10回
	胡	東良	助手	感染と生体防御機構 I	2年	8 回
02年度	助	米尺	助手	感染と生体防御機構 Ⅰ	4年	10回
02平皮	H- n =	佐々木早苗		感染と生体防御機構 I	2年	8 回
	佐ベオ			感染と生体防御機構 I	4年	10回
	差波	拓志	助手	感染と生体防御機構 I	2年	8 回
	定仮	和应	助于	感染と生体防御機構 I	4年	10回
	中根	明夫	教授	感染と生体防御機構 I 実習	2年	8 回
03年度	胡	東良	講師	感染と生体防御機構Ⅰ実習	2年	8回
	差波 拓志		助手	感染と生体防御機構Ⅰ実習	2年	8 回

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受入人数					指	導	ৰ	Ė.	名			
02年度	5 名	中根	明夫,	胡	東良,	佐々え	木早苗,	差波	拓志,	櫻庭	裕丈,	若林	俊輝
03年度	6 名	中根	明夫,	胡	東良,	差波	拓志,	若林	俊輝				

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授業科目 対象学年		回数又は期間
02年度	中根明夫	教授	免疫学	3年	30回
02平皮	102年度 中低 明大 教		ウイルス原虫学	3年	30回
			病理系	1 • 2 年	2 回
03年度	03年度 中根 明夫	教授	総合(1)	1 • 2 年	1回
			細菌学講義	1年	15回

2) 実習

	担当	者名	職名 授業科目		対象学年	回数又は期間
				免疫学	3年	90回
00左连	中根	DB +	+/L 1007	免疫学	4年	90回
02年度	中枢	明夫	教授	ウイルス原虫学	3年	60回
				ウイルス原虫学	4年	60回
	中根	明夫	教授	細菌学実験実習	1年	30回
03年度	胡	東良	講師	細菌学実験実習	1年	30回
	差波	拓志	助手	細菌学実験実習	1年	30回

3) 学位論文

	作成指導者名 職名		指 導 論 文 名				
02年度	中根明夫	教授	Transforming growth factor- β regulates epithelial apoptosis via interferon- γ and cellula FLICE-inhibitory protein in murine colitis The role of gamma interferon in acquired host resistance against <i>Staphylococcus aureu</i> infection in mice Cellular oxidation suppresses proliferation of echovirus 9 and the virus-induced apoptosis				
03年度	中根明夫	教授	Interferon- γ and tumour necrosis factor- α are involved in urushiol-induced contact hypersensitivity in mice Impairment of host resistance to <i>Listeria monocytogenes</i> infection in liver of db/db and ob/ob mice				

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
	中根明夫	教授	医学部 FD「チュートリアル教育」
	中根明夫	教技	医学部 FD「話し方」
	胡東良	助手	医学部 FD「チュートリアル教育」
02年度	朔 宋氏 	助手	医学部 FD「話し方」
02平皮	佐々木早苗	当苗 助手	医学部 FD「チュートリアル教育」
	佐々不平田		医学部 FD「話し方」
	差波 拓志	助手	医学部 FD「チュートリアル教育」
	左仮 加心	助于	医学部 FD「話し方」
	中根明夫	教授	医学部 FD「クリニカルクラークシップ」
03年度	171以 明大	我拉	21世紀教育 FD「英語授業」
	差波 拓志	助手	医学部 FD「クリニカルクラークシップ」

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	1名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

		担当者名		職名	回数	うちコ・メディカルの回数	
02	年度	中根	明夫	教授	28回	23回	
03	年度	中根	明夫	教授	28回	21回	

【学生授業出席率】

	担当者名 職名		科 目 名	出席率
			感染と生体防御機構Ⅰ2年	90%
00年度	中根明夫	料/运	感染と生体防御機構Ⅰ3年	90%
02年度	中枢 明大	教授	感染と生体防御機構Ⅰ4年	90%
			免疫学•遺伝子科学 4年	70%
			感染と生体防御機構 I (2年前期)	90%
			感染と生体防御機構 I (2年後期)	90%
03年度	中根明夫	教授	感染と生体防御機構Ⅰ (4年前期)	85%
03平皮	中枢 明大	教技	免疫学•遺伝子科学 (3年前期)	80%
			免疫学•遺伝子科学 (4年前期)	70%
			感染と生体防御機構 I 実習 (2年)	100%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者	名	職名	科 目 名	評	価
				感染と生体防御機構 I 2 年前期	A:3.6,	B:3.3
				感染と生体防御機構 I 2 年後期	A:3.8,	B:3.7
				感染と生体防御機構Ⅰ3年	A:4.0,	B:4.0
02年度	中根	明夫	教授	感染と生体防御機構 Ⅰ 4 年	A:3.9.	B:3.8
				免疫学•遺伝子科学 4年	A:3.5,	B:3.3
				感染と生体防御機構 I 実習 2 年	A:4.2,	B:4.1
				感染と生体防御機構 I 実習 3 年	A:4.2,	B:4.2
				感染と生体防御機構 I (2年前期)	(A)3.7	(B)3.4
				感染と生体防御機構Ⅰ (2年後期)	(A)3.8	(B)3.8
	中根	明夫	き 教授	感染と生体防御機構 I (4年前期)	(A)3.5	(B)3.4
03年度				免疫学•遺伝子科学 (3年前期)	(A)3.2	(B)3.2
03平皮				免疫学•遺伝子科学 (4年前期)	(A)3.4	(B)3.1
				感染と生体防御機構 I (2年前期)	(A)3.8	(B)3.7
	胡り	東良	良講師	感染と生体防御機構Ⅰ (4年前期)	(A)3.9	(B)3.8
				感染と生体防御機構 I (2年後期)	(A)3.7	(B)3.7

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
感染と生体防御機構 I	2年	8	24	4.0	4.0

11. 衛生学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

社会医学教育のために実際の社会に即した、臨場感のある教育を行うことを目標としたがほぼ十分に達成できたと考える。

これから2年間の目標:

社会医学実習を中心として、実際の社会に即した、臨場感のある教育をさらに推進したい。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名		職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	菅原	和夫	教授	基礎教育科目			統計学	16回
02平及	中路	重之	助教授	教養科目	自然領域	病気の科学	文明の発展と現代医学	3 回
00左连	中路	重之	助教授	21世紀教育	テーマ科目	健康	生活習慣と健康	2 回
03年度	梅田	孝	助手	21世紀教育	テーマ科目	運動と健康	健康と運動の科学(A)	2 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当	担当者名 職名 授業科目		対象学年	回数又は期間	
	菅原	和夫	教授	社会と医学Ⅰ	3年	4 回
02年度	中路	重之	助教授	社会と医学Ⅰ	3年	11回
	梅田	孝	助手	社会と医学Ⅰ	3年	3 回
	菅原	和夫	教授	医用統計学	2年	1 回
03年度	中路	重之	助教授	基礎人体科学演習	1年	15回
	梅田	孝	助手	基礎人体科学演習	1年	15回

2)基礎実習

	担当者名		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	菅原	和夫	教授	社会と医学実習	4年	10回
02年度	中路	重之	助教授	社会と医学実習	4年	10回
	梅田	孝	助手	社会と医学実習	4年	10回
	菅原	和夫	教授	社会と医学実習	4年	8 回
03年度	中路	重之	助教授	社会と医学実習	4年	10回
	梅田	孝	助手	社会と医学実習	4年	10回

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数			指	導	者	名		
00/5	3名	中路	重之						
02年度	2名	梅田	孝						
00左阵	3名	中路	重之						
03年度	3名	梅田	孝						

【大学院】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
				衛生学公衆衛生学総論	1年	15回
				疫学	1年	15回
	菅原	和夫	教授	保健栄養	1年	15回
02年度				産業医学	3年	15回
				管理医学	3年	15回
	中路	重之	助教授	社会と生命	1 • 2 年	6 回
	中岭		助教技	衛生学公衆衛生学総論	1年	15回
				衛生学公衆衛生学総論	1年	15× 2 □
	菅原	和夫	教授	保健栄養	1年	15回
03年度				体力医学	2年	15回
い・一段				疫学	1年	前期
	中路	重之	助教授	学校保健	2年	前期
				農村保健	2年	前期

2) 実習

	担当者	名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
				疫学実習	1年	15回
	菅原 君	和夫	教授	保健栄養実習	1年	15回
02年度				管理医学実習	3年	15回
02平皮				疫学実習	1年	15回
	中路	重之	助教授	保健栄養実習	1年	15回
				産業医学実習	3年	30回
	菅原 和夫		教授	保健栄養	1年	15回
	官原 1	和夫	狄汉	体力医学	1年	15回
				疫学実験実習		
03年度				保健栄養実験実習	1年	全期
	中路	重之	助教授	体力医学実験実習	2年	後期
				学校保健実験実習	2年	後期
				農村保健実験実習	2年	全期

3) 学位論文

	作成指導者	名職名	指 導 論 文 名						
02年度	菅原 和 中路 重		①内視鏡的逆行性腸管挿管法を用いたペクチンの消化吸収動態に関する検討 ②ラグビーの試合後1日の休養法の違いが選手の身体的・精神的コンディションに ぼす影響						
03年度	中路重之	之 助教授	"Comparative study of fermentation of soluble and insoluble and insoluble dietary fiber using the hydrogen breath test" "大学柔道選手に対する 6 ヶ月間のトレーニング効果に関する検討―血清オプソニン 化活性と血液生化学値での検討―" "Gender-related difference in the psychological response to weight reduction in male and female and female college judoists"						

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	Ż	職名	名 称 等
00/5/5	梅田	孝	助手	医学科チュートリアル
02年度	鈴木 克	彦	助手	医学科チュートリアル

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	5名
03年度	5名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
00左座	梅田 孝	出工	1年	運動スポーツ医学	10回
02年度		梅田 孝 助手 専攻科1年		生殖科学Ⅲ	7 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名		職名	回数	うちコ・メディカルの回数
02年度	梅田	孝	助手	10回	
03年度	梅田	孝	非常勤講師	7 回	7 回

【学生授業出席率】

	担当	者名	職名	科 目 名	出席率
	菅原	和夫	教授	社会と医学Ⅰ	85%
02年度	中路	重之	助教授	社会と医学Ⅰ	85%
	梅田	孝	助手	社会と医学Ⅰ	85%
	菅原	和夫	教授	社会と医学実習	100%
03年度	中路	重之	助教授	社会と医学実習	100%
	梅田	孝	助手講師	社会と医学実習	100%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名	科 目 名	評 価	
	菅原	和夫	教授	社会と医学Ⅰ	4.0	
02年度	中路	重之	助教授	社会と医学Ⅰ	4.0	
	梅田	孝	助手	社会と医学Ⅰ	4.0	
	菅原	和夫	教授	社会と医学実習	3.3	
03年度	中路	重之	助教授	社会と医学実習	3.3	
	梅田	孝	助手講師	社会と医学実習	3.3	

2) 専門教育の評価 2003年度

学位予備審査員

公衆衛生学 齋藤久美子

Active life expectancy for elderly population in a city of the Tohoku District in Japan. (北東北の一地方都市における65歳以上の活動的平均余命)

公衆衛生学 野田美保子

Comparison of the activity level of daily life with heart rate: application to elderly persons with differing ambulatory abilities. (心拍数による日常生活の活動水準の比較:移動能力の異なる老人を対象として)

12. 公衆衛生学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

地域保健に関与する実践を通し、公衆衛生活動の意義を十分に周知できた。

これから2年間の目標:

地域保健の大切さを理解し、地域住民の立場で行動できる医療従事者の育成。国際的公衆衛生活動に参加できる能力と見識を有する医療従事者を育てる。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
00年度	手度 朝日 茂樹	助教授	21世紀教育	健康	健康と運動の科学	日本体育協会スポーツ医制度概論	2 回
03年度	朔口)入倒	助叙权	人文学部	国際政治	国際協力ゼミ(柑本英雄)	アルジェリア地震救済	1回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	朝日	茂樹	助教授	社会と医学Ⅰ	3年	1 回
02年度	円 日	戊倒	助叙授	社会と医学Ⅰ	4年	5 回
02平皮	坂野	晶司	助手	社会と医学Ⅰ	3年	4 回
		自自口	助士	オリエンテーション	1年	1 回
	三田	禮造	教授	社会と医学Ⅰ	4年	4 回
03年度	朝日	茂樹	助教授	医学概論	1年	1回
03平皮	円 印 口	及倒	助教权	社会と医学Ⅰ	4年	3 回
	坂野	晶司	助手	社会と医学Ⅰ	4年	1回

2)基礎実習

	担当	者名	職名	授業科目	対象学年	回数又は期間
	朝日	茂樹	助教授	社会と医学実習 研究指導	4年	15回
00左座				社会と医学実習 研究指導	4年	15回
02年度	坂野	晶司	助手	基礎医学演習	1年	20回
				基礎ゼミナール	1年	10回
	三田	禮造	教授	社会と医学実習	4年	15回
				基礎人体科学演習	1年	30回
03年度	朝日	茂樹	助教授	基礎ゼミナール		
				社会と医学実習	4年	15回
	坂野	晶司	助手	社会と医学実習	4年	15回

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受入人数					指	導	者	名		
02年度	1名	和田	誠之,	朝日	茂樹						
03年度	3名	和田	誠之								

【大学院】

1)講義

	担当者名 職名		授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			国際保健・精神保健・テロと健康危機管理	大学院生全般	3 回
			衛生学•公衆衛生学総論	1 • 2 年	60回
			疫学	1 • 2 年	30回
			保健栄養	1 • 2 年	30回
02年度	朝日 茂樹	助教授	産業医学	1 • 2 年	30回
			管理医学	1 • 2 年	30回
			体力医学	1 • 2 年	30回
			学校保健	1 • 2 年	30回
			農村医学	1 • 2 年	30回
			衛生学公衆衛生学総論	1年	60回
	三田禮造	教授	保健栄養	1-4年	30回
		3人1又	体力医学	1-4年	30回
			管理医学	1-4年	30回
03年度			社会医学, 公衆衛生学	1 • 2 年	3 回
			疫学	1-4年	30回
	朝日 茂樹	助教授	学校保健	1-4年	30回
			農村保健	1-4年	30回
			産業医学	1-4年	30回

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			疫学	1 • 2 年	60回
			保健栄養	1 • 2 年	60回
			体力医学	1 • 2 年	60回
02年度	朝日 茂樹	助教授	学校保健	1 • 2 年	60回
			農村保健	1 • 2 年	60回
			産業医学	1 • 2 年	60回
			管理医学	1 • 2 年	60回
			保健栄養	1-4年	60回
	三田 禮造	教授	体力医学	1-4年	60回
			管理医学	1-4年	60回
03年度			疫学	1-4年	60回
	 朝日 茂樹	助教授	学校保健	1-4年	60回
	粉口	助教技	農村保健	1-4年	60回
			産業医学	1-4年	60回

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
03年度	三田 禮造	教授	Initial drop of blood pressure during Head-Up Tilt in patients with cerebral vascular accidents. (脳血管障害者の起立負荷に対する循環応答) Active life expectancy for elderly population in a city of the Tohoku District in Japan. (北東北の一地方都市における65歳以上の活動的平均余命) Comparison of the activity level of daily life with heart rate: application to elderly persons with differing ambulatory abilities. (心拍数による日常生活の活動水準の比較:移動能力の異なる老人を対象として)

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加	者名	職名	名 称 等
00左座	朝日	茂樹	助教授	FD 研修 (チュートリアルについて)
02年度	坂野	晶司	助手	FD 研修 (チュートリアルについて)
00左座	朝日	茂樹	助教授	チュートリアル教育の実施について
03年度	坂野	晶司	助手	チュートリアル教育の実施について

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

Ì		研修登録医の人数
	02年度	0名
	03年度	0名

	研究生の人数
02年度	3名
03年度	3名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当	者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間	
03年度	朝日	茂樹	助教授	人文学部1-4年	国際政治と国際協力(柑本英雄担当ゼミ)	1 回	ĺ

【他大学・他施設における講義】

	担当者名		職名	回数	うちコ・メディカルの回数
02年度	朝日	茂樹	助教授		国立弘前病院付属看護学院15回
00年度	朝日	茂樹	助教授		2回(WHO-JICA-東海大学共同21世紀保健リーダー育成研修)
03年度	坂野	晶司	助手		16回(弘前市医師会准看護師2年生)

【学生授業出席率】

	担当	者名	職名	科 目 名	出席率
02年度	朝日	茂樹	助教授	社会と医学Ⅰ	95%
02平皮	坂野	晶司	助手	社会と医学Ⅰ	89.9%
	三田	禮造	教授	社会と医学Ⅰ	91%
				医学概論	95%
03年度	朝日	茂樹	助教授	社会と医学Ⅰ	93%
				国際政治と国際協力	98%
	坂野	晶司	助手	社会と医学Ⅰ	83%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名	科 目 名	評 価
02年度	朝日	茂樹	助教授	社会と医学Ⅰ	非常に良い
02平及	坂野	晶司	助手	社会と医学Ⅰ	
	三田	禮造	教授	社会と医学 I (公衆衛生学)	3.6
03年度	#11	#II II #### ####	助教授	医学概論	4.0
03平皮	朝日	茂樹	助教技	社会と医学 I (公衆衛生学)	4.1
	坂野	晶司	助手	社会と医学 [(公衆衛生学)	4.2

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
社会と医学実習	4年			3.8	3.9

13. 寄生虫学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

学際的、国際的視点からの教育に関しては、寄生虫症、熱帯病に関する関心、それらを単に病気のみ漢ではなく、 人の生活との係わりから理解されてきた。

これから2年間の目標:

従来の視点からの教育をさらに深めてゆく。カリキュラムの改変に伴い、授業時間が半減するため、他の領域と係わりを考慮して、より EBM の色彩を強める。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名		担当者名		職名	区分	領 域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	佐藤	宏	講師	基礎教育科目	自然系基礎		生物学の基礎 I	5 回		
00左连	神谷	晴夫	教授	基礎教育科目	自然系基礎	テーマ科目	環境と生活	5 回		
03年度	佐藤	宏	講師	基礎教育科目	自然系基礎	生物学の基礎	生物学の基礎 I (A)	5 回		

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者	·名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
				感染と生体防御機構Ⅱ	3年	16回
	 神谷	ŧ.+	***	基礎人体科学演習	1年	15回
00左连	仲分 哼 	青夫	教授	医学概論	3年	2 回
02年度				免疫•遺伝子科学	4年	1回
	/ 上壶	<i>+</i>	##.fr.E	基礎ゼミナール	1年	9回
	佐藤	宏	講師	感染と生体防御機構Ⅱ	3年	13回
00年度	神谷 晘	青夫	教授	感染と生体防御機構Ⅱ	3年	9 回
03年度	佐藤	宏	講師	感染と生体防御機構Ⅱ	3年	6 回

2) 基礎実習

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
00年度	神谷	晴夫	教授	感染と生体防御機構Ⅱ	3年	10回
03年度	佐藤	宏	講師	感染と生体防御機構Ⅱ	3年	10回
	神谷	晴夫	教授	感染と生体防御機構Ⅱ	3年	7 回
03年度	佐藤	宏	講師	感染と生体防御機構Ⅱ	3年	7 回
	長内	理大	助手	感染と生体防御機構Ⅱ	3年	7 回

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数					指	導	者	名	
02年度	3名	神谷	晴夫,	松尾加	代子					
03年度	2名	神谷	晴夫,	佐藤	宏,	長内	理大			

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	神谷 晴夫	教授			
00年度	神谷 晴夫	教授		1-3年	1回
03年度	佐藤 宏	講師		1年	1 回

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加	者名	職名		名	称	等		
00左座	神谷	晴夫	教授	チュートリアル教育研修					
02年度	佐藤	宏	講師	チュートリアル教育研修					
00年度	佐藤	宏	講師						
03年度	長内	理大	助手	初任者研修					

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当	者名	職名	科 目 名	出席率
				感染と生体防御機構Ⅱ	95%
	神谷晴夫	1主十	教授	医学概論	85%
02年度		明大	明大 教授	免疫•遺伝子科学	80%
				基礎人体科学	100%
	佐藤	宏	講師	感染と生体防御機構Ⅱ	90%
03年度	神谷	晴夫	教授	感染と生体防御機構Ⅱ	90%
03千段	↑₩台	明大	教授	免疫•遺伝子科学	85%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
	神谷・晴夫	教授	感染と生体防御機構Ⅱ	4.1
02年度	竹谷 哨大	秋1又	医学概論	4.3
	佐藤 宏	講師	感染と生体防御機構Ⅱ	3.6
00年度	神谷・晴夫	#1	感染と生体防御機構Ⅱ	3.8
03年度	神谷・晴夫	教授	免疫•遺伝子科学	3.4

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
感染と生体防御機構Ⅱ	3年	8	24	3.9	3.8

14. 法医学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

- 1 臨床家として必要最低限の法医学的知識を獲得できるよう、視覚教材を豊富の用い、可及的に実例供覧を行って、医学科学生の講義への集中力を向上維持させる。(100/100)
- 2 講義には予め講座で著作編集したプリントを配布して時間の節約に努める。(100/100)
- 3 国家試験ガイドラインに沿った講義内容を盛り込み、国家試験受験に対する学生の不安を緩和するよう努める。(100/80)
- 4 研究室研修では、実際の鑑定業務に即した研究題材によって社会における法医鑑定の意義について学習させる。(0/100)
- 5 21世紀教育では、社会的問題の医学的側面について、非医学系学生にも理解できるようわかりやすい講義内容となるように工夫する。(80/100)
- 6 希望があれば、学部の枠にとらわれず、学生の講座への来訪を随時歓迎し、鑑定や研究の現場を供覧する。 (70/100)
- 7 研究室研修, 基礎学生実習において指導を行う. (80/100)
- 8 研修・実習内容の見直しを絶えず行う. (80/100)
- 9 総合して、実りのある講義および実習を目指す。(80/100)

これから2年間の目標:

- 1 臨床家として必要最低限の法医学的知識を獲得できるよう、視覚教材を豊富の用い、可及的に実例供覧を行って、医学科学生の講義への集中力を向上維持させる。
- 2 講義には予め講座で著作編集したプリントを配布して時間の節約に努める。
- 3 国家試験ガイドラインに沿った講義内容を盛り込み、国家試験受験に対する学生の不安を緩和するよう努める。
- 4 21世紀教育では、社会的問題の医学的側面について、非医学系学生にも理解できるようわかりやすい講義内容となるように工夫する。
- 5 希望があれば、学部の枠にとらわれず、学生の講座への来訪を随時歓迎し、鑑定や研究の現場を供覧する。
- 6 研究室研修,基礎学生実習において指導を行う.
- 7 研修・実習内容の見直しを絶えず行う.
- 8 総合して、実りのある講義および実習を目指す。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	黒田 直人	教授	基礎ゼミナール		基礎ゼミナール		12回
03年度	黒田 直人	教授				基礎ゼミナール	15回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
		直人		基礎人体科学演習	1年	24回
00年度	黒田		教授	医学概論	2年	15回
02年度				社会と医学Ⅱ	4年	30回
	北	武	講師	社会と医学Ⅱ	4年	2 回
03年度	黒田	直人	**************************************	基礎人体科学演習	1年	12回
			人 教授	医学概論 (第二学年)	2年	9 回

03年度				社会と医学Ⅱ	4年	13回	
03年度	北	武	講師	社会と医学Ⅱ	4年	2 回	

2)基礎実習

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	黒田	直人	教授	社会と医学実習	4年	3 回
00年時	北	武	講師	社会と医学実習	4年	3 回
02年度	三戸	聖也	助手	社会と医学実習	4年	3 回
	丹野	高三	助手	社会と医学実習	4年	3 回
03年度	黒田	直人	教授	社会と医学実習	4年	3 回
	北	武	講師	社会と医学実習	4年	3 回

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数					指	導	者	名		
02年度	6 名	黒田	直人,	三戸	聖也,	丹野	高三				

【大学院】

1)講義

	担当者名		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	黒田	直人	教授	社会医学	1-3年	5 回
02平及	北	武	講師	鑑識学特論	3 • 4年	2 回
03年度	北	武	講師	鑑識学特論	3 • 4年	2 回

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等	
02年度	黒田 直人	教授	21世紀教育 医学部医学科チュートリアル教育	

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	2名
03年度	2名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者	名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
02年度	北	武	講師	2年	免疫•血液型,実習	7 回
03年度	北	武	講師	2年	免疫•血液型,実習	7 回

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当	者名	職名	科 目 名	出席率
00年度	黒田	直人	教授	社会と医学Ⅱ	80%
02年度	北	武	講師	社会と医学Ⅱ	80%
00年度	黒田	直人	教授	社会と医学Ⅱ	90%
03年度	北	武	講師	社会と医学Ⅱ	90%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
02年度	黒田 直人	教授	社会と医学Ⅱ	4.2
03年度	黒田 直人	教授	医学概論 社会と医学Ⅱ	A4.1 B3.9 A4.4 B4.4

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
社会と医学実習	4年	3	9	4.0	3.9

15. 内科学第一講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

- 1) 共通教育, 専門教育, 大学院教育, 保健学科等, 多方面にわたって講義, 実習を担当した。到達度:90%
- 2) 講義内容については、プリントやスライドの内容が充実し、出席率も授業評価も良好であった。到達度:80%
- 3) 研究会や講演会を通して、医師の生涯教育、コメディカル教育に関与したが、いまだ不十分である。到達度: 50%

これから2年間の目標:

- 1) 引き続き共通教育、専門教育、大学院教育、保健学科等、多方面にわたる講義、実習を担当する。また講義・実習内容の見直し・改善を絶えず行い、簡潔な知識を学生に提供する。
- 2) クリニカルクラークシップ, OSCE を充実させる。
- 3) 卒後臨床教育における当科の果たすべき目標達成に向けて、教育システムをさらに充実させる。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	職名	区 分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
	棟方 昭博	教授	テーマ	健康	最新医学の現状	消化器疾患の最前線と癌の科学	3 回
02年度	田村 好弘	講師	テーマ	健康	最新医学の現状	癌の化学療法	1回
	石黒 陽	講師	テーマ	健康	最新医学の現状	消化器疾患の診断	1回
	棟方 昭博	教授	テーマ	健康	最新医学の現状	消化器疾患の最前線と癌の科学	1回
03年度	佐々木賀広	講師	テーマ	情報	情報の伝達	情報の伝達(B)	2 回
	石黒 陽	講師	テーマ	健康	最新医学の現状	消化器疾患の診断	1回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	棟方	昭博	教授	系統別講義(消化器系)	4年	2 回
	須藤	俊之	助教授	系統別講義(消化器系)	5年	4 回
	須豚	牧之	助教权	内科特論	4年	4 回
02年度	石黒	陽	講師	系統別講義(免疫系)	5年	4 回
	41 杰	1993	中共印川	免疫遺伝学講義	4年	1 回
	坂本	+-	助手	系統別講義(消化器系)	4年	3 回
	玉井	佳子	助手	系統別講義(血液系)	4年	5 回
	棟方	昭博	教授	系統別講義(消化器系)	4年	2 回
	須藤	俊之	助教授	系統別講義(消化器系)	4年	8 回
			1977天1又	チュートリアル	3年	3 回
		陽		系統別講義(免疫系)	5年	4 回
	石黒		陽講師	免疫遺伝学講義	4年	1 回
				チュートリアル	3年	3 回
03年度	坂本	+	助手	系統別講義(消化器系)	4年	3 回
		· ·	19)]	チュートリアル	3年	3 回
	玉井	佳子	助手	系統別講義(血液系)	4年	5 回
	_LS/1	压 1	19)]	チュートリアル	3年	3 回
	伊東	重豪	助手	チュートリアル	3年	3 回
	下山	克	助手	チュートリアル	3年	3 回
	山形	和史	助手	チュートリアル	3年	3 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対象学年	回数又は期間
	棟方 昭博	教授	5・6年	40回
	須藤 俊之	助教授	5 • 6 年	50回
	田村 好弘	講師	5 • 6 年	50回
02年度	佐々木賀広	講師	5 • 6 年	50回
02平及	石黒 陽	講師	5 • 6 年	50回
	玉井 佳子	助手	5 • 6 年	50回
	下山 克	助手	5 • 6 年	50回
	伊東 重豪	助手	5 • 6 年	50回
	棟方 昭博	教授	5 • 6年	18回
	須藤 俊之	助教授	5 • 6年	18回
	田村 好弘	講師	5 • 6年	18回
	佐々木賀広	講師	5 • 6年	18回
03年度	石黒 陽	講師	5 • 6年	18回
	坂本 十一	助手	5 • 6年	18回
	玉井 佳子	助手	5 • 6年	18回
	伊東 重豪	助手	5 • 6年	18回
	山形 和史	助手	5 • 6年	18回

4) OSCE

	担当者名	職名
	須藤 俊之	助教授
02年度	坂本 十一	助手
	玉井 佳子	助手
	石黒 陽	講師
	須藤 俊之	助教授
	田村 好弘	講師
	佐々木賀広	講師
03年度	坂本 十一	助手
	玉井 佳子(試験委員)	助手
	下山 克(試験委員)	助手
	伊東 重豪	助手
	山形 和史	助手

【研究室研修】

	受入人数					指	導	- 1	<u>-</u>	名		
02年度	2名(下山 克)	石田	智裕,	鈴木	道雄							
03年度	4名	飯野	勢,	金井	健吾,	冨士野	玲,	西川	幹人			

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			内科学総論	1年	15回
02年度	博士 四埔	教授	内科治療予後学	1年	15回
02平皮	02年度 棟方 昭博	1時 教授	内科学総論	2年	15回
			内科治療予後学	2年	15回
	 	教授	内科学総論	1 • 2 年	30回
03年度	棟方 昭博	教技	内科治療予後学	1 • 2 年	30回
	石黒 陽	講師	炎症性腸疾患と分子生物学	1 • 2 年	1回

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	須藤 俊之	14 H W W	内科治療予後学	1年	15回
	月際 仮乙	助教授	内科診断学	3年	15回
02年度	田村 好弘	講師	内科診断学	2年	15回
	佐々木賀広	講師	応用実習	1年	15回
	石黒 陽	講師	内科学総論	2年	15回
	棟方 昭博	教授	消化器病理•病態修復学	3 • 4 年	15回
	須藤 俊之	助教授	内科治療予後学	1年	15回
03年度	佐々木賀広	講師	応用実習	1年	15回
03平皮	石黒 陽	講師	内科学総論	2年	15回
	田村 好弘	講師	内科診断学	2年	15回
	田村 好弘	神印	内科診断学	3年	15回

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
02年度	2年度 棟方 昭博		nested PCR によるクローン病腸管組織中の Mycobacterium paratuberculosis DNA の有無に関する検討(金澤浩介)
			ラット大腸運動における水侵拘束負荷の影響(佐藤研)
			内視鏡画像解析による大腸組織ヘモグロビン濃度と可視光透過距離の測定(齋藤幹雄)
03年度	棟方 昭博	教授	Difference of p53AIPI mRNA expression in gastric cancer infected with <i>Helicobacter pylori</i> . (澤谷学)
			肝細胞癌における Contrast Harmonic Imaging 法の診断能についての検討(三上素子)
	佐々木賀広	講師	内視鏡画像解析による大腸組織ヘモグロビン濃度と可視光透過距離の測定(齋藤幹雄)

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
	須藤 俊之	助教授	第1回弘前大学医学部附属病院臨床教育ワークショップ
02年度	田村 好弘	講師	第2回弘前大学医学部附属病院卒後臨床研修教育ワークショップ
02平皮	佐々木賀広 講師		第2回弘前大学医学部附属病院卒後臨床研修教育ワークショップ
	石黒 陽	講師	チュートリアルについて
00年度	棟方 昭博	教授	教育改善専門委員会委員長
03年度	伊東 重豪	助手	第3回卒後臨床研修教育ワークショップ

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2)	研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	1名
03年度	2名

	研究生の人数
02年度	9名
03年度	8名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
02年度	須藤 俊之	助教授	医短3年生	臨床生理学病院実習	21回
03年度	玉井 佳子	助手	2年	臨床免疫学	2 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数
00年度	棟方 昭博	教授	1 回	0 回
02年度	玉井 佳子	助手	1 回	0 回
00年度	棟方 昭博	教授	1 回	
03年度	玉井 佳子	助手	1 回	

【学生授業出席率】

	担当者名		職名	科 目 名	出席率
	須藤	俊之	助教授	内科特論	90%
	須豚	牧之	助狄汉	系統別講義(消化器系)	80%
02年度	石黒	陽	講師	系統別講義(免疫系)	60%
02平皮	41 杰	物	神神川	免疫遺伝子学講義	90%
	坂本	+-	助手	系統別講義(消化器系)	約80%
	玉井	佳子	助手	系統別講義(血液)	80%
	棟方	昭博	教授	消化器病学	75%
	石黒	陽	陽講師	系統別講義(免疫系)	60%
03年度	41 杰	物	神神川	免疫遺伝学講義	90%
	坂本	+-	助手	系統別講義(消化器系)	80%
	玉井	佳子	助手	系統別講義(血液)	80%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評	価
	石黒陽	继结	系統別講義(免疫系)	評価A 評価B	3.8 3.8
02年度	石黒陽	講師	免疫遺伝子学講義	評価A 評価B	2.6 2.6
02千段	坂本 十一	助手	系統別講義(消化器系)	評価A 評価B	3.9 3.8
	玉井 佳子	助手	系統別講義(血液)	評価A 評価B	4.5 4.5
	棟方 昭博	教授	系統別講義(消化器系)	評価A 評価B	3.9 3.9
	- - - 石黒 陽	誰師	系統別講義(免疫系)	評価A 評価B	3.9 3.9
03年度	日志 物	陽講師	免疫遺伝学講義	評価A 評価B	3.9 3.9
	坂本 十一	助手	系統別講義(消化器系)	評価A 評価B	3.9 3.9
	玉井 佳子	助手	系統別講義(血液)	評価A 評価B	4.5 4.6

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5 • 6年	144日		4.3	4.3

16. 内科学第二講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

系統別講義にあっては症例検討(検査所見の検討など)の時間を設ける。80%

臨床実習ではクリニカルクラークシップを導入する。100%

EBM に基づいた治療方針の選択を徹底させる。100%

系統別講義では講義ノートを作成、更新する。100%

これから2年間の目標:

- 1. 共通教育、専門教育、大学院教育において講議、実習を可能な限り担当する。
- 2. 講議内容の見直しを絶えず行う。
- 3. 出席率の向上を計る。
- 4. 臨床実習 (SGT) 教育において, clinical clerkship に基づく実習を充実し, Problem-oriented learning を定着させる。
- 5. 卒後臨床実習においても、中身のある実習プログラムを作成し実施する。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区 分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
00年度	奥村	謙	教授	教養	自然	健康	生活習慣と健康	3 回
02年度	長内	智宏	助教授	教養	自然	健康	生活習慣と健康	2 回
	奥村	謙	教授	教養		最新医学の現状	身辺にある薬物「高血圧・心臓病と薬物」	3 回
00年度	長内	智宏	助教授	教養	自然	病気の科学	生活習慣と健康	2 回
03年度	高梨	信吾	助教授			最新医学の現状	胸部疾患と外科治療の最前線	1回
	花田	裕之	講師			最新医学の現状	心臓病と危険因子	1回

2)実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者	名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
				系統別講義(循環器)	5年	7 回
				内科特論	4年	4 回
	奥村	謙	教授	医学概論	4年	1 回
				医学英語	4年	7 回
02年度				臨床実地見学実習	1年	4 回
02千皮	長内	智宏	助教授	系統別講義(循環器)	5年	3 回
	高梨 伯	信五.	講師	系統別講義 (呼吸器)	5年	9 回
	高梨 信吾		神神川	系統別講義 (呼吸器)	4年	7 回
	石坂	浩	講師	系統別講義(循環器)	5年	10回
	長谷川	幸裕	助手	内科特論	4年	1 回
				系統別講義(循環器)	4年	6 回
	奥村	謙	教授	系統別講義(循環器)	3年	8 回
	火 们	DAK	7人1人	内科特論	4年	2 回
				医学概論	4年	1回
03年度				系統別講義(循環器)	5年	3 回
	長内	智宏	助教授	系統別講義(循環器)	4年	2 回
				外科学総論	3年	1回
	高梨 伯	信吾	助教授	系統別講義 (呼吸器)	4年	7 回
	日米		少月7人1又	系統別講義(呼吸器)	5年	9 回

井田 松子	花田 裕之	講師	系統別講義(循環器)	4年	6 回
03年度	花田 裕之	神训	系統別講義(循環器)	3年	2 回
	長谷川幸裕	助手	チュートリアル	3年	3 回

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名		職名	対象学年	回数又は期間
	奥村	謙	教授	5 • 6年	36回
	長内 名	智宏	助教授	5 • 6年	36回
	高梨 亻	言吾	講師	5 • 6年	36回
02年度	石坂	浩	講師	5 • 6年	36回
	松永	敢郎	助手	1・5・6年	30回
	中村	典雄	助手	5 • 6年	30回
	長谷川書	幸裕	助手	1・5・6年	30回
	奥村	謙	教授	5 • 6年	36回
03年度	高梨 亻	言吾	助教授	5 • 6年	36回
03年度	中村	典雄	助手	5 • 6年	36回
	長谷川書	幸裕	助手	5年	30回

4) OSCE

	担当	職名	
00年度	長内	智宏	助教授
02年度	高梨	信吾	講師
03年度	長内	智宏	助教授
	高梨	信吾	助教授
	花田	裕之	講師

【研究室研修】

	受 入 人 数		指	導	者	名	
02年度	1名	長内 智宏					
03年度	1名	長内 智宏					

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間	
02年度	長内 智宏	助教授	循環器疾患の分子生物学	1 • 2 年	1 回	
03年度	奥村 謙	教授	内科学総論講義	1年	15回	

2) 実習

		担当者名		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間	
0	3年度	奥村	謙	教授	循環呼吸病態科学演習	1年	15回	

3) 学位論文

	作成指	導者名	職名	指 導 論 文 名						
0.0 for 150	奥村	謙	教授	Thrombin stimulates production of fibronectin by human proximal tubular epithelial cells via a transforming growth factor- β -dependent mechanism.						
製村 謙 教授 High plasma level of asymmetric dimethylarginine in patients with acutely explain 表										
		計	謙 教授	Mechanism of ST elevation and ventricular arrhythmias in experimental Brugada syndrome model						
03年度	奥村			Impaired longitudinal conduction in crista terminalis is necessary for sustenance of experimental atrial flutter						
				Correlation of inhibitory effect of nicorandil on free radical formation with cardiac function and clinical outcomes in patients with acute myocardial infarction						

				Impairment of calcium-activated potassium channels in endothelium-derived hyperpolarizing factor responses in spontaneously hypertensive rats
03年度	奥村 謙 教授 長内 智宏 助教授		教授 助教授	Phospholipase cactivity is enhanced in skin fibroblasts obtained from patients with essential hypertension Tumor necrosis factor a as an endogenous stimulator for circulating coupling factor 6
	奥村 松永	謙 敏郎	教授 助手	Correlation of oxidative stress with activity of matrix metalloproteinase in patients with coronary artery disease:possible role for left ventricular remodeling

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名		職名	名 称 等
02年度	高梨	信吾	講師	チュートリアルに関する講習会
03年度	高梨	信吾	助教授	
03平皮	花田	裕之	講師	臨床研修指導医養成講習会

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	1名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名		当者名 職名 対象学年 科 目 名		科 目 名	回数又は期間
02年度-	長内 智宏 助教		助教授	3年	臨床病理学総論Ⅱ	1
	高梨	信吾	講師	2年	呼吸器疾患の検査	1

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名		職名			科	目	名	出席率
	奥村	謙	教授	系統別講義	(循環器)				80%
02年度	長内	智宏	助教授	系統別講義	(循環器)				80%
02平皮	高梨	信吾	講師	系統別講義	(呼吸器)				80%
	石坂	浩	講師	系統別講義	(循環器)				80%
	奥村	謙	教授	系統別講義	(循環器)				80%
03年度	長内	智宏	助教授	系統別講義	(循環器)				80%
03平皮	高梨	信吾	助教授	系統別講義	(呼吸器)				70%
	花田	裕之	講師	系統別講義	(循環器)				80%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名			科	目	名		評	価
	奥村	謙	教授	系統別講義	(循環器)					良	好
02年度	長内	智宏	助教授	系統別講義	(循環器)					良	好
02平皮	高梨	信吾	講師	系統別講義	(呼吸器)					4.3であ	り良好
	石坂	浩	講師	系統別講義	(循環器)					良	好
	奥村	謙	教授	系統別講義	(循環器)					4.	4
03年度	長内	智宏	助教授	系統別講義	(循環器)					4.	4
03平皮	高梨	信吾	助教授	系統別講義	(呼吸器)					4.	4
	花田	裕之	講師	系統別講義	(循環器)					4.	4

2) 専門教育の評価 2003年度 該当なし。

17. 内科学第三講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

80 — 90 %

これから2年間の目標:

- 1. 専門教育における問題提起型講義のさらなる充実
- 2. 病態を考える習慣を植え付ける教育

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名		職名	区	分	領域	授業主題 授業科目名		回 数 又は期間
	須田	須田 俊宏 教持				健康	最新医学の現状	遺伝子診断遺伝子治療	2 回
	玉澤	直樹	助教授				病気の科学	文明の発展と現代医学	3 回
00年時		旦彻	助教技				テーマ科目・人間	生態系の中の人間	3 回
02年度	神成	一哉	講師				薬と健康	糖尿病, 脳卒中と薬物	1回
	小川	吉司	講師			健康		生活習慣と健康(A)	5 回
								最新医学の現状(A)	1回
	須田	俊宏	教授					最新医学の現状 C	2 回
	玉澤	直樹	助教授				21世紀教育センター科目	生態系の中の人間	3 回
03年度	神成	一哉	講師				糖尿病と脳卒中	薬と健康	2 回
03平皮	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	一成	神训				パーキンソン病, プリオン病	最新医学の現状	2 回
	小川	士司	# 1515			健康	生活習慣と健康(A)		3 回
	(1)	吉司	講師			健康	最新医学の現状(A)		1回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名 職名 授業科目		対象学年	回数又は期間					
	須田	俊宏	教授	代謝内分泌学	4年	9 回			
	須田	牧 丛	7人1又		5年	11回			
				臨床実地見学実習	1年	2 回			
02年度	玉澤	直樹	助教授	代謝内分泌系	4年	3 回			
02平反	工伴	旦倒	助教权	免疫系	4年	7 回			
				内科特論	4年	2 回			
	神成	一哉	講師	神経内科学	4年	3 回			
	小川	吉司	講師	代謝•内分泌系	4年	5 回			
	須田	俊宏	教授	系統別講義:代謝内分泌系	3年	7 回			
				系統別講義(代謝内分泌)	4年	9 回			
	玉澤	直樹	直樹	直樹	直樹	助教授	系統別講義(感染症)	4年	3 回
03年度				神経内科学	4年	7回			
	神成	一哉	講師	神経内科学	4年	10回			
	小川	吉司	講師	系統別講義(代謝内分泌)	4年	6 回			
	冨山	誠彦	助手	系統別講義(代謝内分泌)	4年	1 回			

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当	者名	職名	対象学年	回数又は期間
	須田	俊宏	教授	5・6年	40回
	神成	一哉	講師	5 • 6 年	2週に1回(2時間)
02年度	小川	吉司	講師	5 • 6 年	通年
	松井	淳	助手	5 • 6 年	通年
	丹藤	雄介	助手	5 • 6 年	
	須田	俊宏	教授	5 • 6 年	64回
	玉澤	直樹	助教授	5 • 6 年	64回
	神成	一哉	講師	5 • 6 年	30回
	冨山	誠彦	助手	5 • 6 年	25回
03年度	松井	淳	助手	5 • 6 年	通年
	丹藤	雄介	助手	5 • 6 年	通年
	蔭山	和則	助手	5 • 6 年	通年
	崎原	哲	助手	5 • 6 年	通年
	二川原	建	助手	5 • 6 年	通年

4) OSCE

	担当者名	職名
02年度	神成 一哉	講師
03年度	神成 一哉	講師
03平及	冨山 誠彦	助手

【研究室研修】

	受 入 人 数					指	導	者	名
02年度	4名	小川	吉司,	丹藤	雄介,	松井	淳,	蔭山 和則	
03年度	3名	小川	吉司,	冨山	誠彦,	崎原	哲		

【大学院】

1)講義

	担当者名 職名		授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	須田 俊	宏教授	臨床医学と分子生物学	1年	1 回
02年度 須田 俊宏		太教技	内科学総論、診断学	1 • 2 • 3 年	24回
	神成 一	·哉 講師	パーキンソン病治療薬の作用機序		1 回
	須田 焔	宏教授	内科系	1年	1 回
03年度	須田 俊	太教技	総合1	1年	1 回
	冨山 誠	彦 助手	神経遺伝学	1年	1 回

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指導者	名 職名	指 導 論 文 名
02年度	神成 一部	講師	アマンタジンによるL-DOPA由来細胞外ドーパミンの増加作用(英文)
03年度	玉澤 直梅	助教授	 Clofibrate, a peroxysome-proliferator, enhances reverse cholesterol transport through cytochrome P450 activation and oxysterol generation. Quantitative analysis of apolipoprotein E secretion by human monocyte-derived macrophages in culture.
	小川 吉司 講師		Accumulation of Oleic Acid in Rat Islet B-cells Induces Spontaneous Cell Excitation by Increasing ATP Sensitivity to KATP Channels

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

		研修登録医の人数
	02年度	4名
ľ	03年度	4 名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名 職名		回数	うちコ・メディカルの回数	
	玉澤 直樹	助教授	1 回	1 回	
02年度	神成 一哉	講師	5 回	5 回	
	丹藤 雄介	助手	3 回	2 回	
00年度	冨山 誠彦	助手	2 回	0 回	
03年度	丹藤 雄介	助手	2 回	1 回	

【学生授業出席率】

	担当者	名	職名	科 目 名	出席率
	須田 佰		教授	代謝内分泌系	4年 90% 5年 40%
02年度 玉澤 直樹			助教授	免疫系 感染症 内分泌代謝	80% 70%
	神成 -	一哉	講師	神経内科学	70%
03年度	須田 佰		教授	系統別講義:代謝内分泌系	前半90% 後半30%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名	科 目 名	評 価
	須田	俊宏	教授	代謝内分泌系	3.0-3.5
02年度	玉澤	直樹	助教授	免疫系 感染症	2.0
02千度	上件	旦倒	助叙权	内分泌代謝	
	神成	一哉	講師	神経内科学	良
03年度	小川	吉司	講師	系統別講義(代謝内分泌系)	4.4

2) 専門教育の評価 2003年度 該当なし。

18. 老年科学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

老年医学・漢方に対する興味を引き出すことができた。到達度は 40 % 高齢者関節リウマチの至適治療法の確立については,50 %程度到達度。 津軽地域のリウマチネットワーク作製の到達度は 30 %程度。 リウマチ実践マニュアルの作成については 80 %の到達度。

これから2年間の目標:

長寿医学に関心を持たせる教育を行う。 高齢者関節リウマチの至適療法の確立 津軽地域のリウマチネットワーク作製 リウマチ予後決定因子の検討

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
					健康	発達と老化	発達と老化(A)	2 回
02年度	水島	豊	教授		健康	メンタルヘルス	メンタルヘルス(A)	1回
02平皮				教養	自然	病気の科学	癌・成人病とその予防	1回
	浦田	幸朋	助手		健康	薬と健康	薬と健康(A)	1回
						最新医学の現状	最新医学の現状(D)	1回
						薬と健康	薬と健康(A)	4 回
03年度	水島	豊	教授	テーマ科目	健康	生活習慣と健康	生活習慣と健康(D)	1回
						メンタルヘルス	メンタルヘルス(A)	1回
						発達と老化	発達と老化(A)2	2 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名 職		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
				医学概論	1年	1 回
	水島	豊	教授	内科特論	4年	1 回
02年度	小局	豆	7人1又	系統別講義(呼吸器系)	4年	2 回
02千及				系統別講義(精神系)	5年	1 回
	吉田	聡	講師	内科特論	4年	2 回
			176 神神	医学概論	3年	1 回
				内科特論	4年	3 回
	水島	豊	教授	系統別講義(呼吸器系)	4年	2 回
03年度	小品	돠.	3人1人	チュートリアル教育	3年	4 回
				東洋医学講講義		1回
	浦田	幸朋	助手	チュートリアル教育	3年	4 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名		職名	対象学年	回数又は期間
	水島	豊	教授	5 • 6年	20回
02年度	吉田	聡	講師	5 • 6 年	15回
	浦田	幸朋	助手	5 • 6 年	20回
00年度	水島	豊	教授	5 • 6 年	20回
03年度	浦田	幸朋	助手	5 • 6年	20回

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1)講義該当なし。2)実習該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
02年度	浦田 幸朋	助手	The New Undergraduate Medical Curricurum 1998-2003
03年度	水島 豊	教授	第3回弘前大学医学部附属病院卒後臨床研修教育ワークショップ

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	1名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者	名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
00左府	水島	曹	教授	2年	老年医学概論	5 回
02年度	吉田	聡	講師	2年	老年医学概論	2 回
03年度	水島	曹	教授	2年	老年医学概論	7 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数	
02年度	吉田 聡	講師	1 回	0 回	

【学生授業出席率】 該当なし。

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者	音名	職名	科 目 名	評 価
				医学概論	3.9点
02年度	水島	豊	教授	系統別講義(精神系)	3.7点
				内科特論	4.0点
02年度	水島	豊	教授	内科特論	A=4.2, B=4.1
03年度	小局	豆	7人1又	系統別講義(呼吸器系)	A=4.0, B=3.8

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
内科特論	4年	3 日	6コマ	4.2	4.1
系統別講義(呼吸器系)	4年	2 日	4コマ	4.0	3.8
臨床実習	5 • 6年	60日	600コマ	4.0	3.8

19. 神経精神医学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

設定した以上の目標を達成した。

卒後臨床研修生用のプログラムを作成し、さらにはそのテキストとして MGH「心の問題」診療ガイドを訳出した(メ ヂカル・サイエンス・インターナショナル)。これまでのところ、卒後臨床研修生により良い評価を得ている。 臨床生理学 (脳波など) に関連する講義については、より実践的な視点で講義を行い、学生の興味を増加させ、そ の理解を深める。 臨床精神医学に関連する講義については、病態の理解に加えて、患者さんの苦しみの理解、共感性という点にも力点を置き、患者さんの側に立った医療の浸透に努める。

これから2年間の目標:

- 本学部医学科学生用の専用のテキスト作成を試みる。卒後臨床研修生用のプログラムを充実させ、魅力ある卒 後臨床研修を提供する。
- コアカリキュラム導入へ向けて、講義内容を厳選し、一層スリム化する。
- ・ 学部・大学院講義への最新の成果導入と SGT 学生への適正な症例の振り分けを行う。
- 教育では、引き続き基本的知識の伝達及び、近年進歩の著しい最新の神経科学的知見と、精神医学的近況を含めた知識の伝達につとめる。
- ・ 地域社会に対しては、各種行政サービスとの連携強化につとめ、神経精神医学の普及と向上に努める。
- 共通教育・専門教育・卒後臨床教育において講義。実習を可能な限り担当する。
- 講義内容の見直しを絶えず行う。これまでと同様に、
- 1) 講義ごとのレジメを作成し、その都度工夫を加え講義するように努力する。
- 2) 臨床生理学(脳波など)に関連する講義については、理論と実践のバランスに配慮して講義を行う。
- 3) 精神医学に関連する講義については、病態、症状の理解に加えて、患者さんへの共感性という点にも力点を置いて講義する。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名		職名	区 分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
	兼子	直	教授	教養	健康	メンタルヘルス(A)	メンタルヘルス	2 回
	近藤	毅	助教授	教養	健康	メンタルヘルス(A)	メンタルヘルス	1回
02年度	矢部	博興	講師	教養	自然	病気の科学	人の成長と心の科学	5 回
02平皮	大司	仔典	神神川	教食	健康	メンタルヘルス(A)	メンタルヘルス	2 回
	栗林	理人	講師				児童思春期の発達など	2 回
	篠崎	直子	助手			最新医学の現状(C)	人の精神活動と事象関連電位	1回
	兼子	直	教授	教養	健康	メンタルヘルス(A)	メンタルヘルス	2 回
03年度	矢部	博興	助教授	教養	自然	21世紀教育	メンタルヘルス	1回
03平皮	栗林	理人	講師				心と発達	1回
	篠崎	直子	助手			最新医学の現状(C)	人の精神活動と事象関連電位	1回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当	担当者名		授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	兼子	直	教授	系統別講義(精神系)	5年	9 回
	来丁	但.	教授	医学概論	3年	1 回
02年度	近藤	毅	助教授	系統別講義(精神系)	5年	3 回
	矢部	博興	講師	系統別講義(精神系)	5年	4 回
	栗林	理人	講師	系統別講義(精神系)	5年	2 回

	岡田	元宏	助手	系統別講義(精神系)	5年	1 回
	Im) ITI	ルル	助丁		•	1 🖽
02年度	三原	一雄	助手	系統別講義(精神系)	5年	1回
02平皮	篠崎	直子	助手	系統別講義(精神系)	5年	1 回
	天保	英明	助手	系統別講義(精神系)	5年	3 回
	兼子	直	教授	系統別講義(精神系)	5年	7 回
			7人1又	医学概論	3年	1 回
	矢部	博興	助教授	系統別講義(精神系)	5年	5 回
03年度	栗林	理人	講師	系統別講義(精神系)	5年	2 回
05千度	岩佐	博人	講師	系統別講義(精神系)	5年	1 回
	岡田	元宏	講師	系統別講義(精神系)	5年	2 回
	天保	英明	助手	系統別講義(精神系)	5年	3 回
	篠崎	直子	助手	系統別講義(精神系)	5年	2 回

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名		職名	対象学年	回数又は期間		
02年度	兼子	直	教授	5 • 6 年	1 年間		
	近藤	毅	助教授	5 • 6 年	1 年間		
	矢部	博興	講師	5 • 6 年	1 年間		
	栗林	理人	講師	5 • 6 年	1 年間		
	岡田	元宏	助手	5 • 6 年	1 年間		
	三原	一雄	助手	5 • 6 年	1 年間		
	篠崎	直子	助手	5 • 6 年	1 年間		
	天保	英明	助手	5 • 6 年	1 年間		
	兼子	直	教授	5 • 6 年	1年間		
	矢部	博興	助教授	5 • 6 年	1年間		
	栗林	理人	講師	5 • 6 年	1年間		
	岩佐	博人	講師	5 • 6 年	1 年間		
03年度	岡田	元宏	講師	5 • 6 年	1 年間		
03年度	天保	英明	助手	5 • 6 年	1年間		
	篠崎	直子	助手	5 • 6 年	1 年間		
	晝間	臣治	助手	5 • 6 年	1年間		
	三浦	淳	助手	5 • 6 年	1年間		
	菊地	隆	助手	5 • 6年	1 年間		

4) OSCE

	担当者名	職名
	岡田 元	宏助手
02年度	三原 一	雄 助手
	天保 英	明助手
03年度	岡田 元	宏 講師
03年度	晝間 臣	治 助手

【研究室研修】

	受 入 人 数					指	導	者	名	
02年度	4名	矢部	博興,	篠崎	直子,	天保	英明			
03年度	1名	矢部	博興,	篠崎	直子					

【大学院】

1)講義

	担当者名 職名		授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	兼子	教授	精神医学	1-3年	全体1回 精神系8回
	近藤 翁	助教授	精神医学	1年	全体1回

02年度	矢部	博興	講師	精神医学	1-3年	全体2回
	岡田	元宏	助手	神経科学	1-4年	全体1回
	天保	英明	助手	精神医学	1-3年	全体1回
03年度	兼子	直	教授	精神医学	1-3年	全体1回 精神系8回
	矢部	博興	助教授	精神医学	1-3年	2 回

2) 実習

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	兼子	直	教授	神経精神医学	1-4年	1年間
	近藤	毅	助教授	臨床薬理学	1-4年	1 年間
	矢部	博興	講師	精神生理学	1-4年	1 年間
02年度	栗林	理人	講師	児童・思春期医学	1-4年	1 年間
02平及	岡田	元宏	助手	神経科学	1-4年	1 年間
	三原	一雄	助手	臨床薬理学	1-4年	1 年間
	篠崎	直子	助手	精神生理学	1-4年	1 年間
	天保	英明	助手	リエゾン精神医学	1-4年	1 年間
00年度	兼子	直	教授	神経精神医学	1-4年	1年間
03年度	矢部	博興	助教授	精神生理学	1-4年	1年間

3) 学位論文

	作成指	導者名	職名	指 導 論 文 名	
				♦ Significant pharmacokinetic interaction between risperidone and carbamazepine: Its relationship with CYP2D6 genotypes.	
	兼子	直	教授	❖ Interaction between carbamazepine, zonisamide and voltage-sensitive Ca²+ channel on acetylcholine release in rat frontal cortex.	
				Concentration-dependent effects of carbamazepine on propagation of fiber volley and spike frequency adaptation in rat hippocampal CA1 region.	
02年度	近藤	毅	助教授	♦ Significant pharmacokinetic interaction between risperidone and carbamazepine: Its relationship with CYP2D6 genotypes.	
	矢部	博興	講師	◆ アルファ波帯域事象関連脱同期反応へのガボールフィルターの応用について	
	岡田	im <i>=b</i>	助手	♦ Interaction between carbamazepine, zonisamide and voltage-sensitive Ca ²⁺ channel on acetylcholine release in rat frontal cortex.	
	一一一	元宏	功于	♦ Concentration-dependent effects of carbamazepine on propagation of fiber volley and spike frequency adaptation in rat hippocampal CA1 region.	
				○ ひば芳香曝露条件下における CNV と MMN	
	兼子	直	教授	○ 記憶痕跡形成過程の標準刺激依存性について	
00左连	AK J	臣	7人1又	7人1人	○ 摂食障害における EDI-2 の経時的変化 一臨床像の経過と心理的特性に及ぼす影響-
03年度	矢部	博興	助教授	○ ひば芳香曝露条件下における CNV と MMN	
	何人		助教技	○ 記憶痕跡形成過程の標準刺激依存性について	
	栗林 理人		講師	○ 摂食障害における EDI-2 の経時的変化 一臨床像の経過と心理的特性に及ぼす影響-	

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名		職名	名 称 等
02年度	兼子 直 教授			新任者講習でリスクマネージメントについて講義

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	1名
03年度	1名

	研究生の人数
02年度	22名
03年度	14名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	R		回数又は期間	
	近藤 毅 02年度 矢部 博興		2年	精神医学(教育学部)	8 回
02年度			講師 2・3年 臨床生理学(脳波)		10回
	篠崎 直	子 助手	助産学特別専攻生	助産診断学Ⅳ	2 回
00年度	矢部博興	助教授	保健学科2・3年	臨床生理学(脳波)	10回
03年度	大部時期	り 別教授	教育学部養護教諭養成課程2年	臨床医科学Ⅲ一2	8 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名		職名	回数	うちコ・メディカルの回数
00年度	兼子	直	教授	44回	15回
02年度	近藤	毅	助教授	1 回	0 回
03年度	兼子	直	教授	13回	10回

【学生授業出席率】

	担当者名		職名	科 目 名	出席率
	兼子	直	教授	系統別講義(精神系)	70-50%
	近藤	毅	助教授	系統別講義(精神系)	70—50%
	矢部	博興	講師	系統別講義(精神系)	90-70%
02年度	栗林	理人	講師	系統別講義(精神系)	70—50%
02平及	岡田	元宏	助手	系統別講義(精神系)	90-70%
	三原	一雄	助手	系統別講義(精神系)	70—50%
	篠崎	直子	助手	系統別講義(精神系)	70—50%
	天保	英明	助手	系統別講義(精神系)	70—50%
	兼子	直	教授	系統別講義(精神系)	
	矢部	博興	助教授	系統別講義(精神系)	70—50%
	栗林	理人	講師	系統別講義(精神系)	70—50%
03年度	岩佐	博人	講師	系統別講義(精神系)	
	岡田	元宏	講師	系統別講義(精神系)	
	天保	英明	助手	系統別講義(精神系)	70-50%
	篠崎	直子	助手	系統別講義(精神系)	

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名	科 目 名	評	価
	兼子	直	教授	系統別講義(精神系)	A:3.8,	B:3.8
	近藤	毅	助教授	系統別講義(精神系)	A:3.6,	B:3.7
	矢部	博興	講師	系統別講義(精神系)	A:3.9,	B:4.0
02年度	栗林	理人	講師	系統別講義(精神系)	A:3.8,	B:3.8
02年度	岡田	元宏	助手	系統別講義(精神系)	A:3.3,	B:3.3
	三原	一雄	助手	系統別講義(精神系)	A:3.8,	B:3.9
	篠崎	直子	助手	系統別講義(精神系)	A:3.6,	B:3.6
	天保	英明	助手	系統別講義(精神系)	A:4.0,	B:4.0
	兼子	直	教授	系統別講義(精神系)	A:3.7,	B:3.5
	矢部	博興	助教授	系統別講義(精神系)	A:3.8,	B:3.7
	栗林	理人	講師	系統別講義(精神系)	A:4.0,	B:4.1
03年度	岩佐	博人	講師	系統別講義(精神系)	A:3.5,	B:3.4
	岡田	元宏	講師	系統別講義(精神系)	A:3.3,	B:3.1
	天保	英明	助手	系統別講義(精神系)	A:3.8,	B:3.7
	篠崎	直子	助手	系統別講義(精神系)	A:3.5,	B:3.5

2) 専門教育の評価 2003年度 該当なし。

20. 小児科学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

1. 前回設定した目標は、ほぼ達成することができた。

これから2年間の目標:

- 1. 専門教育, 大学院教育, 卒後臨床教育をさらに充実させる。
- 2. 講義内容の見直しを絶えず行ない、より分かりやすく効率的な講義を行なう。
- 3. 診療参加形臨床実習(クリニカルクラークシップなど)をさらに充実させる。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名		職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
	伊藤	悦朗	教授	健康	発達と老化	子供の発達	総論·形態的成長	2 回
		プロスカ	7人1又	(建) (基) (基)	最新医学の現状	骨髄移植	骨髄移植	1回
09年底	高橋	徹	助教授	教養科目(共通教育)	自然領域	病気の科学	人の成長と心の科学	1回
02年度	同間	1fX	助叙坟	21世紀教育	健康		発達と老化	2 回
	田中	完	講師		自然科学	発達と老化	乳児の病気	1回
	四十	元	神山川				幼児の病気	1回
	伊藤	悦朗	教授	健康	発達と老化	子供の発達	総論・形態的成長	2 回
	ア豚	几切	7人1又	() () () ()	最新医学の現状	骨髄移植	骨髄移植	1回
03年度	高橋	徹	助教授	21世紀教育	テーマ科目	テーマ・健康	発達と老化	2 回
	同個	1HX	助叙仅				最新医学の現状	1回
	田中	完	講師			乳児の病気,児童・学童の病気	発達と老化	2 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
				系統別 (成長発達系)	5年	6 回
	伊藤	悦朗	教授	系統別(血液系)	5年	7 回
				医学英語	4年	8 回
				系統別講義(成長発達系)	5年	3 回
00左庇	高橋	徹	助教授	系統別講義(循環器系)	4年	4 回
02年度				系統別講義(循環器系)	5年	1回
	佐藤	工	講師	新生児疾患	5年	2 回
	田中	完	講師	小児の感染症,小児の呼吸器疾患,小児免疫病,小児の腎糸球体疾患 I . II . 小児腎不全	4 • 5年	計6回
	土岐	力	助手	遺伝子科学	4年	2 回
	伊藤	悦朗	明 教授	系統別(成長発達系)	5年	6 回
				系統別(血液系)	5年	7 回
				医学英語	4年	8 回
				系統別(成長発達系)	3年	3 回
				成長発達系	5年	3 回
					3年	3 回
03年度	高橋	徹	助教授	循環器系	5年	1 回
					4年	3 回
					3年	5 回
	田中	完	講師	小児感染症, 小児リウマチ性疾患, 小児呼吸 器疾患, 小児糸球体疾患 I.Ⅱ, 小児腎不全	5年	6 回
			助手	遺伝子科学	3年	2 回
	土岐 力		力 助手		4年	2 回

2) 基礎実習

	担当者	名	職名		授	業	科	目	対針	象学年	回数又は期間
03年度	田中	完	講師	腎疾患示説						SGT	約30回

3) 臨床実習

	担当者名		職名 対象学年		回数又は期間	
00年度	高橋	徹	助教授	5 • 6 年	1 年間	
02年度	田中	完	講師	5 • 6 年	2週間に1回の割合で腎示説を講義	
03年度	高橋	高橋 徹 助教授		5 • 6年	1 年間	

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数			指	導	者	名		
02年度	2名	土岐	力						
03年度	2名	土岐	力						

【大学院】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	伊藤	悦朗	教授	難治性血液疾患の造血幹細胞移植	大学院	1回
00年度	伊藤	悦朗	教授	大学院総合講義・分子生物学の臨床への応用	大学院	1回
03年度	土岐	力	助手	血液疾患の分子生物学	1年	1回

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指	導者名	職名	指 導 論 文 名
02年度	伊藤	悦朗	教授	1. Burkitt リンパ腫細胞株 Raji の <i>BACH2</i> 発現誘導による薬剤感受性の変化とその機序に関する検索
02千皮		儿奶	多X1又	2. 一過性骨髄異常増殖症の原因遺伝子の検索を目的とした, 21q11-21 領域の新規遺伝子の単離
03年度	伊藤	悦朗	教授	Fibrillin-3 gene variants detected in Marfan syndrome patients(マルファン症候群患者におけるフィブリリン 3 遺伝子の変異解析)
	土岐	力	助手	21q11-21 領域からの一過性骨髄異常増殖症の原因遺伝子単離の試み

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加	者名	職名	名 称 等
02年度	田中	完	講師	第1回弘前大学医学部附属病院卒後臨床研修教育ワークショップ
03年度	伊藤	悦朗	教授	第3回弘前大学医学部附属病院卒後臨床研修教育ワークショップ
03平及	高橋	良博	助手	第4回弘前大学医学部附属病院卒後臨床研修教育ワークショップ

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	13名
03年度	1名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	3 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数
03年度	伊藤 悦朗	教授	1 回	

【学生授業出席率】

	担当:	者名	職名	科 目 名	出席率		
				系統別(成長発達系)	90%		
	伊藤	悦朗	教授	系統別(血液系)	90%		
				医学英語	90%		
02年度				系統別講義(成長発達系)5年	80%		
	高橋	徹	徹	徹	徹 助教授	系統別講義(循環器系)4年	80%
				系統別講義(循環器系)5年	80%		
	田中	完	講師	4・5学年を対象とした各講義	70~80%		
				系統別(成長発達系)	95%		
	伊藤	悦朗	教授	系統別(血液系)	95%		
03年度				医学英語	95%		
03平皮	高橋	徹	助教授				
	田中	完	講師	小児感染症, 小児リウマチ性疾患, 小児呼吸器疾患, 小児糸球体疾患Ⅰ. Ⅱ, 小児腎不全	約50~75%前後		
	土岐	力	助手	遺伝子科学	100%		

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名	科 目 名	評 価
				系統別(成長発達系)	A: 3.7, B: 3.8
	伊藤	悦朗	教授	系統別(血液系)	A: 3.8, B: 3.8
				臨床実習	A: 4.0, B: 3.8
02年度				系統別講義(成長発達系)5年	A: 4.1, B: 4.2
02千反	高橋	徹	助教授	系統別講義(循環器系)4年	A: 3.3, B: 3.1
				系統別講義(循環器系)5年	A: 4.0, B: 4.0
	田中	完	講師	小児感染症,小児呼吸器疾患,小児免疫病,小児腎不全	いずれも3.6―4.0前後
	土岐	力	助手	遺伝子科学	3.8
				系統別(成長発達系)5年	A: 3.7, B: 3.6
	伊藤	悦朗	教授	系統別(成長発達系)3年	A: 3.7, B: 3.6
	ア版	儿奶	3人1人	系統別(血液系)	A: 3.9, B: 3.8
03年度				医学英語	A: 4.2, B: 4.1
03平及	田中	完	講師	小児感染症,小児リウマチ性疾患,小児呼吸器疾患,小児腎不全	おおよそ3.5―4.2の範囲内
	高橋	徹	助教授	成長発達系	平均3.3—3.8
	I dela		ml -	循環器系	
	土岐	力	助手	遺伝子科学	3.8

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
	5 • 6年	各グループ2週間		A: 4.0	B: 3.8

21. 外科学第一講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

達成した。

これから2年間の目標:

- 1. 教育評価の結果を反映し、教育内容の見直しを絶えず行い、学生の理解度を深める努力をする。
- 2. SGTでは、学生の自己学習を援助するため、常に疑問を持つ姿勢を促し、自発的学習の成果を教えあう習慣を身につけさせる。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名 職名		職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間			
	古公			16	1/5	n 1 40 163	21世紀教育	最新医学の 現状	ヒトゲノム解析と遺 伝子治療、再生医療	脳死肝臓移植の現況	1回
	高谷	俊一	助教授		消化器疾患と	外科学	消毒法,外科手技	2 回			
02年度					放射線医学	腫瘍	外科治療				
02平皮	福井	康三	講師	21世紀教育		健康	健康と運動の科学	3 回			
				共通教育	自然科学	健康	文明の発展と現代医学	1回			
	對馬	敬夫	講師	21世紀教育	自然科学	健康	最新医学の現状	2 回			
				21世紀教育	自然科学	健康	生活習慣と健康	2 回			
	福田	幾夫	教授	21世紀教育	自然科学	健康	最新医学の現状	2 回			
	鈴木	保之	講師	21世紀教育	自然科学	健康	最新医学の現状	1回			
03年度	福井	康三	講師	21世紀教育	自然科学	健康	健康と運動の科学	4 回			
	對馬	敬夫	講師	21世紀教育	自然科学	健康	最新医学の現状	2 回			
	判局	蚁犬	神训	∠1 匹邢□教 目	日 公 付 子		生活習慣と健康	2 回			

2) 実習

	担当者名	職名	区分	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	福井 康三	講師		臨床実地見学実習	3 回
03年度	福田 幾夫	教授		臨床実習	1回

【学部教育】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	福田	幾夫	教授	系統別講義•循環器系	5年	3 回
	竹田田	茂大	4人人	医学英語	4年	6 回
	高谷	俊一	助教授	系統別(消化器系)	4年	1 回
	向台	夜一	助教技	系統別(循環器系)	5年	3 回
02年度	福井	康三	講師	系統講義循環器系	5年	5 回
02平皮	對馬	敬夫	講師	系統別講義呼吸器系	4 • 5 年	9 回
	鈴木	保之	講師	先天性心疾患の外科治療	4年	2 回
	平尾	良範	助手	系統別講義(乳腺の外科)	4年	1 回
	千毛	尺軋	助于	外科特論	2年	1 回
	山田	芳嗣	助手	外科特論	4年	2 回

				医学英語	4年	7 回
			外科学総論	3年	1 回	
	福田	幾夫	教授	系統講義(心臓の手術)	4年	1 回
	ТШШ	及人	3人1人	系統講義(虚血性心疾患の外科)	5年	1 回
				系統講義(静脈疾患)	5年	1 回
				系統講義(胸部大動脈瘤)	5年	2 回
				系統別講義(動脈閉塞疾患)	5年	3 回
				系統別講義(消化器系)	3年	1 回
	高谷 俊一	俊一	助教授	外科学特論	3年	1 回
03年度				系統別講義(代謝内分泌系)	4年	1 回
				系統別講義(消化器系)	4年	1回
	福井	康三	講師	系統講義循環器系	5年	3 回
	對馬	敬夫	講師	系統別講義(呼吸器系)	4 • 5 年	9 回
				外科総論;術前の評価と管理,集中治療,周術期管理	3年	1回
	鈴木	保之	講師	外科特論;術後管理	4年	1 回
	▼11/1<	休之	마무미니	外科特論;胸部手術の基本主義	4年	1 回
				系統別講義;先天性心疾患	4年	2 回
	山田	芳嗣	助手	外科特論	4年	2 回
	平尾	良範	助手	内分泌の外科	4年	2 回

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当	者名	職名	対象学年	回数又は期間
	福田	幾夫	教授	5 • 6 年	通年
	高谷	俊一	助教授	6年	通年
	福井	康三	講師	5 • 6 年	通年
02年度	對馬	敬夫	講師	5 • 6 年	通年
02千度	鈴木	保之	講師	5 • 6 年	通年
	平尾	良範	助手	5 • 6 年	通年
	山田	芳嗣	助手	5 • 6年	通年
	畑中	亮	助手	5 • 6年	通年
	福田	幾夫	教授	5 • 6年	通年
	鈴木	但一	講師	1年	通年
	をはいて		中計印印	5 • 6年	通年
	一関	一⁄元	助手	1年	通年
	因	1 J	助于	5 • 6年	通年
	山田	芳嗣	助手	1年	通年
	ЩЩ	刀刪	助于	5 • 6年	通年
03年度	福井	再二	講師	1年	通年
	1田7下	聚	中計印印	5 • 6年	通年
	對馬	敬夫	講師	1年	通年
	到杨	収入	中計印印	5 • 6年	通年
	平尾	良範	助手	1年	通年
	一一		助士	5 • 6 年	通年
	畑中	亮	助手	1年	通年
	畑廿	冗	助士	5 • 6 年	通年

4) OSCE

	担当	者名	職名
	鈴木	保之	講師
02年度	山田	芳嗣	助手
	畑中	亮	助手
	鈴木	保之	講師
03年度	山田	芳嗣	助手
	畑中	亮	助手

【研究室研修】

	受入人数					指	導	者	名		
02年度	1名	畠山	正治,	福田	幾夫						
03年度	2名	鈴木	保之								

【大学院】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	福田	幾夫	教授	外科学総論	1年	半期
	伸田	戏大	教授	外科診断学		通年
00年度	高谷	俊一	助教授	外科学特論		半期
02年度	向台	饭一	助教技	外科診断学		半期
	福井	康三	講師	外科学特論	2年	通年
	對馬	敬夫	講師	外科学総論		半期
00年度	福田	幾夫	教授	外科診断学	2年	15回
03年度	對馬	敬夫	講師	臨床外科系科目	1 • 2 年	15回

2) 実習

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間	
	福田	ķiķ →	%l& - 1-	教授	外科診断学実習	1年	通年
	佃田	幾夫	7人1又	外科診断学実習	2年		
02年度	鈴木	保之	講師	外科学総論実習			
	對馬	敬夫	講師	外科学総論実習			
	福井	康三	講師	外科学特論実習			
	福田	幾夫	教授	外科診断学	2年	30	
	福井	康三	講師	外科学特論	3年	30	
03年度	1田才	尿二	明明	外科診断学	3年	30	
	對馬	敬夫	講師	外科学総論	2年	30	
	鈴木	保之	講師	外科特論	2年	30	

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加	者名	職名	名 称 等
02年度	高谷	俊一	助教授	卒後臨床研修ワークショップ
02平及	鈴木	保之	講師	卒後臨床研修ワークショップ
00左座	福田	幾夫	教授	第3回弘前大学医学部附属病院卒後臨床研修教育ワークショップ
03年度	福井	康三	講師	クリニカル・クラークシップ FD 卒後臨床研修教育ワークショップ

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	2名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当	者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間	
	福田	幾夫	教授	保健学科2年	心血管疾患	1回	
02年度	高谷	俊一	助教授	保健学科1年	外科学(血管疾患)	1回	
02平及	平尾	良範	助手	保健学科2年	乳腺・甲状腺の外科	1回	
	畑中	亮	助手	作業療法科2年	呼吸器外科	1回	
	福田	幾夫	教授	保健学科2年	心臓の手術	1回	
	鈴木	保之	講師	保健学科3年	成人看護方法論II	1回	
03年度	平尾	良範	助手	保健学科2年	乳腺・甲状腺の外科	1回	
	.m.d-	畑中 亮	立 助式	保健学科3年	成人看護	1回	
	畑中		畑中 売	畑中 売	畑中 亮 助手	作業療法科2年	呼吸器外科

【他大学・他施設における講義】

	担当	当者名 職名 回数		回数	うちコ・メディカルの回数
00年度	福田	幾夫	教授	1 回	1 回
02年度	福井	康三	講師	3回(国立弘前病院附属看護学校)	
03年度	福井	康三	講師	3回(国立弘前病院附属看護学校)	

【学生授業出席率】

	担当者名	名 職名	科 目 名	出席率
	福田 幾	法 教授	系統別講義循環器系	80%
	伸出 茂	:大 教技	医学英語	70%
			共通教育(文明の発展と現代医学)	90%
	對馬 敬	+ 業価	21世紀教育(最新医学の現状)	90%
02年度	到	注 講師	21世紀教育(生活習慣と健康)	90%
			系統別講義(呼吸器)	70%
	平尾良	節 助手	系統別講義(乳腺の外科)	80%
	十	: 即 助于	外科特論	80%
	山田 芳	嗣助手	外科特論	70%
			外科学総論	90%
			系統講義(心臓の手術)	90%
	福田 幾	夫 教授	系統講義(虚血性心疾患の外科)	90%
			系統講義(静脈疾患)	90%
03年度			系統講義(胸部大動脈瘤)	90%
03千皮	山田 芳	嗣助手	外科特論	70%
			21世紀教育(最新医学の現状)	95%
	對馬 敬	夫 講師	21世紀教育(生活習慣と健康)	95%
			学部系統別講義(呼吸器系)	70%
	平尾 良	:範 助手	内分泌の外科	80—90%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	沿 職名	科 目 名	評	価
	福田幾夫	夫 教授	系統別講義循環器系	A4.2,	B4.1
	福田幾	大 教授	臨床実習	A3.9,	B4.0
02年度	福井 康	三講師	系統別講義(循環器系)	項目A:4.1	項目B:4.2
	對馬 敬	夫 講師	系統別講義(呼吸器)	前期4.4	後期3.9
	平尾 良	範 助手	系統別講義(乳腺の外科)	総合	4.3点

				系統別講義(循環器系)	A:4.0,	B:4.1
	福田	幾夫	教授	医学英語	A:4.5,	B:4.5
				系統別講義(循環器系)	A:3.8,	B:3.7
03年度	山田	芳嗣	助手	外科特論	A:3.3,	B:3.2
	福井	康三	講師	系統別講義(循環器系)	項目A:4.0	項目B:4.0
	對馬	敬夫	講師	学部系統別講義 (呼吸器系)	前期4.1	後期4.0
	平尾	良範	助手	内分泌の外科	4.4	点

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5 • 6年		36	結果は未着	結果は未着
クリニカルクラークシップ	6年		4		

22. 外科学第二講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

「グローバルスタンダードから見て、優れた医師・研究者の育成に結びつくような医学教育に努める」という目標に対して概ね、目標は達成できていると考えている。

これから2年間の目標:

前回の目標を更に継続する。すなわち、グローバルスタンダードから見て、優れた医師・研究者の育成に結びつくような医学教育に努める。また、近年求められている質の高い医師を養成するため、研修医も含めた卒後臨床教育の充実に力を注ぎたい。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
	吉原 秀一	≇姤	自然	病気の科学	癌・成人病とその予防(Ⅲ)		1回
	一百	講師	自然	病気の科学	消化器疾患と放射線医学		1回
	02年度 佐々木睦男	教授	自然	病気の科学	消化器疾患と放射線医学		3 回
02年度		教技	自然	人体の科学	動物及び構造的人体論(Ⅱ)		
			21世紀教育	障害者の健康	障害者の医療の世界	外科手術後の障害と対応	1回
	森田 隆幸	助教授	21世紀教育	障害者の健康	障害者の医療の世界	ストーマ患者の QOL	1回
			21世紀教育	最新医学の現状	消化器疾患の最前線と癌の科学	癌の手術療法	1回
	. 佐々木睦男	教授	テーマ科目	健康	最新医学の現状	外科治療の最前線	1回
03年度	佐々 小腔力	教 权	テーマ科目	健康	最新医学の現状	ヒトゲノム解析と遺伝子治療と再生治療	1回
	吉原 秀一	講師	テーマ科目	健康	最新医学の現状	消化器疾患の最前線と癌の科学	1回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			臨床医学入門	2年	3 回
			免疫学•遺伝学	4年	1 回
			系統別講義(上部消化管)	4年	5 回
	佐々木睦男	教授	系統別講義(下部消化管)	4年	7 回
			系統別講義(腹膜・腹壁)	4年	1 回
			系統別講義(肝・胆・膵臓)	5年	7 回
			外科特論	4年	6 回
			臨床医学入門	2年	3 回
02年度	森田 隆幸	幸助教授	系統別講義(下部消化管)	4年	7 回
02千反			外科特論	4年	6 回
		健一講師	医学概論	4年	1 回
	袴田 健一		臨床医学入門	2年	3 回
			系統別講義(肝・胆・膵臓)	5年	7 回
	吉原 秀一	講師	系統別講義(上部消化管)	4年	5 回
	D/N /3	DH3-FIII)	外科特論	4年	6 回
	小田桐弘毅	講師	系統別講義(腹膜・腹壁)	4年	1 回
	川崎 仁司	助手	系統別講義(上部消化管)	4年	5 回
	川岭 仁司	1_可 助手	外科特論	4年	6 回

			免疫学•遺伝子科学	3年	1 回
	佐々木睦男	教授	免疫学•遺伝子科学	4年	1 回
	佐々小睦为	7人1又	外科特論	4年	2 回
			系統別講義(消化器系)	5年	4 回
	森田 隆幸	助教授	外科特論	4年	2 回
	森田 隆幸	助教技	系統別講義(消化器系)	4年	7 回
		一 講師	外科特論	4年	1回
	士匠 禾		系統別講義(消化器系)	3年	1回
03年度	吉原 秀一		系統別講義(消化器系)	4年	3 回
			系統別講義(消化器系)	5年	3 回
		講師	外科特論	4年	1回
	小田桐弘毅		系統別講義(代謝内分泌系)	3年	1回
			系統別講義(消化器系)	4年	1回
	袴田 健一	講師	外科特論	4年	1回
	竹田 健一	神训	系統別講義(消化器系)	5年	
	川佐 石司	助手	系統別講義(消化器系)	3年	
	川崎仁司	仁司 助手	系統別講義(消化器系)	4年	

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対象学年	回数又は期間
	森田 隆幸	助教授	1年	各 2 回
	吉原 秀一	講師	1年	各 2 回
	小田桐弘毅	講師	1年	各 2 回
	袴田 健一	講師	1年	各 2 回
	鳴海 俊治	助手	1年	各 2 回
02年度	川崎 仁司	助手	1年	各 2 回
02千及	十東 英志	助手	1年	各 2 回
	豊木 嘉一	助手	1年	各 2 回
	村田 暁彦	助手	1年	各 2 回
	柴田 滋	助手	1年	各 2 回
	佐々木睦男, 他医局員一同		5 • 6年	1年間
	森田 隆幸	助教授	1年	各2回
	吉原 秀一	講師	1年	各 2 回
	小田桐弘毅	講師	1年	各 2 回
	袴田 健一	講師	1年	各 2 回
	鳴海 俊治	助手	1年	各 2 回
03年度	川崎 仁司	助手	1年	各 2 回
	十東 英志	助手	1年	各 2 回
	豊木 嘉一	助手	1年	各 2 回
	村田 暁彦	助手	1年	各 2 回
	佐々木睦男, 他教室員一同		5 • 6年	

4) OSCE

	担当者名	職名
	吉原 秀一	講師
	小田桐弘毅	講師
	袴田 健一	講師
02年度	鳴海 俊治	助手
02平度	川崎 仁司	助手
	十東 英志	助手
	豊木 嘉一	助手
	村田 暁彦	助手

	吉原 秀一	講師
	小田桐弘毅	講師
	袴田 健一	講師
03年度	鳴海 俊治	助手
03平皮	川崎 仁司	助手
	十東 英志	助手
	豊木 嘉一	助手
	村田 暁彦	助手

【研究室研修】

	受入人数		指	導	者	名	
02年度	3 名	十東 英志					
03年度	4名	十東 英志					

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			外科学総論	1年	1 回
	佐々木睦男	教授	外科学特論	1年	1 回
			外科学特論	3年	2 回
02年度	森田 隆幸	助教授	外科学総論	2年	1 回
	林田 隆辛	助叙权	外科学特論	2年	2 回
	吉原 秀一	講師	外科診断学	1年	2 回
	袴田 健一	講師	外科診断学	2年	1 回
	佐々木睦男	教授	外科診断学	1年	2 回
03年度	佐《 小胜男	秋	外科学特論	3年	2 回
	吉原 秀一	講師	栄養学	1年	1 回

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			外科学総論	1年	2 回
	佐々木睦男	教授	外科診断学	2年	2 回
			外科学特論	3年	2 回
02年度	森田 隆幸	助教授	外科学総論	2年	2 回
	袴田 健一	講師	外科診断学	1年	2 回
	小田桐弘毅	講師	外科学特論	2年	2 回
	吉原 秀一	講師	外科診断学	3年	2 回
	森田 隆幸	助教授	外科学総論	1年	2 回
03年度	吉原 秀一	講師	外科診断学	1年	2 回
03年度	小田桐弘毅	講師	外科学特論	3年	2 回
	袴田 健一	講師	外科診断学	3年	2 回

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名					
	佐々木睦男 小田桐弘毅	教授 講師	Chemosensitivity of human pancreatic carcinoma cells is enhanced by IkBa super-repressor.					
02年度	佐々木睦男 袴田 健一 十束 英志	教授 講師 助手	ブタ劇症肝不全モデルにおける摘出肝交叉灌流システムの応用					
	佐々木睦男 袴田 健一	教授講師	Expression of MRP2 and MRP3 during liver regeneration after 90% partial hepatectomy in rats (ラット90%肝切除後肝再生時のビリルビン排泄蛋白 MRP2・MRP3 の経時的発現に関する検討)					

02年度	佐々木睦男 十東 英志	教授 助手	Attenuation of canine hepatic warm ischemia-reperfusion injury by nitric oxide donor (FK409) (イヌ肝阻血再灌流における nitric oxide ドナー(FK409)の障害軽減効果)
	佐々木睦男 吉原 秀一	教授 講師	Effects of proteoglycan on dextran sodium sulfate induced experimental colitis in rats
03年度	小田桐弘毅	講師	The suicide gene introduction using two recombinant adenovirus vectors with her2/neu promoter and cre/loxp system.
	佐々木睦男 鳴海 俊治	教授 助手	Efficacy of T cell substs and NK cells of donoe splenocytes mixed with bone marrow cells for induction of donor specific tolerance in sublethally irradiated mice.

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加	者名	職名	名 称 等
	佐々オ	卜睦男	教授	卒後臨床研修ワークショップ
02年度	森田	隆幸	助教授	卒後臨床研修ワークショップ
	鳴海	俊治	助手	卒後臨床研修ワークショップ
00左庇	吉原	秀一	講師	卒後臨床研修ワークショップ
03年度	柴田	滋	助手	卒後臨床研修ワークショップ

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	3名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	9名
03年度	6名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
02年度	吉原 秀一	講師	教育学部2年	成人看護学Ⅱ	28時間
00年度	吉原 秀一	講師	3年	成人臨床看護	5 回
03年度	百原 芳一 	神師	3年	外科学	3 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数
03年度	佐々木睦男	教授	1 回	0 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
	<i>比</i> 2 + 味田	教授	免疫学•遺伝子学	90%
	佐々木睦男		系統別講義(消化器系)	80%
	吉原 秀一	講師	系統別講義(消化器系)	90%
03年度	百界 芳一		系統別講義(消化器系)	90%
	小田桐弘毅	講師	系統別講義	90%
	川崎 仁司	助手	系統別講義(消化器系)	90%
	川崎 1_月		系統別講義(消化器系)	90%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
	佐々木睦男	教授	臨床医学入門 外科特論 系統別講義(消化器系)	
02年度	森田隆幸	助教授	外科特論	項目A:4.0 項目B:4.1
	林山 陸十	功狄汉	系統別講義(消化器系)	項目A:4.5 項目B:4.4
			免疫学•遺伝子学	A:4.2 B:4.2
	 佐々木睦男	教授	外科学総論	A:3.8 B:3.8
	区、外庭为		外科特論	A:3.5 B:3.5
			系統別講義(消化器系)	A:3.9 B:3.9
		助教授	外科学総論	A:4.0 B:3.9
	森田 隆幸		外科特論	A:4.2 B:4.2
			系統別講義(消化器系)	A:4.4 B:4.5
03年度			外科学総論	A:3.8 B:3.8
	十百 禾	## 位本	外科特論	A:4.0 B:4.0
	吉原 秀一	講師	系統別講義(消化器系)	A:4.0 B:3.9
			系統別講義(消化器系)	A:4.2 B:4.3
		->#± 6±*	外科特論	A:3.1 B:3.0
	小田桐 弘毅	講師	系統別講義(代謝内分泌系)	A:3.2 B:3.0
	四体 万寸	114. 工	系統別講義(消化器系)	A:3.7 B:3.8
	川崎 仁司	二司 助手	系統別講義(消化器系)	A:3.4 B:3.3

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5 • 6年		18	3.7	3.6

23. 整形外科学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

- 1. 21世紀教育,専門教育,大学院教育において講義,実習を可能なかぎり担当する。 各教官が努力し,新たに,医学英語/医学概論を担当し,教育にかかる時間が増加し概ね目標を達成できたと 考える。
- 2. 講義内容の見直しを絶えず行ない、学生の学問的興味を維持させるよう努める。 できるだけ、新しい事を学生に紹介するように努めた。講義に PC、Video を取り入れるなどし、学生に理解しやすい講義実習を考慮した。最新のデータを能率良く理解しやすいように丁寧に工夫して行った。医学英語はほぼ 100 %の出席率、専門教育は 70 %程度であった。
- 3. Problem-oriented learning を取り入れ、学生が自ら考えられる様な指導を考慮する。地域への啓蒙をより進める。 SGT 教育では、できるだけ機能解剖学的観点から、整形外科疾患を考えられるよう指導した。 OSCE の指導・監督を行った。

地域への啓蒙は十分とは言えなかった。

これから2年間の目標:

- 1. 21世紀教育,専門教育,大学院教育において講義,実習を可能なかぎり担当する。
- 2. 講義内容の見直しを絶えず行ない、学生の学問的興味を維持させるよう努める。
- 3. 出席率の向上を計る。
- 4. Problem-oriented learning を継続し、学生が自ら考えられる様な指導を考慮する。
- 5. 地域への啓蒙をより進める。
- 6. 医員に対する手術指導・論文作成指導,大学院生の研究指導・協力を行う。
- 7. OSCE の指導・監督を行う。臨床実習前の医学生に対し、必要な診療基本手技を実地指導、評価する。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間			
	藤哲	折	泰 哲	折	折	教授	テーマ科目	健康	健康と運動の科学(A)	上肢の機能とスポーツ障害・外傷	4 回
02年度	1245		4717	テーマ科目	健康	最新医学の現状	四肢再建術	1 回			
	西川	真史	講師	共通教育	自然	発達と老化	小児の整形外科疾患	1回			
	藤	哲	教授	テーマ科目	健康	健康と運動の科学(A)	上肢の機能とスポーツ障害・外傷	4 回			
	豚	台	7人1又	テーマ科目	健康	最新医学の現状	四肢再建術	1回			
00左连	西川	真史	講師	テーマ科目	健康	発達と老化	子供の病気:整形外科疾患について	1回			
03年度	岡田	晶博	講師	テーマ科目	健康	最新医学の現状	脊椎・脊髄病学の最新医学の現状	1回			
	石橋	恭之	講師	テーマ科目	健康	健康と運動の科学 (A)	スポーツ外傷・傷害	1回			
	中村	吉秀	助手	テーマ科目	健康	最新医学の現状	生体材料の進歩とその現状	1回			

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名 職名		授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	藤	教授	系統別講義(運動器系)	5年	5 回
	西川 真5	: 講師	系統別講義(運動器系)	5年	1 回
	石橋 恭之	講師	系統別講義(運動器系)	5年	3 回
02年度	岡田 晶物	排 講師	系統別講義(運動器系)	5年	4 回
02平皮	中村 吉秀	動手 助手	系統別講義(運動器系)	5年	1回
	横山	助手	系統別講義(運動器系)	5年	1 回
	津田 英-	助手	系統別講義(運動器系)	5年	1 回
	三浦 一元	助手	系統別講義(運動器系)	5年	1回

				医学英語	1年	15回
	藤	哲	教授	医学概論	4年	1 回
				系統別講義(運動器系)	5年	5 回
	西川	真史	講師	系統別講義(運動器系)	5年	3 回
03年度	石橋	恭之	講師	系統別講義(運動器系)	5年	3 回
03平皮	岡田	晶博	講師	系統別講義(運動器系)	5年	3 回
	凹田	田日子	明明	系統別講義(脳・神経系)	5年	1 回
	中村	吉秀	助手	系統別講義(運動器系)	5年	3 回
	横山	徹	助手	系統別講義(運動器系)	5年	1 回
	津田	英一	助手	系統別講義(運動器系)	5年	1 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当	者名	職名	対象学年	回数又は期間
	藤	哲	教授	5・6年	16回(SGT実習)
	西川	真史	講師	5 • 6 年	14回(SGT実習)
	石橋	恭之	講師	5 • 6 年	18回(SGT実習)
00左庇	岡田	晶博	講師	5 • 6 年	18回(SGT実習)
02年度	中村	吉秀	助手	5 • 6 年	18回(SGT実習)
	横山	徹	助手	5 • 6 年	18回(SGT実習)
	津田	英一	助手	5 • 6 年	5回(SGT実習)
	三浦	一志	助手	5 • 6 年	18回(SGT実習)
	藤	哲	教授	5 • 6年	16回(SGT実習)
	西川	真史	講師	5 • 6 年	14回(SGT実習)
	石橋	恭之	講師	5 • 6 年	20回(SGT実習)
03年度	岡田	晶博	講師	5 • 6 年	18回(SGT実習)
	中村	吉秀	助手	5 • 6 年	18回(SGT実習)
	横山	徹	助手	5 • 6 年	18回(SGT実習)
	津田	英一	助手	5 • 6 年	5回(SGT実習)

4) OSCE

	担当	者名	職名
00左座	岡田	晶博	講師
02年度	横山	徹	助手
00左庇	岡田	晶博	講師
03年度	横山	徹	助手

【研究室研修】

	受 入 人 数		指	導	者	名	
02年度	2名	石橋 恭之					
03年度	3名	石橋 恭之					

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			外科系講義	1 • 2 年	1 回
	藤哲	教授	整形外科学総論	1年	30回
02年度	上	狄拉	整形外科学診断学	1 • 2 年	45回
02平皮			整形外科学治療学	3年	15回
	石橋 恭之	講師	整形外科学治療学	1年	15回
	石橋 恭之	神训	整形外科学特論	2年	15回

				外科系講義	1 • 2 年	15回
	藤	哲	教授	整形外科学総論	1年	30回
	豚	召	狄拉	整形外科学診断学	1 • 2 年	30回
03年度				整形外科学治療学	3年	15回
	石橋	恭之	講師	整形外科学治療学	1年	15回
	石間	派之	神训	整形外科学特論	2年	15回
	岡田	晶博	講師	糖鎖生物学(工学)		1回

2) 実習

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
				整形外科総論	1年	15回
	藤	哲	*** 100	整形外科診断学	2年	15回
	豚	H	教授	整形外科学治療学	2年	30回
				整形外科学治療学	3年	15回
02年度				整形外科総論	1年	15回
	西川	真史	講師	整形外科特論	2年	15回
	24711	共文	神神川	整形外科特論	3年	30回
				整形外科診断学	2年	30回
	石橋	恭之	講師	整形外科診断学	1年	30回
				整形外科総論	1年	15回
	藤	哲	哲教授	整形外科診断学	2年	15回
	豚	H	7人1又	整形外科学治療学	2年	30回
				整形外科学治療学	3年	15回
03年度				整形外科総論	1年	15回
	西川	古山	≇姤	整形外科特論	2年	15回
	[발기]	真史	史 講師	整形外科特論	3年	30回
				整形外科診断学	2年	30回
	石橋	恭之	講師	整形外科診断学	1年	30回

3) 学位論文

	作成指導者名		職名	指 導 論 文 名				
	藤 西川	哲 真史	教授 講師	1. 仮骨延長法における延長仮骨の数理形態学を用いた評価				
	藤 石橋	哲 恭之	教授 講師	. 移植腱・骨孔間の早期癒合過程における増殖因子に関する免疫組織科学的検討				
02年度	藤 西川	哲 真史	教授 講師	3. 家兎脛骨仮骨延長における関節固定が関節軟骨に及ぼす影響				
	藤	哲	教授	4. 日本白色家兎脛骨のか骨延長におけるリン酸カルシュウム骨セメントの効果				
	藤 石橋	哲 恭之	教授 講師	5. 膝後十字靭帯再建術の比較				
	藤岡田	哲 晶博	教授 講師	6. tiptoe walking マウスの脊柱後縦靭帯および椎間板における細胞外マトリックス成分の免疫組織化学的検討				
03年度	藤岡田	哲晶博	教授講師	1. 脊柱靭帯細胞に対するメカニカルストレスの影響のトランスクリプトーム解析 2. ゲノム全領域連鎖解析及び連鎖不平衡解析による21番染色体 COL6A1 遺伝子の脊柱後縦靭帯骨化症への関与				

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名 職名		職名	名 称 等
00年度	西川	真史	講師	第1回弘前大学付属病院臨床教育ワークショップ
02年度	中村	吉秀	助手	卒後臨床教育研修ワークショップ
03年度	藤	哲	教授	弘前大学知的財産管理セミナー

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	1名
03年度	0 名

	研究生の人数
02年度	23名
03年度	19名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名		職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
	藤	哲	教授	0.47	成人看護学Ⅱ各論演習(2)	8 回
02年度	豚	召	7人1又	3 年	臨床医科学Ⅲ-1	8 回
02平皮	石橋	恭之	講師	1 • 2 年	スポーツ障害と救急処置	10回
	横山	徹	助手	保健学2年	臨床検査・電気生理検査	2 回
	西川	真史	講師 教育3年		養護教諭に必要な整形外科の実際	8 回
03年度	石橋	橋 恭之 講師 教育1·2年		教育1 • 2年	スポーツ障害と救急処置	12回
	横山	徹	助手	保健学2年	臨床検査・電気生理検査	2 回

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名 職名 科 目 名				出席率
				大学院外科系講義	80%
02年度	藤	哲	教授	大学院整形外科	95%
				5年系統別講義(運動器系)	70%
	祓	拆	料 極	大学院整形外科	95%
00左座	藤	習	哲教授	5年系統別講義(運動器系)	75%
03年度	西川	古山	真史 講師	5年系統別講義(運動器系)	60%
		具史		整形外科(教育学部3年)	90%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名	科 目 名	評 価
	藤	哲	教授	系統別講義(運動器系)	平均4.0
	胨	台	教授	SGT 実習	平均3.8
	西川	真史	講師	系統別講義(運動器系)	平均3.4
02年度	岡田	晶博	講師	系統別講義(運動器系)	平均4.0
	石橋	恭之	講師	系統別講義(運動器系)	平均4.0
	中村	吉秀	助手	系統別講義(運動器系)	平均3.8
	三浦	一志	助手	系統別講義(運動器系)	平均3.4
				医学概論	平均4.6
	藤	哲	教授	医学英語	平均4.4
				系統別講義	平均4.3
03年度	西川	真史	講師	系統別講義(運動器系)	平均3.1
03平及	岡田	晶博	講師	系統別講義(運動器系)	平均3.8
	石橋	恭之	講師	系統別講義(運動器系)	平均3.8
	中村	吉秀	助手	系統別講義(運動器系)	平均3.3
	横山	徹	助手	系統別講義(運動器系)	平均4.1

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習整形外科	5 • 6年	162	648	4.0	4.3

24. 皮膚科学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

- 1) 学部学生に対しては前回同様魅力ある弘前大学を印象づける教育に努めたい。 【到達度】70%
- 2) 大学院生に対しては世界レベルの研究テーマを求めるべく、国内・外の研究者との接触を計りたい。 【到達度】60%

これから2年間の目標:

太陽紫外線の功罪の分子生物学的機構の理解と研究に努める。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名		職名	区 分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間			
	中野	創	講師		文化	くらし・歴史・文化	文身と身体変工	3 回			
02年度	_	泸	, 清	淳 淳	淳 講師	继대				最新医学の現状	1回
	今		子 神训				生物学の基礎	3 回			
00年度	花田	勝美	教授			環境と生活(D)	環境と健康生活Ⅱ	5 回			
03年度	中野	創	助教授				生物学の基礎Ⅱ	5 回			

2)実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	花田	勝美	教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	5年	3 回
	16四	勝天	7人1又	医学概論	3年	2 回
	玉井	克人	助教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	5年	2 回
02年度	中野	創	講師	系統別講義(皮膚·結合織系)	5年	3 回
02平皮	中到	启J	神印	免疫学•遺伝子科学	4年	1 回
	今	淳	講師	系統別講義(皮膚・結合織系)	5年	3 回
	7	子	神印	免疫学•遺伝子科学	4年	2 回
	原田	研	助手	系統別講義(皮膚·結合織系)	5年	3 回
	花田	勝美	教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	5年	3 回
				遺伝子治療学	4年	1 回
	中野	創	助教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	5年	3 回
				チュートリアル講義	3年	4 回
03年度	原田	研	講師	系統別講義(皮膚・結合織系)	5年	2 回
	原田	147	神川	チュートリアル講義	3年	3 回
	→k→ k	大介	講師	系統別講義(皮膚・結合織系)	5年	2 回
	八八八	人开	마무네니	チュートリアル講義	3年	2 回
	金子	高英	助手	チュートリアル講義	3年	2 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名 職		対象学年	回数又は期間
	花田 勝美	教授	5年	36回
02年度	原田 研	助手	5 • 6 年	20回
	水木 大介	助手	5 • 6 年	18回

	中野	創	助教授	5 • 6 年	20回
03年度	原田	研	講師	5 • 6年	20回
	松﨑	康司	助手	5 • 6年	20回
	金子	高英	助手	5 • 6年	12回

4) OSCE

	担当者名	職名
02年度	水木 大介	助手
03年度	金子 高英	助手

【研究室研修】

	受 入 人 数			指	導	者	名	
02年度	4名	花田 勝美,	克人,	今	淳			
03年度	2名	松﨑 康司						

【大学院】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	花田	勝美	教授	皮膚科学特論	2年	前期
	玉井	克人	助教授	皮膚科学特論	1年	前期
	玉开	兄八	助狄仅	皮膚科治療学	1年	前期
02年度	中野	創	講師	皮膚科診断学	1年	前期
	十到	启J	神训	皮膚科治療学	3年	前期
	今	淳	講師	皮膚科学特論	1年	後期
			神神川	皮膚科学特論	2年	後期
		勝美		皮膚科学特論	1年	30回
	花田		教授	皮膚科学特論	2年	30回
03年度	16四		7人1又	皮膚科治療学	2年	15回
03平及				皮膚科治療学	3年	15回
	中野	合口	助教授	皮膚科学特論	2年	30回
	十'到'	創		光老化の分子機構	大学院	1 回

2) 実習

	担当	者名	職名	授業科目	対象学年	回数又は期間
				皮膚科学特論	2年	前期
	花田	勝美	教授	皮膚科診断学	2年	前期
				皮膚科診断学	3年	前期
				皮膚科治療学	1年	後期
	中野	創	講師	皮膚科治療学	2年	後期
00年度				皮膚科診断学	2年	後期
02年度				皮膚科学特論	1年	後期
	今	淳	講師	皮膚科学特論	2年	後期
				皮膚科診断学	1年	後期
	原田	研	助手 (大学院指導助手)	皮膚科学特論	2年	前期
	水木	大介	助手 (大学院指導助手)	皮膚科学特論	2年	後期
	金子	高英	助手 (大学院指導助手)	皮膚科学特論	1年	後期
				皮膚科学特論	1年	60回
	中野	創	助教授	皮膚科学特論	2年	60回
				皮膚科治療学	3年	30回
03年度	原田	研	講師	皮膚科診断学	2年	60回
03千及		11/1	神山	皮膚科診断学	3年	30回
				皮膚科学特論	2年	60回
	水木	大介	講師	皮膚科診断学	2年	30回
				皮膚科治療学	2年	30回

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
			・Differential regulation of karyopherin alpha 2 expression by TGF- β and IFN- γ in normal human epidermal keratinocytes. (ヒト表皮ケラチノサイトにおける TGF- β および IFN- γ による karyopherin alpha2 の発現調節機構の解析)
			• Inhibition of dermal fibroblast proliferation by phosphatidylethanolamine-binding protein (PEBP): Repression of PEBP correlates with TGF- β -induced fibroblast ptoliferation.
03年度	花田 勝美	教授	 A method for rapid evalution photoprotective sunscreens against ultraviolet induced wrinkle formation. (紫外線誘導しわ形成に対するサンスクリーン効果の迅速評価法について)
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		• Transcriptional regulation of the 230 kD bullous pemphigoid antigen (BPAG1) gene expression by interferon reguratory factor 1 (IRF1) and interferon reguratory factor 2 (IRF2) in normal human epidaermal keratinocyte. (表皮角化細胞における IRF1 および IRF2 による 230kD 類天疱瘡抗原 (BPAG1) 遺伝子発現の調節機構について)
			・Enhancement of ultraviolet-induced apoptosis by oligodeoxynucleotides containing the NF-kB cis element. (NF-κB 結合配列オリゴ DNA による紫外線誘導アポトーシスの増強)

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名 職名			名 称 等				
	花田	勝美	美教授	第9回医学教育セミナーとワークショップ				
	16Ш			第4回弘前大学医学部附属病院卒後臨床教育ワークショップ				
	中野	創	助教授	FD 講習会				
03年度	原田	7'11"	研 講師	第3回弘前大学医学部附属病院卒後臨床教育ワークショップ				
		1Л.		FD 講習会				
	水木	大介	講師	FD 講習会				
	武田	仁志	助手	FD講習会				

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0 名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当	者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
	花田	勝美	教授	1年	助産診断学Ⅳ(皮膚科学)	2 回
02年度	今	淳	講師	養教2年•看護学3年	成人看護学	7 回
02平及	7	子	神训		臨床医科学Ⅲ-1	15回
	原田	研	助手		成人臨床看護学Ⅲ	6 回
	中野	創	H-144-142		助産診断学Ⅳ	2 回
03年度	中野	启J	助教授	3年	成人看護学演習(湿疹・皮膚炎,皮膚感染症)	1回
	松﨑	康司	助手	2年	臨床医科学Ⅲ-1 (皮膚科学)	7 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名 職名		回数	うちコ・メディカルの回数	
	原田 研 助手		1 回	1 回	
02年度	水木 大介	助手	1回		
	金子 高英	助手	1 回		
00年度	松﨑 康司	助手	6回(厚生病院附属看護学校)	6 回	
03年度	武田 仁志	助手	4回(厚生病院附属看護学校)	4 回	

【学生授業出席率】

	担当	者名	職名	科 目 名	出席率
	花田	勝美	教授	皮膚科学特論•診断学	70%~80%
02年度				文身と身体変工	80%
	中野	創	講師	系統別講義(皮膚・結合織系)	75%
				免疫学•遺伝子科学	75%
				環境と健康生活Ⅱ	90%
				系統別講義(皮膚・結合織系)	90%
	花田	胀关	教授	皮膚科学特論(大学院1年)	100%
	16田	膀芙	教授	皮膚科学特論(大学院2年)	100%
				皮膚科治療学(大学院2年)	100%
				皮膚科治療学(大学院3年)	100%
				分子から見た生命	90%
				遺伝子治療学	90%
		創	削 助教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	90%
	中野			チュートリアル講義	100%
				光老化の分子機構	90%
				皮膚科学特論(大学院1年)	100%
				皮膚科学特論 講義(大学院2年)	100%
				皮膚科学特論 実験実習(大学院2年)	100%
03年度				皮膚科治療学(大学院3年)	100%
03年度				助産診断学Ⅳ	90%
				成人看護学演習(湿疹・皮膚炎,皮膚感染症)	90%
		研		系統別講義(皮膚・結合織系)	90%
	原田		講師	チュートリアル講義	95%
		177	神印	皮膚科診断学(大学院2年)	100%
				皮膚科診断学(大学院3年)	100%
				系統別講義(皮膚・結合織系)	90%
				チュートリアル講義	95%
	水木	大介	講師	皮膚科学特論(大学院2年)	100%
				皮膚科診断学(大学院2年)	100%
				皮膚科治療学(大学院2年)	100%
	ماداد \الما	#	114.7	臨床医科学Ⅲ-1(皮膚科学)	90%
	松﨑	康司	助手	厚生病院附属看護学校	100%
	金子	高英	助手	チュートリアル講義	95%
	武田	仁志	助手	厚生病院附属看護学校	100%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名		職名	科 目 名	評 価
	花田	勝美	教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	平均4.2点
	16Ш	勝芙	3人1又	医学概論	平均4.4点
	玉井	克人	助教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	平均4.3点
02年度	中野	創	講師	系統別講義(皮膚・結合織系)	平均4.1点
02平皮			中中山川	免疫学•遺伝子科学	平均4.3点
	今	淳	講師	系統別講義(皮膚・結合織系)	平均4.4点
			子 神训	免疫学•遺伝子科学	平均4.0点
	原田	研	助手	系統別講義(皮膚・結合織系)	平均3.7点
	花田	勝美	教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	3.8(A), 3.7(B)
03年度	原田	研	講師	系統別講義(皮膚・結合織系)	3.7(A), 3.7(B)
	水木	大介	講師	系統別講義(皮膚・結合織系)	3.9 (A), 4.0 (B)

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5 • 6年	140日		平均4.3	平均4.3

25. 泌尿器科学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

臨床実習での学生の診療参加は充分でなかった。

これから2年間の目標:

臨床実習では学生を診療に参加させてゆく。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区 分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
00左岸	鈴木	唯司	教授	教養	自然	病気の科学	癌・成人病とその予防	1回
02年度	高橋	信好	助教授			最新医学の現状		1回
00左床	宁 接	与わ て	11-14-14Z			21世紀教育	発達と老年	3 回
03年度	高橋	信好	助教授			21世紀教育	最新医学の現状	1回

2) 実習

	担当	省名	職名	区 分	授業科目名	回 数 又は期間
03年度	盛	和行	助手		基礎科学実験(化学)	3 回

【学部教育】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	鈴木	唯司	教授	代謝•内分泌系	5年	2 回
	如小	"臣미	教授	腎•泌尿器系	5年	6 回
02年度	高橋	信好	助教授	腎•泌尿器系	5年	3 回
	川口	俊明	講師	腎•泌尿器系	5年	3 回
	古家	琢也	講師	腎•泌尿器系	5年	2 回
				系統別講義「腎・泌尿器系」	5年	5 回
	鈴木	唯司	教授	系統別講義「代謝内分泌系」	5年	2 回
				系統別講義「生殖系」	3年	2 回
03年度	高橋	信好	助教授	系統別講義「腎・泌尿器系」	5年	3 回
	ШП	俊明	講師	系統別講義「腎・泌尿器系」	5年	2 回
		夜明	神山川	系統別講義「生殖系」	3年	1回
	古家	琢也	講師	系統別講義「腎・泌尿器系」	5年	2 回

2)基礎実習

		当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年月	盛	和行	助手	基礎科学実験(化学)	2年	

3) 臨床実習

	担当者名 職名		職名	対象学年	回数又は期間
	鈴木	唯司	教授	5 • 6 年	40回
02年度	高橋	信好	助教授	5 • 6 年	9月—7月
02平及	ШП	俊明	講師	5 • 6 年	9月—7月
	古家	琢也	講師	5 • 6 年	9月—7月
	鈴木	唯司	教授	5 • 6 年	1 年間
03年度	高橋	信好	助教授	5 • 6 年	1 年間
03平及	ШП	俊明	講師	5 • 6 年	1 年間
	古家	琢也	講師	5 • 6 年	1年間

	神村	典孝	助手	5 • 6年	1年間
03年度	吉川	和暁	助手	5 • 6年	1年間
	工藤	大輔	助手	5 • 6年	1 年間

4) OSCE

	担当者名	職名
00左庇	川口 俊明	講師
02年度	神村 典孝	助手
03年度	川口 俊明	講師

【研究室研修】

	受 入 人 数			指	導	者	名	
02年度	2名	盛	和行					
03年度	2名	盛	和行					

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			泌尿器科学 特論	1 • 2 年	
02年度	鈴木 唯司	教授	泌尿器科学 診断学	1 • 2 年	
			泌尿器科学 治療学	3 • 4 年	

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			泌尿器科学 特論	1-4年	
02年度	鈴木 唯司	教授	泌尿器科学 診断学	1-3年	
			泌尿器科学 治療学	3 • 4年	

3) 学位論文

	作成指導	者名 職名	指 導 論 文 名
02年度	高橋 信	好 助教授	ラット同種腎移植拒絶反応時における manganese superoxide dismutase の動態
03年度	高橋 信	好 助教授	ラット同種腎移植急性拒絶反応時における manganese superoxide dismutase の動態

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
02年度	鈴木 唯司	教授	卒後臨床研修ワークショップ (8月17~18日) 卒後臨床研修ワークショップ (2月8~9日)
	古家 琢也	講師	卒後臨床研修ワークショップ

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数 2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	3名
03年度	2名

	研究生の人数
02年度	2名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数
02年度	鈴木 唯司	教授	1 回	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科目名	出席率
	鈴木 唯司	*44-452	系統別講義 代謝・内分泌系	60%
	ず小 "臣可	教授	系統別講義 腎•泌尿器系	90%
02年度	高橋 信好	助教授	系統別講義 腎・泌尿器系	90%
	川口 俊明	講師	系統別講義 腎・泌尿器系	80%
	古家 琢也	講師	系統別講義 腎・泌尿器系	80%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
	鈴木 唯司	教授	腎•泌尿器系	3.5
02年度	高橋 信好	助教授	腎•泌尿器系	4
	古家 琢也	講師	腎•泌尿器系	4.2

2) 専門教育の評価 2003年度 該当なし。

26. 眼科学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

60 %

これから2年間の目標:

教育活動を通じて自己の研鑽に励むほか、最大限の教育効果が得られるよう努力する。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名 職=		担当者名		職名	区 分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	中澤	満	教授	テーマ	健康	発達と老化	内分泌	1回		
02千反	十年	राष्पा	4人1人	<i>)</i>	() () ()	最新医学	遺伝子	2 回		
09年前	中澤	洪	教授	テーマ	健康	発達と老化	内分泌	1回		
03年度	十年	満	<i>Ŧ</i> X Í Z) — ٧	() () () ()	最新医学	遺伝子	2 回		

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名 職名		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	中澤満		満教授	医学英語	3年	15回
	中俸	和	7人1又	眼科学	5年	14回
02年度	大黒	浩	助教授	眼科学	5年	3 回
	大黒	幾代	講師	眼科学	5年	2 回
	鈴木	幸彦	講師	眼科学	5年	1 回
	出 選 洪	上海 进	澤満教授	医学英語	4年	8 回
	中澤満		7人1又	感覚器系(眼科学)	5年	14回
03年度	大黒	浩	助教授	感覚器系(眼科学)	5年	3 回
	鈴木	幸彦	講師	感覚器系(眼科学)	5年	2 回
	大黒	幾代	講師	感覚器系 (眼科学)	5年	2 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対象学年	回数又は期間
	中澤 満	教授	5 • 6年	54回
	大黒 浩	助教授	5 • 6年	90回
	大黒 幾代	講師	5 • 6年	54回
	鈴木 幸彦	講師	5 • 6年	54回
02年度	水谷 英之	助手	5 • 6年	54回
02平及	斉藤 桂子	助手	5 • 6年	18回
	三好永利子	助手	5 • 6年	54回
	加藤 智博	助手	5 • 6年	27回
	間宮 和久	助手	5 • 6年	36回
	柳橋さつき	助手	5 • 6年	27回
	中澤 満	教授	5 • 6年	54回
	大黒 浩	助教授	医学部6年	150回
	大黒 幾代	講師	5 • 6年	18回
03年度	鈴木 幸彦	講師	5 • 6年	36回
	水谷 英之	助手	5 • 6年	36回
	間宮 和久	助手	5 • 6年	36回
	山崎 仁志	助手	5 • 6年	36回

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数			指	導	者	名		
02年度	2名	中澤	満						

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
03年度	鈴木 幸彦	講師	網膜血管外科	1年	1回

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
	中澤 満	教授	Rdマウス網膜変性に対するニルバジピンの効果
03年度	大黒 浩	助教授	Miyagawa Y, Ohguro H, Odagiri H, Maruyama I, Maeda T, Maeda A, Sasaki M, Nakazawa M: Aberrantly expressed recoverin is functionally associated with G-protein-coupled receptor kinases in cancer cel lines. Biochemical and Biophysical Communications 2003; 300: 669-673 Sato M, Ohguro H, Ohguro I, Mamiya K, Takano Y, Yamazaki H, Metoki T, Miyagawa Y, Ishikawa F, Nakazawa M: Study of pharmacological effects of nilvadipine on RCS rat retinal degeneration by microarray analysis. Biochemical and Biophysical Research Communications. 2003;306:826-831. Takano Y, Ohguro H, Ohguro I, Yamazaki H, Mamiya K, Ishikawa F, Nakazawa M: Low expression of rhodopsin kinase in pineal gland in Royal College Surgeons rat. Curr Eye Res 2003;27:95-102.

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2)	研究生の人数	
-		

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
00年度	中澤	黄 教授	医学英語	不明(出席は取っていない)
03年度	中庠 #	両	感覚器系(眼科学)	不明(出席は取っていない)

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名	科 目 名	評 価	
	中澤	- JPE . JH:	进	教授	医学英語	4.2
	中庠	満	教授	感覚器系(眼科学)	4.0	
03年度	大黒	浩	助教授	感覚器系(眼科学)	3.6	
	大黒	幾代	講師	感覚器系(眼科学)	2.8	
	鈴木	幸彦	講師	感覚器系(眼科学)	3.6	

2) 専門教育の評価 2003年度 該当なし。

27. 耳鼻咽喉科学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

- 講義1. できるだけポイントを絞って、理解しやすいように行う。80%程度
 - 2. 理解度の確認のため小テストを講義中に行う。0%
- 実習1. 見学のみの実習を可能な限り廃し、診療に参加できる体制を整える。60%程度
 - 2. 診療を通じて、病歴、検査、診断、治療に至る思考過程を養う。60%程度
 - 3. 可能な限り、救急疾患への対応を学ばせる。80 %程度

これから2年間の目標:

- 講義1. できるだけポイントを絞って、理解しやすいように行う。
 - 2. 理解度の確認のため小テストを講義中に行う。
- 実習1. 見学のみの実習を可能な限り廃し、診療に参加できる体制を整える。
 - 2. 診療を通じて,病歴,検査,診断,治療に至る思考過程を養う。
 - 3. 可能な限り、救急疾患への対応を学ばせる。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名 職		職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間	
	新川	秀一	教授	21世紀教育	テーマ科目	障害者の健康(C)	障害者の医療の世界	2 回	
02年度		助教授	テーマ	科学	科学と技術の発達	いのちの科学・その発達と倫理	5 回		
02平皮	化尔	松原 篤	馬	助教授		健康	発達と老化	発達と老化	1回
	欠畑	誠治	講師	テーマ	科学	病気の科学	運動感覚系とその疾患	3 回	
00左座	新川	秀一	教授	教養	自然	障害者の健康	障害者の医療の世界	2 回	
03年度	松原	篤	助教授	テーマ	健康	発達と老化	老化と病気	1回	

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1) 講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年 回数又は期間			
	新川	秀一	教授	感覚器系(耳鼻咽喉科学)	5年	12回		
02年度	松原	篤	助教授	感覚器系(耳鼻咽喉科学)	5年	5 回		
	欠畑	誠治	講師	感覚器系(耳鼻咽喉科学)	5年	3 回		
	zkc 111	秀一	教授	医学英語	4年	6 回		
	新川	75	教 技	感覚器系•歯口腔系	5年	6 回		
03年度	松原	篤	助教授	感覚器系•歯口腔系	5年	5 回		
	Fr Jui	≑c1: \/_\	講師	感覚器系	5年	2 回		
	欠畑	1	誠治	談行	神印	チュートリアル	3年	2 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当	者名	職名	対象学年	回数又は期間
	新川	秀一	教授	5 • 6 年	36週
02年度	黒田	令子	助手	5 • 6 年	36週
	一戸	学	助手	5 • 6 年	20回
	新川	秀一	教授	5 • 6 年	40週
03年度	松原	篤	助教授	5 • 6 年	40週
03平皮	欠畑	誠治	講師	5 • 6 年	40週
	黒田	令子	助手	5 • 6年	40週

	一戸	学	助手	5 • 6 年	40週
03年度	石井	賢治	助手	5 • 6 年	40週
	南場	淳司	助手	5 • 6年	40週

4) OSCE

	担当	者名	職名
02年度	一戸	学	助手

【研究室研修】

	受 入 人 数					指	導	者	名		
02年度	2名	松原	篤,	橋本	敏光						
03年度	2名	新川	秀一,	松原	篤						

【大学院】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
				耳鼻咽喉科診断学	1年	15回
	新川	秀一	教授	気管食道科学	1年	15回
02年度				頭頚部腫瘍学	1年	15回
	松原	篤	助教授	耳鼻咽喉科治療学	1年	15回
	欠畑	誠治	講師	神経耳科学	1年	15回
				耳鼻咽喉科診断学	1 • 2 年	2 回
				耳鼻咽喉科治療学	1 • 2 年	2 回
03年度	新川	秀一	教授	神経耳科学	1 • 2 年	2 回
				気管食道科学	1 • 2 年	2 回
				頭頸部腫瘍学	1 • 2 年	2 回

2) 実習

	担当	者名	職名	授業科目	対象学年	回数又は期間
	475 111	秀一	教授	耳鼻咽喉科診断学	1年	15回
00年度	新川	75	教授	頭頚部腫瘍学	1年	15回
02年度	松原	篤	助教授	耳鼻咽喉科治療学	1年	15回
	欠畑	誠治	講師	神経耳科学	1年	15回
				耳鼻咽喉科診断学	2年	1 回
		篤	助教授	耳鼻咽喉科治療学	2年	1 回
	松原			神経耳科学	2年	1 回
				気管食道科学	2年	1 回
03年度				頭頸部腫瘍学	2年	1回
				耳鼻咽喉科診断学	1年	1 回
	欠畑	誠治	講師	耳鼻咽喉科治療学	1年	1 回
		砂火石	바비비	神経耳科学	1年	1 回
				頭頸部腫瘍学	1年	1回

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
02年度	新川 秀一	教授	Effect of protease inhibitors in aminoglycoside induced hair cell death

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加	者名	職名	名 称 等
	新川	秀一	教授	第1・2回卒後臨床研修ワークショップ
02年度	松原	篤	助教授	卒後臨床研修ワークショップ
	欠畑	誠治	講師	卒後臨床研修ワークショップ

	新川	秀一	教授	第3・4回卒後臨床研修教育ワークショップ
03年度	欠畑	誠治	講師	クリニカルクラークシップ FD 講習会
03平皮	黒田	令子	助手	第3回卒後臨床研修教育ワークショップ クリニカルクラークシップ FD 講習会
	一戸	学	助手	第4回卒後臨床研修教育ワークショップ

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

_		研修登録医の人数
	02年度	0名
	03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当	者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
02年度	松原	篤	非常勤講師	2 • 3 年	臨床医科学Ⅲ•耳鼻咽喉科(教育学部)	8 回
	4//	焢	中水板	2 • 3 年	臨床医科学Ⅲ•耳鼻咽喉科(教育学部)	7 回
03年度 松原 篤		馬	助教授	2年	臨床生理学Ⅲ•平衡機能検査(保健学科)	2 回
	欠畑	誠治	講師	3年	成人看護学演習	2 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名 職名		職名	回数	うちコ・メディカルの回数
	新川	秀一	非常勤講師	3 回	0 回
02年度	松原	篤	非常勤講師	1回	0 回
	一戸	学	助手	5 回	5 回
00年時	新川	秀一	教授	3 回	0 回
03年度	松原	篤	助教授	1回	0 回

【学生授業出席率】

	担当	者名	職名	科 目 名	出席率
	新川	秀一	教授	感覚器系(耳鼻咽喉科学)	95%
02年度	松原	篤	助教授	感覚器系(耳鼻咽喉科学)	90%以上
	欠畑	誠治	講師	感覚器系(耳鼻咽喉科学)	90%以上
	新川	秀一	教授	感覚器系・歯口腔系	98%
03年度	松原	篤	助教授	感覚器系・歯口腔系	90%
03年度	欠畑	誠治	講師	感覚器系	100%
				チュートリアル	97%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	担当者名 職名		科 目 名	評 価
	新川	秀一	教授		A:4.0, B:3.9
02年度	松原	篤	助教授	感覚器系(耳鼻咽喉科学)	4.3
	欠畑	誠治	講師		3.5
	新川	秀一	教授	感覚器系・歯口腔系	A:3.5, B:3.1
00年度	松原	篤	助教授	感覚器系・歯口腔系	A:3.8, B:3.7
03年度 -	欠畑	誠治	講師	感覚器系	A:3.8, B:3.7
				チュートリアル	A:3.8, B:3.7

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5 • 6年	40週		A 4.4	B 4.4

28. 放射線医学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

- 1) コアカリキュラムへの対応の具体化
- 2) SGT の教育改善
- 3) 卒後臨床研修への対応の具体化
- 4) 大学院教育の充実への努力
- 5) 社会活動への参加
- $60 \sim 80 \%$

これから2年間の目標:

- 1) コアカリキュラムの実施
- 2) 学部教育の平常的見直しと改善
- 3) 卒後臨床研修に対する教育の充実
- 4) 大学院教育の充実
- 5) 社会活動への参加

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	阿部 由直	教授	共通 21世紀		病気の科学	消化器疾患と放射線医学 最新医学の現状	4 回 1 回
03年度	阿部 由直	教授	21世紀	健康 環境		最新医学の現状 環境と生活	1回4回

2) 実習

	担当者名	職名	区分	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	松谷 秀哉	助手	21世紀	基礎科学実験(物理)	通年

【学部教育】

1)講義

	担当者名 職名		授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	阿部 由區	1 教授	放射線医学	4年	8回
00年度	佐々木泰輔	助教授	放射線医学	4年	2 回
02年度	野田	助手	放射線医学診断 IVR		1回
	青木 昌彦	講師	放射線治療各論		1回
	阿部 由區	教授	放射線医学	4年	8回
03年度	小野 修-	助教授	放射線医学	4年	2 回
	青木 昌彦	講師 講師	放射線治療各論	4年	1回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対象学年	回数又は期間
	阿部 由直	教授	5 • 6 年	通年
	佐々木泰輔	助教授		通年
02年度	三浦 弘行	助手		通年
	青木 昌彦	講師		通年
	野田 浩	助手		通年

	板橋	陽子	助手	6年	通年
	似循	 一	助手	1年	前期
02年度	場崎	潔	助手	5 • 6 年	通年
02平及	近藤	英宏	助手		通年
	渋谷	剛一	助手		通年
	松谷	秀哉	助手		通年
	阿部	由直	教授	5 • 6 年	108回
03年度	小野	修一	助教授	5 • 6 年	36回
03平及	青木	昌彦	講師	5 • 6 年	36回
	三浦	弘行	助手	6年	36回

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

		受 入 人 数		指	導	者	名		
02	2年度	1名	松谷 秀哉						
03	3年度	1名	阿部 由直						

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
03年度	阿部 由直 教授		放射線医学と分子生物学	1年	1回

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
03年度	阿部 由直	教授	ラット実験腫瘍におけるインドシアニングリーンと近赤外光トポグラフィーを用いた 癌診断法の基礎的研究

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名 職名		職名	名 称 等				
	阿部	山古	由直 教授	チュートリアル教育				
	田。但阿	田坦		卒後臨床研修教育ワークショップ				
02年度	野田	浩	助手	卒後臨床研修教育ワークショップ				
	場崎	潔	助手					
	青木	昌彦	講師	卒後臨床研修教育ワークショップ				
00年度	小野	修一	助教授	弘前大学医学部附属病院卒後臨床研修教育ワークショップ				
03年度	三浦	弘行	助手	弘前大学医学部附属病院卒後臨床研修教育ワークショップ				

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	3名
03年度	5名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当	者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
00年度	阿部	由直	教授	2年(保健学科)	放射線生物学	15回
02年度	三浦	弘行	助手	3年(教育学部)	放射線医学	7 回
00年度	阿部	由直	教授	2年	放射線生物学	15回
03年度	三浦	弘行	助手	教育2年	放射線医学	6 回

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
	阿部 由直	教授	放射線医学	60—70%
		教授	放射線生物学	90—100%
02年度	青木 昌彦	講師	放射線治療各論	約90%
02平皮	佐々木泰輔 助教授		放射線科学	60%
	三浦 弘行	助手	放射線医学(教育学部)	90-100%
	野田 浩	助手	放射線医学	60—80%
	阿部 由直	教授	放射線医学	60-80%
03年度		旦 教授	放射線生物学	95—100%
	青木 昌彦	講師	放射線治療各論	約90%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
	阿部 由直	教授	放射線医学	3.2
	青木 昌彦	講師	放射線治療各論	3.7
02年度	佐々木泰輔	助教授	放射線科学	
	三浦 弘行	助手	放射線医学(教育学部)	
	野田 浩	助手	放射線医学	
	阿部 由直	教授	放射線医学	3.2
	佐々木泰輔	助教授	放射線医学	3.1
03年度	小野 修一	助教授	放射線医学	3.7
	青木 昌彦	講師	放射線治療各論	4.3
	野田 浩	助手	放射線医学	3.0

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
放射線医学	5・6年	252	117	3.9	3.8

29. 産科婦人科講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

分担分に関しては責任をもって講義、実習をおこなった。ただし、臨床実習の時間が 10 日間と少なく、今後の課題となった。

これから2年間の目標:

引き続き、産婦人科に興味を持ち理解を深めるように工夫する。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
00左座	水沼	英樹	教授					
02年度	藤井	俊策	講師					
	水沼	英樹	教授	テーマ科目		生活習慣と健康	最新医学の現状(D)	1回
03年度	藤井	俊策	講師			生活習慣と健康	最新医学の現状(D)	1回
	横山	良仁	講師			癌の科学	最新医学の現状(3)	1回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	水沼	英樹	教授		4年	4 回
	71411	大街			5年	5 回
02年度	佐藤	重美	助教授		4年	5 回
02平皮	藤井	俊策	講師		4年	2 回
	膝升	饭來	神山		5年	2 回
	丸山	英俊	講師			2 回
	-Je 377	英樹	英樹 教授	按授 生殖系	4年	5 回
	水沼				5年	5 回
	藤井	俊策	講師	生殖系	2年	3 回
03年度	膝升	饭水	神印	生 地 术	3年	4 回
				良性卵巣腫瘍	4年	1 回
	横山	良仁	講師	悪性卵巣腫瘍	4年	1 回
				婦人科手術学	5年	1 回

2)基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
00左座	丸山 英俊	講師			不明
02年度	藤井 俊策	講師			不明

3) 臨床実習

	担当者名		職名	対象学年	回数又は期間
	水沼	英樹	教授	いずれも5・6年	実習期間を通じて
	佐藤	重美	助教授	いずれも5・6年	実習期間を通じて
	佐藤	秀平	助教授	いずれも5・6年	実習期間を通じて
02年度	藤井	俊策	講師	いずれも5・6年	実習期間を通じて
02平及	樋口	毅	講師	いずれも5・6年	実習期間を通じて
	丸山	英俊	講師	いずれも5・6年	実習期間を通じて
	横山	良仁	助手	いずれも5・6年	実習期間を通じて
	坂本	知巳	助手	いずれも5・6年	実習期間を通じて

	田中	幹二	助手	いずれも5・6年	実習期間を通じて
02年度	福井	淳史	助手	いずれも5・6年	実習期間を通じて
	二神	真行	助手	いずれも5・6年	実習期間を通じて
	水沼	英樹	教授	5 • 6 年	通年
	藤井	俊策	講師	5 • 6 年	通年
03年度	横山	良仁	講師	5 • 6 年	通年
03年度	坂本	知巳	助手	5 • 6 年	通年
	福井	淳史	助手	5 • 6 年	通年
	二神	真行	助手	5・6年	通年

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数					指	導	者	名		
02年度	2名	丸山	英俊,	藤井	俊策						
03年度	1名	横山	良仁								

【大学院】

1)講義

		担当者名		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
024	年度	水沼	英樹	教授			1回
034	年度	水沼	英樹	教授	産婦人科	1 • 2 年	6 回

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	丸山 英俊	講師	産婦人科	1 • 2 年	1 回
03年度	藤井 俊策	講師	産婦人科	1 • 2 年	1回
	横山 良仁	講師	産婦人科	1 • 2 年	1回

3) 学位論文

	作成指導	者名	職名	指 導 論 文 名
02年度		英樹 良仁	教授 助手	上皮性卵巣癌におけるリンパ節転移と予後予測因子としての carbonyl reductase の有用性
	藤井(講師	着床に関わる子宮内膜 NK 細胞の分化とサイトカイン産生能に関する研究
03年度	横山	良仁	講師	卵巣腫瘍における cyclooxygenase-2 と peroxisome proliferators activated receptor- γ 発 現の意義

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	5名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
	水沼 英樹	教授	助産学専攻科	更年期障害	1回
00年度	藤井 俊策	講師	助産学専攻科	助産診断学	1回
03年度	横山 良仁	講師	助産学専攻科	婦人科手術,放射線治療	1回
	二神 真行	助手	助産学専攻科	助産学	1 回

【他大学・他施設における講義】

	担当	者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数		
00左座	横山	良仁	非常勤講師	1回	1回		
03年度	坂本	知巳	非常勤講師	1 回	1 回		

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
00左座	水沼 英樹	教授	産科婦人科学	60%
03年度	藤井 俊策	講師	産科婦人科学	40%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
00年度	水沼 英樹	教授	産科婦人科学	4.1
03年度	藤井 俊策	講師	産科婦人科学	3.9

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
産科婦人科学	5 • 6年	18回		3.9	3.8

30. 麻酔科学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

学生からの臨床自習の評判も引き続いてよく、この点ではほぼ 90 %の達成と思われる。しかし個々のスタッフの 講義に関してはスタッフ間の差が大きく今後改善の余地がある。

これから2年間の目標:

今後とも臨床実習に関しては、医学生、研修医に対してマンツーマンで教室員全員で積極的に教育に関与することを目標とする。医学生の麻酔科臨床実習数が大幅に削減されたが、教育効果が落ちないように務める。講義に関しては、コンピュータを利用した講義も積極的に取り入れ、より学生が麻酔科学の基本を理解できるように努める。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
	松木	明知	教授			病気の科学	運動・感覚系とその疾患	1回
02年度	石原	弘規	助教授			ストレスの身体へ及ぼす影響		1回
	口尔	分分兒	助教授			痛みの症状		1回
	石原	弘規	助教授			社会的人体論	ストレスの影響	1回
03年度	廣田	和美	講師	テーマ科目	健康	救急救命治療	最新医学の現状	
	佐藤	哲観	助手	テーマ科目	健康	終末医療と痛み	最新医学の現状(B)	

2) 実習

	担当	者名	職名	区分	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	:			SGT 実習	麻酔科の SGT 実習および SGT プレゼンテーション	30回
03年度	工藤	剛	助手	基礎教育	基礎科学実験(化学)	3 回

【学部教育】

1)講義

	担当者	5名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	松木	明知	教授	麻酔•蘇生系	5年	3 回
	12/1	明和	7人1又	医学概論	2年	2 回
	石原	弘規	助教授	麻酔•蘇生系	5年	4 回
02年度	小谷	直樹	講師	麻酔•蘇生系	5年	3 回
	廣田	和美	講師	麻酔•蘇生系	5年	3 回
	佐藤	哲観	助手	麻酔•蘇生系	5年	6 回
	大川	浩文	助手	麻酔•蘇生系	5年	1 回
	松木	明知	教授	麻酔•蘇生系	5年	4 回
	15/1	坍和	7人1又	医学概論	2年	2 回
	石原	弘規	助教授	麻酔•蘇生系	5年	3 回
03年度	小谷	直樹	講師	麻酔•蘇生系	5年	3 回
	廣田	和美	講師	麻酔•蘇生系	5年	3 回
	佐藤	哲観	助手	麻酔•蘇生系	5年	6 回
	櫛方	哲也	助手	麻酔•蘇生系	5年	1 回

2)基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	工藤 剛	助手	基礎科学実験(化学)	2年	3 回

3) 臨床実習

	担当	者名	職名	対象学年	回数又は期間
	松木	明知	教授	5 • 6 年	1 年間
	石原	弘規	助教授	5 • 6 年	1年間
	小谷	直樹	講師	5 • 6 年	1年間
02年度	廣田	和美	講師	5 • 6 年	1 年間
	村岡	正敏	助手	5 • 6 年	1 年間
	佐藤	哲観	助手	5 • 6年	1年間
	大川	浩文	助手	5 • 6年	1年間
	松木	明知	教授	5 • 6 年	1年間
	石原	弘規	助教授	5 • 6 年	1年間
	小谷	直樹	講師	5 • 6 年	4月—8月
03年度	廣田	和美	講師	5 • 6 年	1年間
	村岡	正敏	助手	5 • 6年	1年間
	佐藤	哲観	助手	5 • 6年	1 年間(20回)
	櫛方	哲也	助手	5 • 6年	1年間

4) OSCE

	担当	職名	
00年度	石原	弘規	心肺蘇生責任者
02年度	村岡	正敏	助手
03年度	石原	弘規	助教授

【研究室研修】

	受 入 人 数					指	導	者		名
02年度	5名	石原	弘規,	廣田	和美,	大川	浩文,	工藤	剛,	工藤美穂子
03年度	3名	石原	弘規,	廣田	和美					

【大学院】

1)講義

	担当者名 職名		授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	石原 弘規	助教授	研究としての体液量評価	外科系大学院	

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
02年度	廣田 和美	講師	 Kabara S, Hirota K, Hashimoto Y, Hashiba E, Yoshioka H, Kudo T, Sato T, Matsuki A. Comparison of relaxant effects of propofol on methacholine-induced bronchoconstriction in dogs with and without vagotomy. Br J Anaesth 2001;86:249-53. Kitayama M, Hirota K, Kudo M, Kudo T, Ishihara H, Matsuki A. Inhibitory efects of intravenous anesthetic agents on K⁺-evoked glutamate release fromrat cerebrcortical slices. Involvement of voltage sensitive Ca²⁺ channels and GABAA receptors. Naunyn Schmiedbergs Arch Pharmacol 2002;366:246-53. Kushikata T, Hirota K, Yoshida H, Kubota T, Ishihara H, Matsuki A. Alpha-2 adrenoceptor activity affects propofol-induced sleeping time. Anesth Analg 2002;94:1201-6.

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
02年度	廣田 和美	講師	リスクマネージメント講習会 卒後研修ワークショップ
03年度	廣田 和美	講師	卒後研修ワークショップ

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	1名
03年度	1名

	研究生の人数
02年度	3名
03年度	2名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
03年度	廣田 和美	講師	2年	成人看護方法論Ⅱ	2 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名 職名		回数	うちコ・メディカルの回数	
02年度	松木明知	教授	1回	0 回	

【学生授業出席率】

	担当者	名 職名	科 目 名	出席率
	松木 明	月知 教授	麻酔•蘇生系	約95%
	石原 引	以規 助教授	麻酔・蘇生系	約90%
02年度	小谷 直	直樹 講師	麻酔・蘇生系	約97%
02千段	廣田 禾	和美 講師	麻酔・蘇生系	約95%
	佐藤 苕	哲観 助手	麻酔・蘇生系	約98%
	大川 浩	告文 助手	麻酔・蘇生系	約98%
	松木 明	明知 教授	麻酔・蘇生系	
	石原 引	以規 助教授	麻酔・蘇生系	
03年度	小谷 直	直樹 講師	麻酔・蘇生系	
03千皮	廣田 禾	和美 講師	麻酔・蘇生系	約95%
	佐藤 苕	哲観 助手	麻酔・蘇生系	ほぼ100%
	櫛方 扌	哲也 助手	麻酔・蘇生系	

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名	科 目 名	評 価
	松木	明知	教授	麻酔•蘇生系	
	石原	弘規	助教授	麻酔•蘇生系	4.0点
02年度	小谷	直樹	講師	麻酔•蘇生系	4.3点
02平皮	廣田	和美	講師	麻酔•蘇生系	3.9点
	佐藤	哲観	助手	麻酔•蘇生系	4.6点
	大川	浩文	助手	麻酔•蘇生系	
	松木	明知	教授	医学概論	A4.0, B3.7
	松木	9月7日	7人1又	麻酔•蘇生系	A3.7, B3.5
	石原	弘規	助教授	麻酔•蘇生系	A3.6, B3.7
03年度	小谷	直樹	講師	麻酔•蘇生系	
	廣田	和美	講師	麻酔•蘇生系	A3.7, B3.5
	佐藤	哲観	助手	麻酔•蘇生系	A4.5, B4.4
	櫛方	哲也	助手	麻酔•蘇生系	

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5・6年			4.4	4.5

31. 脳神経外科学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

ほぼ達成し得た。

これから2年間の目標:

学生教育の充実及び、地域医療への貢献などを介した地域社会への連携を持続していく。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	鈴木 重晴	教授			健康	障害者の健康	2 回
00左座	高橋 敏夫	講師	テーマ科目	健康	病気の科学	最新医学の現状	1回
03年度	大熊 洋揮	講師	テーマ科目	健康	病気の科学	最新医学の現状	1回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	鈴木	重晴	教授	系統別講義(脳神経系)	医学科5年	3 回
	関谷	徹治	助教授	系統別講義(脳神経系,脳腫瘍)	医学科5年	90分 2 回
02年度	大熊	洋揮	講師	系統別講義(脳神経系)	医学科5年	2 回
02千段	高橋	₩ ±:	講師	系統別講義(脳神経系)	医学科5年	2 回
	尚僴	敏夫	明明	系統別講義(代謝内分泌系)	医学科4年	1 回
	尾金	一民	助手	系統別講義(脳神経系)	医学科5年	1回
	関谷	徹治	助教授	系統別講義(脳神経系)	5年	5 回
	月廿	11以7口	講師	チュートリアル教育	3年	1回
	高橋	敏夫	講師	系統別講義(脳神経系)	5年	2 回
03年度	同個	拟大	明明	チュートリアル教育	3年	4 回
	大熊	洋揮	講師	系統別講義(脳神経系)	5年	2 回
	嶋村	則人	助手	系統別講義(脳神経系)	5年	1 回
	浅野硕	肝一郎	助手	チュートリアル教育	3年	3 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当	者名	職名	対象学年	回数又は期間
02年度	大熊	洋揮	講師	医学科 5 · 6 年	54回
02平皮	嶋村	則人	助手	医学科 5 · 6 年	54回
	問公	徹治	助教授	5 • 6 年	27週
	関谷	1取行	助教技	1年	23回
03年度	高橋	敏夫	講師	5 • 6 年	27週
03平皮	大熊	洋揮	講師	5 • 6 年	27週
	浅野研	干一郎	助手	5 • 6 年	27週
	嶋村	則人	助手	5 • 6 年	27週

4) OSCE

	担当	職名	
02年度	関谷	徹治	助教授
02平及	高橋	敏夫	講師
03年度	関谷	徹治	助教授
03年度	高橋	敏夫	講師

【研究室研修】

	受入人数		指	導	者	名	
	2名	関谷 徹治					
02年度	1名	大熊 洋揮					
	1名	高橋 敏夫					
	1名	関谷 徹治					
03年度	1名	高橋 敏夫					
	2名	大熊 洋揮					

【大学院】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	問公	(A)L)	助教授	①脳神経外科手術学	①大学院生	①合計2単位
02年度	02年度 関谷 徹治 耳		助教技	②神経研究の進歩「蝸牛神経損傷の病態生理」	②大学院生	②90分
	大熊	大熊 洋揮 講師 神経研究の進歩		大学院生	1 回	
	関谷 徹治 助教授 神経放射線学		神経放射線学	1年		
03年度	高橋	敏夫	講師	脳神経外科診断学	1年	
	大熊	洋揮	講師	神経放射線学	1年	

2) 実習

	担当	担当者名 職名		授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
00年度	関谷	徹治	助教授	神経放射線学	1年	
03年度	大熊	洋揮	講師	脳神経外科診断学	1年	

3) 学位論文

	作成指	導者名	職名	指 導 論 文 名		
02年度	高橋	敏夫	講師	求心路遮断痛の発現機序に関する免疫組織学的検討		
	関谷 徹治 助教授 Macrophage Colony Stimulating Factor (M-CSF) Rescues Dying Auditory Following Trauma: Morphological and Functional Evidence					
03年度	大熊	洋揮	講師	血小板活性化因子とその関与する細胞内伝達系の脳血管攣縮 における役割 In vitro effects of new generation fungal derived nitric oxide donors on rabbit basilar artery.		

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	2名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	1名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名 職名		職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
02年度	関谷	徹治	助教授	医療技術短期大学 (理学療法学科,作業療法学科)	脳神経外科学	90分×8回
00年度	関谷	徹治	助教授	保健学科2年	脳神経外科学	6 回
03年度	嶋村	則人	助手	保健学科3年	成人看護学	2 回

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当	者名	職名	科 目 名	出席率
00年度	関谷	徹治	助教授	脳神経外科	85%以上
02年度	大熊	洋揮	講師	系統別講義(脳神経系)	95%
00左床	大熊	洋揮	講師	系統別講義(脳神経系)	95%
03年度	嶋村	則人	助手	系統別講義(脳神経系)	90%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名	科 目 名	評 価
	関谷	徹治	助教授	脳神経外科学 系統講義	平均4.1点
02年度	高橋	敏夫	講師	系統別講義(代謝内分泌系)	平均3.4点
	大熊	系統別講義(代謝内分泌系)	平均4.1点		
	関谷	徹治	助教授	系統講義(脳神経系)	3.9点
00左连	大熊	洋揮	講師	系統講義(脳神経系)	3.9点
03年度	高橋	敏夫	講師	系統講義(脳神経系)	3.5点
	嶋村	則人	助手	系統講義(脳神経系)	4.2点

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5 • 6 年	135日	27	4.2	4.2

32. 形成外科学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

学生の講義など十分目標を達したものと思う。

これから2年間の目標:

学生の教育を通じ、有能な臨床家また教育者の育成に務める。 診療内容についても形成外科医としての発展に努める。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	当者名 職名 区 分 領		領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	横井 克憲	助手	テーマ	健康	最新医学の現状		1回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	澤田 幸正	教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	5年	2 回
02年度	四ッ柳高敏	助教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	5年	3 回
	横井 克憲	助手	系統別講義(皮膚・結合織系)	5年	3 回
	澤田 幸正	教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	5年	5 回
03年度	四ッ柳高敏	助教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	5年	3 回
	横井 克憲	助手	系統別講義(皮膚・結合織系)	5年	1 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対象学年	回数又は期間
	澤田 幸正	教授	5 • 6 年	18週
02年度	四ッ柳高敏	助教授	5 • 6 年	18週
02平皮	横井 克憲	助手	5 • 6 年	18週
	漆舘 聡志	助手	5 • 6 年	18週
	四ッ柳高敏	助教授	5 • 6 年	18週
00左连	横井 克憲	助手	5 • 6 年	18週
03年度	漆舘 聡志	助手	5 • 6 年	18週
	渡辺 学	助手	5 • 6 年	18週

4) OSCE

	担当者名	職名
02年度	四ッ柳高敏	助教授
02 牛皮	漆舘 聡志	助手
03年度	四ッ柳高敏	助教授
03年度	漆舘 聡志	助手

【研究室研修】

	受入人数		指	導	者	名	
02年度	2名	横井 克憲					
03年度	2名	漆舘 聡志					

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	四ッ柳高敏	助教授	臓器移植各論	大学院生	1 回
00年度	澤田 幸正	教授	形成外科総論		1回
03年度	四ッ柳高敏	助教授	再生医療における複合糖質の役割		1回

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
03年度	四ッ柳高敏	助教授	第4回弘前大学医学部附属病院卒御臨床研修教育ワークショップ

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

		研修登録医の人数
02年	度	5名
03年	度	1名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
03年度	四ッ柳高敏	助教授	教育学部養護教諭課程職員	創傷治癒	1 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数
02年度	四ッ柳高敏	非常勤講師	2 回	

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
	澤田 幸正	教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	90%
02年度	四ッ柳高敏	助教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	95%
	横井 克憲	助手	系統別講義(皮膚・結合織系)	90%
	澤田 幸正	教授	系統別講義(皮膚・結合織)	80%
03年度	四ッ柳高敏	助教授	系統別講義(皮膚·結合織)	
	横井 克憲	助手	系統別講義(皮膚・結合織)	

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
	澤田 幸正	教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	
02年度	四ッ柳高敏	助教授	系統別講義(皮膚・結合織系)	4.2
	横井 克憲	助手	系統別講義(皮膚・結合織系)	4.0
	澤田 幸正	教授	系統別講義(皮膚・結合織)	3.7
03年度	四ッ柳高敏	助教授	系統別講義(皮膚・結合織)	4.4
	横井 克憲	助手	系統別講義(皮膚・結合織)	3.6

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	対象学年 実習日数		学生による評価A	学生による評価B	
臨床実習	5 • 6年	18週/年		4.0	4.0	

33. 救急・災害医学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

これから2年間の目標:

医学部学生に救急医学、特に外傷の初期治療、急性中毒、心肺蘇生法、災害医学などについて教育していく。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	職名	区 分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
03年度	滝口 雅博	助教授	教養科目	自然領域	病気の科学 健康と運動の科学	癌。成人病とその予防 救急医療を考える	2 回 2 回

2)実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義 該当なし。

2)基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
03年度	滝口 雅博	助教授	Pre-SGT	5年	8 回

3) 臨床実習

	担当	者名	職名 対象学年		回数又は期間
00年度	浅利	靖	教授	5 • 6 年	5 回
03年度	滝口	雅博	助教授	5 • 6年	16回

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1) 講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

		研修登録医の人数
Γ	03年度	0 名

03年	度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名 職名		職名 対象学年 科 目 名			
		医療短期大学部専攻科 1		産科麻酔·母子救急医療	10回	
03年度	滝口 雅博 助教授		医学部保健学科 2	救急蘇生医学	8 回	
			医学部保健学科 2	医学工学	8回	

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数		
03年度	滝口 雅博	助教授	7 回	7 回		

【学生授業出席率】 該当なし。

【学生による授業評価】

- 1)授業評価 該当なし。
- **2) 専門教育の評価** 2003年度 該当なし。

34. 臨床検査医学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

21世紀教育, 学部教育の講議を統括しかつ担当した。SGT 実習を通じて, 臨床医として身に付けるべき基本的かつ 専門的な技術, 知識の教育を目標通り行う事が出来た。研究室研修における研究と発表の指導をおこない, 大学院 生の研究を指導した。また, 検査部技師の研究に対しても積極的に指導をおこない技師の科学研究費の獲得に寄与した。各教育内容を見直し最新の知識を盛り込むよう努めた。

これから2年間の目標:

- 1. 講義, 実習を可能なかぎり担当する。
- 2. 大学院と学部学生への講義内容の改善を絶えず行う。
- 3. 新たな教育法や講議の導入をこころがける。
- 4. 臨床医、研究者として身に付けるべき基本的かつ専門的な技術、知識の教育を行う。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名		職名区分		領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	保嶋	実	教授	教養科目	教養科目 自然領域 病気の科学 癌成人病とその予防		4 回	
03年度	保嶋	実	教授	テーマ科目	各	健康	生活習慣と健康	4 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者	旨名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
00左座	保嶋	実	教授	系統別講議(検査医学)	4年	10回
02年度	庄司	優	助教授	系統別講議(検査医学)	4年	10回
00年度	保嶋	実	教授	系統別講議(検査医学)	3 • 4年	11回
03年度	庄司	優	助教授	系統別講議(代謝内分泌系)	3 • 4年	11回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者	名	職名	対象学年	回数又は期間	
	保嶋 実 教授		教授	5 • 6 年	36週	
02年度	庄司 優 助教		助教授	5 • 6 年	36週	
	佐々木真吾		助手	5 • 6 年	36週	
	保嶋 実		教授	5 • 6 年	36週	
03年度	庄司	優	助教授	5 • 6年	36週	
	佐々木	真吾	助手	5 • 6 年	36週	

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数			į	指	導	者	名		
02年度	1名	保嶋	実							
03年度	4名	保嶋	実, 庄司	優						

【大学院】

1)講義

	担当者名		職名	職名 授業科目		回数又は期間
02年度	庄司	優	助教授	総合2	院1・2年	1回
03年度	庄司	優	助教授	生理系1,内科系,総合2	院1 • 2年	3 回

2) 実習

	担当者名		職名		777 3	業	科目	対象学年	回数又	.は期間
03年度	庄司	優	助教授	遺伝子解析,	血小机	又機能	能評価	3年	2	回

3) 学位論文

	作成指導	拿者名	職名	指 導 論 文 名
02年度	保嶋	実	教授	cDNA マイクロアレイを用いた乳癌における抗癌剤感受性関連遺伝子の検討

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
02年度	庄司 優	助教授	チュートリアル教育 教育評価法
03年度	庄司 優	助教授	チュートリアル教育 教育評価法

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

2)研究生	の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0 名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名		職名 対象学年		科 目 名	回数又は期間
02年度	保嶋	実	教授	3年	検査管理概論	3
	庄司	優	助教授	3年	臨床血液学実習	4 —10月

【他大学・他施設における講義】

	担当者名		職名	回数	うちコ・メディカルの回数
02年度	保嶋	実	教授	東北大学 1	
03年度	保嶋	実	教授	東北大学 1	

【学生授業出席率】

	担当者名 職名		職名	科 目 名	出席率
	保嶋	実	教授	系統別講議(検査医学)	70%
02年度		n4. #1. ks?	系統別講議(検査医学)	70%	
	庄司	優	助教授	系統別講議(代謝内分泌系)	70%
	保嶋	実	教授	系統別講議(検査医学)	70%
03年度	rha	優	中松松	系統別講議(検査医学)	70%
	庄司		助教授	系統別講議(代謝内分泌系)	50%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当君	者名 職名		科 目 名	評 価	
	保嶋	実	教授	系統別講議(検査医学)	2.9	
02年度	庄司	優	助教授	系統別講議(検査医学)	2.95	
				系統別講議(代謝内分泌系)	2.8	
	保嶋	実	教授	系統別講議(検査医学)	3.2	
03年度	庄司	優	11十十十六	系統別講議(検査医学)	3.2	
			助教授	系統別講議(代謝内分泌系)	3.1	

2) 専門教育の評価 2003年度 該当なし。

35. 臨床薬理学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

講義:担当科目がないため、薬理学、系統講義(循環器、消化器、感染症)において講義を行なった。

実習:(1)β遮断薬を用いた薬効評価と適応疾患に関しての考察(薬理学との共同実習)

(2)薬物療法に関するケーススタディを通して薬物選択のポイントの理解を深める (SGT) \Rightarrow (1), (2)ともに実

施した。

これから2年間の目標:

講義:担当科目において,薬物療法の基礎となる薬物動態や薬効の個体差の成因について理解を深める。また薬物

有害反応、医薬品の関連法規、薬物療法の個別化について学習する。

実習:臨床薬理学SGTの内容を充実させ、薬物療法における個体差の成因とTDMを学ぶ。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名		職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	立石 智則		教授			健康	薬と健康	2 回
	古郡	規雄	講師	師		健康	メンタルヘルス	2 回
		乃九四田	마다				薬と健康	1回
	立石	智則	教授	テーマ科目	健康		薬と健康	9 回
03年度	古郡	規雄	講師	テーマ科目	健康		薬と健康	2 回
	白柏	<i>於</i> 北田	75亿/年 再印	7 (111	(年) (年) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日		メンタルヘルス	2 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	立石 智則 02年度	教授	医学英語	1年	15回
00年度		4 教授	系統別講義(循環器系)	5年	2 回
02平皮		講師	系統別講義-免疫系	4年	1 回
	古郡 規雄	神印	系統別講義一消化器系	5年	1 回
	立石 智則	11 H/ 140	医学英語	1年	15回
03年度	五口 省則	教授	系統講義(循環器系)	5年	2 回
03年度	古郡 規雄	雄 講師	系統別講義「免疫系」	4年	1 回
	白和 規准		系統別講義「消化器系」	5年	1 回

2)基礎実習

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	立石	智則	教授	治療の薬理学的基礎実習	4年	5 回
02年度	古郡	規雄	講師	治療の薬理学的基礎実習	4年	1回
	高畑	武功	助手	治療の薬理学的基礎実習	4年	4 回
	立石	智則	教授	治療の薬理学的基礎実習	4年	3 回
03年度	古郡	規雄	講師	薬理学実習	3年 4年	1 回 1 回

3) 臨床実習

	担当	者名	職名	対象学年	回数又は期間
	立石	智則	教授	5 • 6 年	18回
02年度	古郡	規雄	講師	5年	22回
	高畑	武功	助手	5 • 6 年	34回
00左座	立石	智則	教授	5 • 6 年	16回
03年度	古郡	規雄	講師	5 • 6年	40回

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受入人数			指	導	者	名		
02年度	2 名	古郡	規雄						
03年度	3 名	古郡	規雄						

【大学院】

1) 講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
00年度	立石 智則	教授	大学院講義 総合 後期	1 • 4 年	1 回
02年度	古郡 規雄	講師	大学院講義 総合 前期	1 • 4 年	1回
00左座	立石 智則	教授	大学院講義	1 • 2 年	2 回
03年度	古郡 規雄	講師	遺伝子多型と薬物動態	1年	1回

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加	老名	職名		名	称	等		
	立石	智則	教授	チュートリアル教育	н	.1.1.			
02年度	古郡	規雄	講師	チュートリアル教育					
	高畑	武功	助手	チュートリアル教育					
03年度	立石	智則	教授	チュートリアル講習会					

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名			うちコ・メディカルの回数
03年度	立石 智則	教授	12回	12回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
	キア 知明	教授	医学英語	90%
00年度	立石智則		系統別講義(循環器系)	50%
02平皮	古郡 規雄 講師		系統別講義一免疫系	30%
			系統別講義一消化器系	90%
	キア 知明	**************************************	医学英語	90%
00左座	立石 智則	智則 教授	系統講義(循環器系)	40%
03年度	-1-317 +B+#-	10 1/4 ≥#: 4·T	系統別講義「免疫系」	40%
	古郡 規雄	講師	系統別講義「消化器系」	70%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
	カナ 知明	教授	医学英語	(A)3.5, (B)3.1
02年度	立石 智則		系統別講義(循環器系)	(A)4.1, (B)4.1
02平皮	古郡 規雄	继结	系統別講義—免疫系	3.8
	百旬 規應	講師	系統別講義一消化器系	4.0
	シア 知即	教授	医学英語	3.8
00左阵	立石智則		系統講義(循環器系)	3.3
03年度	-1	≇蛙台店	系統別講義「免疫系」	4.0
	古郡 規雄	講師	系統別講義「消化器系」	4.3

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5 • 6年	27回		4.2	4.2

36. 歯科口腔外科学講座

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

(講座・木村 博人)

- ○共通教育、専門教育、大学院教育において講義、実習を積極的に担当する。
- ○講義、実習における達成目標と評価方法の工夫を絶えず行う。
- ○講義内容の見直しを図り、出席率の向上に努める。
- SGT における実習指導、研究室研修における研究指導を懇切丁寧に行う。
- ○医学部保健学科および学外コ・メディカルの講義、実習に積極的に協力する。
- ○学位審査の機会があれば積極的に努める。
- ○医学部学生の課外活動の指導に努める。

上記の設定目標の到達度は, 70%。

(小林 恒)

- ・講義内容の見直しを図り、興味のわく講義内容とするよう努める。
- ・SGT における実習指導を懇切丁寧に行う。

上記 2 点について、目標は達成したので、100%。

(福井 朗)

- ・共通教育、専門教育の担当時間内における内容の充実を図る。
- ・講義内容の見直しを絶えず行う。
- ・SGT 指導,研究室研修の指導を積極的に行う。

上記3点のうち、特に講義内容の見直しを絶えず行い、総合的には80%。

(佐藤 寿)

・SGT 指導を積極的に行う。

上記の点について,70%。

(楠美 昭則)

- ・今後も学部教育では臨床実習、研究室研修を担当する。
- ・大学院学生の指導についても、教授を補佐し積極的に手法および論文作成について行う予定である。 上記 2 点について、各々 80 %。

これから2年間の目標:

- ○共通教育、専門教育、大学院教育において講義、実習を積極的に担当する。
- ○講義、実習における達成目標と評価方法の工夫を絶えず行う。
- ○講義内容の見直しを図り、出席率の向上に努める。
- SGT における実習指導、研究室研修における研究指導を懇切丁寧に行う。
- ○医学部保健学科および学外コ・メディカルの講義。実習に積極的に協力する。
- ○学位審査の機会があれば積極的に努める。
- ○医学部学生の課外活動の指導に努める。

(小林 恒)

- ・講義内容の見直しを図り、 興味のわく講義内容とするよう努める。
- ・SGT における実習指導を懇切丁寧に行う。

(福井 朗)

- 共通教育, 専門教育の担当時間内における内容の充実を図る。
- 講義内容の見直しを絶えず行う。
- ・SGT 指導,研究室研修の指導を積極的に行う。

(佐藤 寿)

・SGT 指導を積極的に行う。

(楠美 昭則)

- ・今後も学部教育では臨床実習、研究室研修を担当する。
- ・大学院学生の指導についても、教授を補佐し積極的に手法および論文作成について行う予定である。 (織田 光夫)
- SGT 指導を積極的に行う。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
						生活習慣と健康(B)	生活習慣と虫歯	1回
	. 木村 博人		教授	テーマ科目	健康	生伯百貝C健康(D)	生活習慣と歯周疾患	1回
02年度	02年度	诗八	7人1又		健康	 最新医学の現状(B)	癌の告知	
						取利区子の境仏(D)	終末医療	1回
	小林	恒	助教授	テーマ科目	健康	最新医学の現状(B)	消化器疾患の最前線と癌の科学	1回
03年度	木村	博人	教授	テーマ科目			生活習慣と健康	1回
03平及	小林	恒	助教授	テーマ科目			生活習慣と健康	1回

2) 実習

	担当	者名	職名	区分	授業科目名	回 数 又は期間
00年度	木村	博人	教授	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	3
02年度	福井	朗	講師	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	3
00年度	木村	博人	教授	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	4.5時間×3
03年度	織田	光夫	助手	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	4.5時間×3

【学部教育】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	木村	博人	教授	系統別講義(歯口腔系)	5年	7 回
02年度	小林	恒	助教授	系統別講義(歯口腔系)	5年	2 回
	福井	朗	講師	系統別講義(歯口腔系)	5年	1 回
	木村	博人	教授	系統別講義(歯口腔系)	5年	6 回
03年度	小林	恒	助教授	系統別講義(歯口腔系)	5年	2 回
	福井	朗	講師	系統別講義(歯口腔系)	5年	2 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当	者名	職名	対象学年	回数又は期間
	木村	博人	教授	5 • 6 年	週4日間×18週
	小林	恒	助教授	5 • 6 年	週 4 日間×18週
02年度	福井	朗	講師	5 • 6 年	週 4 日間×18週
02平反	佐藤	寿	助手	5 • 6 年	週 4 日間×18週
	楠美	昭則	助手	5 • 6 年	週 4 日間×18週
	織田	光夫	助手	5年	週4日間×11週
	木村	博人	教授	5 • 6 年	週4日間×7週+13週
	小林	恒	助教授	5 • 6 年	週4日間×7週+13週
03年度	福井	朗	講師	5 • 6 年	週4日間×7週+13週
03平皮	佐藤	寿	助手	5 • 6 年	週4日間×7週+13週
	楠美	昭則	助手	5 • 6 年	週4日間×7週+13週
	織田	光夫	助手	5 • 6年	週4日間×7週+13週

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数					指	導	者	名		
02年度	2名	松宮	朋穂								
03年度	2名	木村	博人,	楠美	昭則						

【大学院】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	小林	恒	助教授	外科系臨床講座における研究の意義	2年	1
	木村	博人	教授	口腔機能回復治療学	1年•後期	2 時限×15週
	03年度 小林 恒	₩	中华松	口腔病診断学	1 年·前期	1年・前期1時限×151年・後期1時限×15
03年度		1旦	助教授	顎口腔外科学	1年•後期	
	/ 11	白日	講師	顎口腔外科学	1 年·前期	1 時限×15
福井	朗	神印	口腔病診断学	1年•後期	1 時限×15 1 時限×15	

2) 実習

	担当者	名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	小林	恒	助教授	口腔病診断学	3年	前•後期各2時限×15週
02年度 福井 朗		講師	顎口腔外科学	3年	前•後期各2時限×15週	
		切	神训	口腔機能回復治療学	3年	前期 2 時限×15週

3) 学位論文

		作成指	導者名	職名		指	導	論	文	名		
034	年度	木村	博人		Interleukin-1 β gingival fibrobl							human

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加	者名	職名	名 称 等			
00左连	福井	朗	講師	第2回卒後臨床研修教育ワークショップ			
02年度	木村	博人	教授	5 回歯科医師臨床研修指導医ワークショップ			

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2)	研究生の人	、数
----	-------	----

	研修登録医の人数
02年度	3名
03年度	5 名

	研究生の人数
02年度	1名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当	者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間		
	木村	博人	教授	教育学部養教2年•看護3年	臨床医科学Ⅲ-1•成人看護学Ⅱ各論演習(3)③(歯科)	5		
02年度	小林	恒	助教授	教育学部養教2年•看護3年	臨床医科学Ⅲ-1•成人看護学Ⅱ各論演習(3)③(歯科)	1		
	福井	朗	講師	教育学部養教2年•看護3年	臨床医科学Ⅲ-1•成人看護学Ⅱ各論演習(3)③(歯科)	1		
	木村	村 博人	日 埔人	大計	教授	教育学部・2年	臨床医科学Ⅲ-1(歯科)	4 回
03年度	/N/13		教授	保健学科•3年	成人看護学演習	1回		
03平皮	小林	恒	助教授	教育学部・2年	臨床医科学Ⅲ-1(歯科)	1 回		
	福井	朗	講師	教育学部・2年	臨床医科学Ⅲ-1(歯科)	1回		

【他大学・他施設における講義】

	担当	者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数
	木村	博人	教授	12回	12回
02年度	小林	恒	助教授	2回	2 回
	福井	朗	講師	1回	1 回
				秋田大学医学部1回	
	木村	博人	教授	国立弘前病院附属看護学校 2 回	2 回
03年度				学校法人城東学園言語聴覚科8回	8 回
	小林	恒	助教授	学校法人城東学園言語聴覚科 2 回	2 回
	福井	朗	講師	学校法人城東学園言語聴覚科 2 回	2 回

【学生授業出席率】

	担当	者名	職名	科 目 名	出席率
	木村	博人	教授	系統別講義(歯口腔系)	90%
02年度	小林	恒	助教授	系統別講義(歯口腔系)	85%
	福井	朗	講師	系統別講義(歯口腔系)	80%
	木村	博人	教授	系統別講義(歯口腔系)	90%
03年度	小林	恒	助教授	系統別講義(歯口腔系)	90%
	福井	朗	講師	系統別講義(歯口腔系)	90%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名		科	目	名	評 価
	木村	博人	教授	系統別講義(歯口腔系)				3.8
02年度	小林	恒	助教授	系統別講義(歯口腔系)				3.7
	福井	朗	講師	系統別講義(歯口腔系)				3.5
	木村	博人	教授	系統別講義(歯口腔系)				A • B:3.6
03年度	小林	恒	助教授	系統別講義(歯口腔系)				A • B:3.5
	福井	朗	講師	系統別講義(歯口腔系)				A:3.4,B:3.3

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
歯科口腔外科学臨床実習	5 • 6年	4日間×7週+13週		4.3	4.3
臨床実地見学実習	1年	24日間			

37. 分子病態部門

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

現在、人体の病理と病態(病理学講義・実習)の中で神経系に関する部分を担当しており、当初の目標は充分達成されたものと考える。

これから2年間の目標:

専門性を発揮し学生講義、実習に参加してゆく。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	若林	*	教授	教養科目	自然領域	病気の科学	癌•成人病とその予防(Ⅲ)	4 回
02平皮	1 石作	子-	<i>羽</i> 灯	テーマ科目	健康		発達と老化	1回
				テーマ科目	健康		発達と老化(A)	1回
03年度	若林	孝一	教授				最新医学の現状(C)	1回
03平皮				導入科目	基礎ゼミナール		基礎ゼミナール	15回
	森	文秋	講師	テーマ科目	情報		情報の伝達(B)	2 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名	古 職名	授業科目	対象学年	回数又は期間
			医学概論	1年	15回
02年度	2年度 若林 孝一	一 教授	医学英語	2年	15回
			人体の病理と病態	4年	5 回
			医学概論	1年	15回
	 若林 孝	一 教授	医学英語	2年	15回
03年度	日	一	チュートリアル	3年	8 回
			人体の病理と病態	4年	4 回
	森 文	秋 講師	チュートリアル	3年	4 回

2)基礎実習

	担当者	4名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	若林	孝一	教授	人体の病理と病態	4年	15回
02平皮	森	文秋	講師	人体の病理と病態	4年	5 回
	若林	孝一	教授	人体の病理と病態	4年	10回
03年度	森	文秋	講師	人体の病理と病態	4年	10回
	西江	信	助手	人体の病理と病態	4年	10回

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数					指	導	者	名		
02年度	2名	丹治	邦和,	森	文秋,	若林	孝一				
03年度	2名	西江	信,	森	文秋,	若林	孝一				

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			神経病態学	1年	15回
02年度	 若林 孝一	教授	神経細胞生物学	1年	30回
02平皮	石林 子一 	教技	分子病理学	1年	30回
			総合(2)	1 • 2 年	3 回
			神経病態学	1年	15回
			分子病理学	1年	30回
			神経病態学	2年	15回
03年度	若林 孝一	教授	神経細胞生物学	2年	30回
03平皮			分子病理学	2年	30回
			分子生物学	2年	15回
			病理系	1 • 2 年	1回
	森 文秋	講師	病理系	1 • 2年	1回

2) 実習

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
				神経病態学	1年	15回
02年度	若林	孝一	教授	神経細胞生物学	1年	15回
				分子病理学	1年	15回
				神経病態学	1年	15回
				分子病理学	1年	15回
03年度	森	文秋	講師	神経病態学	2年	15回
				神経細胞生物学	2年	15回
				分子生物学	2年	15回

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加	者名	職名	名 称 等
	若林	孝一	教授	平成14年度医学部医学科 FD (平14.11.16)
02年度	森	文秋	講師	平成14年度医学部医学科 FD(平14.11.16)
	丹治	邦和	助手	平成14年度医学部医学科 FD(平14.11.16)
	若林	孝一	教授	平成15年度医学部医学科 FD
03年度	森	文秋	講師	平成15年度医学部医学科 FD
	西江	信	助手	平成15年度医学部医学科 FD

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名 回数		うちコ・メディカルの回数
02年度	若林 孝一	教授	2 日間	0 回
03年度	若林 孝一	教授	4 日間	0 回

【学生授業出席率】

	担当者	8名	職名	科 目 名	出席率
				医学概論	95—100%
02年度	若林	孝一	教授	医学英語	90— 95%
				人体の病理と病態	95—100%
				医学概論	95—100%
03年度	若林	孝一	教授	医学英語	95—100%
				人体の病理と病態	95—100%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
			医学概論	4.3点
02年度	若林 孝一	教授	医学英語	4.4点
			人体の病理と病態	4.6点
			医学概論	4.3点
03年度	若林 孝一	教授	医学英語	4.3点
			人体の病理と病態	4.6点

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
人体の病理と病態	4年	30日	90コマ	4.3	4.2

38. 脳血管病態部門

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

教育活動にも積極的に関与し、目標を十分達成した。100%

これから2年間の目標:

可能な限り教育活動を実施する。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名		職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
	佐藤	敬	教授	導入科目			基礎ゼミナール	12回
02年度	吉田	秀見	講師	テーマ科目	健康		生活習慣と健康	5 回
		分元	神训	基礎教育科目	自然系基礎	基礎教育科目	生物学の基礎Ⅱ(A)	5 回
	佐藤	敬	**************************************	テーマ科目	健康		生活習慣と健康 B	7 回
03年度	上 佐藤	収	教授	導入科目			基礎ゼミナール	12回
	吉田	秀見	講師	基礎教育科目	自然系基礎	基礎教育科目	生物学の基礎Ⅱ(A)	5 回

2) 実習

	担当	者名	職名	区分	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	吉田	秀見	講師	基礎教育科目	基礎科学実験(化学)	3 回
03年度	吉田	秀見	講師	基礎教育科目	基礎科学実験(化学)	3 回

【学部教育】

1)講義

	担当者	·名	職名	授業科目	対象学年	回数又は期間
				基礎人体科学演習	1年	24回
02年度	佐藤	敬	**************************************	人体の構造と機能Ⅱ	2年	2 回
02平皮	佐 膝	収	教授	医学英語	3年	13回
				免疫学	4年	1回
				人体の構造と機能Ⅱ	2年	3 回
	佐藤	敬	教授	免疫学•遺伝子科学	3年	1 回
03年度				医学英語	2年	15回
	吉田 秀	秀見	講師	チュートリアル	3年	6 回
	今泉 总	忠淳	助手	チュートリアル	3年	7 回

2)基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	佐藤 敬	教授	人体の構造と機能Ⅱ	3年	16回
02年度	吉田 秀見	講師	人体の構造と機能Ⅱ	3年	16回
	今泉 忠淳	助手	人体の構造と機能Ⅱ	3年	16回

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数					指	導	者	名		
02年度	3名	吉田	秀見,	今泉	忠淳						
03年度	4名	吉田	秀見,	今泉	忠淳						

【大学院】

1)講義

	担当者	名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間		
					1年	15回		
				循環生理学	2年	15回		
					3年	15回		
					1年	15回		
	佐藤	敬	教授	血管生物学	2年	15回		
02年度					3年	15回		
02年度				細胞生物学	2年	15回		
				分子生物学	3年	15回		
				病態生理学	3年	15回		
				細胞生物学	1年	15回		
	吉田	秀見	講師	分子生物学	1年	15回		
				病態生理学	2年	15回		
							1年	15回
				循環生理学	2年	15回		
					3年	15回		
					1年	15回		
	佐藤	敬	教授	血管生物学	2年	15回		
03年度					3年	15回		
0012				細胞生物学	2年	15回		
				分子生物学	3年	15回		
				病態生理学	3年	15回		
				細胞生物学	1年	15回		
	吉田	秀見	講師	分子生物学	1年	15回		
				病態生理学	2年	15回		

2) 実習

	担当者	8名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
				循環生理学	1年	15回
	佐藤	敬	教授	血管生物学	1年	15回
	上版	収	7人1又	細胞生物学	2年	15回
				病態生理学	2年	15回
				細胞生物学	1年	15回
02年度				分子生物学	1年	15回
02千段				万丁生物子	3年	15回
	 吉田 :	秀見	講師	循環生理学	2年	15回
	рш :	75 JC	마무미비	相垛土坯于	3年	15回
				血管生物学 2年	2年	15回
				血官生初子	3年	15回
				病態生理学	3年	15回
				循環生理学	1年	30回
	佐藤	敬	教授	血管生物学	1年	30回
		収	3人1人	細胞生物学	2年	30回
				病態生理学	2年	30回
				細胞生物学	1年	30回
03年度				分子生物学	1年	30回
05千度				刀 1 生物子	3年	30回
	吉田	秀見	講師	循環生理学	2年	30回
	рш :	75 JC	蔣即	相垛土坯于	3年	30回
				血管生物学	2年	30回
				皿 6 工物于	3年	30回
				病態生理学	3年	30回

3) 学位論文

	作成指導	尊者名	職名	指 導 論 文 名
02年度	佐藤 今泉	敬 忠淳	教授 助手	Lipopolysaccharide induces the expression of cellular inhibitor of apoptosis protein-2 in human macrophages(崔 学范)
03年度	佐藤 今泉	敬 忠淳	教授 助手	15-Deoxy-∆¹².¹⁴-prostaglandin J² inhibits the IL-1b-induced expression of granulocyte-macrophage colony-stimulating factor in BEAS-2B bronchial epithelial cells(熊谷美香)Expression of synphilin-1 in human vascular endothelial cells(田茂和歌子)Proteasome inhibitor MG-13² enhances the expression of interleukin-6 in human umbilical vein endothelial cells: involvement of MAP/ERK kinase(柴田健雄)

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加	者名	職名	名 称 等	
	佐藤	敬	教授	医学科 FD 「チュートリアル教育」	
02年度		秀見	講師	医学科 FD 「チュートリアル教育」	
02平皮	吉田	芳兄	神训	弘前大学21世紀教育 FD 研修会「適切な成績評価を考える」	
	今泉	忠淳	助手	医学科 FD 「チュートリアル教育」	
	H-34 #/s	4-att #4	- at #4 = #4 = A	教授	Dr. Evans による医学教育講演(2003. 5.14)
03年度	佐藤	敬	教授	21世紀教育 FD 「英語教育について」(2003. 8. 8)	
03平皮	今泉	忠淳	助手	Dr. Evans による医学教育講演(2003. 5.14)	
	予永	芯仔	助手	鈴木富雄先生講演会(2004. 3. 6)	

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人	数
----------	---

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

		担当君	524	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
()3年度	佐藤	敬	教授		国際交流科目「免疫学」	3 回

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当	者名	職名	科 目 名	出席率
				基礎ゼミナール	100%
	H-it #h-		生活習慣と健康	70%	
		敬	#// 153	基礎人体科学演習	100%
02年度	佐藤	収	教授	人体の構造と機能Ⅱ	85%
				医学英語	70%
				免疫学	85%
	吉田	秀見	講師	生物学の基礎	90%
				人体の構造と機能Ⅱ	90%
03年度	佐藤	敬	教授 教授	医学英語	75%
				免疫学•遺伝子科学	85%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
02年度	佐藤敬	教授	医学英語	3.6
02平皮	上	7人1又	人体の構造と機能Ⅱ	3.5
			人体の機能と構造Ⅱ	3.85
03年度	佐藤 敬	教授	医学英語	4.25
			免疫学	3.4

2) 専門教育の評価 2003年度 該当なし。

39. 機能回復部門

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

8 割程度の達成ができた。

これから2年間の目標:

学部学生に,基礎研究の面白さを伝える。

大学院教育では、神経系の電気生理学の理解を高める。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

- 1)講義 該当なし。
- 2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
03年度	沈活	助手	基礎人体	1年	24回

- 2)基礎実習 該当なし。
- 3) 臨床実習 該当なし。
- **4) OSCE** 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

- 1)講義 該当なし。
- 2) 実習 該当なし。
- 3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
03年度	0名

	研究生の人数
03年度	3 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数
03年度	上野伸哉	教授	11回	7 回

【学生授業出席率】 該当なし。

【学生による授業評価】

- 1)授業評価 該当なし。
- **2) 専門教育の評価** 2003年度 該当なし。

40. 神経統御部門

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

系統講義や研究室研修などはかなりの成果があったが、教育スタッフの不足のため、専門医教育体制の構築が遅れている。

これから2年間の目標:

学生教育には視聴覚教材、特に臨床例の動画を積極的に講義に取り入れること。専門医養成システムの充実を図ること。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	松永	宗雄	教授	共通教育		病気の科学	運動・感覚系とその疾患	3 回
00年度	馬場	正ク	助教授	技能系テーマ	芸術実技	古典音楽	古楽演奏論	12回
03年度		正之	助教技		健康	最新医学の現状 C	神経感染症 ALS,他	3 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当	当者名 職名		授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
00左座	松永	宗雄	教授			13回
02年度	馬場	正之	助教授	系統別(脳神経)	4 • 5年	6 回
00左阵	F. G. T.	助教授	ルダーズ外口は本芸・10万年のブ	医学部4年	12回	
03年度	馬場	馬場 正之 助教		系統別講義 脳神経系	医学部 5 年	5 回

2)基礎実習

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
00年度	松永	宗雄	教授	基礎人体科学	1年	22回
02年度	馬場	正之	助教授	基礎人体科学	1年	4 回
03年度	馬場	正之	助教授	基礎人体科学	1年	22回

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対象学年	回数又は期間
00左庇	松永 宗雄	教授		
02年度	馬場 正之	助教授	5 • 6 年	病棟,外来 計50
03年度	馬場 正之	助教授	医学科 5 • 6 年	1 — 6 病棟,外来 計50回

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数					指	導	者	名		
02年度	4名	松永	宗雄,	馬場	正之,	ほか					
03年度	4名	馬場	正之								

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
03年月	医 馬場 正之	助教授	感覚機能生理学 ほか	1年	2 回

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指導者名	職名	指 導 論 文 名
02年度	松永 宗雄, ほか	教授	Amantadine increases L-DOPA-derived extracellular DA in the 6-OHDA-lesioned rat striatum. Effect of benzerazide on L-DOPA-derived extracellular dopamine levels and aromatic L-amino acid decarboxylase in the striatum of 6-hydroxydopamine-lesioned rats.
	松永 宗雄	教授	Retest reliability and inter-rater reliability of marker placement using the VICON-TM 3D-motion analysis system.

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	2名

	研究生の人数
02年度	1名
03年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
03年度	馬場 正之	助教授	保健学科4年	筋電図実習	8 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数
03年度	馬場 正之	助教授	2回(マイアミ大学, 福岡大学)	1 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名		科目		名	出席率		
03年度	馬場 正之	助教授	系統別講義:脳神経系				90%		

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名		職名			科	目	名	評	価
03年度	馬場	正之	助教授	系統別講義	脳神経系				3	.7

2) 専門教育の評価 2003年度 該当なし。

41. 細胞工学部門

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

これから2年間の目標:

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

- 1) 講義 該当なし。
- 2) 実習 該当なし。

【学部教育】

- 1) 講義 該当なし。
- 2)基礎実習 該当なし。
- 3) 臨床実習 該当なし。
- **4) OSCE** 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

- 1)講義 該当なし。
- 2) 実習 該当なし。
- 3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数 2) 研究生の人数 該当なし。

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】 該当なし。

【学生による授業評価】

- 1)授業評価 該当なし。
- 2) 専門教育の評価 該当なし。

42. 附属動物実験施設

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

前回の目標として実験者の動物実験に対する意識の向上,動物実験初心者に対する知識・技術の向上,施設職員の知識向上に努め、とくに学部あるいは大学院の講義に実験動物学をとりいれるように働きかけたいとした。実験者の動物実験に対する意識の向上,動物実験初心者に対する知識・技術の向上は約7割達しており,施設職員の知識向上はほぼ目標に達している。しかし学部あるいは大学院学生に達する教育はいまだに実現していない。

これから2年間の目標:

学部あるいは大学院生に対する講義実習は実現がかなり難しいので、動物実験初心者に対する知識・技術の向上、 施設職員の知識向上をさらに行いたい。

昨今,動物実験に対する社会の目は一段と厳しくなっている。これは広く生命倫理に向けられた社会的な批判と捉える必要があるが、実験者の中にはこれを一部の人と捉える人もある。実験者がより良い動物実験を行い、すばらしい研究成果を得るためには動物実験に対する社会の批判を十分認識し、より洗練した動物実験が行われなければならない。そのため実験者に実験動物倫理を積極的に働きかけたい。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義 該当なし。

2) 実習

	担当者名	職名	区分	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	八木澤 誠	助教授	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	3 回
03年度	八木澤 誠	助教授	基礎教育科目	基礎科学実験(生物)	3 回

【学部教育】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	八木澤 誠	助教授	医学概論	3年	1 回

- 2) 基礎実習 該当なし。
- 3) 臨床実習 該当なし。
- 4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1)講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0 名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
02年度	八木澤 誠	助教授	3年	家畜福祉衛生学	15回
03年度	八木澤 誠	助教授	3年	家畜福祉衛生学	15回

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
			基礎科学実験	100%
02年度	八木澤 誠	助教授	医学概論	80%
			家畜福祉衛生学	80%
00左连	った。 第一十二二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	中业位	基礎科学実験	100%
03年度	八木澤 誠	誠 助教授	家畜福祉衛生学	80%

【学生による授業評価】

- 1)授業評価 該当なし。
- 2) 専門教育の評価 2003年度 該当なし。

【その他】

1)研究室研修動物実験施設利用学生

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
02年度	八木澤 誠	助教授	4年	研究室研修による動物実験施設利用学生	1回
03年度	八木澤 誠	助教授	4年	研究室研修による動物実験施設利用学生	2 回

2)動物実験施設利用者

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
02年度	八木澤 誠 石田 邦夫	助教授 助手	教官,技官,大学院生	動物実験施設をはじめて利用する教職員	10回
03年度	八木澤 誠 石田 邦夫	助教授 助手	教官, 技官, 大学院生	動物実験施設をはじめて利用する教職員、大学院生	10回

43. 小児外科

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

- 1) 系統別講義では学生が理解できるように種々の工夫を行った。その結果、学生の出席率も良く、授業評価も極めて良好であった。
- 2) 外科特論は少ない時間数の割に内容が多いため、学生が理解しやすいように講義内容の更なる見直しが必要と思われた。
- 3) 臨床実習の評価は少ない教官にもかかわらず概ね良好であった。

これから2年間の目標:

- 1) 専門教育において、講義、実習を可能な限り担当する。
- 2) 最近の話題を常に講義内容に加え、学生が理解しやすい簡潔な教育を目指したい。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	棟方 博文	教授	21世紀教育	テーマ科目	健康	発達と老化	1回
00左眩	持士 基子	如何	0.1 川公本去	- 一一	健康	発達と老化	1回
03年度	棟方 博文	教授 21世紀教	21世紀教育	育 テーマ科目	人間	人間の尊厳	3 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
棟方 博文		教授	医学概論	1年	1 回
02年度	休刀 時又	教权	系統別講義(成長発達系)	5年	10回
	須貝 道博 助		外科特論	4年	2 回
	棟方 博文	教授	医学概論	1年	1 回
03年度		又 教授	系統別講義(成長発達系)	5年	10回
	須貝 道博	講師	外科特論	4年	2 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対象学年	回数又は期間
02年度	棟方 博力	女 教授	5・6年	18回
02平及	須貝 道博	朝 助手	5・6年	18回
00左座	棟方 博力	文 教授	5・6年	18回
03年度	須貝 道博	講師 講師	5・6年	18回

4) OSCE

	担当	職名	
02年度	棟方	博文	教授
03年度	棟方	博文	教授

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
00年度	博士 博士	料板	小児外科学特論	3年	15回
02年度	棟方 博文	教授	小児外科診断学	3年	15回

2) 実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
00左座	博士 博士	料 極	小児外科学特論•実習	3年	30回
02年度 棟方 博文	教授	小児外科診断学•実習	3年	30回	

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	6名
03年度	4名

	研究生の人数
02年度	1名
03年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
02年度	須貝 道博	助手	3年	助産診断学Ⅳ	2 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名 職名		回数	うちコ・メディカルの回数
02年度	棟方 博文	教授	1回(国立弘前病院附属看護学校)	1回
03年度	棟方 博文	教授	1回(国立弘前病院附属看護学校)	1 回

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
02年度	棟方 博文	教授	医学概論	98%
02平皮	傑刀 時又	教技	系統別講義(成長発達系)	95%
	棟方 博文	教授	医学概論	98%
03年度	棟方 博文	教技	系統別講義(成長発達系)	95%
	須貝 道博	講師	外科特論	75%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	召 職名	科 目 名	評 価
02年度	棟方博	文 教授	1) 医学概論 2) 系統別講義	(A) 3.8, (B) 3.6 (A) 4.3, (B) 4.2
	須貝 道	博 助手	3) 外科特論	
03年度	棟方博	文 教授	医学概論 系統別講義(成長発達系)	(A) , (B) (A) 4.7, (B) 4.7
	須貝 道	博 講師	外科特論	(A) 3.3, (B) 3.3

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
臨床実習	5 • 6年	36日	18	4.3	4.2

44. 薬剤部

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

医学部医学科および保健学科学生の教育,大学院学生の教育,SGT における学生の教育,共通教育講義,さらに薬学部(薬科大学)学生,県立保健大学の学生の教育に液晶プロジェクターを導入し,視覚の面から訴える教育を行い、それなりの評価を受けたため、目標を達成したものと考える。

学会の委員として、わが国での教育の発展にも寄与できたものと考える。

これから2年間の目標:

医学部医学科および保健学科学生の教育,大学院学生の教育,SGT における学生の教育,共通教育講義,薬学部(薬科大学)学生の講義および実務実習,県立保健大学の学生の教育に新たな学問の進歩を導入し,教育の充実を図る。とともに、学会の委員として、わが国でのさらなる教育の発展に努める。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	職名	区 分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
	菅原 和信	教授	教養	健康	薬と健康	薬害事件・薬物有害反応	1回
02年度	大久保 正	助教授	松美	健康	薬と健康	薬物動態と薬理遺伝学	1回
	大久保 正	助教技	教養	科学技術の発展	いのちの科学その発展と倫理	薬の発展の歴史	10回
00年度	本百 和层	**************************************	松美	(中) (古)	薬と健康	薬害事件・薬物有害反応	2 回
03年度	菅原 和信	信 教授	教養	健康	生活習慣と健康	生活習慣病と薬	2 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	菅原 和何	言 教授	治療の薬理学的基礎	4年	5 回
02平及	目/ 小川	5 教权	医学概論	3年	1 回
			治療の薬理学的基礎	4年	5 回
03年度	菅原 和信	教授	医学概論	3年	1 回
			チュートリアル教育	3年	1回

2) 基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対象学年	回数又は期間
02年度	菅原 和信	教授	5 • 6 年	20回
02平皮	02年度 菅原 和信	教技	1年	24回
00年度	03年度 菅原 和信	古百 和后 数域	5・6年	18回
03平皮		教授	1年	24回

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1)講義

	担当者名	沿 職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
03年度	菅原 和	信教授	薬剤学	1年	2 回

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数	
02年度	0名	
03年度	0名	

		研究生の人数
02	年度	0名
03	年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者	名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
02年度	菅原 和	信	教授	保健学科看護学1年	環境と健康Ⅱ	15回
03年度	菅原 和	信	教授	保健学科看護学1年	環境と健康Ⅱ	15回

【他大学・他施設における講義】

	担当	担当者名		回数	うちコ・メディカルの回数
02年月	菅原	和信	教授	18回	18回
03年度	菅原	和信	教授	18回	18回

【学生授業出席率】

	担当者名 職名		科 目 名	出席率
			薬害事件・薬物有害反応	90%
02年度	菅原 和	50-60%		
			医学概論	50%
			薬害事件・薬物有害反応	90%
			生活習慣病と薬	90%
03年度	菅原 和	信 教授	治療の薬理学的基礎	50-60%
			医学概論	50%
			チュートリアル教育	100%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名	科 目 名	評	価
02年度	菅原	和信	教授	治療の薬理学的基礎	(A) 3.4	(B) 3.3
03年度	菅原	和信	教授	治療の薬理学的基礎	(A) 3.7	(B) 3.6
03平皮	日原	和旧	7人1又	医学概論	(A) 3.9	(B) 3.9

2) 専門教育の評価 2003年度

授 業 科 目	対象学年	実習日数	実習総コマ数	学生による評価A	学生による評価B
SGT	5 • 6年	18	18	3.8	3.6

45. 手術部

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

ほぼ到達された。

これから2年間の目標:

手術部における医療安全推進教育を徹底させる。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

- 1)講義 該当なし。
- 2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名 職名		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	₩. H.	哲博	助教授	医学概論	4年	1 回
02年度	坂井			麻酔科学	5年	3 回
	橋本	浩	助手	脳外科、心臓外科の麻酔	5年	2 回
03年度	坂井	哲博	助教授	麻酔科学	4年	3 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名		職名	対象学年	回数又は期間
00左時	坂井	哲博	助教授	6年	50回
02年度	橋本	浩	助手	5 • 6 年	SGT の期間
03年度	坂井	哲博	助教授	5年	25回

4) OSCE

	担当	者名	職名
02年度	坂井	哲博	助教授
03年度	坂井	哲博	助教授

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1)講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数
03年度	坂井 哲博	助教授	1 回	

【学生授業出席率】

	担当	者名	職名	科 目 名	出席率
02年度	坂井	哲博	助教授	麻酔科学	98%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名	科 目 名	評 価
00年度	坂井	哲博	助教授	麻酔科学	4.4
02年度	橋本	浩	助手	麻酔科学	С
03年度	坂井	哲博	助教授	麻酔科学	4.2

46. 検査部

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

目標は概ね達成できた。

これから2年間の目標:

検査部に実習・見学に来る学生に将来の診療に役立つ情報・技術を教示する。 学生が代謝性疾患について理解を深められるように臨床検査医学講座の講義を担当する。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

- 1)講義 該当なし。
- 2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	杉本 一博	講師	代謝性疾患	4年	1 回
03年度	杉本 一博	講師	代謝性疾患	4年	1 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対象学年	回数又は期間
02年度	杉本 一博	講師	6年	54回
03年度	杉本 一博	講師	6年	54回
03平及	10年 一時	山田中田	1年	11回

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数		指	導	者	名	
03年度	2名	杉本 一博					

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
03年度	杉本 一博	講師	糖尿病の分子機構	1年	1 回

2) 実習

	担当者名 職名		授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年月	杉本 一博	講師	臨床実地見学実習	1年	11回

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
02年度	杉本 一博	講師	チュートリアル教育 適切な成績評価を考える 卒後臨床研修ワークショップ

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】 該当なし。

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
02年度	杉本 一博	講師	代謝性疾患	3 2
03年度	杉本 一博	講師	代謝性疾患	3 3

47. 放射線部

努 偽剞嗣嚼 惨嘲ン

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

これから2年間の目標:

幹价全ン

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

- 1)講義 幹价全ン
- 2) 実習 幹价全ン

【学部教育】

- 1)講義 幹价全ン
- **2)基礎実習** 幹价全ン
- 3) 臨床実習 幹价全ン
- **4) OSCE** 幹价全ン

【研究室研修】ヱヱ 幹价仝ン

【大学院】

- 1)講義 幹价全ン
- 2) 実習ヱヱヱヱ 幹价仝ン
- 3) 学位論文 幹价全ン

【ファカルティ・ディベロップメント】 幹价全ン

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数 2) 研究生の人数 ユヱ 幹价全ン

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 幹价全ン

【他大学・他施設における講義】 幹价全ン

【学生授業出席率】 幹价全ン

【学生による授業評価】

- **1)授業評価** 幹价全ン
- **2) 専門教育の評価** 幹价全ン

48. 救急部

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

予定した目標は100%達成できたと考える。

これから2年間の目標:

卒後研修医並びに学生のクラークシップを受け入れる事, 救急救命士並びに救急隊員の教育を受け入れる事により, 救急医療に関する臨床医学教育の充実を図る。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区 分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	滝口	雅博	助教授	教養科目	自然領域	病気の科学	癌・成人病とその予防	2 回
03年度	滝口	雅博	助教授	教養科目	自然領域	病気の科学	癌・成人病とその予防	2 回
03平及	代出口	1世1号	助教技	羽食 件日	日然限域	健康と運動の科学	救急医療を考える	2 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義 該当なし。

2)基礎実習

	担当	i者名	職名	授	業	科	目	対象	食学年	回数又は期間	
03年度	滝口	雅博	助教授	Pre-SGT				5	年	8 回	

3) 臨床実習

	担当	者名	職名	対象学年	回数又は期間
02年度	滝口	雅博	助教授	5 • 6 年	18回
00年度	浅利	靖	教授	5 • 6 年	5 回
03年度	滝口	雅博	助教授	5 • 6 年	16回

4) OSCE

	担当	担当者名		
02年度	滝口	雅博	助教授	

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1)講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
00年度	滝口 雅博	· 助教授	医療短期大学部専攻科	産科麻酔•母子救急医療	10回
02年度	滝口 雅博	9 助教技	2年	医療工学	8回
			医療短期大学部専攻科1年	産科麻酔·母子救急医療	10回
03年度	滝口 雅博	専 助教授 <u>医类型促体类别。</u> 在		救急蘇生医学	8回
			医学部保健学科2年	医学工学	8 回

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

	担当	者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数	
02年度	滝口	雅博	助教授	7 回	7 回	
03年度	滝口	雅博	助教授	7 回	7 回	

【学生授業出席率】 該当なし。

【学生による授業評価】

- 1)授業評価 該当なし。
- 2) 専門教育の評価 2003年度 該当なし。

49. 輸血部

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

割り当てられた時間の中で輸血部専任教官が医学部学生に輸血の知識を講義した。

これから2年間の目標:

従来と同様に持続する。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
03年度	木村あさの	講師			輸血後感染症エイズ, 肝炎について	生活習慣と健康(C)	2 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	木村あさの	講師	系統講義(免疫のうち輸血の感染症), (血液系のうち輸血治療), (検査医学のうち輸血検査)	4年	3 回
03年度	木村あさの	講師	1. 輸血検査 2. 輸血治療 3. 輸血後感染症	4年	3 回

2)基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
03年度	木村あさの	講師	臨床臨地実習	1年	48時間

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対象学年	回数又は期間
02年度	木村あさの	講師	5 • 6 年	36グループ計36日
03年度	木村あさの	講師	医学部 5 年 • 6 年	18回160時間

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1)講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
03年度	木村あさの	講師	3年	輸血部実習	14回

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】 該当なし。

【学生による授業評価】

1)授業評価 該当なし。

50. 集中治療部

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

おおむね達成できた。

これから2年間の目標:

学生, 研究医に対して, 可能な限り情報を発信する。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名		担当者名 職名 区 分		領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	坪	敏仁	講師			薬と中毒		2 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	坪	敏仁	講師	集中治療	5年	4 回
00年度	坪	敏仁	講師	麻酔•蘇生系	5年	2 回
03年度	大川	浩文	助手	麻酔•蘇生系	5年	2 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名		職名	対象学年	回数又は期間
02年度	坪	敏仁	講師	5 • 6 年	1 年間
02平及	高橋	敏	助手	5 • 6 年	1 年間
00左曲	坪	敏仁	講師	5 • 6 年	1 年間
03年度	大川	浩文	助手	5 • 6年	1 年間

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受入人数				指	導	者	名	
02年度	2名	坪	敏仁, 大川	浩文					

【大学院】

1)講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0 名
03年度	0 夕

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名		職名	科 目 名	出席率
00年度	坪	敏仁	講師	麻酔•蘇生系	
02年度	高橋	敏	助手	麻酔·蘇生系	
00年度	坪	敏仁	講師	麻酔•蘇生系	約95%
03年度	大川	浩文	助手	麻酔・蘇生系	約95%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名		職名	科 目 名	評	価
00年度	坪	敏仁	講師	麻酔•蘇生系		
02年度	高橋	敏	助手	麻酔•蘇生系		
00年度	坪	敏仁	講師	麻酔•蘇生系		
03年度	大川	浩文	助手	麻酔•蘇生系	A3.7,	B3.4

51. 周産母子センター

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

到達度は70%と評価する。

これから2年間の目標:

周産期医療をよりいっそう理解し興味を持ってもらえるように、動画や画像をもっと取り入れてわかりやすい教育を目指す。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
	樋口	毅	講師	生殖系	5年	4 回
02年度	佐藤	工	講師	新生児疾患	5年	2 回
	尾崎	浩士	学部長講師	産科学	5年	1回
	尾崎	浩士	助教授	産科学	5年	6 回
03年度	樋口	毅	講師	産科学	5年	6 回
	佐藤	工	講師	新生児疾患	5年	4 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名		職名	対象学年	回数又は期間
	柴田	滋	助手	5 • 6 年	40週
02年度	田中	幹二	助手	5 • 6 年	40週
	樋口	毅	講師	5 • 6年	40週

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
00年度	樋口 翁	講師	生理系「糖鎖医学」	1 • 2 年	1回
03年度	田中 幹二 助手		生理系「糖鎖医学」	1 • 2 年	1 回

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
02年度	田中 幹二	助手	卒後臨床研修ワークショップ
03年度	柴田 滋	助手	卒後臨床研修ワークショップ

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0 名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0 名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者		職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
00年度	田中	幹二	助手		専攻科助産学特別専攻 乳幼児発達論	4 回
02年度	樋口	毅	講師		専攻科助産学特別専攻 助産学	1回
00年度	尾崎	浩士	非常勤講師		乳幼児発達論	2 回
03年度	田中	幹二	非常勤講師		乳幼児発達論	4 回

【他大学・他施設における講義】

	担当者名		職名	回数	うちコ・メディカルの回数
02年度	田中	幹二	助手	4 回	4 回
03年度	尾崎	浩士	非常勤講師	4 回	4 回
	田中	幹二	非常勤講師	4 回	4 回

【学生授業出席率】

		担当者名	職名	科 目 名	出席率
03	年度	尾崎 浩士	助教授	産科学	45%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
03年度	尾崎 浩士	助教授	産科学	3.7

52. 病理部

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

共通教育・卒前、卒後の専門教育へは十分参画できた。

講義の内容を検討した結果、学生の評価が向上した。

卒後研修医の指導と大学院生の研究指導は十分実行でき、ほぼ目標は達成された。

保健学科の臨地実習は充実したものとなったが、学部の実習には十分対応できなかった。

これから2年間の目標:

卒前、卒後教育への参加を積極的に行う。

卒前における学生の臨床実習に病理部の参画も試みる。

学生実習における病理部の重要性を標本、迅速診断などで認識させる。

卒後研修医の指導や大学院生などの研究指導をさらに充実させる。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者	音名	職名	区 分	領 域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	鎌田	義正	助教授	基礎教育科目	自然系基礎	生物学の基礎	生物学の基礎Ⅱ	5 回
03年度	鎌田	義正	助教授	基礎教育科目	自然系基礎	生物学の基礎	生物学の基礎Ⅱ	5 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名		職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	鎌田	義正	助教授	人体の病理と病態(各論)	4年	6 回
03年度	鎌田	義正	助教授	人体の病理と病態	4年	3 回

2)基礎実習

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
03年度	鎌田 義正	助教授	人体の病理と病態	4年	3 回

3) 臨床実習 該当なし。

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】

	受 入 人 数		指	導	者	名	
02年度	1名	鎌田 義正					
03年度	1名	鎌田 義正					

【大学院】

1)講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】 該当なし。

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	1名

	研究生の人数
02年度	1名
03年度	1名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
02年度	鎌田 義正	助教授	衛生技術学科3年	臨床実習	6ヶ月
03年度	鎌田 義正	助教授	保健学科3年	病理部臨地実習	4ヶ月

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当:	者名	職名	科 目 名	出席率
02年度	鎌田	義正	助教授	人体の病理と病態(各論)	98%
03年度	鎌田	義正	助教授	人体の病理と病態	98%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
02年度	鎌田 義正	助教授	人体の病理と病態(各論)	3.6
03年度	鎌田 義正	助教授	人体の病理と病態	4.0

53. 医療情報部

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

(羽田)

新カリキュラム「医療管理学」に含まれる内容の責任分担:実習 preSGT「医療面接」を担当した。到達度は 90 %。 (三上)

前回の目標は、研究や勉学のために、統計的なものの考え方ができるようになることと、論文等に出てくる統計内容が理解できるような学生を育てることであった。

この目標に対する到達度は学部学生によってばらつきは認められるが、ほぼ達成したと考える。

これから2年間の目標:

(羽田)

新カリキュラム「医療管理学」の分担: 4年次後期講義の『病院管理学』を責任分担する。

 $(\equiv F)$

実験計画ができる学生を育てること。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区分	領 域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
	羽田	隆吉	教授	教養	自然	人体の科学	人体の機能とその調節	3 回
02年度	-: L	聖治	助教授	基礎教育科目			統計学(Ⅰ)	14回
	二上	至佰	助教技	基啶 教 目 件 日			統計学(Ⅱ)	13回
00年度	羽田	隆吉	教授			テーマ科目	情報の伝達	1回
03年度	三上	聖治	助教授	基礎教育科目	自然系基礎		統計学の基礎	15回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
			医学概論	3年	1回
02年度	羽田 隆吉	教授	医学英語	4年	8 回
			医学概論	4年	10回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名 職名		対象学年	回数又は期間	
02年度	羽田 隆吉	教授	5年	9 回	
03年度	羽田 隆吉	教授	医学科 5 年(preSGT「面接・患者対応」)	8 回	

02年度 ※Pre-SGT 医療面接(実習第1週目~3週目)

4) OSCE

	担当	職名	
02年度	羽田	隆吉	教授

※学務主任の代行(実施責任者)

5) CBT

	担当	職名	
02年度	羽田	隆吉	教授

※学務主任の代行(実施責任者)

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	羽田	隆吉	教授	社会医学系「社会と生命」	1 • 2 年	3 回
00年度	羽田	隆吉	教授	総合(1)講義		1 回
03年度	(船水	亮平)	(※)	(大学院遠隔講義支援)		30回

03年度 ※実験助手技能補佐員

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
02年度	羽田 隆吉※	教授	平成14年度医学部医学科ファカルティディベロップメント(『チュートリアル教育』平成14年11月16日)
03年度	三上 聖治	助教授	激論!学生による授業評価は大学教育を良くするか。

02年度 ※会場の機器準備・調整等

【医師の生涯教育】

1)研修登録医の人数

2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名		職名 回数		うちコ・メディカルの回数
02年度	羽田	隆吉	教授	15回	15回
00年時	羽田	隆吉	教授	15回	15回(国立弘前病院附属看護学校『臨床英語』)
03年度	三上	聖治	助教授	30回	0 回

02年度 ※国立弘前病院附属看護学校[臨床英語]

【学生授業出席率】

	担当者名	職名	科 目 名	出席率
02年度	羽田 隆吉	教授	医学概論(3年)	38% (41/109)
	动田 攻士	**************************************	preSGT	100%
03年度	3年度 羽田 隆吉 教授		21世紀教育「情報の伝達」	90%
	三上 聖治	助教授	統計学の基礎	92%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科目	名	評	価
02年度	羽田 隆吉	教授	医学概論(3年)		(A) 3.3,	(B) 3.2

54. 光学医療診療部

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

内視鏡診断、治療のみならず、消化管疾患全般の臨床について教育・指導を充実させる。卒後臨床研修の必修化に向けて、研修カリキュラムを充実させる。

到達度:50%,慢性的なマンパワー不足の解決が急務である。卒後臨床初期研修における当診療部の使命は概ね果たした。

これから2年間の目標:

卒後後期研修において、内視鏡診断、治療のみならず、消化管疾患全般の臨床について教育・指導を充実させる。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者	名	職名	区 分	領域	授業主題 授業科目名		回 数 又は期間
02年度	福田	真作	助教授	テーマ	健康	最新医学の現状	消化器疾患の最前線	3 回
03年度	福田	真作	助教授	テーマ	健康	最新医学の現状	消化器疾患の最前線	3 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当	者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	福田	真作	助教授	系統別講義(消化器系)	4年	3 回
		真作		系統別講義(消化器系)	3年	3 回
03年度	福田		助教授	77NL加曲线(旧1L467V)	4年	3 回
				チュートリアル	3年	3 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名		職名	対象学年	回数又は期間
00年度	福田	真作	助教授	5 • 6 年	36回(週)
02年度	三上	達也	助手	5 • 6 年	36回(週)
00左座	福田	真作	助教授	5 • 6年	18回
03年度	三上	達也	助手	5 • 6年	18回

4) OSCE

	担当	職名	
00年度	福田	真作	助教授
02年度	三上	達也	助手
00左阵	三上	達也	助手
03年度	福田	真作	助教授

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1)講義 該当なし。

2) 実習

		担当者名		職名	授	業	科	目	対象学年	回数又は期間
03年	度	福田	真作	助教授	応用実習				2年	30回

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加	者名	職名	名 称 等
02年度	福田	真作	助教授	第1回弘前大学医学部附属病院臨床教育ワークショップ

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数 2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当	者名	職名	科 目 名	出席率
02年度	福田	真作	助教授	系統別講義(消化器系)	80—90%
00年度	ケロ カー	古/七	助教授	系統別講義(消化器系) 3年	90%
03年度	福田	真作	助教技	系統別講義(消化器系) 4年	80—90%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名	科 目 名	評	価
02年度	福田	真作	助教授	系統別講義(消化器系)	(A) 4.1	(B) 4.1
00年度	/ カロ	古化	助教授	系統別講義(消化器系) 3年	(A) 3.9	(B) 3.8
03年度	福田	真作	助教技	系統別講義(消化器系) 4年	(A) 4.2	(B) 4.2

55. リハビリテーション部

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

系統講義の内容の充実

→到達度 90 %

臨床実習における効率的な指導の達成

→到達度 90 %

これから2年間の目標:

臨床実習における指導に、より臨床的な側面を取り入れる。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	器 職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
			共通教育	文化	人間と発達	成長と発達	2 回
02年度	近藤 和	泉助教授	21世紀教育	健康	障害者の健康	障害者の健康(C)	3 回
			21世紀教育	健康	発達と老化	発達と老化(A)-2	1回
03年度	近藤 和:	泉 助教授	21世紀教育	健康	障害者の健康	障害者の健康(C)	5 回
いり十段	妊療 和。	水 助教技	21世紀教育	健康	発達と老化	発達と老化(A)-2	1回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名	職名	授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	近藤 和泉	助教授	系統別講義(運動器系)	5年	3 回
03年度	近藤 和泉	助教授	系統別講義(運動器系)	5年	3 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当	者名	職名	対象学年	回数又は期間
02年度	近藤	和泉	助教授	5 • 6年	18回
03年度	近藤	和泉	助教授	5 • 6年	18回

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1)講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
02年度	近藤 和泉	助教授	弘前大学医学部附属病院臨床教育ワークショップ
03年度	細川賀乃子	助手	弘前大学医学部附属病院臨床教育ワークショップ

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数 2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】 該当なし。

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名	職名	科 目 名	評 価
03年月	近藤 和泉	助教授	系統別講義(運動器系)	(A):4.0 (B):3.9

56. 総合診療部

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

新医師臨床研修制度に対応した、新しい研修医教育システムの基礎作りが行われた点で到達度は80%と思われる。

これから2年間の目標:

- Pre SGT の充実
- 卒後研修の充実

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当	者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
03年度	大沢	弘	講師	基礎教育	健康		生活習慣と健康(2)	3 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名		授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
00年度	1-7-12 P/	講師	内科特論	4年	1回
03年度	大沢 弘 	神印	系統別講義腎尿路系	5年	5 回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対象学年	回数又は期間		
03年度	大沢 引	講師	5 • 6 年	18回		

4) OSCE

	担当者名	職名		
03年度	大沢 弘	講師		

【大学院】

1)講義

	担当者名		職名	授	業	科	目	対象学年	回数又は期間
03年度	大沢		講師	内科系				1 • 2 年	1回

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文

	作成指導	者名	職名		指	導	論	文	名		
03年度	大沢	弘	講師	Tissue factor pathway in culture Thrombin stimulates provia a transforming grow	oduction	of fibrone	ctin b	y huma	n proxima	•	

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名 職名		職名	名 称 等
	加藤	博之	第4回弘前大学卒後臨床教育ワークショップ	
00年度		弘	、講師	第10回医学教育セミナーとワークショップ in 大阪
03年度	大沢			第3回弘前大学卒後臨床教育ワークショップ
				第4回弘前大学卒後臨床教育ワークショップ

【医師の生涯教育】

1) 研修登録医の人数 2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】

	担当者名	職名	回数	うちコ・メディカルの回数		
03年度	加藤 博之	教授	32回	17回		

【学生授業出席率】

	担当者	省名	職名		科	目	名	出席率
03年度	大沢	弘	講師	系統別講義腎尿路系				70%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当	者名	職名		科	目	名	評	価
03年度	大沢	弘	講師	系統別講義腎尿路系				3	3.8

57. 卒後臨床研修センター

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

卒後教育については85%。卒前教育については75%。全体を通じて80%。

これから2年間の目標:

総合診療部教官として、卒前・卒後教育のレベルアップを図る。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者	皆名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	大沢	弘	講師	教養	自然	病気の科学	文明の発展と現代医学	4 回

2) 実習 該当なし。

【学部教育】

1)講義

	担当者名 職名		授 業 科 目	対象学年	回数又は期間
02年度	大沢 弘	講師	内科特論 系統別講義(腎尿路系)	4年 5年	1回5回

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対象学年	回数又は期間
02年度	大沢 弘	講師	6年	36回

4) OSCE

	担当	者名	職名		
02年度	大沢	弘	講師		

【研究室研修】

	受 入 人 数			指	導	者	名		
02年度	1名	大沢	弘						

【大学院】

1)講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加者名	職名	名 称 等
02年度	大沢	弘 講師	平成14年度臨床研修指導医養成講習会

1) 研修登録医の人数 2) 研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】 該当なし。

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】

	担当者名		職名		科	目	名	出席率
02年度	大沢	弘	講師	系統別講義(腎尿路系)				70%

【学生による授業評価】

1)授業評価

	担当者名 職名		職名		科	目	名	評	価
02年度	大沢	弘	講師	系統別講義(腎尿路系)				A:3.9,	B:3.8

58. メディカルスクール研究センター

前回(2年前)設定した目標に対する到達度:

これから2年間の目標:

3年次編入学がスタートして1年が経過したが、実施にあたり制度として多くの改善点がある事が分かった。今後、これらを改善することが当面の目標である。

(1) 教育

【21世紀教育・共通教育】

1)講義

	担当者名	職名	区分	領域	授業主題	授業科目名	回 数 又は期間
03年度	松谷 秀哉	講師	テーマ科目	情報		情報ネットワーク 情報の伝達	13回 2回

2) 実習

	担当	者名	職名	区 分	授業科目名	回 数 又は期間
02年度	松谷	秀哉	講師	自然系基礎	基礎科学実験(物理)	36回
03年度	松谷	秀哉	講師	自然系基礎	基礎科学実験(物理)	81回

【学部教育】

1)講義 該当なし。

2)基礎実習 該当なし。

3) 臨床実習

	担当者名	職名	対象学年	回数又は期間
03年度	松谷 秀哉	講師	6年	20回

4) OSCE 該当なし。

【研究室研修】 該当なし。

【大学院】

1)講義 該当なし。

2) 実習 該当なし。

3) 学位論文 該当なし。

【ファカルティ・ディベロップメント】

	参加	者名	職名	名 称 等
02年度	松谷	秀哉	講師	医学部医学科ファカルティ・ディベロップメント(チュートリアル教育について)

1)研修登録医の人数 2)研究生の人数

	研修登録医の人数
02年度	0名
03年度	0名

	研究生の人数
02年度	0名
03年度	0名

【本学他学部と医学部保健学科の教育】

	担当者名	職名	対象学年	科 目 名	回数又は期間
03年度	松谷 秀哉	講師	3年	コンピュータ概論演習	12回

【他大学・他施設における講義】 該当なし。

【学生授業出席率】 該当なし。

【学生による授業評価】

1)授業評価 該当なし。

(別 表)

【医学部医学科学生について】

資料1 医学部前期・後期入学者の進級状況

		前 期			後期	
入学年度	入学者数	留年数	退学者数	入学者数	留年数	退学者数
2002年度	50	0	0	10	0	0
2003年度	50	0	0	10	0	0

資料 2 国際交流

国際交流として学部学生による外国の大学や施設での研修・実習、および海外からの学生の本学での研修が行われており、これらの活動については国際交流研究委員会が中心となって相手先との打合せや交流学生へ援助の決定などを行っている。一方、海外からの本学部への留学生については学務主任を中心とする学務委員会が対応している。研究留学については研究科の項で言及する。

(1) 学部留学生

	留学生数	国 籍	私費又は国費
02年度	5 名	台湾 1 韓国 1 中国 2 カナダ 1	私費
03年度	8名	台湾 1 韓国 1 中国 5 カナダ 1	私費

(2) 姉妹校などの交流

1) テネシー大学メンフィス校との学生交流

1/ / ホン・ハチュック 1 へほとのサエスル 本医学部は1978年12月14日に米国テネシー州メンフィスにあるテネシー大学保健学科センターと国際交流協定を結んでいる。この協定により、訪問交流の促進、医学教育・研究の情報交換、両大学の共同研究プロジェクトの推進、医学情報等の交換、それに学生・研究生・レジデントなどの相互交流が行われている。5・6年目の学部学生から毎年1~2名がメンフィスに派遣され、有意義な研修を行っている。しかし最近メンフィスから本学に研修に訪れる学生がおらず、相互交流という点で十分とはいえないのが現状である。

		派	遣		受	入
	学生数	期	間	学生数	期	間
02年度	2名	7/28~8/16		_		_
03年度	_		_	_		_

2) 極東総合医科大学との交流

1995年12月14日にロシア国ハバロフスク医科大学と本学との間に学術交流に関する合意書と研究者及び学生交流に関する覚書が取り交わされ、平成8年度から毎年2名の学生の相互研修を行ってきている。なお、ハバロフスク医科大学は極東総合医科大学と改称され、国際交流の合意書の更新が2000年(平成12年9月17日)に行われた。今後は特に問題の生じない限り自動的に更新されることになった。

		派	遣		受	入
	学生数	期	間	学生数	期	間
02年度	_	_		2名	8/18~9/1	
03年度	_	-	_	_		_

3) 三沢米軍病院におけるエクスターンシップ

米軍三沢基地病院(第35医療大隊)の協力を得て、弘前大学医学部専門課程3、4次学生(新カリキュラムでは医学部5、6年生に相当)を対象として同病院における学生の研修受け入れが行われており、平成7年度から1~2名派遣している。アメリカの医療の実態を見学すると共に、アメリカ人医師から直接学習できる好い機会となっている。

	派遣学生数	派遣期間
02年度	3名	$2 A = 8/12 \sim 19$, $1 A = 9/23 \sim 27$
03年度	_	_

医学部における学生の国際交流は全体として極めて活発とはいえないものの、これが現状で行える最大限ともいえる。その主な理由は国際間の大学における単位の相互互換ができないからである。第二に、カリキュラム日程の相違や、国際交流活動の主たる時期である夏季休業中に試験や東日本医科大学体育大会の組まれていることがあげられよう。第三に学生の意欲の問題である。積極的に海外に出かけ、海外の医学生がどのように勉強しているかに関心を寄せる学生がかつては少なかった。しかし、本学部における教育として医学英語に力を入れており、今後の国際交流が一層盛んになることを期待したい。

資料 3 日本育英会奨学生

	学 生 数	奨 学 第 一 種	生 数 第二種	計	比 率
02年度	582名	61名	86名	141名	24.2%
03年度	576名	71名	93名	156名	27.1%

[※]第一種・第二種を併願している学生もいるため、計の数に若干の差異が生じる。

資料 4 平成15年度医学部(医学科)授業時間割

【平成15年度入学者】

[1年次]

[前期]

曜日	1 • 2 (8:40~10:10)	3 • 4 (10:20~11:50)	5 • 6 (12:40~14:10)	7 • 8 (14:20~15:50)	9 • 10 (16:00~17:30)
月		医学概論	基礎人体科学演習		(基礎ゼミナール)
火		(情報処理演習)	(基礎教育科目)	(基礎教育科目)	(基礎教育科目)
水	(英語Ⅱ)	(多言語Ⅰ)	臨床実地	見学実習	
木			(基礎教育科目)	(基礎教育科目)	(基礎教育科目)
金	(多言語Ⅰ)	(英語Ⅱ)	(基礎教育科目)	(基礎教育科目)	(基礎教育科目)

[後期]

時限	1 • 2	3 • 4	5 • 6	7 • 8	9 • 10
曜日	$(8:40\sim10:10)$	$(10:20\sim11:50)$	$(12:40\sim14:10)$	$(14:20\sim15:50)$	(16:00~17:30)
月			基礎人体科学演習		医学英語A 医学英語B
火		(テーマ科目)	(テーマ科目)	(基礎教育科目)	(基礎教育科目)
水	(英語Ⅱ)	(多言語Ⅱ)	臨床実地	臨床実地見学実習	
木		(テーマ科目)	(テーマ科目) (基礎教育科目)		(基礎教育科目)
金	(多言語Ⅱ)	(英語Ⅱ)	(テーマ科目)	(テーマ科目)	(基礎教育科目)

^{*「}臨床医学入門実習(1年次)」: 平成15年9月17日(水)~25日(木)に行う。 **「臨床医学入門実習反省会(1年次)」: 平成15年9月26日(金)14:30~行う。

【平成14年度以前入学者】

[2年次以上]

[前 期]

	時限	1 • 2	3 • 4	5	• 6	7 • 8	9 • 10
曜日今	绛	(8:40~10:10)	$(10:20\sim11:50)$	l ~	~14:10)	(14:20~15:50)	$(16:00\sim17:30)$
	2	人体の構造と機能Ⅱ	代謝と栄養	人体の構	造と機能 I	感染と生体防御機構 I	医学概論
	3		研	究 :	室 研	修	
月	4		治療の薬理学的基礎	内科	 特論	外科特論	免疫学•遺伝子科学
	5	系統別講義 〔代謝内分泌系〕	系統別講義 〔成長発達系〕		別講義 器系]	系統別講義 〔感覚器系〕	系統別講義 〔呼吸器系〕
	6		描	床	実	羽吕	
	2	(テーマ科目)	(テーマ科目)				医学英語 A 医学英語 B
	3	治療の薬理学的基礎 ①		,	人体の構造。	と機能Ⅰ実習	
火	4		人体の病理と病態	医学	英語A	医学英語B	医学概論
	5	系統別講義 〔精神系〕	系統別講義 〔成長発達系〕		別講義 吉合織系〕	系統別講義 〔腎•泌尿器系〕	系統別講義 〔麻酔・蘇生系〕
	6		臨	床	実	習	
	2	(テーマ科目)	(テーマ科目)				
	3	人体の病理と病態			人体の構造。	と機能Ⅰ実習	
水	4	社会と医学 [人体の病理と病態			研究室研修	
	5	系統別講義 〔免疫系〕	系統別講義 〔脳•神経系〕		別講義 申系〕	系統別講義 〔感覚器系〕	系統別講義 〔感覚器系〕
	6		猫	床	実	習	
	2	(テーマ科目)	(テーマ科目)				
	3	免疫学•遺伝子科学		,	人体の構造。	と機能Ⅰ実習	
木	4	社会と医学Ⅱ	人体の病理と病態			研究室研修	
	5	系統別講義 〔生殖系〕	系統別講義 〔血液系〕		別講義 吉合織系〕	系統別講義 〔生殖系〕	系統別講義 〔麻酔•蘇生系〕
	6		臨	床	実	羽白	
	2	人体の構造と機能Ⅱ	代謝と栄養		(基礎科	学実験(物理・化学・	生物))
	3	研 宪 ء	室 研 修			人体の構造と機能Ⅰ実習	Э
金	4	社会と医学Ⅱ	感染と生体防御機構 I			研究室研修	
	5	系統別講義 〔循環器系〕	系統別講義 〔歯口腔系〕		別講義 器系〕	系統別講義 〔腎•泌尿器系〕	系統別講義 〔消化器系〕
	6		臨	床	実	習	

[後期]

曜日学	瞬率	$ \begin{array}{c} 1 \cdot 2 \\ (8:40 \sim 10:10) \end{array} $	$3 \cdot 4$ (10: 20 \sim 11: 50)	5 • (12:40~	-	$7 \cdot 8$ (14:20 \sim 15:50)	$9 \cdot 10$ (16:00 \sim 17:30)
	2	人体の構造と機能Ⅰ	人体の構造と機能Ⅱ		の構造と機 と栄養実習	能Ⅱ実習,感染と生体	防御機構Ⅰ実習
	3		研	究 室	至 研	修	
月月	4	系統別講義 〔検査医学〕	系統別講義 〔放射線医学〕	系統別 〔代謝内		系統別講義 〔消化器系〕	系統別講義 〔呼吸器系〕
	5		臨	床	実	習	
	6		総	合	弒	験	
	2						人体の構造と機能 II (8) 代謝と栄養(7)
	3	人体の病理と病態	治療の薬理学的基礎	系統別 〔消化		系統別講義 〔代謝内分泌系〕	
火	4	系統別講義 〔消化器系〕	系統別講義 〔循環器系〕		基	礎 医 学 実	習
	5		臨	床	実	習	
	6		総	合	試	験	
	2				の構造と機 と栄養実習	能Ⅱ実習,感染と生体	防御機構Ⅰ実習
	3	外科学総論/ 臨床総論	系統別講義 〔循環器系〕		研	究 室 研	修
水	4	系統別講義 〔免疫系〕	系統別講義 〔脳•神経系〕		基	礎 医 学 実	習
	5		臨	床	実	習	
	6		総	合	試	験	
	2			医用約 コンピュ			
	3	人体の病理と病態	感染と生体防御機構 Ⅱ	治療	の薬理学的	基礎実習,感染と生体	防御機構Ⅱ実習
木	4	系統別講義 〔生殖系〕	系統別講義 〔血液系〕		基	礎 医 学 実	習
	5		臨	床	実	習	
	6		総	合	試	験	
	2	感染と生体防御機構 I	代謝と栄養		(基礎科	学実験(物理・化学・	生物))
	3			系統別 〔生殖		系統別講義 〔成長発達系〕	
金	4	系統別講義 〔循環器系〕	系統別講義 〔代謝内分泌系〕		基	礎 医 学 実	習
	5		臨	床	実	習	
	6		総	合	試	験	

^{*} 総合試験 (6年次): 平成15年11月10日(月)~12日(水)

資料 5 専門教育科目及び単位配当表 【平成15年度入学者】

投 养 科 目 位 1 2 3 4 5 6				出			年		次	別	単	位	î.	数		
下		Ż	授 業 科 目	単位]						4			5	(3
門医 学 英 語 3				1.22	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
日	専		学 概 論		1		1									
日	門其					1	1				1					
日	礎							2								
A 体の構造と機能	科	基														
B					3	3					1					
中の構造と機能 1 3 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1							1	1								
中 中 中 中 中 中 中 中 中 中		基							8							
では、							2									
同		-45.5	中 東 省				0									
		雌														
P							1									
B							1									
下 下 下 下 下 下 下 下 下 下		医						1		1						
中 中 中 中 中 中 中 中 中 中																
Parison	専	24							1							
A		子							-							
日 日 東 智 3																
日 日 日 日 日 日 日 日 日 日		科									3					
日											1	2				
日 同 実 習 2 1 1 1 2 1 1 1 1 1		_	П								1					
 免疫学・遺伝子科学 1 高		目	同 実 習	2								2				
代謝内分泌系 3									1							
株				3						1	2					
様 様 接 接 接 接 E E E E E E		臨	代謝内分泌系	3						1	2					
Formula Fo	17		循環器系	3						1	2					
R			呼 吸 器 系	2							2					
本 (本) (本			系 血 液 系	2							2					
株 株 株 株 株 株 株 株 株 株				2								2				
A		床									1	2				
科 精 神 系 2 2 1 2 2 2 2 2 1 2 2 2 1<		VIC	100									2				
R											2					
Table Ta																
日 世期			感 覚 器 系								1					
皮膚・結合繊系 2 成長発達系 3 歯 口腔系 1 検査医学 1 放射線医学 1 麻酔・蘇生系 2 加齢医学 1 機能回復 1 臨床薬理 1 救急医学 1 電床医学入門実習 1 1	科	匠	理 期 布 糸													
書 古 上 1 </td <td></td> <td>区</td> <td></td>		区														
学 積 査 医 学 1 </td <td></td> <td></td> <td>l</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td><u> </u></td> <td></td> <td></td> <td></td>			l								2		<u> </u>			
() 数											-	1	<u> </u>			
学 義 麻 酔・蘇 生 系 2 2 加 齢 医 学 1 1 機 能 回 復 1 1 臨 床 薬 理 1 1 救 急 医 学 1 1 臨 床 医 学 入 門 実 習 1 1 1													-			
Image: Control of the property of the proper		33.6.	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·								1	9	-			
機能回復1 臨床薬理1 救急医学1 臨床医学入門実習11		子	12								1					
[a] 床 薬 理 1 救 急 医 学 1 臨 床 医 学 入 門 実 習 1 1													-			
1 救 急 医 学 1 a 床 医 学 入 門 実 習 1 1											1	1	-			
臨床医学入門実習 1 1																
					1	$\vdash \vdash \vdash$						1	-			
		科				1										
外 科 学 総 論 1										1						
内 科 診 断 学 1										-		1				
医療管理学1																
基本的診療技能実習 1																
		目														1
臨 床 実 習 50 40 10				50									4	0	1	0
研 究 室 研 修 6 3 3		研		6					3	3						
計 147 2 1 6 8 13 14 25 27 40 11				147	2	1	6	8	13	14	25	27	4	0	1	1
合 計 158 5 4 8 10 13 14 26 27 40 11			合 計	158	5	4	8	10	13	14	26	27	4	0	1	1

【平成14年度入学者】

						単			年		次	別	単			数		
大体の構造と性に対している。		ł	受 業	科 目													-	
特別	-	医	学		論	2		12			6.0	IX.	0.0	12	נינו	12	6.01	
A	門門							1	1				1					
大体の構造と機能 1 1 1 1 1 1 1 1 1	基礎					2				2								
大体の構造と機能 1 1 1 1 1 1 1 1 1	科				習	4	2	2										
日	H						3	3	2				1					
下の			人体の	構造と機り	能 I				1	1								
下の		基	日 1 4 の	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	<u>習</u>				-	-	8							
四																		
四		磁	代 謝	<u>ー</u> と 栄	養				2									
要と生体防御機構 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		INC.	同	実	習													
Part						2			1	1								
要案と生体助側機制 1 1		厍				1				1								
# 学 治療の薬理学的基礎 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1						1						1						
P	市										<u>.</u>							
A 体の病理と病態 3 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	守	学									$\frac{1}{1}$							
科 同 実 習 3													-				-	
日 社会と医学 I 3 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1		科										J	3					
Form														2				
下		_											1					
特化 器系 3		目	同	実	習	2								2				
円											1							
To																		
F	門	臨																
R				吸 契	- 元							1						
R			系血	液	系													
本 本 本 本 本 本 本 本 本 本														2				
新		=											1	2				
特						2								2				
N			脳	神経	系								2					
Table Ta				神 神	系												-	
皮膚・結合織系 2													1					
	科	医																
目 講 歯 口腔系 1 検査医学 1 1 放射線医学 1 1 放射線医学 1 2 加齢医学 1 1 機能回復 1 1 臨床薬理 1 1 救急医学 1 1 臨床医学入門実習 1 1 1 臨床実地見学実習 2 1 1 1 内科診断学 1 1 医療管理学 1 1 基本的診療技能実習 1 1 臨床寒週 50 40 研究室研修 6 3 3 3 計 147 2 1 6 8 13 14 25 27 40 11													2					
(中) (中) (中) (中) (中) (日)																		
日 養 麻 酔・蘇 生 系 2						1							1					
Table Tab			放	射 線 医	学	1							1					
機能回復1 臨床薬理1 救急医学1 臨床医学入門実習1 臨床医学入門実習2 1 内科診断学1 医療管理学1 基本的診療技能実習1 區床 総合演習1 臨床寒週50 研究室研修6 333 11 11 11 11 11 12 13 1472 16 11 11 11 11 11 11 11 12 13 1472 1472 1472 1472 1472 1473 1474 1547 16 17 18 19 10 11 11 12 13 147 147 147 147 147 147 147 147 147 147 147 147 148 149 141 <t< td=""><td></td><td>学</td><td>32</td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></t<>		学	32			2								2				
E 床 薬 理 1 救 急 医 学 1 臨 床 医学入門実習 1 1 臨床医学入門実習 2 1 1 内科学総論 1 内科診断学 1 医療管理学 1 基本的診療技能実習 1 區床 未総合演習 1 臨床 寒 習 50 研究室研修6 計 147 2 1 6 8 13 14 25 27 40 11			-															
財 無 医 学 1													1	1				
A 臨床医学入門実習 1 1 1			l —															
科 臨床実地見学実習 2 1 1 1							1							1				
外科学総論 1 内科診断学 1 医療管理学 1 基本的診療技能実習 1 臨床総合演習 1 臨床総合演習 1 臨床 実習 50 40 研究室研修 6 計 147 2 1 6 8 13 14 25 27 40 11		科						1										
医療管理学 1 基本的診療技能実習 1 臨床総合演習 1 臨床寒						1						1						
基本的診療技能実習 1 1 臨床総合演習 1 1 臨床実習 50 40 研究室研修6 3 3 3 計 147 2 1 6 8 13 14 25 27 40 11			_			1								1				
目 臨 床 総 合 演 習 1 1 臨 床 実 習 50 40 研 究 室 研 修 6 3 3 3 計 147 2 1 6 8 13 14 25 27 40 11																		
臨床 実 習 50 40 研究室研修6 3 3 3 計 147 2 1 6 8 13 14 25 27 40 11		ь									-			1			-	
研究室研修6 3 3 3 計 147 2 1 6 8 13 14 25 27 40 11		日									-				ļ .		-	
計 147 2 1 6 8 13 14 25 27 40 11		EII.									9	9			4	.0	$\frac{1}{1}$	U
		14)[九		廖		9	1	6	8			25	27	1	.0	1	1
		<u> </u>	合	計													1	

【大学院生について】

資料1 系別入学定員

専 攻	入学定員	収容定員
生 理 系	16名	64名
病 理 系	10名	40名
社会医学系	6名	24名
内 科 系	14名	56名
外 科 系	18名	72名
計	64名	256名

資料 2 学位授与数

	02年度	03年度
課程修了者 (甲)	39名	42名
論文審査(乙)	11名	6名
計	50名	48名

資料3 入学状況

系列	削		入 学 年	02年度	03年度	計
生	理	系	定員	16 名	16 名	32名
土	垤		現員	4名(1)〈1〉	4名(1)	8名(2)〈1〉
病	理	系	定員	10 名	10 名	20名
/内	垤	不	現員	3名(1)	8 名	11名(1)
社	人 匠	学 系	定員	6 名	6名	12名
仁	会 医	子 尔	現員	5名(2)	4名	9名(2)
н	科	系	定員	14 名	14 名	28名
内	件	不	現員	10名(2)	19名(6)〈3〉	29名(8)〈3〉
外	4 √1	系	定員	18 名	18 名	36名
21	科		現員	8名(1)〈1〉	15 名(4)〈1〉	23名(5)〈2〉
		1.≑	定員	64 名	64 名	128名
合		計	現員	30名(7)〈2〉	50名(11)〈4〉	80名(18)〈6〉

^{*}現員数については、入学者数を記入した。() 内数字女子、〈 〉内数字は外国人留学生で内数。

資料4 ティーチングアシスタント及びリサーチアシスタント数

	ティーチングアシスタント	リサーチアシスタント	1 1
02年度	58名	52名	110名
03年度	51名	47名	98名

資料 5 外国人留学生数

					02年度	03年度
留		学	生	数	12名	12名
国	中			国	7名	7名
別	エ	ク	ア	ドル	1名	
別留学	バ	ング	ラ :	デ シ ュ	2名	3名
生数	台			湾	1名	1名
数	~°		ル	_	1名	1名
留学生	玉			費	7名	5名
費用別	私			費	5名	7名

資料 6 留学国別留学者数

	02年度	03年度
計	0名	0名

資料7 留学期間別留学者数

	02年度	03年度	ii t
6ヶ月~1年未満	0名	0名	0名
1年~2年未満	0名	0名	0名
2年~3年未満	0名	0名	0名
3年~4年未満	0名	0名	0名
4年以上	0名	0名	0名
計	0名	0名	0名

資料8 大学院修了者の就職状況

2002年度

由	⊤/r	修了者数		就	職者	数	
専	攻	16 月 有 奴	文部教官	医 師	医 員	その他	=
生	理	6名	1名	4名	1名	0名	6名
病	理	4名	0名	3名	0名	1名	4名
社会	医学	2名	0名	2名	0名	0名	2名
内	科	10名	1名	7名	1名	1名	10名
外	科	17名	2名	14名	1名	0名	17名
F	計	39名	4名	30名	3名	2名	39名

2003年度

由	Thr.	修了者数		就	職者	数	
専	攻	16 月 有 数	文部教官	医 師	医 員	その他	計
生	理	2名	0名	2名	0名	0名	2名
病	理	4名	1名	3名	0名	0名	4名
社会	医学	4名	3名	1名	0名	0名	4名
内	科	19名	1名	9名	6名	3名	19名
外	科	13名	2名	8名	2名	1名	13名
	H	42名	7名	23名	8名	4名	42名

資料 9 大学院講義

2002年度

前期:4月5日(月)~7月29日(月)の間の月曜日・金曜日

系•科目	主 題 名	担 当 講 師	曜日	講義時間	系代表
生 理 系	神経研究の進歩	近藤 毅,関谷徹治,蔵田 潔正村和彦,大熊洋揮,岡田元宏 馬場正之,松永宗雄,佐藤 敬 吉田秀見,大内尉義,若林孝一 八木橋操六,神成一哉	月	17:00~18:30	佐藤 敬
社会医学系	社会と生命	菅原和夫,中路重之,朝日茂樹 黒田直人,羽田隆吉	金	"	羽田 隆吉

後期:10月1日(火)~2月17日(月)の間の月曜日・金曜日

系•科目	主 題 名	担 当 講 師	曜日	講義時間	系代表
外科系	外科系臨床講座における研 究の意義	中澤 満, 大黒 浩, 鈴木保之 佐々木睦男, 藤 哲, 石橋恭之 鈴木唯司, 松原 篤, 水沼英樹 石原弘規, 廣田和美, 関谷徹治 四ッ柳高敏, 小林 恒, 棟方博文	月	17:00~18:30	中澤 満
総合(2)	最新医学の現状	若林孝一,田中正則,古郡規雄 伊藤悦郎,大黒浩,佐藤能啓神谷晴夫,佐藤敬,大内尉義 庄司優,立石智則,早狩誠	金	"	若林 孝一

2003年度

前期:4月7日(月)~7月28日(月)の間の月曜日・金曜日

系•科目	主 題 名	担 当 講 師	曜日	講義時間	系代表
生理系(1)	糖鎖医学	高垣啓一, 柿崎育子, 樋口 毅田中幹二, 今 淳, 吉原秀一四ッ柳高敏, 庄司 優, 岡田昌博大久保正, 中路重之		17:00~18:30	高垣 啓一
内科系	臨床医学と分子生物学	杉本一博, 小野哲也, 須田俊宏 中野 創, 古郡規雄, 今 淳 長内智宏, 阿部由直, 庄司 優 土岐 力, 兼子 直, 神成一哉 大沢 弘, 石黒 陽	金	"	伊藤 悦郎

後期:10月1日(水)~2月23日(月)の間の月曜日・金曜日

系•科目	主 題 名	担 当 講 師	曜日	講義時間	系代表
総合 (1)	医学研究に必要な基礎知識	正村和彦, 楠美智巳, 高垣啓一中根明夫, 土田成紀, 林 邦彦中路重之, 佐藤 敬, 須田俊宏伊藤悦郎, 庄司 優, 羽田隆吉立石智則	月	17:00~18:30	水沼 英樹
病 理 系	疾病の成因を求めて、その根 幹に迫る	八木橋操六,和田龍一,田中正則 中根明夫,神谷晴夫,佐藤 宏 佐藤 敬,蒲田義正,若林孝一 竹内正義,森 文秋,楠美智巳	金	"	八木橋操六

研 究 活 動

研究活動に関する自己点検・評価(記載説明)

自己点検・評価の対象

各講座, 脳研部門, 診療科, 動物実験施設, 教官定員のある診療部を対象とし, <u>研究単位</u>ごとにまとめたものです。(以下同様)

基礎講座は各講座を研究単位、臨床講座は診療科を合わせて研究単位とし、さらに単独の診療 科、動物実験施設、教官定員のある診療部はそれぞれを研究単位としている。

[A] 研究単位人員と研究テーマの記載要領

各研究単位の評価年度の研究人員と研究テーマについて記載している。

I. 研究者人員

それぞれの研究単位の評価年度における教授, 助教授, 講師, 助手, 医員, 大学院学生, 研究生の実数を記載(看護部は除く)。たとえば, 併任教授 1, 助教授 1.....であれば, 教授 0, 助教授 1.....と記入している。

なお、講座・診療科と診療部の所属が実質的に区別されていない研究者については、その人員 を講座・診療科に加えて記載している。

Ⅱ. 研究者テーマ

それぞれの研究単位における研究テーマを評価年度について10項以内を記載している。

[B] 研究業績の記載要領

評価年度内の研究業績を対象としている。

- I. 発表論文について
 - 1. 論文の分類, その他
 - (1) すでに発表された論文のみを記載。
 - (2) 論文を原著、総説、著書、その他に分類し、英文、和文に分けている。
 - (3) 英文以外の外国語で書いた論文はその他に入れている。
 - (4) ここでいう原著とは、レフェリー制をとっている定期刊行物(Journal)に掲載された学 術論文、あるいはその Journal が原著として扱っている論文を指す。
 - (5) ここでいう総説とは、定期刊行物(Journal)に掲載された学術論文で、原著、症例報告、 その他報告書以外のものを指す。
 - (6) 原著,総説,著書は、当該研究単位(講座・部門等)に所属する者にアンダーラインを引いて、以下の3つのカテゴリーに分けて記載(著書については単著,編集,分担執筆を区別)
 - A: 当該研究単位が主たる発表機関である(筆頭研究単位になっている) 筆頭著者の所属が異動あるいは重複している場合は、現在の所属にかかわらず、筆 頭著者の論文に記載した研究単位(Suzuki Y^{1),2)}であれば1の研究単位)が主たる 発表機関となる。

B: 当該研究単位が副発表機関である(第2以下に記載されている)

C:所属研究者が他研究機関で行ったもので、当該研究者は著者として記載されている

が、当該研究単位は発表機関としては記載されていない。

なお、同一論文の重複を明らかにするために、 $B \ge C$ については当学科内の他研究単位がA (またはB) 記載する論文には論文題名の冒頭に (*) を付記している。併任教官のみによる論文は記載していない。

2. 記載方法

a)原著

著者名全員,論文題名,発表雑誌,発表年,巻数,ページ(始め〜終わり)の順 に記載している。標記スタイルは「弘前医学」に従う。

b) 総説

原著と同じ方法で記載している。

c) 著書

(単著). (編集)

著者(編者)名全員、書名、発行所、発行所地名、発表年の順に記載している。 標記スタイルは原則として「弘前医学」に従う。

(分担)

著者名全員,著述文表題,編者名,書名,ページ(始め〜終わり),発行所,発行所地名,発表年の順に記載している。標記スタイルは「弘前医学」に従う。

d) その他(症例報告等)

これには定期刊行雑誌や紀要などの症例報告、その他報告書等が含まれる。学会 抄録は Proceedings (Journal) で発表されていてもここには記載していない。記載 方法は a) と同じ。

3. 発表論文のまとめ

それぞれの研究単位における論文業績のまとめである。

上記の英文原著,総説については、それぞれA、Bのみ、雑誌名とImpact Factor(本報告書の表紙に指定した年のJCRを使用、図書館)、論文数を発表年別に記載、和文原著、総説については、それぞれA、Bのみ、雑誌名を発表年別に記載、著書については、単著、編集、分担執筆に分けて発表年別に記載している。

Ⅱ. 学会, 研究会等での発表業績について

1. 記載対象

国際レベル,全国レベルの学術集会での発表のみを対象とし,以下の3つのカテゴリー に分けて記載している。

- A. 特別(招待)講演
- B. シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップでの講演
- C. 一般講演(ポスター発表を含む)

2. 記載方法

発表者,発表題名,集会の名称,開催地,開催年を記載, Proceedings (Journal) があ

る場合は、上記の下に、I-2, a) (原著) の記載方法に従って記載、国内学会の一般講演については、各年度の発表件数のみを記載している。

Ⅲ. 学術賞について

当該年度に当該研究単位,所属研究者に与えられた学術賞について,賞の名称,受賞者名,受賞研究課題を記載している(学内の賞,民間の賞を含む)。

IV. 共同研究について

国内外の研究機関と共同で行った研究について、その相手研究機関名、研究課題、当該研究単位の代表研究者名を記載している。

ここでいう共同研究には民間等との共同研究など、プロジェクトとして、あるいは正式な契約 を交わして行われるものを含む。

V. 研究助成の獲得について

当該年度に当該研究単位,所属研究者が獲得した研究助成金に関し,文部省科学研究費,その他省庁からの研究費,学内の研究助成,民間の研究助成に分け,助成名称,研究種目,研究課題,研究代表者名,配分額(単位:千円)について記載している。

VI. 研究に関する社会活動について

- 1. 国際的な研究連携, 国際交流, その他
 - a) 国際学術集会の主催状況 主催代表者名, 集会名, 開催地
 - b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 研究者名, 研究機関, 国名, 滞在期間
 - c) 外国からの留学生,研究生の受け入れ状況 留学生(研究生)名,研究機関,国名,滞在期間(継続)
 - d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況 研究者名,研究機関,国名,滞在期間(継続)
 - e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 研究者名, 研究機関, 国名, 滞在期間(継続)
- 2. 国内, 地域研究機関との連携, その他
 - a) 全国レベルの学術集会の主催状況 主催代表者名,集会名,開催地
 - b) 地方レベルの学術集会の主催状況 主催代表者名,集会名,開催地
 - c) 国内機関からの内地留学受け入れ状況 留学者名,研究機関,国名,滞在期間
 - d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 留学者名,研究機関,国名,滞在期間

VII. その他

特許の取得など、研究に関する特記事項を記載している。

[C] 研究単位の目標設定に対する到達度と理念・これから2年間の目標の記載要領

I. 2年前に設定した, これから2年間の目標に対する到達度

2年前の自己点検評価報告書作成時に設定した、研究単位のこれから2年間の目標に対する到達度について記載している。なお、設定目標については、「自己点検評価報告書」に掲載されている。

Ⅱ. 理念, これから2年間の目標

各研究単位の理念、これから2年間の目標について記載している。

第2章 研究活動

1. 解剖学第一講座

【研究単位の目標到達度. 理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

充分に到達したと思う。これまで生体ではほとんど存在しないと考えられて来た、非ヘム2価鉄の存在を証明する 組織化学の方法を開発した。

理念:

成果は短期間にはあがらなくても、独創的研究を行う。

これから2年間の目標:

当講座で開発した非へム鉄の組織化学の方法を洗練させ、広範囲に応用する。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助	力教授 1,講師	师 0,	助手	2, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0			
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間			
教官	教 授	専 任	正村	和彦	1年			
(教授~助手)	助教授	専 任	高橋	等	1年			
の詳細	助手	専 任	目黒	玲子	1年			
	助手	専 任	浅野	義哉	7ヵ月			
	1. 非へム鉛	共の組織化学						
研究課題	2. マクロフ	ファージの鉄蓄積	責の意義	妄				
	3. ストレスによる胃粘膜傷害における非ヘム鉄の関与							
	4. 脳虚血/再灌流傷害における非へム鉄の関与							

2003年度

研究人員	教授 1, 耳	力教授 0,講師	師 0,	助手	2, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0			
let	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間			
教官	教 授	専 任	正村	和彦	23年			
(教授~助手) の詳細	助手	専 任	目黒	玲子	3年			
○ フロー 小山	助 手 専 任 浅野 義哉 1年							
研究課題	完課題 1. 当教室で開発した非へム鉄の組織化学の方法の発展と応用							

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2003年度

A.1. Meguro R, Asano Y, Iwatsuki H, Shoumura K. Perfusion-Perls and -Turnbull methods supplemented by DAB intensification for nonheme iron histochemistry: demonstration of the superior sensitivity of the methods in the liver, spleen, and stomach of the rat Histochemistry and Cell Biology, 2003, 120: 73-82.

和文 なし

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文 なし

和文 なし

2002年度

A.1. 正村和彦,目黒玲子,神経解剖学講義,弘前大学医学部解剖学第一講座,弘前,2002 2003年度

A.1. 神経解剖学講義 2003 正村和彦, 目黒玲子, 浅野義哉 弘前大学医学部解剖学第一講座

(4)その他

英文

2003年度

- A.1. Meguro R, Asano Y, Shoumura K. Nonheme ferric and ferrous iron accumulation in macrophages of rats and cats. Advances in Brain Research, Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration, Excepta Medica, International Congress Series 1252 (ed. Kei Satoh, Shigeharu Suzuki, Muneo Matsunaga) 2003; 95-104.
- A.2. Iwatsuki H, Meguro R, Asano Y, Shoumura K. Changes in nonheme iron histochemistry in the ischemic brains of cats and Mongorian gerbils. Advances in Brain Research, Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration, Excepta Medica, International Congress Series 1252 (ed. Kei Satoh, Shigeharu Suzuki, Muneo Matsunaga) 2003; 87-94.

和文 なし

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Histochemistry and Cell Biology	2.58	1	2.58
Total		1	2.58

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
	なし			
	計		0	0

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	1
編	集	0	0
分担	執筆	1	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Excepta Medica, International Congress Series	0	2	0
Total		2	0

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
	なし			
	計		0	0

II. 学会・研究会等の発表

(1)国際学術集会

2002年度

- B.1. Iwatsuki H, Meguro R, Asano Y, Shoumura K. Changes in non-heme iron histochemistry in the ischemic brains of cats and Mongolian gerbils, Hirosaki International Forum, Advances in Brain Research Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration, Hirosaki, 2002
- C.1. Meguro R, Asano Y, Shoumura K. Nonheme ferric and ferrous iron accumulation in macrophages of rats and cats, Hirosaki International Forum, Advances in Brain Research - Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration, Hirosaki, 2002

(2)全国学術集会

2002年度

C. 2件

2003年度

- A.1. 目黒玲子, 浅野義哉, 正村和彦 ラットのマクロファージにおける非ヘム二価鉄および非ヘム三価鉄蓄積の機能的意義 第108回日本解剖学会総会 福岡 2003
- A.2. 浅野義哉, 目黒玲子, 正村和彦 胃・壁細胞における非ヘム三価鉄および二価鉄蓄積の意義 第108回日本解剖学会総会 福岡 2003

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として 萌芽研究 胃・壁細胞の鉄蓄積と胃虚血による胃粘膜傷害との関連

2003年度

研究代表者として 萌芽的研究 180万円

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

研究代表者として 学術国際振興基金助成 45万円 他研究単位との研究分担者として 青森銀行研究助成 脳血管障害 100万円

2003年度

他研究単位との研究分担者として 青森銀行医学研究助成研究班 研究分担 150万円

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2002年度

- D. T. Oorschot, Department of Anatomy and Structural Biology, University of Otago, New Zieland, 平成14年10月12日~10月18日(学術国際振興基金による)
- c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況 なし
- e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況なし
- f) その他 なし
- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催 なし
 - b) 地方レベルの学会の主催 なし
 - c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
 - d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

2003年度

日本解剖学会 第49回東北・北海道連合地方会(盛岡)特別講演 非ヘム鉄の組織化学 正村和彦

2. 解剖学第二講座

【研究単位の目標到達度, 理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- 1. 松果体の機能・医学的意義、とくに生殖機能に対する発達・加齢・老化など動物の齢と関連した作用について、少額ながら科学研究費の補助をうけてある程度まとまった実験データを得ることができた。データは学会で発表し、その一部は論文も英文専門誌に採用された。研究費不足のため不十分ではあったが、松果体研究分野での重要なオリジナルデータを幾つか得るという成果をあげた。
- 2. 視床下部-下垂体系に関する2つの国内シンポジウムで講演し、当研究が学会の一定の評価を受けていることを示した。
- 3. 生殖細胞の染色体研究および分子遺伝学的研究で英文論文出版や学内外との協同研究を行ない、一定の成果をあげた。
- 4. 肉眼解剖学的研究についても学会報告を行ない、また、他研究室との協同研究も行なった。印刷中の英文論文は複数あるが、この2年間での論文発表数は不十分であった。

全体としてみると到達度は7割程度。

理念:

教室内の個々の研究者の独自の研究を発展させると共に、教室の中心テーマである松果体の機能・医学的意義と生物学的時間との関連の解明に関する協同研究も進展させ、成果をあげたい。研究成果を学会発表、論文発表という形で研究者に対して情報提供すると共に、各種メディアを通じて社会に対して、また教育の場にフィードバックしたい。

これから2年間の目標:

当該年度は独立行政法人化に伴う厳しい財政事情,人的制約があり,また新カリキュラムのため2年間に3回の解剖学実習があるという研究時間の絶対的減少を伴う特殊事情の中で,困難をのりこえ,より多数の論文作成・学会や新聞紙上等での発表を行ない,研究費獲得等の研究基盤の整備,実験的研究継続・発展のための努力をする。これまでに収集した松果体・副腎・生殖器及び視床下部-下垂体系・眼球・発生遺伝学と発達,加齢と老化等に関する実験データを整理し、発表する。

肉眼解剖学的研究も含め、他研究室との協同研究を推進する。

【研究人員及び研究課題】

教授 1, 具	力教授 0,講日	币 1,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0				
役職 専任/併任の別 氏 名			名	評価年度内での在籍期間				
教 授	専 任	加地	隆	1年				
講師	専 任	外崎	敬和	1年				
助 手	専 任	渡邉	誠二	1年				
1. 母ラットの松果体(ホルモン)が仔の発達や発達障害に及ぼす影響								
2. 雌性ラットの生殖機能に及ぼす加齢の影響および齢との関連における松果体(ホルモン)の影響								
3. 副腎おる	よびその中枢性	周節機構		らに及ぼす松果体(ホルモン)の影響				
4. 冷環境/	こ対する下垂体	中葉 MS	SH の分	泌調節機構とその機能				
5. サイトス	カイン (IL-1β)	の知覚	€過敏・	発熱に対する視床下部弓状核 MSH ニューロン・下垂体中葉				
MSH 細	胞の修飾機構							
6. 視床下部-下垂体中葉系の MSH 神経内分泌調節機構								
7. 精子お。	The state of the s							
8. 人体の	肉眼解剖学的研究	宅						
	役 職 教 授 講 師 助 手 1. 母ラット 2. 雌腎環 4. 冷サイト MSH 細 6. 視床子 7. 精子	役 職 専任/併任の別 教 授 専 任 講 師 専 任 助 手 専 任 助 手 専 任 1. 母ラットの松果体 (ホル2. 雌性ラットの生殖機能は3. 副腎およびその中枢性は4. 冷環境に対する下垂体・5. サイトカイン (IL-1β) MSH 細胞の修飾機構6. 視床下部-下垂体中葉系7. 精子および卵子の染色化	役職 専任/併任の別 氏教授 専任 加地講師 専任 外崎助手 専任 渡邉 1. 母ラットの松果体 (ホルモン) 2. 雌性ラットの生殖機能に及ぼる3. 副腎およびその中枢性調節機相4. 冷環境に対する下垂体中葉 MS5. サイトカイン (IL-1β) の知覚 MSH 細胞の修飾機構 6. 視床下部-下垂体中葉系の MSH	役職 専任/併任の別 氏 名 教授 専任 加地 隆 講師 専任 外崎 敬和 助 手 専任 渡邉 誠二 1. 母ラットの松果体 (ホルモン) が仔の 2. 雌性ラットの生殖機能に及ぼす加齢の 3. 副腎およびその中枢性調節機構とそれ 4. 冷環境に対する下垂体中葉 MSH の分5. サイトカイン (IL-1β) の知覚過敏・MSH 細胞の修飾機構 6. 視床下部-下垂体中葉系の MSH 神経内 7. 精子および卵子の染色体異常				

2003年度

研究人員	教授 1, 耳	助教授 0,講師	币 1,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0		
教官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
教 日 (教授~助手)	教 授	専 任	加地	隆	03. 4. 1 ~ 04. 3. 31		
の詳細	講師	専 任	外崎	敬和	03. 4. 1 ~ 04. 3. 31		
(ノ)計・水田	助 手	専 任	渡邉	誠二	03. 4. 1 ~ 04. 3. 31		
	1. 松果体の機能・医学的意義に関する研究-生物学的時間と関連して						
	1-1. 生殖	生物学と松果体	ホルモ	ンとの関	月 係		
	1-2. 松果	体と眼球・視床	下部-下	垂体系	を含む中枢神経系との関係		
	1-3. 副腎およびその中枢性調節機構と松果体ホルモンとの関係						
研究課題	2. 身体おる	くび各種器官と-	その構成	戊成分の	胎生・生後発達,成熟・老化などの逐齢推移とその各種条件		
	下での変化に関する実験的研究						
3. 視床下部-下垂体中葉系のα-MSH 神経分泌調整機構に関する研究							
	4. ヒト精子	とおよび卵子の	染色体星	異常に関	する研究		
	5. 実習用遺	貴体を用いた肉目	艮解剖学	学的研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2003年度

 A.1. Watanabe S. A detailed cytogenetic analysis of large numbers of fresh and frozen-thawed human sperm after ICSI into mouse oocytes.
 Hum. Reprod. 2003, 18: 1150-1157.

和文

2002年度

B.1. 立野裕幸, 上口勇次郎, 渡邉誠二 精子の形態、運動性と染色体異常 Medical Science Digest (2002) 28:138-141

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

英文 なし

和文 なし

- (5)発表論文のまとめ
- 1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hum. Reprod.	3.125	1	3.125
Total		1	3.125

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
Medical Science Diges	st		1	
	計		1	0

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	2

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

なし

(2)全国学術集会

2002年度

C. 5件

2003年度

- B.1. 外崎敬和、両生類のメラノコルチンシステムー冷環境で分泌される α -MSH 第28回日本比較内分泌学会及びシンポジウム、富山、2003.
 - Tonosaki Y, Roubos EW, Regulation of α -MSH secretion from the amphibian the pituitary pars intermedia in cold environment. Proceeding of the Japan Society for Comparative Endocrinology. 2003, 18:2.
- B.2. 外崎敬和, 下垂体中葉α-MSHの分泌調節に係る情報伝達; 冷環境での生体応答, 日本比較生理生化学会第25回大会, 仙台, 2003.

 Tonosaki Y, Roubos EW. Communication of information concerned with regulation of α-MSH secretion
 - Tonosaki Y, Roubos EW. Communication of information concerned with regulation of α -MSH secretion from the amphibian pars intermedia in cold environment. Comparative Biochemistry and Physiology Part B. 2003, 136:540.
- B.3. 外崎敬和, 医学部解剖学教室における解剖学実習の学外協力 〜弘前大学・福島県立医大の取り組み〜, 平成15年度全国理学療法士・作業療法士学校連絡協議会総会, 札幌, 2003. (平成15年度研修会抄録集, 2003, p16-17)
- C. 5件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

2002年度

- 1. 加地 隆. カナダ トロント大学生理学教室藤枝弘樹博士と母親の松果体ホルモンが仔の発達に及ぼす 影響に関して
- 2. 外崎敬和. Nijmegen Institute for Neurosciences, Department of Cellular Animal Physiology, University of Nijmegen, Nijmegen, The Netherlands (Eric W ROUBOS) 福島県立医科大学解剖学第 1 講座(西山慶治,八木沼洋行)
 - 研究課題: Low temperature enhances α -MSH secretion and inhibits background adaptation in *Xenopus laevis*.
- 3. 渡邉誠二. 北九州市 セントマザー産婦人科医院(田中温) 研究課題:体外培養により成熟させたヒト未熟卵子の染色体分析

1. 研究機関: Nijmegen Institute for Neurosciences, Department of Cellular Animal Physiology, University of Nijmegen, Nijmegen, The Netherlands (Eric W Roubos) 福島県立医科大学解剖学第 1 講座(西山慶治八木沼洋行)

研究課題:Low temperature enhances α -MSH secretion and inhibits background adaptation in *Xenopus laevis*.

代表者: 外崎 敬和

 セントマザー産婦人科医院 Artificial Reproductive Technology に関する研究 代表者:渡邉 誠二

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者:加地 隆, 萌芽的研究「母親の松果体ホルモンが齢と関連して妊娠・発達・性の分化に及ぼす影響」50万円 (2001年度:140万円)

2003年度

研究代表者:加地 隆. 萌芽的研究「母親の松果体ホルモンが齢と関連して妊娠・発達・性の分化に及ぼす影響」40万円

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

- c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況なし
- f) その他

なし

- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催 なし
 - b)地方レベルの学会の主催

2002年度

第14回青森県内分泌研究会(弘前)

- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

なし

3. 生理学第一講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

2003年度は研究活動が低調で、目標とした講座としての発表論文のインパクト係数計10以上を到達できなかった。

理念:

堅実でしかもレベルの高い研究を行い、その結果を国際的な学術雑誌に発表する。

これから2年間の目標:

1年間の発表論文のインパクト係数計10以上または、本講座が主たる研究施設としての英文原著論文を3以上発表 する。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講師	师 1, 助手	1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0			
	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間			
教 官	教 授		泉井 亮				
(教授~助手)	助教授	専 任	菅野 隆浩	2002年 4 月~2003年 3 月			
の詳細	講師		菅 世智子	2002年4万~2003年3万			
	助 手		木村 良一				
	1. インスリ	1. インスリン分泌の分子・細胞機構とその調節					
研究課題	2. 血糖調節における神経-内分泌-免疫トライアングル機構						
切几杯烛	3. ニコチン作動性イオンチャネルの機能解析とその調節						
	4. 中枢機能に対する GLP-1 の作用とその作用機構						

2003年度

研究人員	教授 1, 即	力教授 0,講師	师 1, 助手	1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0		
	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間		
教 官	教 授	専 任	泉井 亮	1年		
(教授~助手)	助教授	専 任	菅野 隆浩	1年(ただし, 3月より病気休暇)		
の詳細	講師	専 任	菅 世智子	11ヵ月		
	助 手	専 任	木村 良一	1年(ただし、2月より米国留学)		
	1. 自律神経によるインスリン分泌調節機構					
	2. ホルモン	/によるインス	リン分泌調節機	構		
	3. サイトカ	1インによるイ:	ンスリン分泌調	節機構		
研究課題	4. 脂質代謝	オとインスリング	分泌			
	5. 中枢神経の糖応答機構とその調節					
6. ラ島内β細胞のグルコース応答とインスリン分泌						
	7. 脳スライ	'ス標本を用いる	た海馬 CA1 エリ	リアの神経間ネットワーク		

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

- A.1. Kanno T, Rorsman P & Gö pel S Glucose-dependent regulation of rhythmic action potentials firing in pancreatic β -cells by KATP-channels modulation J Physiol (Lond), 545(2):501-507, 2002 B.1. Nakano K, Takeo T, Sato T, Suga S, Eto K, Kadowaki T, Wakui M. Role of mitochondrial NADH

- shuttle system in acute amylase secretion by acetylcholine from mouse pancreatic acinar cells. Tohoku J. Exp. Med., 198:81-94, 2002
- B.2. Takahashi K, Osanai T, Nakano T, Wakui M, Okumura K. Enhanced activities and gene expression of phosphodiesterase types 3 and 4 in pressure-induced congestive heart failure. Heart Vessels, 16: 249-256, 2002.
- B.3. Okada M, Zhu G, Hirose S, Ito KI, Murakami T, Wakui M, Kaneko S. Age-dependent modulation of hippocampal excitability by KCNQ-channels. Epilepsy Res., 53:81-94, 2003.
- C.1. Takahashi, N., Nemoto, T., Kimura, R., Tachikawa, A., Miwa, A., Okado, H., Miyashita, Y., Iino, M., Kadowaki, T.,Kasai, H. Two-photon excitation imaging of pancreatic islet with various fluorescent probes. Diabetes 2002,51(S1), S25-28.

2003年度

- A.1. Suga S, Nakano K, Takeo T, Osanai T, Ogawa Y, Yagihashi S, Kanno T, Wakui M. Masked excitatory action of noradrenaline on rat islet b-cells via activation of phospholipase C. Pflugers Arch 2003;447:337-344.
- B.1. Wu J, Takeo T, Wakui M, Ellsworth K, Fisher R. Intracellular energy failure does not underlie hyperthermic spreading depressions in immature rat hippocampal slice. Brain Res 2003;987:240-243.
- B.2. Matsuyama A, Nakano H, Hanada K, Yamazaki T, Kanno T, Wakui M, Hanada K. Enhancement of photodynamic effect in normal rat keratinocytes by treatment with 1,25 dihydroxy vitamin D3. Photodermatology Photoimmunology & Photomedicine 2003;19:303-308.

和文 なし

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文 なし

和文

2003年度

A.1. 泉井 亮, 膵臓の構造と機能, 下条・斎藤 (監修), ダイナミックメディシン, 西村書店, 新潟市, 2003年 (4) その他

英文 なし

和文 なし

(5)発表論文のまとめ

1. 原著、総説(A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J. Physiol.	4.476	1	4.476
Tohoku. J. Exp. Med.	0.516	1	0.516
Heart Vessels	0.337	1	0.337
Epilepsy Res.	2.357	1	2.357
Total		4	7.686

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Pflugers Arch Brain Res Photodermatol Photo	1.69 2.4 1.29	1 1 1	1.69 2.4 1.29
Total		3	5.38

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
	なし			
	計		0	0

2. 著書数 (A. Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	1

3. その他(A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- B.1. Miyano T, <u>Kanno T</u>, Tokuda I, Wakui M, Rorsman P. Permutation entropy ofinterspike interspike intervals of action potential generated by pancreatic B-cells. International Workshop: Synchronization, Collective behabior and complex phenomena in chaotic systems. Florence, Italy, 2002.
- C.1. <u>Kanno T</u>, Miyano T, Tokuda I, Galvanovskis J and Wakui M. Dyanmic stability constructed with electrical coupling of chaotic living beta-cells within mouse pancreatic islets. Ferenstrom Foundation Symposium, Diabetes a focus on the beta-cell., Ystads, Sweden,2002.(poster)

(2)全国学術集会

2002年度

C. 2件

2003年度

- A.1. 菅野隆浩, P. ロスマン, 泉井 亮. 膵ランゲルハンス島における細胞間機能協関. 第108回日本解剖学会,シンポジウム13,内分泌腺における細胞間相互作用の実態解明,福岡市,4月
- C. 3件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

2002年度

弘前大学 理工学部 知能機械システム工学科 知能制御工学講座 <u>菅野隆浩</u> 宮野尚哉 マウスインスリン分泌細胞活動時系列データの非線形解析および活動電位のコンピュータシミュレイション

2003年度

東京大学医学系研究科 門脇 孝教授、「アディポネクチンのインスリン分泌に及ぼす作用の解明」 Borrow Epilepsy Institute(米国)Jie Wu 博士、「中枢性血糖調節機構の解明」 岡崎国立共同研究機構生理学研究所 矢田俊彦教授(自治医科大学)、「神経・内分泌・外分泌細胞におけるカルシウム依存性開口放出の可視化とその調節機構の解明」

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

研究代表者として 基盤研究(B)(2)「膵ラ島スライス標本を用いた α 細胞と β 細胞の機能協関システムの解明」、泉井 克、1,200千円

基盤研究 (c) (2) 「マウス膵ランゲルハンス島内 β 細胞におけるカオス的性質の生理的意義の解明」, 菅野隆浩、1,000千円

他研究単位との研究分担者として 基盤研究(C)(2)「フリーラジカルによるラット肝細胞障害の発生機構:細胞内 ATP 導入による検討」,武尾照子,1,100千円

2003年度

研究代表者として 基盤研究C, マウス膵ランゲルハンス島内 β 細胞におけるカオス的性質の生理的意義の解明, 菅野隆浩, 110万円

他研究単位との研究分担者として 基盤研究 C, フリーラジカルによるラット肝細胞傷害の発生機構:細胞

内 ATP 導入による検討,武尾照子,90万円

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

2002年度

研究代表者として 弘前大学重点研究助成金「血糖調節における神経-内分泌-免疫トライアングル機構の解明」,泉井 亮,1,800千円

2003年度

研究代表者として 弘前大学重点研究,血糖調節における神経-内分泌-免疫トライアングル機構の解明、泉井 亮,100万円

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2002年度

Jie Wu博士 (Barrow Neurological Institute, St. Joseph's Hospital and Medical Center, USA), 2002. 8.18 \sim 9.2.

2003年度

Jie Wu博士, Borrow Epilepsy Institute, 米国, 2週間

- c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

2003年度

木村良一, Borrow Epilepsy Institute, 米国, 5ヵ月

f) その他

なし

- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

泉井 亮, 第35回東北生理談話会, 弘前大学メディカルコミュニケーションセンター (弘前市), 2002.10.26~27.

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況

なし

VII. その他

なし

4. 生理学第二講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- 1. 研究総括80%
- 2. 教官・大学院の研究指導80%
- 3. 論文作成指導80%
- 4. Impact Factor 3 以上の雑誌に first author として少なくとも年 1 編の論文を発表80%
- 5. 国際学会、全国レベルの学会等におけるシンポジウムに演者として発表100%
- 6. 研究代表者として科学研究費補助金に2件以上採択75%

理念:

随意運動中枢の高次機能を解明することを目的にし、研究に関するさまざまな最新のコンセプトと方法とを導入して世界のトップランナーの一員としての役割を果たす。

これから2年間の目標:

- 1. Impact Factor 3 以上の雑誌に研究室の教官が first author として少なくとも年 1 編の論文を発表
- 2. 国際学会、全国レベルの学会等におけるシンポジウムに演者として発表
- 3. 研究室として科学研究費補助金に2件以上採択

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 耳	b教授 1, 講印	師 0,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 1, 研究生 0		
教官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
(教授~助手)	教 授	専 任	藏田	潔	1年		
の詳細	助教授	専 任	相澤	寬	1年		
の計加	助手	専 任	梅原	豊	6 ヵ月		
1. ニューロン活動解析による運動前野における運動学習機構の研究							
研究課題	1. 眼球運動解析による脳内プログラミング機構の研究						
1月九杯煜	3. 衝動性眼球運動課題反応時間分布のモデルを用いた解析						
4. 盲視の動物モデル作成及び盲視下視覚伝導路の機能的同定							

2003年度

研究人員	教授 1, 耳	b教授 1, 講師	 0,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 1, 研究生 0		
教官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
(教授~助手)	教 授	専 任	藏田	潔	1年		
の詳細	助教授	専 任	相澤	寛	1年		
(ノ)計和	助 手	専 任	川嶋	啓明	6 ヵ月		
1. ニューロン活動解析による運動前野における運動学習機構の研究							
研究課題	2. 眼球運動解析による脳内プログラミング機構の研究						
1 1 1 九 永 茂	3. 盲視の動物モデル作成及び盲視下視覚伝導路の機能的同定						
	4. 報酬強化学習における脚橋被蓋核の位置付けの検討						

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

- A.1. Kurata, K. and Hoshi, E.: Movement-related neuronal activity reflecting the transformation of coordinates in the ventral premotor cortex of monkeys. J. Neurophysiol., 88, 3118-3132 (2002).
- B.1. Kobayashi Y, Inoue Y, Yamamoto M, Isa T, Aizawa H. Contribution of pedunculopontine tegmental nucleus neurons to perfomance of visually guided saccade tasks in monkeys. J. Neurophysiol.,, 2002, 88, 715-731.

2003年度

A.1. Kiyoshi K., Aizawa H. Influences of motor instructions on the reaction times of saccadic eye movements. Neuroscience Research, 2004, 48, 447-455.

和文 なし

(2)総説

英文 なし

和文

2003年度

A.1. <u>藏田</u> <u>潔</u>: プリズム適応に関わる神経情報処理機構. 脳の科学 25: 43-51, 2003. A.2. <u>藏田</u> <u>潔</u>: 運動制御と運動学習 理学療法学 30: 78-82, 2003.

(3)著書

英文 なし

和文

2002年度

 A.1. <u>藏田</u> 潔: 大脳皮質運動野. 脳•神経科学入門講座(下), 渡辺雅彦編著 羊土社 pp.182-190, 2002

 A.2. <u>藏田</u> 潔: 認知科学辞典(日本認知科学会編, 分担執筆) 共立出版 2002.

 A.3. <u>藏田</u> 潔: 医学大辞典(分担執筆) 医学書院 2003.

2003年度

A.1. 藏田 潔:医学大辞典(分担執筆) 医学書院 2003

(4)その他

英文 なし

和文 なし

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J. Neurophysiol. J. Neurophysiol.	3.743 3.743	1 1	3.743 3.743
Total		2	7.486

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neuroscience Research	1.81	1	1.81
Total		1	1.81

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
脳の科学 理学療法学				1 1
	計		0	2

2. 著書数 (A. Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種 目	2002年度	2003年度
単 著	0	0
編集	0	0
分担執筆	3	1

3. その他 (A. Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

B.1. Aizawa H. Systematic switching of saccadic eye movements by instruction signals, Cognitive Impact on Sensory Motor Integration, Okazaki Japan, 2002.

2003年度

- C.1. <u>Kurata, K.</u>: Neural representation of visual space in movement-related activity in the ventral premotor cortex of monkeys. Society for Neuroscience 33rd Annual Meeting, 2003, New Orleans, 2003.
- C.2. Aizawa H. Systematic bistable switching of saccadic eye movements by instruction signals., Progress in Sensorimotor Research - LSR 25th Anniversary Symposium, The National Eye Institute, National Institutes of Health, Bethesda, Maryland, U.S.A., 2003.
- C.3. Aizawa H. LATER model with two threshold levels explains bimodal saccadic reaction time distribution in cue gap saccade task with NoGo trial., The 31st NIPS International Symposium, Okazaki, Japan, 2004.

(2)全国学術集会

2002年度

- B.1. <u>藏田 潔</u>: 理学療法士全国研修会シンポジウム「歩行の研究における隣接学際領域との連携: 歩行における科学性」運動前野と運動学習 2002年10月11日 山形
- B.2. <u>藏田 潔</u>:日本大学・学術フロンティア推進事業「認知と記憶の脳内メカニズム」シンポジウム. 運動前 野腹側部における到達運動学習の神経機構 2003年1月17日 東京・日本大学医学部
- B.3. <u>藏田 潔</u>:日本生理学会大会 研究倫理委員会シンポジウム 情報公開法の下での動物実験のあり方 2003年3月23日 福岡
- C. 2件

2003年度

- B.1. 日本大学・学術フロンティア推進事業「認知と記憶の脳内メカニズム」シンポジウム. 運動前野腹側部における到達運動学習の神経機構 2003年 1 月17日 東京・日本大学医学部
- B.2. <u>藏田 潔</u>:日本生理学会大会 研究倫理委員会シンポジウム 情報公開法の下での動物実験のあり方 What are we required to proceed animal experiments under the information disclosure act? 2003年3月 23日 福岡 Jpn. J. Physiol. 53 Supple.: S30, 2003.
- B.3. <u>藏田 潔</u>:運動前野の機能脱失後に生じる行動障害の短期代償. 日本神経科学学会シンポジウム「The Premotor Cortex and Rehabilitation」, 2003年7月25日、名古屋国際会議場. (Kurata, K. Short-term conpensation for behavioral deficits following premotor cortex inactivation. Neurosci. Res. 46 Suppl. 1: S32, 2003)
- C. 1件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として 基盤研究 (C) (2) 新規 プリズム適応における小脳大脳連関の機能的役割 課題番号 14580783 2,300千円

2003年度

研究代表者として 基盤研究 (C) (2) 継続 プリズム適応における小脳大脳連関の機能的役割 課題番号 14580783 1,300千円

特定領域研究 (A) (2)「神経回路」新規 到達運動のプリズム適応における大脳小脳神経回路機能連関の動的変化 課題番号 15029203 3,500千円

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

2003年度

研究代表者として インセンティブ研究助成・小規模ながら輝く研究 運動の内部モデル形成と共感能力 に関わる脳内機構の解明 1,000千円

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流。国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察、研究参加(3ヵ月未満)状況

2002年度

藏田 潔 ピッツバーク大学医学部、米国、平成14年9月26日-30日

2003年度

相澤 寛 : Dr. Wurtz 及び Dr. Hikosaka,国立眼研究所 Sensorimotor Research 研究室(LSR, NEI,NIH) 視察,米国, 5 日間

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

なし

f) その他

なし

- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

なし

5. 生化学第一講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

〈高垣〉

Impact factor の付いた10報の学術誌に論文を発表することができた。国際学会での発表演題数は5 演題、また、科学研究費は研究代表者として2件採択された。以上のことから、前回設定した目標は達成されたと思われる。

設定した目標に到達した。

〈柿崎〉

- 1. Impact factorのついた学術雑誌に first author として年 1 報の論文を発表する。
- →この目標については、達成できなかった。 2. 国際学会、全国レベルの学会で演者として発表。
 - →この目標については、2件の一般演題を発表できた。
- 3. 研究代表者として科学研究費補助金に1件採択
 - →この目標については、1件(文部科学省科学研究費補助金若手研究B)採択されたが、同時に文部科学省在 外研究員にも採用され、留学する機会を得たために補助金は辞退した。残念ではあるが、目標は達成された と思う。

理念:

〈高垣〉

流行に左右されない独創性のある研究を目指す。

〈今〉

目先に囚われないオリジナリティーの高い研究をする。

〈柿崎〉

ポストゲノムの近年,核酸、タンパク質に続く第三の生命分子として、再度注目されてきた糖鎖を中心とした研究に、少しでも貢献するために、人まねではない独創性を意識して研究に取り組む。そのために、他の研究領域にも 興味を持ち、小さな発見を大切にする。

これから2年間の目標:

〈高垣〉

- 1. Impact factor の付いた学術誌に教室員が論文を公表できるよう指導する。
- 2. 大学院生の研究指導
- 3. 助手への研究指導
- 4. 国際学会、全国レベルの学会などのシンポジウム
- 5. 研究代表者として科学研究費補助金に1件以上採択

(今)

年間に Impact factor の付いた学術雑誌に最低論文 2 本はアクセプトされる。

〈柿崎〉

- 1. Impact factor のついた学術雑誌に first authorとして年1報の論文を発表する。
- 2. 国際学会、全国レベルの学会で演者として発表する。
- 3. 研究代表者として科学研究費補助金に1件採択を目指す。
- 4. 他機関との共同研究を大切にする。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講師	币 0,助手	2, 医員 0, 大学院学生 1, 研究生 1
	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
教 官	教 授	専 任	高垣 啓一	2002年8月1日~2003年3月31日
(教授~助手)	助教授	専 任	高垣 啓一	2002年4月1日~2002年7月31日
の詳細	助手	専 任	柿崎 育子	2002年4月1日~2003年3月31日
	助手	専 任	岩船 美都	2002年4月1日~2003年3月31日
研究課題	1. エンド型グリコシダーゼによる糖鎖の組み換え 2. 糖鎖工学的手法による人工プロテオグリカンの合成 3. ヒアルロン酸合成抑制による生体機能変化の解明 4. プロテオグリカンの機能解明			

2003年度

研究人員	教授 1, 助	対授 1, 講師	币 0 ,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 3, 研究生 1		
教官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
	教 授	専 任	高垣	啓一	2003年4月1日~2004年3月31日		
(教授~助手)	助教授	専 任	今	淳	2003年4月1日~2004年3月31日		
の詳細	助 手	専 任	柿崎	育子	2003年4月1日~2004年3月31日		
	1. 糖鎖工学的手法による人工プロテオグリカンの合成						
	2. ヒアルロン酸合成抑制による生体機能変化の解明						
	3. グライコナノテクノロジーによるプロテオグリカンの解析						
	4. プロテオグリカンの機能解明						
からまま	5. プロテオグリカンのグラコーム解析技術の開発						
研究課題	6. 主にプロテオグリカン研究を通した皮膚の再生・老化機構の解明						
	7. Ⅷ型コラーゲンの皮膚における発現調節機構						
	8. ヒト巨核球前駆細胞の分化・増殖に及ぼすグリコサミノグリカンの影響について						
	9. マラリア病原虫の胎盤への接着を阻害するグリコサミノグリカンについて						
	10. ムチンに作用する嫌気性菌のエンド型グリコシダーゼのスクリーニング						

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

- A.1. Ishido K, Takagaki K, Iwafune M, Yoshihara S, Sasaki M, Endo M. Enzymatic attachment of glycosaminoglycan chain to peptide using the sugar chain transfer reaction with endo- β -xylosidase. J Biol Chem. 2002; 277: 11889-11895.
- A.2. <u>Takagaki K, Ishido K, Kakizaki I, Iwafune M, Endo M.</u> Carriers for enzymatic attachment of glycosaminoglycan chains to peptide. <u>Biochem Biophys Res Commun. 2002</u>; 293: 220-224.
- A.3. Takagaki K, Iwafune M, Kakizaki I, Ishido K, Kato Y, Endo M. Cleavage of the xylosyl serine linkage between a core peptide and a glycosaminoglycan chain by cellulases. J Biol Chem, 2002; 277: 18397-18403.
- A.4. Iwafune M, Kakizaki I, Yukawa M, Kudo D, Ota S, Endo M, Takagaki K. Reconstruction of glycosaminoglycan chains in decorin. Biochem Biophys Res Commun, 2002; 297: 1167-1170.
- A.5. <u>Kakizaki I, Takagaki K, Endo Y, Kudo D</u>, Ikeya H, Miyoshi T, Baggenstoss BA, Tlapak-Simmons VL, Kumari K, Nakane A, Weigel PH, <u>Endo M</u>. Inhibition of hyaluronan synthesis in *Streptococcus equi* FM100 by 4-methylumbelliferone. Eur J Biochem, 2002; 269: 5066-5075.
- B.1. Ikeda H, Serria MS, <u>Kakizaki I</u>, Hatayama I, Satoh K, Tsuchida S, Muramatsu M, Nishi S, Sakai M. Pi-class glutathione S-transferase gene by Nrf2 (NF-E2-related factor 2) and androgen. Biochem J. 2002; 364:563-570.

2003年度

- A.1. Shibata, S., <u>Takagaki, K.</u>, Ishido, K., Konn, M., Sasaki, M., and Endo, M. HNK-1-Reactive oligosaccharide, sulfate-O-3 $GlcA \beta$ 1-4 $Xyl \beta$ 1-MU, synthesized by cultured human colorectal cancer cells. Tohoku J. Exp. Med., 2003; 199: 13-23.
- A.2. Iwafune, M., <u>Kakizaki, I.</u>, Nakazawa, H., Nukatsuka, I., Endo, M., and <u>Takagaki, K</u>. A glycomic approach to proteoglycan with a two-dimensional polysaccharide chain map. Anal. Biochem. 2004; 325: 35-40.
- A.3. Kon A, Takeda H, Sasaki H, Yoneda K, Nomura K, Ahvazi B, Steinert PM, Hanada K, Hashimoto I. Novel transglutaminase 1 gene mutations (R348X/Y365D) in a Japanese family with lamellar ichthyosis. J Invest Dermatol 2003; 120: 170-172
- A.4. Matsuzaki Y, Tamai K, Kon A, Sawamura D, Uitto J, Hashimoto I. Keratinocyte responsive element 3: analysis of a keratinocyte-specific regulatory sequence in the 230 kDa bullus pemphigoid antigen gene promoter. J Invest Dermatol 2003; 120: 308-312.
- A.5. Sasaki H, <u>Kon A</u>, Takeda H, Sawamura D, <u>Kakizaki I</u>, <u>Takagaki K</u>, Hashimoto I, Hanada K. A novel Sp1-family mediated cis-acting element for transcription of type VII collagen gene (COL7A1). J Dermatol Sci 2003; 32: 239-242.
- B.1. Sawamura D, Goto M, Yasukawa K, <u>Kon A</u>, Akiyama M, Shimizu H. Identification of COL7A1 alternative splicing inserting 9 amino acid residues into the fibronectin type III linker domain. J Invest Dermatol 2003; 120: 942-948

和文 なし

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文

2003年度

B.1. Yoneda K, Inoue T, Ansai S, Manabe M, Demitsu T, <u>Kon A</u>, Nomura K, Hashimoto I, Ishibashi Y. Nonbullous congenital ichthyosiform erythroderma/lamellar ichthyosis. In: Ogawa H, Nagashima M, Ishibashi Y, eds. The color atlas of "Disorders of keratinization". Tokyo: Kyowa Kikaku LTD 2003; 6-9

和文

2002年度

A.1. 高垣啓一(単著) 人工プロテオグリカンの開発 J. Appl.Glycosci. (日本応用糖質科学学会), 2002; 49: 327-332.

(4)その他

英文 なし

和文 なし

(5)発表論文のまとめ

1. 原著、総説(A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J. Biol. Chem.	7.258	2	14.516
Biochm. Biophys. Res.Commun.	2.946	2	5.892
Eur. J. Biochem.	2.849	1	2.849
Biochem. J.	4.236	1	4.236
Total		6	27.493

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Tohoku J. Exp. Med.	0.516	1	0.516
Anal. Biochem.	2.019	1	2.019
J Invest Dermatol.	4.645	2	9.29
J. Dermatological Sci.	1.053	1	1.053
J Invest Dermatol.	4.645	1	4.645
Total		6	17.523

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
	なし			
	計		0	0

2. 著書数 (A. Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	1
分担執筆		0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	1	0
編	集	0	0
分担執筆		0	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- C.1. Takagaki K, Munakata H, Kakizaki I, Iwafune M, Itabashi T, Endo M. Domain structure of chondroitin sulfate binding to type V collagen. XXIst International Carbohydrate Symposium, The Cairns, The Australia. (2002).
- C.2. Iwafune M, Kakizaki I, Ishido K, Endo M, Takagaki K. A new method for release of glycosaminoglycan chain by cellulases. 8th International Pacific Rim Biotechnology Conference, The Auckland, The New Zealand. (2002).

2003年度

- B.1. Kon, A., Takeda, H., Takagaki, K., and Hanada, K. Tissue specific gene expression of human type VII collagen in epidermal keratinocytes and dermal fibroblasts, with special reference to photoaged skin. The 13th Koea-Japan Join Meeting of Dermatology, Daejeon, Korea, 2003.
- B.2. Itano, N., Kakizaki, I., Mita, S., Endo, M., Takagaki, K., and Kimata, K. A novel mechanism for inhibition of hyaluronan biosynthesis by 4-methylumbelliferone. Haluronan 2003, Cleveland, Ohio, USA, 2003.
- C.1. Kakizaki, I., Itano, N., Mita, S., Ito, M., Maruo, Y., Sato, H., Endo, M., Takagaki, K., and Kimata, K. Inhibition mechanism of hyaluronan synthesis by 4-methylumbelliferone in fibloblasts. 5th Pan-Pacific Connective Tissue Societies Symposium, Ube, Yamaguchi, 2003.
- C.2. Ota, S., Yoshihara, S., Nakazawa, H., Kon, A., Endo, M., and Takagaki, K. Effect of proteoglycans on murine experimental colitis. 3rd International Conference on Proteoglycans, Parma, Italy, 2003.
- C.3. Ota, S., Yoshihara, S., Nakazawa, H., Kon, A., Endo, M., and Takagaki, K. Effect of proteoglycans on murine experimental colitis. 3rd International Conference on Proteoglycans, Parma, Italy, 2003.
- C.4. Kakizaki, I., Baggenstoss, B.A., Tlapak-Simmons, V.L., Nakane, A., Weigel, P.H., Endo, M., and Takagaki, K. A possible cardiolipin-dependent inhibition mechanism of hyaluronan synthesis by 4-methylumbelliferone in streptococcus equi FM 100. Haluronan 2003, Cleveland, Ohio, USA, 2003.
- C.5. Ota, S., Yoshihara, S., Nakazawa, H., Tanaka, M., Takagaki, K., and Sasaki, M. Effect of proteoglycans on dextran sulfate sodium induced experimental colitis. 11th UEGW, Madrid, Spain, 2003.

(2)全国学術集会

2002年度

C. 9件

- B.1. 高垣 啓一 「プロテオグリカンと糖鎖の酵素学的改変」 科学研究費補助金学術創成研究(2)「ソフト&ウェット型人工筋肉の創出と生体代替運動システムへの応用」に関する高分子ゲルに関するセミナー 札幌市, 2003年
- B.2. 高垣 啓一 「プロテオグリカンの糖鎖工学」 日本生化学会東北支部第69回例会・シンポジウム 仙台 市, 2003年
- B.3. 高垣 啓一 「エンド-β-キシロシダーゼの糖転移反応を用いたグリコサミノグリカンのペプチドへの導入」 科学研究費補助金特定領域研究「糖鎖によるタンパク質と分子複合体の機能調節」第一回夏期シンポジウム 浜松市、2003年
- C. 11件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

2002年度

- 1. 相手研究機関名 株式会社 角弘 研究課題 「プロテオグリカンの調製並びに物性及び安定性の研究」 代表研究者 高垣 啓一
- 究」 代表研究者 高垣 啓一 2. 相手研究機関名 株式会社 角弘 研究課題 「Na 型プロテオグリカンの物性及び機能性の研究」 代表研究者 高垣 啓一

2003年度

- 1. 株式会社 角弘,「Na型プロテオグリカンの物性及び機能性の研究」 研究者 高垣 啓一
- 2. 株式会社 角弘,「サケ鼻軟骨由来プロテオグリカンの大量調製方法」 研究者 高垣 啓一
- 3. 大塚化学株式会社化学品開発部,「オリゴ糖鎖の合成研究」 研究者 高垣 啓一
- 4. 愛知医科大学分子医科学研究所、「ヒアルロン酸合成抑制剤 4-メチルウンベリフェロンの作用機構 について」 研究者 柿崎 育子
- 5. Pennsylvania State University, College of Medicin「Structural characterization of thebovine tracheal chondroitin sulfate chains and binding of Plasmodium falciparum-infected erythrocytes」 研究者 柿崎 育子

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

- 1. 地域連携等研究費(2)「老人介護素材としての軟骨型プロテオグリカンの開発」 研究代表者 高垣 啓一, 6,300千円 研究分担者 柿崎 育子, 岩船 美都
- 啓一,6,300千円 研究分担者 柿崎 育子,岩船 美都 2. 基盤研究(C)(2)「グリコサミノグリカン糖鎖のオーダーメイド技術とその応用的展開」 研究代表者 高垣 啓一,700千円 研究分担者 柿崎 育子

2003年度

研究代表者として

- 1. 研究代表者 高垣 啓一, 平成15年度科学研究費補助金 特定領域研究(2)「エンド型グリコシダーゼを用いたプロテオグリカン糖鎖の改変と機能変化」, 配分額1,800千円
- 2. 研究代表者 高垣 啓一, 平成15年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(2)「エンド型グリコシダーゼを用いたリコンビナントプロテオグリカン糖鎖の再生」、配分額6,300千円
- 3. 研究代表者 今 淳、平成15年度科学研究費補助金 基盤研究 (C)、「scarless wound healing (瘢痕を残さない創傷治癒)機構の解明: 先天性表皮水疱症の治療への応用、配分額410万円

他研究単位との研究分担者として

- 1. 研究分担者 高垣 啓一(研究代表者 今 淳) 平成15年度科学研究費補助金 基盤研究(C) (2)「scarless wound healing(瘢痕を残さない創傷治癒)機構の解明:先天性表皮水疱症の治療への 応用」配分額410万円
- 2. 研究分担者 今 淳, 平成15年度科学研究費補助金基盤研究 (B)「栄養障害型表皮水疱症: 人工接着分子を用いた新規遺伝子治療法の開発」,配分額1,390万円
- 3. 研究分担者 今 淳、平成15年度科学研究費補助金(萌芽)皮膚の再生機構の解明: ヒアルロン酸合成酵素遺伝子導入による胎児創傷治癒機構モデルの開発、350万円
- 4. 研究分担者 今 淳(研究代表者 高垣 啓一) 平成15年度科学研究費補助金 基盤研究(B) (2)「エンド型グリコシダーゼを用いたリコンビナントプロテオグリカン糖鎖の再生」,配分額6,300千円

(2)その他の省庁からの研究費

2003年度

研究代表者 高垣 啓一 ナノテクノロジー関連研究開発パイロットプロジェクト経費(青森県) 「プロ テオグリカンのオーダーメイド技術の開発」、配分額4,910千円

(3)学内の研究助成

2002年度

研究代表者として

- 1. 平成14年度 弘前大学重点研究 「プロテオグリカン研究拠点の構築」 研究代表者 高垣 啓一 1,653千円 研究分担者 柿崎 育子
- 2. 平成14年度 教育改善推進費(教育研究プロジェクト経費) 「リコンビナントプロテオグリカン糖鎖 の改変」 研究代表者 高垣 啓一 200万円 研究分担者 柿崎 育子, 岩船 美都
- 3. 平成14年度社団法人青森医学振興会助成 「先進的研究推進のための助成」 研究代表者 高垣 啓 一 1,000千円 研究分担者 柿崎 育子,岩船 美都

2003年度

研究代表者として

- 1. 高垣 啓一, 平成15年度弘前大学重点研究 「プロテオグリカン研究拠点の構築」配分額4,000千円 2. 高垣 啓一, 平成15年度学術国際振興基金助成事業C-1 地域企業と大学の共同研究の助成,「新素材 としての軟骨プロテオグリカンの開発」 配分額500千円
- 3. 高垣 啓一, 平成15年度学術国際振興基金助成事業A-2 国内学会·研究集会·学術講演会の助成, 「青 森糖質研究会」,配分額150千円
- 4. 高垣 啓一, 平成15年度弘前大学学術研究奨励基金助成金「プロテオグリカンネットワークス体制の 整備」、配分額300千円

他研究単位との研究分担者として

- 1. 高垣 啓一, 平成15年度教育改善推進費(教育研究プロジェクト経費(特別分)), 「陸奥湾総合開発立 案に向けての弘前大学と青森県・自治体等との共同研究」、配分額30千円
- 2. 今 淳、平成15年度弘前大学重点研究 「プロテオグリカン研究拠点の構築」配分額400千円 3. 柿崎 育子、平成15年度弘前大学重点研究 「プロテオグリカン研究拠点の構築」配分額200千円

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として

- 1. 第21回唐牛記念医学研究基金助成金(A)「サイボーグ型プロテオグリカンの作製」 研究代表者 高 垣 啓一 3,500千円
- 2. 第21回唐牛記念医学研究基金助成金(B)「ヒアルロン酸合成抑制剤を用いた抗線維化治療法の開発」 研究代表者 柿崎 育子 500千円

2003年度

研究代表者として

- 1. 高垣 啓一, 社団法人青森医学振興会助成先進的研究推進のための助成,「リコンビナント糖タンパク 質糖鎖の回復と改変に関する研究 | 配分額1,000千円
- 2. 高垣 啓一, 財団法人21あおもり産業総合支援センター, 平成15年度戦略的研究開発プロジェクト構 築事業研究部会助成事業助成金、「プロテオグリカン研究会」、配分額100千円

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流。国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

なし

c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

2002年度

高垣 啓一 ペンシルベニア州立大学医学部 生化学・分子生物学教室 米国 2002年11月25日~2002 年12月12日

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

2003年度

柿崎 育子 ペンシルベニア州立大学医学部 生化学・分子生物学教室 米国 2003年7月1日~2004 年2月28日

f) その他

なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

第1回プロテオグリカン研究会 弘前大学重点研究 「プロテオグリカン研究拠点の構築」 2003年3 月8日(弘前大学医学部コミュニケーションセンター) 代表 高垣 啓一

2003年度

- 1. 代表者 高垣 啓一 第5回青森糖質研会 「農水産物の糖質と機能-地域資源と新産業の創出 ー」 弘前大学八戸サテライト (八戸市) 2. 代表者 高垣 啓一 第2回プロテオグリカン研究会・弘前大学重点研究「プロテオグリカン研究
- 拠点の構築」、弘前市民ホール(弘前市)
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学) 状況

なし

VII. その他

なし

6. 生化学第二講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- 1 ラットグルタチオン S-トランスフェラーゼ (GST) の遺伝子多型を判別する方法を開発し、遺伝子型により肝障害性の薬剤四塩化炭素に対する感受性が異なることを明らかにした。
- 2 サイクリン依存性キナーゼ阻害タンパク質 p21 Waf1 により、大腸がん細胞株 DLD-1 はシスプラチンに感受性 になりアポトーシスを起こすこと、Jun N-terminal kinase の発現が増加すること、GST の発現に変化がないことを明らかにした。
- 3 粘液の主成分ムチン遺伝子 (Muc2) が、がん抑制遺伝子 p53 により制御を受けることを明らかにした。
- 4 アンジオテンシン変換酵素が脳の生理活性ペプチド、ヘモルフィンを分解することを明らかにした。

理念:

- 1 スタッフ、大学院学生、その他の人々の英知と創造力を結集して、学術的に意義のある国際的評価を得られる質の高い研究を行う。
- 2 学内及び外国を含む学外との共同研究を積極的に行い、教室の研究を深め、また新たな展開を図るように努める。
- 3 教室の研究成果を社会に還元するよう努め、また、研究成果の活用を通して、社会及び地域に貢献することを目指す。
- 4 これらの研究活動を通して教室員の研究能力の向上を図り、研究者としての倫理観と良心を備えたすぐれた研究者の養成、人材の育成に努める。

これから2年間の目標:

- 1 GST の遺伝子多型ラットを用いて、ペルオキシソーム増殖剤の肝発がん性を短期間の投与で評価できる新しい方法を開発する。
- 2 ラット肝前がん病変での GST の発現に係わる転写因子を明らかにするとともに、GST の機能について研究を 進める。
- 3 Mitogen-activated protein kinase (MAPK) 経路の阻害タンパク質の機能を解明する。
- 4 弘前へアレスラットの原因遺伝子の解明
- 5 その他の教室の研究テーマを継続し、その進展に全力で取り組む。

【研究人員及び研究課題】

研究人員	教授 1, 即		币 0,	助手	2, 医員 0, 大学院学生 5, 研究生 1			
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間			
教 官	教 授	専 任	土田	成紀	1年			
(教授~助手)	助教授	専 任	早狩	誠	1年			
の詳細	助手	専 任	大川	恵三	1年			
	助手	専 任	山崎	尊彦	1年			
研究課題	 発癌機構 1. 発癌機構 2. 腫瘍マーカー 3. 細胞増殖と分化、ストレス応答の制御機構 4. グルタチオントランスフェラーゼの発現制御機構 5. グルタチオントランスフェラーゼの遺伝子多型と発癌感受性 							

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講印	新 0, E	助手	1, 医員 0, 大学院学生 4, 研究生 1			
教官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間			
教 日 (教授~助手)	教 授	専 任	土田	成紀	1年			
の詳細	助教授	専 任	早狩	誠	1年			
り計和	助 手	専 任	山崎	尊彦	6ヵ月(平成15年9月まで)			
研究課題	 グルタチオントランスフェラーゼの遺伝子多型と発がん感受性 グルタチオントランスフェラーゼの発現制御機構 細胞増殖と分化、ストレス応答の制御機構 Mitogen-activated protein kinase 経路の阻害タンパク質の機能 							
	7. 肥満におけるアンジオテンシン変換酵素の役割 8. 弘前へアレスラットの原因遺伝子の解明							

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. Ookawa K, Kudo K, Aizawa S, Saito H, Tsuchida S. Transcriptional activation of the MUC2 gene by p53. J Biol Chem 2002;277:48270-5.
- A.2. <u>Satou M</u>, <u>Aizawa S</u>, <u>Hayakari M</u>, <u>Ookawa K</u>, <u>Tsuchida S</u>. Enhanced sensitivity to cis-diamminedichloroplatinum (II) of a human carcinoma cell line with mutated p53 gene by cyclin-dependent kinase inhibitor p21 WAF1 expression. Cancer Sci 2003;94:278-83.
- B.1. Ikeda H, Serria MS, Kakazaki I, Hatayama I, Satoh K, <u>Tsuchida S</u>, Muramatsu M, Nishi S, Sakai M. Activation of mouse Pi-class glutathione S-transferase gene by Nrf2 (NF-E2-related factor 2) and androgen. Biochem J 2002;364:563-70.

2003年度

- A.1. Mayama J, Kumano T, Hayakari M, Yamazaki T, Aizawa S, Kudo T, Tsuchida S. Polymorphic glutathione S-transferase subunit 3 of rat liver exhibits different susceptibilities to carbon tetrachloride: differences in their interactions with heat-shock protein 90. Biochem J 2003; 372:611-6.
- A.2. <u>Hayakari M</u>, Satoh K, Izumi H, <u>Kudo T</u>, <u>Asano J</u>, <u>Yamazaki T</u>, <u>Tsuchida S</u>. Kinetic-controlled hydrolysis of Leu-Val-hemorphin-7 catalyzed by angiotensin-converting enzyme from rat brain. Peptides 2003; 24:1075-82.
- A.3. <u>Aizawa S, Ookawa K, Kudo T, Asano J, Hayakari M, Tsuchida S</u>. Characterization of cell death induced by ethacrynic acid in a human colon cancer cell line DLD-1 and suppression by N-acetyl-L-cysteine. Cancer Sci 2003;94:886-93.
- B.1. Chang TH, Hakamada K, Toyoki Y, <u>Tsuchida S</u>, Sasaki M. *Expression of MRP2 and MRP3 during liver regeneration after 90% partial hepatectomy in rats. Transplantation 2004;77:22-7.
- B.2. Kato M, Kusumi T, <u>Tsuchida S</u>, Tanaka M, Sasaki M, Kudo H. *Induction of differentiation and peroxisome proliferator-activated receptor gamma expression in colon cancer cell lines by troglitazone. J Cancer Res Clin Oncol 2004;130:73-9.

和文 なし

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

A.1. <u>土田成紀, 佐藤 衛, 山崎尊彦, 早狩 誠</u>. ビタミンや食品中の抗酸化物質によるグルタチオン S-トランスフェラーゼの誘導とがんの予防. ビタミン 2002; 76:535-43.

2003年度

B.1. 張 同輝, 袴田健一, 石沢義也, 梅原 実, 豊木嘉一, 十束英志, 鳴海俊治, 佐々木睦男, <u>早狩 誠、土</u> 田成紀. *大量肝切除後肝再生時におけるビリルビン排泄蛋白Multidrug Resistance Protein (MRP) 2, MRP3 発現量・局在の検討. 薬理と治療 2003;31:133-135.

(3)著書

英文 なし

和文

2002年度

A.1. <u>土田成紀</u>, 菅原和夫. 医学部における教員評価システムの構築と運用状況-教育・研究・管理運営, 3評価による予算傾斜配分-. 教育評価制度の導入と大学の活性化. pp. 135-45. 高等教育情報センター, 東京. なし

2003年度

A.1. <u>土田成紀</u>. グルタチオン S-トランスフェラーゼ. 臨床薬物代謝化学(堀江 透, 横井 毅編集) 2003, pp. 109-129, 広川書店, 東京.

(4)その他

英文 なし

和文

2002年度

A.1. <u>相澤 秀</u>, 大川恵三, 工藤敏啓, 浅野純平, 土田成紀.ヒト大腸癌細胞株 DLD-1 における glutathione S-transferase π (GST- π) 発現に関わる mitogen-activated protein kinases (MAPK) の検討. 第22回日本 分子腫瘍マーカー研究会 2002;pp.60-1.

2003年度

A.1. <u>工藤敏啓</u>, <u>浅野純平</u>, <u>間山</u> 淳, 熊野高行, 山崎尊彦, 早狩 誠, 土田成紀. グルタチオントランスフェラーゼ遺伝子多型ラットにおけるペルオキシソーム増殖剤肝発がん感受性の差異. 第23回日本分子腫瘍マーカー研究会 2003;pp.50-1.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著. 総説 (A. Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Biol Chem Cancer Sci Biochem J	6.696 1.918 4.589	1 1 1	6.696 1.918 4.589
Total		3	13.203

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Biochem J	4.589	1	4.589
Peptides	2.137	1	2.137
Cancer Sci	1.918	1	1.918
Transplantation	3.265	1	3.265
J Cancer Res Clin Oncol	2.197	1	2.197
Total		5	14.106

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
ビタミン			1	
ビタミン 薬理と治療				1
	計		1	1

2. 著書数 (A. Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担執筆		1	1

3. その他 (A. Bのみ)

英文 なし

和文

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本分子腫瘍マーカー	研究会誌	1	1	
	計		1	1

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

C.1. <u>Yamazaki T</u>, Nakano H, H<u>ayakari M</u>, <u>Mayama J</u>, <u>Tsuchida S</u>. Enhanced phosphatidylethanolamine-binding protein expression in human keratinocytes differentiated by calcium. The Society for Investigative Dermatology, Los Angeles, California, May 2002.

(2)全国学術集会

2002年度

A.1. <u>土田成紀</u>, <u>工藤敏啓</u>, <u>浅野純平</u>, <u>間山 淳</u>, 大川恵三, <u>早狩 誠</u>. グルタチオントランスフェラーゼ遺伝 子多型ラットにおけるペルオキシソーム増殖剤肝発がん感受性の差異. 発がんと防御, 個体レベル若手 ワークショップ 2003年1月 蓼科

C. 16件

2003年度

A.1. <u>土田成紀</u>. グルタチオン S-トランスフェラーゼ遺伝子多型ラットでのペルオキシソーム増殖剤に対する 発がん感受性の差異. つくば分子生命科学セミナー, 2003年12月 つくば

C. 15件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

2002年度

土田成紀.「遺伝子治療の実験モデルとしての弘前へアレスラットの確立」21あおもり産業総合支援センター 30万円

2003年度

土田成紀. 遺伝子治療の実験モデルとしての弘前へアレスラットの確立 21あおもり産業総合支援センター 30万円

早狩 誠. アンジオテンシン変換酵素阻害物質を有するカボチャ成分による脂肪蓄積の抑制および記憶保持増強効果の検討. 東北化学薬品 10万円

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

研究代表者として 土田成紀 萌芽研究 カルボニル還元酵素による卵巣がん転移抑制の分子機構 130 万円

他研究単位との研究分担者として 早狩 誠 萌芽研究(代表研究者 吉田秀見)脳血管障害におけるオピオイドペプチドの新しい働き:ヘモルフィンの関与 50万円

2003年度

研究代表者として 土田成紀. 萌芽研究 カルボニル還元酵素による卵巣がん転移抑制の分子機構 100 万円

他研究単位との研究分担者として 早狩 誠. 萌芽研究 脳血管障害におけるオピオイドペプチドの新しい働き: ヘモルフィンの関与. 研究代表者 吉田秀見 80万円

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

研究代表者として 土田成紀 21あおもり産業総合支援センター研究開発委託事業 遺伝子治療の実験 モデルとしての弘前へアレスラットの確立 30万円 土田成紀 学術国際振興基金 カルボニル還元酵素の発現による癌転移の抑制 100万円

(3)学内の研究助成

2002年度

研究代表者として 土田成紀 研究協力推進・インセンテイブ経費 グルタチオンS-トランスフェラーゼ 遺伝子多型によるラット肝発癌感受性の差異 93万5千円

2003年度

研究代表者として 早狩 誠 アンジオテンシン変換酵素阻害物質を有するカボチャ成分による脂肪蓄積の抑制および記憶保持増強効果の検討. 学術国際振興基金 46万円

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として 土田成紀 SD ラットの遺伝子多型を利用したペルオキシソーム増殖剤の肝発がん性 の短期検索法 (社) 日本化学工業協会長期自主研究 500万円

2003年度

研究代表者として 土田成紀. SD ラットの遺伝子多型を利用したペルオキシソーム増殖剤の肝発がん性の短期検索法. (社) 日本化学工業協会長期自主研究 500万円 研究代表者として 早狩 誠. カボチャに見い出されたアンジオテンシン変換酵素阻害物質による生体機能試験-生活習慣病の予防効果- 浦上食品・食文化振興財団研究助成 229万円

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流。国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘. 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

2002年度

呂 旭原(台湾) 大学院学生

2003年度

呂 旭原 (台湾) 大学院学生

- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況なし

f) その他

なし

(2)国内, 地域活動

- a) 全国レベルの学会の主催 なし
- b) 地方レベルの学会の主催 なし
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

なし

7. 薬理学講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- 1. 2003年度は5報発表し、そのうち3報は corresponding authorであったので、達成度は100%以上である。
- 2. 昨年は大学院生を3名指導。そのうち1名は博士号を取得したので、達成度は100%以上である。
- 3. 制度が終了したので、2003年度は評価できず。
- 4. 助手2名, 技官1名と共同研究を行い、それぞれ学会発表できる成果を挙げたので、達成度は100%。
- 5.1) 国際学会について
 - 発表は4件
 - 2) 全国レベルの学会等のシンポジウムについては 日本薬理学会並びに薬物活性シンポジウムで計2回発表。

達成度は100%以上である。

6. 研究助成金としては

唐牛記念医学研究助成金 (350万円),並びに弘前大学教育改善推進費 (500万円)獲得達成度は100%である。

理念:

- 1. 常に新しいテーマを模索すること。
- 2. 臨床を視野に入れた基礎研究を指向する。
- 3. 研究成果を教育に反映させる。
- 4. 共同研究を推進する。

これから2年間の目標:

- 1. Impact factorのついた学術雑誌に年3報以上の英文論文を発表。そのうち1報以上はfirst authorか corresponding authorを目標とする。
- 2. 大学院生の研究指導と成果の迅速な論文化
- 3. 助手, 技官への研究助言
- 4. 国際学会,全国レベルの学会等のシンポジウムで発表
- 5. 科学研究費あるいは他省庁の研究費に1件以上採択

【研究人員及び研究課題】

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講師	师 0,	助手	2, 医員 0, 大学院学生 5, 研究生 3			
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間			
教 官	教 授	専 任	元村	成	2002. 4-2003. 3			
(教授~助手)	助教授	専 任	古川	賢一	2002. 4-2003. 3			
の詳細	助 手	専 任	瀬谷	和彦	2002. 4-2003. 3			
	助 手	専 任	橋本(中	尾)美貴	2002. 4-2003. 3			
	1. 房室結節伝導の生理薬理							
	2. カルシウム拮抗薬の薬理							
	3. 抗不整脈	(薬の薬理						
	4. 冠循環の)生理薬理						
研究課題	5. 後縦靱帯骨化症の骨化の発生・進展のメカニズム							
切几杯烛	6. 血管平滑筋細胞のCa ²⁺ シグナリング							
7. 天然生理活性物質の薬理作用の解析 8. 心房細動における心筋リモデリングとイオンチャネルに関する研究								
	10. 心筋細胞のアポトーシスを抑制する物質の探索							

研究人員	教授 1, 助	D 教授 1 , 講師	乖 0 ,	助手	2, 医員 0, 大学院学生 4, 研究生 0			
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間			
教 官	教 授	専 任	元村	成	2003. 4-2004. 3			
(教授~助手)	助教授	専 任	古川	賢一	2003. 4-2004. 3			
の詳細	助手	専 任	瀬谷	和彦	2003. 4-2004. 3			
	助 手	専 任	樋熊	拓未	2003. 4-2004. 3			
	1. 後縦靱帯骨化症の骨化の発生・進展のメカニズム							
	2. 血管平滑	骨筋細胞のCa ²⁺ 3	ノグナリ	ング				
	3. 房室結節	5伝導の生理薬3	里					
	4. 不整脈発	差症に関連する	遺伝子系		と治療薬の作用点の解析			
TT (大元) 3田 日百	5. カルシウム拮抗薬の薬理							
研究課題	6. 冠循環の生理薬理							
	7. 天然生理活性物質の薬理作用の解析							
	8. 心筋細胞アポトーシスのミトコンドリア内からの誘導機構の解明							
9. 心筋細胞のアポトーシスを抑制する物質の探索								
	10. 異所性情	化のメカニズ.	ム解析					

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. Yamamoto, Y., <u>Furukawa, K.-I.</u>, Ueyama, K., Nakanishi, T., Takigawa, M., Harata, S. Roles of CTGF/Hcs24 in the occurrence and development of ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine. Spine 2002, 27, 1852-1857.
- A.2. Sasamura, S., <u>Furukawa, K.-I.</u>, Shiratori, M., <u>Motomura, S.</u> and Ohizumi, Y. Antisense-Inhibition of Plasma Membrane Ca²⁺ Pump Induces Apoptosis in Vascular Smooth Muscle Cells. Japanese Journal of Pharmacology 2002, 90, 164-172
- A.3. <u>Seya, K., Furukawa, K.-I.,</u> Taniguchi, S., Takaya, Y., Kodzuka, G., Oshima, Y., Niwa, M. and <u>Motomura, S. Endothelium-dependent vasodilatory effect of vitisin C, a novel plant oligostilbene from *Vitis Coignetiae* (Vitaceae) in rabbit aorta. Clinical Science 2003, 105, 73-79</u>
- A.4. Ohishi, H., Furukawa, K.-I., Iwasaki, K., Ueyama, K., Okada, A., Motomura, S., Harata, S., and Toh, S. Role of prostaglandin I₂ in the gene expression induced by mechanical stress in spinal ligament cells derived from patients with ossification of the posterior longitudinal ligament. Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics 2003, 305, 818-824.
- A.5. <u>Iwasa A, Motomura S, Sasaki S, Daitoku K, Higuma T, Okumura K. Atrial activation sequence during junctional tachycardia induced by thermal stimulation of Koch's triangle in canine blood-perfused atrioventricular node preparation. PACE (Pacing and Clinical Electrophysiology) 2002; 25: 753-760</u>
- B.1. Rohra, D. K., Yamakuni, T. <u>Furukawa, K.-I.</u>, Ishii, N., Shinkawa, T., Isobe, T. and Ohizumi, Y. Stimulated Tyrosine Phosphorylation of Phosphatidylinositol 3-Kinase Causes Acidic pH-Induced Contraction in Spontaneously Hypertensive Rat Aorta. Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics 2002, 303, 1255-1264.

- A.1. <u>Kimura M, Kobayashi T,</u> Owada S, <u>Ashikaga K, Higuma T,</u> Sasaki S, Iwasa A, <u>Motomura S,</u> Okumura K. Mechanism of ST Elevation and Ventricular Arrhythmias in an Experimental Brugada Syndrome Model. Circulation 2003; 109: 125-131.
- A.2. <u>Kobayashi T, Kimura M, Owada S, Ashikaga K, Higuma T, Sasaki S, Iwasa A, Motomura S, Okumura K. Impaired longitudinal conduction in crista terminalis is necessary for sustenance of experimental atrial flutter. PACE (Pacing and Clinical Electrophysiology) 2003; 26: 2008-15.</u>
- A.3. <u>Taniguchi, S., Furukawa, K.-I.,</u> Sasamura, S., Ohizumi, Y., <u>Seya, K.</u> and <u>Motomura, S.</u> Gene expression and functional activity of sodium/calcium exchanger were enhanced in vascular smooth muscle cells of spontaneously hypertensive rats. Journal of Cardiovascular Pharmacology 43, 629-637 (2004)
- A.4. <u>Tanno M</u>, <u>Furukawa K-I</u>, Ueyama K, Harata S, <u>Motomura S</u>. Uniaxial cyclic stretch induces osteogenic differentiation and synthesis of bone morphogenetic proteins of spinal ligament cells derived from patients with ossification of the posterior longitudinal ligament. BONE 2003; 33: 475-484.
- A.5. Tanaka, T., Ikari, K., Furushima, K., Okada, A., Tanaka, H., <u>Furukawa, K.-I.</u>, Yoshida, K., Ikeda, T., Ikegawa, S., Hunt, S., Takeda, J., Toh, S., Harata, S., Nakajima, T., and Inoue, I. Genomewide linkage and linkage disequilibrium analyses pinpoint the ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine to COL6A1 locus on chromosome 21. American Journal of Human Genetics 73, 812-822 (2003)

- A.6. <u>Iwasaki, K., Furukawa, K.-I.</u>, Tanno, M., Kusumi, M., Ueyama, K., Tanaka, M., Kudo, H., Toh, S., Harata, S., <u>Motomura S</u>. Uni-axial cyclic stretch induces Cbfa1 expression in spinal ligament cells derived from patients with ossification of posterior longitudinal ligaments. Calcified Tissue International 74, 448-457 (2004)
- B.1. Kageyama K, <u>Furukawa K-I</u>, Miki I, Terui K, <u>Motomura S</u>, Suda T. Vasodilative effects of urocortin II via protein kinase A and a mitogen-activated protein kinase in rat thoratic aorta. J Cardiovasc Pharmacol 2003; 42: 561-565.

和文 なし

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

A.1. <u>古川賢一, 丹野雅彦, 岩崎弘英, 元村 成</u>, 植山和正, 楠美智己, 工藤 一, 原田征行 脊柱後縦靱帯の骨化進展におけるメカニカルストレスの役割 THE BONE 2002 16, 279-282

2003年度

- A.1. <u>岩崎弘英</u>, 古川賢一, 丹野雅彦, 楠美智巳, 植山和正, 岡田晶博, <u>元村</u>成, 原田征行, 籐 哲 脊柱 靱帯骨化症発症におけるメカニカルストレスの関与 別冊整形外科 45, 47-51 (2004)
- A.2. <u>古川賢一</u>, <u>大石裕誉</u>, <u>中尾美貴</u>, <u>元村 成</u>, 脊柱靱帯の異所性骨化において PGI₂ が果たす役割. 日薬理誌 2003; 122 補冊 1 : 71P-73P

(3)著書

英文

2002年度

- A.1. Sakai T, Hashimoto H, <u>Furukawa K-I</u>, <u>Motomura S</u>, Matsuki A. Nuclear factor-kB activation during anesthsia and surgery. Proceedings of the 5th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science; Pharmacogenetics-Taylor-made Pharmacotherapy: Elsevier International Congress Series 1244, 2002: 127-130.
- A.2. <u>Furukawa K-I, Tanno M</u>, Ueyama S, <u>Motomura S</u>. Molecular events caused by cyclic stretch inspinal ligament cells from patients with ossification of the posterior longitudinal ligament. Proceedings of the 5th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science; Pharmacogenetics-Taylor-made Pharmacotherapy: Elsevier International Congress Series 1244, 2002; 127-130.
- A.3. Ohkubo T, Suno M, Sugawara K, <u>Motomura S</u>. Graphic roots of CYP2C19 genetic polymorphism in Japanese population. Proceedings of the 5th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science; Pharmacogenetics-Taylor-made Pharmacotherapy: Elsevier International Congress Series 1244, 2002: 63-67.
- A.4. (編集) Kaneko S, <u>Motomura S</u>, Tateishi T, Kondo T, <u>Furukawa K-I</u>. Proceedings of the 5th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science; Pharmacogenetics-Taylor-made Pharmacotherapy: Elsevier International Congress Series 1244, 2002: 63-67.

和文

2002年度

B.1. 斉藤真也, <u>古川賢一</u>, 大泉 康 循環器におけるアシドーシスによる傷害 応用薬理 62,91-96 (2002) 2003年度

A.1. 古川賢一 メカニカルストレスと生体応答 化学と生物 42, 286-287 (2004)

(4)その他

英文 なし

和文 なし

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Spine	1.819	1	1.819
Jpn J Pharmacol	1.21	1	1.21
Clinical Science	2.271	1	2.271

J Pharmacol Exp Ther PACE J Pharmacol Exp Ther	3.3	1	3.3
	1.468	1	1.468
	3.3	1	3.3
Total		6	13.368

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Circulation	10	1	10
PACE	2	1	2
J Cardiovasc Pharmacol	1.8	1	1.8
BONE	3.9	1	3.9
Am J Human Genet	10	1	10
Cacified Tissue International	2.3	1	2.3
J Cardiovasc Pharmacol	1.8	1	1.8
Total		7	31.8

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
	なし			
	計		0	0

2. 著書数 (A. Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	1	0
分担執	丸筆	3	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	1	1

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

- C.1. Kageyama, K., Sakihara, S., <u>Furukawa, K.-I.</u>, <u>Miki, I.</u>, <u>Motomura, S.</u> and Suda T. Vasodilative effects of urocortin II via mitogen-activated protein kinase in rat thoracic aorta ENDO 2002 The Endocrine Society Scientific Meetings San Francisco, USA 2002
- C.2. <u>Miki, I., Furukawa, K.-I., Motomura, S.</u> Vasodilator effects of urocortin on rat aortae: Strain difference in contribution of endothelium. 14th International Congress of Pharmacology (IUPHAR) San Francisco, USA, 2002
- C.3. <u>Iwasaki, K., Furukawa, K.-I.</u>, Ueyama, K., Tanno, M., Harata, S., and <u>Motomura, S.</u> Uni-Axial Cyclic Stretch Induces Core Binding Factor Alpha 1(Cbfa1) in Spinal Ligament Cells Derived from Patients with Ossification of the Posterior Longitudinal Ligaments. 14th International Congress of Pharmacology (IUPHAR) San Francisco, USA, 2002
- C.4. Iwasaki, K., Furukawa, K.-I., Tanno, M., Kusumi, T., Ueyama, K., Harata, S., Motomura, S., Toh, S. Uni-Axial Cyclic Stretch Induces Core Binding Factor Alpha 1 (Cbfa1) in Spinal Ligament Cells Derived from Patients with Ossification of the Posterior Longitudinal Ligaments. 24th annual Meeting of American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR) San Antonio, Texas USA, 2002
- C.5. Ohishi, H., <u>Furukawa, K.-I.</u>, Ueyama, K., <u>Motomura, S.</u>, Harata, S., Toh, S. Analysis of mechanical stress-induced changes in gene expression using differential display technique in cultured spinal ligament cells derived from patients with ossification of the posterior longitudinal ligaments. 24th annual Meeting of American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR) San Antonio, Texas USA, 2002
- C.6. <u>Iwasaki, K., Furukawa, K.-I., Tanno, M., Kusumi, T., Ueyama, K., Harata, S., Motomura, S., Toh, S. Uni-acial cyclic stretch induces core binding factor alpha 1 (CBFA1) in spinal ligament cells derived from patients with ossification of posterior longitudinal ligaments. 49th Annual Meeting of the Orthopaedic Research</u>

- Society, New Orleans, LA. USA, 2003
- C.7. Ohishi, H., <u>Furukawa, K.-I.</u>, Ueyama, K., <u>Motomura, S.</u>, Harata, S., Toh, S. Analysis of mechanical stress-induced changes in gene expression using differential display technique in cultured spinal ligament cells derived from patients with ossification of the posterior longitudinal ligaments. 49th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, New Orleans, LA. USA, 2003

- C.1. Iwasaki, K., Furukawa, K.-I., Tanno, M., Kusumi, T., Ueyama, K., Harata, S., Motomura, S., Toh, S. Uni-axial cyclic stretch induces core binding factor alpha 1 in spinal ligament cells derived from patients with ossification of posterior longitudinal ligaments. Spine across the sea 2003 Hawaii, USA
- C.2. <u>Ashikaga, K.</u>, Kobayashi, T., Kimura, M., Owada, S., Sasaki, S., Higuma, T., Iwasa, A., <u>Furukawa, K.-I., Motomura, S.</u> Amiodarone not only reverses electrical remodeling but inhibits matrix metalloproteinases 2 activity in canine pacing-induced persistent atrial fibrillation model. American Heart Association Scientific Session 2003, Florida, USA
- C.3. Iwasaki, K, Furukawa, K-I, Tanno, M, Kusumi, T, Ueyama, K, Iwasawa, H, Harata, S; Motomura, S, Toh, S Uni-axial Cyclic Stretch Induces Core Binding Factor Alpha1 Expression in Spinal Ligament Cells Derived from Patients with Ossification of Posterior Longitudinal Ligaments. 50th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society 2004 CA, USA
- C.4. Iwasawa, T, <u>Furukawa, K-I, Iwasaki, K</u>, Okada, A, Ueyama, K, <u>Motomura, S</u>, Inoue, I, Harata, S, Toh, S A Genome-wide Transcriptome Analysis of Mechanical Stress-Induced Gene Expression in Spinal Ligament Cells Derived from Patients with Ossification of the Posterior Longitudinal Ligaments. 50th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society 2004 CA, USA

(2)全国学術集会

2002年度

- A.1. <u>古川賢一</u>, <u>岩崎弘英</u>, 大石裕誉, <u>丹野雅彦</u>, 植山和正, 原田征行, 楠美智巳 メカニカルストレスによる 脊柱靱帯の異所性骨化 第17回日本整形外科学会基礎学術集会シンポジウム『メカニカルストレスと細胞 変質』2002年
- A.2. <u>丹野雅彦</u>, <u>古川賢一</u>, 植山和正, 原田征行, <u>元村</u> 成, 籐 哲 第17回日本整形外科学会基礎学術集会 シンポジウム『メカニカルストレスと細胞変質』2002年
- C. 12件

2003年度

- B.1. <u>古川賢一, 大石裕誉, 中尾美貴, 元村 成</u> 脊柱靱帯の異所性骨化において PGI2 が果たす役割 第31回薬 物活性シンポジウム『薬物感受性の発現調節』平成15年11月
- B.2. 古川賢一, 山国 徹, 斉藤真也, Rohra Dileep K, 大泉 康 アシドーシスによる循環器疾患とその治療薬の開発への新しいアプローチー高血圧症との関連 第77回日本薬理学会年会シンポジウム『循環器系関連臓器の病態とその治療薬の開発研究の新しいアプローチ』平成16年3月
- C. 9件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

2002年度

- 1. 東北大学大学院薬学研究科 教授 大泉 康(古川賢一) "アシドーシスによって誘発される血管平 滑筋収縮の機構の解明"
- 2. 東北大学大学院薬学研究科 教授 大島吉輝 (古川賢一) "天然生理活性物質による内皮機能の調節"
- 3. 名城大学薬学部 教授 丹羽正武(古川賢一) "ブドウ科植物に含まれる機能性成分の薬理作用の解明"
- 4. 東京大学医科学研究所 助教授 井ノ上逸朗(古川賢一) "脊柱靱帯骨化症の原因遺伝子の解明"

2003年度

- 1. 東北大学大学院薬学研究科 教授 大泉 康(古川賢一) "アシドーシスによって誘発される血管平滑筋収縮の機構の解明"
- 2. 東北大学大学院薬学研究科 教授 大島吉輝 (古川賢一) "天然生理活性物質による内皮機能の調節"
- 3. 名城大学薬学部 教授 丹羽正武(古川賢一) "ブドウ科植物に含まれる機能性成分の薬理作用の解明"
- 4. 東京大学医科学研究所 助教授 井ノ上逸朗(古川賢一) "脊柱靱帯骨化症の原因遺伝子の解明"

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

他研究単位との研究分担者として (古川賢一) 基盤研究 (B) (2) "内因性睡眠物質の遺伝子検索に基づいた新しい麻酔補助薬の開発"

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

2003年度

研究代表者として (元村 成) 弘前大学教育改善推進費 "メカニカルストレスが誘発する異所性骨化の 関連遺伝子解析" 500万円

(4)民間の研究助成

2003年度

研究代表者として (古川賢一) 第22回唐牛記念医学研究助成金A "メカニカルストレスが誘発する異所性骨化の関連遺伝子解析とそれを標的とする薬物の探索" 350万円

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
 - c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
 - d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
 - e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況なし
 - f) その他 なし
- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催 なし
 - b) 地方レベルの学会の主催

2003年度

元村 成 第19回 信州・甲州・静岡循環セミナー ロマントピアそうま

- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

なし

8. 病理学第一講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- ①研究成果として、学会発表はほぼ達成できたが、論文公表は $7 \sim 8$ 割方であった。実験研究に関しては、準備が次第に整っており、今後の素地を作ることができた。
- ②人体病理学、診断病理学についての論文および症例報告も国際誌に発表でき、8~9割方の達成度であった。
- ③学内,大学間共同研究,国際共同研究で研究者間交流が進んだが、共同研究論文の発表は今後に残された。
- ④科学研究費, 財団等からの研究費が額は少ないが獲得できた。

理念:

病理学講座の特色として、人体病理学の推進と、疾病の基盤を明らかにする実験研究を並行して進める。

これから2年間の目標:

人体病理学では、分子病理診断を基盤に、先端医療に参画する。とくに悪性腫瘍の標的治療に関して分子病理診断を推進する。また、疾病の成因に関する先端研究では、遺伝子改変動物を用い、分子生物学的手法を取り入れ、形態学的解析を分子変化から動的に捉えるよう試みる。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助	b教授 1 , 講師	师 0, 助手	2, 医員 0, 大学院学生 2, 研究生 2				
	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間				
教 官	教 授	専 任	八木橋操六	2002. 4 ~2003. 3				
(教授~助手)	助教授	専 任	黒滝日出一	2002. 4 ~2003. 3				
の詳細	助 手	専 任	和田 龍一	2002. 4 ~2003. 3				
	助手	専 任	山岸晋一朗	2002. 4 ~2003. 3				
	1. 糖尿病の成因と合併症に関する病理学的研究							
	2. 膵疾患の病理学的研究							
	3. ヒト悪性	三腫瘍の分子病 理	里診断					
研究課題	4. 分子生物学的病理診断の展開							
	5. 細胞傷害および再生・修復の分子機構の解明							
	6. ミトコンドリア異常と細胞傷害との関連							
	7. 骨髄異形成症候群における白血病化のメカニズム							
	8. 後期糖化	と生成物の合併!	定の病理発生に	おける役割				

研究人員	教授 1, 助	力教授 0,講自	师 2,助手	1, 医員 1, 大学院学生 2, 研究生 2
	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
教 官	教 授	専 任	八木橋操六	2003. 4 ~2004. 3
(教授~助手)	講師	専 任	八木橋法登	2003. 4 ~2004. 3
の詳細	講師	専 任	和田 龍一	2003. 4 ~2004. 3
	助手	専 任	山岸晋一朗	2003. 4 ~2004. 3
研究課題	2. 膵疾患の 3. ヒト悪性 4. 分子標的 5. ミトコン 6. 細胞傷害 7. 後期糖化 8. 消化管腫	の成因と合併症に の病理学的研究 計腫瘍の分子病理 が消療の病理学的 がリア異常と がまなび再生・低 と生成物の疾病に があるが子病理 があるが があるが があるが があるが があるが があるが があるが がある	理診断 的研究 細胞傷害との関 多復の分子機構 こおける役割 解析	連について

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. <u>Wada R, Ebina Y, Kurotaki H, Yagihashi S.</u> Intracytoplasmic immunoglobulin crystals in follicular lymphoma.Hum Pathol. 2002;33:1141-4.
- A.2. Maruya S, <u>Kurotaki H</u>, Shimoyama N, Kaimori M, Shinkawa H, <u>Yagihashi S</u>.Expression of p16 protein and hypermethylation status of its promoter gene in adenoid cystic carcinoma of the head and neck.ORL J Otorhinolaryngol Relat Spec. 2003;65:26-32.
- A.3. Sakuraba H, Mizukami H, <u>Yagihashi N</u>, <u>Wada R</u>, Hanyu C, <u>Yagihashi S</u>.Reduced beta-cell mass and expression of oxidative stress-related DNA damage in the islet of Japanese Type II diabetic patients. Diabetologia. 2002;45:85-96.
- B.*1. Mori F, Hayashi S, <u>Yamagishi S</u>, Yoshimoto M, <u>Yagihashi S</u>, Takahashi H, Wakabayashi K.Pick's disease: alpha- and beta-synuclein-immunoreactive Pick bodies in the dentate gyrus. Acta Neuropathol (Berl). 2002;104:455-61.
- B.2. Kitahara Y, Miura K, Takesue K, Mine T, Wada R, Uchida Y, Ito S, Yagihashi S.Decreased blood glucose excursion by nateglinide ameliorated neuropathic changes in Goto-Kakizaki rats, an animal model of non-obese type 2 diabetes.Metabolism. 2002;51:1452-7.
- B.*3. Imaizumi T, Kumagai M, Sasaki N, <u>Kurotaki H</u>, Mori F, Seki M, Nishi N, Fujimoto K, Tanji K, Shibata T, Tamo W, Matsumiya T, Yoshida H, Cui XF, Takanashi S, Hanada K, Okumura K, <u>Yagihashi S</u>, Wakabayashi K, Nakamura T, Hirashima M, Satoh K.Interferon-gamma stimulates the expression of galectin-9 in cultured human endothelial cells.J Leukoc Biol. 2002;72:486-91.
- B.4. Mizukami H, Mi Y, <u>Wada R</u>, Kono M, Yamashita T, Liu Y, Werth N, Sandhoff R, Sandhoff K and Proia RL. Systemic inflammation in glucocerebrosidase-deficient mice with minimal glucosylceramide storage. J Clin Invest, 2002;109:1215-1221.
- B.5. Yamashita T, <u>Wada R</u>, Proia RL. Early developmental expression of the gene encoding glucosylceramide synthase, the enzyme controlling the first committed step of glycosphingolipid synthesis. Biochimica Biophysica Acta(Gen-Subject) 2002;1573:236-240.

2003年度

- A.1. <u>Yamagishi S, Uehara K</u>, Otsuki S, <u>Yagihashi S</u>: Differential influence of increased polyol pathway on protein kinase C expressions between endoneurial and epineurial tissues in diabetic mice. J Neurochem 87: 497-507, 2003
- A.2. Wada R, Itabashi C, Nakayama Y, Ono Y, Murakami C, Yagihashi S: Chronic granulomatous pleuritis caused by Nocardia. PCR-based diagnosis by Nocardial 16S rDNA in pathological specimens. J Clin Pathol 56:965-968, 2003
- A.3. Maruya S, Kurotaki H, Shimoyama N, Kaimori M, Shinkawa H, <u>Yagihashi S</u>: Expression of p16 protein and hypermethylation status of its promoter gene in adenoid cystic carcinoma of the head and neck. ORL 65:26-32, 2003
- A.4. <u>Shikama Y</u>, Osawa T, <u>Yagihashi N</u>, Kurotaki H, <u>Yagihashi S</u>: Neuroendocrine differentiation in hyalinizing trabecular tumor of the thyroid. Virchows Arch <u>443:792-796</u>, 2003
- A.5. <u>Sugimoto K</u>, Baba M, Suda T, Yasujima M, <u>Yagihashi S</u>: Peripheral neuropathy and microangiopathy in rats with insulinoma: association with chronic hyperinsulinemia. Diabetes Metab Res Rev 19:392-400, 2003
- B.1. Satoh J, <u>Yagihashi S</u>, Toyota T: The possible role of tumor necrosis factor-alpha in diabetic polyneuropathy. Exp Diabesity Res 4:65-71, 2003
- B.2. Suga S, Nakano K, Takeo T, Osanai T, Ogawa Y, <u>Yagihashi S</u>, Kanno T, Wakui M: Masked excitatory action of noradrenaline on rat islet beta-cells via activation of phospholipase C. Pflugers Arch 447:337-44, 2003
- C.1. Ruderman NB, Cacicedo JM, Itani S, <u>Yagihashi N</u>, Saha AK, Ye JM, Chen K, Zou M, Carling D, Boden G, Cohen RA, Keaney J, Kraegen EW, Ido Y: Malonyl-CoA and AMP-activated protein kinase (AMPK): possible links between insulin resistance in muscle and early endothelial cell damage in diabetes. Biochem Soc Trans 2003, 31(Pt 1):202-6
- C.2. Yamashita T, Hashiramoto A, Haluzik M, Mizukami H, Beck S, Norton A, Kono M, Tsuji S, Daniotti JL, Werth N, Sandhoff R, Sandhoff K, Proia RL: Enhanced insulin sensitivity in mice lacking ganglioside GM3. Proc Natl Acad Sci USA 100:3445-9, 2003

和文

2002年度

- A.1. 八木橋操六. 症例から学ぶ Diabetes Mellitus 糖尿病の経過中, 急速な呼吸不全をきたし死亡した 1 例. Complication 糖尿病と血管. 2003;7:5-9.
- B.1. 松本一仁, 池崎福治, 柿崎 寛, 吉岡治彦, <u>八木橋操六</u>. 肩甲部に発生した褐色脂肪腫の1例. 日本臨床 細胞学会雑誌. 2003;41:427-432.

2003年度

A.1. 板橋智映子, 和田龍一, 蝦名義仁, 横濱弘美, 八木橋操六: 内分泌異常を伴った血管内大細胞型Bリンパ

- 腫の1剖検例. 癌の臨床. 49:55-59, 2003
- A.2. 矢嶋信久、黒滝日出一、西澤雄介、伊藤 卓、横山昌樹、石川惟愛、八木橋操六: Sister Mary Joseph's Nodule (転移性臍癌)の3 自検例とわが国における報告例からの文献的考察. 癌の臨床 49:711-716, 2003
- A.3. 成田純子, <u>和田龍一</u>, 八木橋操六: 乳癌病理標本における HER2 の免疫染色法の検討. 青臨技会誌 27:34-37, 2003
- A.4. 和田龍一, 板橋智映子, 上原憲二, 八木橋操六: 実験的糖尿病性神経障害に対する抗糖化薬の効果. 末梢 神経 13:86-88. 2003
- B.1. 笠島浩行, 森田隆幸, 黒滝日出一, 舘岡 博, 藤田正弘, 森谷 洋, 松本睦郎, 村田暁彦, 小山 基, 八 木橋操六,佐々木睦男:直腸肛門部悪性黒色腫の臨床病理学的検討.癌の臨床 49:219-223, 2003

(2)総説

英文

2002年度

A.1. Yagihashi S, Wada R, Yamagishi S. Diabetic microangiopathy: pathology and current understanding of its pathogenesis. Verh Dtsch Ges Pathol. 2002;86:91-100.

和文

2002年度

- A.1. 八木橋操六:病期別にみた糖尿病およびその合併症への新しい対策-企画にあたって. 糖尿病. 2002;45:705.
- A.2. 八木橋操六:糖尿病性神経障害の病理-ここ10年間の新知見を中心に-. 日本臨床. 2003;60:204-208. A.3. 和田龍一,八木橋操六:病理形態学からみた糖尿病神経障害. Diabetes Frontier 2003;13:748-752.

2003年度

- A.1. 八木橋操六, 水上浩哉:酸化ストレスと膵β細胞障害-糖尿病膵島病変との関連について、内分泌・糖尿 病科 16:52-59, 2003
- A.2. 八木橋操六:神経障害の体質とは? 肥満と糖尿病. 2:54-56, 2003
- A.3. 山岸晋一朗, 八木橋操六:糖尿病合併症の動物モデル. 現代医療 35:2209-2218, 2003
- A.4. 和田龍一: 糖尿病神経障害の基礎と臨床. 糖尿病神経障害研究のモデル動物.内分泌・糖尿病科 18:16-22, 2004

(3)著書

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. 八木橋操六: 糖尿病性神経障害.成因と病理(総論). 岩本安彦ほか編,糖尿病合併症-どう対処するか-. 中外医学社, 東京, 2002,67-71.
- A.2. 八木橋操六: 神経障害とポリオール. 堀田饒ほか編. 糖尿病合併症治療のイノベーション. 医薬ジャーナ ル社, 大阪, 2002,84-92.
- A.3. 八木橋操六:糖尿病合併症の病理. 門脇孝ほか編. 糖尿病ナビゲーター. メディカルレビュー社. 東京. 2002,328-329.

2003年度

- A.1. 和田龍一, 八木橋操六:カラーアトラス基礎病理学第4出版, 西村書店, 東京, 2004
- A.2. 八木橋操六 臨床医のための糖尿病病理,診断と治療社,東京,2004

(4)その他

英文

2002年度

A.1. Wada R, Yagihashi S: Inhibition of the development of experimental diabetic neuropathy by suppression of AGE formation with a new anti-glycation agent. International Congress Series 2002;1245:101-105.

和文

2002年度

- A.1. <u>和田龍一</u>, 八木橋操六: 糖尿病合併症における血管病変とサイトカイン, 増殖因子. 糖尿病性神経障害とサイトカイン. 糖尿病合併症 2002;16:40-45. A.2. 山岸三一財, 増田 望, 岡本花織, 八木橋操六: ヒトアルドース還元酵素発現トランスジェニックマウス
- を用いた神経 protein kinase C活性異常の解析. Diabetes Frontier 2002;13:834.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著. 総説(A. Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
ORL J Oto-Rhino-Lary	0.734	1	0.734
Hum Pathol	3.029	1	3.029
Diabetologia	6.299	1	6.299
Acta Neuropathol	2.165	1	2.165
Metabolism	1.931	1	1.931
J Leukoc Biol	4.516	1	4.516
J Clin Invest	14.118	1	14.118
BBA-Gen Subjects	2.371	1	2.371
Total		8	35.163

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Neurochem	4.696	1	4.696
J Clin Pathol	2.549	1	2.549
ORL	0.783	1	0.783
Virchows Arch	2.045	1	2.045
Diabetes Metab Res	2.472	1	2.472
Pflug Arch Eur J Phy	1.695	1	1.695
Total		6	14.24

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
糖尿病と血管 癌の臨床 日本臨床細胞学会雑誌 糖尿病 日本臨床 Diabetes Frontier 青森臨床検査技師会誌 内分泌・糖尿病科 肥満と糖尿病 現代医療			1 1 1 1	1 2 1
	計		5	8

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担執	筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	1
編	集	0	0
分担	執筆	3	1

3. その他 (A, Bのみ)

<u>英文</u> なし

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
糖尿病合併症 Diabetes Frontier			1 1	
	計		2	0

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- A.1. Yagihashi S: Early diagnosis, pathology and pathogenetic mechanisms of diabetic neuropathy, post-5th IDF-WPR congress meeting.1st international symposium on Diabetic Complication. (HongKong,China),May
- A.2. <u>Yagihashi S</u>: Diabetic angiopathy. 87th German pathological society(Vienna, Austria) April 3-4,2002.
- Yamagishi S, Masuta N, Okamoto K, Yagihashi S: Decreased protein kinase C activity in peripheral nerve is dependent on polyol pathway hyperactivity in diabetic mice overexpressing human aldose reductase. 62th American diabetes association (San Francisco, USA) June 13-18, 2002.
- C.2. Maruya S, Kurotaki H, Shinkawa H, Yagihashi S: Methylation status of E-cadherin gene and its correlation to histological grade of malignancy in adenoid cystic carcinoma. The 6th international symposium of predictive oncology and intervention strategies, pasteur institute.(Paris, France)February 9-12,2002.
- C.3. Toki T, Katsuoka K, Kanezaki R, Kamio T, Tandai S, Kurotaki H, Yagihashi S, Igarashi K, Yamamoto M, Ito E: Transgenic expression of BACH1 results in megakaryocytic lineage impairement. The 44th American society of hematology annual meeting. (Philadelphia, Pennsylvania) December 7-10, 2002.
- C.4. Yamagishi S,Okamoto K,Yagihashi S: Reduced activity of protein kinase C and its expression of different isoforms in diabetic human aldose reductase transgenic mice and effects of aldose reductase inhibitor,12th diabetic neuropathy study group meeting.(Balatonfuered, Hungary) August 29-September 1,2002.

2003年度

- C.1. Yagihashi N, Cacicedo JM, Tsao TS, Lodish H, Ruderman N, Ido Y: AMP-activated protein kinase (AMPK) activator, AICAR and adiponectin inhibit vascular endothelial growth factor (VEGF) induced vascular cell adhesion molecule (VCAM)-1 expression in human aortic endothelial cells. ADA 63rd Scientific Sessions, New Orleans, USA June13-17, 2003
- C.2. Sugai S, Yamagishi S, Okamoto K, Yagihashi S: Characterization of autonomic neuropathy in transgenic mice overexpressing human aldose reductase. 6th Peripheral Nerve Society Meeting, Banff, Canada, July 26-29, 2003,
- C.3. Wada R, Itabashi C, Okamoto K, Yagihashi S: Disruption of endoneurial microvessels in AGE-induced neuropathy in rats. 6th Peripheral Nerve Society Meeting, Banff, Canada, July 26-29, 2003
- C.4. Yamagishi S, Otsuki S, Yagihashi S: Dissociation of protein kinase C activities in the endo- and peri-neurium in diabetic mice transgenic for human aldose reductase and the effects of aldose reductase inhibitor. 18th International Diabetes Federation Congress, Paris, France, Aug 24-29, 2003
- C.5. Yamagishi S, Otsuki S, Yagihashi S: Differential effects of increased polyol pathway on protein kinase C activities between endoneurial and vessel-rich perineurial tissues in diabetic mice transgenic for human aldose reductase. 6th Diabetic Neuropathy Satellite Symposium to 18th International Diabetes Federation in Paris, St. Malo, France, August 29-September 1, 2003
- C.6. Wada R, Yajima N, Shinohara M, Yagihashi S: Peripheral Neuropathy in A Newly-established Strain of Non-obese Spontaneously-onset Type 2 Diabetic Torii (SDT) Rat. Diabetic Complications, Bethesda, USA, October 21-22, 2003
- C.7. Wada R, Itabashi C, Yagihashi S: Role of AGE in the Development of Diabetic Neuropathy: Effects of topically applied AGE on peripheral nerve tissues. Diabetic Complications, Bethesda, USA, October 21-22,
- C.8. Baba M, Nukada H, Takahashi K, Wada R, Yagihashi S: Electrophysiological paradox to ischemia/reperfusion injury in diabetic nerve: Resistance for ischemic conduction failure and prolonged conduction failure after reperfusion. 6th Peripheral Nerve Society Meeting, Banff, Canada, July 26-29, 2003
- C.9. Nukada H, McMorran D, Takahashi K, Wada R, Baba M, Yagihashi S: Morphological susceptibility to ischemia/reperfusion in STZ-diabetic nerve: critical ischemic time and enhanced inflammatory response. 6th Peripheral Nerve Society Meeting, Banff, Canada, July 26-29, 2003
- C.10. Takesue K, Kitahara Y, Yagihashi S: Suppression of oxidative stress with proanthocyanidine, a polyphenol derived from grape seed, ameliorates peripheral neuropathy in spontaneously diabetic Goto Kakizaki rat. 6th Diabetic Neuropathy Satellite Symposium to 18th International Diabetes Federation in Paris, St. Malo, France, August 29-September 1, 2003
- C.11. Sekido H, Suzuki T, Kato N, Jomori T, Takeuchi M, Yabe-Nishimura C, Yagihashi S: Advanced glycation end product (AGE)-induced cellular damage in rat Schwann cells. 6th Diabetic Neuropathy Satellite Symposium to 18th International Diabetes Federation in Paris, St. Malo, France, August 29-September 1, 2003
- C.12. Yabe-Nishimura C, Yagihashi S: Overview of the role of polyol pathway in clinical and experimental diabetic neuropathy. 6th Diabetic Neuropathy Satellite Symposium to 18th International Diabetes Federation in Paris, St. Malo, France, August 29-September 1, 2003

(2)全国学術集会

- A.1. 八木橋操六:糖尿病合併症とフリーラジカル. 第75回日本内分泌学会学術集会(大阪)2002年6月30日
- A.2. 八木橋操六:糖尿病性神経障害と AGE. 第12回メイラード反応学会. 仙台, 2002.11.1-2. B.1. 上原憲二, 山岸晋一朗, 陳 俊輔, 大築早織, 八木橋操六:ワークショップ I 神経障害の基礎と臨床-糖尿病誘発ヒトアルドース還元酵素発現トランスジェニックマウス脊髄感覚神経節の PKC 活性異常と形 態変化. 第17回日本糖尿病合併症学会(東京)2002.10.11.

- B.2. <u>山岸晋一朗</u>, 須貝智司, 上原憲二, 八木橋操六: ワークショップ1-動物モデルからみた糖尿病合併症: 神経障害と ARI 効果:ポリオール代謝と PKC の関連について. 第17回日本糖尿病動物研究会(八戸) 2003.1.17.
- B.3. <u>和田龍一</u>,板橋智映子,上原憲二,<u>八木橋操六</u>: 実験的糖尿病性末梢神経障害に対する抗糖化薬の効果. 第13回日本末梢神経学会学術集会(浜松)2002.9.21.
- B.4. <u>山岸晋一朗</u>, 須貝智司, <u>八木橋操六</u>: ポリオール代謝亢進と神経 PKC 活性異常-ヒトアルドース還元酵素 発現トランスジェニックマウスを用いた解析. 第16回糖尿病動物研究会(大阪)2002.2.2.
- B.5. 八木橋操六:糖尿病性神経障害の成因の新しい展開と治療への方針. 第45回日本糖尿病学会学術集会(東京) 2002.5.17-19.
- C. 24件

- A.1. 八木橋操六, 第37回実験動物技術者協会総会(大宮市)特別講演「糖尿病動物の教えるもの」. 第39回糖尿学の進歩(福岡市), 講演, 「IGT の神経障害」
- B.1. 和田龍一、八木橋操六:内皮細胞異常と神経障害―グリケーションと内皮細胞異常との関連―, 第46回日本糖尿病学会、富山、2003年5月22-24日
- C. 7件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

2002年度

- 1. 米国, ミシガン大学医学部内科学, 神経学 Dr. Eva Feldman, Dr. Martin Stevens, 糖尿病合併症 発症における酸化ストレスの役割について
- 2. 中国, 香港大学分子生物学研究所, Dr. Steven Chung, Dr. Sookja Chung, 糖尿病合併症発症におけるポリオール代謝の役割について
- 3. ニュージーランド、オタゴ大学医学部、内科学 Dr. Hitoshi Nukada 虚血・再灌流傷害におけるマクロファージの役割

2003年度

米国ミシガン大学医学部内科 Professor Martin Stevens と Pathogenesis of diabetic neuropathy で香港大学分子生物学研究所 Professor Steven Chung と Transgenic models を用いた糖尿病研究

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

八木橋操六. 平成14年度科学研究費補助金 基盤研究 (B). 遺伝子改変動物を用いた糖尿病合併症の成因と治療. 8,300千円.

山岸晋一朗. 平成14年度科学研究費補助金 基盤研究(C). 遺伝子改変動物を用いた糖尿病性神経障害の発症機構の解明. 2,400千円.

黒滝日出一, 山岸晋一朗, 八木橋操六. 平成14年度科学研究費補助金 基盤研究 (C). 骨髄異型成症候群における DNA メチル化と白血病化に関する研究. 600千円.

2003年度

研究代表者として

平成15年度科学研究費補助金,基盤研究 (B),病理学,遺伝子改変動物を用いた糖尿病合併症の成因の解明と遺伝子治療の試み,八木橋操六,3,200千円

平成15年度科学研究費補助金,基盤研究 (C),神経内科学,遺伝子改変動物を用いた糖尿病性神経障害の発症機構の解明,山岸晋一朗,1,200千円

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

研究代表者として

八木橋操六. 医科学応用研究財団患者別指定研究助成. 糖尿病性神経障害の成因に関する研究. 3,000千円

八木橋操六. 臨床薬理研究振興財団 研究奨励. 神経再生促進による糖尿病性神経障害の治療. 3,000千円.

和田龍一. 平成14年度学術国際振興基金助成. 遺伝子改変マウスを用いた糖尿病合併症の発症機序の解明一後期糖化生成物と血管内皮細胞機能異常の果たす役割について一. 1,000千円.

和田龍一. 平成14年度日本糖尿病財団研究助成. サイトカインを介した糖尿病性神経障害の病理発症機構の解明-後期糖化生成物によるサイトカイン誘導と神経障害の関連について-. 800千円.

2003年度

研究代表者として

医科学応用研究財団患者別指定研究助成、糖尿病性神経障害の成因に関する研究、八木橋操六、3,000千円臨床薬理研究振興財団、研究奨励、神経再生促進による糖尿病性神経障害の治療、八木橋操六、3,000千円平成15年度第12回小野医学研究奨励助成、スフィンゴシン1リン酸の糖尿病性細血管障害における役割の解明、和田龍一、1,000千円

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし

c) 外国研究機関からの留学生,研究生の受け入れ状況なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

2002年度

黒滝日出一:カナダ・マニトバ大学医学部病理学教室客員教授 病理レジデント教育, 講義, 講演

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

2002年度

水上浩哉:米国 NIH

f) その他

なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2002年度

第17回日本糖尿病動物研究会, 八戸市

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

第18回北日本病理研究会, 弘前市

c)国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況なし

VII. その他

なし

9. 病理学第二講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

薬物治療抵抗性の潰瘍性大腸炎患者を予測する生検診断基準の一般化を目指した multicenter study は計画通りに遂行され、英文論文として発表された。現在、バイアスを極力排除した prospective study が進行中である。マウス骨肉腫細胞株を用いた骨形成・軟骨形成に関わる分子メカニズムについも具体的データを収集中である。到達度は80%程度と考えている。

理念:

形態学手法を用い, さらに組織化学的・分子生物学的技術を応用しながら, 疾患の病態解明・病理診断基準の確立を目指す。固形腫瘍の発育・進展にかかわる病態解明や, 炎症性疾患の病態や診断基準の確立を主な研究対象として, その成果は医学発展に貢献できるものとする。

これから2年間の目標:

- (1) 薬物治療抵抗性の潰瘍性大腸炎患者を予測する生検診断基準の一般化を目指し、バイアスを極力排除した prospective studyを進める。
- (2) マウス骨肉腫細胞株を用いた骨形成・軟骨形成に関わる分子病態を検討する。
- (3) 病理材料を用いて、ヒト消化器癌の発育・進展にかかわる因子を病理形態学・組織化学的・分子生物学的に解析する。以上で得られた成果は、内外の適切な評価を受けるために、論文として公表する。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講師	师 0,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 2, 研究生 0	
业。	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間	
教 官 (教授。助手)	教 授	専 任	工藤	_	2002年 4 月~2003年 3 月	
(教授〜助手) の詳細	助教授	専 任	田中	正則	2002年 4 月~2003年 3 月	
(ノ)計・和口	助 手	専 任	楠美	智巳	2002年 4 月~2003年 3 月	
	1. 薬物治療	長抵抗性の潰瘍性の	生大腸炎	&患者を	予測する生検診断基準の作成	
	2. 特発性炎	&症性腸疾患を鈍	監別する	るスコア	化生検診断基準の作成	
研究課題	3. 炎症性腸疾患におけるパネート細胞化生の分布と組織発生に関する研究					
	4. マウス帽	ト肉腫細胞株を)	沙成のメカニズムの解明			
	5. 骨•軟部	腫瘍の病理組織	学的検	討		

2003年度

研究人員	教授 0, 助]教授 1,講	師 0,助手	1, 医員 0, 大学院学生 2, 研究生 0			
教 官	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間			
(教授~助手)	助教授	専 任	田中 正則	12ヵ月			
の詳細	助手	専 任	楠美 智巳	12ヵ月			
	1. 薬物治療抵抗性の潰瘍性大腸炎患者を予測する生検診断基準の作成						
	2. 特発性炎症性腸疾患を鑑別するスコア化生検診断基準の作成						
研究課題	3. 骨・軟骨形成のメカニズムの解明						
	4. 癌細胞の増殖・分化を制御する因子の解明						
	5. 腫瘍の病理組織学的検討						

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. <u>Sasaki Y, Tanaka M, Kudo H</u>. Differentiation between ulcerative colitis and Crohn's disease by a quantitative immunohistochemical evaluation of T lymphocytes, neutrophils, histiocytes and mast cells. Pathol Int 2002;52:277-85.
- A.2. <u>Hagiwara C, Tanaka M, Kudo H.</u> Increase in colorectal epithelial apoptotic cells in patients with ulcerative colitis ultimately requiring surgery. I Gastroenterol Hepatol 2002;17:758-64.
- B.1. *Yamagata R, Shimoyama T, Fukuda S, Yoshimura T, <u>Tanaka M</u>, Munakata A. Cyclooxygenase-2 expression is increased in early intestinal-type gastric cancer and gastric mucosa with intestinal metaplasia. Eur J Gastroenterol Hepatol 2002;14:359-63.
- B.2. *Tsuji T, Sasaki Y, <u>Tanaka M</u>, Hanabata N, Hada R, Munakata A. Microvessel morphology and vascular endothelial growth factor expression in human colonic carcinoma with or without metastasis. Lab Invest 2002;82:555-62.

2003年度

- A.1. <u>Tanaka M, Kusumi T</u>, Oshitani N, Nishigami T, Iwao Y, Hatada Y, Sugita A, Yao T, Takano M, Iizuka B, Mukai M, Maeda K, Fukuda S, Morita T, Hara M, Saito H, Kudo H. Validity of simple mucosal biopsy criteria combined with endoscopy predicting patients with ulcerative colitis ultimately requiring surgery: a multicenter study. Scand J Gastroenterol 2003; 38: 594-8.
- A.2. Kato M, Kusumi T, Tsuchida S, Tanaka M, Sasaki M, Kudo H. Induction of differentiation and peroxisome proliferator-activated receptor γ expression in colon cancer cell lines by troglitazone. J Cancer Res Clin Oncol 2003; 130: 73-9.
- B.1. Nakajima M, Saito H, Soma Y, Sobue T, <u>Tanaka M</u>, Munakata A. *Prevention of advanced colorectal cancer by screening using the immunochemical faecal occult blood test: a case-control study. Br J Cancer 2003: 89: 23-8.
- B.2. Takahashi S, Fukuda I, Kuga T, <u>Tanaka M</u>. *Exposure of the coronary artery using an ultrasonic scalpel. J Thorac Cardiovasc Sur 2003; 125: 1533-4.
- B.3. Fukuda S, <u>Tanaka M</u>, Shimoyama T, Sawaya M, Nakaji S, Munakata A. *Morphologic criteria using biopsy specimens to define the risk of gastric cancer in patients with Helicobacter pylori infection. Jpn J Clin Oncol 2003; 33: 396-8.
- B.4. Nishiya D, Shimoyama T, Yoshimura T, <u>Tanaka M</u>, Fukuda S, Munakata A. *Genes inside the *cag*PAI of *Helicobacter pylori* are not associated with gastric cancer in Japan. Hepatogastroenterology 2004; 51: 891-4.

和文

2002年度

B.1. 山形和史, <u>田中正則</u>, 福田真作, 三上達也, 棟方昭博. 炎症性腸疾患における内視鏡下生検診断基準運用上の注意点. 日本大腸検査学会雑誌 2002;19:108-10.

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. <u>田中正則</u>. 炎症性疾患と腫瘍(1)潰瘍性大腸炎-通常腺腫と colitic cancer/dysplasia の鑑別-.胃と 腸 2002:37:971-9.
- A.2. 田中正則. 潰瘍性大腸炎の生検組織学的診断基準. 消化器科 2002;35:351-9.
- A.3. 田中正則,楠美智巳,工藤 一. Indeterminate colitis と Unclassified colitis. 病理と臨床 2002;20:1250-6.
- A.4. 田中正則. 臨床のための腸疾患病理診断. Medical Practice 2003:20:269-73.
- B.1. *古川賢一, 丹野雅彦, 岩崎弘英, 元村 成, 植山和正, <u>楠美智巳</u>, <u>工藤</u> 一, 原田征行. 脊柱後縦靱帯 の骨化進展におけるメカニカルストレスの役割. The Bone, 2002; 16 (3): 279-82

2003年度

A.1. <u>楠美智巳</u>. 楠美昭則, オステオカルシン/骨 Gla 蛋白 (BGP). 骨粗鬆学-基礎・臨床研究の新しいパラダイム-. 日本臨牀62巻増刊号 2. 2004;62 (増刊号2):136-40

(3)著書

英文 なし

和文

2003年度

A.1. <u>田中正則</u>. コロノスコピーと病理診断(正しい生検採取とその扱い方). 日比紀文, 光島徹, 上野文昭編. 日本のコロノスコピー — エキスパートに学ぶ心と技. p33-37, 医学書院, 東京, 2003年.

(4)その他

英文

2003年度

- B.1. Fukuda S, Yamagata R, Mikami T, Shimoyama T, Sawaya M, Uno Y, <u>Tanaka M</u>, Munakata A. *Gastric lipoma successfully treated by endoscopic unroofing. Dig En dosc 2003; 15: 228-31.
- B.2. Umegaki N, Moritsugu R, Katoh S, Harada K, Nakano H, Tamai K, Hanada K, <u>Tanaka M</u>. *Photodynamic therapy may be useful in debulking cutaneous lymphoma prior to radiotherapy. Clin Exp Dermatol 2004; 29: 42-5.
- B.3. Kobashigawa T, Okamoto H, Kato J, Shindo H, Imamura T, Iizuka B, <u>Tanaka M</u>, Uesato M, Ohta S, Terai C, Kara M, Kamatani N. Ulcerative colitis followed by the development of Behcet's disease. Int Med 2004; 43: 243-7.
- B.4. Tokuya S, <u>Kusumi T</u>, Yamamoto T, Sakurada S, Toh S. *Subchondral insufficiency fracture of the humeral head and glenoid resulting in rapidly destructive arthrosis: a case report. J Shoulder Elbow Surg, 2004;13(1):86-9.

和文

2002年度

B.1. 井上拓也,畑田康政,金澤浩介,<u>田中正則</u>.発症前後の変化を検討し得た Cronkhite-Canada 症候群の 1 例.Gastroenterol Endosc 2002;44:1699-1704.

2003年度

B.1. 岩崎弘英, 古川賢一, 丹野雅彦, <u>楠美智巳</u>, 植山和正, 岡田晶博, 元村 成, 原田征行, 藤 哲, *後 縦靭帯骨化症発生におけるメカニカルストレスの作用および core binding factor alpha1 発現の影響の解 析. 厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究事業. 脊柱靱帯骨化症に関する調査研究. 平成14年度 総括研究報告書. 2003,pp.26-33

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Pathol Int	0.938	1	0.938
J Gastroenterol Hepatol	1.258	1	1.258
Eur J Gastroenterol Hepatol	1.58	1	1.58
Lab Invest	3.934	1	3.934
Total		4	7.71

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Scand J Gastroenterol	1.847	1	1.847
J Cancer Res Clin Oncol	2.197	1	2.197
Br J Cancer	3.639	1	3.639
J Thorac Cardiovasc Sur	2.842	1	2.842
Jpn J Clin Oncol	0.691	1	0.691
Hepatogastroenterology	0.833	1	0.833
Total		6	12.049

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本大腸検査学会雑誌			1	
胃と腸			1	
消化器科			1	
病理と臨床			1	
Medical Practice			1	
The Bone			1	
日本臨牀				1
	計		6	1

2. 著書数 (A. Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担執筆		0	1

3. その他 (A. Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Dig Endosc	0	1	0
Clin Exp Dermatol	1.265	1	1.265
Int Med	0.575	1	0.575
J Shoulder Elbow Surg	0.952	1	0.952
Total		4	2.792

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
Gastroenterol Endosc 厚生労働省科学研究社 骨化症に関する調査研		我研究事業. 脊柱靱帯 総括研究報告書	1	1
	計		1	1

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- C.1. Suto K, Sakata Y, <u>Tanaka M</u>, Takahata T, Okawa K, Tarusawa K, Yano H, Nakashima O, Kojiro M, Munakata A. Phase I Study of 24hr continuous hepatic arterial infusion of irinotecan (24hr HAI CPT-11) for metastatic/promary liver cancer. The 27th European Society for Medical Oncology Congress (Nice, France). 2002.
- C.2. Kimura S, <u>Tanaka M</u>. A new treatment of stricture type ischemic colitis by continuous intravenous infusion of prostaglandin E1. The 10th United European Gastroenterology Week (Geneva, Switzerland). 2002.

2003年度

- C.1. <u>Tanaka M, Kusumi T</u>, Fukuda S, Oshitani N, Yao T, Iwao Y, Sugita A, Nishigami T, Kudo H. A multicenter study to measure the validity of simple mucosal biopsy criteria predicting patients with ulcerative colitis ultimately requiring surgery. The Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, Orlando, U.S.A., 2003.
- C.2. Kimura S, <u>Tanaka M</u>. Comparison of health examination data between patients with reflux esophagitis and normal subjects in Japan. The Annual Meeting of the American Gastroenterological Association, Orlando, U.S.A., 2003
- C.3. Kimura S, <u>Tanaka M</u>. The anatomical distribution of colonoscopically removed mucosal cancer. The 11th United Eropean Gastroenterology Week, Madrid, Spain, 2003.
- C.4. Iwasaki K, Furukawa K, Tanno M, <u>Kusumi T</u>, Ueyama K, Harata S, Motomura S, Toh S. Uni-axial cyclic stretch induces CBFA1 expression in spinal ligament cells derived from patients with ossification of the posterior longitudinal ligament. Spine Across the Sea, Maui, July 27-31, 2003

(2)全国学術集会

2002年度

C. 4件

2003年度

C. 13件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

基盤研究 (C). 「潰瘍性大腸炎の薬物治療抵抗性を予知する生検診断基準―多施設前向き研究―」, 田中正則, 1,200 (千円).

奨励研究(A), 骨・軟骨細胞の分化と内軟骨性骨化にかかわる分子メカニズムーマウス骨肉腫細胞株の移植モデルを用いた研究-, 楠美智已, 700 (千円)

2003年度

研究代表者として 基盤研究 (C)「潰瘍性大腸炎の薬物治療抵抗性を予知する生検診断基準―多施設前向き研究―」田中正則,700千円.

他研究単位との研究分担者として 基盤研究 (C)「メカニカルストレスと炎症による反応性骨硬化における骨芽細胞内シグナル伝達系の解析」楠美昭則, 1,800千円

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

c) 外国研究機関からの留学生,研究生の受け入れ状況 ***1

d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況なし

f) その他

なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

- b) 地方レベルの学会の主催 なし
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

なし

10. 細菌学講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

前回、「研究基盤を充実させ、業績を伸ばす一方、新たな研究分野を模索する。」という目標を立てた。研究基盤の充実は順調に進んでいる。業績は現状維持といったところで、到達度としては満足できない。新たな研究分野については、MRSA感染に対するリコンビナント無毒ワクチン開発に成功して、さらに DNA ワクチンの開発に向かっている。また、細胞生物学的指向を強めるために、細菌病原因子のプロテオーム解析に着手した。従って、この点については到達度は高いと判断している。

理念:

研究は第三者から評価されて、はじめて生きるものである。 そのような意味合いも心に留め、斬新でユニークな、オンリーワンの研究を目指す。

これから2年間の目標:

研究基盤を充実させ、業績を伸ばす一方、新たな研究分野を模索する。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助	対授 0,講師	師 0,助手	3, 医員 0, 大学院学生 2, 研究生 1				
	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間				
教 官	教 授	専 任	中根 明夫	1年				
(教授~助手)	助手	専 任	胡 東良	1年				
の詳細	助手	専 任	佐々木早苗	1年				
	助手	専 任	差波 拓志	1年				
	1. 免疫系・	神経系•内分泌	必系ネットワー	- クを利用した細菌感染症の制御に関する研究				
	2. リステリ	ア感染モデル	を用いた次世位	ペプログライン開発の研究				
	3. 黄色ブト	では菌感染防御	卸機構の研究	の研究				
	4. 黄色ブト	う球菌エンテ	ロトキシンのタ	の分子構造と生物活性の研究				
研究課題	5. サルモネ	、ラ持続感染機)	字の免疫学的角	色疫学的解析				
	6. 糖尿病に	6. 糖尿病における易感染性機序の解析と治療の基礎的研究						
	7. 炎症性腸	7. 炎症性腸疾患の発症機序と治療の基礎的研究						
	8. サイトカ	インの制御に	よる接触性皮膚	雪炎の治療法の開発				
	9. 抗菌ペラ	⁹ チドのクロー:	ニングと抗菌	及び免疫学的活性の研究				

研究人員	教授 1, 助	为教授 0,講自	币 1,助手	2, 医員 0, 大学院学生 4, 研究生 0
	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
教 官	教 授	専 任	中根 明夫	2003. 4 —2004. 3
(教授~助手)	講師	専 任	胡東良	2003. 4 —2004. 3
の詳細	助手	専 任	差波 拓志	2003. 4 —2004. 3
	助手	専 任	佐々木早苗	2003. 4 —2003. 5
研究課題	2. リステリ 3. 黄色ブト 4. 微生物屋 5. 黄ビブト 6. ブドウ悶 7. サルモネ 8. 糖尿病に	アの病原因子の では では で で で で で は 歯 食 中毒の シ で き き で き で き で が す る で で が す る で で り ま で り で り で り で り で り で り で り で り	の網羅的解析 即機構の研究 欠世代ワクチン コトキシンの分 ブナル伝達と分 学の免疫学的解 生機序の解析と	子構造と生物活性の研究 子メカニズムの解析 析 治療の基礎的研究

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. <u>Sasaki S</u>, Omoe K, Tagawa, Y, Iwakura Y, Sekikawa K, Shinagawa K, <u>Nakane A</u>. Roles of gamma interferon and tumor necrosis factor-alpha in shiga toxin lethality. Microb Pathog 2002; 33: 43-7.
- A.2. <u>Mizuki M</u>, <u>Nakane A</u>, Sekikawa K, Tagawa Y, Iwakura Y. Comparison of host resistance to primary and secondary *Listeria monocytogenes* infections in mice by intranasal and intravenous routes. Infect Immun 2002; 70: 4805-11.
- A.3. *Sashinami H, Nakane A, Iwakura Y, Sasaki M. Effective induction of acquired resistance to *Listeria monocytogenes* by immunizing mice with in vivo-infected dendritic cells. Infect Immun 2003; 71: 117-25.
- A.4. <u>Hu D-L</u>, Omoe K, Shimada Y, <u>Nakane, A</u>, Shinagawa K. Induction of emetic response to staphylococcal enterotoxins in the house musk shrew (*Suncus murinus*). Infect Immun 2003; 71:567-70.
- B.1. *Kakizaki I, Takagaki K, Endo Y, Kudo D, Ikeya H, Miyoshi T, Baggenstoss BA, Tlapak-Simmons VL, Kumari K, Nakane A, Weigel, PH, Endo M. Inhibition of hyaluronan synthesis in *Streptococcus equi* FM100 by 4-methylumbelliferone. Eur J Biochem 2002; 269: 5066-75.
- B.2. Takaya A, Suzuki M, Matsui H, Tomoyasu T, <u>Sashinami H, Nakane A</u>, Yamamoto T. Lon, a stress-induced ATP-dependent protease, is critically important for systemic *Salmonella enterica serovar* Typhimurium infection of mice. Infect. Immun. 2003; 71:690-6.

2003年度

- A.1. <u>Hu D-L</u>, Omoe K, <u>Sasaki S</u>, Yokomizo Y, <u>Sashinami H</u>, <u>Sakuraba H</u>, Shinagawa K, <u>Nakane A</u>. Vaccination with nontoxic TSST-1 protects *Staphylococcus aureus* infection. J Infect Dis 2003, 188, 743-52.
- B.1. Omoe K, <u>Hu D-L</u>, Takahashi-Ome H, <u>Nakane A</u>, Shinagawa K. Identification and characterization of a new staphylococcal enterotoxin-related putative toxin encoded by two kinds of plasmids. Infect Immun 2003, 71, 6088-94.
- B.2. Widiasih DA, Matsuda I, Omoe K, <u>Hu D-L</u>, Sugii S, Shinagawa K. Passive transfer of antibodies to Shiga toxin-producing *Escherichia coli* O26, O111 and O157 antigens in neonatal calves by feeding colostrum. J Vet Med Sci 2004, 66, 213-5.

和文 なし

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. <u>中根明夫</u>, <u>佐々木早苗</u>. 志賀毒素の毒性発現におけるサイトカインの影響, 日本臨牀 2002; 60:1089-94. A.2. <u>中根明夫</u>. 活性化受容体 TREM-1 は敗血症ショックの病態形成に重要である。臨床免疫 2002; 38:84-91
- (3)著書

<u>英文</u> なし

和文 なし

(4)その他

英文 なし

和文

2003年度

- A.1. <u>中根明夫</u> <u>胡 東良</u> 黄色ブドウ球菌感染に対する無毒化 TSST-1 ワクチンの防御効果. 医学のあゆみ 2003, 207, 504-5.
- (5)発表論文のまとめ
- 1. 原著. 総説 (A. Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Microb Pathog Infect Immun Eur J Biochem	2.061 4.212 2.849	1 4 1	2.061 16.848 2.849
Total		6	21.758

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Infect Dis Infect Immun J Vet Med Sci	4.857 4.039 0.496	1 1 1	4.857 4.039 0.496
Total		3	9.392

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本臨牀 臨床免疫			1 1	
	計		2	0

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種 目	2002年度	2003年度
単 著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
医学のあゆみ				1
	計		0	1

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- C.1. <u>Sashinami H, Nakane A, Iwakura, Y, Sasaki M. Effective induction of acquired resistance to Listeria monocytogenes</u> by immunizing with in vivo infected dendritic cells, Joint Meeting of the International Society for Interferon and Cytokine Research, The international Cytokine Society, The Society for Leukocyte Biology, and The Eurapean Cytokine Society. Cytokines and Interferons 2002, Turin, 2002
- C.2. <u>Sasaki S, Nakane A.</u> Interaction between *Staphylococcus aureus* infection and ovalbumin-induced allergy in mice. Joint Meeting of the International Society for Interferon and Cytokine Research, The International Cytokine Society, The Society for Leukocyte Biology, and The European Cytokine Society. Cytokines and Interferons 2002, Turin, 2002.
- C.3. <u>Sakuraba H</u>, Ishiguro Y, Tagawa Y, Iwakura Y, Sekikawa K, Munakata A, <u>Nakane A</u>. Transforming growth factor-β attenuate mucosal destruction via intestinal epithelial apoptosis through downregulation of excessive gamma interferon production in dextran sulfate sodium-induced colitis. Joint Meeting of the International Society for Interferon and Cytokine Research, The International Cytokine Society, The Society for Leukocyte Biology, and The European Cytokine Society. Cytokines and Interferons 2002, Turin, 2002.
- C.4. <u>Hu D-L</u>, Omoe K, <u>Sasaki S</u>, Yokomizo Y, Shinagawa K, <u>Nakane A</u>. Vaccination with recombinant staphylococcal enterotoxin C protects from Staphylococcus aureus infection. 10TH INternatonal Symposium on staphylococci and staphylococcal infections, Tsukuba, 2002.

- A.1. Nakane, A., Hu, D.-L., Omoe, K., Shinagawa, K., Yokomizo, Y. Vaccination with nontoxic mutant toxic shock syndrome toxin 1 protects against Staphylococcus aureus infection. International symposium on control of zoonoses. Tsukuba, Japan. Feb. 12, 2004.
- C.1. Sashinami H, Nakane A, Iwakura Y, Sasaki M. Effective induction of acquired resistance to Listeria monocytogenes by immunizing mice with in vivo-infected dendritic cells. 8th International Workshop on Langerhans Cells, 2003, Tokyo
- C.2. Ishiguro Y, Sakuraba H, Yamagata K, Hiraga H, Ebina S, Munakata A, Nakane A. The presentation of haptenated proteins in the mesenteric lymph nodes by dendritic cells in the TNBS colitis rat. 8th International Workshop on Langerhans Cells, 2003, Tokyo
- C.3. Kakizaki I, Baggenstoss BA, Tlapak-Simmons VL, Nakane A, Weigal DH, Rndo M, Takagaki K. A possible cardiolipin-dependent inhibition mechanism of hyalironan synthesis by 4-methylumbeliferone in Streptococcus equi FM100. Hyaluronan 2003-International Conference Cerebrating the Research Contributions of Torvard Laurent, 2003, Cleaveland.

(2)全国学術集会

2002年度

- B.1. <u>中根明夫</u>, <u>櫻庭裕文</u>, <u>差波拓志</u>. リステリア致死感染におけるマクロファージ遊走阻止因子 (MIF) の増 悪因子としての役割. 第76回日本細菌学会, 熊本, 2003
- 9件

2003年度

- A.1. 中根明夫. 細菌感染症とサイトカイン. 特別講演. 第11回動物エンドトキシン病態談話会. 2003. 青森
- A.2. 中根明夫. 神経系・内分泌系を介した細菌感染防御の調節. 特別講演. 第9回日本エンドトキシン研究 会. 2003. 盛岡.
- B.1. 中根明夫, 櫻庭裕丈, <u>差波拓志</u>. リステリア致死感染におけるマクロファージ遊走阻止因子 (MIF) の増
- 悪因子としての役割. ワークショップ「免疫・生体防御」. 第76回日本細菌学会総会, 2003, 熊本. B.2. 中村夏子, 友安俊文, 高屋明子, <u>差波拓志</u>, 中根明夫, 神谷 茂, 花輪智子, 山本友子. *Yersinia enterocolitica* の病原性発現における AAA+プロテアーゼ, Lon の役割. ワークショップ「病原遺伝子」. 第76回日本細菌 学会総会, 2003, 熊本.
- B.3. 重茂克彦、<u>胡</u>東良、高橋一重茂浩美、<u>中根明夫</u>、加藤秀人、今西健一、内山竹彦、品川邦汎、新型ブドウ球菌エンテロトキシン(SER)遺伝子の同定とその存在様式。第50回毒素シンポジウム、2003、白浜
- B.4. <u>胡 東良</u>, 重茂克彦, <u>佐々木早苗</u>, 横溝祐一, 品川邦汎, <u>中根明夫</u>. 無毒化リコンビナント TSST-1・SEC ワクチンによる黄色ブドウ球菌感染の予防. ミニシンポジウム「スーパー抗原とその応用」. 第136回日本 獣医学会学術集会, 2003, 青森.
- B.5. 胡 東良, 佐々木早苗, 中根明夫. 無毒化 TSST-1ワクチンの黄色ブドウ球菌感染に対する防御効果. ワークショップ「細菌感染症とその制御」. 第33回日本免疫学会総会, 2003, 福岡.
- 13件

III. 学術賞

2003年

差波 拓志 弘前大学医学部学術奨励賞, Effective induction of acquired resistance to Listeria monocytogenes by immunizing with in vivo-infected dendritic cells

IV. 共同研究

2002年度

中根明夫、胡 東良: 黄色ブドウ球菌に対する次世代ワクチン開発、農業技術研究機構動物衛生研究所、 2001年~2005年

中根明夫, 胡 東良:大連翔大生物技術センター 「ウシ乳房炎遺伝子組換えワクチンの開発」

2003年度

中根明夫、胡 東良:農業技術研究機構動物衛生研究所、乳房炎の発生機構の解明と防除技術の開発 中根明夫, 差波拓志:農業技術研究機構動物衛生研究所, 人獣共通感染症の制圧のための技術開発中根明夫, 胡 東良:中国大連翔大生物技術研究センター, 牛乳房炎遺伝子組換えワクチンの開発研究

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

中根明夫:基盤研究(C). 免疫系・神経系ハーモニーによる細菌感染症の制御 900千円 佐々木早苗:若手研究(B)黄色ブドウ球菌感染を用いたアトピー性皮膚炎の成因と治療法の解析 500千

研究代表者として

胡 東良. 基盤研究(C)「ブドウ球菌エンテロトキシン分子上の催吐活性部位の解析と催吐メカニズムの 究明 | 2.500千円

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

研究代表者として

中根明夫:農業技術研究機構交付金「乳房炎の発生機構の解明と防除技術の開発プロジェクト」「黄色ブドウ球菌に対する次世代ワクチン開発」2,000千円

2003年度

研究代表者として

中根明夫. 農業技術研究機構交付金「乳房炎の発生機構の解明と防除技術の開発プロジェクト」「黄色ブドウ球菌に対する次世代ワクチン開発」2,000千円.

中根明夫. 農業・生物系特定産業技術研究機構・動物衛生研究所平成15年度委託プロジェクト研究「人獣 共通感染症の制圧のための技術開発」「リステリアの細胞内増殖と宿主細胞応答機構解明とそれに基づく 感染制御への応用」3,000千円.

(3)学内の研究助成

2002年度

研究代表者として

差波拓志: 社団法人青森医学振興会助成金「自律神経系及びサイトカインネットワークによる感染防御のコントロールに関する基礎的研究」500千円

他研究単位との研究分担者として

中根明夫: 弘前大学重点研究「血糖調節における神経―内分泌―免疫トライアングル機構の解明」 400千円

2003年度

研究代表者として

胡 東良.第22回唐牛記念医学研究基金助成金 B 「MRSA 感染に対する無毒変異体DNA ワクチンの開発研究」496千円

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として

中根明夫:大連翔大生物技術センター「ウシ乳房炎遺伝子組換えワクチンの開発」 602千円

2003年度

研究代表者として

中根明夫. 中国大連翔大生物技術研究センター共同研究「牛乳房炎遺伝子組換えワクチンの開発研究」582 千円

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流、国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2002年度

崔京春, 大連民族学院(中国)2002年10月~2003年3月

c)外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察、研究参加(3ヵ月未満)状況

2002年度

中根明夫, 胡 東良. 大連翔大生物技術研究センター, 大連民族学院(中国)2002年6月21日~6月30日

e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 なし

f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催 なし

b) 地方レベルの学会の主催 なし

- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 2003年度

佐々木早苗. 長崎大学大学院医学研究科客員研究員, 2003年6月~

VII. その他

なし

11. 衛生学講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- 1. 好中球活性酸素種産生能,サイトカイン等の動態に影響を及ぼす物質(薬物,ビタミン等),運動負荷(合宿,減量,マラソン等)とその機序の研究を進める。
- 2. 食物繊維の基礎的な消化吸収動態と大腸内における代謝を明らかにする。方法としては、これまで同様内視鏡的逆行性腸管挿管法を用いた小腸液灌流法と呼気水素測定法を用いて行う。食物繊維の体重コントロールに及ぼす効果、効率についても検討したい。
- 3. 包括ケアを中心とした地域保健の遂行に関する先進的な研究を行う。
- 4. 国際的に通用するような研究を遂行し、各教官が筆頭著者として年2本のペースで英文論文を発表する。また、国際的な学会等で積極的に発表を行い、世界に向けて成果の周知を図る。
- 1. 2. 4は目標以上に達成できたと考える。3についてはいまだ立案段階であり達成できたとはいえない。

理念:

研究と社会貢献を一体化してその効率化を図ることにより、両者の進展を図りたい。そのためには、研究と社会貢献の場としての地域におけるフィールドを開拓したい。

これから2年間の目標:

- 1. 実際の地域でフィールドを設定し、それを用いたコホート研究を立ち上げる。その際、他科、他施設との共同研究とする。
- 2. 食物繊維の大腸内発酵と腸内細菌との関連性を研究する。
- 3. 好中球活性酸素種産生能の動態に影響を及ぼす物質(薬物, ビタミン等), 運動負荷(合宿, 減量, マラソン等) とその機序の研究を進める。
- 4. 国際的に通用するような研究を遂行し、各教官が筆頭著者として年2本のペースで英文論文を発表する。また、国際的な学会等で積極的に発表を行い、世界に向けて成果の周知を図る。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助教授 1	, 講師 0, 助手	2, 医員 0, 大学院学生 7, 研究生 5			
	役職 専任/併任	任の別 氏 名	評価年度内での在籍期間			
教 官	教 授 専 1	任 菅原 和夫	1年間			
(教授~助手)	助教授専行	任 中路 重之	1年間			
の詳細	助手専り	任 梅田 孝	1年間			
	助手専り	任 鈴木 克彦	1年間			
	1. 体力・栄養・免疫と防衛体力の関係に関する衛生学的研究					
	2. 種々の条件下でのヒト好中球産生活性酸素種の動態					
これがおき田田百	3. 地域保健					
研究課題	4. スポーツ医学					
	5. 疫学					
	6. 食物繊維を中心とした栄養学					

研究人員	教授 1, 耳	力教授 1, 講師	師 0 ,	助手	2, 医員 0, 大学院学生 8, 研究生 5
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
教 官	教 授	専 任	菅原	和夫	2003. 4 ~2004. 3
(教授~助手)	助教授	専 任	中路	重之	2003. 4 ~2004. 3
の詳細	助手	専 任	梅田	孝	2003. 4 ~2004. 3
	助手	専 任	鈴木	克彦	2003. 4 ~2003. 9
1. 体力・栄養・免疫と防衛体力の関係に関する衛生学的研究					

2. 種々の条件下でのヒト好中球産生活性酸素種の動態

3. 地域保健

研究課題

- 4. スポーツ医学
- 5. 疫学
- 6. 食物繊維を中心とした栄養学

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. <u>Yamada M, Suzuki K</u>, Kudo S, Totsuka M, <u>Nakaji S</u>, <u>Sugawara K</u>. Raised plasma G-CSF and IL-6 after exercise may play a role in neutrophil mobilization into the circulation. J Appl Physiol 2002;92(5):1789-94.
- A.2. Nakaji S, Fukuda S, Iwane S, Murakami H, Tamura K, Munakata A, Sugawara K. New methods for diagnosis of *helicobacter pylori* infection and determination of fecal consistency. Journal of Gastroenterology and Hepatology 2002;17(12):1278-82.
- A.3. Nakaji S, Tokunaga S, Sakamoto J, Todate M, Shimoyama T, Umeda T, Sugawara K. Relationship between lifestyle factors and defecation in a Japanese population. Eur J Nutr 2002;41(6):244-8.
- A.4. <u>Suzuki K, Nakaji S, Yamada M, Liu Q, Kurakake S, Okamura N, Kumae T, Umeda T, Sugawara K.</u> Impact of a competitive marathon race on systemic cytokine and neutrophil responses. Med Sci Sports Exerc 2003;35(2):348-55.
- A.5. <u>Liu Q</u>, Shimoyama T, <u>Nakaji S</u>, <u>Umeda T</u>, <u>Sugawara K</u>. Sodium butyrate has no scavenging effect on nitric oxide: assayed with Electron Spin Resonance. J Phys Fit Nutr Immunol 2003;13(1):3-8.
- A.6. <u>Saito D, Nakaji S, Umeda T, Kurakake S, Danjo K, Shimoyama T, Sugawara K.</u> Effects of long-distance running on serum opsonic activity measured by chemiluminescence. Luminescence 2003;18(2):122-4.
- A.7. Nakaji S, MacAuley D, O'Neill S, McNally O, Baxter D, Sugawara K. Life expectancies in the United Kingdom and Japan. J Public Health Med 2003;25(2):120-4.
- A.8. Nakaji S, Shimoyama T, Wada S, Sugawara K, Tokunaga S, MacAuley D, Baxter D. No preventive effect of dietary fiber against colon cancer in the Japanese population: a cross-sectional analysis. Nutr Cancer 2003;45(2):156-9.
- A.9. Nakaji S, Umeda T, Shimoyama T, Sugawara K, Tamura K, Fukuda S, Sakamoto J, Parodi S. Environmental factors affect colon carcinoma and rectal carcinoma in men and women differently. Int J Colorectal Dis. 2003 Apr 15 [Epub ahead of print].
- A.10. Nakaji S, Yoshioka Y, Mashiko T, Yamamoto Y, Kojima A, Baxter GD, Sugawara K. Explanations for the smoking paradox in Japan. Eur J Epidemiol. 2003;18(5):381-3.
- B.1. Ohta S, Nakaji S, Suzuki K, Totsuka M, Umeda T, Sugawara K. Depressed humoral immunity after weight reduction in competitive judoists. Luminescence 2002;17(3):150-7.
- B.2. Totsuka M, Nakaji S, Suzuki K, Sugawara K, Sato K. Break point of serum creatine kinase release after endurance exercise. J Appl Physiol 2002;93(4):1280-6.
- B.3. Iwane S, Nakaji S, Ohta M, Tamura K, Sakamoto J, Munakata A, Sugawara K. Inhibitory effect of small amounts of cellulose on colonic carcinogenesis with low-dose carcinogen. Dig Dis Sci 2002;47(6):1257-65.
- B.4. Shimoyama T, Fukuda S, <u>Liu Q</u>, <u>Nakaji S</u>, Fukuda Y, <u>Sugawara K</u>. Prodiction of chemokines and reactive oxygen species by human neutrophils stimulated by helicobacter pylori. Helicobacter 2002;7(3):170-4.
- B.5. Shiroto C, Nakaji S, Umeda T. Current State-of-the-art of the Clinical Laser in Japan. Proceedings of the 4th Congress of the World Association for Laser Therapy 2002;59-69.
- B.6. <u>Matsuzaka M, Nakaji S, Umeda T, Suzuki K, Sugawara K,</u> Sakamoto J, Wada S, Kumae T, Tokunaga S. Bowel habits among the Japanese population. J Phys Fit Nutr Immunol 2003;13(1):9-16.
- B.7. Shimoyama T, Fukuda S, <u>Liu Q</u>, Fukuda Y, <u>Nakaji S</u>, <u>Sugawara K</u>. Characteristics of attenuating effects of rebamipide, an anti-ulcer agent, on oxidative burst of human neutrophils. J Pharmacol Sci 2003;91(2):153-7.
- B.8. Saito K, Nakaji S, Umeda T, Shimoyama T, Sugawara K, Yamamoto Y. Development of predictive equations for body density of sumo wrestlers using B-mode ultrasound for the determination of subcutaneous fat thickness. Br J Sports Med 2003;37(2):144-8.
- B.9. Shimoyama T, Fukuda S, <u>Liu Q</u>, <u>Nakaji S</u>, Fukuda Y, <u>Sugawara K</u>. *Helicobacter pylori* water soluble surface proteins prime human neutrophils for enhanced production of reactive oxygen species and stimulate chemokine production. J Clin Pathol 2003;56(5):348-51.

- A.1. Nakaji S, Umeda T, Shimoyama T, Sugawara K, Tamura K, Fukuda S, Sakamoto J, et al. Environmental factors affect colon carcinoma and rectal carcinoma in men and women differently. Int J Colorectal Dis, 2003;18(6): 481-486.
- A.2. <u>Suzuki K, Nakaji S, Yamada M, Liu Q, Kurakake S, Okamura N, Kumae T, et al. Impact of a competitive marathon race on systemic cytokine and neutrophil responses. Med Sci Sports Exerc, 2003;35(2):348-355.</u>
- A.3. Matsuzaka M, Nakaji S, Umeda T, Suzuki K, Sugawara K, Sakamoto J, Wada S, et al. Bowel habits among the Japanese population. J Phys Fit Nutr Immunol, 2003;13(1):9-16
- A.4. Chinda D, Umeda T, Shimoyama T, Kojima A, Tanabe M, Nakaji S, Sugawara K. The acute response

- of neutrophil function to a bout of judo training. Luminescence, 2003;18(5):278-282.
- A.5. Chinda D, Nakaji S, Umeda T, Shimoyama T, Kurakake S, Okamura O, Kumae T, et al. A competitive marathon race decreases neutrophil functions in athletes. Luminescence, 2003;18(6):324-329.
- A.6. Nakaji S, MacAuley D, O'Neill D, McNally O, Baxter D, Sugawara K. Life expectancies in the United Kingdom and Japan. J Public Health Med, 2003;25(2):120-124.
- A.7. Nakaji S, Shimoyama T, Wada S, Sugawara K, Tokunaga S, MacAuley D, Baxter D. No preventive effect of dietary fiber against colon cancer in the Japanese population: a cross-sectional analysis. Nutr Cancer, 2003;45(2): 156-159.
- A.8. Suzuki K, Nakaji S, Kurakake S, Totsuka M, Sato K, Kuriyama T, Fujimoto H, et al. Exhaustive exercise and type-1/type-2 cytokine balance with special focus on interleukin-12 p40/p70. Exercise Immunology Review, 2003;9:48-57.
- A.9. Nakaji S, Yoshioka Y, Mashiko T, Yamamoto Y, Kojima A, Baxter D, Sugawara K. Explanations for the
- smoking paradox in Japan. Eur. J. Epidemiol., 2003;18(5):381-383.

 A.10. <u>Umeda T, Nakaji S, Shimoyama T, Yamamoto Y, Totsuka M, Sugawara K</u>. Adverse effects energy restriction on myogenic enzymes in judoists. Journal of Sports Sciences, 2004;22:329-338.(梅田学位)
- A.11. Nakaji S, Liu Q, Yamamoto T, Kakuta Y, Sakamoto J, Sugawara K, Bailor JC. Firm measures are required to effect any significant decrease in the Japanese age-adjusted mortality rate from malignant neoplasms for the 21st century. Eur J Epidemiol, 2004;19:123-128.
- A.12. Nakaji S, Ishiguro S, Iwane S, Ohta M, Sugawara K, Sakamoto J, Fukuda S. The prevention of colon carcinogenesis in rats by dietary cellulose is greater than the promotive of dietary lard as assessed by repeated endoscopic observation. J Nutr, 2004;134(4):935-939.
- A.13. Mashiko T, Umeda T, Nakaji S, Sugawara K. Effects of exercise on th4e physical condition of collge rugby players during summer training camp. Br. J Sports Med. 2004, 38, 186-190.
- A.14. Liu Q, Shimoyama T, Nakaji S, Umeda T, Sugawara K. Sodium butyrate has no scavenging effect on nitric oxide: assayed with Electron Spin Resonance. J Phys Fit Nutr Immunol, 2003;13(1):3-8.
- A.15. Saito K, Nakaji S, Umeda T, Shimoyama T, Sugawara K, Yamamoto Y. Development of predictive equations for body density of sumo wrestlers using B-mode ultrasound for the determination of subcutaneous fat thickness. Br J Sports Med, 2003;37(2):144-148.
- A.16.Saito D, Nakaji S, Umeda T, Kurakake S, Danjo K, Shimoyama T, Sugawara K. Effects of long-distance running on serum opsonic activity measured by chemiluminescence. Luminescence, 2003;18(2):122-124.
- A.17. Suzuki M, Nakaji S, Umeda T, Shimoyama T, Mochida N, Kojima A, Mashiko T, Sugawara K. Effects of weight reduction on neutrophil phagocytic activity and oxidative burst activity in female judoists. Luminescence, 2003;18(4):214-217.
- A.18. Munakata W, Liu Q, Shimoyama T, Sawaya M, Umeda T, Sugawara K. Ecabet sodium attenuates reactive oxygen species produced by neutrophils after priming with bacterial lipopolysaccharides. Luminescence, 2003:18(6):330-333.
- A.19. Danjo K, Nakaji S, Fukuda S, Shimoyama T, Sakamoto J, Sugawara K. The resistant starch level of heat moisture-treated high amylose cornstarch is much lower when measured in the human terminal ileum than when estimated in vitro. J Nutr, 2003;133(7):2218-2221.
- A.20. Fujimaki Y, Shimoyama T, Liu Q, Umeda T, Nakaji S, Sugawara K. Low-level laser irradiation attenuates production of reactive oxygen species by human neutrophils. J Clin Laser Med Surg, 2003;21(3):165-170.
- B.1. Shimoyama T, Fukuda S, Liu Q, Fukuda Y, Nakaji S, Sugawara K. Characteristics of attenuating effects of rebamipide, an anti-ulcer agent, on oxidative burst of human neutrophils. J Pharmacol Sci, 2003;91(2):
- B.2. Shimoyama T, Fukuda S, Liu Q, Nakaji S, Fukuda Y, Sugawara K. Helicobacter pylori water soluble surface proteins prime human neutrophils for enhanced production of reactive oxygen species and stimulate chemokine production. J Clin Pathol, 2003;56(5):348-351.
- B.3. Fukuda S, Tanaka M, Shimoyama T, Sawaya M, Nakaji S, Munakata S. Morphologic criteria using biopsy specimens to define the risk of gastric cancer in patients with Helicobacter pylori infection. Jpn J Clin Oncol. 2003;3(8):396-398.
- B.4. Kumagai M, Imaizumi T, Suzuki K, Yoshida H, Takahashi S, Tamura K, Sugawarak K, et al.15-Deoxy- \triangle 12.14-Prostaglandin J2 Inhibitis the IL-1 β -Induced Expression of Granulocyte-Macrophage Colony-Stimulating Factor in BEAS-2B Bronchial Epithelial Cells. Tohoku J Exp Med, 2004;202:69-76.
- B.5. Wada S, Nakaji S, Umeda T, Takahashi I, Oyama T, Chinda D, Sugawara K, et al. Nutritional effects of supplementing liquid-formula diet with dietary fiber on elderly bed-ridden patients. Tohoku J Exp Med, 2004;203:9-16.

和文

- A.1. 梅田 孝,中路重之,益子俊志,檀上和真,鈴木雅博,菅原和夫.大学ラグビー選手の夏季合宿中の身体 的,精神的疲労の出現とその関連について. 弘前医学 2002;54(2):71-7.
- A.2. <u>脇屋太一</u>, 梅田 孝, 益子俊志, 檀上和真, 鈴木雅博, 中路重之, 菅原和夫. 大学ラグビー選手の試合後の身体的, 心理的疲労に関する研究. 体力・栄養・免疫学雑誌 2002;12(1):10-6.

 A.3. 山居聖典, 梅田 孝, 山本洋祐, 小嶋新太, 田辺 勝, 持田典子, 樗木武治, 中路重之, 菅原和夫. 大学 柔道選手における 2 ヶ月間のトレーニングが生体に及ぼす影響について 身体組成値, 血液生化学値によ る検討-. 体力・栄養・免疫学雑誌 2002;12(1):17-23.
- A.4. <u>杉田直人</u>, <u>中路重之</u>, 下山 克, <u>梅田 孝</u>, <u>劉 強</u>, <u>菅原和夫</u>. 喫煙が青森県民の死亡率及び寿命に及ぼす影響 肺癌検診受診者5万人を対象としたコホート研究 . 体力・栄養・免疫学雑誌 2002;12(1):24-32.
- A.5. 鈴樹亨純, 中路重之, 下山 克, 劉 強, 梅田 孝, 菅原和夫. 癌検診の有効性評価のための症例対照
- A.6. <u>鈴木克彦</u>, 町田和彦, 栗山孝雄, <u>中路重之</u>, <u>菅原和夫</u>. 運動療法の新しい取り組みーそのメカニズムと有

- 用性について-. 治療 2002;84(12):165-9.
- A.7. 中路重之, 三田禮造. ジャマイカにおける保健・医療事情. 治療 2003;85(3):155-9.
- A.8. <u>津谷亮佑,梅田 孝,中路重之</u>,持田典子,小嶋新太,山本洋祐,戸塚 学,吉岡美子,和田精子,<u>菅原</u> 和夫、柔道選手における減量実施時の精神的ストレスの出現と身体組成、栄養摂取状況の関連について-男女選手の特性と違い-. 体力・栄養・免疫学雑誌 2003;13(1):31-9.
- A.9. <u>齋藤大輔</u>, 中<u>路重之</u>, <u>珍田大輔</u>, <u>小山隆男</u>, <u>嶋谷</u> 泉, <u>菅原和夫</u>, 下山克, 坂本十一, 福田眞作, 棟方昭博. 回腸末端部に到達するペクチンとポリエチレングリコールの相関. 消化と吸収 2003;25(2):29-31.
- A.10.<u>珍田大輔</u>, 中路重之, <u>齋藤大輔</u>, 菅原和夫, 福田眞作, 坂本十一, 下山 克, 工藤敏啓, 村田 東, 棟方昭博. Breath Testを用いた Dietary Fiber の腸内細菌による発酵に関する検討. 消化と吸収 2003:25(2):32-5.
- B.1. 戸館雅大、中路重之、岩根 覚、棟方昭博、村上秀樹、菅原和夫、便通・便の性状と食生活との関連性に 関する検討. 体力・栄養・免疫学雑誌 2002;12(1):44-55.
- B.2. 岡田徳弘,近藤民章,畠田 隆,倉掛重精,<u>菅原和夫</u>,中路重之,梅田 孝.マラソン選手の 30km 走行前後における血球計測値の変化. Sysmex Journal 2002;24:29-34.
- B.3. 檀上和真,福田眞作,坂本十一,棟方昭博,中<u>路重之,齋藤大輔,下山</u>克, <u>菅原和夫</u>. in vitro と in vivo における HMT-HAS 中の RS 割合の比較検討. 消化と吸収 2002;24(2):53-5.
- B.4. 吉岡美子,梅田 孝,中路重之,片桐朝美,山本洋祐,小嶋新太,持田典子,松田基子,<u>菅原和夫</u>. 女子 柔道選手の食生活の検討-一般女子学生との比較-. 体力・栄養・免疫学雑誌 2003;13(1):47-55.

- A.1. <u>中路重之</u>,三田禮造. ジャマイカにおける保健・医療事情. 治療, 2003;85(3):155-159.
- A.2. 吉岡美子, 梅田 孝, 中路重之, 片桐朝美, 山本洋祐, 小嶋新太, 持田典子, 他. 女子柔道選手の食生活の検討――般女子学生との比較―. 体力・栄養・免疫学雑誌, 2003;13(1):47-55.
 A.3. 珍田大輔, 中路重之, 齋藤大輔, 菅原和夫, 福田眞作, 坂本十一, 下山 克, 他. Breath Test を用いたDietary Fiber の腸内細菌による発酵に関する検討. 消化と吸収, 2003;25(2):32-35.
- A.4. 中路重之, 梅田 孝. 岡村良久. 骨粗鬆症の運動療法-新しい取り組み. 臨床と薬物治療, 2003;22(11): 1016-1019.
- A.5. 珍田大輔, 中路重之, 小山隆男, 菅原和夫, 福田眞作, 坂本十一, 下山 克, 他. ¹³C 標識混合中性脂肪を 用いた水溶性および不溶性食物繊維の脂質吸収抑制に関する検討. 消化と吸収, 2003;26(1):83-86.
- A.6. 津谷亮佑, 梅田 孝, 中路重之, 持田典子, 小嶋新太, 山本洋祐, 戸塚 学, 他. 柔道選手における減量 実施時の精神的ストレスの出現と身体組成, 栄養摂取状況の関連について-男女選手の特性と違い-. 体 力・栄養・免疫学雑誌, 2003;13(1):31-39.
- A.7. 長谷部達也, 梅田 孝, 山本洋祐, 小嶋新太, 田辺 勝, 樗木武治, 片桐朝美, 他. 大学入学後間もない 柔道部員の練習による身体的・心理的疲労の発現とその関連について、体力・栄養・免疫学雑誌、 2003;13(1):40-46.
- A.8. 齋藤大輔, <u>中路重之</u>, <u>珍田大輔</u>, <u>小山隆男</u>, <u>嶋谷</u> <u>泉</u>, <u>菅原和夫</u>, 下山 克, 他. 回腸末端部に到達するペクチンとポリエチレングリコールの相関. 消化と吸収, 2003;25(2):29-31.
- B.1. 倉掛重精, 岡村典慶, 梅田 孝, 中路重之, 藤崎晶子, 村田洋介. 高校野球試合が選手の心拍数に及ぼす 影響. 体力・栄養・免疫学雑誌, 2003;13(2):73-79.
- B.2. 北山誠太,栗山孝雄,坂口武洋,坂口早苗,扇原 淳,<u>鈴木克彦</u>,町田和彦.万歩計を用いた高齢者の運動評価と健康指標との関連性.体力・栄養・免疫学雑誌,2003;13(2):132-141.
- B.3. 白戸千之, 中路重之, 梅田 孝. LLLT の疼痛治療効果判定法. 日本レーザー治療学会誌, 2004;2(2):82-86.

(2)総説

英文

2002年度

- A.1. Nakaji S, Sugawara K, Saito K, Yoshioka Y, MacAuley D, Bradley T, Kernohan G, Baxter D. Trends in dietary fiber intake in Japan over the last century. Eur J Nutr 2002;41:222-7.
- A.2. Suzuki K, Nakaji S, Yamada M, Totsuka M, Sato K, Sugawara K. Systemic inflammatory response to exhaustive exercise. Cytokine kinetics. Exercise Immunology Review 2002;8:6-48.
- A.3. Nakaji S, Danjo K, Munakata A, Sugawara K, MacAuley D, Kernohan G, Baxter D. Comparison of etiology of right-sided diverticula in Japan with that of left-sided diverticula in the West. Int J Colorectal Dis 2002;17(6):365-73.

和文

2002年度

A.1. <u>鈴木克彦</u>, <u>菅原和夫</u>. メカニズムをさぐる \mathbb{N} サイトカイン, 臨床スポーツ医学 2002, 19(11), 1311-1318. A.2. <u>鈴木克彦</u>, 町田和彦, 栗山孝雄, <u>中路重之</u>, <u>菅原和夫</u>. 運動療法の新しい取り組み一そのメカニズムと有 用性について一. 治療 2002, 84(12), 3037-3041.

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

英文 なし

和文

2003年度

- A.1. 梅田 孝, 益子俊志, 中路重之, 珍田大輔, 高橋一平, 小山隆男, 岡田 隆, 広瀬かほる, 菅原和夫. 7人制ラグビー日本代表候補における試合実施に伴う身体的・精神的疲労の出現に関する調査. 7人制 ラグビー日本代表候補における試合実施に伴う身体的・精神的疲労の出現に関する調査報告, 1-11, 2003.
- A.2. 梅田 孝, 中路重之, 山本洋祐, 高橋一平, 珍田大輔, 小山隆男, 田辺 勝, 小嶋新太, 持田典子, 櫻井正之, 岡田 隆, 萱原和夫. 大学女子柔道選手の夏季強化合宿実施による精神的・身体的疲労の出現に関 する調査、大学女子柔道選手の夏季強化合宿実施による精神的・身体的疲労の出現に関する調査報告書、 1-11, 2003.
- A.3. 梅田 孝, 齋藤一雄, 中路重之, 珍田大輔, 高橋一平, 小山隆男, 松本 茂, 小川光哉, 塔尾武夫, 菅原 和夫. 大学相撲選手のメディカルチェック及び稽古実施に伴う精神的・身体的疲労の出現に関する調査. 大学相撲選手のメディカルチェック及び稽古実施に伴う精神的・身体的疲労の出現に関する調査報告書, 1-9. 2003.
- A.4. 菅原和夫. 医局廃止と大学医学部の方向 医局廃止がもたらす医学部の活性化. 新医療, 30(9), 38-40, 2003
- A.5. 中路重之. 地域を対象とした双方向かつ実学的な研究・実践活動の提唱-弘前大学と地域(行政)との一体 <u>化-. 懸</u>賞論文「弘前大学の未来について」教官の部優秀賞, INFO-HIRO-21, 号外(2003.11.1), 6, 2003.
- A.6. <u>中路重之</u>. 新春随想 元長崎人からみた青森. 青森県医師会報, 489, 24-26, 2004. B.1. <u>倉掛重精, 菅原和夫, 中路重之, 梅田 孝</u>, 岡村典慶, 明石秀伸, 藤崎晶子, 村田洋介. 第52回別府大分毎日マラソン大会における選手を対象とした医科学調査報告 平成15年度(2003.2.2調査実施). 第52回別
- 府大分毎日マラソン大会における選手を対象とした医科学調査報告書, 1-5, 2003. B.2. 小山内弘和, 白戸男女幸, 山本洋祐, 梅田 孝, 中野昭一, 伊藤 孝. 運動選手の安静時自律神経系に関 する研究-血流周波数解析と心電図 R-R 間隔周波数解析からの検討-. 日本体育大学紀要 2003; 33(1):

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Appl Physiol	2.581	1	2.581
J Gastroenterol Hepatol	1.199	1	1.199
Eur J Nutr	2.13	2	4.26
MSSE	2.402	1	2.402
J Phys Fit Nutr Immunol	0	1	0
Luminescence	1.111	1	1.111
J Public Health Med	1.049	1	1.049
Nutr Cancer	2.237	1	2.237
Exer Immunol Rev	2.8	1	2.8
Int J Colorectal Dis	1.709	2	3.418
Eur J Epidemiol	0.674	1	0.674
Luminescence	1.111	1	1.111
J Appl Physiol	2.581	1	2.581
Dig Dis Sci	1.516	1	1.516
Helicobacter	2.737	1	2.737
Proceedings of the 4th Congress of the World Assc	0	1	0
Laser Therapy			
J Phys Fit Nutr Immunol	0	1	0
J Pharmacol Sci	2.117	1	2.117
Br J Sports Med	1.032	1	1.032
J Clin Pathol	1.866	1	1.866
Total		22	34.691

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Int J Colorectal Dis	1.902	1	1.902
Med Sci Sports Exerc	2.6	1	2.6
J Phys Fit Nutr Immunol	0	2	0
Luminescence	1.258	5	6.29
J Public Health Med	0.761	1	0.761
Nutr Cancer	2.164	1	2.164
Eur J Epidemiol	0.517	2	1.034

J Sports Sci	1.082	1	1.082
Exercise Immunology Review	1.273	1	1.273
J Nutr	3.62	2	7.24
J Clin Laser Med Surg	0.781	1	0.781
Br J Sports Med	1.202	2	2.404
J Pharmacol Sci	1.992	1	1.992
J Clin Pathol	2.549	1	2.549
Jpn J Clin Oncol	0.691	1	0.691
Tohoku J Exp Med	0.494	2	0.988
Total		25	33.751

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
」 - 弘前医学			1	
体力・栄養・免疫学雑誌			7	5
治療			3	1
消化と吸収			3	2
Sysmex Journal			1	
臨床スポーツ医学			1	
臨床と薬物治療				1
日本レーザー学会誌				1
	計		16	10

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
第52回別府大分毎日 医科学調査報告書	マラソン大会にお	ける選手を対象とした		1
		る試合実施に伴う身体		1
大学女子柔道選手の	夏季強化合宿実施		1	
一疲労の出現に関する幸一大学相撲選手のメディー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ィカルチェック及		1	
新医療	心に対り の明旦刊!	口百		1
INFO-HIRO-21			1	
青森県医師会報				1
	計		0	7

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

- C.1. <u>Saito D, Nakaji S, Fukuda S, Shimoyama T, Sakamoto J, Danjo K, Chinda D, Munakata A. Measurement of orally ingested pectin in human terminal ileum using ERBI. 26th International Congress of Internal Medicine, Kyoto, Japan, 2002.</u>
- C.2. <u>Suzuki K</u>, <u>Nakaji S</u>, Yamada M, <u>Liu Q</u>, Kurakake S, Okamura T, Kumae T, <u>Umeda T</u>, <u>Sugawara K</u>. Effects of a competitive marathon race on systemic neutrophil mobilization and activation. 4th International Session between European College of Sports Science and Japanese Society of Physical Fitness and Sports

- Medicine, 第57回日本体力医学会大会, 高知市, 2002, 体力科学 2003;52(1):22.
- C.3. <u>Saito D, Nakaji S, Fukuda S, Chinda D, Danjo K, Shimoyama T, Sakamoto J, Munakata A, Sugawara K. Detection of orally ingested pectin in the terminal ileum using endoscopic retrograde bowel insertion method. 10th UEGW, Geneva, Switzerland, 2002. Gut 2002;51(Suppl 3):A193.</u>

- B.1. Mita R, Nakaji S, Seino K. International health-care cooperation: reflections on the project of strengthening of health care in the southern region in Jamaica. The 7th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science (Symposium I), Hirosaki, Japan, 2003.10.28-29.
- B.2. Mita R, Nakaji S, Seino K. International health-care cooperation: reflections on the project of strengthening of health care in the southern region in Jamaica. Program and Abstracts, 16, 2003.
- C.1. Danjo K, <u>Nakaji S</u>, Fukuda S, Sakamoto J, Shimoyama T, Saito D, <u>Chinda D</u>, Munakata A, <u>Sugawara K</u>. The difference between in vitro and in vivo measurements of digestion-resistant starch is far greater than those of pectin. DDW, AGA, Orlando, Florida, USA, 2003.5.18.
- C.2. <u>Chinda D, Nakaji N</u>, Fukuda S, Sakamoto J, Shimoyama T, Danjo K, Saito D, Nakamura T, Munakata A, <u>Sugawara K</u>. Comparative study of fermentation of soluble and insoluble dietary fiber using the hydrogen breath test. DDW, AGA, Orlando, Florida, USA, 2003.5.18.
- C.3. <u>Chinda D, Nakaji S, Fukuda S, Sakamoto J, Shimoyama T, Danjo K, Saito D, Nakamura T, Munakata A, Sugawara K.</u> Evaluation of pectin digestion and absorption in the small intestine and of fermentation in the large intestine in the same subject. DDW, AGA, Orlando, Florida, USA, 2003.5.19.
- C.4. Nakaji S, Umeda T, Mashiko T, Chinda D, Yoshioka Y, Sugawara K, Calderhead RG. Physiological and psychological stress assessed in rugby players, marathon runners and judoists, and the possible application of phototherapy to decrease stress and increase the efficacy of the resting period. Joint International Laser Conference, Edinburgh, Scotland, UK, 2003.9.21-23.
- C.5. Fujimaki Y, Shimoyama T, Liu Q, <u>Umeda T, Nakaji S, Sugawara K</u>, Calderhead RG. Low-level laser irradiation attenuates production of reactive oxygen species by human neutrophil. Joint International Laser Conference, Edinburgh, Scotland, UK, 2003.9.21-23.
- C.6. Saito D, Nakaji N, Fukuda S, Sakamoto J, Shimoyama T, Danjo K, Chinda D, Munakata A. Evaluation of amount of pectin reached at the large intestine and of fermentation in the large intestine in the same subjects. 11th UEGW, Madrid, Spain, 2003.11.1-5. Gut, 52(Suppl 6), A228, 2003.
- C.7. <u>Chinda D</u>, <u>Nakaji S</u>, Fukuda S, Sakamoto J, Shimoyama T, Danjo K, Saito D, Munakata A, <u>Sugawara K</u>. Assessment of the small bowel transit time of pectin and resistant starch, the amounts which pass through the small intestine and fermentation in the large intestine. 11th UEGW, Madrid, Spain, 2003.11.1-5.
- C.8. Chinda D, Nakaji S, Fukuda S, Sakamoto J, Shimoyama T, Danjo K, Saito D, Munakata A, Sugawara K. Assessment of the small bowel transit time of pectin and resistant starch, the amounts which pass through the small intestine and fermentation in the large intestine. Gut, 52(Suppl 6), A228, 2003.
- C.9. <u>Mashiko T, Nakaji S, Umeda T</u>, Shimoyama T, Kurakake S, Kumae T, <u>Sugawara T</u>, Kojima A. Position-related analysis of the appearance of and relationship between post-match physical and mental fatigue in university rugby football players. International Conference on the Science and Practice of Rugby, Australia, 2003.11.4-7.
- C.10. Nakaji S, Umeda T, Chinda D, Suzuki M, Sugawara K, Mashiko T, Sato K, Miura M. Analysis of the incidence of mental and physical fatigue in college rugby football players during summer camp training. International Conference on the Science and Practice of Rugby, Australia, 2003.11.4-7.
- C.11. <u>Takahashi I, Mashiko T, Umeda T, Okamura N, Oyama T, Sugawara K, Ohta S, Yoshioka Y.</u> Effects of information and advice about health on action for self-health care and physical condition in college rugby football players: an assessment by blood biochemical parameters. International Conference on the Science and Practice of Rugby, Australia, 2003.11.4-7.
- C.12. <u>Umeda T</u>, Suzuki M, Kowatari K, <u>Suzuki K</u>, Saito D, <u>Sugawara K</u>, Totsuka M, <u>Yamamoto Y</u>. Rest with low intensity exercise after a rugby match allows players to recover better than with rest alone, without impairing the physiological recovery from stress. International Conference on the Science and Practice of Rugby, Australia, 2003.11.4-7.

(2)全国学術集会

2002年度

B.1. 中路重之. 青い森の国の国際協力. 国際協力フォーラム~青い森の国からの提案~, 青森市, 2002. C. 24件

2003年度

- B.1. 中路重之, 棟方昭博. 便秘に対する食物繊維の効果. 第2回日本機能性食品医用学会(シンポジウム「機能性食品による疾病の予防と治療」), 滋賀(大津市), 2003.12.6. プログラム・抄録集, 19, 2003.
- B.2. <u>珍田大輔</u>, 中路重之, 福田眞作. ¹³C 標識中性脂肪を用いた水溶性および不溶性食物繊維の脂質吸収抑制に関する検討. 第34回日本消化吸収学会総会ワークショップ33(消化吸収学会・消化器病学会・肝臓学会合同), 大阪市, 2003.10.18. プログラム・講演抄録集, 124, 2003.
- C. 28件

III. 学術賞

2002年

第72回日本衛生学会総会最優秀ポスター賞,梅田 孝,ラグビー1試合中の身体活動による身体活動による精神的・身体的疲労の出現とその関連について.(日本衛生学会,平成14年4月.)

IV. 共同研究

2003年度

日本体育大学運動方法(相撲)研究室:大学相撲選手のメディカルチェックと稽古による身体的・精神的疲労の出現に関する研究

日本体育大学運動方法(柔道)研究室;大学女子柔道選手における強化合宿実施による身体的・精神的疲労の出現に関する研究

日本ラグビー協会: 7 人制日本代表候補における試合の実施が選手の身体的・精神的コンディションに及ぼす影響に関する研究

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として (受入研究者として) 平成14年度科学研究費補助金特別研究員奨励費: 酪酸塩の一酸 化窒素生成及び誘導型一酸化窒素合成酵素の発現量に及ぼす影響, 劉強(外国人特別研究員), 1,000千円 他研究単位との研究分担者として 平成14年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(2)): 小腸液灌流法を用いた食物繊維のヒト消化吸収機能に及ぼす影響の検討ー食物繊維肥満防止効果の検討ー福田真作, 5,800千円 研究成果報告書

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

2003年度

研究代表者として 平成15年度 教育改善推進費 (学長裁量経費), 高強度・高頻度の習慣的運動の開始が 生体防御機能に及ぼす影響に関する研究, 800千円

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流、国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

2002年度

日本学術振興会 外国人特別研究員 劉強 (2001年4月16日~2003年4月15日)

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

なし

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

なし

f) その他

なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2003年度

第11回体力・栄養・免疫学会 (2003.8.23-24, 金沢) 会長 菅原 和夫

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

なし

12. 公衆衛生学講座

【研究単位の目標到達度, 理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- ・教授が、医学部が JICA に協力し実施したジャマイカ国南部地域保健保健強化プロジェクトの専門家として派遣された。
- ・活動的平均寿命の研究は再度調査を実施し、成果を報告した。青森県に協力し実施した脳卒中登録事業は5年間 の成果を纏め、青森県から報告書として公表された。
- ・高齢者問題に対し引き続き取り組んだ。 以上より設定目標は十分に達成された判断する。

理念:

大学外の組織とも協力し、広く地域社会の保健・医療に貢献できる研究活動を実施する。

これから2年間の目標:

- ・青森県がなぜ全国で有名な短命県であるかを究明するための各種調査活動に関る。
- ・体力医学の立場から高齢者の社会活動に対する参加の促進をするため、寝たきり予防等の対策を究明する。
- ・地域保健の立場で発展途上国の健康造りに貢献できる研究体制を構築する。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助]教授 1,講	币 0,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 4, 研究生 3	
教官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間	
教授 専任 三田 禮造		9				
の詳細	助教授	専 任	朝日	茂樹	2	
りが干和	助 手	専 任	坂野	晶司	1	
	1. 地域保健:青森県脳卒中の疫学,自殺の疫学と自殺予防 2. 活動的平均寿命の研究					
	3. 骨粗鬆症の疫学					
	4. 国際保健	: 生活習慣病	予防と国	國際協力	,災害医学と国際緊急援助	
研究課題	5. 思春期保	∖健:児童•生徒	の身体	組成,著	苔年者の体型認識と食行動	
	6. 健康スポーツ医学:児童・生徒の身体活動量,高齢者の身体活動,スポーツ安全,武道医学					
	7. 地域への公衆衛生学専門家としての貢献、海外への発信					
	8. 生活習慣	病予防:健康				
	9. 医学教育	における IT σ	応用			

研究人員	教授 1, 即	対授 1, 講師	师 0 ,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 4, 研究生 3
教 官	官 役職 専任/併任の別 氏 名 評価年度内での在籍期間				評価年度内での在籍期間
教	教 授	専 任	三田	禮造	10
の詳細	助教授	専 任	朝日	茂樹	3
(ノ)計画	助 手	専 任	坂野	晶司	2
研究課題	2. 活動的平 3. 骨粗鬆症 4. 国際保健 5. 思春期保 6. 健康スオ 7. 地域への 8. 生活習慣	ちちょう ちょう ちょう ちょう ちょう ちょう ちょう ちょう ちょう ちょう	予防と目 走の身体 童・生徒 門家とし 管理	国際協力 本組成, 走の身体	の疫学と自殺予防 , 災害医学と国際緊急援助 若年者の体型認識と食行動 活動量, 高齢者の身体活動, スポーツ安全, 武道医学 献, 海外への発信

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

A.1. Yoshihiro KANAZAWA, Kanitiro WADA, Eiki TUSHIMA, Takao MIURA, Kazuyuki KIDA, Shigeki ASAHI, and Reizo MITA. A longitudinal Study of the Relationship between Osteo Sono-Assessment Index and Lifestyle Female in Nursing Homes. Environmental Health and Preventive Medicine 2002; 7: 113-118.

2003年度

- A.1. <u>Y. Nishizawa, K. Kida, K. Nishizawa, S. Asahi, K. Saitou, R. Mita.</u> Perception of self-physique and eating behavior of high school students in Japan. Psychiatry and Clinical Neurosciences 2003; 57: 189-196.
- B.2. Yozen Fuse, Tomoyuki Igari, Chieri Yamada, Shoji Sakano, Harumichi Ito, Takusei Umenai and Monoru Irie. Epidemiological survey of thyloid volume and iodine intake in schoolchildren, postpartum women and neonates living in Ulaan Baatar. Clinical Endoclinology 2003; 59: 298-306.

和文

2002年度

- A.1. 和田簡一郎(弘前大学公衆衛生), 木田和幸, 朝日茂樹, 三田禮造, 熊沢やすし, 藤 哲, 原田征行, 岸部 陞. 若年者の骨代謝マーカーと踵骨音響的骨評価値の調査. Osteoporosis Japan 2002; 10(2): 196-199.
- B.1. 田中博之(秋田大学救急医学講座),中永士師明,坂野<u>晶</u>司,和田 博. 研修医が救急車に同乗し収容先病院で初療に参加できる「継続研修」の試み. 日本臨床救急医学会雑誌 2002; 5(4): 396-399.
- B.2. 山本秀樹(岡山大学大学院医歯学総合研究科国際環境科学講座公衆衛生学分野),中野知治,連 利博,河原研二,鹿嶋小緒里,小宮正已,沢田 寛,中田敬司,谷村 晋,<u>坂野晶司</u>,北川文夫,大西荘一.インマルサット衛星通信を使用したネパール国への小児外科支援を目的とした遠隔医療実験とその実用化への課題について.医療情報学 2002; 22(3): 251-257.
- B.3. 西沢義子(弘前大学医学部保健学科), 木田和幸, <u>野田美保子</u>, <u>齋藤久美子</u>, <u>坂野晶司</u>, 朝日茂樹, 三田禮 造. 身長, 体重の申告値と実測値の比較 中・高校生の場合. 学校保健研究 2002; 44(5): 426-433.
- B.4. 齋藤久美子(弘前大学医学部保健学科看護学専攻), 木田和幸, 木立るり子, 西沢義子, 三田禮造, 在宅要介護高齢者を介護する介護者の介護負担感とその影響要因. 弘前大学医学部保健学科紀要 2003; 2: 37-44.

2003年度

- A.1. <u>朝日茂樹</u>. 2003年 5 月北部アルジェリア地震への国際緊急援助隊活動報告. 自然災害科学 2004; 22-4: 363-371.
- A.2. <u>野田美保子</u>, 木田和幸, 三田禮造, 朝日茂樹, 坂野晶司, 高岡ふさゑ. 農村地域のおける心拍数から見た 老人の日常の諸活動の負荷に関する研究. 青森県農村医学会雑誌 2004; 21(1): 21-29.
- B.1. 島貫茂文, 和田簡一郎, 手塚正教, 小澤洋一, 木田和幸, 朝日茂樹, 三田禮造. イソフラボン高含有, 亜鉛, カルシウム強化納豆の通常成人の骨吸収及び骨形成マーカーに及ぼす影響. 健康・栄養食品研究 2003; 6(3): 1-7.
- B.4. 島貫茂文, 和田簡一郎, 手塚正教, 小澤洋一, 木田和幸, 朝日茂樹, 三田禮造, イソフラボン高含有, 亜鉛, カルシウム強化納豆の通常成人に対する安全性評価. 健康・栄養食品研究 2003; 6(3): 9-19.

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. <u>朝日茂樹</u>. Global Standard の視点からの医療 アジア西太平洋地域内諸国の卒前医学教育水準保証のための WHO ガイドラインについて(解説). 治療 2002. 84(11)2833-2837.
- B.1. 中路重之(弘前大学医学部衛生学). <u>三田禮造</u>. Global Standard の視点からの医療 ジャマイカにおける 保健・医療事情(解説). 治療; 85(3): 555-559.

(3)著書

英文

2003年度

A.1. A. M. Pesigan, S. ASAHI, Strengthening community-based initiatives for health emergency management, Reizo Mita, and Kei Satoh ed. International Collaboration in Community Health, International Congress Series 1267: 1-6. Elasevier, Netherland, 2003.

和文

(分担) 坂野晶司,第6章災害対策「Preparedness and Planning」,監修: 山本保博,鵜飼 卓,杉本勝彦, 編集:国際災害研究会,災害医学(p141-149),南山堂,東京.

2003年度

A.1. (共著)朝日茂樹, 佐々木健, 高幣民雄, 野見山延, 宮坂信之, 武藤政春, 「剣道医学-救急ハンドブック」 全日本剣道連盟発行、サトウ印書館、東京、2003.

(4)その他

英文

2003年度

- A.1. Shigeki Asahi, Public Health service key to disaster relief, Opinion, Herald Tribune/ASAHI. 2003.
- B.1. Southern Regional Health Authority/ Japan International Cooperation Agency. Jamaica/ Japan International Health and Lifestyle Conference-2003 Manuscripts. 2003.
- B.2. Maria D. Jackson, Coombs Michael P, Wright Beverley E, Carney Alice A, Lewis-Fuller Eva, Mita Reizo. Manchester Health & Lifestyle Servey I -2003: Final report. 2003.

和文

2002年度

- A.1. 朝日茂樹. テロリズムと危機管理(平成14年度第1回弘前大学救急医学講座). 弘前市医師会報 2002; 283: 31-38.
- A.2. <u>朝日茂樹</u>. 突き技に伴う重篤な障害のために、月間剣窓 2002; 11月号: 34-35. B.1. <u>野田美保子</u>, 相馬雅之, 木田和幸, <u>坂野晶司</u>, <u>朝日茂樹</u>, 三田禮造. 日常生活の活発化が施設入所老人の 健康体力の維持・増進に及ぼす影響と効果(中間報告). (財) 中冨健康科学振興財団第13回研究助成業績 集2002; 77-80.

2003年度

- A.1. 弘前大学医学部医学科公衆衛生学講座,青森県成人病健診管理指導協議会成人病·評価部会脳卒中委員 会. 青森県脳卒中発症登録事業 脳卒中の発症に関するデータの集計・解析. 弘前大学地域共同研究セン ター (CJR) 2003; 6: 73-75.
- A.2. 朝日茂樹,坂野晶司,三田禮造,木田和幸,田畑英史.青森県内の脳卒中の実態と予防への課題.青森銀行医学研究助成研究班「脳血管障害-成因と病態」平成14年度研究成果報告書 2003; 65-72.
- A.3. 朝日茂樹. 国際緊急援助隊アルジェリア地震救済活動報告. セミナー医療と社会 2003; 24: 90-92.
- A.4. 朝日茂樹. 国民体育大会におけるドーピング (薬物使用) コントロール検査開始について. 全日本剣道
- A.5. 朝日茂樹、災害援助、公衆衛生の大切さ実感、朝日新聞「私の視点」。2003.
- A.6. 朝日茂樹. 冷房病を防ぐには. 東奥日報. 2003.
- A.7. 朝日茂樹, 中路重之ほか. 平成14年度産業保健実態調査研究報告書. 労働福祉事業団, 青森産業保健推進 センター. 2003.
- A.8. 朝日茂樹ほか. アルジェリア国における地震災害に対する国際緊急援助隊医療チーム活動報告書. 国際 協力事業団, 国際緊急援助隊事務局. 2003.
- B.1.青森県健康福祉部,青森県成人病健診管理指導協議会,成人病登録·評価部会·脳卒中委員会. 青森県脳卒 中発症登録事業実績報告書[平成9年~平成13年分] 2003.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著、総説(A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Environmental Health and Preventive Medicine			
Total			

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Psychiatry and Clinical Neurosciences Clinical Endoclinology	0.736 2.767	1 1	0.736 2.767
Total		2	3.503

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
Osteoporosis Japan			1	
日本臨床救急医学会雑	盐		1	
医療情報学			1	
学校保健研究			1	
弘前大学医学部保健学	科紀要		1	
治療			2	
自然災害科学2003				1
健康・栄養食品研究20	03			2
青森県農村医学会雑誌	2004			1
	計		7	4

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	1

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	1	1

3. その他 (A, Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Herald Tribune/ ASAHI 2003 Jamaica/ Japan International Health and Lifestyle Conference-2003 Manuscripts 2003 Manchester Health & Lifestyle Servey II -2003 Final report 2003	0 0	0 0	0 0
Total		0	0

和文

雑	誌	名	2002年度	2003年度
平成14年度第1回弘前 月間剣窓 (財)中冨健康科学振 弘前大学地域共同研9 セミナー医療と社会2	市医師会報 現財団第13回研究 ピセンター(CJR) 003	ご助成業績集	1 1 1 1	1 1 1 1
東奥日報2003 平成14年度産業保健等 アルジェリア国におい ム活動報告書2003 青森県脳卒中発症登録	実態調査研究報告 ける地震災害に対		1 1 1 1	
	計		3	9

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

- A.1. Shigeki ASAHI, Disaster Preparedness Programmes in Japan. National Public Health Emergencies for Asia and the Pacific Training Course, World Health Organization. Manila (Philippines) 2003.
- A.2. Shigeki ASAHI, Disaster Preparedness in Mass Casualty Management: the 7th International Health leader

- training course. Collaboration Programme of Tokai University- WHO- JICA. Tokyo (Japan) 2002.
- B.1. Reizo Mita, Micheal Coombs. Joint Technical Cooperation Project (JTCP) on Strengthening Health Care in the Southern Region, Jamaica. Jamaica/Japan International Health and Lifestyle Connference-2003. Kingston (Jamaica) 2003.
- B.2. Shigeki Asahi and Shoji Sakano. Hospital Disaster Preparedness Programme in Japan. Public Health Emergency in Asia and Pacific conference. Manilla (Philippine) 2003.

- A.1. R.Mita, S.Nakaji, K.Seino, International Health Care Cooperation: Reflection on the Project on Strengthening of Health Care in the Southern Region of Jamaica. 第7回弘前国際医学フォーラム. 弘前. 2003.
- A.2. M. Coombs, B. Wright, A. Carney, E. L. Fuller, R. Mita, K. Saito, T. Endo, T. Omachi, Y. Tateda and S. Nakaji. Chronic lifestyle Disease prevention through technical cooperation. 第7回弘前国際医学フォー ラム. 弘前. 2003.
- A.3. M. Ichinohe, R. Mita, K. Saito, H. Shinnkawa, S. Nakaji, M. Coombs, A. Carney, B. Wright, and E. L. Fuller. Obesity and lifestyle in Jamaica.. 第7回弘前国際医学フォーラム. 弘前. 2003.
- A.4. M.D. Jackson, M. P. Coombs, B. E. Wright, A. A. Carney, E. L. Fuller and R. Mita, Self-reported non-communicable chronic diseases and health-seeking behaviour in rural Jamaica, following a health promotion intervention: a preliminary report.第7回弘前国際医学フォーラム、弘前、2003. A.5. <u>Shigeki ASAHI</u>. Disaster Preparedness in Mass Casualty Management: the 8th International Health leader
- training course Collaboration Programme of Tokai University-WHO-IICA Yokohama, Tokyo, 2003.
- A.6. Shigeki ASAHI. International Symposium of Disaster Preparedness the 8th International Health leader training course Collaboration Programme of Tokai University-WHO-JICA Yokohama, Tokyo. 2003.

(2)全国学術集会

2002年度

C. 25件

2003年度

- A.1. 朝日茂樹, 坂野晶司ほか, アルジェリア国北部地震災害への国際緊急援助隊医療援助活動. 第44回日本熱 带医学会•第18回日本国際保健医療学会合同大会. 北九州市. 2003.
- A.2. 朝日茂樹. 災害, 人道支援のコーディネーション. 第44回日本熱帯医学会・第18回日本国際保健医療学会 合同大会. 北九州市. 2003.
- 青森県における自殺の実態と予防への課題. 東北公衆衛生学会 ミニシンポジウム. 秋田 A.3. 朝日茂樹. 市. 2003.
- C 25件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

2003年度

- ・研究協力者 三田禮造、朝日茂樹、「青森県の自殺予防」(研究代表 渡邊直樹)
- •朝日茂樹.「地方分権と保健衛生行政に関する調査研究」厚生労働省
- ・研究協力者 坂野晶司. 老人福祉施設における救急医学の研究」(研究代表者 村山良雄)
- ・研究協力者 坂野晶司、「国際保健領域における人材育成とキャリアパスに関する研究」(研究代表者 溝田 勉)

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

なし

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

他研究単位との研究分担者として

- 1. 厚生労働省, 日本公衆衛生協会,「平成13年度地方分権と保健衛生行政に関する調査研究(継続事業)」
- 2. 厚生労働省, 厚生労働科学研究費, 長寿科学総合研究推進事業, 「老人介護施設における救急医療の現 状と改善点に関する研究 | 村山良雄(国立神戸病院)総額1,500千円.(坂野)

他研究単位との研究分担者として

研究協力者 三田禮造,朝日茂樹,平成15年厚生労働科学研究費補助金「青森県市町村における自殺予防 システムの構築」(研究代表者 渡邊直樹)

研究協力者 坂野晶司. 平成15年度厚生労働科学研究費補助金「老人福祉施設における救急医学の研究」 (研究代表者 村山良雄) 研究協力者 坂野晶司. 平成15年度厚生労働科学研究費補助金「国際保健領域における人材育成とキャリ

アパスに関する研究」(研究代表者 溝田 勉)

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

2002年度

他研究単位との研究分担者として

- 1. 全日本剣道連盟 医•科学委員(朝日)
- 2. 中冨健康科学財団研究助成金,「日常生活の活発化が施設入所老人の健康体力の維持・改善に及ぼす影 響と効果」野田美保子、1,000千円(平成13-14年)

2003年度

研究代表者として 青森県りんご対策協議会「緊急対応果物としてのりんごの活用」1,000千円. 朝日茂

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流、国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

2002年度

SRHA-JAICA. 三田禮造(担当責任者), Jamaica/Japan International Health and Lifestyle Connference-2003. Kingston (Jamaica).

2003年度

三田禮造. 弘前国際医学フォーラム第7回学術集会. 弘前. 2003.10.28-29

b) 外国人研究者の招聘. 受け入れ状況

2003年度

Maria D. Jackson, Arturo M Pesigan

c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

2002年度

Tali Avidror. 看護学校 4 年生. Israel. 2002年 4 月22日-29日.

2003年度

Michael Coombs, Sandra Parkinson Chambers, Lisa Kervin Dawes, Derrick Ledford

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

2003年度

三田禮造. ジャマイカ・生活習慣病予防の在外研修講師. 2003年1月-2月.

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

なし

f) その他

2003年度

三田禮造. 在外技術研修 講演「Japan's Health in the 21st Century」

(2)国内. 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2003年度

三田禮造. 第2回東北国際保健研究会. 弘前. 2003.11.1-2

- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

なし

13. 寄生虫学講座

【研究単位の目標到達度, 理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

かなりの所まで到達しているが、その中で、国際共同研究の絞込みと発展を期している。

理念:

- 1. 地域と共に創造し、世界に発信する。
- 2. 宿主・寄生虫関係解析のために、学際的領域への展開
- 3. グローバルな視点からの寄生虫学の展開
- 4. 地域貢献の視点からの寄生虫症の把握

これから2年間の目標:

2年前の目標を継続的にそのクオリティーを高め、発展させる。学際的領域への展開を図りたい。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助教授	0,講師	1, 助手	1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0		
教官	役職 専任/	/併任の別 ほ	毛 名	評価年度内での在籍期間		
(教授~助手)	教 授 専	任	神谷 晴夫	1年		
の詳細	講師	任(左藤 宏	1年		
り計加	助手	任人	公尾加代子	1年		
	1. 東北地方におけるエキノコックス症の疫学調査ならびに監視体制の構築					
	2. ヒト外挿難治性寄生虫症動物モデルの開発とその治療法への応用					
	3. 多能性条虫幹細胞の検索とその確立					
研究課題	4. 住血吸虫症の感染病態における糸球体腎炎の疫学的意義					
圳九林煜	5. 寄生虫感染における皮膚の役割					
	6. マンソン住血吸虫排泄系各ポンプとしての P-gp および MRP の検討					
	7. 国内で発生し	たアライグマ	マ蛔虫幼虫移	行症の疫学調査および実験研究		
	8. 寄生虫症モデルとしてのスナネズミ, 特に IgA を中心とした腸管液性免疫応答					

研究人員	教授 1, 助	り教授 0,講師	币 1,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0	
教 官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間	
教授~助手)	教 授	専 任	神谷	晴夫	3年	
の詳細	講師	専 任	佐藤	宏	3年	
り計加	助 手	専 任	長内	理大	1年	
	1. 東北地方	「におけるエキ <i>」</i>	ノコック	ス症の	疫学調査ならびに監視体制の構築	
	2. ヒト外挿難治性寄生虫症動物モデルの開発とその治療法への応用					
	3. 多能性条虫幹細胞の検索とその確立					
	4. 住血吸虫症の感染病態における糸球体腎炎の疫学的意義					
TTT がな 急用 日香	5. 寄生虫感染における皮膚の役割					
研究課題	6. マンソン住血吸虫の排泄系上皮細胞膜ポンプの生化学機構と薬剤抵抗性獲得における役割					
	7. 日本で発生したアライグマ蛔虫による幼虫移行症:病態解析および血清診断法開発					
	8. 感染症モデルを標的とした中国産スナネズミ類の探索と実験動物化に関する研究					
	9. 多包虫石		学的•分	子生物	学的解析	
	10. 多包虫の機能性タンパク質の生化学的・分子生物学的解析					

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. Chisty MM, Nargis, M, Sato H, Inaba T, Takahashi G, and Kamiya H. Schistosoma mansoni: kinetics of glomerulonephritis in Mongolian gerbils and its correlation with intensity and duration of infection. Parasite 2002. 9. 143-151.
- A.2. <u>Sato H</u>, Furuoka H, and <u>Kamiya H</u>. First outbreak of *Baylisascaris procyonis* larva migrans in rabbits in Japan. Parasitol Int 2003, 51, 105-108.
- B.1. Lacayo J, Sato H, Kamiya, H, and McVoy MA. Down-regulation of surface major histochompatibility complex class I by guinea pig cytomegalovirus. *J Gen Virol* 2003, 84, 75-81.
- C.1. <u>Sato H</u>, Kusel JR, and Thornhill J. Functional visualization of the excretory system of adult *Schistosoma mansoni* by the fluorescent marker resorufin. Parasitology 2003, 125, 527-535.

2003年度

- A.1. Sato H, Kamiya H, and Furuoka H. 2003. Epidemiological aspects of the first outbreak of *Baylisascaris procyonis* larva migrans in rabbits in Japan. *J Vet Med Sci* 2003; 65: 453-7.
- A.2. Sato H, Ishita K, Matsuo K, Inaba T, Kamiya H, and Ito M. Persistent infection of Mongolian jirds with a non-pathogenic trypanosome, *Trypanosoma (Herpetosoma) grosi. Parasitology* 2003; 127: 357-63.
- A.3. Sato H, Matsuo K, Kamiya H, Ishikawa T, Okabayashi S, Kishi N, and Une Y. 2003. *Pterygodermatites nycticebi* (Nematoda: Rictulariidae): accidental detection of encapsulated third-stage larvae in the tissue of a white-fronted marmoset. *J Parasitol* 2003; 89: 1163-6.
- A.4. <u>Chisty MM</u>, <u>Nargis M</u>, Inaba T, Ishita K, <u>Osanai A</u>, <u>Kamiya H</u>. Transmission electron microscopy of Schistosoma mansoni cercariae treated with hinokitiol (beta-thujaplicin), a compound for potential skin application against cercarial penetration. Tohoku J Exp Med. 2004;202:63-7.
- A.5. <u>Kamiya H</u>, Inaba T, <u>Sato H</u>, <u>Osanai A</u>. A red fox, *Vulpes vulpes shrencki*, infected with *Echinococcus multilocularis* was introduced from Hokkaido Island, where *E. multilocularis* is endemic, to Aomori, northern part of the mainland Japan. Jpn J Infect Dis. 2003;56:180-1.
- A.6. <u>Matsuo K</u>, Inaba T, <u>Kamiya H</u>. Detection of *Echinococcus multilocularis* eggs by centrifugal flotation technique: preliminary survey of soil left in the ferryboats commuting between Hokkaido Island, where *E. multilocularis* is endemic, and mainland Japan. Jpn J Infect Dis. 2003; 56, 118-9.
- A.7. <u>Inaba T, Sato H,</u> and <u>Kamiya H.</u> Monoclonal IgA antibody-mediated expulsion of *Trichinella* from the intestine of mice. *Parasitology* 2003; 126: 591-598.
- A.8. <u>Inaba T, Sato H</u>, and <u>Kamiya H</u>. Impeded establishment of the infective stage of *Trichinella* in the intestinal mucosa of mice by passive transfer of an IgA monoclonal antibody. *J Vet Med Sci* 2003; 65: 1227-1231.
- B.1. Akao N, Hayashi E, <u>Sato H</u>, Fujita K, and Furuoka H. Diffuse retinochoroiditis due to *Baylisascaris procyonis* in Mongolian gerbils. *J Parasitol* 2003; 89: 174-175.
- B.2. Furuoka H, Sato H, Kubo M, Owaki S, Kobayashi Y, Matsui T, and Kamiya H. Neuropathological observation of rabbits (*Oryctolagus cuniculus*) affected with raccoon roundworm (*Baylisascaris procyonis*) larva migrans in Japan. *J Vet Med Sci* 2003; 65: 695-699.
- C.1. <u>Sato H</u>, Kusel JR, and Thornhill J. Excretion of fluorescent substrates of mammalian multidrug resistance-associated protein (MRP) in the *Schistosoma mansoni* excretory system. *Parasitology* 2004; 128: 43-52
- C.2. Yamashita T, Ino T, Miyoshi H, Sakamoto K, <u>Osanai A</u>, Nakamaru-Ogiso E, Kita K. Rhodoquinone reaction site of mitochondrial complex I, in parasitic helminth, Ascaris suum. Biochim Biophys Acta. 2004;1608:97-103.
- C.3. Amino H, Osanai A, Miyadera H, Shinjyo N, Tomitsuka E, Taka H, Mineki R, Murayama K, Takamiya S, Aoki T, Miyoshi H, Sakamoto K, Kojima S, Kita K. Isolation and characterization of the stage-specific cytochrome b small subunit (CybS) of Ascaris suum complex II from the aerobic respiratory chain of larval mitochondria. Mol Biochem Parasitol. 2003;128:175-86.

和文

2003年度

- A.1. <u>神谷晴夫</u>:青森県のエキノコックス症の現状と対策. 日本医事新報 2003, 4129号, 25-29.
- A.2. <u>神谷晴夫</u>:青森県における多包虫症患者の発生状況とその疫学的考察. 日本医事新報 2003, 4158号, 43-46.
- A.3. <u>石田邦夫</u>, 八木澤誠, 稲葉孝志, <u>神谷晴夫</u>: 筋肉トリヒナ切片を用いた旋毛虫症の免疫診断. 弘前医学, 2004, 55, 43-48.

(2)総説

英文

2003年度

A.1. Kamiya H. Schistosomiasis mansoni. Progress of Medical Parasitology in Japan, 2003, 8, 179-136.

和文

2002年度

- A.1. <u>神谷晴夫</u>: 最近注目される人獣共通寄生虫症(上) エキノコックス症 日本医事新報 2003, 4112号, 33 36.
- A.2. $\frac{\dot{q}$ 合晴夫 最近注目される人獣共通寄生虫症(下) 顎口症, 動物由来回虫症 日本医事新報 2003, 4116 号, 33-36.

(3)著書

英文 なし

和文

2002年度

A.1. 神谷晴夫 医学書院医学大辞典(分担執筆), 医学書院, 2003.

(4)その他

英文 なし

和文

2002年度

A.1. 神谷晴夫. エキノコックス症の監視・防御に関する研究. 平成14年度厚生科学研究補助金(振興・再興感染症研究事業) 研究報告書(分担研究)

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Parasite Paraitology International J. Gen. Viol.	0.564 1.03 3.3	1 1 1	0.564 1.03 3.3
Total		3	4.894

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Parasitology	1.821	2	3.642
J Parasitology	1.137	1	1.137
J Vet Med Sci	0.627	2	1.254
Jpn J Infct Dis	0.547	2	1.094
Tohoku J Exp Med	0.371	1	0.371
J Parasitology	1.137	1	1.137
J Vet Med Sci	0.627	1	0.627
Total		10	9.262

和文 (論文数)

雑	註	名	2002年度	2003年度
日本医事新報 弘前医学			2	2 1
	計		2	3

2. 著書数 (A. Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種目	2002年度	2003年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	1	0

3. その他 (A. Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

A.1. Kamiya H: Kinetics of epidermal Langerhans' cells in the induction of protective immunity to Schistosoma mansoni infection, 7th International Conference on emerging infectious diseases in the pacific rim. Shanghai, China, 2002

(2)全国学術集会

2002年度

- B.1. 古岡秀文, 佐藤 宏, 赤尾信明, 人獣共通寄生虫症としてのアライグマ蛔虫幼虫移行症, 第134回日本獣医学会学術集会シンポジュウム, 岐阜大学, 2002年 9 月(第134回日本獣医学会学術集会講演要旨集, 2002年, 79ページ)
- C 9件

2003年度

A.1. 神谷晴夫: 住血吸虫症研究ネットワーク研究集会. 長崎大学熱帯医学研究所学術集会, 2004年2月, 長崎

III. 学術賞

2003年度

弘前医学会優秀発表賞、長内理大、薬物治療法の確立に向けた多包条虫(Echinococcus multilocularis)の石灰小体関連タンパク質の探索

IV. 共同研究

2002年度

- 1. 北海道大学大学院獣医学研究科 エキノコックス症の監視・防御に関する研究 神谷正男
- 2. ベネズエラ中央大学・熱帯医学研究所 熱帯性寄生虫症の感染疫学に関する研究 同研究所免疫学研究室長 Alexis Rodriguez Acosta
- 3. 弘前大学医学部保健学科 旋毛虫症の感染防御機序に関する研究 稲葉孝志
- 4. 実験動物中央研究所 感染症モデルを標的とした中国産スナネズミ類の探索と実験動物化に関する 研究 伊藤 守
- 5. 帯広畜産大学 アライグマ蛔虫幼虫移行症の国内発生状況の把握 古岡秀文
- 6. Glasgow University マンソン住血吸虫排泄系膜ポンプとしての P-gp および MRP の検討 Prof. J.R. Kusel

- 1. 北海道大学大学院獣医学研究科 エキノコックス症の監視・防御に関する研究 神谷正男
- 2. ベネズエラ中央大学・熱帯医学研究所 熱帯性寄生虫症の感染疫学に関する研究 同研究所免疫学研究室長 Alexis Rodriguez Acosta
- 3. 弘前大学医学部保健学科 旋毛虫症の感染防御機序に関する研究 稲葉孝志
- 4. 実験動物中央研究所 感染症モデルを標的とした中国産スナネズミ類の探索と実験動物化に関する研究 伊藤 守 遺伝子改変センター・免疫研究室室長
- 5. 中国新疆包虫症研究所 同上研究課題で共同研究 Jang Weig 野生動物研究室室長

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

神谷晴夫,学術振興会科学研究費補助金,萌芽研究「多能性条虫幹細胞の検索とその培養系の確立」 1.800千円.

佐藤 宏, 学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究 (C)「寄生虫症モデルとしスナネズミ,特に IgA を中心とした腸管液性免疫応答の意義」 1,800千円.

他研究単位との研究分担者として

佐藤 宏, 学術新興会科学研究費補助金, 基盤研究 (B, 一般)「日本で発生したアライグマ回虫による幼虫移行症:病態解析および血清診断法開発」 1,500千円.

神谷晴夫, 佐藤 宏, 学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究 (B,海外)「感染症モデルを標的とした中国 産スナネズミ類の探索と実験動物化に関する研究」

2003年度

研究代表者として

神谷晴夫, 学術振興会科学研究費補助金, 萌芽研究「多能性条虫幹細胞の検索とその培養系の確立 1,200 千円

佐藤 宏, 科学研究費補助金, 基盤研究(B)(1), マンソン住血吸虫の排泄系上皮細胞膜ポンプの生化学機構と薬剤抵抗性獲得における役割, 3,500千円

他研究単位との研究分担者として

佐藤 宏, 科学研究費補助金, 基盤研究(B)(1), 日本で発生したアライグマ蛔虫による幼虫移行症:病態解析および血清診断法開発, 代表者 古岡秀文, 1,500千円

神谷晴夫,佐藤 宏,学術振興会科学研究費補助金,基盤研究(B,海外)「感染症モデルを標的とした中国産スナネズミ類の探索と実験動物化に関する研究」 伊藤 守

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

他研究単位との研究分担者として 神谷晴夫:エキノコックス症の監視・防御に関する研究:厚生労働科学研究費補助金,新興・再興感染症研究事業. 3,000千円

(3)学内の研究助成

2003年度

研究代表者として 神谷晴夫、弘前国際学術振興基金 外国人研究者招聘 472千円

(4)民間の研究助成

2003年度

研究代表者として 神谷晴夫: 抗寄生虫薬としてのヒバ油由来生理活性物質ヒノキチオールの応用と実用 化. 21あおもり産業総合支援センター研究開発委託事業,300千円

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流、国際的活動

a) 国際学術集会の主催

2003年度

第7回弘前国際医学フォーラム、2003年10月28~9日、弘前

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2003年度

Dr. Alexis Rodriguez Acosta ベネズエラ中央大学・熱帯医学研究所免疫研究室 2003年10月(10日間) Dr. N. Robert Bergquist WHO TDR 前熱帯医学研究部門部長 2003年10月(1週間) Dr. Janet T. Jones, University of Glasgow, 2003年10月(2週間)

c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察、研究参加(3ヵ月未満)状況

なし

e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 2002年度

佐藤 宏, (連合国, グラスゴー大学生命科学研究所生化学部門)

f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催 なし

b) 地方レベルの学会の主催 なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

なし

14. 法医学講座

【研究単位の目標到達度. 理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- ①国内学術雑誌に対して各教官が年平均1編以上の first author となる論文投稿を志向する。(0/1)
- ②国内学術雑誌に対して各教官が年平均3編以上のco-authorとなる論文投稿を志向する。(2/3)
- ③国際学術雑誌に対して各教官が1編以上のfirst authorとなる論文投稿を志向する。(0/1)
- ④国際学術雑誌に対して各教官が1編以上のco-authorとなる論文投稿を志向する。(0/1)
- ⑤国際学会に対して、各教官が chief presenter として 1 編以上、co-presenter として 1 編以上を発表する。(0/1)
- ⑥全国レベルの学術学会で主演者または共同演者として年3演題以上を発表する。(5/3)
- ⑦研究助成を各教官1件以上確保する。(0/1)

理念:

法医学は基礎医学ではなく、実践医学あるいは応用医学に位置づけられる。すなわち、実務への応用が法医学研究 の直接且つ究極の目的であり、鑑定実例に対して問題意識をもつことから研究のアイディアがスタートする。法医 学の研究様式は多様であることが当然で、どのような分野に関連していても問題はない。

法医学が裁判医学・法廷医学と別称されるように、国家医学としての機能を果たしてこそこの学問の存在意義が認められるのであるから、我が国の秩序維持。国民の安全確保を旨とした司法活動に直接関わる研究を行うことこそが責務と言える。すなわち、日々担当する眼前の鑑定業務を疎かにする姿勢は厳に慎むべきであり、国内の司法・捜査関係者への邦文による情報提供が求められている。

このような動機に基づき、当法医学講座では鑑定水準の向上を目指すことを第一優先事項として研究に取り組むものとする。

これから2年間の目標:

- (ア)国内学術雑誌に対して各教官が年平均1編以上のfirst authorとなる論文投稿を志向する。
- (イ)国内学術雑誌に対して各教官が年平均3編以上のco-authorとなる論文投稿を志向する。
- (ウ)国際学術雑誌に対して各教官が1編以上のfirst authorとなる論文投稿を志向する。
- (エ)国際学術雑誌に対して各教官が1編以上のco-authorとなる論文投稿を志向する。
- (オ)国際学会に対して、各教官が chief presenter として1編以上、co-presenter として1編以上を発表する。
- (カ)全国レベルの学術学会で主演者または共同演者として年3演題以上を発表する。
- (キ)研究助成を各教官1件以上確保する。

【研究人員及び研究課題】

研究人員	教授 1, 助教授 0,	靖 師 1,助手	2, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 2		
	役職 専任/併任の別	」 氏 名	評価年度内での在籍期間		
教 官	教 授 専 任	黒田 直人	1年		
(教授~助手)	講 師 専 任	北 武	1年		
の詳細	助 手 専 任	三戸 聖也	1年		
	助 手 専 任	丹野 高三	1年		
	1. 死体検査学一般				
	2. 法医血清学				
研究課題	3. 血液蛋白を指標とする人血証明				
切九林思	4. 精液蛋白を指標とするヒト精液証明				
	5. 機能食品の抗腫瘍作	月について			
	6. 法医解剖における症	削検討			

研究人員	教授 1, 助	教授 0, 講師	师 1,	助手	2, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 2			
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間			
教 官	教 授	専 任	黒田	直人	2003.04.01-2004.03.31(1年)			
(教授~助手)	講師	専 任	北	武	2003.04.01-2004.03.31(1年)			
の詳細	助手	専 任	三戸	聖也	2003.04.01-2004.03.31(1年)			
	助 手	専 任	丹野	高三	2003.04.01-2004.03.31(1年)			
	1. 法医解剖	診断学						
	2. 法医血清学							
研究課題	3. 血液蛋白	3. 血液蛋白を指標とする人血証明						
圳元林煜	4. 精液蛋白を指標とするヒト精液証明							
	5. 機能食品	5. 機能食品の抗腫瘍作用について						
	6. 自殺者の	法医学的研究						

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

A.1. Sannohe S. Change in the postmortem formation of hypostasis in skin preparations 100 micrometers thick. The American Journal of Forensic Medicine and Pathology 2002; 23: 349-54.

和文

2002年度

A.1. 北 武, 丹野高三, 三戸聖也, 黒田直人, 牧野容子. Hemoglobin Ao を指標とする Sandwich Dot-ELISA 法による人血証明 -人・獣鑑別に関する法医学的研究 (\mathbb{N}) -. 法医学の実際と研究 2002; 45: 135-40.

2003年度

- A.1. 北 武,丹野高三,三戸聖也,佐々木秀明,黒田直人,石田邦夫,北 均. Sandwich Dot-ELISA 法 によるヒト γ -Seminoprotein の証明(I). 法医学の実際と研究 2003; 46: 33-37.
- C.1. Iwadate K, Doi M, Tanno K, Katsumura S, Ito H, Sato K, Yonemura I, Ito Y. Right ventricular damage due to pulmonary embolism: examination of the number of infiltrating macrophages. Forensic Sci Int. 2003; 134: 147-153.

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文 なし

和文

2002年度

A.1. 黒田直人(全執筆者3,400名). 医学大辞典 2002年, 医学書院, 東京.

2003年度

A.1. 黒田直人(執筆分担). 医学大辞典. 伊藤正男, 井村裕夫, 高久史麿編. 東京: 医学書院, 2003.

(4)その他

英文

2002年度

A.1. Sannohe S., Makino Y., Kita T., Kuroda N., and Shinozuka T. Cholchicine poisoning resulting from accidental ingestion of meadow saffron (Colchicum Autumnale). Journal of Forensic Science 2002; 47: 1391-6.

和文

2002年度

- A.1. 黒田直人, 丹野高三, 三戸聖也, 北 武、牧野容子. カポジ水痘様発疹症が死因に関与したと考えられ
- た幼児死亡例. 法医学の実際と研究 2002; 45:129-134. B.1. 山﨑健太郎, 丹野高三, 土井幹雄, 大橋教良, 相田久美, 及川明奈, Myo THaik Oo, 三澤章吾. ベルト コンベアのベルトにより胸部を圧迫された窒息死例. 法医病理 2002;8;48-52.

2003年度

武, 黒田直人. ブラッドアクセスへの損傷が致命傷になったと考えられた人 A.1. 三戸聖也, 丹野高三, 北 工透析患者の2自殺例. 法医学の実際と研究 2003; 46: 39-44.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Am J Forensic Med Pathol	0.409	1	0.409
Total		1	0.409

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
法医学の実際と研究				1
	計		0	1

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	I	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担執	筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	1	1

3. その他 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Forensic Sci	0.883	1	0.883
Total		1	0.883

(論文数) 和文

雑	誌	名	2002年度	2003年度
法医学の実際と研究			2	1
	計		2	1

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

C.1. Kuroda N., Tanno K., Sannohe S., Kita T., Yoshioka N., Shinozuka T. Trial study on estimation of interval between alcohol intoxication and death. 16th meeting of the International Association of Forensic Sciences,

(2)全国学術集会

2002年度

C. 9件

2003年度

C. 7件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

- ①基盤研究(C), 死亡者の飲酒後経過時間推定に関する法医学的研究, 黒田直人, 1,000千円
- ②若手研究(B), 迅速二重免疫染色による頚髄損傷の高位レベル検索とその法医鑑定への応用 三戸聖也 500千円.
- (2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし

- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 なし
- f) その他

なし

- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

黒田直人, 第89回法医学談話会例会, 青森県西津軽郡鯵ヶ沢町

- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

なし

15. 内科学第一講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- 1) 英文論文の内訳をみると、多方面にわたって多くの研究成果が得られているが、主たる発表機関としての論文が少なかった。また、和文論文も例年に比べて少なかった。 到達度:60%
- 2) 国際学会,全国レベルの学会発表は、例年を上回っていたが、論文として発表されたものが少なかった。 到達度:80%
- 3) 研究補助金の採択率は例年を下回った。 到達度:60%

理念:

臨床講座として消化器病、血液病、膠原病についての臨床研究をさらに発展させるとともに、関連する基礎講座との連携により基礎的な研究を推進させる。

これから2年間の目標:

- 1) 英文学術誌へ論文を投稿するよう指導する。
- 2) 国際学会、全国レベルの学会における発表数の増加に心掛けるとともに、その研究結果については可能な限り 学術誌へ投稿するように指導する。
- 3) 教官, 医員, 大学院生, 研究生の研究に対して, 積極的に指導・助言を行う。
- 4) 学位論文の作成に指導・助言を行う。
- 5) 科学研究費補助金の採択数を向上させる。

【研究人員及び研究課題】

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講師	师 3,	助手	5, 医員 4, 大学院学生 8, 研究生 9	
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間	
	教 授	専 任	棟方	昭博	1年	
	助教授	専 任	須藤	俊之	1年	
	講師	専 任	田村	好弘	1年	
教 官	講師	専 任	佐々え	木賀広	1年	
(教授~助手)	講師	専 任	石黒	陽	1年	
の詳細	助 手	専 任	玉井	佳子	1年	
	助 手	専 任	坂本	+-	1年	
	助 手	専 任	伊東	重豪	1年	
	助 手	専 任	下山	克	1年	
	助 手	専 任	山形	和史	1年	
	1. 消化器療	長患の光学的定量	量法にこ	よる診断	に関する研究	
	2. Helicoba	<i>ecter pylori</i> に関	する研	究		
	3. 消化器療	ミ患の内視鏡的 液	台療に関	関する研	究	
	4. 炎症性腸	景疾患の成因に	関する研	开究		
研究課題	5. 大腸癌集	基団検診に関する	る研究			
1/1 / 1.111/1/25	6. 食物繊維による大腸癌の予防に関する研究					
	7. 消化器思	原性腫瘍に対する	る化学療	寮法に関	する研究	
	8. 消化管機	と能性疾患の病態	態生理に	こ関する	研究	
	9. 慢性肝炎	そからの発癌予防	方に関す	よる研究	1	
	10. 定量的出	出血時間に関する	る研究			

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講印	师 3,	助手	5, 医員 5, 大学院学生 7, 研究生 8
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	棟方	昭博	1年
	助教授	専 任	須藤	俊之	1年
	講師	専 任	田村	好弘	1年
教 官	講師	専 任	佐々え	木賀広	1年
(教授~助手)	講師	専 任	石黒	陽	1年
の詳細	助 手	専 任	坂本	+-	1年
	助 手	専 任	玉井	佳子	1年
	助 手	専 任	伊東	重豪	1年
	助 手	専 任	下山	克	1年
	助 手	専 任	山形	和史	1年
	1. 消化器療	長患の光学的定 量	量法にこ	よる診断	に関する研究
	2. Helicoba	<i>acter pylori</i> に関	する研	究	
	3. 消化器療	ミ患の内視鏡的 液	台療に関	と する研	究
	4. 炎症性腸	湯疾患の成因に	関する研	开究	
研究課題	5. 大腸癌集	長団検診に関す	る研究		
11/1 71.174.12	6. 食物繊維	性による大腸癌の	の予防に	こ関する	研究
	7. 消化器思	原性腫瘍に対する	る化学療	寮法に関	する研究
	8. 消化管機	と能性疾患の病態	態生理に	に関する	研究
	9. 慢性肝炎	そからの発癌予	坊に関す	よる研究	
	10. 定量的出	出血時間に関する	る研究		

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

- A.1. <u>Yamagata R, Shimoyama T</u>, Fukuda S, Yoshimura T, Tanaka M, <u>Munakata A</u>, Sugawara K. Cyclooxygenase-2 expression is increased in early stage gastric cancer and gastric mucosa with intestinal metaplasia in patients with *Helicobacter pylori* infection. Eur J Gastroenterol, 2002; 14: 359-63.
- A.2. Suzuki- Tsunoda Y, Kawamura S, Tsushima K, <u>Tamai Y</u>, Takami H, <u>Munakata A</u>, Tsunoda M. Long -term survivors with adult acute leukemia in complete remission: complications and return to work. International Journal of Hematology, 2002; 76: 173-9.
- A.3. Kanazawa H, <u>Ishiguro Y</u>, <u>Munakata A</u>. Multiple accumulation of V δ 2+ $\gamma\delta$ T cell colonocytes in the intestinal mucosa from patients with Crohn's disease. Pediatrics -Food allergy, Gastroenterology, and Nutrition-, 2002; 2: 12-4.
- A.4. Shimoyama T, Fukuda S, Liu Q, Nakaji S, Fukuda Y, Sugawara K. Production of chemokines and reactive oxygen species by human neutrophils stimulated by *Helicobacter pylori*. Helicobacter, 2002; 7: 170-4.
- A.5. <u>Ookawa K</u>, Kudo T, <u>Aizawa S</u>, Saito H, Tsuchida S. Transcriptional activation of the MUC2 gene by p53*. The Journal of Biological Chemistry, 2002; 277: 48270-5.
- A.6. <u>Tsuji T, Sasaki Y, Tanaka M, Hanabata N, Hada R, Munakata A. Microvessel morphology and VEGF expression in human colonic carcinoma with or without metastasis.</u> Laboratory Investigation. 2002; 80: 555-62.
- A.7. Shimoyama T, Fukuda S, Liu Q, Fukuda Y, Nakaji S, Sugawara K. Characteristics of attenuating effects of rebamipide, an anti-ulcer agent, on oxidative burst of human neutrophils. J Pharmacol Sci, 2003; 91: 153-7.
- A.8. Iwane S, Nakaji S, Ohta M, Tamura K, <u>Sakamoto J, Munakata A</u>, Sugawara K. Inhibitory Effect of Small Amounts of Celluose on Colonic Carcinogenesis with Low-Dose Carcinogen. Dig Dis Sci, 2002; 47: 1257-65.
- B.1. *Tanaka M, Saito H, Kusumi T, Shimoyama T, Fukuda S, Morita T, Sugita A, Hara M, Kudo H. Biopsy pathology predicts patients with ulcerative colitis subsequently requiring surgery. Scand J Gastroenterol., 2002; 37: 200-5.
- B.2. *Nakaji S, Fukuda S, Iwane S, Murakami H, Tamura K, <u>Munakata A</u>, Sugawara K. New methods for the determination of fecal consistency and its optimal value in the general population. Journal of Gastroenterology and Hepatology, 2002; 17: 1278-82.
- B.3. *Kitagawa Y, Nakaji S, <u>Shimoyama T</u>, Umeda T, Sugawara K, Liu Q, <u>Sakamoto J</u>. Difference in lifestyle of a smoking and non-smoking population in Japan. Asia Pacific J Cancer Prev, 2002; 1: 247-51.
- B.4. *Nakaji S, Tokunaga S, <u>Sakamoto J</u>, Todate M, <u>Shimoyama T</u>, Umeda T, Sugawara K. Relationship between lifestyle factors and defecation in a Japanese population. Eur J Nutr, 2002; 41: 244-8.

- B.5. *Matsuzaka M, Nakaji S, Umeda T, Suzuki K, Sugawara K, Sakamoto J, Wada S, Kumae T, Tokunaga S. Bowel Habits among the Japanese Population. J Phys Fit Nutr Immunol, 2003; 13: 9-16.
- C.1. *Sturm A, Itoh J, Jocobberger J, Fiocchi C. p53 negatively regulates intestinal immunity by delaying mucosal T cell cycling. J Clin Invest, 2002; 109: 1481-92.

- A.1. Takahata T, Yasui-Furukori N, Sasaki S, Igarashi T, Okumura K, Munakata A, Tateishi T. Nucleotide changes in the translated region of SCN5A from Japanese patients with Brugada syndrome and control subjects. Life Sciences 2003; 72: 2391-9.
- A.2. Shimoyama T, Fukuda S, Liu Q, Nakaji S, Fukuda Y, Sugawara K. Helicobacter pylori water soluble surface proteins prime human neutrophils for enhanced production of reactive oxygen species and stimulate chemokine production. J Clin Pathol 2003; 56: 348-51.
- A.3. Sasaki Y, Hada R and Munakata A. Computer-aided grading system for endoscopic severity in patients with ulcerative colitis. Digestive Endosc 2003; 15:206-9.
- A.4. Munakata W, Liu Q, Shimoyama T, Sawaya M, Umeda K, Sugawara K. Ecabet sodium attenuates reactive oxygen species produced by neutrophils after priming with bacterial lipopolysaccharides. Luminescence 2003: 18: 330-3.
- B.1. *Fukuda S, Tanaka M, Shimoyama T, Sawaya M, Nakaji S, Munakata A. Morphologic criteria using biopsy specimens to define the risk of gastric cancer in patients with Helicobacter pylori infection. Jpn J Clin Oncol 2003; 33: 396-8.
- B.2. *Nakaji S, Umeda T, Shimoyama T, Sugawara K, Tamura K, Fukuda S, Sakamoto J, Parodi S. Environmental factors affect colon carcinoma and rectal carcinoma in men and women differently. Int J Colorectal Dis 2003; 18: 481-6.
- B.3. *Fujimaki Y, Shimoyama T, Liu Q, Umeda T, Nakaji S, Sugawara K. Low-level laser irradiation attenuates production of reactive oxygen species by human neutrophils. J Clin Laser Med Surg 2003; 21:165-70.
- B.4. *Nakaji S, Shimoyama T, Wada S, Sugawara K, Tokunaga S, MacAuley D, Baxter D. No preventive effect of dietary fiber against colon cancer in the Japanese population: a cross-sectional analysis. Nutr Cancer 2003; 45:156-9.
- B.5. *Saito K, Nakaji S, Umeda T, Shimoyama T, Sugawara K, Yamamoto Y. Development of predictive equations for body density of sumo wrestlers using B-mode ultrasound for the determination of subcutaneous fat thickness. Br J Sport Med 2003; 37:144-8.
- B.6. *Danjo K, Nakaji S, Fukuda S, Shimoyama T, Sakamoto J, Sugawara K. The resistant starch level of Heat Moisture—treated high amylose cornstarch is much lower when measured in the human terminal ileum than when estimated in vitro. J Nutr 2003; 133: 2218-21.
- B.7. *Chinda D, Nakaji S, Umeda T, Shimoyama T, Kurakake S, Okamura N, Kumae T, Sugawara K. A competitive marathon race decreases neutrophil functions in athletes. Luminescence 2003; 18: 324-9.
- B.8. *Suzuki M, Nakaji S, Umeda T, Shimoyama T, Mochida N, Kojima A, Mashiko T, Sugawara K. Effects of weight reduction on neutrophil phagocytic activity and oxidative burst activity in female judoists. Luminescence 2003;18:214-7.
- B.9. *Nakaji S, Ishiguro S, Iwane S, Ohta M, Sugawara K, Sakamoto J, Fukuda S. The prevention of colon carcinogenesis in Rats by dietary cellulose is greater than the promotive effect of dietary lard as assessed by repeated endoscopic observation. J Nutr 2004; 134: 935-9.
- B.10. *Chinda D, Umeda T, Shimoyama T, Kojima A, Tanabe M, Nakaji S, Sugawara K. The acute response of neutrophil function to a bout of judo training. Luminescence. 2003; 18: 278-82.
- B.11. *Nakaji S, Liu Q, Yamamoto T, Katuta Y, Sakamoto J, Sugawara K, Bailar J C. Firm measures are required to effect any significant decrease in the Japanese age-adjusted mortality rate from malignant neoplasms for the 21st century. Eur J Epidemiology 2004; 19: 123-8.
- B.12.*Wada S, Nakaji S, Umeda T, Takahashi I, Oyama T, Chinda D, Sugawara K, Shimoyama T, Sakamoto J, Fukuda S. Nutritional effects of supplementing Liquid-Formula Diet with dietary fiber on elderly bed-ridden patients. Tohoku J Exp Med 2004; 203: 9-16.
- B.13.*Nakaji S, Matsuzaka M, Umeda T, Shimoyama T, Sugawara K, Sakamoto J, Wada S, Tokunaga S. A population-based study on defecatory conditions in Japanese subjects: Methods for self-evaluation. Tohoku J Exp 2004; 203: 97-104.

和文

- A.1. 山形和史, 田中正則, 福田眞作, 三上達也, 棟方昭博. 炎症性腸疾患における内視鏡下生検診断基準運用 上の注意点. J. Colon Exam., 2002; 19: 108-10.
- 玉井佳子,小松知子,間山 恒,中畑理恵子,赤木智昭,棟方昭博,三上達也,福田眞作,高見秀樹. 当科における慢性特発性血小板減少性紫斑病に対する Helicobacter pylori (HP)除菌療法の成績. 東北止血・
- 血栓研究会会誌, 2002; 16: 1-4. A.3. <u>齋藤幹雄</u>, <u>佐々木賀広</u>, 棟方昭博. 内視鏡画像解析による大腸組織へモグロビン濃度と可視光透過距離の 測定. 弘前医学. 2002; 54: 91-8.
- A.4. 山形和史, 石黒 陽, 吉池雅美, 棟方昭博. 長期経過例からみた腸型 Behçet 病と単純性潰瘍の治療. 胃と
- 化器内視鏡,2003; 14: 1885-92.
- B.1. *阿部達也, 佐々木大輔, 須藤智行, 中畑 元, 佐藤 研. EGOGRAM による non-patient IBS と IBS 患者
- の検討. 消心身医, 2002; 9: 40-3.

 B.2. *三上達也, 福田眞作, <u>辻</u> 剛俊, <u>山形和史</u>, <u>棟方昭博</u>. 当科における高齢者の下部消化管内視鏡検査および治療に伴う偶発症. J. Colon Exam., 2002; 19: 167-9.

- B.3. *戸館雅大, 中路重之, 岩根 覚, 棟方昭博, 村上秀樹, 菅原和夫, 便通・便の性状と食生活との関連性に 関する検討. 体力・栄養・免疫学雑誌. 2002; 12: 44-55.
- B.4. *斎藤大輔, 中路重之, 珍田大輔, 小山隆男, 嶋谷 泉, 菅原和夫, <u>下山 克, 坂本十一</u>, 福田眞作, 棟方 昭博. 回腸末端部に到達するペクチンとポリエチレングリコールの相関. 消化と吸収. 2003; 25: 29-31.
- B.5. *珍田大輔, 中路重之, 斎藤大輔, 菅原和夫, 福田眞作, <u>坂本十一</u>, 下山 克, 工藤敏啓, 村田 東, <u>棟方</u> 昭博. Breath Test を用いた Dietary Fiber の腸内細菌による発酵に関する検討. 消化と吸収. 2003; 25:

- A.1. 齋藤幹雄, 佐々木賀広, 棟方昭博. 内視鏡画像解析による大腸組織ヘモグロビン濃度と可視光透過距離の 測定. 弘前医学. 2003; 54: 91-8.
- A.2. <u>三上素子</u>, <u>須藤俊之</u>, <u>坂本十一</u>, <u>棟</u>方昭博. 肝細胞癌における Contrast Harmonic Imaging を用いた超音 波検査の診断能についての検討. 弘前医学. 2004; 55: 57-67.
- B.1. *斎藤大輔, 中路重之, 珍田大輔, 小山隆男, 嶋谷 泉, <u>下山 克</u>, <u>坂本十一</u>, 福田眞作, <u>棟方昭博</u>, 菅原和夫. 回腸末端部に到達するペクチンとポリエチレングリコールの相関. 消化と吸収. 2003; 25: 29-31.
- B.2. *珍田大輔, 中路重之, 斎藤大輔, 福田眞作, <u>坂本十一</u>, 下山 克, 工藤敏啓, 村田東, <u>棟方昭博</u>, 菅原和夫. Breath Test を用いた Dietary Fiber の腸内細菌による発酵に関する検討. 消化と吸収. 2003; 25: 32-5.
- B.3. *珍田大輔,中路重之,小山隆男,菅原和夫,福田眞作,坂本十一,下山 克,棟方昭博. 13 C 標識混合中性脂肪を用いた水溶性および不溶性食物繊維の脂質吸収抑制に関する検討. 消化と吸収. 2003; 26: 83-6.
- B.4. *小山隆男, 中路重之, 珍田大輔, 下山 克, 坂本十一, 福田眞作, 菅原和夫. 経口摂取セルロースの大腸 到達率に関する検討. 体力・栄養・免疫学雑誌, 2004; 13: 232-3.
- B.5. *珍田大輔, 中路重之, 小山隆男, 下山 克, 坂本十一, 福田眞作, 藤澤倫彦, 寺田 厚, 菅原和夫. 水溶性および不溶性食物繊維における発酵の比較. 体力・栄養・免疫学雑誌. 2004; 13: 234-5. B.6. *檀上和真, 中路重之, 福田眞作, 斎藤大輔, 珍田大輔, 下山 克, 坂本十一, 菅原和夫, 棟方昭博. 食物
- 繊維(ペクチンと難消化性澱粉)による生体内での消化吸収動態の相違。体力・栄養・免疫学雑誌。2004;

(2)総説

英文

2002年度

A.1. Munakata A, Ishiguro Y. Editorials: Interaction between luminal bacteria and innate Immunity. J Gastroenterol., 2003; 38:200-1.

和文

2002年度

- A.1. <u>佐々木賀広</u>, 棟方昭博. 便通異常(下痢・便秘). medicina, 2002; 39: 758-9. A.2. <u>下山</u>克, 福田眞作. *Helicobacter pylori* 感染における胃粘膜の炎症性サイトカイン. Helicobacter Research, 2002; 6: 21-6.
- A.3. <u>下山 克</u>. Helicobacter pylori 感染と炎症性サイトカイン. Helicobacter Research, 2002; 6: 341-6.
- A.4. 棟方昭博, 坂本十一. 潰瘍性大腸炎―内科治療―. カレントテラピー, 2002; 20: 8-12. A.5. <u>佐々木賀広, 棟方昭</u>博. 過敏性腸症候群. 薬局. 2003; 54: 872-9.
- B.1. *須藤智行, 佐々木大輔, 棟方昭博. 大腸生理機能検査の実際-大腸内圧測定法について-. 日本大腸検査 学会雜誌, 2002; 9: 105-7.
- B.2. *佐々木大輔, 中畑 元, 佐藤 研, 瀧本美耶子. 心身症としての消化性潰瘍と PPI 以降の薬物治療. 医薬 ジャーナル, 2002; 38: 3037-41.
- B.3. *佐々木大輔, <u>佐藤 研</u>, <u>瀧本美耶子</u>. 大腸内圧測定. 臨牀消化器内科, 2002; 17: 1795-801.
- B.4. *松川昌勝,松木明彦,須藤俊之,坂本十一,吉村徹郎,相澤秀,檀上和真. 膵・胆管合流異常に合併 する膵炎の特徴. 消化器画像, 2003; 5: 229-35.

- A.1. 棟方昭博. 序文:炎症性腸疾患—最近の研究の進歩. 臨牀消化器内科. 2003; 18: 761-2.
- A.2. 棟方昭博, 坂本十一. 潰瘍性大腸炎の内科治療. 臨牀消化器内科. 2003; 18: 155-65.
- A.3. 棟方昭博, 福田眞作. 腹痛の病態生理. year note 2004. 2003; 285-92.
- A.4. <u>坂本十一</u>, 棟方昭博. 潰瘍性大腸炎の診断基準. 診断と治療. 2003; 92: 405-10.
- A.5. 玉井佳子, 高見秀樹. 血小板の破壊亢進, 消費および分布異常による血小板減少. 日本臨床. 2003; 61: 581-6.
- A.6. 山形和史, 石黒 陽,棟方昭博. 高齢者の虚血性大腸炎.成人病と生活習慣病. 2003; 33: 437-9.
- A.7. 棟方昭博,
 石黒 陽,
 山形和史.
 炎症性腸疾患の診断と重症度判定.
 外科治療.
 2003; 89: 255-62.

 A.8. 石黒 陽,
 山形和史,
 棟方昭博.
 Crohn 病の病態からみた臨床症状発現機序.
 医学のあゆみ.
 2003; 207:
 973-6.
- B.1. *金子榮蔵, 棟方昭博, 岩 男泰, 勝又伴栄, 多田正大, 花井洋行, 樋渡信夫, 福田眞作, 松井敏幸. 原田 英雄、丹羽寛文、大腸内視鏡検査の偶発症防止のための指針、Gastroenterological Endoscopy. 2003; 45: 1939-45.
- B.2. *栗田武彰, 佐々木賀広, 加藤 智, 板橋幸弘, 小田桐弘毅, 羽田隆吉. 甲状腺結節の超音波画像によるコ ンピューター支援診断. 臨床外科. 2003; 58:1583-90.

(3)著書

英文

2002年度

B.1. *Fukuda Y, Shimoyama T, Marshall B, Shimoyama T. Kasai, Kobayashi and Koch's postulates in the history of Helicobacter pylori, in Mashall B ed. Helicobacter PIONEERS, p15-24. Blackwell Science Asia, Sydney. 2002. (分担)

和文

2002年度

- A.1. 棟方昭博, 多田正大, 松井敏幸. 大腸内視鏡ガイドライン. 日本消化器内視鏡学会卒後教育委員会編, 消化器内視鏡ガイドライン第 2 版, p81-93. 医学書院, 東京. 2002. (分担)
- A.2. 坂本十一, 棟方昭博. 消化管疾患の病態--クローン病--. 滝川 一編. 消化器ナビゲーター, p138-9. メ <u>ディカルレビュー社</u>, 東京. 2002. (分担)
- A.3. <u>石黒 陽,山形和史</u>,棟方昭博.臨床検査の公式集,検査計画法,薬剤性腸炎.綜合臨牀.51 supple: 1424-7, 2002. (分担)
- A.4. <u>棟方昭博</u>, <u>伊東重豪</u>. 大腸癌と糖尿病. Diabetes Frontier, 13(5): 623-8. 2002. (分担)
- A.5. 棟方昭博, 佐々木賀広. 慢性下痢症. 今日の消化器疾患治療指針第2版, p233-5. 医学書院, 東京. 2002. (分担)
- A.6. 棟方昭博. 下血:黒色便と血便排泄,粘血便. 今日の治療指針第5版,p394-7. 医学書院,東京. 2002. (分 扣)
- A.7. 棟方昭博. 石黒 陽. 消化管・膵・腹膜の疾患 8-5 2) 腸炎. 内科学第八版, p988-92. 朝倉書店, 東京. 2003. (分担)
- A.8. <u>棟方昭博</u>, <u>石黒 陽</u>. 消化管・膵・腹膜の疾患 8-5 3) 非特異性腸潰瘍. 内科学第八版, p992-3. 朝倉書 店, 東京. 2003. (分担)
- A.9. 坂本十一, 棟方昭博. Crohn 病. 戸田剛太郎他編. 消化器疾患最新の治療2003-2004, p213-7. 南江堂, 東 京. 2003. (分担)
- A.10. <u>石黒 陽,山形和史</u>,棟方昭博.腸疾患の症状からみた診断の進めかた,診断のポイント.Medical

 Practice, 20(2): 206-13. 2003. (分担)

 A.11. 須藤俊之. A型急性肝炎. 渡辺純夫編, 肝炎 診療ガイダンス, p28-37. メジカルビュー社, 東京. 2003.
- (分担)
- B.1. *福田眞作, 棟方昭博. 大腸がんの症状. 小平 進編. インフォームドコンセントのための図説シリーズー 大腸がん一, p22-5. 医薬ジャーナル社, 東京. 2002. (分担)

2003年度

- A.1. 棟方昭博. 潰瘍性大腸炎の難治例の定義に関する研究. 厚生科学研究費補助金特定疾患対策研究事業「難 治性炎症性腸管障害に関する調査研究班」平成14年度研究報告書, p11-3. 2003. (分担)
- A.2. 棟方昭博. DSS 誘発大腸粘膜障害における上皮細胞アポトーシスの制御メカニズムに関する研究. 厚生 科学研究費補助金特定疾患対策研究事業 「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班」 平成14年度研究報 告書, p119-20. 2003. (分担)
- A.3. 須藤俊之. サイトメガロウイルス感染症の診断. 武田薬品工業株式会社編. 生物学的製剤―質疑応答―, p37-8. 日本医事新報社, 東京. 2003. (分担)
- A.4. <u>棟方昭博,坂本十一</u>. 虚血性腸炎.黒川清,松澤佑次編.内科学,p781-2.文光堂,東京.2003.(分担) A.5. <u>棟方昭博,下山</u>克.吐血,下血.杉本恒明,小俣政男編.内科鑑別診断学 第二版,p584-90.朝倉書店, 東京. 2003. (分担)
- A.6. 棟方昭博. 下痢. 今日の治療指針2004, p352-3. 医学書院, 東京. 2003. (分担)
- A.7. 坂本十一, 棟方昭博, 大腸憩室疾患, 黒川, 清, 松澤佑次編, 内科学, p453-4, 南江堂, 東京, 2004. (分
- B.1. *福田眞作,棟方昭博. 圧痛・筋性防御, 蠕動不穏, 腹水. 島田馨編. 内科学書改訂第 6 版, p297-301. 中 山書店, 東京. 2002. (分担)
- B.2. *対馬健一, 棟方昭博. 腸管の血流障害, アンギオディスプラシア, 消化管カルチノイド, カルチノイド症 候群、大腸ポリープ、大腸癌、大腸非上皮性悪性腫瘍、消化管ポリポージス、小腸腫瘍、総腸間膜症、移動盲腸、虫垂炎、標準消化器病学、p273-89. 医学書院、東京、2003. (分担) B.3. *福田眞作、三上達也、棟方昭博、D 小腸・大腸・肛門の疾患: 1 先天性腸疾患、2 吸収不良症候群、
- 3 牛乳不耐症, 4 腸結核, 5 腸憩室, 6 炎症性腸疾患. 辻 章次 他編. ダイナミックメディシンVol.4,
- p86-104. 西村書店,新潟. 2003. (分担) B.4. *三上達也,福田眞作,棟方昭博. 大腸内視鏡診断. 日比紀文編. シュミレイション内科 下部消化管疾患を探る,p26-9. 永井書店,大阪. 2004. (分担)

(4)その他

英文

2003年度

B.1. *Fukuda S, Yamagata R, Mikami T, Shimoyama T, Sawaya M, Uno Y, Tanaka M, Munakata A. Gastric lipoma successfully treated by endoscopic unroofing. Digestive Endoscopy 2003; 15: 228-31.

和文

- A.1. <u>下山 克</u>. *Helicobacter pylori*ニュース,第 9 回 UEGW 印象記.Helicobacter Research,2002; 6: 56-8.
- A.2. 下山 克. マウスに感染する Helicobacter pylori SSI 株の cag pathogenicity island は本来の cag PAI の病原性をもたない. Helicobacter (日本語版), 2002; 4: 24-5.
 A.3. 千葉裕樹,福田眞作,三上達也,山形和史,棟方昭博.ポリペクトミー後の出血に対するクリッピングにより粘膜下血腫を形成した 1 例. J. Colon Exam., 2002; 19: 308-9.

- A.4. <u>棟方昭博</u>. 虚血性腸炎―最近の知見, 巻頭言:疫学を含めて. 臨牀消化器内科, 2002; 17: 1647-51 A.5. 玉井佳子. 目でみるトレーニング. Medicina, 2003; 2: 342-5. B.1. *佐々木大輔, 佐藤 研. 瀧本美耶子. 多くの合併症を有し,治療に難渋した高齢者過敏性腸症候群の1 例. Geriat Med, 2002; 40: 1479-83.
- B.2. *大槻 眞, 菅野健太郎, 谷川久一, 棟方昭博, 畠山勝義, 座談会:消化管疾患と肝胆膵, 肝胆膵, 2002; 45: 117-33.

2003年度

A.1. <u>玉井佳子</u>. 目でみるトレーニング. Medicina 2003(5): 900-3 A.2. <u>玉井佳子</u>. 目でみるトレーニング. Medicina 2003(6): 1068-71

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Eur J Gastroenterol	0	1	0
International Journal of Hemotology	1.335	1	1.335
Pediatrics	3.708	1	3.708
Helicobacter	2.737	1	2.737
The Journal of Biological Chemistry	7.258	1	7.258
J Pharmacol Sci	2.117	1	2.117
J Gastroenterol	1.119	1	1.119
Laboratory Investigation	3.934	1	3.934
Scand J Gastroenterol	1.826	1	1.826
Journal of Gastroenterology and Hepatology	1.258	1	1.258
Asia Pacific J Cancer Prev	0	1	0
Eur J Nutr	2.13	1	2.13
Dig. Dis. Sci.	1.516	1	1.516
J. Phys. Fit. Nutr. Immunol.	0	1	0
Total		14	28.938

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Life Science	1.824	1	1.824
J Clin Pathol	2.549	1	2.549
Luminescence	1.258	1	1.258
Digestive Endoscopy	0	1	0
Jpn J Clin Oncol	0.691	1	0.691
Int J Colorectal Dis	1.902	1	1.902
J Clin Laser Med Surg	0.781	1	0.781
Nutr Cancer	2.164	1	2.164
Br J Sport Med	1.262	1	1.262
J Nutr	3.62	2	7.24
Luminescence	1.258	3	3.774
Eur J Epidemiology	0.517	1	0.517
Tohoku J Exp Med	0.494	2	0.988
Total		17	24.95

和文 (論文数)

雜誌	名	2002年度	2003年度
J. Colon Exam		2	
東北止血•血栓研究会会誌		1	
体力•栄養•免疫学雑誌		1	3
胃と腸		1	
消心身医		1	
medicina		1	
Helicobacter Research		2	
医薬ジャーナル		1	
臨牀消化器内科		1	2
日本大腸検査学会雑誌		1	
弘前医学		1	2
薬局		1	
日本臨牀			1
成人病と生活習慣病			1
外科治療			1
医学のあゆみ			1
消化器内視鏡		1	
カレントテラピー		1	
消化と吸収		2	3
year note 2004			1
診断と治療			1
Gastroenterological Endoscopy			1
臨床外科			1
消化器画像		1	
計		19	18

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担執筆		1	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	12	11

3. その他 (A, Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Digestive Endoscopy	0	1	0
Total		1	0

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
Helicobacter Research			1	
Helicobacter (日本語版)			1	
カレントテラピー			1	
J Colon Exam			1	
臨牀消化器内科			1	
Medicina			1	2
Geriat Med			1	
肝胆膵			1	
	計		8	2

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- B.1. <u>Munakata A.</u> Mass screening and early detection of colorectal neoplastic lesions. The 2nd Korea-Japan Joint Symposium on Gastrointestinal Endoscopy. Seoul, Korea. 2003.
- B.2. Munakata A. Inflammatory Bowel Disease. 26th International Congress of Internal Medicine. Kyoto. 2002.
- C.1. Shimoyama T, Nishiya D, Yoshimura T, Sawaya M, Fukuda S, Munakata A. Evaluation of CagA Seropositivity and the structure of the cag pathogenicity island in patients with *H. pylori* infection. 100th AGA. San Francisco, USA. 2002.
- C.2. <u>Itoh J, Shimoyama T, Fukuda S, Munakata A.</u> Distinct usage of chemokine receptor by lamina propria mononuclear Cells (LPMC) between Crohn disease (CD) and ulcerative colitis (UC). 100th AGA. San Francisco, USA, 2002.
- C.3. <u>Shimoyama T</u>, Liu Q, Fukuda S, Nakaji S, Sugawara K, <u>Munakata A</u>. Ecabet sodium inhibits the production of reactive oxygen species by neutrophils even after neutrophils are primed by E. coli LPS. 100th AGA. San Francisco, USA. 2002.
- C.4. Saito D, Nakaji S, Fukuda S, <u>Shimoyama T, Sakamoto J, Munakata A</u>. Measurement of orally ingested pectin in human terminal ileum using ERBI. 26th International Congress of Internal Medicine. Kyoto. 2002.
- C.5. <u>Shimoyama T</u>, Umeda T, Nakaji S, Shiroto C, Katsura S, Sugawara K. Influence of *Helicobacter pylori* lipopolysaccharide on expression of IL-8 and its receptor, CXCR2, in human neutrophils. 15th International Workshop on Gastrointestinal Pathology and Helicobacter. Athens, Greece. 2002.
- C.6. <u>Sawaya M</u>, <u>Shimoyama T</u>, Fukuda S, <u>Munakata A</u>. Evaluation of CagA seropositivity and the structure of cag pathogenicity island in patients with gastric cancer. 15th International Workshop on Gastrointestinal Pathology and Helicobacter. Athens, Greece. 2002.
- C.7. Sakuraba H, Ishiguro Y, Yamagata K, Munakata A, Nakane A. Transforming growth factor-β attenuates mucosal destruction via intestinal epithelial apoptosis through downregulation of excessive gamma interferon production in dextransulfate sodium-induced colitis. 2002 The Joint Meeting of the International Society for Interferon and Cytokine Research. Turin, Italy. 2002.
- C.8. Saito D, Nakaji S, Fukuda S, Chinda D, Danjo K, Shimoyama T, Sakamoto J, Munakata A. Detection of orally ingested pectin in the terminal ileum using endoscopic retrograde bowel insertion method. 10th UEGW. Geneva, Switzerland. 2002.
- C.9. <u>Hanabata N, Sasaki Y, Tsuji T, Sawamura N</u>, Fukuda S, Hatada Y, Tanaka M, <u>Munakata A</u>. VEGF expression colonic mucosa correlates with sensitivity to steroid in patients with ulcerative colitis. 10th UEGW. Geneva, Switzerland. 2002.
- C.10. <u>Sasaki Y, Hanabata N, Tsuji T, Sawamura N</u>, Fukuda S, <u>Munakata A</u>. Hemoglobin index and contrast feature correlate with endoscopic severity of ulcerative colitis. 10th UEGW. Geneva, Switzerland. 2002.
- C.11. <u>Yoshimura T</u>, Fukuda S, <u>Shimoyama T</u>, <u>Munakata A</u>. ADAM20 mRNA expression in gastric mucosa infected with *H. pylori* and in gastric cancer. 10th UEGW. Geneva, Switzerland. 2002.

- B.1. <u>Shimoyama T.</u> Duration of Treatment in *H. pylori* infection —one week—. 3rd Annual Conference of Japan-Korea joint meeting on Helicobacter infection. Seoul, Korea. 2004.
- C.1. <u>Danjo K, Saito D, Chinda D, Shimoyama T, Sakamoto J</u>, Fukuda S, <u>Munakata A</u>, Sugawara K. The difference between in vitro and in vivo Measurements of digestion-resistant starch is far greater than those of pectin. AGA2003. Orlando, USA. 2003.
- C.2. Chinda D, Nakaji S, Fukuda S, <u>Sakamoto J, Shimoyama T, Danjo K, Saito D</u>, Nakamura T, <u>Munakata A</u>, Sugawara T. Comparative study of fermentation of soluble and insoluble dietary fiber using the hydrogen breath test. AGA2003. Orlando, USA. 2003.
- C.3. Chinda D, Nakaji S, Fukuda S, Sakamoto J, Shimoyama T, Danjo K, Saito D, Nakamura T, Munakata A, Shimoyama T. Evaluation of pectin digestion and absorption in the small intestine and of fermentation in the large intestine in the same subject. AGA2003. Orlando, USA. 2003.
- C.4. <u>Hanabata N, Sasaki Y, Tsuji T,</u> Hada R, <u>Munakata A.</u> VEGF expression and microvessel diameter as predictive factors for sensitivity to steroid in patients with ulcerative colitis. AGA2003. Orlando, USA.
- C.5. <u>Shimoyama T</u>, Liu Q, Fukuda S, Nakaji S, <u>Munakata A</u>. Influence of *Helicobacter pylori* lipopolysaccharide on expression of CXC chemokines, and their receptors, CXCR1 and CXCR2, in human neutrophils. AGA2003. Orlando, USA. 2003.
- C.6. Hada R, <u>Sasaki Y</u>, <u>Hanabata N</u>, <u>Tsuji T</u>, <u>Sawamura N</u>, <u>Munakata A</u>. Computer-aided prediction in an ordinary colonoscopic picture of carcinoma for the presence or absence of metastasis. AGA2003. Orlando, USA. 2003.
- C.7. <u>Sawamura N, Sasaki Y, Hanabata N, Tsuji T, Hada R, Munakata A.</u> Endoscopic characterization of steroid refractory or steroid sensitive ulcerative colitis. AGA2003. Orlando, USA. 2003.
- C.8. Mikami T, <u>Sasaki Y</u>, Fukuda S, Hada R, <u>Munakata A</u>. Computer-aided diagnosis of *H. pylori* infection by image processing on endoscopic pictures. AGA2003. Orlando, USA. 2003.
- C.9. <u>Tsuji T, Sasaki Y, Hanabata N, Sawamura N, Hada R, Munakata A. Microvessel diameter as a critical parameter for metastasis in human colonic carcinoma. AGA2003. Orlando, USA. 2003.</u>
- C.10. <u>Ishiguro Y</u>, <u>Sakuraba H</u>, <u>Yamagata K</u>, <u>Munakata A</u>, Nakane A. The presentation of haptenated proteins in the mesenteric lymph nodes by dendritic cells in the TNBS colitis rat. 8th International Workshop on Langerhans Cells. Tokyo. 2003.
- C.11. <u>Ishiguro Y, Sakuraba H, Yamagata K, Munakata A</u>. The presentation of haptenated proteins and activation of cells in the mesenteric lymph nodes by dendric cells in the TNBS colitis rat. A NEW YORK ACADEMY

- OF SCIENCES CONFERENCE ORAL TOLERANCE: MECHANISMS AND APLICATIONS. New York, USA. 2003.
- C.12. Yamagata K, Ishiguro Y, Sakuraba H, Munakata A, Nakane A, Morita T, Nishimura J. Macrophage migration inhibitory factor and activator protein-1 in refractory ulcerative colitis. A NEW YORK ACADEMY OF SCIENCES CONFERENCE ORAL TOLERANCE: MECHANISMS AND APLICATIONS. New York, USA.
- C.13. Sakuraba H, Ishiguro Y, Yamagata K, Munakata A, Tagawa Y, Iwakura Y, Sekikawa K, Nakane A. Transforming growth factor- β regulates susceptibility epithelial apoptosis in murine model of colitis. A NEW YORK ACADEMY OF SCIENCES CONFERENCE ORAL TOLERANCE: MECHANISMS AND APLICATIONS, New York, USA, 2003.
- C.14. Yoshimura T, Sawaya M, Shimoyama T, Fukuda S, Munakata A. The association between Helicobacter pylori infection and the mutation of p53 codon46 which is associated with p53AIP1 expression. UEGW 2003. Madrid, Spain. 2003.
- C.15. Tanaka M, Shimoyama T, Hatada Y, Fukuda S, Munakata A. Evaluation of the association of Helicobacter pylori hrgA gene with intestinal metaplasia and gastric cancer. UEGW 2003. Madrid, Spain. 2003.
- C.16. Saito D, Nakaji S, Fukuda S, Sakamoto J, Shimoyama T, Danjo K, Chinda D, Munakata A. Evaluation of amount of pectin reached at the terminal ileum and fermentation in the large intestine in the same subjects. UEGW 2003. Madrid, Spain. 2003.
- C.17. Chinda D, Nakaji S, Fukuda S, Sakamoto J, Shimoyama T, Danjo K, Saito D, Munakata A, Sugawara K. Assessment of the small bowel transit time of pectin and resistant starch, the amounts which pass through the small intestine and fermentation in the large intestine. UEGW 2003. Madrid, Spain. 2003.
- C.18. Nakasato F, Shimoyama T, Umegaki N, Tamai Y, Fukuda S, Munakata A. Efficacy of eradication of Helicobacter pylori in Japanese patients with chronic idiopathic urticaria and idiopathic thrombocytopenic purpura. UEGW 2003. Madrid, Spain. 2003.
- C.19. Tsuji T, Sasaki Y, Fukuda S, Mikami T, Munakata A. Close correlation between the diameter of the stalk and traveling arteries in a pedunculated colon polyp accounts for a higher risk of polypectomy-related hemorrhage on polyps with a thicker stalk. 3rd Japan-Korea joint symposium on gastrointestinal endoscopy
- C.20. Nishiya D, Shimoyama T, Tanaka M, Fukuda S, Munakata A. Evaluation of the association between Helicobacter pylori hrgA gene and gastric cancer in Japan. 3rd Annual Conference of Japan-Korea joint meeting on Helicobacter infection. Seoul, Korea. 2004.
- C.21. Chinda D, Shimoyama T, Yoshimura T, Fukuda S, Munakata A. Efficacy of the eradication of Helicobacter pylori in Japanese patients with chronic idiopathic urticaria. 3rd Annual Conference of Japan-Korea joint meeting on Helicobacter infection. Seoul, Korea. 2004.

(2)全国学術集会

2002年度

- A.1. 棟方昭博、IBD の薬物療法、第88回日本消化器病学会総会、旭川、2002、
- A.2. 石黒 陽. サイトカイン, BD における TGF-β の役割. 第3回 IBD 基礎検討会. 東京. 2002.
- B.1. 櫻庭裕丈,石黒 陽,山形和史,平賀寛人, 蝦名佐都子,棟方昭博,中根明夫. DSS 誘発大腸炎における Transforming growth factor- β (TGF- β) の役割について、第11回潰瘍病態研究会、東京、2002.
- B.2. 佐藤 研,中畑 元,瀧本美耶子,棟方昭博,佐々木大輔、社会不安障害を伴った過敏性腸症候群 (IBS) の Fluvoxamine による治療経験。第8回大腸肛門機能障害研究会。東京、2002.
 B.3. 山形和史,石黒 陽,坂本十一,棟方昭博,福田眞作,森田隆幸、クローン病長期経過例の再発,再燃に
- 及ぼすステロイドホルモン (SH) 療法の影響. 第57回日本大腸肛門病学会. 横浜. 2002.
- B.4. 石黒 陽、櫻庭裕丈、山形和史、石黒彩子、坂本十一、棟方昭博、マクロファージ遊走阻止因子および多剤耐性遺伝子発現と潰瘍性大腸炎の治療経過、第57回日本大腸肛門病学会、横浜、2002、B.5. 佐藤 研、佐々木大輔、棟方昭博、過敏性腸症候群の抗うつ薬による治療の検討、第57回日本大腸肛門病
- 学会. 横浜. 2002.
- B.6. 佐々木大輔, <u>佐藤 研, 棟方昭博</u>. 通信治療を行っている重症過敏性腸症候群の1例(関連追加発言). 第
- B.6. 佐々 不入期, 圧燥 划, 1本ルビロス 2002. 57回日本大腸肛門病学会. 横浜. 2002. B.7. 平賀寛人, 石黒 陽, 山形和史, 高畑武功, 櫻庭裕丈. コルヒチン投与が著効した家族性地中海熱の一例. 第30回日本臨床免疫学会総会. 東京. 2002.
- B.8. <u>佐々木賀広</u>, <u>花畑憲洋</u>, <u>棟方昭博</u>. 潰瘍性大腸炎の重症度と粘膜のヘモグロビンインデックス・表面模様パターンのコントラストとの相関. 第64回消化器内視鏡学会総会. 横浜. 2002.
- C. 23件

- A.1. 棟方昭博. 大腸憩室疾患—基礎と臨床. 京都消化器医会学術講演会. 京都. 2003.
- A.2. <u>棟方昭博</u>. 大腸癌の内視鏡診断. 日本短波放送. 2003.
- B.1. 棟方昭博. 特別発言:炎症性腸疾患治療の新しい展開. 第45回日本消化器病学会総会. 大阪. 2003.
- B.2. 中畑 元, 棟方昭博, 佐々木大輔. 大腸運動機能の基礎的検討と臨床との接点. 第21回日本大腸検査学会 大津. 2003.
- B.3. 三上達也, 福田眞作, 佐々木賀広. 胃癌背景粘膜の内視鏡画像の特徴と胃癌発生危険率の算定一画像解析 による検討一. 第66回日本消化器内視鏡学会総会. 大阪. 2003.
- B.4. 伊東重豪, 福田真作, 棟方昭博. CCR5 特異的ケモカインレセプター阻害剤の TNBS 誘発腸炎に対する治 療効果. 第45回日本消化器病学会大会. 大阪. 2003
- B.5. 佐々木賀広. コンピューター支援内視鏡診断システムの構築. 第66回日本消化器内視鏡総会シンポジウ
- <u>ム. 大阪. 2003.</u> 三上達也,福田眞作,<u>辻 剛俊,佐々木賀広</u>,田中正則,棟方昭博.当科における早期大腸癌の内視鏡治 療成績. 第58回日本大腸肛門病学会総会. 名古屋. 2003.

- B.7. <u>石黒 陽,山形和史,藤田 均,平賀寛人</u>, <u>蝦名佐都子</u>,福田眞作,<u>棟方昭博</u>.炎症性腸疾患の cancer surveillance: 当科での炎症性腸疾患における悪性疾患合併症例の検討. 第21回日本大腸検査学会総会.大 津 2003.
- B.8. <u>珍田大輔</u>,中路重之,福田眞作. 13C 標識混合中性脂肪を用いた水溶性および不溶性食物繊維の脂質吸収抑制に関する検討. 第34回日本消化吸収学会総会. 大阪. 2003.
- B.9. <u>佐藤 研</u>, 棟方昭博, 佐々木大輔. 心療内科外来を受診した直腸肛門領域の愁訴を有する心身症について
- の検討―自己臭症を中心に―. 第59回日本大腸肛門病学会総会. 名古屋. 2003. B.10. 佐藤 研, 瀧本美耶子, 中畑 元, 佐々木大輔. 心療内科の立場からみた炎症性腸疾患の発症や難治化にかかわる要因の検討. 第8回日本心療内科学会学術大会. 大分. 2004.
- 35件

III. 学術賞

2002年度

- 1. 第1回 Gut Inflammation Front Line Meeting (GIFM) 奨励賞,櫻庭裕丈,石黒 陽,山形和史,平賀寛 人, 蝦名佐都子, 棟方昭博, 中根明夫. DSS 腸炎は上皮内 Interferon-γの過剰発現が apoptosis を誘導する ことにより発症する.
- 2. 第129回日本消化器内視鏡学会学会賞,檀上和真. Evaluation of changes of blood pressure after colonoscopy.

2003年度

1. 第10回消化管分子機構研究会学会賞. 櫻庭裕丈, 石黒 陽, 山形和史, 平賀寛人, 蝦名佐都子, 棟方昭博, 中根明夫. DSS 誘発大腸炎における上皮細胞アポトーシスの制御メカニズム.

IV. 共同研究

2003年度

共立薬科大学・薬学部. 『炎症性腸疾患患者末梢血単核球におけるニコチン性アセチルコリンレセプター・ サブセットの発現の検討』、川島紘一郎、藤井健志、(伊東重豪)

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として 1. 萌芽研究、胃癌発生の高リスク群選定のための抗 Lewis X 抗体測定系の開発と 応用. 下山 克. 400千円.

他研究単位との研究分担者として 基盤研究 A. 小腸液潅流法を用いた食物繊維のヒト消化・吸収機能に 及ぼす影響. 代表:福田眞作(下山 克). 5,800千円.

2003年度

研究代表者として 若手研究 B. H. pylori 感染による胃炎の成立・持続におけるケモカインレセプターの 役割. 下山 克. 220千円.

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

厚生科学研究費補助金、難治性炎症性腸管障害に関する調査研究、潰瘍性大腸炎の難治例の治療と緩解 維持. 棟方昭博. 1,500千円.

2003年度

厚生科学研究費補助金. 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究. 潰瘍性大腸炎難治例治療と緩解維 持. 棟方昭博. 1,500千円.

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流,国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘. 受け入れ状況

2002年度

季世榮. 韓英. 北京軍区総医院内科. 中国. 6日間.

2003年度

- 1. 蘇秀芬, 吉林大学第一医院, 中国, 2003.8.26~2004.3.12.
- 2. 趙暁軍. 北京軍区総医院, 中国, 2003.9.9~12.4
- c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

2002年度

Kwang-Soo Lee, MD. 他1名 (Neurology). カトリック医科大学. 韓国. 2日間.

d) 外国研究機関の視察、研究参加(3ヵ月未満)状況

2002年度

玉井佳子. カトリック医科大学. 韓国. 3日間. (Kwang-Soo Lee, MD. (Neurology) との共同研究)

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

2002年度

佐藤太郎. University of Colorado Health Science Center. アメリカ. ~2003.1.

f) その他

なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

- 1. 棟方昭博. 第22回青森県消化器超音波懇話会. 弘前.
- 2. 棟方昭博. 第13回青森静脈·経腸栄養研究会. 弘前. 3. 棟方昭博. 第 7 回青森 IBD 研究会. 青森. 4. 棟方昭博. 第 34回癌化学療法研究会. 青森.

- 5. 棟方昭博. 日本内科学会創立100周年記念 青森県市民公開講座. 青森.
- 6. 棟方昭博. 第35回癌化学療法研究会. 弘前. 7. 棟方昭博. 青森血液疾患研究会. 青森.
- 8. 棟方昭博. 弘前メディカルフォーラム (年2回). 弘前.

2003年度

- 1. 棟方昭博. 第19回青森県肝疾患研究会. 弘前.
- 2. 棟方昭博. 第18回弘前メディカルフォーラム. 弘前.
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況

2002年度

間山 恒. 愛知県がんセンター研究所. 継続.

2003 年度

間山 恒. 愛知県がんセンター研究所. 継続.

VII. その他

1. <u>櫻庭裕丈,棟方昭博,石黒 陽,山形和史</u>. DSS 腸炎の上皮細胞障害機序.厚生科学研究費補助金 特定疾患対策事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成14年度第2回総会.東京. 2003.1.30-31.

- 1. 棟方昭博, 須藤俊之. 消化器病研究施設紹介: 弘前大学医学部第1内科学教室. Frontiers in
- Gastroenterology. 2003; 8(2): 34-36.
 2. 石黒 陽, 櫻庭裕丈, 山形和史, 棟方昭博, 中根明夫. DSS 腸炎における TGF-βの役割. 厚生科学研究費補助金特定疾患対策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成15年度第
- 1回総会。東京 2003.7.31-8.1.
 3. 石黒 陽, 櫻庭裕丈, 山形和史, 平賀寛人, 藤田 均, 蝦名佐都子, 棟方昭博。潰瘍性大腸炎における転写因子の発現。厚生科学研究費補助金特定疾患対策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関す る調査研究」平成15年度第2回総会. 東京 2004.1.29-30.

16. 内科学第二講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

教官, 医員, 大学院生の研究を指導し, 基礎, および臨床研究の指導を行った (到達度70%), 英文学術誌に first author として年0.5編以上の論文を発表する (到達度70%)。

国際学会、国内学会のシンポジウムに共同演者として発表する(到達度60%)

理念:

循環器疾患、呼吸器疾患、腎疾患の病態の研究を通じて、それぞれの疾患の予防、治療へ発展させることを目標とする。

これから2年間の目標:

教官、医員、大学院生の研究の指導、論文執筆の指導を行う。

英文学術雑誌に first author として教官1人あたり、年0.5編以上の論文を発表する。

英文学術雑誌に講座として念10編以上の論文を発表する。

国際学会、国内学会のシンポジウムに発表する

研究代表者として科学研究費補助金にし採択

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 即	b教授 1, 講印	师 2,	助手	6, 医員 2, 大学院学生 15, 研究生 1					
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間					
	教 授	併 任	奥村	謙	14, 4, 1 ~15, 3,31					
	助教授	専 任	長内	智宏	14, 4, 1 ~15, 3,31					
	講師	専 任	高梨	信吾	14, 4 , 1 ~15, 3 ,31					
教 官	講師	専 任	石坂	浩	14, 4 , 1 ~15, 3 ,31					
(教授~助手)	助 手	専 任	中村	典雄	14, 4 , 1 ~15, 3 ,31					
の詳細	助 手	専 任	松永	敏郎	14, 4, 1 ~15, 3,31					
	助 手	専 任	長谷月	幸裕	14, 4, 1 ~15, 3,31					
	助 手	専 任	森	康宏	14, 4, 1 ~15, 3,31					
	助 手	専 任	吉町	文暢	14, 4, 1 ~15, 3,31					
	助 手	専 任	菅原	俊之	14, 4, 1 ~15, 3,31					
	1. 頻拍症の成因と治療に関する研究									
	2. Coupling factor 6の循環器疾患における役割に関する研究									
	3. 循環器療	ミ患における内 臓	因性一個	後化窒素	合成酵素阻害物質の役割に関する研究					
	4. 虚血性心	次表しの成因と注意	台療に関	関する研	究					
研究課題	5. 非侵襲的	り気道炎症の評価	西に関す	する研究						
WI JUNAS	6. 肺癌の進	6. 肺癌の進展のメカニズム								
	7. 心筋梗塞	7. 心筋梗塞後心室リモデリングにおけるマトリクスメタロプロテアーゼの役割								
	8. 糸球体障	8. 糸球体障害の病態の検討								
	9. 腎機能と	:動脈硬化および	び脂肪質	後代謝に	ついて					
	10. 慢性腎炎	&患者の酸化ス	トレスマ	マーカー	に対する ATII 受容体拮抗薬の影響					

研究人員	教授 1, 耳	力教授 2, 講館	师 1, 助	6 , 医員 1 , 大学院学生 19 , 研究生 0
	役 職	専任/併任の別	氏	評価年度内での在籍期間
教 官	教 授	専 任	奥村	£ 15, 4, 1 ∼16, 3,31
(教授~助手)	助教授	専 任	長内 智	15, 4, 1~16, 3,31
の詳細	助教授	専 任	高梨 信	∃ 15, 4, 1 ~16, 3,31
	講師	専 任	花田 裕	15, 4, 1 ~16, 3, 31

	助手	専 任	中村 典雄	15, 4 , 1 ~16, 3 ,31				
	助手	専 任	松永 敏郎	15, 4 , 1 ~16, 3 ,31				
	助手	専 任	長谷川幸裕	15, 4 , 1 ~16, 3 ,31				
	助手	専 任	横山 仁	15, 4 , 1 ~16, 3 ,31				
	助手	専 任	吉町 文暢	15, 4 , 1 ~16, 3 ,31				
	助手	専 任	白戸 研一	15, 4 , 1 ~16, 3 ,31				
	1. 虚血生心疾患の病態と治療に関する研究							
	2. 不整脈の病態と治療に関する研究							
	3. 冠微小循環の調節機構に関する研究							
	4. 心室リモデリングの病態に関する研究							
たいかけ 学田 日宮	5. Coupling factor 6の循環器疾患における役割に関する研究							
研究課題	6. 非侵襲的な気道炎症の評価に関する研究							
	7. 肺癌の進展のメカニズム							
	8. 慢性腎炎の病態に冠する研究							
	9. 慢性腎炎	&患者の酸化ス	トレスマーカー	に対する ATII 受容体拮抗薬の影響				
	10. 性腎炎モ	ミデルラットに	対する各種脂肪	酸乳剤の予防効果について				

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

- A.1. Osanai T, Fujiwara N, Saitoh M, Sasaki S, Tomita H, Nakamura M, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Relationship between salt intake, nitric oxide and asymmetric dimethylarginine and its relevance to patients with end-stage renal disease. Blood Purif. 20:466-468, 2002.
- A.2. Okuguchi T, Osanai T, Fujiwara N, Kato T, Metoki N, Konta Y, Okumura K. Effect of losartan on nocturnal blood pressure in patients with stroke; comparison with angiotensin converting enzyme inhibitor. Am J Hypertens. 15:998-1002, 2002.
- A.3. Takahashi K, <u>Osanai T</u>, Nakano T, Wakui M, <u>Okumura K</u>. Enhanced activities and gene expression of phosphodiesterase types 3 and 4 in pressure-induced congestive heart failure. Heart Vessels. 16:249-256, 2002.
- A.4. Osanai T, Okada S, Saitoh M, Ono H, Magota K, Kodama S, Okumura K. Mitochondrial coupling factor 6 as an endogenous inhibitor of prostacyclin synthesis and an endogenous vasoconstrictor. International Congress Series 1244:131-141, 2002.
- A.5. Kosugi T, Osanai T, Kamada T, Natano T, Okumura K. Phospholipase C activity is enhanced in skin fibroplasts obtained from patients with essential hypertension. J Hypertens. 21:583-590, 2003.
- A.6. Guan W, <u>Osanai T</u>, Kamada T, Hanada H, <u>Ishizaka H</u>, Onodera H, Iwasa A, Fujita N, Kudo S, Ohkubo T, <u>Okumura K</u>. Effect of allopurinol pretreatment on free radical generation after primary coronary angioplasty for acute myocardial infarction. J Cardiovasc Pharm. 41:699-705, 2003.
- A.7. Shingo Takanashi, Yukihiro Hasegawa, Akihiko Ito, Masami Sato, Kunihide Kaji, Ken Okumura. Airflow through the auxiliary line of the laser fiber prevents ignition of intra-airway fire during endoscopic laser surgery. Lasers in Surgery and Medicine 31, 2002: 211-215
- A.8. Osawa H, Yamabe H, Kaizuka M, <u>Nakamura N, Shirato K, Sugawara T, Nakamura M, Tamura M, Okumura K.</u> Platelet -derived geowth factor stimulates matrix metalloproteinase-2 secretion in cultured human mesangial cell. Clin Exp Nephrol 2002; 6:202-206.
- A.9. Nakamura N, Yamazaki K, Satoh A, Urakaze M, Kobayashi M, Yamabe H, Osawa H, Shirato K, Sugawara T, Nakamura M, Tamura M, Okumura K. Effects of eparlestat on plasma levels of advanced glycation end products in patients with type 2 diabetes.In vivo 2003;17:177-180.
- A.10. Nakamura N, Hamazaki T, Johkaji S, Minami S, Yamazaki K, Satoh A, Sawazaki S, Urakaze M, Kobayashi M, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Effects of cilostazol on serum lipid concentrations and plasma fatty acid composition in type 2 diabetic patients with peripheral vascular disease. Clin Exp Med 2003; 2: 180-184.
- A.11. Matsunaga T, Weihrauch DW, Monitz MC, Tessmer J, Warltier DC, Chilian WM. Angiostatin inhibits coronary angiognesis during impaired production of nitric oxide. Circulation 2002; 105: 2185-2191.
- A.12. Matsunaga T, Tessmer J, Weihrauch W, Simons M, Chilian WM. Angiostatin a negatively regulator of endothelial-dependent vasodilation. Am J Physiol 2003;285:H352-H358.
- A.13. Nakano T, Osanai T, Tomita H, Sekimata M, Homma Y, Okumura K. Enhanced sctivity of variant phospholipase C-δ1 protein(R257H) detected in patients with coronary artery spasm.Circulation 2002;105:2024-2029.
- C.1. Takata M, Urakaze M, Temaru R, Yamazaki K, Nakamura N, Nobata Y, Kishida M, Sato A, Kobayashi M. Pravastatin suppresses the interleukin-8 production induced by thrombin in human aortic endothelial cells cultured with high glucose by inhibiting the p44/42 mitogen activated protein kinase. Brit J Pharmacol 2001; 134: 753-762.
- C.2. Nobata Y, Urakaza M, Temaru R, Sato A, Nakamura N, Yamazaki k, Kishida M, Takata M, Kobayashi

M.a-Tocopherol inhibits IL-8 synthesis induced by thrombin and high glucose in endothelial cells. Horm metab Res 2002; 34: 49-54.

2003年度

- A.1. Kobayashi T, Kimura M, Owada S, Ashikaga K, Sasaki S, Higuma T, Iwasa A, Kamata Y, Motomura S, Okumura K. Impaired longitudinal conduction in Crista Terminalis is necessary for sustenance of experimental atrial flutter. PACE 2003;26:2008-2015
- A.2. Sugawara T, Yamabe H, Osawa H, Kaizuka M, Shirato K, Nakamura N, Tamura M, Okumura K. Tissue factor pathway inhibitor production by human proximal tubular epithelial cells in culture. Thrombosis Research 2003;110:141-147.
- A.3. Osanai T, Saitoh M, Sasaki S, Tomita H, Matunaga T, Okumura K. Effect of shear stress on asymmetric dimethylarginine release from vascular endothelial cells. Hypertension 2003;42:985-990.
- A.4. Hasegawa Y, Takanashi S, Okudera K, Kumagai M, Hayashi A, Muraoka M, Ishihara H, Okumura K. Intratracheal fire ignited by a Gallium-Arsenide-Aluminum diode laser during treatment of airway obstruction with lung cancer. J Bronchol 2003;10:198-200.
- A.5. Kameda K, Matsunaga T, Abe N, Hanada H, Ishizaka H, Ono H, Saitoh M, Fukui K, Fukuda I, Osanai T, Okumura K. Correlation of oxidative stress with activity of matrix metalloproteinase in patients with coronary artery disease. Eur Heart J 2003;24:2180-2185
- A.6. Shirato K, Osawa H, Kaizuka M, Nakamura N, Sugawara T, Nakamura M, Tamura M, Yamabe H, Okumura K. Thrombin stimulates production of fibronectin by human proximal tubular epithelial cells via a transforming growth factor-b-dependent mechanism. Nephrol Dial Transplant 2003;18:2248-2254.
- A.7. Saitoh M, Osanai T, Kamada T, Matsunaga T, Ishizaka H, Hanada H, Okumura K. High plasma level of asymmetric dimethylarginine in patients with acutely exacerbated congestive heart failure: role in reduction of plasma nitric oxide level. Heart Vessels 2003;18:177-182.
- A.8. Osanai T, Sasaki S, Kamada T, Fujiwara N, Nakano T, Tomita H, Matsunaga T, Magota K, Okumura K. Circulating coupling factor 6 in human hypertension: role of reactive oxcygen species. J Hypertens 2003;21:2323-2328.
- A.9. Osanai T, Nakamura M, Sasaki S, Tomita H, Saitoh M, Osawa H, Yamabe H, Murakami S, Magota K, Okumura K. Plasma concentration of coupling factor 6 and cardiovascular events in patients with end-stage renal disease. Kidney International 2003;64:2291-2297.
- A.10. Yamamoto K, Takanashi S, Hasegawa Y, Kanehira Y, Kaizuka M, Okumura K. Eotaxin level in induced sputum is increased in patients with bronchial asthma and in smokers. Respiration 2003;70:600-605
- A.11. Sasaki S, Osanai T, Tomita H, Matsunaga T, Magota K, Okumura K. Tumor necrosis factor a as an endogenous stimulator for circulating coupling factor 6. Cardiovasc Res. 2004;62:578-586.
- *B.1 Imaizumi T, Kumagai M, Nishi N, Hirashima M, Hatakeyama M, Tamo W, Yoshida H, Nakamura T, Okumura K, Satoh K. 15-Deoxy- $\Delta^{12,14}$ -prostaglandin J₂ inhibits IFN-g-induced galectin-9 expression in cultured human umbilical vein endothelial cells. Internal Archive of Allergy and Immunology. 2003;131:57-61.
- B.2. Takahata T, Yasui-Furukori N, Sasaki S, Igarashi T, Okumura K, Munakata A, Tateishi T. Nucleotide changes in the translated region of SCN5A from Japanese patients with Brugada syndrome and control subjects. Life Sciences 2003;72:2391-2399.
- B.3. Yamashita T, Ogawa S, Aizawa Y, Atarashi H, Inoue H, Ohe T, Okumura K, Kato T, Kamakura S, Kumagai K, Kurachi Y, Kodama I, Koretsune Y, Saikawa T, Sakurai M, Sugi K, Nakaya H, Nakayama T, Hirai M, Fukatani M, Mitamura H, Yamazaki T. Investigation of the optimal treatment strategy for atrial fibrillation in Japan. The J-RHYTHM (Japanese Rhythm Management Trial for Atrial Fibrillation) Study Design. Circ J 2003;67(9):738-741.
- B.4. Metoki N, Sato Y, Satoh K, Okumura K, Iwamoto J. Muscular atrophy in the hemiplegic thigh in patients after stroke. Am J Phys Med Rehabil 2003;82:862-865.
- B.5. Kumagai M, Imaizumi T, Suzuki K, Yoshida H, <u>Takanashi S</u>, <u>Okumura K</u>, Sugawara K and Satoh K. 15-Deoxy-d12,14-Prostaglandin J2 Inhibits the IL-1b-induced Expression of Granulocyte-Macrophage Colony-Stimulating Factor in BEAS-2B Bronchial Ephithelial Cells. Tohoku J. Exp Med, 2004; 202:69-76.
- B.6. Wakui M, Kanno T, Yagihashi S, Ogawa Y, <u>Osanai T</u>, Takeo T, Nakano K, Suga S. Masked Excitatory Action of Norepinephrine on Rat Islet b-Cells via Activation of Phospholipase C. Pflug Arch Eur J Phy.2003;447:337-344.
- C.1. Nakamura N, Hamazaki T, Johkaji H, Minami S, Yamazaki K, Satoh A, Sawazaki S, Urakaze M, Kobayashi M, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Effects of cilostazol on serum lipid concentrations and plasma fatty acid composition in type 2 diabetic patients with peripheral vascular disease. Clin Exp Med 2003;2:180-184.
- C.2. Nakamura N, Yamazaki K, Satoh A, Urakaze M, Kobayashi M, Yamabe H, Osawa H, Shirato K, Sugawara T, Nakamura M, Tamura M, Okumura K. Effects of eparlestat on plasma levels of advanced glycation end products in patients with type 2 diabetes. In vivo 2003;17:177-180.
- C.3. Koshida R, Ou J, Matsunaga T, Chilian WM, Oldham KT, Ackerman AW, Pritchard KA Jr,. Angiostatin A Negative Regulator of Endothelial-Dependent Vasodilation. Circulation. 2003;107:803-806.

和文

- B.1. 小松 隆, 中村 紳, 木村正雄, 大和田真玄, 蓬田邦彦, 及川広一, 富田泰史, 奥村 謙. シベンゾリンによる発作性心房細動の長期再発予防効果と心房性ナトリウム利尿ペプチドの血中濃度との関連, J Cardiol; 2002, 39: 93-99.
- B.2. 小松 隆, 木村正雄, 中村 紳, 蓬田邦彦, 阿部直樹, 猪久保洋一, 大和田真玄, 小林孝男, 斉藤栄太, 奥村 謙. 発作性心房細動例における disopyramide の停止および長期再発予防効果の検討, 心臓; 2002, 34: 851-857.

- A.1. 田中真実, 工藤重光, 渡辺 毅, 及川和志, 打田悌治, 金澤武道, 長内智宏, 奥村 謙「大豆ペプチドに よる高血圧自然発症ラットに対する血圧降下作用」日本臨床栄養学会誌 2003;24(3):203-207.
- A.2. 小松 隆, 中村 紳, 鈴木 修, 蓬田邦彦, 堀内大輔, 阿部直樹, 亀田邦彦, 大和田信玄, 富田泰史, 川広一、奥村 謙「高齢者と非高齢者の発作性・持続性心房細動例に対するジソピラミド、シベンゾリン ならびにアプリンジン停止効果の比較」J Cardiol 2003 Apr.; 41(4): 191-198.
- A.3. 山下武志、熊谷浩一郎, 是垣之宏, 三田村秀雄, 奥村 謙, 小川 聡, 内藤佳津雄, 長嶋紀一「心房細動 特異的 QOL 評価法(Atrial fibrillation Quality of life questionnaire:AFQLQ)の開発 | 心電図 2003; 23
- A.4. 小松 隆, 中村 紳, 鈴木 修, 堀内大輔, 蓬田邦彦, 大和田信玄, 亀田邦彦, 富田泰史, 及川広一, 阿 部直樹. 奥村 謙「抗コリン作用を有するマルチチャネルブロッカーの夜間発症型発作性/特続性心房細動 に対する長期再発予防効果 — Disopyramide と Cibenzoline の比較 — 」Ther Res 2003; 24(6): 1127-1133.
- A.5. 吉町文暢, 森 康宏, 長谷川直樹, 松永敏郎, 石坂 浩, 佐々木真吾, 樋熊拓未, 田村有人, 奥村 謙 [5Fr ガイディングカテーテルによる経皮的冠動脈形成術-使用可能な頻度と安全性の検討-」Jpn J Interv Cardiol 2003; 18: 451-456.
- B.1. 奥村 謙,岩佐 篤,佐々木真吾,樋熊拓未,足利敬一,小林孝男,木村正臣,大和田真玄「持続性心室 頻拍・心室細動の治療」日獨医報 2003 May ; 48 (special edition) : S7-S19
- B.2. 樋熊拓未,佐々木真吾,大和田真玄,奥村 謙「発作性上室頻拍•WPW 症候群」Heart View 2003; 7(8): 16-23.
- B.3. 樋熊拓未, 佐々木真吾, 奥村 謙「ICD1 適応と予後改善効果」治療学 2003; 37(7): 31-36.
- B.4. 奥村 謙、小林孝男、小松 降「2、心房細動治療の進歩 3) 発作性心房細動治療の目標-発作頻度か持続 時間か QOL か-」日本内科学会雑誌 2003;92(9):1722-1726.
- B.5. 奥村 謙「日系メディクイズ 心電図 | Nikkei Medical 2003:1:63-64.
- B.6. 奥村 謙、小松隆「Na+チャネル遮断薬 (I群抗不整脈薬) の臨床的使い分け | IPN. J. Electrocardiology 2003 ; 23(2) : 181-189.
- B.7. 樋熊拓未,佐々木真吾,大和田真玄,奥村 謙「虚血性心疾患」Heart View 2004;8:50-57. B.8. 樋熊拓未,佐々木真吾,奥村 謙「重篤な不整脈」medicina 2003;40:580-584
- B.9. Maurits A Allessie, 奥村 謙 対談「心房細動治療の現在と未来」Therapeutic Research 2004; 25:1 343-1353
- B.10. 松永敏郎, 奥村 謙「虚血性心疾患のリスクファクター 管理の重要性」 臨牀と研究 2004;81:123-128

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. 奥村 謙. 「不整脈(徐脈と頻脈)」.日本医師会雑誌;128: S48-S63, 2002
- A.2. 石坂 浩, 奥村 謙. 「虚血性心疾患(狭心症·心筋梗塞)」, 薬局; 53:577-586, 2002
- A.3. 樋熊拓未, 佐々木真吾, 奥村 謙. 「慢性重症心不全に対する biventricular pacing |, 循環器科:52:231-237, 2002
- A.4. 長内智宏, 田中真実, 佐々木都子, 富田泰史, 斉藤正之, 中野陽夫, 奥村 謙, 孫田浩二. 新規の昇圧物質 としての coupling factor 6. Therapeutic Research ;23:1737-1742, 2002.
- 孫田浩二, 奥村 謙 Coupling factor 6 -新規の昇圧物質.医学のあゆみ; 207: 505, 2003.
- 奥村 謙. 合併症を伴う高血圧治療-脳血管障害. 診断と治療; 91:86-91,2003.
- B.1. 小松 隆, 奥村 謙. 「抗不整脈薬による発作性心房細動の停止と予防」, 内科;89:52-58,2002
- B.2. 小松 隆, 奥村 謙. 「心房細動の薬物治療」、今月の治療; 10: 29-36, 2002
- B.3. 小松 隆, 奥村 謙.「心房細動の停止と洞調律維持」Medicina; 39: 1162-1164, 2002
- B.4. 山本勝丸,中川英之,高梨信吾,奥村 謙,「気管支喘息 生活習慣病をめぐる話題」Medicament News; 1736: 4-5. 2002

2003年度

B.1. 廣田和美, 橋本 浩, 松木明知, <u>高梨信吾</u>, 手術室における麻酔科医の呼吸器内視鏡医としての役割及び 呼吸器内視鏡医との関わり 気管支学 2003;25(8):644-648

(3)著書

英文

2003年度

- B.1. Okumura K, Sasaki S, Higuma T, Osawa S, Kobayashi T, Kimura M, Ashikaga K, Iwasa A, Tsuchiya T. Entrainment and interruption of atrial fiutter and atrial tachycardia. Clinical Cardiac Pacing and Electrophysiology (World Congress on Cardiac Pacing & Electrophysiology) 2003;369-374.
- B.2. Fujiwara N, Osanai T, Okuguchi T, Kato T, Metoki N, Konta Y, Okumura K. Comparison of the effects of losartan and angiotensin converting enzyme inhibitor on nocturnal blood pressure in patients with stroke. International Congress Series 2003;1251:111-117.

和文

- A.1. 奥村 謙. 内科学書 2 「徐脈性不整脈」, 中山書店, 東京, 2002,
- A.2. 奥村 謙、小松 隆, 難治性不整脈の治療戦略「自律神経機能の関連性を考慮した治療戦略」、メディカル レビュー社, 東京, 2002.
- A.3. 奥村 謙. 今日の治療指針「伝導障害」,医学書院,東京,2002
- A.4. 高梨信吾. 別冊医学のあゆみ「好酸球性肺炎」, 呼吸器疾患 state of arts 北村論編, 医歯薬出版, 東京, 2003.

A.1. よくわかる肺炎のすべて 佐々木英忠 編 永井書店 大阪 高梨信吾 気管支喘息患者の肺炎2003;

(4)その他

英文

2003年度

- A.1. Yamabe H, Takanashi S, Osawa H, Nakamura N, Shirato K, Sugawara T, Nakamura M, Tamura M and Okumura K. Angioedema Associated with Eosinophilia. Internal Medicine. 2003; 42:626.
- A.2. Hasegawa Y, Takanashi S, Okudera K, Kumagai M, Hayashi A, Muraoka, M, Ishihara H, Okumura K. Intratracheal Fire Ignited by a Gallium-Arsenide-Aluminum Diode Laser During Treatment of Airway Obstruction with Lung Cancer. Journal of Bronchology 2003;10: 198-200.

和文

2002年度

- A.1. 奥村 謙. 内科学書 2 「徐脈性不整脈」,中山書店,東京,2002
- A.2. 奥村 謙, 小松 隆. 難治性不整脈の治療戦略「自律神経機能の関連性を考慮した治療戦略」, メディカル レビュー社, 東京, 2002
- A.3. 奥村 謙. 今日の治療指針「伝導障害」, 医学書院, 東京, 2002
- B.1. *石原弘規, 高平陽子, 村岡正敏, 橋本 浩, 松木明知, 長谷川幸裕, 高梨信吾. 内視鏡下レーザー照射 時の高吸入酸素濃度は気道内発火の原因となるか?-全静脈麻酔中の気道内発火事故の1症例- 麻酔 51, 2002: 1359-1362

2003年度

- A.1. 齋藤 新,鎌田孝篤,石坂 浩,花田裕之,奥村 謙 「睡眠時無呼吸による心不全を発症した Klinefelter
- 症候群の1例」日本内科学会雑誌 2003;92(6):154-155 A.2. 樋熊拓未,佐々木真吾,木村正臣,小林孝男,大和田真玄,足利敬一,奥村 謙「心房中隔欠損症に対するパッチ閉鎖術後に生じた心房粗動に対してカテーテルアブレーションを施行した1例」臨床心臓電気生 理 2004;27:87-95
- A.3. 奥寺光一, 小野寺庚午, 鎌田義正, 高梨信吾, 奥村 謙「喫煙開始が誘因と考えられた急性好酸球性肺炎 の 1 例」青森県立中央病院医誌 2004; 49:17-21
- A.4. 高梨信吾,長谷川幸裕,奥寺光一,熊谷美香,林 彰仁,森本武史,當麻景章,奥村 謙 吸入ステロイド使用中に発症した肺結核の1例 結核79,2004;4:323.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Blood Purificat	2.101	1	2.101
Am J Hypertens	2.613	1	2.613
Heart Vessels	0.684	1	0.684
J Hypertens	3.534	1	3.534
J Cardiovasc Pharm	1.602	1	1.602
Laser Surg Med	2.427	1	2.427
In vivo	1.115	1	1.115
Clin Exp Med	0.516	1	0.516
Circulation	10.255	2	20.51
Am J Physiol-Heart C	3.369	1	3.369
Total		11	38.471

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
PACE	1.35	1	1.35
J Hypertens	3.534	1	3.534
Thromb Res	1.494	1	1.494
Hypertension	5.013	1	5.013
J Bronchol	?	1	
Eur Heart J	6.131	1	6.131
Nephrol Dial Transpl	2.57	1	2.57
Heart Vessels	0.684	1	0.684
Kidney Int	5.016	1	5.016
Resoiration	0.893	1	0.893
Cardiovasc Res	4.692	1	4.692
Pflug Arch Eur J	1.695	1	1.695
Int Arch Allergy Imm	1.828	1	1.828
Life Sci	1.824	1	1.824
Circ J		1	0
Am J Phys Med Rehab	0.877	1	0.877
Tohoku J Exp Med	0.494	1	0.494
Total		17	38.095

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
Therapeutic Research			1	1
医学のあゆみ			1	
診断と治療			1	
Medicament News			1	
日本医師会雑誌			1	
薬局			1	
循環器科			1	
内科			1	
今月の治療			1	
Medicina			1	1
日本臨床栄養学会誌				1
J Cardio				1
心電図				1
Ther Res				1
Jpn J Interv Cardiol				1
日獨医報				1
Heart View				2
治療学				1
日本内科学会雑誌				1
Nikkei Medical				1
JPN. J. Electrocardiology	У			1
臨床と研究				1
	計		10	15

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担執	筆	0	2

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	4	1

3. その他 (A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Internal Med J Bronchology	0 0	1 1	0
Total		2	0

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
麻酔 内科学書 2 難知性不整脈の治療戦略			1 1 1	
今日の治療指針 日本内科学会雑誌 臨床心臓電気生理 青森県立中央病院医誌 結核			1	1 1 1
	計		4	4

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- B.1. Tomohiro Osanai. Relationship between salt intake, nitric oxide and asymmetric dimethylarginine and its relevance to patients with end-stage renal disease. 20th Annual Meeting of the International Society of Blood Purification (ISBP), Celle (Germany), September 5-7, 2002.
- C.1. Tomohiro Osanai. Role of vasoconstrictor coupling factor 6 in the pathogenesis of hypertension in spontaneously hypertensive rats. Sientific Seccion 2002 (American Heart Association), Chicago (USA), November 17-20, 2002.
- C.2. S Takanashi, Airflow through laser fiber prevents airway fire during bronchoscopic laser surgery アメリカ胸部疾患学会国際会議, アトランタ(アメリカ合衆国)2002年
- C.3. Hasegawa Y. Vascular endothelial growth factor is overexpressed in human small cell lung cancer and influences tumor progression and survival アメリカ胸部疾患学会国際会議,アトランタ(アメリカ合衆国)2002年
- C.4. Yamabe H.Clinical and pathological features in 17 cases with hepatitis C virus (HCV) associated glomerulonephritis. The 9th Asian Pacific Congress of Nephrology, Pattaya, Thailand, February 16-20,2003.
- C.5. Matsunaga T. Angiostatin is negatively associated with coronary collaterals in human. 2002 American Heart Association Scientific Session
- C.6. Kameda K.Correlation of oxidative stress with the activity of MMP in patients with coronary artery disease:
 Possible role for left ventricular remodeling. 2002 American Heart Association Scientific Session

2003年度

- C.1. Takanashi S, Hasegawa Y, Okudera K, Kumagai M, Hayashi A, Okumura K. EOTAXIN LEVEL IN EXHALED BREATH CONDENSATE IS INCRESASED IN ASTHMA アメリカ胸部疾患学会国際会議シアトル 2003年
- C.2. Kumagai¹ M, Fujimoto² K, Imaizumi¹ T, Takanashi² S, Hasegawa² Y, Okumura² K, Satoh K.15-DEOXY-Δ^{12,14}-PROSTAGLANDIN J₂ INHIBITS INTERLEUKIN-1-INDUCED EXPRESSIN OF GRANULOCYTE-MACROPHAGE COLONY-STIMULATING FACTOR INA HUMAN BRONCHIAL EPITHELIAL CELL LINE, BEAS-2B アメリカ胸部疾患学会国際会議 シアトル 2003年
- C.3. Yamabe H, Osawa H, Nakamura N, Kaizuka M, Shirato K, Sugawara T, Nakamura M, Tamura M, Okumura K: Roxithromycin inhibits TGF-beta production in cultured human mesangial cells. World Congress of Nephrology, 2003, 6, Berlin, Germany.
- C.4. Tamura M, Osawa H, Nakamura N, Shirato K, Nakamura M, Kumasaka R, Yamabe H, Okumura K: Extracellular matrix metalloproteinase inducer (EMMPRIN) exists in tubular epithelial cells and its expression increases in IgA nephropathy. Renal Week 2003, The American Society of Nephrology, 2003, 11, San diego, U.S.A.
- C.5. Kunihiko Kameda, Increased matrix metalloproteinase-9 activity in patients with acute myocardial infarction: Possible role in the development of cardiac rupture, AHA meeting Orlando

(2)全国学術集会

- B.1. 長内智宏 新規の昇圧物質としての coupling factor 6, 第25回日本高血圧学会総会, 日本都市センター(東京), 2002年
- B.2. 高梨信吾 ワークショップ 7 医療事故 気管支鏡下レーザー照射中の発火事故の経過とその対応について 第42回日本呼吸器学会総会 仙台 2002

- B.3. Matsunaga T.Statin inhibits left ventricular remodeling and improves cardiac function in patients with acute myocardial infarction.2003年 日本循環器学会(福岡)
- B.4. Abe N.Disparity between local and circulating levels of IGF-1 in patients with advanced heart failure. 2003 年日本循環器学会(福岡)
- B.5. Kameda K.Increased MMP-9 activity is associated with ventricular septal perforation in patients with AMI. 2003年日本循環器学会(福岡)
- B.6. Tamura Y. Enalapril suppresses ventricular remodeling more effectively than losartan in patients with AMI. 2003年日本循環器学会(福岡)
- C. 8件

- 68th Annual Scientific Meeting of JCS Tokyo
- A.1. Toshiro Matsunaga, Statin plus angiotensin converting enzyme inhibitor is more effective for the improving cardiac function in patients with acute myocardial infarction.
- A.2. Toshiro Matsunaga, Insulin resistance ia a negative factor for development of ventricular remodeling in patients with acute myocardial infarction.
- 68th Annual Scientific Meeting of JCS (Tokyo)

(第68回日本循環器学会総会 3月26-29日, 2004)

- C.1. Matsunaga T, Statin plus angiotensin converting enzyme inhibitor is more effective for the improving cardiac function in patients with acute myocardial infarction.
- C.2. Matsunaga T, Insulin resistance ia a negative factor for development of ventricular remodeling in patients with acute myocardial infarction.
- C.3. Higuma T, Early statin treatment protects against reperfusion injury in patients with acute myocardial infarction.
- C.4. Kameda K, Increased matrix metalloproteinase-9 activity in patients with acute myocardial infarction: Possible role in the development of cardiac rupture.
- C.5. Abe N, Increased local IGF-1 level relative to IFG binding protein-3 is involved pathophysiology of left ventricular hypertrophy.
- C.6. Tomita H,Roxithromycin directly inhibits proliferation of human coronary artery smooth muscle cells:a potential ability to provent restenosis.
- C.7. Hasegawa K, Impairment of calcium-activated potassium channels in endothelium-derived hyperpolarizing factor response in coronary microcirculation of spontaneously hypertensive rat
- C.8. Iwasa A, Usefuiness of distal pulmonary vein pacing in identification of pulmonary vein potential and confirmation of complete pulmonary vein isolation.
- C.9. Oikawa k, Angiotensin type-1 receptor blocker ameliorates endothelial function in coronary arterioles of spontaneously hypertensive rats via suppression of oxidative stress.
- C.10. Kameda K, Allopurinol decrease urinary level of 8-iso-prostagandin F2 α and plasma level of MMP-2 activity in patients with acute myocardial infarction.
- C.11. Osanai T, Role of coupling factor 6 autocrined from the vascular smooth muscle cells of resistance arterioles in the genesis of hypertension.
- C.12. Maeda N, Anandamide level is elevated at ruptured plaque site in patients with acute coronary syndrome.
- C.13. Ono H, Hyperglycemia enhances free radical formation after reperfusion in patients with acute myocardial infarction.
- C.14. Kobayashi T, Sustained rapid atrial pacing upregulates synthesis of asymmetrical dimethylarginine and expression of protein arginine N-methyltrandferases:Canine atrial fibrillation model study.

第43回日本呼吸器学会(2003年4月1日)

- 1. 高梨信吾、息患者における呼気濃縮液中 Eotaxin 濃度の検討
- 2. 長谷川幸裕, 切除不能Ⅲ期非小細胞肺癌に対するネダプラチンパクリタキセルおよび放射線同時併用療法 第44回日本肺癌学会(2003年11月6日)
- 1. 長谷川幸裕, 手術不能ⅢB,IV期非小細胞肺癌に対するジェムシタビンとカルボプラチンとの隔週併用化学療法の第Ⅰ相試験

第44日本呼吸器学会(2003年3月31日)

1. 高梨信吾, 結核性胸膜炎における胸水中 lipoarabinomannan (LAM) 抗体の検討

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

2002年度

研究機関名:かねさ株式会社

研究課題:大豆より降圧ならびに抗血小板凝集ペプタイドの分離

研究代表者: 奥村 謙

2003年度

研究機関名:かねさ株式会社

研究課題:大豆より降圧ならびに抗血小板凝集ペプタイドの分離

研究代表者: 奥村 謙

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

基盤研究(C)(2)「Coupling factor 6 の循環器疾患における病態生理学的役割に関する研究」

長内智宏, 1,800 (単位:千円)

基盤研究 (C) (2)「糖尿病の病態による冠微少循環機能障害の検討:微少循環機能改善へのアプローチ」 石坂 浩,1,600 (単位:千円)

2003年度

研究代表者として

基盤研究(C)(2) 冠攣縮性狭心症の成因に対する分子生物学的アプローチ 奥村 謙, 170万円

基盤研究 (C) (2) Coupling factor 6 の循環器疾患における病態生理学的役割に関する研究 長内智宏, 200万円

基盤研究 (C) (2) 心筋梗塞後の血管新生、心室リモデリングにおけるマトリクスメタロプロテアーゼの役割 松永敏郎、160万円

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

他研究単位との研究分担者として

循環器病研究委託事業

研究種目:13-指1

研究課題:特発性心室細動 (Brugada 症候群) の病態とその治療法に関する研究

研究代表者:奥村 謙配分額:1,600(単位:千円)

2003年度

研究代表者として

循環器病研究委託事業

研究種目:13-指1

研究課題:特発性心室細動 (Brugada 症候群) の病態とその治療法に関する研究

研究代表者: 奥村 謙配分額: 125万

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として

三井生命厚生事業団 第35回医学研究助成 「冠れん縮性狭心症の病態としての冠動脈過収縮性びおける Phospholipase C の役割」 長内智宏, 1,500 (単位:千円)

青森医学振興会助成金 「急性心筋梗塞後の血管新生, 心室リモデリングにおけるMatrix metalloproteinase の役割」 松永敏郎,500(単位:千円)

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2002年度

邵 明柏 杏林大学第一医院循環器内科(中華人民共和国)

c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況

2003年度

陳 照寧(大学院) 中国

- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況なし
- f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

- a) 全国レベルの学会の主催 なし
- b) 地方レベルの学会の主催 なし
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

なし

17. 内科学第三講座

【研究単位の目標到達度, 理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

60 - 90%

理念:

- 1. 世界の第一線で通用する研究レベルの維持
- 2. EBM に役立つ臨床データの確立

これから2年間の目標:

- 1. 若手研究者の育成
- 2. 新しい臨床研究の set up
- 3. POMC transcription activatorの解明
- 4. 新しい摂食関連視床下部ペプチドの役割の解明

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講師	币 2,	助手	6, 医員 20, 大学院学生 9, 研究生 0					
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間					
	教 授	専 任	須田	俊宏						
	助教授	専 任	玉澤	直樹						
	講師	専 任	神成	一哉						
教 官	講師	専 任	小川	吉司						
(教授〜助手)	助手	専 任	冨山	誠彦						
の詳細	助手	専 任	松井	淳						
	助 手	専 任	杉本	一博						
	助 手	専 任	丹藤	雄介						
	助 手	専 任	蔭山	和則						
	助 手	専 任	崎原	哲						
	1. クッシン	1. クッシング症候群の病態生理の解析,診断,治療								
	2. 視床下部	2. 視床下部-下垂体-副腎系の調節機構								
	3. CRF 関連	3. CRF 関連ペプチドの作用機構と臨床応用								
	4. 電解質異	具常とホルモン(乍用							
研究課題	5. 膵β細胞	図の電気生理								
1917 JUNAS	6. 1型, 2	6. 1型, 2型糖尿病における脂肪毒性に関する検討								
	7. 糖尿病患	7. 糖尿病患者の動脈硬化症に関する研究								
	8. 膵腺房紙	8. 膵腺房細胞における炎症シグナルの解明 9. 膵内外分泌相関に関する研究								
	9. 膵内外分									
	10. ドーパミ	ンニューロン	章害時0	の他のモ	ノアミン作動性ニューロンの変化					

研究人員	教授 1, 月	助教授 1,講師	师 2,	助手	6, 医員 7, 大学院学生 4, 研究生 0
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	須田	俊宏	
教 官	助教授	専 任	玉澤	直樹	
	講師	専 任	神成	一哉	
(教授〜助手) の詳細	講師	専 任	小川	吉司	
(ノ)計画	助手	専 任	冨山	誠彦	
	助手	専 任	松井	淳	
	助手	専 任	丹藤	雄介	

	助手	専 任	蔭山 和則	IJ			
	助手	専 任	崎原 吉	T .			
	助 手	専 任	二川原	L			
	1. 視床下部	7-下垂体-副	腎系の調節機	统序			
	2. クッシン	グ症候群の診り	断と治療				
	3.CRF-urocortin 関連ペプチドの作用機構						
	4.下垂体における ACTH分 泌機構とストレス反応メカニズム						
たい なな 会田 日宮	5. エネルギー代謝調節における視床下部-下垂体-副腎皮質系の役割						
研究課題	6. 2型糖尿病における脂肪毒性に関する検討						
	7. 膵ランゲルハンス島移植に関する研究						
	8. 糖尿病病態下におけるコレステロール逆転送系システム障害の解明						
	9. メイラー	・ド反応後期段	皆生成物によ	こる酸化 LDL 生成促進機構の解明			
	10. 若年発症	2型糖尿病患	者の臨床的背	行景についての疫学的研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. K. Kasagi, N. Horiba, K. Sakai, Y. Fukuda, T. Suda. Involvement of c-AMP-response element binding protein in corticotropin-releasing factor (CRF)-induced down regulation of CRF receptor 1 gene expression in rat anterior pituitary cells.

 J. Neuroendocrinology 2002, 14: 587-592.
- A.2. K. Kageyama, T. Nigawara, Y. Kamata, T. Takahashi, J. Amzai, S. Suzuki, Y. Osamura, T. Suda. A case of macroprolactinoma with subclinical growth hormone production. Endocrine J. 2002, 49: 41-47.
- A.3. K. kageyama, T. Nigawara, Y. Kamata, K. Terui, J. Anzai, S. Sakihara, T. Suda. A multihormonal outuitary adenoma with growth hormone and adrenocorticotropic hormone production, causing acromegaly and Cushing's disease. Am. J. Med. Sci. 2002, 324: 326-330.
- A.4. Matsui J, Tsutsui M, Onuma T, Tamasawa N, Murakami H, Kasai N, Suda T. Glycemic control affects the oxidizability of low density lipoprotein in patients with type 2 diabetes mellitus. Hirosaki Med J (2002) , 54, 1-7.
- B.1. N. Nakano, S. Suga, T. Takeo, Y. Ogawa, T. Suda, T. Kanno, M. Wakui. Intracellular Ca modulation of ATP-sensitive K channel activity in acetylcholine-induced activation of rat pancreatic-cells. Endocrinology 2002, 143: 569-576.
- B.2. K. Kageyama, G.E. Gaudliaudlt, T. Suda, W. Vale. Regulation of corticotropin-releasing factor receptor type 2b mRNA via c-AMP pathway in A7r5 aortic smooth muscle cells. Cellular Signalling 2003, 15: 17-25.
- B.3. Shen H, Kannari K, Yamato H, Arai A, Matsunaga M. Effects of benserazide on L-DOPA-derived extracellular dopamine levels and aromatic L-amino acid decarboxylase activity in the striatum of 6-hydroxydopamine-lesioned rats. Tohoku J Exp Med 2003, 199: 149-59
- C.1. Yusuke Tando, Hana Algul, Gunter Schneider, Christoph K. Weber, Hans Weidenbach, Guido Adler, Roland M Schmid. Induction of I k B-kinase by cholecystokinin is mediated by trypsinogen activation in rat pancreatic lobules. Digestion 2002,66:237-245.
- C.2. Hana Algul, Yusuke Tando, Gunter Schneider, Hans Weidenbach, Guido Adler, Roland M Schmid. Acute experimental pancreatitis and NF- κ B/Rel activation. Pancreatiology 2002, 2:503-509.
- C.3. Hana Algul, Yusuke Tando, Michael Beil, Christoph K.Weber, Claus Von Weyhern, Gunter Schneider, Guido Adler, Roland M Schmid. Different modes of NF- κ B/Rel activation in pancreatic lobules. Am.J.Physiol Gastrointest Liver Physiol 283:G270-G 281,2002.
- C.4. Tomiyama M, Rodriguez-Puertas R, Cortes R, Pazos A, Palacios JM, Mengod G. Flip and flop splice variants of AMPA receptor subunits in the spinal cord of amyotrophic lateral sclerosis. Synapse 45:245-249,2002.

- A.1. <u>K. Kageyama</u>, T. Suda. Urocortin-related peptides increase interleukin-6 output via cyclic AMP-dependent pathway in A7r5 aortic smooth muscle cells. Endocrinology 2003, 144:2234-2241.
- A.2. <u>T. Maeda, K. Kannairi, H. hen, A. Arai, M.Tomiyama, M. Matsunaga, T. Suda.</u> Rapid induction of serotonergic hyperinnervation in the adult rat striatum with extensive dopaminergic denervation. Neuroscience Letter 2003, 343:17-20.
- A.3. A. Arai, K. Kannari, H. Shen, T. Maeda, T. Suda, M.Matsunaga. Amantadine increase 1-dopa-derived extracellular dopamine in the striatum 6-hydroxydopamine-lesioned rats. Brain Research 2003, 972:229-234.
- A.5. N. Tamasawa, H. Murakami, K. Yamato, J. Matsui, J. Tanabe, T. Suda. Influence of apolipoprotein E genotype on the response to caloric restriction in type 2 diabetic patients with hyperlipidemia. Diabetes, Obesity and Metabolism. 2003, 5:345-348.
- A.6. <u>K. Kageyama</u>, K. Furukawa, I. Miki, <u>K. Terui</u>, S. Motomura, <u>T. Suda</u>. Vasodilative effects of urocortin II via protein kinase A and a mitogen-activated protein kinase in rat thoracic aorta. J Cardiovascular

- pharmacology 2003, 42:561-565.
- A.7. K. Yamato, N. Tamasawa, H. Murakami, J. Guan, J. Tanabe, J. Matsui, M. Yasuzima, T. Suda. Tohoku Journal of Experimental Medicine 2003, 201:47-54.
- A.8. T. Nigawara, N. Horiba, F. Tozawa, K. Kasagi, K. Uchida, Y. Iwasaki, T. Suda. Regulation of corticotropin relleasing hormone receptor in the rat anterior pituitary as assessed by radioimmunoassay. Pituitary 2003,
- A.9. K. Kageyama, T. Moriyama, N. Hizuka, S. Sakihara, S. Takayasu, N. Tamasawa, T. Suda. Hypoglycemia associated with big insulin-like growth factor II produced during development of malignant fibrous histiocytoma. Endocrine Journal 2003, 50:753-758.
- A.10.Guan JZ, Tamasawa N, Murakami H, Matsui J, Yamato K, Suda T. Clofibrate, a peroxisome-proliferator, enhances reverse cholesterol transport through cytochrome P450 activation and oxysterol generation. Tohoku J Exp Med. 2003 Dec;201(4):251-9.
- A.11.Guan J-Z, Murakami H, Yamato K, Tanabe J, Matsui J, Tamasawa N, Suda T. Effects of fluvastatin in type 2 diabetic patients with hyperlipidemia: reduction in cholesterol oxidation products and VCAM-1. J Atheroscler Thromb; 11(2), 57-62, 2004
- B.1. J. Adachi, Y. Hirai, K. Terui, T. Nakano, T. Fukuda, S. Sasano, T. Suda, A report of 7 cases of adrenal tumors secreting both cortisol and aldosterone. Internal Medicine 2003, 42:714-718.
- B.2. Kageyama K, Li C, Vale WW. Corticotropin-releasing factor receptor type 2 messenger ribonucleic acid in rat pituitary: localization and regulation by immune challenge, restraint stress, and glucocorticoids. Endocrinology: 144 (4), 1524-1532, 2003.
- B.3. Sechiko Suga, Kyoko Nakano, Teruko Takeo, Tomohiro Osanai, Yoshiji Ogawa, Soroku Yagihashi, Takahiro Kanno, Makoto Wakui Masked excitatory action of noradrenaline on rat islet β -cells via activation of phospholipase C. Pflugers Arch - Eur J Physiol 447: 337-344, 2003
- C.1. Yoshida M, Iwasaki Y, Asai M, Nigawara T, Oiso Y. Gene therapy for central diabetes insipidus: effective antidiuresis by muscle-targeted gene transfer. Endocrinology. 2004;145:261-8.

和文

2002年度

- A.1. 蔭山和則, W. Vale, 須田俊宏 絶食ラットにおける小腸 CRF と Ucn mRNA についての検討。ACTH RELATED PRPTIDES 2002, 12:1-4
- A.2. 蔭山和則, Kazuaki Takabe, Wylie Vale, 須田俊宏 絶食ラットにおける小腸 CRF と Ucn mRNA の発 現についての検討 ACTH RELATED PEPTIDES 12: 1-4, 2002
- A.3. 安斎治一, 蔭山和則, 二川原健, 照井 健, 福田祥子, 須田俊宏 末端肥大症及び Cushing 病を合併した 稀な下垂体腫瘍の一症例 ACTH RELATED PEPTIDES 12: 83, 2002
- A.4. 小川吉司, 松井 淳, 後藤 尚, 玉澤直樹, 丹藤雄介, 工藤貴徳, 須田俊宏 グリメピリドが脂質代謝に 及ぼす影響 - 特に Small dense LDL について - 糖尿病 2002 45:465-469
- A.5. 長谷川範幸, 小川吉司, 松井 淳, 丹藤雄介, 葛西伸彦, 須田俊宏, 中村光男 糖尿病性胃麻痺患者にお けるエリスロマイシンの有用性についての検討 消化と吸収 2002 24(2):94-97
- A.6. 柳町 幸, 小川吉司, 梅田芳彦, 中村光男 便中短鎖カルボン酸分析による慢性膵炎の消化吸収不良の検 討 胆膵の生理機能 2002 18:49-51
- A.7. 松橋有紀, 田中 光, 丹藤雄介, 葛西伸彦, 松井 淳, 小川吉司, 長谷川範幸, 柳町 幸, 中村潤子, 菊 池弘明,中村光男,斎藤敦彦 コレスチミド投与による血中コレステロール低下のメカニズム 消化と吸 収 2002 24(2):65-72
- A.8. 工藤貴徳,中村潤子,丹藤雄介,柳町 幸,小川吉司,長谷川範幸,葛西伸彦,松井 淳,梶 麻子,二 川原健, 須田俊宏, 中村光男, 菊池弘明, 渡辺 拓. 膵全摘後, 消化酵素補充療法で長期間栄養状態の維 持できている1例の考察 消化と吸収 2002 24(2):110-113
- A.9. 松井 淳. 慢性膵炎の発症因子及び予後を規定する因子としての動脈硬化についての検討. 膵臓病研究財 団第9回研究報告書(2002), 71-73.
- A.10. 柳町 幸, 丹藤雄介, 中村光男, 非代償期慢性膵炎患者に対する消化酵素補充療法. 消化と吸収2002,25 (1), 45-49.
- A.11.松橋有紀, 田中 光, 丹藤雄介, 葛西伸彦, 松井 淳, 小川吉司, 長谷川範幸, 柳町 幸, 中村潤子, 菊 池弘明、中村光男、斉藤敦彦、コレスチミド投与による血中コレステロール低下のメカニズム、消化と吸 収24(2):65-72,2002.
- A.12.長谷川範幸, 小川吉司, 松井 淳, 丹藤雄介, 葛西伸彦, 須田俊宏, 中村光男 糖尿病性胃麻痺患者にお けるエリスロマイシンの有用性についての検討. 消化と吸収24(2):94-97,2002.
- A.13.渡辺 拓,中村光男,丹藤雄介,長谷川範幸,小川吉司,須田俊宏 Gastrokinetics 投与前後における糖尿 病性胃麻痺患者の13C-acetete を用いた胃排出機能の変化と血糖値の関連に関する研究.消化と吸収24 (2):99-103,2002.

- A.1. <u>陰山和則</u>, 森山貴子, 須田俊宏 血管細胞における urocortin-related peptides による interleukin-6 分泌増加 作用 ACTH RELATED PEPTIDES 2003,14:21-24.
- <u>二川原健</u>,岩崎泰正,浅井真人,吉田昌則,大磯ユタカ,須田俊宏 ACTH 産生下垂体腫瘍株 ATt20のグ ルココルチコイド抵抗性と11β-HSD との関連について ACTH RELATED PEPTIDES 2003, 14:49-54.
- A.3. 森山貴子, 陰山和則, 崎原 哲, 川嶋祥子, 高安 忍, 須田俊宏 Acromegaky に silent corticotroph adenoma
- を伴った症例と preclinical Cushing 病症例 ACTH RELATED PEPTIDES 2003, 14:101-108. A.4. <u>玉澤直樹,松井 淳,小川吉司,須田俊宏</u>(青森県 NOAC 研究会) 2 型糖尿病患者の治療における速効・ 短時間型インスリン分泌促進薬ナテグリニドの適応症例の検討 臨床と研究 2003,80(11),150-156
- A.5. <u>蔭山和則,照井</u> 健,古川賢一,三木いづみ,元村 成,須田俊宏 Urocortin II の血管作用における antisauvagine-30 による抑制効果 ACTH RELATED PEPTIDES 13: 37-40, 2003.
- A.6. 工藤貴徳, 田中 光, 長谷川範幸, 丹藤雄介, 小川吉司, 須田俊宏, 中村光男 糖尿病合併非代償性肝硬

変における栄養療法時の血糖管理の問題点. 消化と吸収25(2):45-49, 2003

A.7. 小川吉司,長谷川範幸,工藤貴徳,須田俊宏 肥満を伴う2型糖尿病モデルラットにおける lipotoxicity と 膵β細胞障害 Diabetes Frontier 14(5): 681-682, 2003

(2)総説

英文

2002年度

A.1. T. Suda. Adrenal preclinical Cushing's syndrome. J. Med. Assoc. J. 2002, 45: 172-174.

和文

2002年度

- A.1. 蔭山和則,須田俊宏 ACTHとCRH Annual review 内分泌代謝 2002, p180-185
- A.2. 須田俊宏 視床下部ホルモン 内科100年のあゆみ. 日本内科学会雑誌 2002, 91:17-20 A.3. 須田俊宏 ACTH・糖質ステロイドー内分泌機能検査の実際. ホルモンと臨床春季増刊号 2002, 29-37
- A.4. 向坂彰, 須田俊宏 Cushing症候群の診断 ホルモンと臨床 2002, 59:19-24.
- A.5. 須田俊宏 クッシング症候群 内分泌疾患診療マニュアル 日本医師会雑誌 2002, 127:240-243.
- A.6. 須田俊宏 内分泌臓器と分泌されるホルモン 内分泌疾患診療マニュアル 日本医師会雑誌 2002, 127: 54-57
- A.7. 須田俊宏 内分泌組織に偶然腫瘍がみつかったときどうするか、内分泌疾患診療マニュアル 日本医師 会雑誌 2002, 127:48-49.
- A.8. 須田俊宏 内分泌疾患のやさしいみかた 診察法, 内分泌疾患診療マニュアル 日本医師会雑誌 2002, 127:40-43.
- A.9. 須田俊宏 内分泌疾患は決して少なくない. 内分泌疾患診療マニュアル 日本医師会雑誌 2002, 127:
- A.10.須田俊宏 プレクリニカルクッシング症候群 日本医師会雑誌 2002, 125:530-531.
- A.11.安斉治一, 須田俊宏 下垂体前葉機能低下症 Medicina 2002, 39: 1312-1316. A.12.安斉治一, 須田俊宏 プレクリニカルクッシング症候群 内分泌・糖尿病科 2002, 12: 223-229. A.13.柿崎善文, 須田俊宏 ACTH, LH, FSH, プロラクチン, 臨床医 2002, 28: 1073-1076.
- A.14. 二川原健, 須田俊宏 クッシング症候群 総合臨床 2002, 51:532-535.

- 16(3), 291-296.
- A.18. 丹藤雄介、松橋有紀、中村光男、急性膵炎に対する薬物療法のエビデンスを臨床にどう反映させるか、 EBM ジャーナル3(5):62-66,2002.
- A.19.丹藤雄介, 中村光男, 渡辺 拓. 疾患別栄養評価とその対策-慢性膵炎-. medicina 39 (2): 234-236,2002.
- A.20.柳町幸, 丹藤雄介, 中村光男. 膵疾患の発症とアルコール・食事の関係. 臨床消化器内科18(1):73-80,2002
- A.21.ACTHと CRF (CRH) in: Annual Review 内分泌, 代謝 2002, 中外医学社, Tokyo, Japan 2002 180-185.
- B.1. 中村光男, 丹藤雄介, 柳町 幸, 長谷川範幸, 小川吉司, 松井 淳. 消化吸収試験. 臨床外科17:1787-1794, 2002.
- B.2. 中村光男, 田中 光, 丹藤雄介, 柳町 幸, 松橋有紀, 小川吉司. 糖尿病と消化管運動異常. 老年消化器 病14:89-94,2002.
- B.3. 中村光男, 梶 麻子, 渡辺 拓, 丹藤雄介, 長谷川範幸, 小川吉司. 新しい消化吸収検査法. 13C標識混 合中性脂肪を用いた呼気消化吸収試験. 消化器科35(3): 277-282,2002.
- B.4. 中村光男, 菊池弘明, 丹藤雄介, 柳町 幸, 松橋有紀, 小川吉司, 松井 淳, 長谷川範幸, 葛西伸彦. 消 化吸収障害. 肝胆膵 44:171-175,2002.
- B.5. 中村光男,丹藤雄介:膵外分泌機能不全.今月の治療10(10)1073 1075.2002
- B.6. 中村光男, 丹藤雄介, 梶 麻子, 田中 光, 松橋有紀, 柳町 幸. 13C-化合物を用いた吸収試験. 臨床消 化器内科17(13):1787 - 1794,2002

- A.1. <u>須田俊宏</u> Pre-matahasucclinical Cushing 病について. 日本内分泌学会雑誌 2003, 79:27-28. A.2. <u>小川吉司</u>, <u>長谷川範幸</u>,中村光男, <u>須田俊宏</u> 糖尿病性神経障害による他臓器の変化 内分泌・糖尿病科 18(1): 42-48, 2004
- A.3. 松井 淳, 玉澤直樹, 須田俊宏. 食習慣からみた若年発症2型糖尿病の特質. 内分泌・糖尿病科(2003),16, 291-296. 松井 淳. 清涼飲料水ケトーシスとは?-小児の肥満と糖尿病. 肥満と糖尿病(2003), 2・3, 70-71.
- A.4. 松井 淳, 須田俊宏. 糖尿病食事療法ガイドライン-産婦人科医に必要な生活習慣病の知識. 産婦人科 (2004), 88, 277-286.
- A.5. 丹藤雄介, 中村光男:慢性膵炎-診断と治療のコンセンサス 「血液検査と機能検査」. 消化器病セミナー 90; 41-54,2003
- 幸,中村光男:急性膵炎の診断と治療. Medicina 40;1581-1583,2003 A.6. 丹藤雄介,柳町
- A.7. <u>丹藤雄介</u>, <u>松橋有紀</u>, <u>志津野江里</u>, 柳町 幸, 田中 光, 中村光男:高齢者における膵炎診療の進歩. 老 年消化器病 15;35-41,2003
- A.8. 中村光男, 松橋有紀, 田中 光, 柳町 幸, 丹藤雄介: 胆汁酸の腸肝循環破綻と脂肪消化吸収障害. 消化 器科 36;87-94,2003. A.9. 柳町 幸, 丹藤雄介, 中村光男:慢性膵炎の安静時代謝. 栄養評価と治療 20;395-398,2003.
- A.10.森山貴子, 蔭山和則, 須田俊宏 女性化(女性化乳房ほか)外来診療のすべて 第3版, メジカルビュー社,

- Tokyo, Japan 2003: 222-223.
- A.11. 蔭山和則、須田俊宏 ストレス応答とウロコルチン Clinical Neuroscience, 中外医学社, Tokyo, Japan 2003: 21(9), 987-989.
- A.12.<u>崎原 哲,須田俊宏</u> PPAR-gagonist は Cushing 病の新たな内科的治療法となりうるか 内分泌・糖尿 病科, 2003:17(2):176-180

(3)著書

英文

2003年度

- A.1. Kannari K, Maeda T, Tanaka H, Arai A, Shen H, Matsunaga M. L-DOPA-derived extracellular dopamine in the striatum with dopaminergic denervation: role of serotonergic neurons in L-DOPA metabolism. In: International Congress Series 1251, Advances in Brain Research: Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration, edited by Sato K, Suzuki S, Matsunaga M, Elsevier, Amsterdam, pp. 181-189, 2003.
- A.2. Shen H, Kannari K, Yamato H, Arai A, Matsunaga M. Effects of benserazide on L-DOPA-derived extracellular dopamine levels and aromatic L-amino acid decarboxylase activity in the striatum of 6-hydroxydopamine-lesioned rats. In: International Congress Series 1251, Advances in Brain Research: Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration, edited by Sato K, Suzuki S, Matsunaga M, Elsevier, Amsterdam, pp. 199-204, 2003.
- A.3. M. Tomiyama, F. Mori (脳研分子病態部門), T. Kimura, K. Wakabayashi (脳研分子病態部門), M. Matsunaga (脳研神経統御部門). Hypertrophy of the medial globus pallidus in 6-hydrosydopamine-lesioned rats treated with levodopa. ICS 1251 (2003) 205-210.
- A.4. T. Kimura, M. Tomiyama, K. Kannari, M. Matsunaga (脳研神経統御部門). Upregulation of the NR1 mRNA in the subthalamic nucleus of 6-hydroxydopamine-lesioned rats treated with levodopa. ICS 1251 (2003) 217-221.

和文

2002年度

- A.1. 葛西伸彦, 中村光男, 松井 淳, 柳町 幸, 丹藤雄介, 小川吉司, 須田俊宏, 慢性膵炎と動脈硬化, 消化 器疾患と動脈硬化 中澤三郎編 杏林書院 2002, p143-152.
- A.2. 須田俊宏 Cushing 症候群 新臨床内科学第8版 高久史麿, 尾形悦郎, 黒川 清, 矢崎義雄監修 医学 書院 2002, 01134-1137.
- A.3. 丹藤雄介, 長谷川範幸, 中村光男. 合併症の治療-内科的治療-, 臨床医のための膵炎. 大槻眞(監修). p183 - 186. 現代医療社(東京)2002
- | A.4. 丹藤雄介,中村光男. 吸収不良症候群. 消化器疾患最新の治療 2003 2004,南江堂(東京)2002 | A.5. 葛西伸彦,中村光男. 松井 淳,柳町 幸,丹藤雄介,小川吉司,須田俊宏:慢性膵炎と動脈硬化. 消化器疾患と動脈硬化 臨床的意義について 中澤三郎編. p143 151. 杏林書院(東京)2002.
- B.1. 中村光男, 梶 麻子, 丹藤雄介, 長谷川範幸, 松井 淳, 小川吉司, 柳町 幸, 葛西伸彦, 菊池弘明. 13C 呼気検査による消化・吸収機能検査. pp62 - 69, 13C呼気試験の実際, 13C医学応用研究会編, 東京2002
- B.2. 中村光男, 長谷川範幸, 丹藤雄介, 小川吉司, 松井 淳. 内科で見られる過敏性腸症候の治療とポリカル ボフィルカルシウムの使用経験. pp47 - 52, 過敏性腸症候群とポリカルボフィルカルシウムー下痢と便秘の新しいコントロール. 監修 三輪 剛, 佐々木大輔, 本郷道夫, 診療新社, 2002.
- B.3. 中村光男, 丹藤雄介. 生活習慣病としての膵臓疾患. 消化器病セミナー89:p193-206, ヘルス出版. 東京, 2002.

2003年度

- A.1. <u>二川原健</u>,梅田芳彦,須田俊宏,多発性内分泌腫瘍,ダイナミックメデイシン 3 , p76-77, 2003, 下条文 康監修, 西村書店 武. 齋藤
- 二川原健, 長谷川範幸, 須田俊宏, インスリノーマ, ダイナミックメデイシン3, p78-79, 2003. 下条文 武,齋藤
- 式、齋藤 康監修、西村書店 二川原健、川口俊明、<u>須田俊宏</u>、異所性ホルモン産生腫瘍、ダイナミックメデイシン3,p80-82,2003. A.3. 二川原健、川口俊明、<u>須田区</u>(4)、 下条文武、齋藤 康監修、西村書店
- A.4. 二川原健, 須田俊宏, ホルモン受容体異常症, ダイナミックメデイシン 3, p83-84, 2003. 下条文武, 齋 藤 康監修,西村書店
- A.5. 須田俊宏, 内分泌系の概説, コ・メデイカルのための臨床医学, p523-530, 2003, 後藤由夫編, 医薬ジャー ナル社
- A.6. 須田俊宏, クッシング病, 医学書院・院医学大辞典 p602, 2003, 伊藤正男, 井村裕夫, 高久史麿総編集, 医学書院.
- A.7. 須田俊宏, Cushing 症候群, 新臨床内科学 第8版, p1134- 高久史麿, 尾形悦郎, 黒川 清, 矢崎義雄 監修, 医学書院.
- A.8. <u>須田俊宏</u>, Cushing 病,内科学 第 8 版,p1523-1525, 2003. 杉本恒明,小俣政男,水野美邦総編集,朝 倉書店.

- A.9. 須田俊宏, カルチノイド, 今日の治療指針, p521, 2003, 医学書院 A.10.二川原健, 須田俊宏, 小田桐恵美. コルチゾ・ル 臨床検査ガイド, 2003-2004, p479-483, 2003 文光堂 A.11.丹藤雄介, 中村光男:吸収不良症候群. 消化器疾患最新の治療2003-2004, 戸田剛太郎, 杉町圭三, 中村孝 司(編), 南江堂, 東京, P197-200, 2003
- A.12. 二川原健, 須田俊宏, 小田桐恵美(東京女子医科大学第二内科)コルチゾール 臨床検査ガイド2003-2004 p. 479-483 和田攻ら編 文光堂 2003

(4)その他

英文

2003年度

- A.1. M. Nishie, M. Tomiyama, N. Kamijo, K. Kannari, M. Tanosaki, M. Baba, M. Matsunaga, T. Suda. Acute cholecystitis and duodenitis associated with Churg-Straus syndrome. Hepato-Gastroenterology 2003, 50-998-1002.
- A.2. K. Kageyama, T. Moriyama, S. Sakihara, S. Kawashima, T. Suda. A case of preclinical Cushing's disease accopanied with thyroid papillary carcinoma and adrenal incidentaloma. Endocrine Journal 2003, 50:325-331.

和文

2002年度

- A.1. 山敷潤子, 照井 健, 長谷川範幸, 田村美智子, 石黒 敦, 須田俊宏, 保嶋 実, 庄司 優, 蔦谷昭司遺伝子解析が有効だった Gittekman 症候群の一例. 日本内科学会雑誌 2002, 91:177-180.
- A.2. 安斉治一,陰山和則, 二川原健, 照井 健,福田祥子,須田俊宏 末端肥大症と Cushing 病を合併した稀な下垂体腫瘍の一例. ACTH RELATED PEPTIDES 2002, 12:83-84.
- A.3. 玉澤直樹, 松井 淳, 村上 宏, 須田俊宏 タンジール病患者の ABCA1 遺伝子異常とコレステロール引き抜き能 (cholesterol efflux) の検討 The Lipid 14(1)99-103, 2003
- A.4. 玉澤直樹 オキシステロール Medical Practice 20(1)168, 2003 文光堂
- A.5. 柳町 幸, 松橋有紀, 田辺壽太郎, 丹藤雄介, 須田俊宏, 中村光男, 渡辺 拓 潜在性ビタミンE欠乏を呈した石灰化慢性膵炎の1例. 膵臓17(1):46-50,2002.
- A.6. 工藤貴徳,中村潤子,丹藤雄介,柳町 幸,小川吉司,長谷川範幸,葛西伸彦,松井 淳,梶 麻子,二川原健,須田俊宏,中村光男,菊池弘明,渡辺拓. 膵全摘後,消化酵素補充療法で長期間栄養状態の維持できている1例の考察(症例報告).消化と吸収24(2):110-113,2002.

2003年度

- A.1. 須田俊宏,陰山和則,崎原 哲 Pre-または succlinical なクッシング病と先端巨大症について 厚生労働 省特定疾患研究事業「間脳下垂体機能障害に関する調査研究」 平成14年度研究報告書 p68-71
- A.2. <u>玉澤直樹</u> 老年の痛風と高尿酸血症について 老年病診療Q&A 第40号 1276-1277, 2003 六法出版

(5)発表論文のまとめ

1. 原著、総説(A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J. Neuroendocrinology	2.58	1	2.58
Endocrine J.	0.869	1	0.869
Am. J. Med. Sci.	1.524	1	1.524
Endocrinology	4.971	1	4.971
Cellular Signalling	3.398	1	3.398
Tohoku J Exp Med	0.328	1	0.328
Hirosaki Med J	0	1	0
J. Med. Assoc. J.		1	0
Total		8	13.67

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Endocrinology	5.095	1	5.095
Neuroscience Letter	2.1	1	2.1
Brain Research	2.409	1	2.409
Diabetes, Obesity and Metabolism	1.077	1	1.077
J Cardiovascular pharmacology	1.602	1	1.602
Tohoku J Exp Med	0.494	2	0.988
Endocrine Journal	0.847	1	0.847
Endocrinology	5.095	2	10.19
Pflugers Arch - Eur J Physiol	1.695	1	1.695
		1	
Total		12	26.003

和文 (論文数)

雑 誌 名	2002年度	2003年度
Annual Review 内分泌, 代謝 2002	1	
日本内科学会雑誌 2002	1	
ホルモンと臨床	2	
日本医師会雑誌	6	
Medicina	2	
内分泌•糖尿病科	2	2
臨床医	1	
総合臨床	1	
日本臨床	1	
ビジュアル臨床栄養実践マニュアル (2002)	1	
EBM ジャーナル	1	
臨床消化器内科	2	
臨床外科	1	
老年消化器病	1	1
消化器科	1	1
肝胆膵	1	
今月の治療	1	
ACTH RELATED PEPTIDES		4
臨床と研究		1
消化と吸収		1
Diabetes Frontier		1
日本内分泌学会雑誌		2
肥満と糖尿病		1
外来診療のすべて		1
産婦人科		1
消化器病セミナー		1
栄養評価と治療 Clinical Neuroscience		1
Clinical Neuroscience		1
計	26	19

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種 目	2002年度	2003年度
単 著	0	0
編 集	0	4
分担執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	14	10

3. その他 (A, Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hepato-Gastroenterology Endocrine Journal	0.833 0.847	1 1	0.833 0.847
Total		2	1.68

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本内科学会雑誌			1	
ACTH RELATED PE	EPTIDES		1	
The Lipid			1	
Medical Practice			1	
膵臓			1	
消化と吸収			1	
平成14年度研究報告書	<u>‡</u>			1
老年病診療 Q & A				1
	計		6	2

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- B.1. Kannari K, Maeda T, Tanaka H, Shen H, Arai A, Tomiyama M, Suda T, Matsunaga M. Role of serotonergic neurons in L-DOPA therapy for Parkinson's disease. The 6th Meeting of the Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, Japan, October, 2002
- C.1. K. Kageyama, S. Sakihara, K. Furukawa, I. Miki, S. Motomura, T. Suda. Vasodilative effects of urocortin II via mitogen-activated protein kinase in rat thoracic aorta. The Endocrine Society's 84 th Annual meeting, San Francisco, CA, Abst. P2-91, 2002.
- C.2. S. Sakihara, K. Kageyama, T. Nigawara, K. Terui, J. Anzai, T. Suda. A multihormonal pituitary adenoma with growth hormone and adrenocorticotropic hormone production, causing acromegaky and Cushing's disease. The Endocrine Society's 84 th Annual meeting, San Francisco, CA, Abst. P2-585, 2002.
- C.3. Naoki Tamasawa, Hiroshi Murakami, Jun matsui, Kazumi Yamato, Yoshiji Ogawa, Toshihiro Suda Hypertriglycedemia and glucose tolerance Evaluation in the patients with lipoprotein lipase deficiency -62th Science Sessions American Diabetes Association June 14-18, 2002. The Moscone Center, SanFrancisco Diabetes 51:Suppl2, A497, 2002
- C.4. Shen H, Kannari K, Arai A, Matsunaga M. Effects of benserazide, an aromatic L-amino acid decarboxylase (AADC) inhibitor, on L-DOPA-derived extracellular dopamine levels and AADC activity in the striatum of 6-hydroxydopamine-lesioned rats. Society for Neuroscience 32nd Annual Meeting, Orlando, FL, USA, November, 2002
- C.5. Satoru Sakihara, Kuzunori Kageyama, Takeshi Nigawara, Ken Terui, Jiichi Anzai, Toshihiro Suda. A multiple pituitary adenoma with growth hormone and adrenocorticotropic hormone production, causing acromegaly and Cushing's disease. ENDO 2002 San Francisco June 20, 2002
- C.6. Kazunori Kageyama, Satoru Sakihara, Ken-ichi Furukawa, Izumi Miki, Shigeru Motomura, Toshihiro Suda. Vasodilative effects of urocortin II via mitogen-activated protein kinase in rat thoracic aorta. ENDO 2002 San Francisco June 20, 2002
- C.7. Tando Y, Matsuhashi Y, Yanagimachi M, Watanabe T, Suda T, Nakamura T. TRACE ELEMENTS AND VITAMINS IN JAPANESE PATIENTS WITH PANCREATIC INSUFFICIENCY Joint Meeting EPC and IAP. Heidelberg Germany,2002.

2003年度

- C.1. S. Kawashima, S. Sakihara, T. Suda, Anorexic behavior associated with melanocortin system requires corticotropin-releasing hormone. Abst. p234, 85th Annual Meeting of the Endocrine Society, Philadelphia June 19-22, 2003.
- C.2. S. Sakihara, S. Kawashima, T. Nigawara, Y. Iwasaki, T. Suda. Hypothakamic 11b-HSD type 1 mRNA is suppressed by acute restraint stress and increased by repeated restraint stress. Abst. p237, 85th Annual Meeting of the Endocrine Society, Philadelphia June 19-22, 2003.
- C.3. 3rd Scientific Sessions American Diabetes Association New Orleans, Louisiana, June 13-17,2003 Jing-Zhi Guan, N Tamasawa, H Murakami, J Matsui, K Yamato, T Suda. Effect of Clofibrate on LXRa-mediated reverse cholestrol transport involving oxysterol generation
- C.4. 3rd Scientific Sessions American Diabetes Association New Orleans, Louisiana, June 13-17,2003 K Yamato, H murakami, J-Z, Guan, J Tanabe, J Matsui, N Tamasawa, T SudaImpaired secretion of apolipoprotein E from macrophages in type 2 diabetes patients with hyperlipidemia
- C.5. Takanori Kudo, Yoshiji Ogawa, Noriyuki Hasegawa, Ken Tomotsune, Hiroto Furuya, Yusuke Tando, Teruo Nakamura, Toshihiro Suda. The Reduction of Insulin Synthesis and Secretion by Chronic Exposure to Oleic Acid Might be an Escape-Phenomenon from Exhaustion for Pancreatic Beta Cells. 63rd Scientific Sessions of American Diabetes Association (ADA) New Orleans (USA), 2003
- C.6. 14XIII International Symposium on Atherosclerosis September 28 to October 2, 2003 Kyoto, Japan. K Yamato, N Tamasawa, H Murakami, J-Z Guan, T Jutaro, J Matsui, T Suda, M Yasujima. Quantitative analysis of apolipoprotein E secretion by human monocyte-derived macrophages in culture.
- C.7. M. Tomiyama, T. Kimura, F. Mori(脳研分子病態部門), K. Wakabayashi(脳研分子病態部門), M. Matsunaga(脳研神経統御部門), Intermittent levodopa treatment induces hypertrophy of the medial globus pallidus of 6-OHDA-lesoned rats. 6th International Congress AD/PD 2003, Seville, Spain, May 8-12, 2003
- C.8. M. Tomiyama, T. Kimura, F. Mori(脳研分子病態部門), N. Ichinohe(理研), K. Wakabayashi(脳研分子病態部門), M. Matsunaga(脳研神経統御部門). Hypertrophy of axon terminals of the direct pathway in 6-OHDA-lesioned rats intermittently treated with levodopa 33th Annual Meeting of Society for Neuroscience, New Orleans, USA, Nov 8-12, 2003
- C.9. Sakihara S, Suda T. Hypothalamic 11b-hydroxysteroid dehydrogenase (11b-HSD) Type1 mRNA is suppressed by acute restraint stress and increased by repeated restraint stress. The endocrine society's 85th annual meeting, Philadelphia, USA, 2003
- C.10. Kawashima S, Sakihara S, Suda T. Anorexic behavior associated with melanocortine system required corticotropin-releasing hormone. The endocrine society's 85th annual meeting, Philadelphia, USA, 2003
- C.11. Nigawara T, Iwasaki Y, Asaba K, Yoshida M, Asai M, Oiso Y. Possible role of transcription factor NF-kB in the regulation of cytokine-induced proopiomelanocortin gene expression in corticotroph cells. ENDO2003 (第85回米国内分泌学会) June 19, 2003, Philadelphia, USA

(2)全国学術集会

- A.1. 須田俊宏, 下垂体オーバービュー 第12回臨床内分泌 Update, 大阪, 2002。
- B.1. 須田俊宏, 内科からみた内分泌病理学: 下垂体腫瘍と副腎疾患, 第6回日本内分泌病理学会, 東京, 2002。
- B.2. 小川吉司,長谷川範幸,工藤貴徳、須田俊宏 ワークショップ「肥満と糖尿病 糖尿病モデルからの解析-」肥満を伴う2型糖尿病モデルラットにおけるLipotoxicityと膵B細胞障害 第17回日本糖尿病動物研究全年次学術集会 八戸市 2003年
- 研究会年次学術集会 八戸市 2003年 B.3. 松井 淳,中村光男,須田俊宏.シンポジウム「動脈硬化病変を探る」-動脈硬化の危険因子の評価.第 51回日本医学検査学会,仙台市,2002.
- B.4. 松井 淳、長谷川範幸、葛西伸彦、村上 宏、丹藤雄介、小川吉司、玉澤直樹、須田俊宏、ワークショップ「小児糖尿病の特質」-環境因子、特に食習慣からみた若年発症2型糖尿病の特質-ケトシス例の検討を中心に一、第45回日本糖尿病学会年次学術集会、東京都、2002.
- B.5. 丹藤雄介,柳町 幸、松橋有紀,田中 光,須田俊宏,中村光男.ワークショップ1. 膵炎とサイトカイン・ケモカイン-急性膵炎発症メカニズムにおける細胞内トリプシン活性とサイトカイン活性化のクロストーク. 第33回日本膵臓学会. 仙台. 2002
- トーク. 第33回日本膵臓学会、仙台、2002 B.6. 蔭山和則, 崎原 哲、須田俊宏 CRFタイプ2受容体の発現調節とその役割 第29回日本神経内分泌学会 高知市文化プラザ「かるぽーと 2002年10月12日
- C. 24件

- A.1. 須田俊宏 平成15年度日本内分泌学会関東甲信越大会 ランチョンセミナー クッシング病に関する最 近の知見 日本都市センター 200年2月15日
- A.2. 渡辺 拓,中村光男,丹藤雄介.ワークショップ 機能性食品とその臨床応用: α リノレン酸は魚油 (EPA、DHA) の代わりになるか? 第34回日本消化吸収学会総会,大阪,2003年
- A.3. 蔭山和則 A7r5 血管平滑筋細胞でUrocortin 関連ペプチドはcAMP 依存性 cross-talk 経路を介してinterleukin-6を分泌させる 第76回日本内分泌学会学術総会 2003 (横浜市)
- B.1. 第76回日本内分泌学会学術総会 横浜 シンポジウム「内分検査 Update」下垂体疾患診断における検査法 の進歩 2003年 5 月10日
- B.2. 第13回日本間脳下垂体腫瘍学会 松江 シンポジウム「Pre-Cushing 病」Pre-または succlinical Cushing 病について 2003年2月4日
- C. 38件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

2002年度

岩崎泰正 名古屋大学医学部臨床検査医学 11 β-HSD に関する研究

今城俊浩 日本医科大学老人病研究所疫学部門 CRFノックアウトマウスの行動に関する研究

沖 隆 浜松医科大学第二内科 低濃度 ACTH に関する臨床研究

橋本浩三 高知医科大学第二内科 同上

2003年度

- 1. 酒井寿郎 東京大学先端科学技術研究センター 内分泌代謝システム医学分野 「新しい摂食関連視床下部ペプチドに関する研究」
- 2. 岩崎泰正 高知大学医学部第二内科 「CRF-induced POMC 転写活性因子に関する研究」
- 3. CRF 欠損マウスに関する研究
- 4. 低濃度 ACTH に関する研究
- 5. アルコール性膵炎の原因遺伝子の解析 (東京都老人総合研究所臨床生理部門との共同研究)
- 6. Cushing 病の分子病態 (名古屋大学医学部附属病院検査部 岩崎泰正講師との共同研究)

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

奨励研究 A. ラット膵炎モデルにおける膵腺房細胞内 NF- κ B 活性化メカニズムに関する研究. 丹藤雄介、90万円

若手B 心血管系における新しい CRF family peptides の基礎的研究 蔭山和則 1,800千円

2003年度

研究代表者として

新しい CRH family peptide とストレス応答機構 須田俊宏 平成15年度170万円 若手B 心血管系における新しい CRF family peptides の基礎的研究 蔭山和則 900千円 基盤研究(C) レボドーパ誘発ジスキネジア発現機序に関する研究:淡蒼球内節肥大の意義 神成一哉。 富山誠彦、補助金額:1,900千円

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

他研究単位との研究分担者として 厚生労働省科学研究費 特定疾患対策研究事業 間脳下垂体機能障害に関する調査研究 90万円 2003年度

他研究単位との研究分担者として 厚生労働科学研究費 間脳下垂体機能障害に関する調査研究 平成15年度 90万円

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘. 受け入れ状況
 - c)外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

2002年度

中国から留学生 1人(大学院3年生)

2003年度

1名

- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- f) その他

なし

- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

青森県膵疾患研究会 2002, 1, 26 青森市 青森臨床糖尿病研究会 2002, 8, 24 青森市 青森内分泌クリニカルカンファランス 2002, 76 弘前市 血管作動性物質研究会 2002, 9, 6 弘前市

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d)国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況

なし

VII. その他

なし

18. 老年科学講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- 1) に関しては到達度20%
- 2) に関しては到達度20%

高齢者関節リウマチ患者の至適治療法については、個人的にはほぼ確立してはいるが、一般には普及していないため50%程度の到達度である。津軽リウマチネットワークの作製については、積極的に講演会(年 $5\sim6$ 回)を開き啓蒙活動を行っている。少しずつではあるが、医師同士、患者同士のネットワークはできつつあるため30%とした。リウマチ実践マニュアルについてはコメディカル用の教科書作成に着手し、現在印刷中であり2004年度中に発売される予定であり、到達度は70%とした。

理念:

抗加齢医学の基礎的研究を行い、老化の制御法を開発したい。

津軽地域にはリウマチ専門医が少なく、また関節リウマチに対する誤解も多い。このため正しい関節リウマチの治療を受けている患者は極めて少ない。関節リウマチに対する正しい知識を一般開業医、勤務医、患者に広げ、その結果、誰でもより良い治療を受けられるようにしたい。

これから2年間の目標:

漢方薬による老化の制御の基礎的研究

food supplement による老化の制御の基礎的研究

関節リウマチの予後を予測する因子の検討

早期関節リウマチの新しい診断基準の作製

高齢者関節リウマチの至適治療法

津軽地域のリウマチネットワークの作製

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助教授 0, 講師 1, 助手 1, 医員 1, 大学院学生 0, 研究生 1					
教 官	役職 専任/併任の別 氏 名 評価年度内での在籍期間					
	教 授 専 任 水島 豊 2002/4/1~2003/3/31					
(教授~助手)	講師 専任 吉田 聡 2002/4/1~2003/3/31					
の詳細	助 手 専 任 浦田 幸朋 2002/4/1~2003/3/31					
	1. 老年症候群の病態解明					
	2. 健康長寿					
研究課題	3. 肺癌の化学予防					
	4. 気管支喘息の遺伝的研究					
	5. 高齢者関節リウマチの治療法の開発					

研究人員	教授 1, 助]教授 0,講印	師 0,助手	1, 医員 1, 大学院学生 0, 研究生 0
教 官	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
(教授~助手)	教 授	専 任	水島 豊	15. 4 . 1 ~16. 3 .31
の詳細	助手	専 任	浦田 幸朋	15. 4 . 1 ~16. 3 .31
研究課題	2. food sup 3. 痴呆性疾 4. 関節リウ 5. 高齢者関	療における漢 plement による 思の診断およる マチの予後予え がリウマチの なのリウマチケニ	ら老化の制御 び治療法の開発 則因子の検討 至適治療法の根	克 討

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2003年度

- A.1. <u>Mizushima Y</u>, Kan S, <u>Yoshida S</u>, Irie Y, <u>Urata Y</u>. Effect of Choto-san, a kampo medicine, on impairment of passive avoidance performance in senescence accelerasted mouse(SAM), Phytother Res. 2003;17:542-545.
- A.2. <u>Mizushima Y</u>, Shimoda H, Oobayashi H, <u>Yoshida S</u>, Irie Y, <u>Urata Y</u>. Pulse wave velocity in persons with vascular dementia. J Am Geriatr Soc, 2003, 51(9):1329-1330.
- B.1. Tanji K, Irie Y, Uchida Y, Mori F, Satoh K, <u>Mizushima Y</u>, Wakabayashi K.:Expression of metallothionein-III induced by hypoxia attenuates hypoxia-induced cell death in vitro. Brain Res, 2003, 976:125-129.

和文

2002年度

A.1 <u>水島 豊, 吉田 聡</u>, 入江祥史, <u>浦田幸朋</u>. 現代高齢者の睡眠状況-前期高齢者と後期高齢者との比較. Gerontology 2002;14(4):402-406.

(2)総説

英文 なし

和文

- A.1. <u>水島</u> 豊. 呼吸器疾患の診断と治療-慢性気管支炎. 臨床医薬. 2002;18(11):1249-1254.
- A.2. 水島 豊. Q&A-漢方薬と健康食品などの民間療法との違いについて教えて下さい. 治療. 2003;85 (1):148-149.
- A.3. 吉田 聡, 吉川和寛. バイオテロリズムとしての炭疽. 2002; 治療84(4):1355-1362.
- A.4. 浦田幸朋, 吉田 聡. ハーバード大学医学部教育病院における卒後 EBM 教育. 2002;治療 84 (4):1446-1450.
- A.5. <u>吉田 聡</u>, 安田 肇, 竹内一仁.アレルギー性肉芽腫性血管炎 (Churg-Strauss症候群). 2002 ; 治療 84 (6):1765-1770.
- A.6. <u>吉田 聡</u> 提言 専門医を活かすための環境整備「認定制度の統廃合・再編や教育課程の充実などが課題」。2002 ; ばんぶう 254(7):36-38.
- A.7. 吉田 聡, 浦田幸朋. COPD と感染症-予防と急性増悪時の対応-. 2002;治療 84(9):2347-2352.
- A.8. <u>吉田</u> <u>聡</u>, 中川市三郎, 鈴木雄一郎, 浦田<u>幸朋</u>. 慢性閉塞性肺疾患の急性増悪時の管理-EBM に基づく AHRQ 診療ガイドライン-.2002 ; 治療 84(9) : 2429-2432.
- A.9. <u>吉田 聡</u>, 浦田幸朋. 高血圧と認知機能-超高齢者軽症高血圧に対する降圧療法の有用性 2002;治療別 刷 84(11):2853-2859.
- A.10.<u>吉田 聡</u>, 鈴木雄一郎. 健康コーディネートにおけるスポーツドリンクの意義について教えてください. 2002 ; 治療別刷 84(12): 3013-3015.
- A.11.<u>浦田幸朋</u>,天保英明,中川市三郎.線維筋痛症候群.治療 2002;84(6):1747-1754.
- A.12. <u>浦田幸朋</u>,中川市三郎. 身体的な問題(膝関節症・腰痛など)や生活上の問題(多忙・座ることの多い職業など)を抱えた方への運動療法や導入の適切なアドバイスの仕方について教えて下さい. 治療 2002;84 (12);3020-3021.
- A.13.<u>浦田幸朋</u>, 水野 宏. ネフローゼ・慢性腎不全患者の輸液法. 治療 2003;85(2);335-340.
- A.14. <u>浦田幸朋</u>, 鈴木雄一郎. 非ステロイド性抗炎症薬の効果的な使い方について教えて下さい. 治療 2003; 85(3); 515-518.
- A.15.<u>浦田幸朋</u>,入江祥史. 関節リウマチ患者の死因-心血管疾患の増加. 治療 2003;85(3);588-590.
- A.16. <u>浦田幸朋</u>, 鈴木雄一郎. One-Point-Advice 関節リウマチの治療効果をどう評価するか? 内科総合誌 2003; 20(3); 515.
- A.17. 浦田幸<u>朋</u>, 水野 宏. 【先生! ちょっと待って! 日常臨床で陥りやすい落とし穴】高齢者リウマチ患者に 安易に MTX 投与してはいけない! 治療 2003 85増刊号: 602-604
- A.18.<u>浦田幸朋</u>, 水野 宏. 【先生!ちょっと待って!日常臨床で陥りやすい落とし穴】膠原病治療の副腎皮質ステロイドは, 錠剤単位で減量してはならない! 治療 2003;85増刊号:608-609.
- A.19.<u>浦田幸朋</u>, 水野 宏. 【先生!ちょっと待って!日常臨床で陥りやすい落とし穴】高齢者の腎機能を加味せずに薬剤を投与してはいけない! 治療 2003;85増刊号:225-227.
- A.20.入江祥史, <u>浦田幸朋</u>. 【明日から使える漢方処方ガイド based on evidence】Q&A 最近, 生薬ベースの製剤による健康被害が相次いで報告されていますが, 医療用漢方製剤では大丈夫なのか教えてください. 治療 2003;85(1);166-168.
- A.21. 浦田幸朋, 水野 宏, 入江祥史. 【明日から使える漢方処方ガイド based on evidence】リウマチ / 膠原病 / 関節疾患. 治療 2003;85(1);63-69.
- A.22.<u>浦田幸朋</u>, 鈴木雄一郎. 慢性再発性多発性骨髄炎 chronic recurre nt multifocal osteomyelitis について. 内 科総合誌 2003; 20(6); 1065
- A.23. 入江祥史, 浦田幸朋. 【先生!ちょっと待って!日常臨床で陥りやすい落とし穴】甲状腺機能亢進症だからといってただちに抗甲状腺薬を投与してはいけない!治療 2003;85巻増刊;1034-1037.
- A.24.入江祥史, 水野 宏, 浦田幸朋, 吉田 聡. 【先生!ちょっと待って!日常臨床で陥りやすい落とし穴】高

齢者の甲状腺機能異常を見逃してはいけない! 治療 2003:85巻増刊:835-837

B.1. 林 靖邦, 松浦美喜雄, 長谷川潤, 浦田幸朋, 太原恒一郎, 三井 弘. RA 例における手部 X 線変化 - 頚椎 病変, 下肢人工関節既往との関連-関節の外科 2002;29(3):81-86.

2003年度

- A.1. <u>浦田幸朋</u>. 一般内科診療における膠原病の診断と治療. Medical Practice 2003 20(4); 558-567
- A.2. 浦田幸朋, 入江祥史. カスピ海ヨーグルトの事実. Medical Practice 2003 20(10);1790
- A.3. 浦田幸朋. ヨーグルトは免疫抑制患者には禁忌か? JIM 2003 4(4); 350-353
- A.4. 浦田幸朋. 免疫抑制患者へのワクチン接種の適応と禁忌-英国のガイドラインを踏まえて-Medical Practice 2004 21(2);332-334
- B.1. 入江祥史, 浦田幸朋. 【プライマリケア医のためのリハビリテーション入門】 リハビリテーションにおける 鍼灸,温泉の効果について教えてください. 治療 2003 85(5);1777-1780

(3)著書

英文

2002年度

B.1. Ishizaki Y, Ishizaki T, Kobayashi Y, Ozawa K, Yoshida S, and Amayasu H. Comparison of the psychosocial association of Japanese childen and their parent in the us and in a rural area in Japan. 2002; Advances in Psychology Reserch. 13:151-163.

和文

2002年度

- A.1. (分担) 水島 豊. 非定型抗酸菌症. 老年病診療 Q&A. 658-659. 六法出版. 名古屋. 2002. A.2. (分担・編集) 田澤賢治, 水島 豊. 男と女の腸内ミステリー. 冬青社. 東京. 2002. A.3. <u>浦田幸朋</u>, 一この患者にこの対応一. 花房俊昭, 板東 浩, 吉田 聡監訳. 糖尿病診療ガイ **合医学社**. 東京: 2002:183-191.

2003年度

- A.1. 水島 豊: 先人の知恵に学ぶ長寿のためのことわざ集. 冬青社, 東京, 2003.
- A.2. 水島 豊, 平野聖治. 肺炎. 渡辺明治, 福井富穂 編. 今日の病態栄養療法. pp262-264, 南江堂, 東京,
- A.3. 水島 豊. 呼吸不全-老人における呼吸不全の診断と治療について. 老年病診療 Q&A, pp698-701, 六法 出版, 名古屋, 2003.
- A.4. 水島 豊. 長寿世界一を支える老年医学. 日本老年医学会編, 老年医療の歩みと展望. pp290-291, メジカ ルビユー社. 東京. 2003

(4)その他

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. <u>水島 豊</u>, 大平徹郎, 田中 弘, 笹川睦男, <u>吉田 聡</u>, 入江祥史, <u>浦田幸朋</u>, 矢部博興. 睡眠時無呼吸症候群の治療によりてんかん発作が著明に改善した 1 例. 呼吸. 2002; 21(10): 941-944.
- A.2. 浦田幸朋, 入江祥史. 臨床クイズ【突然, 臀部周囲痛を来した慢性関節リウマチ症例 診断は何でしょ う?】(第14巻第2号に対する解答およびコメント). 内科専門医会誌 2002;14(3);474-475.

2003年度

- A.1. 水島 豊、Q&A-老化とその障害に対するリハビリテーションはあるのか教えて下さい. 治療 2003; 85(5):1770-1772.
- A.2. 水島 豊. シベレスタット. 分子呼吸器病 2003; 7(5):274-276.
- A.3. 水島 豊. 水野 宏. 痴呆症学-Geriatric depression scale. 日本臨床 2003; 61(増刊号 9):159-162.
- A.4. 水島 豊. キーワード, 加齢と発熱. カレントテラピー 2003; 21(12):87-88.
- 豊. 長寿県日本一. ふぃーらあ 2003; 99(5):68-69.
- A.6. 水島 豊. 漢方の力-統合医療. ふぃーらあ 2003; 99(6):68-69.
- A.7. 水島 豊. 改めて禁煙を考える. ふぃーらあ 2003; 99(9):84-85.
- 豊. エコノミークラス症候群. ふぃーらあ 2003; 99(11):84-85. A.8. <u>水島</u>
- 豊. シリーズ老-和顔施. 弘前 2004;294:52.
- A.10.水島 豊. シリーズ老-百寿者への道. 弘前 2004;295:52.
- 豊. シリーズ老-若返り作戦(1)-精神年齢を若くする. 弘前 2004;296:52.
- A.12. 浦田幸朋. リウマチについて. ふぃーらあ 2003; 99(7):84-85.
- A.13.<u>浦田幸朋</u>. 腰痛について. ふぃーらあ 2003; 99(12):88-89. A.14.<u>水野 宏</u>. 睡眠時無呼吸. ふぃーらあ 2003; 99(10):84-85.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Phytother Res, J Am Geriatr Soc, Brain Res	0.875 3.092 2.409	1 1 1	0.875 3.092 2.409
Total		3	6.376

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
治療			15	1
治療増刊号			5	
臨床医薬			1	
ばんぶう			1	
内科総合誌			2	
関節の外科			1	
Gerontology			1	
Medical Practice				3
JIM				1
	計		26	5

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種 目	2002年度	2003年度
単 著	0	0
編集	0	0
分担執筆	1	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	1
編	集	0	0
分担	執筆	2	3

3. その他 (A. Bのみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
呼吸			1	
内科専門医会誌			1	
治療				1
分子呼吸器病				1
日本臨床				1
カレントテラピー				1
ふぃーらあ				7
弘前				3
	計		2	14

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

- C.1. Yoshida S, Amayasu H, Kikuchi A, Urata Y, Mizushima Y, Kaneko S. The risk factor for psychiatric problems in elderly patients with hemodialysis. American geriatrics society 2002 annual scientific meeting, Washington, DC,USA 2002
- C.2. Amayasu H, <u>Yoshida S</u>, Kikuchi A, Gen T, Ito Y, Fukumoto K, Itai T, <u>Urata Y</u>, <u>Mizushima Y</u>, Kaneko S. Management of dementia in elderly patients undergoing long-term hemodialysis. 26th International Congress of Internal Medicine Kyoto, Japan 2002 2002.
- C.3. Yasuda H, Sakai T, Ichinohe J, Satoh M, Iida T, Kato N, Shimada M, Kudo E, <u>Yoshida S</u>, Aoyama S. Guideline for do-not-Resuscitate Orders in Acutestroke. 26th International Congress of Internal Medicine

Kyoto, Japan. 2002.

- C.4. Takeuchi K, Sakado K, Morinaga Y, Sawaoka T, Kawabe H, Sasaki S, Sato H, <u>Yoshida S</u>, Aoyama S. Preceptor Development with Evaluation to Improve Teaching Skill in Residency Program.P 26th International Congress of Internal Medicine Kyoto, Japan. 2002.
- (2)全国学術集会

2002年度

C. 1件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として 吉田 聡 平成14年奨励研究(A) 課題番号13770302 90万円

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a)国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生,研究生の受け入れ状況

なし

d)外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況

なし

f) その他

なし

- (2)国内, 地域活動
 - a)全国レベルの学会の主催

なし

b)地方レベルの学会の主催

なし

- c)国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d)国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

なし

19. 神経精神医学講座

【研究単位の目標到達度、理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

1 臨床精神薬理学分野

精神科薬物療法の関わる個別化治療を遺伝子多型を中心に解析し、これらの報告は国際的に評価されている。平成15年度から、全国の精神科で唯一、高度先進医療開発経費(B)の助成を受けている。

2・3 臨床てんかん学分野・神経伝達物質遊離機構に関する研究

てんかんの遺伝子解析では大きな進展をみた。若年ミオクロニーてんかんの遺伝子 (EJM1) を、米国などとの共同研究ではあるが、遂に同定した(Nat Genet、2004)。熱性けいれんプラス(GEFS+)と乳児重症ミオクロニーてんかん(SMEI)では Na+ チャネルの変異の位置が予後の異なるてんかん類型に関与すること(Neurology、2004)、 μ 3B ノックアウトマウスによる発作発現の機序解析が進展していること(J Cell Biol、2004)、ヒトてんかん遺伝子を持った遺伝子改変ラット昨出に成功したことなど、かなりの実績を上げた。

- 4 脳磁図を用いた認知機能解析研究が進展し、臨床精神薬理学分野の研究、ヒトてんかん遺伝子を持った遺伝子 改変ラット(認知障害のモデル動物になりうる)の研究と連携することにより「認知再生科学研究」の基盤が できつつある。
- 5 自動的記憶照合システムの基盤にある聴覚性感覚記憶(一次聴覚野近傍)の様態を解明する。1. 感覚記憶の時間周波数統合機能の神経基盤に関する研究(約50%は達成されたと考える。)2. 聴覚性感覚記憶内部の時間軸に関する研究(感覚記憶内部で時間圧縮が生じることを見出した。)3. 統合失調症患者における感覚記憶の統合機能障害に関する研究(成果の一部を投稿準備中である。)
- 5~8 腎移植、肝移植に関わるリエゾン精神医学分野の国際的な学会への発表など次第に研究水準だけでなく、 臨床水準も向上し、来年度から児童思春期外来に加えてリエゾン精神医学外来を開設する予定である。

理念:

- ・臨床と研究の相互作用を念頭に、教育・研究・診療のバランスのとれた教室運営をしてゆきたい。
- ・児童思春期精神医学の臨床研究を中心として、臨床的視点から臨床に役立つ研究成果をあげる。
- ・中枢神経系機能性疾患の分子病態の解明と、新たな治療法開発に寄与したい。
- ・精神疾患を対象にした精神生理学的研究で、臨床および研究に貢献する。

これから2年間の目標:

- 後期臨床研修生獲得に際しては大学院入学を勧め、研究の醍醐味を味わってもらい研究者育成に努力したい。加 えて、現在展開中の研究を育み、一流国際誌への投稿を試みる。
- ・聴覚性感覚記憶の様態を、時間軸、周波数軸、空間軸上で、優れた時間分解能を有する脳波,全頭型脳磁図を駆使 して研究し、精神疾患の病理を解明する。
- •児童思春期精神医学の臨床を中心として、各症例の縦断的なフォローアップが可能な治療環境、他機関との連携を強化していき、臨床に役立つ研究成果をあげる。
- ・新たな、ヒト中枢神経系機能性疾患の責任遺伝子を導入した遺伝子改変モデル動物の作出。
- 統合失調症など種々の精神疾患の病態に関して、さらに研究を進める。

【研究人員及び研究課題】

研究人員	教授 1, 耳	b教授 1, 講師	新 2,	助手	6, 医員 6, 大学院学生 6, 研究生 22
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
业 庁	教 授	専 任	兼子	直	
教官	助教授	専 任	近藤	毅	
(教授~助手)	講師	専 任	矢部	博興	
の詳細	講師	専 任	栗林	理人	
	助手	専 任	岡田	元宏	

助 手	専 任	三原 一雄	
助 手	専 任	篠崎 直子	
助手	専 任	天保 英明	
助手	専 任	佐々木秀之	
助手	専 任	増谷 美砂	

- 1. 臨床精神神経薬理学分野
 - ・抗うつ薬、抗不安薬、抗精神病薬の薬物動態、薬物相互作用の機序および薬遺伝学
 - ・薬物代謝酵素の遺伝子多型と向精神病薬による治療反応性との関連
 - ・受容体遺伝子多型と向精神薬による治療反応性との関連
- 2. 臨床てんかん学分野
 - てんかんの責任遺伝子、病態研究
 - てんかんの社会精神医学的研究
 - 抗てんかん薬作用機序解明
- 3. 神経伝達物質遊離機構の解明
- 研究課題
- 各種イオンチャネルの神経伝達物質遊離機構に対する効果
- 神経伝達物質遊離機構の解明
- 4. 精神生理学的研究

MMN (Mismatch Negativity) という事象関連性の脳反応を用いて、自動的記憶照合システムの 基盤にある聴覚性感覚記憶機構を解明する。

- 5. 児童思春期分裂病の臨床的研究分野
- 6. 児童思春期の食行動異常の臨床的研究分野
- 7. コンサルテーション・リエゾン精神医学
- 8. 摂食障害患者の臨床的研究を中心とした心身医学
- 9. 基礎精神神経薬理学分野
 - 情動安定化薬標的蛋白の検索

2003年度

研究人員	教授 1,	助教授 1,講	師 3,	助手	6, 医員 0, 大学院学生 4, 研究生 14
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	兼子	直	H15.4.1 ~ H16.3.31
	講師	専 任	左 対7	博興	講 師: H15.4.1~H15.7.31
	助教授	→ 日 日 日	矢部	字典	助教授: H15.8.1~H16.3.31
	講師	専 任	栗林	理人	H15.4.1~H16.3.31
教 官	講師	専 任	岩佐	博人	H15.4.1 ~ H16.3.31
(教授~助手)	助 手	専任	岡田	元宏	助 手: H15.4.1~H15.6.30
の詳細	講師		阿田		講 師: H15.7.1.~H16.3.31
	助 手	専 任	篠崎	直子	H15.4.1 ~ H16.3.31
	助 手	専 任	天保	英明	H15.4.1~H15.6.30
	助 手	専 任	晝間	臣治	H15.7.1~H16.3.31
	助手	専 任	三浦	淳	H15.4.1~H16.1.31
	助手	専 任	菊地	隆	H16.2.1 ~ H16.3.31

- 1. 臨床精神神経薬理学分野
 - ・抗うつ薬、抗不安薬、抗精神病薬の薬物動態、薬物相互作用の機序および薬遺伝学
- 2. 臨床てんかん学分野
 - てんかんの責任遺伝子, 病態研究
 - てんかんの社会精神医学的研究
- 3. 神経伝達物質遊離機構に関する研究
 - 各種イオンチャネルの神経伝達物質遊離機構に対する効果

4. 精神生理学的研究 研究課題

- ・精神分裂病患者の病態研究: ERP (mismatch negativity)
- ・MMN (Mismatch Negativity) という事象関連性の脳反応は、頻回発生した聴覚事象の感覚記憶 痕跡と逸脱事象の前注意的な比較過程を反映する(記憶痕跡説)。これまで, 聴覚性感覚記憶に時 間統合機能が存在する事を明らかにしてきた(時間統合説)。今後もさらに、自動的記憶照合シス テムの基盤にある聴覚性感覚記憶の様態を解明する。
 - 1. 感覚記憶の時間周波数統合機能の神経基盤に関する研究
 - 2. 聴覚性感覚記憶内部の時間軸に関する研究
 - 3. 統合失調症患者における感覚記憶の統合機能障害に関する研究

- ・精神疾患と脳波活動
- 芳香と精神生理学
- 5. 児童思春期分裂病の臨床的研究分野
- 6. 児童思春期の食行動異常の臨床的研究分野
- 7. 学校精神保健
- 8. コンサルテーション・リエゾン精神医学
- 9. 摂食障害患者の臨床的研究を中心とした心身医学

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

- A.1. Sato Y, Yabe H, Hiruma T, Sutoh T, Shinozaki N, Nashida T, Matsuoka T, Kaneko S. Early contingent negative variation (CNV) shows a small symmetrical negativity in a somatosensory paradigm. Clin Electroencephal 2002;33:77-81.
- A.2. Shinozaki N, Yabe H, Sato Y, Hiruma T, Sutoh T, Nashida T, Matsuoka T, Kaneko S. The difference in mismatch negativity between the acute and post-acute phase of schizophrenia. Biol Psychology 2002;59:105-19.
- A.3. <u>Iwasa H, Shibata T, Mine S, Koseki K, Yasuda K, Kasagi Y, Okada M, Yabe H, Kaneko S, Nakajima Y. Different patterns of dipole source localization in gelastic seizure with or without a sense of mirth. Neurosci Res 2002;43:23-9.</u>
- A.4. Ono S, Mihara K, Suzuki A, Kondo T, Yasui-Furukori N, Furukori H, Vries R, Kaneko S. Significant pharmacokinetic between risperidone and carbamazepine: its relationship with CYP2D6 genotypes. Psychopharmacology 2002;162:50-4.
- A.5. Mihara K, Kondo T, Higuchi H, Takahashi H, Yoshida K, Shimizu T, Kaneko S. Tardive dystonia and genetic polymorphisms of cytochrome P4502D6 and dopamine D2 and D3 receptors: A preliminary finding. Am J Med Genet 2002;114:693-5.
- A.6. <u>Mihara K</u>, Yasui-Furukori N, <u>Kondo T</u>, <u>Ishida M</u>, <u>Ono S</u>, Ohkubo T, Osanai T, Sugawara K, Otani K, <u>Kaneko S</u>. Relationship between plasma concentrations of trazodone and its active metabolite, m-chlorophenylpiperazine, and its clinical effect in depressed patients. Ther Drug Monit 2002;24:563-6.
- A.7. Mihara K, Kondo T, Yasui-Furukori N, Ono S, Kaneko S, Otani K. Dopamine D2 receptor gene polymorphisms and clinical responto selective dopamine receptor antagonists. Int Cong Series 2002;1244:77-83.
- A.8. Kondo T, Mihara K, Suzuki A, Ono S, Kaneko S, Otani K. Genotype analysis as a possible predictor of pharmacokinetic and clinical effects of antipsychotic drugs. Int Cong Series 2002;1244:111-8.
- A.9. Okada M, Wada K, Kamata A, Murakami T, Zhu G, Kaneko S. Impaired M-current and neuronal excitability. Epilepsia 2002;43:36-8.
- A.10. <u>Hiruma T, Yabe H, Sato Y, Sutoh T, Kaneko S</u>. Differential effects of the *hiba* odor on CNV and MMN. Bio Psychol 2002;61:321-31.
- A.11. Sato Y, Yabe H, Todd J, Michel P, Shinozaki N, Sutoh T, Hiruma T, Nashida T, Matsuoka T, Kaneko S. Impirment in activation of a frontal attention-swich mechanism in schizophrenic patients. Bio Psychol 2002:62:49-63
- A.12. Mihara K, Kondo T, Suzuki A, Yasui-Furukori N, Ono S, Sano A, Koshiro K, Otani K, Kaneko S. Relationship between functional dopamine D2 and D3 receptors gene polymorphisms ans neuroleptic malignant syndrome. Am J Med Genet Part B 2003;117B:57-60.
- A.13. Okada M, Zhu G, Hirose S, Ito K, Murakami T, Wakui M, Kaneko S. Age-dependent modulation of hippocampal excitability by KCNQ-channels. Epilepsy Res 2003;53:81-94.
- A.14.Koyama S, Akahane-Yamada R, Gunji A, Kubo R. Roberts TPL, <u>Yabe H</u>, Kakigi R. cortical evidence of perceptual backward masking effect on/l/and/r/sounds from a following vowel in Japanese speakers. NeuroImage 2003;18:962-74.
- A.15. Okada M, Zhu G, Yoshida S, Kanai K, Hirose S, Kaneko S. Exocytosis mechanisms as a new targeting site for mechanisms of action of antiepileptic drugs. Life Sci 2002;72:465-72.
- A.16. <u>Yabe H</u>: Discriminative sensitivity inside temporal window of sensory memory. In "Excerpta Medica International Congress Series 1232". 2002;(Eds.) Hirata K, Koga Y, and Nagata K, pp 219-24, Elsevier Science, Amsterdam.
- B.1. Yasui-Furukori N, <u>Kondo T</u>, <u>Suzuki A</u>, Mihara K, <u>Kaneko S</u>, Otani K. Comparison of prolactin concentrations between haloperidol and bromperidol treatment in schizophrenic patients. Prog Neuro-Psychoph Biol Psychiatr 2002;26:575-8.
- B.2. Yasui-Furukori N, <u>Kondo T, Suzuki A, Mihara K, Kaneko S</u>. Comparison of prolactin concentrations between haloperidol and risperidone treatment in the same female patients with schizophrenia. Psychopharmacology 2002:162:63-6.
- B.3. Sano A, Mikami M, Nakamura M, Ueno S, Tanabe H, <u>Kaneko S</u>. Positional candidate approach for the gene responsible for benign adult familial myoclonic epilepsy. Epilepsia 2002;43:26-31.
- B.4. Yasui-Furukori N, Tateishi T, Kondo T, Mihara K, Suzuki A, Ono S, Kaneko S. Effects of CYP2D6 genotype on pharmacokinetic interactions with psychotropic drugs. Int Cong Series 2002;1244:21-31.

- B.5. Yasui-Furukori N, Kondo T, Mihara K, Suzuki A, Inoue Y, Vries R, Kaneko S. Lack of correlation between the steady0state plasma concentrations of haloperidol and risperidone. J Clin Psharmacology 2002;42:1083-8.
- B.6. Yasui-Furukori N, Kondo T, Takahata T, Mihara K, Ono S, Kaneko S, Tateishi T. Effect of dietary fat content in meals on pharmacokinetics of quazepam. J Clin Pharmacol 2002;42:1335-40.
- B.7. Yasui-Furukori N, Mihara K, Kondo T, Kubota T, Iga T, Takarada Y, Vries R, Kaneko S, Tateishi T. Effects of CYP2D6 genotype on plasma concentrations of risperidone and enantiomers of 9-hydroxyrisperidone in Japanese patients with schizophrenia. J Clin Pharmacol 2003;43:122-7.
- B.8. Sano A, Mikami M, Makamura M, Ueno S, Tanabe H, Kaneko S. Positional candidate apporoach for the gene responsible for benign adult familial myoclonic epilepsy. Epilepsia 2003;43:26-31.

- A.1. Shinozaki N, Yabe H, Sato Y, Hiruma T, Sutoh T, Matsuoka T, and Kaneko S. Spectrotemporal window of integration of auditory information in the human brain. Cognitive Brain Res 2003; 17: 563-71.
- A.2. Suzuki A, Yasui-Furukori N, Mihara K, Kondo T, Furukori H, Inoue Y, Kaneko S, and Otani K. Histamine H1-receptor antagonists, promethazine and homochlorcyclizine, increase the steady-state plasma concentrations of haloperidol and reduced haloperidol. Ther Drug Monit 2003; 25: 192-6.
- A.3. Kondo T, Mihara K, Suziki A, Yasui-Furukori N, and Kaneko S. Combination of dopamine D2 receptor gene polymorphisms as a possible predictor of treatment-resistance to dopamine antagonists in schizophrenic patients. Prog Neuro-Psychopharmacol Bio Psychiat 2003; 27: 921-6.
- A.4. Mihara K, Kondo T, Suzuki A, Yasui-Furukori N, Ishida M, Ono S, Kubota T, Iga T, Takarada Y, Vries R, and Kaneko S. Effects of various CYP2D6 genotypes on steady-state plasma concentration of risperidone and its active metabolite, 9-hydroxyrisperidone, in Japanese patients with schizophrenia. Ther Drug Monit 2003; 25: 287-93.
- B.1. Yasui-Furukori N, Takahata T, Kondo T, Mihara K, Kaneko S, and Tateishi T. Time effects of food intake on the pharmacokinetics and pharmacodynamics of quazepam. Br J Clin Pharmacol 2003; 55: 382-8.
- B.2. Yasui-Furukori N, Kondo T, Mihara K, Suzuki A, Inoue Y, and Kaneko S. Significant dose effect of Carbamazepine on reduction of steady-state plasma concentration of Haloperidol in schizophrenic patients. J Clin Psychopharmacol 2003; 23: 435-40.
- B.3. Yasui-Furukori N, Furukori H, Saito M, Inoue Y, Kaneko S, and Tateishi T. Poor reliability of the therapeutic drug monitoring data for haloperidol and bromperidol using enzyme immunoassay. Ther Drug Monit 2003; 25: 709-14.
- B.4. Hirose S, Mohney PR, Okada M, Kaneko S, and Mitsudome A. The genetics of febrile seizures and related epilepsy syndrome. Brain Dev 2003; 25: 304-12.
- B.5. Fukuma G, Oguni H, Shirasaka Y, Watanabe K, Miyajima T, Yasumoto S, Ohfu M, Inoue T, Watanabe A, Kira R, Matuo M, Munakata H, Sofue F, Zhang B, Kaneko S, Mitsudome A, and Hirose S. Mutations of neuronal voltage-gated Na+ channel α 1 subunit gene SCN1A in core severe myoclonic epilepsy in infancy (SMEI) and in borderline SMEI (SMEB). Epilepsia 2004; 45: 140-8.
- B.6. Koyama S, Akahane-Yamada R, Gunji A, Kubo R, Roberts Timothy PL, Yabe H, and Kakigi R. Cortical evidence of the perceptual backward masking effect on /l/and/r/ sounds from a following vowel in Japanese speakers. NeuroImage 2003; 18: 962-74.
- C.1. Ymazaki H, Kiyotani K, Tsubuko S, Matsunaga M, Fujieda M, Saito T, Miura J, Kobayashi S, and Kamataki T. Two novel haplotypes of CYP2D6 gene in a Japanese population. Drug Metabol Pharmacoki 2003;
- C.2. Saegusa T, Mine S, Iwasa H, Murai H, Seki T, Yamaura A, and Yuasa S. Involvement of highly polysialylated neural cell adhesion molecule (PSA-NCAM)-positive granule cells in the amygdaloid-kindling-induced sprouting of a hippocampal mossy fiber trajectory. Neurosci Res 2004; 48: 185-94.

和文

- 剛, 吉田淑子, 岩佐博人, 兼子 直. ラット海馬 seroton 開口分泌機構に対する adenosine A.1. 岡田元宏. 朱 受容体 subtype の相互作用の検討. 日本神経精神薬理学雑誌 2002;22:61-9.
- A.2. <u>渡辺春子</u>, 天保英明, 栗林理人, 兼子 直. アルコール依存症が先行した過食を伴う神経性無食欲症の 1 女性例. 心療内科 2002;6:224-9.
- A.3. 晝間臣治, 矢部博興, 篠崎直子, 佐藤泰治, 須藤武行, 梨田忠良, 松岡貴志, 石山 哲, 兼子 直. 感覚 閾値程度の逸脱刺激に対する磁気 MMN について. 臨床脳波 2002;44:447-50.
- 直. てんかんの薬物療法. Clin Neurosci 2002;20:806-9. A.4. <u>岩佐博人</u>,<u>兼子</u>
- 直, 永山隆三 大学での漢方医学卒前教育の実際、漢方と最新治療
- てんかん関連遺伝子研究の現況と展望. てんかん学の最前線 2002;2:1-5. 直
- A.7. 天保英明, 兼子 直. 薬剤性脳症の患者のケア. 透析ケア 2002;8:1098-103.
- 和田一丸. 新しい抗てんかん薬. 精神科 2003;2:47-50. A.8. 兼子 直,
- 兼子 直. 精神科薬物治療における反応性をどう予測するか. 臨床精神病理 2003;6:267-73. 金井数明, 和田一丸. てんかん症候群の遺伝子. 神経内科 2003;58:111-5. A.9. 近藤
- A.10.兼子 直,
- 和田一丸. A.11.兼子 直,
- 金井数明, 和田一丸. てんかん症候群の遺伝子. 神経内科 2003;58:111-5. A.12.兼子 直,
- <u>金井数明</u>, 兼子 直. てんかんとイオンチャネル・トランスポータ. Molecular Medicine 2003;40:792-800. 佐藤泰治, Carles E, 矢部博興, 篠崎直子, <u>書間臣治</u>, 須藤武行, 梨田忠良, 石山 哲, 松岡貴志, 兼子直. 統合失調症における不随意的注意メカニズムの障害について—N1, MMN, P3a成分ならびにRTを指 A.13.<u>金井</u>数明, A.14. 佐藤泰治, 標として-. 臨床脳波 2003;45:69-75.
- A.15. <u>近藤 毅</u> 臨床への応用-精神疾患におけるテーラーメイド医療の可能性- 医学のあゆみ 2002;201:683-6.
- A.16. 天保英明. 災害時のパニックと PTSD への対応. 治療 2002;84:1293-9.
- A.17. 板井貴宏, 天保英明. 透析患者のメンタルヘルケア. 治療 2002;84:1563-7.

- A.18. 天保英明, 小野真吾. 認定内科専門医のための抗うつ薬の使い方. 内科専門医会誌 2002;14:181-8.
- A.19. 天保英明, 中川市三郎. 認定内科専門医に必要な高齢者のメンタルケアの知識 4 つのDへのアプローチ 内科専門医会誌 2002;14:628-35.
- A.20.天保英明. 精神神経疾患/心身症. 治療 2003;85:111-8.
- A.21.天保英明. 服薬コンプライアンスの確認を怠ってはいけない!. 治療 2003;85:737-40.
- A.22. 天保英明. SSRI と他の薬を安易に併用してはいけない!. 治療 2003;85:1273-5.
- B.1. 植田勇人、鶴 紀子、<u>兼子 直</u>. てんかん-実験てんかん学から臨床遺伝学の最近の話題-. 脳と精神の 医学 2002;13:237-49.

- B.2. 浦田幸朋, 天保英明, 中川市三郎. 線維筋痛症候群. 治療 2002;84:1747-54. B.3. 坂東 浩, 天保英明, 松本晴子. 音楽療法と心理学 (No.1). 内科専門医会誌 2002;14:165-8. B.4. 坂東 浩, 天保英明, 松本晴子. 音楽療法と心理学 (No.2). 内科専門医会誌 2002;14:429-32.
- B.5. 坂東 浩, 天保英明, 松本晴子. 音楽療法と心理学 (No.3). 内科専門医会誌 2002;14:623-7.

- A.1. 岩佐博人, 兼子 直. ナトリウムチャネロパチーとしての常染色体優性てんかん熱性けいれんプラス. 神 経進歩 2003:47:204-12.
- A.2. 河田祐子, <u>天保英明</u>, <u>川村直子</u>, <u>兼子 直</u>. 治療経過中に胸水貯留による呼吸困難を呈した, 長期下剤乱 用の摂食障害患者. 日本心療内科学会誌 2003;7:89-93.
- A.3. 兼子 直. 多剤併用への私の処方箋・多剤併用防止への私の処方箋. 臨床精神医学 2003;32:671-5.
- A.4. <u>金井数明</u>, 兼子 直. てんかんとイオンチャネル・トランスポーター. Molecular Medicine 2003:40:792-
- A.5. <u>岩佐博人</u>, 土嶺章子, 兼子 直. 抗てんかん薬の開発動向と問題点. 臨床精神医学 2004;33:289-95. A.6. 増谷美砂, 天保英明. 精神障害のリハビリテーション. 治療 2003;85:1749-54. A.7. 天保英明. 軽症うつ病の様相を呈する精神疾患. Progress Medicine 2003;23:1611-5.

- A.8. <u>兼子 直</u>, 矢部博興. 弘前大学医学部の必修精神科研修のプログラム. 精神科 2003;3:6-8.
- B.1. 和田一丸, 小山内隆生, 加藤拓彦, 兼子 直. アセチルコリン受容体チャネロパチーとしてのけいれん性 疾患. 神経研究の進歩 2003;47:220-4.
- B.2. 和田一丸, 前田知華, 山本将人, 小田桐真理子, 加藤拓彦, 小山内隆生, 渡辺俊三, 兼子 直. 入院精神 疾患患者における病気、入院生活および退院に関する意識. 精神科治療学 2004;19:91-6.

(2)総説

英文

2002年度

- A.1. Kaneko S, Okada M, Iwasa H, Yamakawa K, Hirose S. Genetics of epilepsy: Current status and perspectives. Neurosci Res 2002;44:11-30.
- A.2. Kaneko S, Iwasa H, Okada M. Genetic identifiers of epilepsy. Epilepsia 2002;43:16-20.
- B.1. Hirose S, Okada M, Yamakawa K, Sugawara T, Fukuma G, Ito M, Kaneko S, Mitsudome A. Genetic abnormalities underlying familial epilepsy syndrome. Brain Dev 2002;24:211-22.
- B.2. Hirose S, Okada M, Kaneko S, Mitsudome A. Molecular genetics of human familial epilepsy syndrome. Epilepsia 2002;43:21-5.

和文

2002年度

- A.1. 兼子 直, 和田一丸. てんかんは遺伝するのでしょうか?. Clinical Neuroscience 2002:607.

- A.2. 兼子 直. 抗てんかん薬による γ -GTPの上昇. 日本医事新報 2002;No.4077:97-8. A.3. 近藤 毅, 兼子 直. 薬理遺伝. 精神科診断学 2002;13:219-27. A.4. 兼子 直. 岩佐博人. 岡田元宏. 廣瀬伸一. 常染色体優性夜間前頭葉てんかん. 日本臨床(領域別症候群 シリーズ)2002;37:315-7.
- A.5. <u>岩佐博人</u>, 兼子 直. てんかんとパーソナリティー. 日本臨床(領域別症候群シリーズ)2002;37:371-4. A.6. 兼子 直, 和田一丸. 知的障害, 認知機能障害. 日本臨床(領域別症候群シリーズ) 2002;37:375-8.
- 直,和田一丸.妊娠とてんかん.Recent Advances in Reproductive Medicine 2003;No17:2-3.
- 非定型抗うつ薬-mianserin, setiptiline-. 臨床精神薬理 2002;5:1729-35.
- A.9. 天保英明. 現代の社会情勢とサラリーマンのうつ病. 野村總一郎企画. 軽症うつ病 精神科以外の診療 | | 科を受診する患者に対応する - Mebio 2002;130-5.
- A.10.兼子 直, <u>岡田元宏</u>, <u>和田一丸</u>, <u>金井数明</u>. てんかんの分子病態. Molecular Medicine 2003;40:296-306. A.11.岡田元宏, 廣瀬伸一, 山川和弘, 吉田淑子, 朱剛, 兼子直. 制御ニコチン性アセチルコリン受容体機能変 化としての "てんかん"病態の解明とアセチルコリン開口分泌機構を作用機序としたてんかん治療薬の開発法の提言. アセチルコリン最新の話題 (第6回神経伝達物質研究会記録集) 2002;中村重信編, Excerpta Medica, Japan, 58-9.
- B.1. 水島 豊,大平徹郎,田中 弘,笹川睦男,吉田 聡,入江洋史,蒲田幸朋,<u>矢部博興</u>:睡眠時無呼吸症 候群の治療によりてんかん発作が著名に改善した1例. 呼吸 2002;21:941-4.

- A.1. 兼子 直, 和田一丸. 妊娠とてんかん. Reproductive Medicine 2003;No.17:2-3.
- A.2. <u>岩佐博人</u>, 兼子 直. てんかん症候群の最新知見と治療への展望. 難病と在宅ケア 2003;9:25-9.
- A.3. 兼子 直, 金井数明. チャネロパチーとしてのてんかん. 神経治療学 2003;20:707-14.
- A.4. 矢部博興, 篠崎直子, 松岡貴志, 長谷川智明, 朝井 廉, 佐藤泰治, 須藤武行, 晝間臣治, 兼子 直. Mismatch negativity の発生源に関する最近の知見. 臨床脳波 2003;45:547-52.

- A.5. 平田幸一, <u>矢部博興</u>. 痴呆症学(1) 高齢社会と脳科学の進歩 臨床編VII. 痴呆の診断, 電気生理学的検査: 事象関連電N200 (N2). 日本臨床 2003;61:416-21.
- A.6. 矢部博興. Mismatch negativity の反映する感覚記憶の研究とその臨床的意義. 精神経誌 2004;106:1-16.

(3)著書

英文

2002年度

B.1. Ishizaki Y, Ishizaki T, Kobayashi Y, Ozawa K, Yoshida S, <u>Amayasu H</u>. Chapter 9: Comparison of the psychosocial association of Japanese children and their parents in the US and in a rural area in Japan. ed.by Sergo PS. Advances in Psychology Research, 13:151-63; New York; Nova Science Publishers, Inc; 2002.

2003年度

B.1. Czigler I, Winkler I, Sussmann E, <u>Yabe H</u>, and Horvat J (Eds.)Helfrich H. Temporal characteristics of auditory event-synthesis: Electrophysiological studies" in H. Helflich (Ed.), Time and Mind II: Information Processing Perspectives. Hogrefe & Huber Publisher: 2003. p.117-24.

和文

- A.1. <u>兼子 直.</u> てんかん遺伝子 Genes associated with epilepsies. KEY WORD精神 第 3 版. 樋口輝彦, 神庭重信, 染矢俊幸, 宮岡等編集. (㈱先端医学者:東京; 2002.pp.192-4.
- A.2. <u>岡田元宏</u>. 抗てんかん薬と開口分泌機構. 赤池紀扶, 東 英穂, 阿部康二, 久保千春編集, 脳機能解明-生命科学の主潮流-, p.321-327, ガイア出版会, 福岡; 2002.
- A.3. <u>天保英明</u>. ストレス・コーピングにおける音楽の効果. 坂東 浩, 吉田聡編集. 現代のエスプリー音楽と癒し一:音楽療法の可能性. p.102-14. 東京;至文堂;2002.
- A.4. <u>栗林理人</u>. Chapter 1:うつ病患者へのアプローチ. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武, 小泉俊三監訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド. p.1-14. 東京;メディカル・サイエンス・インターナショナル; 2002.
- A.5. <u>栗林理人</u>. Chapter 2:自殺する危険のある患者へのアプローチ. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武, 小泉俊三監訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド. p.15-23. 東京;メディカル・サイエンス・インターナショナル・2002.
- A.6. <u>栗林理人</u>, Chapter 3: 不安を抱く患者へのアプローチ. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武, 小泉俊三監 訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド. p.24-40. 東京; メディカル・サイエンス・インターナショナル; 2002.
- A.7. <u>栗林理人</u>. Chapter 4: ストレス管理の原則. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武, 小泉俊三監訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド. p.41-7. 東京:メディカル・サイエンス・インターナショナル: 2002.
- A.8. <u>栗林理人</u>. Chapter 5: アルコールを乱用する患者へのアプローチ. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武, 小泉俊三監訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド. p.48-62. 東京; メディカル・サイエンス・インターナショナル; 2002.
- A.9. <u>武田 哲</u>. Chapter 6:頭痛を訴える患者へのアプローチ. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武, 小泉俊三 監訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド. p.63-8. 東京;メディカル・サイエンス・インターナショナル; 2002.
- A.10. <u>武田 哲</u>. Chapter 7:睡眠障害を訴える患者へのアプローチ. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武, 小泉 俊三監訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド. p.69-77. 東京;メディカル・サイエンス・インターナショナル; 2002
- A.11. <u>天保英明</u>. Chapter 21: 急性の悲嘆に暮れる患者へのアプローチ. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武, 小泉俊三監訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド. p.178-81. 東京;メディカル・サイエンス・インターナショナ ル;2002.
- A.12. 天保英明. Chapter 22: 急性痛または慢性痛を訴える患者へのアプローチ. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武, 小泉俊三監訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド. p.182-200. 東京;メディカル・サイエンス・インターナショナル; 2002.
- A.13. <u>武田</u> <u>哲</u>. Chapter 27: けいれん発作やてんかんの患者へのアプローチ. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武, 小泉俊三監訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド. p.243-53. 東京;メディカル・サイエンス・イン ターナショナル: 2002.
- A.14. 板井貴宏. Chapter 29: 神経画像技術の利用. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武, 小泉俊三監訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド. p.261-5. 東京;メディカル・サイエンス・インターナショナル; 2002. A.15. 板井貴宏. Chapter 46: ホームレス患者へのアプローチ. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武, 小泉俊三
- A.15.<u>枚井貴宏</u>. Chapter 46: ホームレス患者へのアブローチ. 兼子 直, 福西男夫監訳. 佐藤 武, 小泉俊三 監訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド. p.421-8. 東京;メディカル・サイエンス・インターナショナル; 2002.
- A.16. <u>板井貴宏</u>. Chapter 47: 著名人患者へのアプローチ. 兼子 直,福西勇夫監訳.佐藤 武,小泉俊三監訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド.p.429-37.東京;メディカル・サイエンス・インターナショナル; 2002
- A.17. <u>板井貴宏</u>. Chapter 48: 危機状況にある家族へのアプローチ. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武, 小泉 俊三監訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド. p.429-37. 東京;メディカル•サイエンス•インターナショナル; 2002.
- A.18. <u>天保英明</u>. Chapter 76: 医師-患者関係における境界の維持. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武, 小泉 俊三監訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド. p.670-5. 東京;メディカル・サイエンス・インターナショナル; 2002.
- A.19. 天保英明. Chapter 77: マネージメントケアにおける精神疾患. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武, 小泉俊三監訳協力. MGH「心の問題」診療ガイド. p.676-82. 東京: メディカル・サイエンス・インターナ

- ショナル:2002.
- A.20.天保英明. Chapter 78: 医療の場におけるストレスと燃え尽き症候群. 兼子 直, 福西勇夫監訳. 佐藤 武,小泉俊三監訳協力.MGH「心の問題」診療ガイド.p.683-9.東京;メディカル・サイエンス・インター ナショナル:2002.
- A.21.福西勇夫, 天保英明. 第1章:統合失調症(精神分裂病)とは. 福西勇夫編集. 統合失調症がわかる本-正しい理解と対処のすべて-. p.11-46. 東京;法研;2002.
- A.22. 天保英明. 第10章: 家族の悩み. 福西勇夫編集. 統合失調症がわかる本-正しい理解と対処のすべて-. p.202-14. 東京 ; 法研 ; 2002. A.23.天保英明. 第11章 : 社会福祉制度. 福西勇夫編集. 統合失調症がわかる本-正しい理解と対処のすべて
- p.216-26. 東京:法研:2002.
- A.24.天保英明. 第12章: 社会的偏見. 福西勇夫編集. 統合失調症がわかる本-正しい理解と対処のすべて-. p.228-38. 東京;法研;2002.
- B.1. 福西勇夫 天保英明 W服薬コンプライアンスを高めるための服薬指導 上島国利 中根允文編著 パ ニック障害治療のストラテジー、P181-7、東京:先端医学社:2002.

- A.1. <u>兼子</u> 直. てんかん遺伝子 Gene associated with epilepsy. 樋口輝彦, 神庭重信, 染矢俊幸, 宮岡等編. KEY WORD精神(3版). 先端医学社:東京; 2003. p.192-4.
- A.2. 岩佐博人. てんかんの細胞内情報伝達障害. 樋口輝彦, 神庭重信, 染矢俊幸, 宮岡等編. KEY WORD 精 神 (3版). 先端医学社:東京;2003. p.198-200.
- A.3. 兼子 直, 和田一丸。てんかんの薬物療法. 樋口輝彦, 小山 司, 神庭重信編。臨床精神薬理ハンドブッ ク. 医学書院:東京; 2003. p.232-43.
- A.4. <u>兼子 直</u>. クエチアピン. 村崎光邦日本語版監修. 統合失調症-最新精神薬理学-. (株) オフィスエム・アイ・ティ:東京; 2003. p.302-14.
- A.5. 兼子 直. 薬物の催奇形性と発がん性. 石崎高志, 鎌滝哲也, 望月真弓編. 薬物療法学. 南光堂:東京; 2003. p.105-13.
- A.6. <u>小野真吾</u>, 天保英明, 村上 惇. 多剤併用して遷延したうつ病. 久保木富房編. ほんとうに困った症例 集. 星和書店:東京; 2003. p.103-6.
- A.7. 菊地淳宏, 天保英明, 渡辺春子, 栗林理人. ヒステリー性転倒を繰り返し, 解離中に3階から転落した1女性例. 久保木富房編. ほんとうに困った症例集. 星和書店:東京;2003. p.170-2.
- A.8. <u>玄 東和</u>, <u>天保英明</u>, 河田祐子, <u>渡辺春子</u>, <u>栗林理人</u>. 下剤乱用, 低K血症が合併した神経性無食欲症の 1 女性例. 久保木富房編. ほんとうに困った症例集. 星和書店:東京; 2003. p.189-91.

 B.1. 樋口輝彦, 山脇成人, <u>岡田元宏</u>, <u>近藤</u> <u>毅</u>, 神庭重信. 第13回日本臨床精神神経薬理学会イブニングセミナー:気分障害の治療とバルプロ酸 2004; p.3-11.

(4)その他

英文

2002年度

- A.1. Amayasu H, Yoshida S, Kikuchi A, Gen T, Ito Y, Fukumoto K, Itai T, Urata Y, Mizushima Y, Kaneko S. Management of dementia in elderly patients undergoing long-term hemodialysis. 26th International Congress of Internal Medicine 2002.
- A.2. Zhu G, Okada M, Kamata A, Kaneko S. Effects of non-competitive antagonists of NMDA type glutamate receptor, phenylcidine and MK-801, on releases of dopamine, serotonin and GABA in frontal cortex using in vivo microdialysis. Jpn J Pharmacology 2002;88:150.
- A.3. Okada M, Zhu G, Kamata A, Yoshida S, Kaneko S. Visualized demonstration of voltage-sensitive calcium channel function on neuronal excitability propagation in entorhina-hippocampal pathway. Jpn J Pharmacology 2002:88:150.
- A.4. Ono S, Suzuki A, Kondo T, Mihara K, Yasui-Furukori N, Ishida M, Furukori H, Kaneko S, Otani K. The -141C/del polymorphism in the dopamine D2 receptor gene promoter region is associated with anxiolytic and antidepressive effects during bromperidol and nemonapride treatments in schizophrenia. Int Clin Psychopharm 2002;17:S7.
- A.5. Yasui N, Kondo T, Suzuki A, Mihara K, Ono S, Kaneko S, Otani K. Comparison in prolactin concentration during haloperidol and risperidone treatments in the same female patients with schizophrenia. Int Clin Psychopharm 2002;17:S67-8.
- A.6. Kondo T, Mihara K, Suzuki A, Yasu-Furukori N, Ono S, Kaneko S, Otani K. Relationship between dopamine D2 gene polymorphism and extrapyramidal side effects of selective dopamine antagonists. Int Clin Psychopharm 2002;17:S78.
- A.7. Kondo T, Mihara K, Suzuki A, Yasui-Furukori N, Ono S, Kaneko S. Combination of dopamine D2 receptor gene polymorphisms as a possible predictor of treatment-resistance to dopamine receptor anatagonists in schizophrenic patients. Int Clin Psychopharm 2003;18:180-1.
- A.8. Mihara K. dopamine D2 receptor gene polymorphisms and clinical response to dopamine D2 receptor antagonists. Int Clin Psychopharm 2002;17:S59.
- B.1. Yoshida S, Amayasu H, Kikuchi A, Urata Y, Mizushima Y, Kaneko S. The risk factor for psychiatric problems in elderly patients with hemodialysis. J Am Geriatr Soc 2002;50:S90.
- B.2. Yoshida S, Amayasu H, Urata Y, Irie Y, Ono S, Oshikata C, Suzuki Y, Mizushima Y. Polymorphisms in LTC4 synthase as a risk factor of aspirin-induced asthma in Japanese population. 26th International Congerss Internal Medicine Proceedings 2002.

和文

- A.1. <u>小野真吾</u>, 天保英明, 玄 東和, <u>川村直子</u>, <u>兼子 直</u>. 生体部分肝移植のリエゾン活動で関与した高齢ドナーの 1 例. 心身医学 2002;42:389.
- 女
 東和
 大保英明
 川村直子
 豊嶋秋彦
 兼子
 直. 退院後に母親からの虐待が判明した神経性大食症の1女性例
 2002;42:390.
- A.3. <u>岩佐博人</u>,兼子 直. 学会印象記-第24回日本生物学的精神医学会-. 臨床精神医学 2002;31:889-90.
- A.4. 川村直子、板井貴宏、天保英明、玄<u>東和</u>、斉藤恵子、鳴海肇子、兼子<u>直</u>. 移植患者におけるエゴグラムと POMS の有用性 3 症例を通して 、心身医学 2002;42:691.
 A.5. 兼子 直、岡田元宏、てんかん責任遺伝子から合成された変異蛋白機能補正法の検索 シナプス蛋白複合
- 体形成-分離過程の神経伝達物質遊離機構を介した抗てんかん作用発現機序の解析-. 弘前大学地域共 同研究センター(CJR) 2002;平成13年度年報第5号:32-3.
- A.6. 浜田美実、天保英明、菊池淳宏、玄 東和、平野敬之、林 進、兼子 直. 当院における精神科コンサルテーション活動の現状ー65歳以上の高齢者を中心に一. 総合病院精神医学 2002;14:S97.

 A.7. <u>岡田元宏、朱 剛、吉田淑子、金井数明、岩佐博人、兼子 直</u>. シナプス複合体形成ー分離過程の神経伝達物質遊離機構を介した抗てんかん作用発現機序の解明. てんかん治療研究振興財団研究年報 2002;14:61-74.
- A.8. 岩佐博人, 中島祥夫, 下山一郎, 峯清一郎, 大野博司, 兼子 直, 菊池周一, 渡辺博幸. 難治性てんかん の病態基盤における G 蛋白質 β サブユニット及び標的効果の役割 – 側頭葉てんかん焦点切除組織及びキ ンドリングモデルにおける研究-. 平成12年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)(2)研究成果報告書,研究 課題番号12670925,代表研究者:岩佐博人 2002;1-84.
- A.9. 兼子 直. てんかん患者の妊娠・出産は可能か. 暮らしと健康 2003;3:91. A.10. 岡田元宏, 朱 剛, 吉田淑子, 金井数明, 兼子 直. 皮質-海馬伝達機構の高速画像解析法およびマル チプローブダイアリーシス法を用いた検討. 精神薬療基金研究年報 2003;35:74-87.
- A.11. 兼子 直, 辻 省次, 中村祐輔, 小国弘量, 佐野 輝, 満留昭久, 後藤雄一, 飯沼一宇, 山川和弘, 渡邊 一功, 伊藤正利, 山寺博史, 前澤真理子, <u>和田一丸</u>. てんかんおよび熱性けいれんの遺伝子解析. 平成12 年度~平成14年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))研究成果報告書, 代表研究者:兼子 直, 研究課題 番号:12307019. 2003;1-624.
- A.12. 天保英明, 川村直子. 医療における心理士の役割-精神化の立場から-. 心身医学 2002;42:71.
- B.1. 古郡規雄, 高畑武功, 近藤 毅, 三原一雄, 小野真吾, 兼子 直, 立石智則. クアゼパンの吸収過程における食事摂取時間と食事中の脂肪量の影響について. 臨床薬理 2003;34:293S-4S.

2003年度

- A.1. 岡田元宏, 朱 | 剛, 吉田淑子, 金井数明, 兼子 | 直. 皮質 - 海馬伝達機構の高速画像解析法およびマル チプローダダイアリーシス法を用いた検討. 精神薬療基金研究年報 2003;35:74-87. 兼子 直, 辻 省次,中村祐輔,小国弘国,佐野 輝,満留昭久,後藤雄一,飯沼一宇,山川和弘,渡邊
- 一功, 伊藤正利, 山寺博史, 前澤真理子, 和田一丸. てんかんおよび熱性けいれんの遺伝子解析. 平成12 年度~平成14年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))研究成果報告書, 代表研究者:兼子 直, 研究課題 番号: 12307019, 2003.
- A.3. <u>岡田元宏</u>, 廣瀬伸一, 山川和弘, 吉田淑子, 朱 <u>剛</u>, 兼子 直. 制御ニコチン性アセチルコリン受容体機能変化としての"てんかん"病態の解明とアセチルコリン開口分泌機構を作用機序としたてんかん治療 薬の開発法の提言。中村重信編。アセチルコリン最新の話題(第6回神経伝達物質研究会記録集)。
- A.4. <u>岩佐博人</u>, 中津 史, 笠置泰史, <u>岡田元宏</u>, 峯清一郎, <u>金井数明</u>, 大野博司, <u>兼子</u> 直. てんかんの新た な分子基盤としてのアダプター複合体の役割-μ3B遺伝子ノックアウトマウスによる研究-. てんかん 治療研究振興財団研究年報 2003;15:31-8.
- A.5. <u>兼子</u> 直, 岡田元宏, 吉田淑子. てんかん責任遺伝子から合成された変異蛋白機能補正法の検索-シナプ 一ス蛋白複合体形成-分離過程の神経伝達物質遊離機構を介した抗てんかん作用発現機序の解明-. 弘前 大学地域共同研究センタ(CJR). 平成14年度年報 2003;第6号:32-3. A.6. 兼子 直. けいれん・てんかん. 日本医事新報 2004;1-4.
- A:手洗いとリストカットの背後には、人格障害があると思われます。月刊 Just Health 2004;2004年 4月号:21.
- 直. 第37回日本てんかん学会印象記. 精神医学 2004;46:322-3. A.8. 岩佐博人,兼子
- A.9. 三浦 淳、兼子 直、自殺予防における薬物療法の役割、平成15年度厚生労働科学研究費補助金(がん予 防等健康科学総合研究事業)「青森県市町村における自殺予防システムの構築」活動成果報告書, 2004.
- A.10. <u>栗林理人</u>,和田一丸<u>兼子</u>直,<u>岡田元宏</u>.てんかん遺伝子研究の治療への展開:変異蛋白機能補正と synprint仮説を応用した,新たな抗てんかん薬の開発.平成13年度~平成15年度科学研究費補助金(基盤 研究(C)(2)一般)研究成果報告書,課題番号:13670970,研究代表者:栗林理人,2004.
- A.11. 兼子 直. てんかん病態解明への挑戦. International Epilepsy News 2004;149:12-3.
- A.12. 兼子 直. 熱性けいれん、常染色体優性てんかん熱性けいれんプラス、乳児重症ミオクロニーてんかんの 遺伝子診断の試み-SCN1Aミスセンス変異の局在に関する解析-. 厚生労働省精神・神経疾患研究委託 費 (13指-1)「てんかんの診断・治療ガイドライン作成とその実証的研究」、平成15年度研究報告書、主任 研究者:藤原建樹, 125-31, 2004.
- A.13. <u>岡田元宏, 朱 剛, 吉田淑子</u>, 森 秋文, 中津 史, 兼松 隆, 平田雅人, 若林孝一, 大野博司, <u>兼子</u>直. リバースゲノミクス的研究手法を用いた中枢系機能性疾患における ER ストレス仮説の構築. 精神
- B.1. 若林孝一, 森 文秋, <u>岡田元宏</u>, 兼子 直. 海馬の神経伝達物質遊離ならびに神経細胞死におけるカルシウムイオン放出システムの影響. てんかん治療研究振興財団研究年報 2003;15:23-9.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著. 総説(A. Bのみ)

<u>英文</u>

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Clin Electroencephal	0.779	1	0.779
Biol Psychology	2.128	3	6.384
Neurosci Res	1.77	2	3.54
Psychopharmacology	3.145	1	3.145
Am J Med Genet	2.378	2	4.756
Ther Drug Monit	2.049	1	2.049
Int Cong Series	0	3	0
Epilepsia	3.271	2	6.542
Life Sci	1.758	1	1.758
Epilepsy Res	2.357	1	2.357
NeuroImage	7.879	1	7.879
Prog Neuro-Psychoph Biol Psychiatr	1.058	1	1.058
Psychopharmacology	3.145	1	3.145
Epilepsia	3.271	3	9.813
Int Cong Series	0	1	0
J Clin Pharmacology	2.167	3	6.501
Brain Dev	1.049	1	1.049
Total		28	60.775

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Cognitive Brain Res	2.884	1	2.884
Threr Drug Monit	2.049	2	4.098
Prog neuro-Psychopharmacol Bio Psychiat	1.058	1	1.058
Br J Clin Pharmacol	2.213	1	2.213
J Clin Psychopharmacol	4.013	1	4.013
Ther Drug Monit	2.049	1	2.049
Brain Dev	1.049	1	1.049
Epilepsia	3.271	1	3.271
NeuroImage	7.879	1	7.879
Total		10	28.514

和文 (論文数)

雑	盐	名	2002年度	2003年度
日本神経精神薬理学雑詞	法		1	
心療内科			1	
臨床脳波			2	1
Clin Neurosci			2	
漢方と最新治療			1	
てんかん学の最前線			1	
透析ケア			1	
精神科			1	1
臨床精神病理			1	
神経内科			2	
精神科治療学			1	1
Molecular Medicine			2	1
医学のあゆみ			1	
治療			6	1
内科専門医会誌			5	
脳と精神医学			1	
日本医事新報			1	
精神科診断学			1	
日本臨床			3	1
Recent Advances in Re	eproductive Me	edicine	1	
臨床精神薬理			1	
Mebio			1	
アセチルコリン最新の記	活題		1	
呼吸			1	
神経進歩				2

日本心療内科学雑誌 臨床精神医学 Progress Medicine Reproductive Medicine 難病と在宅ケア 神経治療学 精神経誌		1 2 1 1 1 1
ii†	39	16

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	1	1

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	25	8

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑 誌 名	2002年度	2003年度
弘前大学地域共同研究センター(CJR)	1	
てんかん治療研究振興財団研究年報	1	1
科学研究費補助金研究成果報告書	2	2
暮らしと健康	1	
精神薬療基金研究年報	1	2
アセチルコリン最新の話題(第6回神経伝達物質研究会記録集)		1
弘前大学地域共同研究センター(CJR)年報		1
日本医事新報		1
月刊 Just Health		1
精神医学		1
厚生労働科学研究費補助金活動成果報告書		1
International Epilepsy News		1
厚生労働省精神•神経疾患研究委託費研究報告書		1
計	6	13

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

- A.1. Zhu G, Okada M, Kamata A, Kaneko S. Effects of non-competitive antagonists of NMDA type glutamate receptor, phenylcidine and MK-801, on releases of dopamine, serotonin and GABA in frontal cortex using in vivo microdialysis. The 75th Annual Meeting of the Japanese Pharmacological Society, Kumamoto, Japan. 2002.
- A.2. Okada M, Zhu G, Kamata A, Yoshida S, Kaneko S. Visualized demonstration of valtage-sensitive calcium channel functio on neuronal excitability propagation in entorhinal-hippocampal pathway. The 75th Annual Meeting of the Japanese Pharmacological Society, Kumamoto, Japan 2002.
- B.1. Yamakawa K, Suzuki T, Medina TM, Alonso EM, Morita R, Bai D, Inoue Y, Osawa M, <u>Kaneko S</u>, Oguni H, Delgado-Escueta VA. EFHC1 gene on 6p12.1 is mutated in patients with juvenile myoclonic epilepsy. 1st International Workshop "Frontiers in Molecular Neuropathology"
- B.2. <u>Mihara K, Kondo T, Yasui-Furukori N, Ono S, Kaneko S,</u> Otani K. Dopamine D2 receptors gene polymorphism and clinical response to selective dopamine anatagonists. 10th Meeting of the Pacific Association for Clinical Pharmacogenetics. Toyonaka, JAPAN, 2002.
- B.3. Kasagi Y, <u>Iwasa H</u>, Nakatsu F, <u>Okada M</u>, <u>Zhu G</u>, Ohno H, <u>Kaneko S</u>. Behavioral and electroencephalographical analysis of epileptogenesis in μ3B knockout mouse. The Fouth Asian and Oceanian Epilepsy Congress (AOEC) 2002, Karuizawa, JAPAN, 2002.
- C.1. Yoshida S, <u>Amayasu H, Kikuchi A</u>, Urata Y, Mizushima Y, <u>Kaneko S</u>. The risk factor psychiatric for problems in elderly patients with hemodialysis. American Geriatrics Society 2002 Annual Scientific Meeting, Washington, D.C., USA, 2002.
- C.2. <u>Amayasu H, Yoshida S, Kikuchi A, Gen T, Ito Y, Fukumoto K, Itai T, Urata Y, Mizushima Y, Kaneko S.</u> Management of dementia in elderly patients undergoing long-term hemodialysis. 26th International

- Congress of Internal Medicine, Kyouto, JAPAN, 2002.
- C.3. Yoshida S, <u>Amayasu H</u>, Urata Y, Irie Y, <u>Ono S</u>, Oshikata C, Suzuki Y, <u>Kaneko S</u>. Polymorphism in LTC4 synthase a risk factor of aspirin-induced asthma in Japanese population. 26th International Congress of Internal Medicine, Kyouto, JAPAN, 2002.
- C.4. Ono S, Mihara K, Kondo T, Yasui-Furukori N, Suzuki A, Kubota T, Ishida M, Vries R, Kaneko S. Effects of CYP2D6 genotype on plasma concentrations of risperidone and its active metabolite, 9-hydroxyrisperidone, in Japanese schizophrenic patients. 23th Collegium Internationale Neuro-Psychopahrmacologicum (CINP), Montreal, CANADA, 2002.
- C.5. Mihara K, Suzuki A, Kondo T, Otani K, Yasui-Furukori N, Sano A, Koshiro K, Kaneko S. Association of the TAQ1 a polymorphisms of the dopamine D2 receptor gene with predisposition to neuroleptic malignant syndrome. 23th Collegium Internationale Neuro-Psychopahrmacologicum (CINP), Montreal, CANADA, 2002.
- C.6. Kondo T, Mihara K, Suzuki A, Ono S, Kaneko S, Yasui-Furukori N. Genotype combination of dopamine D2 receptor gene polymorphisms as a marker for antidopaminergic drug treatment-resistance in schizophrenics. 23th Collegium Internationale Neuro-Psychopahrmacologicum (CINP), Montreal, CANADA, 2002.
- C.7. Shinozaki N, Yabe H, Sato Y, Hiruma T, Sutoh T, Matsuoka T, Kaneko S. Spectrotemporal window of integration of auditory information in the human brain. 11th World Congress of Psychophysiology, Montreal, CANADA, 2002.
- C.8. <u>Sasaki T</u>, CampbellBK, Stelmach MR, <u>Kaneko S</u>. Event-related potentials ans involuntary attention shift extraverts including. XII World Congress of Psychiatry, Yokohama, JAPAN, 2002.
- C.9. Iwasa H, Wada K, Tomioka T, Kawata Y, Okada M, Kaneko S. Self-efficacy and coping style in adult patients with epilepsy. The Fouth Asian and Oceanian Epilepsy Congress (AOEC) 2002, Karuizawa, JAPAN, 2002.
- C.10. Okada M, Zhu G, Yoshida S, Kanai K, Iwasa H, Kaneko S. Two-dimensional monitoring of effects of carbamazepine on propagation of neuronal excitability using multiple-electrode dish with high-speed fluorescence CCD system. The Fouth Asian and Oceanian Epilepsy Congress (AOEC) 2002, Karuizawa, JAPAN, 2002.
- C.11. <u>Kanai K</u>, Kuwabara S, Uchiyama T, <u>Okada M</u>, KoyamaY, Ishio N, <u>Iwasa H</u>, <u>Kaneko S</u>, Hattori T. A case of familial paroxysmal hypnogenic dyskinesia and and sick sinus syndrome with severe abnormality of potassium-conductance in peripheral nerve. The Fouth Asian and Oceanian Epilepsy Congress (AOEC) 2002, Karuizawa, JAPAN, 2002.
- C.12. Zhu G, Okada M, Shukuko Y, Nakatsu F, Kanai K, Iwasa H, Ohno H, Kaneko S. Reciprocal release profile between hippocampal monoamines and acethylcholine releases in a novel spontaneous epilepsy model, mu3B deficient mice. The Fouth Asian and Oceanian Epilepsy Congress (AOEC) 2002, Karuizawa, JAPAN, 2002.
- C.13. <u>Yoshida S, Okada M, Zhu G, Kanai K, Iwasa H, Kaneko S</u>. Effects of carbamazepine on cAMP-dependent protein kinase related exocytosis. The Fouth Asian and Oceanian Epilepsy Congress (AOEC) 2002, Karuizawa, JAPAN, 2002.
- C.14. Yoshida S, <u>Amayasu H</u>, Urata Y, Irie Y, <u>Ono S</u>, Oshikata C, Suzuki Y, <u>Kaneko S</u>. Polymorphism in LTC4 synthase as a risk factor of aspirin-induced asthma in Japanese population. 26th International Congress of Internal Medicine. Kyoto, JAPAN. 2002.

- B.1. <u>Yabe H</u>: The temporal window of integration in adults. In Symposium 6 Sound organization from birth to old age (Winkler I): 3rd International Workshop on Mismatch Negativity and auditory Functions and Dysfunctions, Lyon, France, 2003.
- C.1. Itai T, Amayasu H, Kikuchi A, Gen T, and Kaneko S. The mental process of the patients on hemodialysis, mainly easily upset or irritated. 17th World Congress on Psycosomatic Medicine, Waikoloa, Hawaii, USA, 2003.
- C.2. Kikuchi A, Amayasu H, Itai T, Hamada Y, and Kaneko S. Influence of psychiatric problems on the course of hemodialysis in patients who were referred to consultation liaison psychiatry service. 17th World Congress on Psycosomatic Medicine, Waikoloa, Hawaii, USA, 2003.

(2)全国学術集会

- A.1. 兼子 直. てんかんの分子病態. 第25回日本神経科学会(東京都) 2002.
- A.2. Zhu G, Okada M, Kamata A, Kaneko S. Effects of non-competitive antagonists of NMDA type glutamate receptor, phenylcidine and MK-801, on releases of dopamine, serotonin and GABA in frontal cortex using in vivo microdialysis. The 75th Annual Meeting of the Japanese Pharmacological Society, 2002, Kumamoto, Japan.
- A.3. Okada M, Zhu G, Kamata A, Yoshida S, Kaneko S. Visualized demonstration of valtage-sensitive calcium channel functio on neuronal excitability propagation in entorhinal-hippocampal pathway. The 75th Annual Meeting of the Japanese Pharmacological Society, 2002, Kumamoto, Japan.
- B.1. <u>岡田元宏、兼子</u>直、廣瀬伸一、山川和弘、吉田淑子、朱 剛、村上拓也、ニコチン性アセチルコリン 受容体機能変化としての"てんかん"病態の解明とアセチルコリン開口分泌制御機構を作用機序としたてんかん治療薬の開発法の提言。第6回神経伝達物質研究会(東京都)2002.
- B.2. <u>矢部博興</u>. 聴覚情報の intergration と segregation. 第32回日本臨床神経生理学会学術大会(シンポジウム11: Mismatch negativity研究の最前線). 福島市. 2002.
- B.3. <u>篠崎直子</u>, 佐藤泰治, <u>矢部博興</u>. MMN の発生源に関する最近の知見及び側頭葉 MMNm を指標とする聴覚 周波数時間統合機能の検討. 第32回日本臨床神経生理学会学術大会(シンポジウム11: Mismatch negativity 研究の最前線). 福島市. 2002.
- B.4. <u>矢部博興</u>, 須藤武行, <u>晝間臣治</u>. 事象関連電位の意義・計測法・臨床応用・将来の研究. 第32回日本臨床

神経生理学会学術大会 (ハンズオンセミナー1). 2002.

- B.5. 矢部博興. Mismatch Negativity 研究における脳波の意義について. 第5回ヒト脳機能マッピング研究会 <u>(オーガナ</u>イザーセッション). つくば市. 2003.
- 19件

2003年度

- A.1. 兼子 直、てんかんとチャネロパチー Epilepsy as a channelpathy . 第21回日本神経治療学会総会. (東京都) 2003.
- A.2. 兼子 直. てんかんの遺伝子. 第39回脳のシンポジウム. (東京都) 2004.
- A.3. 天保英明. ケースカンファレンス:セルフケア不良の糖尿病性腎症の1例. 第14回日本サイコネフコロ ジー研究会. (東京都), 2003.
- B.1. <u>岡田元宏</u>, 朱 剛, 吉田淑子, <u>岩佐博人</u>, 兼子 直. ラット海馬 serotonin 開口分泌機構に対する adenosine 受容体 subtype の相互作用の検討. 第33回日本神経精神薬理学会. (奈良市), 2003.10.8-10 B.2. <u>岡田元宏</u>. 受賞講演:ニコチン性アセチルコリン受容体機能変化としての"てんかん"病態の解明とアセチルコリン開口分泌制御機構を作用機序としたてんかん治療薬の開発法の提言. 2003年度神経伝達物質 研究会. (東京都). 2003.8.9
- B.3. <u>岡田元宏</u>. 抗てんかん薬の情動安定化作用の機序:バルプロ酸のモノアミンに対する効果を中心に、第13 回日本臨床精神神経薬理学会・イブニングセミナー「気分障害の治療とバルプロ酸」. (弘前市), 2003.10.1.
- B.4. 岡田元宏. てんかん関連遺伝子の機能解析. 第37回日本てんかん学会:シンポジウム「てんかんと遺伝 子」、(弘前市)、2003.10.29
- B.5. 石井敦士, 福間五龍, 濱地昭代, 安河内緑, 上原 明, 宮島 佑, 蒔田芳男, 井上貴仁, 岡田元宏, 廣瀬 伸一, 兼子 直, 満留昭久. KCNQ2 遺伝子の de novo 変異による弧発の良性新生児けいれん. 第37回日 本てんかん学会. (仙台市), 2003.10.29
- C. 14件

III. 学術賞

2002年度

- ・岡田元宏. 財団法人パブリックヘルスリサーチセンター 神経伝達物質研究助成 (平成14年度). ニコチン性アセチルコリン受容体機能変化としての"てんかん"病態の解明とアセチルコリン開口分泌制御 機構を作用機序としたてんかん治療薬の開発法の提言.
- ・ポール・ヤンセン賞(日本臨床精神神経薬理学会賞),近藤 毅, Dopamine D2 受容体遺伝子多型を用い た dopamine 受容体遮断薬に対する治療抵抗性の予測.

2003年度

○第33回日本神経精神薬理学会学術賞受賞:岡田元宏, 朱 剛, 吉田淑子, 岩佐博人, 兼子 直. ラッ ト海馬 serotonin 開口分泌機構に対する adenosine 受容体 subtype の相互作用の検討. 第33回日本神経 精神薬理学会. 奈良市, 2003.10.8-10.

IV. 共同研究

2002年度

- てんかん及び熱性けいれんの遺伝(子)共同研究主催(国際)
- ・フィンランド・ヘルシンキ大学・心理学教室 (Prof. Risto Näätänen)
- ・ハンガリーアカデミー・心理学研究室(Prof. Istra Winkler)
- ・スペイン・バルセロナ大学・心理学研究室 (Prof. Carles Escera)
- ・オーストラリア・ニューキャッスル大学・精神科学研究室 (Prof. Patricia Michie)

2003年度

- ○てんかん及び熱性けいれんの遺伝(子)共同研究主催(国際)
- ○フィンランド・ヘルシンキ大学・心理学教室(Prof. Risto Näätänen)
- ○ハンガリーアカデミー・心理学研究室(Prof. István Winkler)
- ○スペイン・バルセロナ大学・心理学研究室 (Prof. Carles Escera)
- ○オーストラリア・ニューキャッスル大学・精神科学教室 (Prof. Patricia Michie)
- ○中枢神経系機能性疾患の分子病態の解析:(財)愛成会
- ○中枢神経系機能性疾患の分子病態の解析:シバタ医理科

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

- ・兼子 直. 基盤研究(A)(1)一般. てんかんおよび熱性けいれんの遺伝子解析. 11,700千円.
- ・兼子 直, 平成14年度高度先進医療開発経費(平成14-16年度) В 研究, 精神分裂病に対する神経伝達

物質受容体遺伝子マーカーを用いたオーダーメイド治療の確立、13,000千円、

- ・近藤 毅, 基盤研究(C)(2)一般, ドーパミン及びセロトニン受容体遺伝子多型の薬力学的指標への応 用性に関する研究. 500千円.
- 矢部博興、基盤研究(C)(2)一般、言語性幻聴を示す精神分裂病患者における背景音声言語の自動的処 理過程の研究. 900千円.
- ・栗林理人、基盤研究(C)(2)一般、てんかん遺伝子研究の治療への展開:変異蛋白機能補正と synprint 仮 説を応用した、新たな抗てんかん薬開発. 600千円
- ・岡田元宏. 若手研究(B)(2). 双極性感情障害とてんかんの共通病態としての異常スウィッチング機構 形成機序解明:シナップス蛋白複合体形成-分離過程調整による新たな精神・神経疾患薬物治療開発の 試み. 500千円
- ・三原一雄、若手研究(B)(2)、神経遮断薬悪性症候群の病態と遺伝的素因の解明、800千円、
- ・篠崎直子. 若手研究(B)(2). 脳磁図を指標とした精神分裂病患者の視覚野に表現される情報処理構造 に関する研究、1,300千円、
- 天保英明, 若手研究(B)(2). 日本における臓器移植: 特に腎移植および生体肝移植への精神医学的接 近法の設定. 400千円.

他研究単位との研究分担者として

- ・兼子 直, 岡田元宏, 基盤研究(B)(1)展開. ヒトてんかんと同じ遺伝子異常を持つモデル動物の作成 とその神経薬理学的病態解明. (代表:福岡大学 廣瀬伸一). 400千円.
- ・兼子 直. 基盤研究(B)(1)一般. 中枢神経に発現するイオンチャネルのポアを標的とした小児てんか んの責任遺伝子の同定. (代表:福岡大学 廣瀬伸一). 600千円.
- ・岡田元宏. 特定領域研究(A). チャネル病の作業仮説に基づく大量高速処理法によるてんかんの責任 遺伝子の検索. (代表:福岡大学 廣瀬伸一).
- ・兼子 直. 基盤研究(C)(2)一般. ドーパミン及びセロトニン受容体遺伝子型の薬力学的指標への応用 性に関する研究. (代表:近藤毅). 500千円.
- ・基盤研究(C)(2)一般. 言語性幻聴を示す精神分裂病患者における背景音声言語の自動的処理過程の研究. (代表:矢部博興). 900千円. ・基盤研究(C)(2)一般. てんかん遺伝子研究の治療への展開:変異蛋白機能補正とsynprint仮説を応用し,
- 新たな抗てんかん薬開発. (代表:栗林理人). 600千円.
- ・天保英明. 基盤研究(C)(2)一般. 透析を受ける慢性腎不全患者患者への在宅メンタルヘルス今後に関 する研究. (代表:木立るり子). 1,400千円.
- Yabe H: National Health & Medical Research Council (NHMRC) Project Grant funding (No. 209828), 分担, January 1, 2002 - December 31, 2004, 'Abnormal auditory system function in schizophrenia: an ERP and MEG study of its origin, course and generality', Australia, \$246973.

2003年度

研究代表者として

- ○特別研究員奨励費: リバース及びファンショナルゲノミクスによるてんかん分子病態の解析, 1,200千円
- ○平成14年度高度先進医療開発経費(平成14-16年度) B 研究 精神分裂病に対する神経伝達物質受容体 遺伝子マーカーを用いたオーダーメイド治療の確立, 13,000千円
- ○基盤研究B一般 (課題番号15390346),代表,2003年~2006年,研究課題「統合失調症患者における聴覚 性感覚記憶内の時間圧縮現象の研究」、410万円.
- ○文部省科学研究費基盤研究C一般(課題番号15639008), 代表, 2003年~2006年, 研究課題「聴覚性感覚記 憶機構の学際的研究」、350万円.
- ○萌芽研究:リバースゲノミクス的中枢神経系機能性疾患感受性遺伝子検索法の開発,1,800千円 他研究単位との研究分担者として
- ○基盤研究(B)(1):ヒトてんかんと同じ遺伝し異常を持つモデル動物の作成とその神経薬理学的病態解 明Ⅱ. 800千円
- ○基盤研究(C)(2):ニューロンネットワーク情報伝達の基本的機能の解析-疾患モデル動物の機能変異解 析法の開発-, 200千円
- ○基盤研究(C):輸送蛋白複合サブユニットμ3B欠損マウスにおけるてんかん発作発症機構の解明,
- ○中枢神経系に発現するチャネル・受容体を標的とした小児てんかんの責任遺伝子の同定,800千円

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

他研究単位との研究分担者として

・兼子 直. 厚生省精神・神経疾患研究委託費. てんかんの診断・治療ガイドライン作成とその実証的研 究. (代表:静岡医療センター 藤原建樹). 1,200千円.

2003年度

他研究単位との研究分担者として

- ○厚生労働省精神・神経疾患研究委託費: てんかんの診断・治療ガイドライン作成とその実証的研究, 1,000
- ONational Health & Medical Research Council (NHMRC) Project Grant funding (No. 209828), 分担, January 1, 2002 - December 31, 2004, 'Abnormal auditory system function in schizophrenia: an ERP and MEG study of its origin, course and generality', Australia, \$246973.

(3)学内の研究助成

研究代表者として

- ・兼子 直. 学術国際振興基金助成事業. A-1②先進的な研究への助成. リーバースゲノミクス的研究手法を用いた中枢神経系機能性疾患の責任遺伝子・中核病態解析手法の確立. 3,000千円.
- ・兼子 直. 平成14年度教育改善推進費(教育研究プロジェクト経費). てんかんに対するイオンチャネル・チャネル内蔵型神経伝達物質受容体の遺伝的多型性を用いたオーダーメイド医療の設定. 2,000千円

2003年度

研究代表者として

- ○学術国際振興基金助成事業(A-2:国内学会・研究集会・学術講演会への助成): 第13回日本臨床精神神経薬理学会, 200千円
- ○学術国際振興基金助成事業(B-3:外国人研究者招へい旅費・滞在費の助成): Dr. Hill Ray(Executive director Marck, Starp & Dohme, Research Labs, Neuroscience Research Center, England), 475千円
- ○学術国際振興基金助成事業:ファンショナルゲノミクス的研究手法を用いた中枢神経系機能性疾患の分子病態解明,1,000千円

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として

- 岡田元宏. 先進医薬研究振興財団研究助成. ゲノム創薬を目的とした二次元・画像化による神経伝達機構機能解析法開発の試み. 1,000千円.
- ・岡田元宏、財団法人パブリックヘルスリサーチセンター 神経伝達物質研究助成(平成14年度)、ニコチン性アセチルコリン受容体機能変化としての"てんかん"病態の解明とアセチルコリン開口分泌制御機構を作用機序としたてんかん治療薬の開発法の提言。(代表:岡田元宏)、2,000千円、研究分担者として
- ・兼子 直. 先進医薬研究振興財団研究助成. ゲノム創薬を目的とした二次元・画像化による神経伝達機 構機能解析法開発の試み. (代表:岡田元宏). 1,000千円.
- ・兼子 直. 財団法人パブリックヘルスリサーチセンター 神経伝達物質研究助成(平成14年度). ニコチン性アセチルコリン受容体機能変化としての"てんかん"病態の解明とアセチルコリン開口分泌制御機構を作用機序としたてんかん治療薬の開発法の提言.(代表:岡田元宏). 2,000千円.

2003年度

他研究単位との研究分担者として

○先進医薬研究振興財団・精神薬療研究助成:リバースゲノミクス的手法を用いた新たな不安モデル動物の作成とERストレス仮説の構築. 1,000千円

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2002年度

- Dr. Owen Surman (ハーバード大学・教授)
- Dr. Hong-Ki Song (Hallym大学•教授)
- Dr. Robert J Gumnit (ミネソタ総合てんかんセンター・総長)

2003年度

- Opr.Hill Ray Executive director Marck, Starp & Dohme, Research Labs, Neuroscience Research Center, England, 2003.10.1-3
- ○朱 剛, 日本学術振興会,中国,2003.4.1~2005.3.31(2年間) Rafal Novak博士, Neurodynamics Laboratory, Department of Psychiatry and Clinical Psychobiology, University of Barcelona. 平成16年2月28日~平成16年3月7日(9日間滞在)
- c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

なし

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

○三浦 淳: Department of Medical Laboratory Sciences and Technology Division of Clinical Pharmacology, Karolinska Institutet at Huddinge University Hospital, S-141 86 Stockholm, SWEDEN

f) その他

2002年度

- 兼子 直. 日本学術振興会専門委員
- ・矢部博興: Biological Psychology (Elsevier) のAssociate Editor (2001年1月より現在まで)

2003年度

- 兼子 直. 日本学術振興会専門委員
- ・矢部博興: Biological Psychology (Elsevier) の Associate Editor (2001年1月より現在まで)

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2002年度

・国際うつ病フォーラムin 弘前(2002.8.30)

近藤 毅助教授(弘前大学医学部神経精神医学講座)「うつ病について-特に症状を中心に-」 加賀谷睦子看護師長(老人保健施設シルバービラ弘前)「老人保健施設入所者のうつ状態の諸問題の 対応について|

Dr. Owen Surman (ハーバード大学教授) 「Strategies for Management of Depression in Outpatient Practice」

・ 臨床てんかん学ミニシンポジウム(2002.10.11)

小穴靖功(聖パウロ病院・副院長)「Multiple Lobe Epilepsy」

Dr. Hong-Ki Song(Hallym大学教授)「Rational Antiepileptic Drug Combination Therapy for Refratory Epilepsy」

Dr. Robert J Gumnit (ミネソタ総合てんかんセンター・総長)「The Varieties of Non-Epileptic Serizures」

2003年度

○第13回日本精神神経薬理学会,平成15年10月1日~3日,弘前市

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

- 第26回神経精神薬理研究会 (2002. 7.27)
 - 尾崎紀夫(藤田保健衛生大学医学部精神医学講座・教授)「うつ病の早期発見と社会復帰に向けた治療」
- 第27回神経精神薬理研究会(2002.12.7)
- 野村總一郎(防衛医科大学校精神科学講座・教授)「うつ病の病態に応じた治療戦略」

2003年度

- ○第28回精神科治療研究会(2003.6.14)
 - 大野 裕 (慶應義塾大学保健管理センター・教授) 「認知行動療法の臨床」
- ○第29回精神科治療研究会(2003.11.22)

丹羽真一(福島県立医科大学医学部神経精神医学講座・教授)「電気痙攣療法の現在と磁気刺激療法」

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

2002年度

• 金井数明(千葉大学大学院医学研究科)

2003年度

- ○金井数明. 千葉大学神経内科
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況

なし

VII. その他

なし

20. 小児科学講座

【研究単位の目標到達度, 理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

分子生物学を小児科学の領域に取り入れ、遺伝子レベルで小児疾患の病態・病因の解析を行うことを大きな目標に 設定したが、ほぼ達成された。

1. 小児の血液疾患の病因を理解するために、原因の候補となる遺伝子の変異の有無について解析を進める。特に Diamond-Blackfan 貧血の病因遺伝子の解析を行う。

Diamond-Blackfan 貧血の病因遺伝子の原因遺伝子の一つである RPS19 の解析を進めているが、欧米では Diamond-Blackfan 貧血患者の25%に遺伝子変異が見られると報告されているが、本邦の症例では15例解析して1例も遺伝子変異が見つからなかった。従って、本疾患の原因遺伝子は人種によって大きく異なることが明らかになった。

2. 血球分化に関わる転写因子の基礎研究を行い、小児白血病の病因・病態に迫る。

この2年間で、最も大きな進歩は、Down 症候群に伴う急性巨核球性白血病とその前白血病状態であるtransient myeloproliferative disorder (TMD) の発症に赤血球・巨核球系転写因子 GATA-1 の遺伝子変異が重要な役割を はたしていることを見いだしたことである。また、GATA-1 の変異は、一卵性双生児の TMD の症例の解析から、母体内で起こっていることを見いだした。これらの研究成果は、血液学の最も権威ある雑誌 Blood に 2 編の論文として発表することができた。十分な成果を得ることができたと思われる。

また、BACH1 転写遺伝子を赤血球・巨核球系細胞に特異的に過剰発現したトランスジェニックマウス (BACH1 TG) を作成した。BACH1 TG は、巨核球の分化成熟が障害されているために、血小板減少を認めた。BACH1 転写因子が巨核球造血の抑制因子であることを世界で初めて見いだした。この2年間の目標達成度は満足いくものであった。

- 3. 小児循環器疾患のうちチャネル異常が原因と考えられる QT 延長症候群や心室頻拍患者, 遺伝的要因の強い心筋症患者において遺伝子レベルでの解析を行うことにより, 原因遺伝子の検出を試み, 遺伝子診断の確立を目指す。 心室性不整脈の遺伝子異常の解析に関しては目標を到達できなかった。 Marfan 症候群の遺伝子学的解析については大学院生の研究テーマとして成果を認めた。心不全における心筋および肺循環における神経体液因子の動態については日本小児循環器学会で報告し、日本小児循環器学会雑誌に発表した。
- 4. IgA 腎症の発症機序を解明するために、IgA 分子の腎糸球体沈着機序、フィブロネクチンとの関わりを分子レベルで明らかにする。

IgA 腎症の発症にかかわる免疫グロブリン IgA とフィブロネクチンの複合体の糸球体メサンギウムへの沈着機序に関しては、IgA 腎症患者血清中に特異的に認められるフィブロネクチン断片化物(43 kD)が製品免疫グロブリン IgA と有意な結合性を有し、これが培養ヒトメサンギウム細胞に実際の臨床症例と同様の沈着様式をとることを証明した(投稿準備中)。 ただし、遺伝子レベルでの検討は未着手のため到達度は半分程度と思われる。 今後、可能であれば IgA 腎症患者にみられるフィブロネクチンの断片化に遺伝子レベルからの検討を加えたい。

IgA 腎症の組織障害進展に大きくかかわる慢性化病変,硬化病変抑制に免疫抑制療法に加えたアンギオテンシン変換酵素阻害薬,アンギオテンシン受容体拮抗薬の併用が有意な効果を示すかどうかについては、これまでのところ少数例ながら臨床例での組織検討が可能であった。その結果は既に英文誌に受理され近日掲載予定となっている。今後多数例での検討が不可欠だが、到達度は60%程度と思われる。

難治性腎疾患に対するより有効かつ副作用の少ない免疫抑制療法の臨床研究に関しては、ループス腎炎に対するミゾリビンパルス療法の検討を行い、その成果は全国学会発表と欧州の英文誌へ掲載され、全国の腎臓病専門医からの反響を得た。現在、東北地区を中心とした多施設との共同研究へと発展しており、目標の到達度は80%程度と思われる。今後、基礎的な面からも有効性を裏付ける検討を行って行く予定である。

微小変化型ネフローゼ症候群の発症にかかわる免疫学的機序に関しては、糸球体上皮細胞障害に注目し免疫学的面からの検討を予定しているが、まだ準備段階留まっている。

大学病院に紹介される難治例,稀少症例の発表・報告に関しては、多くの学会報告、英文誌掲載が進んでおり、 到達度は80%程度と思われる。

5. 熱性けいれんの発症に関わる遺伝子の解析を行う。 まだ、十分な解析が行なわれていない。

理念:

小児科学の発展に寄与する臨床研究および基礎研究を行い,実際の臨床に直接的,あるいは間接的に研究成果を還元できるようにすることを目指す。

20世紀後半に始まった分子生物学の発展は目覚ましく、最近、ヒトの遺伝子も塩基配列がほとんどすべて解読されようとしている。これは、21世紀の医学に革命的な変化をもたらすと考えられる。当然、小児医療においても分子生物学の進歩が及ぼす影響は極めて大きく、小児血液学・腫瘍学、循環器学、腎臓学、神経学などあらゆる分野において分子生物学の知識は不可欠である。我々も、1990年頃より、血液学の分野で分子生物学の手法を用いて研究を進めてきたが、他の小児科領域においても、遺伝子レベルで病因・病態の解明が行えるようにシステムを構築したいと考えている。また、このような研究を行うことは、将来の医学の進歩に対応できる小児科医を育てるための良いトレーニングにもなると考えられる。

造血幹細胞移植を用いた難治性血液疾患の治療研究、心臓カテーテル法を用いる不整脈の治療など質の高い臨床 研究を進め、小児科学の進歩に貢献したい。

これから2年間の目標:

- 1. 血球分化の仕組みを分子レベルで明らかにするために、BACH 転写因子について解析を進める。
- 2. 小児白血病の発症機序の理解を深めるために、Down 症候群の白血病発症機構の解析を進める。
- 3. 小児の血液疾患の病因を理解するために、原因の候補となる遺伝子の変異の有無について解析を進める。
- 4. 小児期心疾患における心筋傷害マーカー、神経体液因子の動態を検討し、心不全、心筋疾患、冠動脈疾患、不整脈症例における重症度判定、予後規定、治療効果判定への有用性を評価する。
- 5. 小児期心疾患に対するカテーテル治療の有効性、安全性の向上にむけた研究を行う。
- 6. 小児期発症難治性腎疾患へのより効果的かつ副作用の少ない免疫抑制療法の臨床的研究を推進する。
- 7. 小児期に多い微小変化型ネフローゼ症候群の免疫学的発症機序を解明するための研究を行う。

【研究人員及び研究課題】

研究人員	教授 1, 助		币 2,	助手	6, 医員 3, 大学院学生 3, 研究生 2		
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
	教 授	専 任	伊藤	悦朗	13年		
	助教授	専 任	高橋	徹	10年		
	講師	専 任	田中	完	4年		
教 官 (教授~助手)	講師	専 任 (周産母子センター)	佐藤	エ	3年		
の詳細	助 手	専 任	藤田	浩史	4年		
り活作和		専 任	照井	君典	2年		
		専 任	高橋	良博	2年		
		専 任	佐々え	木伸也	1年		
		専 任	中畑	徹	2年		
		専 任	土岐	力	15年		
研究課題	1. Bach 転写因子による発がんの分子機構 2. Bach2 転写因子によるリンパ球分化の分子機構 3. 小児期心疾患における神経体液因子 4. 川崎病心血管系合併症の臨床的検討 5. IgA腎症発症に関わる糸球体メサンギウム細胞への免疫グロブリン IgA-フィブロネクチン複合体の沈着機序の解明 6. 微小変化型ネフローゼ症候群における蛋白尿発現に関わる糸球体上皮細胞間隙のネフリンと免疫						

- 12. BACH2 転写因子の機能解析
- 13. ネフローゼ症状群の治療法の改善
- 14. 若年性関節リウマチにおける治療法の改善
- 15. 乳児てんかんの臨床脳波学的検討

研究人員	教授 1, 助	力教授 1, 講館	币 2,助手	5 , 医員 4 , 大学院学生 3 , 研究生 3				
	役 職	専任/併任の別	氏 彳	評価年度内での在籍期間				
	教 授	専 任	伊藤 悦郎	13年				
	助教授	専 任	高橋 循	10年				
教 官	講師	専 任	田中 5	4年				
(教授~助手)	講師	専 任	土岐	17年				
の詳細	助手	専 任	藤田 浩5	4年				
	助 手	専 任	高橋 良物	2年				
	助 手	専 任	中畑	2年				
	助 手	専 任	p 任 佐々木伸也 1年					
	1. Down 症候群に伴う急性巨核球性白血病の発症機構							
	2. 血球分化	この分子機構の解	解析-BACE	転写因子を中心に				
	3. 小児白血	1病・小児悪性日	国形腫瘍の多	施設共同の治療研究				
	4. 小児期心)疾患における。	込筋傷害マー	カーの検討				
	5. 小児期心	次悪に対する?	カテーテル浴	療の有効性と安全性に関する検討				
研究課題	6. 川崎病心	心血管合併症に対	対する臨床的	検討				
圳九林煜	7. 小児期発	E 症難治性腎疾原	患に対する新	しい視点からの免疫抑制療法の臨床研究				
	8. 増殖性腎	骨炎における免疫	空抑制剤ミン	リビンの細胞障害抑制効果を, 培養ヒトメサンギウム細胞を用				
	い,細胞接着因子とステロイドレセプター転写活性増強作用の面から研究							
	9 . IgA 腎症	9. IgA 腎症発症機転にかかわる免疫グロブリン IgA-フィブロネクチン複合体の糸球体メサンギウム						
	への沈着	青機序の研究						
	10. 乳児てん	かんの臨床脳液	皮学的検討					

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

- A.1. Tanaka H, Suzuki K, Nakahata T, Waga S, Monma N. Childhood idiopathic membranous glomerulonephritis associated with isolated antinuclear antibody positivity. Clin Exp Nephrol 2002;6: 254-257
- A.2. Tanaka H, Suzuki K, Nakahata T, Ito E, Waga S. Early treatment with oral immunosuppressants in severe proteinuric purpura nephritis. Pediatr Nephrol 2003;18: 347-350
- A.3. kiminori Terui, Junichi Kitazawa, Yoshihiro Takahashi, Yasuhide Hayashi, Takeshi Taketani, Tomohiko Taki, Etsuro Ito. Successful treatment of acute myelomonocytic leukaemia With NUP98-HOXD11 fusion transcripts and monitoring residual disease. British Journal of Haematology, 2003.120.274-276.
- transcripts and monitoring residual disease. British Journal of Haematology, 2003.120.274-276.

 A.4. Terui K, Kitazawa J, Takahashi Y, Tohno C, Hayashi Y, Taketani T, Taki T, Ito E. Successful treatment of acute myelomonocytic leukaemia with NUP98-HOXD11 fusion transcripts and monitoring of minimal residual disease. Br J Haematol 120:274-6, 2003
- A.5. Tanaka H, Tateyama T, Suzuki K, Nakahata T, Kudo M, Takahashi Y, Ito E, Waga S. Acute renal failure due to hypertension: Malignant hypertension in an adolescent. Pediatr Int. 2003:342-4, 2003.
- A.6. Tanaka H, Suzuki K, Nakahata T, Ito E, Waga S. Early treatment with oral immunosuppressants in severe proteinuric purpura nephritis. Pediatr Nephrol. 18:347-50, 2003.
- B.1. Oguchi K, Takagi M, Tsuchida R, Taya Y, Ito E, Isoyama K, Ishii E, Zannini L, Delia D, Mizutani S. Missense mutation and defective function of ATM in a childhood acute leukemia patient with MLL gene rearrangement. Blood.101:3622-3627, 2003.
- B.2. Muto A, Tashiro S, Tsuchiya H, Kume A, Kanno M, Ito E, Yamamoto M, Igarashi K. Activation of Maf/AP-1 repressor Bach2 by oxidative stress promotes apoptosis and its interaction with promyelocytic leukemia nuclear bodies. J Biol Chem, 277, 20724-20733, 2002.
- B.3. Li Y, Nagai H, Ohno T, Yuge M, Hatano S, Ito E, Mori N, Saito H, Kinoshita T. Aberrant DNA methylation of p57(KIP2) gene in the promoter region in lymphoid malignancies of B-cell phenotype. Blood. 100, 2572-2577, 2002.
- B.4. Matsunaga T, Kurosawa H, Tsuboi T, Kumazaki H, Sato Y, Sugita K, Ito E, Eguchi M. Recurrent erythroblastopenia associated with Varicella zoster virus infection in an infant. Pediatr Int. 45:355-8, 2003.

B.5. Tanji K, Imaizumi T, Matsumiya T, Itaya H, Fujimoto K, Cui X, Toki T, Ito E, Yoshida H, Wakabayashi K, Satoh K. Desferrioxamine, an iron chelator, upregulates cyclooxygenase-2 expression and prostaglandin production in a human macrophage cell line. Biochim Biophys Acta. 2001, 1530(2-3):227-35.

2003年度

- A.1. Shimada, A., Xu, G., Toki, T., Kimura, H., Hayashi, H. and Ito, E. Fetal origin of the GATA-1 mutation in identical twins with transient myeloproliferative disorder and acute megakaryoblastic leukemia accompanying Down's syndrome. Blood, 2004;103:366.
- A.2. Xu G, Nagano M, Kanezaki R, Toki T, Hayashi Y, Taketani T, Taki T, Mitui T, Koike K, Kato K, Imaizumi M, Sekine I, Ikeda Y, Hanada R, Sako M, Kudo K, Kojima S, Ohneda O, Yamamoto M, Ito E. Frequent mutations in the GATA-1 gene in the transient myeloproliferative disorder of Down's syndrome. Blood, 2003; 102, 2960-2968.
- A.3. Kamio, T., Toki, T., Kanezaki, R., Sasaki, S., Tandai, S., Terui, K., Ikebe, D., Igarashi, K. and Ito, E. The B cell-specific transcription factor BACH2 modifies the cytotoxic effects of anticancer drugs. Blood, 2003; 102, 3317-3322.
- A.4. Suzuki K, Tanaka H, Ito E, Waga S. Repeat renal biopsy in children with severe idiopathic tubulointerstitial nephritis. Pediatr Nephrol. 2004;19:240-3.
- A.5. Tanaka H, Suzuki K, Nakahata T, Tsugawa K, Ito E, Waga S. Mizoribine oral pulse therapy for patients with disease flare of lupus nephritis. Clin Nephrol. 2003 60:390-4.
- A.6. Tanaka H, Suzuki K, Nakahata T, Ito E, Waga S. Early treatment with oral immunosuppressants in severe proteinuric purpura nephritis. Pediatr Nephrol 2003;18:347-350
- B.1. Matsumoto M, Kokame K, Soejima K, Miura M, Hayashi S, Fujii Y, Iwai A, Ito E, Tsuji Y, Takeda-Shitaka M, Iwadate M, Umeyama H, Yagi H, Ishizashi H, Banno F, Nakagaki T, Miyata T, Fujimura Y. Molecular characterization of ADAMTS13 gene mutations in Japanese patients with Upshaw-Schulman syndrome. Blood. 2004; 103:1305-1310.
- B.2. Nagai H, Li Y, Hatano S, Toshihito O, Yuge M, Ito E, Utsumi M, Saito H, Kinoshita T. Mutations and aberrant DNA methylation of the PROX1 gene in hematologic malignancies. Genes Chromosomes Cancer. 2003:38:13-21.
- B.3. Matsunaga T, Kurosawa H, Tsuboi T, Kumazaki H, Sato Y, Sugita K, Ito E, Eguchi M. ecurrent erythroblastopenia associated with Varicella zoster virus infection in an infant. Pediatr Int. 2003 Jun;45(3):355-8.
- B.4. Nagata T, Takahashi Y, Ishii Y, Asai S, Nishida Y, Murata A, Koshinaga T, Fukuzawa M, Hamazaki M, Asami K, Ito E, Ikeda H, Takamatsu H, Koike K, Kikuta A, Kuroiwa M, Watanabe A, Kosaka Y, Fujita H, Miyake M, Mugishima H. Transcriptional profiling in hepatoblastomas using high-density oligonucleotide DNA array. Cancer Genet Cytogenet. 2003;145:152-60.
- B.5. Tanji K, Toki T, Tamo W, Imaizumi T, Matsumiya T, Mori F, Takahashi H,Satoh K, Wakabayashi K. d Glycogen synthase kinase-3beta phosphorylates synphilin-1 in vitro. Neuropathology. 2003;23:199-202.

和文

2002年度

- A.1. 高橋 徹, 佐藤 工, 大谷勝記, 佐藤澄人, 市瀬広太, 江渡修司, 佐藤 啓, 米坂 勧. 123I-BMIPP 心筋
- シンチグラフィー無集積を契機に発見された I 型 CD36 欠損症の 1 小児例 心臓 2002;34:663-668 A.2. 高橋 徹、佐藤 工、大谷勝記、佐藤澄人、市瀬広太、江渡修司、佐藤 啓、米坂 勧、小児期心疾患におけるナトリウム利尿ペプチドー左室容量負荷型心疾患における心筋および肺循環での代謝の検討ー 日本小児循環器学会雑誌 2002;18:489-493
- A.3. 佐藤 工, 上田知実, 佐藤 啓, 江渡修司, 大谷勝記, 市瀬広太, 佐藤澄人, 高橋 徹, 伊藤悦朗, 米坂 勧. 着脱式コイルを用いた動脈管開存症に対する経カテーテル塞栓術. 弘前医学. 2003;54:59-64.
- A.4. 丹代(山田)論,佐藤秀子,金崎里香,土岐 力,伊藤悦朗,五十嵐和彦. B細胞特異的転写因子 BACH2 による BCL-2 関連遺伝子 A1 の発現抑制機構, 弘前医学, 2002, 54(1): 8-20
- A.5. 中畑 徹, 平野浩次, 伊東亮助, 小野寺典夫, 田中 完, 和賀 忍. サラゾスルファピリジン治療により 汎血球減少を来した全身型若年性関節リウマチの1例. 日本小児科学会雑誌 2002;106: 492-495.
- A.6. 中畑 徹, 鈴木康一, 田中 完, 舘山 尚, 和賀 忍. 透析導入後も疾患活動性の再燃をみた腎限局型抗 好中球細胞質抗体関連腎炎の1小児例. 日本腎臓学会誌 2002;44: 483-486.
- A.7. 中畑 徹, 鈴木康一, 田中 完, 上田知実, 佐藤 啓, 佐藤 工, 高橋 徹, 伊藤悦朗, 米坂 勧. 肥大 型心筋症を契機に発見された infantile nephronophthisi 1 男児例. 日本小児腎臓病学会雑誌 2002;15:

2003年度

A.1. 石崎典子, 金崎里香, 土岐 力, 伊藤悦朗, 21q11-21領域からの一過性骨髄異常増殖症の原因遺伝子単離 の試み 弘前医学. 2004, 55(3~4):83-94.

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

A.1. 伊藤悦朗, 照井君典:溶血性貧血の診断基準. 小児科臨床 55, 1361-20111371, 2002.

- A.1. 伊藤悦朗: Down 症候群の白血病の分子機構. 日本小児血液学会雑誌 18:117-126, 2004
- A.2. 伊藤悦朗, 高橋良博: 未熟児・新生児の貧血. 血液フロンテイア 13. 19-28, 2003
- A.3. 伊藤悦朗, 照井君典:血色素異常症. 小児内科 35, 1138-1142, 2003.
- A.4. 伊藤悦朗, 赤血球・巨核球系転写因子 GATA-1 の変異と小児白血病, 臨床血液 45:108-114, 2004.

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

英文

2002年度

- A.1. Tanaka H, Waga S. Reversible segmental stenotic lesion of subclavian artery in an 8-year-old girl: An atypical Takayasu's arteritis? Clin Rheumatol 2002;21:345-346
- Tanaka H, Waga S, Suzuki K, Nakahata T, Kawachi H, Shimizu F, Ito E. Rapidly progressive, pauci-immune diffuse crescentic glomerulonephritis in an infant. Pediatr Nephrol 2002;17:730-732
- A.3. Tanaka H, Suzuki K, Nakahata T, Tateyama T, Sugimoto K, Ito E, Waga S. Disseminated candidiasis following prednisolone therapy in systemic lupus erythematosus. Pediatr Int 2002;44: 702-704
- A.4. Tanaka H, Suzuki K, Nakahata T, Waga S. Long-term outcome of acute tubulointerstitial nephritis: report of a case. Clin Nephrol 2003;59:65-67

2003年度

- A.1. Tanaka H, Tateyama T, Suzuki K, Nakahata T, Kudo M, Takahashi Y, Ito E, Waga S. Acute renal failure due to hypertension: Malignant hypertension in an adolescent.. Pediatr Int 2003;45:342-344
- A.2. Tanaka H, Suzuki K, Nakahata T, Sato T, Ito E. Mizoribine oral pulse therapy for a patient with severe lupus nephritis, Pediatr Int 2003:45:488-490
- A.3. Tanaka H. Waga S. Acute IgA nephropathy following keloid scar formation due to burn injury. Clin Nephrol 2003;60:440-441.
- A.4. Tanaka H, Suzuki K, Nakahata T, Kobayashi I, Kubota M, Ito E. Immune dysregulation, polyendocrinopathy, enteropathy, X-linked syndrome without extraintestinal symptoms in a Japanese infant with a novel mutation of FOXP3 gene. Acta Paediatr 2004;93:142-143
- A.5. Tanaka H, Waga S. Spontaneous remission of persistent severe hematuria in an adolescent with nutcracker syndrome: seven years' observation. Clin Exp Nephrol 2004;8:68-70
- A.6. Nakahata T, Tanaka H, Suzuki K, Ito E. Successful treatment with leukocytapheresis in refractory Henoch-Schonlein purpura: case report. Clin Rheumatol 2003;22:248-250.
- A.7. Nakahata T, Tanaka H, Tsuruga K, Shimada J, Tsugawa K, Suzuki K, Onodera N, Ito E. End-stage kidney at the onset of nephrotic syndrome in a 4-year-old girl. Tohoku J Exp Med 2003;200:151-154.
- A.8. Ohtani K, Stoh A, Eto S, Satoh T, Ichinose K, Aatoh S, Takahashi T, Koda M, Kinjo M, Yonesaka S. Dual-chamber pacing in hypertrophic obstructive cardiomyopathy with biventricular outflow tract obstruction and severe drug-refractory symptoms in a 9-year-old girl. Pediatr Int 2003; 45: 743-746

和文

2002年度

- A.1. 田中 完, 鈴木康一, 中畑 徹, 木村 理, 伊藤瑞恵, 伊藤悦朗, 急性増悪に伴い自然気胸を発症した軽 症型気管支喘息の8歳男児例. 小児内科 2002;34:1699-1703
- A.2. 鈴木康一,中畑 徹,田中 完,差波 司,和賀 忍,関根孝司,五十嵐隆,伊藤悦朗. 軽微蛋白尿と尿 沈査中の尿細管上皮を契機に発見された特発性尿細管性蛋白尿の1女児例. 日本小児科学会雑誌 2002;106:1672-1675

2003年度

- A.1. 敦賀和志, 嶋田 淳, 鈴木康一, 中畑 徹, 田中 完, 伊藤悦朗. 白血球除去療法を施行した Turner 症候 群に随伴する難治性若年性関節炎(juvenile arthritis: JA)の 1 女子例. 小児内科 2004;36:511-514 A.2. 佐藤 工、米坂 勧、高橋 徹、佐藤 啓、上田知実、佐藤澄人、丹代 論、頻脈性不整脈で発見された
- 先天性巨大右房瘤の 1 例. 小児科臨床 2003;56:1675-1681
- C.1. 佐々木伸也, 伊藤悦朗. 造血薬. 渡辺 博編. 小児科臨床 増刊号. 2004;67:389-395.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Blood	10.12	3	30.36
Pediatr Nephrol	1.129	2	2.258
Clin Nephrol	1.341	1	1.341
Blood	10.12	1	10.12
Genes Chromosomes Cancer	4.192	1	4.192
Pediatr Int	0.483	1	0.483
Cancer Genet Cytogenet	1.542	1	1.542
Neuropathology	0.64	1	0.64
Total		11	50.936

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
心臓			1	0
日本小児循環器学会雑誌			1	0
弘前医学			2	1
日本小児科学会雑誌			2	0
日本腎臓学会誌			1	0
日本小児腎臓学会雑誌			1	0
小児科臨床			1	2
小児内科			1	2
小児血液学会雑誌			0	1
血系フロンテイア			0	1
臨床血液			0	1
	計		10	8

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種 目		2002年度	2003年度
単 著	E Z	0	0
編集	1	0	0
分担執筆	ŧ	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Pediatr Int	0.483	3	1.449
Clin Nephrol	1.341	1	1.341
Tohoku J Exp Med	0.371	1	0.371
Clinical Rheumatol	0.85	1	0.85
Acta Pediatr	1.128	1	1.128
Total		7	5.139

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

A.1. Tsutomu Toki, Fumiki Katsuoka, Rika Kanezaki, Xu Go, Hidekachi Kurotaki, Takuya Kamio, Satoru. Tandai, Kiminori Terui, Soroku Yagihashi, Kazuhiko Igarashi, Masayuki Yamamoto, and Etsuro Ito. Transgenic expression of BACH1 results in megakaryocytic impairment. Blood 100, 712a. (ASH meeting, Philadelphia,

- Pennsylvania, USA, December 6-10, 2002.)
- C.1. Tanaka H, Suzuki K, Nakahata T, Ito E, Waga S. Treatment of severe proteinuric purpura nephritis with oral prednisolone and cyclophosphamide. The 9th Asian Pacific Congress of Nephrology, Pattaya, Thailand,
- C.2. Suzuki K, Tanaka H, Nakahata T, Ito E, Waga S. Differential interaction of fibronectin fregments with serum IgA in IgA nephropathy. The 9th Asian Pacific Congress of Nephrology, Pattaya, Thailand, Feb. 16-20, 2003.

- B.1. Ito E, Toki T. Transgenic Expression of BACH1 Results in Megakaryocytic Linage Impairment. JBS Bio-Frontier Symposium 2003 (Deciphering the Regulatory Network of Transcription Factors. Function and Regulation of Maf and CNC Transcription Factor Families), Tsukuba, Japan, June 5-7, 2003.
- C.1. Ito E, Kamio T, Toki T, Kanezaki R, Sasaki S, Tandai S, Terui K, Ikebe D, Igarashi K. The B cell-specific Transcription Factor BACH2 Modifies the Cytotoxic Effects of Anticancer Drugs. ASH meeting, San Diego, Calfornia, USA, December 6-9, 2003.

(2)全国学術集会

2002年度

C.1. 高橋 徹. KCNJ2遺伝子異常を認めた Andersen 症候群 - 内向き整流カリウムチャネル(Kir 2.1) 異常 による心室性不整脈 第38回日本小児循環器学会学術集会 東京 2002

2003年度

- B.1. 伊藤悦朗. 赤血球・巨核球系転写因子 GATA-1 の変異と小児白血病. 第65回日本血液学会総会. 大阪国 際会議場, 8月28日~31日, 2003
- B.2. 田中 完. 他. シクロスポリン投与により良好にコントロールされている X-linked autoimmune enteropathy の1例. ワークショップ"免疫不全症と自己免疫疾患". 第40回日本小児アレルギー学会, 岐 阜市, 平成15年10月3日-4日. C. 田中 完 5件

III. 学術賞

2002年度

土岐 力, 第63回日本血液学会奨励賞, 「p45 NF-E2 関連転写因子 Bach1 の新たなイソ・フォームの機能 解析」

IV. 共同研究

2002年度

広島大学第2生化学教室 筑波大学 TARA センター 東京大学小児科 名古屋大学第一内科

2003年度

広島大学第2生化学教室 筑波大学 TARA センター 東京大学小児科 名古屋大学第一内科•小児科

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

- 基盤研究(B)(2)ダウン症候群の急性白血病発症に関わる遺伝子の検索 研究代表者 伊藤悦朗 配分 額 5.800千円
- ・基盤研究(C)(2)BACH 転写因子群の標的遺伝子の検索と機能解析 研究代表者 土岐 カ 配分額 1,600千円

2003年度

研究代表者として

基盤研究(B)(2)ダウン症候群の急性白血病発症に関わる遺伝子の検索 研究代表者 伊藤悦朗 配分額

4,000千円

萌芽研究 BACH2 転写因子活性化を利用したフィラデルフィア染色体陽性白血病の治療法の開発 研究 代表者 伊藤悦朗 配分額 3,400千円 基盤研究(C)(2),血小板産生および巨核球分化における BACH1 転写因子の機能解析 研究代表者 土岐 力 配分額 2,300千円

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として

・上原記念生命科学財団 平成13年度研究助成金 Bach 転写因子群による小児急性白血病発症の分子機構 研究代表者 伊藤悦朗 配分額 5,000千円

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流。国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c)外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

2002年度

研究生 1名 徐剛 (中国)

- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況 2003年度

Boston 大学 1 名 照井君典 (助手 休職)

f) その他

なし

- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

日本小児科学会青森地方会 3回 青森小児血液腫瘍研究会 1回

2003年度

日本小児科学会青森地方会 3回 青森小児血液腫瘍研究会 1回 第3回東北出世前医学研究会 1回 第5回東北血液病学セミナー 1回 平成15年度青森県小児保健協会総会・学術集会 1回 平成15年度青森県小児保健協会夏期懇談会 1回 第18回東北小児喘息アレルギー研究会、弘前市、1回 青森県小児神経談話会, 弘前市 1回

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 2002年度

静岡東病院 1名

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 2003年度

後藤章 国立療養所静岡神経医療センター

VII. その他

なし

21. 外科学第一講座

【研究単位の目標到達度. 理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- 1. 以下のテーマを教室の研究テーマとしてとりあげ、研究を推進する。
 - ①低侵襲手術の適応拡大とその侵襲度の評価:鏡視下手術,心拍動下冠動脈バイパス術, IVR などの臨床的評価を行い、その適応と限界を明らかにする。

【評価】心拍動下冠状動脈バイパス術を虚血性心疾患の外科治療の第一選択として行っており、その臨床成績は良好である。虚血性心疾患に対する外科治療は年間約100例近く行い、その成績については、2003年の日本冠動脈外科学会総会で発表した。鏡視下手術については、その適応と限界を学会で報告した。

②外科侵襲とそれに対する生体防御反応の研究を行い、侵襲度の高い手術においても、安定した治療成績が得られるように検討を行う。

【評価】動物実験を開始した。

③外科手術後の血液凝固系の変動の研究を行う。

【評価】実験モデルを確立し、その成果は2003年の日本胸部外科学会総会において発表した。

2. 教官・大学院生および教室員の研究指導を行う。

【評価】大学院生の研究は、現在論文作成段階および実験終了段階である。教室員の研究は、血流の可視化の研究、心筋梗塞合併症の外科治療の研究などを、全国レベルの学会で報告した。

3. 教官・大学院生および教室員の論文作成指導を行い、より高いレベルの論文作成を目指す。

【評価】年間論文数は増加しており、目標は達成した。

- 4. Impact factor の付いた学術誌に senior author として毎年3 編以上の論文を発表する。
 - 【評価】2003年度に12編の英文論文を発表し、Senior authorとして10編、first authorとして2編の論文を発表した。
- 5. 国際学会, 全国レベルの学会等におけるシンポジウム, パネル・ディスカッションに共同演者として発表する。 【評価】10th International Symposium of Russia-Japan Medical Exchange における講演, 日本血管外科学会総会のシンポジウム演者として発表した。また日本胸部外科学会総会のシンポジウム共同演者として発表した。
- 6. 研究代表者として科学研究費補助金に1件以上採択

【評価】未達成。

理念:

患者さん中心の医療を推し進め、臨床に軸足を置いた研究を展開する。

これから2年間の目標:

- 1. 以下のテーマを教室の研究テーマとしてとりあげ、引き続き研究を推進する。
 - ①外科侵襲とそれに対する生体防御反応の研究を行い、侵襲度の高い手術においても、安定した治療成績が得られるように検討を行う。
 - ②外科手術後の血液凝固系の変動を研究し、静脈血栓塞栓症の予防、術後血栓症の予防に結びつける。
 - ③理工学部および基礎医学講座との共同研究を推進し、バイオミメティクス分野での新しい研究を展開する。
- 2. 教官・大学院生および教室員の研究指導を行う。
- 3. 教官・大学院生および教室員の論文作成指導を行い、より高いレベルの論文作成を目指す。
- 4. Impact factor の付いた学術誌に senior author として毎年 5 編以上の論文を発表する。
- 5. 国際学会、全国レベルの学会等におけるシンポジウム、パネル・ディスカッションに演者および共同演者として発表する。
- 6. 研究代表者として1件以上の科学研究費補助金を取得する。また共同研究者として2年間で2年の科学研究 費を取得する。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助	D 教授 1 , 講師	师 3,	助手	5, 医員 4, 大学院学生 2, 研究生 2		
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
	教 授	専 任	福田	幾夫	2002. 4.1 ~ 2003. 3.31		
	助教授	専 任	高谷	俊一	2002. 4.1 ~ 2003. 3.31		
	講師	専 任	福井	康三	2002. 4.1 ~ 2003. 3.31		
教 官	講師	専 任	對馬	敬夫	2002. 4.1 ~ 2003. 3.31		
(教授~助手)	講師	専 任	鈴木	保之	2002. 4.1 ~ 2003. 3.31		
の詳細	助手	専 任	山田	芳嗣	2002. 4.1 ~ 2003. 3.31		
	助手	専 任	平尾	良範	2002. 4.1 ~ 2003. 3.31		
	助手	専 任	畑中	亮	2002. 4.1 ~ 2003. 3.31		
	助手	専 任	一関	一行	2002. 10.1 ~ 2003. 3.31		
	助 手	専 任	棟方	護	2002. 4.1 ~ 2002. 9.30 6ヵ月		
	1. 大動脈内	可の血流の可視 つ	可による	5病的大	動脈内の血流の研究		
	2. 心臓手術	הにおける脳合 値	并症のう	序防			
	3. 手術後の)凝固系機能の3	変動				
	4. 体外循環	環侵襲による肺(の障害の)研究			
研究課題	5. 肺癌の浸潤,転移に関与する分子生物学的因子の検討						
	6. 肺癌の外科治療と予後因子の解析						
	7. 乳癌の集学的治療						
	8. 重症下肢虚血の治療						
	9. 体外循環	段中の血小板保証	蒦				

2003年度

研究人員	教授 1, 助	b教授 1,講	新 3,	助手	5, 医員 4, 大学院学生 3, 研究生 2
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	福田	幾夫	2003. 4.1 ~ 2004. 3.31
	助教授	専 任	高谷	俊一	2003. 4.1 ~ 2004. 3.31
	講師	専 任	福井	康三	2003. 4.1 ~ 2004. 3.31
教 官	講師	専 任	對馬	敬夫	2003. 4.1 ~ 2004. 3.31
(教授~助手)	講師	専 任	鈴木	保之	2003. 4.1 ~ 2004. 3.31
の詳細	助手	専 任	小野	裕逸	2003. 4.1 ~ 2004. 3.31
	助手	専 任	山田	芳嗣	2003. 4.1 ~ 2004. 3.31
	助手	専 任	平尾	良範	2003. 4.1 ~ 2004. 3.31
	助手	専 任	畑中	亮	2003. 4.1 ~ 2004. 3.31
	助手	専 任	一関	一行	2003. 4.1 ~ 2004. 3.31
	1. 大動脈内	可の血流の可視	可による	る病的大	動脈内の血流の研究
	2. 心臓手術	新における脳合 値	并症のう	予防	
	 手術後σ)凝固系機能の	変動と手	手術後静	脈血栓塞栓症の予防・治療の研究
	4. 体外循環	環侵襲による肺(の障害の	D研究	
研究課題	5. 外科医療	寮の効率化の研	宪		
	6. 肺癌の浸潤, 転移に関与する分子生物学的因子の検討				
	7. 転移性脈	肺腫瘍の外科治療	療成績 と	二予後因	子の解析
	8. 胸腔鏡下	「手術の適応拡大	大と機器	器・手技	の開発
	9. 外科感染	や症の研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

<u>英文</u>

2002年度

A.1. Fukuda I, Aikawa S, Imazuru T, Osaka M. Transapical aortic cannulation for acute aortic dissection with

- diffuse atherosclerosis. J Thorac Cardiovasc Surg 2002;123:369-370
- A.2. Fukuda I, Nakata H, Sakamoto H, Osaka M, Suzuki K, Wada M. Cerebral embolism in off-pump coronary artery bypass grafting. Circ J 2002;66:777-778
- A.3. <u>Kimura D</u>, Imaizumi T, Tamo W, Sakai T, Ito K, <u>Hatanaka R</u>, Yoshida H, <u>Tsushima T</u>, Satoh K, <u>Fukuda I</u>. Hypoxia enhances the expression of plasminogen activator inhibitor-1 in human lung cancer cells, EBC-1. Tohoku J Exp Med 2002;196:259-267
- A.4. <u>Takahashi S</u>, Kamata Y, Tamo W, <u>Koyanagi M</u>, <u>Hatanaka R</u>, <u>Yamada Y</u>, <u>Tsushima T</u>, <u>Takaya S</u>, <u>Fukuda I</u>. Relationship between postoperative recurrence and expression of cyclin E, p27, and Ki-67 in non-small cell lung cancer without lymph node metastases. Int J Clin Oncol. 2002;7:349-355
- A.5. Takeuchi K, Simplaceanu E, McGowan FX Jr, <u>Tsushima T</u>, del Nido PJ. L-arginine potentiates negative inotropic and metabolic effects to myocardium partly through the amiloride sensitive mechanism. Jpn J Physiol 2002;52:207-215
- A.6. Harada O, <u>Takaya S</u>, Kobayashi M, Onozuka N, Takahashi S, <u>Suzuki S</u>. The effects of exogenous follistatin on expression of cell cycle-related genes in rat hepatocytes during liver regeneration. Hirosaki Medical Journal 2002;54:36-45
- B.1. Shibata T, Imaizumi T, Tamo W, Matsumiya T, Kumagai M, Cui XF, Yoshida H, <u>Takaya S</u>, <u>Fukuda I</u>, Satoh K. Proteasome inhibitor MG-132 enhances the expression of interleukin-6 inhuman umbilical vein endothelial cells: Involvement of MAP/ERK kinase. Immunol Cell Biol 2002;80:226-230
- B.2. Tamo W, Imaizumi T, Tanji K, Yoshida H, Mori F, Yoshimoto M, Takahashi H, <u>Fukuda I</u>, Wakabayashi K, Satoh K. Expression of alpha-synuclein, the precursor of non-amyloid beta component of Alzheimer's disease amyloid, in human cerebral blood vessels. Neurosci Lett 2003;326:5-8
- B.3. Munakata M, Stamm C, Friehs I, Zuralowski D, Cowan DB, Cao-Danh H, Mcgowan F, del Nido P. Protective effects of protein kinase C during myocardial ischemia require activation of phosphatidyl-inositol specific phospholipase C. Ann Thorac Surg 2002;73:1236-45

- A.1. Shoichi Takahashi, <u>Ikuo Fukuda</u>, Toshihiko Kuga, Masanori Tanaka. Exposure of the coronary artery using an ultrasonic scalpel. J Thorac Cardiovasc Surg 125: 1533-4, 2003
- A.2. <u>Ikuo Fukuda</u>, Tomohiro Imazuru. Intentional delay of surgery for acute type A dissection with stroke. J Thorac Cardiovasc Surg. 2003; 126: 290-291
- A.3. <u>Ikuo Fukuda</u>, Tomohiro Imazuru, Motoo Osaka, Ko Watanabe, Kotoo Meguro, Mitsuyosi Wada. Thrombolytic therapy for delayed, in-hospital stroke after cardiac surgery. Ann Thorac Surg 2003; 76:1293-1295
- A.4. Shoichi Takahashi, <u>Shunichi Takaya</u>, <u>Ikuo Fukuda</u>, <u>Takemichi Suto</u>, <u>Kazuyuki Daitoku</u>, <u>Toshihiko Kuga</u>, <u>Ikko Ichinoseki, Mamoru Munakata</u>, <u>Kozo Fukui</u>, Hiroshi Noda, Hiraku Yodono. Stent graft treatment for abdominal pseudoaneurysm near the celiac artery. J Thorac Cardiovasc Surg 2003; 126: 600-602
- A.5. Masahito Minakawa, Koh Takeuchi, Kazuo Ito, <u>Takao Tsushima</u>, <u>Kozo Fukui</u>, <u>Shunichi Takaya</u>, <u>Ikuo Fukuda</u>. Restoration of sarcoplasmic reticulum protein level by thyroid hormone contributes to partial improvement of myocardial function, but not to glucose metabolism in an early failing heart. Eur J Cardio Thorac Surg 2003; 24: 493-501
- A.6. Masahito Minakawa M, Kenji Takahashi, Norihiro Kondo, Masaharu Hatakeyama, Toshihiko Kuga, <u>Ikuo Fukuda</u>. Left thoracotomy approach in reoperative off-pump coronary revascularization: bypass grafting from the left axillary artery or descending thoracic aorta. Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2003; 51:582-587
- B.1. Ko Watanabe K, <u>Ikuo Fukuda</u>, Motoo Osaka, Tomohiro Imazuru. Axillary artery and transapical aortic cannulation as an alternative to femoral artery cannulation. Eur J Cardiothorac Surg. 2003; 23: 842-843
- B.2. Hiroaki Sakamoto, <u>Ikuo Fukuda</u>, Motoo Osaka, Hiroko Nakata. Risk factors and treatment of deep sternal wound infection after cardiac operation. Ann Thorac Cardiovasc Surg 2003; 9: 226-232
- B.3. Shibata T, Imaizumi T, Matsumiya T, Tamo W, Hatakeyama M, Yoshida H, Munakata H, Fukuda I, Satoh K. Effect of MG132, proteasome inhibitor, on the expression of growth related oncogene protein- α in human umbilical vein endothelial cells. Cytokine 2003;24:67-73
- B.4. Kameda K, Matsunaga T, Abe N, Hanada H, Ishizaka H, Ono H, Saitoh M, <u>Fukui K</u>, <u>Fukuda I</u>, Osanai T, Okumura K. Correlation of oxidative stress with activity of metalloproteinase in patients with coronary artery disease. Possible role for left ventricular remodeling. Eur Heart J 2003; 24: 2180-2185
- B.5. Y Yokoyama, Ono Y, Sakamoto T, <u>Fukuda I</u>, Mizunuma H. Asymptomatic intracardiac metastasis from a low grade endometrial stromal sarcoma with successful surgical resection. Gynecol Oncol. 2004;92: 999-1001
- B.6. Hatakeyama M,Imaizumi T, Tamo W, Yamashita K, Yoshida H, <u>Fukuda I</u>, Satoh K. Heparin inhibits INF-gamma-induced fractalkine/CX3CL1 expression in human endothelial cells. Inflammation 2004; 28: 7-13
- B.7. Endo C, Saito Y, Iwanami H, <u>Tsushima T</u>, Imai T, Kawamura M, Kondo T, Koike K, Handa M, Kanno R, Fujimura S.A randomized trial of postoperative UFT therapy in p stage I, II non-small cell lung cancer: North-east Japan Study Group for Lung Cancer Surgery.Lung Cancer 2003; 40: 181-186.
- C.1. <u>Fukuda I</u>, Takeyasu N, Noguchi Y. Spontaneous recanalization of functionally occluded bilateral internal thoracic artery T graft. J Cardiovasc Surg (Torino). 2003; 44: 209-11

和文

2002年度

A.1. 福田晃也, <u>高谷俊一</u>, 小林 慎, 高橋誠司, 皆川正仁, 原田 治. マイクロ波凝固装置使用肝切除における凝固前胆管内塞栓物質注入による術後胆汁瘻防止についての基礎的検討. 弘前医学 2002;54:51-58

2003年度

A.1. 高橋昌一, 高谷俊一, 一関一行, 畠山正治, 大徳和之, 久我俊彦, 棟方 護, 福井康三, 福田幾夫: 腹部

大動脈瘤に対するステントグラフト治療の初期および中期成績 日本心臓血管外科学会雑誌2003 32: 224-229

- A.2. 高橋昌一, 大徳和之, <u>福井康三</u>, 畠山正治, 久我俊彦, 一関一行, 棟方 護, 福田幾夫, 上行·弓部大動 脈に重度の石灰化を伴った動脈管開存症および大動脈弁狭窄症に対して脳分離体外循環法を用いて手術 を行った一例. 日本心臓血管外科学会誌 2003; 32: 250-252
- A.3. 一関一行, 伊東和雄, 棟方 護, 小山正幸, <u>鈴木保之</u>, 福井康三, <u>高谷俊一</u>, 福田幾夫. ステントグラフト内挿術後再破裂をきたした破裂性動脈瘤の2例 日本心臓血管外科学会誌 2004; 33: 34-37 B.1. 斎藤陽子, 佐々木泰輔, 板橋陽子, 三浦弘行, 野田 浩, 淀野 啓, 棟方 護, <u>福井康三</u>, 福田幾夫. Elliptical centric view orders を用いた頚部造影 MRA における撮像タイミングと画像コントラストの検討. 脈管 学 2003: 43: 289-292
- B.2. <u>福井康三</u>, <u>福田幾夫</u>: うっ血性心不全に対する栄養療法, 静脈経腸栄養 2003 18:3-9 C.1. 中田弘子, <u>福田幾夫</u>. 膝窩静脈外膜嚢腫の一例. 日本血管外科学会雑誌 2003; 12:549-552

(2)総説

英文

2002年度

- A.1. Fukuda I, Wada M. Intraarterial thrombolysis for periopertaive stroke in patients undergoing cardiac operations. Ann Thorac Surg 2002;74:2227-2228
- A.2. Fukuda I, Fukui K, Watanabe K, Osaka M. Transapical aortic cannulation for acute aortic dissection with diffuse atherosclerosis. J Thorac Cardiovasc Surg 2003;125:739-740

和文

2002年度

- A.1. <u>福田幾夫</u>. 胸部外傷の初期治療. 弘前市医師会報 2002;37:21-25
- A.2. <u>福田幾夫</u>. 胸部大動脈瘤の外科治療. 弘前市医師会報 2002; 37:29-33
- A.3. 福田幾夫, 佐々木睦男. 外科周術期における抗菌薬の使用法の適正化について. 弘前市医師会報. 2002;37:34-38
- A.4. 福田幾夫. 虚血性心疾患外科治療最近の進歩. 弘前市医師会報. 2003;38:36-39

2003年度

- A.1. <u>福田幾夫</u>. 深部静脈血栓および肺塞栓症の診断と治療. 弘前市医師会報 2003: 38; 25-29
- <u>一関一行,高谷俊一,福田幾夫</u>.深部静脈血栓症の予防と治療.弘前医学 2004; 55: 34-42
- A.3. 福田幾夫. 心臓外科をきりひらいた人々:心臓手術100年の歩み. 青森県臨床工学技師会誌 2004; 18: 1-6

(3)著書

英文 なし

和文

2003年度

A.1. 福田幾夫著. 川副浩平, 佐野俊二, 一色高明編. 心臓手術; 周術期管理の実際. 急性肺塞栓症に対する手 術治療. p316-322メジカルビュー社(東京) 2003.9.20

(4)その他

英文

2003年度

A.1. Ikuo Fukuda, Kozo Fukui, Ko Watanabe, Motoo Osaka: Reply to the Editor, I Thorac Cardiovasc Surg 2003 125: 740

和文

- A.1. 須藤泰裕, 對馬敬夫, 須藤武道, 山田芳嗣, 畑中 亮, 小柳雅是, 福田晃也, 高谷俊一, 福田幾夫. 鈍的 外傷による頸部気管不完全断裂の1例. 日本呼吸器外科学会雑誌. 2003;17:57-61
- A.2. <u>一関一行</u>, 青木哉志, 田茂和歌子, 板谷博幸, <u>高谷俊一</u>, <u>福田幾夫</u>. 一過性虚血により術後前脊髄動脈症
- 展群を発症した破裂性腹部大動脈瘤の一例. 日本血管外科学会誌. 2003;12:39-42 A.3. 板谷博幸,一関一行,福田幾夫,青木哉志,久我俊彦,皆川正仁,鈴木保之,福井康三,高谷俊一. 破裂性腹部大動脈瘤術後に全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害を発症した1例. Progress in Medicine. 2003;38:36-39
- A.4.
 福井康三、田茂和歌子、大徳和之、久我俊彦、一関一行、棟方 護、高橋昌一、福田幾夫。印象に残った 症例 親子 3 例に種々の大動脈瘤手術を行った Marfan 症候群の 1 家系 . 胸部外科 2002;55:683-687

 A.5.
 近藤慎浩、境 雄大、大徳和之、山田芳嗣、對馬敬夫、高谷俊一。明らかな誘因なく発症した成人 Bochdalek
- ヘルニアの 1 例. 胸部外科 2002;55:601-604

- A.1. 福田晃也, John J Fung, 須藤泰裕, <u>高谷俊一</u>, <u>福田幾夫</u>. レシピエント脾温存腹部多臓器移植術. 消化器
- 外科 2003;26:1551-1555 A.2. 福田晃也, <u>對馬敬夫</u>, <u>畑中</u> <u>亮</u>, 山田芳嗣, 高谷俊一, 福田幾夫. 成人発症先天性食道気管支瘻に対する胸腔鏡補助下根治術 胸部外科 2003; 26: 1006-1009

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	2.842	2	5.684
International Journal of Clinical Oncology	2.931	1	2.931
Thouhoku Journal of Experimental Medicine	0	1	0
Circulation Journal	0.167	1	0.167
Annals of Thoracic Surgery	2.052	1	2.052
Hirosaki Medical Journal	0	1	0
Immunol Cell Biol	2.494	1	2.494
Neurosci Lett	0	1	0
Annals of Thoracic Surgery	2.052	1	2.052
Total		10	15.38

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Thorac Cardiovasc Surg	2.842	3	8.526
Eur J Cardiothorac Surg	1.451	1	1.451
Ann Thorac Surg	2.052	1	2.052
Jpn J Thorac Cardiovasc Surg	0	1	0
Ann Thorac Cardiovasc Surg	0	1	0
Cytokin	2.374	1	2.374
Lung Cancer	2.451	1	2.451
Eur J Cardio-Thorac Surg	1.451	1	1.451
Eur Heart J	6.131	1	6.131
Inflammation	1.247	1	1.247
Gynecol Oncol	2.115	1	2.115
Total		13	27.798

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
弘前医師会報 弘前医学 日本心臓血管外科学会雑 脈管学 青森県臨床工学技師会誌			5 1	3 1
月林示咖水工于汉即云60				1
	計		6	6

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	I	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	1

3. その他 (A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Thorac Cardiovasc Surg	2.842	1	2.842
Total		1	2.842

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本呼吸器外科学会雜誌 日本血管外科学会雜誌 胸部外科 Progress in Medicine 消化器外科			1 1 2 1	1
	計		5	2

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- C.1. Munakata M, Fukui K, Minakawa H, Itaya H, Kuga T, Ichinoseki I, Suzuki Y, Fukuda I. Preoperative MR angiography to decrease cerebral infarction in cardiovascular surgery. International Conference On Stroke. Monte Carlo, Monaca 2003.3.13
- C.2. Fukuda I, Osaka M, Imazuru T, Wada M, Meguro K. Early reperfusion for cerebral thromboembolism after cardiac surgery. 6th International Conference On Stroke. Monte Carlo, Monaca 2003.3.13
- C.3. Minakawa M, Takahashi K, Kondo N, <u>Fukuda I</u>. Bypass grafting from axillary artery or descending thoracic aorta in re-do CABG. 10th Annual Meeting of the Asian Society for Thoracic Cardiovascular Surgery. Korea 2002.4.19
- C.4. Kimura D, ImaizumiT, Tamo W, Sakai T, Ito K, Takahashi S, <u>Hatanaka R</u>, Yoshida H, <u>Tsushima T</u>, <u>Takaya S</u>, Satoh K. Hypoxia enhaces the expression of plasminogen activator inhibitor-1 in human lung cancer cells. 18th CC International Cancer Congress. Oslo, Norway. 2002
- C.5. <u>Ichinoseki I, Takaya S, Minakawa M, Suzuki Y, Fukui K, Fukuda I.</u> Combined free tissue transfer and vascular reconstruction for plantar infectious gangrene in Buerger's disease a case report. 11th Annual meeting of the Asian Society for Cardiovascular Surgery. Kuala Lumpur, Malaysia, 2003
- C.6. Minakawa M, Kawagoe C, Aoki C, Itaya H, Kuga T, <u>Ichinoseki I, Suzuki Y, Fukui K, Takaya S, Fukuda I.</u> Predictors of mortality in surgical treatment for acute myocardial infarction. 11th Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular Surgery. Kuala Lumpur, Malaysia, 2003

2003年度

- A.1. <u>Ikuo Fukuda</u>. Recent progress of surgery for ischemic heart disease. 10th Internarional Symposium of Russia-Japan Medical Exchange. 2003.8.23 Yakutk
- C.1. <u>Imazuru T</u>, Kohno M, Fukuda I. Acute traumatic rupture of the thoracic aorta in paraglider crush. The 3rd Japan-Korea Joint Meeting for Vascular Surgery 2003.7.11 Kanazawa

(2)全国学術集会

2002年度

- B.1. 福田幾夫. 頚動脈病変を合併した虚血性心疾患の外科治療. 第30回日本血管外科学会総会. 那覇 2002.5.16
- C. 16件

- B.1. <u>福田幾夫</u>, <u>福井康三</u>, <u>一関一行</u>, 久我俊彦, 皆川正仁, 板谷博幸, <u>鈴木保之</u>. 胸部大動脈手術での偶発的合併症に対する対策. 第31回日本血管外科学会総会シンポジウム. 2003.7.10 金沢
- B.2. 福井康三、福田幾夫、板谷博幸、久我俊彦、皆川正仁、一関一行、小野裕逸、鈴木保之、「急性心筋梗塞後の機械的合併症に対する外科治療と問題点」 第56回日本胸部外科学会総会 (パネルデイスカッション)、東京、2003.11.2
- B.3. 對馬敬夫, 山田芳嗣, 畑中 克, 児玉博之, 若山文規, 大橋大成, 島田 淳, 高谷俊一, 福田幾夫. VATS 肺葉切除術における poor outcome 症例の検討. 第15回内視鏡外科フォーラム. 2004.3.27 仙台
- B.4. 平尾良範, 他 SSI サーベーランス われわれの取り組み 第3回 SSI サーベーランス研究会 横浜市 2004. 2. 20
- B.5. <u>福井康三</u>,「日赤血入手困難な時の外科医の対応」,日本輸血学会秋季シンポジウム(指定発言),弘前, 2003.10.4
- C. 37件

III. 学術賞

2003年度

第134回 弘前医学会例会 優秀発表賞 皆川正仁,福田幾夫,船越申央,山崎純一,福井康三,柳岡英樹,稲村隆夫.体外循環中の胸部大動脈内における血流解析:送血管の違いによる血流の特徴について. 2003.11.15

IV. 共同研究

2003年度

- 1. 固形癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査 (大鵬薬品工業)
- 2. 原発性非小細胞肺癌完全切除例の再発巣に対する外科治療成績の検討(Japan North-East Thoracic Surgery Study Group)

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

基盤研究(C)(2) 代償性肥大心筋の不全心発生機序と Oxidative stress 研究代表者 對馬敬夫, 600千円

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

2002年度

他研究単位との研究分担者として

平成14年度弘前大学重点研究. 動脈の病変進行メカニズム解明と病巣除去用マイクロアクチュエーターの開発. 代表 理工学部 宮田 寛教授

2003年度

研究代表者として

平成15年度弘前大学重点研究(研究代表者:宮田 寛). 動脈硬化の進行メカニズム解明と病巣除去用マイクロアクチュエータの開発

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として

民間との共同研究A. 大動脈内の血流の可視可モデルの作成と新しいカニューレの開発. 代表 福田幾夫. 5,207千円

2003年度

研究代表者として

福田幾夫,稲村隆夫,福井康三. 大動脈内の血流の可視化モデルの作成と新しいカニューレの開発. 平成14年度より継続

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流。国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘. 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生,研究生の受け入れ状況 2002年度 吉凱強. 中国医科大学, 中華人民共和国, 継続

2003年度

中国人留学生1名

- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 なし
- f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

- a) 全国レベルの学会の主催 なし
- b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

2003年度

福田幾夫 第15回青森呼吸器研究会. 青森 2002.8.23 福田幾夫 第2回心臓血管外科海峡カンファレンス 青森 2002.11.2

第 1 回青森末梢血管懇話会. 2004. 2.14 青森 第 7 回青森移植研究会. 2004. 3.13 青森

- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

なし

22. 外科学第二講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- 1. 論文(原著論文, 症例報告, 総説)作成を促進させる。出来うる限り Impact Factor の獲得を目指す。 到達度 3
- 2. 国際学会・全国レベルの学会発表を増加させる。

到達度 4

3. 科研費補助金や各種助成金の獲得を目指す。

到達度 2

4. 学生の教育・臨床実習指導の向上を図る。

到達度 4

5. 動物実験で成果が得られた研究課題の臨床への応用を目指す。

到達度 3

理念:

- 1. グローバルスタンダードから見て優れた医師及び医学研究者の育成。ならびに先進的な治療の開発
- 2. 地域の人に対する最高水準の治療の提供

これから2年間の目標:

- 1. 高い倫理観と目的意識を持った外科医の育成
- 2. 食道癌, 胃癌, 大腸癌, 肝癌, 膵癌, 胆道癌, 乳癌の治療成績の現状分析と本邦トップレベルの成績を目指した集学的治療法の開発
- 3. 有資格者の外科学会専門医・指導医、消化器外科学会専門医・指導医などの資格取得の徹底
- 4. 英文論文の倍増

【研究人員及び研究課題】

研究人員	教授 1, 即	力教授 1, 講師	师 3, 助手	6, 医員 8, 大学院学生 6, 研究生 5				
	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間				
	教 授	専 任	佐々木睦男	2002. 4 ~2003. 3				
	助教授	専 任	森田 隆幸	2002. 4 ~2003. 3				
	講師	専 任	吉原 秀一	2002. 4 ~2003. 3				
教官	講師	専 任	小田桐弘毅	2002. 4 ~2003. 3				
	講師	専 任	袴田 健一	2002. 4 ~2003. 3				
(教授~助手) の詳細	助手	専 任	鳴海 俊治	2002. 4 ~2003. 3				
の計画	助手	専 任	川崎 仁司	2002. 4 ~2003. 3				
	助 手	専 任	十東 英志	2002. 4 ~2003. 3				
	助手	専 任	豊木 嘉一	2002. 4 ~2003. 3				
	助手	専 任	村田 暁彦	2002. 4 ~2003. 3				
	助 手	専 任	柴田 滋	2002.11~2003.3				
	1. 異種交差灌流型人工肝開発							
	2. 肝内結石症の成因に関する研究							
	3. がんの遺伝子診断・遺伝子治療							
	4. 骨盤内手	手術における機能	 能温存					
研究課題	5. ヒト膵液	を中高フコース 料	唐タンパク質に	関する研究				
6. 炎症性腸疾患に対するプロテオグリカンの効果								
	7. 肝胆道膵	7. 肝胆道膵悪性腫瘍に対する外科治療成績の向上						
	8. 肝移植後	を肝再生不全に	おける multi-dru	ag resistance protein (MRP) の役割				
	9. 肝移植後ドナー特異的免疫寛容誘導に関する研究							

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講自	币 3, 助手	5, 医員 6, 大学院学生 7, 研究生 5				
	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間				
	教 授	専 任	佐々木睦男	2003. 4 ~2004. 3				
	助教授	専 任	森田 隆幸	2003. 4 ~2004. 3				
	講師	専 任	吉原 秀一	2003. 4 ~2004. 3				
教 官	講師	専 任	小田桐弘毅	2003. 4 ~2004. 3				
(教授~助手)	講師	専 任	袴田 健一	2003. 4 ~2004. 3				
の詳細	助 手	専 任	鳴海 俊治	2003. 4 ~2004. 3				
	助 手	専 任	川崎 仁司	2003. 4 ~2004. 3				
	助 手	専 任	十東 英志	2003. 4 ~2004. 3				
	助 手	専 任	豊木 嘉一	2003. 4 ~2004. 3				
	助 手	専 任	村田 暁彦	2003. 4 ~2004. 3				
	1. 肝不全に	対する人工肝臓	蔵の開発					
	2. 成人間生	E体肝移植後肝耳	再生調節機構の	解明				
	3. がんの遺	景伝子診断·遺伝	云子治療					
	4. 抗がん剤	別治療の基礎研究	芒					
研究課題	5. 低侵襲大腸手術の研究							
	6. 直腸癌に対する機能温存手術							
	7. 膵液中の	7. 膵液中の複合糖質についての研究						
	8. 炎症性腸	景疾患に対する神	复合糖質の有効	性				
	9. 胆道• 賭	陸領域の難治性 液	肖化器癌に対す	るQOLの向上を目的とした術式の開発				
	10. 肝細胞癌治療の合理化と遺伝子診断法の開発							

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

- A.1. Nara M, Hakamada K, Totsuka E, Nozaki T, Takiguchi M, Ono H, Aoki K, Umehara Y, Takahashi K, Umehara M, Chang TH, Hasimoto N, Itabashi Y, Toyoki Y, Seino K, Narumi S, Sasaki M. Xenogeneic bioartificial liver support by double filtration plasmapheretic cross circulation using a high performance semipermeable membrane. Hirosaki Med J 2002;53:104-110.
- A.2. <u>Itabashi Y, Narumi S, Hakamda K, Watanabe N, Aoki K, Sasaki M</u>. Allogeneic chimerism established with a mixture of low dose bone marrow cells and splenocytes in sublethally irradiated mice. Transplant Immnol 2002;10:25-30.
- A.3. <u>Hashimoto N, Narumi S, Itabashi Y, Hakamada K, Sasaki M</u>. Efficacy of donor splenocytes mixed with bone marrow cells for induction of tolerance in sublethally irradiated mice. Transplant Immunol 2002;10:37-41.
- A.4. <u>Totsuka E</u>, Fung JJ, Lee MC ,Isii T, <u>Umehara M</u>, Makino Y, <u>Chang TH</u>, <u>Toyoki Y</u>, <u>Narumi S</u>, <u>Hakamada K</u>, <u>Sasaki M</u>. Influence of cold ischemia time and graft transport distance on postoperative outcome in human liver transplantation. Surg Today 2002;32:792-799.
- B.1. Tanaka M, Saito H, Kusumi T, Shimoyama T, Fukuda S, Morita T, Sugita A, Hara M, Kudo H. *Biopsy pathology predicts patients with ulcerative colitis subsequently requiring surgery. Scand J Gastoenterology 2002;37:200-5.
- B.2. Ishido K, Takagaki K, Iwafune M, Yoshihara S, Sasaki M, Endo M. *Enzymic attachiment of glycosaminoglycan chain to peptide using the sugar chain transfer reaction with endo- β -xylosidase. J Bil Chem 2002;277:889-95.
- B.3. Tanji K, Mori F, Imaizumi T, Yoshida H, Matsumiya T, Tamo W, Yoshimoto M, <u>Odagiri H, Sasaki M,</u> Takahasi H, Satou K, Wwakabayashi K. *Upregulation of α-synuclein by lipopolysaccharide and interleukin-1 in human macrophages. Pathol Int 2002; 52:572-7.
- B.4. Kashiwaba M, Katsura K, Ohnishi M, <u>Sasaki M</u>, Tanaka H, Nishimune Y, Kobayashi T, Tamura S. *A novel protein phosphatase 2C family member (PPC2C ζ) is able to associate with ubiquitin conjugate enzyme 9. FFBS letter 2003;538:197-202.
- B.5. Sashimnami H, Nakane A, Iwakura Y, <u>Sasaki M</u>. *Effective induction acquired resistance to Listeria monocytogenes by immunizing mice with in vivo-infected dendritic cells. Infect Immun 2003;71:117-125
- C.1. <u>Toyoki Y</u>, Renz JF, Mudge C, Ascher NL, Roberts JP, Rosenthal P. Allograft rejection in pediatric liver transplantation: Comparison between cadaveric and living related donors. Pediatr Transplant 2002;6:301-307.

- A.1. Shibata S, Takagaki K, Ishido K, Konn M, Sasaki M, Endo M. HNK-1-Reactive oligosaccharide, sulfate-O-3GlcAbeta1-4Xylbeta1-MU, synthesized by cultured human colorectal cancer cells. Tohoku J Exp Med 2003; 199(1): 13-23.
- A.2. Nozaki T, Eishi T, Takiguchi M, Atsushi Y, Sasaki M. Attenuation of Canine Hepatic Warm Ischemia/Reperfusion Injury by Nitric Oxide Donor (FK409). Hirosaki Med J 2003; 54(3-4): 105-16.
- A.3. Sato T, Odagiri H, Ikenaga SK, Maruyama M, Sasaki M. Chemosensitivity of human pancreatic carcinoma cells is enhanced by I·B·super-repressor. Cancer Sci 2003; 94(5): 467-72.
- A.4. Morita T, Murata A, Koyama M, Totsuka E, Sasaki M. Current status of autonomic nerve-preserving surgery for mid and lower rectal cancers: Japanese experience with lateral node dissection. Dis Colon Rectum 2003: 46(10 SUPPL): S78-87.
- Takiguchi M, Totsuka E, Umehara M, Ono H, Nara M, Nozaki T, Wajima N, Takahashi K, Narumi S, Hakamada K, Sugai M, Sasaki M. Attenuation of microcirculatory disturbance after liver ischemia by newly synthesized inflammatory cytokine suppressor, FR167653. Hepatogastroenterology 2003; 50: 789-93.
- A.6. Chang TH, Hakamada K, Toyoki Y, Tsuchida S, Sasaki M. Expression of MRP2 and MRP3 during liver regeneration after 90% partial hepatectomy in rats. Transplantation 2004; 77(1): 22-7.
- B.1. Sashinami H, Nakane A, Iwakura Y, Sasaki M. *Effective induction of acquired resistance to Listeria monocytogenes by immunizing mice with in vivo-infected dendritic cells. Infect Immun 2003; 71(1): 117-25.
- B.2. Miyagawa Y, Ohguro H, Odagiri H, Maruyama I, Maeda T, Maeda A, Sasaki M, Nakazawa M. *Aberrantly expressed recoverin is functionally associated with G-protein-coupled receptor kinases in cancer cell lines. Biochem Biophys Res Commun 2003; 300(3): 669-73.
- B.3. Kashiwaba M, Katsura K, Ohnishi M, Sasaki M, Tanaka H, Nisimune Y, Kobayashi T, Tamura S. A novel protein phosphatase 2C family member (PP2C ζ) is able to associate with ubiquitin conjugating enzyme91. FEBS Lett 2003; 538: 197-202.
- B.4. Kato M, Kusumi T, Tsuchida S, Tanaka M, Sasaki M, Kudo H. *Induction of differentiation and peroxisome proliferator-activated receptor gamma expression in colon cancer cell lines by troglitazone. J Cancer Res Clin Oncol 2004; 130(2): 73-9.
- B.5. Kelly DM, Demetris AJ, Fung JJ, Marcos A, Zhu Y, Subbotin V, Yin L, Totsuka E, Ishii T, Lee MC, Gutierrez J, Costa G, Venkataraman R, Madariaga JR. Porcine partial liver transplantation: a novel model of the "small-for-size" liver graft. Liver Transpl 2004; 10(2): 253-63.
- B.6. Tanaka M, Kusumi T, Oshitani N, Nishigami T, Iwao Y, Hatada Y, Sugita A, Yao T, Takano M, Iizuka B, Mukai M, Maeda K, Fukuda S, Morita T, Hara M, Saito H, Kudo H. *Validity of simple mucosal biopsy criteria combined with endoscopy predicting patients with ulcerative colitis ultimately requiring surgery: a multicenter study. Scand J Gastroenterol 2003; 38(6): 594-8.
- B.7. Ohguro H, Odagiri H, Miyagawa Y, Ohguro I, Sasaki M, Nakazawa M. *Clinicopathological features of gastric cancer cases and aberrantly expressed recoverin. Tohoku J Exp Med 2004; 202(3): 213-9.

和文

2002年度

- A.1. <u>柴田 滋</u>, 川崎仁司, <u>中井</u> 款, 諸橋 一, 松谷英樹, 山田恭吾, 森田隆幸, <u>佐々木睦男</u>. 食道癌に対する白金製剤 / 5-FU 併用化学放射線療法. 癌と化学療法 2002;29:2209-2212.
 B.1. 新岡丈典, 大久保正, 菅原和信, <u>鳴海俊治</u>, <u>袴田健一</u>, <u>十東英志</u>, <u>豊木嘉一</u>, <u>佐々木睦男</u>, 小島佳也, 保嶋 実. 生体肝移植患者におけるタクロリムス点滴持続静注時の体内動態解析. TDM 研究 2002;19:151-152.
- B.2. 柏葉光宏, 吉原秀一, 佐々木睦男, 田村眞理. マウスの精細胞に発現する新規プロテインホスファターゼ 2C(PPC2Cζ) のユビキチン連結酵素 9 (UBC9) による活性制御. 弘前医学 2002;54:21-35.

2003年度

- A.1. 坂本義之, 吉原秀一, 小林孝安, 田村眞理, 佐々木睦男. マイクロアレイを用いた P19 胚性腫瘍細胞の神 経分化及び原始内胚葉分化に伴う発現遺伝子の解析. 弘前医学 2003; 54(3-4): 117-35.
- 張 同輝, <u>袴田健一</u>, <u>石澤義也</u>, 梅原 <u>実</u>, 豊木嘉一, 十束英志, 鳴海俊治, 佐々木睦男. 大量肝切除後 肝再生時におけるビリルビン排泄蛋白 multidrug Resistance Protein (Mrp)2, Mrp3 発現量・局在の検討. 薬理と治療 2003; 31(SUPPL): S133-135.
- B.1. 高木和歌子, 葛西真喜子, 中嶋裕子, 佐藤正治, 佐々木睦男. *血栓予防のための加振機能付手術足台の開 発と臨床有用性の検討. 日本手術医学会誌 2003; 24(1): 54.
- B.2. 新岡丈典, 鳴海俊治, 袴田健一, 川崎仁司, 小田桐弘毅, 森田隆幸, 佐々木睦男, 小島佳也, 保嶋 実, 菅原和信. *バンコマイシン投与患者における腎機能障害発症予測因子及び血中濃度測定の必要性に関す る検討. 医薬品相互作用研究 2003; 26(4): 106-12.
- B.3. 相馬正始,佐藤能啓,近藤和泉,細川賀乃子,岩田 学,古木名寿登,対馬祥子,鳴海俊治,<u>袴田健一</u>, 佐々木睦男.*成人間生体部分肝移植後のリハビリテーション症例の検討.弘前医学 2003; 54(3-4):
- B.4. 板橋幸弘, 馬場俊明, 栗田武彰, 加藤 智, 佐々木睦男. 当院における腹腔鏡補助下幽門側胃切除 (Laparoscopy-assisted distal gastrectomy; LADG) の検討. 弘前医学 2003; 55(1): 1-6.

(2)総説

なし

和文

- A.1. <u>佐々木睦男</u>, 吉原秀一, <u>袴田健一</u>, <u>鳴海俊治</u>. 胆道拡張症に対する肝外胆道切除. 手術 2002;56:1279-1284. A.2. <u>西川晋右</u>, 森田隆幸, 佐々木睦男. 消化管損傷. 臨床産婦人科 2002;56:546-548. A.3. 森田隆幸, 伊藤 卓, 村田暁彦, 木村 寛, 鈴木 純, 佐々木睦男. 大腸癌の外科的治療(2) 標準的治療(直 腸). コンセンサス癌治療 2002;1:70-75.
- A.4. 渡邊伸和, 森田隆幸, 小山 基, 佐々木睦男. 腸管のファンクショナル端々吻合のコツは?. 臨外 2003;3:362-3.
- A.5. <u>森田隆幸</u>, <u>村田暁彦</u>, <u>小山 基</u>, <u>池永照史朗一期</u>, <u>佐々木睦男</u>. 直腸ダブルステイプリング法のコツは?. 臨外 2003;3:367-8.
- A.6. 森田隆幸,村田暁彦,小山 基,鈴木 純,吉崎孝明,中村文彦,渡邊伸和,西澤雄介,佐々木睦男.直腸癌に対する肛門括約筋温存手術.消化器外科 2003;26(3):327-34.
 A.7. 森田隆幸,村田暁彦,小山 基,西川晋右,高橋研太郎,諸橋聡子,中村文彦,佐々木睦男.回腸嚢肛門(管)吻合.外科治療 2003;増刊(3月):622-7.

2003年度

- A.1. 小山 基. 森田隆幸, 村田暁彦, 小野裕明, 石澤義也, 大橋大成, 佐々木睦男. 下部直腸癌に対する括約
- 筋温存術の適応と限界. 外科治療 2003; 89(4): 407-12. A.2. 早川一博, 須田和義, 菊田信一, <u>森田隆幸</u>. 肛門疾患手術のクリニカルパス. 消化器外科 2003; 26: 457-64.
- A.3. <u>森田隆幸</u>, 村田暁彦, 小山 <u>基</u>, 丸山将輝, 長谷川傑, 佐々木睦男. 進行下部直腸癌に対する腹膜外アプローチによる側方リンパ節郭清. 手術 2003; 57(6): 701-7.
 A.4. <u>鳴海俊治</u>, 袴田健一, 十束英志, 佐々木睦男. PpPD 術後再建法による胃排出障害の重症度の検討. 胆膵の生理機能 2003; 19: 19-22.
- A.5. 森田隆幸. XI. 大腸癌の治療戦略 外科療法 大腸癌の診断と治療-最新の研究動向- 下部直腸癌の <u> 側</u>方リンパ節郭清. 日本臨牀 2003; 61(7): 409-12.
- A.6. 森田隆幸、村田暁彦、小山 基、西川晋右、中井 款、高橋研太郎、諸橋聡子、中村文彦、佐々木睦男、縫合・吻合法の実際 大腸切除後の再建術 回腸嚢肛門(管)吻合、外科治療 2003; 88(増刊): 622-7.
- A.7. <u>袴田健一,鳴海俊治,豊木嘉一,十束英志、佐々木睦男</u>,羽田隆吉.消化器疾患に対するクルニカルパスの評価 13. 膵島十二指腸切除-クリニカルパス対応型診断群分類入力ソフト開発への発展. 外科 2004; 66(1): 73-80.
- A.8. 西澤雄介, 森田隆幸, 村田暁彦, <u>佐々木睦男</u>. 【Q&A器械吻合・縫合のコツ】腸管の端側吻合のコツは? 臨床外科 2003; 58(3): 364-6.

(3)著書

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. 森田隆幸. 直腸切除術. 消化器外科周術期管理のすべて 松野正紀他(編). 東京:メディカルビュー社; 2002
- A.2. 森田隆幸, 直腸癌(2)外科的治療, 直腸癌に対する側方郭清とTME, テキスト大腸癌, 武藤徹一郎 <u>(監)</u> 小西文雄他(編). 東京:日本メディカルセンター;2002.
- A.3. 森田隆幸, 直腸肛門の疾患 脱肛, 直腸脱, 直腸粘膜脱症候群, 今日の消化器疾患治療指針, 2 版, 多賀
- A.4. <u>佐々木睦男</u>. 胆道・胆嚢機能検査. 今日の消化器疾患治療指針. 2版. 多賀須幸男他(編). 東京: 医学書 院:2002.

2003年度

B.1. 森田隆幸. C. 対症療法. 杉原健一編. 再発大腸癌治療ガイドブック. 東京: 南江堂; 2003. p. 226-31.

(4)その他

英文

2002年度

A.1. Toyoki Y, Hakamada K, Narumi S, Totsuka E, Chang TH, Umehara M, Sasaki M. Living donor liver transplantation from 69 years and 9 months old donor: a case report. Transplant Proc 2003; 35: 64-65.

和文

- A.1. <u>木村憲央</u>, 森田隆幸, 村田暁彦, 馬場俊明, 西村顕正, 佐々木睦男. 巨大な後腹膜脂肪腫の 1 例. 日臨外 会誌 2002;63:2030-2034.
- A.2. 笠島浩行, 野田頭達也, 藤田正弘, 高屋誠章, 森田隆幸, 佐々木睦男. 直腸肛門部に発生した無色素性悪 性黒色腫の 1 例. 日臨外会誌 2002;63:2509-2513.
- B.1. 加藤孝一郎, 森田隆幸, 亀山雅男, 渡邊昌彦, 吉岡和彦, 平井 孝, 高尾良彦, 洲之内廣紀, 緒方 裕, 冨田尚裕, 白戸博志, 赤須孝之, 池内健二, 高橋慶一, 久保隆一. 大腸癌に対する全身化学療法の現況 第16回大腸疾患外科療法研究会アンケート調査結果 癌と化学療法。29(6);895-903,2002

- B.2. 福田幾夫、佐々木睦男、外科集術期における抗菌薬の使い方について、青森県下の外科医152名によるア ンケート調査の集計結果から. 弘前市医師会報 2002;285:34-38.
- B.3. 福田幾夫, <u>佐々木睦男</u>. 外科集術期における抗菌薬の使用法の適正化について. 「抗菌薬使用の手引き」か ら. 弘前市医師会報 2002;285:39-41.
- B.4. <u>十束英志</u>, Fung JJ, 梅原 <u>実</u>, <u>小野裕明</u>, <u>鳴海俊治</u>, <u>袴田健一</u>, <u>佐々木睦男</u>. 心停止及び心停止後蘇生ドナーからの肝移植の経験. 今日の移植 2002;15:100-104.
- B.5. 齋藤美貴, 坂本知已, 湯澤 映, 丸山英俊, 佐藤重美, 水沼英樹, <u>袴田健一</u>, 鳴海俊治, <u>豊木嘉一</u>, <u>渡辺</u>伸和, 佐々木睦男. FDG-PETが診断に有用であった卵巣癌肝転移の一例. 青森臨産婦誌. 2002;17:38-43.
- B.6. 横山昌樹(双仁会厚生病院 外科), 石川惟愛, 小野慶一, 森田隆幸. 腎癌小腸転移の1例. 日臨外会誌 2002;63:2271-2274.

- A.1. 佐々木睦男. 突発性胆嚢穿孔. 消化器画像 2004; 6(2): 235-8.
- A.2. <u>笠島浩行</u>, 黒滝日出一, 藤田正弘, 西澤雄介, 野田頭達也, 高屋誠章, <u>佐々木睦男</u>. 転移性脾腫瘍と鑑別を要した脾 Gamna-Gandy 結節の 1 例. 外科 2003; 65(13): 1748-50.

 A.3. <u>笠島浩行</u>, 森田隆幸, 黒滝日出一, 舘岡 博, 藤田正弘, 森谷 洋, 松本陸郎, 村田暁彦, 小山 基, 八木橋操六, 佐々木睦男. 直腸肛門部悪性黒色腫の臨床病理学的検討. 癌の臨床 2003; 49(3): 219-23.
- A.4. 西村顕正, 森田隆幸, 村田暁彦, 馬場俊明, 池永照史郎一期, 木村憲央, 佐々木睦男. 抗リン脂質抗体症候群にSLEを合併した上腸間膜静脈血栓症の1例. 日本大腸肛門病学会雑誌 2003; 56(7): 346-50.
- A.5. <u>小山 基, 森田隆幸, 村田暁彦, 佐々木睦男</u>. 大量出血により緊急手術を施行したCrohn病の5例. 日本消化器外科学会雑誌 2004; 37(2): 202-7.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Transplant Immnol	1.172	2	2.344
Surg Today	0.48	1	0.48
Hirosaki Med J	0	1	0
Scand J Gastroenterol	1.826	1	1.826
J Bil Chem	7.258	1	7.258
Pathol Int	0.938	1	0.938
FEBS Lett	3.644	1	3.644
Infect Immun	4.212	1	4.212
Total		9	20.702

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Tohoku J Exp Med	0.494	1	0.494
Hirosaki Med J	0	1	0
Cancer Sci	0	1	0
Dis Colon Rectum	2.308	1	2.308
Hepatogastroenterology	0.833	1	0.833
Transplantation	3.265	1	3.265
Infect Immun	4.039	1	4.039
Biochem Biophys Res Commun	2.935	1	2.935
FEBS lett	3.912	1	3.912
Scand J Gastroenterol	1.847	1	1.847
Liver Transpl	3.786	1	3.786
J Cancer Res Clin Onclo	2.197	1	2.197
Total		12	25.616

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
癌と化学療法 TDM研究 弘前医学 手術 臨床産婦人科 コンセンサス癌治療 臨外			1 1 1 1 1 1 2	3 1

消化器外科 外科治療 薬理と治療 日本手術医学会誌 医薬品相互作用研究 胆膵の生理機能 日本臨牀 外科	1 1	1 2 1 1 1 1 1
計	10	13

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担執筆		0	0

和文

種 目	2002年度	2003年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	4	1

3. その他 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Trransplant P	0.568	1	0.568
Total		1	0.568

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日臨外会誌			3	
癌と化学療法			1	
弘前市医師会報			2	
今日の移植			1	
青森臨産婦誌			1	
外科				1
癌の臨床				1
日本大腸肛門病学会誌 日本消化器外科学会雑誌				
日本相化 器 外科子芸雜誌 消化器画像				1
1月14世間隊				1
	計		8	5

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

- C.1. Totsuka E, Fung JJ, Hakamada K, Narumi S, Umehara M, Sasaki M. Influence of cold and warm ischemia time on postoperative graft outcome in human liver transplantation. 5th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association (IHPBA). Tokyo, 2002.4.25~29
- C.2. Kasajima H, Hakamada K, Narumi S, Toyoki Y, Totsuka E, Baba T, Yamada K, Kimura N, Sasaki M. Invasive intraductal papillary-mucinous carcinoma with observation periods for more than ten years. 5th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association (IHPBA). Tokyo, 2002.4.25 ~29
- C.3. Hakamada K, Narumi S, Sasaki M. A single-center, prospective randomized experience on prevention of delayed gastric emptying after pylorus-preserving pancreatoduodenectomy: Conventional reconstruction vs. jejunal interposition. 5th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association (IHPBA). Tokyo, 2002.4.25~29
- C.4. Narumi S, Hakamada K, Totsuka E, Toyoki Y, Sasaki M. Factors influecing delayed gastric emptying after PpPD. 5th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association (IHPBA). Tokyo, 2002.4.25~29
- C.5. Narumi S, Yamada K, Hakamada K, Totsuka E, Toyoki Y, Sasaki M. Serous cystadenoma of the pancreas: It's point for diagnosis. 5th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association

- (IHPBA), Tokyo, 2002.4.25~29
- C.6. Baba T, Hakamada K, Narumi S, Totsuka E, Yamada K, Kimura N, Sasaki M. One-step laparoscopic surgery for the treatment of cholecystocholedocholithiasis. 5th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association (IHPBA). Tokyo, 2002.4.25~29
- C.7. Chang TH, Hakamada K, Narumi S, Totsuka E, Toyoki Y, Baba T, Sasaki M. Repeated hepatectomy for recurrent hepatocellular carcinoma. 5th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association (IHPBA). Tokyo, 2002.4.25~29
- C.8. icus: It's knacks and pitfalls for diagnosis and treatment. 5th World Congress of the International Hepato-Pancreato-Biliary Association (IHPBA). Tokyo, 2002.4.25~29

- C.1. <u>Toyoki Y</u>, Rosenthal P, Ascher NL, Roberts JP, <u>Hakamada K</u>, <u>Narumi S</u>, <u>Sasaki M</u>. Factors affecting survival after liver transplantation in infants. 第 2 回国際小児移植学会,Rio de Janeiro,2003年 4 月
- C.2. Narumi S, Hakamada K, Totsuka E, Toyoki Y, Sasaki M. Difference of severity of delayed gastric emptying after pylorus-preserving pancreatoduodenectomy between two types of reconstruction. DDW2003, Florida, 2003年5月
- C.3. Koyama M, Morita T, Murata A, Kawashima H, Hagiwara C, Ohashi M, Sasaki M. Trans-anal anastomosis with colonic J-pouch for very lower rectal cancer. 第14回Japan-China Joint Congress for Gastroenterological Surgery Tokyo, 2003年7月
- C.4. Ohta S, Yoshihara S, Nakazawa H, Kon A, Endo M, Takagaki K. 「Proteoglycans involvement in disease」 Effects of Proteoglycans on murine experimental colitis. 第3回International conference of proteoglycans, Parma, 2003年9月
- C.5. Nishimura A, Hakamada K, Narumi S, Totsuka E, Ishizawa Y, Umehara Y, Sasaki M. Intraooerative blood lactate as an early predictor of initial graft function in human living donor liver transplantation. 第8回アジア移植学会, Kuala Lumpur, 2003年9月
- C.6. Toyoki Y, Hakamada K, Narumi S, Totsuka E, Sasaki M. Primary immunosuppression regimen of very rapid steroid withdrawal after living-related liver transplantation in a single center experience. 第8回アジア移植学会, Kuala Lumpur, 2003年9月
- C.7. Nozaki T, Totsuka E, Nara M, Takiguchi M, Yoshida A, Wajima N, Takahashi K, Hakamada K, Sasaki M. 「Experimental Liver Transplantation」Down Regulation of Inducible Nitric Oxide Synthase in Canine Hepatic Warm Ischemia / Reperfusion Injury by Exogenous Novel Nitric Oxide Donor (FK409), 第8回 アジア移植学会, Kuala Lumpur, 2003年9月
- C.8. Totsuka E, Fung JJ, Hakamada K, Ohashi M, Takahashi K, Nakai M, Morohashi S, Morohashi H, Kimura N, Nishimura A, Ishizawa Y, Ono H, Toyoki Y, Narumi S, Sasaki M. 「Clinical Liver Transplantation」 Synergistic Effect of Cold And Warm Ischemia Time on Postoperative Graft Outcome in Human Liver Transplantation. 第8回アジア移植学会, Kuala Lumpur, 2003年9月
- C.9. Totsuka E, Fung JJ, Hakamada K, Tanaka M, Takahashi K, Nakai M, Morohashi S, Nishimura A, Ishizawa Y, Ono H, Toyoki Y, Narumi S, Sasaki M. 「Clinical Liver Transplantation」 Analysis of clinical variables of donors and recipients with respect to short term graft outcome in human liver transplantation. 第8回アジア移植学会, Kuala Lumpur, 2003年9月
- C.10. Totsuka E, Hakamada K, Narumi S, Makino Y, Umehara M, Nara M, Hashimoto N, Takiguchi M, Kimura Y, Watanabe N, Tazawa T, Okawa H, Tsubo T, Ishihara H, Yoshihara S, Eondoh M, Morita T, Sasaki M. 「Clinical Liver Transplantation」A Case of Living Donor Liver Transplantation Using Marginal Small-For-Size Graft. 第8回アジア移植学会, Kuala Lumpur, 2003年9月
- C.11. Totsuka E, Hakamada K, Narumi S, Toyoki Y, Umehara Y, Ishizawa Y, Nishimura A, Watanabe N, Yoshida A, Morita T, Sasaki M. 「Clinical Liver Transplantation」 Inoperable Cases with End-Stage-Liver Disease Despite Requests of Living Donor Liver Transplantation. 第8回アジア移植学会, Kuala Lumpur, 2003年9月
- C.12. Totsuka E, Hakamada K, Narumi S, Toyoki Y, Umehara Y, Okawa H, Tsubo T, Ishihara H, Yoshihara S, Eondoh M, Morita T, Sasaki M. 「Clinical Liver Transplantation」 Hepatic Vein Anastomotic Stricture after Living Donor Liver Transplantation. 第8回アジア移植学会, Kuala Lumpur, 2003年9月
- C.13. Totsuka E, Hakamada K, Ohashi M, Morohashi H, Kimura N, Toyoki Y, Seino K, Sasaki M. 「Experimental Liver Transplantation」 Influence of Portal Collateral Pathway On Canine Partial Liver Transplant Model: Significance of Portal Blood Flow. 第8回アジア移植学会, Kuala Lumpur, 2003年9月
- C.14. Totsuka E, Murata A, Nishimura A, Umehara M, Nara M, Ono H, Nozaki T, Takiguchi M, Wajima N, Takahashi K, Seino K, Narumi S, Hakamada K, Sasaki M. 「Organ Procurement and Preservation」 Attenuation of Canine Warm Ischemic Small Bowel Injury by Novel Combination of Nitric Oxide Donor, FK409, and Cytokine Suppressive Anti-inflammatory Agent, FR167653. 第8回アジア移植学会, Kuala Lumpur, 2003年9月
- C.15. Umehara M, Totsuka E, Ishizawa Y, Nara M, Umehara Y, Hakamada K, Sasaki M. In vitro evaluation of cross-circulation system using semipermeable membrane combined with whole liver perfusion. 第8回アジア移植学会, Kuala Lumpur, 2003年9月
- C.16. Yoshida A, Narumi S, Hashimoto N, Itabashi Y, Hakamada K, Sasaki M. 「Histocompatibility and Immunogrnetics」 CD8 T Cell of Donor Splenocyte Mixed with Donor Bone Marrow Cells is More Effective than CD4 T Cell for Donor-specific Tolerance in Sublethally Irradiated Mice. 第8回アジア移植学会, Kuala Lumpur. 2003年9月
- C.17. Umehara Y, Demetriou AA, Rozga J. 「Freeze-dried liver powder (FDLP) supports」Rat hepatocytes in culture. 第54回Annual meeting of the American association for the study of liver disease. Chicago, 2003年10月
- C.18. Umehara Y, Demetriou AA, Rozga J. 「Freeze-dried liver powder (FDLP) supports」Rat hepatocytes in culture. 第89回Surgical forum program, American college of surgeons. Chicago, 2003年10月
- C.19. Ohta S, Yoshihara S, Nakazawa H, Tanaka M, Takagaki K, Sasaki M. 「IBD: Cell Biology」 Effects of

Proteoglycans on Dextran sulfate sodium Induced experimental colitis. 第11回United European Gastroenterology Week. Madrid, 2003年11月

(2)全国学術集会

2002年度

- A.1. 村田暁彦, 森田隆幸, 伊藤 卓, 西川晋右, 野崎 剛, 長谷川傑, 佐々木睦男; 直腸癌側方郭清の適応と 意義, 第64回臨床外科学会、東京、2002年
- C. 42件

2003年度

- B.1. 袴田健一, 鳴海俊治, 豊木嘉一, 十束英志, 川嶋啓明, 西澤雄介, 佐々木睦男. シンポジウム「転移性肝腫瘍に対するablation治療」膵癌術後肝転移集学的治療におけるラジオ波焼灼療法. 第15回日本肝胆膵外科学会, 金沢, 2003年5月.
- B.2. 佐々木睦男, 特別発言 パネルディスカッション「漿膜非露出 (S0) 進行胆嚢癌の外科的戦略」第39回日本肝胆膵外科関連会議 in 金沢, 金沢, 2003年5月.
- B.3. 豊木嘉一, 佐々木睦男. 胆管癌手術における切離断端の臨床的評価 症例提示 第32回日本胆道外科研究 会,金沢, 2003年5月.
- B.4. 袴田健一,鳴海俊治,十束英志,豊木嘉一,佐々木睦男.パネルディスカッション「クリニカルパスが外科診療に果たす役割の実証」臨床的・経済的アウトカムと患者満足度からみた膵十二指腸切除術後クリニカルパス導入の成果と問題点.第103回日本外科学会定期学術集会,札幌,2003年6月.
- B.5. 鳴海俊治, 袴田健一, 十束英志、豊木嘉一, 佐々木睦男. パネルディスカッション「胆嚢癌に対する手術 適応・手術術式の再考」HPDは必要か? 第103回日本外科学会定期学術集会, 札幌, 2003年6月.
- B.6. 森田隆幸、パネルディスカッション「次の症例のbest treatmentは? (消化管)」. 第58回日本消化器外科学会総会、東京、2003年7月.
- B.7. 袴田健一,鳴海俊治,豊木嘉一,十束英志,佐々木睦男.ワークショップ「消化器癌治療におけるクリニカルパスの根拠とその効果」膵頭領域癌治療に対するクリニカルパス導入の成果とDPC対策への応用.第 58回日本消化器外科学会総会,東京,2003年7月.
- B.8. 馬場俊明, 袴田健一, 吉原秀一, 鳴海俊治, 十束英志, 豊木嘉一, 佐々木睦男. ワークショップ「腹腔鏡下胆嚢摘出術後の重篤合併症ーなぜ起こったか? どう対処するか?」腹腔鏡下胆嚢摘出術における術中紹音波検査の有用性の検討。東京、2003年7月
- 超音波検査の有用性の検討. 東京, 2003年7月 B.9. 鳴海俊治, 袴田健一, 佐々木睦男. ワークショップ「胆道癌の免疫・化学療法と放射線療法」胆管癌に対する放射線療法の意義. 第39回日本胆道学会学術集会, 金沢, 2003年9月
- B.10. 袴田健一. シンポジウム「インフォームドコンセント」生体肝移植におけるインフォームドコンセントー 医師の立場からー. 第57回医薬品相互作用研究会, 弘前, 2003年10月.
- B.11.小山 基,森田隆幸,村田暁彦,川嶋啓明,萩原主税,大橋大成,佐々木睦男.ワークショップ「肛門温存手術術式とその術後機能」下部進行直腸癌に対する括約筋温存術の長期術後成績と肛門機能-経肛門的吻合症例の検討-.第58回日本大腸肛門病学会,名古屋,2003年11月.
- B.12.小山 基,森田隆幸,村田暁彦,川嶋啓明,萩原主税,大橋大成,佐々木睦男.パネルディスカッション 「癌縮小手術の遠隔成績」下部直腸癌に対する癌縮小手術の長期術後成績-肛門括約筋部分温存・経肛門的 吻合症例の検討-.第65回日本臨床外科学会総会,福岡,2003年11月.
- C. 86件

III. 学術賞

2002年度

第7回医学部学術奨励賞 奈良昌樹

第5回附属病院診療奨励賞 村田暁彦, 小山 基, 渡辺伸和, 西沢雄介, 中澤秀明, 中井 款

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

基盤研究(C)(2) 脾細胞を用いた免疫寛容の誘導-その脳死及び生体移植への応用を目指して 研究代表者 鳴海俊治 配分額 400千円

基盤(C)(2) イヌ劇症肝炎モデルに対するハイパフォーマンス膜を用いたブタ異種交叉灌流の有効性研究代表者 十束英志 1,400千円

基盤(C)(2) 霊長類劇症肝炎モデルに対するハイパフォーマンス膜を介したブタ摘出肝異種交叉潅流 研究代表者 佐々木睦男 1,700千円

研究代表者として 基盤研究(C)(2) 霊長類劇症肝炎モデルに対するハイパフォーマンス膜を介したブタ摘出肝異種交叉潅

(2)その他の省庁からの研究費

2003年度

他研究単位との研究分担者として 佐々木睦男 厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 肝内結石症調査研究

(3)学内の研究助成

2003年度

他研究単位との研究分担者として 吉原秀一 弘前大学学長指定重点研究 プロテオグリカン研究拠点の構築

流 研究代表者 佐々木睦男 配分額 1,600千円

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 2003年度

Achilles A. Demetriou, Cedars-Sinai Medical Center, UCLA, USA, H15.4.16-19.

- c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 2002年度

梅原 豊 (UCLA) (米国) (継続)

f) その他

なし

- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催

2003年度

佐々木睦男, 第39回日本腹部救急医学会総会, 弘前市

b) 地方レベルの学会の主催

2003年度

佐々木睦男, 第6回東北移植研究会, 仙台市

- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d)国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 2002年度

坂本義之(東北加齢研究所)(継続)

宮本慶一(国立ガンセンター)(継続)

2003年度

宮本慶一(国立ガンセンター)(継続)

VII. その他

なし

23. 整形外科学講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- 1. Impact factor の付いた学術誌への年数編の論文を発表。(100%)
- 2. 大学院生の基礎的研究・助手の臨床研究の推進。(50%)
- 3. 国際学会、全国レベルの学会などのシンポジウムで発表できるようなレベルの基礎的・臨床的研究を進める。 (100%)
- 4. 科学研究費をはじめとした各種研究費が認められるような研究を進める。(20%)
- 5. 工学部との共同研究を進める。(50%)

理念:

世界に発信できるような研究の指導

これから2年間の目標:

- 1. Impact factor の付いた学術誌への年数編の論文を発表。
- 2. 大学院生の基礎的研究・助手の臨床研究への指導。
- 3. 国際学会, 全国レベルの学会などのシンポジウムで発表できるようなレベルの基礎的・臨床的研究の発展。
- 4. 科学研究費をはじめとした各種研究費が認められるような研究の発展。
- 5. 工学部との共同研究の推進。

【研究人員及び研究課題】

研究人員	教授 1, 即	力教授 0,講師	币 3,	助手	4, 医員 11, 大学院学生 12, 研究生 23		
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
	教 授	専 任	藤	哲	2002. 4 . 1 -2003. 3 .31		
	講師	専 任	西川	真史	2002. 7 . 1 -2003. 3 .31		
	助 手	専 任	西川	真史	2002. 4 . 1 -2002. 6 .30		
教官	講師	専 任	石橋	恭之	2002.10. 1 -2003. 3 .31		
(教授~助手)	助 手	専 任	石橋	恭之	2002. 4 . 1 -2002. 9 .30		
の詳細	講師	専 任	岡田	晶博	2003. 3 . 1 -2003. 3 .31		
○ フォナル山	助 手	専 任	岡田	晶博	2002. 4 . 1 -2003. 2 .28		
	助 手	専 任	中村	吉秀	2002. 4 . 1 -2003. 3 .31		
	助 手	専 任	横山	徹	2002. 4 . 1 -2003. 3 .31		
	助 手	専 任	津田	英一	2002.10. 1 -2003. 3 .31		
	助 手	専 任	三浦	一志	2002.10. 1 -2003. 3 .31		
	1. 偽関節治療及び骨延長における治療期間短縮への基礎的/臨床的研究						
	2. 母指 CM 関節症の病態と治療						
	3. 医療用で	マイクロマシー:	ンの開発	Ě			
	4. 手及び指	f関節鏡による	塩床 応月	月			
研究課題	5. 転移性着	野椎腫瘍患者の	QOL 向	上に貢献	歌する手術法の開発と改善		
圳九林煜	6. 頚部脊髄	値症患者の脊髄腫	形態と症	E状経過	との関係		
	7. ウサギ実験的骨壊死の壊死修復に対するビスホスフォネートの効果						
	8. 膝靱帯修復に関する基礎的研究						
	9. 関節固有感覚機能の定量的評価に関する基礎的研究						
	10. 関節軟骨修復に関する基礎的研究						

研究人員	教授 1, 助		币 2,	助手	4, 医員 8, 大学院学生 9, 研究生 19		
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
	教 授	専 任	藤	哲	1年		
	助教授	専 任	西川	真史	1年		
教 官	講師	専 任	岡田	晶博	1年		
(教授~助手)	講師	専 任	石橋	恭之	1年		
の詳細	助手	専 任	中村	吉秀	1年		
	助 手	専 任	横山	徹	1年		
	助 手	専 任	津田	英一	1年		
	助 手	専 任	工藤	悟	1 年 2004. 3 .31 異動		
	1. 骨延長における治療期間短縮への基礎的/臨床的研究						
	2. 医療用マイクロマシーンの開発 1. 膝前十字靭帯損傷の治療と予防						
	3. 小関節鏡の臨床応用						
	4. 関節鏡手術関連の手術機器の開発						
研究課題	5. 膝関節軟骨修復に関する基礎的研究:プロテオグリカンの軟骨培養における効果						
切几杯烟	6. 膝関節バイオメカニクス						
	7. 弘前大学式セメントレス人工股関節の臨床応用と長期成績の解析						
	8. 特発性大腿骨頭壊死に対する骨頭温存手術の長期成績の解析と新しい治療法の開発						
	9. 頚部脊髄症患者の脊髄形態と症状経過との関係						
	10. 正常成人における頚椎運動と脊髄形態との比較						

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

- A.1. Toh S, Tsubo T, Nishikawa S, Nakamura R, Inoue S, Narita S. Harata S: Long-standing Non-union of Fractures of the Lateral Humeral Condyle. J Bone Joint Surg-Am. 2002; 84-A: 593-598.
- A.2. Toh S, Tsubo K, Nishikawa S, Nakamura R, Inoue S, Narita S.: Osteosynthesis for nonunion of the lateral humeral condyle. Clin Orthop. 2002;405:230-41.
- A.3. Vallejo GI, Toh S, Arai H, Arai K, Harata S:Results of Latissimus dorsi and teres major tendons transfer on to the rotator cuff for brachial plexus birth palsies. Scand J Plast Recons. 2002; 36:207-211.
- A.4. Arai K., Toh S. Tsubo K, Nishikawa S., Narita S., Miura H: Complications of vascularized fibula graft for reconstruction of long bones. Plast and Reconstr Surg 2002; 109: 2301-6
- A.5. Ishibashi Y, Okamura Y, Otsuka H, Tsuda E, Toh S.: Lateral patellar retinaculum tension in patellar instability.Clin Orthop. 2002; 395: 362-369.
- A.6. Nishikawa S, Toh S, Anatomical Study of the Carpal Attachment of Triangular Fibrocartilage Complex. J Bone Joint Surg-Br. 2002; 84-B: 1062-1065.
- A.7. Sasaki T, Ishibashi Y, Okamura Y, Sasaki T, Toh S: MRI Evaluation of Growth Plate Closure Rate and Pattern in the Normal Knee joint. J Knee Surg. 2002; 15: 72-6
- A.8. Pegoli L, Toh S, Arai K, Fukuda A, Nishikawa S, Vallejo IG: The Ishiguro extension block technique for the treatment of mallet finger fracture:Indications and clinical results. J Hand Surg -Brit Eur. 2003 Feb;28(1):15-7.
- A.9. Toh S, Miural H, Arai K, Yasumura M, Wada M, Tsubo K: Scaphoid fractures in children: problems and treatment . J Pediatr Orthop. 2003 Mar-Apr;23(2):216-21.
- A.10.Tsuda E, Ishibashi Y, Okamura Y, Toh S.: Restoration of anterior cruciate ligament-hamstring reflex arc after anterior cruciate ligament reconstruction. Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc 2003; 11:63-7
- A.11.Otsuka H, Ishibashi Y, Tsuda E, Sasaki K, Toh S.:Comparison of three techniques of anterior cruciate ligament reconstruction with bone-patellar tendon-bone graft: differences in anterior tibial translation and tunnel enlargement with each technique. Am J Sport Med. 2003; 31: 282-288
- A.12. Yamamoto Y, Furukawa K, Ueyama K, Nakanishi T, Takigawa M, Harata S.: Possible roles of CTGF/Hcs24 in the initiation and development of ossification of the posterior longitudinal ligament. Spine. 2002;27:1852-7.
- B.1. Shimo-Onoda K, Tanaka T, Furushima K, Nakajima T, Toh S, Harata S, Yone K, Komiya S, Adachi H, Nakamura E, Fujimiya H, Inoue I. Akaike's information criterion for a measure of linkage disequilibrium.J Hum Genet 2002;47(12):649-55
- B.2. *T. Sasaki, Y. Saito, H. Yodono, G.L.M. Prado, H. Miura, Y. Itabashi, Y. Ishibashi: Labral-ligamentous complex of the shoulder. Evaluation with double oblique axial MR arthrography. Acta Radiologica (2003) 44: 435-439
- B.3. *Taisuke Sasaki, Hiraku Yodono, Gerson L M Prado, Yoko Saito, Hiroyuki Miura, Yoko Itabashi, Hironori Otsuka, Yasuyuki Ishibashi:Increased signal intensity in the normal glenoid labrum in MR imaging:Diagnostic

- pittfalls caused by the magic-angle effect. Magnetic Resonace in Medical Science (2002) 1: 149-156.
- C.1. Eiichi Tsuda, Yukihisa Fukuda, John C. Loh, Richard E. Debski, Savio L-Y. Woo: The effect of soft tissue graft fixation in anterior cruciate ligament reconstruction on graft-tunnel motion under anterior tibia loading. Arthroscopy 18, 960-967, 2002
- C.2. John C. Loh, Yukihisa Fukuda, Eiichi Tsuda, Richard J Steadman, Freddie H. Fu, Savio L-Y. Woo: Knee stability and graft function following anterior cruciate ligament reconstruction: comparison between 11o'clock and 10o'clock femoral tunnel placement. Arthroscopy 19, 297-304, 2003

- A.1. S. Nishikawa Toh, S. Tsukahara, I.Takahashi, Endoscopic Treatment of Delayed Unions and Nonunions With Calcium Phosphate Paste, Arthroscopy, 2003, 19-4, 436-9
- A.2. S Nishikawa, S. Toh. Ganglion of the Triangular Fibrocartilage Complex. A Report of Three Cases, Journal Bone and Joint Surg. (American Volume), 2003, 85A, 1560-1563
- A.3. Takashi Komatsu, Yasuyuki Ishibashi, Hironori Ohtsuka, Akihiko Nagao, Satoshi Toh: The effect of surgical approaches and tourniquet application on patellofemoral tacking in total knee arthroplasty. J Arthroplasty (2003) 18: 308-312.
- A.4. Kazuhiro Sasaki, Yasuyuki Ishibashi, Hideki Satoh, Satoshi Toh: Arthroscopically assisted osteochondral autogenous transplantation for osteochondral lesion of the talus using transmalleolar approach. Arthroscopy (2003) 19: 922- 927.
- A.5. Kazutomo Miura, Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Tomomi Kusumi, Satoshi Toh: Split lesions of the peroneus brevis tendon in the Japanese population: an anatomic and histologic study of 112 cadaveric ankles. J Orthop Sci (2004) 9: 291-295.
- B.1. *Tanaka T, Ikari K, Furushima K, Okada A, Tanaka H, Furukawa KI, Yoshida K, Ikeda T, Ikegawa S, Hunt SC, Takeda J, Toh S, Harata S, Nakajima T, Inoue I. Genomewide Linkage and Linkage Disequilibrium Analyses Identify COL6A1, on Chromosome 21, as the Locus for Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament of the Spine. Am J Hum Genet.2003; 73: 812-822
- B.2. *Iwasaki K, Furukawa KI, Tanno M, Kusumi T, Ueyama K, Tanaka M, Kudo H, Toh S, Harata S, Motomura S. Uni-axial Cyclic Stretch Induces Cbfa₁ Expression in Spinal Ligament Cells Derived from Patients with Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament. Calcif Tissue Int.2004; 74: 448-457
- B.3. *T. Sasaki, Y. Saito, H. Yodono, G.L.M. Prado, H. Miura, Y. Itabashi, Y. Ishibashi: Labral-ligamentous complex of the shoulder. Evaluation with double oblique axial MR arthrography. Acta Radiologica (2003) 44: 435-439.
- C.1. Musahl V, Abramowitch SD, Gilbert TW, Tsuda E, Wang JH, Badylak SF, Woo SL. The use of porcine small intestinal submucosa to enhance the healing of the medial collateral ligament: A functional tissue engineering study in rabbits. J Orthop Res 22, 214-20, 2004.
- C.2. Abramowitch SD, Yagi M, Tsuda E, Woo SL. The healing medial collateral ligament following a combined anterior cruciate and medial collateral ligament injury: A biomechanical study in a goat model. J Orthop Res 21, 1124-30, 2003,
- C.3. Fukuda Y, Woo SL, Loh JC, Tsuda E, Tang P, McMahon PJ, Debski RE. A quantitative analysis of valgus torque on the ACL: a human cadaveric study. J Orthop Res 21, 1107-12, 2003.
- C.4. Watanabe Y, Scyoc AV, Tsuda E, Debski RE, Woo SL. Biomechanical function of the posterior horn of the medial meniscus: a human cadaveric study. J Orthop Sci 9, 280-4, 2004.

和文

- A.1. 石橋恭之, 佐々木知行, 佐々木和広, 佐藤英樹, 南雲 明, 藤 哲. 塩酸バンコマイシン混入リン酸カ ルシュウム骨ペーストによるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)大腿骨骨髄炎の治療経験 整形外 科 2002; 53: 1223-1227.
- 哲,三浦一志,工藤 悟,新井弘一.慢性 MP 関節痛に対する関節鏡視下治療の応用. A.2. 西川真史, 藤 日手会誌 2002; 19: 52-55.
- A.3. 工藤 悟, 坪 健司, 三浦一志, G. Ivan Vallejo, 藤 哲. Kienbock 病に対する橈骨骨切り術の手術成 績について. 日手会誌 2002; 19: 492-495. A.4. 石橋恭之, 佐々木和広, 佐藤英樹, 佐々木資成, 藤
- 哲, 井上貞宏. 遊離期膝離断性骨軟骨炎に対する 自家骨軟骨釘による骨片整復固定術の経験. スポーツ障害2002; 7: 25-26.
- 哲, 工藤 悟, G. Ivan Vallejo. 感染性下腿偽関節に対する血管柄付き腓骨移植術. 東日 本臨整会誌 2002; 14: 548-551.
- A.6. 西川真史,藤 哲. TFCC 鏡視下部分切除の長期成績について. 日手会誌 2002; 19: 787-789. A.7. 佐藤英樹,石橋恭之,佐々木和広,藤 哲,河野輝生. 膝前十字靭帯再建術における半月板損傷 哲,河野輝生.膝前十字靭帯再建術における半月板損傷に対す る治療方法の検討. 膝2003; 27: 113-116.
- A.8. 横山 徹, 植山和正, 岡田晶博, 富田 卓, 古島弘三:頸髄症の MRI 所見-予後の判断-, 脊椎脊髄ジャー 2002, 15, 477-481
- A.9. 岡田晶博, 植山和正, 横山 徹, 富田 卓: 当科における化膿性脊椎炎手術症例の検討, 日本骨・関節感 染症研究会誌. 2002. 16. 42-46
- A.10.澤田利匡, 植山和正, 岡田晶博, 横山 徹, 油川修一. 脊髄動静脈奇形の治療と治療成績判定についての 検討(長期成績から). 東北整形災害外科紀要 2002; 46: 30-34. A.11.佐々木知行,石橋恭之,南雲 明,岩澤智宏,佐々木泰輔,藤
- 哲:膝関節における成長軟骨の MRI 評 価. 膝 (2003) 27: 30-34.
- A.12. 佐々木知行,石橋恭之,佐々木和広,近江洋嗣: 当科における膝蓋大腿関節障害の治療経験 膝蓋骨不安 定症を中心に-. 東北膝関節研究会誌 (2002) 12: 49-52
- A.13.佐々木和広,石橋恭之,佐々木知行,大鹿周佐: 距骨骨軟骨損傷に対する自家骨軟骨移植術の経験.東日 本整災会誌 (2002) 14: 162- 169.

- B.1. 三戸明夫, 植山和正, 三東武司, 油川修一, 岩崎哲也, 片野 博, 岡田晶博, 横山 徹, 富田 卓, 越後 谷直樹:後頭骨頸椎間後方固定 (O-C2) の new implant (UHU cervical system) の開発と治験. 日本脊椎 インストウルメンテーション学会誌, 2002, 1, 8-13
- C.1. 西川真史, 小野 睦, 長尾秋彦, 若井裕司, 湯川昌広, 塚原 聡, 偽関節に対するリン酸カルシウム骨ペー ストの鏡視下注入治療の経験、骨折、2002、24-2、732-735

- A.1. 工藤 悟,西川真史,成田俊介,三浦一志,藤 哲,Uinar variance が三角線維軟骨複合体損傷ならび に鏡視下手術成績に及ぼす影響,日手会誌,2003,20-4,416-418 A.2. 西川真史,藤 哲,三浦一志,工藤 悟,成田俊介. 橈骨骨折に合併した尺骨遠位骨折に対する髄内固
- 定法の応用. 日小侵襲会誌 2003; 3: 11-12.
- A.3. 三浦一志,藤 哲,工藤 悟,Vallejo,GI,保村昌宏.低侵襲な鋼線刺入固定法による MP 関節側副靭 帯付着部剥離骨折の治療経験,骨折 25,2003:859-861
- A.4. 佐々木和広,石橋恭之,津田英一,佐藤英樹,藤 哲: 再手術を要した膝蓋骨不安定症の検討. 臨整外 (2003) 38: 933- 939.
- A.5. 三浦一志, 西川真史, 工藤 悟, 藤 哲. 手関節背側ガングリオンに対する4/5, 6Rポータルからの鏡視 による鏡視下切除術. 関節鏡 2003; 28: 31-34.
- A.6. 石橋恭之,佐々木和広,佐藤英樹,山本祐司,藤 術.日本肘関節研究会誌,2003;10:35-36 哲. 肘関節離断性骨軟骨炎に対する自家骨軟骨移植
- A.7. 三浦一志,藤 哲,西川真史,工藤 悟,GI Vallejo,坪 健司.腕神経叢麻痺に対する TSU-Min Tsai 法による肘屈筋腱再建術の経験. 日本マイクロ会誌. 2003; 16: 263-270.
- A.8. 石橋恭之, 佐々木泰輔, 小松 尚, 津田英一, 佐藤英樹, 川島信二, 藤 哲. 脛骨顆間隆起骨折に対す るMRIの検討. 膝 2003; 28: 6-9.
- A.9. 中村吉秀, 熊沢やすし, 三井博正, 藤 哲. 40歳以降の症例に施行した寛骨臼回転骨切り術 Hip Joint. 29;111-115,2003
- A.10. 三井博正, 熊沢やすし, 中村吉秀, 藤 哲. 股関節手術後の血液データの推移ー肺塞栓症予防を目指し て Hip Joint. 29;602-605,2003
- A.11.中村吉秀, 熊沢やすし, 三井博正, 藤 哲. 人工股関節手術における臼蓋骨移植を併用したセメントレ スソケットの成績. 日本人工関節学会誌 33;89-90,2003
- A.12. 三井博正,中村吉秀,水野稚香,藤 哲,熊沢やすし. ハイドロキシアパタイトコーティングセメント
- レス人工股関節の初期固定性についての検討. 日本人工関節学会誌 33;59-60,2003 A.13.佐藤英樹,石橋恭之,津田英一,佐々木和広,藤 哲,佐々木泰輔:後上方関節程 哲, 佐々木泰輔:後上方関節唇損傷を認めた投球障 害肩に対する鏡視下手術およびMR関節造影の検討. 関節鏡(2003)28: 247-251.
- A.14. 佐藤英樹, 石橋恭之, 津田英一, 佐々木和広, 藤 哲:外側アプローチを用いた人工膝関節置換術の経 験. 膝(2003)28:32-35
- A.15.津田英一, 石橋恭之, 佐々木和広, 佐藤英樹, 藤 哲:動方向が膝関節位置覚ににおよぼす影響. 青森 スポ研誌(2003)12:17-21.
- A.16.西川真史, 藤 哲, 三浦一志, 工藤 悟, 成田俊介. 舟状月状骨靭帯損傷の経皮的ピンニング治療の成 績. 日手会誌. 2003;20:625-629.
- A.17. 佐藤英樹,石橋恭之,佐々木和広,藤 哲,河野輝生:膝前十字靭帯再建術における半月板損傷に対す る治療法の検討. 膝(2003)27:113-116
- A.18.佐々木知行,石橋恭之,南雲 明,岩澤智宏,佐々木泰輔,藤 哲:膝関節における成長軟骨のMRI評 価. 膝(2003)27:30-34.
- A.19.石橋恭之,津田英一,佐々木和広,佐藤英樹,藤 哲:脛骨跳躍型疲労骨折に対する低出力超音波骨折 治療器の使用経験. (2003)8:21-23.
- A.20.西川真史,藤哲,工藤悟,小川太郎,上里涼子,成田俊介.中手指節関節(MP関節)内骨折の鏡視下 治療について. 東日本臨整会誌 2004;16:30-33.
- A.21.横山 徹, 岡田晶博,油川修一,富田 卓,竹内和成,藤 哲. 頚髄症拡大術後の脊髄頭尾長の変化. 臨整外, 2003, 38, 377-382
- A.22. 佐々木和広, 石橋恭之, 津田英一, 佐藤英樹:膝蓋骨不安定症における外側膝蓋支帯の MRI による検討. 整スポ会誌(2003)23:31-35.
- A.23.長生秋彦, 原田征行, 石橋恭之, 佐々木知行, 小松 尚, 大塚博徳:骨付き膝蓋腱による前十字靭帯再建 術後の骨孔拡大—Bore core 併用による骨孔拡大の抑制の効果—. 整スポ会誌(2003)23:207-212.
- B.1. 越後谷直樹,植山和正,三戸明夫,岡田晶博,横山 徹,富田 卓.腰椎 PLF に対する HHR Spinal System 使用例の固定椎間前弯保持に関する検討. 日本インストゥメンテーション学会誌 2003:2:33-37.

(2)総説

英文 なし

和文

- 哲, 坪 健司. 小児の関節周囲外傷・関節障害 手関節・指の疾患. 関節外科 2002;21:685-692.
- A.2. 新井弘一, 石橋恭之, 藤 哲. 特集肘の外科 関節鏡. New Mook 整形外科 2002;11:45-56.
- A.3. 三浦一志, 藤 哲. Day Surgery による上肢の骨・関節手術. J.MIOS 2002;25:14-19.
- 哲. 関節鏡視下ガングリオン切除術. 整・災外 2002;45:1367-1371. A.4. 西川真史,藤
- 哲:編集 軟部組織再建に対する最小侵襲手術. J MIOS. 2003;26.
- A.6. 佐々木知行,石橋恭之:新しい皮膚縫合-ダーマボンド(Dermabonde) J. MIOS (2002) 26:8-13. A.7. 石橋恭之,佐々木知行,和田簡一郎:スポーツ選手におけるDay Surgery とその意義. J. MIOS (2002) 25: 42-47.
- A.8. 石橋恭之, 佐々木知行:骨付き膝蓋腱を用いた前十字靭帯再建術の工夫, MB Orthop (2002) 15:66-71.

A.9. 石橋恭之、佐々木知行、佐々木和広;足関節捻挫後の腓骨筋腱障害。臨整外(2002)37:47-53.

2003年度

- 哲, 西川真史, 手根不安定症に対する手術療法, 整・災外, 2003, 46, 709-706 A.1. 藤
- A.2. 藤 哲, 西川真史, 工藤 悟, 小川太郎, 橈骨遠位端骨折後の変形治癒に対する手術療法, 骨・関節・ 靭帯. 2003, 16-5, 503-509
- 哲. 西川真史. 工藤 悟, 小川太郎, 坪 健司, 三浦一志, 外傷後骨欠損に対する血管付き骨移植 による再建、シンポジウム 難治性骨折の治療、臨床整形外科、2003、38-8:1039-1046
- A.4. 西川真史, 藤 哲. 手関節鏡による手根部障害の治療,整形・災害外科 46, 2003:729-737
- A.5. 三浦一志, 藤 哲, 工藤 悟. Kienbock 病の病態 - 特集骨端症の病態と治療, 関節外科 2003; 22:427-432
- A.6. 三浦和知, 石橋恭之, 藤 哲:疲労骨折の診断と治療. 問診・理学. 臨床スポーツ医学(2003)20:50-57
- A.7. 津田英一,石橋恭之,藤 哲:疲労骨折の診断と治療. X線検査. 臨床スポーツ医学(2003)20:58-68
- A.8. 工藤 悟,藤 哲. 切断指再接着術 1)小児の切断. M B Orthop. 2004; 17:53-56. A.9. 岡田晶博,横山 徹,油川修一,斎藤 啓,沼沢拓也,藤 哲,植山和正. 胸椎後縦靱帯骨化症に対す る手術療法--期的後方進入前方除圧および後方固定術の手術成績-,別冊整形外科 No.45,2004, 173-178
- A.10.西川真史, Preiser 病の病態と治療(特集:骨端症の病態と治療), 関節外科 2003, 22, 33-36
- A.11.西川真史, 手関節鏡による手根部障害の治療 —TFCCを除く、整・災外, 2003, 46: 729-737 A.12.西川真史, 特集:手の関節障害の病態と治療, TFCC 損傷, 関節外科, 2003, 22-7, 837-842
- A.13.石橋恭之, 津田英一:前十字靭帯再建術, 骨付き膝蓋腱を用いたときの工夫, 新 OS NOW (2003) 21: 172-177.
- A.14.*岩崎弘英, 古川賢一, 丹野雅彦, 楠美智巳, 植山和正, 岡田晶博, 元村 成, 原田征行, 藤 哲. 脊柱 縦靱帯骨化症におけるメカニカルストレスの関与, 別冊整形外科 No.45, 2004, 47-51 B.1. 猪狩勝則, 田中利弘, 古島弘三, 岡田晶博, 斎藤 聡, 中島俊晶, 藤 哲, 原田征行, 井ノ上逸朗. ゲ
- ノム全域からの新規後縦靭帯骨化症の感受性遺伝子 COL6A1 の同定.別冊整形外科 No.45,2004,66-72

(3)著書

英文

2002年度

- A.1. Toh S, Arai K, Yasumura M: E. CLINICAL RECONSTRUCTIVE MICROSURGERY Fibula, Experimental and Clinical Reconstructive microsurgery, Tamai S. ed., Springfer-Verlag, New York, Berlin, Heidelberg, Tokyo, 2003, pp349-354.
- A.2. Toh S, Tsubo K, Narita S:E. CLINICAL RECONSTRUCTIVE MICROSURGERY 3.5. Congenital Pseudoarthrosis, Experimental and Clinical Reconstructive microsurgery, Tamai S. ed., Springfer-Verlag, New York, Berlin, Heidelberg, Tokyo, 2003, pp437-441
- A.3. Toh S, Nishikawa S, Inoue S: E. CLINICAL RECONSTRUCTIVE MICROSURGERY 1.2. Forearm Replantation, Experimental and Clinical Reconstructive microsurgery, Tamai S. ed., Springfer-Verlag, New York, Berlin, Heidelberg, Tokyo, 2003, pp193-196
- A.4. Toh S: D. Preoperative and Postoperative Management 1. Preoperative Planning and Evaluation of Vascular System in the Donor and Recipient, Experimental and Clinical Reconstructive microsurgery, Tamai S. ed., Springfer-Verlag, New York, Berlin, Heidelberg, Tokyo, 2003, pp157-161

2003年度

A.1. Kazumasa Ueyama, Seiko Harata, Akihiro Okada, Naoki Echigoya, Toru Yokoyama. Midline Spinous Process Splitting Laminoplasty Using Hydroxyapatite Spacers. N. Nakamura, Y. Toyama, Y. Hoshino, Cervical Laminoplasty, 111-118, Springer-Verlag, Tokyo, 2003.

和文

2002年度

- A.1. 藤 哲. 医学書院医学大辞典. 伊藤正男. 井村裕夫. 高久史麿 編集. 医学書院. 東京 2003
- 哲,三浦一志,小山内あや子,品川弘子. 切断指再接着手術. 松井宣夫,出沢 明編集. 整形外科 インフームドコンセントとパス. 中外医学社, 東京, pp145-154, 2003

- 哲,第7章 変性疾患 3. 腱交差症候群,生田義和,土井一輝,三浪明男,上肢の外科,360-361, A.1. 藤 医学書院, 東京, 2003.
- 哲, 第7章 変性疾患 4. 尺骨突き上げ症候群, 生田義和, 土井一輝, 三浪明男, 上肢の外科, 361-362, 医学書院, 東京, 2003.
- A.3. 藤 哲, 第7章 変性疾患 5. 変形性手関節症, 生田義和, 土井一輝, 三浪明男, 上肢の外科, 362-364, 医学書院, 東京, 2003.
- 哲, 第7章 変性疾患 6. 手指屈筋腱腱鞘炎, 生田義和, 土井一輝, 三浪明男, 上肢の外科, A.4. 藤 364-365, 医学書院, 東京, 2003
- 哲, 第9章 骨端症, 骨壞死疾患 2. 舟状骨骨壞死疾患, 生田義和, 土井一輝, 三浪明男, 上肢 A.5. 藤 の外科, 395-396, 医学書院, 東京, 2003
- 哲, 第9章 骨端症, 骨壊死疾患 3. 指骨骨端炎, 生田義和, 土井一輝, 三浪明男, 上肢の外科, A.6. 藤 396, 医学書院, 東京, 2003

- 哲, 第9章 骨端症, 骨壊死疾患 4. 中手骨骨端症, 生田義和, 土井一輝, 三浪明男, 上肢の外 A.7. 藤 科, 396-397, 医学書院, 東京, 2003
- 哲, 第9章 骨端症, 骨壊死疾患 A.8. 藤 5. 骨のしもやけ、生田義和、土井一輝、三浪明男、上肢の外 科, 397-398, 医学書院, 東京, 2003
- 哲, 第9章 骨端症, 骨壊死疾患 A.9. 藤 6. 肘離断性骨軟骨炎, 生田義和, 土井一輝, 三浪明男, 上肢 の外科, 398-401, 医学書院, 東京, 2003
- 哲, 第9章 骨端症, 骨壊死疾患 7. 上腕骨小頭骨端症, 生田義和, 土井一輝, 三浪明男, 上肢 の外科, 401-402, 医学書院, 東京, 2003
- 哲、III. 部位別診察・診断法、 6. 手関節・手、長野 昭、岩本 幸英、ゴールドスタンダード整 形外科 診察・検査・画像診断, 119-138, 南江堂, 東京, 2003.

(4)その他

英文

2002年度

A.1. Nagumo A, Toh S, Tsubo K, Ishibashi Y, Sasaki T. An Occult Fracture of the Trapezoid Bone: A Case Report, J Bone Joint Surg-Am. 2002; 84-A: 1025-1027

2003年度

- A.1. Nakamura Y, Kumazawa Y, Mitsui H, Toh S, Katano H. A combined operation of transtrochanteric osteotomy and vascularized iliac bone graft for advanced osteonecrosis of the femoral head. Reconstructive Microsurgery, Ed. G. Germann, Monduzzi Editore,, Bologina, pp 241-244, 2003
- A.2. Miura H., Toh S, Nishikawa S., Kudoh S., Vallejo GI, Tsubo K., Restoration of elbow flexion by Tsu-Min Tsai's method for the brachial plexus palsy. Reconstructive Microsurgery, Ed. G. Germann, Monduzzi Editore., Bologina, pp 221-225, 2003
- A.3. Nishikawa S, Toh S. Arthroscopic treatment of a ganglion of the first metatarsophangeal joint. Arthroscopy 2004; 20: 69-72.
- B.1. Sharma A, Singh R, Sharma S, Toh S, Tsubo K, Nishikawa S, Inoue S, Nakamura R, Harata S. Nonunion of fractures of the lateral humeral condyle. J Bone Joint Surg-Am 85-A, 2003:1399-400,
- B.2. *Tokuya S, Kusumi T, Yamamoto T, Sakurada S, Toh S. Subchondral insufficiency fracture of the humeral head and glenoid resulting in rapidly destructive arthrosis: A case report. J Shoulder Elbow Surg.2004; 13: 86-89.
- B.3. Kowatari K, Nakashima K, Ono A, Yoshihara M, Amano M, Toh S. Levofloxacin-induced bilateral Achilles tendon rupture: a case report and review of the literature. J Orthop Sci. 2004; 9: 186-189.

和文

2002年度

- A.1. 藤
- 哲. 四肢外傷における救急医療(1). 大北医報 2002;165: 25-26. 哲. 四肢外傷における救急医療(2). 大北医報 2002;166: 37-38. A.2. 藤
- 哲. 論文の評価について思う. 整・災外 2002;45:881.
- A.4. 原田征行, 岡田晶博: 若年者の腰痛, 科学的根拠(EBM)に基づいた腰痛診療のガイドラインの策定に関す る研究報告書, 2002, 419-457 A.5. 山本祐司, 石橋恭之, 佐々木和広, 佐藤英樹, 藤
- 哲:両側膝蓋骨脱臼を伴った変形性膝関節症に対す る人工関節置換術の経験. 東北膝関節研究会誌 (2003)13:41-44.
- A.6. 石橋恭之,津田英一,佐々木和広,佐藤英樹,藤 哲:関節鏡 (2003)28: 97-102. A.7. 近江洋嗣,石橋恭之,佐々木知行,佐々木和広:大腿骨後彎変形を有する変形性膝関節症に対し一期的に
- 人工膝関節置換術と大腿骨矯正骨切術を施行した 1 例. 東北整災紀要 (2002) 46: 38-42. A.8. 佐々木和広,石橋恭之,佐々木知行,大鹿周佐,藤 哲,三浦一志:大腿骨内側顆骨壊 哲, 三浦一志: 大腿骨内側顆骨壊死と診断された 骨結核の一例. 東北膝関節研究会誌 (2002)12: 9-12.
- B.1. 小棚木麻衣子, 原田 研, 水木大介, 玉井克人, 花田勝美, 岡田晶博, 松永宗雄:潜在していた脊髄病変 の治療後,劇的な改善をみた足穿孔症の1例,臨床皮膚科,2002,56,1056-1058
- C.1. 湯川昌広, 西川真史, 長尾秋彦, 沼沢拓也, 若井裕司, 高橋一平, 新鮮膝蓋骨脱臼の治療経験, 青森スポ 研誌, 2002, 11, 4-7

- A.1. 三浦一志,藤 哲, 工藤 悟, 西川真史, 母指形成不全(type Ⅲ-B)に対し血管柄付き足趾 PIP 関節移植 を行った1例, 臨床整形外科, 2003, 38-12, 1573-1577, 8, 82
- 哲,西川真史,工藤 悟, G.I. Vellejo, リン酸カルシウム骨ペーストを使用した末節骨 A.2. 三浦一志. 藤 遠位指節間関節面陥没骨折の1例,整形外科,2003,1554-1556
- 哲, 西川真史, 工藤 悟, 大塚博徳, 舟状骨偽関節に対する有茎血管柄付き骨移植術の 三浦一志、藤 経験, 臨床整形外科, 2003, 38-12, 1535-1539
- 哲. 手指における関節鏡の可能性、マルホ整形外科セミナー放送内容集, 158, 2003:19-22
- A.5. 石橋恭之, 津田英一, 佐々木和広, 佐藤英樹, 藤 哲: 脛骨顆間隆起骨折後の膝前十字靭帯弛緩に対し 脛骨付着部引き下げ術を行った 1 例. 関節鏡 (2003) 28: 97-102.
- A.6. 岸谷正樹,西川真史,三浦一志,工藤 悟,IG. Vallejo,藤 哲,手根骨癒合症の 1 例,東北整災紀要A.7. 佐野 大,西川真史,三浦一志,工藤 悟,山本倫子,IG. Vallejo,藤 哲,橈骨神経浅枝の走行にお
- ける解剖学的検討, 東北整災紀要, 2003,47,52-54.
- 哲, 工藤 悟, 大鹿 周佐. Volkmann 拘縮に対し遊離広背筋移植による手指屈筋再建を A.8. 三浦一志, 藤 行った1例. 日本マイクロ会誌. 2003; 16: 297-302.

- A.9. 三井博正、熊沢やすし、中村吉秀、藤 哲、横山降文、大腿骨頭すべり症に対する骨頭下頚部骨切り術
- 東北整災紀要 47;18-22,2003 A.10.大鹿周佐、坪 健司、三浦一志、工藤 悟、G.Ivan Vallejo、藤 哲. 前腕に移植した血管柄付き腓骨 を仮骨延長した 1 例. 東北整災紀要. 2003; 47: 45-48.
- A.11.津田英一, 石橋恭之, 佐々木和広, 佐藤英樹, 藤 哲:骨接合術を行った投球による肘頭疲労骨折の 2 例. スポーツ障害(2003)8: 31-33.
- A.12.*田中利弘, 塚原 聡, 古島弘三, 岡田晶博, 藤 哲, 原田征行, 猪狩勝則, 小宮節郎, 岩崎弘英, 古川 賢一, 田中 浩, 河合伸也, 中島敏晶, 井上逸朗. 脊椎後縦靭帯骨化症の感受性遺伝子解析. 厚生労働科 学研究費補助金, 難治性疾患克服研究事業, 脊椎後縦靭帯骨化症に関する調査研究 平成15年度総括報告 書. 2004;35-38.
- A.13.*岩澤智宏,岩崎弘英,澤田利匡,岡田晶博,藤 哲,古川賢一,元村 成,植山和正,原田征行,井上 逸朗、後縦靭帯骨化症患者由来脊柱靭帯細胞に対するメカニカルストレスの影響のトランスクリプトー ム解析、厚生労働科学研究費補助金、難治性疾患克服研究事業、脊椎後縦靭帯骨化症に関する調査研究 平成15年度総括報告書. 2004;39-49.
- A.14. 岡田晶博,横山 徹,油川修一,斉藤 啓,沼沢拓也,藤 哲, 植山和正. 胸椎後縦靭帯骨化症に対す る一期的後方進入脊髄前方除圧及び後方固定術の問題点、厚生労働科学研究費補助金、難治性疾患克服研 究事業, 脊椎後縦靭帯骨化症に関する調査研究 平成15年度総括報告書. 2004;156.
- A.15. 沼沢拓也, 岡田晶博, 横山 徹, 油川修一, 斉藤 啓, 藤 哲, 植山和正. 胸椎 OPLL 後方手術例の検討-NRI による脊髄面積と臨床成績との関連. 厚生労働科学研究費補助金, 難治性疾患克服研究事業, 脊 哲, 植山和正. 胸椎 OPLL 後方手術例の検 椎後縦靭帯骨化症に関する調査研究 平成15年度総括報告書. 2004;165. A.16.西川真史, 指先のしびれと感覚低下. 暮らしと健康相談室, 暮らしと健康, 2003, 保険同人社

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Bone Joint Surg-Am.	2.138	1	2.138
J Bone Joint Surg-Br.	1.467	1	1.467
Clin Orthop	1.116	2	2.232
Scand J Plast Recons.	0.489	1	0.489
Plast and Reconstr Surg	1.436	1	1.436
J Hand Surg -Brit Eur	0.38	1	0.38
J Pediatr Orthop.	0.698	1	0.698
Am J Sport Med	2.018	1	2.018
J Knee Surg.	0	1	0
Spine	1.853	1	1.853
Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc	1.262	1	1.262
J Hum Genet	1.685	1	1.685
Acta Radiologica	0.883	1	0.883
Magnetic Resonace in Medical Science	0	1	0
Total		15	16.541

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Arthroscopy	1.799	2	3.598
Journal Bone and Joint Surg. (American Volume)	2.046	1	2.046
J Arthroplasty	2.046	1	2.046
J Orthop Sci	0	1	0
Am J Hum Genet	10.649	1	10.649
Calcif Tissue Int	2.053	1	2.053
Acta Radiologica	0.883	1	0.883
Total		8	21.275

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
整形外科			1	3
日手会誌			3	2
スポーツ障害			1	
東日本臨整会誌			2	1
膝			2	4
関節外科			1	3
New Mook 整形外	科		1	
J MIOS			4	
整•災外			1	3
臨整外			1	3
MB Orthop			1	1
脊椎脊髄ジャーナル			1	
東北膝関節研究会誌			1	
日本骨 • 関節感染症研究	紀会誌		1	
日本脊椎インストウルス	メンテーション学	学会誌	1	
東北整災紀要			1	
日小侵襲会誌				1
関節鏡				2
日本肘関節研究会誌				1
日本マイクロ会誌				1
Hip Joint				2
日本人工関節学会誌				2
骨折				1
青森スポ研誌				1
整スポ会誌				2
日本インストゥメンテー	-ション学会誌			1
骨・関節・靭帯				1
臨床スポーツ医学				2
新OS NOW				1
	計		23	38

2. 著書数 (A, Bのみ)

<u>英文</u>

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	4	1
		•	

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	2	11

3. その他 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Bone Joint Surg-Am	2.138	1	2.138
Total		1	2.138

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Arthroscopy J Shoulder Elbow Surg. J Orthop Sci	1.799 0.952 0	1 1 1	1.799 0.952 0
Total		3	2.751

雑	誌	名	2002年度	2003年度
整•災外			1	
東北整災紀要			1	
東北膝関節研究会誌			2	
関節鏡			1	1
臨床皮膚科			1	
大北医報			2	
臨床整形外科				2
整形外科	11.334.1			1
マルホ整形外科セミナ	一放送内容集			1
東北整災紀				4
日本マイクロ会誌				
スポーツ障害 ・	開 ナフ 細 木 川 焼っ	7.15年 在 6.15年 中		1
事情性核概物市情化症に 暮らしと健康	天りる神笙 竹九一	广风10十及秘括報百書		4
(本りして) 健康				1
	計		8	16

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- A.1. Toh S., Nishikawa S., Miura H., Kudoh S., Furushima K. Vascularized bone graft in Orthopaedics. Third Congress of the Slovenian Association of Surgeons, Portoroz, Slovenia, 2002
- B.1. Toh S, Tsubo K., Nishikawa S., Miura H., Vallejo G.I., Kudo S. Vascularized tissue transfer in the upper extremities: A clinical study of failed cases. 22nd World Congress of the SICOT, San Diego, California, USA, 2002
- C.1. Yokoyama T, Okada A, Tomita T, Takeuchi K: Longitudinal length of the spinal cord after cervical laminoplasty. International Congress on Spinal Surgery, Turkey, 2002
- C.2. Yokoyama T, Takeuchi K, Okada A, Tomita T, Toh S: Canal Stenosis at Atlas after Cervical Laminoplasty. Cervical Spine Research Society Annual Meeting, Maiami, 2002
- C.3. Yokoyama T, Ueyama K, Okada A, Tomita T: Longitudinal length of the spinal cord after cervical laminoplasty. Cervical Spine Research Society Annual Meeting (European Section), Paris, 2002
- C.4. Yokoyama T, Ueyama K, Okada A, Tomita T: Longitudinal length of the spinal cord after cervical laminoplasty. North American Spine Society Annual Meeting, Montreal, 2002
- C.5. Eiichi Tsuda, Yoshihisa Okamura , Yasuyuki Ishibashi, Hironori Otsuka, Takashi Komatsu: Re-establishment of ACL-hamstring reflex arc in ACL-reconstructed knee. 10th ESSKA, Rome, May 2002
- C.6. Eiichi Tsuda, Yasuyuki Ishibashi, Yasuharu Hiraga, Kazutomo Miura, Satoshi Toh: Knee muscle function in patients free of anterior knee pain after anterior cruciate ligament reconstruction using bone-patellar tendon-bone graft. 4th ISAKOS, Auckland, March 2003

- A.1. S Toh, Vascularized bone grafting for the Congenital Pseudoarthrosis of the Tibia , Congresso Nazionale Della Societa Italiana di Microchirugia, Firenze (Italy), 2003. 9.19
- C.1. H Miura, S Toh, S Nishikawa, S Kudoh, G I Vellejo, K Tsubo, Restoration of elbow flexion by Tsu-Min Tsai's method to brachial plexus palsy 国際再建マイクロサージャリー 第2回 ハイデルベルグ(ドイツ), 2003.6.9-17
- C.2. S Kudoh, S Nishikawa, H Miura, S Toh, Peroneal flap for reconstruction of the heel lesion as a sensory flap 国際再建マイクロサージャリー 第2回 ハイデルベルグ(ドイツ), 2003.6.9-17
- C.3. S Kudoh, S Nishikawa, T Ogawa, S Toh, Clinical application of peroneal flap Congresso Nazionale Della Societa Italiana di Microchirugia, Firenze (Italy),2003.9.19
- C.4. T Yokoyama, K Ueyama, A Okada, T Tomita, S Aburakawa, K Takeuchi, S Toh. Surgical Outcome of Syringosubarachnoid Shunt Combined with Foramen Magnum Decompression for Syringomyelia with Chiari I Malformation:-Prospective Comparison with Foramen Magnum Decompression Alone-. Spine across the Sea. North American Spine Society and Japan Spine Research Society combined meeting, Hawaii (USA), 2003
- C.5. T Yokoyama, A Okada, S Aburakawa, T Tomita, S Toh. Release of the Muscle Retractors can reduce Axial Symptoms after Cervical Laminoplasty. North American Spine Society, 18 th Annual Meeting, San Diego (USA), 2003
- C.6. Komei Yoshikawa, Akihiro Okada, Toru Yokoyama, Takashi Tomita, Shuichi Aburakawa, Kazunari Takeuchi, Satoshi Toh. Relationship between spinal cord area and symptom in cases with spinal cord tumor. Spine across the sea. North American Spine Society and Japan Spine Research Society combined meeting. Hawaii, USA, 2003.
- C.7. Yoshihide NAKAMURA, Satoshi Toh, Yasushi KUMAZAWA, Hiromasa Mitsui, Hiroshi KatanoA combined operation of transtrochanteric osteotomy and vascularized iliac bone graft for advanced osteonecrosis of the femoral head The 2nd congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery

- 2003.6.11-14 Heidelberg, Germany
- C.8. Toru Yokoyama, Kazunari Takeuchi, Akihiro Okada, Takashi Tomita, Shuichi Aburakawa. Release of the Muscle Retractors Can Reduce Axial Symptoms after Cervical Laminoplasty. Cervical Spine Research Society Europe section. Barcelona, Spain, 2003.
- C.9. *Koei Iwasaki, Ken-Ichi Furukawa, Masahiko Tanno, Tomomi Kusumi, Kazumasa Ueyama, Tomohiro Iwasawa, Seiko Harata, Shigeru Motomura, Satoshi Toh, UNI-AXIAL CYCLIC STRETCH ACTIVATES CORE BINDING FACTOR ALPHA 1 (CBFA1) VIA TWO PATHWAYS IN SPINAL LIGAMENT CELLS DERIVED FROM PATIENTS WITH OSSIFICATION OF POSTERIOR LONGITUDINAL LIGAMENTS, 50th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, San Francisco (USA), 2004.03.8-10
- C.10. *Tomohiro Iwasawa, Ken-Ichi Furukawa, Koei Iwasaki, Akihiro Okada, Kazumasa Ueyama, Shigeru Motomura, Ituro Inoue, Seiko Harata, Satoshi Toh, A GENOME-WIDE TRANSCRIPTOME ANALYSIS OF MECHANICAL STRESS-INDUCED GENE EXPRESSION IN SPINAL LIGAMENT CELLS DERIVED FROM PATIENTS WITH OSSIFICATION OF THE POSTERIOR LONGITUDINAL LIGAMENTS, 50th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, San Francisco (USA), 2004.03.8-10
- C.11. *Teruo Kohno, Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Tomomi Kusumi, Satoshi Toh, EXPRESSIONS OF THE GROWTH FACTORS DURING THE INTEGRATION OF THE SOFT TISSUE GRAFT TO THE BONE, 50th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, San Francisco (USA), 2004.03.8-10
- C.12. *Toshihiro Tanaka, Katsunori Ikari, Kozo Furushima, Akihiro Okada, Seiko Harata, Toshiaki Nakajima, Ituro Inoue, Satoshi Toh, IDENTIFICATION OF COL6A1 AS A SUSCEPTIBLE GENE FOR THE OSSIFICATION OF THE POSTERIOR LONGITUDINAL LIGAMENT OF THE SPINE FROM THE LINKAGE REGION ON CHROMOSOME 21, 50th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, San Francisco (USA), 2004.03.8-10
- C.13. Harehiko Tsukada, Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Satoshi Toh, BIOMECHANICAL AND HISTOLOGICAL EVALUATION OF THE INTERFACE BETWEEN THE BONE AND THE TRANSPLANTED SOFT TISSUE GRAFT USING A NEW ANIMAL MODEL, 50th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, San Francisco (USA), 2004.03.8-10
- C.14. Harehiko Tsukada, Yasuyuki Ishibashi, Eiichi Tsuda, Yasuharu Hiraga, Satoshi Toh, A BIOMECHANICAL COMPARISON OF REPAIR TECHNIQUES FOR ANTERIOR CRUCIATE LIGAMENT AVULSION FRACTURE UNDER CYCLIC LOADING, 50th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, San Francisco (USA), 2004.03.8-10
- C.15. *Kazutomo Miura, Yasuyuki Iahibashi, Kazuhiro Sasaki, Satoshi Toh, Takashi Kachi, Tomomi Kusumi, SPLIT LESION OF THE PERONEUS BREVIS TENDON IN IAPANESE POPULATION - AN ANATOMIC AND HISTOLOGIC STUDY OF 112 CADAVERIC ANKLES, 50th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society, San Francisco (USA), 2004.03.8-10

(2)全国学術集会

2002年度

- 哲. 手指外傷性拘縮の治療. 第45回日本手の外科学会学術集会, 新潟市 2002. A.1. 藤
- 哲. 整形外科外来における手の外科診察の基本. 第51回東日本整形災害外科学会, 郡山市 2002. A.2. 藤
- 哲. 四指骨再建について. 北海道整形災害外科学会, 札幌市 2003.
- 哲. 平成14年度日本マイクロサージャリー学会技術講習会 那覇市 2002. B.1. 藤
- B.2. 西川真史, TFCC 鏡視下部分切除の長期成績について, 第45回日本手の外科学会, 新潟, 2002
- B.3. 横山 徹, 植山和正, 末綱 太, 岡田晶博, 富田 卓, 竹内和成, 藤 哲: 脊髄内 Manipulation と機能 および画像変化. 日本整形外科学会基礎学術集会, 青森市, 2002
- B.4. 岡田晶博, 原田征行: 「若年者の腰痛」に関する EBM. 日本腰痛学会, 富山市, 2002
- B.5. 石橋恭之, 岡村良久, 大塚博徳, 小松 尚, 佐々木和広, 藤 哲:膝前十字靱帯再々建術時の骨孔内靱 帯組織と MRI 所見との比較. 日本整形外科学会(金沢市) 2002.5.16-19.
- B.6. Toru Yokoyama, Kazumasa Ueyama, Futoshi Suetsuna, Akihiro Okada, Takashi Tomita, Kazunari Takeuchi, Satoshi Toh. Functional Outcome and Images of the Spinal Cord after intramedullary Manipulation. 日本 整形外科学会基礎学術集会. 青森市 2002.
- B.7. 津田英一, 石橋恭之, 佐々木和広, 佐藤英樹, 藤 哲: Opening wedge osteotomy を用いた高位脛骨骨 切り術による内側型変形性膝関節症の治療経験. 日本膝関節学会, 千葉, 2003年3月 B.8. 石橋恭之: ACL 裂離骨折の手術方法と成績 —Screw Fixation—. 膝関節フォーラム(東京)2002.7.6.
- B.9. 石橋恭之, 津田英一, 佐々木和広, 佐藤英樹, 山本祐司, 藤 哲: 肘離断性骨軟骨炎に対するモザイク プラスティーによる治療、日本肘関節研究会(東京) 2003.2.15
- C. 30件

- 哲、上肢における骨延長術、第46回日本手の外科学会学術集会、名古屋市、2003.04.18.
- 哲, 血管柄付き骨・関節移植術, 第76日本整形外科学会学術集会, 金沢, 2003.05.22-25. A.2. 藤
- 哲,手の外科診察に必要な機能解剖,日本手の外科学会第9回秋期教育研修会,東京,2003.09.06.哲,血管柄付き骨移植のコツとピットホール,第30回日本マイクロサージャリー学会,岡山, A.4. 藤 2003.11.13
- A.5. 西川真史, 専門医講座: 手関節鏡の Expert に学ぶ 基本手技から応用まで 手関節鏡の基本手技第76日本 整形外科学会学術集会, 金沢, 2003.05.22-25.
- A.6. 西川真史, 関節鏡の基本手技と診断学講演 (7.31), ワークショップ (8.1) 第21回関節鏡セミナー 2003.7.31-8.1
- 哲, 西川真史, 三浦一志, 工藤 悟, 坪 健司, 先天性下腿偽関節症に対する血管柄付き腓骨移植 術の成績と問題点,第73日本整形外科学会学術集会,金沢,2003.05.22-25
- B.2. 西川真史,藤 哲、三浦一志、工藤 悟、成田俊介、舟状月状骨靭帯損傷に対する経皮的ピンニング治 療の成績, 日本手の外科学会 46回 名古屋市 2003.4.18-20.

- B.3. 西川真史,藤 哲,工藤 悟,小川太郎,上里涼子,成田俊介,中手指関節 (MP 関節) 内骨折の鏡視 下治療について,東日本整形災害外科学会 52回 東京 2003.9.26-27.
- B.4. 上里涼子, 藤 哲, 西川真史, 工藤 悟, 小川太郎, 片野 博, 腱鞘内ガングリオンの鏡視下治療の経 験 東日本整形災害外科学会 52回 東京 2003.9.26-27
- 験, 東日本整形災害外科学会 52回 東京 2003.9.26-27. B.5. 石橋恭之, 岩澤智宏, 津田英一, 佐々木和広, 佐藤英樹, 藤 哲: 膝蓋腱採取幅による前十字靭帯再建術への影響: MRI による再建靱帯断面積の評価. (2003) 第76回日本整形外科学会, 2003.5.22-25.
- B.6. 石橋恭之, 津田英一, 佐々木知行, 佐々木和広, 佐藤英樹, 平賀康晴, 藤 哲: 膝半月板治療の現状と問題点:小児の半月板障害. (2003) 第76回日本整形外科学会, 2003.5.22-25.
- B.7. 石橋恭之, 津田英一, 佐藤英樹, 三浦和知, 山本祐司, 藤 哲: 肘離断性骨軟骨炎に対するモザイクプラスティー. (2003) 第14回小児整形外科学会, 2003.11.21-22.
- B.8. 石橋恭之: Knotless Suture Anchor を用いた鏡視下 Bankart 修復術. (2003) 第8回肩関節鏡手術研究会, 2004 1 10
- B.9. 中村吉秀, 三井博正, 藤 哲, 熊沢やすし, 大腿骨頭壊死に対する骨頭温存手術-血管柄付き腸骨移植 術の成績シンポジウム, 第30回日本股関節学会, 2003.10.30-31, 東京 浜田良機 山梨大学 シンポジウ
- C. 28件

III. 学術賞

2002年度

- 1. International Orthopaedics SICOT, 22th World Congress, Poster award 受賞. 2002.08
- 2002 Richard O'Conner Award of the Arthroscopy Association of North America John C. Loh, Yukihisa Fukuda, Eiichi Tsuda, Richard J Steadman, Freddie H. Fu, Savio L-Y. Woo: Knee stability and graft function following anterior cruciate ligament reconstruction: comparison between 11 o'clock and 10 o'clock femoral tunnel placement.

IV. 共同研究

2002年度

日伊(医学部)政府間科学技術協定に基づく国際共同研究:大菱形中手骨関節の解剖学的及び機能的特徴についての研究-病態の解明と治療方針の決定(ミラノ大学)

2003年度

日伊(医学部)政府間科学技術協定に基づく国際共同研究:大菱形中手骨関節の解剖学的及び機能的特徴についての研究-病態の解明と治療方針の決定(ミラノ大学)

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

なし

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

他研究単位との研究分担者として

- 1. 長寿科学総合研究事業. 後縦靭帯骨化症責任遺伝子同定と予防・治療への応用, 2,000千円
- 2. 平成14年度厚生労働科学研究費補助金. 後縦靭帯骨化症に関する調査研究 1,000千円
- 3. 平成14年度青森県産学官共同研究推進事業 (シーズ熟成事業)

研究課題:損傷膝半月板置換のための人工半月板開発の基礎研究

研究代表者: 弘前大学 知能器械システム工学科 共同研究者: 弘前大学 物質理工学科 須藤新一

弘前大学 整形外科 石橋恭之

弘前大学 知能器械システム工学科 宮田 寛

配分額:3,000千円

2003年度

他研究単位との研究分担者として

平成14年度厚生労働科学研究費補助金.後縦靭帯骨化症に関する調査研究 代表:中村耕三 分担藤 哲 1,000千円

(3)学内の研究助成

2002年度

他研究単位との研究分担者として

1. 平成14年度弘前大学重点研究:動脈の病変解明と病巣除去用マイクロアクチュエーターの開発

6.535千円

2. 学部長裁量経費 教育・研究プロジェクト経費

プロジェクト名:損傷膝半月板置換のための人工半月板開発の基礎研究

研究代表者: 弘前大学 知能器械システム工学科 笹川和彦 共同研究者: 弘前大学 物質理工学科 須藤新一

弘前大学 知能器械システム工学科 宮田 寛

弘前大学 整形外科 石橋恭之

配分額:3,500千円

2003年度

研究代表者として

平成15年度教育改善推進費(教育研究プロジェクト経費)『形状記憶薄膜及び圧電膜を用いた微小循環血流 モニターの開発』藤 哲 1,000千円

(4)民間の研究助成

2003年度

研究代表者として

財団法人日本スポーツ治療医学研究会,課題名:糖鎖工学を応用したハイブリッド型軟骨スカホールドの 作成及び軟骨修復に関する研究, 主たる研究者: 石橋恭之, 500千円

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

2002年度

- 1.10月11,12日 日仏整形外科学会(青森市)
- b) 外国人研究者の招聘. 受け入れ状況

2002年度

- 1. 2002.04.17-21 Choi, Kai Yiu Alexander 香港 (日本手の外科学会 Fellow)
- 2. 2002.06.10 George W, Wood The Univ. of Tennessee Campbell Clinic アメリカ
- 偉. 積水潭病院副院長. 北京. 中国 3. 2002.07.19-22 田
- 4. Francis Kilian , Katholisches Klinikum St. Josef, Koblenz, Germany
- 5 2003.03.05-03.09 David. C. Ring (USA) MGH/Harvard Medical school, Boston, USA
- 6. 2003.3.23-25 John W. Xerogenes, Emory University of Medicine, USA

2003年度

2003.4.20-27 Loris Pegoli (Italy) 2003.9.17-12.27 Mehmet Alp (Turky) 2003.10.30 Miehlke PK (Germany) 2004.2.29-3.6 路 来金 Lu Laijin (中国) 日本学術振興会 2004.2.2-3 Paul R. Manske (USA)

c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

2002年度

- 1. 2002.10.15-11.09 Dr. Gustavo. 照屋 JICA (アルゼンチン)
- 2. 2002.11.04-12.04 Matej Ravric Republic of Slovenia
- 3. 1998.09.17-2003.03.20 Vallejo G. Ivan (エクアドル)

2003年度

陳 鳳超 (中国) 2003.9-

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

2002年度

- 1. 西川 真史 アメリカ手の外科・日本手の外科トラベリングフェロー (アメリカ)
- 2. 三井 博正 Anderson Orthopaedic Institute (アメリカ)
- 3. 古島 弘三 リュブリアナ大学附属病院 (スロベニア)

2003年度

工藤 悟 Policlinico Multimedica イタリア (Milano)

- e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況
 - 2002年度
 - 1. 佐々木知行 ピッツバーグ大学 アメリカ
 - 2. 山本 祐司 ピッツバーグ大学 アメリカ

山本 祐司 ピッツバーグ大学 アメリカ 三浦 和知 ピッツバーグ大学 アメリカ

f) その他

なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2002年度

- 1.10月11.12日 日本整形外科学会基礎学術集会(青森市)
- b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

- 1. 8月24日(土)青森県スポーツ医学研究会(青森市) 2. 10月22日(火)Spine セミナー(MCC)
- 3. 12月7日(土) 脊椎外科懇話会(弘前市)
- 4. 2月21日 (土) 骨を語る会(弘前市)
- 5. 3月1日(土)第29回青森県スポーツ医学研究会(弘前市)
- 6. 3月7日(金) 骨軟骨シンポジウム (青森市) 7. 3月14日(金) 青森市腰痛セミナー (青森市)

2003年度

- 1. 第101回東北整形災害外科学会, 2003.4.25-26 弘前市2. 第14回青森県リウマチ懇話会(青森市)2003.7.18
- 3. 弘前大学整形外科月例会特別講演会(弘前市)2003.7.19
- 4. 第30回青森県スポーツ医学研究会(青森市)2003.8.23
- 5. 第7回青森県骨粗鬆症研究会(青森市)2003.9.12
- 6. 弘前大学整形外科月例会特別講演会(弘前市) 2003.9.13
- 7. 弘前腰痛セミナー(弘前市) 2003.10.11
- 8. 第13回日本リウマチ学会北海道・東北支部学術集会, 2003.11.21-22 弘前市
- 9. 第27回骨を語る会(弘前市) 2004.2.27
- 10. 第31回青森県スポーツ医学研究会(青森市)2004.3.6 11. 第10回骨軟骨シンポジウム(青森市)2004.3.19
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

2002年度

- 1. 2002.05.30-31 平 博文(大分医大)
- 2. 2002.10.01-12.28 国吉一樹 (千葉大学)
- 3. 2002.08.01-04 菅原 卓 (国立水戸 Hosp.)

2003年度

- 1. 2003.11.17-18 長田龍介(富山医科薬科大)
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学) 状況

2002年度

- 1. 佐藤英樹 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
- 2. 田中利弘 東京大学医科科学研究所

2003年度

1. 塚原 宗 東京大学医科科学研究所

VII. その他

2002.07.12 古川俊治 慶應大 特別講義・講演

24. 皮膚科学講座

【研究単位の目標到達度, 理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

1) アトピー性皮膚炎に対する核酸治療(NF κ B decoy) 【到達度】50%

2) 光線治療用の機器開発は本邦は遅れており、医療用機器の開発に努めたい。

【到達度】75%

3) 光老化の分子生物学的解明に努力したい。

【到達度】70%

理念:

太陽光により引き起こされた皮膚障害は光で治す。

これから2年間の目標:

苦痛のない治療を目指す。具体的にはアトピー性皮膚炎の光線治療、遺伝子治療、皮膚癌に対する光力学療法の分子生物学的機序の解明。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講師		助手	4, 医員 5, 大学院学生 7, 研究生 0				
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間				
	教 授	専 任	花田	勝美	平成22年 3 月31日				
	助教授	専任 玉井 克人 平成20年3月31日							
教 官	講師	専 任	中野	創	平成20年3月31日				
(教授~助手)	講師	専 任	今	淳	平成20年3月31日				
の詳細	助手	専 任	原田	研	平成18年3月31日				
	助手	専 任	任 水木 大介 平成18年3月31日						
助 手 専 任 松﨑 康司 平成18年3月31日									
	助 手 専 任 金子 高英 平成18年3月31日								
	1. NF κ B	decoy の紫外線	障害に	対する抑	印制効果				
	2. 光老化(シワ)の分子生物	勿学的角	解明					
	3. 皮膚癌に	対する音響力	学療法(の開発					
	4. 皮膚癌に	対する光力学績	療法の関	月発					
TTT // 123 日日日	5. 紫外線照	対の表皮角化約	細胞には	っける核	内転写因子活性に及ぼす影響				
研究課題	6. 悪性黒色	配腫の早期診断液	去						
	7. アトピー	7. アトピー性皮膚炎患者の治療・教育管理システムの開発							
	8. 皮膚の再	手生機構の解明							
	9. 弾力繊維	性低性黄色腫	(PXE)	の原因	遺伝子である ABCC6 遺伝子の発現調節機構の解析				
	10. VII型コラ	ーゲンの皮膚に	こおける	る発現調	節機構				

研究人員	教授 1, 即	力教授 1,講師	师 2,	助手	4, 医員 7, 大学院学生 5, 研究生 0
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	花田	勝美	H15. 4 . 1 ∼H16. 3 .31
教 官	助教授	専 任	中野	創	H15. 4 . 1 ∼H16. 3 .31
(教授~助手)	講師	専 任	原田	研	H15. 4 . 1 ∼H16. 3 .31
の詳細	講師	専 任	水木	大介	H15. 3 .31辞職
(ノ)計画	助手	専 任	松﨑	康司	H15. 4 . 1 ∼H16. 3 .31
	助手	専 任	金子	高英	H15. 4 . 1 ∼H16. 3 .31
	助 手	専 任	菊池	康	H15. 3 .31辞職

	助手	専 任	武田 仁志	H15. 4 . 1 ∼H16. 3 .31				
	助手	専 任	中島 康爾	H16.5.1 助手採用				
	助 手	専 任	横山 祥平	H16.4.1 助手採用				
	1. 皮膚癌の光力学療法(photodynamic therapy)の細胞内ミトコンドリア膜電位の変化							
	e therapy)							
	3. アトピー性皮膚炎の核酸治療(NF-κB decoy)							
	4. 表皮細胞の分化と転写因子(karyopherin x-2)の発現							
研究課題	5. 紫外線障	き 害に対するNF	-κB decoyl	κB decoyによる表皮アポトーシスの増強				
4	6. 遺伝性皮膚疾患先天性ポルフィリン症の遺伝子変異解析							
	7. 皮膚悪性腫瘍、特に基底細胞癌のダーモスコピーによる色素パターンの解析							
	8. 弾力線維性仮性黄色腫 (PXE) の原因遺伝子である ABCC6 遺伝子の発現調節機構の解析							
	9. Ⅷ型コラ	ーゲンの紫外線	泉障害皮膚にる	おける発現調節機構				
	10. 表皮の分	化と転写因子	Skn-1 の発現の	の解析				

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. <u>Xianmin Meng</u>, <u>Daisuke Sawamura</u>, Shinsuke Ina, <u>Katsuto Tamai</u>, <u>Katsumi Hanada</u>, <u>Isao Hashimoto</u>. Keratinocyte gene therapy: cytokine gene expression in local keratinocytes and in circulation by introducing cytokine genes into skin. Exp Dermatol 2002;11:456-461.
- A.2. <u>Atushi Kon, Hitoshi Takeda, Hideyuki Sasaki, Kozo Yoneda, Kazuo Nomura, Bijan Ahvazi, Peter M.Steinert, Katsumi Hanada, Isao Hashimoto. Novel transglutaminase 1 gene mutations (R348X/Y365D) in a Japanese family with lamellar ichthyosis. J Invest Dermatol 2003;120(1):170-172.</u>
- C.1. Tadaatsu Imaizumi, Mika Kumagai, Naoko Sasaki, Hidekachi Kurotaki, Fumiaki Mori, Masako Seki, Nozomu Nishi, Koji Fujimoto, Kunikazu Tanji, Takeo Shibata, Wakako Tamo, Tomoh Matsumiya, Hidemi Yoshida, Xue-Fan Cui, Shingo Takanashi, <u>Katsumi Hanada</u>, Ken Okumura, Soroku Yagihashi, Koichi Wakabayashi, Takanori Nakamura, Mitsuomi Hira, Ken Satoh. Interferon- γ stimulates the expression of galectin-9 cultured human endothelial cells. Journal of Leukocyte Biology 2002;72:486-491.

2003年度

- A.1. Kon A, Takeda H, Sasaki H, Yoneda K, Nomura K, Ahvazi B, Peter M.Steinert, Hanada K, Hashimoto I. Novel transglutaminase 1 gene mutations (R348X/Y365D) in a Japanese family with lamellar ichthyosis. J Invest Dermatol 2003;120(1):170-172.
- A.2. <u>Kaneko T, Tamai K, Yamazaki T, Harada K, Nakano H, Hanada K.</u> Superficial granulomatous pyoderma: A case report of two Japanese patients and clinical comparison with foreign patients. J Dermatol 2003; 30(6):472-476.
- A.3. Nakano A, Nakano H, Nomura K, Toyomaki Y, Hanada K. Novel SLC39A4 mutations in acrodermatitis enteropathica. J Invest Dermatol 2003;120(6):963-966.
- A.4. <u>Sasaki H, Kon A, Takeda H,</u> Sawamura D, Kakizaki I, Takagaki K, Hashimoto I, <u>Hanada K</u>. A novel Sp1-family-related cis-acting element for transcription of type Ⅶ Collagen gene (COL7A1). J Dermatol Sci 2003; 32(3):239-242.
- A.5. <u>Matsuyama A. Nakano H, Harada K, Yamazaki T, Kanno T, Wakui M, Hanada K.</u> Enhancement of photodynamic effect in normal rat keratinocytes by treatment with 1,25 dihydroxy vitamin D 3. Photodermatol Photoimmunol Photomed 2003;19:303-308.
- A.6. Mayama J, Kumano T, Hayakari M, Yamazaki T, Aizawa S, Kudo T, Tsuchida S. Polymorphic glutathione S-transferase subunit 3 of rat liver exhibits different susceptibilities to carbon tetrachloride: differences in their interactions witth heat-shock protein 90. Biochem J 2003;372:611-616.
- A.7. <u>Hanada K.</u> Photoprotective role of mettalothionein in UV-injury metallothionein-null mouse exhibits reduced tolerance against ultraviolet-B. J Deramtol Sci 2000;23(Suppl.1):S51-S56.
- A.8. <u>Tamai K</u>, Hshimoto I, <u>Hanada K</u>, Ikeda S, Imamura S, Ogawa H. Japanese guidelines for diagnosis and treatment of junctional and dystrophic epidermolysis. Arch dermatol Res 2003;295(S1):42-45.

和文

- A.1. <u>今 淳</u>. 表皮角化細胞及び真皮線維芽細胞における、WI型コラーゲン遺伝子の発現調節機構について. Connective Tissue 2002;34:127-135.
- A.2. 花田勝美. 白斑の美容皮膚科的治療(1)隠蔽・沈着化粧品. MB Derma 2002;67:139-143.
- A.3. 中野あおい, 花田勝美. 低セレン血症患者にみられた爪床の蒼白変化について. MB Derma 2002;67:42-45.
- A.4. 玉井克人. 先天性表皮水疱症. 日皮会誌 2002;112(10):1343-1356.

- A.1. 中野あおい: 腸性肢端皮膚炎における新規 SLC39A4 遺伝子変異. (平成15年度(第8回) 弘前大学医学部学
- A.2. <u>池永五月</u>, 梅垣知子, 武田仁志, 金子高英, 中野 創, 花田勝美. 壊死性遊走性紅斑の合併をみた膿疱性 乾癬. 皮膚病診療 2004;26:547-550.
- B.1. 木村 誠, 古曽部俊之, 花田勝美, 伊藤嘉恭, 平本立躬, 東 忠利, 徳岡由一, 川島徳道:メタルハライ ドランプを用いた光線力学診断および療法兼用光源装置。日本レーザー医学会誌。2003;24(3):101-108.

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. <u>花田勝美</u>. 光線・紫外線について. 日臨皮 2002;73:157-160.
- A.2. 今 淳, 金子高英, 玉井克人. 皮膚微小循環とその障害. 現代医療 2002;34(増刊IV):25-29. A.3. <u>玉井克人</u>, 森下竜一, 中邨広重, 金田安史, <u>花田勝美</u>. アトピー性皮膚炎に対する核酸医薬導入による新しい治療法. アレルギー・免疫 2003;10(3):89-96.

2003年度

A.1. 玉井克人, 森下竜一, 中邨広重, 金田安史, 花田勝美. アトピー性皮膚炎に対する核酸医薬導入による新 しい治療法. アレルギー・免疫 2003;10(3):89-96.

(3)著書

英文

2002年度

A.1. Aoi Nakano (Jefferson University), Gilles G. Lestringant (Tawam Medical Center, UAE), Tamar Paperma, Reuven Bergman, Ruth Gershoni (Rambam Medical Center, Israel), Philippe Frossard (Tawam Medical Center, UAE), Moien Kanaan (Bethlehem University, West Bank), Guerrino Meneguzzi (INSERM, France), Gabriele Richard, Ellen Pfendner, Jouni Uitto, Leena Pulkkinen, Eli Sprecher (Jefferson University); Junctionalepidermolysis bullosa in the middle east: clinical and genetic studies in a seriesof consanguineous families. J Am Acad Dermatol 2002;46(4):510-516.

和文

2002年度

- A.1. 花田勝美. 異物沈着による色素異常症. 最新皮膚科学体系 第8巻色素異常症. 玉置邦彦編, 中山書店, 東京, 2002;118-128.
- A.2. 花田勝美. 栄養障害性色素沈着. 最新皮膚科学体系 第8巻色素異常症. 玉置邦彦編. 中山書店. 東京, 2002;249-254.
- A.3. 中野 創. 症候群に伴う色素脱失. 最新皮膚科学体系 第8巻色素異常症. 玉置邦彦編, 中山書店. 東京. 2002;285-293.
- A.4. <u>花田勝美</u>, 貨幣状湿疹, 自家感染症皮膚炎. 今日の治療指針2003年版. 山口 徹, 北原光夫編, 医学書院, 東京, 第1版, 2003;781.
- A.5. <u>花田勝美</u>. 多形日光疹. 皮膚疾患最新の治療. 新村眞人, 滝川雅浩編, 南光堂, 東京, 2003;74. A.6. <u>玉井克人</u>. 瘢痕性類天疱瘡. 今日の皮膚疾患治療指針第 3 版, 斎田俊明, 塩原哲男, 宮地良樹, 渡辺晋一 編, 医学書院, 東京, 2002;303-304.
- A.7. <u>玉井克人</u>. 疱疹状皮膚炎. 今日の皮膚疾患治療指針第3 版, 斎田俊明, 塩原哲男, 宮地良樹, 渡辺晋一編, 医学書院, 東京, 2002;304-305.
- A.8. <u>玉井克人</u> 先天性水疱症. 今日の皮膚疾患治療指針第3版, 斎田俊明, 塩原哲男, 宮地良樹, 渡辺晋一編, 医学書院, 東京. 2002;322-329.
- A.9. 玉井克人、先天性表皮水疱症の診断、最新皮膚科学体系 第6巻水疱症 膿疱症,玉置邦彦編,中山書店, 東京, 2002;160-165.
- A.10. <u>玉井克人</u>. 栄養障害型表皮水疱症. 最新皮膚科学体系 第6巻水疱症 膿疱症, 玉置邦彦編, 中山書店, 東京, 2002;186-197.
- A.11. 玉井克人、 天疱瘡、皮膚疾患最新の治療、新村眞人、滝川雅浩編、南光堂、東京、2003;89-90.

- A.1. <u>花田勝美</u>:貨幣状湿疹, 自家感染症皮膚炎. 今日の治療指針2003年版. 山口 徹, 北原光夫編, 医学書院, 東京, 第1版, 2003;781.
- A.2. <u>花田勝美</u>: 多形日光疹. 皮膚疾患最新の治療, 新村眞人, 滝川雅浩編, 南光堂, 東京, 2003, 74頁
- A.3. 花田勝美:ゲッケルマン療法、医学大辞典、伊藤正男、井村裕夫、高久史麿編、医学書院、東京、2003、 715百
- A.4. <u>花田勝美</u>:光化学療法. 医学大辞典, 伊藤正男, 井村裕夫, 高久史麿編, 医学書院, 東京, 2003, 771頁 A.5. <u>花田勝美</u>:紫外線療法. 医学大辞典, 伊藤正男, 井村裕夫, 高久史麿編, 医学書院, 東京, 2003, 988頁
- A.6. 花田勝美: PUVA療法, 医学大辞典, 伊藤正男, 井村裕夫, 高久史麿編, 医学書院, 東京, 2003, 2158

- A.7. 花田勝美: 代謝異常症 ムチン沈着症, 図解 皮膚科学テキスト, 宮地良樹編, 中外医学社, 東京, 初版, 2003年,213頁
- A.8. 花田勝美: 代謝異常症 アミロイドーシス, 図解 皮膚科学テキスト, 宮地良樹編, 中外医学社, 東京, 初版, 2003年, 214頁
- A.9. 花田勝美:代謝異常症 クリオグロブリン血症、図解 皮膚科学テキスト、宮地良樹編、中外医学社、東 京, 初版, 2003年, 215頁
- A.10.花田勝美: 代謝異常症 黄色腫, 図解 皮膚科学テキスト, 宮地良樹編, 中外医学社, 東京, 初版, 2003 年,215頁
- A.11.花田勝美: 代謝異常症 ポルフィリア, 図解 皮膚科学テキスト, 宮地良樹編, 中外医学社, 東京, 初版, 2003年, 216頁
- A.12.花田勝美: 代謝異常症 ペラグラ, 図解 皮膚科学テキスト, 宮地良樹編, 中外医学社, 東京, 初版, 2003 年,216頁
- A.13.花田勝美:代謝異常症 金属代謝異常, 図解 皮膚科学テキスト, 宮地良樹編, 中外医学社, 東京, 初版, 2003年, 217頁
- A.14.花田勝美: Ⅱ. 皮膚疾患の病態生理と臨床, 代謝異常症(ムチン沈着症), 図解皮膚科学テキスト, 宮地良 樹編, 中外医学社, 東京, 初版, 2003年, 213頁
- A.15. 花田勝美: II. 皮膚疾患の病態生理と臨床、代謝異常症(アミロイドーシス)、図解皮膚科学テキスト、宮 地良樹編, 中外医学社, 東京, 初版, 2003年, 214頁
- A.16. 花田勝美: II. 皮膚疾患の病態生理と臨床, 代謝異常症(クリオグロブリン血症), 図解皮膚科学テキスト, 宮地良樹編,中外医学社,東京,初版,2003年,215頁
- A.17.花田勝美: Ⅱ. 皮膚疾患の病態生理と臨床,代謝異常症(黄色腫),図解皮膚科学テキスト,宮地良樹編, 中外医学社,東京,初版,2003年,215頁
- A.18.花田勝美: II. 皮膚疾患の病態生理と臨床, 代謝異常症(ポルフィリア), 図解皮膚科学テキスト, 宮地良 樹編,中外医学社,東京,初版,2003年,216頁
- A.19. <u>花田勝美</u>: Ⅱ. 皮膚疾患の病態生理と臨床, 代謝異常症(金属代謝異常), 図解皮膚科学テキスト, 宮地良 <u>樹編,中</u>外医学社,東京,初版,2003年,217-218頁
- A.20.花田勝美:アレルギー性光線過敏症、ファーマナビゲーターアレルギーシリーズ アレルギー性皮膚疾 患編, 宮地良樹編, メディカルビュー社, 東京, 2003年, 148-165頁
- A.21. <u>花田勝美</u>:無機物質代謝異常-皮膚石灰沈着症. 最新皮膚科学大系第10巻内分泌·代謝異常症 脂肪組織
- 疾患 形成異常症 異物沈着症, 玉置邦彦編, 中山書店, 東京, 2003年, 103-105頁 A.22. 花田勝美, 中野 創:無機物質代謝異常-亜鉛欠乏症. 最新皮膚科学大系第10巻内分泌・代謝異常症 脂 肪組織疾患 形成異常症 異物沈着症,玉置邦彦編,中山書店,東京,2003年,106-110頁
- A.23. 花田勝美: 無機物質代謝異常-ヘマクロマトーシス. 最新皮膚科学大系第10巻内分泌・代謝異常症 脂肪

(4)その他

英文

2003年度

- A.1. Mizuki D, Kaneko T, Hanada K.Successful treatment of topical photodynamic therapy using 5-aminolevulinic acid for plane warts. Br J Dermatol 2003; 149(5): 1087-1088
- A.2. Umegaki N, Moritsugu R, Katoh S, Harada K, Nakano H, Tamai K, Hanada K, Tanaka M: Photodynamic therapy may be useful in debulking cutaneous lymphoma prior to radiotherapy. Clin Exp Dermatol 2004; 29:42-45.

和文

- 淳. 光老化モデルマウスの開発:エラスチン・プロモーター/蛍光蛋白発現遺伝子導入線維芽細胞 による紫外線障害の迅速診断. 平成11~13年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)研究成果報告書
- A.2. <u>花田勝美</u>, <u>玉井克人</u>, <u>今</u> 淳, <u>中野 創</u>, <u>原田 研</u>. 紫外線誘導しわ形成の迅速評価法の開発. Readout HORIBA Technical Reports 2002;24:45-48. <u>淳</u>, <u>中野 創,原田 研</u>.紫外線誘導しわ形成に対するサンスクリーン製剤
- 淳, 間山 淳, 熊野高行, 佐々木千秋, 玉井克人, 鎌田義正(病理部), 橋本功. 多発性 皮膚線維腫の1例. 臨床皮膚科 2002;56(4):360-362.
- A.4. 若林俊輝, 原田 研, 倉前卓実, 横山祥平, 熊野高行, 玉井克人, 花田勝美, 今泉 孝. ステロイド局注 が奏効した膿瘍性穿屈性頭部毛包周囲炎の1例. 青県病誌 2002;47(1):34-38. A.5. 花田勝美. あなたの紫外線対策は万全ですか?. 武田薬報 2002;429:7-12.
- <u>神戸有希</u>, <u>今 淳,間山 淳,熊野高行</u>,佐々木千秋,<u>玉井克人</u>,鎌田義正,橋本 功.発性皮膚線維腫の 1 例.臨床皮膚科 2002;56 (4):360-362.
- A.7. <u>間山 淳, 西澤 綾</u>, 木村淳也, <u>玉井克人</u>, 橋本 功, <u>花田勝美</u>. 顔面に生じた乳癌の皮膚転移の 1 例. 皮膚臨床 2002;44(5):593-595.
- A.8. 水木大介, 原田 研, 玉井克人, 花田勝美. 多発性立毛筋性平滑筋腫の1例. 皮膚臨床 2002;44 (7):725-726.
- A.9. <u>花田勝美</u>、この症状を見落とすな、Allergy & Clinical Conference-for Dermatologist and Otorhinolaryngologist (住友製薬) 2002;16:1.
- A.10.会津隆幸, 大原國章(虎の門). 皮表に変化なし(表皮直下から真皮下層の腫瘍), 脂腺腺腫. Visual Dermatology 2002;1(6):632-633.
- A.11.郭 秀穎,梅垣知子,神戸有希,原田 研,今 淳,花田勝美. 日光角化症-弘前大学過去15年間の統

計的監察と組織学的検討-. 青県病誌 2002:47(2):93-96.

- 淳, 花田勝美, 佐藤秀平. 妊娠中に発生した色素分界線条. 皮膚臨床 2002;44(8):829-830 A.12.今
- A.13. <u>泉谷牧子</u>, 原田 研, 小棚木麻衣子, 神戸有希, 水木大介, 玉井克人, 花田勝美. ニコチン酸単独内服療 法が奏効した高齢者の水疱性類天疱瘡.皮膚臨床 2002;44(10):1138-1139.
- A.14. 横山祥平, 原田 研, 熊野高行, 中野 創, 玉井克人, 花田勝美. 変形性膝関節症に伴った Sclerosing Panniculitis の 1 例. 皮膚臨床 2002;44(10):1140-1141.
- A.15.花田勝美. 美白剤. マルホ皮膚科セミナー 2002;160:12-15.
- A.16. 小棚木麻衣子, 原田 研, 水木大介, 玉井克人, 花田勝美, 岡田昌博, 松永宗雄. 潜在していた脊髄病変の治療後, 劇的な改善をみた足穿孔症の 1 例. 臨皮 2002;56(12):1056-1058.
- A.17. <u>矢口 直, 原田 研, 武田仁志, 熊野高行</u>, 澤村大輔, 橋本 功, 福田眞作(第1内科), 川崎仁司(第2外科). 肝結核を伴った皮膚腺病の1例. 臨皮 2003;57(1):72-74.
- A.18.森次龍太, 原田 研, 中野 創, 玉井克人, 花田勝美. タクロリムス軟膏が奏功した chronic actinic dermatitis の 1 例. 臨皮 2002;56 (13):1147-1149.
 A.19. 花田勝美. 「皮膚科診療プラクティス」発疹から病気がみえる. 皮膚臨床 2002;44(12):1423.
- A.20. 玉井克人, 菊池 康, <u>花田勝美</u>, 橋本 功, 遠藤誠之, 金田安史. 先天性表皮水疱症の遺伝子治療法開発. 厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究事業稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究,平成14年度総 括·分担研究報告書 2003;87-89.
- A.21. <u>玉井克人</u>. 表皮細胞の発生・分化における POU ドメイン転写因子. 平成10~13年度科学研究費補助金 $\overline{(B)}$ (2) 研究成果報告書 2003;1-95.
- A.22. 金子高英,大原国章.爪の bowen 病. Visual dermatology 2002;1:54-55.
- A.23. 近藤直子, 竹本啓伸, 鳴海博美, 野村和夫, 山本欣一. 抗デスモグレイン 1 抗体陽性を示した疱疹状天疱 瘡の1例. 臨床皮膚科 2002;56(8):604-606.
- A.24.花田勝美. モナリザの黄色腫. 弘前医師会報 2002;285:82-83.

2003年度

- A.1. 花田勝美:「皮膚科診療プラクティス」発疹から病気がみえる. 皮膚臨床, 2002;44(12):1423.
- A.2. <u>花田勝美</u>:美白剤. マルホ皮膚科セミナー, 2002;160:12-15.
- 玉井克人, 菊池 康, 花田勝美, 橋本 功, 遠藤誠之, 金田安史: 先天性表皮水疱症の遺伝子治療法開発. 厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究事業稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究, 平成14年度総 括 • 分担研究報告書 2003:87-89.
- A.4. 花田勝美: 救急医学講座平成15年第 3 回放射線皮膚炎. 弘前医師会報 2003;38(4):26-28.
- A.5. <u>花田勝美</u>: 近況近影. いずみ, 2003年11月11頁. A.6. <u>花田勝美</u>: Skin Care Note 肌とミネラルのいい関係. 株式会社ノブ 製品パンフ.
- A.7. <u>小棚木麻衣子</u>, 原田 <u>研,水木麻唯子</u>, 玉井克人, <u>花田勝美</u>, 木村淳也(五所川原西北中央):モルフェア 様の臨床像を呈し, 病変内にケロイド様小結節をみた慢性円板状エリテマトーデスの1例. 皮膚臨床 2003;45(6):689-691.
- A.8. 加藤五月, 中島康爾, 野村和夫, 平井一郎: 播種性血管内凝固症候群, 急性腎不全, 間質性肺炎を伴った ツツガムシ病. 皮膚病診療 2003;25(8):875-878.
- A.9. 近藤直子,金子高英,原田 研, 花田勝美. Clear Cell Hidradenoma.皮膚臨床 2004;46:341-342. A.10. 森次龍太,金子高英,矢口 直,玉井克人, 花田勝美,石亀昌幸. Propylthiouracil 長期内服による蕁麻疹
- 様血管炎の 1 例. 臨床皮膚科 2003;57:680-682. A.11. <u>矢口 直,原田 研,武田仁志,熊野高行,澤村大輔,橋本 功</u>,福田眞作,川崎仁司.肝結核を伴った 皮膚腺病の1例. 臨床皮膚 2003;57:72-4.
- B.1. <u>矢口 直</u>, <u>原田 研</u>. 小児にみられた広範な硬化性萎縮性苔癬の 1 例. 皮膚臨床 2003;45:807-809.
- C.1. 原田 研, 高橋正明, 高木順之, 会津隆幸, 澤村大輔, 梅木 薫. 肥大性扁平苔癬. 皮膚臨床 2003;45:643-644.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Exp Dermatol J Invest Dermatol	2.303 3.746	1 1	2.303 3.746
Total		2	6.049

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Invest Dermatol	4.194	2	8.388
J Dermatol	0.633	1	0.633
J Dermatol Sci	1.626	2	3.252
Photodermatol Photoimmunol Photomed	1.000	1	1
Biochem J	4.101	1	4.101
Arch dermatol Res	1.415	1	1.415
Total		8	18.789

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
Connecutive Tissue			1	
MB Derma			2	
日本皮膚科学会雑誌			1	
日本臨床皮膚科医学会雑誌			1	
現代医療			1	
アレルギー・免疫			1	1
弘前医学				1
皮膚病診療				1
日本レーザー医学会誌				1
	計		7	4

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	1	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	11	24

3. その他 (A, Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Br J Dermatol Clin Exp Dermatol	2.659 1.223	1 1	2.659 1.223
Total		2	3.882

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
平成11~13年度科学研究 告書	究 費補助金基盤 研	1		
Reabout HORIBA Tech	nnical Reports		2	
臨床皮膚科			6	2
青森県立中央病院医誌			2	
武田薬報			1	
皮膚科の臨床			6	
Allergy & Clinical Con	ference-for Derm	natologist and	1	
Otorhinolaryngologist (住友製薬)			
Visual Dermatology			2	
マルホ皮膚科セミナー			1	1
厚生労働科学研究費補助			1	1
皮膚疾患に関する調査研	开究,平成14年度	総括•分担研究報告書		
弘前医師会報			1	1
皮膚臨床				4
いずみ				1
株式会社ノブ製品パン	フ			1
皮膚病診療				1
	計		24	12

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

C.1. Moritsugu R, Tamai K, Umegaki N, Kon A, Nakano H, Hashimoto I, Hanada K: Mechanisms of nuclear localization of POU transcriptional factor Skn-1a in epidermal keratinocytes. 63rd Annual Meeting of the

- Society for Investigative Dermatology, 2002, Los Angels.
- C.2. Yamazaki T, Nakano H, Hayakari M, Mayama J, Tsuchida S: Enhanced phosphatidylethanolamine-binding protein expression in human keratinocytes differentiated by calcium. 63rd Annual Meeting of the Society for Investigative Dermatology, 2002, Los Angels.
- C.3. Matsuzaki Y, Li K, Nakano A, Aho S, Pulkkinen L, Uitto J(Jefferson University): Tissue-specific expression and transcriptional modulation of human ABCC6, the gene mutated in pseudoxanthoma elasticum. 63rd Annual Meeting of the Society for Investigative Dermatology, 2002, Los Angels.
- C.4. <u>Umegaki N</u>, <u>Moritsugu Y</u>, <u>Katoh S</u>, <u>Harada K</u>, <u>Nakano H</u>, <u>Tamai K</u>, <u>Hanada K</u>: Successful treatment of photodynamic therapy for anaplastic large cell lymphoma. 20th World congress of dermatology, 2002,
- C.5. Kambe Y, Izumiya M, Kaneko T, Harada K, Nakano H, Hanada K. Hypercalcemia and elevated levels of PTH-rp in Jiant pilomatrix carcinoma on the neck. 20th World congress of dermatology, 2002, Paris.
- C.6. Hanada K; Prevention of photoaging. World photodermatology day, 2002, Paris.

- A.1. Hanada K; Combined UVB with UVA phototherapy and photodynamic therapy. Department of Dermatology Keimyung University School of Medicine, 2003.10.10. Daegu, Korea
- B.1. Kon A, Takeda H, Takagaki K, Hanada K: Tissue specific gene expression of human type VII collagen in epidermal keratinocytes and dermal fibroblasts, with special reference to photoaged skin. The 13th Korea-Japan Joint Meeting of Dermatology, Daejeon (Korea) 2003.10.9-10.
- C.1. A Nakano, Nakano H, Nomura K, Toyomaki Y, Hanada K: Novel SLC39A4 mutations in Japanese acrodermatitis enteropathica patients. International Investigative Dermatology, Miami 2003.4.30-5.4.
- C.2. Tamai K, Morishita R, Nakamura H, Chiba Y, Kaneda Y, Hanada K: Development of novel NF & B decoy oligonucleotide ointment and the first successful clinical trial for severe atopic dermatitis patients. International Investigative Dermatology, Miami 2003.4.30-5.4.
- C3. <u>Umegaki N, Tamai K, Nakano H, Moritsugu R, Yamazaki T, Hanada K</u>: Differential regulation of importin $\overline{\text{alpha 2 expression by TGF }\beta}$ $\overline{\text{and IFN-}\gamma}$ in normal human epidermal keratinocytes. International Investigative Dermatology, Miami 2003.4.30-5.4.
- C.4. Umegaki N, Moritsugu R, Katoh S, Harada K, Nakano H, Tamai K, Yamazaki T, Hanada K, Tanaka M (Dept. Pathology): A case of cutaneous anaplastic large cell lymphoma effectively treated by photodynamic therapy with topical 5-aminolaevulinic acid (5-ALA). Satellite symposium of first international 5-ALA symposium, 2003,5.24.Fukuoka
- C.5. Matsuzaki Y, Terlizzi J, Li K, Leperi D, Klement J, Pulkkinenand L, Uitto J: Pseudoxanthoma elasticum-development of a mouse model by targeted ablation of ABCC6 International Investigative Dermatology 2003 Miami Beach, Florida, USA 2003

(2)全国学術集会

2002年度

- A.1. 花田勝美:光線・紫外線. 第18回日本臨床皮膚科医学会, 2002. 仙台 B.1. 中野 創,梅垣知子,水木大介,花田勝美:5-アミノレブリン酸外用PDTの皮膚疾患に対する臨床応 用. 第23回日本レーザー医学会総会, 2002. 大阪
- 18件

2003年度

- B.1. <u>花田勝美</u>, <u>中野</u> <u>創</u>, <u>金子高英</u>, <u>武田仁志</u>(弘前大): 二重濾過血漿分離交換法の奏効した toxic epidermal necrolysis (TEN)型薬疹-本邦で初めての施行例?-. 第23日本アフェレシス学会学術大会, 2003.10.3-4.
- C. 14件

III. 学術賞

2003年度

平成15年度弘前大学医学部附属病院診療奨励賞 診療技術賞受賞,水木大介・金子高英(皮膚科),「褥瘡 対策チームの活動 ―褥瘡発生減少への貢献―」

平成15年度(第8回) 弘前大学医学部学術奨励賞受賞,中野あおい, Novel SLC39A4 mutation in acrodermatitis enteropathica

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

研究代表者として

科学研究費補助金, 萌芽研究, ES 細胞由来表皮ケラチノサイトを用いた表皮性 POU 転写因子 Skn-1n の機能解析、玉井克人、3,300千円

科学研究費補助金,基盤研究(B)(2),栄養障害型表皮水疱症:人工接着分子を用いた新規遺伝子治療法の開発,玉井克人,7,200千円

科学研究費補助金、基盤研究(C)(2),今淳, scarless wound healing (瘢痕を残さない創傷治癒)機構の解明:先天性表皮水泡症の治療への応用、今淳, 1,200千円

科学研究費補助金, 萌芽研究, 水木大介, 皮膚の再生機構の解明: ヒアルロン酸合成酵素遺伝子導入による胎児創傷治癒機構モデルの開発, 水木大介, 1,800千円

2003年度

研究代表者として

平成15年度科学研究費補助金, 萌芽研究, 水木大介, 皮膚の再生機構の解明:ヒアルロン酸合成酵素遺伝 子導入による胎児創傷治癒機構モデルの開発 170万円

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

2003年度

研究代表者として

名称:インセンティブ研究助成(小規模ながら輝く研究)

課題:「アトピー性皮膚炎に対する藍由来抗菌物質(トリプタンスリン)の臨床効果」 研究代表者:武田

仁志 助成額:1000(単位:千円)

他研究単位との研究分担者として

平成15年度弘前大学重点研究,スキンケアロボット,妻木雄一,30万円

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として

平成14年度学術国際振興基金助成金,中野 創,ヒノキチオールの炎症性皮膚疾患に対する新たな臨床応用: 抗 NF-kB 剤としての役割,1,000千円

平成14年学術国際振興基金助成金,今 淳,胎児創傷治癒機構(scarless wound healing)モデルを用いた皮膚再生機構の解明:マスター遺伝子の同定及びその臨床医学的応用,5,000千円

2003年度

他研究単位との研究分担者として

平成15年度青森県産学官共同研究推進事業 (シーズ熟成事業), 藍の抗菌活性物質の検索と臨床効果, 北原晴男, 25万円

平成15年度学術国際振興基金助成金,「藍」に関わる抗菌活性物質の探索研究, 北原晴男, 10万円

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流. 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘. 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況

2003年度

陳 鳳超, Zhengzhou University, 中華人民共和国, 平成15年10月1日~平成16年9月30日

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

なし

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

松崎康司、Jefferson Medical College、米国、2000(平成12)年12月から2002(平成14)年3月末日まで 2003年度

Ackerman Academy of Dermatopathology (米国, 2003年12月9日より)

f) その他

なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

- 1. 花田勝美, 第110回弘前大学皮膚科集談会, 弘前
- 2. 花田勝美, 第318回日本皮膚科学会青森地方会, 弘前
- 3. 花田勝美,第319回日本皮膚科学会青森地方会,弘前 4. 花田勝美,平成14年度市民公開講座,弘前

2003年度

- 1. 第112回弘前大学皮膚科集談会, 2003年4月13日, 弘前
- 2. 日本皮膚科学会青森地方会第322回例会, 2003年6月8日, 弘前
- 3. 第8回弘前皮膚科セミナー, 2003年6月17日, 弘前
- 4. 第113回弘前大学皮膚科集談会, 2003年10月26日, 弘前 5. 平成15年度市民公開講座, 弘前
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況

2002年度

玉井克人,大阪大学大学院医学系研究科未来医療開発専攻遺伝子治療学講座,日本, 2002(平成14)年 5月1日から2003 (平成15) 年2月末日まで

VII. その他

なし

25. 泌尿器科学講座

【研究単位の目標到達度, 理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

臨床に結びついた研究を進め、成果を上げ学会等で発表してきた。 成果を英文論文にし、充分投稿することが出来なかった。

理念:

泌尿器科学の発展に寄与するための臨床に直結した研究を行う。

これから2年間の目標:

研究成果をあげ英文論文として、積極的に Impact Factor の高い論文誌への投稿をする。 科研費補助金や各種助成金の獲得を目指す。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講師	币 1,	助手	5, 医員 3, 大学院学生 2, 研究生 0		
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
	教 授	専 任	鈴木	唯司	1 年間		
	助教授	専 任	高橋	信好	1 年間		
教 官	講師	専 任	川口	俊明	1 年間		
(教授~助手)	助 手	専 任	神村	典孝	1 年間		
の詳細	助 手	専 任	古家	琢也	1年間(11月より講師)		
	助 手	専 任	呉	聖哲	9 ヵ月		
	助 手	専 任	山内	崇生	6ヵ月		
	助 手	専 任	盛	和行	1年間		
	1. 膀胱癌に	対する BCG 浩	療の基	礎的・1	臨床的研究		
	2. 腎細胞瘤	弱の免疫治療に	関する基	礎的•	臨床的研究		
研究課題	3. 腎移植排	巨絶反応における	るフリラ	ラージカ	ルの研究		
	4. 腸管膀胱	光の機能に関す.	る研究				
	5. 副腎機能	ごた進症の臨床的	的研究				

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講印	币 2,	助手	4, 医員 2, 大学院学生 2, 研究生 1		
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
	教 授	専 任	鈴木	唯司	1年		
	助教授	専 任	高橋	信好	1年		
教 官	講師	専 任	川口	俊明	1年		
(教授~助手)	講師	専 任	古家	琢也	1年		
の詳細	助 手	専 任	神村	典孝	1年		
	助 手	専 任	吉川	和暁	8ヵ月		
	助 手	専 任	工藤	大輔	1年		
	助 手	専 任	盛	和行	1年		
	1. 膀胱腫瘍	馬に対する BCG	療法の	改良と	上部尿路癌への応用		
	2.BCG 抗胆	重瘍作用機序の	研究				
	3. 尿路癌に	こおけるテロメ	レースの)研究			
	4. 腎細胞瘤	語に対する免疫症	療法の引	女良			
研究課題	5. 腎移植に	こおける拒絶反応	色反応の研究				
	6. 副腎腫瘍の病態と治療に関する研究						
	7. 前立腺癌,精巣腫瘍の化学療法に対する研究						
	8. 腸管膀胱の改良と排尿機能						
	9. 間質性脱	旁胱炎の発生機 戸	亨				

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. H. Saitoh, K. Mori, S. Kudoh, H. Itoh, N. Takahashi and T. Suzuki. BCG effects on telomerase activity in bladder cancer cell lines International Journal of Clinical Oncology 7:165-170 (2002)
- A.2. Takuya K,et al. Orthotopic Ileal Neobladder Reconstruction Using A Modified Goodwin Method:Functional Outcome In 37 Patients. Acta. Urol. Jpn. 48:407-413,2002.

2003年度

- A.1. <u>高橋信好</u>, 北原竜次, 菱本康之, 大黒祥光, 橋本安弘, <u>鈴木唯司</u>: Malignant transformation of renal angiomyolipoma. International Journal of UROLOGY, 2003年 10; 271-3.
- B.1. Luis Molto, Pat Rayman, Ewa Paszkiewicz-Kozik, Mark Thornton, Lisa Reese, John C. Thomas, Tanya Das, <u>Daisuke Kudo</u>, Ronald Bukowski, James Finke and Charles Tannenbaum: The Bcl-2 Transgene Protects T Cells from Renal Cell Carcinoma-mediated Apoptosis. CANCER RESEARCH, 2003 9; 4060-8.
- C.1. <u>Daisuke Kudo</u>, Patricia Rayman, Claudine Horton, Martha K. Cathcart, Ronald M. Bukowski, Mark Thornton, Charles Tannenbaum and James H. Finke: Gangliosides Expressed by the Renal Cell Carcinoma Cell Line SK-RC-45 Are Involved in Tumor-induced Apoptosis of T Cells. CANCER RESEARCH, 2003 63; 1676-83.

和文

2002年度

A.1. 古家琢也, 他. 自動縫合器を用いて施行した根治的膀胱全摘除術50例の臨床的検討. 泌尿器外科, 15:307-309.2002.

2003年度

- A.1. 工藤茂将,北原竜次,鈴木昭夫,<u>盛</u>和行,<u>高橋信好</u>,鈴木唯司: ラット同種腎移植急性拒絶反応時における manganese superoxide dismutase の動態.日本移植学会雑誌,2003年 38; 216-21.
- A.2. 寺山百合子, 佐藤元昭, <u>高橋信好</u>, 百瀬昭志, 舟生冨寿: 慢性腎不全患者における副甲状腺ホルモンと骨 代謝. 日本透析医会雑誌, 2003年 18:351-7.

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

英文

2002年度

A.1. N. Takahashi, R. Kitahara, Y. Hishimoto, A. Ohguro, Y. Hashimoto and T. Suzuki Malignant transformation of renal angiomyolipoma International Journal of Urology, 2003(10); 271-273

和文

- A.1. 古家琢也, 他. シスプラチンによる術前動注療法にて組織学的に著効が得られた膀胱原発神経内分泌癌の 1 例. 泌尿紀要, 48:423-426,2002.
- A.2. 古家琢也, 他. 回腸導管再建術後高クロール性代謝性アシドースをきたした 1 例. 泌尿紀要, 48: 757-759,2002.
- A.3. 古家琢也, 他. 腫瘍摘出後2年1ヵ月後に同部位に再発した腎周囲死亡肉腫の1例. 西日本泌尿器科, 65:106-109,2003.
- A.4. 呉 聖哲, <u>高橋信好</u>, 工藤茂将, 鈴木唯司, 樺沢憲治, 舟生富寿. 移植後早期腎機能障害に対する予測因子としての urine flow immunocytometry の臨床的意義について 腎移植・血管外科14(1),9-18(2002)
- A.5. 古家琢也, 石村大史, 工藤誠治, 川口俊明, <u>高橋信好</u>, 鈴木唯司. 自動縫合器を用いて施行した根治的膀胱全摘除50例の臨床的検討. 泌尿器外科15(4),307-309(2002)
- A.6. 古家琢也, 山内崇生, 工藤誠治, 川口俊明, <u>高橋信好</u>, 鈴木唯司. 女子尿道腺癌の1例. 臨床泌尿器科56 (6),427-429(2002)

- A.7. T. Koie, T. Kawaguchi and N. Takahashi Orthotopic Ileal Neobladder Reconstruction using A Modified Goodwin Method: Functional Outcome in 37 Patients. 泌尿器科紀要 48,407-413 (2002)
- A.8. 古家琢也, 川口俊明, <u>高橋信好</u>. シスプラチンによる術前動注療法にて組織学的に著効が得られた膀胱原 発神経内分泌癌の 1 例. 泌尿器科紀要48, 423-426(2002)
- A.9. 古家琢也, 米山高弘, 神村典孝, 川口俊明, <u>高橋信好</u>. 回腸導管再建術後高クロール性代謝性アシドーシ スをきたした1例. 泌尿器科紀要48, 757-759(2002)
- A.10.米山高弘, 古家琢也, 神村典孝, 盛 和行, <u>高橋信好</u>. 腎盂・尿管癌術後の膀胱内再発予防に対する BCG 膀胱内注入療法. BCG • BRM 療法研究会誌26, 43-46 (2002)
- A.11. 神村典孝, 古家琢也, 米山高弘, <u>高橋信好</u>. 成人男性の膀胱後部に発生した類皮嚢胞の 1 例 泌尿器科紀 要49. 149-151(2003)
- A.12. 高橋信好, 鈴木唯司. 腎細胞癌における開放腎部分切除術の臨床的検討. 泌尿器外科16(臨増)295~300
- B.1. 神村典孝, 古家琢也, 他. 成人男性の膀胱後部に発生した類皮嚢胞の1例. 泌尿紀要, 49:149-151,2003. B.2. 米山高弘, 古家琢也, 他, 両側腎悪性リンパ腫, 臨床泌尿器科, 57:79-81,2003.

- A.1. 米山高弘, <u>神村典孝</u>, <u>古家琢也</u>: 両側副腎悪性リンパ腫. 臨床泌尿器科, 2003年 57; 79-81.
- A.2. <u>神村典孝</u>, <u>古家琢也</u>, 米山高弘, 高橋信好:成人男性の膀胱後部に発生した類皮嚢腫の 1 例. 泌尿器科 紀要, 2003年 49; 149-51.
- A.3. 古家琢也、米山高弘、神村典孝、鈴木唯司: 腫瘍摘出後2年1ヵ月後に同部位に発生した腎周囲脂肪肉 腫の1例. 西日本泌尿器科, 2003年 65; 106-9.
- A.4. 鈴木唯司: クッシング症候群. 内分泌外科, 2003年 20; 74-6.
- A.5. 今井 篤, 梶原 哲, 米山高弘, 古家琢也, 神村典孝: 異所性褐色細胞腫の1 例. 泌尿器外科, 2003年 1 6;625-8.
- A.6. 二川原健, 川口俊明, 須田俊宏: 異所性ホルモン産生腫瘍. ダイナミック・メディシン, 2003年 3;80-2.
- A.7. <u>高橋信好</u>, <u>鈴木唯司</u>: 腎細胞癌における開放腎部分切除術の臨床的検討 —術後の腎機能に及ぼす影響に
- ついて一。泌尿器外科, 2003年 16(臨時); 406-8.
 A.7. <u>盛</u> 和行, ナイーム・ラーマン, 石村大史, <u>工藤大輔</u>, <u>高橋信好</u>, <u>鈴木</u>唯司, 畠山良夫, 矢野郁也: BCG 細胞壁成分による抗腫瘍効果の検討. BCG・BRM 療法研究会会誌, 2003年 27; 33-41.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
INT J UROL CANCER RES	0.683 1.486	0	0.683 1.486
Total		0	2.169

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本移植学会雑誌 日本透析医会会誌				1 1
	計		0	2

2. 著書数 (A. Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

3. その他(A. Bのみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
臨床泌尿器科 泌尿器科紀要				1 1

西日本泌尿器科 泌尿器外科 内分泌外科 ダイナミック・メディシン BCG・BRM療法研究会会誌		1 2 1 1
計	0	8

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- C.1. 川口俊明, 古家琢也, 山内崇生, 高橋信好, 鈴木唯司他, The effect of radiotherapy and diethylstilbesterol-diphosphate administration on stage D prostate cancer patients with local relapse. 第26回国際泌尿器科学会, ストックホルム, 2002
- C.2. 神村典孝, 呉 聖哲, 高橋信好, 鈴木唯司 他, Expression of transmembrane 4 superfamily in renal cell cancer. 第26回国際泌尿器科学会, ストックホルム, 2002
- C.3. 工藤大輔, Soluble products from renal cell carcinomas induce Bcl-X1 and Bcl-2 protein cleavage and apoptosis in T lymphocytes; Dependence on caspases and reactive oxygen. アメリカ泌尿器科学会 (AUA), オーランド市, 2002

2003年度

C.1. 工藤大輔: gangliosides Expressed by Renal Cell Carcinoma Cell Line SK-RC-45 Are Involved in Tumor-induced Apoptosis of T Cells. アメリカ泌尿器科学会(AUA) 平成15年4月, アメリカ合衆国シカゴ市

(2)全国学術集会

2002年度

- A.1. 鈴木唯司, 副腎偶発腫瘍の治療方針. 第13回臨床内分泌代謝 up-data. 東京, 2003年3月15日
- B.1. 鈴木唯司,表在性膀胱癌の新しい展開. 第29回尿路悪性腫瘍研究会. 東京,2002年7月13日
- B.2. 腎細胞癌における開放腎部分切除術の臨床的検討 術後の腎機能に及ぼす影響について- 第67回日本泌尿器科学会東部総会、イヴニングシンポジウム (小径腎癌の治療戦略)、千葉(2002)
- C. 16件

2003年度

- A.1. 郡健二郎, 鈴木唯司, 内藤克輔: これからの医学教育 一特に泌尿器科卒前卒後教育一. 第91回日本泌尿器科学会 総会; 平成15年4月, 徳島市
- B.1. 古家琢也: 当科における回腸利用新膀胱造設術の中期成績および QOL について. 第68回日本泌尿器科学会 東部総会: 平成15年10月. 弘前市
- 会 東部総会;平成15年10月,弘前市 B.2. 川口俊明:イムノブラダー膀注用の使用成績調査3000例集積からみた考察。第68回日本泌尿器科学会 東部総会;平成15年10月,弘前市
- C. 6件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

2003年度

日本ビーシージー製造:500千円 「BCG 及び抗酸菌(細胞壁成分)による抗腫瘍効果の検討」 盛 和行

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2,100千円

2002年度

研究代表者として 基盤研究(C)(2)ラット腎移植後急性拒絶反応における組織傷害軽減のための新たなる挑戦 高橋信好

研究代表者として

高橋信好:基盤研究(C)(2), 1,300千円 「ラット腎移植後急性拒絶反応における組織傷害軽減のための 新たなる挑戦し

神村典孝:若手研究,600千円「間質性膀胱炎による頻尿発症のメカニズム解明」 工藤大輔:若手研究,3,679千円「腎細胞癌産生ガングリオシドによるT細胞アポトーシス誘導機構の解 析」

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流、国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘. 受け入れ状況 なし
 - c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況 2003年度

ラーマン ナイーム (バングラディシュ) 平成12年10月~

- d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況 なし
- e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況 2002年度

工藤大輔、クリーブランドクリニック研究所 免疫学教室 アメリカ合衆国、3年

f) その他

なし

- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催

2003年度

第68回日本泌尿器科学会 東部総会

b) 地方レベルの学会の主催

2003年度

第18回, 第19回, 第20回青森県泌尿器科研究会 第3回 東北排尿障害研究会

- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

なし

26. 眼科学講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

1. 遺伝性網膜変性症の遺伝子診断の継続

これまでの研究の成果によって GCAP2 遺伝子変異による網膜変性家系を検出した。2004年に論文として国際的学術誌に投稿し、掲載受理された。

- 2. 遺伝子変異動物の病態を解析し、治療法の開発へつなげる。 いろいろな物質について網膜変性進行遅延作用を検討している。
- 3. 網膜色素変性患者に対するカルシウム拮抗薬の効果を判定する。 現在動物のみならず実際の患者に対して臨床治験を行っている。
- 4. 糖尿病網膜症の治療研究

現在、手術やステロイドの効果を検討している。

5. 緑内障の病態と治療法の研究 神経保護の立場から緑内障の治療法について検討している。

このように2年前に立てた目標の実現に向かって地道に努力をしており、その過程で明らかになった知見は順次学 術論文として投稿ないし掲載受理されている。しかし、研究に専念できる時間が少なく、自分が設定した目標に対 する到達度は60%と考える。

理念:

眼科学の発展に貢献できる研究を遂行する中で有為な人材を育て社会に貢献する。

これから2年間の目標:

- 1 遺伝性網膜変性症の遺伝子診断の継続
- 2 遺伝子変異動物の病態を解析し、治療法の開発へつなげる。
- 3 網膜色素変性患者に対するカルシウム拮抗薬の効果を判定する。
- 4 糖尿病網膜症の治療研究
- 5 緑内障の病態と治療法の研究
- 6 網膜血管閉塞症に対する新しい手術方法の検討

【研究人員及び研究課題】

研究人員	教授 1, 馬	力教授 1, 講師	新 2, 助手	4, 医員 2, 大学院学生 7, 研究生 0		
	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間		
	教 授	専 任	中澤 満	1年		
	助教授	専 任	大黒 浩	1年		
	講師	専 任	大黒 幾代	1年		
教 官	病院講師	専 任	鈴木 幸彦	1年		
(教授~助手)	助手	専 任	加藤 智博	6 ヵ月		
の詳細	病院助手	専 任	水谷 英之	1年		
	病院助手	専 任	斉藤 桂子	1年		
	病院助手	専 任	三好永利子	5年		
	病院助手	専 任	間宮 和久	6ヵ月(斉藤桂子の後任)		
	助 手	専 任	柳橋さつき	6ヵ月(加藤智博の後任)		
	1. 遺伝性網膜変性の遺伝子異常と臨床像					
研究課題	2. 遺伝性網膜変性の分子病態と治療研究					
切九	3. 緑内障の分子病態と治療研究					
	4. 網膜循環	段障害の病態と活	怡療			

研究人員	教授 1, 即	力教授 1,講師	师 2,	助手	4, 医員 3, 大学院学生 7, 研究生 0		
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
	教 授		中澤	満	1年		
	助教授		大黒	浩	1年		
教 官	講師		大黒	幾代	1年		
(教授~助手)	講師		鈴木	幸彦	1年		
の詳細	助 手		水谷	英之	1年		
	助 手		間宮	和久	1年		
	助 手		佐藤	元哉	8ヵ月 (渡部永利子の後任)		
	助 手		渡部	永利子	4ヵ月		
	1. 遺伝性網膜変性疾患の病態と遺伝子診断						
	2. 遺伝性網膜変性疾患の分子病態と治療研究						
	3. 癌関連網膜症の分子病態と治療研究						
研究課題	4. 緑内障の分子病態と治療研究						
	5. 網膜静脈閉塞症の外科治療法の開発						
	6. 網膜硝子	6. 網膜硝子体疾患の病態および治療研究					
	7. 網膜視紙	II胞における光 かんだん かんだん かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう	青報伝達	産機構に	関する研究		

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. Ikeda Y, Maruyama I, Nakazawa M, <u>Ohguro H</u>. Clinical significance of serum antibody against neuron-specific enolase in glaucoma patients. Jpn J Ophthalmol 46:13-17, 2002.
- A.2. Maruyama I, Maeda T, Okisaka S, Mizukami A, Nakazawa M, Ohguro H. Autoantibody against neuron-specific enolase found in glaucoma patients causes retinal dysfunction in vivo. Jpn J Ophthalmol 46:1-12, 2002.
- A.3. Yamazaki H, Ohguro H, Maeda T, Maruyama I, Takano Y, Metoki T, Nakazawa M, Sawada H, Dezawa M. Nilvadipine, a Ca2+ antagonist preserves retinal morphology and functions in RCS rat. Invest Ophthalmol Vis Sci, 43(4), 919-926, 2002.
- A.4. Kubo M, Sakuraba T, Arai Y, Nakazawa M. Dacryocystorhinostomy for dacryocystitis caused by methicillin-resistant Staphylococcus aureus: Report of four cases. Jpn J Ophthalmol, 46(2). 177-182, 2002.
- A.5. Ohguro H, Katsushima H, Maruyama I, Maeda T, Yanagihashi S, and Nakazawa M. A high dietary intake of sodium glutamate as flavoring (Ajinomoto) causes gross changes retinal morphology and function. Exp Eye Res, 75(3), 307-315, 2002.
- A.6. Ohguro H, Maruyama I, Nakazawa M, Oohira A. Anti-recoverin antibody in the aqueous humor of a patient with cancer-associated retinopathy. Am J Ophthalmol, 134(4), 605-607, 2002.
- A.7. Ohguro H. Maruyama I, Nakazawa M. A case of pseudoadenomatous hyperplasia of ciliary epithelium successfully treated by local resection. Tohoku J Exp Med, 197, 41-45, 2002.
- A.8. Miyagawa Y, Ohguro H, Odagiri H, Maruyama I, Maeda T, Maeda A. Sasaki M, Nakazawa M Aberrantly expressed recoverin is functionally associated with G-protein-coupled receptor kinases in cancer cell lines. Biochem Biophys Res Com 300, 669-673, 2003.
- A.9. Miyagawa Y, Nakazawa M, Noda Y, Itou S, Ohguro S. Von Hippel-Lindau disease type 2A in a family with a duplicated 21-base-pair in-frame insertion mutation in the VHL gene. Graefe's Arch Clin Exp Ophthalmol 241, 241-244, 2003.
- A.10.Maruyama I, Ikeda Y, Nakazawa M, Ohguro H. Clinical roles of autoantibody against neuron-specific enolase in glaucoma patients. Tohoku J Exp Med. 2002; 197: 125-132.
- B.1. Tanimoto N, Usui T, Takagi M, Hasegawa S, Abe H, Sekiya K, Miyagawa Y, Nakazawa, M. Electroretinographic findings in three family members with X-linked juvenile retinoschisis associated with a novel Pro192Thr mutation of the XLRS1 gene. Jpn J Ophthalmol, 46(5), 568-576, 2002.
- B.2. Maeda A, Maeda T, Ohguro H, Palczewski K, Sato N. Vaccination with recoverin, a cancer-associated retinopathy antigen, indices autoimmune retinal dysfunction and tumor cell regression in mice. Eur J Immunol 2002; 32:2300-2307.
- B.3. Rong S, Ikeda H, Sato Y, Hirohashi Y, Tamura Y, Sahara H, Sato T, Maeda A, Ohguro H, Sato N. Frequent detection of anti-recoverin cytotoxic T-lymphocyte precursors in peripheral blood of cancer patients by using an HLA24 recoverin tetramer. Cancer Immunol Immunother 2002; 51:282-290.

2003年度

A.1. Miyagawa Y, Ohguro H, Odagiri H, Maruyama I, Maeda T, Maeda A. Sasaki M, Nakazawa M Aberrantly

- expressed recoverin is functionally associated with G-protein-coupled receptor kinases in cancer cell lines. Biochem Biophys Res Com 300, 669-673, 2003.
- A.2. Miyagawa Y, Nakazawa M, Noda Y, Itou S, Ohguro S. Von Hippel-Lindau disease type 2A in a family with a duplicated 21-base-pair in-frame insertion mutation in the VHL gene. Graefe's Arch Clin Exp Ophthalmol 241, 241-244, 2003.
- A.3. Sekiva K, Nakazawa M, Usui T, Tanimoto H, Abe H, Ohguro H, Long-term fundus changes of fundus albipunctatus associated with mutations of the RDH5 gene. Arch Ophthalmol, 121(7), 1037-1039, 2003.
- A.4. Yanagihashi S, Nakazawa M, Kurotaki J, Sato M, Miyagawa Y, Ohguro H. Autosomal dominant central areolar choroidal dystrophy and a novel Arg195Leu mutation in the peripherin/RDS gene. Arch Ophthalmol, 121(10), 1458-1461, 2003,
- A.5. Suzuki Y, Matsuhashi H, Nakazawa, M. In vivo retinal vascular cannulation in rabbits. Graefe's Arch Clin Exp Ophthalmology, 241, 585-588, 2003.
- A.6. Takano Y, Ohguro H, Ohguro I, Yamazaki H, Mamiya K, Ishikawa F, Nakazawa M. Low expression of rhodopsin kinase in pineal body in Royal College of Surgeons rat. Current Eye Res, 27 (2), 95-102,
- A.7. Sato M, Ohguro H, Ohguro I, Mamiya K, Takano Y, Yamazaki H, Metoki Y, Miyagawa Y, Ishikawa F, Nakazawa M Study of pharmacological effects of nilvadipine on RCS rat retinal degeneration by microarray analysis. Biochem Biophys Res Com, 306, 826-831, 2003.
- A.8. Ohguro H, Ohguro I, Mamiya K, Maeda T, Nakazawa M. Prolonged survival of the phosphorylated form of rhodopsin during dark adaptation of Royal College Surgeons rat. FEBS letter, 551, 128-132, 2003.
- A.9. Saito K, Ohguro H, Mizutani H, Ohguro I, Nakazawa M: A case of secondary glaucoma associated with congenital iris cyst successively treated by goniosynechialysis. Hirosaki Med. J. 2003;54:136-140.
- A.10.Ohguro H, Tamura M, Kamata Y, Ohguro I, Nakazawa M: A case of conjunctival malignant melanoma effectively treated by tumor resection and cryotherapy in a 14-year-old boy. Hirosaki Med. J. 2003;55:23-28.
- B.1. Yamada G, Ohguro H, Aketa K, Itoh T, Shijubo N, Takahashi H, Fujiwara O, Satoh M, Ohtsuka K, Abe S. Invasive thymoma with paraneoplastic retinopathy. Hum Pathol 2003; 34:717-719.
- B.2. Eric C. CARLSON, <u>Kazuhisa MAMIYA</u>, Chia-Yang LIU, Robert L. GENDRON, David E. BIRK, James. FUNDERBURGH and Winston W.-Y. KAO. Role of Cys41 in the N-terminal domain of lumican in ex vivo collagen fibrillogenesis by cultured corneal stromal cells. Biochem. J. 2003.02; 369; 461-468.

和文

2002年度

- A.1. 柳橋さつき, 中沢 満, 佐藤元哉, 宮川靖博, 関谷恵悟, 大黒 浩. ペリフェリン/ RDS 遺伝子の新規変 異(Arg195Leu)をともなった常染色体優性中心性輪紋状脈絡膜ジストロフィ家系. 弘前医学53(3,4): 121-125, 2002.
- A.2. 三上尚子, 鈴木幸彦, 水谷英之, 松橋英昭, 中沢 満, 桜庭知己. 糖尿病網膜症の血管新生緑内障に対す る毛様体光凝固を併用した硝子体手術.日本眼科紀要 53(3):188-191,2002.
- A.3. 関谷恵悟, 丸山幾代, 大黒 浩, 田村正人, 松橋英昭, 中沢 満. 緑内障患者における自動非接触眼圧計の臨床評価. あたらしい眼科 19(9):1214-1216, 2002. A.4. 高谷 香, 鈴木幸彦, 水谷英之, 松橋英昭, 桜庭知己, 中沢 満. 外傷性水晶体脱臼および亜脱臼の治療
- 成績. 眼科手術 15(4):531-535, 2002.
- A.5. 丸山幾代, 大黒 浩, 鈴木幸彦, 中澤 満. 青森県北津軽地方における緑内障患者の現状. 弘前医学 54 (2):65-70, 2002.
- A.6. 大黒 浩(2002)マイクロアレイを用いた抗緑内障薬の神経保護効果の検討. Medical View Point 23, suppl.2
- A.7. 鈴木幸彦. 網膜静脈閉塞症に対する治療研究 ―網膜血管外科を目指して―日本眼科紀要 53(5): 331-334, 2002

2003年度

- A.1. 目時友美、久保勝文、高野淑子、中村秀雄、中沢 満、Wegener 肉芽腫症に合併した涙嚢炎と網膜剥離に 対する手術経験. 日眼会誌 107(6):331-336, 2003.
- A.2. 大黒幾代, 大黒 浩, 中沢 満. 弘前大学眼科における緑内障手術成績. あたらしい眼科 20(6):821-824,
- A.3. 佐藤元哉, 鈴木幸彦, 中沢 満. 急性網膜壊死の臨床統計. 眼科臨床医報 97(9):52-55. 2003.
- A.4. 間宮和久, 大黒 浩, 宮川靖博, 加藤智博, 中沢 満. 急性網膜壊死における PCR 法による病因診断. 眼 科 45(9):1361-1365, 2003.
- A.5. 大黒幾代,<u>大黒 浩</u>:緑内障患者の視点(Low Vision)患者教育の工夫① <u>Frontiers in Glaucoma</u> 2003; 4(1):38-39
- A.6. 大黒幾代, 大黒 浩:緑内障患者の視点(Low Vision)患者教育の工夫② Frontiers in Glaucoma 4(2):46-47
- A.7. 鈴木幸彦, 桜庭知己, 松橋英昭, 中沢 満: 黄斑円孔網膜剥離に対する耳側強膜短縮術併用の硝子体手術 の成績. 臨床眼科 57:1193-1197,2003
- A.8. 鈴木幸彦, 柳橋さつき, 間宮和久, 渡部永利子, 松橋英昭, 中沢 満. 網膜中心静脈閉塞症に対して放射 状視神経乳頭切開術を施行した3例. 日本眼科紀要 54:529-534,2003
- A.9. 佐藤元哉, 鈴木幸彦, 中沢 満:急性網膜壊死の臨床的検討. 眼科臨床医報 97:762-765,2003
- B.1. 低線量放射線照射による加齢黄斑変性治療研究班. 渗出型加齢黄斑変性に対する低用量放射線治療の効 果に関する多施設無作為割付け比較対照試験:中間報告. 日眼会誌 107(6):326-330,2003.

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. 大黒 浩, 前田忠郎, 柳橋さつき, 宮川靖博, 丸山幾代, 中澤 満. 網膜色素変性の分子病態. 日眼会誌 2002;106:461-473.
- A.2. 大黒 浩, 山崎仁志. 癌関連網膜症の分子病態と新しい治療法. 医学のあゆみ 2002;201:193-195.
- A.3. <u>大黒 浩</u>, 高野淑子(2002) 網膜変性モデルの解析; 新しい治療の確立をめざして. あたらしい眼科 10,1325-1327.
- A.4. 丸山幾代, 大黒 浩 (2002) 緑内障の薬物治療: 散瞳薬. 眼科 44,1449-1452.

2003年度

- A.1. 中沢 満: ロービジョン原因疾患治療研究の最前線. 日本の眼科74(4):741-744,2003.
- A.2. 中沢 満: 難治性眼疾患に対する治療研究の現状. 日本眼科紀要 54:607-610,2003.
- A.3. 中沢 満:網膜色素変性症の治療. 臨床眼科 57;1536-1539,2003
- A.4. 大黒幾代,大黒 浩:緑内障患者の視点(Low Vision)患者教育の工夫① Frontiers in Glaucoma 2003.4 (1);38-39 メディカルレビュー社
- A.5. 大黒幾代, 大黒 浩:緑内障患者の視点(Low Vision)患者教育の工夫② Frontiers in Glaucoma 2003;4 (2):46-47

(3)著書

英文

2002年度

A.1. Ohguro H, Nakazawa M. Pathological roles of recoverin in Cancer-associated retinopathy. In Photoreceptor and calcium. Eds: K palczewski, W Baehr,

2003年度

- A.1. Yamazaki H, Ohguro H, Maruyama I, Takano Y, Metoki T, Ishikawa F, Miyagawa Y, Mamiya K, Nakazawa M, Sawada H, Dezawa M: Nilvadipine, a Ca2+ antagonist, effectively preserves photoreceptor functions in Royal College of Surgeons Rat. In "The Neural Basis of Early Vision" (Kaneko A. ed.). Springer-Verlag, Tokyo, pp.168-172, 2003.
- A.2. Ishikawa F, Ohguro H, Maruyama I, Takano Y, Yamazaki H, Metoki T, Miyagawa Y, Sato M, Mamiya K, Nakazawa M: Pharmacological aspects of nilvadipine-induced preservation of retinal degeneration in RCS rat analyzed by mRNA profiling assay. In "The Neural Basis of Early Vision" (Kaneko A. ed.). Springer-Verlag, Tokyo, pp.164-167, 2003.
- A.3. Miyagawa Y, Ohguro H, Maruyama I, Takano Y, Yamazaki H, Ishikawa F, Metoki T, Mamiya K, Nakazawa M: Aberrantly expressed recoverin in tumor tissues from gastric cancer patients. In "The Neural Basis of Early Vision" (Kaneko A. ed.). Springer-Verlag, Tokyo, pp.173-176, 2003.
- A.4. Ohguro H, Maruyama I, Takano Y, Yamazaki H, Metoki T, Ishikawa F, Miyagawa Y, Mamiya K, Nakazawa M: Cancer-associated retinopathy (CAR) is effevtively treated by Ca2+ antagonist administration. In "The Neural Basis of Early Vision" (Kaneko A. ed.). Springer-Verlag, Tokyo, pp.177-181, 2003.
- A.5. Takano Y, Ohguro H, Yamazaki H, Maruyama I, Metoki T, Ishikawa F, Miyagawa Y, Mamiya K, Nakazawa M: Effects of calcium channel blockers on retinal morphology and function of rd mouse. In "The Neural Basis of Early Vision" (Kaneko A. ed.). Springer-Verlag, Tokyo, pp.182-187, 2003.

和文

2002年度

- A.1. 佐藤元哉, 大黒 浩 (2002) ミトコンドリア病: 片側萎縮, 精神発達遅滞, 網膜色素変性症, 前庭機能異常, 筋力低下. 日本臨床増刊号, pp.667-669.
- A.2. <u>大黒</u> 浩, 柳橋さつき (2003) 癌由来網膜症. New MOOK 眼科
- A.3. 中沢 満:遺伝学, 基礎的知識,「眼科専門医セルフアセスメント」眼科専門医セルフアセスメント検討会編 文光堂 pp. 659-668, 2002.
- A.4. 中沢 満:細胞・分子生物学, 基礎的知識, 「眼科専門医セルフアセスメント」眼科専門医セルフアセスメント検討会編 文光堂 p. 669, 2002.
- A.5. 中沢 満:加齢黄斑変性の原因遺伝子とその臨床応用の可能性(分担).「眼科診療Q&A31」中島 章,猪 侯 孟,植村泰夫,玉井 信,野崎道雄,真鍋禮三,松尾治亘,丸尾敏夫編,六法出版,名古屋,pp. 1079-1080, 2002.

2003年度

- A.1. 中沢 満:遺伝子治療による網膜再生. 「眼科診療プラクティス (91), 眼の再生医学」 本田孔士編 文光 堂 pp. 70-73, 2003.
- A.2. <u>大黒 浩</u>, 柳橋さつき (2003) 癌由来網膜症. New MOOK 眼科, 167-172 (2003)
- A.3. 大黒幾代, 大黒 浩:第5章 緑内障様視神経障害の病態 「3. 自己免疫」 <u>先端医療シリーズ23眼科の</u> 最新医療 先端医療技術研究所編 PP165-167, 2003.

(4)その他

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. 佐藤元哉, 大黒 浩, 中澤 満. ステロイドパルス療法が著効した外傷性視神経症の 1 症例. 眼科 44 (7):1017-1020,2002.
- A.2. 松橋英昭, 鈴木幸彦, 目時友美, 高野淑子, 中沢 満. 硝子体切除後に悪化した網膜中心静脈閉塞症の2 例. 日本眼科紀要 53:345-349,2002.
- A.3. 竹内侯雄, 大黒 浩, 山崎仁志, 石川 太, 間宮和久, 田村正人, 中沢 満. 発見が遅れた水晶体鉄片異物の1例. 眼科 44:1379-1381,2002.
- A.4. 関谷恵悟, 大黒 浩, 山崎仁志, 間宮和久, 中沢 満. ステロイド反応性低血糖をきたした原田病の 1 例. あたらしい眼科 20:275-277,2003.
- A.5. 松橋英昭, 鈴木幸彦, 水谷英之, 中沢 満. 動静脈交叉部鞘切開を行った網膜静脈分枝閉塞症の 4 例. 日本眼科紀要 54:226-229,2003.
- A.6. 大黒 浩, 山崎仁志, 目時友美, 佐藤元哉, 柳橋さつき, 中沢 満. Melanoma-associated retinopathy に おける自己抗原の同定. 厚生労働省特定疾患網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 平成13年度研究報告書, 177-179,2002.
- A.7. 柳橋さつき, 中沢 満, 佐藤元哉, 宮川靖博, 大黒 浩. ペリフェリン/ RDS 遺伝子の新規変異(Arg195Leu)をともなった常染色体優性中心性輪紋状脈絡膜ジストロフィ家系の臨床像と遺伝子変異の連関. 厚生労働省特定疾患網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 平成13年度研究報告書, 108-110,2002.
 A.8. 佐藤元哉, 大黒 浩, 山崎仁志, 柳橋さつき, 中沢 満. RCS ラットの網膜変性に対するカルシウム拮抗
- A.8. 佐藤元哉, 大黒 浩, 山崎仁志, 柳橋さつき, 中沢 満. RCS ラットの網膜変性に対するカルシウム拮抗 剤の効果. 厚生労働省特定疾患網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 平成13年度研究報告書, 147-149, 2002.
- A.9. 山崎仁志、大黒 浩, 目時友美, 佐藤元哉, 柳橋さつき, 中沢 満, 網膜変性ラットに対する Ca 拮抗剤の効果 厚生労働省特定疾患網膜脈絡膜・視神経素縮症調査研究班 平成13年度研究報告書 158-160,2002.
- 効果. 厚生労働省特定疾患網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 平成13年度研究報告書, 158-160,2002. A.10. 目時友美, 大黒 浩, 高野淑子, 山崎仁志、丸山幾代, 中沢 満, 緑内障モデルラットにおける各種緑内障治療薬の神経保護作用の検討. 厚生労働省特定疾患網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 平成13年度研究報告書, 3-5,2002.
- A.11.松橋英昭, 鈴木幸彦, 目時友美, 高野淑子, 中澤 満. 硝子体切後に悪化した網膜中心静脈閉塞症の2例. 日本眼科紀要 53(5):345-349,2002
- A.12.間山夏子,水谷英之,鈴木幸彦,中澤 満,蒔苗順義. 外傷性角膜潰瘍,眼内炎に対する人工角膜併用硝子体手術. 日本眼科紀要 53(5):381-385,2002
- A.13. 丸山幾代, 大黒 浩, 宮川靖博: Clinical Conference 症例 1 治療に抵抗した血管新生緑内障の一例 Frontiers in Glaucoma 2002;3(1):54-55
- A.14. 丸山幾代,大黒 浩: Clinical Conference 症例 2 内頚動脈海綿静脈洞婁に続発した開放隅角緑内障に発症した悪性緑内障の一例 Frontiers in Glaucoma 2002;3(1):56-57
- A.15.平 紅, 大黒 浩, 加藤智博, 吉田恒一, 中澤 満. 両眼眼内レンズ亜脱臼を起こした網膜色素変性の 1 症例. あたらしい眼科 2002;19:1099-1101.
- A.16.大黒 浩, 丸山幾代, 中澤 満. 視細胞かん体障害を主とし Acute zonal outer retinopathy (AZOOR)と考えられた 1 例. 眼科 2002;44:239-242.
- A.17. 佐藤元哉, 大黒 浩, 中澤 満. ステロイドパルス療法が著効した外傷性視神経症の 1 例. 眼科 2002; 44:239-242.
- A.18. 竹内候雄, 大黒 浩, 山崎仁志, 石川 太, 間宮和久, 田村正人, 中澤 満. 発見が遅れた水晶体鉄片異物の1例. 眼科 2002;44:1379-1381.

2003年度

- A.1. 佐藤元哉,柳橋さつき,中沢 満. 網膜色素変性患者における GCAP2 遺伝子異常の検索. 厚生労働省特定疾患網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班,平成14年度研究報告書,40-41,2003.
- A.2. 間宮和久、大黒 浩、大黒幾代、高野淑子、山崎仁志、目時友美、宮川靖博、石川 太、中沢 満. エレクトロポレーション法による結膜濾過胞への遺伝子導入. 厚生労働省特定疾患網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班、平成14年度研究報告書、14-15,2003.
- A.3. 大黒 浩, 山崎仁志, 目時友美, 佐藤元哉, 柳橋さつき, 中沢 満. RCS ラットの網膜変性の病態. 厚生 労働省特定疾患網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 平成14年度研究報告書, 65-68,2003.
- A.4. 高野淑子, 大黒 浩, 目時友美, 中沢 満. rdマウス網膜に対するカルシウム拮抗剤の影響. 厚生労働省 特定疾患網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 平成14年度研究報告書, 60-64,2003.
- A.5. 中澤 満. 第9回日本糖尿病眼学会総会. 学会報告. COMPLICATION-糖尿病と血管, 8 (2),191-192, 2003

(5)発表論文のまとめ

1. 原著、総説(A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Japanese Journal of Ophthalmology	0.64	3	1.92
Invest Ophthalmol Vis Sci	4.091	1	4.091
Experimental Eye Research	1.969	1	1.969
American Journal of Ophthalmology	1.978	1	1.978
Tohoku Journal of Experimental Medicine	0.494	2	0.988

Biochem Biophys Res Com	2.935	1	2.935
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol	1.191	1	1.191
Japanese Journal of Ophthalmology	0.64	1	0.64
European Journal of Ophthalmology	0.483	1	0.483
Cancer Immunology Immunotherapy	2.759	1	2.759
m . 1		4.0	10.051
Total		13	18.954

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Biochem Biophys Res Com	2.836	2	5.672
Graefe's Arch Clin Exp Ophthalmol	1.279	2	2.558
Arch Ophthalmol	3.203	2	6.406
Current Eye Res	1.113	1	1.113
FEBS letter	3.609	1	3.609
Hirosaki Med. J.	0	2	0
Hum Pathol	3.685	1	3.685
Biochem Journal	4.101	1	4.101
Total		12	27.144

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本眼科学会雑誌			1	
日本眼科紀要			2	1
眼科手術			1	
弘前医学			2	
Medical View Point			1	
あたらしい眼科			3	1
医学のあゆみ			1	
日本眼科学会会誌				1
眼科				1
眼科臨床医報				1
臨床眼科				1
Frontiers in Glaucoma				2
	計		12	8

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	1	5

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	5	3

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本眼科紀要			5	
あたらしい眼科			2	
眼科			4	
厚生労働省特定疾患網 成13年度研究報告書	ア膜脈絡膜•視神経	圣萎縮症調査研究班, 平	5	
Frontiers in kaucoma			2	
厚生労働省特定疾患網 成14年度研究報告書	閉膜脈絡膜・視神経		4	
COMPLICATION				1
	計		18	5

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- C.1. Ohguro, H., Maruyama, I. and Takano, Y., *et al.* (2002) Cancer-associated retinopathy (CAR) is effectively treated by Ca²⁺ antagonist administration. 12th Keio University international symposium for life sciences and medicineThe Neural Basis of Early Vision, Tokyo
- C.2. Yamazaki, H., Ohguro, H. and Maruyama, I., *et al.* (2002) Nilvadipine, a Ca²⁺ antagonist, effectively preserves photoreceptor functions in RCS rat. 12th Keio University international symposium for life sciences and medicine The Neural Basis of Early Vision, Tokyo
- C.3. Ishikawa, F., <u>Ohguro, H.</u> and Maruyama, I., *et al.* (2002) Pharmacological aspects of nilvadipine-induced preservation of retinal degeneration in RCS rat analyzed by mRNA profiling assay. 12th Keio University international symposium for life sciences and medicine The Neural Basis of Early Vision, Tokyo
- C.4. Miyagawa, Y., Ohguro, H. and Maruyama, I., et al. (2002) Aberrantly exp ressed recoverin in tumor tissues from gastric cancer patients. 12th Keio University international symposium for life sciences and medicine The Neural Basis of Early Vision, Tokyo
- C.5. Takano, Y., Ohguro, H. and Yamazaki, H., et al. (2002) Effects of calcium channel blockers on retinal morphology and function of rd mouse. 12th Keio University international symposium for life sciences and medicine The Neural Basis of Early Vision. Tokyo
- C.6. Ishikawa, F., <u>Ohguro, H</u>. and Maruyama, I., *et al.* (2002) A case of one-and-a-half syndrome initially suspected as Fisher syndrome. 1st Asian Neoro-Ophthalmology Society Congress. Tokyo.
- C.7. Miyagawa, Y., <u>Ohguro, H.</u> and Maruyama, I., *et al.* (2002) Aberrantly expressed recoverin is functionally associated with G-protein coupled kinase in cancer cell lines. 1st Asian Neoro-Ophthalmology Society Congress. Tokyo.
- C.8. Yamazaki, H., Ohguro, H., and Maruyama, I., et al. (2002) Anti-recoverin antibody in aqueous humor of a patients with cancer-associated retinopathy. 1st Asian Neoro-Ophthalmology Society Congress. Tokyo.
- C.9. Takano, Y., Ohguro, H. and Maruyama, I., et al. (2002) Low expression of rhodopsin kinase in pineal body in royal college surgeons rats. 1st Asian Neoro-Ophthalmology Society Congress. Tokyo.
- C.10. Ohguro, H., Maruyama, I. and Takano, Y., et al. (2002) Retinal dysfunction in cancer-associated retinopathy is improved by Ca²⁺ antagonist administration and dark adaptation. 1st Asian Neoro-Ophthalmology Society Congress. Tokyo.

2003年度

A.1. 大黒幾代: ランチョンセミナー 正常眼圧緑内障の診断: グレイゾーンの整理整頓!!「乳頭について」 第 57回日本臨床眼科学会 2003 名古屋

(2)全国学術集会

- A.1. <u>大黒</u> 浩 (2002) 特集講演: ぶどう膜III-最近の新しいぶどう膜炎 考え方と病態. 第106回日本眼科学会, 横浜.
- A.2. 中沢 満:特別講演, 網膜色素変性: 眼科臨床分子遺伝学研究のあゆみ. 兵庫県眼科医会総会, ポートピアホテル, 2002.4.13.
- A.3. 中沢 満:特別講演,網膜変性症の臨床分子遺伝学とその応用. 第234回熊本県眼科医会研修会,熊本ニューススカイホテル,2002.5.11.
- A.4. 中沢 満: 眼科関連研究セミナー、網膜色素変性: 眼科臨床分子遺伝学研究の意義、第106回日本眼科学会総会、仙台国際センター、2002.5.23.
- A.5. 中沢 満:20世紀における眼科学の総括11, 視細胞と色素上皮細胞の病態研究と治療法の発達:網膜色素 変性症における分子遺伝学的解析, 第106回日本眼科学会総会, 仙台国際センター, 2002.5.24.
- A.6. 中沢 満:糖尿病網膜症の臨床的背景因子. 平成14年度日本医師会生涯教育講座. 眼科. 愛知県医師会館, 2002.9.1.
- A.7. 中沢 満:特別講演, 難治性眼疾患に対する治療研究の現状. 第3回日本ロービジョン学会学術総会. 仙台 市青年文化センター, 2002.10.13.
- A.8. 中沢 満:特別講演, 網膜色素変性の遺伝子研究のあゆみと展望. 岐阜県眼科医会学術講習会. 岐阜グランドホテル, 2002.11.24.
- A.9. 中沢 満:網膜色素変性と遺伝子のわかりやすい話. 青森県眼科医会 平成14年度社会保険研究会. 青森県医師会館, 2003.2.23.
- B.1. <u>大黒 浩</u> (2002) モーニングセミナー:朝からまじめに緑内障. 第106回日本眼科学会,横浜.
- B.2. 大黒 浩 (2002) ランチョンセミナー: これからの緑内障治療を考える: 神経保護からみたこれからの緑内障治療. 第40回北日本日本眼科学会, 弘前.
- B.3. 中沢 満:審査員の立場から. 弘前大学科学研究費説明会. 弘前大学みちのくホール 2002.9.19.
- B.4. 中沢 満:遺伝性網膜変性に対する分子遺伝学的解析の意義. 弘前大学医学部と農学生命科学部との懇談会. 弘前大学医学部大会議室 2002.9.19.
- B.5. 中沢 満:人ゲノムと人間の遺伝病について、目の遺伝病を中心として、平成14年度 弘前大学農学生命科学部公開講座、「遺伝子を科学する」、弘前大学農学生命科学部会議室 2002.10.26.
- C. 55件

III. 学術賞

2002年度

青森医師会学術奨励賞(大黒 浩)

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

中澤 満 基盤研究B 「網膜への新しい遺伝子導入法」

基盤研究B 「遺伝性網膜変性症の分子病態にもとづく新しい薬物療法の有効性」

萌芽研究 「網膜変性のmodifierとしてのサイトカインと光トランスダクション異常の役割」

大黒 浩 基盤研究C 「癌関連網膜症の発症の分子機構の解明」

大黒幾代 基盤研究C 「自己免疫機序による緑内障視神経障害の分子機構の解明とその臨床応用」

2003年度

研究代表者として

中澤 満:基盤研究B2 (継続)「遺伝性網膜変性症の分子病態にもとづく新しい薬物治療の有効性」 3,400 千円

中澤 満: 萌芽研究 (継続)「網膜変性の modifier としてのサイトカインと光トランスダクション異常の役割」 1,000千円

基盤研究B2(大黒 浩, 新規)「網膜変性症に対するCa²⁺拮抗剤を用いた新しい薬物治療の確立」 5,900千円

萌芽研究 (大黒 浩, 新規) 「遺伝子導入による新しい薬剤効果増強法を用いた緑内障に対する神経保護治療の開発」 1,500千円

基盤研究C (大黒幾代, 継続)「自己免疫機序による緑内障性視神経障害の分子機構の解明とその臨床応用」1,900千円

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

他研究単位との研究分担者として

中澤 満 厚生労働省科学研究費補助金 特定疾患網膜脈絡膜•視神経萎縮症調査研究班

2003年度

他研究単位との研究分担者として

中澤 満:厚生労働科学研究費補助金(難病対策研究事業)網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究 2,000千円

(3)学内の研究助成

2003年度

研究代表者として

鈴木幸彦: 弘前大学医学部インセンティブ経費 「網膜静脈閉塞症に対する網膜微小血管外科」: 1,000千円

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として

正常限圧緑内障の分子病態における血清抗網膜神経節細胞自己抗体の係わりに関する研究および神経保護を目指した新しい治療法の開発に関する研究,丸山幾代,社団法人青森医学振興会より500千円 2002年度

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流、国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし

d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし

e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況

なし

f) その他

なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2003年度

第9回 日本糖尿病眼学会 2003年3月14日~16日 仙台市, 仙台市民会館

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

北日本眼科学会,第40回北日本眼科学会,弘前市 弘前大学眼科および青森県眼科医会,第102回青森眼科集談会,弘前市 弘前大学眼科および青森県眼科医会,第103回青森眼科集談会,青森市

2003年度

第104回青森眼科集談会 2003年 6 月 1 日 弘前大学医学部コミュニケーションセンター 第105回青森眼科集談会 2003年10月26日 八戸市

c)国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況

なし

VII. その他

なし

27. 耳鼻咽喉科学講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- 1. 内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストークについて研究する。
- 2. 内耳における神経細胞と感覚細胞の再生の可能性を探る。
- 3. 難聴の遺伝子変異と臨床像の関係について研究する。
- 4. 好酸球性中耳炎・鼻炎の病態解明に努める。
- 5. 外有毛細胞の運動能のメカニズムを解明する。
- 6. 真珠腫性中耳炎の進展様式を解明する。

1.2.5.については部分的に解明が進み,60%程度の進展度であった。しかし,3.4.6.については症例の関係もあり,研究の進展が見られなかった。

理念:

耳鼻咽喉科の専門性を生かした国際的水準の基礎的、臨床的研究を推進する。

- 1. ヒトにとって重要な聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚などの感覚器を研究および診療の対象とする。
- 2. 1. の感覚器の情報伝達の解明を図り、もって人類の QOL に貢献する。
- 3. 基礎的研究を臨床的研究へ発展させる。

これから2年間の目標:

- 1. 内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストークについて研究する。
- 2. 内耳における神経細胞と感覚細胞の再生の可能性を探る。
- 3. 内耳への遺伝子導入について研究する。
- 4. 中耳疾患の診断技術を向上させる。
- 5. 外有毛細胞の運動能のメカニズムを解明する。
- 6. 低侵襲な鼓室形成術を開発する。

【研究人員及び研究課題】

研究人員	教授 1, 助教持	受 1, 講師	1,	助手	5, 医員 9, 大学院学生 3, 研究生 0		
	役 職 専	壬/併任の別 [夭	名	評価年度内での在籍期間		
	教 授	着	新川	秀一	1 年間		
	助教授	₹ t	公原	篤	1 年間		
教 官	講師	2	欠畑	誠治	1 年間		
(教授~助手)	助手	<u> </u>	黒田	令子	1 年間		
の詳細	助 手	木	喬本	敏光	1 年間		
	助手		一戸	学	1 年間		
	助 手	=	寺田	一仁	1 年間		
	助手	Ē	痔苗	公利	1 年間		
	1. 内耳における神経細胞と感覚細胞の再生の可能性を探る。						
	2. 内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストークについて研究する。						
	3. 中耳, 鼻・	副鼻腔における	る好酸.	球性炎	症の解明。		
研究課題	4. 加齢と難聴り	こついて分子生	生物学I	的に解	析する。		
101 7 LDA 105	5. 内視鏡を用いた低侵襲鼓室形成術の開発						
	6. 内耳蝸牛増幅機構の解明						
	7. 感音難聴の						
	8. 頭頚部腫瘍に	こおける化学療	療法				

研究人員	教授 1, 鴠	b教授 1, 講師	师 1,	助手	5, 医員 8, 大学院学生 3, 研究生 0
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	新川	秀一	1年
	助教授	専 任	松原	篤	1年
教 官	講師	専 任	欠畑	誠治	1年
(教授~助手)	助 手	専 任	黒田	令子	1年
の詳細	助 手	専 任	一戸	学	1年
	助 手	専 任	寺田	一仁	1年
	助 手	専 任	石井	賢治	1年
	助 手	専 任	南場	淳司	1年
	1. 内耳における神経細胞と感覚細胞のクロストーク				
研究課題	2. 内耳における神経細胞と感覚細胞の再生				
	3. 内耳への遺伝子導入				
	4. 中耳疾患の診断技術を向上				
	5. 外有毛細胞の運動能のメカニズム				
	6. 低侵襲な鼓室形成術の開発				

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. Yamamoto Y, Matsubara A, Ishii K, Makinae K, Sasaki A, Shinkawa H. Localization of γ-aminobutyric acid a receptor subunits in the rat spiral ganglion and organ of Corti. Acta Otolaryngol 2002;122:709-714
- A.2. Maruya S, Kurotaki H, Shimoyama N, Kaimori M, Shinkawa H, Yagihashi S. Expression of p16 Protein and Hypermethylation Status of Its Promoter Gene in Adenoid Cystic Carcinoma of the Head and Neck. ORL 2003;65:26-32
- B.1. Van Camp G, Coucke P, <u>Akita J</u>, Fransen E, Abe S, Els M.R.De Leenheer, Huygen P, Cremers CW, Usami S. A Mutational Hot Spot in the KCNQ4 Gene Responsible for Autosomal Dominant Hearing Impairment. HUMAN MUTATION 2002;20:15-19
- B.2. Usami S, Koda E, Tsukamoto K, Otsuka A, Yuge I, Asamura K, Abe S, <u>Akita J, Namba A</u>. Molecular Diagnosis of Deafness: Impact of Gene Identification. Audiol Neurootol 2002;7:185-190
- B.3. Wada H., Usukura H., Sugawara M., Katori Y., <u>Kakehata S.</u>, Ikeda K. and Kobayashi T. Relationship between the local stiffness of the outer hair cell along the cell axis and its ultrastructure observed by atomic force microscopy, Hear. Res., 2003;177:61-70
- B.4. Kawase T., <u>Kakehata S.</u>, Hashimoto S., Kobayashi T. and Adachi K.: Ear injury caused by the sticky-tipped applicator Eur Arch Otorhinolaryngol. 2002;259(6):302-5

- B.1. Hakuba N, Matsubara A, Hyodo J, Taniguchi M, Maetani T, Shimizu Y, Tsujiuchi Y, Shudou M, Gyo K. AMPA/kainate-type glutamate receptor antagonist reduces progressive inner hair cell loss after transient cochlear ischemia. Brain Res 2003; 979:194-202
- B.2. Kobayashi M, Onozuka N, Fukuda A, <u>Matsubara A</u>, Kobayashi W. New surgical technique for primary and secondary voice restoration using a free ileocecal patch graft after total laryngectomy. Surg Today 2003; 33: 817-822
- B.3. Nabekura J, Katsurabayashi S, Kakazu Y, Shibata S, <u>Matsubara A</u>, Jinno S, Mizoguchi Y, <u>Sasaki A</u>, Ishibashi H. Developmental switch from GABA to glycine release in single central synaptic terminals. Nature neuroscience 2004; 7(1): 17-23
- B.4. Sekiya T, Yagihashi A, Shimamura N, Asano K, Suzuki S, <u>Matsubara A, Namba A, Shinkawa H</u>. *Apoptosis of auditory neurons following central process injury. Experimental Neurology. 2003;184(2):648-58
- B.5. Wada H., Usukura H., Sugawara M., Katori Y., <u>Kakehata S.</u>, Ikeda K. and Kobayashi T. Relationship between the local stiffness of the outer hair cell along the cell axis and its ultrastructure observed by atomic force microscopy, Hearing Research. 177:61-70, 2003
- B.6. Wada H, Kimura K, Gomi T, Sugawara M, Katori Y, <u>Kakehata S</u>, Ikeda K, Kobayashi T. Imaging of the cortical cytoskeleton of guinea pig outer hair cells using atomic force microscopy. Hear Res. 187(1-2):51-62. 2004
- B.7. Ohtsuka A, Yuge I, Kimura S, Namba A, Abe S, Van Laer L, Van Camp G, Usami S. GJB2 deafness gene shows a specific spectrum of mutations in Japan, including a frequent founder mutation. Hum Genet. 2003; 112(4):329-33.
- B.8. Usami S, Takahashi K, Yuge I, Ohtsuka A, Namba A, Abe S, Fransen E, Patthy L, Otting G, Van Camp G. Mutations in the COCH gene are a frequent cause of autosomal dominant progressive cochleo-vestibular

- dysfunction, but not of Meniere's disease. Eur J Hum Genet. 2003; 11(10):744-8.
- B.9. Tsukamoto K, Suzuki H, Harada D, Namba A, Abe S, Usami SI. Distribution and frequencies of PDS (SLC26A4) mutations in Pendred syndrome and nonsyndromic hearing loss associated with enlarged vestibular aqueduct: a unique spectrum of mutations in Japanese. Eur J Hum Genet. 2003; 11(12):916-22
- B.10. Kinoshita A, Shirahama S, Miyahara A, Nishimura G, Haga N, Namba A, Ueda H, Hayashi H, Seidel J, Fukumaki Y, Ikegawa S, Niikawa N, Yoshiura K. TGFB1 mutations in four new families with Camurati-Engelmann disease: confirmation of independently arising LAP-domain-specific mutations. Am J Med Genet. 2004 May 15;127A(1):104-7
- B.11. Maruya S, Kurotaki H, Wada R, Saku T, Shinkawa H, Yagihashi S.: Promoter methylation and protein expression of E-cadherin gene in the clinicopathologic assessment of adenoid cystic carcinoma. Modern Patho 17:637-45, 2004.
- C.1. Sakamoto M, Sasano T, Higano S, Takahashi S, Iikubo M and Kakehata S., Usefulness of heavily T(2) weighted magnetic resonance images for the differential diagnosis of parotid tumours. Dentomaxillofac Radiol. 32(5):295-9. 2003
- C.2. Hidaka H, Oshima T, Kakehata S, Watanabe K, Toshima M, Suzuki H and Kobayashi T., Two cases of plunging ranula managed by the intraoral approach. Tohoku J Exp Med. 200(1):59-65, 2003

和文

2002年度

- A.1. <u>佐藤淳子</u>, 高畑淳子, 黒田令子, 南場淳司, <u>松原</u> <u>篤</u>, 新川秀一. 特発性内耳道狭窄例 DPOAEとABR に解離を認めた症例 耳鼻臨床 2002; 95(6): 579-583
 A.2. <u>安田</u>京, <u>松原</u> <u>篤</u>, <u>王子佳澄</u>, 新川秀一</u>. 通年性抗原感作が花粉症発症に及ぼす影響. 耳鼻臨床 2002;
- 95(11): 1127-1133
- A.3. <u>高畑淳子,松原 篤,池野敬一</u>,新川秀一.活性化好酸球,肥満細胞の浸潤から見た慢性副鼻腔炎の内視鏡手術予後に関する検討.耳鼻と臨床 2002;48:269-275 A.4. 安田 京,松原 篤,王子佳澄,二井一則,新川秀一.降雪地帯におけるスギ花粉飛散状況とその予測.
- 日耳鼻 2003:106:135-142
- A.5. <u>欠畑誠治</u>, 外有毛細胞の運動能と蝸牛増幅機構 日本音響学会誌, 2003;59(1):40-45
- B.1. 清水謙祐, 坪井康浩, 東野哲也, 小宗静男, 阿部聡子, 新川秀一, 塚本耕二, 宇佐美真一, 前庭水管拡大を伴った小児難聴症例, 日耳鼻, 2002;105:174-177
 B.2. 小林 慎, 小野塚直也, 久我俊彦, 笹田大敬, 小林 恒, 松原 篤, 口腔咽頭と食道の同時重複癌に対す
- る再建手術の検討. 頭頸部腫瘍 2003:29(1):118-123
- B.3. 渡辺健一, 欠畑誠治, 鈴木貴博, 日高浩史, 横山純吉. 多彩な症状を呈した中耳鉄粉異物の一例 耳鼻と 臨床, 2002; 48(5): 309-312
- B.4. 横山純吉, 渡辺健一, 日高浩史, 鈴木貴博, 欠畑誠治, 水谷 伸, 大島猛史: 当科における原発巣不明頸 部転移症例に対する口蓋扁桃摘出術 磐城共立病院医報,2002;23(1):26-33
- B.5. 横山純吉, 日高浩史, 鈴木貴博, 渡辺健一, 欠畑誠治, 水谷 伸, 大島猛史:高齢者の中咽頭進行癌に中咽頭側壁・上壁広範囲切除後の動的軟口蓋再建の一例. 磐城共立病院医報, 2002; 23(1):58-63

2003年度

- A.1. 秋田二朗, 一戸 学, 南場淳司, 武田育子, 松原 篤, 新川秀一. 原発不明の転移性頸部癌症例の検討. 耳展2003;46(補2):91-95
- A.2. <u>石井賢治, 去石 巧, 飯田健二, 阿部尚央, 白崎理喜</u>, 太田修司, 貝森光大. 青森県立中央病院で経験した鼻内視鏡手術例の術後成績. 青森県立中央病院医誌. 2004. 第49巻. 5-10
- A.3. <u>欠畑誠治</u>:日常外来での画像作成・記録 極細硬性中耳鏡, JOHNS, 2003, 19, 1701-1705
- A.4. <u>南場淳司, 松原 篤, 寺田一仁, 一戸 学, 去石 巧, 阿部尚央, 新川秀一</u>. 頭頸部癌症例に対する Docetaxel weekly 投与を用いた外来化学療法. 頭頸部腫瘍 2004;30:116-120.
- 青柳 優,今田正信,及川敬太,秦 正人,中村成弘,<u>秋田二朗</u>,佐藤尚徳,桃生勝己,志賀清人,吉田文明,那須 隆,松塚 崇,原渕保明,福田 論,氷見徹夫,田中克彦,<u>新川秀一</u>,村井和夫,石川和夫, 小林利光, 西條 茂, 大谷 巌: 北海道・東北地区における原発不明転移性頸部悪性腫瘍の現状. 耳鼻咽 喉科展望 46:補2;64-68, 2003
- A.6. <u>松原 篤</u>, 池野敬一, 新川秀一, 高坂知節:東北地区におけるアレルギー性鼻炎 状と QOL からみた抗アレルギー剤の有用性-. 耳鼻と臨床 50:130-138, 2004. 高坂知節:東北地区におけるアレルギー性鼻炎アンケート調査 - 鼻症
- B.1. 中川尚志, 松原 篤, 白土秀樹, 中条恭子, 賀数康弘, 後藤弘毅, 小宮山荘太朗. 耳漏から好酸球が検出 された中耳炎症例 耳鼻と臨床 2003;49(6):415-420

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

A.1. 松原 篤. 好酸球性中耳炎の病態. アレルギー科 2003;15(1):67-71

2003年度

- A.1. 松原 篤. 内耳におけるグルタミン酸神経伝達と神経障害. 耳喉頭頸 2003;75(10):682-691
- A.2. <u>松原 篤</u>. 好酸球性中耳炎の治療. 耳喉頭頸 2003;76(3):190-195-691

(3)著書

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. 欠烟誠治, 池田勝久, 加我君孝, 岸本誠司, 久保武編,「微細ファイバースコープ」耳鼻咽喉科診療プラク - ティス11. 中耳疾患治療の最前線-保存的治療 vs 手術的治療-2003 ; pp238-240. 文光堂. 東京
- B.1. 相崎英樹, 相澤義房, 会田育男, <u>黒田令子</u>他, 和田 攻, 南 裕子, 小峰光博編 看護大事典 医学書院 東京 2002
- C.1. 石井哲夫, 高山幹子, 吉原俊雄, <u>黒田令子</u>, 久保田七美他. 鼓膜外傷 耳科学における力学特性の測定 石井哲夫, 高山幹子編 49-56 東京医学社 東京 2002

2003年度

- A.1. <u>新川秀一</u>, <u>松原 篤</u>. 先天性耳瘻孔・側頸瘻孔. ダイナミックメディシン 7. 下条文武, 斉藤 康 監修, 65-67, 西村書店, 東京, 2003
- A.2. 新川秀一, 欠畑誠治:乳突洞削開, 出血への対応-出血部位と止血法. 村上 泰他編, イラスト手術手技のコツ, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 pp111 東京医学社, 東京 2003.
- A.3. 新川秀一, 欠畑誠治: canal wall down法, canal wall down法における早期上皮化のポイント. 村上 泰
- 他編, イラスト手術手技のコツ, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 pp119東京医学社, 東京 2003. A.4. 欠畑誠治: 耳鼻咽喉科診療プラクティス11 中耳疾患治療の最前線, 文光堂, 2003 編者 加我公孝 ト ピックス 微細ファイバースコープ p238-240
- A.5. 新川秀一: 患者の診かた, 耳漏. 森山 寛他編, 今日の耳鼻咽喉科頭頸部外科第2版 pp18-20 医学書院, 東京2003.

(4)その他

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. <u>新川秀一</u>, 半規管瘻孔の診断と治療, 耳鼻臨床, 2002;95(6):660-661 A.2. <u>新川秀一</u>, 9 年前に真珠種性中耳炎で手術を受けた49歳女性が, 耳漏を訴えて来院. 同症の再発と診断し 2002;1-12:24
- A.3. <u>安田 京, 黒田令子,</u> 橋本敏光, <u>佐々木亮, 新川秀一</u>, 耳性頭蓋内合併症例, 耳鼻臨床, 2002;95(10):1025-1029 A.4. 安田 京, 橋本敏光, 丸屋信一郎, 王子佳澄, 井上 卓, 太田修司, 新川秀一, 上顎洞に発生した炎症性 偽腫瘍の2例, 耳鼻臨床, 2002;95(5):481-486

(5)発表論文のまとめ

1. 原著、総説(A. Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Acta Otolaryngol	0.795	1	0.795
ORL	0.734	1	0.734
Human Mutation	6.134	1	6.134
Audiol Neurootol	2.532	1	2.532
Hearing Res	1.586	1	1.586
Eur Arch Otorhinolaryngol	0.587	1	0.587
Total		6	12.368

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Brain Res	2.489	1	2.489
Surg Today	0.48	1	0.48
Nat Neurosci	15.668	1	15.668
Exp Neurol	3.503	1	3.503
Hearing Res	1.586	2	3.172
Hum Genet	3.209	1	3.209
Eur J Hum Genet	3.173	2	6.346
Am J Med Genet	2.378	1	2.378
Modern Pathol	3.211	1	3.211
Total		11	40.456

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
 耳鼻臨床			2	
耳鼻と臨床			2	2
日耳鼻			2	
日本音響学会誌			1	
磐城共立病院医報			2	
頭頚部腫瘍			1	1
アレルギー科			1	
耳鼻咽喉科展望				2
JOHNS				1
耳鼻咽喉科 • 頭頸部外科	4			2
青森県立中央病院医誌				1
	計		11	9

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担執筆		2	5

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
耳鼻臨床 Allergy & Clinical Conference		3 1		
計			4	0

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- C.1. <u>Takahata J</u>, <u>Matsubara A</u>, Ikeno K, <u>Shinkawa H</u>. Prognosis of chronic sinusitis as seen by activated eosinophils and mast cells in nasal polyps and ethmoid sinus mucosa. The 9th Korea-Japan joint meeting of otorhinolarungology-head and neck surgry. Seoul, <u>Korea. 2002</u>
- C.2. <u>Matsubara A, Sasaki A</u>, Kakazu Y, Shibata S, <u>Shinkawa H</u>. Immunogold analysis of exitatory and inhibitory amino acid terminals in the lateral superior olive of the rat. 26th ARO midwinter research meeting. Florida, USA, 2003
- C.3. <u>Sato J, Hashimoto T, Matsubara A, Namba A, Shinkawa H.</u> Calpine plays more important aminoglycoside induced hair cell death. 26th ARO midwinter research meeting. Florida, USA, 2003

- B.1. Atsushi Namba, A family with Mixed Hearing Loss and Facial Palsy Associated with Camurati-Engelmann Disease. ARO midwinter research meeting. Florida. 2004.
- C.1. Matsubara A, Sasaki A, Tabuchi K, Nakamori A, Hara A, Shinkawa S. The neuronal damage and the change of cellular distribution of glutamate and glutamine in the Guinea pig vestibular endorgans during ischemia. 27th ARO midwinter research meeting. Florida, USA, 2004
- C.2. Sasaki A, Matsubara A, Inoue T, Tabuchi K, Nakamori A, Hara A, Shinkawa S. Immunoelectron Microscopic analysis of neuronal damage caused by glutamate in the organ of Corti during ischemia. 27th ARO midwinter research meeting. Florida, USA, 2004
- C.3. Kakehata S, Futai K, Yasuda K, Shinkawa H: Minimally invasive endoscopic transtympanic ossiculoplasty. The 8th international symposium on recent advances in otitis media. Fort Lauderdale, 2003.
- C.4. Kakehata S, Futai K, Shinkawa H: Endoscopic transtympanic tympanoplasty. Schuknecht society meeting, Boston, 2003
- C.5. Kakehata S, Futai K, Shinkawa H: Minimally invasive endoscopic transtympanic ossiculoplasty. The Taiwan-Japan Joint Meeting, Tokyo, 2003

(2)全国学術集会

2002年度

- A.1. 新川秀一: 蝸牛における情報伝達のしくみ. 第103回日本耳鼻咽喉科学会総会ならびに学術講演会 東京 2002年
- C. 14件

2003年度

- B.1. 松原 篤, 好酸球性中耳炎の治療, 第13回日本耳科学会総会, 幕張メッセ, 2003年
- B.2. 欠畑誠治, 二井一則, 黒田令子, 新川秀一: 耳鼻咽喉科領域におけるレーザー手術「新たなレーザー鼓膜 開窓術の利用法|第24回日本レーザー医学会総会シンポジウム, 岐阜, 2003
- C. 17件

III. 学術賞

2003年度

・平成15年度弘前大学医学部附属病院診療技術奨励賞,欠畑誠治,内視鏡をもちいた伝音難聴の新しい診断法と手術法の開発-経鼓膜的内視鏡下鼓室形成術-

IV. 共同研究

2002年度

多施設合同研究 厚生労働省がん研究助成金 「頭頚部癌に対する放射線化学療法の適応と有効性の評価に関する研究」 一戸 学 代表:愛知県癌センター 放治部 不破信和

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

- 1) 萌芽研究・前庭器官の器官培養技術を応用した有毛細胞,神経節細胞間シナプス再形成の試み・新川 秀一・180万円
- 2) 若手研究(B)・耳毒性物質による有毛細胞の細胞死と細胞内カルシウム濃度及びカルパインの関連・ 橋本敏光・210万円

他研究単位との研究分担者として

基盤研究(C)(1)・新しい難病としての「好酸球性中耳炎」の全国疫学調査・新川秀一、研究代表者: 小林俊光・15万円

2003年度

研究代表者として

- ・萌芽研究, 前庭器官の器官培養技術を応用した有毛細胞, 神経節細胞間 シナプス再形成の試み, 新川 秀一, 160万円
- ・萌芽研究,器官培養コルチ器への prestin 遺伝子(Pres)導入—prestin による蝸牛増幅機構の直接的解析—,欠畑誠治,190万円
- (2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

2003年度

研究代表者として

・財団法人弘仁会,内視鏡をもちいた伝音難聴の新しい診断法と手術法の開発 ―経鼓膜的内視鏡下鼓室 形成術―. 欠畑誠治. 20万円

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として

学術国際振興基金,欠畑誠治,平成14年度,445千円 「プレスチンを発現させた培養細胞系を用いたプレスチンの機能解析のための共同実験」

研究代表者として

・内視鏡医学研究振興財団,硬性内視鏡を用いた中耳疾患の診断と経鼓膜的鼓室形成術の開発と有効性の 検討,欠畑誠治,50万円

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2003年度

- David N Furness, MacKay Institute of Communication and Neuroscience, Keele Univ. UK. Feb 5-7, 2004.
- c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

なし

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

2003年度

- 1. 丸屋信一郎, MD Anderson Cancer Center, Texas Univ., USA. Apr 1, 2002~(継続)
- 2. 安田 京, Washington State Univ. USA. Mar 1, 2003~(継続)
- f) その他

なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

新川秀一, 第113回日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会, 弘前市新川秀一, 第116回日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会, 青森市新川秀一, 第117回日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会, 八戸市新川秀一, 第17回北奥羽三県地方部会合同学術講演会, 弘前市

2003年度

新川秀一, 第118回日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会(弘前)新川秀一, 第121回日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会(青森)新川秀一, 第122回日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会(八戸)

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況

なし

VII. その他

なし

28. 放射線医学講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- 1) 数編の英文論文を。うち少なくとも1編は impact factor のある雑誌に
- 2) 国際学会への発表を積極的に行う
- 3) 研究成果および臨床成果の確実な報告を行う
- 4)種々の研究費の獲得を
- 1) 90%
- 2) 60%
- 3) 60%
- 4) 90%

平均75%

理念:

放射線医学の更なる発展を目標に、日常の臨床を基盤として新しい診断法あるいは治療法の開発研究を行う。

これから2年間の目標:

- 1) 数編の英文論文を。うち少なくとも1編は impact factor のある雑誌に
- 2) 国際学会への発表を積極的に行う
- 3) 研究成果および臨床成果の確実な報告を行う
- 4)種々の研究費の獲得を

全体では平均を取ってはいるが、まだ2)3)は不足なので継続する。

【研究人員及び研究課題】

研究人員	教授 1, 耳	助教授 1,講師	师 1,	助手	6, 医員 1, 大学院学生 0, 研究生 3	
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間	
	教 授	専 任	阿部	由直	1 年間	
	助教授		佐々え	木泰輔	1 年間	
	講師		青木	昌彦	1 年間	
教 官	助 手		渋谷	剛一	1 年間	
(教授~助手)			三浦	弘行	1 年間	
の詳細			野田	浩	1 年間	
			場崎	潔	1 年間	
			近藤	英宏	2002.10. 1 -2003. 3 .31	
			板橋	陽子	2002.12.1 - (産休)	
			松谷	秀哉	2002.4. 1 - 9 .30	
	1. 新しい診	新しい診断法の開発研究				
	2. 画像診断の精度向上					
	3. 画像および病理診断との連携					
研究課題	4. 総合画像診断法の確立					
切九	5. IVR 法の適応拡大に関する臨床研究 6. 放射線科リスク軽減に関する研究 7. 癌放射線治療の精度向上					
	8. 体幹部定	E位照射ならび り	Z IMRT	Γ法によ	る治療法の確立	

- 9. 癌放射線治療の基礎的検討
- 10. 被曝医療に対する再生医療

研究人員	教授 1, 即	対授 2, 講師		助手	6, 医員 0, 大学院学生 1, 研究生 5		
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
	教 授	専 任	阿部	由直	1 年間		
	助教授		小野	修一	1 年間		
	助教授		佐々え	木泰輔	1 年間		
教 官	講師		青木	昌彦	1 年間		
(教授~助手)	助 手		三浦	弘行	1 年間		
の詳細	助 手		野田	浩	1 年間		
	助 手		場崎	潔	1 年間		
	助 手		板橋	陽子	6 ヵ月		
	助 手		近藤	英宏	1 年間		
	助 手		大畑	崇			
	1. 新しい診	診断法の開発研究	兒				
	2. 外科•掠	5理診断との連	隽を含む	む画像診断の精度向上			
	3. 総合画像	診断法の確立					
	4. IVR の道	応拡大に関す	る臨床研究				
研究課題	5. 放射線被	なばくリスク軽液	軽減に関する研究				
	6. 体幹部定位照射ならびに IMRT を含む癌放射線治療の精度向上						
	7. 正常組織効果の評価法に関する研究						
	8. 癌放射網	良治療の基礎的 を は の は の は の は の は の は の は の は の は の は	倹討				
	9. 被曝医療	東に対する再生	医療の原	江用			

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. Taisuke Sasaki, Hiraku Yodono, Gerson L. M. Prado, Yoko Saito, Hiroyuki Miura, Yoko Itabashi, Hironori Ootsuka, Yasuyuki Ishibashi; Increased signal intensity in the normal glenoid labrum in MR imaging: diagnostic pitfalls caused by the magic-angle effect. Magnetic Resonance in Medical Sciences, 2002, Vol. 1, No. 3, p. 149-156
- B.1. A. Iwasaki, T. Nara, M. Kubota, A Fujiwara, K. Suzaki, S. Sato, T. Morita, Y. Abe: alculation of 10MV X-ray beam-axis doses in layered cork heterogeneity phantoms using a convolution method. Bull Health Sci Hirosaki 1; 61-82, 2002
- B.2. Tomoyuki Sasaki, Yasuyuki Ishibashi, Yoshihisa Okamura, Satoshi Toh, Taisuke Sasaki: MRI Evaluation of Growth Plate Closure Rate and Pattern in the Normal Knee Joint, The Journal of Knee surgery, Spring 2002/Vol.15, No.2 p.72-76
- B.3. Yasuyuki Ishibashi, Yoshihisa Okamura, Hironori Otsuka, Kazuharu Nishizawa, Taisuke Sasaki, Satoshi Toh: Comparison of Scintigraphy and Magnetic Resonance Imaging for Stress Injuries of Bone. Clinical Journal of Sport Medicine, 2002, 12:79-84

2003年度

- B.1. A.Iwasaki, H.Matsutani, M.Kubota, A.Fujimori, K.Suzaki, Y.Abe A practical method for estimating high-energy X-ray spectra using the iterative perturbation principle proposed by Waggener_o Radiat Phys Chem 67: 81-91, 2003
- B.2. A.Iwasaki, H.Matsutani, M.Kubota, A.Fujimori, K.Suzaki, S.Sato, T,Morita, Y.Abe A method for obtaining 4 and 10 MV X-rays spectra using iterative perturbation principle. Bull. Health Sci. Hirosaki 2: 61-72, 2003

和文

- A.1. 大畑 崇, 阿部由直, 三浦富智, 佐藤達資: ラット実験腫瘍におけるインドシアニングリーンと近赤外光トポグラフィーを用いた癌診断法の基礎的研究. 日本医学放射線学会雑誌62, 86, 2002
- B.1. 場崎 潔、甲藤敬一、伊神 勲: 当科における早期声門癌の放射線治療成績の検討 青森労災病院医誌

2002; 12: 18-22

2003年度

- A.1. 松谷秀哉, 渋谷剛一, 櫻庭 誠, 木村 環, 藤原 昭, 八田正人, 阿部由直. 青森県情報通信ネットワー
- ク基盤とビル間無線LANによる広域医用画像ネットワークの構築。臨床放射線 48:1599-1604, 2003 B.1. 真里谷靖、安倍 明、渡辺定雄、甲藤敬一、松倉弘明、近藤英宏、場崎 潔、青木昌彦、阿部由直、定位 的放射線治療(SRT)による聴神経腫瘍の治療成績、弘前医学 55:7-17, 2003

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

A.1. 阿部由直, 青木昌彦:癌治療とアポトーシス (古典的観点から)癌の臨床 48,349,2002

2003年度

- A.1. 小野修一:II. 胸部 2. 肺感染症, 肺炎; 5 細菌性肺炎 臨床医 29:増刊号 これだけは知っておきた い臨床医の画像診断 862-864, 2003.
- B.1. 阿部由直,青木昌彦. 重粒子線治療の生物学 癌の臨床 49:1541-1543, 2003
- B.2. 阿部由直. 正常組織障害における放射線生物学と臨床の接点. 第5回放射線腫瘍学夏期セミナー要旨集 pp125-129, 2003(早川和重編)

(3)著書

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. (分担) 阿部由直,青木昌彦「正常組織反応」大川,田中,佐々木編「癌·放射線療法2002」pp.135-146, 2002, 篠原出版新社
- A.2. (分担) 佐々木泰輔, 肩関節の MRI 診断 放射線科の立場より , 越智隆弘, 菊地臣一, 編, NEW MOOK 整形外科 No. 12 特集/整形外科 MRI 診断, 117-124, 金原出版, 東京, 2002
- A.3. 執筆者:廣田省三, 杉本幸司, 福田哲也, 杉村和朗, 金丸太一, 西原徳文, 西田義記, 山本正博, 青山伸 郎, 三木生也, 本田 実, 腰野 司, 井隼孝司, 松本真一, 若林雅人, 蘆田 浩, 森田荘二郎, 齋藤博哉, 大野浩司, 吉川 武, 中村健二, 市川 論, 冨田 優, 桑田陽一郎, 元原智文, 齋藤陽子, 淀野 啓, 野田 浩, 伊崎健太, 田中良一, 栗林幸夫, 成松芳明, 井上裕喜, 高島澄夫, 堀 信一 書名:臨床医のた めの腹部血管造影・IVR, 発行所:株式会社新興医学出版社, 発表年2003/2/28

(4)その他

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. 野田 浩 IVR の医療テクニックを具体的に紹介 新医療 2002:8:163-164
- A.2. 野田 浩, 渋谷剛一, 対馬史泰, 一関一行, 福田幾夫, 畑山佳臣 感染性腹部大動脈瘤と考えられた病変 に対して窓付きステントグラフトを留置した一例. 第6回動脈ステントグラフト症例検討会症例集(IV) 2002, p13-18.

2003年度

C.1. 千田雅之, 半田政志, 小野修一, 高橋里美, 谷田達男, 近藤 丘: 肺癌切除例における術後間質性肺炎発 症における術前限局性間質性肺炎所見の意義 厚生労働省特定疾患・びまん性肺疾患調査研究班, 2002年 度研究報告書 160-165, 2003.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著、総説(A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Magnetic Resonance in Medical Sciences	0	1	0
Bull Health Sci Hirosaki	0	1	0
J Knee Surg	0	1	0
Clin J Sport Med	1.686	1	1.686
Total		4	1.686

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Radiat Phys Chem Bull Health Sci Hirosaki	0.693 0	1 1	0.693 0
Total		2	0.693

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本医学放射線学会誌 青森労災病院医誌 癌の臨床 臨床医 弘前医学 臨床放射線			1 1 1	1 1 1 1
	計		3	4

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	I	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	3	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
新医療		andre from the	1	
第6回動脈ステント 厚生労働省特定疾患・ 究報告書		₹症例集 査研究班,2002年度研	1	1
	計		2	1

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

C.1. T.Ohata, K. Shibutani, H.Yodono, N.Noda, Y.Hatayama, Y.Abe Portal venoplasty with stents for malignant portal venous obstructive lesions. 5th Int Congress of Hepato Pancreato Biliary Association, Tokyo, 2002.4.25-29

2003年度

B.1. T.Sasaki et al. European Congress of Radiology, Wien, March 2003

(2)全国学術集会

- A.1. 野田 浩:日本医学放射線学会・秋季臨床大会シンポジウム・「IVR の合併症と対策: どうしてこうなった? あなたならどうする? | 2002.10.25 (秋田)
- B.1. 阿部由直・青木昌彦: 重粒子線の生物学, 放射線による制癌シンポジウム (秋田市) 2002.6.22
- B.2. 佐々木泰輔 Advanced course 骨軟部診断のポイントとピットフォール 2) 肩関節疾患の MRI 診断, 2002年度放射線科専門医会ミッドサマーセミナー, 東京ビッグサイト (臨海副都心). 7/27, 7/28, 2002
- B.3. 佐々木泰輔 カテゴリカルコース骨軟部 C-35 肩関節の MRI, 第30回日本磁気共鳴医学会大会, 京王プラザホテル (東京, 新宿) 9/12-9/15 (9/13, 午後), 2002
- C. 9件

- B.1. 阿部由直,正常組織障害における放射線生物学と臨床の接点. 第5回放射線腫瘍学夏季セミナー, 2003.8.3. 神奈川県三浦郡葉山町
- B.2. 阿部由直, 医療被ばくとその影響. 第31回日本放射線技術学会秋季大会, 2003.10.10, 秋田
- C. 5件

III. 学術賞

2002年度

青木昌彦,三浦弘行:第5回弘前大学医学部附属病院診療奨励賞「小児悪性固形腫瘍の集学的治療体制の構築」

IV. 共同研究

2003年度

(株) 日本原燃 放射線大量被ばくの人体への影響軽減研究

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

「ES 細胞の移植とサイトカイン刺激により放射線腸障害からの回復を試みる実験的研究」学術振興会基盤 (B)(2), 阿部由直, 4,000千円

2003年度

研究代表者として

基盤(B)(2) ES 細胞の移植とサイトカイン刺激により放射線腸障害からの回復を試みる実験的研究 2,200千円

他研究単位との研究分担者として

基盤(A)(1) 早期の癌に対する標準的放射線治療方法の確立のための研究 山田班 0円

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として

共同研究「放射線大量被ばくの人体への影響軽減研究」(株) 日本原燃, 阿部由直, 5,200千円 他研究単位との研究分担者として

共同研究「高エネルギーX線吸収線量計算におけるコンボルーション法の計算ソフトの開発」(株)日本電子応用、岩崎 晃、阿部由直、青木昌彦ほか分担

2003年度

研究代表者として

(株)日本原燃 放射線大量被ばくの人体への影響軽減研究 5,200千円

他研究単位との研究分担者として

(株)日本電子応用 高エネルギーX線吸収線量計算におけるコンボルーション法の計算ソフトの開発

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催 なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし

c) 外国研究機関からの留学生,研究生の受け入れ状況 2003年度

研究生1名(平成15年11月から)

d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況 なし

e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 なし

f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催 なし

b) 地方レベルの学会の主催 2002年度

> 第106回日本医学放射線学会北日本地方会(弘前市)2002.6.14-15 第51回日本核医学会北日本地方会(弘前市)2002.6.14 第38回北日本放射線腫瘍学研究会(弘前市)2002.6.13

- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況なし

VII. その他

なし

29. 産科婦人科講座

【研究単位の目標到達度, 理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

inpact factor の付いた論文数が増加し、十分な成果を上げることができた。

理念:

地方大学の特色を十分活かし、活気あふれる教室を形成、運営する。

これから2年間の目標:

今年度の成果を基盤とし、更に上昇するよう努力する。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 馬	b教授 1, 講師		助手	4, 医員 1, 大学院学生 4, 研究生 1			
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間			
	教 授	専 任	水沼	英樹				
	助教授	専 任	佐藤	重美				
教 官	講師	専 任	丸山	英俊				
(教授~助手)	講師	専 任	藤井	俊策				
の詳細	助 手	専 任	横山	良仁				
	助 手	専 任	坂本	知巳				
	助 手	専 任	福井	淳史				
	助 手	専 任	二神	真行				
	1. 生活習慣病の発生に対する胎児期の生育環境の影響の解明							
	2. 早産の症	同理と予防法の で	権率に関	引する研	究			
研究課題	3. 卵巣癌の自然史に関する研究							
切九	4. 血管新生から見た婦人科悪性腫瘍の病態の解明と治療法の開発							
	5. 生殖免疫、未熟卵の体外培養法の確立							
	6. 骨粗鬆症の早期発見、早期治療に関する研究							

研究人員	教授 1, 即	为教授 0,講師	币 3,	助手	3, 医員 5, 大学院学生 7, 研究生 0			
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間			
	教 授	併 任	水沼	英樹	平成15年4月~平成16年3月			
教官	講師	専 任	丸山	英俊	平成15年4月~平成15年7月			
	講師	専 任	藤井	俊策	平成15年4月~平成16年3月			
の詳細	講師	専 任	横山	良仁	平成15年4月~平成16年3月			
(ノ)計画	助手	専 任	坂本	知巳	平成15年4月~平成16年3月			
	助 手	専 任	福井	淳史	平成15年4月~平成16年3月			
	助手 東任			真行	平成15年4月~平成16年3月			
	1. 妊娠の成立と維持に関わる免疫機構の研究							
	2. 血球系幹		前胞状卵	1胞の体	外成熟の研究			
研究課題	3. 婦人科悪性腫瘍の発癌機構の解明とその治療法に関する研究							
4万九 休憩	4. 妊娠中毒症の病因の解明と予知法の開発に関する研究							
	5. 多胎妊娠の予防法に関する研究							
	6. 早産の治	お療法に関する は	开究					

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. Y.Yokoyama, et. al: Alopecia related to low dose oral contraceptive. Archives of Gynecology and Obstetrics 2002, 266:46-4
- A.2. Y.Yokoyama, S. Sato, Y. Saito: Alopecia related to low dose oral contraceptive. Arch Gynecol.Obstet. 2002, 266:46-47
- B.1. Y,H.Xiao, D.P.Chen, J.H.Yan, Y.Yokoyama: Mechanism of action of Tripterygium Wilfordii polyglycoside on experimental endometriosis. Eur.J.Gynaec.Oncol. 2002,23(1):63-67
- B.2. Y.Miya, H. Sumino, S. Ichikawa, T. Nakamura, T.Kanda, H.Kumakura, Y.Takatama, H. Mizunuma, T. Sakamaki, M. KurabayasHI: Effects of Hormone Replacement Therapy on Left Ventricular Hypertrophy and Growth-Promoting Factors in Hypertensive Postmenopausal Women. Hypertens Res. 2002,25(2):153-159
- B.3. N.Kikuchi, K. Andoh, H. Mizunuma, T. Minegishi: Relationships between circulating leptin concentrations and otherhormonal parameters in obese and non-obese women with polycystic ovary syndrome. Reproductive Medicine and Biology 2002,1;49-54

2003年度

- A.1. Y.Yokoyama, A.Sakamoto, M.Umemoto, M.Futagamik, T.Sakamoto, H.Maruyama, S.Sato, H.Mizunuma: A case of adenocarcinoma of the endometrial type mixed with a clear cell component that metastasized to the vagina. Eur.J.Gynaec.Oncol.2003,24(5);435-437
- A.2. <u>Yoshihito Yokayama</u>, DS Charnock-Jones, D Licence, A Yanaihara, JM Hastings, CM Holland, M Emoto, M Umemoto, T Sakamoto, S Sato, H Mizunuma, SK Smith:Vascular endothelial growth factor-D is an independent prognostic factor in epithelial ovarian carcinoma. British Journal of Cancer 2003,88;237-244
- A.3. Yoshihito Yokayama, D.Stephen Charnock-Jones, Diana Licence, Atsushi Yanaihara, Julie M.Hastings, Cathrine M.Holland, Makoto Emoto, Akiko Sakamoto, Tomomi Sakamoto, Hidetoshi Maruyama, Shigemi Sato, Hideki Mizunuma, Stephen K.Smith: Expression of Vascular Endothelial Growth Factor (VEGF)-D and Its Receptor, VEGF Receptor 3, as a Prognostic Factor in Endometrial Carcinoma1. Clinical Cancer Resarth 2003.9:1361-1369
- B.1. Hiroyuki Sumino, Shuichi Ichikawa, Yoshio Ohyama, Tetsuya Nakamura, Tsugiyasu Kanda, Hironosuke Sakamoto, Tetsuo Sakamaki, <u>HIdeki Mizunuma</u>, Masahiko Kurabayashi: Effects of Hormone Replacement Therapy on Serum Angiotensin-Converting enzyme Activity and Plasma Bradykinin in Postmenopausal Women according to Angiotensin-Converting Enzyme-Genotype. Hypertens Res. 2003,26(1);53-58
- B.2. Hiroyuki Sumino, Shuichi Ichikawa,Masami Murakami Tetsuya Nakamura, Tsugiyasu Kanda, Tetsuo Sakamaki, <u>HIdeki Mizunuma</u>, Masahiko Kurabayashi: Effects of Hormone Replacement Therapy on Circulating Docosahexaenoic Acid and Eicosapentaenoic Acid Levels in Postmenopausal Women. Endocrine.Journal 2003,50(1);51-59
- B.3. H Sumino, S Ichikawa, A Yoshida, M Murakami, T Kanda, <u>H Mizunuma</u>, T Sakamaki, M Kurabayashi: Effects of hormone replacement therapy on weight, abdominal fat distribution, and lipid levels in Japanese postmenopausal women. International Journal of Obesity 2003, 27;1044-1051
- B.4. Hiroyuki Sumino, Shuichi Ichikawa, Hiromaro Itoh, Toshihiro Utsugi, Yoshio Ohyama, Mamoru Umeda, Tetsuya Nakamura, Tsugiyasu Kanda, Hideki Mizunuma, Shoichi Tomono, Masami Murakami, Masahiko Kurabayashi: Hormone Replacement Therapy Decreases Insulin Resistance and Lipid Metabolism in Japanese Postmenopausal Women with Impaired and Normal Glucose Tolerance. Hormone Research 2003,60;134-142

和文

- A.1. 福井淳史,藤井俊策,水沼英樹:着床不全症例に対するDanazol 投与の試み. 日本受精着床学会誌 2002, 19(1):47-50
- A.2. 福井淳史,藤井俊策,水沼英樹;桑実胚/胚盤朐移植の臨床的検討,産婦人科の実際 2002,51(4):521-528
- A.3. 水沼英樹: HRTと子宮内膜がんリスク: 本邦における調査研究から. 日本更年期医学会雑誌 2002, 10 (1);77-80
- A.4. 二神真行, 坂本知巳, 葛西剛一郎, 尾崎浩士, 佐藤秀平, 水沼英樹, 須貝道博, 棟方博文: 腸管重複症の 1 例. 周産期医学 2002, 32(6);835-837
- A.5. 福井淳史, 水沼英樹: 反復体外受精・胚移植不成功例に対する Danazol 投与の試み. エンドメトリオーシス研究会会誌 2002, 23;127-129
- A.6. 藤井俊策,福井淳史,松倉大輔,阿部和弘,湯澤 映,水沼英樹:腟欠損症に対する腹腔鏡補助下造腟術 (Dacydov変法)の検討.青森県臨床産婦人科医会誌 2002, 17;14-19
- A.7. 福井淳史,藤井俊策,樋口 毅,水沼英樹: 当科における腹腔鏡下子宮筋腫核出術の検討. 青森県臨床産婦人科医会誌 2002, 17;20-27
- A.8. 阿部和弘,福井淳史,藤井俊策,水沼英樹: Uterine artery embolization (UAE) を施行した子宮頚部筋腫合併不妊症例.青森県臨床産婦人科医会誌 2002,17;28-32
- A.9. 藤井俊策,福井淳史、松倉大輔、水沼英樹: 卵管性不妊に対する腹腔鏡下手術時に発見された肝サルコイドーシスの1例. 青森県臨床産婦人科医会誌 2002, 17;33-37
- A.10. 斎藤美貴, 坂本知已, 湯澤 映, 丸山英俊, 佐藤重美, 水沼英樹, 袴田健一, 鳴海俊治, 豊木嘉一, 渡辺伸和, 佐々木睦男: FDG-PET が診断に有用であった卵巣癌肝転移の1例. 青森県臨床産婦人科医会誌

2002, 17:38-43

- A.11.福井淳史, 藤井俊策, 水沼英樹:腹腔鏡下卵管切除後に血中 hCG の再上昇を来した卵管妊娠症例. 青森県 臨床產婦人科医会誌 2002, 17;44-48
- A.12. 坂本亜希子,重藤龍比古,谷口綾亮,二神真行,坂本知巳,佐藤秀平,水沼英樹: 心臓サルコイドーシス 合併妊娠の一例. 青森県臨床産婦人科医会誌 2002, 17;49-55
- A.13.湯澤 映, 坂本知巳, 斎藤美貴, 丸山英俊, 佐藤重美, 水沼英樹: 腹膜偽粘液腫の一例. 青森県臨床産婦
- 人科医会誌 2002, 17;56-60 A.14.松倉大輔,二神真行,田中幹二.佐藤秀平,佐藤重美,水沼英樹: 先天性サイトメガロウイルス感染症の 2 症例. 青森県臨床産婦人科医会誌 2002, 17;61-66

2003年度

- A.1. <u>柞木田礼子</u>,<u>藤井俊策</u>,<u>福井淳史</u>,<u>水沼英樹</u>: 電気的卵子活性化後の卵細胞質内精子注入法により妊娠が 成立した難治性不妊症例. 青森県臨床産婦人科医会誌 2003,18;13-17
- <u>樋口 毅</u>, 田中幹二, <u>水沼英樹</u>: (ワークショップ 2) HRT drop out 症例の背景因子の解明とその対策. 日本更年期学会雑誌 2003,11(1);102-105
- A.3. <u>佐藤重美</u>, <u>坂本知巳</u>, <u>坂本亜希子</u>, <u>葛西剛一郎</u>, <u>丸山英俊</u>, <u>水沼英樹</u>: 経膣超音波断層法による卵巣癌集 団検診成績の検討. 産婦人科の実際 20003,52(7);1011-1016
- A.4. <u>藤井俊策、福井淳史、山口英二、木村秀崇、坂本知巳、水沼英樹</u>:子宮内膜 NKサブセットと妊娠転帰に関する前向きコホート研究. 日本受精着床学会雑誌 2003,20;25-27
- A.5. <u>佐藤重美</u>, 坂本知巳, 二神真行, 丸山英俊, 水沼英樹 : 経腟超音波断層法による卵巣癌集団検診ー過去13年間の検診成績の検討ー. 日本がん検診・診断学会 2003,10(2);91-96
- A.6. 藤井俊策, 福井淳史, 松倉大輔, 阿部和弘, 湯澤 映, 水沼英樹. 腟欠損症に対する腹腔鏡補助下造腟術 (Davydov変法) の検討. 青森臨産婦誌 2003;17:14-19
- A.7. 福井淳史,藤井俊策,樋口 毅,水沼英樹. 当科における腹腔鏡下子宮筋腫核出術の検討. 青森臨産婦誌 2003;17:20-27
- A.8. 二神真行, 田中加奈子, 柞木田礼子, 藤井俊彦, 田中幹二, 尾崎浩士, 佐藤秀平, 水沼英樹. 当院におけ る高血圧合併妊娠についての検討. 日本妊娠中毒症学会雑誌 2003:11:168-169

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. 水沼英樹: リレー連載・不妊症侮り難し・"ゴナドトロピン侮るなかれ"を信条に、医薬ジャーナル 2002,38(3);182-185
- A.2. 佐藤重美:子宮頚部円錐切除術. 臨床婦人科産科 2002,56(4);366-369
- A.3. 水沼英樹: 産婦人科からみた骨粗鬆症とその対策. 産婦人科治療 2002,84(4);366-373
- A.4. 福井淳史, 藤井俊策, 水沼英樹: OHSS(卵巣過剰刺激症候群). 産婦人科治療 2002,84(増刊);980-985
- A.5. 水沼英樹:ホルモン補充療法(HRT). 内科 2002,89(6);1550-1554
- A.6. 水沼英樹:骨粗鬆症のホルモン療法. 産婦人科治療 2002,84(6);1176-1180 A.7. 水沼英樹:骨粗鬆症に対するホルモン補充療法(HRT)内分泌・糖尿病科 2002,14(6);660-667
- A.8. 水沼英樹: Estrogen+vitamin D3. CLINICAL CALCIUM 2002,12(7);944-94
- A.9. 佐藤重美: 経膣超音波断層法による卵巣癌集団検診の有用性. 産婦人科の実際 2002,51(8);1193-1198
- A.10.水沼英樹:薬物治療 4. 病態に応じた薬物療法の実際. 臨床医 2002,28(8);1844-1846 A.11.佐藤重美: 卵巣癌検診の可能性と問題点. 産科と婦人科 2002,69(9);1188-1191 A.12.水沼英樹: 1. ホルモン補充療法とは. 医薬ジャーナル 2002,38(9);2429-2433 A.13.水沼英樹: 産婦人科からみた骨粗鬆症の対策. ASAHI Medical 2002,31(9);58-60

- A.14.水沼英樹: Women's Health Initiative(WHI)の報告を読んで 本邦のHRTのために、日本更年期医学会 ニューズレター 2002,8(1);4
- A.15.水沼英樹:排卵誘発剤の適応と成績. HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 2002.9(3);235-241
- A.16. 水沼英樹: ホルモンQ & A . HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 2002.9(3);304-306
- A.17.水沼英樹:性腺機能低下と治療指針. 骨粗鬆症治療 2002,1(1)29-33
- A.18.水沼英樹,樋口 毅:閉経周辺期における骨量測定. CLUNICAL CALCIUM 2002,12(11):1539-1542
- A.19. 水沼英樹:病態に応じた薬物療法の実際. 臨床医 2002,28(8):1844-1846
- A.20.水沼英樹, 林 泰史, 高岡邦夫, (司会)西沢良記:座談会 骨粗鬆症診療の現状と今後の展開. 最新医学 新しい診断と治療のABC 7 2002,227-242
- A.21.水沼英樹:ホルモン補充療法の実施方法. 日本医師会雑誌 2002,128(9);1215-1219
- A.22.福井淳史,藤井俊策,水沼英樹:Ⅱ. 女性診療科における主要症候・疾患の薬物療法 A.23.不妊症と排卵誘発 2)hMG-HcG療法.産婦人科の実際 2002,51(11);1727-1736
- A.24. 水沼英樹、樋口毅:骨粗鬆症治療上のピットフォール、臨床婦人科産科2002,56(11);1356-1359
- A.25. 樋口毅, 水沼英樹:エストロゲン関連製剤(2)経皮エストロゲン剤 ゲル剤 HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 2002,9(4);359-364
- A.26. 水沼英樹, 藤井俊策, 福井淳史:疾患別の排卵誘発法-PCOSに対する排卵誘発. 産婦人科の実際 2002,51 (13);2185-2192

- A.1. 水沼英樹:骨粗鬆症 Q&A. 骨粗鬆症治療 2003,2(1);78-79
- A.2. <u>水沼英樹</u>:産婦人科医から診た骨粗鬆症治療. 日本臨床. 2003,61(2);268-273
- A.3. 水沼英樹: 閉経後骨粗鬆症でのHRT, ビスホスホネートの選択. CLINICAL CALCIUM. 2003.13 (2);165-168

- A.4. 水沼英樹: 婦人科医の立場からみた骨粗鬆症治療-新しいビスフォスフォネート系骨粗鬆症治療薬リセド ロネート(アクトネルR錠)を中心に、産婦人科の世界 2003,55(3);351-359
- A.5. 水沼英樹:骨粗鬆症治療における産婦人科医の役割. 産婦人科季報 2003,9(9);1-4
- A.6. 水沼英樹: 更年期霜害におけるホルモン補充療法の現状と投与の実際. CLINIC Magazine 2003,390;64-69
- A.7. 水沼英樹: HRT の最近の問題点. 産婦人科の実際 2003,52(5);517-522
- A.8. 水沼英樹: 更年期障害とホルモン補充療法(HRT) 最近の知見 . 日本医師会雑誌 2003,130(5);746-747
- A.9. 水沼英樹: 卒後研修プログラムーサンライズセミナー 4. 更年期障害の取り扱い 日本産科婦人科学 会雑誌 2003,55(9);N312-314
- A.10.水沼英樹: 骨粗鬆症の薬物療法のガイドライン. HORMONE FRONTER IN GYNECOLOGY 2003,10 (4):389-394
- A.11. 水沼英樹: HRT の効果と限界。産婦人科の実際 2003.52(12):2163-2171
- A.12. 水沼英樹: 骨粗鬆症治療に対するホルモン補充療法(HRT)の効果と課題. 治療学 2003,37(12);1293-1296
- A.13. 水沼英樹,鈴木光明:閉経後婦人に対するホルモン補充療法 (HRT) Women's Health Initiative (WHI) 中 間報告に対する見解と本邦における HRT のあり方. Transplantation Now 2003, 16(3);284-291
- A.14.藤井俊策, 福井淳史, 水沼英樹:精漿サイトカインによる免疫学的妊娠維持機構の誘導. 産婦人科治療 2003,86(2);223
- A.15.<u>藤井俊策</u>,<u>福井淳史</u>,水沼英樹 : 婦人科の薬物療法 A.生殖・不妊・避妊 多嚢胞性卵巣症候群.産婦人科治療 2003,86 (増刊) ;676-686
- A.16. 樋口 毅, 水沼英樹: II. 内分泌 {更年期障害(ホルモン補充療法)} ホルモン補充療法を行っていますが、 不正出血がみられます. 対処について教えて下さい. 臨床婦人科産科 2003,57(4);491-493
- A.17. $<u>樋口</u> <u>毅</u>, 水沼英樹 : II. 内分泌 {更年期障害(ホルモン補充療法)} 子宮筋腫をもつ閉経後婦人に対する$
- ホルモン補充療法について教えて下さい。臨床婦人科産科 2003,57(4);495-497 A.18. 樋口 毅, 水沼英樹: II. 内分泌 {骨粗鬆症} 閉経後の骨量低下, 骨粗鬆症の治療と管理について教えて 下さい。臨床婦人科産科 2003,57(4):498-500
- A.19.樋口 毅, 田中幹二, 水沼英樹:ホルモン剤投与の工夫-投与スケジュール. 臨床産科婦人科 2003,57 (6):836-839
- A.20.田中幹二, 水沼英樹:子宮頸管無力症の治療薬開発のプロジェクト. 産婦人科の世界2003,55(7);805-810 A.21.福井淳史, 藤井俊策, 水沼英樹:不妊治療とOHSS(卵巣過剰刺激症候群). 産婦人科治療 2003,87 (1);36-42
- A.22.佐藤秀平, 水沼英樹: 教室における高年妊娠の取り扱い-増えてきた高年妊産婦-産婦人科の実際 2003,52 (10);1471-1475
- A.23.樋口<u>毅</u>, <u>田中幹二</u>, <u>水沼英樹</u>: HRT の臨床 3 泌尿生殖器症状に対する効果 治療学 2003,37 (10):1029-1031
- A.24.坂本知巳, 水沼英樹:{婦人科領域}II. 性成熟期 3. 性器出血 産科と婦人科(特大号)2003,70 (11);1485-1489
- A.25. <u>樋口</u> <u>毅</u>, <u>田中幹二</u>, <u>水沼英樹</u>: 女性の骨粗鬆症とエストロゲン補充療法. CLINICAL CALCIUM 2003,13 (11):1451-1456
- A.26. 樋口 毅, 田中幹二, 水沼英樹: HRT と尿失禁. 産婦人科の実際 2003,52(5);579-583

(3)著書

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. 水沼英樹:「多嚢胞性卵巣症候群」、多賀須幸男、尾形悦郎監修: 今日の治療指針2002年版 東京; 医学書院; 2002,p.784
- A.2. 水沼英樹:「閉経後骨粗鬆症の治療設計と服薬指導の工夫」、林 泰史監修: 骨粗鬆症と服薬指導の実践 東 京: 先端医学社: 2002.4.30発行, p.83-85
- A.3. 中島敬和, 水沼英樹:「更年期外来診療-マネージメント」太田博明編: 東京; 南江堂 2002.7.1.発行,p19-23
- A.4. 水沼英樹, 樋口 毅:「骨粗鬆症診療ハンドブック」中村利孝, 松本俊夫編:東京:医薬ジャーナル社 2002.6.20. 改訂 3 版発行, p38-44
- A.5. 水沼英樹:「インフォームドコンセントのための図説シリーズ 子宮内膜症! 吉村泰典編: 大阪: 医薬ジャー ナル社 2002.9.10発行,p23-25
- A.6. 樋口 毅,水沼英樹:病態生理・病因、「新しい診断と治療のABC 7 骨粗鬆症」西沢良記編:大阪:最新医学社 2002.10.25発行,p42-48
- A.7. 佐藤秀平:妊娠初期に診断しうる先天異常、「助産士・看護士のための超音波画像診断」高橋克幸,武谷雄二 監修, 岡村州博, 赤城光三編: 南江堂 2002.12.1発行,p51-58
- A.8. 藤井俊策:子宮・卵巣の周期的変化.「助産士・看護士のための超音波画像診断」高橋克幸, 武谷雄二監修, 岡 村州博, 赤城光三編: 南江堂 2002.12.1発行,p147-153

- A.1. <u>梅本実香</u>, <u>水沼英樹</u>: 松本俊夫編 「骨粗鬆症診療実践マニュアル」 4. 各種薬剤使用の実際 ホルモン補
- A.2. 水沼英樹:伊藤正男, 井村裕夫, 高久史麿総編集「医学書院医学大辞典」(項目) 黄体化ホルモン, 黄体化 ホルモン受容体,プロラクチン,プロラクチン放出ホルモン,プロラクチン抑制 ホルモン 東京 医学 書院 2003,p282,p2198
- A.3. <u>佐藤秀平</u>, <u>水沼英樹</u>:山本保博編「アルブミン臨床マニュアルー適用使用の実際ー」第2章 21. 妊娠中毒症 大阪 メデイカルレビュー社 2003,p181-187
- A.4. 水沼英樹, 他 6 名: 吉村泰典監修 ホルモン Q & A HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY VOL.1-9

(4)その他

英文

2003年度

A.1. Futagami M, Sakamoto T, Sakamoto A, Shigetou T, Taniguchi R, Fukuhara R. Bronchiolitis obliterans organising pneumonia in pregnancy. J Obstet Gynaecol. 2003 May;23(3):309

和文

2003年度

- A.1. 泉井もえ,藤井俊彦, 二神真行,田中幹二,尾崎浩士,水沼英樹:切迫早産治療中に無顆粒球症を発症した一症例。青森県臨床産婦人科医会誌 2003,18;10-12

 A.2. 葛西剛一郎,坂本知已,佐藤秀平,坂本亜希子,山本善光,二神真行,尾崎浩士,水沼英樹:ピルビン酸キナーゼ異常症合併妊娠の1例。周産期医学 2003,33(4):527-530

 A.3. 二神真行,梅本実香,坂本知已,尾崎浩士,佐藤秀平,齋藤良治。Pump Twin に心奇形を有した無心体の1例。産科と婦人科 2003;70(3) 389-393

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Archieves of Gynecology and Obstetrics	0	2	0
Eur J Gyneaec Oncol	0	1	0
Hyertens Res	2.014	1	2.014
Reproductive Medicine and Biology	0	1	0
Total		5	2.014

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Eur. J. Gyneaec Cncol	0.395	1	0.395
Brit J Cancer	3.639	1	3.639
Clin. Cancer Res	5.991	1	5.991
Hypertens Res	2.014	1	2.014
Endocr J	0.847	1	0.847
Int J Obesity	2.363	1	2.363
Horm Res	1.231	1	1.231
Total		7	16.48

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本受精着床学会誌			1	1
産婦人科の実際			1	5
日本更年期医学会誌			1	1
周産期医学			1	
エンドメトリオーシス	研究会誌		1	
青森県臨床産婦人科医	会誌		9	3
日本産婦人科雑誌				1
日本妊娠中毒症学会雑	誌			1
日本がん検診・診断学	会雑誌			1
日本医師会雑誌				1
日本臨床				1
治療学				2
臨床婦人科産科				3
産婦人科治療				2
産科と婦人科				1
産婦人科の世界				2
産婦人科季報				1
骨粗鬆症治療				1

hormone frontier in Gynecology clinical calcium clinic magazine Transplantation Now		1 2 1 1
#	14	32

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	É E	2002年度	2003年度
单	善 著	0	0
絹	集	0	0
5	担執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	1
分担	執筆	8	4

3. その他 (A. Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Obste Gynec	0	1	0
Total		1	0

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
青森県臨床産婦人科雑誌 周産期医学 産科と婦人科				1 1 1
	計		0	3

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2003年度

- C.1. Atsushi Fukui, Rie Fukuhara, Goichiro Kasai, Shunsaku Fujii, Hideki Mizunuma. Danazol modifies uNK cell subpopulations and improving pregnancy rate in subjects repeatedly failed in pregnancy by IVF-ET program. The 4th Conference of the Pacific Rim Society for Fertility and Sterility, Okinawa, Japan, 2003
- C.2. Goichiro Kasai, Shunsaku Fujii, Atsushi Fukui, Hideki Mizunuma. The study about natural killer (NK)1/NK2 subsets in the endometrialo NK cells. The 4th Conference of the Pacific Rim Society for Fertility and Sterility, Okinawa, Japan, 2003
- C.3. <u>Masayuki Futagami</u>, Prenatal diagnosis od congenital biliary atresia. 6th World Congress of perinatal medicine, Osaka,2003
- C.4. <u>Masayuki Futagami, Kanji Tanaka, Takashi Ozaki, Shuhei Sato, Hideki Mizunuma</u>. Prenatal diagnosis od congenital biliary atresia. Jperinat Med 2003,31Suppl,232

(2)全国学術集会

- A.1. 水沼英樹. 第54回日本産婦人科学会学術講演会(平成14年4月7日, 東京)ランチョンセミナー「骨粗鬆症に対する薬物療法をめぐる最近の話題」
- A.2. 水沼英樹. 第4回日本骨粗鬆症学会(平成14年11月21日, 東京)ランチョンセミナー「HRT の歴史と骨粗 鬆症」
- A.3. 水沼英樹. 第8回日本更年期学会ワークショップ(平成15年2月23日, 横浜市)日本人女性に対する HRTはどうあるべきか?
- HRTはどうあるべきか? B.1. 田中幹二, 樋口 毅, 佐藤秀平, 佐藤重美, 水沼英樹. 子宮頚管熟化に対する 4 - メチルウンベリフェロン (MU) の抑制作用 第54回日本産科婦人科学会(平成14年 4 月 6 ~ 9 日, 東京)
- B.2. 藤井俊策,福井淳史,水沼英樹,精漿サイトカイインによる子宮内膜リンパ球サブセットの変化 第54回 日本産科婦人科学会(平成14年4月6~9日,東京)
- B.3. 樋口 毅, 佐藤重美, 二神真行, 丸山英俊, 水沼英樹, 経膣超音波断層法による卵巣癌集団検診成績の検討 第54回日本産科婦人科学会(平成14年4月6~9日, 東京)
- B.4. 福井淳史,藤井俊策,佐藤重美,水沼英樹. 黄体期子宮内膜における NK 細胞と KIRs, γ δ T細胞との関

- 連性についての検討 第54回日本産科婦人科学会(平成14年4月6~9日. 東京)
- B.5. 梅本実香, 横山良仁, 佐藤重美, 水沼英樹. 上皮性卵巣癌における Carbonyl Reductase (CR) の発現の臨床的意義と、CR, VEGF, Eit-4 の発現の関係について 第54回日本産科婦人科学会(平成14年 4 月 6 ~ 9 日. 東京)
- B.6. 福井淳史,藤井俊策,水沼英樹. 高アンドロゲン血症を示す内分泌学的PCOS症例における体外受精・胚移植の臨床的検討 第47回日本不妊学会(平成14年10月3-4日,岐阜市)
- B.7. 藤井俊策,福井淳史,水沼英樹. 子宮内膜 NK 細胞サブセットと妊娠転帰に関する前向きコホート研究における患者背景に関するベースラインデータの分析 第47回日本不妊学会(平成14年10月3-4日,岐阜市)
- B.8. 藤井俊策,福井淳史,水沼英樹. 子宮内膜 NK 細胞サブセットと妊娠転帰に関する前向きコホート研究第 20回日本受精着床学会(平成14年10月 4-5 日,岐阜市)
- B.9. 福井淳史、藤井俊策、水沼英樹、反復体外受精・胚移植不成功例に対する Danazol, GhRH アゴニスト投与の試み 第47回日本不妊学会(平成14年10月 3 4 日、岐阜市)
- B.10.佐藤重美,坂本知巳,神 真行,丸山英俊,水沼英樹.経腟超音波断層法による卵巣癌集団検診の費用効果について 第11回日本婦人科がん検診学会(平成14年11月9日,東京
- B.11. 坂本知巳, 佐藤重美, 二神真行, 丸山英俊, 水沼英樹, 経腟超音波断層法における卵巣癌集団検診の有用性, 第11回日本婦人科がん検診学会(平成14年11月9日, 東京)

- A.1. 平成15年度日本産科婦人科学会富山地方部会第 1 回例会・特別講演会(平成15年 5 月16日, 富山市)「産婦人科領域における骨粗鬆症の診断と治療」水沼英樹
- A.2. 広島県東部産婦人科医会研修会(平成15年 5 月23日, 福山市)「産婦人科領域における骨粗鬆症の診断と 治療 | 水沼英樹
- A.3. 第87回弘前医学会総会(平成15年6月14日,三沢市)公開講座「更年期をどう過ごすか?健やかな老後をめざして」水沼英樹
- A.4. 学術講演会~更年期と骨粗鬆症~(平成15年 6 月27日,徳島市)「女性の一生と骨粗鬆症」水沼英樹
- B.1. 市民公開講座 (平成15年2月16日,十和田市) あなたに忍び寄る骨粗しょう症 「若々しい老後をめざして ~50歳から始まる女性の病気を考える」 水沼英樹
- B.2. 第 8 回日本更年期医学会ワークショップ (平成15年 2 月23日, 横浜市) 日本人女性に対する HRT はどうあるべきか?「日本における HRT の具体的適応 (投与法適応 QOL をふまえて)」水沼英樹
- B.3. 第76回日本内分泌学会(平成15年 5 月 9 -11日,横浜市)シンポジウム「ヒトの一生と骨粗鬆症」閉経後の HRT 療法 水沼英樹
- B.4. 平成15年度福島県保健衛生学会(平成15年8月7日, 郡山市)「ホルモン補充療法・今何が問題か」水沼 英樹
- B.5. 第14回婦人科骨粗鬆症研究会(平成15年11月15日,東京)「Selective Estrogen Receptor Modulator(SERM)をめぐる最近の話題」水沼英樹
- B.6. 第 3 回福岡骨代謝研究会(平成15年12月 2 日,福岡市)「ホルモン補充療法と骨粗鬆症治療」水沼英樹 C. 3 件

III. 学術賞

2002年度

藤井俊策 世界体外受精会議賞

IV. 共同研究

2002年度

富山医科薬科大学,トヨタ記念病院「体外受精・胚移植の妊娠率向上を目指した精漿の膣内投与法の臨床的検討」

2003年度

富山医科薬科大学産婦人科,トヨタ記念病院産婦人科「体外受精・胚移植の妊娠率向上を目指した精漿の 腟内投与法の臨床的検討」藤井俊策

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

若手(B),子宮内膜における免疫担当細胞の機能分担と機能発現に影響を与える因子,福井淳史,2,100千円

他研究単位との研究分担者として

平成14年度科学研究費 分担 水沼英樹 500,000円 特定領域研究(1)代表者名 林 邦彦 課題番号 14031101 研究課題「大規模女性コホート研究による生活習慣・女性ホルモン服用と乳癌・子宮癌の関連の検討」 分担研究課題「女性ホルモン評価・疾病判定評価, 看護協会との強力, 運営」

研究代表者として

水沼英樹: 萌芽研究 加齢に伴う卵胞の形質転換に関わる卵胞内因子の遺伝子学的検索(分担: 藤井, 福井)

藤井俊策:萌芽研究「血球系幹細胞灌流培養系を用いた前胞状卵胞の体外成熟に関する研究」1,800千円福井淳史:若手(B),子宮内膜における免疫担当細胞の機能分担と機能発現に影響を与える因子,1,200千円

二神真行: 若手B, 卵巣癌の抗癌剤への増感作用を目的としたメラトニン療法の基礎的臨床的検討, 600(単位:千円)

(2)その他の省庁からの研究費

2003年度

他研究単位との研究分担者として (厚生労働科学研究費) 寺川直樹女性の各ライフステージに応じた健康支援システムの確立に向けた総合 的研究(分担:水沼英樹)

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
 - c) 外国研究機関からの留学生,研究生の受け入れ状況 2003年度

辛 兵,山東医科大学,中国,2003年2月~

- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況 なし
- e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況なし
- f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

- a) 全国レベルの学会の主催 なし
- b) 地方レベルの学会の主催

2003年度

第245回青森県臨床産婦人科医会(青森, 平成15年4月) 第246回青森県臨床産婦人科医会(八戸, 平成15年9月) 第247回青森県臨床産婦人科医会(弘前, 平成15年11月) 第248回青森県臨床産婦人科医会(青森, 平成16年1月) 第249回青森県臨床産婦人科医会(弘前, 平成16年3月) 第12回青森県産婦人科内分泌研究会(青森, 平成15年10月) 第26回青森骨盤外科研究会(青森, 平成15年11月)

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

2003年度

藤井俊策,福井淳史:日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医取得(2003年8月)

30. 麻酔科学講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

安全な麻酔管理に対する到達度はほぼ80%である。しかし手術件数の大幅増加(病院病床数に対する全身麻酔症例数では全国国立大学病院間では全国 1 位)で,ワークロードは増大しておりこの点では麻酔科教室員の疲労が蓄積している。

理念:

麻酔科学の理念は、周術期患者や集中治療を要する重症患者、さらには難治性疼痛患者の快適性と安全性を確保することである。研修医制度と独立法人化によりマンパワー不足が続いているが、以下の4項目を理念の基礎となる。

- 1. 安全性を確保する非侵襲的なモニタリングの開発と臨床応用
- 2. 安全な麻酔管理のための麻酔法の改良(全静脈麻酔法)
- 3. 安全性を最重点とした作業,業務のシステム構築
- 4. 快適性確保のための麻酔科側のシステム構築

これから2年間の目標:

- 1. より安全な全静脈麻酔管理法の開発
- 2. 医療事故防止のための基本ルールの徹底
- 3. 非侵襲的なモニターの開発と臨床応用
- 4. 麻酔前オリエンテーションビデオの第4版改訂
- 5. 麻酔科学教室のホームページ作製

【研究人員及び研究課題】

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講師	新 2,	助手	4, 医員(研修医) 18, 大学院学生 2, 研究生 3			
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間			
	教 授	専 任	松木	明知	2002年4月~2003年3月			
	助教授	専 任	石原	弘規	2002年 4 月~2003年 3 月			
教官	助手	専 任	工藤	剛	2002年 4 月~2003年 3 月			
(教授~助手)	助手	専 任	工藤	美穂子	2002年 4 月~2003年 3 月			
の詳細	講師	専 任	小谷	直樹	2002年 4 月~2003年 3 月			
り計画	講師	専 任	廣田	和美	2002年 4 月~2003年 3 月			
	助 手	専 任	村岡	正敏	2002年 4 月~2003年 3 月			
	助 手	専 任	佐藤	哲観	2002年 4 月~2003年 3 月			
	助 手	専 任	大川	浩文	2002年 4 月~2003年 3 月			
	1. 重症患者の体液管理に関する研究―とくにグルコーススペースの視点から―							
	2. 全静脈麻	F酔に関する研究	兒					
	3. 生体侵襲	夏が肺胞マクロ:	ファーシ	シに及ぼ	す影響			
	4. 帯状疱疹	を 後神経痛に代	表される	る神経因	性疼痛の治療法の開発			
研究課題	5. 急性肺障	算害の遺伝子治療	寮の研究	e L				
	6. 麻酔薬及	び麻酔管理上	必要な薬	薬剤の気	道平滑筋に及ぼす影響			
	7. 術後硬膜	草外ブロックに。	よる鎮症	角法に関	する研究			
8. 静脈麻酔薬の非侵襲的血中濃度測定法の開発								
	9. Ca ²⁺ チャンネルと神経伝達物質							
	10. 医史学的	り手法による医療	寮事故(の分析と	予防			
	•							

研究人員	教授 1, 助	力教授 1, 講自		助手	4, 医員 15, 大学院学生 0, 研究生 2					
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間					
	教 授	併 任	松木	明知	2003. 4 . 1 ~2004. 3 .31					
	助教授	専 任	石原	弘規	2003. 4 . 1 ~2004. 3 .31					
	講師	専 任	小谷	直樹	2003. 4 . 1 ~2003. 8 .16					
教 官	講師	専 任	廣田	和美	2003. 4 . 1 ~2004. 3 .31					
(教授~助手)	助 手	 専任	村田	正敏	2003. 4 . 1 ~2003. 8 .31					
の詳細	講師	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	们叫	止蝦	2003. 9 . 1 ~2004. 3 .31					
	助手	専 任	佐藤	哲観	2003. 4 . 1 ~2004. 3 .31					
	助手	専 任	櫛方	哲也	2003. 8 .16~2004. 3 .31					
	助 手 専 任		工藤	剛	2003. 4 . 1 ~2004. 3 .31					
	助 手	手 専 任 工藤美穂子			2003. 4 . 1 ~2004. 3 .31					
	1. ブドウ糖を指示薬とした重症患者の体液量把握									
	2. 麻酔• 第	長中治療における	る輸液管	管理						
	3. 単一受容	F体ではなく脳F	内ノルフ	アドレナ	リン神経網による全身麻酔機序の一元化					
	4. 生理活性	生物質オレキシ:	ンおよて	バノシセ	プチンの生理作用、薬理作用に関する研究					
研究課題	5. 麻酔薬及	なび麻酔管理上』	必要な薬	喜剤の脳	波(BIS 値)に与える影響					
圳九林煜	6. 急性肺損傷発症機転における細胞障害性リンパ球の関与									
	7. 癌性疼痛	7. 癌性疼痛治療								
	8. 全身麻酢	8. 全身麻酔の作用機序解明―神経伝達物質の動態の面から								
	9. 全静脈麻		砕薬動態	F.						
	10. Ca ²⁺ チャ	ンネルと静脈	茶酔薬							

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. <u>Hirota K</u>, Yoshioka H, Kabara S, Koizumi Y, Abe H, <u>Sato T</u>, <u>Matsuki A</u>. Spasmolytic effects of colforsin daropate on serotonin -induced pulmonary hypertension and bronchoconstriction in dogs. Acta Anaesthesiol Scand 2002;46:297-302.
- A.2. <u>Ishihara H</u>, <u>Okawa H</u>, Iwakawa T, Umegaki N, Tsubo T, <u>Matsuki A</u>. Does indocyanine green accurately measure plasma volume early after cardiac surgery? Anesth Analg 2002;94:781-6.
- A.3. Kushikata T, Hirota K, Yoshida H, Kubota T, Ishihara H, Matsuki A. Alpha-2 adrenoceptor activity affects propofol -induced sleep time. Anesth Analg 2002;94:1201-6.
- A.4. <u>Hirota K</u>, Hashimoto H, Tsubo T, <u>Ishihara H, Matsuki A</u>. Quantification and comparison of pulmonary emboli formation after pneumatic tourniquet release in patients undergoing reconstruction of anterior cruciate ligament and total knee arthroplasty. Anesth Analg 2002;94:1633-8.
- A.5. $\underline{Yasuda\ T}$, Takahashi S, $\underline{Matsuki\ A}$. Tumor necrosis factor- α reduces ketamine- and propofol-induced anesthesia time in rats. Anesth Analg 2002;95:952-5.
- A.6. <u>Hirota K</u>, Hashimoto Y, Lambert DG. Interaction of intravenous anesthetics with recombinant human M1-M3 muscarinic receptors expressed in Chinese hamster ovary cells. Anesth Analg 2002;95:1607-10.
- A.7. <u>Hirota K, Ishihara H, Matsuki A</u>. Ketamine and the inhibition of albumin extravasation in chemical peritonitis in rat. Eur J Anaesthesiol 2002;19:173-6.
- A.8. <u>Hirota K</u>, Fukushi S, Baba S, <u>Matsuki A</u>. Flurbiprofen does not change the bispectral index and 95% spectral edge frequency during total intravenous anaesthesia with propofol and fentanyl. Eur J Anaesthesiol 2002;19:483-6.
- A.9. <u>Kitayama M, Hirota K, Kudo M, Kudo T, Ishihara H, Matsuki A.</u> Inhibitory effects of intravenous anaesthetic agents on K⁺-evoked glutamate release from rat cerebrocortical slices. Involvement of voltage-sensitive Ca²⁺ channels and GABA receptors. Naunyn Schmiedeberg's Arch Pharmacol 2002;366:246-53.
- B.1. Tsubo T, Sakai I, Suzuki A, <u>Okawa H, Ishihara H, Matsuki A</u>. Lung image changes during bronchopulmonary lavage estimated using transoesophageal echocardiography. Eur J Anaesthesiol 2002;19:141-4.

- A.1. <u>Hashiba E, Hirota K, Suzuki A, Matsuki A.</u> Effects of proposol on bronchoconstriction and bradycardia induced by vagal nerve stimulation. Acta Anaesthesiol Scand 2003;47:1059-63.
- A.2. <u>Hirota K</u>, Smart D, Lambert DG. Effects of local and intravenous anesthetic agents on recombinant rat VR1 vanilloid receptors. Anesth Ananlg 2003;96:1656-60.
- A.3. Mi WD, Ishihara H, Sakai T, Matsuki A. Possible overestimation of indocyanine green-derived plasma

- volume early after induction of anesthesia with propofol/fentanyl. Anesth Analg 2003;97:1421-7.
- A.4. Hirota K, Hashiba E, Yoshioka H, Kabara S, Matsuki A. Effects of three different L-type Ca²⁺ entry blockers on airway constriction induced by muscarinic receptor stimulation. Br J Anaesth 2003;90:671-5.
- A.5. Kabara S, Hirota K, Yoshioka H, Kudo T, Ishihara H, Matsuki A. Differential effects of thiopental on methacholine- and serotonin-induced bronchoconstriction in dogs. Br J Anaesth 2003;91:379-84.
- A.6. Hirota K, Kushikata T, Kudo M, Kudo T, Smart D, Matsuki A. Effects of central hypocretin-1 administration on hemodynamic responses in young-adult and middle-aged rats. Brain Research 2003;981:143-50.
- A.7. Anzawa N, Hirota K, Kitayama M, Kushikata T, Matsuki A. Fentanyl-mediated reduction in the bispectral index and 95% spectral edge frequency is age-dependent. Eur J Anaesthesiol 2003;20:167-9.
- A.8. Hirota K, Kabara S, Kushikata T, Kitayama M, Ishihara H, Matsuki A. Effects of nicardipine and diltiazem on the bispectral index and 95% spectral edge frequency. Eur J Anaesthesiol 2003;20:809-12.
- A.9. Mi WD, Sakai T, Kudo T, Kudo M, Matsuki A. The interaction between fentanyl and propofol during emergence from anesthesia: monitoring with the EEG-Bispectral IndexTM. J Clin Anesth 2003;15:103-5.
- A.10. Hashiba E, Hirota K, Kudo T, Calo' G, Guerrini R, Matsuki A. Effects of nociceptin/orphanin FQ receptor ligands on blood pressure, heart rate, and plasma catecholamine concentrations in guinea pigs. Naunyn-Schmiedeberg's Arch Pharmacol 2003;367:342-7.
- A.11. Kushikata T, Hirota K, Yoshida H, Kudo M, Lambert DG, Smart D, Jerman JC, Matsuki A. Orexinergic neurons and barbiturate anesthesia. Neuroscience 2003;121:855-63.
- A.12. Hirota K, Kushikata T, Kudo M, Ohkawa H, Kudo T, Lambert DG, Smart D, Matsuki A. Lack of an interaction between orexinergic and opioid/nociceptinergic systems in rat cerebrocortical slices. Neurosci Lett 2003;340:173-6.

和文

2002年度

- A.1. 松木明知,石原弘規,小谷直樹,坂井哲博,廣田和美,村岡正敏,橋本 浩,坪 敏仁,高橋 敏,洪浩 彰, 若山茂春, 佐藤 裕, 長尾博文. プロポフォール・フェンタニルを中心とする全静脈麻酔の臨床的研究-特に安全性の面からの2万6千余症例の検討-. 麻酔 2002;51:1336-42.
- B.1. 坪 敏仁, 松井晃紀, <u>大川浩文</u>, <u>石原弘規</u>, <u>松木明知</u>. 肺胞洗浄液へのカテコラミンおよびコルチゾルの 排泄 ICUとCCU 2002:26:S135-6.

2003年度

A.1. 松木明知. 江戸時代における青森県の医療が全国に及ぼした影響-とくに津軽の阿片を中心として-. 日本整形外科学会雑誌 2003;77:310-7.

(2)総説

英文

2003年度

- A.1. Hirota K, Kushikata T. Preanaesthetic H2 antagonists for acid aspiration pneumonia prophylaxis. Is there evidence of tolerance? Br J Anaesth 2003;90:576-9.
- A.2. Hirota K, Kushikata T, Kudo M. Role of noradrenergic and orexinergic neurons in general anesthesia. Current Neuropharmacology 2003;1:333-40

和文

2002年度

- A.1. 廣田和美, 松木明知. 特殊な意識障害 麻酔からの覚醒遅延. Clinical Neuroscience 2002;20:466-7.
- A.2. 松木明知. 指導医のDo's and Don'ts. LiSA 2002;9:5-6.
- A.3. 大川浩文, 石原弘規. ICU とバソプレシン. LiSA 2002;9:1162-5. A.4. 小谷直樹. 難治性帯状疱疹後神経痛の最新の治療 くも膜下腔酢酸メチルプレドニゾロン投与 . ペイ ンクリニック 2002;23:219-25.
- A.5. 廣田和美. Orexin-A, an hypothalamic peptide with analgesic properties. ペインクリニック 2002;23:865.
- A.6. 小谷直樹. 帯状疱疹後神経痛の病態と最新の治療 腰椎くも膜下腔メチルプレドニゾロン投与法を中心 <u>として-</u>. 日本医事新報 2002;(4092):19-23. A.7. <u>廣田和美</u>, <u>松木明知</u>, 馬場祥子. 麻酔 2001;50:908 「集学的手術医療のための麻酔科医の役割」への返信.
- 麻酔 2002;51:67.
- A.8. 小谷直樹. 帯状疱疹後神経痛の最新の治療. 麻酔 2002;51:S89-S94.
- B.1. 坪 敏仁, 高村かおり, 大川浩文, 石原弘規, 松木明知. 中毒症例 医薬品(6)ケタミン. 臨床透析 2002;18:1043-6.

2003年度

A.1. 廣田和美, 橋本 浩, 松木明知, 高梨信吾. 手術室における麻酔科医の呼吸器内視鏡医としての役割及び 呼吸器内視鏡医との関わり. 気管支学 2003;25:644-8.

(3)著書

英文

(分担)

B.1. Sakai T, Hashimoto H, Furukawa K, Motomura S, Matsuki A. Nuclear factor-κ B activation during anesthesia and surgery In: Kaneko S, Motomura S, Tateishi T, Kondo T, Furukawa K. editors. Pharmacogenetics - Tailor - made Pharmacotherapy. Tokyo: Elsevier Science B.V.;2002.p.127-30.

2003年度

A.1. Matsuki A(Edit). Simpson JY: J.Y. Simpson's "Account of A New Anaesthetic Agent, as A Substitute for Sulphuric Ether in Surgery and Midwifery", 2003. Tokyo: Iwanami Publishing Service Center: 2003.

和文

- A.1. 松木明知, 石原弘規, 坂井哲博(編). 周術期における BIS モニターの臨床応用. 改訂第2版. 東京: 克誠 堂;2002. A.2. 松木明知(著). 麻酔科の本質. 東京:克誠堂;2002.
- A.3. 松木明知(編). 日本麻酔科学史資料(18) 中枢神経系, 呼吸系, 循環系, 代謝系, 腎機能, 酸-塩基平 衡, 体液量•電解質-. 東京:克誠堂;2002.
- A.4. 松木明知(編). 日本麻酔科学史資料(19)-輸血, 体外循環, 低血圧, 蘇生, 集中治療. 災害時の麻酔. プ -アリスク,局所麻酔-.東京:克誠堂;2002.
- A.5. 松木明知(著). 華岡青洲の新研究. 東京:岩波出版サービスセンター; 2002.
- A.6. <u>松木明知</u>(著). 八甲田雪中行軍の研究. 東京;岩波出版サービスセンター;2002.
- A.7. 松木明知(編). 日本牛痘種痘史文献目録. 東京:岩波出版サービスセンター;2002.
- A.1. 石原弘規. 内分泌疾患. 稲田英一, 槙田浩史, 四津良平 (監訳). MGH クリティカルケアブック. 第3 版. 東京:メディカル・サイエンス・インターナショナル; 2002.p.389-420.
- A.2. <u>大川浩文</u>, 石原弘規. 気道管理 2.気管挿管患者の感染予防 MEMO 気管チューブの種類と目的. 丸川征四郎(編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江 堂: 2002.p.18.
- A.3. <u>大川浩文</u>, 石原弘規. ルート管理 6.静脈ルートのケア Q22 末梢静脈炎のメカニズムと予防・処置. |丸川征四郎 (編).||救急・集中治療の看護ケア||ナースの質問119||ベッドサイドの問題解決.||東京:南 江堂;2002.p.46-7.
- A.4. 大川浩文, 石原弘規. モニター, 検査 22.二酸化炭素のモニター MEMO 二酸化炭素と酸塩基平衡の関 係. 丸川征四郎(編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東 京:南江堂;2002.p.158.
- A.5. 大川浩文, 石原弘規. モニター, 検査 24.中心静脈圧モニター Q77 中心静脈圧モニターの意義と合 併症、丸川征四郎(編)、救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決、東 京:南江堂;2002.p.165-6.
- A.6. 大川浩文, 石原弘規. モニター, 検査 24.中心静脈圧モニター Q78 自発呼吸ではCVPの基線がふら つく、丸川征四郎(編)、救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決、東 京:南江堂:2002.p.167-8.
- A.7. 大川浩文,石原弘規. モニター,検査 24.中心静脈圧モニター Q79 PEEPや陽圧人工呼吸施行中の CVPの異常値の補正. 丸川征四郎(編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイド の問題解決. 東京:南江堂; 2002.p.169.
- A.8. <u>石原弘規</u>. モニター,検査 24.中心静脈圧モニター MEMO 水柱マノメーターは不正確?丸川征四郎 (編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江堂; 2002.p.170.
- A.9. 石原弘規, 坪 敏仁. モニター, 検査 25.PAカテーテル Q82 肺動脈カテーテル測定値の読み方とコ ツ. 丸川征四郎 (編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東 京:南江堂;2002.p.176-7.
- A.10.鈴木朗子, 石原弘規. モニター, 検査 26.心電図モニター Q83 ドクターコールに値する心電図異 常. 丸川征四郎(編... 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京: 南江堂; 2002.p.178-80.
- A.11.鈴木朗子, 石原弘規. モニター, 検査 26.心電図モニター Q84不整脈の見方のポイント. 丸川征四郎 (編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江堂; 2002.p.181-3.
- A.12.鈴木朗子, 石原弘規. モニター, 検査 26.心電図モニター Q85 虚血性変化の見方のポイント. 丸川 征四郎(編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江堂: 2002.p.184-6.
- A.13. 石原弘規. モニター, 検査 27.血液生化学検査 Q87 緊急検査とルーチン検査で値が違う. 丸川征四 郎(編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江堂; 2002.p.189-90.
- A.14. <u>石原弘規</u>. モニター, 検査 27.血液生化学検査 Q88 異常検査値と看護ケア. 丸川征四郎(編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江堂; 2002.p. 191-2.
- A.15.石原弘規. 体液と栄養 30. 輸液と体液量 Q94循環血液量の不足を知る方法は、丸川征四郎(編). 救 急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江堂;2002.p.210-2.
- A.16.石原弘規. 体液と栄養 30.輸液と体液量 Q95 脱水の有無を知る方法は. 丸川征四郎(編). 救急・ 集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江堂;2002.p.213-4.
- A.17. <u>石原弘規</u>. 体液と栄養 30. 輸液と体液量 Q96 ナトリウム, カリウムの補正. 丸川征四郎(編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江堂; 2002.p.215-7.
- A.18. <u>石原弘規</u>. 体液と栄養 30. 輸液と体液量 Q97 大量出血なのに貧血でない?丸川征四郎(編) 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江堂; 2002.p.218-9.
- A.19.鈴木朗子, 石原弘規. 体液と栄養 31. 血液製剤の輸注適応と取扱い Q100 凍結血漿投与で何を補

- う?丸川征四郎(編)、救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決,東京:南 江堂;2002.p.225-6.
- A.20.石原弘規. 体液と栄養 32. 栄養管理 Q101 カロリー計算. 丸川征四郎(編). 救急・集中治療の看護 ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江堂;2002.p.227-8.
- A.21.石原弘規. 体液と栄養 32. 栄養管理 Q102 必要カロリーと組成の決め方. 丸川征四郎(編). 救急・ 集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江堂;2002.p. 229-31.
- A.22. 石原弘規. 体液と栄養 32. 栄養管理 Q103 経管栄養. 丸川征四郎(編). 救急・集中治療の看護ケア <u>ナースの</u>質問119 ベッドサイドの問題解決.東京:南江堂;2002.p.232-5.
- A.23.鈴木朗子, 石原弘規. 事故・合併症, その他 41. 術前・術後の処置 Q119 食事と飲水を中止する時 間. 丸川征四郎(編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東 京:南江堂;2002.p.274.
- A.24.鈴木朗子, 石原弘規. 事故・合併症, その他 41. 術前・術後の処置 MEMO 誤嚥性肺炎. 丸川征四 郎(編) 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決、東京:南江堂: 2002.p.275.
- A.25.松木明知, 全身麻酔, 釘宮豊城, 宮崎東洋(編), 麻酔・ペインクリニックと医療事故, 東京:真興交 易株式会社医書出版部; 2002.p.113-24.
- A.26. 小谷直樹. ニューロパシックペインの治療 侵襲的治療法 4)クモ膜下腔ステロイド投与. 弓削孟文
- (編). 麻酔科診療プラクティス 6 ニューロパシックペインの今. 東京:文光堂;2002.p.196-9. A.27. 石原弘規. コントロー不良の糖尿病合併患者の麻酔. 岩崎寛(編). 麻酔科診療プラクティス第8巻 よ ------くある術前合併症の評価と麻酔計画. 東京:文光堂;2002.p.134-5.
- A.28. 石原弘規. 糖尿病性ニューロパシーを有する患者の脊髄くも膜下・硬膜外麻酔の適応. 岩崎 寛(編). 麻酔科診療プラクティス第8巻 よくある術前合併症の評価と麻酔計画. 東京:文光堂; 2002.p.136-7.
- A.29. 石原弘規. 内分泌疾患患者の麻酔. 花岡一雄, 真下 節, 福田和彦(編). 臨床麻酔学全書(下巻). 東 京: 真興交易株式会社医書出 版部: 2002.p.319-31.
- A.30. <u>松木明知</u>. 麻酔科学の歴史. 花岡一雄, 真下 節, 福田和彦(編). 臨床麻酔学全書(上巻). 東京: 真 興交易株式会社医書出版部; 2002.p.1-17.
- A.31. 石原弘規. 呼吸不全患者の輸液. 丸川征四郎, 槙田浩史(編). 呼吸管理―専門医にきく最新の臨床. 東 京:中外医学社: 2003.p.198-200.
- A.32. 石原弘規. 栄養管理. 丸川征四郎, 槙田浩史(編). 呼吸管理―専門医にきく最新の臨床. 東京:中外医 学社;2003.p.201-3.
- B.1. 坂井哲博, <u>松木明知</u>. 第Ⅳ編 各科の麻酔管理 28章合併症を有する患者の麻酔. III. 内分泌・代謝疾患を有する患者の麻酔. 吉村 望(監), 熊澤光生, 弓削孟文, 古家 仁(編). Standard Textbook標 準麻酔科学. 第 4 版. 東京: 医学書院; 2002.p.355-60.
- B.2. 坂井哲博, 松木明知. 第Ⅳ編 各科の麻酔管理 28章合併症を有する患者の麻酔. Ⅷ. 肥満患者の麻酔. 吉村望 (監), 熊澤光生, 弓削孟文, 古家 仁 (編). Standard Textbook 標準麻酔科学. 第 4 版. 東京:医学書院: 2002.p.381-6.
- B.3. 坂井哲博, 合併疾患別の注意点 内分泌疾患, 日野原重明, 井村裕夫(監), 弓削孟文(編), 看護のた めの最新医学講座 第26巻 麻酔科学. 東京:中山書店; 2002.p.202-6.
- B.4. 坪 敏仁, 石原弘規. 効果的な消毒と感染対策 13. 院内感染の防 止対策 Q45 頻回に使う気管支ファイバースコープ. 丸川征四郎 (編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイド の問題解決. 東京:南江堂; 2002.p.93-4.
- B.5. 坪 敏仁, 石原弘規. モニター, 検査 25.PAカテーテル Q80 肺動脈圧(PAP)モニターの注意点. 丸 川征四郎(編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江 堂; 2002.p.171-3.
- B.6. 坪 敏仁, 石原弘規. モニター, 検査 25.PAカテーテル Q81 持続心拍出量測定の測定原理と信頼 性. 丸川征四郎 (編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東 京:南江堂;2002.p.174-5.
- B.7. 坪 敏仁, 石原弘規. 事故・合併症, その他 37. 褥創の予防とケア Q111 褥創ができやすい患者の 条件. 丸川征四郎(編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東 京:南江堂:2002.p.254-5.
- B.8. 坪 敏仁, 石原弘規. 事故・合併症, その他 37. 褥創の予防とケア Q112 できてしまった褥創のケ ア、丸川征四郎(編)、救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決、東 京:南江堂;2002.p.256-7.

- A.1. 佐藤哲観. 経口モルヒネ製剤により疼痛マネジメントを行った骨・脳転移合併肺がんの1例. 小川節郎
- (監), オピオイドによる疼痛緩和 4, 東京, 三共株式会社 2-3 2003
 A.2. 石原弘規. 11.人工呼吸中の管理 1.呼吸不全患者の輸液. 丸川征四郎, 槙田浩史(編), 呼吸管理:専門 医にきく最新の臨床. 東京, 中外医学社 198-200 2003
- A.3. 石原弘規. 11.人工呼吸中の管理 2.栄養管理. 丸川征四郎, 槙田浩史(編), 呼吸管理:専門医にきく最 新の臨床. 201-203, 東京, 中外医学社 2003
- A.4. 石原弘規. 呼吸療法の実際 2.気道の吸湿療法. 妙中信之(監), 呼吸器ケア コメディカルのための呼 吸療法マニュアル、245-253、東京、MCメディカ出版 2003 A.5. <u>廣田和美</u>. I. 催眠鎮静薬および鎮痛薬 塩酸ペチジン、与五沢利夫(編)、厚生労働省医薬品等適正使
- 用推進施行事業 -麻酔薬および麻酔関連薬使用ガイドライン-. 23-26, 東京, 日本麻酔科学会 2003

(4)その他

英文

2002年度

A.1. Kotani N, Tanioka F, Tsubo T, Ishihara H, Matsuki A. Systemic heparinization during postoperative

pulmonary embolism induces fatal complications. Eur J Anaesthesiol 2002;19:382-4.

2003年度

- A.1. Kubota T, Ebina T, Tonosaki M, Ishihara H, Matsuki A. Rapid improvement of respiratory symptoms associated with fat embolism by high-dose methylpredonisolone: a case report. J Anesth 2003;17:186-9.
- A.2. Umegaki N, Hirota K, Kitayama M, Yatsu Y, Ishihara H, Matsuki A. A marked decrease in bispectral index with elevation of suppression ratio by cervical haematoma reducing cerebral perfusion pressure. I Clin Neurosci 2003:10:694-6.
- A.3. Matsuki A. Notable Names in Anaesthesia, edited by J. Roger Maltby (Royal Society of Medicine Press, London, UK, 2002. 240pp. £19.50. ISBN 1-85315-512-8). J Anesth 2003;17:75-6.

和文

2002年度

- A.1. 石原弘規, 高平陽子, 村岡正敏, 橋本 浩, 松木明知, 長谷川幸裕, 高梨信吾. 内視鏡下レーザー照射時 の高吸入酸素濃度は気道内発火の主たる原因となるか?-全静脈麻酔中の気道内発火事故の1症例-. 麻 酔 2002;51:1359-62.
- A.2. <u>橋場英二</u> 橋本 浩, <u>松木明知</u>. 深頚部感染による挿管困難症の1例. 臨床麻酔 2002;26:91-2.
- A.3. 松木明知. 麻酔科学史 (第12回) 本邦初の全身麻酔下帝王切開術. Anesthesia 21 Century 2002;4:40-1.
- A.4. 松木明知. 麻酔科学史(第13回)本邦における明治前半の帝王切開術-とくに全身麻酔下の帝王切開術 についてー. Anesthesia 21 Century 2002;4:54-5.
- A.5. 松木明知. 麻酔科学史 (第14回) 日本で発見された骨格筋弛緩薬 "マグノクラリン". Anesthesia 21 Century 2002;4:62-3.
- A.6. 松木明知、中川五郎治がシベリアから将来したロシア語牛痘種痘書についての一考察. 科学医学資料研
- 完 2002;30:19-36. A.7. <u>松木明知</u>. 医史学研究の先取権を巡って 「華岡青洲の麻沸散」の実験的追試. 科学医学資料研究 2002;30:1-9.
- A.8. 松木明知、マニュアルを作って医療事故が防げるかーシンポジウム「医療事故の問題点」から一、学術の 動向 2002:7:74-5.
- A.9. 松木明知. 新史料の発見と熟読. 弘前市医師会報 2002:(282):72.
- A.10.松木明知. 研究方法に違いはあるのか-医学の研究と医学史の研究の比較-. 弘前市医師会報 2002; (283):56-8.
- A.11.松木明知. Sir William Osler の "And Hospital" 大学病院のあるべき姿-. 青森県医師会報 2002;(469): 216-8.
- A.12.松木明知. 華岡青洲の「乳巖姓名録」の研究 個別の症例記録との比較検討. 日本医史学雑誌 2002;48: 53-65.

- A.13. <u>松木明知</u>. 新に確定された青洲の乳癌患者三名の死亡年月日. 日本医史学雑誌 2002;48:175-83. B.1. 村川徳昭, 櫛方哲也, <u>松木明知</u>. 特殊な合併症を有する緊急開頭手術患者の麻酔. 救急医学 2002;26:730-2. B.2. 村川徳昭, 神 敏郎, <u>松木明知</u>. 緊急脳動脈瘤根治術中に発生した心室細動の1症例. 麻酔 2002;51:203-5.

2003年度

- A.1. 沼田有里佳, 坪 敏仁, 石原弘規, 松木明知. 細菌性心内膜炎の疣贅を経食道心エコーを用いて経時的に 観察した 1 症例. 循環制御 2003;24:61-5.
- A.2. 遠瀬龍二, 窪田 武, 廣田和美, 坂井哲博, 石原弘規, 松木明知. 全静脈麻酔中に再生らせんチューブの
- 内腔閉塞を来した 1 症例. 麻酔 2003;52:1218-20. A.3. 橋場英二, 窪田 武, 坪 敏仁, 鈴木朗子, 北山真任, <u>松木明知</u>. 術中左室流出路形成術を余儀なくされ た閉塞性肥大型心筋症合併急性解離性大動脈瘤の1例. 臨床麻酔 2003;27:41-4.
- A.4. 滝口規子, 高橋 敏, 中村仁美, <u>櫛方哲也</u>, <u>石原弘規</u>, <u>松木明知</u>. 新しい気管支ブロッカー: クーデック R 気管支ブロッカーチューブの使用経験. 臨床麻酔 2003;27:836-8.
- A.5. 村川徳昭, 堺 一郎, 松木明知, 巨大陰性 T波を有する手術患者の周術期管理, ICUと CCU 2003;27: 303-9.
- A.6. <u>松木明知</u>. 医療人として何が大切か. 医療は深い人間理解から 2003;146-72.
- A.7. 小谷直樹. 難治性帯状疱疹後神経痛の新しい治療と病態の研究-くも膜下腔酢酸メチルプレドニゾロン 投与を中心として-. 弘前医学 2003;54:141-6.
- A.8. 田辺 健, 石原弘規. 抗凝固作用薬剤内服を聞かずに針を刺してはいけない. 治療 2003;85:1388-90.
- A.9. <u>松木明知</u>. 麻酔科学史(第15回)ヤコビー線の謎. Anesthesia 21 Century 2003;5:58-9.
- A.10. 松木明知. 麻酔科学史(第16回) 麻酔科学史関係の著書. Anesthesia 21 Century 2003;5:58-9.
- A.11. 松木明知. 麻酔科学史(第17回) 華岡青洲と杉田玄白(1). Anesthesia 21 Century 2003;5:58-9.
- A.12. 松木明知. オアシス 190年振りに特定できたロシア語の種痘の本. 学術の動向 2003:8:44.
- A.13. <u>松木明知</u>. 医局制度廃止の意味するもの. 弘前市医師会報 2003; (288):67.
- A.14. 谷津祐市, 松木明知. エンド・ユーザーはだれか. 弘前市医師会報 2003;(291):44.
- A.15.<u>松木明知</u>. 津軽の腑分け事始め、弘大しらぎく 2003;(46):3-4. A.16.<u>松木明知</u>. 「八甲田雪中行軍の研究」を上梓して、青森県医師会報 2003;(480):230-1.
- A.17. 松木明知. 日本人の失った礼儀. 日医ニュース 2003; (996):4.
- A.18.松木明知. 深瀬泰旦著「天然痘根絶史-近代医学勃興期の人びと-」. 日本医史学雑誌 2003;49:395-6.
- 麻酔科学史の新研究(9)「笑気研究会」の歩み. 麻酔 2003;52:551-7. A.19. 松木明知.
- A.20. 石原弘規. 質疑応答 インスリン投与下の脂質投与は有効か. 臨床麻酔 2003;27:879-80.
- A.21. 松木明知. 八甲田雪中行軍遭難事件について. 楡刀会会報 2003;5-12.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著. 総説 (A. Bのみ)

<u>英文</u>

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Acta Anaesthesiol Scand	1.435	1	1.435
Anesth Analg	2.279	5	11.395
Eur J Anaesthesiol	0.996	2	1.992
Naunyn Schmiedeberg's Arch Pharmacol	2.472	1	2.472
Eur J Anaesthesiol	0.996	1	0.996
Total		10	18.29

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Acta Anaesthesiologica Scand	1.508	1	1.508
Anesth Analg	2.332	2	4.664
Br J Anaesth	2.098	2	4.196
Brain Research	2.409	1	2.409
Eur J Anesthesiol	1.193	2	2.386
J Clin Anesth	0.748	1	0.748
Naun-Sch Arch Pharma	2.566	1	2.566
Neuroscience	3.457	1	3.457
Neurosci lett	2.1	1	2.1
Curr Neuropharmacol	0	1	0
Br J Anaesth	2.098	1	2.098
Total		14	26.132

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
Clinical Neuroscience			1	
LiSA			2	
ペインクリニック			2	
日本医事新報			1	
麻酔			3	
ICUとCCU			1	
臨床透析			1	
日本整形外科学会雑誌				1
気管支学				1
	計		11	2

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	1
編	集	0	0
分担執	筆	1	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	3	0
編	集	4	0
分担執筆		40	5

3. その他 (A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Eur J Anaesthesiol	0.996	1	0.996
Total		1	0.996

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Anesth J Clin Neurosci	0 0.543	2	0 0.543
J Chil Technologi	0.010	1	0.010
Total		3	0.543

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
麻酔			2	2
臨床麻酔			1	3
救急医学			1	
Anesthesia 21 Century			3	3
科学医学資料研究			2	
学術の動向			1	1
日本医史学雑誌			2	1
弘前市医師会報			2	2
青森県医師会報			1	1
循環制御				1
治療				1
ICU & CCU				1
弘前医学				1
弘大しらぎく				1
日医ニュース				1
楡刀会会報				1
	計		15	20

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- A.1. Sato T. Cancer pain management. Pusan Ulsan Kyongnam Pain Society, Pusan, Korea, 2002
- C.1. Kitayama M, Hirota K, Kudo M, Kudo T, Ishihara H, Matsuki A. Inhibitory effects of intravenous anesthetic agents on K+-evoked glutamate release from rat cerebrocortical slices International Anesthesia Research Society 76th Clinical and Scientific Congress San Diego, U.S.A, 2002
- C.2. Mi WD, Sakai T, Furukawa K, Matsuki A. Gene expression and anesthetics. 7th America-Japan Anesthesia Congress Yamanashi, Japan, 2002
- C.3. Mi WD, Sakai T, Furukawa K, Matsuki A. IGFBP genes expression is induced by sevoflurane, but not by ketamine. 2nd China-Japan Medical Conference 2002 Beijing, China, 2002
- C.4. Sakai T, Tanabe T, Mi WD, Matsuki A. BIS monitoring on schizophrenic patients. 2nd China-Japan Medical Conference Beijing, China, 2002
- C.5. Tanabe T, Kimura N, Mi WD, Sakai T, Matsuki A. Awake, preoperative BIS values are lower in schizophrenic patients than in normal controls. 56th Postgraduate Assembly in Anesthesiology New York, U.S.A, 2002
- C.6. Tsubo T, Yatsu Y, Hashiba E, Ishihara H, Matsuki A. A method to measure regional pulmonary blood flow with transesophageal echocardiography in acute lung injury dog model. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists Orland, U.S.A, 2002
- C.7. Hashiba E, Hirota K, Calo G, Kudo T, Matsuki A. The effects of intravenous nociceptin/orphanin FQ on plasma concentrations of catecholamines in guinea pigs. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists Orland, U.S.A, 2002
- C.8. Ishihara H, Nakamura H, Takamura K, Okawa H, Tsubo T, Matsuki A. Initial distribution volume of glucose, not central blood volume mirrors subsequent hypovolemia early after coronary artery bypass grafting. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists Orland, U.S.A, 2002

- A.1. Kushikata T. Role of orexigenic neuron in barbiturate ansthesia. Pusan-Ulsan-Kyongnam Anesthesia Society. Pusan. Korea 2003
- C.1. <u>Hashiba E</u>, <u>Hirota K</u>, Calo' G, Guerrini R, <u>Matsuki A</u>. Effects of nociceptin/orphanin FQ cream on capsaicin cream-induced pain in human volunteers. 8th Italian Pharmacological Society Monothematic Meeting on: Nociceptin/Orphanin FQ and its Receptor, Camerino, Italy, 2003
- C.2. <u>Yatsu Y</u>, Tsubo T, Nakamura H, <u>Matsuki A</u>. Atelectasis model to observe regional pulmonary blood flow using transesophageal echocardiography. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists, San Francisco, U.S.A, 2003
- C.3. Iijima H, Ueyama H, <u>Ishihara H</u>, Kohase H, Kotake Y. Determination of the standard value of circulating blood volume in multi-center uniform measurement by using pulse dye-densitometry. Annual Meeting

- of American Society of Anesthesiologists, San Francisco, U.S.A, 2003
- C.4. Iijima T, Oi Y, Koyama K, Ishihara H, Ueyama H: The reduction of blood pressure relates to the perioperative values of circulating blood volume. - multi-center study by using pulse dye densitometry. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists, San Francisco, U.S.A, 2003
- C.5. Tsubo T, Yatsu Y, Okawa H, Ishihara H, Matsuki A: One-lung ventilation model to measure regional pulmonary blood flow using transesophageal echocardiography. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists, San Francisco, U.S.A, 2003

(2)全国学術集会

2002年度

- A.1. 小谷直樹. 生体侵襲が肺胞マクロファージ機能に及ぼす影響. 第12回横浜麻酔懇話会, 横浜, 2002
- A.2. 松木明知. 山口少佐と八甲田雪中行軍 -新発見の資料による生存救助者の症状を中心に一. 平成13年 度青森県医史学研究会,青森,2002
- A.3. 佐藤哲観. がん性疼痛治療の基本戦略. 第412回八戸胃腸研究会, 八戸. 2002
- A.4. 松木明知. サイエンスとアートの狭間で. 第28回日本口腔外科学会北日本地方会, 弘前, 2002
- A.5. 松木明知. 八甲田雪中行軍の光と影. 宮城鵬桜会総会, 仙台, 2002 A.6. 松木明知. Sir William Osler と私の関わり. 日本オスラー協会総会,
- A.7. 松木明知. 八甲田雪中行軍の研究-特に中原貞衛軍医を中心に-. 艮陵会青森県支部総会, 青森, 2002
- A.8. 松木明知. 江戸時代における青森県の医療が全国に及ぼした影響-とくに津軽の阿片を中心として-. 第17回日本整形外科学会基礎学術集会,青森,2002 A.9. <u>松木明知</u>. 華岡青洲と全身麻酔. 市民公開講座「麻酔の日」講演会,弘前,2002
- A.10. 松木明知. Wooley and Roe 事件から学ぶもの 一脊髄くも膜下麻酔事故に関連して一. 第15回日本局所 麻酔学会, 甲府, 2002
- A.11.大川浩文. エラスポールの使用経験から. 弘前 SIRS・ALI セミナー, 弘前, 2002 教育講演
- A.1. 佐藤哲観. 癌性疼痛の薬物療法. 武田製薬株式会社研修会, 弘前, 2002
- A.2. 小谷直樹. 帯状疱疹後神経痛の最新の治療. 第49回日本麻酔科学会. 福岡. 2002
- A.3. 松木明知. 医療人として何が大切か. 長崎大学医学部集中講義(医療と人間), 長崎, 2002

- A.4. <u>廣田和美</u>. 手術時の麻酔について. 持田製薬株式会社研修会, 弘前, 2002 A.5. 大川浩文. ICU の仕組みについて. 持田製薬株式会社研修会, 弘前, 2002 A.6. 大川浩文. 心電図が読めるコツ. 看護トピックス研修会, 弘前, 2002 B.1. 石原弘規, 高平陽子, 橋本 浩, 村岡正敏, 松木明知. レーザー照射による腫瘍焼却中に生じた気道内熱 傷. 第37回青森県臨床麻酔研究会,青森, 2002
- 23件

2003年度

- A.1. 松木明知、雪中行軍山口少佐の死の背景、第39回日本腹部救急医学会、弘前、2003
- A.2. 松木明知, 八甲田雪中行軍漕難事件(1902年)における救助活動, 第6回日本臨床救急医学会, 横浜, 2003
- A.3. 小谷直樹、生体侵襲が肺胞マクロファージにおよぼす影響-吸入物質の影響を中心として-. 第50回日 本麻酔科学会,横浜,2003
- A.4. 松木明知. 八甲田雪中行軍事件: 特に第5 連隊と第31連隊による捜索活動について. 第17回日本看護歴史 学会, 青森, 2003
- A.5. 松木明知、謎に包まれた八甲田雪中行軍-とくに山口少佐の死因を中心として-. 第68回日本泌尿器科 学会東部総会, 弘前, 2003
- A.6. 松木明知. 八甲田雪中行軍事件に関する最近の知見. 平成15年度日医生涯教育講座, 青森, 2003
- B.1. <u>石原弘規</u>. 術前食事制限が必要であるとの立場から. 第50回日本麻酔科学会, 横浜, 2003
- B.2. 石原弘規. 周術期の体液管理 体液量測定の最近の進歩を中心に. 第15回日本老年麻酔学会, 盛岡. 2003 11件

III. 学術賞

2002年度

- 1. 小谷直樹 第7回弘前大学医学部学術賞学術特別賞 「難治性帯状疱疹後神経痛に対する新しい治療 法と病態の研究|
- 2. 丹羽英智, 高橋彩香, 田辺 健, 米衛東, 坂井哲博, 松木明知 第9回日本静脈麻酔 Infusion Technology研究会 JSIVA 賞 「新しい麻酔深度指標 AAI の麻酔導入時における変化—BIS との比
- 3. 照井君典, 高橋良博, 佐々木伸也, 工藤 耕, 須貝道博, 青木昌彦, 三浦弘行, 大熊洋輝, 対馬敬夫, 一戸 学, 間宮和久, 村岡正敏 第5回弘前大学医学部附属病院診療奨励賞診療技術賞 「小児悪性固 形腫瘍の習学的治療体制の構築し

IV. 共同研究

2002年度

1. 石原弘規, 斎藤光憲 (東和電機工業):少量のブドウ糖負荷による経皮的血漿ブドウ糖濃度測定精度に 関する研究, 平成14年12月

2. 石原弘規, 須郷義広(日本光電株式会社):脈波伝播時間を用いた非侵襲連続心拍出量の測定, 平成14 年11月

2003年度

- 1. 石原弘規, 斎藤光憲 (東和電機工業). 集中治療室における経皮的血漿ブドウ糖濃度測定に関する研究 2. 石原弘規, 飯島毅彦 (杏林大学), 他. 多施設共同研究による経皮的循環血液量測定に関する研究. (成 果は Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists で発表した)
- 3. 石原弘規、須郷義広(日本光電株式会社、他)通常のモニターのみを使用した連続心拍出量測定法の 臨床研究
- 4. 共同研究・英国グラクソスミスクライン株式会社、代表・廣田和美、オレキシン-1型受容体拮抗薬の 薬理作用に関する研究
- 5. 共同研究・英国レスター大学医学部麻酔科学教室、代表・廣田和美、全身麻酔薬の神経伝達物質放出 に及ぼす影響と作用機序に関する研究
- 6. 共同研究・イタリア・フェラーラ大学医学部薬理学教室、代表・廣田和美、生理活性物質ノシセプチ ンの薬理学的作用とその臨床応用

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

小谷直樹 基盤研究B 4,300千円「肺胞免疫細胞と表皮細胞を標的とする急性肺障害の遺伝子治療」 廣田和美 基盤研究B 11,600千円「単一受容体ではなく脳内ノルアドレナリン神経網による全身麻酔機 序の一元化」

大川浩文 若手研究B 1,800千円「ノシセプチンの疼痛に及ぼす影響の検討―ノルアドレナリン作動性 神経との関連」

松木明知 基盤研究 C 1,000千円「全身麻酔後の睡眠障害の研究―牛理的睡眠物質の動態と関連する かーし

2003年度

研究代表者として

廣田和美 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究B), 単一受容体ではなく脳内ノルアドレナリン神 経網による全身麻酔機序の一元化。1,200千円

他研究単位との研究分担者として

廣田和美 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C),全身麻酔後の睡眠障害の研究―生理的睡眠物 質の動態と関連するか.

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

他研究単位との研究分担者として 小谷直樹 厚生労働省癌研究助成金 1,350千円「癌患者の安全な周術期管理を目指した研究」

(3)学内の研究助成

2002年度

研究代表者として 麻酔科(臨床系) インセンティブ研究助成 1,015,335円

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として 櫛方哲也, 廣田和美, 工藤美穂子 (社) 青森医学振興会助成金 500千円 「全身麻酔薬が血中オレキシン 濃度に及ぼす影響|

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘. 受け入れ状況

中国 米衛東 財団法人日中笹川医学研究者 英国 レスター大学麻酔薬理研究所所長 David G Lambert

2003年度

刘靖,解放軍病院,中国,4月21日~3月31日 Mr Phillip Evans,エジンバラ大学,英国,5月9日~5月23日 Dr David G Lambert,レスター大学,英国,6月1日~6月12日 Dr Christophe Orban,ニース大学,フランス,6月3日~7月2日 Prof Dominique Grimaud,ニース大学,フランス,6月29日~7月1日

c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

2002年度

Rose BO ドイツハノーファー医科大学麻酔科よりブドウ糖初期分布容量測定研修,2003年1月~2003年2月(2ヵ月間)

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

2003年度

廣田和美 フランス・ニース大学医学部麻酔科での視察,講演 1週間 廣田和美 英国・レスター大学医学部麻酔科での研究参加,講演 1週間

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

2002年度

北山真任 英国レスター大学留学(2002年7月〜現在) 安田忠伸 米国ワシントン州立大学留学(2003年3月〜現在)

2003年度

安田忠伸 米国ワシントン州立大学留学

f) その他

なし

(2)国内. 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2002年度

松木明知 第7部救急・麻酔・集中治療医学研究連絡委員会シンポジューム 日本医科大学同窓会14号館橘桜会館 5月24日

b)地方レベルの学会の主催

2003年度

第8回青森県周術期管理研究会(ホテル青森) 第22回青森県集中治療研究会(青森県観光物産館アスパム) 第17回青森県疼痛研究会(ホテル青森) 第38回青森県臨床麻酔研究会(ホテル青森)

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d)国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況

なし

VII. その他

2003年度

石原弘規

Critical Care Medicine 査読委員 Medical Science Monitor 査読委員

廣田和美

British Journal of Anaesthesia 国際編集委員 Journal of Anesthesia 編集委員会顧問 Anesthesiology 查読委員
Critical Care Medicine 查読委員
Ion Channel Modulator 查読委員
Clinical Experimental Pharmacology and Physiology 查読委員
Journal of Pharmacy and Pharmacology 查読委員
Clinical Drug Investigation 查読委員
Tohoku Journal of Experimental Medicine 查読委員
Brain Research查読委員
Molecular Genetics & Metabolism 查読委員
BMC Pharmacology 查読委員

31. 脳神経外科学講座

【研究単位の目標到達度, 理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

前回掲げた目標に対し、これを達成すべく、各研究グループが研究活動に取り組んできた。その結果、目標に到達したと判断し得る。

理念:

脳神経外科領域において重要な課題である、くも膜下出血、悪性脳腫瘍の治療、深部脳腫瘍の手術治療などに焦点を当て研究活動を行っていく。

これから2年間の目標:

これまでの研究成果を基に、これをさらに展開させ、英文原著論文数および国際学会における発表の増加に結びつけていく。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講印	师 2, 耳	助手	3, 医員 1, 大学院学生 4, 研究生 0					
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間					
	教 授	専 任	鈴木	重晴	2002年4月~2003年3月					
】 教 官	助教授	専 任	関谷 着	徹治	2002年4月~2003年3月					
	講師	専 任	高橋 領	敏夫	2002年4月~2003年3月					
(教授~助手)	講師	専 任	大熊	洋揮	2002年4月~2003年3月					
の詳細	助 手	専 任	尾金 -	一民	2002年4月~2003年3月					
	助手	専 任	浅野研-	一郎	2002年4月~2003年3月					
	助手	専 任	嶋村 身	則人	2002年4月~2003年3月					
	1. 脳血管攣縮の病態の解明									
	2. 脳血管導	2. 脳血管攣縮の治療法の開発								
	3. 蝸牛神経	3.蝸牛神経中枢性 axon の外傷性変性と再生に関する研究								
	4. 電気生理	世学的術中モニ	タリング							
研究課題	5. 求心路遮	医断痛の発現機関	字に関する	る研究						
切九杯趣	6. パーキン	ソン病振戦発	見機序に関	関する	研究					
	7. 下垂体膜	7. 下垂体腺腫の臨床的研究								
	8. 脳動脈瘤の発生機序の解明									
	9. 脳血管障	章害に対する遺(云子治療法	去の開	発					
	10. 脳磁場測	ll定装置(MEG) を用い	た大脳						

研究人員	教授 1, 耳	力教授 1,講師	师 2,	助手	4, 医員 2, 大学院学生 3, 研究生 1
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
	教 授	専 任	大熊	洋揮	2004年2月~2004年3月
	助教授	専 任	関谷	徹治	2003年4月~2004年3月
	講師	専 任	高橋	敏夫	2003年4月~2003年9月
教 官	講師	専 任	大熊	洋揮	2003年4月~2004年1月
(教授~助手)	助手	専 任	浅野研	开一郎	2003年9月~2004年3月
の詳細	助 手	専 任	嶋村	則人	2003年4月~2004年3月
	助 手	専 任	田畑	英史	2003年4月~2003年8月
	助 手	専 任	竹村	篤人	2003年4月~2003年9月
	研修医		菊池	潤	2003年4月~2004年3月
	研修医		棟方	聡	2003年4月~2004年3月
	1. くも膜7	下出血後の脳血管	管攣縮0)病態解	明

- 2. くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する治療法の開発
- 3. 脳動脈瘤の発生機序の解明
- 4. 解離性脳動脈瘤の疫学的研究
- 5. 悪性脳腫瘍の治療法の開発
- 6. 深部脳腫瘍手術時のモニタリング法の開発
- 7. 脳内血腫に対する神経内視鏡併用手術法の開発

【研究業績】

研究課題

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. <u>Sekiya T</u>, Shimamura N, Yagihashi A, Suzuki S: Axonal injury in auditory nerve observed in reversible latency changes of brainstem auditory evoked potentials (BAEP) during cerebellopontine angle manipulations in rats. Hear Res 2002; 173: 91-9.
- A.2. <u>Sekiya T</u>, Yagihashi A, Asano K, Suzuki S: Nimodipine ameliorates trauma induced cochlear neuronal death. Neurol Res 2002; 24: 775-80.
- A.3. Ohkuma H, Suzuki S, Ogane K. Dissecting aneurysms of intracranial carotid circulation. Stroke 2002; 33: 941-7.
- A.4. Ohkuma H, Nakano T, Manabe H, Suzuki S. Subarachnoid hemorrhage caused by a dissecting aneurysm of the internal carotid artery. J Neurosurg. 2002; 97: 576-83.
- A.5. Ohkuma H, Tabata H, Suzuki S, Islam MS. Risk factors for aneurysmal subarachnoid hemorrhage in Aomori, Japan. Stroke 2003; 34: 96-100.
- A.6. Ohkuma H, Suzuki S, Kudo K, Islam S, Kikkawa T. Cortical blood flow during cerebral vasospasm after aneurysmal subarachnoid hemorrhage: three-dimensional N-isopropyl-p [(123)I]iodoamphetamine single photon emission CT findings. Am J Neuroradiol 2003; 24: 444-50.
- A.7. Ohkuma H, Suzuki S, Shimamura N, Nakano T. Dissecting aneurysms of the middle cerebral artery: neuroradiological and clinical features. Neuroradiology 2003; 45: 143-8.
- A.8. Shimamura N, Sekiya T, Yagihashi A, Suzuki S: Temporal pattern of cochlear nerve degeneration following compression injury: a quantitative experimental observation. J Neurosurgery 97: 929-34, 2002

2003年度

- A.1. Ohkuma H, Suzuki S, Kikkawa T, Shimamura N. Neuroradiologic and clinical features of arterial dissection of the anterior cerebral artery. Am J Neuroradiol. 2003; 24: 691-9.
- A.2. <u>Islam MS</u>, <u>Ohkuma H</u>, Kimura M, <u>Suzuki S</u>. In vitro effects of new generation fungal derived nitric oxide donors on rabbit basilar artery. Neurol Med Chir. 2003; 43: 175-80.
- A.3. <u>Tsurutani H, Ohkuma H, Suzuki S</u>. Effects of thrombin inhibitor on thrombin-related signal transduction and cerebral vasospasm in the rabbit subarachnoid hemorrhage model. Stroke. 2003; 34: 1497-500.
- A.4. Ohkuma H, Shimamura N, Fujita S, Suzuki S. Acute subdural hematoma caused by aneurysmal rupture: incidence and clinical features. Cerebrovasc Dis. 2003; 16: 171-3.
- A.5. Ohkuma H, Suzuki S, Ogane K. Phenotypic modulation of smooth muscle cells and vascular remodeling in intraparenchymal small cerebral arteries after canine experimental subarachnoid hemorrhage. Neurosci Lett. 2003; 344: 193-6.
- A.6. Ohkuma H, Suzuki S, Fujita S, Nakamura W. Role of a decreased expression of the local renin-angiotensin system in the etiology of cerebral aneurysms. Circulation. 2003; 108: 785-7.
- A.7. Nakano T, Ohkuma H, Ebina K, Suzuki S. Neuroendoscopic surgery for intracerebral haemorrhage--comparison with traditional therapies. Minim Invasive Neurosurg. 2003; 46: 278-83.
- A.8. Nakano T, Ohkuma H, Suzuki S. Measurement of ankle brachial index for assessment of atherosclerosis in patients with stroke. Cerebrovasc Dis. 2004; 17: 212-7.
- A.9. <u>Islam S</u>, Ogane K, <u>Ohkuma H</u>, <u>Suzuki S</u>. Usefulness of acellular dermal graft as a dural substitute in experimental model. <u>Surg Neurol.</u> 2004; 61: 297-302.
- A.10. <u>Asano K</u>, Duntsch CD, Zhou Q, Weimar J, Bordelon D, Robertson JH, Pourmotabbed T. Correlation of N-cadherin expression in high grade glioma with tissue invasion. J Neuro-oncol, 2003, in press
- A.11. Sekiya T, Shimamura N, Yagihashi A, Suzuki S. Effect of topically applied basic fibroblast growth factor on injured cochlear nerve. Neurosurgery. 2003 Apr; 52: 900-7
- A.12. Sekiya T, Yagihashi A, Shimamura N, Asano K, Suzuki S, Matsubara A, Namba A, Shinkawa H. Apoptosis of auditory neurons following central process injury. Exp Neurol. 2003 Dec; 184: 648-58.

和文

- A.1. 大熊洋揮, 鈴木重晴. 80歳以上の破裂脳動脈瘤の予後に影響を与える因子とその対応策-70歳代例との比較検討-. Geriatric Neurosurgery 2003; 15: 11-5.
- A.2. 大熊洋揮、鶴谷尚信、尾金一民、<u>鈴木重晴</u>. 脳内細動脈平滑筋細胞の形質転換とリモデリングー脳血管攣縮時の微小循環障害への役割-. 脳卒中の外科 2003; 31: 11-5.

- A.3. <u>嶋村則人、大熊洋揮</u>、尾金一民、真鍋 宏、<u>八木橋彰憲</u>、吉川朋成、<u>鈴木重晴</u>: 脳磁図を用いた運動野近 傍脳動静脈奇形における中心溝転位の検討. CI 研究 2003; 25: 109-14.
- A.4. 浅野研一郎, 関谷徹治, 大熊洋揮, Duntsch CD, Robertson JH. N-カドヘリン遺伝子を利用した悪性神経 膠腫の浸潤予防効果について:動物実験による検討, Neuro-Oncology, 2003; 19: 15-20.

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

A.1. <u>関谷徹治</u>, 鈴木重晴:外傷性蝸牛神経変性による聴覚障害:「定量的蝸牛神経変性モデル」による研究展開、神経外傷 2002: 25: 59-64.

2003年度

A.1. 大熊洋揮. 脳血管攣縮時の脳微小循環系の変化. 分子脳血管病 2003; 2: 31-8.

(3)著書

英文

2003年度

A.1. Ohkuma H, Ogane K, Suzuki S. Microcirculatory changes during acute phase of aneurysmal subarachnoid hemorrhage evaluated by clinical and experimental studies. *Advances in Brain Research*, Satoh K, Suzuki S, Matsunaga M, editors. Elsevier Science B.V.: Amsterdam; 2003. p.39-55.

和文

2002年度

- A.1. <u>関谷徹治</u>: 脳神経減圧術中の電気生理学的術中モニタリング. 悩める人々のための脳神経減圧術. よりよい治療をめざして. 編著 近藤明悳, サイメッド パブリケーションズ:東京; 2002, p.74-88.
- A.2. <u>関谷徹治</u>:第2章, 顔面けいれんの発生機序. 顔面筋の異常運動. 編:小林武夫, 金原出版株式会社:東京; 2002, p.19-37.
- A.3. <u>関谷徹治</u>, 鈴木重晴: 先端医療シリーズ16・脳神経外科「機能的脳神経外科の最先端」第10章 術中モニタリング 2. SEP, ABR による術中モニタリング. 監修 高倉公朋, 菊池晴彦, 先端医療技術研究所: 東京; 2002, p.369-72.

2003年度

A.1. <u>関谷徹治,嶋村則人,浅野研一郎,鈴木重晴</u>. 頭蓋底腫瘍の手術. 片山容一,山本隆充 編. 脳神経外科 手術のための神経モニタリングアトラス. 医学書院. 2003; p.167-76.

(4)その他

英文

2002年度

- A.1. <u>Sekiya T</u>, Suzuki S. A classification system of vestibular schwannomas. In: Kanzaki J, Tos M, Sanna M, Moffat DA, Kunihiro T, Inoue Y (eds), Acoustic Neuroma. Consenseus on systems for reporting results. Springer Verlag, Tokyo, 45-48, 2003.
- A.2. <u>Sekiya T</u>, Yagihashi A, Hatayama T, Suzuki S, Matsubara A, Namba A, Shinkawa H. Neuroprotection of auditory nerve during microvascular decompression: an experimental basis for anti-apoptotic therapy. In; Kanno T (ed), Microvascular Decompression. Aiming for 100% cure. Proceedings of 5th Meeting of The Society for Microvascular Decompression Surgery. 1st Oct, 2002, Matsumoto, Japan, pp 151-159.
- A.3. <u>Takahashi T</u>, Kanae Kudo, Satoshi Ito, Shigeharu Suzuki. Spontaneously ruptured craniopharyngioma cyst without meningitic symptoms -Two case reports. Neurol Med Chir (Tokyo), 2003; 43: 150-2.
- A.4. Ohkuma H, Ogane K, Suzuki S. Microcirculatory changes during acute phase of aneurysmal subarachnoid hemorrhage evaluated by clinical and experimental studies. Advances in Brain Research, Satoh K, Suzuki S, Matsunaga M, editors. Elsevier Science B.V., Amsterdam, 2003, 39-55.
- A.5. Shimamura N, Ogane K, Takahashi T, Tabata H, Ohkuma H, Suzuki S. Pituitary abscess showing high uptake of thallium-201 on single photon emission computed tomography--case report. Neurol Med Chir 2003; 43: 100-103.
- A.6. <u>Islam MS</u>, Asano K, Tabata H, Ohkuma H, Suzuki S. Pineal region tumor manifesting initially as hearing impairment. Neurol Med Chir 2002; 42: 301-304.

2003年度

A.1. Shimamura N, Asano K, Ogane K, Yagihashi A, Ohkuma H, Suzuki S. A case of definitely congenital glioblastoma manifested by intratumoral hemorrhage. Childs Nerv Syst. 2003; 19: 778-781.

和文

2003年度

A.1. <u>浅野研一郎</u>, 大熊洋揮, 工藤香名江, 竹村篤人, <u>鈴木重晴</u>, 久保長生, 術前貯血式自己血輸血と希釈式自己血輸血を併用し全摘し得た頭蓋内巨大 hemangiopericytoma の 1 例,脳神経外科,2003,30,631-637

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hearing Reseach	1.586	1	1.586
Neurological Research	1.176	1	1.176
Stroke	5.33	2	10.66
Journal of Neurosurgery	2.748	2	5.496
American Journal of Neuroradiology	2.24	1	2.24
Neuroradiology	1.097	1	1.097
Total		8	22.255

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Am J Neuroradiol	2.463	1	2.463
Neurol Med Chir	0.399	1	0.399
Stroke	5.176	1	5.176
Cerebrovasc Dis	1.852	2	3.704
Neurosci Lett	2.100	1	2.100
Circulation	10.255	1	10.255
Minim Invasive Neurosurg	0.710	1	0.710
Surg Neurol	1.017	1	1.017
J Neuro-oncol	1.416	1	1.416
neurosurgery	2.896	1	2.896
Exp Neurol	3.641	1	3.641
Total		12	33.777

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
神経外傷 Geriatric Neurosurgery 脳卒中の外科 CI研究 Neuro-Oncology			1	1 1 1 1
	計		1	4

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	1

和文

種	I	2002年度	2003年度
単	著	2	0
編	集	0	0
分担	執筆	1	1

3. その他 (A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neurol Med Chir (Tokyo)	0.386	3	1.158
Total		3	1.158

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Childs Nerv Syst	0.819	1	0.819
Total		1	0.819

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
脳神経外科				1
	計		0	0

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- B.1. Ohkuma H, Ogane K, Suzuki S. Superior interhemispheric approach for anterior communicating artery aneurysm. 7th International Workshop on Cerebrovascular Surgery. Kyoto, 2002
- C.1. <u>Sekiya T</u>, Yagihashi A, Shimamura N, Hatayama T, Suzuki S: "Trauma-induced hearing loss due to necrotic and apoptotic auditory neuronal death in cerebellopontine angle manipulations: an experimental study" 2003 Joint Neurosurgical Convention (3rd International Mt. Bandai Symposium for Neuroscience 4th Pan Pacific Neurosurgery Congress). Honolulu and Maui, Hawaii, USA. February 22-28, 2003. (Proceedings, in press)
- C.2. Ohkuma H, Nakano T, Suzuki S. Headache as a warning sign for cerebral vasospasm. 6th Headache Congress, Istanbul, 2002.
- C.3. Ohkuma H, Nakano T, Suzuki S. Headache as a waning sign for arterial dissection. 6th Headache Congress, Istanbul. 2002.
- C.4. Nakano T, Ohkuma H, Suzuki S. Assessment of atherosclerosis by measurement of ankle brachial index as an indicative marker of stroke. 6th international conference on stroke and 3rd conference of the mediterranean stroke society, Monte Carlo, 2003.
- C.5. Nakano T, Ohkuma H, Suzuki S. Use of questionnaire in headache medicine. 6th Headache Congress, Istanbul, 2002.

2003年度

- C.1. Ohkuma H, Suzuki S, Ogane K. Vascular remodeling in intraparenchymal small cerebral arteries after experimental subarachnoid hemorrhage. 8th International Conference on Cerebral Vasospasm, Chicago, 2003
- C.2. <u>Shimamura N, Ohkuma H, Ogane K, Tabata H, Sekiya T, Suzuki S.</u> Displacement of central sulcus in cerebral arteriovenous malformation by magnetoencephalographic study. 2003 AANS Annual Meeting, San Diego, 2003.
- C.3. <u>Kenichiro Asan</u>o, Christopher D. Duntsch, Jon H. Robertson, Correlation of N-cadherin Expression in High Grade Gliomas with Tissue Invasion, 2nd Meeting of the Asian Society for Neuro-Oncology, Korea, Sheraton Grande Waikerhill, Seoul. Korea. 2003.

(2)全国学術集会

2002年度

- B.1. 畑山 徹、 <u>関谷</u>徹治, 嶋村則人, 八木橋彰憲, 鈴木重晴. 第4回「脳・神経手術モニタリング」ワークショップ MVD 術中モニタリングのスタンダード, 福島市. 2002.
- B.2. 大熊洋揮,中野高広,鈴木重晴. 外傷性頭蓋内解離性動脈瘤の臨床的検討. 第26回日本神経外傷学会, 2003.
- B.3. 大熊洋揮, 鶴谷尚信, 尾金一民, 鈴木重晴. 脳内細動脈平滑筋細胞の形質転換とリモデリング. 第19回スパズム・シンポジウム, 2003
- B.4. 大熊洋揮, 鈴木重晴, 尾金一民, 嶋村則人. 脳神経外科施設入院前の脳動脈瘤の再破裂. 第8回日本脳神経外科教急学会, 2003
- B.5. 大熊洋揮, 鈴木重晴, 尾金一民. 未破裂脳動脈瘤の破裂率. 第61回日本脳神経外科学会総会, 2002 C. 15件

2003年度

A.1. 大熊洋揮. 脳動脈瘤性くも膜下出血と脳血管攣縮. 第6回日本脳神経看護研究学会, 弘前, 2003.

III. 学術賞

2002年度

- 1. 平成13年度日本神経外傷学会賞(牧野賞)(東京, 2002年) 受賞論文: Sekiya T, Hatayama T, Shimamura N, Suzuki S: An in vivo quantifiable model of cochlear neuronal degeneration induced by central process injury. Exp Neurol 161: 490-502, 2000.
- 2. 第23回中村隆賞 銀賞(平成14年12月) 大熊洋揮
- 3. 第61回日本脳神経外科学会総会奨励賞 嶋村則人 Displacement of Central Sulcus in Cerebral Arteriovenous Malformation by Magnetoencephalographic Study

IV. 共同研究

2003年度

- 1. 東北脳腫瘍懇話会 low grade glioma 調査
- 2. 小児がん東北地区調査

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

他研究単位との研究分担者として

- 1. 文科省科研費 基盤研究(B)(2)(13557112)「外傷性蝸牛神経変性に対する治療方法の探求」 研究 代表者: 関谷徹治 1,900千円
- 2. 基盤研究(B)(2) 求心路遮断痛に対する大脳皮質電気刺激療法の作用機序に関する研究:大脳辺縁
- 系の関与についての c-fos を用いた検討 高橋敏夫 1,300千円 3. 萌芽研究 パーキンソン病振戦を薬理学的に作り出せるか? 高橋敏夫 600千円
- (2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

2002年度

研究代表者として

- 1. 第20回唐牛記念医学研究基金助成金 (A) 大熊洋揮 2. インセンティブ経費 小規模ながら輝く研究 脳磁図計測装置および磁気共鳴画像による脳表解剖 に基づいた言語野同定法の確立 嶋村則人 980千円
- (4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流,国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

2002年度

1名 バングラデシュより

2003年度

バングラデシュより1名 ハンガリーより1名

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

大熊洋揮:ルイジアナ州立大学(視察・講演)(2003年7月13日~17日) 嶋村則人: John Zhang, Louisiana State University-Health Science Center, USA, 2003.4.30~5.2

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

2003年度

浅野研一郎: 2002年1月より2003年4月まで、Department of Neurosurgery, The University of Tennessee Health Science Center, Memphis, TN, USAへ留学

f) その他

なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2002年度

第18回スパズム・シンポジウム

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

第26回北日本脳神経外科連合会学術集会

2003年度

第1回青森県脳卒中フォーラム(平成15年9月20日) 第2回青森県脳卒中フォーラム(平成16年3月27日)

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学) 状況 なし

VII. その他

32. 形成外科学講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

研究活動において、これからさらに努力を要するものと思われる。

理念:

臨床科として社会に貢献できる研究ならびに、形成外科の発展につながる基礎研究を行う。

これから2年間の目標:

臨床科として社会に貢献できる研究ならびに、形成外科の発展につながる基礎研究を行う。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 耳	b教授 1, 講師	师 0 ,	助手	3, 医員 4, 大学院学生 0, 研究生 0
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
教官	教 授 併 任 澤田 幸正 H14.4.1~15.3.31				
	助教授	専 任	四ッ村	卵高敏	H14. 4 . 1 ∼15. 3 .31
の詳細	(教授~助手) 助 手 専 任 横井 克憲		H14. 4 . 1 ∼15. 3 .31		
り活干が田	助手	専 任	漆舘	聡志	H14. 4 . 1 ∼15. 3 .31
	助 手 専 任 山下 建 H14.4.1~15.3.31				H14. 4 . 1 ∼15. 3 .31
	1. 創傷治癒に関する研究				
研究課題	2. 組織移植に関する研究				
切九林思	3. 皮弁生着	肯に関する研究			
	4. 組織培養	と 関する研究			

2003年度

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講師	新 O,	助手	3, 医員 4, 大学院学生 0, 研究生 0
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
教官	教 授	専 任	澤田	幸正	H15. 4 . 1 ∼16. 3 .31
(教授~助手)	助教授	専 任	四ッ様	卵高敏	H15. 4 . 1 ∼16. 3 .31
の詳細	助 手	専 任	横井	克憲	H15. 4 . 1 ∼16. 3 .31
(ノ)計画	助 手	専 任	漆舘	聡志	H15. 4 . 1 ∼16. 3 .31
	助 手	専 任	山下	建	H15. 4 . 1 ∼16. 3 .31
	1. 創傷治瘡	飯に関する研究			
研究課題	2. 組織移植に関する研究				
切九	3. 皮弁生着	肯に関する研究			
	4. 組織培養	をに関する研究			

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

- A.1. <u>Yotsuyanagi T, Watanabe Y, Yamashita K, Shinmyo Y, Urushidate S, Yokoi K, Sawada Y</u>. Reconstruction of defects involving the middle third of the auricle with a full-thickness conchal chondrocutaneous flap. Plast.Reconstr.Surg. 2002; 109; 1366-71.
- A.2. $\underline{\text{Yotsuyanagi T}}$. Early nonsurgical correction of congenital auricular deformities. Plast. Reconstr. Surg. $\underline{2002}$; $\underline{109}$; $\underline{914}$ -5.
- A.3. Yotsuyanagi T, Yamashita K, Watanabe Y, Urushidate S.Yokoi K. New treatment of a visible linear

scar in the scalp: multiple hair-bearing flap technique. Br.J.Plast.Surg 2002; 55; 324-5.

A.4. Yotsuyanagi T, Yamashita K, Urushidate S, Yokoi K, Sawada Y. Surgical correction of cauliflower ear. Br.J.Plast.Surg. 2002; 55: 380-6.

和文

2002年度

- A.1. 山下 建,渡辺庸介,渡辺 学,新明康宏,漆舘聡志,横井克憲,四ッ柳高敏,沢田幸正.顔面の熱傷瘢
- 痕に発生した粘液型悪性線維性組織球種の 1 例. 形成外科 2002; 45; 467-72. A.2. 山下 建, 渡辺庸介, 新明康宏, 漆舘聡志, 横井克憲, 四ッ柳高敏, 沢田幸正. Eccrine porocarcinomaの 2 例, 形成外科 2002; 45, 267-72.

2003年度

- A.1. <u>四ッ柳高敏, 漆舘聡志, 山下 建, 山内 誠, 樋熊有子, 三上 誠</u>. 小耳症の再建-最近の進歩 小耳症 における耳介形成術 -局所皮弁のバリエーション- 形成外科 2003;46:799-805.
- A.2. <u>漆舘聡志,渡辺庸介,山下 建,横井克憲,四ッ柳高敏</u>,<u>澤田幸正</u>.感染性心内膜炎より脳梗塞を発症し たと思われた重傷熱傷の1例 日本熱傷学会会誌 2003;29:165-70.
- A.3. <u>四ッ柳高敏</u>, <u>漆舘聡志</u> 形成外科の治療指針up date Ⅲ頭頚部の疾患 19副耳/耳瘻孔 形成外科; 2003; 46:106-7.
- A.4. 四ッ柳高敏, 山下 建 形成外科の治療指針up date Ⅲ頭頚部の疾患 20大きさの異常を伴わない耳介先 天異常. a 埋没耳. 形成外科 2003;46:107-8.
- A.5. 四ッ柳高敏, 山内 誠 形成外科の治療指針up date Ⅲ頭頚部の疾患 20大きさの異常を伴わない耳介先 天異常 b 立ち耳, 折れ耳, スタール耳 形成外科 2003; 46:109-10.
 A.6. 四ッ柳高敏, 樋熊裕子 形成外科の治療指針up date Ⅲ頭頚部の疾患 22.. 垂の形態異常(耳垂裂, 耳垂欠
- 損)形成外科 2003;46:110-1.
- A.7. 四ッ柳高敏, 三上 誠 形成外科の治療指針up date Ⅲ頭頚部の疾患 23. 外耳道狭 形成外科 2003; 46:112-3.

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文

2002年度

- A.1. Yotsuyanagi T, Urushidate S, Sawada Y. Reconstruction of Umbilicus Using a Skin Flap. Marwali Hrahap. Innovative Techniques in Skin Surgery. Marcel, Dekker, Inc. 2002, p.301-8.
- A.2. Yotsuyanagi T, Yamashita K, Sawada Y. Reconstruction of congenital and acquired earlobe deformity. N.I.Elsahy Clinics in plastic surgery Sunder Comp. 2002, p.249-56.
- A.3. Yotsuyanagi T, Yokoi K, Sawada Y. Non surgical Treatmant of various auricular deformities. N.I.Elsahy Clinics in plastic surgery Sunder Comp. 2002, p.327
- A.4. Yotsuyanagi T, Yamashita K, Shinmyo Y, Yokoi K, Sawada Y. A new operative method of correcting cryptotia using large Z-plasty. Miller,S.H. Year book of Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery. Mosby 2002

和文

2003年度

- A.1. <u>四ッ柳高敏</u> Ⅷ 特殊領域の熱傷の早期処置 2. 耳介の熱傷および熱傷後変形に対する治療. 百束比 古.形成外科 ADVANCE シリーズ II-10熱傷の治療最近の進歩.克誠堂;2003, p.153-60.
- A.2. 四ッ柳高敏, 沢田幸正. X 熱傷再建外科・最近の進歩 3 熱傷再建手術における thin flap の開発と適用 4) Tissue expander による熱傷瘢痕拘縮の治療 百束比古 形成外科 ADVANCE シリーズ II-10熱傷の 治療最近の進歩 克誠堂; 2003, p.258-65.
- A.3. 四ッ柳高敏 耳介血腫とカリフラワー耳 福田 修, 荻野洋一 形成外科手術手技選書 耳介の形成外科 克誠堂; 2003 印刷中
- A.4. <u>四ッ柳高敏</u> 生え際の低い小耳症に対する耳介再建 福田 修, 荻野洋一 形成外科手術手技選書 耳介 の形成外科 克誠堂;2003 印刷中
- <u>荻野洋一</u>,前川二郎,四ッ柳高敏 小耳症 福田 修,荻野洋一 形成外科手術手技選書 耳介の形成外 克誠堂;2003 印刷中

(4)その他

英文 なし

和文 なし

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Brit.J.Plast.Surg. Plast.Reconstr.Surg.	0.675 1.423	2 2	1.35 2.846
Total		4	4.196

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
形成外科 日本熱傷学会会誌			2	6
	計		2	7

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担]執筆	4	0

和文

種	I	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	5

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

B.1. <u>Yotsuyanagi T., Yamashita K., Urushidate S., Sawada Y</u>. Our approach for microtia with minimum sacrifice of the donor site. The 6th Korea-Japan congress of Plastic and Reconstructive Surgery. Seoul, Korea. 2002

(2)全国学術集会

2002年度

C. 5件

2003年度

C. 4件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

2002年度

他研究単位との研究分担者として 弘前大学重点研究 プロテオグリカン研究拠点の構築 2003年度

他研究単位との研究分担者として 弘前大学重点研究 プロテオグリカン研究拠点の構築 (4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし

- c) 外国研究機関からの留学生,研究生の受け入れ状況 なし
- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況 2002年度

四ッ柳高敏 耳介再建法の視察 Yonsei University,Korea

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

2002年度

澤田幸正 アルスター大学(連合王国,北アイルランド,ベルファスト)

2003年度

澤田幸正、イギリス連合王国、アルスター大学留学、2002年9月1日から2003年4月30日まで

f) その他

なし

- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

澤田幸正 第5回青森県形成外科医会学術集会

2003年度

澤田幸正 第80回日本形成外科学会北海道東北支部東北地方会 弘前

- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

33. 救急・災害医学講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

救急・災害医学講座は本年度設置されたため上記評価はできない。

理念:

救急・災害医学講座はリサーチスピリットを持ったよき救急医の育成を基本理念とする。

これから2年間の目標:

本年度講座は設置されたが教授の赴任は 2 月 1 日付であったため、研究・臨床面では本年度は何もできなかった。来年度からの 2 年間は救急部の立ち上げの時期であり、臨床面の充実に力を注ぐ必要がある。救急という分野は臨床面の充実により教育面の充実を図ることができる。今後の 2 年間は臨床と教育に重点を置く予定である。研究面では、本講座の特徴である被ばく医療、原子力災害について研究を行うと同時に急性中毒の治療についても研究を行いたい。

【研究人員及び研究課題】

2003年度

研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0						
教 官	役職 専任/併任の別 氏 名 評価年度内での在籍期間						
(教授~助手)	教 授						
の詳細	助教授 専任 滝口 雅博 1年						
	1. 毒薬物による急性中毒での病態生理の研究						
	2. 急性中毒初期治療における活性炭の効果および体内動態の研究						
	3. 放射線災害時の初期トリアージ技術の研究						
	4. キレート剤の安全性に関わる研究						
研究課題	5. 各種ショックにおける生体内急性期反応の研究						
训儿杯煜	6. 毒ガス兵器マスタードガスによる染色体への影響の研究						
	7. 医療のへき地度のスコア化に関する研究						
	8. 航空機による患者搬送システムに関する研究						
	9. 救急へリコプター運用に関する研究						
	10. 救急救護法の普及に関する実験的研究						

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2003年度

- A.1. <u>Masahiro T.</u> A training program for HEMS crew members in Japan, Japanese Journal of Aerospace and Environmental Medicine, 2003; 40: 13.
- C.1. <u>Yasushi A</u>, Yoshito K, Kazui S. Changes in the hemodynamic state of patients with lethal acute organophosphate poisoning. Veterinary and Human Toxicology, 2004; 46: 5-9.

和文

- A.1. 滝口雅博. へき地・離島におけるへき地度に関する研究-医療のへき地度スコア化の試み, へき地・離島 救急医療研究会誌, 2003; 4: 59-63.
- A.2. 滝口雅博. 航空機による救急救護にかかわる要員の安全教育の必要性, 日本臨床救急医学会雑誌, 2004; 7: 152.

- A.3. 滝口雅博. 我が国の除細動器機内搭載に至る経緯. 宇宙航空環境医学. 2003; 40: 43.
- B.1. 三浦牧也, 境 大地, 滝口雅博, 骨伝導補聴器(きくちゃんR), Prehospital Care, 2003; 16: 38-40.

(2)総説

英文 なし

和文

2003年度

- A.1. 滝口雅博. 経静脈心内膜下ペーシング, Emergency Nursing, 2003; 16. A.2. 滝口雅博. 救急現場における補助呼吸一Jackson-Rees 呼吸回路の使用方法と注意点, Prehospital Care, 2003; 16: 52-5.
- A.3. 滝口雅博. Books, 1. ショック一卵子提供一, 2. 病が語る日本史, Prehospital Care, 2003; 16: 78-9.
- A.4. 滝口雅博. 救える命~ヘリコプター救急の現状と課題, 交通安全教育, 2003; No.443: 6-13.
- A.5. 滝口雅博、Books, , 1. 生物兵器、テロとその対処法、2. 私の仕事―国連難民高等弁務官の十年と平和の 構築一. Prehospital Care, 2003; 16: 76-7.
- A.6. 滝口雅博. 正しい機材の使い方:酸素投与装置附属加湿装置 その1 基礎知識, Prehospital Care, 2003; 16: 30-3.
- A.7. 滝口雅博. Books, , 1. ドクターカー緊急出動, 2. 救急最前線が危ない! 気管内挿管問題から見える 救急医療-, Prehospital Care, 2003; 16: 72-3.
- A.8. 滝口雅博. メディカルコントロール体制に関する最近の動向, 弘前市医師会報, 2003; 38(3): 22-5.
- A.9. 滝口雅博. 正しい機材の使い方:酸素投与装置附属加湿装置 その2, Prehospital Care, 2003; 16: 38-43.
- A.10.滝口雅博. Books, 1. バカの壁, 2. 日本人の育児, Prehospital Care, 2003; 16: 74-5. A.11.滝口雅博. 気管内挿管法-その1 喉頭鏡の構造, その取り扱い, 喉頭の観察-, Prehospital Care, 2003; 16: 16-21.
- A.12. 滝口雅博. Books, 1. スイス探訪, 2. バイオテロと医師たち, Prehospital Care, 2003; 16: 56-67.
- A.13. 滝口雅博. Book Review「ナイティンゲール伝他一編」, Emergency Nursing, 2003; 16: 80.
- A.14.滝口雅博. 救急へリコプターの実現を夢見てきた思い等. はばたき. 全国航空消防防災協議会: 東 京;2003. 第7号:p7~17.
- A.15. 滝口雅博. 気管内挿管法 その2 -, Prehospital Care, 2003; 16: 18-26.
- A.16. 滝口雅博. Books, 1. 歴史の影絵, 2. 救急対応テクニカル・ガイド, Prehospital Care, 2003; 16: 56-67.
- A.17. 滝口雅博. Books, 1千年医師物語, 2. 病の世相史-江戸の医療事情-, Prehospital Care, 2004; 17: 72-3.
- A.18. 滝口雅博. Books,1. 必携ACLS心肺蘇生法-技術から教育まで-,ナースが始めるACLS, 2. ドクターへ リー救急医療とヘリコプター: 実現への道程・運用の実際・航空医学, Prehospital Care, 2004; 17: 84-5.
- C.1. <u>浅利 靖</u>, 吉岡敏治, 奥村 徹, 白川洋一, 島津岳士, 坂本哲也, 村田厚夫, 亀井徹正, 冨岡譲二, 遠藤容子. 急性中毒の標準治療-3-消化管除洗2 活性炭 中毒研究 2003;16:83-6.
 C.2. <u>浅利 靖</u>, 吉岡敏治, 奥村 徹, 白川洋一, 島津岳士, 坂本哲也, 村田厚夫, 亀井徹正, 冨岡譲二, 遠藤

- (C.3. <u>浅利</u> 靖. 中毒の初期対応 中毒の初療の新しい展開. Emergency Nursing 2003; 16: 21-5 (C.4. <u>浅利</u> 靖. 吉岡敏治, 奥村 徹, 白川洋一, 島津岳土, 坂本哲也, 村田厚夫, 亀井徹正, 冨岡譲二, 遠藤容子. 日本中毒学会が推奨する標準治療の解説 2 活性炭・緩下剤. 中毒研究 2003; 16: 365-71

(3)著書

英文 なし

和文

2003年度

- A.1. 滝口雅博. 気管挿管-手技と合併症予防, 荘道社:東京; 2004.
- B.1. 滝口雅博. 看護大辞典:総編集, 和田 攻, 南 裕子, 小峰光博, 医学書院:東京; 2003.
- B.2. 滝口雅博. 体液分布と異常-体液平衡のしくみ, 監修:相川直樹, 編集:篠澤洋太郎, 臨床に生かす体液 管理・輸液マニュアル、照林社:東京;2003. p6-9.
- B.3. 滝口雅博, ER テクニカルガイド, 編集太田宗夫, 高橋章子, 第4章基本的手技1. 気道確保, 2. 気道閉 塞の解除、3. 酸素投与、4. 人工換気、5. 除細動、医学芸術社:東京; 2003. p221-235. B.4. 滝口雅博. 気道確保法、太田宗夫編: 必携 ACLS、心肺蘇生法 技術から教育まで、2004; Emergency
- Nursing 2004年新春增刊号: 36-47.
- C.1. 浅利 靖, 胃洗浄法, 山口 徹, 北原光夫編 今日の治療指針2003, 医学書院:東京; 2003. p91.

(4)その他

英文 なし

和文 なし

- (5)発表論文のまとめ
- 1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Japanese Journal of Aerospace and Environmental Medicine	0	1	0
Total		1	0

和文 (論文数)

雑	盐	名	2002年度	2003年度
日本宇宙航空環境医学 へき地・離島救急医療 交通安全教育				1 1 1
Emergency Nursing Prehospital Care				3 14
弘前市医師会報			0	21

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	1
編	集	0	0
分担	執筆	0	4

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

なし

(2)全国学術集会

2003年度

- B.1. <u>浅利 靖</u>. 急性薬物中毒治療の質の向上に向けて-治療の標準化とクリニカルパスは有効か-急性中毒 治療の標準化に向けて、第25回日本中毒学会総会シンポジウム、福島、2003. B.2. <u>浅利 靖</u>. 急性中毒の標準治療:消化管洗浄-活性炭-. 第24回日本中毒学会総会ワークショップ、京都、
- 2002.
- C. 6件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

なし

(2)その他の省庁からの研究費

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
 - c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
 - d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
 - e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況なし
 - f) その他 なし
- (2)国内. 地域活動
 - a)全国レベルの学会の主催2003年度第49回日本宇宙航空環境医学会,2003年11月13日~15日,青森市
 - b)地方レベルの学会の主催

2003年度

第12回青森救急医学会, 2003年7月5日, 青森市

- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

34. 臨床検査医学講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- 1. 「高血圧疾患感受性遺伝子多型および変異の検査同定法の確立」については、重要な遺伝子多型を見い出しその病態的意義を検討してきている。
- 2. 「表面マーカー発現および転写活性を指標とした細胞機能検査法の開発」については、最新の技術を応用し特異的かつ効率的な検査法が確立できそうな段階に到達している
- 3. 「院内感染防止対策に貢献する検査部医療情報システムの構築」については、感染制御センターとの連携で重要な役割を果たしてきている。

理念:

現研究テーマを変わりなく遂行し発表していく。

これから2年間の目標:

重要な知見が蓄積されてきているので順次発表していくよう努める。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 耳	b教授 1, 講師	師 0,助手	1, 医員 0, 大学院学生 3, 研究生 0		
业 占	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間		
教官	教 授	専 任	保嶋 実	1 年間		
(教授~助手)	助教授	専 任	庄司 優	1 年間		
の詳細	助手	専 任	佐々木真吾	1 年間		
	1. 高血圧疾患感受性遺伝子多型および変異の検査同定法の確立					
研究課題	2. 表面マーカー発現および転写活性を指標とした細胞機能検査法の開発					
	3. 院内感染	や防止対策に貢献	献する検査部医	療情報システムの構築		

2003年度

研究人員	教授 1, 助	b教授 1, 講印	師 0,助手	1, 医員 0, 大学院学生 3, 研究生 0		
教官	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間		
(教授~助手)	教 授	専 任	保嶋 実	1 年間		
の詳細	助教授	専 任	庄司 優	1 年間		
りお十年四	助 手	専 任	佐々木真吾	1 年間		
	1. 高血圧疾患感受性遺伝子多型および変異の検査同定法の確立					
研究課題	2. 表面マーカー発現および転写活性を指標とした細胞機能検査法の開発					
	3. 院内感染	や防止対策に貢献	献する検査部医	療情報システムの構築		

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

B.1. Kanazawa M, Kohzuki M, Yoshida K, Kurosawa H, Minami N, Saito T, <u>Yasujima M</u>, Abe K: Combination therapy with an angiotensin-converting enzyme (ACE) inhibitor and a calcium antagonist: beyond the renoprotective effects of ACE inhibitor monotherapy in a spontaneous hypertensive rat with renal ablation. Hypertens Res 2002; 25: 447-453

- A.1. Yamato K, Tamasawa N, Murakami H, Guan JZ, Tanabe J, Matsui J, Suda T, Yasujima M: Quantitative analysis of apolipoprotein E secretion by human monocyte-derived macrophages in culture. Tohoku J Exp Med 2003;201: 47-54
- A.1. Sugimoto K, Baba M, Suda T, Yasujima M, Yagihashi S: Peripheral neuropathy and microangiopathy in rats with insulinoma: association with chronic hyperinsulinemia. Diabetes Metab Res Rev. 2003;19:392-400
- B.1. Kotani N, Kudo R, Sakurai Y, Sawamura D, Sessler DI, Okada H, Nakayama H, Yamagata T, Yasujima M, Matsuki A: Cerebrospinal fluid interleukin 8 concentrations and the subsequent development of postherpetic neuralgia. Am J Med 2004;116: 318-324

和文

2002年度

- B.1. 荒田奈央子, <u>庄司 優</u>, 斉藤順子, 工藤良子, 小野有希, 葛西 猛, <u>保嶋 実</u>:緩衝液塩濃度の血小板活
- 性化測定系に及ぼす影響の検討. 日本臨床化学会東北支部会誌 2002;11:21-25 B.2. 斉藤順子, 小島佳也, 中田伸一, 葛西 猛, <u>庄司 優</u>, <u>保嶋 実</u>:早出勤務体制による病棟検体集配の評 価. 日本臨床化学会東北支部会誌 2002;11:24-26

2003年度

- B.1. 中岡理恵, 中野京子, 野坂大喜, 佐藤 征, 佐藤達資, 神谷菜々子, <u>保嶋 実</u>:銀染色法による尿蛋白分画一健常人一尿蛋白分画の把握. 臨床検査2003:52;939-943
- B.2. 中岡理恵, 中野京子, 野坂大喜, 佐藤 征, 佐藤達資, 吉田和香子, 和田朋也, 保嶋 実: 運動負荷が尿 蛋白分画に及ぼす影響. 臨床検査2003:52;1151-1156

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

- 優, 保嶋 実:遺伝性疾患:腎・血管疾患. 臨床病理レビュー 2002;123:184-190 A.1. 庄司
- A.2. 庄司 優、保嶋 実:高血圧とテーラーメイド医療:遺伝子多型による治療法の選択、血圧 2003;10:25-28

2003年度

- A.1. 保嶋 実:包括医療と臨床検査:第2章各論-疾患の診断治療のために最小限必要な検査;25. 高血圧 症. 検査と技術 2003:31;1096-1102
- A.2. 庄司 優, 保嶋 実:ナトリウム利尿ホルモン:高血圧と高血圧性臓器障害. 日本臨床増刊号2004:62; 311-314

(3)著書

英文

2003年度

A.1. Shoji M, Tsutaya S, Oshikata C, Yasujima M: Lack of association of 4G/5G polymorphism in plasminogen activator inhibitor-1 gene with stroke. In: Advances in brain research - cardiovascular disorders and neurodegeneration. Sato K (ed) pp105-109 Elsevier Sciences, Amsterdam, 2003 分担執筆

和文 なし

(4)その他

英文

2003年度

A.1. Shoji M: Microarray analysis of gene diversity in hypertension. In: Proceedings of the 22nd World Congress of Pathology & Laboratory Medicine. pp61-65 Monduzzi Editore, Bologna, 2003 分担執筆

和文

- 実、庄司 優:医学部の学生教育:弘前大学医学部における臨床検査医学の学生教育,Lab Clin A.1. 保嶋 Prac 2002;20:52-56
- 優, 保嶋 実:高血圧における遺伝子マーカー. 臨床化学 2003;32:46-48
- A.3. <u>庄司 優</u>, 蔦谷昭司, 葛西 猛, <u>保嶋 実</u>:連関解析における SNPs の有用性:高血圧におけるミトコン ドリア DNA 多型の意義. 臨床病理 2002; 50: 497-501
- A.4. 山敷潤子, 照井 健, 平井裕一, 長谷川範幸, 田村美智子, 石黒 敦, 須田俊宏, 保嶋 実, 庄司 蔦谷昭司:遺伝子解析が診断に有用だった Gitelman 症候群の 1 例. 日本内科学会雑誌 2002; 91: 3503-3506

- A.5. <u>保嶋</u> 実:検査データを読みきる:症例編. Medical Technology 2002;30:521-524 A.6. <u>保嶋</u> 実:心房性ナトリウム利尿ペプチド(ANP)・脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP). 臨床医 2002;28: 1138-1140
- B.1. 新岡丈典, 大久保正, 鳴海俊治, 袴田健一, 十束英志, 豊木嘉一, 佐々木睦男, 小島佳也, 保嶋 実, 菅原和信:生体肝移植患者におけるタクロリムスの消失速度定数(ke)と臨床検査値との相関. TDM研究 2002;16: 348-354

- A.1. <u>保嶋</u> 実: 我が国における高血圧診療のガイドライン. 臨床病理 51: 581-585, 2003 A.2. <u>庄司</u> 優, 保嶋 実: フローサイトメトリーによるアンチセンスオリゴヌクレオチド取込みの検出. 臨 | 床病理 2004:52;172-175 | A.3. <u>庄司 優, 保嶋 実</u>:弘前大学の卒前臨床検査医学教育. 臨床病理 2003:51;1118-1123

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説(A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hypertens Res	1.881	1	1.881
Total		1	1.881

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Tohoku J Exp Med Diabetes Metab Res Rev Am J Med	0.494 2.472 4.904	1 1 1	0.494 2.472 4.904
Total		3	7.87

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本臨床化学会東北京臨床検査	万部会誌		2	2
検査と技術 日本臨牀				1 1
	計		2	4

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	1

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担執筆		0	0

3. その他(A. Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Proceedings of the 22nd World Congress of Pathology & Laboratory Medicine	0	1	0
Total		1	0

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
臨床病理			1	2
日本内科学会雑誌			1	
臨床化学			1	
血圧			1	
Medical Technology			1	
臨床医			1	
TDM研究			1	
	計		7	2

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- B.1. Shoji M, Tsutaya S, Yasujima M: Ethnic differences in genetic markers for hypertension in Japan. Symposium "Genetic markers for hypertensive disorders", The 18th International Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine (Kyoto) 2002.10.20-25
- C.1. Shoji M, Yasujima M: Extranuclear DNA variation as a genetic marker for hypertension. 26th International Congress of Internal Medicine (Kyoto) 2002.5.26-30
- C.2. <u>Yasujima M</u>, Tsutaya S, <u>Shoji M</u>: Enrichment of single nucleotide polymorphisms in mitochondrial DNA hypervariable region in Japanese hypertensives. The 19th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (Prague, Czech Republic) 2002.6.23-27
- C.3. <u>Yasujima M</u>, Tsutaya S, <u>Shoji M</u>: Linkage Disequilibrium between ecNOS 4b/a Polymorphism and Japanese Y Chromosome Lineage Marker and Its Implication for Hypertension Study. The 19th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (Prague, Czech Republic) 2002.6.23-27
- C.4. Shoji M, Tsutaya S, Oshikata C, Yasujima M: Lack of association of 4G/5G polymorphism in plasminogen activator inhibitor-1 gene with hypertension and cerebrovascular diseases. 6th Hirosaki Forum of Medical Science (Hirosaki) 2002.10.14
- C.5. <u>Shoji M</u>, Tsutaya S, <u>Yasujima M</u>: Identification of novel mutations in thiazide-sensitive Na-Cl cotransporter in a paient with hypokalemia and hypomagnesimia. The 18th International Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine (Kyoto) 2002.10.20-25
- C.6. <u>Yasujima M</u>, Tsutaya S, Oshikata C, <u>Shoji M</u>: 4G/5G Polymorphism in Plasminogen Activator Inhibitor-1 Gene in Hypertension and Cerebrovascular diseases. 日中医学大会2002(北京)2003.11.3-6

2003年度

- B.1. Shoji M: DNA chip analysis of gene diversity in hypertension. Symposium "New tools in genetic analysis: biochip technology", The 22nd World Congress of Pathology & Laboratory Medicine, Busan, Korea September, 2003
- C.1. <u>Yasujima M, Tsutaya S, Shoji M</u>: A large deletion mutant of thiazide-sensitive Na-Cl cotransporter in a patient with hypokalemia and hypomagnesimia. World Congress of Nephrology, Berlin, June, 2003
- C.2. <u>Shoji M, Tsutaya S, Yasujima M</u>: Association of aldehyde dehydrogenase 2 Glu487Lys polymorphism with diabetic nephropathy. World Congress of Nephrology, Berlin, June, 2003
- C.3. Kanazawa M, Kohzuki M, Kurosawa H, Minami N, Ito O, Saito T, <u>Yasujima M</u>, Abe K: Enhanced renoprotective effect of angiotensin converting enzyme inhibitor combined with alpha1-adrenergic antagonist in spontaneously hypertensive rats with renal ablation. 20th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Sao Paulo-Brazil, Feb 2004

(2)全国学術集会

2002年度

C. 17件

2003年度

- B.1. <u>庄司 優, 工藤良子, 蔦谷昭司, 保嶋 実</u>:フローサイトメトリーによるアンチセンス取り込みの検出: 血小板での基礎的検討と血小板減少症への応用 シンポジウム「検査法の開発と病態解明のアプローチ」第50回日本臨床検査医学会総会, 広島市, 10月, 2003
- C. 12件

III. 学術賞

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

基盤研究 (C) (2) 課題番号 12672236 (研究代表者 保嶋 実) 「高血圧疾患感受性遺伝子マーカーとしての内皮型 NO 合成酵素遺伝子多型の意義」

基盤研究(C)(2)課題番号 13672412(研究代表者 庄司 優)「縄文系および弥生系日本人における高血圧の遺伝的素因の特徴と標準化への応用」

2003年度

研究代表者として

基盤研究(C)(2)課題番号 15590477(研究代表者 保嶋 実)「食塩感受性高血圧におけるナトリウム代謝 関連遺伝子多型の病態的意義」

基盤研究(C) (2)課題番号 13672412(研究代表者 庄司 優)「縄文系および弥生系日本人における高血圧の遺伝的素因の特徴と標準化への応用」

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

2003年度

研究代表者として 学術国際振興基金平成15年 03A-1③ 完成度の高く波及効果が大きい研究への助成 (研究代表者 保嶋 実)「ジェノタイプに基づく高血圧テーラーメード治療の開発」

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流。国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生,研究生の受け入れ状況 2003年度

Bangladesh より大学院生として Kazi Nadim Hasan を受け入れた

d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況

なし

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

なし

f) その他

なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

b) 地方レベルの学会の主催 2002年度

日本臨床検査医学会東北支部例会を主催

- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

35. 臨床薬理学講座

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

毎年, impact factorを有する英文学術誌への投稿論文作成を2報以上指導した。

毎年,国内の主要学会での学会発表2演題以上を指導した。

毎年,治験1件を受託し責任医師として実施した。

理念:

臨床薬理学者の研究は最終的には生体のヒトを対象とした試験であり、臨床薬理学者の責務は基礎薬理学者が in vitro 実験や動物実験で得た結果をヒトにおいて検討・確認することである。治験の支援や健常者での臨床試験ばかりでなく臨床薬理学者は患者を対象とした新規医薬品に係わる種々の臨床薬理試験を主体的に実施することも今後の検討課題と考えている。各臨床科との共同研究のもと患者における臨床試験の円滑な実施にむけ尽力したい。

これから2年間の目標:

- 1. Impact factor のついた学術誌に senior author として複数の論文を発表
- 2. 国際学会、全国レベルの学会等におけるシンポジウムに共同演者として発表
- 3. 研究代表者として科学研究費補助金に1件以上採択
- 4. 弘前大学医学部附属病院における治験推進のための環境整備

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助教授 0, 講	師 1,助手	1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0				
les	役職 専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間				
教 官 (教授~助手)	教 授 専 任	立石 智則	1年間				
の詳細	講師 専任	古郡 規雄	1年間				
УДТ ///	助手 専任	高畑 武功	1年間				
	1. 薬物代謝酵素活性における個体差の検討						
	2. 薬物代謝酵素における活性と遺伝子変異との関連						
研究課題	3. 薬物動態に影響する種々の因子の検討						
	4. 弘前大学医学部附属病院での治験の推進とその環境整備						
	5. 抗精神病薬の臨床効果	に及ぼす諸因子	5. 抗精神病薬の臨床効果に及ぼす諸因子の検討				

2003年度

研究人員	教授 1, 助	力教授 0,講印	师 1,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0		
41	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
教 官 (教授~助手)	教 授	専任	立石	智則	1 年間		
の詳細	講師	専任	古郡	規雄	1 年間		
0011 //ш	助 手	専任	高畑	武功	1 年間		
	1. 薬物代謝酵素活性における個体差の検討						
	2. 薬物代謝酵素における活性と遺伝子変異との関連						
研究課題	3. 薬物動態に影響する種々の因子の検討						
	4. 弘前大学医学部附属病院での治験の推進とその環境整備						
	5. 抗精神症	 薬の臨床効果	こ及ぼす	片諸因子	の検討		

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

- A.1. Yasui-Furukori N, Kondo T, Suzuki A, Mihara K, Kaneko S, Otani K. Comparison of prolactin concentrations between haloperidol and bromperidol treatments in schizophrenic patients. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2002 Apr;26(3):575-8.
- A.2. Yasui-Furukori N, Kondo T, Suzuki A, Mihara K, Kaneko S. Comparison of prolactin concentrations between haloperidol and risperidone treatments in the same female patients with schizophrenia. Psychopharmacology (Berl). 2002 Jun;162(1):63-6.
- A.3. Yasui-Furukori N, Kondo T, Mihara K, Suzuki A, Inoue Y, De Vries R, Kaneko S. Lack of correlation between the steady-state plasma concentrations of haloperidol and risperidone. J Clin Pharmacol. 2002 Oct;42(10):1083-8.
- A.4. Yasui-Furukori N, Kondo T, Takahata T, Mihara K, Ono S, Kaneko S, Tateishi T. Effect of dietary fat content in meals on pharmacokinetics of quazepam. J Clin Pharmacol. 2002 Dec;42(12):1335-40.
- A.5. Yasui-Furukori N, Mihara K, Kondo T, Kubota T, Iga T, Takarada Y, De Vries R, Kaneko S, Tateishi T. Effects of CYP2D6 genotypes on plasma concentrations of risperidone and enantiomers of 9-hydroxyrisperidone in Japanese patients with schizophrenia. J Clin Pharmacol. 2003 Feb;43(2):122-7.
- B.1. Ono S, Mihara K, Suzuki A, Kondo T, Yasui-Furukori N, Furukori H, de Vries R, Kaneko S. Significant pharmacokinetic interaction between risperidone and carbamazepine: its relationship with CYP2D6 genotypes. Psychopharmacology (Berl). 2002 Jun;162(1):50-4.
- B.2. Mihara K, Yasui-Furukori N, Kondo T, Ishida M, Ono S, Ohkubo T, Osanai T, Sugawara K, Otani K, Kaneko S. Relationship between plasma concentrations of trazodone and its active metabolite, m-chlorophenylpiperazine, and its clinical effect in depressed patients. Ther Drug Monit. 2002 Aug;24(4):563-6.
- B.3. Mihara K, Kondo T, Suzuki A, Yasui-Furukori N, Ono S, Sano A, Koshiro K, Otani K, Kaneko S. Relationship between functional dopamine D2 and D3 receptors gene polymorphisms and neuroleptic malignant syndrome. Am J Med Genet. 2003 Feb 15;117B(1):57-60.

2003年度

- A.1. Yasui-Furukori N, Takahata T, Kondo T, Mihara K, Kaneko S, Tateishi T. Time effects of food intake on the pharmacokinetics and pharmacodynamics of quazepam. Br J Clin Pharmacol. 2003 Apr;55(4):382-8.
- A.2. Yasui-Furukori N, Inoue Y, Tateishi T. Determination of a new atypical antipsychotic agent perospirone and its metabolite in human plasma by automated column-switching high-performance liquid chromatography. J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci. 2003 Jun 15;789(2):239-45.
- A.3. Takahata T, Yasui-Furukori N, Sasaki S, Igarashi T, Okumura K, Munakata A, Tateishi T. Nucleotide changes in the translated region of SCN5A from Japanese patients with Brugada syndrome and control subjects. Life Sci. 2003 Apr 11;72(21):2391-9.
- A.4. Yasui-Furukori N, Furukori H, Saito M, Inoue Y, Kaneko S, Tateishi T. Poor reliability of therapeutic drug monitoring data for haloperidol and bromperidol using enzyme immunoassay. Ther Drug Monit. 2003 Dec;25(6):709-14.
- A.5. Tateishi T, Okumura K, Orii Y, Tanaka T. Reproducibility of nifedipine absorption from GITS tablets: comparison of single-dose pharmacokinetics using 10, 20, 40 and 60 mg nifedipine. Int J Clin Pharmacol Ther. 2004 Jan;42(1):58-62.
- A.6. Yasui-Furukori N, Kondo T, Mihara K, Suzuki A, Inoue Y, Kaneko S. Significant dose effect of carbamazepine on reduction of steady-state plasma concentration of haloperidol in schizophrenic patients. J Clin Psychopharmacol. 2003 Oct;23(5):435-40.
- B.1. Suzuki A, Yasui-Furukori N, Mihara K, Kondo T, Furukori H, Inoue Y, Kaneko S, Otani K. Histamine H1-receptor antagonists, promethazine and homochlorcyclizine, increase the steady-state plasma concentrations of haloperidol and reduced haloperidol. Ther Drug Monit. 2003 Apr;25(2):192-6.
- B.2. Mihara K, Kondo T, Yasui-Furukori N, Suzuki A, Ishida M, Ono S, Kubota T, Iga T, Takarada Y, de Vries R, Kaneko S. Effects of various CYP2D6 genotypes on the steady-state plasma concentrations of risperidone and its active metabolite, 9-hydroxyrisperidone, in Japanese patients with schizophrenia. Ther Drug Monit. 2003 Jun;25(3):287-93.
- B.3. Kato K, Yasui-Furukori N, Fukasawa T, Aoshima T, Suzuki A, Kanno M, Otani K. Effects of itraconazole on the plasma kinetics of quazepam and its two active metabolites after a single oral dose of the drug. Ther Drug Monit. 2003 Aug;25(4):473-7.
- B.4. Kondo T, Mihara K, Suzuki A, Yasui-Furukori N, Kaneko S. Combination of dopamine D2 receptor gene polymorphisms as a possible predictor of treatment-resistance to dopamine antagonists in schizophrenic patients. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2003 Sep;27(6):921-6.
- B.5. Kanda H, Yasui-Furukori N, Fukasawa T, Aoshima T, Suzuki A, Otani K. Interaction study between fluvoxamine and quazepam. J Clin Pharmacol. 2003 Dec;43(12):1392-7.
- C.1. Herrlin K, Yasui-Furukori N, Tybring G, Widen J, Gustafsson LL, Bertilsson L. Metabolism of citalopram enantiomers in CYP2C19/CYP2D6 phenotyped panels of healthy Swedes. Br J Clin Pharmacol. 2003 Oct;56(4):415-21.

和文

2002年度

A.1. 立石智則, 奥村一仁, 折井義光, 越水 孝, 関野久邦, 加藤英章, 田中利明 Nifedipine 徐放性製剤 BAYa1040GITS の薬物動態検討 臨床薬理 2002年 33巻 5号p195-204

A.1. 石澤幸男,高畑武功,古郡規雄,斉藤正人,佐々木睦男,立石智則 下北半島過疎地域在住高齢者における CYP2C19 遺伝子変異頻度の検討 弘前医学第55巻第1号18-22, 2003年

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

A.1. 立石智則 骨・関節薬との組み合わせに注意すべき薬物について教えてください 治療 2003年 85巻 3号 p139-141

(3)著書

英文 なし

和文

2003年度

- A.1. 立石智則 薬理作用・薬物動態の個体差 日本臨床薬理学会 編 臨床薬理学 第2版 pp179-183 医学 書院 東京 2003年4月
- A.2. 立石智則 薬理遺伝学 大橋京一, 藤村昭夫 編 疾患からみた臨床薬理学 第2版 pp41-48 じほう 東京 2003年8月

(4)その他

英文 なし

和文 なし

- (5)発表論文のまとめ
- 1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry	1.078	1	1.078
Psychopharmacology (Berl)	2.804	2	5.608
J Clin Pharmacol	2.003	3	6.009
Ther Drug Monit	1.732	1	1.732
Am J Med Genet	2.479	1	2.479
Total		8	16.906

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Br J Clin Pharmacol	2.274	1	2.274
J Chromatogr B	1.913	1	1.913
Life Sci.	1.824	1	1.824
Ther Drug Monit	2.14	1	2.14
Int J Clin Pharmacol Ther.	1.471	1	1.471
J Clin Psychopharmacol.	4.205	1	4.205
Ther Drug Monit	2.14	3	6.42
Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry	1.433	1	1.433
J Clin Pharmacol.	1.96	1	1.96
Total		11	23.64

和文 (論文数)

	雑	註	名	2002年度	2003年度
臨床薬理 治療 弘前医学				1 1	1
		計		2	1

2. 著書数 (A. Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担執筆		0	2

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2003年度

C.1. Yasui-Furukori N, Takahata T, Nakagami T, Yoshiya G, Inoue Y, Kaneko S, Tateishi T. Different inhibitory effect of fluvoxamine on omeprazole metabolism between CYP2C19 genotypes. Pacific Rim Association for Clinical Pharmacogenetics, Los Angels, 11月

(2)全国学術集会

2002年度

B.1. 古郡規雄, 定型抗精神病薬の薬効予測, 第12回日本臨床精神神経薬理学会, 2002年, 新潟 B.2. 古郡規雄, 精神科領域における CYP2D6 の臨床的意義, 第23回日本臨床薬理学会, 2002年, 大阪

2003年度

B.1. 古郡規雄, 抗精神病薬の代謝と遺伝子多多型, 第13回日本精神神経薬理学会, 弘前, 10月 C. 8件

III. 学術賞

2002年度

第12回日本臨床精神神経薬理学会ポールヤンセン賞大賞

IV. 共同研究

2003年度

山形大学医学部精神神経科

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2003年度

研究代表者として 若手B 「血液脳関門遺伝子多型における抗精神病薬の臨床効果の影響にてついて」 280万円

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

他研究単位との研究分担者として 戦略的経費 「遺伝子多多型と薬物治療」 500万円

(4)民間の研究助成

2003年度

唐牛記念A 350万円 先進医薬 80万円 薬理研 80万円 臨床薬理振興財団 100万円

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし

- c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況なし
- f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

- a) 全国レベルの学会の主催 なし
- b) 地方レベルの学会の主催 なし
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

36. 歯科口腔外科学講座

【研究単位の目標到達度、理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

木村博人 (教授)

- ・学会発表内容を可及的速やかに論文化し、投稿することを強く指導する。
- ・国際学会での発表を奨励する。
- 適切な研究課題の設定と研究指導に努める。
- ・科研費を始めとする外部からの研究経費の獲得に努める。 上記4点について、総合的に70%。

小林 恒(助教授)

- ・学術誌に First author として年 1 編以上の論文を発表。
- ・国際学会、全国レベルの学会で演者として発表。
- 論文作成指導

上記3点のうち、学術誌にFirst authorとして2編発表し目標を達成、学会発表でも目標を達成した。

福井 朗(講師)

- Impact factor の付いた学術誌あるいは国内誌に first author として年1編以上の論文を発表。
- ・大学院生の研究指導と助手への研究助言。
- ・国際学会、全国レベルの学会に積極的に発表を行う。
- ・研究代表者として科学研究費助成金に1件以上採択。 上記4点のうち,大学院生の研究指導,助手への研究助言,国際学会,全国レベルの学会に積極的に発表を行い, 50%。

佐藤 寿(助手)

- Impact factor のある学術誌あるいは国内誌に年1編以上の論文を発表。
- ・国際学会、全国レベルの学会で積極的に発表を行う。
- ・研究代表者として科学研究費助成金が採択されるよう努力する。 上記3点について、総合的に60%。

楠美昭則 (助手)

- ・世界に通用する雑誌に、1編以上の発表を行う。
- ・全国レベルの学会に年1報以上、国際学会にも積極的に発表する。
- ・科研費等の研究助成に1件以上の採択と民間の研究助成、学術賞に応募。
- ・新しい実験方法の修得。

上記4点について、総合的に80%。

理念:

医学部における歯科口腔外科学講座として特色のある基礎的・臨床的研究を展開し、医学研究の発展に寄与する。研究方針として、顎口腔領域に発生する種々の難治性疾患の病態を形態学的、分子生物学的、理化学的手法を用いて解明し、その結果に基づいた新たな診断法ならびに治療法の開発を目的とする。当面の主たる研究課題を以下のように設定する。

(1)病的骨吸収機序の解明と治療法の開発

骨吸収と炎症あるいはメカニカルストレスとの関連性を中心とし、顎骨嚢胞や慢性歯周疾患における各種骨吸収因子(プロスタグランジン類、サイトカイン類、フリーラジカル)の関与を遺伝子レベルで解明する。

(2)口腔悪性腫瘍の病態と治療

口腔癌に対する光線力学療法の臨床的応用のために、基礎的研究を展開する。また、口腔組織再建における血管柄付皮弁の生着要因に関連する研究を行う。

(3)再生医学研究の準備

上記(1), (2)の研究と関連して, 自家組織由来の人工粘膜, 人工軟骨, 人工骨の開発につながる再生医学研究のため, 組織培養法の確立に着手する。

上述のような基礎的研究の成果ならびに臨床的研究の成果は、可及的速やかに論文化して公表するよう努力する。

これから2年間の目標:

木村博人 (教授)

- ・学会発表内容を可及的速やかに論文化し、投稿することを強く指導する。
- ・国際学会での発表を奨励する。
- 適切な研究課題の設定と研究指導に努める。
- ・ 科研費を始めとする外部からの研究経費の獲得に努める。

小林 恒(助教授)

- ・学術誌に First author として年1編以上の論文を発表。
- ・国際学会、全国レベルの学会で演者として発表。
- 論文作成指導

福井 朗(講師)

- ・Impact factor の付いた学術誌あるいは国内誌に first author として年1編以上の論文を発表。
- 大学院生の研究指導と助手への研究助言。
- ・国際学会、全国レベルの学会に積極的に発表を行う。
- ・研究代表者として科学研究費助成金に1件以上採択。

佐藤 寿(助手)

- ・Impact factor のある学術誌あるいは国内誌に年1編以上の論文を発表。
- ・国際学会、全国レベルの学会で積極的に発表を行う。
- ・研究代表者として科学研究費助成金が採択されるよう努力する。

楠美昭則 (助手)

- ・世界に通用する雑誌に、1編以上の発表を行う。
- ・全国レベルの学会に年1報以上,国際学会にも積極的に発表する。
- ・科研費等の研究助成に1件以上の採択と民間の研究助成、学術賞に応募。
- 新しい実験方法の修得。

織田光夫 (助手)

- ・Impact factorの付いた学術誌に年1編以上の論文をfirst authorとして発表。
- ・全国レベルの学会に年1報以上発表を行う。
- ・ 科研費等の研究助成に採択と民間の研究助成に応募。

【研究人員及び研究課題】

研究人員	教授 1, 耳	助教授 1,講師	师 1,	助手	4, 医員 8, 大学院学生 1, 研究生 1			
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間			
	教 授	専 任	木村	博人	H.14. 4. 1 ~ H.15. 3. 31			
	助教授	専 任	小林	恒	H.14. 4. 1 ∼ H.15. 3. 31			
教 官	講師	専 任	福井	朗	H.14. 4. 1 ~ H.15. 3. 31			
(教授~助手)	助手	専 任	佐藤	寿	H.14. 4. 1 ~ H.15. 3. 31			
の詳細	助手	専 任	楠美	昭則	H.14. 4. 1 ~ H.15. 3. 31			
	助手	専 任	扒合	朋穂	H.14. 4. 1 ~ H.15. 3. 31			
	助 于	専 任 	松宮	加愢	(H.14.11.5 ~研究休職)			
	助手	専 任	織田	光夫	H.14.10.16 ~ H.15. 3. 31			
	1. 骨細胞の)機能と骨吸収	因子に関	目する分	分子生物学的研究			
	2. 顎骨嚢胞並びに骨吸収性病変の病態解析と治療法に関する研究							
研究課題	3. 活性酸素・フリーラジカルによる生体組織の障害およびその防御機構							
	4. 悪性腫瘍細胞の増殖関連因子と治療に関する研究							
	5. 口腔癌に対する光線力学的療法の基礎的・臨床的研究							
	6. 口腔腫瘍の再建法に関する臨床的研究							

研究人員	教授 1, 耳	b教授 1, 講師	 1,	助手	4 (ウธ蕲洙職1),医員 8 (ウธ蕲縣5),大学院学生 1,研究生 0					
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間					
	教 授	専 任	木村	博人	H.15. 4. 1. ∼H.16. 3. 31.					
	助教授	専 任	小林	恒	H.15. 4. 1. ∼H.16. 3. 31.					
教 官	講師	専 任	福井	朗	H.15. 4. 1. ∼H.16. 3. 31.					
(教授~助手)	助手	専 任	佐藤	寿	H.15. 4. 1. ∼H.16. 3. 31.					
の詳細	"	専 任	楠美	昭則	H.15. 4. 1. ~H.16. 3. 31.					
		専 任	4//	1111±	II.15 4 4 II.10 0 01					
// 松宮 朋穂 H.15. 4. 1. ~H.1		H.15. 4. 1. ∼H.16. 3. 31.								
	"	専 任	織田	光夫	H.15. 4. 1. ~H.16. 3. 31.					
	1. 顎骨嚢胞ならびに骨吸収性病変の病態解析と治療法に関する研究									
	2. 病的骨吸収と炎症あるいはメカニカルストレスとの関連性									
	3. 骨細胞の機能と骨吸収因子に関する分子生物学的研究									
	4. 口腔粘膜	4. 口腔粘膜および骨の再生医療研究								
TT 7573 3田 日百	5. 悪性腫瘍細胞の増殖抑制因子と治療法に関する研究									
研究課題	¹⁹⁸ 6. 口腔癌患者の特異的・非特異的免疫能と予後との関連									
	7. 光線力学療法の腫瘍メカニズムの解明									
8. 顎関節疾患におけるフリーラジカルの関与と防御機構										
	9. 顎関節剂	骨液分析による	関節疾息	息の成因	と治療法に関する研究					
	10. 顎関節滑	骨膜細胞とケミ	0. 顎関節滑膜細胞とケミカルメディエーターの相互作用に関する研究							

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. <u>Kobayashi W</u>, Kobayashi M, <u>Hirota W</u>, <u>Kado K</u>, <u>Fukui R</u>, <u>Sato H</u>, <u>Kimura H</u>. Reconstruction of the floor of the mouth using free jejunal graft. Asian J Oral Maxillofac Surg 2002;15:190-6.
- A.2. Matsumiya T, Imaizumi T, Itaya H, Shibata T, Yoshida H, Sakaki H, Kimura H, Satoh K. Production of growth related oncogene protein- α in human umbilical vein endothelial cells stimulated with soluble interleukin-6 receptor- α : role of signal transducers, janus kinase 2 and mitogen-activated kinase kinase. Life Sci 2002;70:3179-90.
- B.1. Shibata T, Imaizumi T, Tamo W, <u>Matsumiya T</u>, Kumagai M, Cui XF, Yoshida H, Takaya S, Fukuda I, Satoh K. *Proteasome inhibitor MG-132 enhances the expression of interleukin-6 in human umbilical vein endothelial cells:Involvement of MAP/ERK kinase. Immunol Cell Biol 2002;80:226-30.
- B.2. Imaizumi T, Kumagai M, Sasaki N, Kurotaki H, Mori F, Seki M, Nishi N, Fujimoto K, Tanji K, Shibata T, Tamo W, Matsumiya T, Yoshida H, Cui XF, Takanashi S, Hanada K, Okumura K, Yagihashi S, Wakabayashi K, Nakamura T, Hirashima M, Satoh K. *Interferon-gamma stimulates the expression of galectin-9 in cultured human endothelial cells. J Leukocyte Biol 2002;72:486-91.
- B.3. Imaizumi T, Matsumiya T, Tamo W, Shibata T, Fujimoto K, Kumagai M, Yoshida H, Cui XF, Tanji K, Hatakeyama M, Wakabayashi K,Satoh K. *15-Deoxy- Δ ^{12,14}-prostaglandin J₂ inhibits CX3CL1/ fractalkine expression in human endothelial cells. Immunol Cell Biol. 2002;80:531-6.

- A.1. <u>Sakaki H, Matsumiya T, Kusumi A, Imaizumi T, Satoh H, Yoshida H, Satoh K, Kimura H. Interleukin-1</u> β induces matrix metalloproteinase-1 expression in cultured human gingival fibroblasts:role of cyclooxygenase-2 and prostaglandin E₂. Oral Dis 2004;10:87-93.
- A.2. <u>Kobayashi W, Liu Q, Matsumiya T, Nakagawa H, Yoshida H, Imaizumi T, Satoh K, Kimura H.</u> Photodynamic therapy upregulates expression of Mac-1 and generation of leukotriene B₄ by human polymorphonuclear leukocytes. Oral Oncol 2004;40:506-510.
- B.1. Shibata T, Imaizumi T, Matsumiya T, Tamo Wakako, Hatakeyama M, Yoshida H, Munakata H, Fukuda I, Satoh K. Effect of MG132, a proteasome inhibitor, on the expression of growth related oncogene protein- α in human umbilical vein endothelial cells. Cytokine 2003;24:67-73.
- B.2. Tanji K, Toki T, Tamo W, Imaizumi T, <u>Matsumiya T</u>, Mori F, Takahashi H, Satoh K, Wakabayashi K. Glycogen synthase kinase-3 β phosphorylates synphilin-1 *in vitro*. Neuropathology 2003;23:199-202.
- C.1. Hosoya M, Maruoka Y, $\underline{Oda\ M}$, Asahina I, Ichinose S, Omura K. Bone with a vascular flap induced from fat tissue with the use of rhBMP-2 in rats. J Dent Res 2003;82:581-584.
- C.2. Kobayashi M, Onozuka N, Fukuda A, Matubara A, <u>Kobayashi W</u>. New surgical technique for primary and secondary voice restration using a free iliocecal patch graft after total laryngectomy. Surg Today

2003;33:817-822.

和文

2002年度

A.1. <u>榊 宏剛, 佐藤 寿, 福井 朗</u>, <u>成田憲司</u>, <u>渡辺健一</u>, <u>木村博人</u>. 小児の鼻腔内に萌出した逆生過剰歯の 1 例. 小児口腔外科 2002; 12: 20-3.

2003年度

- A.1.
 中川 祥, 佐藤 寿, 福井 朗, 成田憲司, 榊 宏剛, 木村博人.
 乳歯に発生した良性セメント芽細胞腫の1例. 小児口腔外科 2003;13:43-7.

 C.1.
 小林 慎, 小野塚直也, 久我俊彦, 笹田大敬, 小林 恒, 松原 篤. 口腔咽頭と食道の同時性重複癌に対する再建手術の工夫. 頭頚部腫瘍 2003;29:118-123.

(2)総説

英文 なし

和文

2003年度

B.1. 楠美智巳, 楠美昭則. オステオカルシン/骨 Gla 蛋白 (BGP). 日本臨床 2004; 62:136-140.

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

英文 なし

和文 なし

- (5)発表論文のまとめ
- 1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Life Sci Immunol Cell Biol J Leukocyte Biol	1.824 2.494 4.132	1 2 1	1.824 4.988 4.132
Total		4	10.944

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Oral Disease	1.016	1	1.016
Oral Oncology	1.876	1	1.876
Cytokine	2.183	1	2.183
Neuropathology	0.64	1	0.64
Total		4	5.715

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
小児口腔外科 日本臨床			1	1 1
	計		1	2

2. 著書数 (A. Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担執筆		0	0

3. その他 (A. Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- C.1. Imaizumi T, <u>Matsumiya T</u>, Fujimoto K, Tanji K, Yoshida H, Wakabayashi K, <u>Kimura H</u>, Satoh K. Regulation of fractalkine expression in endothelial cells:role of interferon- γ and soluble form of IL-6 receptor α.XIIth International vascular biology meeting. Japan 2002.
- C.2. Hosoya M, Maruoka Y, <u>Oda M</u>, Asahina I, Ichinose S, <u>Kimura H</u>, Omura K. Prefabrication of vascularized bone flap transformed from Fat vascularized pedicle using rhBMP-2 in rat femur. 24th Annual Meeting of American society for Bone and Mineral Reserch USA 2002.

2003年度

- C.1. <u>Fukui R, Kimura H, Sakaki H, Kusumi A, Matsumiya T, Narita K.</u> The interaction of chemokines and PMNs in cyst enlargement. 16th International Conference on Oral & Maxillofacial Surgery ATHENS, GREECE, 2003.
- C.2. <u>Kimura H, Kusumi A, Sakaki H, Matsumiya T, Fukui R, Satoh H, Kobayashi W. Study on the mechanical stress-induced bone formation.</u> 16th International Conference on Oral & Maxillofacial Surgery ATHENS, GREECE,2003.
- C.3. <u>Kusumi A, Sakaki H, Fukui R, Satoh H, Kobayashi W, Kimura H</u>. The relation between bone remodeling and nitric oxide by cyclic tenside which induced P38 MAPK activation and osteoprotegerin synthesis in human. 1st Joint Meeting of the International Bone and Mineral Society and the Japan Society for Bone and Mineral Research Osaka, Japan, 2003.

(2)全国学術集会

2002年度

C. 12件

2003年度

- B.1. <u>小林 恒</u>, 小林 慎, <u>福井 朗</u>, <u>佐藤 寿</u>, <u>木村博人</u>, 高谷俊一. 遊離空腸移植による口腔癌の再建術. 第28回日本外科系連合学会学術集会, 東京都, 2003.
- C. 4件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

萌芽研究 研究課題名: 抗酸化食品因子による歯肉線維芽細胞の炎症性サイトカイン産生調節に関する研

究 木村博人 500 (千円) 若手研究 (B) 研究課題名: 顎嚢胞壁線維芽細胞由来の液性因子による歯根嚢胞の成因増大の解析 楠美 昭則 600 (千円)

2003年度

研究代表者として

基盤研究(B)(2) 振動刺激装置による顎骨の再生医療を目指した基礎的・臨床的研究 木村博人 5,700

基盤研究(C)(2) メカニカルストレスと炎症による反応性骨硬化における骨芽細胞内シグナル伝達系の 解析 楠美昭則 1,800 (千円)

他研究単位との研究分担者として

基盤研究(B)(2) 遺伝子導入法による血管柄付き異所性誘導骨作製に関する実験的研究 研究分担者: 織田光夫 3,400 (千円)

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

研究代表者として

日本学術振興会平成14年度科学研究費補助金(奨励研究) 研究課題名:低粘着性発色ガム法を用いた顎義 歯患者の咀嚼効率評価に関する研究 長内 隆 160 (千円)

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として

平成14年度学術国際振興基金 助成事業項目 : 外国人研究者の招へいへの助成 研究助成対象者: 木村 博人, 335 (千円)

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2002年度

王 玉新 教授•李 增健 講師 中国医科大学第一臨床学院口腔顎顔面形成外科学講座 平成14年 6月2日~6月9日

c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

なし

d) 外国研究機関の視察. 研究参加(3ヵ月未満)状況

2002年度

小林 恒・長内 隆 マサチューセッツ総合病院における医学教育の現状視察ならびにハーバード大学 歯学部視察 アメリカ合衆国 平成14年6月17日~6月22日

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

2002年度

虻川東嗣, Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Massachusetts General Hospital, USA, 平成12年12月~

松宮朋穂、ソルトレイク市、ユタ大学 Huntsman がん研究所、USA、平成14年11月5日~休職渡航

2003年度

松宮朋穂、ユタ大学 Huntsman がん研究所、アメリカ合衆国、平成14年11月5日~平成16年10月14日

f) その他

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

木村博人 平成14年6月6~7日 第40回日本口腔科学会•第28回(社)日本口腔外科学会北日本地方会 弘前市

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況

2002年度

研究参加者:中川 祥,高橋俊一 三沢米軍基地病院 Dental/Oral Surgery Externship プログラム 平成14年 4 月15日~22日

2003年度

榊 宏剛,千葉大学大学院医学薬学府先進医療科学専攻病態医科学分野 臨床分子生物学,平成15年 9月1日~

VII. その他

37. 分子病態部門

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- 1) 部門として年間5編以上の英語論文を発表する。
 - Impact factor の付いた英文学術誌に2002年度は19編, 2003年度は5編の論文を発表した(到達度100%)。
- 2) 学内ならびに学外との共同研究を積極的に進める。 2002年度は共同研究により18編, 2003年度は共同研究により5編の論文を発表した(到達度100%)。
- 3) 若手教官を国外研究施設に留学させる。 助手1名が2003年1月から Texas 大学に留学中である(到達度100%)。

理念:

当部門は医学部附属脳神経血管病態研究施設に属しており、施設の目的である「脳血管障害と痴呆を含めた脳神経疾患に関する学理及びその応用の研究」を行うことを立脚点としている。

これから2年間の目標:

- 1) 部門として年間5編以上の英語論文を発表する。
- 2) 学内ならびに学外との共同研究を積極的に進める。
- 3) 教官を国外研究施設へ派遣する。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助教授 0, 講師 1, 助手 1, 医員 0, 大学院学生 1, 研究生 0				
教 官	役職 専任/併任の別 氏 名 評価年度内での在籍期間				
(教授~助手)	教 授 専 任 若林 孝一 1年				
の詳細	講師 専任 森 文秋 1年				
り活干和	助 手 専 任 丹治 邦和 9ヵ月				
	1. 神経変性疾患、特にパーキンソン病における封入体形成メカニズム				
	2. 痴呆性疾患における神経細胞変性と脳内蓄積物質				
	3. グリア細胞の機能と各種病態における変化				
研究課題	4. 加齢に伴う脳の形態変化に関する定量計測				
	5. 培養細胞系を用いた低酸素による細胞死の防御機構				
	6. 脳腫瘍の病理診断				
	7. 各種の神経疾患モデル動物を用いた病態解析				

研究人員	教授 1, 馬	助教授 0,講師	师 1,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 1, 研究生 0
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
教 官	教 授	専 任	若林	孝一	1年
(教授~助手)	講師	専 任	森	文秋	1年
の詳細	助 手	専 任	西江	信	1年
	助 手	休職中	丹治	邦和	休職中
	1. 神経変性疾患, 特にパーキンソン病における封入体形成メカニズム				
	2. 痴呆性疾患における神経細胞変性と脳内蓄積物質				
	3. グリア細胞の機能と各種病態における変化				
研究課題	4. 加齢に伴う脳の形態変化に関する定量計測				
	5. 培養細胞系を用いた低酸素による細胞死の防御機構				
	6. 脳腫瘍の病理診断				
	7. 各種の神	#経疾患モデル!	動物を用	目いた病	態解析

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. Mori F, Tanji K, Yoshimoto M, Takahashi H, Wakabayashi K. Immunohistochemical comparison of α -and β -synuclein in adult rat central nervous system. Brain Res 2002; 941: 118-26.
- A.2. Mori F, Tanji K, Yoshimoto M, Takahashi H, Wakabayashi K. Demonstration of α-synuclein immunoreactivity in neuronal and glial cytoplasm in normal human brain tissue using proteinase K and formic acid pretreatment. Exp Neurol 2002; 176: 98-104.
- A.3. Wakabayashi K, Shimura T, Mizutani N, Koide A, Yamagiwa O, Mori F, Nishiyama K, Tanaka R, Takahashi H. Primary intracranial solitary leptomeningeal glioma: a report of 3 cases. Clin Neuropathol 2002; 21: 206-13.
- A.4. Mori F, Tanji K, Yoshida Y, Wakabayashi K. Thalamic retrograde degeneration in the congenitally hydrocephalic rat is attributable to apoptotic cell death. Neuropathology 2002; 22: 186-93.
- A.5. Mori F, Hayashi S, Yamagishi S, Yoshimoto M, Yagihashi S, Takahashi H, Wakabayashi K. Pick's disease: α and β -synuclein-immunoreactive Pick bodies in the dentate gyrus. Acta Neuropathol 2002; 104: 455-461.
- A.6. <u>Tanji K, Mori F, Imaizumi T, Yoshida H, Matsumiya T, Tamo W, Yoshimoto M, Odagiri H, Sasaki M, Takahashi H, Satoh K, Wakabayashi K. Upregulation of α-synuclein by lipopolysaccharide and interleukin-1 in human macrophages. Pathol Int 2002; 52: 572-7.</u>
- A.7. Wakabayashi K, Mori F, Oyama Y, Kurihara A, Kamada M, Yoshimoto M, Takahashi H. Lewy bodies in Betz cells of the motor cortex in a patient with Parkinson's disease. Acta Neuropathol 2003; 105: 189-92.
- A.8. <u>Tanji K, Mori F, Imaizumi T, Yoshida H, Satoh K, Wakabayashi K.</u> Interleukin-1 induces tau phosphorylation and morphological changes in cultured human astrocytes. Neuroreport 2003; 14: 413-7.
- B.1. Hayashi S, Toyoshima Y, Hasegawa M, Umeda Y, <u>Wakabayashi K</u>, Tokiguchi S, Iwatsubo T, Takahashi H. Late-onset frontotemporal dementia with a novel exon 1 (Arg5His) tau gene mutation. Ann Neurol 2002; 51: 525-30.
- B.2. Piao Y-S, Hayashi S, <u>Wakabayashi K</u>, Kakita A, Aida I, Yamada M, Takahashi H. Cerebellar cortical tau pathology in progressive supranuclear palsy and corticobasal degeneration. Acta Neuropathol 2002; 103: 469-74.
- B.3. Kawasaki K, <u>Wakabayashi K</u>, Koizumi T, Tanaka R, Takahashi H. Spinal cord involvement of primary central nervous system lymphomas: histopathological examination of 14 autopsy cases. Neuropathology 2002; 22: 13-8.
- B.4. *Tamo W, Imaizumi T, <u>Tanji K</u>, Yoshida H, <u>Mori F</u>, Yoshimoto M, Takahashi H, Fukuda I, <u>Wakabayashi K</u>, Satoh K. Expression of α -synuclein, the precursor of non-A β component of Alzheimer's disease amyloid, in human cerebral blood vessels. Neurosci Lett 2002; 326: 5-8.
- B.5. *Yoshida H, Imaizumi T, <u>Tanji K</u>, Matsumiya T, Sakaki H, Kimura D, Cui X-F, Kumagai M, Tamo W, Shibata T, Hatakeyama M, Sato Y, Satoh K. Platelet-activating factor enhances the expression of vascular endothelial growth factor in normal human astrocytes. Brain Res 2002; 944: 65-72.
- B.6. *Imaizumi T, Kumagai M, Sasaki N, Kurotaki H, Mori F, Seki M, Nishi N, Fujimoto K, Tanji K, Shibata T, Tamo W, Matsumiya T, Yoshida H, Cui X-F, Takanashi S, Hanada K, Okumura K, Yagihashi S, Wakabayashi K, Nakamura T, Hirashima M, Satoh K. Interferon-γ stimulates the expression of galectin-9 in cultured human endothelial cells. J Leukocyte Biol 2002; 72: 486-91.
- B.7. *Imaizumi T, Matsumiya T, Tamo W, Shibata T, Fujimoto K, Kumagai M, Yoshida H, Cui X-F, <u>Tanji</u> <u>K</u>, Hatakeyama M, <u>Wakabayashi K</u>, Satoh K.15-deoxy-delta 12-14 prostaglandin J2 inhibits CX3CL1/fractalkine expression in human endothelial cells. Immunol Cell Biol 2002; 80: 531-6.
- B.8. Orimo S, Ozawa E, Oka T, Miura H, Tsuchiya K, Mori F, <u>Wakabayashi K</u>, Nagao T, Yokochi M. Sympathetic cardiac denervation in Parkinson's disease and pure autonomic failure but not in multiple system atrophy. J Neurol Neurosurg Psychiatry 2002; 73: 776.
- B.9. Dickson DW, Bergeron C, Chin SS, Duyckaerts C, Horoupian D, Ikeda K, Jellinger K, Lantos PL, Lippa PL, Mirra SS, Tabaton M, Vonsattel JP, <u>Wakabayashi K</u>, Litvan I. Office of rare diseases neuropathologic criteria for corticobasal degeneration. J Neuropathol Exp Neurol 2002; 61: 935-46.
- B.10.Hasegawa M, Fujiwara H, Nonaka T, Wakabayashi K, Takahashi H, Lee VM-Y, Trojanowski JQ, Mann D, Iwatsubo T. Phosphorylated α -synuclein is ubiquitinated in α -synucleinopathy lesions. J Biol Chem 2002; 277: 49071-6.
- B.11.Piao Y-S, <u>Wakabayashi K</u>, Kakita A, Yamada M, Hayashi S, Morita T, Ikuta F, Oyanagi K, Takahashi H. Neuropathology with clinical correlations of sporadic amyotrophic lateral sclerosis: 102 autopsy cases examined between 1962 and 2000. Brain Pathol 2003; 12: 10-22.
- C.1. Sakamoto M, Kakita A, <u>Wakabayashi K</u>, Takahashi H, Nakano A, Akagi H. Evaluation of changes in methylmercury accumulation in the developing rat brain and its effects: a study with consecutive and moderate-dose exposure throughout gestation and lactation periods. Brain Res 2002; 949: 51-9.

- A.1. <u>Tanji K</u>, Irie Y, Uchida Y, <u>Mori F</u>, Satoh K, Mizushima Y, <u>Wakabayashi K</u>. Expression of metallothionein-III induced by hypoxia attenuates hypoxia-induced cell death in vitro. Brain Res 2003; 976: 125-9.
- A.2. <u>Tanji K</u>, Toki T, Tamo W, Imaizumi T, Matsumiya T, <u>Mori F</u>, Takahashi H, Satoh K, <u>Wakabayashi</u> K. Glycogen synthase kinase-3b phosphorylates synphilin-1 in vitro. Neuropathology 2003; 23: 205-8.
- A.3. Mori F, Piao Y-S, Hayashi S, Fujiwara H, Hasegawa M, Yoshimoto M, Iwatsubo T, Takahashi H,

- <u>Wakabayashi K.</u> α -Synuclein accumulates in Purkinje cells in Lewy body disease but not in multiple system atrophy. J Neuropathol Exp Neurol 2003; 62: 812-9.
- A.4. Mori F, Nishie M, Yoshimoto M, Takahashi H, Wakabayashi K. Reciprocal accumulation of β -synuclein in α -synuclein lesions in multiple system atrophy. Neuroreport 2003; 14: 1783-86.
- B.1. Imaizumi T, Kumagai M, Hatakeyama M, Tamo W, Yamashita K, <u>Tanji K</u>, Yoshida H, Satoh K *15-Deoxy-D12,14-prostaglandin J2 inhibits the expression of granulocyte-macrophage colony-stimulating factor in endothelial cells stimulated with lipopolysaccharide. Prostaglandins Other Lipid Mediat 2003; 71: 293-9.

和文 なし

(2)総説

英文

2003年度

- A.1. Wakabayashi K, Takahashi H. α -Synuclein, synphilin-1 and inclusion body formation in α -synucleinopathies. In: Advances in Brain Research. Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration (eds. Satoh K, Suzuki S, Matsunaga M). Elsevier Science B.V., pp. 149-156, 2003.
- A.2. <u>Tanji K, Mori F, Imaizumi T, Yoshida H, Yoshimoto M, Takahashi H, Satoh K, Wakabayashi K.</u> Expression of α- and β-synucleins in cultured astrocytes and the effects of inflammatory cytokines. In: Advances in Brain Research. Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration (eds. Satoh K, Suzuki S, Matsunaga M). Elsevier Science B.V., pp. 157-164, 2003.
- A.3. Mori F, Tanji K, Yoshimoto M, Takahashi H, Wakabayashi K. Widespread expression of α-synuclein in neuronal cytoplasm and glial cells in the central and peripheral nervous systems in human. In: Advances in Brain Research. Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration (eds. Satoh K, Suzuki S, Matsunaga M). Elsevier Science B.V., pp. 165-172, 2003.
- B.1. Yoshida H, Imaizumi T, <u>Tanji K</u>, Sato Y, Satoh K. Platelet-activating factor enhances the expression of vascular endothelial growth factor in normal human astrocytes under hypoxia. In: Advances in Brain Research. Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration (eds. Satoh K, Suzuki S, Matsunaga M). Elsevier Science B.V., pp. 81-86, 2003.
- B.2. Tamo W, Imaizumi T, <u>Tanji K</u>, Yoshida H, <u>Mori F</u>, Fukuda I, <u>Wakabayashi K</u>, Satoh K. Expression of α-synuclein in vascular endothelial and smooth muscle cells. In: Advances in Brain Research. Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration (eds. Satoh K, Suzuki S, Matsunaga M). Elsevier Science B.V., pp. 173-180, 2003.
- B.3. Tomiyama M, Mori F, Kimura T, Wakabayashi K, Matsunaga M. Hypertrophy of the medial globus pallidus in 6-hydroxydopamine-lesioned rats treated with levodopa. In: Advances in Brain Research. Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration (eds. Satoh K, Suzuki S, Matsunaga M). Elsevier Science B.V., pp. 205-210, 2003.

和文

2002年度

- A.1. <u>若林孝一</u>, <u>丹治邦和</u>, <u>森</u> 文秋, 高橋 均. α シヌクレイノパチー脳におけるグリア細胞の病態. 神経進 歩 2002; 46: 584-91.
- A.2. $\underline{\overline{K}}$ <u>* 活林孝一</u>. 脳神経外科医に必要な神経病理の基礎(8). 変性疾患(2) 系統変性疾患. 脳神経外科 2003; 31: 216-22.
- A.3. \overline{Z} 林孝一, 高橋 均: 皮質基底核変性症(CBD)と進行性核上性麻痺(PSP)の病理診断基準. 臨床神経 2002; 42: 1155-7.

2003年度

A.1. 若林孝一. α-Synucleinopathyにおける封入体形成メカニズム. 昭和医学会誌 2003; 63: 375-80.

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

英文 なし

和文

2003年度

B.1. 門間一成,保前英希,廣田 真,畑 大,山口 潤,原田 大,<u>若林孝一</u>. 臨床病理学的病変が線条体 黒質系に限局した多系統萎縮症の一例. 帯広厚生病院医誌 2003; 6: 120-5.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Brain Res	2.489	1	2.489
Exp Neurol	3.503	1	3.503
Clin Neuropathol	0.553	1	0.553
Neuropathology	0.575	1	0.575
Acta Neuropathol	2.165	2	4.33
Pathol Int	0.938	1	0.938
Neuroreport	2.374	1	2.374
Ann Neurol	8.481	1	8.481
Acta Neuropathol	2.165	1	2.165
Neuropathology	0.575	1	0.575
Neurosci Lett	2.021	1	2.021
Brain Res	2.489	1	2.489
J Leukocyte Biol	4.516	1	4.516
Immunol Cell Biol	2.665	1	2.665
J Neurol Neurosurg Psychiatry	3.024	1	3.024
J Neuropathol Exp Neurol	5.533	1	5.533
J Biol Chem	7.258	1	7.258
Brain Pathol	8.654	1	8.654
Total		19	47.381

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Neuropathol Exp Neurol	4.955	1	4.955
Brain Res	2.409	1	2.409
Neuroreport	2.265	1	2.265
Neuropathology	0.961	1	0.961
Prostaglandins Other Lipid Mediat	2.339	1	2.339
Total		5	12.929

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
神経進歩 脳神経外科 臨床神経			1 1 1	
	計		3	0

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担執筆		0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担執筆		0	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

C.1 Imaizumi T, Matsumiya T, Fujimoto K, Tanji K, Yoshida H, Wakabayashi K, Kimura H, Satoh K. Regulation

- of fractalkine expression in endothelial cells: roles of interferon- γ and soluble form of IL-6 receptors. The 12th International Vascular Biology Meeting (Karuizawa) 2002.
- C.2. Tanji K, Mori F, Satoh K, Takahashi H, Wakabayashi K. The expression of α-synuclein in glial cells. The 6th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Research (Hirosaki) 2002.
- C.3. Mori F, Piao Y-S, Hayashi S, Takahashi H, Wakabayashi K. Accumulation of α -synuclein in Purkinje cells in Lewy body disease and multiple system atrophy. The 6th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Research (Hirosaki) 2002.
- C.4. Wakabayashi K, Takahashi H. α -Synuclein, synphilin-1 and inclusion body formation in α -synucleinopathies. The 6th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Research (Hirosaki) 2002.
- C.5. Tomiyama M, Mori F, Kimura T, Wakabayashi K, Matsunaga M. Hypertrophy of the medial globus pallidus in 6-hydroxydopamine-lesioned rats treated with levodopa. The 6th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Research (Hirosaki) 2002.
- C.6. Tamo W, Imaizumi T, Tanji K, Yoshida H, Mori F, Fukuda I, Wakabayashi K, Satoh K. Expression of α-synuclein in vascular endothelial and smooth muscle cells. The 6th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Research (Hirosaki) 2002.
- C.7. Yoshida H, Imaizumi T, Tanji K, Sato Y, Satoh K. Platelet-activating factor enhances the expression of vascular endothelial growth factor in normal human astrocytes under hypoxia. The 6th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Research (Hirosaki) 2002.

- C.1. Oyanagi K, Yamazaki M, Takahama S, Kawakami E, Chen KM, Wakabayashi K, Takahashi H, Iwatsubo T, Hasegawa M. On the elimination of NFT/PHF: Observation in the parkinsonism-dementia complex of Guam with reference of the inoculation to rat brain. The 79th Meeting of American Association of Neuropathology (USA)
- C.2. Orimo S, Amino T, Tanaka H, Ito Y, Takahashi A, Uchihara T, Wakabayashi K, Takahashi H. Cardiac sympathetic denervation in Lewy body disease. The 6th International Conference on Progress in Alzheimer's and Parkinson's disease (Seville, Spain)
- C.3. Oyanagi K, Yamazaki M, Takahama S, Kawakami E, Chen K-M, Wakabayashi K, Takahashi H, Iwatsubo T, Hasegawa M. Elimination of NFT/PHF in the parkinsonism-dementia complex of Guam: observation in human and inoculated rat brains. The 15th International Congress of Neuropathology (Torino, Italy)
- C.4. Mori F, Piao Y-S, Hayashi S, Fujiwara H, Hasegawa M, Yoshimoto M, Iwatsubo T, Takahashi H, Wakabayashi K. α -Synuclein accumulates in Purkinje cells in Lewy body disease but not in multiple system atrophy. The 15th International Congress of Neuropathology (Torino, Italy)

(2)全国学術集会

2002年度

- A.1. 若林孝一. パーキンソン病の全身病理. 第2回パーキンソン病シンポジウム(高松市)2003. 3. 14-15.
- B.1. 若林孝一, 高橋 均. CBDと PSP の病理診断基準. 第43回日本神経学会総会(札幌市) 2002. 5. 29-31.
- C. 10件

2003年度

- A.1. 若林孝一. 特別講演「パーキンソン病における痴呆の病理学的背景」. パーキンソン病シンポジウム(高松, 2004年3月18-19日)
- B.1. 若林孝一. 進行性核上性麻痺と皮質基底核変性症. シンポジウム「神経変性疾患の診断基準とその問題点」. 第44回日本神経病理学会(名古屋, 2003年5月29-31日)
- C. 13件

III. 学術賞

2003年度

第8回弘前大学医学部学術賞特別賞. 森 文秋. 神経変性疾患脳におけるシヌクレイン蛋白の発現機構 と細胞病理.

IV. 共同研究

2002年度

大正製薬医薬研究所、シヌクレイノパチーの発症メカニズムに関する研究、吉本 真

2003年度

大正製薬医薬研究所、シヌクレイノパチーの発症メカニズムに関する研究、吉本 真

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

研究代表者として

丹治邦和. 科学研究費補助金(萌芽的研究). 多機能分子としてのαシヌクレインの発現調節機構. 500千

若林孝一、科学研究費補助金(基盤研究C)、αシヌクレイノパチーの分子病態機構:新規結合蛋白が封入 体形成に果たす役割. 1,700千円.

2003年度

研究代表者として

森 文秋. 科学研究費補助金(基盤研究C). シナプス小胞膜関連蛋白欠損マウスにおけるてんかん発症機 構の解明. 2,200千円.

若林孝一. 科学研究費補助金(基盤研究C). αシヌクレイノパチーの分子病態機構: 新規結合蛋白が封入 体形成に果たす役割. 1,000千円.

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

2002年度

研究代表者として

若林孝一. 青森銀行医学研究助成. 脳血管障害 - 成因と病態. 1,000千円 丹治邦和. 学術国際振興基金(若手研究者への助成). 脳虚血および酸素欠乏による神経細胞死の防御機 構. 1,000千円

丹治邦和. 青森医学振興会助成金. グリア細胞が産生する神経保護因子の分子機構. 500千円

若林孝一. インセンティブ研究助成 (産学連携等研究費) シヌクレイン蛋白の機能解明と病態機序に関す る研究. 1,015千円

若林孝一. 授業方法改善 · 開発推進助成. 300千円

2003年度

研究代表者として

若林孝一. 学術国際振興基金研究助成(先進的な研究への助成). パーキンソン病における神経細胞死の メカニズム解明:新規結合蛋白を標的とする分子病態機構. 3,000千円

若林孝一、青森医学振興会研究助成(先進的研究推進のための助成)、中枢神経系機能性疾患の日本人遺 伝子多型に基づく病態解析・治療法開発センター創設を目指す基礎的研究. 2,000千円

(4)民間の研究助成

2003年度

研究代表者として

若林孝一. 日本脳神経財団研究助成. αシヌクレイノパチー脳における凝集体の形成ならびに分解機構 の解明. 500千円

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催

2002年度

第6回弘前国際医学フォーラム

b) 外国人研究者の招聘. 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況 なし

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況 なし

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

2002年度

丹治邦和. (Division of Molecular Medicine, Department of Internal Medicine, University of

Texas-Houston Health Science Center) 2003.1から留学中

2003年度

丹治邦和 (Division of Molecular Medicine, Department of Internal Medicine, University of Texas-Houston Health Science Center) 2003.1から留学中

f) その他

なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況

なし

VII. その他

38. 脳血管病態部門

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

公表された英文原著数,英文学位論文については100%到達できたが,論文の質の向上と共同研究に関してはそれぞれ,70%,50%程度の達成度であった。

理念:

あらゆる努力の下に研究実績の向上を図る。

これから2年間の目標:

- ①教員数を上回る数の英文原著を公表する。
- ②研究の質の向上を図る。
- ③学内外との共同研究を実施する。
- ④研究資金の獲得に努める。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助教授 0, 講師 1, 助手 1, 医員 0, 大学院学生 7, 研究生 0				
教 官	役職 専任/併任の別 氏 名 評価年度内での在籍期間				
(教授~助手)	教 授				
の詳細	講師 専任 吉田 秀見 12ヵ月				
り活干が田	助 手 専 任 今泉 忠淳 12ヵ月				
	1. 脳血管障害の基礎的研究				
	2. 血管内皮細胞・平滑筋細胞の炎症・血栓関連遺伝子発現制御機構				
	3. グリア細胞の炎症・血栓関連遺伝子発現制御機構				
研究課題	4. 細胞の虚血応答				
	5. 気道上皮細胞の細胞生物学				
	6. パーキンソン病関連遺伝子発現制御機構				
	7. 脳血管障害後遺症患者の機能維持				

2003年度

研究人員	教授 1, 助	为授 0,講自	币 1,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 7, 研究生 0
料 它	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
教 官 (教授~助手)	教 授	専 任	佐藤	敬	1年間
の詳細	講師	専 任	吉田	秀見	1年間
り計和	助 手	専 任	今泉	忠淳	1年間
	1. 血管壁構成細胞の炎症・血栓関連遺伝子発現調節機構				
研究課題	題 2. グリア細胞の神経支持機能の分子機構				
	3. 脳血管障	音 きの遺伝的危険	6因子		

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

A.1. $\underline{\text{Tamo W}}$, $\underline{\text{Imaizumi T}}$, $\underline{\text{Tanji K}}$, $\underline{\text{Yoshida H}}$, $\underline{\text{Mori F}}$, $\underline{\text{Yoshimoto M}}$, $\underline{\text{Takahashi H}}$, $\underline{\text{Fukuda I}}$, $\underline{\text{Wakabayashi K}}$, $\underline{\text{Satoh K}}$. Expression of α -synuclein, the precursor of non-A β component of Alzheimer's disease amyloid,

- in human cerebral blood vessels. Neurosci Lett 2002;326:5-8.
- A.2. Shibata T, Imaizumi T, Tamo W, Matsumiya T, Kumagai M, Cui X-F, Yoshida H, Takaya S, Fukuda I, Satoh K. Proteasome inhibitor MG-132 enhances the expression of interleukin-6 in human umbilical vein endothelial cells: involvement of MAP/ERK kinase. Immunol Cell Biol 2002;80:226-230.
- A.3. Yoshida H, Imaizumi T, Tanji K, Matsumiya T, Sakaki H, Kimura H, <u>Cui X- F</u>, <u>Kumagai M</u>, <u>Tamo W</u>, <u>Shibata T, Hatakeyama M</u>, Sato Y, <u>Satoh K</u>: Platelet-activating factor enhances the expressions of vascular endothelial growth factor in normal human astrocytes. **Brain Res** 2002;944:65-77.
- A.4. Imaizumi T, Kumagai M, Sasaki N, Kurotaki H, Mori F, Seki M, Nishi N, Fujimoto K, Tanji K, Shibata T, Tamo W, Matsumiya T, Yoshida H, Cui X-F, Takanashi S, Hanada K, Okumura K, Yagihashi S, Wakabayashi K, Nakamura T, Hirashima M, Satoh K. Interferon-γ stimulates the expression of galectin-9 in cultured human endothelial cells. J Leukocyte Biol 2002;72:486-491.
- A.5. Imaizumi T, Matsumiya T, Tamo W, Shibata T, Fujimoto K, Kumagai M, Yoshida H, Cui X-F, Tanji K, Hatakeyama M, Wakabayashi K, Satoh K. 15-Deoxy-Δ^{12,14}-prostaglandin J₂ inhibits CX3CL1/fractalkine expression in human endothelial cells. **Immunol Cell Biol** 2002; 80:531-536, 2002.
- B.1. Kimura D, <u>Imaizumi T, Tamo W</u>, Sakai T, Ito K, Hatanaka R, <u>Yoshida H</u>, Tsushima T, <u>Satoh K</u>, Fukuda I: Hypoxia enhances the expression of plasminogen activator inhibitor-1 in human lung cancer cells. **Tohoku J Exp Med** 196(4): 259-267, 2002.
- B.2. Matsumiya T, Imaizumi T, Yoshida H, Cui X-F, Kimura H, Satoh K. Production of growth related oncogene protein-α in human umbilical vein endothelial cells stimulated with soluble interleukin-6 receptor-α: role of signal transducers, janus kinase 2 and mitogen-activated kinase kinase. Life Sci 2002;70:3179-3190.
- B.3. Sato Y, Honda Y, Kaji M, Asoh T, Hosokawa K, Kondo I, <u>Satoh K</u>. Amelioration of osteoporosis by menatetrenone in elderly female Parkinson's disease patients with vitamin D deficiency. **Bone** 2002;31:114-118.
- B.4. Tanji K, Mori F, Imaizumi T, Yoshida H, Matsumiya T, Tamo W, Yoshimoto M, Takahashi H, Satoh \underline{K} , Wakabayashi K. Upregulation of α -synuclein by lipopolysaccharide and interleukin-1 in human macrophages. **Pathol Int** 2002;52: 572-577.
- B.5. Iwata M, Kondo I, Sato Y, Satoh K, Soma M, Bar-Or O. Prediction of reflex sympathetic dystrophy in hemiplegia by evaluation of hand edema. Arch Phys Med Rehabil 2002;83:1428-1431.
- B.6. Sato Y, Kaji M, Kondo I, Yoshida H, <u>Satoh K</u>, Metoki N. Hyperhomocysteinemia in Japanese patients with convalescent stage ischemic stroke: effect of combined therapy with folic acid and mecobalamine. **J Neurol Sci** 2002;202:65-68.
- B.7. Asakura H, Kashio Y, Nakamura K, Seki M, Dai S, Shirato Y, Abedin MJ, Yoshida N, Nishi N, Imaizumi \underline{T} , Saita N, Toyama Y, Takahashi H, Nakamura T, Ohkawa M, Hirashima M. Selective eosinophil adhesion to fibroblasts via interferon- γ -induced galectin-9. **J Immunol** 2002;169:5912-5918.
- B.8. Tanji K, Mori F, <u>Imaizumi T</u>, <u>Yoshida H</u>, <u>Satoh K</u>, Wakabayashi K. Interleukin-1 induces tau phosphorylation and morphological changes in cultured human astrocytes. **Neuroreport** 2003;24: 413-417.
- B.9. Sato Y, Kaji M, Metoki N, Satoh K, Iwamoto J. Does compensatory hyperparathyroidism predispose to ischemic stroke? **Neurology** 2003;60:626-629.

- A.1. Imaizumi T, Kumagai M, Nishi N, Hirashima M, Hatakeyama M, Tamo W, Yoshida H, Nakamura T, Okumura K, Satoh K. 15-Deoxy-Δ^{12,14}-prostaglandin J₂ inhibits IFN-γ induced galectin-9 expression in human umbilical vein endothelial cells. **Int Arch Allergy Immunol** 2003;131: 57-61.
- A.2. Imaizumi T, Kumagai M, Hatakeyama M, Tamo W, Yamashita K, Tanji K, Yoshida H, Satoh K. 15-Deoxy- $\Delta^{12,14}$ -prostaglandin J₂ inhibits the expression of granulocyte-macrophage colony-stimulating factor in endothelial cells stimulated with lipopolysaccharide. **Prostaglandins Other Lipid Mediat** 2003; 71: 293-9.
- A.3. <u>Yamashita K, Imaizumi T, Hatakeyama M, Tamo Y, Kimura D, Kumagai M, Yoshida H, Satoh K. Effect of hypoxia on the expression of fractalkine in human endothelial cells. **Tohoku J. Exp. Med.** 2003; 200: 187-94</u>
- A.4. Imaizumi T, Kumagai M, Hatakeyama M, Tamo W, Yamashita K, Yoshida H, Munakata H, Satoh K. Effect of 15-deoxy- $\Delta^{12,14}$ -prostaglandin J_2 on IL-1-induced expression of epithelial neutrophil-activating protein-78 in human endothelial cells. **Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids**. 2003; 69: 323-7.
- A.5. Shibata T, Imaizumi T, Yoshida H, Matsumiya T, Tamo W, Hatakeyama M, Yoshida H, Munakata H, Fukuda I, Satoh K. Effect of MG132, a proteasome inhibitor, on the expression of growth related oncogene protein-α in human umbilical vein endothelial cells: involvement of p38 mitogen-activated protein kinase. Cytokine 2003; 24: 67-73.
- A.6. Hatakeyama M, Imaizumi T, Tamo W, Yamashita K, Yoshida H, Fukuda I, Satoh K. Heparin inhibits IFN-γ-induced fractalkine/CX3CL1 in cultured human endothelial cells. **Inflammation** 2004; 28: 7-13.
- A.7. Kumagai M, Imaizumi T, Suzuki K, Yoshida H, Takanashi S, Okumura K, Sugawara K, Satoh K. 15-Deoxy- $\Delta^{12,14}$ -prostaglandin J₂ inhibits the IL-1 β -induced expression of granulocyte-macrophage colony-stimulating factor in BEAS-2B bronchial epithelial cells. **Tohoku J Exp Med** 2004; 202: 69-74.
- B.1. *Sato Y, Asoh T, <u>Metoki N, Satoh K</u>. Efficacy of methylprednisolone pulse therapy on neuroleptic malignant syndrome in Parkinson's disease. **J Neurol Neurosurg Psychiatry** 2003; 74: 574-6.
- B.2. *Tanji K, Irie Y, Uchida Y, Urata Y, Yoshida S, Mori F, <u>Satoh K</u>, Mizushima Y, Wakabayashi K. Expression of metallothionein-III induced by hypoxia attenuates hypoxia-induced cell death in vitro. **Brain Res** 2003; 976: 125-9.
- B.3. *Iwata M, Kondo I, Sato Y, <u>Satoh K</u>, Soma M, Tsushima E. An ankle-foot orthosis with inhibitor bar: effect on hemiplegic gait. **Arch Phys Med Rehabil** 2003; 84: 924-7.
- B.4. *Sato Y, Kaji M, Metoki N, Yoshida H, Satoh K. Coagulation-fibrinolysis abnormalities in patients receiving antiparkinsonian agents. J Neurol Sci 2003; 212: 55-8.
- B.5. *Sato Y, Metoki N, Iwamoto J, <u>Satoh K</u>. Amelioration of osteoporosis and hypovitaminosis D by sunlight exposure in stroke patients. **Neurology** 2003; 61: 338-42.

- B.6. *Tanji K, Toki T, <u>Tamo W, Imaizumi T</u>, Matsumiya T, Mori F, Takahashi H, <u>Satoh K</u>, Wakabayashi K. Glycogen synthase kinase-3 β phosphorylates synphilin-1 in vitro. **Neuropathology** 2003; 23: 205-8.
- B.7. *Sakaki H, Matsumiya T, Kusumi A, <u>Imaizumi T</u>, Satoh H, <u>Yoshida H</u>, <u>Satoh K</u>, Kimura H. Interleukin-1 β induces matrix metalloproteinase-1 expression in cultured human gingival fibroblasts: role of cyclooxygenase-2 and prostaglandin E₂. **Oral Dis** 2004; 10: 87-93.

和文 なし

(2)総説

英文

2003年度

- A.1. Maizumi T, Yoshida H, Satoh K: Regulation of CX3CL1/fractalkine expression in endothelial cells. J
 Atheroscler Thromb 2004; 11: 15-21.
- B.1. Hirashima M, Kashio Y, Nishi N, Yamauchi A, <u>Imaizumi T</u>, Kageshita T, Saita N, Nakamura T. Galectin-9 in physiological and pathological conditions. **Glycoconj J** 2004; 19: 593-600.

和文 なし

(3)著書

英文

2003年度

- A.1. <u>Yoshida H, Imaizumi T</u>, Tanji K, Sato Y, <u>Satoh K</u>. Platelet-activating factor enhances the expression of vascular endothelial growth factor in normal human astrocytes under hypoxia. In: Satoh K, Suzuki S, Matsunaga M, editors. Advances in Brain Research—Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration. Amsterdam: Elsevier; 2003. pp. 81-86.
- A.2. <u>Imaizumi T, Yoshida H, Satoh K.</u> Bacterial lipopolysaccharide induces retinoic acid-inducible gene-I in vascular endothelial cells. In: Satoh K, Suzuki S, Matsunaga M, editors. Advances in Brain Research—Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration. Amsterdam: Elsevier; 2003. pp. 119-123.
- A.3. <u>Tamo W, Imaizumi T, Tanji K, Yoshida H, Mori F, Fukuda I, Wakabayashi K, Satoh K.</u> Expression of α-synuclein in vascular endothelial and smooth muscles cells. In: Satoh K, Suzuki S, Matsunaga M, editors. Advances in Brain Research—Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration. Amsterdam: Elsevier; 2003. pp. 173-179.
- B.1. Tanji K, Mori F, Imaziumi T, Yoshida H, Takahashi H, Satoh K, Wakabayshi K. Expression of α and β -synuclein in cultured astrocytes and the effects of inflammatory cytokines. In: Satoh K, Suzuki S, Matsunaga M, editors. Advances in Brain Research—Cerebrovascular Disorders and Neurodegeneration. Amsterdam: Elsevier; 2003. pp. 157-164.

和文

2002年度

A.1. 佐藤 敬,吉田秀見,今泉忠淳:血小板活性化因子と脳虚血.血小板と生理活性脂質(尾崎由基男,池田康夫,島田和幸,高井義美,丸山征郎 編),金芳堂,2002,pp 87-95.

(4)その他

英文 なし

和文

2002年度

A.1. 佐藤 敬, 吉田秀見, 今泉忠淳:ヒト臍帯動脈からの平滑筋細胞培養と炎症反応に伴う遺伝子発現. 厚生科学研究費補助金ヒトゲノム•再生医療等研究事業「脳動脈瘤責任遺伝子同定と出血前診断への臨床応用」平成13年度研究報告書. 2002; pp. 27-33.

2003年度

A.1. 佐藤 敬、ヒト臍帯動脈からの平滑筋細胞培養と炎症反応に伴う遺伝子発現-培養平滑筋細胞の炎症性 刺激に伴うレチノイン酸誘導遺伝子 I の発現. 厚生科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究事業 「脳動脈瘤責任遺伝子同定と出血性診断への臨床応用」平成14年度研究報告書. 2003; pp. 19-25.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Brain Res	2.489	1	2.489
Immunol Cell Biol	2.665	2	5.33
J Leukocyte Biol	4.516	1	4.516
Neurosci Lett	2.021	1	2.021
Arch Phys Med Rehabil	1.371	1	1.371
Bone	3.247	1	3.247
J Immunol	7.065	1	7.065
J Neurol Sci	1.986	1	1.986
Life Sci	1.758	1	1.758
Neurology	5.212	1	5.212
Neuroreport	2.374	1	2.374
Pathol Int	0.938	1	0.938
Tohoku J Exp Med	0.516	1	0.516
Total		14	38.823

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Int Arch Allergy Immunol	1.828	1	1.828
Prostag Oth Lipid Med	2.339	1	2.339
Prostag Leukot Essent Fatty Acids	0.958	1	0.958
Cytokine	2.374	1	2.374
Inflammation	1.247	1	1.247
Tohoku J Exp Med	0.494	2	0.988
J Atheroscl Thromb	0	1	0
J Neurol Neurosurg Psych	2.939	1	2.939
Brain Res	2.409	1	2.409
Arch Phys Med Rehail	1.327	1	1.327
J Neurol Sci	2.08	1	2.08
Neurology	5.34	1	5.34
Neuropathology	0.961	1	0.961
Oral Dis	1.019	1	1.019
Glycoconj J	1.669	1	1.669
Total		16	27.478

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
	なし			
	計		0	0

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種 目	2002年度	2003年度
単 著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	4

和文

種	I	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	1	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

C.1. Imaizumi T, Matsumiya T, Fujimoto K, Tanji K, Yoshida H, Wakabayashi K, Kimura H, Satoh K. Regulation

- of fractalkine expression in endothelial cells: role of interferon-g and soluble form of IL-6 receptor. XIIIth International Vascular Meeting, Karuizawa, 2002.
- C.2. Yoshida H, Imaizumi T, Tanji K, Sato Y, Satoh K. Platelet-activating factor enhances the expression of vascular endothelial growth factor in normal human astrocytes under hypoxia. Sixth Meeting of The Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, 2002.
- C.3. Imaizumi T, Yoshida H, Satoh K. Lipopolysaccharide induces retinoic-acid inducible gene I in endothelial cells. Sixth Meeting of The Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, 2002.
- C.4. Tamo W, Imaizumi T, Tanji K, Yoshida H, Mori F, Fukuda I, Takahashi H, Wakabayashi K, Satoh K. Expression of α -synuclein, the precursor of non-amyloid β component of Alzheimer's disease amyloid, in human cerebral blood vessels. Sixth Meeting of The Hirosaki International Forum of Medical Science, Hirosaki, 2002.

- C.1. Imaizumi T, Yoshida H, Satoh K. 15-Deoxy-∆^{12,14}-prostaglandin J₂ inhibits the expression of fractalkine in endothelial cells. XIIIth International Symposium on Atherosclerosis, Kyoto, 2003.
- C.2. Tamo W, Imaizumi T, Yoshida H, Mori F, Fukuda I, Wakabayashi K, Satoh K. Expression of synphilin-1 in vascular endothelial cells and its enhancement by SB203580, an inhibitor of p38 MAP kinase. XIIIth International Symposium on Atherosclerosis, Kyoto, 2003.
- International Symposium on Atherosclerosis, Kyoto, 2003.

 C.3. Kumagai M, Fujimoto K, Imaizumi T, Takanashi S, Hasegawa Y, Okumura K, Satoh K. 15-Deoxyprostaglandin J₂ inhibits interleukin-1-induced expression of granulocyte-macrophage colony-stimulating factor in human bronchial cell line, BEAS2B. American Thoracic Society 2003, Seattle, USA, 2003.

(2)全国学術集会

2002年度

- A.1. 佐藤 敬. 血管内皮細胞における炎症関連遺伝子発現とその意義. 第55回心臓血管放射線研究会. 弘前市, 2002.
- C. 5件

2003年度

C. 3件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

2002年度

University of Utah, USA, 血管内皮細胞における retinoic acid inducible gene I 発現の意義. Prescott SM 香川医科大学, ガレクチンに関する研究. 平島光臣東京大学, 血管平滑筋細胞の分子細胞生物学的研究. 井ノ上逸朗

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

萌芽的研究,パーキンソン病における α -シヌクレイン蓄積機序に関する研究,佐藤 敬,900,000円 萌芽的研究,脳血管障害におけるオピオイドペプチドの新しい働き-ヘモルフィンの関与,吉田秀見,500,000円

2003年度

研究代表者として

萌芽研究,脳血管障害におけるオピオイド・ペプチドの新しい働き-ヘモルフィンの関与,吉田秀見,900千円.

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

他研究単位との研究分担者として 平成14年度厚生労働省ヒトゲノム・再生医療等研究事業研究補助金, 脳動脈瘤の責任遺伝子同定と出血診断への臨床応用, 佐藤 敬 (分担), 4,000,000円

他研究単位との研究分担者として 厚生労働省ヒトゲノム・再生医療等研究事業研究補助金、脳動脈瘤の責任遺伝子同定と出血前診断への臨 床応用 井ノ上逸朗 4,000千円

(3)学内の研究助成

2003年度

研究代表者として

- ①教育改善推進経費(研究プロジェクト経費), 脳神経血管研究施設大学院教育研究の充実 難治性神経疾
- 患の研究, 佐藤 敬, 1,000千円. ②インセンティブ研究助成 (小規模ながら輝く研究), 血管系細胞における炎症関連遺伝子発現に関する研究, 佐藤 敬, 1,000千円.

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として 青森銀行医学研究助成,「脳卒中一成因と病態」,佐藤 敬 (代表), 1,000,000円

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流。国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

2002年度

佐藤 敬、弘前国際医学フォーラム第6回学術集会、弘前市

b) 外国人研究者の招聘. 受け入れ状況

なし

- c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況 なし
- d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況 なし
- e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況 なし
- f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

- a) 全国レベルの学会の主催 なし
- b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

佐藤 敬, 第37回東北止血 • 血栓研究会, 弘前市

- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学) 状況 なし

VII. その他

39. 機能回復部門

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

報告者は、この研究室に2004年2月に赴任しており、2年前の目標設定および、実施には、たずさわっていない。また、研究内容においても、前任者は臨床系研究であり、私は、基礎研究を中心としており、接点はない。到達度を評価する立場にはないと思われるが、機能回復の現在の設備、マンパワーのない状態からは、十分な成果をあげたと思われる。

理念:

神経生理部門で電気生理、イメージング法を用いて、神経機能解析を中心に研究を推し進める。慢性疼痛の機序解明、麻酔薬の機序解明を目指し、臨床応用につなげられる研究につなげる。

これから2年間の目標:

実験セットの稼動および、脳スライス標本を用いたデータ取得の確立。

痛み動物モデルの確立。

他研究室との共同研究の立ち上げ

【研究人員及び研究課題】

2003年度

研究人員	教授 1, 助教授 0, 請	師 0,助手	1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 3		
教 官	役 職 専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間		
(教授~助手)	教 授 専 任	上野 伸哉	2 ヵ月		
の詳細	助手 専任	沈 活	12ヵ月		
	1. 三叉神経痛モデル動物の作製				
研究課題	2. 痛み情報伝達における ATP 受容体の役割に関する研究				
	3. 麻酔薬の作用機序の解明				

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2003年度

- A.1. Ueno S, Moriyama T, Honda K, Kamiya H, Sakurada T, Katsuragi T: Involvement of P2X2 and P2X3 Receptors in Neuropathic Pain in a Mouse Model of Chronic Constriction Injury. Drug Development Research 2003 59: 104-111.
- B.1. Sakurada T, Matsumura T, Moriyama, Sakurada C, Ueno S, Sakurada S: Differential effects of intraplantar capsazepine and ruthenium red on capsaicin-induced desensitization in mice. Pharmacol. Biochem. and Behavior 2003 75: 115-121.

和文 なし

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

英文 なし

和文 なし

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Drug Development Research Pharmacol. Biochem. and Behavior	1.325 1.741	1 1	1.325 1.741
Total		2	3.066

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
	なし			
	計		0	0

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種 目	2002年度	2003年度
単 著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種	I	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2003年度

- B.1. 上野伸哉 Involvement of P2X receptors in nociception 第3回慶北大学-浜松医科大学合同シンポジウム 邸丘2003
- C.1. UENO S, ATP modulates excitatory but not inhibitory synaptic transmission in rat neocort SFN the 33th annual meeting New Orleans USA 2003

(2)全国学術集会

2003年度

- B.1. 上野伸哉 Postsynaptic ATP-induced response and P2X receptor expression in mRNA level 神経科学 名古屋 2003
- C. 4件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2003年度

研究代表者として

- i) 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究B てんかん原性大脳皮質形成異常モデル動物の確立とア
- 1) 文部科子省 科子切れ負補助金 基盤切れ日 Cんかん原性人園及員が成業帯モナル動物の確立とテンチセンス治療法への展開 代表者 福田敦夫 1,600 (千円) ii) 文部科学省 科学研究費補助金 萌芽研究 てんかん原性皮質形成異常における Cl ホメオスタシスと GABA 機能異常の分子機構 代表者 福田敦夫 900 (千円)
- (2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘. 受け入れ状況 なし

c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし

- d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況 なし
- e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況 なし
- f) その他

なし

- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

- c)国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学) 状況 なし

VII. その他

40. 神経統御部門

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

松永宗雄前教授がかかげた地域病院との連携強化はほぼ達成できた。しかし、助教授馬場正之のみで丸1年の研究・教育・診療業務を遂行するのは物理的に極めて困難であった。この部門が1年半以上スタッフの補充がないままに放置され、業務に多大の支障をきたしたことが残念である。

理念:

基礎神経科学は臨床神経学あってこそ発展が期される。独自の臨床の場を創設することが最大の目標であり、研究スタッフの充実を計りたい。松永教授が退職し、馬場正之が唯一の教室スタッフであり、今後人員の増強が切に望まれる。

これから2年間の目標:

- 1. 臨床神経学教室としてふさわしい人員構成と研究スタッフを充実させること。
- 2. 神経疾患病因研究班, 臨床神経生理研究班などの研究サブグループ体制を整えること。
- 3. 脳研他部門との共同研究の推進を図ること。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0	, 助手 0), 医員 0, 大学院学生 4, 研究生 0		
教 官	役職 専任/併任の別 氏	名	評価年度内での在籍期間		
(教授~助手)	教 授 専 任 松永	宗雄	1年		
の詳細	助教授 専 任 馬場	- 正之	1年		
研究課題	1. パーキンソン病モデルラット脳内ドパミン代謝に関する神経薬理学的研究 2. パーキンソン病患者におけるレボドーパ誘発運動合併症の発現機序について 3. 大脳皮質感覚受容機構に関する研究: 脳磁図による体性感覚・聴覚・視覚情報 4. 皮膚触覚電位の臨床神経生理学的研究 5. 糖尿病性ニューロパチーの病態に関する電気生理学的研究 6. 神経難病, 特に脱髄性疾患の疫学, 臨床病態, 治療開発に関する研究				

2003年度

研究人員	教授 0, 助	教授 1, 講館	币 0,	助手	0, 医員 0, 大学院学生 2, 研究生 0	
教 官 (教授~助手)	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間	
の詳細	助教授	専 任	馬場	正之	1年	
	1. パーキンソン病モデルラット脳内ドパミン代謝の研究					
	2. パーキンソン病治療に伴うジスキネジア発現機序に関する研究					
研究課題	3. 脳磁場解析による大脳皮質感覚受容野の生理学的研究					
	4. 糖尿病性神経障害の病態に関する研究					
	5. 免疫性二	ューロパチーの	の電気生	三理学的	研究	

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

A.1. $\underline{\text{Baba M}}$: Hyperesthesia: an earliest manifestation of diabetic polyneuropathy. Intern Med 41:1079-1080, $\underline{\text{2002}}$.

- A.2. Nishie M, Yoshida Y, Hirata, Y, Matsunaga M: Generation of symptomatic palatal tremor is not correlated with inferior olivary hypertrophy. Brain 126:1348-1357, 2002.
- A.3. Shen H, Kannari K, Yamato H, Arai A, Matsunaga M: Effect of benserazide on L-DOPA-derived extracellular dopamine levels and aromatic L-amino acid decarboxylase in the striatum of 6-hydroxydopamine-lesioned rats. Tohoku J Exp Med 199:149-159, 2003.
- A.4. <u>Arai A</u>, Kannari K, <u>Shen H</u>, Maeda T, Suda T, <u>Matsunaga M</u>:Amantadine increases L-DOPA-derived extracellular dopamine in the striatum of 6-hydroxydopamine-lesioned rats. Brain Res 972:229-234, 2003.
- B.1. Ozaki I, Suzuki C, <u>Baba M</u>, <u>Matsunaga M</u>: Multiple sclerosis manifesting as a Brown- Séquard syndrome. Eur J Neurol 10: 1-2, 2003.
- B.2. Maeda T, Kannari K, <u>Shen H</u>, <u>Arai A</u>, <u>Matsunaga M</u>, Suda T: Rapid induction of serotonergic hyperinnervation in the adult rat striatum with extensive dopaminergic denervation. Neurosci Letters 343:17-20, 2003.
- B.3. Hattori N, Yamamoto M, Yoshihara T, Koike H, Nakagawa M, Yoshikawa H, Ohnishi A, Hayasaka K, Onodera O, <u>Baba M</u>, Yasuda H, Saito T, Nakashima K, Kira J, Kaji R, Oka N, Sobue G: Demyelinating and axonal features of Charcot-Marie-Tooth disease with mutations of myelin-related proteins (PMP22, MPZ and Cx32): a clinicopathological study of 205 Japanese patients. Brain 126: 134-151, 2003.
- C.1. <u>Tanosaki M</u>, Kimura T, Takino R, Iguchi Y, Suzuki A, Kurobe Y, Hatuta Y, Hoshi Y, Hashimoto I: Movement interference attenuates somatosensory high-frequency oscillations: contribution of local axon collaterals of 3b pyramidal neurons. Clin Neurophysiol 113:993-1000, 2002.
- C.2. <u>Tanosaki M</u>, Suzuku C, Kimura T, Takino R, Hoshi Y, Hashimoto I: Contribution of primary somatosensory area 3b to somatic cognition: A neuromagnetic study. NeuroReport 13:1519-1522, 2002.
- C.3. <u>Tanosaki M</u>, Suzuku C, Takino R, Kimura T, Iguchi Y, Hoshi Y, Hashimoto I: Neural mechanism for generation of tactile interference effects on somatosensory evoked magnetic fields in humans. Clin Neurophysiol 113:672-680, 2002.

- A.1. Nishie M, Tomiyama M, Kamijo M, Tasnosaki, Baba M, Matsunaga M, Suda T: Acute cholecystitis and duodenitis associated with Churg-Strauss syndrome. Hepatogastroenterology 50: 998-1002, 2003.
- A.2. <u>Arai A</u>, Kannari K, Shen H, Maeda T, Suda T, Matsunaga M: Amantadine increases L-DOPA-derived extracellular dopamine in the striatum of 6-hydroxydopamine-lesioned rats. Brain Res 972:229-234, 2003.
- B.1. Susuki K, Nishimoto Y, Yamada M, <u>Baba M</u>, Ueda S, Hirata K, Yuki N: Acute motor axonal neuropathy rabbit model: immune attack on nerve root axons. Ann Neurol 54: 383-388, 2003.
- B.2. Sugimoto K, <u>Baba M</u>, Suda T, Yasujima M, Yagihashi S: Peripheral nerve electrophysiology and morphology in a rat model of insulinoma: correlation with chronic hyperinsulinemia and hypoglycemia. Diabetes Metab Res Rev: 19: 392-400, 2003.
- B.3. Ozaki I, Suzuki Y, <u>Jin CY</u>, <u>Baba M</u>, <u>Matsunaga M</u>, Hashimoto I: Dynamic movement of N100 dipoles in evoked magnetic field reflects sequential activation of isofrequency bands in human auditory cortex. Clin Neurophysiol 114: 1681-1688, 2003.
- C.1. <u>Tanosaki M</u>, Sato C, Shimada M, Iguchi Y, Hoshi Y: Effects of stimulus frequency on human cerebral hemodynamic responses to electric median nerve affects magnetic responses elicited by electric thumb stimulation: a near-infrared spectroscopic study. Neurosci Lett 325:1-4,2003.
- C.2. <u>Tanosaki M</u>, Iguchi Y, Hoshi Y, Hashimoto I: Tactile interference to face affects magnetic responses elicited by electric thumb stimulaton. Clin Neurophysiol 114:2118-2123, 2003.

和文

2002年度

- A.1. <u>古澤健一</u>, 冨山誠彦, 木村珠喜, 上條美樹子, <u>松永宗雄</u>: ストレプトゾトシン誘発糖尿病ラット脊髄にお けるグルタミン酸受容体 mRNA の発現, 弘前医学 53: 111-120, 2002.
- A.2. 馬場正之:神経伝導検査概論-解剖生理学的基盤と所見解釈の原理. 脳の科学 24:71-77, 2002.
- B.1. 神成一哉, 倉橋幸造, 冨山誠彦, 前田哲也, <u>新井</u> 陽, <u>馬場正之</u>, 須田俊宏, <u>松永宗雄</u>: 選択的 5-HT1A 受容体アゴニスト, クエン酸タンドスピロンの L-DOPA-induced dyskinesia 軽減効果. 脳と神経 54: 133-137, 2002.
- B.2. 冨山誠彦, 木村珠喜, <u>古澤健一</u>, 前田哲也, 神成一哉, 田中洋康, <u>松永宗雄</u>: L-DOPA によって誘発される運動合併症に対する 5-HT1A 受容体アゴニスト 8-OH-DPAT の効果;パーキンソン病モデルラットでの検討. Progress in Med 22;217-221, 2002.
- B.3. 小森哲夫, <u>馬場正之</u>: 筋萎縮性側索硬化症電気診断ガイド. 臨床神経生理 30: 451-460, 2002.

2003年度

- A.1. <u>金 春玉</u>, <u>馬場正之</u>, 松永宗雄: 健常若年成人における運動神経伝導パラメーターの左右差について. 臨 床脳波 45: 234-238, 2003.
- A.2. 鈴木千恵子, <u>馬場正之</u>: サルコイドニューロパチー. 臨床脳波 45: 685-688, 2003.

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

A.1. <u>馬場正之</u>:運動失調症とニューロパチー. Clinical Neuroscience, 19:1289-1292, 2001.

- A.2. <u>馬場正之</u>:神経伝導検査概論:解剖生理学的基盤と所見解釈の原理. 脳の科学 24:71-77, 2002. A.3. <u>馬場正之</u>:上肢の神経伝導検査. 脳の科学 24:385-392, 2002. A.4. <u>馬場正之</u>:下肢の神経伝導検査. 脳の科学 24:967-974, 2002 A.5. <u>馬場正之</u>:神経伝導検査の pitfall と測定手技上の留意点脳の科学 25:81-87, 2003. A.6. <u>馬場正之</u>:糖尿病性神経障害の病態と診断. 臨床医 28:1944-1947, 2002. B.1. 前田哲也, <u>松永宗雄</u>:無動性無言とと外套症候群. Clin Neurosci 20:460-461, 2002.

- B.2. 村上千恵子,布村仁一,<u>馬場正之</u>: Klinefelter 症候群を伴った MELAS. 日本臨床 60:625-628, 2002. B.3. 前田哲也,古澤健一,冨山誠彦,<u>馬場正之</u>,松永宗雄,庄司紘史:日本脳炎様の基底核病変主体の画像所
- 見を呈した急性脳炎の1例. Neuroinfection 7:38-39,2002 B.4. 木村珠喜,富山誠彦,前田哲也,村上千恵子,大和博,古澤健一,須田俊宏,<u>馬場正之</u>,松永宗雄:再生 不良性貧血患者に合併したインフルエンザ桿菌脳炎の一例. Neuroinfection 7:68, 2002.

- A.1. <u>馬場正之</u>:慢性炎症性脱髄性神経炎の病態と診断基準. 神経研究の進歩 47:501-511, 2003. A.2. <u>馬場正之</u>:軸索変性型ニューロパチーの神経伝導検査. 脳の科学 25: 595-600, 2003. A.3. <u>馬場正之</u>:脱髄性ニューロパチーの電気診断学. 脳の科学 25: 811 817, 2003.

- A.4. <u>馬場正之</u>: 棚屋は一4 ロハリーの电 X.6 図子 MO科子 25: 811 817, A.4. <u>馬場正之</u>: 糖尿病性神経障害の電気診断. 脳の科学 25: 1083-1088, 2003.

- A.5. <u>馬場正之</u>: 圧迫性・絞扼性神経障害の電気診断. 脳の科学 25: 1163-1168, 2003. A.6. <u>馬場正之</u>: Charcot-Marie-Tooth 病. Clinical Neuroscience 21: 720-721, 2003. A.7. <u>馬場正之</u>: 脱髄性ニューロパチー: 電気診断の原則と実際. 臨床脳波 45:619-625, 2003.
- A.8. <u>馬場正之</u>, 大和 博:内科的治療の対象となる末梢神経疾患. 脊椎脊髄ジャーナル 16:1070-1077, 2003. B.1. 高田博仁, <u>馬場正之</u>: 磁気刺激によるニューロパチーの診断. 脳の科学 25: 1089-1095, 2003.
- B.2. 上條美樹子, <u>馬場正之</u>:標準治療と最新治療:糖尿病性ニューロパチー. Clinical Neuroscience 21: 1332-1333, 2003.
- B.3. 鈴木千恵子, <u>馬場正之</u>:神経伝導検査の実際:内科的疾患. 総合リハビリテーション 31:361-366,2003. B.4. 鈴木千恵子, 高田博仁, 尾崎 勇, <u>馬場正之</u>, <u>松永宗雄</u>:末梢神経障害での SE P所見について. 臨床神経 生理学 31:278-285, 2003.

(3)著書

英文

2002年度

- A.1. Jin YC, Ozaki I, Suzuki Y, Baba M, Matsunaga M, Hashimoto I: Selective attention to pitch or laterality induces short-term plasticity in human audidory cortex. Biomag 2002, Ed by Nowak H et al, VDE Verlag, Berlin, Germany, p77-79, 2002.
- B.1. Ozaki I, Jin YC, Suzuki Y, Baba M, Matsunaga M, Hashimoto I: Dynamic anterolateral movement of auditory N100m dipoles reflects activation of isofrequency bands through horizontal fibers. Biomag 2002, edited by Nowak H et al, VDE Verlag, Berlin, Germany, p.104-106, 2002.

2003年度

- A.1. Shen H, Kannari K, Yamato H, Arai A, Matsunaga M: Effects of benserazide on L-DOPA-derived extracellular dopamine levels and aromatic L-amino acid decarboxilase activity in the striatum of 6-hydroxydopamine-lesioned rats. Excerpta Medica ICS 1251, Excerpta Medica, Amsterdam, pp199-204,
- A.2. Kimura T, Tomiyama M, Kannari K, Matsunaga M: Upregulation of the NR1 m RNA in the subthalamic nucleus of 6-hydroxydopamine-lesioned rats treated with levodopa. Excerpta Medica ICS 1251, Excerpta Medica, Amsterdam, pp217-221, 2003.
- B.1. Kannari K, Maeda T, Tanaka H. Arai A, Shen H, Matsunaga M: L-DOPA-derived extracellular dopamine in the striatum with dopaminergic denervation: role of serotogenic neurons in L-DOPA metabolism. Excerpta Medica ICS 1251, Excerpta Medica, Amsterdam, pp181-189, 2003
- B.2. Tomiyama M, Mori F, Kimura T, Wakabayashi K, Matsunaga M: Hypertrophy of the medial globus pallidus in 6-hydroxydopamine-lesioned rats treated with levodopa. Excerpta Medica ICS 1251, Excerpta Medica, Amsterdam, pp205-210, 2003

和文

- A.1. <u>馬場正之</u>: 電気生理学的検査. 看護のための最新医学講座「1 脳・神経系疾患」. 日野原重明, 井村裕夫監 修,中山書店,東京, p.113-121, 2002.
- A.2. <u>馬場正之</u>: 糖尿病性ニューロパチーの症候学と鑑別診断. 「糖尿病合併症」岩本安彦編, 中外医学社, 東京, p.87-93, 2002.
- A.3. 馬場正之: アルドース還元酵素阻害薬、糖尿病キーワード第3版(豊田隆謙編), 日本医学出版、東京、 p.11, 2002.
- A.4. 松永宗雄: 言語障害. 新臨床内科学, 医学書院, 東京, p.176-178, 2002.
- A.5. <u>松永宗雄</u>: 眩暈. 新臨床内科学, 医学書院, 東京, p.98-100, 2002. A.6. <u>馬場正之</u>: 糖尿病性神経障害. 糖尿病キーワード第 3 版(豊田隆謙編), 日本医学出版, 東京, p.96, 2002. A.7. <u>馬場正之</u>: 自律神経障害. 糖尿病キーワード第 3 版(豊田隆謙編)日本医学出版, 東京, p.67, 2002.
- A.8. <u>馬場正之</u>: プロテインキナーゼC. 糖尿病キーワード第3版(豊田隆謙編), 日本医学出版, 東京, p.121,
- A.9. 馬場正之:ポリオール代謝異常. 糖尿病キーワード第3版(豊田隆謙編), 日本医学出版, 東京, p.128,

2002

A.10. 馬場正之: Crow-Fukase 症候群. 今日の診断指針第5版, 医学書院, p.641-642, 2002.

2003年度

- A.1. <u>馬場正之</u>: 脳の変性疾患. コメディカルのための臨床医学(後藤由夫編), 医薬ジャーナル社, 東京, p701-706, 2003.
- A.2. 馬場正之: 脊髄疾患. コメディカルのための臨床医学(後藤由夫編), 医薬ジャーナル社, 東京, p721-725, 2003.
- A.3. <u>馬場正之</u>:神経障害. 糖尿病の治療と看護(葛谷英嗣編),南江堂,東京,p190-199,2003 A.4. <u>馬場正之</u>,額田 均,高橋一徳,和田龍一,八木橋操六:糖尿病神経の電気生理学的検討:虚血に対する抵抗性および再灌流に対する脆弱性. 第17回日本糖尿病動物研究会記録,p.25, 2003.
- A.5. <u>馬場正之</u>:神経学的診察・検査・評価法. 後藤文夫ほか編「ペインマネージメント」南江堂, 東京, 2004, p84-92.

(4)その他

英文

2003年度

A.1. Baba M: Is electrophysiology insensitive in diagnosis of CIDP? Journal Watch Neurology 5(7): 57, 2003.

和文

2002年度

- A.1. <u>松永宗雄</u>, <u>馬場正之</u>, 栗原愛一郎, 倉橋幸造, 成田祥耕:神経疾患経過中に併発した SMON が予後に及ぼ
- した影響について. 厚生労働省スモンに関する調査研究班 平成13年度研究報告書, p.117-119, 2002. B.1. 西郡光昭, 西野善一, 久道 茂, 高瀬貞夫, 松永宗雄, 大井清文, 他 4 名: スモン患者における生活満足 度に関する要因. 厚生労働省スモンに関する調査研究班 平成13年度研究報告書, p.75-77, 2002.
- B.2. 冨山誠彦, 松永宗雄:ヒト脊髄における代謝型グルタミン酸受容体の分布に関する研究:脊髄運動ニュー ロンの脆弱性に関する考察. JALSA 特集号「ALS 基金」研究奨励金研究成果報告, 3:7-10, 2002.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Hepatogastroenterology	0.886	1	0.886
Brain Research	2.489	1	2.489
Annals of Neurology	8.603	1	8.603
Diabetes Metab Res Rev	1.907	1	1.907
Clinical Neurophysiology	3.327	1	3.327
Total		5	17.212

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
脳と神経			1	
脳の科学			2	5
臨床神経生理			1	
日本臨床			1	
Neuroinfection			2	
弘前医学			1	
Progress in Med			1	
Clin Neurosci			1	
神経研究の進歩				1
Clinial Neuroscience				2
臨床脳波				3
育椎脊髄ジャーナル バー・				1
総合リハビリテーション	/			1
臨床神経生理学				1
	計		10	14

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	1
分担	執筆	2	4

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	10	5

3. その他 (A. Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- B.1. Kannari K, Maeda T, Tanaka H, Yamato H, <u>Shen H, Arai A</u>, Tomiyama M, Suda T, <u>Matsunaga M</u>: Role of serotonergic neurons in L-DOPA therapy for Parkinson's disease. 6th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. 2002.10.16, Hirosaki.
- B.2. Tomiyama M, Kimura T, Mor F, Wakabayashi K, <u>Matsunaga M</u>: Hypertrophy of the medial globus pallidus in 6-OHDA-lesioned rats treated with levodopa.6th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. 2002.10.16, Hirosaki.
- C.1. Shen H, Kannari K, Arai A, Matsunaga M: Effects of benserazide, an aromatic L-amino acid decarboxylase (AADC) inhibitor, on L-DOPA-derived extracellular dopamine levels in the striatum of 6-hydroxydopamine-lesioned rats. 6th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. 2002.10.16, Hirosaki.
- C.2. Shen H, Kannari K, Arai A, Matsunaga M: Effects of benserazide, an aromatic L-amino acid decarboxylase (AADC) inhibitor, on L-DOPA-derived extracellular dopamine levels in the striatum of 6-hydroxydopamine-lesioned rats. 32nd Annual Meeting of Society for Neuroscience, 2002.11.2-7, Orlando, USA
- C.3. <u>Kimura T</u>, Tomiyama M, Kannari K, <u>Matsunaga M</u>: Effects of intermittent levodopa treatment on the expression of subthalamic glutamate receptors in 6-OHDA-lesioned rats.6th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. 2002.10.16, Hirosaki.
- C.4. <u>Yamato H</u>, Kannari K, <u>Shen H</u>, Suda T, <u>Matsunaga M</u>: Fluoxetine, a selective serotonin reuptake inhibitor, reduces L-DOPA-derived extracellular dopamine in the rat striatum with nigrostriatal denervation. 6th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. 2002.10.16, Hirosaki.
- C.5. Maeda T, Kannari K, <u>Shen H, Arai A</u>, Tomiyama M, <u>Matsunaga M</u>, Suda T: Rapid induction of serotonergic hyperinnervation in the adult rat striatum with excessive dopaminergic denervation.6th Meeting of Hirosaki International Forum of Medical Science. 2002.10.16, Hirosaki.
- C.6. Tomiyama M, <u>Kimura T</u>, Mor F, Wakabayashi K, <u>Matsunaga M</u>: Intermittent Levodopa treatment induces hypertrophy of the medial globus pallidus in 6-OHDA-lesioned rats. 32nd Annual Meeting of Society for Neuroscience, 2002.11.2-7, Orlando, USA.
- C.7. <u>Kimura T</u>, Tomiyama M, Kannari K, <u>Matsunaga M</u>: Effects of intermittent L-DOPA treatment on the expression of subthalamic glutamate receptors in 6-OHDA-lesioned rats.32nd Annual Meeting of Society for Neuroscience, 2002.11.2-7, Orlando, USA.

- A.1. <u>Baba M</u>: Plenary Lecture Could we modulate a course of diabetic neuropathy? **University of Miami Diabetes Seminar**, December 1, 2003, Miami University Diabetes Center, Miami, USA.
- B.1. <u>Baba M.</u>: Symposium "New concepts involving the polyol pathway in diabetic neuropathy; Three-year inhibition of ARI on development of symptomatic neuropathy in diabetic patients. **Neuropathy Symposium of 18th International Diabetes Federation Congress**, August 30-Spetember 2, 2003, St Malo, France
- C.1. <u>Baba M</u>, Nukada H, Takahashi K, Wada R, Yagihashi S: Electrophysiological paradox to ishcemia /reperfusion in diabetic nerve: resistence for ischemic conduction failure and prolonged conduction failure after reperfusion. **Peripheral Nerve Society 2003**, July 26-30, Banff, Canada.
- C.2. <u>Baba M</u> Nukada H, Takahashi K, Wada R, Yagihashi S; Electrophysiological paradox to ischaemia/reperfusion injuryin diabetic nerve: resistance for ischaemic conduction failure and prolonged conduction failure after reperfusion. 18th International Diabetes Federation Congress, August 24-29, 2003, Paris France.
- C.3. <u>Jin CY</u>, <u>Baba M</u>, Ozaki I, Suzuki C, Matsunaga M, Tamasawa N: Is unilateral foot numbness a sign of diabetic polyneuropathy? An electrophysiological study. 18th International Diabetes Federation Congress, August 24-29, 2003, Paris, France
- C.4. <u>Suzuki C</u>, Tomiyama M, Ogawa M, Nunomura J, <u>Baba M</u>: Sarcoid neuropathy with multifocal demyelination. **Peripheral Nerve Society 2003**, July 26-30, Banff, Canada.

(2)全国学術集会

2002年度

B.1. 馬場正之:シンポジウム:脱髄の電気生理学. 第32回日本臨床神経生理学会 2002.11.13~15, 福島市. C. 13件

2003年度

- A.1. <u>馬場正之</u>:教育講演「糖尿病性神経障害:代謝と虚血のかかわり」。第76回日本内分泌学会総会,5月9日~11日,パシフィコ横浜,横浜市.
- A.2. <u>馬場正之</u>: イブニングセミナー「糖尿病の予後予測:神経障害をどう評価するか」。第46回日本糖尿病学会総会、5月22日~24日、富山市、富山全日空ホテル
 A.3. <u>馬場正之</u>: 講演「免疫性神経障害の電気診断学」。第16回日本免疫神経学会学術集会、平成16年1月30日、日本都市センター、東京
- B.1. <u>馬場正之</u>: ワークショップ「問題症例の神経伝導検査•筋電図」. 第33回日本臨床神経生理学会, 10月 1 日
- ~3日, 旭川市 B.2. <u>馬場正之</u>:シンポジウム「神経障害と臓器機能」第18回日本糖尿病合併症学会,10月10日~11日,京都国 際会議場,京都市。
- C. 20件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

2003年度

- 1. 糖尿病神経の虚血脆弱性に関する実験的研究 ニュージーランド国立オタゴ大学内科 額田 均講師
- 2. 免疫性末梢神経障害の実験的研究 獨協医科大学神経内科 結城伸康助教授 3. 遺伝性ニューロパチーの病態に関する研究 名古屋大学神経内科 祖父江 元教授
- 4. 感覚情報認知機構に関する研究 青森県立保健大学 尾崎 勇助教授

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

科学研究費補助金(基盤研究C) 松永宗雄, 冨山誠彦:パーキンソン病脳内ドパミン, セロトニン代謝 と NMDA 型グルタミン酸受容体の変化 600,000円

科学研究費補助金(基盤研究 C) 馬場正之:体性感覚機能低下防御機構と末梢・中枢連関に関する神経 生理学的研究 2,000,000円

2003年度

研究代表者として

科学研究費補助金(基盤研究 C) 馬場正之:体性感覚機能低下防御機構と末梢中枢連関に関する神経生 理学的研究 800.000円

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

研究代表者として

厚生省特定疾患調査研究費 松永宗雄:スモン調査研究 600,000円

厚生省神経疾患研究委託費 馬場正之:遺伝性ニューロパチー研究 500,000円

2003年度

他研究単位との研究分担者として

厚生省神経疾患研究委託費 馬場正之:遺伝性ニューロパチー研究 500,000円

(3)学内の研究助成

2002年度

研究代表者として

インセンティヴ研究助成 神経統御部門:糖尿病性ニューロパチー進展予防に対するアルドース 還元 酵素阻害薬の効果 935,750円

国際振興基金助成 松永宗雄:海外研究者の招請 450,000円

2003年度

研究代表者として 平成15年度学術国際振興基金 馬場正之:潜在性腓骨神経障害の電気生理学的研究 1,000,000円

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として

青森銀行研究助成 松永宗雄:脳卒中-成因と病態 1,000,000円

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流. 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし

c) 外国研究機関からの留学生,研究生の受け入れ状況 2002年度

G.M.Mengod (Balcelona生物医学研究所)

d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況 2003年度

馬場正之: ロンドン大学ユニヴァーシティカレッジ神経病研究所

- e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 なし
- f) その他 なし
- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催 なし
 - b) 地方レベルの学会の主催 なし
 - c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
 - d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

41. 細胞工学部門

【研究単位の目標到達度, 理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

理念:

これから2年間の目標:

【研究人員及び研究課題】

2002年度

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文 なし

和文 なし

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

英文 なし

和文 なし

- (5)発表論文のまとめ
- 1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
なし			
Total		0	0

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
	なし			
	計		0	0

2. 著書数 (A. Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担執	丸筆	0	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

Ⅱ. 学会・研究会等の発表

(1)国際学術集会

なし

(2)全国学術集会

なし

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

なし

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
 - c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 たし
 - d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

なし

- e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況なし
- f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

- a) 全国レベルの学会の主催なし
- b) 地方レベルの学会の主催 なし
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

42. 附属動物実験施設

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

不十分ながら目標のほぼ7割ぐらい達成されている。

理念:

質の高い動物実験を行うためには動物施設のハード、ソフト両面の質を上げなければ動物実験全般の質向上は望めない。当施設はハード面では不十分ながら一応の基準に達しているが、ソフト面ではまだまだ不十分である。そのためには技官の教育をより徹底し、ハード面での不足を補うとともに、さらに質の高いサービスを実験者に提供しなければならない。

これから2年間の目標:

上記の目標を達成するため、昨年度から技官を中心に感染症防御のための検疫、検収の強化、ラットのクリーン化に伴う交配適期の確立、帝王切開手術、系統維持法などを行っている。今後はこれらをさらに進め、動物施設を真の研究支援組織として確立したい。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 0, 助	b教授 1, 講館	師 0,助手	1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
教 官	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間
(教授~助手)	施設長	併 任	藏田 潔	
	助教授	専 任	八木澤 誠	
の詳細	助手	専 任	石田 邦夫	
アボッカマ 学田 日宮	1. 動物実験に及ぼす環境要因			
研究課題 2. 和犬の実験動物としての有用性				

2003年度

研究人員	教授 0,助	教授 1, 講師	師 0,助手	1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0			
教 官	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間			
(教授~助手)	施設長	併 任	藏田 潔	1年			
の詳細	助教授	専 任	八木澤 誠	1年			
0万計和	助手	専 任	石田 邦夫	1年			
	1. 実験動物に及ぼす環境要因						
	2. 和犬の実験動物としての有用性 研究課題 3. 抗腫瘍性を有する機能性食品の開発						
研究課題							
	4. イヌに代	4. イヌに代わる家畜用ブタの実験動物としての飼育管理の検討					
	5. 他機関よ	り導入される違	貴伝子組換えマ	ウス、ラットからの、感染症防御のための検疫強化の検討			

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2003年度

B.1. Sato T, <u>Ishita K</u>, Matsuo K, Inaba T, Kamiya H, Ito M Persistent infection of Mongolian jirds with a non-pathogenic Trypanosome, *Trypanosome (Herpetsoma)* grosi.Parasitology 2003;127:357-363.

和文

- A.1. $\overline{\text{Д田邦夫}}$, 八木澤誠、稲葉孝志、神谷晴夫、筋肉トリヒナを用いた旋毛虫の免疫診断、弘前医学 $\overline{\text{2004;55}(2)}$ 43-48 B.1. 北 武、丹野高三、三戸聖也、佐々木秀明、黒田直人、石田邦夫、北 均、Sandwich Dot-ELISA 法
- によるヒトγ-Seminoprotein の証明 (1). 法医学の実際と研究 2003;46:33-37.

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

英文 なし

和文

2002年度

A.1. 動物実験施設ニュースNo.13

2003年度

A.1. 実験小動物の全身麻酔法および安楽処置法

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Parasitology	1.821	1	1.821
Total		1	1.821

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
弘前医学 法医学の実際と研究				1 1
	計		0	2

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

なし

(2)全国学術集会

2003年度

C. 1件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

なし

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
 - c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
 - d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況 なし
 - e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 なし
 - f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2003年度

八木澤誠 第37回日本実験動物技術者協会総会 さいたま市

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

日本実験動物技術者協会奥羽支部 平成14年度総会及び講演会

2003年度

八木澤誠 日本実験動物技術者協会奥羽支部 平成15年度総会および講演会 弘前市

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況

なし

VII. その他

2003年度

石田邦夫 特許第3475411号 シジミ貝殻粉末体を有効成分とする肝臓機能障害改善用組成物, およびその製造方法

43. 小児外科

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

小児外科の現状からは診療ならびに学部教育(臨床実習、系統別講義、他に主力を置かざるを得ず、研究面での到達度は満足できるものではなかった。

理念:

小児外科疾患に対する日常診療の中から未解決の問題点を研究課題とし、それを最新技術を用いて解明し、結果的に患者の QOL の向上に貢献する。

これから2年間の目標:

- 1) 先天性横隔膜ヘルニアの予後を左右する遷延性肺高血圧症の病因・病態解明のため、実験モデルとしてラット横隔膜ヘルニアを作製し、低形成肺の肺動脈病変を免疫組織学的に検討する。
- 2) 胆道閉鎖症における肝線維化の機序の解明を研究する。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1,助教持	受 0,講師	前 0,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 2, 研究生 0		
教 官	役職 専任	E/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
(教授~助手)	教 授	専 任	棟方	博文	1年		
の詳細	助手	専 任	須貝	道博	1年		
	1. 先天性横隔膜ヘルニアの病態解明に関する基礎的研究						
研究課題	2. 胆道閉鎖症の病因・病態解明に対する基礎的・臨床的研究 3. 小児外科疾患に対する超音波診断学						
	4. QOLを目指した手術法の開発						

2003年度

研究人員	教授 1, 助	力教授 0,講師		助手	0, 医員 0, 大学院学生 2, 研究生 0		
教 官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
(教授~助手)	教 授	専 任	棟方	博文	1年		
の詳細	講師	専 任	須貝	道博	1年		
	1. 先天性横隔膜ヘルニアの病態解明に関する基礎的研究						
研究課題	2. 胆道閉鎖症の病因・病態解明に関する基礎的・臨床的研究						
切九	3. 小児外科疾患に対する超音波診断学						
	4. QOLを目指した手術法の開発						

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

- B.1. Shibata T, Imaizumi T, Matsumiya T, Tamo W, Hatakeyama M, Yoshida H, Munakata H, Fukuda I, Satoh K. Effect of MG132, a proteasome inhibitor, on the expression of growth related oncogene protein- α in human umbilical vein endothelial cells. Cytokine 2003; 24:67-73.
- B.2. Imaizumi T, Kumagai M, Hatakeyama M, Tamo W, Yamasita K, Yoshida H, Munakata H, Satoh K. Effect of 15-deoxy- $\Delta^{12,14}$ -prostaglandin J2 on IL-1 β -induced expression of epithelial neurophil-activation protein-78 in human endothelial cells. Prostaglandins, Leukotrienes and Essential Fatty Acids 2003; 69: 323-327.

和文

2002年度

- A.1. 須貝道博, 村田希吉, 棟方博文:小児卵巣嚢腫性疾患に対する治療法の検討. 日本小児外科学会雑誌 2002;38:1052-1056.
- A.2. 須貝道博, 高橋克郎, 村田希吉, 棟方博文: 当科で経験したウイルムス腫瘍の検討. 小児がん 2002;39: 144-149.

2003年度

B.1. 神谷晴夫,中山博雄,稲葉孝志,佐藤 宏,棟方昭博,佐々木睦男,棟方博文,片山揚誠,副島靖雄,青森県における多包虫症患者発生状況とその疫学的考察.日本医事新報 2003; No 4153: 43-45.

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

A.1. 須貝道博, 村田希吉, 棟方博文:腸回転異常. 外科:2002;64:1557.

A.2. 須貝道博: 小児の急性腹症. 弘前市医師会報 2003; 287: 20-22.

2003年度

A.1. 須貝道博: 小児の急性腹症. 弘前市医師会報 2003; 38(1): 20-23.

A.2. 須貝道博: 肝移植を受ける患者と搬送. 弘前市医師会報 2003; 38(5): 30-33.

(3)著書

英文 なし

和文

2002年度

A.1. (分担) 棟方博文:消化器疾患-腹壁・腹膜疾患. 白木和夫・前川喜平 監修:小児科学 第2版, p1066-1068, 医学書院, 東京, 2002.

(4)その他

英文

2002年度

A.1. Michihiro Sugai, Kiyoshi Murata, Norio Kimura, Hirohumi Munakata, Ryukichi Hada and Yoshimasa Kamata: Adenoma of the Nipple in an Adolescent. Breast Cancer: 2002; 9: 254-256.

和文

2002年度

B.1. *二神真行, 坂本知巳, 尾崎浩士, 佐藤秀平, 水沼秀樹, 須貝道博, 棟方博文:腸管重複症の1例. 周産期 医学: 2002; 32:144-149.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著. 総説 (A. Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Cytokine Prostaglandins Leukotrienes and Essential Fatty Acids	1.992 1.297	1 1	1.992 1.297
Total		2	3.289

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本小児外科学会雑誌 小児がん			1 1	
弘前市医師会報 日本医事新報			1	2 1
	計		3	3

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	1	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Breast Cancer	0	1	
Total		1	0

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
周産期医学			1	
	計		1	0

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

C.1. *Y.kamada, K.Murata, M.Sugai, H.Munakata: Immunohistochemical Study on Liver Fibrosis in Biliary Atresia. United States and Canadian Academy of Pathology, 92 nd annual meeting, 2003.3.23 (Washington, D.C.)

(2)全国学術集会

2002年度

B.1. 須貝道博, 諸橋 一, 村田希吉, 棟方博文:シンポジウム「総論および女児のヘルニア」女児卵巣滑脱型 鼠径ヘルニアの超音波所見. 第18回日本小児外科学会秋期シンポジウム(東京) 2002.11.16.

9件

- B.1. 須貝道博, 荻原主税, 中井 綜, 棟方博文:要望演題「イレウス手術のタイミング」;小児イレウス手術の タイミング. 第58回日本消化器外科学会総会 平成15年7月17日 (東京)
- B.2. 須貝道博, 奈良昌樹, 工藤雅庸, 棟方博文:パネルディスカッション「し小児の腹部救急疾患」;小児腹部 救急疾患に対する超音波診断と手術適 応. 第65回日本臨床外科学会総会 平成15年11月17日 (福岡) B.3. 須貝道博, 奈良昌樹, 村田希吉, 棟方博文:シンポジウム「低出生体重児」;超低出生体重児に対する食道
- 閉鎖症根治術の経験. 第19回日本小児外科学会秋期シンポジウム 平成15年11月22日 (淡路島) B.4. 須貝道博,村田希吉,奈良昌樹,棟方博文:ワークショップ「小児の消化管出血」;小児消化管出血の診断と治療についての検討. 第40回日本腹部救急医学会総会 平成16年3月19日 (東京)
- 5件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

- 1) 棟方博文: 崩芽的研究「先天性横隔膜ヘルニアの病態解明 胎生期肺動脈病変に対する分子生物学的 検討.」 900千円
- 2) 須貝道博: 崩芽的研究「横隔膜ヘルニアラットモデルにおける肺低形成と神経支配からみた発生機序.」 500千円
- (2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

- c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 なし
- f) その他

なし

- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催

なし

b)地方レベルの学会の主催

2003年度

第14回青森静脈・経腸栄養研究会,第33回青森県周生期医療研究会

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

44. 薬剤部

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

種々の薬物間相互作用、飲食物と薬物との相互作用の薬物代謝酵素を中心としたメカニズムの追及と適正な薬物療法への貢献、および酵素の遺伝多型との関連についてはかなりの成果を収めた。しかし、薬物の母乳中濃度測定の対象薬物について、サンプルの収集が思うようにいかず、ほとんど進展がなかった。業務を中心とした研究では、薬剤管理指導業務、TDM業務での進展が見られた。

理念:

薬剤部自体が、附属病院の中で良質で適切な医療を患者に提供するための重要な任務を分担している場所であることを常に認識して業務にあたっているが、研究の基本理念も同じである。

研究の理念のキーワード

サイエンティフィックに物を考える

patient oriented (患者指向)

医薬品の適正な使用

EBP (Evidenced Based Pharmacotherapy)

オーダーメードの薬物療法

幅広い共同研究

これらのキーワードをもとに研究に取り組む。

これから2年間の目標:

現在継続している研究をさらに発展させる。

種々の薬物間相互作用、飲食物と薬物との相互作用、健康食品と薬物との相互作用などについて、薬物代謝酵素、P-糖タンパクを中心に、さらに酵素の遺伝多型との関連より追及し、オーダーメード医療における適正な薬物療法に貢献する。

薬剤管理指導業務、TDM業務に関する研究をさらに発展させる。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

			ııı	0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0	
教 官	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間	
(教授~助手)	教 授	専 任	菅原 和信	18年	
の詳細	助教授 専任 大久保 正 7年				
研究課題					

研究人員	教授 1,	助教授 1,講	師 0,助手	0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0		
教官	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間		
教 官 (教授~助手	教 授	専 任	菅原 和信	19年		
の詳細	助教授	専任	大久保 正	上九/12 元	_{土カ} 畑 エ 8年	8年
の評細	助教授	日 · 子 · 仕		(2003年度は海外出張中につき不在)		
TTT // 公司田 日百	1. 薬理学	的•薬剤学的薬	学的薬物相互作用に関する研究			
研究課題	2. プロト	2. プロトンポンプ阻害薬の体内動態と相互作用に関する研究				

- 3. 疾患時における TDM (Therapeutic Drug Monitoring) に関する研究
- 4. 薬剤管理指導時における問題点に関する研究

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. Miura M, Ohkubo T, Sugawara K, Okuyama N, Otani K. Determination of estazolam in plasma by high-performance liquid chromatography with solid-phase extraction. Analyt Sci 2002; 18: 525-8.
- B.1. Otsuji Y, Okuyama N, Aoshima T, Fukasawa T, Kato K, Gerstenberg G, Miura M, Ohkubo T, Sugawara K, Otani K. No effect of itraconazole on the single oral dose pharmacokinetics and pharmacodynamics of estazolam. Ther Drug Monit 2002; 24: 375-8.
- B.2. Mihara K, Yasui-Furukori N, Kondo T, Ishida M, Ono S, Ohkubo T, Osanai T, Sugawara K, Otani K, Kaneko S. Relationship between plasma concentrations of trazodone and its active metabolite, m-chlorophenylpiperazine, and its clinical effect in depressed patients. Ther Drug Monit 2002; 24: 563-6.
- B.3. Ito K, Yoshida K, Sato K, Takahashi H, Kamata M, Higuchi H, Shimizu T, Itoh K, Inoue K, Tezuka T, Suzuki T, Ohkubo T, Sugawara K, Otani K. A variable number of tandem repeats in the serotonin transporter gene does not affect the antidepressant response to fluvoxamine. Psych Res 2002; 111: 235-9.
- B.4. Sato K, Yoshida K, Takahashi H, Ito K, Kamata M, Higuchi H, Shimizu T, Itoh K, Inoue K, Tezuka T, Suzuki T, Ohkubo T, Sugawara K, Otani K. Association between-1438G/A promoter polymorphism in the 5-HT2A receptor gene and fluvoxamine response in Japanese patients with major depressive disorder. Neuropsychobiology 2002; 46: 136-40.

2003年度

- A.1. Kudo M, <u>Sugawara K</u>. The effects of sucralfate, magnesium oxide and sodium ferrous citrate on fleroxacin pharmacokinetics. J Drug Interact Res 2003; 27: 41-46.
- A.2. Kudo M, <u>Sugawara K</u>. Effects of sucralfate, magnesium oxide and sodium ferrous citrate on sparfloxacin pharmacokinetics. Jap J Pharm Health Care Sci 2004; 30: 8-12.
- A.3. Uno T, Yasui-Furukori N, Takahata T, <u>Sugawara K</u>, Tateishi T. Liquid chromatographic determination of fexofenadine in human plasma with fluorescence detection. J Pharm Biomed Anal 2004; 35: 937-42.
- A.4. Ohkubo T.: Development of high-performance liquid chromatographic method for determination of brotizolam on clinical pharmacokinetic study. Anal Lett, 36, 3025-3034,2003.
- B.1. Takahata T, Yasui-Furukori N, Yoshiya G, Uno T, <u>Sugawara K</u>, Tateishi T. Fexofenadine does not affect omeprazole pharmacokinetics: both are putative P-glycoprotein substrates. Basic Clin Pharmacol Toxicol 2004; 252-56.
- B.2. Gerstenberg G, Aoshima T, Fukazawa T, Yoshida K, Takahashi H, Higuchi H, Murata Y, Shimoyama R, Ohkubo T, Shimizu T, Otani K: Effects of the CYP 2D6 genotype and cigarette smoking on the steady-state plasma concentration of fluvoxamine and its major metabolite fluvoxamino acid in Japanese depressed patients. Ther Drug Monit, 25, 463-468, 2003

和文

2002年度

- A.1. 新岡丈典, 大久保正, 鳴海俊治, 袴田健一, 十束英志, 豊木嘉一, 佐々木睦男, 小島佳也, 保嶋 実, 萱原和信. 生体肝移植患者におけるタクロリムスの消失速度定数(ke)と臨床検査値との相関. TDM 研究 2002; 19:348-54.
- A.2. <u>工藤正純</u>, 池田江里, <u>菅原和信</u>, 立石智則. 弘前大学病院における治験コーディネーターの活動状況. 臨 床薬理 2003; 34: 13-8.

2003年度

- A.1. 新岡丈典、鳴海俊治、袴田健一、川崎仁司、小田切弘毅、森田隆幸、佐々木睦男、小島佳也、保嶋 実、 萱原和信、バンコマイシン投与患者における腎機能障害発症予測因子および血中濃度測定の必要性に関 する検討、医薬品相互作用研究 2003; 26: 106-12.
- A.2. <u>菅原和信</u>, 花田恵子. 新 GCP 施行後の有害事象報告に関する医師へのアンケート調査. 医薬品相互作用 研究 2003; 27: 37-40.
- A.3. 新岡丈典, 大久保 正, 川崎仁司, 柴田 滋, 村田暁彦, 鳴海俊治, 袴田健一, 小田切弘毅, 森田隆幸, 佐々木睦男, 小島佳也, 保嶋 実, <u>菅原和信</u>. 母集団パラメータを用いたテイコプラニン血中濃度の予測制度に関する検討. TDM 研究 2004; 21: 33-40.
- A.4. 大久保正. リン酸エストラムスチンカプセルの経鼻チューブ投与時における溶液の調整法と溶液状態における安定性. 医薬ジャーナル, 39, 2571-2575 (2003)
- A.5. 大久保正. 0.5%ヒベンズ酸チペピジンシロップ後発品と塩化リゾチームシロップの混合による白色沈殿の生成機構と調剤上の問題がもたらす後発品採用の是非. 薬局,54,2871-2874 (2003)

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. <u>菅原和信</u>. てんかん治療薬と患者への説明. 薬局 2002;53:213-33.
- A.2. 菅原和信. 授乳婦への薬剤処方の考え方. Physicians' Therapy Manual 2002; 10.
- A.3. <u>菅原和信</u>. 妊婦への薬物投与で注意すること. 産婦人科の実際 2002; 51:1527-36.

2003年度

- A.1. <u>菅原和信</u>. 胃炎治療薬と患者への説明. 薬局 2003; 54:908-23. A.2. 野呂秀紀, <u>菅原和信</u>. 後発医薬品の現状とこれから一使う側から(2)病院薬剤師の立場から一. 医薬品相 互作用研究 2003; 26:29-30.
- A.3. 宇野 司, 菅原和信. グレープフルーツジュースと薬物相互作用. 医薬品相互作用研究 2003;27: 19-28.
- A.4. <u>菅原和信</u>. 薬物の胎盤通過, 母乳への移行動態. 臨床婦人科産科 2003; 57:650-5.
- A.5. 宇野 司, <u>菅原和信</u>. グレープフルーツジュースによる薬物相互作用. 日薬理誌 2003; 121: 268-74.
- A.6. 藤田祥子, 小原信一, <u>菅原和信</u>. 薬剤部が ISO を認証取得するまで一弘前大学医学部附属病院の例一. 日病薬誌 2003; 39:1101-4.

(3)著書

英文 なし

和文

2002年度

A.1. 菅原和信,藤田祥子. 糖尿病用剤. 「薬効別医薬品の適正使用指針(2002-2003)」 2002: 285-97.

(4)その他

英文 なし

和文 なし

- (5)発表論文のまとめ
- 1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Anal Sci	0.844	1	0.844
Ther Drug Monit	2.14	2	4.28
Psychiat Res	1.808	1	1.808
Neuropsychobiology	2.065	1	2.065
Total		5	8.997

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Pharm Biomed Anal	1.36	1	1.36
J Drug Interact Res	0	1	0
Jap J Pharm Health Care Sci	0	1	0
Basic Clin Pharmacol Toxicol	1.271	1	1.271
Total		4	2.631

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
TDM研究 臨床薬裡 薬局			1 1 1	1
Physicians' Therapy M 産婦人科の実際	Manual		1 1	1
医薬品相互作用研究				4

日薬理誌 日病薬誌 臨床婦人科産科		1 1 1
	5	9

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	I	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	1	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

C.1. <u>Sugawara K</u>, Shimoyama R, Ohkubo T, Otani K, Yoshida K, Higuchi H, Shimizu T. Plasma level monitoring of fluvoxamine and fluvoxamino acid in depression patients by new developed HPLC mehod. 62nd Congress of FIP, Nice, France, September, 2003.

(2)全国学術集会

2002年度

- B.1. 野呂秀紀, 菅原和信. 後発品の現状とこれから―病院薬剤師の立場から―. 第55回医薬品相互作用研究会シンポジウム, 福島, 平成14年11月.
- C. 11件

2003年度

C. 10件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

なし

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流, 国際的活動

- a) 国際学術集会の主催 なし
- b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
- c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 なし
- f) その他 なし

(2)国内. 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催 2003年度 菅原和信,第57回医薬品相互作用研究会シンポジウム

b) 地方レベルの学会の主催 2002年度

菅原和信,第41回日本薬学会東北支部大会,弘前

- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

45. 手術部

【研究単位の目標到達度、理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

ほぼ到達できた。

理念:

患者の安全推進

これから2年間の目標:

患者の安全推進に直結する研究を進める。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 0, 助教授 0, 講師 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0					
	役 職 専任/併任の別 氏 名 評価年度内での在籍期間					
教 官						
(教授~助手)						
の詳細						
	1. 非侵襲血糖測定装置の開発に関する研究					
	2. 麻酔薬による発現遺伝子に関する研究					
研究課題	3. 医学教育に関する研究					
4万九 休憩	4. 急性肺損傷発症機転に置ける細胞障害性リンパ球の関与					
	5. 全身麻酔中の気道のトラブルを未然に防ぐための研究					
6. 低体温下全静脈麻酔中の中枢神経系の評価に関する研究						

2003年度

研究人員	教授 0, 助	b教授 1, 講自	币 0,	助手	0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
教 官 (教授~助手)	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
の詳細	助教授	専 任	坂井	哲博	1 年間
カイン 大田 日本	1. 麻酔薬による発現遺伝子の研究				
研先課題	研究課題 2. 麻酔中の解析脳波変化に関する研究				

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. Mi WD, <u>Sakai T</u>, Matsuki, A The interaction of Fentanyl and Propofol during Emergence from Anesthesia: Monitoring with the EEG Bispectral Index Journal of Clinical Anesthesia 15:103-107, 2003
- A.2. Hirota K, <u>Hashimoto H</u>, Tsubo T, Ishihara H, Matsuki A. Quantification and comparison of pulmonary emboli formation after pneumatic tourniquet release in patients undergoing reconstruction anterior cruciate ligament and total knee arthroplasty. Anesth Analg 94(6):1633-1638 2002

2003年度

A.1. Mi WD, Sakai T, Ishihara H, Matsuki A Possible Overestimation of ICG Derived Plasma Volume Early after Induction of Anesthesia with Propofol/Fentanyl. Anesth Analg 2003:97;1421-7

和文

- A.1. 大高奈々子, 工藤千晶, 葛西恵美子, 佐藤正治, 橋本 浩, <u>坂井哲博</u>, 鈴木重晴:新しい手術患者誤認防 止フィルムの臨床応用 手術医学 23:120-124,2002
- A.2. 工藤千晶、大高奈々子、葛西恵美子、佐藤正治、橋本 浩、<u>坂井哲博</u>、鈴木重晴:回復室患者意識レベル の客観的評価法の検討 手術医学 23;180-182,2002
- A.3. 松木明知, 石原弘規, 小谷直樹, 坂井哲博, 廣田和美, 村岡正敏, 橋本 浩, 坪 敏仁, 高橋 敏, 洪浩彰, 若山茂春, 佐藤 裕, 長尾博文. プロポフォール フェンタニールを中心とする全静脈麻酔の臨床的研究―特に安全性の面から 2 万 6 千余症例の検討― 麻酔51(12): 1336-1342,2002
- A.4. 大高奈々子, 工藤千晶, 葛西恵美子, 佐藤正治, <u>橋本 浩</u>, 坂井哲博, 鈴木重晴. 新しい手術患者誤認防 止フィルムの臨床応用 手術医学 23(2):120-124,2002
- A.5. 工藤千晶, 大高奈々子, 葛西恵美子, 佐藤正治, <u>橋本 浩</u>, 坂井哲博, 鈴木重晴. 回復室患者意識レベルの客観的評価法の検討 手術医学 23(2):180-182,2002

(2)総説

英文 なし

和文

2003年度

A.1. 坂井哲博 閉塞性動脈硬化症患者の麻酔 LiSA 2004;11:272-5

(3)著書

英文

2002年度

- A.1. <u>Sakai, T Hashimoto, H Furukawa, K-I Motomura, S Matsuki, A: Nuclear factor-kB activation during anesthesia and surgery. Pharmacogenetics-Tailor-made Pharmacotherapy Kaneko, S Motomura, S Tateishi, T Kondo, T Furukawa, K-I (Editors) Elsevier, Amsterdam, p127-130 2002</u>
- A.2. <u>Sakai T, Hashimoto H</u>, Furukawa K, Motomura S, Matsuki A. Nuclear factor- κ B activation during anesthesia and surgery Kaneko S,Motomura S,Tateishi T,Kondo T,Furukawa K.(Eds) Pharmacogenetics-Tailor-made Pharmacotherapy Tokyo,Elsevier Science B.V.127-130 2002

和文

2002年度

- A.1. <u>坂井哲博</u>: 内分泌疾患 日野原重明 井村裕夫 監修 看護のための最新医学講座 中山書店, 東京, $\frac{202-206,2002}{202-206,2002}$
- A.2. <u>坂井哲博</u> Chapter 8 静脈麻酔法 小川 他編 麻酔科学スタンダード I 臨床総論, 東京:克誠堂; 2003,145-551.

2003年度

- A.1. 坂井哲博 静脈麻酔法 小川節郎編 麻酔科スタンダード I 臨床総論 145-55 克誠堂, 東京 2003
- A.2. <u>坂井哲博</u> 加齢による麻酔薬に対する反応の変化 花岡一雄編 高齢者の病態生理と麻酔の臨床, 137-43. 真興交易医書出版部、東京、2003
- A.3. <u>坂井哲博</u> 災害対策 渡辺廣昭 並木昭義 編 役に立つ手術室ハンドブック, 102-6, 真興交易医書出版 部, 東京, 2004
- A.4. <u>坂井哲博</u> 空調 清浄化 渡辺廣昭 並木昭義 編 役に立つ手術室ハンドブック, 71-6, 真興交易医書 出版部, 東京, 2004
- A.5. <u>坂井哲博</u> 静脈麻酔薬および鎮静薬 小川節郎編 麻酔科スタンダードⅢ基礎 246-55 克誠堂, 東京 2004
- A.6. <u>坂井哲博</u> 麻酔中のモニタリング 天羽敬祐監修 専門医のための麻酔科学レビュー, 88-93, 総合医学 社, 東京, 2004/08/17

(4)その他

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. 橋本 浩, 佐藤正治, <u>坂井哲博</u>, 鈴木重晴: 透視装置のCアームの予期せぬ下降により生検針が深く刺入された1例. 手術医学 23;187-188,2002
- A.2. 橋場英二, 橋本 浩, 松木明知 深頚部感染による挿管困難症の1例 臨床麻酔 26(1):91-92 2002

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
	なし			
	計		0	0

2. 著書数 (A. Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

3. その他 (A. Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- C.1. Mi WD, Sakai T, Furukawa K, Matsuki A: Gene expression and anesthetics 7th America-Japan anesthesia congress(Yamanashi)平成14年11月(2002)
- C.2. Sakai T, Tanabe T, Mi WD, Matsuki A: BIS monitoring on schizophrenic patients 2nd China^Japan Medical Conference 2002 (Beijing, China)平成14年11月(2002)
- C.3. Mi WD, Sakai T, Furukawa K, Matsuki A: IGFBP genes expression is induced by sevoflurane, but not by ketamine 2nd China[^]Japan Medical Conference 2002 (Beijing,China)2002年11月
- C.4. Tanabe T, Sakai T, Kimura N, Mi WD, Matsuki A: Awake preoperative BIS values are lower in schizophrenic patients than in normal controls 56th Postgraduate assembly in Anesthesiology(New York)2002年12月

(2)全国学術集会

2002年度

- A.1. 坂井哲博:全静脈麻酔の最近の知見について 道南麻酔科医会学術講演会(函館)平成14年11月(2002)
- A.2. 坂井哲博:整形外科手術患者に対する周術期管理のポイント 第5回秋田県北学術講演会(大館市)平成 15年2月8日
- B.1. <u>坂井哲博</u>:酸素代謝失調にともなう細胞内情報伝達の変化 第49回日本麻酔科学会 (福岡)平成14年4 月(2002)
- B.2. 坂井哲博:「鎮静・鎮痛薬の投与に定量的指標はあるか」BIS による鎮静評価の実際 第9回日本静脈麻 醉·Infusion Technology 研究会(山梨)平成14年11月(2002)
- B.3. 坂井哲博: 麻酔科医養成のありかた 第50回日本麻酔科学会 (横浜)平成15年5月(2003)
- 7件 C.

2003年度

- A.1. <u>坂井哲博</u> 麻酔深度と中枢神経系モニター,第3回麻酔科学ウインターセミナー ニセコ,2003 B.1. <u>坂井哲博</u> 麻酔科医養成のありかた 第50回日本麻酔科学会,横浜 2003 麻酔深度とそのモニタリング,第50回日本麻酔科学会,横浜 2003

III. 学術賞

2002年度

JSIVA 賞 2002. 11. 2

2003年度

青森県医師会学術奨励賞、坂井哲博、静脈麻酔法

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

研究代表者として

基盤研究(C)(2) 急性肺損傷発症機転における細胞障害性リンパ球の関与 2,100千円

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

他研究単位との研究分担者として

- 1. 青森県医療福祉関連産業創出育成支援事業
- 2. 医療機器のヒューマンファクターエンジニアリングに関する研究 平成14年度 厚生労働省医薬安全総合研究班
- (3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

2002年度

1名

d) 外国研究機関の視察, 研究参加(3ヵ月未満)状況

2002年度

北京解放軍病院麻酔科

Adolph H.Giesecke MD. Department of Anesthesiology and Pain management, University of Texas Southwestern Medical Center, USA, 2002.11.1-2002.12.31

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

なし

f) その他

なし

- (2)国内. 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催

なし

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

46. 検査部

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

十分にはインパクトのある学術論文を発表することはできなかったが、レフェリー制をとっている伝統ある国際学 術雑誌に論文を掲載することができた。

理念:

国際的に認められる研究を継続し、他の糖尿病合併症を研究している研究者に影響を与えることができるような研究成果を報告できるように努力する。

これから2年間の目標:

最低年1本は国際的な学術雑誌に論文を発表し、最低年1回は国際的な学術集会において演題を発表する。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 0, ឭ	助教授 0,講師	师 1,	助手	0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0	
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間	
教 官 (教授~助手)	教 授	併 任	保嶋	実	1年	
の詳細	助教授	併 任	庄司	優	1年	
	講師	専 任	杉本	一博	9ヵ月	
研究課題	1. 糖尿病台	併症の成因研究	兒			
	2. 高血圧症	匠の成因研究				

2003年度

研究人員	教授 0, 具	力教授 0,講自	师 1, J	助手	0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0		
教官(教授~助手) 役職 専任/併任		専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間		
(教授~助手) の詳細	講師	専 任	杉本	一博	1年		
1. 糖尿病性細小血管障害の成因におけるインスリン作用異常の役割				インスリン作用異常の役割			
研究課題	2. 糖尿病性	生神経障害の臨り	末診断と	評価法	の検討		

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

C.1. <u>Sugimoto K</u>, Murakawa Y and Sima AAF: Expression and localization of insulin receptor in rat dorsal root ganglion and spinal cord. J Peripher Nerv Syst (2002) 7: 44-53.

2003年度

A.1. <u>Sugimoto K</u>, Baba M, Suda T, Yasujima M and Yagihashi S:Peripheral neuropathy and microangiopathy in rats with insulinoma: association with chronic hyperinsulinemia. Diabetes Metab Res Rev 2003:19 (5): 392-400

和文 なし

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

英文 なし

和文 なし

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
	なし			
	計		0	0

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Diabetes Metab Res Rev	2.472	1	2.472
Total		1	2.472

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

C.1 <u>Sugimoto K</u>, Baba M, <u>Suda</u>, Yagihashi S. Electrophysiology and morphology in the peripheral nerve associated with chronic hyperinsulinemia and hypoglycemia in rats bearing insulinoma. 38th Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes. Budapest, Hungary. 2002.

Journal:

<u>Sugimoto K</u>, Baba M, Suda T and Yagihashi S: Electrophysiology and morphology in the peripheral nerve associated with chronic hyperinsulinemia and hypoglycemia in rats bearing insulinoma. Diabetologia(2002)45 (Suppl2):A29,

2003年度

A.1. Keiko Saito, <u>Sugimoto K</u>, Naoki Tamasawa, Toshihiro Suda "Masaru Shoji, Minoru Yasujima. Resting heart rate and its variability in Japanese type 2 diabetic patients: associations with cardiovascular risk factors. New Orleans, USA. 63rd Scientific sessions of the American Diabetes Association, June 13-17, 2003

(2)全国学術集会

2002年度

C.1. 小野優子, 三上少子, 斉藤慶子, 葛西 猛, 杉本一博, 庄司優, 保嶋 実, 須田俊宏, インスリン非依存

性糖尿病患者における代謝異常と心拍変動との相関-インスリン抵抗性との関連-第49回日本臨床検査 医学会総会、大阪国際会議場、平成14年

- C.2. <u>杉本一博</u>, 馬場正之, 八木橋操六, 須田俊宏, 庄司 優, 保嶋 実. 長期インスリノーマラットにおける 高インスリン血症および低血糖が末梢神経機能および形態に与える影響 第49回日本臨床検査医学会総 会, 大阪国際会議場, 平成14年
- C.3. 三上少子、大瀧千代子、杉本一博、庄司 優、保嶋 実、高感度尿蛋白分画分析を用いた糖尿病性腎症の 診断への応用-第49回日本臨床検査医学会総会、大阪国際会議場、平成14年

2003年度

- A.1. 杉本一博, 大和一美, 松井 淳, 丹藤雄介, 小川吉司, 玉澤直樹, 須田俊宏, 庄司 優, 保嶋 実. 心血 管疾患を有さない2型糖尿病患者における心拍数およびその変動-第46回日本糖尿病学会年次学術集会. 富山国際会議場,平成15年5月23日
- A.2. 庄司 優, 保嶋 実, 蔦谷昭司, 工藤良子, 松田絵理子, <u>杉本一博</u>. 血小板の活性化とレニン・アンギオテンシン系遺伝子多型. 第50回日本臨床検査医学会総会, 広島国際会議場, 平成15年10月29日 A.3. 三上少子, 成田優子, 斉藤慶子, <u>杉本一博</u>, 庄司 優, 保嶋 実, 須田俊宏. 2 型糖尿病患者における心自律神経機能と脂質代謝異常との関係; 冠動脈疾患合併の有無における差異. 第50回日本臨床検査医学会 総会. 広島国際会議場. 平成15年10月30日

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として 平成14年度科学研究補助金

2003年度

研究代表者として 平成15年度科学研究補助金

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として

- 1. 14年度臨床病理学研究振興基金
- 2. 21回唐牛医学研究基金
- 3. H14青森医学振興会

2003年度

研究代表者として

1. 三共株式会社受託研究費

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

- b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
- c) 外国研究機関からの留学生,研究生の受け入れ状況 なし
- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 なし
- f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

- a) 全国レベルの学会の主催 なし
- b) 地方レベルの学会の主催 なし
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

47. 放射線部

※教官は放射線医学講座で報告。

【研究単位の目標到達度、理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

従来は教官を対象にしていたが、技術職員を中心にまとめることに方針を転換することにしたため、到達度はない と判断しています。

理念:

放射線部の診療を積極的に展開し、病院の放射線診療を支援する。院内での放射線安全防護の啓蒙普及を図る。県内及び全国の放射線診療技師との研究交流を積極的に行う。社会的に診療放射線の安全性について啓蒙する。

これから2年間の目標:

全国レベルの学会・研究会での発表を行う。

青森県内での研究活動を積極的に行う。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. 金 正宜,工藤亮裕他:血管造影検査時の医師被曝線量の検討-新法令に基づいた再評価-,映像情報 Medical 2002年6月号 780-783
- Medical 2002年6月号 780-783. A.2. 金 正宜, 長内恒美他: American College of Radiology 規格マンモグラフィファントムの比較検討-画質評価を中心に-, 日本放射線技師会雑誌 第49巻 第10号 2002年 1244-1249.

2003年度

- A.1. 木村 均, 神 寿宏他:循環器撮影(IVR)における被曝線量の全国調査. 全国循環器撮影研究会誌 (ISSN 1346-0854) 2004 No.16 8-16, 2004. 1. 1.
- A.2. 金 正宜他:透視撮影検査における医師の被曝線量についての検討, スクリーン/フィルムシステムにおいて, 映像情報 Medical, vol.36, No4, 438-442, 2004

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

英文 なし

和文 なし

- (5)発表論文のまとめ
- 1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
なし			
Total		0	0

和文 (論文数)

	雑	誌	名	2002年度	2003年度
1 1	R像情報 Medical 日本放射線技師会雑誌			1	1
	国循環器撮影研究会誌			0	1
		計		2	2

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種 目	2002年度	2003年度
単 著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学会・研究会等の発表

(1)国際学術集会

なし

(2)全国学術集会

2002年度

3件

2003年度

6件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2003年度

- ○造影MRAの画質向上のためのタイミングスキャンについて 辻 敏朗 ○大腸造影検査の各透視モードによる術者(医師)被ばく線量の検討 金 正宜

(2)その他の省庁からの研究費

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
 - c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
 - d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
 - e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 なし
 - f) その他 なし
- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催 なし
 - b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

日本核医学技術学会 第9回東北地方会(弘前市, 8.3-4.2002) 大会長 工藤亮裕 2003年度

社団法人 日本放射線技術学会東北部会 第41回学術大会(三沢市, 6.29-30.2003) 大会長 工藤亮裕

- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況なし

VII. その他

48. 救急部

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

救急・災害医学講座は本年度設置されたため上記評価はできない。

理念:

救急・災害医学講座はリサーチスピリットを持ったよき救急医の育成を基本理念とする。

これから2年間の目標:

本年度講座は設置されたが教授の赴任は 2 月 1 日付であったため、研究・臨床面では本年度は何もできなかった。来年度からの 2 年間は救急部の立ち上げの時期であり、臨床面の充実に力を注ぐ必要がある。救急という分野は臨床面の充実により教育面の充実を図ることができる。今後の 2 年間は臨床と教育に重点を置く予定である。研究面では、本講座の特徴である被ばく医療、原子力災害について研究を行うと同時に急性中毒の治療についても研究を行いたい。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 0, 鴠	b教授 1,講師	新 O,	助手	0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0	
教 官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間	
(教授〜助手) の詳細	助教授	専 任	滝口	雅博	1年	
	1. 「医療のへき地度」のスコア化に関する研究					
アボッカナ 急田 日宮	2. 航空機による患者搬送システムに関する研究					
研究課題	3. 救急へリコプター運用に関する研究					
	4. 救急救護法の普及に関する実験的研究					

2003年度

研究人員	教授 1, 助	为授 1,講師	币 0,	助手	0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
教 官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
(教授~助手)	教 授	専 任	浅利	靖	2 ヵ月
の詳細	助教授	専 任	滝口	雅博	1年
研究課題	2. 急性中毒 3. 放射線 4. キレート 5. 各種ショ 6. 毒がスラ 7. 医療空機に 8. 航空へ 9. 救急へし	を 書時の初期トー 剤の安全性に いっかい かいまい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かい	けるできるできません。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	一炭が肝性ないでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、一次のでは、	果および体内動態の研究 研究 応の研究 体への影響の研究 究 る研究

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

A.1. Masahiro Takiguchi: Chartered Helicopter in Readness for Catastrophe, Prehospital and Disaster Medicine,17

- (1):S19.2002.
- A.2. Msahiro Takiguchi :Training Program For HEMS Crew Members in JAPAN, Web site of JSAMS,
- A.3. Masahiro Takiguchi : A training program for HEMS crew members in Japan, Japanese Journal of Aerospace and Environmental Medicine, 40(1):13,2003

2003年度

- A.1. Masahiro Takiguchi: A training program for HEMS crew members in Japan, Japanese Journal of Aerospace and Environmental Medicine, 40(1):13,2003.
- C.1. Yasushi Asari, Yoshito Kamijyo, Kazui Soma: Changes in the hemodynamic state of patients with lethal acute organophosphate poisoning. Veterinary and Human Toxicology, 2004, Vol.46, No. 1, 5-9.

和文

2002年度

A.1. 滝口雅博: へき地・離島における医療のへき地度の評価に関する研究-医療のへき地度スコア化のための データベース化の試みー,主任研究者小濱啓次,平成14年度厚生科学研究費補助金医療技術評価総合研究 事業,「へき地・離島医療における診療支援システムの評価に関する研究」研究報告書, 平成15年3月, p7-18

2003年度

- A.1. 滝口雅博: へき地・離島におけるへき地度に関する研究-医療のへき地度スコア化の試み、へき地・離島 救急医療研究会誌, 4(1):59-63, 2003.
- A.2. 滝口雅博: 航空機による救急救護にかかわる要員の安全教育の必要性, 日本臨床救急医学会雑誌, 7(2): 152, 2004.
- A.3. 滝口雅博: 我が国の除細動器機内搭載に至る経緯, 宇宙航空環境医学, 40(1):43, 2003.
- B.1. 三浦牧也, 境 大地, 滝口雅博: 骨伝導補聴器 (きくちゃん^R), Prehospital Care,16(3):38-40,2003.

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. 滝口雅博: Books, 1. 119 STORY 救急119番物語, 2. 拍動よ, よもがえれ! 病院外で心停止になった 方へのアプローチ, Prehospital Care,15(4):76-77, 2002.
- A.2. 滝口雅博: Books, 1. 救急救命士の病院内実習マニュアル, 2. 集団災害時における一般医の役割, Prehospital Care, 15(5):78-79, 2002.
- A.3、滝口雅博: Books, 1. ナイチンゲール伝他一編, 2. からだを読む, Prehospital Care, 15(6):60-61, 2002.
- A.4. 滝口雅博: -AIRMED 200 2参加報告 -AIRMRD 2002 Interlakenに出席して、Prehospital Care, 15 (6):30-34,2002.
- A.5. 滝口雅博:新しい救急蘇生法の指針について,弘前市医師会報,37(3)第283号:p25-30,2002.
- A.6. 滝口雅博: AIRMRD2002 Interlaken に出席して, 日本航空医療学会雑誌, 3(2):3-5,2 002.
- A.7. 滝口雅博:経静脈心内膜下ペーシング, Emergency Nursing,16(1) 2003. A.8. 滝口雅博: 救急現場における補助呼吸— Jackson-Rees 呼吸回路の使用方法と注意点, Prehospital Care, 16 (1) 52-55, 2003.
- A.9. 滝口雅博: Books, 1. ショックー卵子提供—, 2. 病が語る日本史, Prehospital Care,16(1):78-79,2003.
- A.10. 滝口雅博: 救える命~へリコプター救急の現状と課題, 交通安全教育, 2003(3) (No.443),6-13,2003. A.11. 滝口雅博: Books, , 1. 生物兵器, テロとその対処法, 2. 私の仕事―国連難民高等弁務官の十年と平和の 構築一, Prehospital Care,16(2):76-77,2003.

- A.1. 滝口雅博:経静脈心内膜下ペーシング, Emergency Nursing,16(1)2003.
- A.2. 滝口雅博: 救急現場における補助呼吸—Jackson-Rees呼吸回路の使用方法と注意点、Prehospital Care, 16 (1) 52-55, 2003.
- A.3. 滝口雅博: Books, 1. ショックー卵子提供ー, 2. 病が語る日本史, Prehospital Care,16(1): 78-79, 2003.
- A.4. 滝口雅博: 救える命~へリコプター救急の現状と課題, 交通安全教育, 2003(3)(No.443), 6-13, 2003.
- A.5. 滝口雅博: Books, 1. 生物兵器, テロとその対処法, 2. 私の仕事-国連難民高等弁務官の十年と平和の構 築一, Prehospital Care,16(2): 76-77, 2003.
- A.6. 滝口雅博:正しい機材の使い方:酸素投与装置附属加湿装置 その1 基礎知識, Prehospital Care,16(3): 30-33, 2003.
- A.7. 滝口雅博: Books, 1. ドクターカー緊急出動, 2. 救急最前線が危ない! 気管内挿管問題から見える救急 医療一, Prehospital Care,16(3): 72-73, 2003.
- A.8. 滝口雅博:メディカルコントロール体制に関する最近の動向, 弘前市医師会報, 38(3)(通巻第286号): 22-25, 2003.
- A.9. 滝口雅博:正しい機材の使い方:酸素投与装置附属加湿装置 その2, Prehospital Care,16(4): 38-43, 2003.
- A.10.滝口雅博: Books, 1. バカの壁, 2. 日本人の育児, Prehospital Care,16(4): 74-75, 2003.
- A.11. 滝口雅博: 気管内挿管法-その1 喉頭鏡の構造,その取り扱い,喉頭の観察-,Prehospital Care,16(5): 16-21.2003.
- A.12. 滝口雅博: Books, 1. スイス探訪, 2. バイオテロと医師たち, Prehospital Care, 16(5): 56-67, 2003.
- A.13. 滝口雅博: Book Review「ナイティンゲール伝他一編」, Emergency Nursing,16(11): 80, 2003.

- A.14.滝口雅博: 救急へリコプターの実現を夢見てきた思い等、はばたき、第7号: $p7\sim17$ 、全国航空消防防災 協議会, 東京, 2003.
- A.15. 滝口雅博: 気管内挿管法ーその2-, Prehospital Care,16(6):18-26, 2003.
- A.16. 滝口雅博: Books, 1. 歴史の影絵, 2. 救急対応テクニカル・ガイド, Prehospital Care, 16(6): 56-67, 2003.
- A.17. 滝口雅博: Books, 1. 千年医師物語, 2. 病の世相史-江戸の医療事情-, Prehospital Care,17(1):72-73,
- A.18. 滝口雅博: Books, 1. 必携 ACLS 心肺蘇生法-技術から教育まで-, ナースが始める ACLS, 2. ドクター ペリー救急医療とペリコプター:実現への道程・運用の実際・航空医学, Prehospital Care,17(2):84-85,2004. C.1. <u>浅利 靖</u>. 吉岡敏治, 奥村 徹, 白川洋一, 島津岳士, 坂本哲也, 村田厚夫, 亀井徹正, 冨岡譲二, 遠藤
- | | 容子. 急性中毒の標準治療-3- 消化管除洗2 | 活性炭 中毒研究 2003;16: 83-86.
- C.2. 浅利 靖, 吉岡敏治, 奥村 徹, 白川洋一, 島津岳士, 坂本哲也, 村田厚夫, 亀井徹正, 冨岡譲二, 遠藤 <u> 容子.急性中毒の標準治療-4- 消化管除洗3 緩下剤 中毒研究 2003;16: 87-88.</u>
- C.3. <u>浅利</u> 靖. 中毒の初期対応 中毒の初療の新しい展開. Emergency Nursing 2003; 16: 21-5 C.4. <u>浅利</u> 靖. 吉岡敏治, 奥村 徹, 白川洋一, 島津岳土, 坂本哲也, 村田厚夫, 亀井徹正, 冨岡譲二, 遠藤 容子. 日本中毒学会が推奨する標準治療の解説-2- 活性炭・緩下剤. 中毒研究 2003:16: 365-71

(3)著書

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. 滝口雅博: 体液分布と異常-体液平衡のしくみ、監修: 相川直樹、編集: 篠澤洋太郎、臨床に生かす体液 管理・輸液マニュアルp6-9, 照林社, 東京, 2003.
- A.2. 滝口雅博:看護大辞典:総編集.和田 攻,南 裕子,小峰光博,医学書院,東京,2003.

2003年度

- A.1. 滝口雅博: 気管挿管-手技と合併症予防, 荘道社, 東京, 2004.
- B.1. 滝口雅博:看護大辞典:総編集,和田 攻,南 裕子,小峰光博,医学書院,東京,2003.
- B.2. 滝口雅博: 体液分布と異常-体液平衡のしくみ, 監修: 相川直樹, 編集: 篠澤洋太郎, 臨床に生かす体液 管理・輸液マニュアルp6-9, 照林社, 東京, 2003.
- B.3. 滝口雅博: ER テクニカルガイド, 編集太田宗夫, 高橋章子, 第4章基本的手技1. 気道確保, 2. 気道閉塞の解除, 3. 酸素投与, 4. 人工換気, 5. 除細動, p221-235, 医学芸術社, 東京, 2003.
- B.4. 滝口雅博: 気道確保法, 太田宗夫編: 必携 ACLS, 心肺蘇生法 技術から教育まで, Emergency Nursing 2004年新春増刊号: 36-47, 2004.
- C.1. 浅利 靖, 胃洗浄法. 山口 徹, 北原光夫編 今日の治療指針 2003, p 91, 医学書院. 東京, 2003.

(4)その他

英文 なし

和文 なし

- (5)発表論文のまとめ
- 1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Prehospital and Disaster Medicine Japanese Journal of Aerospace and Environmental Medicine	0	1 1	0
Total		2	0

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Japanese Journal of Aerospace and Environmental Medicine	0	1	0
Total		1	0

(論文数) 和文

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本航空医療学会雑誌			1	
交通安全教育			1	1
Emergency Nursing			1	3
Prehospital Care			7	14
弘前市医師会報			1	1
日本宇宙航空環境医学	会雑誌			1
へき地・離島救急医療	緩急会誌			1
	計		11	21

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	1
編	集	0	0
分担	執筆	2	4

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	技術評価総合研究事業, ステムの評価に関する研	1	
	計		1	0

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- C.1. Masahiro Takiguchi: A Training Program for HEMS crewmembers in Japan. AIRMED2002, Sept.17-20, Interlaken, Switzerland.
- C.2. Masahiro Takiguchi: A Training Program for HEMS crewmembers in Japan. 4th Asia Pasific Congress of Aerospace Medicine, Oct. 21-23, Tsukuba, Japan.

(2)全国学術集会

2002年度

- B.1. 滝口雅博: 我が国の除細動器機内搭載に至る経緯, 第6回空の旅研究会シンポジウム, 2002, 4月4日, 東京都
- B.2. 滝口雅博: へき地・離島におけるへき地度に関する研究-医療のへき地度スコア化の試み, 第6回へき 地 • 離島救急医療研究会, 2002, 10月19日, 東京都
- B.3. 滝口雅博:各国のヘリコプター救急医療体制,第9回日本航空医療学会,2002,11月9日

2003年度

- B.1. 浅利 婧: 急性薬物中毒治療の質の向上に向けて-治療の標準化とクリニカルパスは有効か-急性中毒 治療の標準化に向けて. 第25回日本中毒学会総会シンポジウム, 2003. 07, 11 福島 B.2. <u>浅利 靖</u>:急性中毒の標準治療:消化管洗浄-活性炭-. 第24回日本中毒学会総会ワークショップ, 2002.
- 7. 13, 京都
- C. 6件

III. 学術賞

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

なし

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

他研究単位との研究分担者として 2002年度厚生科学研究費補助金,医療技術評価総合研究事業「へき地・離島医療における診療支援システムの評価に関する研究」

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
 - c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
 - d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
 - e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 なし
 - f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催

2003年度

第49回日本宇宙航空環境医学会,2003年11月13日~15日,青森市

b) 地方レベルの学会の主催

2002年度

第16回東北救急医学会総会 2002, 6月22日, 弘前市 第11回青森救急医学会, 2002, 7月27日, 青森市

2003年度

第12回青森救急医学会,2003年7月5日,青森市

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

49. 輸血部

【研究単位の目標到達度, 理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

- 1. 輸血副作用については全国国立大学医学部付属病院輸血部会議「副作用登録委員会」で集計し日本輸血学会・日本臨床血液学会で発表され各新聞(朝日・読売・東奥日報など)に要旨が報道された。本院では軽症・中等症の副作用を毎年10数例報告している。平成15年度の当院から日本赤十字社への輸血副作用原因解析依頼は12件あった。
- 2. 検査部と合同の緊急検査・緊急輸血業務当直は平成15年3月31日時点で輸血部業務に勤務で携わった臨床検査 技師が6名になった。救急部時間外受診患者で輸血が必要になる患者については現在の輸血部勤務者(3名) が呼び出しで対応した。症例を検討し安全で効果的(経費面からも)な輸血医療の実践を確立する中間地点を 越えたように理解している。
- 3. 青森県の安全で効果的な輸血医療の確立について、青森県赤十字血液センターと協力しているが、15年度から血液センターと当院の輸血関係者の懇談会を設定し、第一回を総務課長の司会で11月に開催した。
- 4. 日本輪血学会の第10回秋季シンポジウムを木村あさの会長で弘前市文化センターで開催し全国から400名が参集し、「安全で効果的な輪血」のテーマで12題の講演が行われた。全講演をビデオ映像に残し、講演資料集60ページを作成した。

以上15年度の目標到達度はほぼ100%と判定している(少ない人数で)

理念:

重症患者の救命救急に使用される輸血用血液の入手,備蓄,期限内の有効利用,献血者の善意に答える血液の透明な管理を日常の仕事とする輸血部にあって,大学病院の輸血部に要求される教育・研究・診療の責務を果たす。安全で有効な輸血医療のためのシステムを検討し,副作用の収集を行う。具体的には輸血事故・輸血による障害を防止するための輸血検査・コンピューター管理を実施する。副作用収集に関しては日本赤十字社血液センターの輸血副作用研究チームの解析結果を得て,個別の発症患者の診断治療に役立てる他に全国的な日赤血副作用調査報告集積の一助とする。

少子・高齢化の進展による献血人口の減少による日赤血の供給不安がある。外科手術患者の無輸血手術数の更なる増加をめざし患者自己血液採血準備など各科の努力がなされ、輸血の医薬品使用(血漿分画製剤)への切り替えも順次行われている状況がある。手術用輸血は日赤血準備と同時に自己血準備もさらに進める。各科では高齢者の手術が多くなる状況で遺伝子工学品薬剤(エリスロポエチンなど)を自己血の準備にあたって使いこなしていく状況にあるが、輸血部では自己血の感染症・輸血検査及び保管管理の他、自己血の適正使用についても調査し、情報を主治医に還元したい。

これから2年間の目標:

- 1. 平成9年7月から行っている検査部と合同の時間外輸血業務の内容を検討し、より高度の輸血業務、具体的には従来医師の仕事としていた適合血の判定(赤血球交差試験)をも技師当直制の中で行い、当院の救急医療の高度化に輸血の面で尽力したい。各科医師のABO/RhD血液型検査がますます重要な輸血検査の一部となる。
- 2. 日本赤十字社青森県血液センターの血液事業に対しても、献血者のリクルート、採血の安全性、血液の有効利用 適正な輪血の推進に協力したい。
- 3. 青森県(行政)の仕事分野である適正な輸血推進に関しては、輸血認定医・輸血認定技師の専門的能力を生かし、協力する所存である。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 0, 助教授 0, 講	師 1,助手	0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0			
教 官	役職 専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間			
(教授~助手)	教授・部長 併 任	棟方 昭博	1年			
の詳細	講師・副部長 専 任	木村あさの	1年			
	1. 安全で効果的な輸血の確保について					
	2. 輸血副作用の発生状況について					
研究課題	3. 輸血業務のあり方の検討					
	4. 血液の調達について					
	5. 自己血確保について					

2003年度

研究人員	教授 0, 助教授 0, 講師 1, 助手 0, 图	E員 0,大学院学生 0,研究生 0			
教 官	役職 専任/併任の別 氏 名	評価年度内での在籍期間			
(教授~助手)	部 長・教授 併 任 棟方 昭博	1年			
の詳細	副部長・講師 専 任 木村あさの	1年			
研究課題	1. 輸血副作用例の収集と原因の解析 2. 抗赤血球抗体保有者の解析 3. 抗血小板抗体保有者の解析				

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文 なし

和文 なし

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

<u>英文</u> なし

和文 なし

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

3. その他 (A. Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

なし

(2)全国学術集会

なし

III. 学術賞

2003年度

木村あさの 平成15年度日本輸血学会東北支部功労賞

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

なし

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
 - c) 外国研究機関からの留学生,研究生の受け入れ状況 なし

- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 なし
- f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

a) 全国レベルの学会の主催 2003年度

木村あさの 第10回日本輸血学会秋季シンポジウム 弘前市文化センター

- b) 地方レベルの学会の主催 なし
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

50. 集中治療部

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

現在の研究をさらに充実させ、発展させてゆく。

理念:

重症患者の治療に役立つ研究を臨床、また実験の面からおしすすめる。

これから2年間の目標:

現在進行中のいくつかの研究の早期完成をめざす。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 0, 助	力教授 0,講師	师 1,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0			
教 官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間			
	教 授	併 任	松木	明知	2002年4月~2003年3月			
(教授~助手) の詳細	講師	専 任	坪	敏仁	2002年4月~2003年3月			
の計画	助 手	専 任	高橋	敏	2002年4月~2003年3月			
	1. 体液量評価に関する研究							
	2. 経食道エコーの集中治療での応用							
	3. 血液浄化の集中治療での応用							
	4. BIS を用いた鎮静と睡眠の研究							
研究課題	5. 経腸栄養	をと誤嚥に関する	る研究					
	6. 睡眠と麻酔の相互関係							
	7. 新しい麻酔補助薬の開発							
	8. 鎮静薬か	¹ 脳内神経伝達	勿質にお	およぼす	影響			
	9. 重症患者	音の体液管理						

2003年度

研究人員	教授 0, 助	助教授 0,講師	师 1,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0	
教 官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間	
教 · 自 · (教授~助手)	教 授	併 任	松木	明知	2003. 4 . 1 ~2004. 3 .31	
の詳細	講師	専 任	坪	敏仁	2003. 4 . 1 ~2004. 3 .31	
り活干和	助手	専 任	大川	浩文	2003. 4 . 1 ~2004. 3 .31	
	1. 集中治療における超音波診断の適応					
研究課題	2. 血液浄化法					
	3. 集中治療	聚における鎮静				

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

- A.1. <u>Tsubo T</u>, Sakai I, Suzuki A, Okawa H, Ishihara H, <u>Matsuki A</u>. Lung image changes during bronchopulmonary lavage estimated using transoesophageal echocardiography. Eur J Anaesthesiol 2002;19:141-4.
- B.1. Hirota K, Yoshioka H, Kabara S, Koizumi Y, Abe H, Sato T, <u>Matsuki A</u>. Spasmolytic effects of colforsin daropate on serotonin -induced pulmonary hypertension and bronchoconstriction in dogs. Acta Anaesthesiol Scand 2002;46:297-302.
- B.2. Ishihara H, Okawa H, Iwakawa T, Umegaki N, Tsubo T, Matsuki A. Does indocyanine green accurately

- measure plasma volume early after cardiac surgery? Anesth Analg 2002;94:781-6.
- B.3. Kushikata T, Hirota K, Yoshida H, Kubota T, Ishihara H, Matsuki A. Alpha-2 adrenoceptor activity affects propofol -induced sleep time. Anesth Analg 2002;94:1201-6.
- B.4. Hirota K, Hashimoto H, Tsubo T, Ishihara H, Matsuki A. Quantification and comparison of pulmonary emboli formation after pneumatic tourniquet release in patients undergoing reconstruction of anterior cruciate ligament and total knee arthroplasty. Anesth Analg 2002;94:1633-8.
- B.5. Yasuda T, Takahashi S, Matsuki A. Tumor necrosis factor-α reduces ketamine- and propofol-induced anesthesia time in rats. Anesth Analg 2002;95:952-5.
- B.6. Hirota K, Ishihara H, Matsuki A. Ketamine and the inhibition of albumin extravasation in chemical peritonitis in rat. Eur J Anaesthesiol 2002:19:173-6.
- B.7. Hirota K, Fukushi S, Baba S, Matsuki A. Flurbiprofen does not change the bispectral index and 95% spectral edge frequency during total intravenous anaesthesia with propofol and fentanyl. Eur J Anaesthesiol
- B.8. Kitayama M, Hirota K, Kudo M, Kudo T, Ishihara H, Matsuki A. Inhibitory effects of intravenous anaesthetic agents on K+-evoked glutamate release from rat cerebrocortical slices. Involvement of voltage-sensitive Ca²⁺ channels and GABAA receptors. Naunyn Schmiedeberg's Arch Pharmacol 2002;366:246-53.

2003年度

B.1. Hirota K, Kushikata T, Kudo M, Ohkawa H, Kudo T, Lambert DG, Smart D, Matsuki A. Lack of an interaction between orexinergic and opioid/nociceptinergic systems in rat cerebrocortical slices. Neurosci Lett 2003;340:173-6.

和文

2002年度

- A.1. <u>坪敏 仁</u>, 松井晃紀, 大川浩文, 石原弘規, <u>松木明知</u>. 肺胞洗浄液へのカテコラミンおよびコルチゾルの 排泄. ICUとCCU 2002;26:S 135-6.
- A.2. 松木明知, 石原弘規, 小谷直樹, 坂井哲博, 廣田和美, 村岡正敏, 橋本 浩, 坪 敏仁, 高橋 敏, 洪 浩彰、若山茂春、佐藤 裕、長尾博文、プロポフォール・フェンタニルを中心とする全静脈麻酔の臨床的 研究-特に安全性の面からの2万6千余症例の検討-. 麻酔 2002;51:1336-42.

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. <u>坪 敏仁</u>. 心タンポナーデ. 看護学雑誌 2002; 66:720-3. A.2. <u>坪 敏仁</u>, 高村かおり, 大川浩文, 石原弘規, <u>松木明知</u>. 中毒症例 医薬品 (6) ケタミン. 臨床透析 2002; 18: 1043-6.
- B.1. 廣田和美,<u>松木明知</u>. 特殊な意識障害 麻酔からの覚醒遅延. Clinical Neuroscience 2002; 20:466-7.
- B.2. 廣田和美, 松木明知, 馬場祥子. 麻酔 2001;50:908「集学的手術医療のための麻酔科医の役割」への 返信. 麻酔 2002;51:67.

(3)著書

英文 なし

和文

- A.1. 松木明知, 石原弘規, 坂井哲博(編). 周術期における BIS モニターの臨床応用. 改訂第2版. 東京:克誠 堂;2002.
- A.2. 松木明知(著). 麻酔科の本質. 東京:克誠堂;2002.
- A.3. <u>松木明知</u>(編). 日本麻酔科学史資料(18)-中枢神経系, 呼吸系, 循環系, 代謝系, 腎機能, 酸-塩基平衡,
- A.4. 松木明知(編). 日本麻酔科学史資料(19)-輪血, 体外循環, 低血圧, 蘇生, 集中治療, 災害時の麻酔, プ
- A.5. 松木明知(著). 華岡青洲の新研究. 東京:岩波出版サービスセンター:2002.
- A.6. <u>松木明知</u>(著). 八甲田雪中行軍の研究. 東京;岩波出版サービスセンター;2002.
- 松木明知(編). 日本牛痘種痘史文献目録. 東京:岩波出版サービスセンター;2002. 分担執筆
- 敏仁, 石原弘規. 効果的な消毒と感染対策 13. 院内感染の防止対策 Q45 頻回に使う気管支ファ A.1. 坪 イバースコープ.丸川征四郎(編).救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題
- 解決. 東京:南江堂; 2002.p.93-4. A.2. <u>坪 敏仁</u>, 石原弘規. モニター, 検査 25.PAカテーテル Q80 肺動脈圧(PAP)モニターの注意点. 丸川 征四郎(編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江堂;
- A.3. 坪 敏仁, 石原弘規. モニター, 検査 25.PAカテーテル Q81 持続心拍出量測定の測定原理と信頼性. |丸川征四郎(編).救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決.東京:南江

- 堂; 2002.p.174-5.
- A.4. 坪 敏仁, 石原弘規. 事故・合併症, その他 37.褥創の予防とケア Q111 褥創ができやすい患者の条件. 丸川征四郎(編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江堂: 2002.p.254-5.
- A.5. <u>坪</u> 敏仁, 石原弘規. 事故・合併症, その他 37.褥創の予防とケア Q112 できてしまった褥創のケア. 丸川征四郎(編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江堂; 2002.p.256-7.
- B.1. 坂井哲博、<u>松木明知</u>. 第IV編 各科の麻酔管理 28章合併症を有する患者の麻酔. Ⅲ. 内分泌・代謝疾患を有する患者の麻酔. 吉村 望(監), 熊澤光生, 弓削孟文, 古家 仁(編). Standard Textbook 標準麻酔科学. 第 4 版. 東京: 医学書院; 2002.p.355-60.
- B.2. 坂井哲博, <u>松木明知</u>. 第 IV編 各科の麻酔管理 28章合併症を有する患者の麻酔. WI. 肥満患者の麻酔. 吉村 望(監), 熊澤光生, 弓削孟文, 古家 仁(編). Standard Textbook 標準麻酔科学. 第 4 版. 東京: 医学書院: 2002.p.381-6.
- B.3. <u>松木明知</u>, 全身麻酔、釘宮豊城、宮崎東洋(編). 麻酔・ペインクリニックと医療事故. 東京: 真興交易株式会社医書出版部; 2002.p.113-24.
- B.4. <u>松木明知</u>. 麻酔科学の歴史. 花岡一雄, 真下 節, 福田和彦(編). 臨床麻酔学全書(上巻). 東京: 真興交易株式会社医書出版部; 2002.p.1-17.
- B.5. 石原弘規, <u>坪</u><u>敏仁</u>. モニター, 検査 25. PA カテーテル Q82 肺動脈カテーテル測定値の読み方とコッ. 丸川征四郎(編). 救急・集中治療の看護ケア ナースの質問119 ベッドサイドの問題解決. 東京:南江堂; 2002.p.176-7.

(4)その他

英文

2002年度

B.1. Kotani N, Tanioka F, <u>Tsubo T</u>, Ishihara H, <u>Matsuki A</u>. Systemic heparinization during postoperative pulmonary embolism induces fatal complications. Eur J Anaesthesiol 2002;19:382-4.

和文

2002年度

- B.1. 村川徳昭, 櫛方哲也, <u>松木明知</u>. 特殊な合併症を有する緊急開頭手術患者の麻酔. 救急医学 2002;26: 730-2.
- B.2. 村川徳昭, 神 敏郎, <u>松木明知</u>. 緊急脳動脈瘤根治術中に発生した心室細動の1症例. 麻酔 2002;51: 203-5
- B.3. 石原弘規, 高平陽子, 村岡正敏, 橋本 浩, <u>松木明知</u>, 長谷川幸裕, 高梨信吾. 内視鏡下レーザー照射時の高吸入酸素濃度は気道内発火の主たる原因となるか?-全静脈麻酔中の気道内発火事故の1症例-. 麻酔 2002;51:1359-62.
- B.4. 橋場英二, 橋本 浩, <u>松木明知</u>. 深頚部感染による挿管困難症の1例. 臨床麻酔 2002; 26:91-2.
- B.5. <u>松木明知</u>. 麻酔科学史 (第12回) 本邦初の全身麻酔下帝王切開術. Anesthesia 21 Century 2002; 4:40-1.
- B.6. <u>松木明知</u>. 麻酔科学史(第13回)本邦における明治前半の帝王切開術-とくに全身麻酔下の帝王切開術 について-. Anesthesia 21 Century 2002; 4:54-5.
- B.7. <u>松木明知</u>. 麻酔科学史(第14回)日本で発見された骨格筋弛緩薬"マグノクラリン". Anesthesia 21 Century 2002; 4:62-3.
- B.8. <u>松木明知</u>. 中川五郎治がシベリアから将来したロシア語牛痘種痘書についての一考察. 科学医学資料研究 2002; 30:19-36.
- B.9. 松木明知. 医史学研究の先取権を巡って-「華岡青洲の麻沸散」の実験的追試. 科学医学資料研究 2002; 30:1-9.
- B.10. <u>松木明知</u>. マニュアルを作って医療事故が防げるかーシンポジウム「医療事故の問題点」からー. 学術の動向 2002;7:74-5.
- B.11. 松木明知. 新史料の発見と熟読. 弘前市医師会報 2002; (282): 72.
- B.12. <u>松木明知</u>. 研究方法に違いはあるのか-医学の研究と医学史の研究の比較-. 弘前市医師会報 2002; (283): 56-8.
- B.13.<u>松木明知</u>. Sir William Oslerの "And Hospital" 大学病院のあるべき姿-. 青森県医師会報 2002; (469): 216-8.
- B.14. <u>松木明知</u>. 華岡青洲の「乳巖姓名録」の研究 個別の症例記録との比較検討. 日本医史学雑誌 2002;48: 53-65.
- B.15. <u>松木明知</u>. 新に確定された青洲の乳癌患者三名の死亡年月日. 日本医史学雑誌 2002; 48:175-83.

2003年度

A.1. 沼田有里佳, <u>坪</u> <u>敏仁</u>, 石原弘規, <u>松木明知</u>. 細菌性心内膜炎の疣贅を経食道心エコーを用いて経時的に 観察した 1 症例, 循環制御 2003:24:61-5.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Eur J Anaesthesiol	0.996	1	0.996
Acta Anaesthesiol Scand	1.435	1	1.435
Anesth Analg	2.279	4	9.116
Eur J Anaesthesiol	0.996	2	1.992
Naunyn Schmiedeberg's Arch Pharmacol	2.472	1	2.472
Total		9	16.011

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Neuroscience Lett	2.1	1	2.1
Total		1	2.1

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
ICUとCCU 麻酔 看護学雑誌 臨床透析 Clinical Neuroscience			1 2 1 1	
	計		6	0

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	3	0
編	集	4	0
分担	執筆	10	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Eur J Anaesthesiol	0.996	1	0.996
Total		1	0.996

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
救急医学 麻酔			1	
臨床麻酔			1	
Anesthesia 21 Century 科学医学資料研究			3 2	
学術の動向 日本医史学雑誌			1 2	
弘前市医師会報 青森県医師会報			2	
循環制御				1
	計		15	1

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- C.1. Kitayama M, Hirota K, Kudo M, Kudo T, Ishihara H, <u>Matsuki A</u>. Inhibitory effects of intravenous anesthetic agents on K⁺-evoked glutamate release from rat cerebrocortical slices International Anesthesia Research Society 76th Clinical and Scientific Congress (San Diego, U.S.A.), 2002
- C.2. Mi WD, Sakai T, Furukawa K, Matsuki A. Gene expression and anesthetics. 7th America-Japan Anesthesia Congress (Yamanashi, Japan), 2002
- C.3. Mi WD, Sakai T, Furukawa K, <u>Matsuki A</u>. IGFBP genes expression is induced by sevoflurane, but not by ketamine. 2nd China-Japan Medical Conference 2002 (Beijing, China), 2002
- C.4. Sakai T, Tanabe T, Mi WD, Matsuki A. BIS monitoring on schizophrenic patients. 2nd China-Japan Medical Conference 2002 (Beijing, China), 2002
- C.5. Tanabe T, Kimura N, Mi WD, Sakai T, <u>Matsuki A</u>. Awake, preoperative BIS values are lower in schizophrenic patients than in normal controls. 56th Postgraduate Assembly in Anesthesiology (New York, U.S.A.), 2002
- C.6. <u>Tsubo</u> T, Yatsu Y, Hashiba E, Ishihara H, <u>Matsuki A</u>. A method to measure regional pulmonary blood flow with transesophageal echocardiography in acute lung injury dog model. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists (Orland, U.S.A.), 2002
- C.7. Hashiba E, Hirota K, Calo G, Kudo T, <u>Matsuki A</u>. The effects of intravenous nociceptin/orphanin FQ on plasma concentrations of catecholamines in guinea pigs. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists (Orland, U.S.A.), 2002

2003年度

C.1. Yatsu Y, <u>Tsubo T</u>, Nakamura H, <u>Matsuki A</u>. Atelectasis model to observe regional pulmonary blood flow using transesophageal echocardiography. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists, San Francisco, U.S.A, 2003

(2)全国学術集会

2002年度

- A.1. <u>松木明知</u>. 山口少佐と八甲田雪中行軍 -新発見の資料による生存救助者の症状を中心に-. 平成13年度青森県医史学研究会. 青森. 2002年
- A.2. 松木明知. サイエンスとアートの狭間で. 第28回日本口腔外科学会北日本地方会, 弘前, 2002年
- A.3. 松木明知. 八甲田雪中行軍の光と影. 宮城鵬桜会総会, 仙台, 2002年
- A.4. 松木明知. Sir William Osler と私の関わり. 日本オスラー協会総会, 東京, 2002年
- A.5. <u>松木明知</u>. 八甲田雪中行軍の研究-特に中原貞衛軍医を中心に一. 艮陵会青森県支部総会, 青森, 2002年
- A.6. 松木明知、江戸時代における青森県の医療が全国に及ぼした影響-とくに津軽の阿片を中心として-第17回日本整形外科学会基礎学術集会、青森、2002年
- A.7. <u>松木明知</u>. 華岡青洲と全身麻酔. 市民公開講座「麻酔の日」講演会, 弘前, 2002年
- A.8. <u>松木明知</u>. Wooley and Roe 事件から学ぶもの 脊髄くも膜下麻酔事故に関連して-. 第15回日本局所麻酔学会, 甲府, 2002年

教育講演

- A.1. <u>坪 敏仁</u>. 経食道エコーと呼吸管理 PGE1 の作用も含めて 第7回青森県周術期管理研究会,青森, 2002年
- A.2. 松木明知. 医療人として何が大切か. 長崎大学医学部集中講義(医療と人間), 長崎, 2002年
- B.1. 石原弘規, 高平陽子, 橋本 浩, 村岡正敏, 松木明知. レーザー照射による腫瘍焼却中に生じた気道内熱傷. 第37回青森県臨床麻酔研究会, 青森, 2002
- C. 22件

III. 学術賞

2002年度

丹羽英智, 高橋彩香, 田辺 健, 米衛 東, 坂井哲博, 松木明知 第9回日本静脈麻酔・Infusion Technology 研究会 JSIVA賞 「新しい麻酔深度指標 AAI の麻酔導入時における変化— BIS との比較—」

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

研究代表者として

松木明知 基盤研究 C 100万円 「全身麻酔後の睡眠障害の研究―生理的睡眠物質の動態と関連するか

坪 敏仁 萌芽的研究 60万円 「部分的液体換気の超音波による評価―経食道エコー法を用いて―」 高橋 敏 基盤研究B 180万円 「内因性睡眠物質の遺伝子検索に基づいた新しい麻酔補助薬の開発」 高橋 敏 基盤研究C 90万円 「睡眠調節機構と麻酔の相互作用に関する研究」

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

2002年度

研究代表者として 集中治療部(臨床系)インセンティブ研究助成 935,750円

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流。国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

2002年度

中国 米衛東 財団法人日中笹川医学研究者 英国 レスター大学麻酔薬理研究所所長 David G Lambert

c) 外国研究機関からの留学生、研究生の受け入れ状況

2002年度

Rose BO ドイツハノーファー医科大学麻酔科よりブドウ糖初期分布容量測定研修, 2003年1月~2003 年2月(2ヵ月間)

d) 外国研究機関の視察、研究参加(3ヵ月未満)状況

なし

e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況

なし

f) その他

なし

- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催

2002年度

松木明知 第7部救急・麻酔・集中治療医学研究連絡委員会シンポジューム 日本医科大学同窓会14号 館橘桜会館 5月24日

b) 地方レベルの学会の主催

なし

c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況

なし

d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学) 状況

VII. その他

51. 周産母子センター

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

学会報告、論文報告については、目標を到達できているが、周産期分野全般においてより質の高い発表、論文報告をしていきたい。到達度は60%である。

理念:

周産期医学に関する基礎的・臨床的研究を行うことにより、これらの領域の学術的、医療水準を高め、県民および 国民の福祉に貢献する。

これから2年間の目標:

- 1. IF の付いた学術誌に論文を発表する
- 2. 国際学会、全国レベルの学会などのシンポジウムで発表する
- 3. 科学研究費補助金に採択される研究を行う
- 4. その他の研究補助金に応募する

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 0, 助	力教授 0,講自	币 3,	助手	2, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0					
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間					
	教 授	併 任	水沼	英樹	12ヵ月					
教 官	講師	専 任	尾崎	浩士	0 ヵ月					
(教授~助手)	講師	専 任	樋口	毅	12ヵ月					
の詳細	講師	専 任	佐藤	工	12ヵ月					
	助 手	専 任	田中	幹二	12ヵ月					
	助 手	専 任	柴田	滋	12ヵ月					
	1. 子宮内環境の胎児・新生児に及ぼす影響について									
	2. 卵巣腫瘍	長の自然史に関す	する研究	Ľ L						
	3. 中高年女	で性のホルモン神	甫充療法	たにおけ	るテーラーメイドメディシンの研究					
	4. 骨粗鬆症	ミモデルマウスに	こおける	る 複合糖	質代謝の研究					
研究課題	5. 婦人科思	長性腫瘍の浸潤	過程にま	3けるヒ	アルロン酸合成抑制物質の影響					
切九	6. 皮膚細胞	図の老化に対する	る卵巣は	・ルモン	の影響					
	7. 小児循環	7. 小児循環器病学								
	8. 切迫早産	8. 切迫早産ならびに子宮頚管無力症治療薬の開発								
	9. 食道癌の)術前化学放射約	泉療法0)有効性	について					
	10. 胃癌の徘	う後化学療法に つ	ついて							

研究人員	教授 0, 即	b教授 1, 講E	師 2,	助手	2, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0	
	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間	
	教授, 部長	併 任	水沼	英樹	1年	
教 官	助教授, 副部長	専 任	尾崎	浩士	1年	
(教授~助手)	助教授,副部長	併 任	高橋	徹	1年	
の詳細	講師	専 任	佐藤	工	1年	
りが干が口	講師	専 任	樋口	毅	1年	
	助 手	専 任	田中	幹二	1年	
	助 手	専 任	柴田	滋	1年	
	1. 子宮内環境の胎児・新生児に及ぼす影響について					
研究課題	2. 妊娠中毒症・子宮内胎児発育遅延の予知・予防について					
	3. 小児循環	景器病学				

- 4. 子宮頸管無力症新規治療薬の開発のための研究
- 5. MUのヒアルロン合成抑制機序の研究
- 6. 卵巣腫瘍の自然史に関する研究
- 7. 骨粗鬆症モデルマウスにおける複合糖質代謝の研究
- 8. 骨代謝異常におけるプロテオグリカンの役割についての研究
- 9. 食道癌の術前化学放射線療法の有効性について
- 10. 胃癌の術後化学療法について

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2003年度

A.1. Sato T, Suzuki K, Umemura J, Takahashi Y, Tomimoto K. Cor Triatriatum with Unroofed Coronary Sinus and Persisten Left Superior Vena Cava Associated with Atrial Tachycardia. Pediatric Cardiology 2003; 24:520-523.

和文

2002年度

- A.1. 松倉大輔, 二神真行, 田中幹二, 佐藤秀平, 佐藤重美, 水沼英樹, 先天性サイトメガロウイルス感染症の 2症例, 青森臨産婦誌, 2002, 17, 61-66.
- A.2. 佐藤 工, 上田知実, 佐藤 啓, 江渡修司, 大谷勝記, 市瀬広太, 佐藤澄人, 高橋 徹, 伊藤悦朗, 米坂 勧. 着脱式コイルを用いた動脈管開存症に対する経カテーテル塞栓術. 弘前医学. 2003;54:59-64.
- A.3. 柴田 滋、川崎仁司、中井 款、諸橋 一、松谷英樹、山田恭吾、森田隆幸、佐々木睦男、食道癌に対す る白金製剤/5-FU 併用化学放射線療法.癌と化学療法,2002;29:2209-2212.
- A.4. 樋口 毅, 田中幹二, 水沼英樹, HRT drop out 症例の背景因子の解明とその対策, 日本更年期医学会雑 誌, 2002, 11, 103-105.
- 二神真行,坂本知巳,葛西剛一郎,尾崎浩士,佐藤秀平,水沼英樹,須貝道博,棟方博文,腸管重複症の 1 例, 周産期医学, 2002; 32:835-837.

2003年度

- A.1. 切迫早産治療中に無顆粒球症を発症した一症例:泉井もえ,藤井俊彦,二神真行,田中幹二,尾崎浩士, 水沼英樹:青森県臨床産婦人科医会誌18巻, 10-12, 2003.
- A.2. ピルビン酸キナーゼ異常症合併妊娠の1例: 葛西剛一郎, 坂本知已, 佐藤秀平, 坂本亜希子, 山本善光, 二神真行, 尾崎浩士, 水沼英樹. 周産期医学 (0386-9881) 33巻4号 Page 527-530, 2003.
- A.3. <u>樋口 毅</u>, <u>田中幹二</u>, <u>水沼英樹</u>: HRT drop out 症例の背景因子の解明とその対策. 日本更年期学会雑誌 2003, 11(1); 102-105

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. 水沼英樹, 樋口 毅, 閉経周辺期における骨量測定, Clinical Calcium, 2002; 12:1539-1542.
- A.2. 水沼英樹, 樋口 毅, 骨粗鬆症治療上のピットフォール, 臨床婦人科産科, 2002; 56: 1356-1359.
- A.3. 樋口 毅, 水沼英樹, 経皮エストロゲン剤 ゲル剤, Hormone Frontier in Gynecology, 2002;9:359-364.

- A.1. 樋口 毅, 水沼英樹: Ⅱ. 内分泌 {更年期障害(ホルモン補充療法)} ホルモン補充療法を行っていますが、
- A.2. <u>樋口 毅, 水沼英樹</u>: Ⅱ. 内分泌 {更年期障害(ホルモン補充療法)} 子宮筋腫をもつ閉経後婦人に対する ホルモン補充療法について教えて下さい. 臨床婦人科産科 2003, 57(4); 495-497
- A.3. 樋口 毅, 水沼英樹: II. 内分泌 {骨粗鬆症} 閉経後の骨量低下, 骨粗鬆症の治療と管理について教えて 下さい. 臨床婦人科産科 2003, 57(4); 498-500
- A.4. <u>樋口 毅</u>, <u>田中幹二</u>, <u>水沼英樹</u>: HRT と尿失禁. 産婦人科の実際 2003, 52(5); 579-583 A.5. <u>樋口 毅</u>, <u>田中幹二</u>, <u>水沼英樹</u>: ホルモン剤投与の工夫-投与スケジュール. 臨床産科婦人科 2003, 57 (6); 836-839
- A.6. <u>樋口 毅</u>, <u>田中幹二</u>, <u>水沼英樹</u>: HRT の臨床 3 泌尿生殖器症状に対する効果 治療学 2003, 37(10); 1029-1031.
- A.7. 田中幹二, 水沼英樹:子宮頚管無力症治療薬開発プロジェクト:産婦人科の世界, 55巻, 805-810, 2003.

(3)著書

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. 樋口 毅, 水沼英樹, 閉経と骨量減少, 中村利孝, 松本俊夫編, 骨粗鬆症診療ハンドブック, 38-44, 医薬
- ジャーナル,東京、2002.6.20 A.2. 樋口 毅,水沼英樹,病態生理・病因,西沢良記編,新しい診断と治療のABC 骨粗鬆症,42-48,最新医 学社, 大阪, 2002.10.25

(4)その他

英文 なし

和文 なし

- (5)発表論文のまとめ
- 1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Pediatric Cardiology	0.581	1	0.581
Total		1	0.581

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
青森県臨床産婦人科医会誌 周産期医学 日本更年期学会雑誌 臨床婦人科産科 産婦人科の実際 治療学 産婦人科の世界				1 1 1 4 1 1
	計		0	10

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担執	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
青森臨産婦誌			1	
弘前医学			1	
癌と化学療法 日本更年期医学会雑誌			1	
周産期医学			1	
	計		5	0

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2003年度

C.1. ALTERED VASCULAR FUNCTION OF ISOLATED FEMORAL ARTERIES IN GROWTH-RETARDED RAT PUPS, <u>Takashi Ozaki</u>, Yamamoto Yoshimitsu, Perinatal Medical Center, Hirosaki University Hospital, 6th World Congress of Perinatal Medicine, 13-16 September 2003, Tokyo, Japan.

(2)全国学術集会

2002年度

- B.1. 樋口 毅, 田中幹二, 水沼英樹, HRT 脱落例を抑えるための工夫, 第17回日本更年期医学会, 鹿児島市, 2002, 10, 26-27
- C.1. 柴田 滋、川崎仁司,中井 款、諸橋 一、松谷英樹、山田恭吾、佐々木睦男、食道癌に対する CDGP/ 5-FU 併用化学放射線療法の検討、第64回日本臨床外科学会総会、東京、2002年11月15日

2003年度

C. 7件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として 「切迫早産ならびに子宮頚管無力症治療薬の開発」田中幹二,1,800千円

2003年度

研究代表者として 「切迫早産ならびに子宮頚管無力症治療薬の開発」田中幹二, 1,300千円

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

2002年度

他研究単位との研究分担者として 弘前大学重点研究「プロテオグリカン研究拠点の構築」、高垣啓一、130千円

2003年度

他研究単位との研究分担者として

- 1) 弘前大学重点研究 プロテオグリカン研究拠点の構築(樋口 毅,田中幹二) 高垣啓一
- 2) 弘前大学学術研究奨励基金 プロテオグリカンネットワークス体制の整備(樋口 毅,田中幹二) 高 垣啓一

(4)民間の研究助成

2002年度

研究代表者として

弘前大学産科婦人科教室同窓会研究助成 「切迫早産ならびに子宮頚管無力症治療薬の開発」田中幹二, 300千円

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流, 国際的活動

- a) 国際学術集会の主催 なし
- b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
- c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 なし
- f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

- a) 全国レベルの学会の主催 なし
- b) 地方レベルの学会の主催 なし
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

52. 病理部

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

病理部としては教官定員1名であり、その1名の研究業績によってまとめられるが、実際の運営は病理学第一、第二講座の協力によっている。従って、研究面でも病理学第一、第二講座分を参照されたい。

病理部所属教官の研究目標自体については、担当部分を参照されたい。

全体の目標到達度としては、学会発表、講演などの活動は7-8割方達成できた。

臨床病理学的研究については、共同研究論文としていくつか国際誌に発表できた。

病理部が主体となった、肝の線維化については国際学会に発表済みで現在国際誌に投稿中であるが、前立腺癌に関する研究成果については今後の公表努力が必要とされた。

理念:

病理部においては、診断部門という使命から、正確、迅速な病理診断が要求される。高度先進医療という目的から 最新の技術を導入した精巧な診断技術の導入を図る。これらの情報を発信する目的から、学会や論文での公表をめ ざす。

これから2年間の目標:

実際的な病理部専任教官の目標は担当部分を参照されたい。病理部全体の目標としては、専任教官の目標の到達と 共に、協力する講座教官の病理部との共同での研究推進、論文公表などを図る。とくに、消化管、リンパ増殖性疾 患などについての臨床病理学的研究の推進を図る。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 0, 助	b教授 1, 講館	币 0,助手	0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 1		
教 官	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間		
(教授~助手)	教 授	併 任	八木橋操六	八木橋操六 2002.4~2003.3		
の詳細	助教授	専 任	鎌田 義正	H 義正 2002.4~2003.3		
TTT かた 学田 日首	1. 肝の線維化における肝星細胞の役割					
研究課題	2. 前立腺癌の前癌病変と早期癌の病理組織学的な診断確立に関する研究					

2003年度

研究人員	教授 0, 助	b教授 1, 講師	师 0 ,	助手	0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 1			
教 官 (教授~助手)	役 職	専任/併任の別	氏	名	名 評価年度内での在籍期間			
の詳細	助教授	専 任	鎌田	義正	10年			
TT の記 ⇒田 日百	1. 肝の線維化における肝星細胞の役割							
研究課題	2. 前立腺癌の前癌病変と早期癌の病理組織学的な診断確立に関する研究							

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

- B.1. L.G.Fulford, B.Corrin, M.N.Sheppard, A.G.Nicholson, <u>Y.Kamata</u>, K.Okudera, A.Dawson, N.B.N.Ibrahim: Epithelial-myoepithelial carcinoma of the bronchus. Am J Surg Pathol 2002;26:950-953
- B.*2. S.Takahashi, <u>Y.Kamata</u>, W.Tamo, M.Koyanagi, R.Hatanaka, Y.Yamata, T.Tsushima, S.Takaya, I.Fukuda: Relationship between postoperative recurrence and expression of cyclin E, p27, and Ki-67 in non-small cell lung cancer without lymph node metastases. Int J Clin Oncol 2002;7:349-355.

- B.*3. M.Sugai, K.Murata, N.Kimura, H.Munakata, R.Hada, <u>Y.Kamata</u>: Adenoma of the nipple in an adolescent. Breast Cancer 2002;9:254-256 .
- B.*4. K.Kageyama, T.Nigawara, <u>Y.Kamata</u>, K.Terui, K.Anzai, S.Sakihara, T.Suda: A multihormonal pituitary adenoma with growth hormone and adrenocorticotropic hormone production, causing acromegaly and Cushing disease. Am J Med Sci 2002;324:326-330.
- B.*5. K.Kageyama, T.Nigawara, <u>Y.Kamata</u>, T.Takahashi, J.Anzai, S.Suzuki, Y.R.Osamura, T.Suda: A case of macroprolactinoma with subclinical growth hormone production. Endocr J 2002;49:41-47.

2003年度

- B.1. T.Kobayashi, M.Kimura, S.Owada, K.Ashikaga, S.Sasaki, T.Higuma, A.Iwasa, <u>Y.Kamata</u>, S.Motomura, K.OKumura: Impaired longitudinal conduction in crista terminalis is necessary for sustenance of experimental atrial flutter. Pace 2003;26:2008-2014.
- B.2. H.Ohguro, M.Tamura, <u>Y.Kamata</u>, I.Ohguro, M.Nakazawa: A case of conjunctival malignant melanoma effectively treated by tumor resection and cryotherapy in a 14-year-old boy. Hirosaki Med. J. 2003;55(1):23-28.

和文

2002年度

- A.1. <u>鎌田義正</u>, 貝森光大, 森田るり子, 工藤 一:副鼻腔・鼻腔原発の Juvenile 型横紋筋肉腫. 日本病理学会会誌, 2002; 91:257.
- B.*1.丸山秀和, 鎌田義正, 伊藤悦朗, 横山 雄: ラットの溶血早期の赤血球造血因子 (Erythroid accelerating factor) についての検討. 弘前医学, 2002; 53: 93-103.
- B.*2.神戸有希, 今 淳, 間山 淳, 熊野高行, 佐々木千秋, 玉井克人, <u>鎌田義正</u>, 橋本 功: 多発性皮膚線 維腫の1例. 臨床皮膚科, 2002; 56: 360-362.

2003年度

B.1. 奥寺光一, 小野寺庚午, <u>鎌田義正</u>, 高梨信吾, 奥村 謙: 喫煙開始が誘因と考えられた急性好酸球性肺炎 の1例. 青森県立中央病院医誌 2004; 49(1): 17-21.

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

英文 なし

和文 なし

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Am J Surg Pathol Am J Med Sci Endocr J	3.691 1.524 0.869	1 1 1	3.691 1.524 0.869
Total		3	6.084

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Pace Hirosaki Med J	1.132 0	1 1	1.132 0
Total		2	1.132

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本病理学会会誌 弘前医学 臨床皮膚科			1 1 1	
青森県立中央病院医誌				1
	計		3	1

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

3. その他 (A. Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

C.1. <u>Y.Kamata</u>, K.Murata, M.Sugai, H.Munakata: Immunohistochemical study on liver fibrosis in biliary atresia. 92nd Annual Meeting of United States and Canadian Academy of Pathology, 2003.3.24, Washington, DC(USA).

2003年度

A.1. Y.Kamata, K.Murata, M.Sugai, H.Munakara: Immunohistochemical study on liver fibrosis in biliary atresia. 92nd Annual Meeting of United States and Canadian Academy of Pathology. Washington, D.C., 2003. (Y.Kamata, K.Murata, M.Sugai, H.Munakara: Immunohistochemical study on liver fibrosis in biliary atresia. Laboratory Investigation 2003;83:303A.)

(2)全国学術集会

2002年度

C. 2件

2003年度

C. 3件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

2003年度

固形癌患者の核酸代謝酵素 mRNA 発現に関する母集団調査: 対馬敬夫(第一外科), 大鵬薬品と共同研究

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

なし

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
 - c) 外国研究機関からの留学生,研究生の受け入れ状況 なし
 - d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
 - e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 なし
 - f) その他 なし
- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催 なし
 - b) 地方レベルの学会の主催 なし
 - c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
 - d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

53. 医療情報部

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

(知田)

1. 目標:法人化を前提とした病院経営分析

到達度:50%未満.企業会計に関する一般的な学習に終始した。

2. 目標:IT 化医療画像診断技術(自動診断)の開発

到達度:30%未満. 包括医療制度(2003年度開始)の準備,病院情報管理システム(2004年導入)の概算要求

並びに仕様策定のため活動(時間)が制限された。

(三上)

2年前の目標は、生活習慣病の予防に関してのメタアナリシスの模索と生活習慣評価法の開発であったが、メタアナリシスについては、調べるほどに、精度のばらつきと限界が認められるので、採用しないこととした。生活習慣評価法の開発については、開発し、一部については実践した結果を学会で発表したが、評価についてはこれからである。

理念:

(羽田)

法人化医学部附属病院の診療業務と経営管理の支援を行う。

(三上)

地域において、健康問題を研究する者にとっては、青森県の健康指標の深刻さを真摯に受け止めなければならないばかりでなく、何が実践できるかを考えなければならない。

これから2年間の目標:

(羽田)

- ・法人化医学部附属病院の経営管理に係る意思決定のための各種情報提供を行うこと。
- ・病院情報管理システム(2004年1月1日導入)の完全稼動

 $(\equiv F)$

健康指標の精査と実践内容の設定、モデル地区の選定。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 1, 助教授 1, 講師 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
教 官	役職 専任/併任の別 氏 名 評価年度内での在籍期間
(教授~助手)	教 授 専 任 羽田 隆吉
の詳細	助教授 専任 三上 聖治
研究課題	1. (羽田) 病院経営分析 - 必須情報 (データ) 収集・分析費用と得られる分析結果価値とのバランスに関する研究 (羽田) 2. (羽田) 生体情報の定量化 - 特に内視鏡画像・超音波断層画像から定量的診断を行うアルゴリズムに関する研究 (羽田) 3. (三上) 循環器疾患の予防 4. (三上) 循環器疾患の診断法の開発

研究人員	教授 1, 助	b教授 1,講	師 0,	助手	0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0
教 官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
(教授~助手)	教 授	専 任	羽田	隆吉	
の詳細	助教授	専 任	三上	聖治	

(知田)

1. 病院管理学『法人化を前提とした病院経営分析:必要情報(データ)収集費用と得られる分析結果の価値とのバランスに関する研究』。

研究課題

2. 生体情報の定量化『高度先進医療技術―特に IT 化医療画像診断技術の開発』

 $(\Xi \vdash)$

- 1. 生活習慣病の予防
- 2. 循環器疾患予防のための因子分析と実践

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

B.1. (羽田) Tsuyotoshi Tsuji, Yoshihiro Sasaki, Masanori Tanaka, Norihiro Hanabata, <u>Ryukichi Hada</u> and Akihiro Munakata.. Microvessel morphology and VEGF expression in human colonic carcinoma with or without metastasis. Laboratory Investigation 2002;80:555-562.

2003年度

- B.1. (羽田) Sasaki Y, *Hada R and Munakata A. Computer-aided grading system for endoscopic severity in patients with ulcerative colitis. Digestive Endosc 2003;15:206-9.
- B.1. (三上) Koichi TAKEMORI, <u>Seiji MIKAMI</u> and Susumu NIHIRA, Relations of urinary salt, potassium and sodium-potassium ratio to standardized mortality ratios for cerebrovascular diseases and stomach cancer in Japanese women. Jpn. J. Health & Human Ecology. 2003, 69, 80~89

和文

2002年度

B.1. (三上) 竹森幸一,三上聖治,山本春江,角濱春美,堀口由美子,工藤奈織美,仁 平將.わが国における全国および地域ブロック別ナトリウム,カリウム排泄量の15年間の変化.日循予防誌.37(3).190-195.2002.

2003年度

B.1. (三上) 竹森幸一, 山本春江, 浅田 豊, <u>三上聖治</u>, 7日間の尿中食塩およびカリウム排泄量測定の簡便 法, 2003, 日循予防誌. 38, 138-141

(2)総説

英文 なし

和文

2003年度

B.1. (羽田) 栗田武彰, 佐々木賀広, 加藤 智, 板橋幸弘, 小田桐弘毅, ※<u>羽田隆吉</u>. 甲状腺結節の超音波画像によるコンピューター支援診断. 臨床外科 2003; 58:1583-90

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

英文

2002年度

B.1. (羽田) CASE REPORT Michihiro Sugai, Kiyoshi Murata, Norihisa Kimura, Hirohumi Munakata, Ryukichi Hada and Yoshimasa Kamata. Adenoma of the nipple in an adolescent. Breast Cancer 2002;9:254-256

和文

2002年度

B.1. (三上) 竹森幸一, 山本春江, 角濱春美, 堀口由美子, 工藤奈織美, 仁平 將, 三上聖治. 我が国におけ

る塩類および蛋白質摂取の地域分布と血圧値との関連. 青森保健大学健康科学特別研究最終年度報告書. 1-50, 2002

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Laboratory Investigation Breast Cancer	4.554 0	1 1	4.554 0
Total		2	4.554

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Digestive Endoscop (羽田) Jpn. J. Health & Human Ecology (三上)	0	1 1	0 0
Total		2	0

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日循予防誌 臨床外科 (羽田) 日循予防誌 (三上)			1	1 1
	計		1	2

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種 目	2002年度	2003年度
単 著	0	0
編 集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Breast Cancer	0	1	0
Total		1	0

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

- C.1. (尹田) Yoshihiro Sasaki, Norihiro Hanabata, Tsuyotoshi Tsuji, Noriko Sawamura, Shinsaku Fikuda, <u>Ryukichi Hada</u> and Akihiro Munakata. VEGF EXPRESSION IN COLONIC MUCOSA CORRELATES WITH SENSITIVITY TO STEROID IN PATIENTS WITH ULCERATIVE COLITIS. Gut 2002; 51(Suppl): A97.
- C.2. (河田) Norihiro Hanabata, Yoshihiro Sasaki, Tsuyotoshi Tsuji, Noriko Sawamura, Shinsaku Fikuda, Yasumasa Hatada, Masanaori Tanaka, <u>Ryukichi Hada</u> and Akihiro Munakata. HEMOGLOBIN INDEX AND CONTRAST FEATURE CORRELATE WITH ENDOSCOPIC SEVERITY OF ULCERATIVE COLITIS.Gut 2002; 51(Suppl): A296.

2003年度

- B.1. (利田) Computer-aided diagnosis of H.pylori infection by image processing on endoscopic pictures. DDW 2003, Orland. Mikami T, Sasaki Y, Fukuda S, <u>Hada R</u> and Munakata A. Computer-aided diagnosis of H.pylori infection by image processing on endoscopic pictures. (*Abstract* Gastrointest Endosc 2003; 57:AB176.)
- B.2. (羽田) Computer-aided prediction in an ordinary colonoscopic picture of carcinoma for the presence of absence of metastasis. DDW 2003, Orland. <u>Hada R</u>, Sasaki Y, Hanabata N, Tsuji T and Munakata A. Computer-aided prediction in an ordinary colonoscopic picture of carcinoma for the presence of absence of metastasis. (*Abstract* Gastrointest Endosc 2003; 57:AB173.)
- B.3. (河田) Endoscopic characterization of steroid-refractory or steroid-sensitive ulcerative colitis. DDW 2003, Orland. Sawamura N, Sasaki Y, Hanabata N, Tsuji T, <u>Hada R</u> and Munakata A. Endoscopic characterization of steroid-refractory or steroid-sensitive ulcerative colitis. (*Abstract* Gastrointest Endosc 2003; 57:AB177.)
- B.4. (习田) VEGF expression and microvessel diameter as predictive factors for sensitivity to steroid in patients with ulcerative colitis. DDW 2003, Orland. Hanabata N, Sasaki Y, Tsuji T, Hada R and Munakata A. VEGF expression and microvessel diameter as predictive factors for sensitivity to steroid in patients with ulcerative colitis. (*Abstract* Gastroenterol 2003; 124:A330.)
- B.5. (习田) Microvessel diameter as a critical parameter for metastasis in human colonic carcinoma. DDW 2003, Orland. Tsuji T, Sasaki Y, Hanabata N, Sawamura N, <u>Hada R</u> and Munakata A. VEGF expression and microvessel diameter as predictive factors for sensitivity to steroid in patients with ulcerative colitis. (*Abstract* Gastroenterol 2003; 124:A607.)

(2)全国学術集会

なし

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

なし

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

他研究単位との研究分担者として

(羽田) 平成14年度厚生労働省科学研究費補助金 「急性期入院医療試行診断群分類を活用した調査研究」 (研究班班長:産業医科大学医学部公衆衛生学 教授 松田晋哉)

2003年度

(羽田) 平成14年度厚生労働省科学研究費補助金 「急性期入院医療試行診断群分類を活用した調査研究」 (研究班班長:産業医科大学医学部公衆衛生学 教授 松田晋哉)

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催

なし

b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況

なし

- c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況 なし
- e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況なし
- f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

- a) 全国レベルの学会の主催 なし
- b) 地方レベルの学会の主催 なし
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

54. 光学医療診療部

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

1. 積極的に原著を作成するように心掛ける。原著のみならず、総説、症例報告等の論文の作成を積極的に促進させる。投稿する際は、必ずしも Impact factor (IF) にはこだわらないが、IF に関する助言、指導は積極的に行う。

到達度:全体として、関連科との共同研究により英文6件とほぼ満足できる結果であった。

2. 国際学会,全国レベルの学会等の発表について、関連科に積極的に指導、助言を行い、自らも発表するように 心掛ける。

到達度:国際学会13件,全国 ν ベルの学会での多数の発表(シンポ等5件,その他15件)が行われており、満足できる結果であった。

3. 研究代表者として科学研究費補助金の採択数・率を出来るだけ向上させるように指導、助言する。

到達度:2002年度は継続課題で研究費が確保されたが、2003年度は新たな研究費の獲得はならなかった。

理念:

教官定員が1名に削減されるなど厳しい研究環境にある。他科との連携を維持しつつ、独創的、斬新、かつ最新的な研究を継続していく。

これから2年間の目標:

- 1. 積極的に原著を作成するように心掛ける。原著のみならず、総説、症例報告等の論文の作成にも積極的に参画する。
- 2. 国際学会、全国レベルの学会等の発表について、関連科に積極的に指導、助言を行う。
- 3. 研究代表者として科学研究費補助金の確保に努めるとともに、関連科の共同研究者として採択率を向上させるような指導・助言する。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 0, 耳	b教授 1, 講師	新 O,	助手	1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0			
教 官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間			
(教授~助手)	教 授	併 任	棟方	昭博	1年間			
の詳細	助教授	専 任	福田	真作	1年間			
り活干が口	助 手	専 任	三上	達也	1年間			
	1. ヘリコバクター・ピロリと胃粘膜障害に関する基礎的・臨床的検討							
研究課題	2. ヒト腸管における食物繊維の消化・吸収動態の解明							
3. 新しい内視鏡診断・治療技術の開発 4. 内視鏡的切除術後の早期大腸癌の経過観察の方法に関する検討								

研究人員	教授 0, 耳	り教授 0,講師	師 0,	助手	0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0				
**	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間				
教 官 (教授~助手)	教 授	併 任	棟方	昭博	1年				
の詳細	助教授	専 任	福田	真作	1年				
り計加	助手	専 任	三上	達也	1年				
	1. ヘリコバクター・ピロリと胃粘膜障害(生検組織を用いて)に関する基礎的・臨床的研究								
研究課題	2. 新しい内視鏡診断・治療技術の開発								
	3. ヒトにおける食物繊維の消化・吸収動態の解明								
	4. 内視鏡的	り切除術後の早期	期大腸癌	歯の経過	観察の方法に関する検討				

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- B.1. *Nakaji S, Fukuda S, Iwane S, Murakami H, Tamura K, Munakata A, Sugawara K. New method for the determination of fecal consistency and its optimal value in the general population. J Gastroenterol Hepatol
- B.2. *Bamba T, Shimoyama T, Sasaki M, Tsujikawa T, Fukuda Y, Koganei K, Hibi T, Iwao Y, Munakata A, Fukuda S, Matsumoto T, Oshitani N, Hiwatashi N, Oriuchi T, Kitahora T, Utsunomiya T, Saitoh Y, Suzuki Y, Nakajima M. Dietary fat attenuates the benefits of an elemental diet in active Crohn's disease: a randomized, controlled trial. Eur J Gastroenterol Hepatol 2003; 15: 151-7.
- B.3. *Shimoyama T, Fukuda S, Qiang Liu, Fukuda Y, Nakaji S, Sugawara K. Characteristic of attenuating effects of Rebamipide, an Anti-ulcer agent, on Oxidative burst of human neutrophils. J Pharmacol Sci 2003; 91: 153-7.

2003年度

- A.1. Fukuda S, Tanaka M, Shimoyama T, Sawaya M, Nakaji S, Munakata A. Morphologic criteria using biopsy specimens to define the risk of gastric cancer in patients with Helicobacter pylori Infection. Jpn J Clin Oncol 2003;33:396-8.
- B.1. *Shimoyama T, Fukuda S, Liu Q, Nakaji S, Fukuda Y, Sugawara K. Helicobacter pylori water soluble surface proteins prime human neutrophils for enhanced production of reactive oxygen species and stimulate chemokine production. J Clin Pathol 2003;56:348-51.
- B.2. *Nakaji S, Umeda T, Shimoyama T, Sugawara K, Tamura K, Fukuda S, Sakamoto J, Parodi S. Environmental factors affect colon carcinoma and rectal carcinoma in men and women differently. Int J Colorectal Dis 2003; 18:481-6.
- B.3. *Tanaka M, Kusumi T, Oshitani N, Nishigami T, Iwao Y, Hatada Y, Sugita A, Yao T, Takano M, Iizuka B, Mukai M, Maeda K, Fukuda S, Morita T, Hara M, Saito H, Kudo H. Validity of simple mucosal biopsy criteria combined with endoscopy predicting patients with ulcerative colitis ultimately requiring surgery: a multicenter study. Scand J Gastroenterol 2003;38:594-8.
- B.4. *Danjo K, Nakaji S, Fukuda S, Shimoyama T, Sakamoto J, Sugawara K. Starch level of heat moisture-treated high amylose cornstarch is much lower when measured in the human terminal ileum than when estimated in vitro. J Nutr 2003;133:2218-21.

和文

2002年度

- A.1. <u>三上達也</u>,福田真作,辻 剛俊,山形和史,棟方昭博.当科における高齢者の下部消化管内視鏡検査およ
- び治療に伴う偶発症. 日本大腸検査学会雑誌 2002; 19: 167-9. B.1. *山形和史, 田中正則, 福田真作, 三上達也, 棟方昭博. 炎症性腸疾患における内視鏡下生検診断基準運用 上の注意点. 日本大腸検査学会雑誌 2002; 19:108-10.

2003年度

- B.1. *斎藤大輔, 中路重之, 珍田大輔, 小山隆男, 嶋谷 泉, 下山 克, 坂本十一, <u>福田眞作</u>, 棟方昭博, 菅原和夫. 回腸末端部に到達するペクチンとポリエチレングリコールの相関. 消化と吸収 2003;25:29-31. B.2. *珍田大輔, 中路重之, 斎藤大輔, <u>福田眞作</u>, 坂本十一, 下山 克, 工藤敏啓, 村田 東, 棟方昭博, 菅原
- 和夫. Breath Test を用いた Dietary Fiber の腸内細菌による発酵に関する検討. 消化と吸収 2003;25:32-5.

(2)総説

英文 なし

和文

2002年度

B.1. *下山 克, 福田真作. Helicobacter pylori 感染における胃粘膜の炎症性サイトカイン. Helicobacter Research 2002; 6: 21-6.

2003年度

- 上達也,福田眞作,棟方昭博.大腸内視鏡偶発症予防の基本.消化器内視鏡 2004;16:516-7.
- 金子栄蔵,棟方昭博,岩男 泰,勝又伴栄,多田正大,花井洋行,樋渡信夫,福田真作,松井敏幸,原田 英雄,丹羽寛文.大腸内視鏡検査の偶発症予防のための指針.Gastroenterol Endosc 2003;45:1939-45.

(3)著書

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. <u>福田真作</u>, 棟方昭博. 圧痛・筋性防御, 蠕動不隠, 腹水. 内科学書改訂第 6 版. (島田 馨編). 中山書店: 東京; 2002. P.297-301.
- A.2. <u>福田真作</u>、棟方昭博、大腸がんの症状、インフォームドコンセントのための図説シリーズ―大腸がん― (小平 進編)、医薬ジャーナル: 東京; 2003. P.22-5.

2003年度

- A.1. <u>福田真作</u>, <u>三上達也</u>, 棟方昭博. D 小腸・大腸・肛門の疾患, 1 先天性腸疾患, 2 吸収不良症候群, 3 牛乳不耐症, 4 腸結核, 5 腸憩室, 6 炎症性腸疾患. ダイナミックメディスン(辻 章次他, 編). 東京:西村書店; 2003. p86-104.
- A.2. <u>三上達也</u>, <u>福田真作</u>, 棟方昭博. 大腸内視鏡診断 シミュレーション内科―下部消化管を探る― (日比紀文, 編). 大阪: 永井書店; 2004. p26-9.

(4)その他

英文

2003年度

A.1. <u>Fukuda S</u>, Yamagata R, <u>Mikami</u> T, Shimoyama T, Sawaya M, Uno Y, Tanaka M, Munakata A. Gastric lipoma successfully treated by endoscopic unroofing. Dig Endosc 2003;15:228-31.

和文

2002年度

B.1. *千葉裕樹, 福田眞作, 三上達也, 山形和史, 棟方昭博. ポリペクトミー後の出血に対するクリッピングにより粘膜下血腫を形成した1例. 日本大腸検査学会雑誌 2002; 19: 308-9.

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
J Gastroenterol Hepatol Eur J Gastroenterol Hepatol	1.258 1.58	1 1	1.258 1.58
J Pharmacol Sci	2.117	1	2.117
Total		3	4.955

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Jpn J Clin Oncol	0.691	1	0.691
J Clin Pathol	2.549	1	2.549
Int J Colorectal Dis	1.902	1	1.902
Scand J Gastroenterol	1.847	1	1.847
J Nutr	3.62	1	3.62
Total		5	10.609

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本大腸検査学会雑誌 Helicobacter Research			2	
消化と吸収消化器内視鏡			1	2 1
	計		3	3

2. 著書数 (A. Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	2	3

3. その他 (A. Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Dig Endosc	0	1	0
Total		1	0

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
日本大腸検査学会雑誌			1	
	計		1	0

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

- B.1. <u>Fukuda S</u>. Endoscopic diagnosis and treatment of early gastric cancer in Japan. International Clinical Update Meeting of Gastrointestinal Cancer. Jeju iland, South Korea, 2002.
- C.1. Shimoyama T, Nishiya D, Yoshimura T, Sawaya M, <u>Fukuda S</u>, Munakata A. Evaluation of CagA Seropositivity and the structure of the cag pathogenicity island in patients with H. pylori infection. 100th AGA. San Francisco, USA. 2002.
- C.2. Itoh J, Shimoyama T, <u>Fukuda S</u>, Munakata A. Distinct usage of chemokine receptor by lamina propria mononuclear Cells (LPMC) between Crohn disease (CD) and ulcerative colitis (UC). . 100th AGA. San Francisco, USA. 2002.
- C.3. Shimoyama T, Liu Q, <u>Fukuda S</u>, Nakaji S, Sugawara K, Munakata A. Ecabet sodium inhibits the production of reactive oxygen species by neutrophils even after neutrophils are primed by E. coli LPS. 100th AGA. San Francisco, USA. 2002.
- C.4. Saito D, Nakaji S, <u>Fukuda S</u>, Shimoyama T, Sakamoto J, Munakata A, et al. Measurement of orally ingested pectin in human terminal ileum using ERBI. 26th International Congress of Internal Medicine. Kyoto. 2002.
- C.5. Sawaya M, Shimoyama T, <u>Fukuda S</u>, Munakata A, et al. Evaluation of CagA seropositivity and the structure of cag pathogenicity island in patients with gastric cancer. 15th International Workshop on Gastrointestinal Pathology and Helicobacter. Athens, Greece. 2002.
- C.6. Saito D, Nakaji S, <u>Fukuda S</u>, Chinda D, Danjo K, Shimoyama T, Sakamoto J, Munakata A, et al. Detection of orally ingested pectin in the terminal ileum using endoscopic retrograde bowel insertion method. 10th UEGW. Geneva, Switzerland. 2002.
- C.7. Hanabata N, Sasaki Y, Tsuji T, Sawamura N, <u>Fukuda S</u>, Hatada Y, Tanaka M, Munakata A, et al. VEGF expression colonic mucosa correlates with sensitivity to steroid in patients with ulcerative colitis. 10th UEGW. Geneva. Switzerland. 2002.
- C.8. Sasaki Y, Hanabata N, Tsuji T, Sawamura N, <u>Fukuda S</u>, Munakata A, et al. Hemoglobin index and contrast feature correlate with endoscopic severity of ulcerative colitis. 10th UEGW. Geneva, Switzerland. 2002.
- C.9. Yoshimura T, <u>Fukuda S</u>, Shimoyama T, Munakata A. ADAM20 mRNA expression in gastric mucosa infected with H. pylori and in gastric cancer. 10th UEGW. Geneva, Switzerland. 2002.

- C.1. Danjo K, Saito D, Chinda D, Shimoyama T, Sakamoto J, <u>Fukuda S</u>, Munakata A, Sugawara K. The difference between in vitro and in vivo Measurements of digestion-resistant starch is far greater than those of pectin. AGA2003. Orlando, USA. 2003.
- C.2. Chinda D, Nakaji S, <u>Fukuda S</u>, Sakamoto J, Shimoyama T, Danjo K, Saito D, Nakamura T, Munakata A, Sugawara K. Comparative study of fermentation of soluble and insoluble dietary fiber using the hydrogen breath test. AGA2003. Orlando, USA. 2003.
- C.3. Chinda D, Nakaji S, <u>Fukuda S</u>, Sakamoto J, Shimoyama T, Danjo K, Saito D, Nakamura T, Munakata A, Shimoyama T. Evaluation of pectin digestion and absorption in the small intestine and of fermentation

- in the large intestine in the same subject. AGA2003. Orlando, USA. 2003.
- C.4. Shimoyama T, Fukuda S, Munakata A, et al. Influence of Helicobacter pylori lipopolysaccharide on expression of CXC chemokines, and their receptors, CXCR1 and CXCR2, in human neutrophils. AGA2003. Orlando, USA. 2003.
- C.5. Mikami T, Sasaki Y, Fukuda S, Hada R, Munakata A. Computer-aided diagnosis of H. pylori infection by image processing on endoscopic pictures. AGA2003. Orlando, USA. 2003.
- C.6. Yoshimura T, Sawaya M, Shimoyama T, Fukuda S, Munakata A. The association between Helicobacter pylori infection and the mutation of p53 codon46 which is associated with p53AIP1 expression. UEGW 2003. Madrid, Spain. 2003.
- C.7. Tanaka M, Shimoyama T, Hatada Y, Fukuda S, Munakata A. Evaluation of the association of Helicobacter pylori hrgA gene with intestinal metaplasia and gastric cancer. UEGW 2003, Madrid, Spain. 2003.
- C.8. Saito D, Nakaji S, Fukuda S, Sakamoto J, Shimoyama T, Danjo K, Chinda D, Munakata A. Evaluation of amount of pectin reached at the terminal ileum and fermentation in the large intestine in the same subjects. UEGW 2003. Madrid, Spain. 2003.
- C.9. Chinda D, Nakaji S, Fukuda S, Sakamoto J, Shimoyama T, Danjo K, Saito D, Munakata A, Sugawara K. Assessment of the small bowel transit time of pectin and resistant starch, the amounts which pass through the small intestine and fermentation in the large intestine. UEGW 2003. Madrid, Spain. 2003.
- C.10. Nakasato F, Shimoyama T, Umegaki N, Tamai Y, Fukuda S, Munakata A. Efficacy of eradication of Helicobacter pylori in Japanese patients with chronic idiopathic urticaria and idiopathic thrombocytopenic purpura. UEGW 2003. Madrid, Spain. 2003.
- C.11. Nishiya D, Shimoyama T, Tanaka M, Fukuda S, Munakata A. Evaluation of the association between Helicobacter pylori hrgA gene and gastric cancer in Japan. 3rd Annual Conference of Japan-Korea joint meeting on Helicobacter infection. Seoul, Korea. 2004.
- C.12. Chinda D, Shimoyama T, Yoshimura T, Fukuda S, Munakata A. Efficacy of the eradication of Helicobacter pylori in Japanese patients with chronic idiopathic urticaria. 3rd Annual Conference of Japan-Korea joint meeting on Helicobacter infection. Seoul, Korea. 2004.
- C.13. Mizuki I, Shimoyama T, Mikami T, Fukuda S, Munakata A. Efficacy of metronidazole for the treatment of clarithromycin-resitant Helicobacter pylori in a population of north Japan. 3rd Annual Conference of Japan-Korea joint meeting on Helicobacter infection. Seoul, Korea. 2004.

(2)全国学術集会

2002年度

- B.1. 山形和史, 石黒 陽, 坂本十一, 棟方昭博, 福田眞作, 森田隆幸. クローン病長期経過例の再発, 再燃に 及ぼすステロイドホルモン (SH) 療法の影響. 第57回日本大腸肛門病学会. 横浜. 2002.

2003年度

- B.1. 三上達也, 福田真作, 佐々木賀広. 胃癌背景粘膜の内視鏡画像の特徴と胃癌発生危険率の算定一画像解析 による検討―. 第66回日本消化器内視鏡学会総会, 大阪, 2003年.
- 三上達也, 福田真作, 辻 剛俊, 佐々木賀広, 田中正則, 棟方昭博. 当科における早期大腸癌の内視鏡治 療成績. 第58回日本大腸肛門病学会総会, 名古屋, 2003年.
- B.3. 石黒 陽,山形和史,藤田 均,平賀寛人,蝦名佐都子,福田<u>真作</u>,棟方昭博.炎症性腸疾患の cancer surveillance:当科での炎症性腸疾患における悪性疾患合併症例の検討.第21回日本大腸検査法学会総会, 大津. 2003年.
- B.4. 珍田大輔, 中路重之, <u>福田真作</u>. 13C 標識混合中性脂肪を用いた水溶性および不溶性食物繊維の脂質吸収抑制に関する検討. 第34回日本消化吸収学会総会, 大阪, 2003. B.5. 珍田大輔, 中路重之, 下山 克, 坂本十一, <u>福田真作</u>, 棟方昭博. 食物繊維の13C 中性脂肪吸収に及ぼす
- 影響. 第19回13C 医学応用研究会, 弘前, 2003年.
- C 15件

学術賞 III.

なし

共同研究 IV.

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として 福田真作. 基盤研究(A) 小腸液潅流法を用いた食物繊維のヒト消化・吸収に及ぼす影響. 550万円 (2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

2003年度

研究代表者として 福田真作 内視鏡医学研究振興財団 海外研究医受け入れ助成:40万円

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
 - c) 外国研究機関からの留学生,研究生の受け入れ状況 2003年度

趙暁軍(北京軍区総医院消化器内科,中国) 平成15年9月9日~12月4日 内視鏡財団から助成金

- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況なし
- f) その他 なし
- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催 なし
 - b) 地方レベルの学会の主催 なし
 - c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
 - d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

55. リハビリテーション部

【研究単位の目標到達度. 理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

医療保健尺度の導入・考案およびその計量心理学的な検討,脳卒中・脳外傷に伴う,高次脳障害・嚥下障害に対するアプローチを中心的なテーマとして研究を行い、その結果を国内・国外の学会・ジャーナルに発表する。

→目標達成度100%

特に英文誌には年間少なくとも1編の論文掲載を目指したい。さらにその成果を、著書として残すことも目標にしたい。

→目標達成度75%

同時に当部の医師以外のスタッフの研究の進行を助け、また科学研究費の獲得を補助することも、当面の目標になる。

→目標達成度50%

理念:

リハビリテーション医療の目的は、単にある臓器の不調を回復させることではなく、人間をトータルにとらえて、その全般的な健常度を改善させることにある。そこで使われる尺度は、Health measurement scale(医療保健尺度)と呼ばれており、他の領域で使われる指標とかなり異なる側面を持っている。我々の研究理念の第一の目標は、この医療保健尺度を導入・考案し、その計量心理学的な側面の検討をきちんと行って、社会に提供していくことであり、これに先立つ2年間、出版、論文作成、講習会の開催など、あらゆる分野で努力してきた。その結果として、日本国内における医療保健尺度に対する認識は高まりつつあり、特に小児の領域でそれが著しい。今後も、引き続き同じ理念でそれに取り組んでいきたい。

リハビリテーション医療の特徴の一つは、多職種で構成されているチームアプローチを効率良く行っていくことにある。医師、PT、OT、ST、ナースなどが、主要なチームメンバーになるが、医師以外の職種の医療に対する研究的な取り組みは、全般的な医学知識の向上につながり、チーム全体レベルアップの基礎となる。このため当部のスタッフ(PT、OT、ナース)が主体となって行う研究もバックアップしていく必要がある。

これから2年間の目標:

医療保健尺度の導入・考案およびその計量心理学的な検討, 脳卒中・脳外傷に伴う嚥下障害に対するアプローチを中心的なテーマとして研究を行い, その結果を国内・国外の学会・ジャーナルに発表する。特に英文誌には年間少なくとも1編の論文掲載を目指したい。

同時に当部の医師以外のスタッフの研究の進行を助け、また科学研究費の獲得を補助することも、当面の目標になる。研究のテーマとしては、障害児医療、上肢・手の機能障害の評価、スポーツ、リハの効果の検討などになると予想される。

【研究人員及び研究課題】

研究人員	教授 0, 助	b教授 1, 講師	新 O,	助手	1, 医員 1, 大学院学生 0, 研究生 0
教官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間
(教授~助手)	教 授	併 任	藤	哲	1年
の詳細	助教授	専 任	近藤	和泉	10ヵ月
り行作和	助 手	専 任	相馬	正始	1年
	1. 脳性麻痺児における粗大運動能力の評価尺度の作成				
研究課題	2. 脳性麻痺児における評価尺度の作成・導入				
	3. 障害老人のための立位バランススケールの考案				

2003年度

研究人員	教授 0, 助	b教授 1,講師	師 0,助手	1, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0		
业 它	役 職	専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間		
教官	教 授	併 任	藤 哲	1年		
(教授~助手) 助教授 専		専 任	近藤 和泉	1年		
り計和	助 手	専 任	細川賀乃子	1年		
研究課題	助 手 専 任 細川賀乃子 1年 1. 脳性麻痺児の日常生活スキルの発達に関する研究 2. 脳性麻痺簡易運動検査 (Simple Motor Test for Cerebral Palsy) の基準妥当性に関する研究 3. 乳癌術後のリハビリテーションアプローチの QOL に対する効果					

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. <u>Izumi Kondo</u>, <u>Kanoko Hosokawa</u>, Masashi Soma, Manabu Iwata, Yoshihiro Sato, Mitushige Iwasaki, Peter Roseubaum. Gross Motor Function Classification System: Preliminary study for Japanese children. Am j Phys Med Rehabil, 2003, 82, 116-121
- B.1. Sato Y, Honda Y, Kaji M, Asoh T, <u>Hosokawa K, Kondo I</u>, Satoh K, Amelioration of osteoporosis by Menatetrenone in elderly female Parkinso's disease patients with vitamine D deficiency, Bone, 2002, 31:114-118
- B.2. Manabu Iwata, <u>Izumi Kondo</u>, Yoshihiro Sato, Kei Satoh, <u>Masashi Soma</u>, Oded Bar-Or. Prediction of reflex sympathetic dystrophy in hemiplegia by evaluation of hand edema, Arch Phys Med Rehabil, 83, 1428-1431, 2002
- B.3. Yoshihiro Sato, Masahide Kaji, <u>Izumi Kondo</u>, Hidemi Yoshida, Kei Satoh, Norifumi Metoki. Hyperhomocysteinemia in Japanese patients with convalescent stage ischemic stroke: Effect of combined therapy with folic acid and mecobalamine, Journal oc Neurological Science 202, 65-68, 2002

2003年度

B.1. Manabu Iwata, <u>Izumi Kondo</u>, Yoshihiro Sato, Kei Satoh, Masashi Soma, Eiki Tsushima, An ankle-foot orthosis with inhibitor bar: Effect on hemiplegic gait, Arch Phys Med Rehabil, 2003, 84, 924-927

和文

2002年度

- A.1. 細川賀乃子, 近藤和泉, 中村純人, 朝貝芳美 脳性麻痺簡易運動テスト (Simple Test for Cerebral Palsy) の考案(1)試作版 SMTCP Ver.1.1の作成 リハ医学, 2002, 39(8), 474-482
- A.2. 細川賀乃子,近藤和泉,中村純人,朝貝芳美 脳性麻痺簡易運動テスト (Simple Test for Cerebral Palsy) の考案(2)試作版 SMTCP Ver.1.1の信頼性・妥当性の検討および SMTCP Ver.2.01の作成 リハ医学, 2002, 39(8), 483-491

2003年度

- A.1. 近藤和泉, 脳性麻痺児の整形外科手術の効果判定と時期と方法の検討, 日小整会誌, 2004, 13, 38-43
- B.1. 相馬正始, 佐藤能啓, 近藤和泉, 細川賀乃子, 岩田 学, 古木名寿登, 對馬祥子, 鳴海俊治, 袴田健一, 佐々木睦男, 成人間部分肝移植後のリハビリテーション症例の検討, 弘前医学, 2003, 54, 99-104
- B.2. 朝貝芳美、近藤和泉、大下舜治、岡川敏郎、多施設調査による脳性運動障害児 Simple Motor Test for Cerebral Palsy 運動レベル変化の検討、リハ医学、2003、40、364-368

(2)総説

英文 なし

和文

- A.1. 近藤和泉 エキスパートの痙縮治療Ⅱ痙縮予防の下肢装具. 臨床リハ 2002, 11(10), 913-917
- A.2. 近藤和泉, 岩田 学 脳卒中の装具療法:私のスタンダード, Inhibitor bar の実際, リハ医学, 2002, 39(11),

715-718

A.3. 近藤和泉 脳性麻痺児のライフステージと機能評価. 医学のあゆみ. 2002, 203(9), 729-731

2003年度

- A.1. <u>近藤和泉</u>, プライマリーケア医のためのリハビリテーション入門: 血行障害のリハビリテーションにはどのようなものがあるのか教えてください, 治療, 2003, 85, 1768-1770
- A.2. 近藤和泉、プライマリーケア医のためのリハビリテーション入門: リハビリテーションの処方箋の書き方のこつについて教えてください、治療、2003、85、1800-1802
- A.3. 近藤和泉、脳性麻痺児の粗大運動評価と機能評価尺度について、療育、2003、44、17-20
- A.4. <u>細川賀万子</u> 高齢者の嚥下障害のケアはどのようにすればよいのか教えて下さい 治療 Vol.85, No.5 2003.5 1789-1782

(3)著書

英文 なし

和文

2002年度

B.1. 里宇明元, 近藤和泉, 問川博之 PEDI リハビリテーションのための子どもの能力低下評価表, 医歯薬出版, 2003

2003年度

- A.1. <u>近藤和泉</u>, 岩田 学, 痙性対策, 千野直一, 安藤徳彦編, リハビリテーション MOOK, 7. 義肢装具とリハビリテーション, 162-166, 金原出版株式会社, 東京, 2003
- A.2. <u>近藤和泉</u>, 危険にさらされる子どもの健康(第5章), 前島伸一郎, 前島悦子編, エキササイズ—疾患予防のための運動—, 25-39, エルゼビア・ジャパン, 2003
- A.3. <u>近藤和泉</u>, 運動機能評価, 千野直一, 安藤徳彦編, リハビリテーション MOOK 8, 小児のリハビリテーション-病態とライフステージへの対応一, 85-93, 金原出版株式会社, 東京, 2003

(4)その他

英文 なし

和文

2002年度

- A.1. <u>近藤和泉</u>,中村純人,<u>細川賀乃子</u>,對馬祥子,大溝昌章,石井寿英. 脳性麻痺簡易運動テストの改訂および上肢機能評価尺度の考案. 平成14年度発達障害児のリハビリテーション(医療・療育)の標準化と地域における肢体不自由児施設の機能に関する研究・報告書. 2003:33-48
- における肢体不自由児施設の機能に関する研究・報告書。2003:33-48 B.1. 朝貝芳美, 盛島利文, 近藤和泉, 森山明夫, 岡川敏郎, 二井英二, 大下舜治, 中込 直, 福永 拙. 平成 14年度発達障害児のリハビリテーション (医療・療育) の標準化と地域における肢体不自由児施設の機能に関する研究・報告書。2003:92-118
- B.2. 中村純人, <u>近藤和泉</u> 粗大運動能力評価,第29回日本脳性麻痺研究会記録集「脳性麻痺研究の現状と今後の発展」2003:1-16

- A.1. <u>近藤和泉</u>、脳性麻痺児への手術の Imapct Profile を評価する研究, 平成11年度〜平成14年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2)) 研究成果報告書, 2003, 総頁数17
- A.2. <u>近藤和泉</u>, 小児リハビリテーションのアウトカムを知るための health measurement scales—GMFM, GMFCS, PEDIの日本への導入とその成果—, 第10回ヘルスリサーチフォーラム講演録, 2004, 157-162
- A.3. 近藤和泉、中村純人、脳性麻痺簡易運動テストの改訂・同時妥当性の検討および上肢機能評価尺度の考案、 平成15年度発達障害児のリハビリテーション(医療・療育)の標準化と地域における肢体不自由児施設の 機能に関する研究・報告書、2004、33-52
- B.1. 朝貝芳美, 盛島利文, 近藤和泉, 森山明夫, 岡川敏郎, 二井英二, 大下舜治, 中込 直, 福永 拙, 脳性 運動障害児の粗大運動に対する訓練治療効果に関する研究, 平成15年度発達障害児のリハビリテーション (医療・療育) の標準化と地域における肢体不自由児施設の機能に関する研究・報告書, 2004, 96-109
- B.2. 松尾 隆, 近藤和泉, 菅野徹夫, 森山明夫, 山口和正, 柳園陽一郎, 西村一志, 池田啓一, 神前智一, 野村忠雄, 峰松康治, 福岡真二, 脳性麻痺児の整形外科的治療法の確立に関する研究, 平成15年度発達障害児のリハビリテーション (医療・療育) の標準化と地域における肢体不自由児施設の機能に関する研究・報告書, 2004, 114-121

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Am j Phys Med Rehabil	0.877	1	0.877
Bone	3.755	1	3.755
Arch Phys Med Rehabil	1.327	1	1.327
Journal oc Neurological Science	2.08	1	2.08
Total		4	8.039

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Arch Phys Med Rehabil	1.35	1	1.35
Total		1	1.35

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
リハ医学 医学のあゆみ 臨床リハ 日小整会誌 弘前医学 治療 療育			3 1 1	1 1 1 3 1
	計		5	7

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

単 著	0	0
編集	0	0
分担執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	1	0
分担	執筆	0	3

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
平成14年度発達障害児 標準化と地域における 究・報告書		2		
第29回日本脳性麻痺研	究会記録集		1	
平成11年度~平成14年 研究成果報告書	度科学研究費補助		1	
第10回ヘルスリサーチ	フォーラム講演録		1	
平成15年度発達障害児標準化と地域における 完・報告書			3	
	計		3	5

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

なし

(2)全国学術集会

2002年度

- A.1. 中村純人, 近藤和泉 脳性麻痺研究の現状と今後の課題 第29回日本脳性麻痺研究会 2002, 東京 B.1. 近藤和泉, 岩田 学 パネルディスカッション脳卒中の装具療法:私のスタンダード, Inhibitor bar の実際, 第39回日本リハビリテーション医学会学術集会, 東京, 2002
- B.2. 近藤和泉 シンポジウム「脳性運動障害児に対する粗大運動評価の実践と課題」脳性麻痺児の粗大運動評 価と機能評価尺度について、第47回 全国肢体不自由児療育研究大会、千葉、2003
- 4 件

2003年度

- A.1. 近藤和泉, 脳性麻痺簡易運動テスト, 全国肢体不自由児施設連絡協議会主催, 脳性麻痺評価に共通して使 用できる標準的評価法研修会. 仙台市. 2003
- A.2. 近藤和泉、脳性麻痺の評価、第1回小児のリハビリテーション(脳性麻痺を中心に)実習研修会、長野県 下諏訪町, 2003
- A.3. 近藤和泉、小児リハビリテーションのアウトカムを知るための health measurement scales —GMFM, GMFCS、PEDIの日本への導入とその成果― 第10回ファイザーヘルスリサーチフォーラム 東京 2003
- A.4. 近藤和泉、運動機能評価、脳性麻痺の整形外科的評価・治療研修会、富山、2003
- C. 2件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

2002年度

研究代表者として

基盤研究C 「脳性麻痺児への手術の Impact Profile を評価する研究」 近藤和泉 600千円

2003年度

他研究単位との研究分担者として

基盤研究(B)(2), 脳卒中片麻痺患者における無酸素性パワーの評価に関する研究, 課題番号:15300190, 交付額440万円

(2)その他の省庁からの研究費

2002年度

他研究単位との研究分担者として 2002年度

平成14年度発達障害児のリハビリテーション(医療・療育)の標準化と地域における肢体不自由児施設の 機能に関する研究,近藤和泉,326千円

2003年度

他研究単位との研究分担者として

厚生労働省障害保健福祉総合研究事業、発達障害児のリハビリテーション(医療・療育)の標準化と地域 における肢体不自由児施設の機能に関する研究 研究分担者への配分額,34万円

(3)学内の研究助成

2002年度

研究代表者として

平成14年度 研究協力推進・インセンティブ経費 「機能的立位バランス評価による障害高齢者の転倒の 予測| 近藤和泉 1000千円

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

(1)国際交流, 国際的活動

a) 国際学術集会の主催 なし

- b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
- c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
- d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
- e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況 なし
- f) その他 なし

(2)国内, 地域活動

- a) 全国レベルの学会の主催 なし
- b) 地方レベルの学会の主催 なし
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

56. 総合診療部

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

平成15年度本学に在籍した教官の研究面での到達度は65%程度である。

理念:

総合診療部は各診療科や救急部と連携して総合的な医療環境を構築し、これを通じて地域医療を支える全人的医療が行える臨床医の養成を目指す。そのためには卒前・卒後教育に積極的に関わると同時に、教育内容のレベルアップのための研究を推進する。

これから2年間の目標:

- ・医療面接、症候学、身体診察学など基本的臨床技能の教育法の開発に取り組む。
- ・医学生、研修医、教官の教育に対するモチベーション向上法の研究に取り組む。

【研究人員及び研究課題】

2003年度

研究人員	教授 1,助教授 0,講	 師 1, 助手	0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0		
教 官	役職 専任/併任の別	氏 名	評価年度内での在籍期間		
(教授~助手)	教 授 専 任	加藤 博之	2004年2月—3月		
の詳細	講 師 専 任	大沢 弘	2003年4月—2004年3月		
研究課題	1. 北米型 ER における研修医, 医学生の教育法の研究 2. 北米型 ER におけるピットフォールの研究 3. 症候学の教育法の研究				
	7. 腎疾患進行阻止に関す	る臨床的検討			

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

- C.1. Gai X Taki K, <u>Kato H</u>, Nagaishi H: Regulation of hemoglobin affinity for oxygen by carbonic anhydrase. J Lab Clin Med 2003;142: 414-2.
- C.2. Nakamura N, Hamazaki T, Johkaji H, Minami S, Yamazaki K, Satoh A, Sawazaki S, Urakaze M, Kobayashi M, Osawa H, Yamabe H, Okumura K. Effects of cilostazol on serum lipid concentrations and plasma fatty acid composition in type 2 diabetic patients with peripheral vascular disease. Clin Exp Med 2003,2, 180-184
- C.3. Sugawara T, Yamabe H, <u>Osawa H</u>, Kaizuka M, Shirato K, Nakamura M, Tamura M, Okumura K. Tissue factor pathway inhibitor production by human proximal tubular epithelial cells in culture. Thrombosis Res 2003,110,141-147
- C.4. S hirato K, Osawa H, Kaizuka M, Nakamura N, Sugawara T, Nakamura M, Tamura M, Yamabe H, Okumura K. Thrombin stimulates production of fibronection by human proximal tubular epithelial cells via a transforming growth factor- β -dependent mechanism. Nephrol Dial Transplant 2003,18,2248-2254
- C.5. Osanai T, Nakamura M, Sasaki S, Tomita H, Saito M, <u>Osawa H</u>, Yamabe H, Murakami S, Magota K, Okumura K. Plasma concentration of coupling factor 6 and cardiovascular events in patients with end-stage renal disease Kidney Int 2003,64,2291-2297

和文

2003年度

C.1. 瀧 健治,加藤博之,平原健司,大串和久,戸塚和敏,岩村高志:肝臓の低灌流状態における AT-III の肝 臓障害予防効果. 蘇生 2003;22:13-8.

(2)総説

英文 なし

和文

2003年度

- C.1. 加藤博之: 救急患者のみかた一症候学からみた救急臨床研修の到達目標. 動悸. 救急医学 2003;27:
- C.2. <u>加藤博之</u>:酸素投与 酸素投与の道具の選び方,酸素流量の決定に自信がない. レジデントノート 2003;5:66-8.
- C.3. <u>加藤博之</u>, 瀧 健治: 抗生物質と化学療法剤. 呼吸器ケア 2003; 1: 216-21.

(3)著書

英文 なし

和文

2003年度

- C.1. 加藤博之. 息切れ・呼吸困難・喘鳴. 救急外来診療で役立つ症候からの鑑別診断の進めかた. 瀧 健治, 加藤博之, 河野寛幸, 増田裕幸編著. 羊土社; 東京. 2003:34-6.
 C.2. 加藤博之. だるい・疲れやすい. 救急外来診療で役立つ症候からの鑑別診断の進めかた. 瀧 健治, 加藤博之. 河野寛幸, 増田裕幸編著. 羊土社; 東京. 2003:135-7.
- C.3. <u>加藤博之</u>. むくみ. 救急外来診療で役立つ症候からの鑑別診断の進めかた. 瀧 健治, 加藤博之, 河野寛 幸, 増田裕幸編著. 羊土社;東京. 2003:144-6.

(4)その他

英文 なし

和文

2003年度

C.1. 大沢 弘 水分バランスシートの取り方について教えてください 治療 2003, 58, 249-250

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
なし			
Total		0	0

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
	なし			
	計		0	0

2. 著書数 (A. Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

なし

(2)全国学術集会

2003年度

- B.1. <u>加藤博之</u>, 常富あゆみ, 富永隆子, 永嶋 太, 岩村高志, 伊藤栄近, 戸塚和敏, 大串和久, 平原健司, 瀧健治: 卒後臨床研修必修化時代における救急外来研修の意義―非典型的症状で受診する重篤な急性疾患を見逃さない教育―. 第31回日本救急医学会総会, 東京, 2003 (シンポジウム「臨床研修必修化における救急医療の役割・ありかた・標準化」にて発表. 日本救急医学雑誌 2003;14:509.)
- C. 2件

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

なし

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
 - c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
 - d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
 - e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況なし

f) その他

なし

(2)国内, 地域活動

- a) 全国レベルの学会の主催 なし
- b) 地方レベルの学会の主催 なし
- c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
- d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

57. 卒後臨床研修センター

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

概ね65%

理念:

医学研究を通して、リサーチマインドを持った研修医の育成を行う。

これから2年間の目標:

総合診療部教官として、臨床研究・医学教育研究を行う。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 0, 助教授 0, 講師 0, 助手 0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0					
教 官 (教授~助手)	役職 専任/併任の別 氏 名 評価年度内での在籍期間					
の詳細	講師 選任 大沢 弘 12ヵ月					
	1. 糸球体障害の分子機構					
研究課題	2. 尿細管間質障害の分子機構					
	3. 腎疾患の進行におけるレニン・アンジオテンシン系					

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文

2002年度

- A.1. Osanai T, Fujiwara N, Saitoh M, Sasaki S, Tomita H, Nakamura M, <u>Osawa H</u>, Yamabe H, Okumura K. Relationship between salt intake, nitric oxide and asymmetric dimethlarginine and its relevance to patients with end-stage renal disease. Blood Purif 2002;20:466-8
- A.2. <u>Osawa H</u>, Yamabe H, Kaizuka M, Nakamura N, Shirato K, Sugawara T, Nakamura M, Tamura M, Okumura K. Platelet-derived growth factor stimulates matrix metalloproteinase-2 secretion in cultured human mesangial cells. Clin Exp Nephrol 2002;6:202-6

和文 なし

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

英文 なし

和文

2002年度

A.1. 石坂 浩, 白戸研一, 角田 悟, 貝塚満明, 藤田紀生, 小野寺洋幸,鎌田孝篤, 花田裕之, <u>大沢 弘</u>, 奥村 謙. LDL アフェレーシス施行中のコントロールが困難な高コレステロール血症症例でのコレスチミ

- ド製剤の使用経験. Therapeutic Research 2002;22:1351-4
- A.2. <u>大沢 弘</u>, 貝塚満明. 高血圧のない腎機能障害患者に対する腎保護作用のコツについて教えて下さい. 治療増刊号 2002;84:794-6
- A.3. 貝塚満明, 大沢 弘. 透析中の患者への薬剤投与の注意点とコツを教えて下さい. 治療増刊号 2002;84:1036-8
- A.4. 大沢 弘. 急性腎不全とその関連疾患. 弘前市医師会報 2002;37:27-9
- B.1. 湯村和子, 中野正明, <u>大沢 弘</u>. 座談会:ループス腎炎の治療の現況と展望. 炎症と免疫 2002;4:113-22

(5)発表論文のまとめ

1. 原著、総説(A. Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
Kidney & Blood Purification	1.885	1	1.885
Total		1	1.885

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
	なし			
	計		0	0

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種目		2002年度	2003年度
単 津	玄	0	0
編	Ę	0	0
分担執筆	E	0	0

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著	0	0
編	集	0	0
分担	執筆	0	0

3. その他(A, Bのみ)

英文 なし

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
Therapeutic Research 治療 弘前市医師会報 炎症と免疫			1 2 1 1	
	計		5	

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

2002年度

C.1. Osawa H, Kaizuka M, Shirato K, Sugawara T, Yamabe H, Okumura K. Angiotensin II receptor an-tagonist may retard the progression of advanced renal insufficiency. XXVIth International Congress ofInternal Medicine. Kyoto. 2002

(2)全国学術集会

2002年度

C. 2件

III. 学術賞

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

なし

(2)その他の省庁からの研究費

なし

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
 - c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
 - d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況 なし
 - e) 外国研究機関への留学 (3ヵ月以上) 状況なし
 - f) その他 なし
- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催 なし
 - b) 地方レベルの学会の主催 なし
 - c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
 - d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

58. メディカルスクール研究センター

【研究単位の目標到達度,理念・目標】

2年前に設定した、これから2年間の目標に対する到達度:

記載なし。

理念:

メディカルスクール移行のための医学教育システムの確立。

これから2年間の目標:

3年次編入学がスタートして1年が経過したが、現状の制度としては多くの改善点がある事が分かった。これらの原因の調査や改善策を検討し、より良い制度に改善していく。

【研究人員及び研究課題】

2002年度

研究人員	教授 0, 鴠	力教授 0,講自	师 1,	助手	0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0			
教 官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間			
(教授~助手)	教 授	併 任	泉井	亮				
の詳細	講師	専 任	松谷	秀哉	半年			
研究課題	1. メディカ	1. メディカルスクール移行のための医学教育システム						

2003年度

研究人員	教授 0, 助	力教授 0,講自	币 1,	助手	0, 医員 0, 大学院学生 0, 研究生 0				
教 官	役 職	専任/併任の別	氏	名	評価年度内での在籍期間				
(教授~助手)	教 授	併 任	泉井	亮					
の詳細	講師	専 任	松谷	秀哉	2年				
研究課題	1. メディカ	1. メディカルスクール移行のための医学教育システム							

【研究業績】

I. 発表論文

(1)原著

英文 なし

和文 なし

(2)総説

英文 なし

和文 なし

(3)著書

英文 なし

和文 なし

(4)その他

英文 なし

和文 なし

(5)発表論文のまとめ

1. 原著, 総説 (A, Bのみ)

英文

2002年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
なし			
Total		0	0

2003年度

Name of Journal	Impact Factor	No. of Paper	Total IF
なし			
Total		0	0

和文 (論文数)

雑	誌	名	2002年度	2003年度
	なし			
	計		0	0

2. 著書数 (A, Bのみ)

英文

種	目	2002年度	2003年度
単	著		
編	集		
分担	執筆		

和文

種	目	2002年度	2003年度
単	著		
編	集		
分担	執筆		

3. その他 (A, Bのみ)

英文 なし

和文 なし

II. 学術集会での発表

(1)国際学術集会

なし

(2)全国学術集会

なし

III. 学術賞

なし

IV. 共同研究

なし

V. 研究助成

(1)文部省科学研究費

なし

(2)その他の省庁からの研究費

(3)学内の研究助成

なし

(4)民間の研究助成

なし

VI. 研究に関する社会活動

- (1)国際交流, 国際的活動
 - a) 国際学術集会の主催 なし
 - b) 外国人研究者の招聘, 受け入れ状況 なし
 - c) 外国研究機関からの留学生, 研究生の受け入れ状況 なし
 - d) 外国研究機関の視察,研究参加(3ヵ月未満)状況なし
 - e) 外国研究機関への留学(3ヵ月以上)状況なし
 - f) その他 なし
- (2)国内, 地域活動
 - a) 全国レベルの学会の主催 なし
 - b) 地方レベルの学会の主催 なし
 - c) 国内他研究機関からの内地留学受け入れ状況 なし
 - d) 国内他研究機関への研究参加(内地留学)状況 なし

VII. その他

社会貢献活動

第3章 社会貢献活動

1. 解剖学第一講座

2002年度から1年間の目標:

依頼された事柄はきちんと行う。

上記目標に対する到達度:

できる事はしました。

2003年度から2年間の目標:

できるだけの事をします。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	2,	医員	0,	大学院学生	1,	研究生	0	
03年度		教授	1,	助教授	0,	講師	0,	助手	2,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本解剖学会	評 議 員			
02年度	日本神経科学会	専門委員	正村 和彦		
	日本神経眼科学会	理 事			
	日本解剖学会	評 議 員		福岡	1 日
03年度	日本神経科学会	評 議 員	正村 和彦	東京	1 日
	日本神経眼科学会	理 事		東京	1日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	Anatomical Science International	教 授	正村 和彦		1 日
02十段	Tohoku Journal of Experimental Medicine	秋 1又	11.4.1 4円多		1 日
03年度	Anatomical Science International 査読	教 授	正村 和彦	2件	

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	秋田大学医学部	教 財 手 助 手		特別講義 および 実習指導	1日
03年度	秋田大学医学部 岩手医科大学医学部	教 授	正村 和彦	秋田 盛岡	1日 1日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	弘前ホスピタリティーアカデミー	非常勤講師	正村 和彦		20日
03年度	弘前ホスピタリティーアカデミー 作業療法科,言語聴覚療法科	教 授	正村 和彦	弘前	20日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

該当なし。

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

2. 解剖学第二講座

2002年度から1年間の目標:

- 1. 大学の社会貢献の一環として学外の医学教育にも可能なかぎり協力する。
- 2. 篤志献体のための外部団体である弘前大学白菊会に協力する。
- 3. 研究力や研究成果を専門誌の審査委員等として、あるいは何らかのメディアを介して、できるだけ学外に伝達・提供する。

上記目標に対する到達度:

- 1. 学外および保健学科の解剖学教育(とくに実習)に協力した。外崎講師はこれに関する札幌での全国集会におけるシンポジウムで講演を行った。
- 2. 篤志献体のための外部団体である弘前大学白菊会の運営に協力した。 以上の到達度はほぼ良好
- 3. 研究面での社会貢献は準備段階にとどまった。

2003年度から2年間の目標:

- 1. 大学の社会貢献の一環として学外の医学教育にも可能なかぎり協力する。
- 2. 篤志献体のための外部団体である弘前大学白菊会に協力する。
- 3. 研究力や研究成果を専門誌の審査員等として、あるいは何らかのメディアを介してできるだけ学外に伝達・提供する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	0,	講師	1,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
02年度 03年度	岍 先八貝	教授	1,	助教授	0,	講師	1,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

該当なし。

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	Anatomical Science International	査 読	加地隆		
02千段	Cell and Tissue Research	全 読 	加地 陸		

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

- (5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。
- (6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役	定職	氏	名	備	考	日数
	21世紀教育, テーマ科目, 健康領域「発達と老化」	教	授	加地	降			1 日
	保健学科看護専攻(カリキュラム外補講)実習	秋	172	JULE	陛			1 日
	21世紀教育, テーマ科目, 人間領域「生態系の中の人間」							3 日
03年度	21世紀教育,基礎科学実験(生物)(基礎教育科目)	講	師	外崎	敬和			3 日
	保健学科看護専攻(カリキュラム外補講)講義	神	Ħħ	クト呵	収和			1日
	保健学科看護専攻(カリキュラム外補講)実習							1日
	保健学科看護専攻(カリキュラム外補講)実習	助	手	渡邉	誠二			1日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	国立弘前病院附属看護学校	非常勤講師	加地 隆		1 日
02年度	城東学園	非常勤講師	外崎 敬和		1 日
	国立弘前病院附属看護	非常勤講師	外崎 敬和		1日
03年度	城東学園	非吊 劉神師	クト呵 切入れ		1 日
	医師会附属高等看護学院	非常勤講師	渡邉 誠二		18日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

該当なし。

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	弘前大学白菊会事務局担当		加地,外崎,渡邉		
	弘前大学白菊会総会開催			10/24	1日
	弘前大学白菊会役員会開催			12/21, 1/21	2 日
02年度	学外学生のための解剖学実習 (国立弘前病院附属看護学校)	非常勤講師	加地,外崎,渡邉	弘大医学部 解剖実習室	1日
	学外解剖学実習(城東学園)	非常勤講師	外崎, 渡邉	弘大医学部解剖実習室	1日
	青森県医師会報による公表 (解剖体収集の現状一生前の意志による献体への移行)		加地 隆		
	弘前大学白菊会		加地, 外崎, 渡邉		
	役員会開催			5/9	1日
	総会開催			6 /14	1日
	事務局担当				通年
	学内外解剖学実習協力	非常勤講師	加地, 外崎, 渡邉	弘大医学部解剖実習室	
	医学部保健学科看護専攻				1 日
03年度	国立弘前病院附属看護学校				1日
	城東学園				1日
	医師会附属准看護学校				1日
	県柔道整復士会				1 日
	メデイア発表				
	比較内分泌学会ニュース,		外崎 敬和	学会報告記事	
	2003,111,59-60				

3. 生理学第一講座

2002年度から1年間の目標:

本講座としては、良い教育を実践し、研究を発展させ、公表することが、我々社会貢献の基本であると考えている。 これが目標である。

上記目標に対する到達度:

学会活動についてはほぼ到達できた。また、市内の医療系教育施設への協力も、本講座の出来る範囲内で実施した。到達度90%。

2003年度から2年間の目標:

- 1. 学会(日本生理学会)活動を積極的に行う。
- 2. 高校教員の生涯学習に対する希望に協力する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	1,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	岍九八 貝	教授	1,	助教授	1,	講師	1,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	1,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
02年度	日本生理学会(教育委員会及び幹事会)	教	授	泉井	亮	東京	2 日
03年度	日本生理学会幹事会	教	授	泉井	亮		4 🗆
05千度	日本生理学会教育委員会	秋	1又	7K7T	90		4 11

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	第35回 東北生理談話会	教 授 助 教 授 講 師 助 手	泉井 亮 菅野 隆浩 菅 世智子 木村 良一	メディカルコミュ ニケーションセン ター(弘前)	2 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
	Eur. J. Physiol.						2 日
02年度	Jpn. J. Physiol.	教	授	泉井	亮		1日
	Recepter & Channel						1 日
03年度	Pflugers Arch Eur J Physiol	±4,-	455	白冊	宁		10日
03平皮	Jpn J Physiol	教	授	泉井	亮		

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	小	教 授	泉井 亮	福島医科大学(生理学第一講座)	1 目
02年度	生理学講義	講 師	菅 世智子	弘前ホスピタリティアカデミー	43 ⊟
03年度	弘前ホスピタリティー・アカデミー	講師	菅 世智子		

(10) 学校医、種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

該当なし。

(12) 国際交流への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	弘前大学医学部国際化教育奨励賞による Sweden Lund大学の医学教育システムに関 する調査	助教授	菅野 隆浩	Sweden	5 日

(13) その他

4. 生理学第二講座

2002年度から1年間の目標:

社会貢献が地域にのみとらわれることなく、全国的・世界的な貢献ができるよう教室をあげて最善を尽くす。

上記目標に対する到達度:

「社会貢献が地域にのみとらわれることなく、全国的・世界的な貢献ができるよう教室をあげて最善を尽くす」との目標を掲げたが、国際的トップジャーナルである J. Neurophysiology誌のEditorial Board に任ぜられるとともに、土曜夜 8 時からの全国に放送されたテレビ番組に専門家として複数回出演するなど、到達度は100%である。

2003年度から2年間の目標:

これからも、社会貢献が地域にのみとらわれることなく、全国的・世界的な貢献ができるよう教室をあげて最善を尽くす。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	切九八貝	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	1,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本神経科学学会電子化検討委員会	委 員			1 日
02年度	日本神経科学学会電子化推進小委員会	委員長	藏田 潔		1 日
	日本神経科学学会動物委員会	委 員			1 日
	日本神経科学学会電子化検討委員会	委 員			1 日
03年度	日本神経科学学会電子化推進小委員会	委員長	藏田 潔		1 日
	日本神経科学学会動物委員会	委 員			1 日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	Journal of Neurophysiology					18日
	Neuroscience Letters					2 日
02年度	Neuroscience Research		藏田	潔		2 日
	Pharmacology					2 日
	Japanese Journal of Physiology	editorial board				1日
	Journal of Neurophysiology	editorial board				18日
03年度	Neuroscience Letters		藏田			2 日
03年度	Neuroscience Research		淑 口	潔		4 日
	Japanese Journal of Physiology	editorial board				2 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	癌の治療について(依頼講演)	助手	川嶋 啓明	弘前市	1 ⊟

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	文部科学省マカクザルバイオリソース委員会	委 員	藏田 潔		5 日
03年度	文部科学省マカクザルバイオリソース委員会	委 員	藏田 潔		5 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
03年度	東北大学医学研究科講義	非常勤講師	藏田	潔		2 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
02年度	東北大学医学研究科講義	非常勤講師	藏田	潔		2 日

(10) 学校医、種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職		氏	名	備考	日数
						青森	1 日
03年度	青森総合検診センター(乳癌検診)	助	手	川嶋	啓明	弘前	1 日
						青森	1日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	公立七戸病院	- 出	川嶋 啓明	り 並込病、千年/取乌セAナン	11日
03年度	木造成人病センター	助 手 	川嶋 啓明	外来診療・手術(緊急を含む)	17日

(12) 国際交流への貢献

	件名	役職		氏	名	備考	日数
00年度	米国大学視察(弘前大学)	*# +\sqrt{\sqrt{2}}		古右	油加		10日
02年度	日英高等教育プロジェクトによる英国大学視察	教 授		藏田	潔		7 ⊟

(13) その他

		件名	役	: 職	氏 名		備考		日数
034	F度	TBS テレビ「探検!ホムンクルス」	教	授	藏田	潔			4 回出演

5. 生化学第一講座

2002年度から1年間の目標:

地元青森県における産学官共同事業への参加とともに、その他の地域(例えば東京他)社会への積極的な事業参加を行う。

上記目標に対する到達度:

〈高垣〉

- 1. 地元青森県における産学官共同事業(平成15年度ナノテクノロジー関連研究開発パイロットプロジェクト)に 選定された。
- 2. その他の地域(北海道釧路市、東京台東区)の事業に参加した。以上、前回設定した目標を達成した。 〈今〉

皮膚科学講座講師から生化学第1講座助教授に昇任したため、他地域病院での医療行為は不可能となったが、本学 附属病院の診療講師として医療に貢献できている。また、現在行っている研究の公開セミナーに参加・発表するな ど、市民への啓蒙を行っており、目標に達している。

〈柿崎〉

残念ながら、社会貢献と考えられる場面は無かった。しかし、社会貢献に目を向けるような機会が無いものか、アンテナは張っていた。学術冊子の査読(の補佐)や翻訳は積極的に引き受けた。また、弘前大学重点研究「プロテオグライカン研究拠点の構築」の公開セミナーにも参加した。

2003年度から2年間の目標:

〈高垣〉

私の研究成果をもとに、産学官共同事業として国の大型プロジェクトに申請し、地元地域の活性化を計る。

できる限り、社会貢献(医療、学術面を通じて)を積極的に行う。

〈柿崎〉

直接社会貢献をする機会は少ないと考えられるが、研究、教育に携わるものとして何ができるか、日々アンテナを 張る。また、青森県における産学官共同事業および関連の集会に参加する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	2,	医員	0,	大学院学生	1,	研究生	1	
03年度	听 九八貝	教授	1,	助教授	1.	講師	0.	助手	1,	医員	0.	大学院学生	3.	研究生	1	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	• 日本結合組織学会(評議員)				
02年度	• 日本生化学会(評議員)	教 授	高垣 啓一	京都	2 日
	• プロテオグリカンフォーラム(世話人)				
	• 日本結合組織学会(評議員)				2 日
03年度	• 日本生化学会(評議員)	教 授	高垣 啓一		2 日
	• プロテオグリカンフォーラム(世話人)				4 日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	第1回プロテオグリカン研究会 弘前大学 重点研究「プロテオグリカン研究拠点の構 築」	教 授	高垣 啓一	弘前大学医学部 コミュニケーショ ンセンター	1日
03年度	第2回プロテオグリカン研究会 弘前大学 重点研究「プロテオグリカン研究拠点の構 築」(2004年3月6日,弘前駅前市民ホール)	教 授	高垣 啓一		1 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	・日本結合組織学会(編集委員)・日本糖質学会(編集委員)・FEBS Lett.(査読)	教 授	高垣 啓一	東京(2回) 浜松市 横浜市	4日 2日×2回 2日 2日
03年度	・日本結合組織学会(編集委員)・日本糖質学会(編集委員)・FEBS Lett. (査読)・J. Biochem. (査読)	教 授	高垣 啓一		2日 4日 3日 3日
	学術雜誌審査員(Clni. Exp. Dermatol)	助教授	今 淳		3 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	「機能性素材としてのサケ鼻軟骨プロテオグリカン」第 5 回青森糖質研究会(2003年 7月 18日,八戸市)				2 日
	「糖鎖の未来」第24回青森県高等学校総合文化祭,自然科学部門講演会(2003年10月25日,弘前市) 教授	高垣 啓一		1日	
03年度	「二次元糖鎖マップを用いたグリコサミノグリカン糖鎖の網羅的解析へのアプローチ」弘前大学重点研究,第2回プロテオグリカン研究会(2004年3月6日)				1日
	「細胞外マトリックス関連糖タンパク質による皮膚の病態形成機構(老化, 瘢痕形成)の解明およびその治療適用の可能性について」弘前大学重点研究,第2回プロテオグリカン研究会(2004年3月6日)	助教授	今 淳		1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	講演 「プロテオグリカンについて」 弘前市産 業情報フォーラム in 東京(2003年 7 月29日, 東京都)	教授			2 日
	講演「新規素材としてのサケ鼻軟骨プロテオグリカンの開発について」目からウロコの産学公交流フェスタ(2003年11月6日,東京都)	地域共同研究地センター 副センター長・ 教授			2 日
	講演「プロテオグリカン研究会」東北産業クラスター計画産学官ネットワーク会議 in 青森県(2003年11月25日,青森市)	教 授	高垣 啓一		1日
03年度	講演「軟骨型プロテオグリカンと産業界への 応用可能性」あおもり健康福祉機器開発協議 会,健康・医療・福祉産業フォーラム(2004 年1月27日,弘前市)	教 授			1日
	講演「医学部医学科の産学連携への展望【地元企業等との産学連携に意欲のある先生とその研究内容】について」弘前産業振興懇談会(2004年3月18日,弘前市)	地域共同研究 センター 副センター長・ 教 授			1日
	講演「糖タンパク質という窓から見た皮膚の 老化,再生機構およびその医療応用の可能 性」プロテオグリカン研究講演会(2004年 3月8日,釧路市)	助教授	今 淳		1日

(7) 産学共同事業への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	・プレゼンテーション (発表・展示) 第2回産学連携フォーラム―医学2002― 「新規素材としてのサケ鼻軟骨プロテオ グリカンの開発」2002年12月18日 (東京)			日本科学未来館	2 日
02年度	・講演 高齢化社会対応産業クラスターシンポジウム in 郡山一医療・福祉機器の産業集積を目指して一「新規医用素材としてのサケ鼻軟骨プロテオグリカン」2003年1月28日(郡山)	教 授	高垣 啓一	ビッグパレット ふくしま	2 日
	連携相談 相談者 青森県工業総合研究センター弘前地域技 術研究所所長 新開紀彦(他2名) 概要 ・県公設試再編の案内,挨拶 ・弘前に生命科学研究部を置いたことの説 明,研究協力依頼 ・CJR からナレッジ参加登録依頼			2003. 4 . 7	1 日
	連携相談 相談者 弘前大学医学部産科婦人科 樋口毅先生 概要 産科婦人科領域におけるマイクロマシン 製造に関する相談。			2003. 4 .10	1日
	連携相談 相談者 青森県商工労働部新産業創造課 若宮兼一郎,芳賀武一,松本充民 概要 産学官連携について,特に平成15年度都市 エリアに関することを話し合った。			2003. 4 .11	1日
03年度	連携相談 相談者 東北インテリジェント・コスモス構想推進 協議会事務局,事務総長・川村幸宏氏,学 術振興部長・高橋玄氏 概要 ・事務総長新任挨拶 ・要望調査 ・ナレッジ説明	教 授	高垣 啓一	2003. 4 .17	1日
	技術相談 相談者 丸善食品工業 社長 竹本善治 概要 弘前大学医学部生化学第一講座の研究 シーズの応用化に関する相談			2003. 4 .21	1日
	技術相談 目談者 青森県工業会専務理事 丸山安彦 既要 青森県工業会と CJR の連携事業について の意見交換。 ・学生論文研究テーマの学外公募について ・弘大研究者の企業への出前講義について ・特区に関すること			2003. 4 .28	1日

	連携相談 相談者 鈴木徹氏(日本立地センター顧問)福田実, 大澤浩明(弘前市商工観光部) 概要 弘前地域における産学官連携に関する相 談				2003. 5 .20	1日
	連携相談 相談者 弘前大学医学部整形外科学教授 藤哲先生 概要 医学部におけるナノテク研究の把握県ナ ノテク推進事業への対応				2003. 5 .23	1日
	技術相談・連携相談 相談者 北海道大学副学長 概要 プルテオグリカン(サケ鼻軟骨)のポリ マー化について				2003. 6 .20	1日
	連携相談 相談者 青森県商工労働部 佐藤雅秀(副参事), 宮崎雅之(グループ リーダー) 概要 プロテオグリカンとナノテクとの関わり について				2003. 7 .16	1日
03年度	連携相談 相談者 大塚化学化学開発部課長 朝井洋明 概要 特許	教	授	高垣 啓一	2003. 7 .30	1日
	技術相談 相談者 大塚製薬分子医科学研究所 所長 瀧孝雄 概要 プロテオグリカンの商品化について				2003. 8 .12	1日
	技術相談 相談者 科学技術振興事業団研究成果活用プラザ 宮城 事務局長 大塚進 コーディネーター 上平暁, 峠竹論 概要 平成15年度可能性試験研究に申請したも のの説明				2003. 8 .12	1日
	技術相談 相談者 並木精密宝石株式会社 山本繁明 概要 医学科における共同研究のための説明会 開催に関する打ち合わせ				2003. 8 .12	1日
	会議 相談者 並木精密宝石株式会社 清水哲裕、山本繁明 概要 共同研究説明会開催の打ち合わせ				2003. 8 .19	1日

	会議					
	相談者 並木精密宝石株式会社 河合昭平,他 5 名 概要 共同研究説明会				2003. 8 .26	1日
	技術相談 相談者 コラボレーションフォーラム2003 概要 サケ鼻軟骨の産業化				2003. 9 . 9	1日
	技術相談 相談者 青森県工業振興課 概要 ナノテク				2003. 9 .10	1日
	会議 平成15年度第2回東北リエゾン機関ネットワーク会議 概要 産学連携の推進と大学発ベンチャー創出 に向けた取り組み				2003. 9 .25	1日
03年度	連携相談 相談者 科学技術振興事業団地域成果活用プラザ 宮城 館長飯塚尚和 事務長大塚進,他 2名 概要 プロテオグリカン研究会の今後の取り組 み	教	授	高垣 啓一	2003.10. 7	1日
	技術相談 相談者 財団法人日本立地センター 鈴木 概要 弘前大学における再生医療の取組みにつ いて				2003.10.29	1日
	会議 青森県ナノテクノロジー講演会 主催青森県 概要 青森県ナノテクノロジー推進委員会会長 川合友二先生によるナノテクノロジーの 応用法の講演を拝聴した。				2003.10.31	1日
	連携相談 目からうろこの産学公交流フェスタ 主催台東区役所 概要 弘前大学地域共同研究センター副セン ター長として, 弘前大学地域共同研究セン ターの活動状況と実際の研究内容につい て紹介した。				2003.11. 6	2日
	会議 東北経済産業局「東北産業クラスター計画」県別産学官ネットワーク会議in青森県 概要 高齢化プロジェクトとして現在進行中の 研究会の活動状況等について,紹介と関係 機関の取り組み状況を把握する。				2003.11.25	1日

	会議 鈴木徹氏(日本立地センター顧問,安全都市調査会事務次長) 外川吉彦(弘前市企画部総合計画推進室) 概要 医学部の再生医療の現状調査			2003.12. 1	1日
	その他 相談者 朝日信用金庫営業推進部地域産業振興課 室長 丹治規行,調査役 関幸夫 概要 弘前大学のサテライトとして,朝日信用金 庫の施設の一部を活用する。			2003.12. 4	1日
	その他 相談者 青森県工業振興課 宮崎雅之,中村,角 概要 ナノテクに関するプロテオグリカン糖鎖 組み換え研究の打ち合わせ			2003.12. 8	1日
	会議 青森県商工労働部新産業創出課(佐藤雅 秀) 弘前産業開発センター(新谷信幸,福田, 笹田) 概要 都市エリアの打ち合わせ			2003.12.15	1日
03年度	会議 青森県商工労働部(副参事 村上信一,佐 藤雅秀) 弘前市商工観光部(福田実,笹田哲文) 概要 都市エリア申請について	教 授	高垣 啓一	2004. 1 . 5	1日
	連携相談 相談 青森県商工労働部(総括主観 宮崎雅之, 角健二郎) 概要 ナノテク推進について			2004. 1 . 7	1日
	技術相談 相談者 北海道電力株式会社主幹 越智文雄 概要 プロテオグリカンの化粧品素材としての 可能性に関する相談			2004. 1 .13	1日
	会議 あおもり健康福祉機器開発協議会 健康医療福祉産業フォーラム 概要 軟骨型プロテオグリカンと産業界への応 用の可能性			2004. 1 .27	1日
	会議 平成15年度第2回ナノテクステアリング 会議 概要 プロテオグリカンのオーダーメイド技術 の開発			2004. 1 .29	1日

	連携相談 相談者 ビジネスコンサルタント 清末芳生 概要 中央省庁への外部資金導入のための相談			2004. 2 . 3	1日
03年度	会議 平成15年度第2回青森県地域結集型研究 事業交流促進会議 財団法人21あおもり産業総合支援センター 概要 1)事業の進捗状況 2)平成16年度実行計画案 3)その他	教授	高垣 啓一	2004. 3 .29	1日
	第2回産学官連携推進会議	助教授	今 淳	2003.6.7 \sim 8	2 日

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	財団法人 双仁会 厚生病院附属看護学院(非常勤講師)	教 授	高垣 啓一		8 日
03年度	財団法人 双仁会 厚生病院附属看護学院(非常勤講師)	教 授	高垣 啓一		8 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

該当なし。

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
02年度	講演 青森県立青森東高等学校にて職業講話	助	手	岩船	美都	青森県立青森東高等学校	1 日

6. 生化学第二講座

2002年度から1年間の目標:

教室の研究成果を社会に還元し、成果の活用を通して、社会及び地域に貢献することを目指す。特に弘前へアレスラットの原因遺伝子解明に向けた研究と食品中のアンジオテンシン変換酵素阻害物質の研究を通して、その実践を図り、ノウハウを学ぶ。

上記目標に対する到達度:

薬学部学生,薬剤師,医学部学生,医師向けの教科書,臨床薬物代謝化学のグルタチオン S-トランスフェラーゼを 分担執筆し、教室の研究成果をわかりやすく紹介した。

弘前へアレスラットの原因遺伝子の解明と食品中のアンジオテンシン変換酵素阻害物質の研究は着実に進歩している。

2003年度から2年間の目標:

教室の研究成果を社会に還元し、成果の活用を通して、社会及び地域に貢献することを目指す。

具体的な目標として、上記の弘前へアレスラットとアンジオテンシン変換酵素阻害物質などの研究を通して、その 実践を図るとともに、ノウハウを学ぶ。

【研究人員】

02年度 03年度	研究人員	教授	1, 助教授	1,	講師	0,	助手	2,	医員	0,	大学院学生	5,	研究生	0
03年度	岍九八 貝	教授	1, 助教授	1,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	4,	研究生	1

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	弘前医学会	幹 事	土田 成紀	学会運営の庶務(弘前, 青森)	6 日
02平皮	日本分子腫瘍マーカー研究会	世話人	土田 成紀	学会運営 (東京)	1日
	日本分子腫瘍マーカー研究会	世話人		学会運営	1日
03年度	日本生化学会	評 議 員	土田 成紀	学会運営	1 日
	弘前医学会	評 議 員		学会運営	1日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	弘前医学	編集委員			編集会議と査読	6 日
	Japanese Journal Cancer Research				査読	2 日
02年度	Tohoku Journal of ExperimentalMedidine		土田	成紀	査読	2 日
	Biochim Biophys Acta				査読	2 日
	Biochem Biophys Res Commun				査読	1日
	弘前医学				査読	2 日
	Cancer Science				査読	2 日
	Tohoku Journal of Experimental Medicine				査読	2 日
03年度	Biochimica Biophysica Acta		土田	成紀	査読	1日
	Biochem Biophys Res Commun				査読	2 日
	British Journal of Cancer				査読	3 日
	Chemotherapy				査読	1日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

		件名	役	:職	氏	名	備考	日数
024	F度	青森県産業科学技術利用研究会	委	員	土田	成紀	研究会出席(青森, 弘前)	2 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00左座	遺伝子治療の実験モデルとしての弘前へアレスラットの確立(21あおもり産業総合支援センター)	教 授	土田 成紀	民間との共同研究	15日
03年度	アンジオテンシン変換酵素阻害物質を有す るカボチャ成分による脂肪蓄積の抑制およ び記憶保持増強効果の検討	助教授	早狩 誠	民間との共同研究	15日

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森県立保健大学	助教授	早狩 誠		4 日
03年度	つくば大学大学院医学研究科	教 授	土田 成紀	特別講義	1日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	鶴田町立中央病院	医 師	大川	恵三	平成14年4月~平成15年3月	50日
02年度	秋田労災病院	医 悔	山崎	金女	亚出北东,日 亚出北东,日	26日
	公立金木病院	医師	川呵	尊彦	平成14年4月~平成15年3月	26日
03年度	公立金木病院	医 師	山崎	尊彦	平成15年4月~平成15年9月	26日

(12) 国際交流への貢献

	件名	役職	氏	名	備考	日数
02年度	ロシア極東総合医科大学との交流		土田	成紀	ロシア極東総合 医科大学学生研修	10日
	三沢米空軍基地病院との交流		上田	凡人市区	三沢米空軍基地 病院への学生引率	2 日
03年度	国際交流研究委員会	委員長	土田	成紀	テネシー大学メン フィス校や三沢空軍 病院などとの折衝	3 日

(13) その他

7. 薬理学講座

2002年度から1年間の目標:

独立法人化を目前にし、国立大学の新しい自活の道を探る意味でも、地域の先進的研究施設との共同研究を進めて 行きたい。

上記目標に対する到達度:

地域の先進的研究施設との共同研究を目標に掲げたが、青森県工業総合研究センターとの共同研究を開始出来た。 到達度60%

2003年度から2年間の目標:

地域の諸施設との共同研究をすすめ、地域活性化へ貢献する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	2,	医員	0,	大学院学生	5,	研究生	3	
03年度	岍 九八貝	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	2,	医員	0,	大学院学生	4,	研究生	2	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本薬理学会	評 議 員			1年
	日本心電学会	評 議 員	元村 成		1年
02年度	日本心脈管作動物質学会	評 議 員	元村 成		1年
	弘前医学会	編集幹事			1年
	日本薬理学会	評 議 員	古川 賢一		1年
	日本薬理学会	評 議 員			1
	日本心電学会	評 議 員	元村 成		1
03年度	日本心脈管作動物質学会	評 議 員			1
	日本薬理学会	評 議 員	古川 賢一		2
	日本薬学会東北支部	委 員	古川賢一		2

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00左座	第10回信用 田川 整図 1-2 十二十二	会 長	元村 成		2 日
03年度	第19回信州・甲州・静岡セミナー in 弘前	事務局長	古川 賢一		2 ⊟

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役	職	氏	名	備	考	日数
	弘前医学	編集書	委員長					16日
	Jpn J Pharmacol	査	読	 元村	4-			2 日
	J Cardiovasc Pharmacol	査	読	7643	成			2 日
00年度	Clin Exp Physiol Pharmacol	査	読					2 日
02年度	Journal of Pharmacological Science							2 日
	Pharmacology	査	読	古川	賢一			2 日
	Biological Pharmaceutical Bulletin							1日
	Pharmacology	査	読	橋本	美貴			7 日
	J Pharmacol Sci				成			2 日
	J Cardiovasc Pharmacol	査	読	元村				2 日
	Clin Exp Physiol Pharmacol							2 日
03年度	Journal of Pharmacological Science							4 日
	Pharmacology	· 查	読	+111	賢一			6 日
	Biological Pharmaceutical Bulletin	1	砂匠					2 日
	Naunyn-Schmiedeberg's Archives of Pharmacology							2 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
02年度	科学研究費審査委員会	審査委員	=.+-	成	日本学術振興会	1 日
	薬事・食品衛生審議会	専門委員	元村 		厚生労働省医薬局	1 日
00左座	科学研究費審査委員会	審査委員	=:++	-	日本学術振興会	1 日
03年度	薬事・食品衛生審議会	専門委員	元村	成	厚生労働省医薬局	1日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	山梨医科大学	非常勤講師	元村	成		1日
	札幌医科大学	か市動構即	7643	/JX		1 日
00/5/5	21世紀教育 生物学の基礎ⅡB	講師	古川	賢一		5 日
02年度	薬と健康	神 帥				1 日
	健康一最新医学の現状					1 日
	薬理概論	講師	瀬谷	和彦	教育学部	15日
	臨床薬理学	一 神 川	傾台		医療短期大学部	15日
03年度	山梨医科大学	非常勤講師	元村	成		1 日
い・一段	札幌医科大学	かお助神師	ノレイリ	IJζ		1 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	国立弘前病院附属看護学校薬理学	非常勤講師	橋本(中尾)美貴		23日
03年度	第13回 弘前大学整形外科 夏の研修医会	講師	古川 賢一		1日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年時	青森県立弘前ろう学校	評議員	海公 和玄		3 日
02年度	(社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会	国際部副部長	瀬谷和彦		3 日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

8. 病理学第一講座

2002年度から1年間の目標:

- 1. 医療における病理診断の重要性を高めるよう活動する。
- 2. 病理診断を担う、コメディカル、医師との協力体制、専門知識の普及に努める。
- 3. 実地医療での病理業務の役割の拡大、精度向上に努める。
- 4. 専門領域での学会活動, 医学啓蒙などに努める。

上記目標に対する到達度:

学会等における活動は、役員、雑誌編集、査読など時間的制限の中、十分な範囲で行ってきた。 地域医療については、教室の少ないメンバーで県内、北秋田など病理診断等に貢献しており、既に過剰な状態にある。地域医療への貢献の内容の考え方を再検討することが必要。(全体到達度およそ8割)

2003年度から2年間の目標:

学会等における活動は、役員、雑誌編集、査読など時間的制限もあることから、今後質の高い活動を目標とする。 地域医療については、教室のスタッフの時間的余裕のない中で、質の高い内容を遂行することを目指す。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	2,	医員	0,	大学院学生	2,	研究生	2
03年度	切九八貝	教授	1,	助教授	0,	講師	2,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	2,	研究生	2

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本病理学会	評 議 員			4 日
	日本病理学会東北支部	学術委員長			4 日
	日本糖尿病学会	評 議 員			2 日
00左座	日本糖尿病合併症学会	幹事•評議員	7 七杯提上		2 日
02年度	日本メイラード反応学会	世話人	八木橋操六		1日
	日本末梢神経学会	理事•評議員			2 日
	日本糖尿病動物研究会	副会長•評議員			2 日
	北日本病理研究会	世話人			2 日
	日本病理学会	評議員•東北支部学術委員長			10日
	日本糖尿病学会	評 議 員			4 日
03年度	日本糖尿病合併症学会	幹事•評議員	八木橋操六		4 日
03平度	日本末梢神経学会	理事•評議員	八小惝探八		4 日
	日本糖尿病動物研究会	副会長•評議員			4 日
	北日本病理研究会	世話人			2 日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	第17回日本糖尿病動物研究会	会 長	八木橋操六		2 日
03年度	北日本病理研究会	世話人	八木橋操六		1 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	糖尿病	編集委員			20日
	末梢神経	編集委員	八木橋操六		8 日
00/51/5	Exp Diabetes Res	編集委員			4 日
02年度	Virchows Arch	査読委員			5 日
	Diabetes	査読委員			6 日
	Diabetologia	査読委員			8 日

	Diabetic Medicine	査読委員		4 日
	Diabetes Care	査読委員		6日
	Neurosci Lett	査読委員		3 日
	Diab Res Clin Pract	査読委員	7 十七十二	8日
02年度	J Periph Nerve Syst	査読委員	八木橋操六	6 日
	Horm Metab Res	査読委員		2 日
	Neuropathology	査読委員		2 日
	Tohoku J Exp Med	査読委員		3 日
	糖尿病	査読委員	和田 龍一	7 日
	糖尿病(日本糖尿病学会誌)	編集委員		12日
	末梢神経(日本末梢神経学会誌)	編集委員		8日
	Virchows Arch(欧州病理学会誌)	編集委員		4 日
	Exp Diabesity Res	編集委員		4 日
	Diabetes	査 読		8日
	Diabetologia	査 読		6日
03年度	Diabetes Care	査 読	八木橋操六	6日
	Diabetic Med	査 読		4 日
	Diabetes Res Clin Pract	査 読		8日
	Am J Physiol	査 読		3 日
	Life Sci	査 読		4 日
	Neurosci Lett	査 読		2 日
	Medical Electron Miscroscopy	査 読		2 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	山形大学医学部(学生講義)	教 授	7. 七括塭		1 日
	岩手医科大学(学生講義)		八木橋操六		1 日
03年度	秋田大学医学部(学生講義)	非常勤講師	八木橋操六		1 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	国保黒石病院	非常勤医師	八木橋操六		2週に1回
	秋田社会保険病院・北秋中央病院	非常勤医師	黒滝日出一		毎週1日
	八戸医師会・三沢市立病院	非常勤医師	和田 龍一		毎週1日
	八戸医師会•青森労災病院•町立米内沢病院	非常勤医師	山岸晋一朗		毎週1日
	国保黒石病院(病理診断)	非常勤医師	八木橋操六	2週に1回	26日
00年度	八戸市医師会臨床検査センター	非常勤医師	八木橋法登		52日
03年度 -	八戸市医師会臨床検査センター	非常勤医師	山岸晋一朗		26日
	三沢病院	非常勤医師	八木橋法登		52日

	秋田社会保険病院 北秋中央病院	非常勤医師	和田龍一	52日 52日
03年度	青森労災病院			17日
	町立米内沢病院	非常勤医師	山岸晋一朗	26日
	八戸市立市民病院			9 日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

9. 病理学第二講座

2002年度から1年間の目標:

病理学の教員および病理医が不足している地域の現状をふまえて、本務に支障のない範囲で他施設での教育を行うとともに、地域住民の健康保持に必要な医療を提供する。雑誌などの査読員としての役割も求めに応じて果たしていく。

上記目標に対する到達度:

病理学の教員および病理医が不足している地域の現状をふまえて、本務に支障のない範囲で他施設での教育を行うとともに、地域住民の健康保持に必要な医療を提供してきた。雑誌などの査読員としての役割も求めに応じて果たした。到達度は90%と考えている。

2003年度から2年間の目標:

今後も、病理学の教員および病理医が不足している地域の現状をふまえて、本務に支障のない範囲で他施設での教育を行うとともに、質の高い病理診断を通じて地域住民に必要な医療を提供する。さらに科学雑誌の編集員・審査員として寄与するとともに、産学官連携事業への参加も試みることで、本務に支障をきたすことなく、より一層の社会への貢献活動を行いたい。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	2,	研究生	0
03年度	切九八貝	教授	0,	助教授	1,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	2,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	日本病理学会学術評議員	教 授	工藤	横浜	1 日
02年度	日本病理学会学術評議員	助教授	田中 正則	横浜	1 日
03年度	日本病理学会学術評議員	助教授	田中 正則	福岡	2 日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	Pathology International				2 日
02年度	Expert Opinion on Pharmacotherapy	助教授	田中 正則		1 日
	弘前医学				1 日
03年度	Pathology International 審査員	中	田中正則		3 日
03年度	J Gastroenterol Hepatol審査員	助教授	田中 正則		1 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	21世紀教育(最新医学の現状)	教 授	工藤		1 日
02年度	共通教育(消化器疾患と放射線医学)	助教授	田中 正則		4 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00左庇	弘前ホスピタリティアカデミー	助教授	田中 正則		15日
02年度	五所川原市立高等看護学院	助 手	楠美 智巳		15日
00左床	弘前ホスピタリティアカデミー	助教授	田中 正則		15日
03年度	五所川原市立高等看護学院	助 手	楠美 智巳		15日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	弘前市立病院	教 授	工藤		50日
00年度	五所川原市立西北中央病院	秋 技	上膝		50日
02年度	弘前市立病院	助教授	田中 正則		50日
	五所川原市立西北中央病院	助 手	楠美 智巳		50日
03年度	弘前市立病院	助教授	田中 正則		50日
03千度	五所川原市立西北中央病院	助 手	楠美 智巳		50日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	りんご王国こうぎょくカレッジ (ラジオ:アップルウェーブ)	助教授	田中 正則		1日

10. 細菌学講座

2002年度から1年間の目標:

弘前大学医学部の教官として関連学会での活動を積極的に行う。

研究・教育を通して社会貢献を行う。

特許取得など、新産業基盤創成へ向けて努力する。

中国大学・企業との共同研究を通して国際貢献を行う。

病院診療を通じて地域医療に貢献する。

上記目標に対する到達度:

弘前大学医学部の教官として関連学会での活動を積極的に行った。

研究・教育を通して社会貢献を行うべく努力した。

特許取得など、新産業基盤創成へ向けて努力し、成果を上げつつある。

中国大学・企業との共同研究を通して国際貢献を行った。

病院診療を通じて地域医療に貢献した。

2003年度から2年間の目標:

弘前大学医学部の教員として関連学会での活動を積極的に行う。

研究・教育を通して社会貢献を行う。

特許取得など、新産業基盤創成へ向けて実績をあげる。

中国大学・企業との共同研究を通して国際貢献を行う。

病院診療を通じて地域医療に貢献する。

【研究人員】

02年度	_吕 教授	1,	助教授	0,	講師	0,	助手	3,	医員	0,	大学院学生	2,	研究生	1
03年度 研究人	教授	1,	助教授	0,	講師	1,	助手	2,	医員	0,	大学院学生	4,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
02年度	日本細菌学会理事	教	授	中根	明夫	理事会	4 日
	日本細菌学会理事会					理事	4 日
	日本細菌学会東北支部総会					支部長	1 日
03年度	日本細菌学会支部長会	教	授	中根	明夫	支部長	1 日
	日本インターフェロン・サイトカイン学会幹事会					幹事	1 日
	日本生体防御学会運営委員会					運営委員	1 日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
	FEMS Microbiol Lett						1 日
02年度	Microbiol Immunol	教	授	中根	明夫	査読	3 日
	Tohoku I Exp Med						1 日
	FEMS Microbiol Lett						2 日
00年度	Microbiol Immunol	教	授	中根	明夫	査読	1 日
03年度	J Antimicrob Chemother	学 X		1 中枢	明大 自	11000	1 日
	弘前医学						2 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	弘前大学総合文化祭「知の創造」講演会 「新しい感染症とその征圧を目指して」 「新しい感染症とは」	教 授	中根明夫		1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森県感染症発生動向調査企画委員会	教 授	中根 明夫		1 日
03年度	青森県感染症発生動向調査企画委員会	教 授	中根 明夫		1 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	大連翔大生物技術センター	教 授	中根 明夫		10日
02年度	「ウシ乳房炎遺伝子組換えワクチンの開発」	助 手	胡 東良		10日

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	北海道大学医学部				1日
02年度	秋田大学医学部				2 日
	岩手大学医学部	教 授	中根 明夫		1日
	長崎大学熱帯医学研究所				1日
	秋田桂城短期大学				23日
	秋田大学医学部				2 日
00年度	岩手大学医学部	 教 授	中根明夫		1日
03年度	岡山大学医学部	教 授	中根明夫		1日
	秋田桂城短期大学				20日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	白生会胃腸病院	助 手	差波 拓志		48日
03年度	白生会胃腸病院	助 手	差波 拓志		48日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	毒素組み換えワクチンの開発 陸奥新報 2002年 6 月14日朝刊	教	中根 明夫 胡 東良		
00年度	弘前市成人祭呈茶	教 授	中根 明夫		1 日
03年度 -	弘前大学八戸サテライト開講 1 周年記念演奏会	助 手	差波 拓志	演奏者として	1日

11. 衛生学講座

2002年度から1年間の目標:

当教室で行っている地域保健, 疫学, スポーツ医学の研究を学外, 地域の活動へと敷衍していきたい。地域行政とのタイアップもおのずから必要となろう。

上記目標に対する到達度:

ほぼ達成できたと考えられる。

2003年度から2年間の目標:

当教室で行っている地域保健, 疫学, スポーツ医学の研究を学外, 地域の活動へと敷衍していきたい。地域行政とのタイアップもおのずから必要となろう。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	2,	医員	0,	大学院学生	7,	研究生	5
03年度	岍 九八貝	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	2,	医員	0,	大学院学生	8,	研究生	5

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	体力・栄養・免疫学会	会 長			2 日
	日本衛生学会	評 議 員			1日
	体力医学会	評 議 員			1日
	日本産業衛生学会	評 議 員	菅原 和夫		1日
	弘前医学会	会 長			2 日
02年度	日本循環器管理研究協議会	評 議 員			1日
	アンチエージング医療協会	監 事			2 日
	体力・栄養・免疫学会	理 事	中路重之		1日
	第45回日本産業衛生学会産業精神衛生研究会企画運営委員	委 員	中的 里之		1日
	好中球研究会	運営委員	鈴木 克彦	山形大学	2 日
	日本運動免疫学研究会	運営委員	如小 允多	高知市	2 日
	体力・栄養・免疫学会	会 長			2 日
	日本衛生学会	評議員			1日
	体力医学会	評 議 員			1日
03年度	日本産業衛生学会	評 議 員	菅原 和夫		1日
03千皮	弘前医学会	会 長			2 日
	日本循環器管理研究協議会	評議員			1日
	アンチエージング医療協会	監 事			2 日
	体力・栄養・免疫学会	理 事	中路 重之		2 日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度 東北産業衛生学会		大会長	菅原 和夫		
	東北産業衛生学会	大会実行会員	中路 重之		2 日
		大会実行会員	梅田 孝		
03年度	体力·栄養·免疫学会大会	会 長	菅原 和夫		2 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本衛生学雑誌	査 読	菅原 和夫		7 日
00年度	かん (本力・栄養・免疫学雑誌)		中路 重之		7 日
02年度	論文査読(Journal of Applied Physiology 2 件, Exercise Immunology Review 1 件, Luminescence 1 件)		鈴木 克彦		6 日
00左座	日本衛生学雑誌	査 読 員	菅原 和夫		7 日
03年度	体力・栄養・免疫学雑誌	編集委員	中路 重之		7 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏	名	備考	日数
02年度 -	青森胃腸同好会	非常勤講師	中路	舌力		1 日
	八戸胃腸同好会	か用助神師	十	里之		1日
	青森県スポーツ振興事業団スポーツ科学 アドバイザリー事業	スポーツ科学 アドバイザー	梅田	孝		6 日
	青森胃腸同好会	非常勤講師	中路	重力		1日
03年度	平成15年度第2回医療・福祉関連ビジネス創出サロン	か用助神師	十	里之		2 日
03十段	金木中学校 PTA 生涯学習講演会	非常勤講師	梅田	孝	金木町	1日
	青森県スポーツアドバイザリー事業	か 市 判 神 削	1世口	子	八戸市, 鯵ケ沢町, 青森市	3 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
	青森県公害審査会委員	委	員				1 日
	青森県労働局	労働衛生	上指導医				1日
	青森県環境審議	委	員				1日
	弘前保健所運営協議会	委	員				1 日
	青森県地域保健医療対策協議会	委	員				1 日
	青森県平均寿命アップ作戦会議	委	員	本百	和夫		1 日
	小児がん等がん調査委員会	委	員	目原	和大		1 日
02年度	青森県保健・医療・福祉包括システム推進協議会幹事会	幹	事				1 日
	県教育委員会スポーツ科学トレーニング研究会	委	員				1 日
	青森県産業廃棄物処理対策専門委員会	委	員				1 日
	(財)医学教育振興財団	評論	義 員				1 日
	大学設置•学校法人審議会(大学設置分科会)	専門	委員				2 日
	青森県医師会産業医委員会	委	員				1 日
	青森県保健・医療・福祉包括ケアシステム推進協議会	委	員				2 日
	青森県成人病検診管理指導協議会(成人病登録・評価部委員)	委	員				1 日
	津軽地域保健医療推進協議会保健対策部会	会	員	U/2	重之		1 日
	弘前大学医師会	理	事	中始	里之		1 日
02年度	健康弘前21策定委員会	委	員				2 日
	青森県小児がん等がん調査委員会	委	員				1 日
	青森県スポーツドクターの会	委	員				1 日
	青森県体育協会スポーツ科学委員会	委	員	梅田	孝		6 日
	青森県小児がん等実務委員会	委	員		子		4 日
	青森県公害審査会委員	委	員				1日
	青森県労働局	労働衛生	上指導医				1日
	青森県環境審議	委	員				1日
	弘前保健所運営協議会	委	員				1日
	青森県地域保健医療対策協議会	委	員				1 日
02年度	青森県平均寿命アップ会議	委	員	本百	和夫		1 日
03十段	小児がん等がん調査委員会	幹	事	官原	心人		1 日
	青森県保健・医療・福祉包括システム推進協議会幹事会	委	員				1 日
	青森県産業廃棄物処理対策専門委員会	委	員				1 日
	(財)医学教育振興財団	評論	義員				1 日
	大学設置•学校法人審議会(大学設置分科会)	専門	委員				2 日
	人士政但 • 子仪広八番巌云 (人子故直分科会)	委	員				3 日

	食品安全委員会	委	員			1 日	
	津軽地域保健医療推進協議会	委	員			1 日	
	学術国際振興基金専門医委員会	委	員			1 日	
	青森県循環型社会形成推進基本計画検討委員会	委	員			1 日	
	青森県医師会産業医委員会	委	員			1 日	
	青森県保健・医療・福祉包括ケアシステム推進協議会	委	員			2 日	
	青森県成人病検診管理指導協議会(成人病登録・評価部委員)	委	員			1 日	
03年度	津軽地域保健医療推進協議会保健対策部会	会	員			1 日	
03年及	弘前大学医師会	理	事	 中路 重	-	1 日	
	健康弘前21策定委員会	委	員			2 日	
	青森県小児がん等がん調査委員会	委	員			1 日	
	青森県スポーツドクターの会	理	事			1 日	
	青森産業保健推進センター	相言	炎員			1 日	
	青森労働局	労働衛生	上指導医				
	青森県体育協会スポーツ科学委員会	委	員	梅田	孝	5 日	
	青森県小児がん等実務検討委員会	委	員	1世日	子	4 日	

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	弘前大学医療技術短期大学部専攻科	非常勤講師	梅田 孝		7 日
00年度	21世紀教育「生活習慣と健康」	助教授	中路 重之		2 日
03年度	21世紀教育「健康と運動の科学」	講師	梅田 孝		2 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森県医師会産業医研修会		菅原 和夫		1 日
	弘前市医師会立高等看護学校	非常勤講師	梅田 孝		10日
	漢方薬による炎症制御機構. 第7回 日本東 洋医学会青森県部会学術総会, 教育講演		鈴木 克彦	青森市 2002.7.14	1 日
	青森県医師会産業医研修会	講師	菅原 和夫		1 日
03年度	衛生管理者受験準備講習会	講師	中路 重之		1 日
	弘前市医師会立高等看護学院	非常勤講師	梅田 孝		7 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	高齢者の生活・健康調査・健診	非常勤医師	鈴木 克彦	埼玉県名栗村	6 日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏	名	備考	日数
02年度	木造成人病センター	非常勤医師	中路	重之		50日
	弘前記念病院	非常勤スポーツ 科学アドバイザー	梅田	孝		12日
	町立大鰐病院診療	非常勤医師	鈴木	克彦	大鰐町	32日
	木造成人病センター	非常勤医師	中路	重之		50日
03年度	弘前記念病院非常勤スポーツアドバイザー	非常勤スポーツ アドバイザー	梅田	孝		48日

(12) 国際交流への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	ジャマイカ国南部地域保健強化プロジェクト	専門家	菅原 和夫		1 日
	カリブ海 JICA 日本研修	専門家			1 日
	ジャマイカ国南部地域保健強化プロジェクト日本研究	等 门 多	中路 重之		1 日
00左座	ジャマイカ国南部地域保健強化プロジェクト	プロジェクトリーダー	菅原 和夫		2 日
03年度	ジャマイカ国南部地域保健強化プロジェクト	専門家	中路 重之		20日

(13) その他

12. 公衆衛生学講座

2002年度から1年間の目標:

公衆衛生活動を通じ、地域保健・国際保健に貢献する。

上記目標に対する到達度:

地方自治体、各種公的団体と協力した社会活動を実施、目標は十分達成出来た。

2003年度から2年間の目標:

公衆衛生活動を通じ、地域社会に貢献する。

【研究人員】

02年度	可索(昌	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	4,	研究生	3	
03年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	1,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	4,	研究生	3	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	日本産業衛生学会評議委員 日本衛生学会評議委員 日本農村医学界評議委員 日本体力医学会評議委員 日本温泉気候物理医学会評議員 日本循環器病管理研究会評議員 日本体力医学会東北地方会副会長 東北公衆衛生学会世話人 日本学校保健学会東北地方会世話人 東北国際保健研究会幹事 弘前医学会評議委員 青森県骨粗鬆症研究会世話人 青森スポーツ医学研究会世話人	教 授	三田 禮造		
	日本脳神経外科学会評議員 日本公衆衛生学会評議員	助教授	朝日 茂樹		3日 3日
	日本集団災害医学会広報委員 日本 ACLS 協会広報委員	助 手	坂野 晶司		365日 365日
03年度	第7回弘前国際医学フォーラム実行委員長第2回東北国際保健研究会世話人日本衛生学会評議員日本体力医学会評議員日本体力医学会東北地方会副会長東北公衆衛生学会世話人東北国際保健学会東北地方会世話人青森県骨粗鬆症研究会世話人青森スポーツ医学研究会世話人日本産業衛生学会評議委員日本農村医学界評議委員日本温泉気候物理医学会評議員日本循環器病管理研究会評議員日本東北学校保健学会地方会世話人弘前医学会評議委員	教 授	三田 禮造	弘前10.28—29 弘前11.1—2	2 H 2 H 2 H 2 H 2 H 3 H 1 H 2 H
	第7回弘前国際医学フォーラム実行委員 第2回東北国際保健研究会世話人 日本脳神経外科学会評議員 日本公衆衛生学会評議員	助教授	朝日 茂樹	弘前10.28—29 弘前11.1—2	2日 2日 3日 3日

	第2回東北国際保健研究会					弘前11.1 — 2		
	東北救急医学会						通年	
03年度	日本 ACLS 協会	助	手	坂野	晶司		通年	
	日本国際保健医療学会						通年	
	日本集団災害医学会広報委員						通年	

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	Jamaica / Japan International Health and Lifestyle Conference-2003	教 授	三田 禮造	Kingston (Jamaica)	365日
03年度	第7回弘前国際医学フォーラム 第2回東北国際保健研究会	教 授	三田一禮告	弘前10.28—29 弘前11.1—2	2 日 2 日
00 12	Jamaica / Japan International Health and Lifestyle Conference- 2003	37. 32			

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	青森産業保健推進センター情報誌「青い森」編集委員	助教授	朝日 茂樹		15日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	温泉療法システム研究会 温泉療法アドバイザー	教 授	三田 禮造		
	テロと健康危機管理	助教授	朝日 茂樹	公開救急医学講座(弘前)	1 日
	温泉療法システム研究会 温泉療法アドバイザー			弘前	
	地域フォーラム 「地方から発信する国際協力のあり方」	教 授	三田 禮造		1日
03年度	弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育 センター藤崎農場 公開講座			弘前	1日
	第2回東北国際保健研究会 市民フォーラム「災害との共生」				1日
	老人保健施設における感染症について	助教授	朝日 茂樹	田舎館村	2 日
	国際ソロプチミスト 弘前「アルジェリア地震救済活動報告」			弘前	1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	弘前市廃棄物減量等推進審議会委員			弘前市	
	青森県成人病検診管理指導協議会委員	教 授	三田 禮造	青森市	
	青森県総合健診センター骨密度検診判定委員会委員			青森市	
	地方分権と保健衛生行政に関する調査研究会 幹事			東京および青森	4 日
02年度	全日本剣道連盟 医科学委員会				4 日
	あおもり産業保健推進センター	助教授	朝日 茂樹		8日
	青森県脳卒中登録委員会	助教技	和 以知		2 日
	青森県心のヘルスアップ委員会				3 日
	青森県検診センター(骨粗鬆予防)				2 日
	弘前市廃棄物減量等推進審議会委員				
	健康寿命アップ計画推進委員会委員				
	労働福祉事業団青森県産業保健推進センター	教 授	三田 禮造		
	産業保健相談員				
03年度	青森県感染症発生動向調査企画委員会委員				
	労働福祉事業団青森県産業保健推進センター				
	産業保健相談員	助教授	朝日 茂樹		
	健康寿命アップ計画推進委員会委員	助 秋 扠	刊口 汉彻		
	国際協力事業団緊急援助隊事務局委員				

	日本公衆衛生協会平成15年度地域保健総合 推進事業「地方分権と保健衛生行政に関する 調査研究」幹事		
03年度	心のヘルスアップ専門家会議委員 全日本剣道連盟 医・科学委員		
	JICA 国際緊急援助隊総合調整部会委員		8日
	厚生労働省 健康危機管理対策評価委員		4 日
	JICA ボリビア保健プロジェクト国内委員会委員		4 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	地域 (温泉地) に内在する資源の発掘, 活用 による地域再生の調査研究 助言	助教授	朝日 茂樹	2.22	1日

(7) 産学共同事業への参加

		件名	役職	氏 名	備考	日数
1 (3年度	青森県新産業創出対策チーム顧問	助教授	朝日 茂樹	青森	2 日

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	国際協力とは?(弘前大学人文学科国際政治学)	助教授	朝日 茂樹	東京	1 日
	Disater Preparedness(東海大学)	助教技	初口)入倒		1 日
00年度	国際政治と国際協力講師	助教授	朝日 茂樹	人文学部柑本英雄ゼミ	2 日
03年度	健康と運動の科学	助教技	别口 戊烟	21世紀教育特別講義	1 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	国立弘前病院看護学校「公衆衛生学講義」弘前市医師会看護学校			弘前 弘前	15日 15日
	• 五所川原労働基準監督所「産業保健」			五所川原	1日
	• 木村食品工業「生活習慣病」			尾上	1日
02年度	青森県医師会産業医基本研修会 「産業保健と健康危機管理」	助教授	朝日 茂樹	青森	1日
02-1/2	・心のヘルスアップ青森県委員会 「青森県の過去12年間における自殺の実態 と予防への課題」			青森	1日
	・平成14年度第2回高齢者自殺予防研修会 「青森県の自殺の実態と今後の課題」			青森	1日
	東京都葛飾区医師会 災害対策委員会	助 手	坂野 晶司	東京	1日
	地域フォーラム講師	教 授	三田 禮造	弘前	1日
	平成15年度(第1回)産業医基本研修会講師	秋 1人		青森	1日
	平成15年度青森県労働災害防止連絡協議会講師			青森	1日
	五所川原産業保健事業者研修講師 (五所川原労働基準監督署)			五所川原	1日
	衛生管理者研修会講師 (社団法人西北労働基準協会)				1日
03年度	過重労働による健康障害防止のための産業 医研修会講師	助教授	朝日 茂樹	むつ	1日
	21世紀保健リーダー研修講師 (JICA―WHO―東海大共同研修)	助教技	别口 反倒	東京	2 日
	青森県産業医講習会講師			青森	1日
	平成15年度衛生管理者研修会講師 (青森産業保健推進センター)			青森	1日
	平成15年度(第2回)産業医基本研修会講師			青森	1日
	第7回(JICA)集団災害医学セミナー講師			札幌	1日
	国立弘前病院附属看護学校講師	助 手	坂野 晶司		16日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00左座	秋田県鷹巣町住民健診	叶 松 松	胡口 茶林		1 日
03年度	東京都学校法人貞静学園 学校保健指導助言	助教授	朝日 茂樹	無償	7 ⊟

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	鷹の巣 北秋中央病院集中央病院における 健康診断,脳ドック	助教授	朝日 茂樹	秋田県	48∃
	弘前弘愛会病院	非常勤医師	坂野 晶司	弘前市	30日
	青森県健康寿命アップ委員会委員				通年
	青森県心のヘルスアップ委員会委員			自殺予防	通年
	青森産業保健推進センター			健康相談医	通年
03年度	厚生連北秋央病院保健活動部 (秋田県鷹ノ巣町)非常勤医師	助教授	朝日 茂樹	脳ドック	48日
	厚生労働省 地域保健と保健行政に関する調 査研究班委員				4 日
	医療法人弘愛会病院非常勤医師	助 手	坂野 晶司		45日

(12) 国際交流への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	ジャマイカ国南部地域保健強化プロジェク ト 長期専門家	教 授	三田 禮造	Jamaica 国	365日
02年度	地方における国際協力 JICA 協議2002.8.19 JMTDR 派遣登録医師(JICA)	助教授	朝日 茂樹	東京待機	1 日365日
	JMTDR 派遣登録医師(JICA)	助 手	坂野 晶司	待機	365日
	ジャマイカ国南部地域保健強化プロジェクト			Jamaica 国	61日
	在外技術研修講師 (JICA)	教 授	三田 禮造		24日
	研修員受入れ(JICA)				21日
	アルジェリア地震救済国際緊急援助隊副団長				14日
03年度	JICA 国際緊急援助隊医療チーム総合調整部 会委員	助教授	朝日 茂樹	外務大臣派遣	5 日
	WHO 緊急人道活動日本拠点委員				通年
	国連大災害時評価調整専門家委員				通年
	国際協力機構国際緊急援助隊医療チーム	助 手	坂野 晶司		6 日

(13) その他

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	弘前柔道会常任理事 日本体育協会公認スポーツドクター 日本医師会公認健康スポーツ医 日本体力医学会健康科学アドバイザー 思春期保健相談員	教 授	三田 禮造		
	弘前大学剣道部長(全学, 医学部) 全剣連スポーツドクター, スポーツコーチサミット マニラ剣道クラブ指導	助教授	朝日 茂樹	弘前 東京 フィリピン	200日 2日 1日
	東奥日報「明鏡」欄 意見公表 2002. 9 . 2 夕刊	助手	坂野 晶司		1日
03年度	弘前市柔道会常任理事 日本体育協会公認スポーツドクター 日本医師会公認健康スポーツ医 日本体力医学会健康科学アドバイザー 思春期保健相談員	教 授	三田 禮造		
	全日本剣道連盟推薦スポーツ医 全日本剣道連盟 医科学委員会委員	助教授	朝日 茂樹	救急・ドーピング対策	通年 8日

	弘前市剣道連盟 弘前 3 時間誓願立ちきり剣道試合救急医					4 日
	マスコミ発表 東奥日報日報 「50歳を境に脳梗塞急増」				2003. 4 . 2	
03年度	朝日新聞 「私の視点」 災害時の公衆衛生学				2003. 6 .24	
	Herald Tribune ASAHI Public Health Service key to disaster relief				2003. 7 .11	
	東奥日報「冷房病」の予防				2003. 7 .13	
	東奥日報夕刊 明鏡欄 「教育現場でたばこは不要」	助	手	坂野 晶司	2003. 9 . 3	

13. 寄生虫学講座

2002年度から1年間の目標:

最近の感染症の広がりは、新興・再興感染症の顕在化によっても明らかである。そのことは、青森県におけるエキノコックスの流行監視体制構築等の活動によって継続して行ってきている。特に当該講座が東北地方での医学系研究機関では唯一の寄生虫学講座となったこともあり、寄生虫病の診断・治療への社会的要求にこたえたい。また、地域の産業振興のために地元の会社や研究機関と連携して、研究協力を進めたい。

また、北日本寄生虫学会支部長として、地域に立脚した特色ある学際的支部会としての方向を探りたい。

上記目標に対する到達度:

かなりのところまで目標に応えられていると考えている。

2003年度から2年間の目標:

継続して昨年度の目標をより充実させる。最近の感染症の広がりは、新興・再興感染症の顕在化によっても明らかである。そのことは、青森県におけるエキノコックスの流行監視体制構築等の活動によって継続して行ってきている。特に当該講座が東北地方での医学系研究機関では唯一の寄生虫学講座となったこともあり、寄生虫病の診断・治療への社会的要求にこたえて行きたい。また、地域の産業振興のために地元の会社や研究機関と連携して、研究協力を進めたい。

また、北日本寄生虫学会支部長として、地域に立脚した特色ある学際的支部会としての方向を探りたい。第75回 日本寄生虫学会全国大会を開催する。

【研究人員】

02年度	研売 / 昌	教授	1,	助教授	0,	講師	1,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	研究人員	教授	1,	助教授	0,	講師	1,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職		氏	名	備考	日数
00年度	寄生虫学会春理事会	理 事	击	抽公	哇土	東京	2 日
02年度	寄生虫学会夏理事会	上 事	•	神谷	晴夫	東京	2 日
00年度	寄生虫学会春理事会	理 事		地公	哇 +		2 日
03年度	寄生虫学会夏理事会	理 爭	事	神谷	晴夫		2 日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役	:職	氏	名	備考	日数
02年度	Tohoku J. Exp. Med.						2 日
	Jpn. J. Inf. Dis.	教 授	402	神谷	晴夫		2 日
	Jpn. J. Ped.		1又	竹竹			1日
	Archivos Venezolanos de Medicina Tropical 編集委員						
03年度	Archivos Venezolanos de Medicina Tropical 編集委員	教	授	神谷	晴夫		
03平皮	ExperimentalAnimal 査読	講	師	佐藤	宏		1日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	弘前大学市民公開講座	教 授	神谷 晴夫		1日
03年度	弘前医師会教育講演	教 授	神谷 晴夫		1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	21あおもり産業総合支援プログラム	教 授	神谷 晴夫		

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

該当なし。

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	ボランティア:和歌山県内で捕獲された野生 アライグマの寄生虫調査	講 師	佐藤 宏		30日

14. 法医学講座

2002年度から1年間の目標:

- ① 青森県内唯一の異状死体解剖検査機関として、青森県警察本部、青森県各警察署、第2管区海上保安本部青森 海上保安部・八戸海上保安部、陸上自衛隊警務部、海上自衛隊警務部からの司法鑑定の要請に適切に対応で きるよう努力する。
- ② 医学と社会との接点・窓口として、地域からの医療貢献の求めや法医学的要請に出来る限り応えられるよう努力する。

上記目標に対する到達度:

- 1 青森県内唯一の異状死体解剖検査機関として、青森県警察本部、青森県各警察署、第2管区海上保安本部青森 海上保安部・八戸海上保安部、陸上自衛隊警務部、海上自衛隊警務部からの司法鑑定の要請に適切に対応で きるよう努力する。(100/100)
- 2 医学と社会との接点・窓口として、地域からの医療貢献の求めや法医学的要請に出来る限り応えられるよう 努力する。(70/100)
- 3 実りのある教育および地域社会への貢献 (80/100)

2003年度から2年間の目標:

- 1 青森県内唯一の異状死体解剖検査機関として、青森県警察本部、青森県各警察署、第2管区海上保安本部青森海上保安部・八戸海上保安部、陸上自衛隊警務部、海上自衛隊警務部からの司法鑑定の要請に適切に対応できるよう努力する。
- 2 医学と社会との接点・窓口として、地域からの医療貢献の求めや法医学的要請に出来る限り応えられるよう 努力する。
- 3 実りのある教育および地域社会への貢献

【研究人員】

02年度	教授	1, 助教授	0, 講師	1, 助手	2, 医員	0 , 大学院学生	0,研究生	2
03年度 研究人	教授	1,助教授	0, 講師	1, 助手	2, 医員	0 , 大学院学生	0 , 研究生	2

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

該当なし。

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	第89回法医学談話会例会	教 授	黒田 直人	青森県西津軽郡鯵ヶ沢町	2 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
00年度	「Legal Medicine」投稿論文査読	教 授	黒田	直人	2件	2 日	
02年度	「法医学の実際と研究」編集委員				15件	15日	
03年度	「法医学の実際と研究」編集委員会	教	授	ĦШ	田 直人	英文査読	5 日
	Legal Medicine			黒田		2件	2 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	青森県健康福祉部 心のヘルスアップ専門家会議・委員	教 授	黒田 直人	青森市	1日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

	件名	役職	氏	名	備考	日数
03年度	有限会社「はちのへきのこ」共同研究	講師	北	武		20日

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役	:職	氏	名	備考	日数
	 共通教育	教	授	黒田	直人		7 日
02年度	六世秋月 	講	師	北	武		3 日
02平皮	保健学科第2学年(免疫・血液型)	講	師	北	武		4 日
	保健学科第2学年(実習)						3 日
	保健学科第2学年(免疫・血液型)					保健学科	4 日
03年度	保健学科第2学年(実習)	講	師	北	武	保健学科	3 日
	21世紀教育					全学	3 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役	:職	氏	名	備考	日数
	青森県消防学校講義					青森市	1日
02年度	青森地方検察庁講義	教	授	黒田	直人	青森市	1日
	青森県警察学校講義					青森市	1日
	青森地方裁判所講義					青森市	1日
	検視担当者研修会の指導・助言	助	手	丹野	高三	青森市	1日
	青森県警察学校講義(刑事および交通)				直人	青森県警察学校	1日
03年度	青森県消防学校講義	教	授	黒田		青森県消防学校	1日
	青森地方検察庁司法修習生講義					弘前大学医学部医学科	1日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	西大館病院日直	助 手	三戸 聖也	非常勤医師	23日
02年度	深浦町国民保険 関診療所	助 手	丹野 高三	非常勤医師	28日
03年度	深浦国民健康保険 関診療所	非常勤医師	丹野 高三		32日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
	法医解剖(執刀)	教	授	黒田	直人	143件	143日
02年度	法医解剖(血液型検査)	講	師	北	武	143件	143日
02千及	法医解剖(執刀·補助)	助	手	三戸	聖也	142件	142日
	法医解剖(補助・記録)	助	手	丹野	高三	142件	142日
00 / 15	法医解剖(執刀)	教	授	黒田	直人	全120件次の内容 を含む:①執刀 ②組織切り出し ③検査鑑定書作成	200日
03年度	法医解剖例の血液型鑑定	講	師	北	武	全:120例全例に ついて血液型を 検査	20日
	法医解剖(解剖補助・記録)	助	手	丹野	高三	全:120例	60日

15. 内科学第一講座

2002年度から1年間の目標:

- 1. 消化器病, 血液病, 膠原病の分野の臨床・研究についての最新技術を取り入れ, EBM に基づいた最新の医療 提供を行う。
- 2. 上記分野の最新技術につき、医師、コメディカル、一般市民に対し教育、啓蒙活動を行う。
- 3. 青森県内の成人病検診、献血事業、自治体病院再編成等にできる限り協力する。
- 4. 青森県内の検診事業に積極的に関与し、県民の平均寿命の延長のために、できる限り努力する。

上記目標に対する到達度:

到達度:前回設定した目標は、概ね達成しており、到達度は80%程度と考える。

2003年度から2年間の目標:

- 1)消化器病,血液病,膠原病領域の臨床・研究に関する最新の医療技術・知識を総括し、関連施設への情報提供を行い、地域医療のレベルアップを図る。
- 2) 医師、コメディカル、一般市民に対する教育および啓蒙活動を積極的に行う。
- 3) 青森県民の健康増進のための公益事業に積極的に関与し、平均寿命の延長に貢献する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	2,	講師	3,	助手	5,	医員	4,	大学院学生	8,	研究生	9
03年度	切先八貝	教授	1,	助教授	1,	講師	3,	助手	5,	医員	5,	大学院学生	7,	研究生	8

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	日本大腸肛門病学会	理事評議員				2 日
	大腸癌研究会	幹事会,世話人,大腸 癌取扱い規約委員				2 日
	日本消化器病学会	財団評議員, 学術集会検討委員	梅士	昭博		1日
	日本消化器内視鏡学会	社団評議員, 東北支部長, 評議員選出委員会委員	(宋万	帕ဓ		2 日
	日本内科学会	評 議 員				1 日
	日本消化器免疫学会	理 事				1日
02年度	日本消化器集団検診学会	評 議 員				1日
02年度	日本超音波医学会	評 議 員				2 日
	日本大腸肛門病学会	評 議 員				2 日
	日本超音波医学会東北支部	評 議 員	須藤	俊之		1日
	日本消化器病学会東北支部	評 議 員				4 日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評 議 員				4 日
	東日本 IBD フォーラム運営委員会	運営委員	石黒	陽		1日
	日本臨床血液学会	評議員	玉井	佳子		2 日
	日本消化器病学会東北支部	評 議 員				2 日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評 議 員	下山	克		2 日
	日韓ヘリコバクター学会	プログラム委員				5 日
	日本消化器病学会	理 事				4 日
	日本消化器内視鏡学会	支 部 長				1日
	日本大腸肛門病学会	理事				3 日
03年度	日本消化器免疫学会	生 尹	棟方	昭博		1日
	大腸癌研究会	幹 事				1日
	日本大腸検査学会	理 事				1 日
	日本内科学会	評議員				1日

	東日本 IBD FORUM	運営委員				1 日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評 議 員	石黒	陽		1 日
	日本消化器病学会東北支部	評 議 員				1 日
03年度	日本臨床血液学会	評 議 員	玉井	佳子		3 日
	第3回韓日ヘリコバクター学会	プログラム委員			ソウル	3 日
	日本消化器病学会東北支部	評 議 員	下山	克	仙台	2 日
	日本消化器内視鏡学会東北支部	評議員			仙台	2 日

(2) 学会などの開催

	件名	役	役職		名	備考	日数
	第22回青森県消化器超音波懇話会					弘前	1日
	第13回青森静脈・経腸栄養研究会				弘前	1日	
	第7回青森IBD研究会					青森	1日
02年度	第34回癌化学療法研究会	教 授	 棟方	7 昭博	青森	1日	
02平及	日本内科学会創立100周年記念青森県市民公開講座	子 X	教 技	1本ノ)	叩母	青森	1日
	第35回癌化学療法研究会					弘前	1日
	青森血液疾患研究会					青森	1日
	弘前メディカルフォーラム					弘前	2 日
09年度	第19回青森県肝疾患研究会	教	授	棟方	昭博	弘前	1日
03年度	第18回弘前メディカルフォーラム	多	1文	1米刀		弘前	1日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	Digestive Endoscopy	査読委員	棟方 昭博		1 日
02年度	弘前医学	査読委員	須藤 俊之		7 日
02年度	J Human Genet	査読委員	 下山 克		2 日
	Digestion	1	下田 兄		2 日
02年度	日本内視鏡学会誌(英文誌)	査読委員	棟方 昭博		0.5日
03年度	臨床消化器内科	編集委員	1米刀 哈得		4 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本内科学会創立100周年記念 青森県市民公開講座	教 授	棟方 昭博	青森	1日
02年度	日本肝臓学会 肝がん撲滅運動青森県責任者 (市民公開講座主催)	助教授	須藤 俊之	青森	1日
	日本消化器病学会東北支部主催 第29回市民公開講座 講演『アルコールと肝硬変』	助手	坂本 十一	弘前大学 創立50周年 記念会館	1日
	日本消化器病学会 北海道地区市民公開講座	教 授	棟方 昭博		2 日
03年度	日本消化器病学会 東北地区市民公開講座	教 权	1本刀 町侍		1 日
	日本肝臓学会主催 肝がん撲滅運動市民公開講座 『肝がんにならないためには』	講師	坂本 十一	青森市	1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役	職	氏	名	備	考	日数
	青森県社会福祉審議会						1日	
	自治体病院再編成検討委員会							3 日
02年度	青森県がん高度専門施設検討委員会	委員	棟方	昭博			1日	
02年度	青森県献血推進協議会	安	貝	保刀	K刀 呵恃			1日
	青森県成人病検診管理指導協議会							2 日
	青森県成人病検診管理指導協議会胃がん部会							1日

00/5	青森県特定疾患治療研究事業審査会 青森県総合健診センター胃がん検診読影委員会	委	員			1日 2日
02年度	青森県総合健診センター	常任	理事	棵力 昭博	棟方 昭博	
	青森県地域医療対策協議会	委	員			1 日
	青森県社会福祉審議会					2 日
	自治体病院再編成検討委員会					1日
	青森県がん高度専門施設検討委員会					1日
	青森県献血推進協議会	委	員			1日
	青森県成人病検診管理指導協議会					2 日
03年度	青森県成人病検診管理指導協議会胃がん部会			棟方 昭博		2 日
	青森県特定疾患治療研究事業審査会					1日
	青森県総合健診センター胃がん検診読影委員会	委員	長			2 日
	青森県総合健診センター	理	事			2 日
	青森県地域保健医療対策協議会	委	員			1 日
	日本学術振興会科学研究費委員会	安	貝			1日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	琉球大学医学部非常勤講師	教 授	棟方 昭博		1日
03年度	医学部保健学科 臨床免疫学	助 手	玉井 佳子		2 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	模擬講義	助 手	玉井 佳子	八戸高校	1 日
00/21/25	琉球大学医学部特別講義	教 授	棟方 昭博		2 日
03年度	八戸高等学校模擬講義	助 手	玉井 佳子		1 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	相馬村超音波集検	助教授	須藤 俊之		7 日
02年度	風疹予防接種	助 手	玉井 佳子		1 日
03年度	副主任学校医(弘前大学保健管理センター)	教 授	棟方 昭博		3 日
	弘前大学学校医	助 手	玉井 佳子		週1時間

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	肝炎ウイルスに関する研修会, C 型肝炎の診断と治療―最近の話題―	助教授	須藤 俊之		3 日
	非常勤医師(浪岡病院)	講師	田村 好弘	浪岡町(週1回)	50日
	非常勤医師(木造成人病センター)	講師	佐々木賀広	木造町(週1回)	50日
02年度	非常勤医師(大館市立病院)	講師	石黒 陽	大館市(週1回)	50日
02平皮	非常勤医師(公立七戸病院 内科)	助 手	坂本 十一	七戸町(週1回)	50日
	非常勤医師(木造成人病センター)	助 手	玉井 佳子	木造町(週1回)	50日
	非常勤医師(陸上自衛隊弘前駐屯地)	助 手	下山 克	弘前市	20日
	非常勤医師(木造成人病センター)	助 手	伊東 重豪	木造町(週1回)	50日
	非常勤医師(弘前市立病院 内科)	助 手	山形 和史	弘前市(週1回)	50日
	非常勤医師(木造成人病センター)	講師	佐々木賀広	木造町(週1回)	50日
03年度	非常勤医師(大館市立病院)	講師	石黒 陽	大館市(週1回)	50日
	非常勤医師(公立七戸病院)	助 手	坂本 十一	七戸町(週1回)	50日
	非常勤医師(木造成人病センター)	助 手	玉井 佳子	木造町(週1回)	50日

	非常勤医師(公立七戸病院)	助	手	伊東 重豪	七戸町(週1回)	50日
03年度	嘱託医(陸上自衛隊弘前駐屯地)	助	手	下山 克	弘前市	50日
	非常勤医師(弘前市立病院)	助	手	山形 和史	弘前市(週1回)	50日

(12) 国際交流への貢献

	件名	役職	氏	名	備考	日数
03年度	BROAD MEDICAL RESEARCH ROGRAM INFLAMMATORY BOWEL DISEASE GRANTS The Eli and Edythe L. Broad Foundation PEER REVIEW FORM Victor M. Morales, Ph.D., Boston University Medical Center, Peptides recognized by T cell clones from inflammatory bowel disease patients.	講師	石黒	陽	審査	14日

(13) その他

16. 内科学第二講座

2002年度から1年間の目標:

救急医療の現場で救急救命士を中心とした救急隊の院内教育を積極的に行う。

地域医療のあり方について提言して行く。

呼吸器疾患、禁煙について啓蒙をはかる。

肺癌検診に従事し、その制度管理に努める。

学外役員として学会の運営に協力する。

上記目標に対する到達度:

救急医療に対する、提言、救急隊の院内教育に取り組んだ。(到達度70%)

肺がん検診に積極的に取り組み、制度管理に努めた。(到達度60%)

学外役員として学会の運営に協力した。(到達度60%)

2003年度から2年間の目標:

救急医療, BLS, ACLS の普及に努める。

積極的な禁煙活動に取り組む。

青森県の成人病予防に積極的に取り組む。

学外役員として、学会の運営に積極低に参加する。

【研究人員】

02年度 03年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	6,	医員	0,	大学院学生	15,	研究生	1	
03年度	听九八 貝	教授	1,	助教授	2,	講師	1,	助手	6,	医員	1,	大学院学生	19,	研究生	0	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本内科学会	評議員			1 日
	日本循環器学会	評 議 員			1日
	日本心電学会	理 事	奥村 謙		1日
	日本心臓ペーシング電気生理学会	理 事			1日
02年度	日本心臓病学会	評 議 員			1日
	日本高血圧学会	評議員	長内 智宏		1 日
	日本結核病学会	評 議 員	高梨 信吾	用語委員	1 日
	日本呼吸器学会	評 議 員	高梨 信吾		1日
	日本心血管インターベンション学会	評議員	吉町 文暢		4 日
	日本内科学会	評議員		東京	2 日
	日本循環器学会	評 議 員		東京	2 日
	日本心電学会	理 事	奥村 謙	東京	2 日
03年度	日本心臓ペーシング電気生理学会	理 事		東京	2 日
	日本心臓病学会	評 議 員		東京	2 日
	日本高血圧学会	評 議	長内 智宏	宮崎	2 日
	日本呼吸器学会	評議員	方利 <i>長五</i>	東京	2 日
	日本結核病学会	評 議 員	高梨 信吾	東京	2 日

(2) 学会などの開催

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役	役職		名	備考	日数
	日本循環器学会誌(Circulation Journal)						20日
	Heart and Vessel	査	読	奥村	謙		20日
02年度	Japanese Heart Journal						20日
02平皮	Hypertension Research	査	読	長内	智宏		1 日
	日本呼吸器学会雑誌	査	読	高梨	信吾		1 日
	東北医学	査	読	松永	敏郎		1 日
	日本循環器学会誌(Circulation Journal)						20日
	Heart and Vessel	査	読	奥村	謙		20日
03年度	Japanese heart Journal						20日
	Hypertension Research	査	読	長内	智宏		1 日
	日本呼吸器学会誌	査	読	高梨	信吾		1 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名		職	氏	名	備	考	日数
	朝日医学セミナー							1日
	青森市民公開講座	講	師	奥村	謙			1日
	弘前大学医学部健康•医療講演会							1日
02年度	肺の日開催	会	長	高梨	信吾			1日
	第10回青森県動脈硬化リスクファクターフォーラム							1日
	第55回腎懇話会	講	師	中村	典雄			1日
	第175回上十三医師会七戸支部勉強会							1日
	呼吸教室	講	師	高梨	信吾			1日
03年度	救急医学講座での講演	講	師	花田	裕之			1日
03平及	ミート・ザ・スペシャリスト「腎疾患と病診連携」	講	師	中村	dh 1://:			1日
	勉強会「腎疾患と高脂血症」	神	EIII	十七月	典雄			1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	県社会福祉審議会				2 日
	県成人病検診管理指導協議会	参	奥村 謙		2 日
	県成人病検診循疾部会	安 貝 	契 们		2 日
	県総合検診センター・基本健康診査等判定検討委員会				1日
	青森県成人検診管理指導協議会	委 員	長内 智宏		1日
02年度	地方塵肺審査会	審查委員			12日
02千尺	保健所結核審査協議会	一番且女只			24日
	青森県肺癌検診読影委員会	読影委員	高梨 信吾		12日
	青森県成人検診管理指導協議会	季			1日
	青森県結核サーベイランス委員会	女员			1日
	地方塵肺審査会	審査委員	長谷川幸裕		12日
	青森県肺癌検診読影委員会	読影委員	及石川丰田		24日
	青森県成人病検診管理指導協議会			青森	2 日
	県総合検診センター・基本健康診査判定検討委員会	多	奥村謙	青森	1日
	県総合検診センター・非常勤常任理事	V X	₹11 IMK	青森	2 日
	県社会福祉審議会			青森	3 日
	青森県成人病検診管理指導協議会	委 員	長内 智宏	青森	1日
03年度	地方塵肺審査会	審査委員		青森	12日
00 + 12	保健所結核審査協議会	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		青森	24日
	青森県肺癌検診読影委員会	読影委員	高梨 信吾	青森	12日
	青森県成人病検診管理指導協議会	多		青森	1日
	青森県結核サーベイランス委員会	A D		青森	1日
	地方塵肺審査会	審査委員	長谷川幸裕	青森	12日
	青森県肺癌検診読影委員会	読影委員		青森	24日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	保健学科	非常勤講師	長内 智宏		1 日
02年度	保健学科	非常勤講師	高梨 信吾		1 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	保健学科	非常勤講師	長内 智宏		1 日
03年度	保健学科	非常勤講師	高梨 信吾		1日
	共通教育	講師	花田 裕之		1日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	保健管理センター学校医	副主任	奥村 謙		48日
02年度	保健管理センター	非常勤医師	長内 智宏		48日
00年度	保健管理センター学校医		奥村 謙		48日
03年度	保健管理センター学校		長内 智宏		48日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	黎明郷リハビリテーション病院	研究指導医	奥村 謙		40日
	黎明郷リハビリテーション病院	非常勤医師	長内 智宏		48日
	増田病院	非常勤医師	高梨 信吾		48日
	福士病院	升 用 割 区 메	同衆 旧百		4 日
	板柳中央病院				48日
	福士病院	非常勤医師	石坂 浩		5 日
	平賀病院				8日
	福士病院				48日
	平賀病院	非常勤医師	中村 典雄		9 日
	藤崎病院				2 日
	弘前小野病院				48日
	福士病院	非常勤医師	松永 敏郎		5 日
02年度	平賀病院				10日
02千茂	西北中央病院	非常勤医師	長谷川幸裕		48日
	町立大鰐病院				48∃
	福士病院	非常勤医師	森 康宏		3 日
	平賀病院		林原丛		1日
	藤崎病院				7 日
	白生会胃腸病院				48日
	福士病院	非常勤医師	吉町 文暢		5 日
	平賀病院	が市到区間	口叫人物		1 日
	藤崎病院				6 日
	尾野病院				48∃
	福士病院	非常勤医師	菅原 俊之		5 日
	平賀病院	が市到区間	日亦 仪之		7 日
	藤崎病院				1日
	黎明郷リハビリテーション病院	研究指導医	奥村 謙		48∃
03年度	黎明郷リハビリテーション病院	非常勤医師	長内 智宏		48∃
	増田病院	非常勤医師	高梨 信吾		48∃

	弘前小野病院			52日
	大館市立総合病院			4 日
	平賀病院	非常勤医師	花田 裕之	8日
	藤崎病院			4 日
	福士病院			5 日
	弘前中央病院			48日
	平賀病院	非常勤医師	中村 典雄	3 日
	藤崎病院	か市刻区剛	一 中们	8日
	福士病院			5 日
	板柳中央病院			48日
	大館市立総合病院			4 日
	平賀病院	非常勤医師	松永 敏郎	7 日
	藤崎病院			4 日
	福士病院			5 日
03年度	西北中央病院	非常勤医師	 長谷川幸裕	48日
	平賀病院	が市到区間	又行川十佰	10日
	白生会胃腸病院			48日
	大館市立総合病院	非常勤医師	吉町 文暢	4 日
	平賀病院	が市到区間		2 日
	福士病院			5 日
	大鰐町立病院			48日
	大館市立総合病院			3 日
	平賀病院	非常勤医師	横山 仁	7 日
	藤崎病院			3 日
	福士病院			5 日
	木造尾野病院			48日
	平賀病院	非常勤医師	 	3 日
	藤崎病院	が出到区間	137 ¹ ¹ 171 	1日
	福士病院			3 日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

該当なし。

17. 内科学第三講座

2002年度から1年間の目標:

- 1. 日本神経内分泌学会開催を成功させる。(平成16年)
- 2. 日本内分泌学会学術講演会開催を働きかける。
- 3. 内分泌、糖尿病診療に関する県内ネットワーク作りに努める。
- 4. 研修医の有益な研修ができる環境・プログラムを確保する。
- 5. 包括医療、院内感染対策、独立法人化に向けた仕事をできる範囲でサポートする。
- 6. 多くの人に神経内科領域の病気についての理解を深めてもらう。
- 7. 機会があれば講演活動を行いたい。
- 8. 糖尿病について、早期発見、早期治療の重要性を一般市民に啓蒙すること。
- 9. 地域医療への貢献。
- 10. 生活習慣病の治療・啓蒙を中心に、地域医療に貢献する。
- 11. 地域医療に関し、関連施設において助言、啓蒙を行う。
- 12. 厚生労働省特定疾患対策研究事業に協力する。
- 13. 内科専門分野における地域医療のあり方について提言して行く。

上記目標に対する到達度:

60%

2003年度から2年間の目標:

1. 内分泌, 糖尿病疾患の啓蒙。

【研究人員】

02年度	加索工品	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	6,	医員	7,	大学院学生	4,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本内分泌学会	理事		理事会	6 日
	日本神経内分泌学会	上 事	石田 冶 宁	理事会	4 日
	日本間脳下垂体腫瘍学会	世話人	須田 俊宏 	世話人会	2 日
02年度	日本内科学会	評議委員		評議員会	2 日
02平及	日本内科学会東北地方会	評 議 員	玉澤 直樹	評議員会	2 日
	日本内科学会(認定医制度審議会)	並送 禾日	小川 吉司	委員会	1日
	日本糖尿病学会	評議委員	小川 吉司	評議員会	2 日
	青森県膵疾患研究会	世話人	丹藤 雄介		1 日
		評 議 員			1日
	日本内科学会	支部評議員			3 日
		認定医制度審議会委員			2 日
	日本内分泌学会	理 事	 須田 俊宏		6 日
	日本間脳下垂体腫瘍学会	世話人	須田 牧仏 		2 日
03年度	日本糖尿病学会				
	日本神経内分泌学会	評 議 員			2 日
		理 事			3 日
	日本内科学会東北地方会	評 議 員	玉澤 直樹		3 日
	日本糖尿病学会 評議員会	評 議 員	小川 吉司		2 日
	日本消化吸収学会	評 議 員	丹藤 雄介		2 日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	Endocrine Journal	委 員			2 日
		査 読	 須田 俊宏		24日
02年度	Internal Medicine	委 員	須田 俊仏		4 日
02平皮		査 読			20日
	日本糖尿病学会	学会誌	小川 吉司		1日
		査 読	小川 盲町		
	J. Clin. Endocrinol. Metab	査読委員			1日
	Endocrimology	査読委員			1日
03年度	日本内科学会雑誌	Editor	須田 俊宏		3 日
03平皮	日本内分泌学会雑誌	Editor			
	Synapse(2件)				
	Marsden Fund	査読委員	冨山 誠彦		2 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職		氏	名	備考	日数
	日本内科学会100周年記念青森県市民	座	長	須田	俊宏		1日
	公開講座	講	師	玉澤	直樹		1日
	青森県糖尿病協会総会 講演会						1日
02年度	平成14年度 青森県栄養士会 生涯学習研修会	講	師	小川	吉司		1日
	板柳町健康教室 森田村健康づくりの集い			松井	淳		
	弘前大学総合文化祭 (新しい感染症とその征圧を目指して)						1日
	1) 平成15年度医学科公開講座 「あなたのための糖尿病講座」			玉澤 小川	直樹 吉司		1日
	2) 第14回青森県病院栄養士研修会						1日
03年度	3) 平成15年度青森県栄養士生涯学習研修会	演	者				2 日
	名川町市民公開講座						1 日
	浪岡町健康教室			松井	淳		1 日
	糖尿病療養指導実践研究会						1日
	青森県栄養士会 平成15年度生涯学習研修 会 「膵・胆・肝疾患の栄養障害」			丹藤	雄介		1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	厚生労働省「間脳下垂体機能障害調査研究 班」(分担研究者)	班員	須田 俊宏		1日
	社会保険診療報酬支払基金	審査委員	神成 一哉		30日
03年度	社会保険診療報酬支払基金	審査委員	神成 一哉		30日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	21世紀教育(テーマ科目主任)		須田 俊宏	最新医学の現状	2 日
02年度	産業医科大学大学院講義	助 手	丹藤 雄介		1 日
03年度	21世紀教育	テーマ科目主任	須田 俊宏		2 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	城東学園(専門学校)における臨床神経学の講義	非常勤講師	神成 一哉		5 日
	城東学園(専門学校)における臨床神経学の講義	非常勤講師	神成 一哉		5 日
03年度	第3回白生会胃腸病院研修会「糖尿病:自己 管理をどうサポートするか」	非常勤講師	丹藤 雄介		1 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	弘前大学	校 医	須田 俊宏		

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	板柳中央病院		須田	俊宏	外来	週1回
	鰺ヶ沢中央病院		玉澤	直樹	外来	週1回
	板柳中央病院内科			4t-	外来	50日
	むつ総合病院神経内科		作成	一哉	外来	12日
	厚生会 渡辺病院				外来	週1回
00年帝	本荘第一病院	北海郡区佐	小川	吉司	外来	月1回
02年度	鷹揚郷青森病院	非常勤医師			外来	月1回
	板柳中央病院		±/\ ++-	油	外来	週1回
	鷹揚郷腎研究所弘前病院		松井	淳	外来	月2回
	白生会胃腸病院(五所川原市)		丹藤	雄介	外来	週1
	本荘第一病院(本荘市)		万膝	瓜田グド	外来	月 1
	大館市立病院		蔭山	和則		週1回
	板柳中央病院		須田	俊宏		週1日
	鰺ヶ沢町立病院		玉澤	直樹		週1日
	厚生会 渡辺病院		抽式	一哉		50日
	本荘第一病院		竹竹及	一以		12日
	鷹揚郷青森病院					週1回
	板柳中央病院		小川	吉司		月1回
	むつ総合病院					月1回
	青森市民病院神経内科外来		信山。	誠彦		週1回
	むつ総合病院神経内科外来		шш	109.05		月1回
	板柳中央病院					週1回
03年度	鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	松井	淳		月2回
	白生会胃腸病院		127	13		週1回
	むつ総合病院				4月~9月	月2回
	白生会胃腸病院		 丹藤	雄介		52日
	本荘第一病院		7 3 338	744-7 I	10月~3月	12日
	大館市立病院		 	和則		週1回
	渡辺病院		1217	12/4		月1回
	公立七戸病院内科外来			哲		週1回
	むつ総合病院		-3//31	П		月1回
	野辺地病院			京 健		週1回
	むつ病院			,		月1回

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	第13回臨床検査部勉強会				1 日
02年度	平成14年度「日本糖尿病療養指導士認定試験 受験者のための勉強会」	助教授	玉澤 直樹		1 日
	厚生労働省特定疾患対策研究事業「難治性膵 疾患に関する調査研究班」	助手	丹藤 雄介		3 日

18. 老年科学講座

2002年度から1年間の目標:

- 「老年学」が広く国民に理解されるように努力する。
- 高齢者関節リウマチの至適治療法の確立
- 津軽地域のリウマチネットワーク作製
- リウマチ実践マニュアルの作成

上記目標に対する到達度:

市民公開講座、タウン情報誌「ふぃーらあ」「弘前」などを通じ、広く市民に対して老年医学を啓蒙することができた。到達度60%

高齢者関節リウマチの至適治療法の確立の到達度は50%

津軽地域のリウマチネットワーク作製については30%

リウマチ実践マニュアルの作成については70%

2003年度から2年間の目標:

長寿医学の情報を市民に向けて更に発信していく。

高齢関節リウマチの至適治療法の確立

津軽地域のリウマチネットワーク作製

【研究人員】

02年度	加索工品	教授	1,	助教授	0,	講師	1,	助手	1,	医員	1,	大学院学生	0,	研究生	1
02年度 03年度	研究人員	教授	1,	助教授	0,	講師	0,	助手	1,	医員	1,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役	役職		名	備考	日数
	日本老年医学会教育委員会	教	授	水島	豊	東京都	2 日
02年度	認定内科医資格試験の試験監督	講	講師		聡	東京都	1 日
	アメリカ内科学会フェローシップ授与式に日本 内科学会国際フェローシップ委員会委員として	助	手	浦田	幸朋	米国サンディエゴ	3 日
	日本呼吸器学会評議員会	評議員				東京	1 日
	日本呼吸器学会財務委員会	財務	委員			東京	1日
03年度	日本老年医学会東北地方会	評調	義 員	水島	豊	仙台	1日
	日本内科学会東北地方会	評調	義 員			仙台	1日
	日本老年医学会	教育	委員			東京	2 日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役	:職	氏	名	備考	日数
02年度	Internal Medicine	教	授	水島	豊	査読 2 編	
02千及	Chest	教	1又	小品	豆.	査読6編	
弘前医学 日本呼吸器学会雑誌					査読1編		
	日本呼吸器学会雑誌	教		水島	<i>竟</i> 豊	査読1編	
03年度	Geriatrics Gerontolgy International		授			査読2編	
05千度	Internal Medicine	子 X	1又	小局		査読1編	
	Chest					査読5編	
	東北ジャーナル					査読1編	

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
	• 第42回日本呼吸器学会市民公開講座					仙台市	1日
	• いきいき健康づくり講座	教	授	水島	豊	常盤村	1日
02年度	• ワークキャンパス大鰐町後援会					大鰐町	1日
	第9回青森リウマチ・ケア研究会 リウマチの新しい治療法について	助	手	浦田	幸朋	青森市	1 日
	弘前大学公開講座	教	授	水島	豊	八戸市	1 日
	日本リウマチ友の会医療講演会					八戸市	1日
03年度	日本リウマチ友の会医療講演会	нh	手	浦田	幸朋	弘前市	1日
	日本リウマチ友の会医療講演会	助	十	佣田		青森市	1日
	のぞみの会医療講演会					八戸市	1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	科学研究費委員会専門委員	教 授	水島 豊	弘前市	1 日
03年度	青森公安委員会指定医	教 授	水島 豊		0 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役	役職		名	備考	日数
02年度	(学)城東学園弘前ホスピタリティー	講	師	吉田	聡	弘前市	1 日
02千及	アカデミー作業療法科にてリハビリテーション概論	助	手	浦田	幸朋	74刊刊	2 日
	弘前ホスピタリティーアカデミー	教	授	水島	豊	弘前市	1日
00年度	青森県看護協会	叙		小局	豆		1 日
03年度	弘前ホスピタリティーアカデミー	助	手	浦田	幸朋	弘前市	2 日
	弘前ホスピタリティーアカデミー	医	員	水野	宏	弘前市	1日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役	役職		名	備考	日数
	津軽保健生活共同組合健生病院					弘前市	34日
	津軽保健生活共同組合健生病院	講	師	吉田	聡	弘前市	34日
02年度	医療法人芳真会梅村病院					弘前市	14日
	ときわ会病院	114.	力 手	海田	浦田 幸朋	常盤村	100日
	津軽保健生活共同組合健生病院	助		/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /		弘前市	10日
03年度	ときわ会病院	助	手	浦田	幸朋	常盤村	100日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	陸奥新報 即効性優れるリウマチ新薬	助 手	浦田 幸朋	2003.10.22	1日

19. 神経精神医学講座

2002年度から1年間の目標:

- ◆ 教育・診療・研究の一層の水準向上
- ◆ 地域精神科医療の機能的役割分担の推進
- ◆ 地域医療、特にプライマリ・ケア医としての役割を果たしていく
- ◆ 琉球大学医学部精神神経科学講座教授として、沖縄県における精神保健を一層充実させたい。
- ◆ これまでの津軽広域連合介護認定審査会を中心とした老人介護医療や青森県公安委員会指定医を中心とした 交通安全活動への貢献を引き続き行う。新たに、学校職員精神性疾患休職等審査会委員として県教育委員会の 活動に協力し、さらに、青森県精神医療審査会委員として医療保護入院や措置入院の審査、退院請求の審査な ど精神疾患患者の人権に関わる精神保健の充実に努める。また新たに、弘前大学保健管理センター学校医とし て弘前大学学生、養護学校生の精神保健に努めると共に、弘前大学医学部附属病院リスクマネージャーとして、 附属病院の医療事故防止に努める。
- ◆ 児童思春期精神医学の臨床を児童思春期外来だけでなく、児童相談所(嘱託医として)、学校(スクールカウンセラーアドバイザーとして)さらには、地域の講演活動を通じて啓蒙を含めて展開していくこと。

上記目標に対する到達度:

兼子:地域精神科医療の機能的役割分担を推進し、一方では本県における自殺の問題を県立精神保健センターと共同で検討を開始した。その他の委員会、学会、雑誌編集に協力するなど、地域社会へ十分に貢献した。

矢部:津軽広域連合介護認定審査会を中心とした老人介護医療や青森県公安委員会指定医を中心とした交通安全活動への貢献を引き続き行う。新たに、学校職員精神性疾患休職等審査会委員として県教育委員会の活動に協力し、さらに、青森県精神医療審査会委員として医療保護入院や措置入院の審査、退院請求の審査など精神疾患患者の人権に関わる精神保健の充実に努める。また新たに、弘前大学保健管理センター学校医として弘前大学学生、養護学校生の精神保健に努めると共に、弘前大学医学部附属病院リスクマネージャーとして、附属病院の医療事故防止に努める。以上はほぼ全て達成された。

栗林:児童相談所(嘱託医として),学校(スクールカウンセリングアドバイザーとして),地域の講演活動を通じて啓蒙を含めて,1年間にわたり展開でき、目標はかなり達成できている。

岡田:目標到達は充分と判断する。

晝間:2003年7月以来,学外の医学教育や地域精神医療に提言する場が少なかったため,目標が達成されたとはいったい。

篠崎:地域医療,特にプライマリ・ケア医としての役割を果たしていくために,地域の精神病院での診療,さらには啓蒙活動を行った。

2003年度から2年間の目標:

兼子:学術振興会専門委員として、国の科学研究費の配分システムの構築に努力する。

矢部:津軽広域連合介護認定審査会を中心とした老人介護医療や青森県公安委員会指定医を中心とした交通安全活動への貢献、学校職員精神性疾患休職等審査会委員として県教育委員会の活動に協力し、さらに青森県精神医療審査会委員として医療保護入院や措置入院の審査、退院請求の審査など精神疾患患者の人権に関わる精神保健の充実に努める。また、弘前大学保健管理センター学校医として弘前大学学生、養護学校生の精神保健に努めると共に、弘前大学医学部附属病院リスクマネージャーとして、附属病院の医療事故防止に努める。

栗林:児童相談所,学校,地域の講演活動に加えて,教育委員会,他の病院をも含めた連携を強化し,臨床および研究の展開をはかっていくこと。

岡田: 医学・科学技術の進歩に貢献すべく社会活動に積極的に参加する。

晝間:学外の医学教育に対して可能な限り協力する。 地域精神医療のあり方について提言していく。

篠崎:引き続き、地域医療、特にプライマリ・ケア医としての役割を果たしていく。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	6,	医員	6,	大学院学生	6,	研究生	22
03年度	切九八貝	教授	1,	助教授	1,	講師	4,	助手	6,	医員	0,	大学院学生	4,	研究生	14

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	日本精神神経学会	会 員			東京	1 日
	日本てんかん学会	理 事			東京・大阪	2 日
	日本精神神経薬理学会	評議員			東京	1 日
	日本臨床神経精神薬理学会	理 事			東京	1 日
	日本行動遺伝学会理事	理 事			東京	1 日
	日本総合病院精神医学会	評 議 員	兼子	直	東京	1 日
	日本神経学会	会 員			東京	1 日
	英国薬理学会	会 員				
	日本アルコール医学会	理 事			東京	1 日
02年度	日本精神科診断学会	評 議 員			東京	1 日
02平度	日本生物学的精神医学会	会 員			東京	1 日
	日本臨床神経精神薬理学会	理 事	近藤	毅	東京	2 日
	日本臨床精神生理学会	評議員			東京	1 日
	(旧 日本脳波・筋電図学会)	広報委員	矢 部	博興	東京	2 日
	北日本 ME 技術者会後接会	会計幹事	大部			
	日本生体磁気学会	評 議 員				
	東北児童青年精神医学会	評 議 員	栗林	理人		1 日
	青森県ニューロトランスミッター懇話会	幹 事	岡田	元宏	弘前市	1 日
	日本内科学会専門医会	国際フェローシップ委員	天保	常明	東京都	2 日
	日本心療内科学会	入会資格審査委員	入休		東京都	2 日
	日本精神神経学会	評議員			東京	1日
	日本てんかん学会	理 事			東京・大阪	2 日
	日本精神神経薬理学会	評議員			東京	1 日
	日本臨床精神神経薬理学会	理 事			東京	1 日
	日本行動遺伝学会	理 事			東京	1 日
	日本総合病院精神医学会	評議員	兼子	直	東京	1日
	日本神経学会	会 員			東京	1日
	英国薬理学会	会 員				
03年度	日本アルコール医学会	理 事			東京	1日
	日本精神科診断学会	評議員			東京	1日
-	日本生物学的精神医学会	会 員			東京	1日
	日本臨床神経生理学会(旧脳波•筋電図学会)	評議員			東京	1日
	北日本 ME 技術者会後援会	会計監事			東京	0 日
	日本臨床神経生理学会(旧脳波•筋電図学会)	広報委員会委員	矢部	博興	東京	2 日
	日本生体磁気学会	評議員			東京	0 日
	日本臨床神経生理学会(旧脳波•筋電図学会)	プログラム委員			東京	7 日
	東北児童青年精神医学会	評 議 員	栗林	理人		1日

(2) 学会などの開催

	件名	役	役職		名	備考	日数
	国際うつ病フォーラム in 弘前					外国人講演者1名を含む	1
02年度	臨床てんかん学ミニシンポジウム	6回神経精神薬理研究会 会 長	兼子	直	外国人講演者2名を含む	1	
02千段	第26回神経精神薬理研究会		X	飛丁	<u></u>		1
	第27回神経精神薬理研究会						1
	第13回日本精神神経薬理学会					弘前市	3
03年度	第28回精神科治療研究会	会	長	兼子	直	弘前市	1
	第29回精神科治療研究会					弘前市	1

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	Tohoku Jouranal of Experimental Medicine	編集委員				12日
	Psychiatry & Clinical Neurosciences	advisary editor				4 日
	弘前医学	編集委員				3 日
	精神医学	編集同人				
	臨床精神医学	編集顧問				
	最新精神医学	編集同人				
	分子精神医学	編集同人	兼子	直		
	脳21	編集協力者				5 日
	臨床精神薬理	編集協力者				2日
	Epilepsia	査 読				3 日
		査 読				
02年度	Epilepsy Res					3 日
	Reproductive Toxicology					3 ⊟
	Biological Psychology	Associate Editor	h- +17	rth Æl		182日
	Clinical Neurophysiology	査 読	矢部	博興		7日
	Psychiatry and Clinical Neuroscience	査 読				7日
	J Neurosci					50日
	Eur J Neurosci					50日
	Pharmacol Toxicol					50日
	TIPS	査 読	岡田	元宏		50日
	Epilepsia					50日
	Neurosci					50日
	Brain Dev					50日
	Tohoku Journal of Experimental Medicine	編集委員				12日
	Psychiatry & Clinical Neurosciences	Advisary Editor				7 日
	弘前医学	編集委員				3 日
	精神医学	編集同人				
	臨床精神医学	編集顧問				1日
	最新精神医学	編集同人				
	分子精神医学	編集同人				1日
	脳21	編集協力者	兼子	直		5 日
	臨床精神薬理	編集協力者				2 日
	Epilepsia	査 読				3 日
	Epilepsy Res	査 読				3 日
	Reproductive Toxicology	査 読				3日
03年度	Lancet	査 読				3日
	Lancet Neurology	査 読				3日
	Pharmacogenetics	査 読				3日
	Biological Psychology	Associate Editor			13編	182日
			左 如	由由		
	Clinical Neurophysiology	査 読	矢部	博興	1編	7日 7日
	Psychiatry & Clinical Neuroscience	査 読			1 編	7日
	J Neurosci					50日
	Neuropharmacol					50日
	Epilepsy Res	査 読	岡田	元宏		50日
	Neurosci Lett					50日
	Brain Dev					50日
	J Pharmacol Sci					50日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	みちのく銀行大学病院前支店グリーンクラ ブ健康講座「痴呆について」				弘前市	1日
02年度	東北電力㈱平成14年度精神健康講座「躁うつ 病について」		兼子	直	五所川原市	1日
	東北電力㈱平成14年度精神健康講座「躁うつ 病について」				弘前市	1日

	東北電力 (㈱平成14年度精神保健研究会「各店所のメンタルヘルスの相談内容と対策について」						仙台市	1日
	東台病院「社会的引きこもり」						大館市	1 日
	青森県老人保健施設協会津軽支部(青森県老人保健施設協会津軽支部職員)「高齢者の精神障害の特徴について」				近藤	毅	弘前市	2 日
	(財)介護労働安定センター介護労働講習会(公 共職業安定所から受講指示を受けた者, 看護師 家政婦紹介登録者)「障害・疾病の理解」				矢部	博興	弘前市	2 日
	青森県児童相談所: 平成14年度ふれあい心の 友訪問事業事前研修会(県職員・一般市民(メ ンタル・フレンド))「精神医学の知識について」						弘前市	1日
	青森県総合社会教育センター:平成14年度家庭教育インストラクター養成講座(市町村教育委員会の推薦を受け家庭教育支援を目指す人)「乳幼児期・学童期の子どもの心の病気」「思春期の子どもの心の病気」「思春期の発達課題と特徴」						青森市	1日
02年度	西北地方健康福祉こどもセンター:平成14年度第1回地域保健関係者研修会(医療機関職員・警察署職員・市町村職員・子育てメイト・学校関係者・保育所関係者・子育て支援センター職員・西北地方健康福祉センター職員)「子どもの虐待一その発見と関わり方一」						五所川原市	1日
	青森県立弘前中央高等学校父母と教師の会 (弘前中央高等学校1学年保護者,校長,共 闘,1学年教師団)「思春期の心の行動」				栗林	理人	弘前市	1日
	青森県子ども家庭支援センター青森市自閉症児・ 者を持つ親の会(青森市自閉症・児を持つ親の会 会員(親・教師・施設職員、他)「いま医療のサイ トから出来る自閉症児・者のためのサポート」						青森市	1日
	東北アルコール関連問題研究会(東北アル コール関連問題研究会会員)「アディクショ ンと思春期問題」						三沢市	1日
	西北五高等学校養護教諭研究会(西北五高等学校養護教諭)						五所川原市	1日
	青森県教育委員会:健康相談活動支援体制整備事業講師(青森県教職員)						平賀町	1日
	(社)弘前市医師会(弘前市医師会学校医)						弘前市	1日
	弘前市学校保健会: 弘前市学校保健会研修会 (弘前市教職員)「LD (学習障害&ADHD (注 意欠陥多動性障害) への取り組み						弘前市	1日
	八戸精神科医会:薬物の効果は予測可能か?						八戸市	1日
	静岡県東部精神科医会: 抗精神病薬の効果予測						沼津市	1日
	第15回山口てんかん研究会: てんかんの分子病態						宇部市	1日
	心のヘルスアップフォーラム:みんなで考えよう!こころの健康づくり(シンポジウム:中高年のこころの健康一自殺予防のためにできること)	教	1	受	兼子	直	弘前市	1日
03年度 -	東北電力(株)平成15年度精神健康講座:精神 変調のサインと対策						八戸市, 十和田市, 三沢市, 青森市	4日
00千戊	介護労働講習(訪問介護員要請研修2級課程) 「こころの健康」(うつ病講演)	助	教扌	受	矢部	博興	弘前市 黒石市	2 日 1 日
	平成15年度青森県母子保健指導者研修会: 思春 期の心 SOS ―児童思春期外来の現状から―							1日
	小・中・高等学校での講演・研修会:教職員 のメンタルヘルスについて,他4件	講	É	币	栗林	理人		4日
	平成15年度ふれあい心の友訪問援助事業事 前研修会:子どもの精神医学							1 日

	平成15年度家庭教育インストラクター要請 講座:乳幼児期•学童期の子どもの心の病気, 思春期の子どもの心の問題				1日	
03年度	思春期問題研修会: 思春期のこころの病気と 初期対応のポイント	講	師	栗林 理人	1日	
	平成15年度黒石市13小5中PTA合同研修 会:児童・思春期のこころ				1日	
	健康相談活動支援体制整備事業:事例検討				1 日	

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	科学研究費委員会	専門委員				7 日
_	青森県公安委員会	専門委員				1日
	青森県精神医療審査会委員	委 員				6 日
	労働福祉事業団青森産業保健推進センター	産業保健相談員	兼子	直		6 日
	津軽地域保健医療推進協議会	委 員				2 日
	弘前市心身障害児就学指導委員会	委員•専門員				10日
	青森県精神保健福祉審議会	会 長				2 日
	青森県身体障害者更生相談所	嘱託医				24日
02年度	弘前市教育委員会	学校保健指導医	近藤	毅		3 日
	青森県精神医療審議会	委 員	<u></u>	敎		9 日
	青森県教育委員会学校職員精神疾患休職等審査会	委 員				3 日
	津軽広域連合介護認定審査会	委 員	左如	博興		18日
	青森県公安委員会「運転適性検査」	指定医	矢部			0 日
	弘前児童相談所	嘱託医				24日
	青森県教育委員会	スクールカウンセラー	亜壮	理人		13日
	弘前市心身障害児就学指導委員会	専門医	米 你	垤八		9 日
	健康寿命アップ計画推進委員会	委 員				2 日
	科学研究費委員会	専門委員				7 日
	青森県公安委員会	専門委員				1日
	青森県精神医療審査委員会	委 員		直		6 日
	労働福祉事業団青森産業保健推進センター	産業保健相談員	兼子			6 日
	津軽地域保健医療推進協議会	委 員				2 日
	弘前市心身障害児就学指導委員会	委員専門員				10日
	青森県精神保健福祉審議会	会 長				2 日
	津軽広域連合介護認定審査会	委 員				18日
03年度	青森県公安員会「運転適性検査」	指定医				0 日
05年度	青森県精神医療審査会	委 員	左 .如	博興		14日
	青森県学校職員精神性疾患休職等審査委員会	委 員	大郎	诗典		4 日
	津軽地域精神科救急医療システム連絡調整	委員				1日
	委員会					т П
	弘前児童相談所	嘱託医				
	弘前更生相談所	嘱 託 医	更	理人		
	スクールカウンセラー	相談員		工八		
	弘前市就学指導委員会	専門員				
	津軽広域連合•介護認定審査会	委 員	晝間	臣治		16日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	特開2002-136289	発 明 人	兼子 直	平成14年5月14日	
03年度	良性家族性新生児けいれん関連遺伝子変異 と良性家族性新生児けいれん診断法(開発 者・権利者名:兼子,廣瀬伸一,宮島佑, 岡野創造,特願2003-369584号,2003年10月 29日出願,出願中)	教 授	兼子 直		

03年度	乳児重症ミオクロニーでんかん関連遺伝子変異と乳児重症ミオクロニーでんかん診断方法(発明者名:兼子直,廣瀬伸一,福間五龍,山川和弘,小国弘量,白坂幸義,祖父江文子,宮島佑,松尾宗明,安元佐和,吉良龍太郎.権利者名:JST(81%),理研(19%).特願2003-132280号. 2003年5月9日.出願中)					
------	---	--	--	--	--	--

(7) 産学共同事業への参加

	件名	役職	氏	名	備考	日数
02年度	パブリックヘルスリサーチセンター 財団神経伝達物質研究会	選考委員	兼子	直		1 日
03年度	パブリックヘルスリサーチセンター 財団神経伝達物質研究会	選考委員	兼子	直		1 日

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	産業医科大学(大学院)					1 日
	弘前大学教育学部	非常勤講師	近藤	毅		24日
	東北女子大学					24日
	共通教育講義(全学部1・2年)病気の科学 (人の成長と心の科学)					5 日
02年度	21世紀教育講義(全学部1・2年)メンタル ヘルス:全学部講義	北帝耕港临	左如	田出		2 日
	弘前大学医学部保健学科 (旧医療技術短期大学部) 2 年講義	非常勤講師	行的	了 博興		5 日
	弘前大学医学部保健学科(旧医療技術短期大学部)2年実習					1日
	弘前女子厚生学院		栗林	理人		
	医療技術短期大学部		篠崎	直子		
	21世紀教育講義 (全学部 1 学年から 2 学年): メンタルヘルス,全学部講義					2 日
03年度	弘前愛学医学部保健学科(旧医療技術短期大学部)2学年講義	非常勤講師	矢部	博興		5 日
	弘前大学医学部保健学科(旧医療技術短期大学部)3学年講義					1日
	弘前大学教育学部養護教諭養成課程2学年					8日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	弘前大学医学部鵬桜会秋田県支部(弘前大学 医学部鵬桜会秋田県支部会員)「てんかんは 遺伝するのか?」				秋田市	1日
	岐阜エピレプシー研究会 (岐阜エピレプシー 研究会会員 (医師))「てんかんの分子病態」				岐阜市	1日
	岩手県精神医会(神経精神科専門医、病院勤務 医、開業医)「てんかんの遺伝子診断の可能性」		兼子	直	盛岡市	1日
02年度	第1回武蔵野エピレプシー・カンファランス (精神科医, てんかん専門医, 小児科医, 脳外 科医) 特別講演「てんかんの分子病態」				東京都	1日
	第2回精神医学学術講演会(精神科医)「抗精神病薬の効果予測				津市	1日
	日本イーライリリー (精神科医及び薬剤師) 「新薬で変わる分裂病治療に関する学術講演 会・特別講演における座長		近藤	毅	弘前市	1日

	北五医師会学術講演会(北五地区医師)「うつ 病性障害の分類とその治療」					五所川原市	1日
	第26回神経精神薬理研究会 (神経精神薬理研究会会員 (医師))「バルプロ酸併用後に著効をみた知的障害を伴う精神分裂病の1例」					弘前市	1 日
	国際うつ病ファーラム in 弘前(医師,医療スタッフ,薬剤師)「Strategies for Managements of Depression on Outpatients Practice(外来でのうつ病の治療戦略)」における座長					弘前市	1日
	弘前市精神科医会 (精神科医) 「解離性同一性 障害の経験的考察」					弘前市	1日
02年度	青森県小児保健協会夏季懇談会シンポジウム(青 森県小児保健協会会員(小児科医))「不登校」			栗林	理人	青森市	1 日
	第6回神経伝達物質研究会(神経伝達物質研究会会員(医師)) 「ニコチン性アセチルコリン受容体機能変化としての"てんかん"病態の解明とアセチルコリン受容体開口分泌機構制御を作用機序としたてんかん治療薬開発法の提言」			岡田	元宏	東京都	1日
	㈱ツムラ:平成14年度大学勤務医のための漢 方医学セミナー札幌(医師)「精神科医の立場 から」				英明	札幌市	1 日
	バクスター㈱仙台支店: CAPD ナースカレッ ジ・トレーナーコース (東北六件下の看護師) 「CAPD に伴う精神的問題について」			入休	类明	仙台市	1 日
03年度	第37回日本てんかん学会プレコングレスサ テライトシンポジウム:てんかんと遺伝子 『概説:てんかんの遺伝子解析の進歩と展望』	教	授	兼子	直	仙台市	1 日
03 牛皮	第7回神経伝達物質研究会:神経伝達物質及び開口分泌機序の最近の知見,(財)パブリックヘルスリサーチセンター	講	師	岡田	元宏	東京都	1 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	弘前大学保健管理センター	学校医	近藤 毅		48日
02年度	弘前大学医療技術短期大学部入学選抜健康 診断(神経科精神科)	委員	矢部 博興		0 日
03年度	弘前大学医療技術短期大学部の入学選抜の 健康診断(神経科精神科)	助教授	矢部 博興		0 日
	弘前大学保健管理センター				0 日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	「LD59ブリッジング試験てんかんを対象と したプラセボとの二重盲検比較試験」治験調 整委員会	治験調整委員				2 日
	財団法人愛成会(無報酬)	研究所長				2 日
	ファイザー製薬㈱「CI-945(Gabapentin)臨 床試験	治験調整委員	兼子	直		2 日
02年度	東北電力㈱	非常勤医師				12日
02平皮	弘前愛成会病院	指導嘱託医				24日
	黒石病院	非常勤医師				24日
	黎明郷リハビリテーション病院	非常勤医師	近藤	毅		24日
	国立弘前病院					12日
	浪岡町立病院	北労勘医師	矢部	部博興		12日
	黒石病院	非常勤医師	大部			12日
	布施病院					12日

	青森市民病院	非常勤医師	栗林	理人		24日
	布施病院	非常勤医師	岡田	元宏		24日
	浪岡町立病院					24日
	布施病院	非常勤医師	三原	一雄		12日
00左座	黒石病院					12日
02年度	国立弘前病院					12日
	布施病院	非常勤医師	篠崎	直子		24日
	黒石あけぼの病院					12日
	布施病院	非常勤医師	天保	英明		24日
	鷹揚郷腎研究所弘前病院	升用勤区 删	入体			24日
	「LD59ブリッジング試験 てんかんを対象	治験調整委員				2 日
	としたプラセボとの二重盲検比較試験」	印映明正安兵				2 11
	財団法人愛成会	研究所所長				2 日
	ファイザー製薬(株)「CI-945(Gabapentin) 臨床試験」	治験調整委員	兼子	直		2 日
	東北電力㈱	非常勤医師				12日
00年度	弘前愛成会病院	指導嘱託医				24日
03年度	黒石病院	非常勤医師				24日
	浪岡町立病院				月2回	24日
	国保 黒石病院	非常勤医師	矢部	博興	月1回	12日
	国立弘前病院				月1回	12日
	布施病院	非常勤医師	岡田	元宏	月2回	24日
	布施病院	非常勤医師	三浦	淳	月2回	24日
	鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師	晝間	臣治	月2回	18日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	東京都医学研究機構•東京精神医学総合研究所	客員教授				
02年度	統合失調症,弘大が治療法開発へ		兼子	直	東奥日報 平成14年9月5日	
	てんかんの正しい知識について				東奥日報 平成14年10月20日	

20. 小児科学講座

2002年度から1年間の目標:

- 1. 学会の役員、評議員としての任務を全うする。
- 2. 講演, 講義の依頼があれば積極的に協力する。
- 3. 大学での本務に支障のない範囲で地域医療に貢献する。
- 4. 日本腎臓学会学術評議員として腎臓病、特に小児の腎臓病についての啓蒙活動(医師会レベルでの講演会、市 民公開講座その他)を行う。また、日本腎臓学会専門医試験の試験問題作成を行う。
- 5. 青森県国民健康保険審査委員として、小児科領域の適正な保険診療を指導する。
- 6. 専門領域の学術雑誌の査読を担当する。
- 7. 学外からの要請があれば、講演等を通して県民の疾病理解の向上、予防医学の推進、小児保健の充実に寄与していきたい。
- 8. これまで特に社会貢献に関わる活動をしていません。今後、機会があれば積極的に関っていきたい。
- 9. 地域の小児医療の充実させるため、地方会などを主催し、小児科医のレベルの向上に努める。
- 10. 小児血液学の進歩のため、小児血液学会、日本血液学会などで役員として活動する。

上記目標に対する到達度:

前回設定した目標はほぼ到達できたと思われる。

2003年度から2年間の目標:

- 1. 地域の小児医療の充実させるため、地方会などを主催し、小児科医のレベルの向上に努める。
- 2. 学会の役員、評議員としての任務を全うする。
- 3. 講演, 講義, 学術雑誌の査読等の依頼があれば積極的に協力する。
- 4. 大学での本務に支障のない範囲で地域医療に貢献する。
- 5. 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員として任務を全うする。

【研究人員】

02年度	瓜龙人吕	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	6,	医員	3,	大学院学生	3,	研究生	2
03年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	4,	医員	4,	大学院学生	4,	研究生	3

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	小児血液学会評議員会	評 議 員			1日
	日本血液学会評議員会	評議員			1日
	日本血液学会認定医試験委員会	委 員	伊藤 悦朗		1日
	日本小児保健協会理事会	理 事			1日
	日本小児保健協会支部長会	支 部 長			1日
02年度	日本小児科学会代議員会	代議員			1日
	日本小児循環器学会評議員会	評 議 員	高橋 徹		1日
	日本腎臓学会	学術評議員	田中 完	学術評議員会参加	2 日
	日本小児科学会青森地方会 青森県小児神経談話会			弘前市	
		幹 事	藤田 浩史	青森市	3日 2日
				八戸市	2 Ц
	小児血液学会評議員会	評議員			1日
	日本血液学会評議員会	評 議 員			1日
	日本血液学会専門医認定委員	委 員	伊藤 悦朗		1日
03年度	日本小児保健協会理事会	理 事			1日
	日本小児保健協会支部長会	支 部 長			1日
	日本小児科学会代議員会	代議員			1日
	日本小児循環器学会評議員会	評議員	高橋 徹		1日

	日本腎臓学会学術評議員会	学術語	平議員	田中	完	東京都	2 日
03年度	日本小児白血病リンパ腫研究グループ乳児 白血病委員会	委	員	高橋	良博	東京	4 日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本小児科学会青森地方会				3 日
	青森小児血液腫瘍研究会	会長			1日
02年度	青森県小児保健協会夏期懇談会		伊藤 悦朗		1日
	青森県小児保健協会総会・学術集会		伊藤 沈朗		1日
	青森県リュウマチ懇話会	当番幹事			1日
	青森県周生期研究会	会 長			1日
	日本小児科学会青森地方会				3 日
	青森小児血液腫瘍研究会	会長			1日
	青森県小児保健協会夏期懇談会	会 長	伊藤 悦朗		1日
00左连	青森県小児保健協会総会・学術集会		伊藤 沈朗		1日
03年度	第3回東北出世前医学研究会	小平松市			1日
	第5回東北血液病学セミナー	当番幹事			1日
	第18回東北小児喘息アレルギー研究会	会 長	田中 完	弘前市	1日
	青森県小児神経談話会	幹 事	藤田 浩史		1日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本小児科学会雑誌査読		高橋 徹		1日
02年度	Pediatric International 査読		回1筒 1取		1日
	Pediatric Nephrology 誌	referee	田中 完	論文査読	3 日
	Genes to Cells (査読)				1日
	Blood (査読)	査 読	伊藤 悦朗		2 日
03年度	日本臨床血液学会誌「臨床血液」(査読)				1日
03平及	Pediatric International 査読	査 読	高橋 徹		1日
_	Tohoku J EXP Med 査読	11. 武	回1筒 1取		1日
	日本小児アレルギー学会誌	査読委員	田中 完		1日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	弘前大学医学部市民公開講座	教 授	伊藤 悦朗		1日
	長期療養児支援ネットワーク講演	助教授	高橋 徹		1日
	弘前大学医学部市民公開講座	講師	田中 完	小児喘息ついて講演	1日
	青森県心臓病のこどもを守る会総会	講師	佐藤 工		1日
03年度	成育医療研究会講演		高橋 徹		1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	青森県感染症発生動向調査委員会	委員長			1日
	青森県小児救急医療対策協議会	委 員			1日
	青森県小児慢性特定疾患対策協議会	委員長	伊藤 悦朗		1日
	青森県周産期母子医療対策専門部会	委 員	げ 豚 九 奶		1日
02年度	青森県小児がん等調査委員会	委員長			2 日
-	青森県小児がん等調査委員会実務検討委員会	安貝区			2 日
	青森県地域保健医療対策協議会周産期母子 医療対策専門部会委員	助教授	高橋 徹		2 日
	青森県国民健康保険審査委員会	審査委員	田中 完		35日
	青森県小児がん等調査委員会				2 日
	青森県小児がん等調査実務検討委員会	委員長			2 日
03年度	青森県小児慢性特定疾患対策協議会	安貝区	伊藤 悦朗		1日
	青森県感染症発生動向調査企画委員会				1日
	津軽地区保健医療圏小児救急医療対策協議会	委 員			1日

00左座	青森県地域保健医療対策協議会周産母子医 療対策専門部会	委 員	高橋	徹		2
03年度	青森県国民健康保険審査会	審査員	田中	<i>=</i>	青森市	35 ⊟
	弘前市学校検尿判定委員会	判定委員	田里	完	弘前市	1日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森県小児がん等調査委員会 先天性副腎過形成症マス・スクリーニング検査 先天性甲状腺機能低過症マス・スクリーニン グ検査	委員長	伊藤 悦朗		

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	共通教育	教 授	伊藤 悦朗		2 日
00年度	21世紀教育	秋 权	F K C C C C C C C C		3 日
02年度 -	共通教育	助教授	高橋 徹		3 日
	21世紀教育	助教技	高橋 徹		2 日
	21世紀教育	教 授	伊藤 悦朗		3 日
03年度	21世紀教育	助教授	高橋 徹		3 日
	弘前臨床検査勉強会	特別講演講師	田中 完	弘前市	1 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
02年度	青森県小児科医会講演	助教授	高橋	徹		1 日
03年度	第375回山形市小児科集団会	特別講演講師	田中	完	山形市	2 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	弘前市学校検尿判定委員会	委 員	田中 完		1 日
02年度 -	乳幼児健診,予防接種	助 手	藤田 浩史		10日
03年度	五戸総合病院における五戸町内の予防接種, 小中学校の内科健診	非常勤医師	田中 完	五戸町	30日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	鯵ケ沢町立中央病院	教 授	伊藤 悦朗		週1回
	公立野辺地病院	助教授	高橋 徹		週1回
	県立北上病院	助教技	同備 100		隔月1回
	秋田赤十字病院				月1回
	五戸総合病院	講師	田中 完		週1回
	県立北上病院	神 神	四十 元		月1回
	青森労災病院				月1回
	弘前市立病院	講師	佐藤 工		第2,4土
02年度	五戸総合病院	마는 비비	圧除 上		第1,3金
	弘前市立病院				月1回
	十和田市立病院	助手	藤田浩史		月1回
	五戸総合病院	- 助 于 	際田 佰文		期間中10回
	三沢市立病院				週1回
	町立大鰐病院				週1回
	浪岡町立中央病院	助 手	照井 君典		第2,4土
	三戸中央病院				週1回
	町立大鰐病院	助 手	高橋 良博		期間中8回

	五戸総合病院			期間中12回
	十和田市立中央病院			毎週月曜日
	県立北上病院			月1回
00年度	公立野辺地病院	助 手	中畑 徹	週1回
02年度	町立大鰐病院			期間中8回
	公立金木病院			第1,3,5土
	西北中央病院	助 手	佐々木伸也	週1回
	町立大鰐病院			期間中8回
	鯵ヶ沢町立中央病院	非常勤医師	伊藤悦朗	週1回
	公立野辺地病院	非常勤医師	高橋 徹	1日/週
	県立北上病院	井市 割区師	同個 110	1日/2ヶ月
	五戸総合病院			30日/年
	青森労災病院	非常勤医師	田中 完	12日/年
	秋田赤十字病院	か 市 刧 区 剛	四十 元	12日/年
	岩手県立北上病院			12日/年
	大館市立総合病院			1 日/週
	十和田市立中央病院	非常勤医師	藤田 浩史	1 日/月
03年度	弘前市立病院	か市到区間	豚田 佰文	1日/月
03千茂	五戸総合病院			25日/年
	浪岡町立病院			2 日/月
	大鰐町立病院	非常勤医師	高橋 良博	8日/年
	十和田市立中央病院			1 日/月
	大鰐町立病院			15日/年
	西北中央病院	非常勤医師	佐々木伸也	1 日/週
	公立金木病院			3 日/月
	北上病院			1 日/月
	公立野辺地病院	非常勤医師	中畑 徹	1 日/週
	大鰐町立病院			15日/年

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	骨髄移植推進財団ドナーコーデイネート	調整医師	伊藤 悦朗		5 日
	骨髄移植推進財団ドナーコーデイネート	調整医師	伊藤 悦朗		7 日
03年度	第6回成育医療研修会	助 丢	立怪 立体	弘前市,岩木町	1 日
	青森県臓器移植推進講演会	助 手 	高橋 良博		1 日

21. 外科学第一講座

2002年度から1年間の目標:

心臓血管外科および呼吸器外科関連の学会活動を活発に行うとともに、評議員として学会の運営に積極的に協力する。

地域の医療施設との連携を緊密に行い、専門分野の知識の普及と医療水準の向上に寄与する。

上記目標に対する到達度:

達成した。

2003年度から2年間の目標:

心臓血管外科および呼吸器外科関連の学会活動を活発に行う。

地域の医療施設との連携を緊密に行い、専門分野の知識の普及と医療水準の向上に寄与する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	3,	助手	5,	医員	5,	大学院学生	2,	研究生	2	
03年度		教授	1,	助教授	1,	講師	3,	助手	5,	医員	4,	大学院学生	3,	研究生	2	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本脈管学会	評議員		東京	1 日
	日本血管内治療学会	計 戦 貝		東京	1日
	日本外科学会	試験委員	福田の幾夫	東京・札幌	3 日
	東北外科集談会		一個田	秋田	1日
	日本血管外科学会東北地方会	世話人		秋田	1日
02年度	東北血管作動薬研究会			秋田	1日
	日本移植学会	評議員	高谷 俊一		1日
	日本内視鏡外科学会	評議員		東京	1日
	内視鏡外科フォーラム		 對馬 敬夫	盛岡	1日
	青森呼吸器研究会	幹事	11 例 吸入	青森	1日
	青森内視鏡外科研究会			青森	1日
	日本血管内治療学会				
	日本脈管学会	評議員	 福田 幾夫		
	日本静脈学会	田賊只	1田田 及八		
	日本血管外科学会				
03年度	日本内視鏡外科学会	評 議 員		東京	1 日
	内視鏡外科フォーラム	世話人		福島	1 日
	青森呼吸器研究会	幹 事	對馬 敬夫	青森	1日
	青森内視鏡外科研究会	平 事		青森	1 日
	東北肺癌研究談話会	世話人		仙台	1日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	第15回青森呼吸器研究会	当番世話人	福田・幾夫	青森	1 日
02平皮	第2回心臓血管外科津軽海峡カンファレンス		一個田	青森	1日
00年度	第1回青森末梢血管懇話会	当番世話人	岩田 総士		1 日
03年度	第7回青森移植研究会		福田幾夫		1 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
02年度	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	査 読 者	福田	幾夫		2 日
	J Thorac Cardiovasc Surg	Guest reviwer				1 日
	Ann Thorac Surg	Guest reviwer	福田	幾夫		1日
03年度	Jpn J Thorac Cardiovasc Surg	編集委員	111111111111111111111111111111111111	茂大		2 日
	日本静脈学会誌「静脈学」	査読委員				1日
	Annals of Thoracic Surgery	Guest reviwer	鈴木	保之	査読	7 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	救急医学講座(胸部外傷の治療)	講師	福田 幾夫	弘前	1 日
03年度	救急医学講座	講師	福田 幾夫		1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	青森県成人病検診管理指導協議会	委員		青森	1日
	青森県社会福祉審議会	女 貝	福田幾夫	青森	1日
02年度	青森県総合健診センター	常任理事		青森	1日
	西北五地域保健医療件 自治体病院機能再編成 計画アクションプラン策定委員会作業部会	委員	對馬 敬夫	五所川原	9日
	青森県社会福祉審議会	臨時委員			1日
03年度	青森県総合健診センター	常任理事	福田幾夫		1日
	青森県乳癌検診マンモグラフィー読影委員会	委 員			1日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	茨城県立医療大学	非常勤講師	福田幾夫	茨城県阿見町	1日
	医学部保健学科2年次講義(心臓血管疾患)	講師	佃田 茂大	弘前	1日
	21世紀教育	助教授	高谷 俊一	弘前	3 日
	医学部保健学科作業療法科 2 年	講 師	同任仅	弘前	1日
02年度	共通教育(文明の発展と現代医学)			弘前	5 日
02千茂	21世紀教育(最新医学の現状)	講師	對馬 敬夫	弘前	
	21世紀教育(生活習慣と健康)			弘前	
	21世紀教育	講師	福井 康三	弘前	3 日
	医学部保健学科作業療法科2年	講 師	畑中 亮	弘前	1 日
	医学部保健学科作業療法科2年	講 師	平尾 良範	弘前	1 日
	21世紀教育(最新医学の現状)	講師	福田幾夫		2 日
	保健学科講義(心臓の手術)	마는 데비	1田田 及入		
	21世紀教育	講 師	福井 康三		4 日
	21世紀教育(最新医学の現状)	講師	 對馬 敬夫		2 日
03年度	21世紀教育(生活習慣と健康)	마는 데비	到		2 日
	医学部看護学科:成人看護	講 師	鈴木 保之		1 日
	医学部保健学科での講義	助 手	平尾 良範		1 日
	弾力ストッキングによる深部静脈血栓症予 防効果について	助 手	一関一行		1 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	国立弘前病院附属看護学校	非常勤講師	福井 康三	弘前	1 日
03年度	国立弘前病院附属看護学校	講 師	福井 康三		3 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	青森県乳癌健診	検診医	福田	幾夫		1回
	青森県乳癌検診	マンモグラフィー読影医	高谷	俊一		12日
	青森県肺癌検診	X線写真読影医	對馬	敬夫		20日
	青森県乳癌検診	検診医	判局	収入		7 日
	青森県乳癌検診	検診医	福井	康三		3 日
02年度	青森県乳癌検診	検診医	鈴木	保之		3 日
02平反	青森県乳癌検診	検診医	山田	芳嗣		5 日
	青森県肺癌検診	X線写真読影医	ЩШ	万刪		5 日
	青森県乳癌検診	検診医	畑中	亮		10日
	青森県肺癌検診	X線写真読影医	ЖТ	9C		20日
	青森県乳癌検診	検診医、マンモグラフィー読影医	平尾	良範		20日
	青森県乳癌検診	検診医	一関	一行		4 日
	青森県乳がん検診	乳がん健診医	福井	康三		3 日
	青森県肺がん検診	X線写真読影委員				15日
	青森県肺がん検診	合同読影委員	對馬	敬夫		10日
	青森県乳がん検診	乳がん検診医				3 日
	青森県乳がん健診	乳がん健診医	鈴木	保之		2 日
03年度	青森県肺がん健診		山田	芳嗣		10日
03千度	青森県乳がん検診	乳がん健診医	ЩЩ	刀刪		3 日
	青森県乳がん健診	乳がん健診医	平尾	良範		8日
	マンモグラフイ読影		十尾	尺軋		10日
	青森県乳がん健診	乳がん健診医	一関	一行		3 日
	青森県肺がん検診	X線写真読影委員	畑中	亮		4 日
	青森県乳がん検診	乳がん健診医	<u>ш</u> т	死		4 日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	国保平賀町立病院		福田 幾夫		20日
	国保平賀町立病院		高谷 俊一		45日
	国保平賀町立病院		福井 康三		45日
02年度	国保平賀町立病院		山田 芳嗣		45日
	板柳町立病院	非常勤医師	對馬 敬夫		45日
	板柳町立病院		平尾 良範		45日
	板柳町立病院		鈴木 保之		45日
	弘前中央病院		畑中 亮		45日
	弘前中央病院		一関 一行		45日
	国保平賀病院	非常勤医師	福田 幾夫		20日
	国保平賀病院	非吊 勤医训	福井 康三		45日
	板柳町立中央病院 外科	嘱託非常勤医	對馬 敬夫	板柳町	40日
03年度	板柳中央病院	非常勤医師	鈴木 保之		47日
03平及	平賀病院	升 用 割 区 메	山田 芳嗣		50日
	板柳中央病院	委託非常勤	平尾 良範		47日
	弘前中央病院	非常勤医師	一関 一行		48日
	弘前中央病院	が吊靭区削	畑中 亮		45日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

該当なし。

22. 外科学第二講座

2002年度から1年間の目標:

学会及び生涯学習など、地域のリーダーとしては勿論、全国的なレベルで社会活動一般に教室一丸となって積極的に参加したい。

上記目標に対する到達度:

到達度 3

2003年度から2年間の目標:

前回の目標を継続する。すなわち学会及び生涯学習など、地域のリーダーとしては勿論、全国的なレベルで社会活動一般に教室一丸となって積極的に参加したい。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	3,	助手	6,	医員	6,	大学院学生	5,	研究生	5
03年度	岍 九八貝	教授	1,	助教授	1,	講師	3,	助手	5,	医員	6,	大学院学生	7,	研究生	5

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本外科学会	評議員			
	日本外科学会	教育要員			
	日本臨床外科医学会				
	日本移植学会	評議員			
	日本胆道学会				
	日本臨床免疫学会	1 成 貝	佐々木睦男		
	日本肝胆膵外科学会		在《 小脏力		
	日本消化器病学会				
	日本肝移植研究会	世話人			
	日本胆道膵管合流異常研究会	監 事			
	日本消化器病学会東北支部会	幹 事			
02年度	東北外科集談会	世話人			
	日本消化器外科学会				
	日本臨床外科医学会	評 議 員			
	日本大腸肛門病学会		森田 隆幸		
	日本大腸肛門病学会	教育委員			
	日本ストーマリハビリテーション学会	理事			
	日本消化器病学会東北支部会	評議員	吉原 秀一		
	青森県乳腺疾患研究会	世話人	小田桐弘毅		
	日本肝胆膵外科学会	評議員	 袴田 健一		
	日本肝移植研究会	幹事	15 III Æ		
	日本消化器病学会東北支部会	評議員	鳴海 俊治		
	日本胆膵生理機能研究会	世話人	"海姆 区们		
	日本外科学会	評議員			1 日
	日本外科学会	教育要員			1 日
	日本臨床外科医学会				1日
	日本移植学会				1 日
03年度	日本胆道学会		佐々木睦男		1 日
	日本臨床免疫学会	評議員			1 日
	日本肝胆膵外科学会				1 日
	日本消化器病学会				1 日
	日本食道学会				1 日

	日本肝移植研究会	世話人		1 日
	日本胆道膵管合流異常研究会	監 事	 佐々木睦男	1 日
	日本消化器病学会東北支部会	幹 事	佐《 小腔另	1日
	東北外科集談会	世話人		1日
	日本消化器外科学会			1日
	日本臨床外科医学会	評 議 員		1日
	日本大腸肛門病学会		森田 隆幸	1日
	日本大腸肛門病学会	教育委員		1日
	日本ストーマリハビリテーション学会	理 事		1日
03年度	日本外科学会 認定医認定委員会	実行委員		8 日
	日本外科学会 地区試験委員会	補佐責任者	吉原 秀一	4 日
	日本消化器病学会東北支部会	評 議 員		2 日
	日本乳癌学会東北地方会	世話人	小田桐弘毅	1日
	青森県乳腺疾患研究会	E 前 八	/小山/門7公教	1日
	日本肝胆膵外科学会	評議員	 袴田 健一	1日
	日本肝移植研究会	幹 事	15日 姓	3 日
	日本消化器病学会東北支部会	評議員	鳴海 俊治	1日
	日本胆膵生理機能研究会	世話人	"局做 牧伯	0 日
	日本食道学会	評議員	川崎 仁司	1 日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00左床	第39回日本腹部救急医学会総会	√ E	从 5		2 日
03年度	第6回東北移植研究会	会 長	佐々木睦男		1 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	日本外科学会	会誌編集委員	佐々木睦男		
	Surgery Today(日本外科学会欧文雑誌)	査読委員	佐々 小腔另		
	日本大腸肛門病学会	会誌編集委員	森田 隆幸		
	Surgery Today (日本外科学会欧文雑誌)	査読委員	袴田 健一		
	Surgery Today (日本外科学会欧文雑誌)	査読委員	佐々木睦男		2 日
03年度	日本大腸肛門病学会	会誌編集委員	森田 隆幸		1 日
	Surgery Today (日本外科学会欧文雜誌)	査読委員	袴田 健一	5 編	10日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森刑務所 刑務官講演会	講師	吉原 秀一		1日
	青森県立田子高等学校 平成14年度講演会		袴田 健一		1日
03年度	帝人研修会 肝移植と免疫グロブリン	教 授	佐々木睦男		1日
	八戸外科集談会特別講演 「膵胆道癌治療の標準化と個別化」				1 日
	平成15年度青森県臓器移植推進講演会 講演 青森県における移植の現況と対策 「肝移植について」	講師	袴田 健一		1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	青森県総合検診センター	常任理事			
	青森県社会福祉審議会	会 長	 佐々木睦男		
00左座	青森県成人病検診管理指導競技会	委 員	佐々 小腔力		
02年度	弘前大学医師会	副会長			
	青森県成人病検診管理指導協議会 大腸がん部会		森田 隆幸		
	弘前大学医師会	監 事	小田桐弘毅		1 日
	青森県総合検診センター	常任理事	佐々木睦男		1日
	青森県社会福祉審議会	会 長	佐々 小腔力		1日

	青森県成人病検診管理指導競技会	委	員	# b + 味用	1 日	
	弘前大学医師会	副乡	> 長	佐々木睦男 	1 日	
03年度	青森県成人病検診管理指導協議会 大腸がん部会			森田 隆幸	1 日	
	弘前大学医師会	監	事		1 日	
	青森県成人病管理指導協議会乳癌部会	委	員	小田桐弘毅	1 日	

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	自治医科大学特別講義 生体肝移植の基礎と臨床	教 授	佐々木睦男		1 日
	弘前大学医学部保健学科	講師	吉原 秀一		7 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	学校医(弘前大学保健管理センター)		森田 隆幸		

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	公立米内澤病院		佐々木睦男		48日
	大館市立総合病院		森田 隆幸		48日
	木造成人病センター, (財)青森県総合検診センター		小田桐弘毅		60日
	藤崎病院、(財)青森県総合検診センター		吉原 秀一		60日
	弘前小野病院,(財)青森県総合検診センター		袴田 健一		50日
02年度	鰺ヶ沢病院,(財)青森県総合検診センター		鳴海 俊治		60日
	弘前小野病院,(財)青森県総合検診センター		川崎 仁司		60日
	木造成人病センター, (財)青森県総合検診センター		十束 英志		60日
	鶴田病院,(財)青森県総合検診センター		豊木 嘉一		60日
	蟹田病院,(財)青森県総合検診センター		村田 暁彦		60日
	財団法人双仁会 厚生病院,(財)青森県総合検診センター		柴田 滋		60日
	公立米内澤病院		佐々木睦男		50日
	大館市立総合病院		森田 隆幸		50日
	木造成人病センター, (財) 青森県総合検診センター		小田桐弘毅		60日
	青森県総合健診センターマンモグラフィ	読影委員	/ 1 日 1 門 カム 多文		10日
	木造成人病センター, (財)青森県総合検診センター		吉原 秀一		60日
03年度	弘前小野病院		袴田 健一		50日
03千皮	鰺ヶ沢病院,(財)青森県総合検診センター		鳴海 俊治		60日
	青森県総合健診センターマンモグラフィ	読影委員	"局價 仅们		10日
	弘前小野病院,(財)青森県総合検診センター		川崎 仁司		60日
	木造成人病センター, (財)青森県総合検診センター		十束 英志		60日
	鶴田病院,(財)青森県総合検診センター		豊木 嘉一		60日
	蟹田病院,(財)青森県総合検診センター		村田 暁彦		60日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

該当なし。

23. 整形外科学講座

2002年度から1年間の目標:

- 1. 『骨と関節の10年』活動を通して、整形外科の啓蒙活動を行う。
- 2. 積極的にフィールドワークを行い、スポーツ障害・外傷の予防・プライマリーケアーを行う。
- 3. 各種学会の役員として学会の発展に寄与する。
- 4. 青森県身体障害者更生相談所嘱託医として、厚生医療のバックアップ。
- 5. 青森県社会福祉審議会・青森県肢体不自由児協会の活動を通して社会の福祉向上のための努力。
- 6. 検診業務の推進(側彎症,骨粗鬆症,発育期スポーツ障害)。
- 7. 弘前市就学指導委員会委員として小児の医療相談に応ずる。
- 8. 厚生労働省難病指定・靭帯骨化症および広範囲脊柱管狭窄症の班会議に積極的に参加・貢献する。

上記目標に対する到達度:

- 1. 『骨と関節の10年』活動を通して、整形外科の啓蒙活動を行う。 青森臨床整形外科医会主催のもと、後援の形で講演会及び健康相談を行った。
- 2. 積極的にフィールドワークを行い、スポーツ障害・外傷の予防・プライマリーケアーを行う。 脊柱靱帯骨化症患者団体への支援を行った。

脊椎・脊髄外傷における救急隊および救急部への支援と協力を行った。 青森県スポーツ科学センターのメディカルチェックや国体の帯同ドクターを行った。

3. 各種学会の役員として学会の発展に寄与する。 積極的に行った。

- 4. 青森県身体障害者更生相談所嘱託医として、厚生医療のバックアップ。 問題なく施行された。
- 5. 青森県社会福祉審議会・青森県肢体不自由児協会の活動を通して社会の福祉向上のための努力。 新聞広告などで活動を紹介した。
- 6. 検診業務の推進(側彎症,骨粗鬆症,発育期スポーツ障害)。 県の検診事業をバックアップした。
- 8. 厚生労働省難病指定・靭帯骨化症および広範囲脊柱管狭窄症の班会議に積極的に参加・貢献する。 大学院の研究を積極的に紹介した。脊柱靱帯骨化症患者団体への支援を行った。

2003年度から2年間の目標:

- 1. 『骨と関節の10年』活動を通して、整形外科の啓蒙活動を行う。
- 2. 積極的にフィールドワークを行い、スポーツ障害・外傷の予防・プライマリーケアーを行う。膝前十字靭帯損傷予防の調査・研究・骨粗鬆症ほか整形外科疾患の予防・治療に関する知識を啓蒙。
- 3. 各種学会の役員として学会の発展に寄与する。
- 4. 青森県身体障害者更生相談所嘱託医として、厚生医療のバックアップ。
- 5. 青森県社会福祉審議会・青森県肢体不自由児協会の活動を通して社会の福祉向上のための努力。
- 6. 検診業務の推進(側彎症,骨粗鬆症,発育期スポーツ障害)。
- 7. 弘前市就学指導委員会委員として小児の医療相談に応ずる。
- 8. 厚生労働省難病指定・靭帯骨化症および広範囲脊柱管狭窄症の班会議に積極的に参加・貢献する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	0,	講師	3,	助手	4,	医員	11,	大学院学生	12,	研究生	23
03年度	妍 九八貝	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	4,	医員	8,	大学院学生	9,	研究生	19

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	日本整形外科学会	代議員 機能評価等検討委員会 用語委員会				10日
	日本手の外科学会	評議員 機能評価委員会委員				5 日
	日本マイクロサージャリー学会	評 議 員	藤	哲		2 日
	日本最小侵襲整形外科研究会	世話人				2 日
	東日本手の外科研究	運営委員				2 日
	東日本整形外科学会	評 議 員				2 日
02年度	日本創外固定骨延長学会	世話人				2 日
	日本臨床スポーツ医学会	評 議 員				2 日
	東日本整形災害外科学会	評議委員				2 日
	日本手の外科学会	評議委員	Шт	真史		2 日
	青森県スポーツ医学研究会	世話人		共文		1日
	青森県スポーツドクター会	理事				1日
	東北膝関節研究会	世話人				1日
	東北肩関節懇話会	世話人	万桥	恭之		1日
	青森県スポーツ医学研究会	世話人	7日1回	41/K		2 日
	東日本臨床整形外科	評議委員				2 日
	日本整形外科学会	代議員 用語委員会				10日
	日本手の外科学会	評議員 機能評価委員会委員				4 日
	日本マイクロサージャリー学会	評 議 員				2 日
	日本最小侵襲整形外科研究会	世話人	藤	哲		2 日
	東日本手の外科研究	運営委員				2 日
	東日本整形外科学会	評 議 員				2 日
	日本創外固定骨延長学会	世話人				2 日
	日本臨床スポーツ医学会	評 議 員				2 日
03年度	日本整形外科スポーツ医学会					2 日
00-12	日本整形外科学会代議委員会	代議員				2 日
	日本手の外科学会	評議委員		真史		2 日
	東日本整形災害外科学会			六人		2 日
	青森県スポーツ医学研究会	世話人				1日
	日本関節鏡学会				東京	2 日
	日本膝学会	評議委員			東京	2 日
	東日本臨床整形外科				福島	2 日
	東北膝関節研究会		石橋	恭之	仙台	1 日
	東北肩関節懇話会	世話人			仙台	1 日
	青森県スポーツ医学研究会	HI /			青森	1 日
	青森県スポーツドクター会				青森	1日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	第17回日本整形外学会基礎学術集会	運営委員長	藤	哲		3 日
	第17回日本整形外学会基礎学術集会		岡田	晶博		3 日
	第17回日本整形外学会基礎学術集会		石橋	恭之		3 日
02年度	第17回日本整形外学会基礎学術集会] 実行委員	中村	吉秀		3 日
	第17回日本整形外学会基礎学術集会	子们安貝 	横山	徹		3 日
	第17回日本整形外学会基礎学術集会		津田	英一		3 日
	第17回日本整形外学会基礎学術集会		三浦	一志		3 日

	第101回東北整形災害外科学会	会 長	藤哲	3 日
	第101回東北整形災害外科学会		西川 真史	3 日
	第101回東北整形災害外科学会		岡田 晶博	3 日
00年度	第101回東北整形災害外科学会		石橋 恭之	3 日
03年度	第101回東北整形災害外科学会	実行委員	中村 吉秀	3 日
	第101回東北整形災害外科学会		横山 徹	3 日
	第101回東北整形災害外科学会		津田 英一	3 日
	第101回東北整形災害外科学会		工藤悟	3 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	Journal of Shoulder and Elobow Surgery				査読	3 件
	Journal of Hand Sugery-Asian volume				査読	5 件
	Jopuranal of Orthopaedic Sience				査読	1件
	東日本整形災害外科学会誌		藤	哲	査読	2件
	日本手の外科学会誌				査読	3件
02年度	日本最小侵襲整形外科学会誌	査読委員			査読	3件
	弘前医学				査読	1件
	東日本整形災害外科学会		西川	真史	査読	1件
	日本手の外科学会		四川	共文	査読	1件
	東北膝関節研究会誌		石橋	恭之	査読	5 件
	青森県スポーツ医学研究会誌		口間		査読	10件
	Journal of Shoulder and Elobow Surgery				査読	8件
	Journal of Hand Sugery-Asian volume				査読	3件
	Jopuranal of Orthopaedic Sience				査読	4件
	東日本整形災害外科学会誌		藤	哲	査読	3件
	日本手の外科学会誌				査読	1件
	日本最小侵襲整形外科学会誌				査読	3件
03年度	弘前医学	- 査読委員			査読	1件
03平皮	東日本整形災害外科学会誌	1	西川	真史	査読	2件
	日本手の外科学会誌		29/11	共文	査読	2件
	東北膝関節研究会誌				査読	5件
	青森県スポーツ医学研究会誌				査読	2件
	東日本整形災害外科学会誌		石橋	恭之	査読	5 件
	日本関節鏡学会誌				査読	5件
	日本膝学会会誌				査読	5件

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
	財団法人 世界少年野球推進財団 体育協会スポーツ指導員講習会	講	師	石橋	恭之	大間,佐井 青森市	2 日 1 日
00左座	後縦靭帯骨化症患者・家族交流会での講演,「脊 柱靱帯骨化症の診療と日常生活での注意点」	講	師	岡田	晶博	青森市	1日
02年度	市民公開講座 講演 骨粗しょう症の基礎知識と骨折					十和田	1日
	第4回青森県整形外科懇話会 講演 高齢者の大腿骨頚部骨折	助	手	中村	吉秀	弘前	1日
	弘前大学医学部健康・医療講演会「生涯スポーツとケガ」	助	手	津田	英一	弘前	1 日
	第8回女性スポーツサークル交流会講演 骨粗鬆症について	講	師	西川	真史	弘前市	1日
	青森スポーツドクターの会―アスレチック トレーナー講習会	3# :	ńæ	一 坛	#-4	青森市	1日
03年度	財団法人 世界少年野球推進財団体育協会 スポーツ指導員講習会	講	師	石橋	恭之	板柳町	1日
	後縦靭帯骨化症患者・家族交流会での講演, 「後縦靱帯骨化症治療に関する最新情報」	講	師	岡田	晶博	青森市	1日
	平成15年度第9回救急医学講座	助	手	中村	吉秀	弘前	1 日
	弘前大学医学部健康・医療講演会「生涯スポーツとケガ」	助	手	津田	英一	弘前	1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	青森県社会福士審議会委員	委 員			2 日
02年度	青森県肢体不自由児協会会長	会 長	藤 哲		1日
	青森県総合検診センター	常任理事			2 日
02平皮	弘前市就学指導委員会	委 員			1 日
	結核審査会	委 員	西川 真史		19日
	厚生労働省難病指定・靭帯骨化症班会議への参加	助 手	横山 徹		2 日
	青森県社会福士審議会委員	委 員			2 日
	青森県肢体不自由児協会会長	会 長	藤 哲		1日
03年度	青森県総合検診センター	常任理事			2 日
03平皮	弘前市就学指導委員会	委 員			1 日
	弘前市教育委員会	嘱託医	西川 真史		2 日
	厚生労働省難病指定・靭帯骨化症班会議への参加		横山 徹		2 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職		氏 名		備考	日数
02年度	Policlinico Multimedica(ミラノ大学附属)	教	授	藤	哲	ミラノ(イタリア)	1 日
02平皮	整形外科月例会 Instructual cause	講	師	西川	真史		1 日
03年度	Policlinico Multimedica(ミラノ大学附属)	*4-	極	祓	拓	ミラノ(イタリア)	1 日
	San Gerardo Hospital(ミラノ大学附属)	教	授	藤	哲		1 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役回	職	氏	名	備考	日数
	青森市立造道小学校 4・5年生講義:手の 機能のおもしろさ人間ってすばらしい					青森	1日
	第39回しもつけ整形懇話会					宇都宮	2日
	第11回北海道整形外科スポーツ医学研修会					札幌	2日
	平成14年度第4回大分県整形外科·臨床整 形外科医会					大分	2日
	遠野市医師会学術講演会					遠野	2日
	八戸整形外科学術講演会					八戸	1日
	学術講演会					五所川原	1日
	第384回東北大学整形外科談論会					仙台	2日
	能代市山本郡医師会医学講演会					能代	1日
	新潟県臨床整形外科医会学術講演会					新潟	2日
02年度	市立函館病院月例医学研究会	払	教 授	藤	哲	函館	2日
02千尺	第9回中越整形外科手術手技講演会	37		DIK.		新潟	2日
	第38秋田県臨床整形外科医会					秋田	2日
	三木会(旭川整形外科医会)学術講演会					旭川	2日
	第24回九州手の外科研究会					宮崎	2日
	第9回高知関節疾患懇話会					高知	2日
	第3回奈良バイオセラミック研究会					奈良	2日
	第10回埼玉•県南東部整形外科勉強会					越谷	2日
	第186回大曲市医師会集談会					大曲	2日
	第1回骨と痛みの研究会					水戸	2日
	第16回大阪マイクロサージャリー研究会					大阪	2日
	茨城手の外科学術講演会					つくば	2日
	平成14年度弘前市心身障害児就学指導委員 会·専門員研修会					弘前	1日

	弘前大学医学部整形外科月例会					弘前	1日
	秋田 BIOPEX 研究会	∌# :	ńŦ		古山	秋田	1日
	整喜会月例会	講	師	西川	具史	五所川原	1日
	弘前大学医学部整形外科夏の研修会					弘前	1日
	骨疾患の手術治療(柔道整復士会)					青森	1 日
02年度	スポーツ障害の画像診断 (八戸整形外科医会)					八戸	1日
	スポーツ障害の画像診断 (秋田県県北整形外 科医会)	講	師	石橋	恭之	大館	1日
	膝靭帯損傷の診断と治療 (西北五地区整形外 科医会)					五所川原	1日
	救急医学講座での講演,「脊椎・脊髄損傷の現 況と初期治療」	講	師	岡田	晶博	弘前	1 日
	青森県臨床整形外科医会•学術講演会					青森	1 日
	第23回静岡手の外科・マイクロサージャリー 研究会					静岡	2 日
	函館整形外科会					函館	2 日
	第13回三重県上肢外科研究会					津	2 日
	第12回千葉上肢を語る会					千葉	2 日
	第 2 回 MIOS 京滋フォーラム	教	授	藤	哲	京都	2 日
	第55回山形整形外科研究会					山形	2 日
	第1回高岡市整形外科医会講演会					高岡	2 日
03年度	第167回北陸整形外科集談会					金沢市	1日
	第9回青森県周術期管理研究会					青森	2 日
	第6回山の手整形外科セミナー					東京	2 日
	第 2 回広島 Bone & Joint セミナー					広島	2 日
	平成15年度弘前市小学校養護教諭教育研究 会講演:小学校における外傷の救急処置の仕 方について、テーピング他	 助	数 授	西川	真史	弘前	1 日
	膝関節 (柔道整復士会)	講	師	石橋	恭之	青森	1 日
	青森県小児保健協会学術集会「成長期のス ポーツ傷害」	助	手	津田	英一		1日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	弘前大学学校医 定期検診	教 授	藤哲		2 日
02年度	学校保険医講演会	講師	西川 真史		1日
02平及	少年野球・サッカー選手のメディカルチェック	講師	石橋 恭之		15日
	側弯症検診(弘前市内の小・中学校)	講師	岡田 晶博		10日
	巡回診療	教 授	藤哲		3 日
	弘前大学学校医 定期検診				2 日
00年度	巡回診療	助教授	西川 真史		3 日
03年度	学校保険医講演会				
	青森県スポーツ科学センタースポーツメ ディカルチェック	助手	津田 英一		7 日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	大館市立病院	応援医師				1 日/月
	自動車保険料率算定会嘱託医	嘱託医	藤	哲		2 回/月
	青森県身体障害者更生相談所	嘴				2 回/月
	寿泉堂病院	応援医師	西川	真史		1回
02年度	青森県身体障害者更生相談所	嘱託医	[발기]	共文		2 回/月
	社会保険診療報酬請求書審査委員会	委 員	岡田	晶博		1.25日
	国民健康保険町立蟹田病院整形外科外来	応援医師	回田	田ဓ		2.44日
	自動車保険料率算定会嘱託医	嘱託医	中村	吉秀		3 回/月
	町立鶴田病院での整形外科診療	応援医師	横山	徹		4 回/月

	大館市立病院	応援医師		1 日/月
	損害保険料率算出機構審査員	嘱託医	藤 哲	2 回/月
	青森県身体障害者更生相談所	嘱託医		2 回/月
	青森県身体障害者更正相談所	嘱託医	西川 真史	2 回/月
00年度	結核審査会	委 員	四川 共史	2 回/月
03年度	社会保険診療報酬請求書審査委員会	委 員	岡田 晶博	1.25日
	国民健康保険町立板柳中央病院整形外科外来	応援医師	四田 舶時	2.44日
	損害保険料率算出機構審査員		中村 吉秀	3 回/月
	青森県骨密度(骨粗鬆症)検診判定委員会		中们 百筹	1 回
	町立鶴田病院での整形外科診療	応援医師	横山 徹	1回/週

(12) 国際交流への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	日米手の外科学会トラベリングフェロー	講 師	西川 真史		30日

(13) その他

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	弘南バス本社 衛生講話会	講師			板柳	1日
	Orthopaedics Today InternationalEdition,Groball	Editorial Advisory	藤	哲		
02年度	News in Musculoskeletal Health & Disease	Board member				
	ケアネット@BIOPEX コンテンツ出演	講師	西川	真史		1日
	青森冬季アジア大会・ドーピングコントロール	助 手	津田	英一		3 日
	全日本スキー連盟	ドクターパトロール			大鰐	1 日
03年度	Orthopaedics Today International Edition, Groball News in Musculoskeletal Health & Disease,	Editorial Advisory Board member	藤	哲	サンフランシスコ	2 日

24. 皮膚科学講座

2002年度から1年間の目標:

- 1. アトピー性皮膚炎や皮膚癌は「生活習慣病」の要素が強いので、公開講座、マスコミを通じての啓蒙活動に努めたい。
- 2. 地域の医療機関に勤務する皮膚科医、研修医に対して、積極的にセミナーを開催し卒後教育に努めたい。

上記目標に対する到達度:

1. アトピー性皮膚炎や皮膚癌は「生活習慣病」の要素が強いので、公開講座、マスコミを通じての啓蒙活動に努めたい。

【到達度】70%

2. 地域の医療機関に勤務する皮膚科医、研修医に対して、積極的にセミナーを開催し卒後教育に努めたい。 【到達度】70%

2003年度から2年間の目標:

啓蒙活動は市民の QOL を高め、大学病院の患者増につながるため継続する。

地域の医療活動のサービスに努める。

皮膚癌の非観血的治療法の開発。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	4,	医員	5,	大学院学生	7,	研究生	0
03年度	听九八 貝	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	4,	医員	7,	大学院学生	5,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	第101回日本皮膚科学会総会	代議員		熊本市	3 日
	第24回日本光医学•光生物学会	理 事	 花田 勝美	浜松市	2 日
02年度	第321回日本皮膚科学会東北6県合同地方会	運営委員	1L田 勝天 	仙台市	1日
02平皮	太陽紫外線防御研究委員会シンポジウム	学術委員		神戸市	2 日
	日本皮膚科学会青森地方会運営委員会	委 員	中野 創	弘前市	3 日
	日本皮膚科学会青森地方会運営委員会	委 員	原田 研	弘前市	3 日
	日本香粧品学会化粧品機能評価検討委員会	評議員		東京	2 日
	第4回光老化研究会	世話人		神戸	3 日
	第25回日本光医学•光生物学会	理 事	花田 勝美	津	3 日
03年度	太陽紫外線防御研究員第14回シンポジウム	理 事		金沢	2 日
	「いい皮膚の日」市民公開講座	世話人		弘前市	2 日
	日本皮膚科学会青森地方会運営委員会	委 員	原田 研	弘前市	2 日
	第 5 回光老化研究会	事務局長	武田 仁志	弘前市	2 日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	第110回弘前大学皮膚科集談会	会 長		弘前市	1 日
	第318回日本皮膚科学会青森地方会	会 長		弘前市	1 日
	日本皮膚科学会青森地方会第319回例会	会 長		弘前市	1 日
02年度	第111回弘前大学皮膚科集談会	会 長	花田 勝美	弘前市	1 日
	弘前褥瘡フォーラム	世話人		弘前市	1 日
	平成14年度「いい皮膚の日」市民公開講座	世話人		弘前市	1 日
	日本皮膚科学会青森地方会第320回例会	会 長		弘前市	1 日
	「いい皮膚の日」市民公開講座(八戸)	世話人		八戸市	2 日

	弘前皮膚科セミナー	世話人		弘前市	1日
	弘前大学生涯教育講座: 今後の弘前大学医学部教育制度―とくに OSCE, CBT, 卒後臨床研修制度について―	世話人	花田 勝美	八戸市	1日
03年度	第112回弘前大学皮膚科集談会			弘前市	1日
	第113回弘前大学皮膚科集談会	教 授	花田 勝美	弘前市	1日
	日本皮膚科学会青森地方会第322回例会			弘前市	9 日
	第112回弘前大学皮膚科集談会	学会係長	原田 研	弘前市	1 日
	第113回弘前大学皮膚科集談会	子云你女	原田 研	弘前市	1 日
	「いい皮膚の日」市民公開講座	助 手	武田 仁志	弘前市	1 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	J Deramtol Sci	審査員		査読	5 日
	Journal of Deramtolgy	審査員		査読	1日
02年度	日皮会誌	編集委員	花田 勝美	審査員	3 日
	Visual Dermatology	編集委員		編集協力者	2 日
	Aesthetic Dermatology	編集委員		編集委員	1 日
	日皮会誌	編集委員			14日
	Visual Dermatology	編集委員	花田 勝美		2 日
03年度	J Deramtol Sci	審査員	11.四 勝天		21日
	J Dermatol	審査員			7 日
	JDS	審査員	中野 創		6 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	第2回弘前大学総合文化祭	## ## 1	花田 勝美	弘前市	1 日
	平成14年度「いい皮膚の日」市民公開講座	世話人	化田 勝芙	弘前市	1日
	第2回弘前大学総合文化祭	世話人	中野 創	弘前市	1日
	平成14年度「いい皮膚の日」市民公開講座	世 前 八	中野 剧	弘前市	1日
	第2回弘前大学総合文化祭	世話人	今 淳	弘前市	1日
	平成14年度「いい皮膚の日」市民公開講座	L 前 八	フ 仔 	弘前市	1日
	第2回弘前大学総合文化祭	世話人	原田 研	弘前市	1日
	平成14年度「いい皮膚の日」市民公開講座	L 前 八		弘前市	1日
02年度	第2回弘前大学総合文化祭	## ¥ \	水木 大介	弘前市	1日
02平反	平成14年度「いい皮膚の日」市民公開講座	世話人	小木 人开	弘前市	1日
	第2回弘前大学総合文化祭	世話人	松﨑 康司	弘前市	1日
	平成14年度「いい皮膚の日」市民公開講座		化二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	弘前市	1日
	第2回弘前大学総合文化祭	世話人	金子 高英	弘前市	1日
	平成14年度「いい皮膚の日」市民公開講座	L 前 八	並 1 同犬	弘前市	1日
	第2回弘前大学総合文化祭	世話人	菊池 康	弘前市	1日
	平成14年度「いい皮膚の日」市民公開講座	臣 的 八	不但 原	弘前市	1 日
	第2回弘前大学総合文化祭	世話人	武田 仁志	弘前市	1 日
	平成14年度「いい皮膚の日」市民公開講座	臣而八	₩Ш [_/С/	弘前市	1 日
	平成15年度「いい皮膚の日」市民公開講座	世話人	花田 勝美	八戸市	2 日
	成10十尺 11.11. 次月07日] 市人名阿爵庄	臣而八		弘前市	1 日
	平成15年度「いい皮膚の日」市民公開講座	世話人	中野創	字都宮市	2 日
03年度	平成15年度「いい皮膚の日」市民公開講座	世話人	原田 研	弘前市	1 日
	平成15年度「いい皮膚の日」市民公開講座	世話人	金子 高英	弘前市	1 日
	平成15年度「いい皮膚の日」市民公開講座	世話人	横山 祥平	弘前市	1 日
	平成15年度「いい皮膚の日」市民公開講座	世話人	水木 大介	弘前市	1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職		氏	名	備考	日数
02年度	緊急被爆医療ネットワーク調査研究会	委	員	花田	勝美	野辺地町	2 日
03年度	青森地区「緊急被ばく医療ネットワーク調査 検討会」	委	員	花田	勝美		1 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	無痛性マイクロニードルの開発	教 授	花田 勝美	特願 SPT-03-62	14日

(7) 産学共同事業への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	「藍」抽出トリプタントリン・アトピー性皮膚 炎の応用を研究中	教 授	花田勝美		21日

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	保健学科(助産診断学IV)	非常勤講師	花田 勝美		2 日
	Department of Dermatology Keimyung University School of Medicine	講師	花田 勝美	Daegu, Korea	3 日
03年度	救急医学講座			弘前市	1日
05千度	弘前大学医療技術短期大学部	非常勤講師	中野 創	弘前市	4 日
	成人看護演習	か 市 刬 神 印	十野 剧	弘前市	1日
	養護教諭養成課程 2 年	非常勤講師	松﨑 康司	弘前市	7 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役耶	韱	氏	名	備考	日数
	第4回地域保険関係者研修会	講	師	原田	研	むつ市	1 日
02年度	青森県栄養士会中弘南黒地区会研修会	講	師	水木	大介	弘前市	1日
02平皮	財団法人双仁会厚生病院附属看護学院講義	神	ĦIħ	八八	人开		6 日
	財団法人双仁会厚生病院附属看護学院講義	講	師	金子	高英		4 日
	美白剤と着色剤					秋田大学	1日
	皮膚疾患と微量金属	講	師	花田	勝美	横浜市立大学	1日
	青森県創傷・褥瘡セミナー					青森市	1日
	厚生病院附属看護学校	非常勤	講師	松﨑	康司		6 日
03年度	厚生病院附属看護学校准看護科	非常勤	講師	武田	仁志	青森市	4 日
	第181回青森県南皮膚科医会	特別講演	講師			八戸市	1日
	学術講演会	講	師	水木	大介	東京都	2 日
	青森県栄養士会中弘南黒地区会研修会	神	Filh			弘前市	1日
	青森県栄養士会	講	師	金子	高英	青森市	1日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	学校医		中野	創		48日
02年度	平成14年度弘前大学医療技術短期大学部専 攻科助産診断学特別選考入学者選抜に係る 健康診断委員		原田	研		1日
	弘前大学保健管理センター学校医	非常勤医師	花田	勝美		45日
	弘前大学保健管理センター学校医	非常勤医師	中野	創		45日
03年度	学校定期検診	派海医師	原田	研	附属幼稚園	1日
03平皮	学校定期検診	派遣医師	原田	1171	附属小学校	1日
	学校定期検診	派遣医師	武田	仁志	弘前大学附属養護学校	1 日
	弘前大学大学生健康診断	派遣医師	横山	祥平		2 日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数	
	労働福祉事業団秋田労災病院	非常勤医師	北帝勘尼師	花田 勝美		24日
	比内町立扇田病院	升 用勤区训	11.四 勝天		24日	
02年度	労働福祉事業団秋田労災病院				1 日	
	比内町立扇田病院	非常勤医師	玉井 克人		1日	
	鰺ヶ沢町立中央病院				1日	

		_			
02年度	黒石市国民健康保険黒石病院				12日
	北秋中央病院				12日
	山本組合総合病院				12日
	労働福祉事業団秋田労災病院	非常勤医師	中野	創	12日
	比内町立扇田病院				12日
	鰺ヶ沢中央病院				12日
	公立公立野辺地病院病院				12日
	黒石市国民健康保険黒石病院				12日
	山本組合総合病院	非常勤医師	今	淳	12日
	労働福祉事業団秋田労災病院				12日
	比内町立扇田病院				12日
	黒石市国民健康保険黒石病院				24日
	北秋中央病院				12日
	山本組合総合病院				12日
	労働福祉事業団秋田労災病院	非常勤医師	原田	研	12日
	比內町立扇田病院				12日
	鰺ヶ沢町立中央病院				12日
02 112	公立野辺地病院	非常勤医師		大介	12日
	黒石市国民健康保険黒石病院				12日
	公立米内沢総合病院		水木		12日
	大館市立総合病院				12日
	三戸町国民健康保険三戸中央病院				24日
	公立野辺地病院	非常勤医師		高英	12日
	大館市立総合病院		金子		24日
	山本組合総合病院				12日
	三戸町国民健康保険三戸中央病院	非常勤医師		康	12日
	平内中央病院				12日
	鰺ヶ沢町立中央病院		菊池		12日
	公立米内沢総合病院		,,,,,,		12日
	大館市立総合病院				12日
	三戸中央病院				12日
	大館市立総合病院	非常勤医師	武田	仁志	12日
	公立米内沢総合病院				12日
	玉井皮膚科医院				12日
03年度	秋田労災病院	非常勤医師	花田	勝美	23日
	比内町立扇田病院	31 113 233 E-7 Hills	12,	13/3 5 C	24日
	秋田労災病院				12日
	比内町立扇田病院	非常勤医師	中野	創	12日
	鰺ヶ沢町立中央病院				12日
	北秋中央病院				8日
	鰺ヶ沢町立中央病院				8日
	黒石病院	非常勤医師	原田	研	8日
	秋田労災病院	31 110 23 2 2 1 1 1	//3.1	71	8日
	山本組合総合病院				8日
	公立米内沢総合病院				12日
	三戸中央病院				
		北台数据区在	Tr/ 1042	#==	12日
	大館市立総合病院	非常勤医師	松呵	康司	12日
	黒石病院				12日
	鯵ヶ沢町立中央病院				12日
	公立野辺地病院	非常勤医師	金子	高英	12日
	大館市立総合病院				24日
	山本組合総合病院				12日
	公立米内沢総合病院				12日
	北秋中央病院				12日
	鰺ヶ沢町立中央病院	非常勤医師	武田	仁志	12日
	黒石病院				12日
	秋田労災病院				12日
	D 1 → D D 2 D 1 D 1 D 1	I	l		12

	玉井皮膚科			12日
	比内町立扇田病院			12日
	公立野辺地病院			24日
	黒石病院	非常勤医師	水木 大介	12日
03年度	秋田労災病院			12日
	山本組合総合病院			12日
	公立米内沢総合病院			12日
	三戸中央病院			12日
	大館市立総合病院	非常勤医師	菊池 康	12日
	黒石病院			12日
	公立野辺地病院			12日

(12) 国際交流への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	韓国啓明大学皮膚科教室と姉妹講座の提携	教 授	花田 勝美	光医学の共同研究	3 日
00左座	韓国啓明大学とは姉妹医局の契約を結んで おり、交換講演を行った。	教 授	花田勝美		3 日
03年度	日米交換訪問者プログラムによる皮膚病理 組織学研修	Visiting fellow	原田 研	Ackerman Academy of Dermatopathology	102日

(13) その他

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森放送『生テレビ』に放送	教 授	花田 勝美		2 日
00左座	発掘!あるある大事典(テレビ)	教 授	花田 勝美		1 日
03年度	ほくろのガンについての啓蒙記事	講師	原田 研	東奥日報	1 日

25. 泌尿器科学講座

2002年度から1年間の目標:

- ・地域における健康診断、特に前立腺癌検診のシステム確立に貢献する。
- ・臓器移植(腎臓)推進のために県内の医療機関を中心に更に幅広く啓蒙活動をしていきたい。

上記目標に対する到達度:

臓器移植(腎臓)推進のための活動が充分でなかった。

2003年度から2年間の目標:

地域における健康診断で、前立腺癌検診のシステム確立させ、早期発見・早期治療にむけてに貢献したい。 臓器移植(腎臓)推進のための活動をしていきたい。

【研究人員】

02年度 03年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	1,	助手	5,	医員	3,	大学院学生	2,	研究生	0
03年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	4,	医員	2,	大学院学生	2,	研究生	1

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	泌尿器科学会会則検討委員会	委 員	鈴木 唯司		1 日
	日本レーザー治療学会	理 事	ず小 "臣可		1日
02年度	第18回腎移植・血管外科研究会	世話人		東京	2 日
	第29回東北腎不全研究会	幹 事	高橋 信好	つくば市	2 日
	第4回青森県更年期心身医学懇話会	幹事			1 日

(2) 学会などの開催

		件名	役	職	氏	名	備考	日数
02年度	第7回	東北泌尿器悪性腫瘍研究会					弘前文化センター	1日
	第17回	青森県泌尿器科研究会					ホテル青森	1日
	第68回	日本泌尿器科学会東部総会	会 長		弘前市	3 日		
	第18回	青森県泌尿器科研究会		長	鈴木 唯司	弘前市	1日	
03年度	第19回	青森県泌尿器科研究会				n#-⇒1	青森市	1日
03平皮	第20回	青森県泌尿器科研究会				青森市	1日	
	第56回	腎懇話会					弘前市	1 日
	第3回	東北排尿障害研究会				盛岡市	1日	

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	日本泌尿器科学会雑誌	査 読	鈴木 唯司		
	Int. J. Urol	宜 沉	亚八 "庄山		

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森県臓器移植講演会	演 者	鈴木 唯司	青森市	1日
	むつ市地域医療シンポジウム		ず	むつ市	1日
	前立腺癌の早期発見に向けて	非常勤	高橋 信好	むつ市	1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	青森県県立病院運営審議会	委 員		青森市	1 日
02年度	青森県社会福祉審議会	臨時委員	鈴木 唯司	弘前市	1日
	青森県地域保健医療対策協議会	委 員		青森市	1日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年月	福島県立医科大学	講師	鈴木 唯司		1 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年	F度 膀胱癌に対する治療法	講師	古家 琢也		1日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00左座	平賀町前立腺がん検診	研究医師	松木 唯司		
02年度	青森県総合検診センター	常任理事	鈴木 唯司		

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	国保黒石市立病院における診療	非常勤	高橋 信好		1年間
02年度	野辺地病院	非常勤	川口 俊明		1年間
	県立一戸病院	非常勤	古家 琢也		1年間
	西北中央病院	非常勤	神村 典孝		1年間
	市立三沢病院	非常勤	呉 聖哲		1年間
	むつ病院	非常勤	山内 崇生		1年間
	黒石病院	非常勤医師	高橋 信好		週1日
	米内沢病院	非常勤医師	川口 俊明		週1日
03年度	西北中央病院	非常勤医師	古家 琢也		週1日
03平皮	野辺地病院	非常勤医師	吉川和暁		週1日
	県立一戸病院(岩手県)	非常勤医師	神村 典孝		週1日
	秋田社会保険病院	非常勤医師	工藤 大輔		週1日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	青森県腎移植キャンペーンにおける啓蒙講 演一献腎移植を中心に一	非常勤	高橋 信好		1 日

26. 眼科学講座

2002年度から1年間の目標:

各自健康でそれぞれの任務を遂行できること。それぞれがこれまでの臨床研修で得た知識と技術を地域医療の発展と向上のために十分に還元できること。

上記目標に対する到達度:

60%

2003年度から2年間の目標:

できるだけ弘前大学眼科の活動を一般社会に知ってもらうべく社会貢献をする。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	4,	医員	2,	大学院学生	7,	研究生	0	
03年度	听九八 貝	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	5,	医員	2,	大学院学生	7,	研究生	0	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本眼科学会	評議員			5 日
	日本糖尿病眼学会	理事			1日
02年度	日本網膜硝子体学会		中澤 満		1日
	北日本眼科学会	評 議 員			1日
	弘前大学アイバンク	理事長			1日
	北日本眼科学会	評議員	大黒 浩		1 日
	日本神経眼科学会	委 員	大黒 浩		2 日
	日本眼科学会 専門医制度委員会委員	委員		委員会 専門医試験	6 日
03年度	日本眼科学会	評 議 員	中澤 満	評議員会	2 日
	日本網膜硝子体学会	理事		理事会	1 日
	日本糖尿病眼学会	上 事		理事会	1 日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	第40回北日本眼科学会	会 長	中澤 満		2 日
00左座	第9回日本糖尿病眼学会	学会長	中澤満		3 日
03年度	青森眼科集談会	顧問	中澤 満		2 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	Japanese Journal Of Ophthalmology	Section editor				6 日
	弘前医学	副編集長	中澤	満		2 日
02年度	日本眼科学会雑誌	査読委員				3 日
	日本眼科学会雑誌	査読委員	大黒	浩		3 日
	Invest Ophthalmol Vis Sci	査読委員	人羔	石		4 日
03年度	Japanese Journal of Ophthalmology	Section editor	中澤	満	査読 編集会議	13日
	論文查読	審査員	大黒	浩		10日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森県薬剤師会弘前支部研修会 特別講演「緑内障について」	講師	大黒 幾代	弘前市	1 日
	第15回糖尿病病体代謝懇話会	講師	鈴木 幸彦		1 日
	弘前大学医学部公開講座関連講演会	講師	水谷 英之		1 日
03年度	弘前大学医学部公開講座	講師	中澤 満		1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	青森県社会福祉審議委員会	委 員			1日
02年度	青森県特定疾患研究事業	審査員	中澤 満		2 日
	青森県更生相談所	新 <u>年</u> 貝			1日
	青森県社会福祉審議会	委員	中澤満		0 日
03年度	身体障害者福祉法15条,19条関係	安 貝	中俸 何		60日
	青森県眼科医会	理 事	水谷 英之		5 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	教育学部養護教員養成課程	講師	大黒 幾代		8 日
02年度	保健学科	講師	鈴木 幸彦		4 日
	21世紀教育	講師	中澤 満		3 日
03年度	教育学部養護教員養成課程	講師	大黒 幾代		8 日
	保健学科	講師	鈴木 幸彦		4 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	興和新薬株式会社 社内勉強会 「緑内障の病態と薬物治療」	講師	大黒 幾代	弘前市	1日
00年度	青森県立盲学校	講師	中澤 満		1日
03年度	ファイザー株式会社 社内勉強会	講師	大黒 幾代	弘前市	1 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	弘前市および青森県の公立小学校および中 学校での検診(非常に多数)	眼科医	鈴木 幸彦		2 日
02年度			水谷 英之		2 日
			三好永利子		2 日
			間宮 和久		2 日
			佐藤 元哉		2 日
	附属養護学校学内検診	講師	大黒 幾代	弘前市	1日
03年度	眼科健診(弘前市立第4中学校)		水谷 英之		1日
03平皮	学校健診	学 校 医	間宮 和久		1日
	東目屋中学校,東目屋小学校		中村 秀雄		2 日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	国立療養所松丘保養園	眼科医師	中澤 満		50日
	公立金木病院		鈴木 幸彦		50日
	公立野辺地病院		鈴木 幸彦		50日
	公立七戸病院		大黒 浩		50日

	町立浪岡病院 町立大鰐病院		大黒 幾代		50日 50日
	公立米内沢病院		北公 本力		50日
	公立野辺地病院		水谷 英之		50日
	秋田労災病院	明利医体	一たつきも		50日
	板柳病院	眼科医師	三好永利子		50日
00年度	北秋中央病院		即分毛巾		50日
02年度	三戸中央病院		間宮和久		50日
	野辺地病院		佐藤元哉		50日
	鰺ヶ沢病院		佐際儿 以		50日
	兼業(公立七戸病院)	非常勤医師	大黒 浩		70日
	国立療養所松丘保養園	非常勤医師	中澤 満		48 ⊟
	町立大鰐病院	講師	大黒・幾代	大鰐町	週1日
	浪岡町立病院	神 训	人志 茂化	浪岡町	週1日
03年度	野辺地病院	医 師	中村秀雄		週2日
	十和田中央病院	区 削	中们 狩雁		
	公立米内沢病院	北帝勘匠師	北公 苗士		50日
	むつ総合病院	非常勤医師	水谷 英之		50日
	他病院での診療	非常勤医師	間宮 和久		48∃

(12) 国際交流への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	弘前大学国際交流委員会	委 員	中澤 満		3 日

(13) その他

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	視覚障害者のパソコン指導ボランティア	会 員	中澤 満		10日
03年度	財団法人弘前大学アイバンク	理事長	中澤 満	理事会	1 日

27. 耳鼻咽喉科学講座

2002年度から1年間の目標:

1. 学会活動:専門医試験の改革

2. 社会活動:機会があれば、積極的に耳鼻咽喉科領域の疾患に関する啓蒙活動を行う。

1) 耳鼻咽喉科学の知識,特に花粉症に代表されるアレルギー性疾患に関する予防や治療法について広く啓蒙を行っていきたい。

2) 耳鼻咽喉科空白地帯における地域医療に貢献する。

上記目標に対する到達度:

学会活動:専門医試験の改革。60%

程度社会活動:機会があれば、積極的に耳鼻咽喉科領域の疾患に関する啓蒙活動を行う。60%程度

2003年度から2年間の目標:

学会活動:専門医制度の改革を行う。

社会活動:機会があれば、積極的に耳鼻咽喉科領域の疾患に関する啓蒙活動を行う。

特に耳の日には、一般人に対して難聴に関する講演や相談会を企画実行する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	1,	助手	5,	医員	9,	大学院学生	3,	研究生	0
03年度	妍 九八貝	教授	1,	助教授	1,	講師	1,	助手	5,	医員	8,	大学院学生	3,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役	:職	氏	名	備考	日数
	日本耳鼻咽喉科学会	理	理事		秀一	東京	8 日
02年度	日本耳科学会	垤	**	新川	75	東京他	4 日
	日本耳鼻咽喉科学会医事問題	委	員	一戸	学	大分	3 日
	日本耳鼻咽喉科学会	理	事			東京ほか	8 日
	専門医認定試験	委	員	本二111	新川 秀一	東京	3 日
03年度	日本耳科学会	理	事	材 기 		東京ほか	4 日
	耳鼻咽喉科臨床学会 常任運営委員会	委	員			京都ほか	4 日
	日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会	幹	事	欠畑	誠治	青森,弘前,八戸	3 日

(2) 学会などの開催

	件名	役	:職	氏	名	備考	日数
02年度	日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会	会 長	E.	新川	秀一	弘前,青森,八戸	3 日
02年度	北奥羽三県地方部会合同学術講演会	云	X	材[八]	75	弘前	1 日
	日本耳鼻咽喉科学会青森県地方部会学術講演会	会	長			弘前	1 日
03年度				新川	秀一	青森	1 日
	供会					八戸	1 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職		氏	名	備	考	日数
02年度	日本耳鼻咽喉科学会 日本耳鼻咽喉科臨床学会	査 請	売	新川	秀一			
	Tohoku Med J							
	日本耳鼻咽喉科学会		読		別 秀一			
03年度	日本耳科学会	 杳 :i		新川				
03年度	耳鼻咽喉科臨床学会			का)।				
	Tohoku Med J							

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年	人工内耳説明会	講 師	南場 淳司		1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	身障福祉委員会 科学研究費委員会第1段審査委員	委員	新川 秀一		
02年度	青森県公安委員会 青森県花粉情報研究会	指定医 事	松原 篤		3 ⊟
02十段	青森県社会保険診療支払基金	審査委員	4公/尔 局		40日
	青森県身障者巡回診療	判定医	一戸 学	八戸 三沢	2日 2日
	科学研究費委員会専門委員 青森県社会福祉審議会	委員	新川 秀一		
03年度	青森県公安委員会	指定医			
	青森県花粉情報研究会	理事	松原 篤		2 日
	青森県社会保険診療支払基金	審査委員			40日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
02年度	臨床医科学Ⅲ•耳鼻咽喉科	非常勤講師	松原	篤	教育学部	8 日
	臨床医科学Ⅲ・耳鼻咽喉科	北冷熱港師	孙 臣	答	教育学部	7 日
03年度	臨床生理学•平衡機能検査	非常勤講師	松原	源 篤	保健学科	2 日
	成人看護学演習	非常勤講師	欠畑	誠治		2 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	大阪医大,岩手医大,東北大	非常勤講師	新川 秀一		3 日
02年度	信州大学医学部	非常勤講師	松原 篤		1日
	西北病院付属高等看護学院	非常勤講師	一戸 学		6 日
	大阪医科大学講義				1日
	東北大学医学部講義	非常勤講師	新川 秀一		1日
03年度	岩手医科大学講義				1日
	信州大学医学部	非常勤講師	松原 篤		1日
	五所川原市立高等看護学院	非常勤講師	南場 淳司		5 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	青森県立弘前聾学校	学校医	松原 篤		2 日
	比内町教育委員会	子 仅 区	仏/		5 日
02年度	学校健診	学 校 医	欠畑 誠治		10日
	学校健診	学校医	黒田 令子		5 日
	学校健診	学校医	一戸 学		10日
	比内町教育委員会				5 日
	附属幼稚園	学 校 医	松原 篤		1日
	附属養護学校				1日
03年度	青森県立七戸養護学校	学校医	欠畑 誠治		1日
	青森県立七戸高校	一	八川 誠石		1日
	青森県立青森聾学校	学校医	南場 淳司		3 日
	青森県立弘前聾学校	子 仅 区	田勿 仔刊		2 日

(11) 地域医療への貢献

		役職	氏	 名	備考	日数
	板柳町立病院					1日/週
	青森県身体障害者更正相談所	非常勤医師	新川	秀一	耳鼻科	1日/週
	比内町立扇田病院	非常勤医師	松原	篤	耳鼻科	50日
00左连	公立七戸病院・浪岡町立病院	非常勤医師	欠畑	誠治	耳鼻科	100日
02年度	町立大鰐病院・黎明郷	非常勤医師	黒田	令子	耳鼻科	100日
	西北中央病院					60日
	浪岡町立病院	非常勤医師	一戸	学	耳鼻科	40日
	青森労災病院					20日
	板柳町立病院	非常勤医師	新川 秀一			1年間
	青森県身体障害者更生相談所	嘱 託	利川	75		1年間
	比内町立扇田病院	非常勤医師	松原	篤		1年間
	公立七戸病院					1年間
	浪岡町立病院	非常勤医師	欠畑	誠治		1 年間
	弘前市立病院					1年間
	大鰐病院	非常勤医師	黒田	会子		1 年間
	黎明鄉	护市到区間		Д1 Л		1年間
03年度	浪岡町立病院	非常勤医師	一戸	学		1 年間
1034/2	西北中央病院	护市到区間		一 于		1年間
	平賀病院	非常勤医師	寺田	一仁		1年間
	鯵ヶ沢町立中央病院					1年間
	青森労災病院	非常勤医師	石井	賢治		1年間
	三戸中央病院					1年間
	西北中央病院					1年間
	北秋中央病院	非常勤医師	南場	淳司		1 年間
	黒石病院	サ市 割 四	円勿	仔川		1 年間
	鯵ヶ沢町立病院					1年間

(12) 国際交流への貢献

		件名	役職	氏	名	備考	日数
02年	度	ジャマイカ国南部地域保健強化プロジェクト	医療専門科	一戸	学	JICA	20日

(13) その他

28. 放射線医学講座

2002年度から1年間の目標:

地域医療の貢献

学術的貢献

医療ならびに災害による放射線被ばくの防護に関する啓蒙

上記目標に対する到達度:

地域医療の貢献

学術的貢献

医療ならびに災害による放射線被ばくの防護に関する啓蒙

60—80%

2003年度から2年間の目標:

- 1. 地域医療への貢献
- 2. 放射線科医としての専門的事項に関する助言・指導
- 3. 放射線科医としての学術的貢献
- 4. 医療ならびに災害による放射線被ばくの防護に関する啓蒙

【研究人員】

02年度 03年度	亞 索 / 昌	教授	1,	助教授	1,	講師	1,	助手	6,	医員	3,	大学院学生	0,	研究生	3	
03年度	研究人員	教授	1,	助教授	2,	講師	1,	助手	6,	医員	0,	大学院学生	1,	研究生	5	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本医学放射線学会評議員会			横浜	1 日
	日医放生物部会幹事会			横浜/秋田	2 日
	高精度定位体幹部照射研究会世話人会			横浜/仙台	2 日
	日本放射線腫瘍学会関連学会委員会			横浜/東京	2 日
	日本放射線腫瘍学会教育委員会			横浜/大阪	2 日
	日本放射線影響学会幹事会	教 授	阿部 由直	京都	2 日
	日医放地方会世話人会			弘前/仙台	2 日
	日本核医学会地方会世話人会			弘前/仙台	2 日
	日医放防護委員会			秋田	1日
02年度	日本放射線腫瘍学会評議員会			東京	1日
	医療放射線防護委員会			東京	1日
	北日本放射線腫瘍学研究会			弘前/仙台	
	青森呼吸器研究会	講師	青木 昌彦	青森	4 日
	北奥羽放射線治療懇話会			小坂町	
	日本医学放射線学会骨軟部研究会			幹事	1 日
	日本医学放射線学会北日本地方会	助教授	佐々木泰輔	世話人	1日
	北日本診断カンファランス			幹事	1日
	日本ステント&グラフト研究会	助手	野田 浩	世話人	1日
	青森核医学研究会	助 手	三浦 弘行	幹事	1日
	日本医学放射線学会評議員会	評 議 員		横浜	1日
	日医放生物部会幹事会	常任幹事		横浜金沢	2 日
	高精度定位体幹部照射研究会世話人会	世話人		東京	1日
03年度	日本放射線腫瘍学会関連学会委員会	副委員長	阿部 由直	横浜東京	2 日
	日本放射線腫瘍学会教育委員会	委 員		横浜葉山	2 日
	日本放射線影響学会幹事会	常任幹事		京都	1日
	日医放地方会世話人会	世話人		盛岡仙台	2 日

	日本核医学会地方会世話人会	世話人		盛岡仙台	2 日
	日医放防護委員会	委員		横浜東京	2 日
	日本放射線腫瘍学会評議員会	評議員		東京	1日
03年度	医療放射線防護委員会	委員		東京	1 日
	日本医学放射線学会北日本地方会	世話人	小野 修一	盛岡仙台	2 日
	北日本放射線腫瘍研究会	世話人	青木 昌彦	仙台	1 日
	青森県核医学研究会	世話人	三浦 弘行	弘前	1 🖯

(2) 学会などの開催

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
	第106回日本医学放射線学会北日本地方会 (弘前市) 2002.6.14-15	教	授	阿部	由直	弘前	延べ3日
02年度	第51回日本核医学会北日本地方会(弘前市) 2002.6.14	教	仅	hil II)	出旦	弘前	延べ3日
	第38回北日本放射線腫瘍学研究会	講	師	青木	昌彦	弘前	1日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	哉	氏	名	備考	日数
	Tohoku J exp Med					査読	1 件
	日本医学放射線学会誌				由直	査読	1件
02年度	Int J Clinical Oncol	教	授	阿部		査読	1件
	J Radiation Research					査読	1件
	Ann Nuclear Medicine					查読	1件
	Int J Clinical Oncol					編集委員	
02年度	J Radiation Research	教	授	阿部	山古	編集委員	1日
03年度	Radiation Medicine	叙	1又	어ロ Cud	由直	査読	2 日
	弘前医学					査読	1日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	平成14年度環境・エネルギー・放射線セミナー (文系コース東北地区セミナー) 講師	教 授	阿部 由直	青森	1日
	救急医学講座(弘前大学医学部附属病院)	講師	阿部 由直	弘前	1 日
	SCC	世話人			6 日
	東北胸部画像診断研究会				1日
	あおば画像研究会				1日
03年度	宮城総合画像研究会		小野 修一		1日
	胸部画像診断セミナー		71年1 118		4 日
	Hirosaki Lung Seminar				1日
	感染症フォーラム	講師			1 日
	仙台呼吸器疾患研究会				1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役	職	氏 名	備考	日数
	青森県小児がん等がん調査委員会				青森市	2 日
00左座	青森県原子燃料サイクル施設環境放射線等 監視評価会議	±4+	授	Var 첫V - Haris	青森市	3 日
02年度	青森県緊急被ばく検討委員会	教	仅	阿部 由直	青森市	1日
	青森県緊急被ばく医療ネットワーク調査検 討委員会				青森市	2 日
	青森県小児がん等がん調査委員会				青森市	2 日
	青森県原子燃料サイクル施設環境放射線等 監視評価会議	#1.	1.53	17-0°-land 1	青森市	3 日
03年度	青森県緊急被ばく検討委員会	教	授	阿部由直	青森市	2 日
	青森県緊急被ばく医療ネットワーク調査検 討委員会				青森市	2 日
	青森県小児がん等調査検討委員会	委	員	青木昌彦	青森市	2 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役	:職	氏 名	備考	日数
02年度	保健学科					15日
	共通教育	教	授	阿部 由直		4 日
	21世紀教育					1日
	教育学部	助	手	三浦 弘行		7 日
	保健学科	教	授	阿如 占古		15日
03年度	21世紀	教	仅	阿部 由直		5 日
	教育学部	助	手	三浦 弘行	放射線医学	6 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	青森県立中央病院症例検討会	講 師	小野 修一		1日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

		件名	役職	氏 名	備考	日数
02年	连度	弘前大学職員検診	学校医	阿部 由直	胸部検診	6 日
03年	连度	弘前大学職員検診	学校医	阿部 由直	胸部検診	6 日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
	鯵ケ沢町立中央病院	教	授	阿部	由直	非常勤医	50日
	三沢市立三沢病院	助素	女 授	佐々オ	下泰輔	非常勤医	50日
	青森県立中央病院 むつ総合病院	講	師	青木	昌彦	非常勤医	100日
	黒石病院	助	手	板橋	陽子	非常勤医	30日
	青森市民病院 西北中央病院	助助	手	三浦	 弘行	非常勤医	100日
02年度	弘前記念病院	助	十	二冊	5A1J	井市 勤区	100 🗆
	むつ総合病院 黒石国保病院	助助	手	野田	浩	非常勤医	100日
	鷹揚鄉病院		于	判田	₹ □	7F1IJ #2/12	100 🗆
	青森市立市民病院	助	手	場崎	潔	非常勤医	98日
	むつ総合病院 青森県立中央病	助	手	渋谷	剛一	非常勤医	100日
	大館市立総合病院	助	手	近藤	英宏	非常勤医	100日
	鯵ケ沢町立中央病院	非常勤	加医師	阿部	由直		40日
	八戸市民病院	非常茧	加医師	小野	修一		40日
	青森県立中央病院	非常菫	加尼師	青木	昌彦		40日
	大館市立総合病院	- 非角男	万 田	月小	自多		40日
03年度	西北中央病院			三浦	弘行		80日
	青森市民病院	非常重	加尼師	場崎	潔		100日
	鰺ヶ沢町立病院	が用当		勿叫	係		50日
	むつ総合病院	非常	自勤	大畑	崇		80日
	青森市民病院			板橋	陽子		25日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

29. 産科婦人科講座

2002年度から1年間の目標:

医療レベルの向上、社会貢献での向上を目指し、新しい体制を確立する。

上記目標に対する到達度:

人員の制限はあったが可能な限りの社会貢献をおこなった。

2003年度から2年間の目標:

現状のさらなる発展をめざし努力する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	4,	医員	0,	大学院学生	3,	研究生	0	
03年度	妍 九八貝	教授	1,	助教授	0,	講師	3,	助手	3,	医員	5,	大学院学生	7,	研究生	0	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏:	名	備考	日数
	日本産科婦人科学会	評議員				1日
	日本更年期医学会	理 事				3 日
	日本内分泌委員会	代議員				1 日
	日本不妊学会					1 日
	日本骨粗鬆症学会	評 議 員				1 日
	日本母性衛生学会		水沼 茣	 上樹		1 日
	婦人科骨粗鬆症研究会	世話人				1日
	代謝性骨疾患研究会	世 前 八				3 日
02年度	青森県臨床産婦人科医会	会 長				5 日
	日本母性保護産婦人科医会	女性保健委員				4 日
	Healthy Ageing Project for Women	理 事				2 日
	日本不妊学会					1 日
	日生殖免疫学会	評議員				1 日
	日本不妊学会東北支部会		 藤井 俊)		1 日
	青森県婦人科内分泌研究会		I BRT D	C/R		1 日
	青森県 STD 研究会	世話人				1 日
	東北婦人科内視鏡懇話会					1日
	日本産科婦人科学会	代議員			東京	1日
		生殖内分泌委			東京	3 ⊟
		員会副委員長				
	日本更年期医学会	理事			東京	3 日
	日本母性衛生学会	1	 水沼 英	英樹	東京	1日
	日本不妊学会				東京	1 日
	日本内分泌学会	評議員			東京	1日
	日本骨粗鬆症学会				東京	1日
03年度	日本産婦人科医会	女性保健部 副委員長			東京	1日
	日本不妊学会評議員会	評議員			東京	1 日
	日本不妊学会東北支部会	計 祺 貝			山形	1日
	青森産婦人科内分泌研究会				青森	1日
	青森県内視鏡外科研究会	世話人	 藤井 俊) 答	青森	1日
	青森県 STD 研究会	區 前 八	MRT 19	C/PC	青森	1日
	東北産婦人科内視鏡懇話会				福島	1日
	日本産科婦人科医会	研修委員			東京	20日
	青森県臨床産婦人科医会	理事			青森	10日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森県臨床産婦人科医会	会 長	水沼 英樹		5 日
	青森県婦人科内分泌研究会		水沼 英樹		1日
03年度	青森県臨床産婦人科医会	会 長	水沼 英樹		5 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	Hormone Frontier in Gynecology	編集委員	水沼 英樹		2 日
	J Bone & Mineral Metab		水沼 英樹	査読	2 日
02年度	Human Reproducyion		藤井 俊策	査読	3 日
	J Obstet Gynaecol Res		旅升 牧泉	11.0亿	2 日
	Eur J Gyaencol Oncol	編集委員	横山良仁		3 日
	J Obstet & Gynaecol Res		傾田 民口	査読	
	HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY	編集委員			2 日
	骨粗鬆症治療		水沼 英樹		2 日
	J Bone Mineral Metab	査 読	八伯 天倒		2 日
	J Obst Gynecol Research	111 武			1日
03年度	J Obstet Gynaecol Res	なし	藤井 俊策		2 日
	青森県臨床産婦人科医会誌	編集委員	旅升 牧泉		14日
	Eur J Gynaecol Oncol	編集委員			3 日
	J Obstet Gynaecol Res	ta 1	横山 良仁		2 日
	J Andrology	なし			4 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	不妊専門相談センター研修会	講 師	藤井 俊策	青森	1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	青森県総合検診センター	理 事			1 日
02年度	青森県地域保健医療対策委員会	委員	水沼 英樹		1日
	青森県成人病検診管理指導協議会	安貝			1日
	青森県成人病検診管理指導協議会	委 員			1日
02年度	青森県総合検診センター	理 事	水沼 英樹		1日
03年度	青森県地域医療対策委員会	委 員			1日
	不妊専門相談センター	相談員	藤井 俊策		30日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	セローノジャパン社	PA			2 日
	株式会社ヤクルト				2 日
02年度	小野薬品工業株式会社	医学専門科	水辺 苦樹		2 日
02年度	日本シェーリング社		水沼 英樹		2 日
	日本化薬株式会社				2 日
	日本ロッシュ社				2 日

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	医学部保健学科	講師	水沼 英樹		1 日
	医学部保健学科	講師	藤井 俊策		1日
	教育学部	講師	坂本 知巳		1 日

03年度	医学部保健学科	非常勤講師	水沼 英樹	1 日
	21世紀教育科目	非常勤講師	八石 天倒	1 日
	医学部保健学科	非常勤講師	藤井 俊策	1 日
	21世紀教育	非常勤講師		1 日
	21世紀教育	非常勤講師	横山 良仁	1 日
	医学部保健学科	非常勤講師	二神 真行	1 ∃

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	岩手県立一戸高等看護学院	非常勤講師	横山 良仁		4 日
	岩手県立一戸高等看護学院	非常勤講師	坂本 知巳		3 日
00/5/5	岩手県立一戸高等看護学院	非常勤講師	横山 良仁		2 日
03年度	岩手県立一戸高等看護学院	非常勤講師	坂本 知巳		2 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森県総合検診センター	検診医	藤井 俊策		16日
	青森県総合検診センター	検診医	横山 良仁		2 日
	青森県総合検診センター	検診医	藤井 俊策		15日
00年度	青森県総合検診センター	検診医	横山 良仁		15日
03年度	青森県総合検診センター	検診医	福井 淳史		15日
	青森県総合検診センター	検診医	二神 真行		15日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役 職	氏 名	備考	日数
	鯵ヶ沢町立病院	非常勤医師	藤井 俊策		23日
	公立金木病院	井市勤区 師	歴		23日
	弘前市立病院	非常勤医師	横山 良仁		8 日
	西北中央病院	か市刧区叫	(横山) 以		8 日
02年度	岩手県立一戸病院	非常勤医師	坂本 知巳		
02千度	青森県総合検診センター	か市勤区師	以平 川 し		
	公立金木病院	非常勤医師	福井 淳史		
	黒石病院	か市勤区師	1曲开 存火		
	公立金木病院	非常勤医師	二神 真行		
	むつ総合病院				
	鯵ケ沢町立中央病院	非常勤医師	藤井 俊策	鯵ケ沢	23日
	平内中央病院	升币 勤区删	歴	平内	23日
	岩手県立一戸病院	非常勤医師	横山 良仁	一戸	23日
	岩手県立一戸病院	非常勤医師	坂本 知巳	一戸	23日
03年度	青森県総合健診センター	升 币勤区删	圾平 知し	青森	23日
	むつ病院	非常勤医師	福井 淳史	むつ	23日
	黒石病院	井市勤区 師	佃井 存史	黒石	23日
	むつ病院	非常勤医師	一抽 古伝	むつ	23日
	黒石病院	升币割区刷	二神 真行	黒石	23日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

30. 麻酔科学講座

2002年度から1年間の目標:

- 1. より安全な全静脈麻酔法の開発
- 2. 医療事故予防のための MATSUKI の 7 ルールの普及
- 3. 手術部における事故予防のため作業手順の見直し一個人確認法の技術開発一
- 4. 術前麻酔科診療における患者の理解度を深める方法の開発
- コミュニケーションギャップを埋めるため新しいシステムの構築

上記目標に対する到達度:

日本学術会議第7部救急・麻酔・集中治療連絡会委員長として松木明知教授が引き続いて選ばれ活躍している。教室員のワークロードが増加していることを考慮すれば、ほぼ80%の到達度である。

2003年度から2年間の目標:

麻酔科の仕事を社会的にもっと理解してもらうことを目標とする。このため、教室員全員に ACLS provider のコースを受講してもらい、県内の心肺蘇生の救命率を高めるべく関係各科、各部門と協力して ACLS の普及に務める。また救命救急士の気管挿管実習も受け入れる。

またリスクマネージメントに関する全国レベルのシンポジウムを開催する。

【研究人員】

02年度	111/2011 日	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	4,	医員	13,	大学院学生	2,	研究生	3
02年度 03年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	4,	医員	15,	大学院学生	1,	研究生	2

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本麻酔科学会	理 事			
	日本蘇生学会	監 事			
	日本臨床麻酔学会				
	日本局所麻酔学会	評議員	松木 明知		
	日本集中治療医学会	一 武 政 只			
	日本ペインクリニック学会				
02年度	日本麻酔とリスクマネジメント研究会	世話人			
	日本集中治療医学会会則検討委員会				1年
	日本集中治療医学会司法協力委員会	委 員	石原 弘規		1年
	日本集中治療医学会専門医試験委員				2年
	厚生省請負事業, 関係学会医薬品等適正使用	ガイドラ		 電子メール.	
	推進試行的事業,日本麻酔科学会,麻酔関連	イン作成	廣田 和美	電話を用いた。	1年
	医薬品等適性使用評価委員会	委員			
	日本学術会議第7部会員	委員長	松木明知		1年
	日本麻酔科学会(倫理綱領作成)				1年
	日本集中治療医学会(専門医試験問題作成)	委 員	石原 弘規		2年
03年度	日本集中治療医学会(会則検討)				1年
	厚生相請負事業, 関係学会医薬品等適正使用	ガイドラ		電子メール,	
	推進試行的事業,日本麻酔科学会,麻酔関連	イン作成 委 員	廣田 和美	電話を用いた。	1年
	医薬品等適性使用評価委員会	安 貝			

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	青森県集中治療研究会	世話人	坪 敏仁		1 日
02年度	青森県ショック研究会				
	青森県疼痛研究会	コメンテーター	佐藤 哲観		1日

	青森県臨床麻酔研究会	会 長	廣田 和美	1 日
	青森県経食道エコー研究会	世話人	坪 敏仁	1 日
	第8回青森県周術期管理研究会			
00年度	第22回青森県集中治療研究会	世話人	大川 浩文	1 日
03年度	第17回青森県疼痛研究会			
	第38回青森県臨床麻酔研究会	会 長	橋本 浩	1 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	麻酔	編集委員				
	蘇生	査読委員	松木	明知		
	日本臨床麻酔学会雑誌	11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11				
	Critical Care Medicine	査読委員	石原	弘規	1編	1 日
	British Journal of Anaesthesia	国際編集委員			8 査読	
	Journal of Anesthesia	編集委員会顧問			2 査読	
02年度	Ion Channel Modulators				0 査読	
	Anesthesiology				1 査読	
	CriticalCare Medicine		廣田	和美	1 査読	
	Clinical Experimental Pharmacology and Physiology	査読委員			0 査読	
	Journal of Pharmacy and Pharmacology				1 査読	
	Clinical Drug Investigation				1 査読	
	Critical Care Medicine	査 読	石原	弘規	1	1 日
	Medical Science Monitor	且	41/环	刀公分比	3	14日
	British Journal of Anaesthesia	国際編集委員			10査読	140日
	Journal of Anesthesia	編集委員会顧問			1 査読	14日
	Ion Channel Modulators				0 査読	0 日
	Anesthesiology				0 査読	0 日
	Critical Care Medicine				0 査読	0 日
03年度	Clinical Experimental Pharmacology and Physiology		廣田	和美	0 査読	0 日
	Journal of Pharmacy and Pharmacology	査読委員			1 査読	14日
	Clinical Drug Investigation				0 査読	0 日
	Tohoku Journal of Experimental Medicine				0 査読	0 日
	Brain Research				1 査読	14日
	Molecular Genetics & Metabolism				1 査読	14日
	BMC Pharmacology				1 査読	14日
	British Journal of Anaesthesia	審査員	櫛方	哲也	5 査読	50日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
02年度	弘前市民弓道教室	講	師	工藤	剛		5 日
	弘前市中学生弓道教室	神	HIH	上旅	[H]]		5 日
03年度	青森県薬剤師会研修会,青森県疼痛研究会,むつ下北医師会学術講演会,癌性疼痛管理シンポジウム	助	手	佐藤	哲観		4 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
	日本学術会議	会	員				20日
	青森県医師会	理	事	4//	松木 明知		14日
	弘前大学医師会	会	長	化水			4 日
02年度	弘前市立博物館協議会	委	員				2 日
	青森県献血推進協議会	委	員				1日
	青森県 Rh(-)友の会連絡協議会	_	長	工藤	工藤 剛		1日
	弘前市 Rh(-)友の会	会	区				5 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
02年度	気管挿管時のリスクマネージメント (医療安全対策室からの依頼:対象看護師)			石原	弘規		1日
	心電図が読めるコツ	助	手	大川	浩文		1日
03年度	最新医学の現状	⇒#±	師	廣田	和美	21世紀教育	1 日
	成人看護方法論Ⅱ	講				保健学科	2 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	ICU の仕組みについて	助手	大川 浩文		1 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年	南黒歯科医師会蘇生講習	助手	村岡 正敏		1 日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役 職	氏 名	備考	日数
	青森市民病院	非常勤	石原 弘規	毎週火曜	1年
	五所川原市立西北中央病院	非常勤	小谷 直樹	毎週木曜	1年
02年度	黒石病院	非常勤	廣田 和美	毎週火曜	1年
02平皮	黒石厚生病院	非常勤	村岡 正敏	毎週水曜	1年
	弘前記念病院	非常勤	佐藤 哲観	毎週火曜	1年
	五所川原市立西北中央病院	非常勤	大川 浩文	毎週月曜	1年
	青森市民病院	非常勤	石原 弘規	毎週火曜	1年
	五所川原市立西北中央病院	非常勤	小谷 直樹	毎週木曜	1年
03年度	黒石病院	非常勤	廣田 和美	毎週火曜	1年
03平皮	黒石厚生病院	非常勤	村岡 正敏	毎週水曜	1年
	弘前記念病院	非常勤	佐藤 哲観	毎週火曜	1年
	五所川原市立西北中央病院	非常勤	櫛方 哲也	毎週木曜	1年

(12) 国際交流への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	国際共同研究 1. 英国レスター大学麻酔科学講座 2. イタリア・フェラーラ大学薬理学講座 3. 英国グラクソスミスクライン神経科学研究所	講 師	廣田 和美		

(13) その他

		件名	役職	氏	名	備考	日数
02年度	弘前大学弓道部指導	コーチ	工藤	剛	土, 日夜	10日	
02	十段	弘前高等学校弓道部指導		上旅	l _m j ij	土, 日	30日

31. 脳神経外科学講座

2002年度から1年間の目標:

市民講座や医療関係者向けの講演活動を行うことによって、社会貢献活動を行いたい。

上記目標に対する到達度:

当科主催の市民・医療関係者向けの講演会を行い、目標をほぼ達成した。

2003年度から2年間の目標:

市民・医療関係者向けの講演会の回数をさらに増やすとともに、インターネットを用い脳疾患に対する質疑にも応じていきたい。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	3,	医員	0,	大学院学生	4,	研究生	0
03年度	切九八貝	教授	1,	助教授	1,	講師	2,	助手	4,	医員	2,	大学院学生	3,	研究生	1

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	脳神経減圧研究会	世話人		松本市	1日
	脳・神経手術モニタリング」ワークショップ	運営委員		大阪市	1日
	東北脳腫瘍研究会	幹 事	関谷 徹治	福島市	1日
02年度	神経損傷の基礎研究会	Steering committee		東京都	1日
	脳神経外科学会	評議員			1日
	脳卒中学会	一 武 典	大熊 洋揮		1日
	スパズム・シンポジウム	世話人			1日
	脳神経外科学会	評議員			2 日
	脳卒中学会	一 武 典	大熊 洋揮		1日
03年度	スパズム・シンポジウム	世話人			1日
	日本小児神経外科学会ガイドライン作成委 員会	文献レビュー	嶋村 則人		1日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	第18回スパズム・シンポジウム	会 長	鈴木 重晴		1 日
02平皮	第26回北日本脳神経外科連合会学術集会 会 長	云 女	如小 里唄		2 日
00年時	第1回青森県脳卒中フォーラム	世話人	大能 洋揮		1 日
03年度	第2回青森県脳卒中フォーラム	代表世話人	人熊 仟浬		1日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00左庇	CI研究	編集委員	大熊 洋揮		1日
03年度	脳神経外科	編集同人	大熊 洋揮		1日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	青森県公安委員会	指定専門医師	大熊 洋揮		1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	自動車事故対策センター				
	青森県成人病検診管理指導協議会		鈴木 重晴		
02年度	青森県小児がん調査委員会				
	青森労働局	地方労災員	関谷 徹治		3 日
	青森県小児がん等調査実務検討委員会	委 員	高橋 敏夫		3 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	21世紀教育	教 授	鈴木 重晴		2 日
	21世紀教育	講師	大熊 洋揮		1日
03年度	21世紀教育	講師	高橋 敏夫		1日
	医学部保健学科成人看護学	助 手	嶋村 則人		2 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	弘前大学医療技術短期大学	非常勤講師	関谷 徹治		8 日
	Greer Neurosurgery Clinic (アメリカ) における教育講演	講師	大熊 洋揮		1日
03年度	悪性脳腫瘍,特に悪性神経膠腫についての今 後の展望	講師	浅野研一郎		1 日
	悪性神経膠腫の細胞接着因子の関与				1 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役 職	氏 名	備考	日数
	黒石市国保黒石病院				
	公立野辺地病院	非常勤医師	鈴木 重晴		144日
	北秋中央病院				
02年度	むつ総合病院	非常勤医師	関谷 徹治		80日
02千及	西北中央病院	非常勤医師	大能 洋揮		144∃
	ヒロサキメディカルセンター		人炽 什坤		144 🖂
	三沢市立病院	非常勤医師	高橋 敏夫		96日
	十和田市立中央病院	非常勤医師	嶋村 則人		96日
	西北中央病院	非常勤医師	大能 洋揮		96日
03年度	ヒロサキメディカルセンター	か市刧区叫	人炽 什坤		36日
103千段	ヒロサキメディカルセンター	非常勤医師	嶋村 則人		96日
	むつ総合病院	非常勤医師	浅野研一郎		48日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	平成13年度日本神経外傷学会賞 (牧野賞) 受賞	助教授	関谷 徹治	東奥日報 紙上掲載	

32. 形成外科学講座

2002年度から1年間の目標:

形成外科領域の知識提供、啓蒙活動を積極的に行う。

積極的に地域医療に貢献する。

上記目標に対する到達度:

ほぼ達成されたものと思われる。

2003年度から2年間の目標:

形成外科領域の啓蒙活動を積極的に行う。

さらに地域医療に貢献する。

【研究人員】

02年度 03年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	3,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0	
03年度	听九八 貝	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	3,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本形成外科学会	評議員	澤田幸正		1 日
	日本熱傷学会	計 戦 貝	伊田 芋止 		1 日
	日本形成外科学会	評 議 員			2 日
02年度	日本形成外科学会学術教育委員会	学術教育委員			4 日
	日本形成外科学会基礎学術集会	プログラム委員	四ッ柳高敏		1 日
	日本熱傷学会	評 議 員			2 日
	Plastic Surgery Education Foundation	Fuculty			5 日
	日本形成外科学会	評議員	澤田幸正		1日
	日本熱傷学会	計 戦 貝	伊田 芋止 		1日
00年度	日本形成外科学会	企画調査委員			
03年度	日本形成外科学会	専門医問題作成委員	四ッ柳高敏		
	日本形成外科学会	評議員	四ツ州南戦		1日
	日本熱傷学会	計 祇 貝			1日

(2) 学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	第80回日本形成外科学会北海道東北支部東 北地方会		澤田幸正	弘前	1 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	日本熱傷学会誌		四ッ柳高敏		1 ⊟

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	弘前医学会例会公開講座「耳介再建について」				1 日
03年度	青森保健所主催による患者と家族との交流 会「口唇口蓋裂と形成外科の最新治療」		四ッ柳高敏		1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	創傷被覆材 (キチン又はキトサン生成体と軟骨材を含侵させた創傷被覆材)	助教授	四ッ柳高敏	特許02P00076	

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	ファイザー製薬社内勉強会「創傷治癒」		四ッ柳高敏		1 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役 職	氏 名	備考	日数
	五所川原市立西北中央病院	非常勤医師	澤田 幸正	14.4.1-8.31	週1日
	五所川原市立西北中央病院	非常勤医師	m 柳青樹	14.4.1-15.3.31	2 日/月
	むつ総合病院	非吊 勤医師	四ッ柳高敏	14.4.1-15.3.31	2 日/月
	五所川原市立西北中央病院			14. 9 . 1 -15. 3 .31	週1日
	弘愛会病院	非常勤医師	 山下 建	14.4.1-8.31	週1日
02年度	北秋中央病院	井 市	III	14. 9 . 1 -15. 3 .31	週1日
	むつ総合病院			14.4.1-8.31	週1日
	三沢市立三沢病院	非常勤医師	横井 克憲		50日
	弘愛会病院				52日
	北秋中央病院	非常勤医師	漆舘 聡志		26日
	むつ総合病院				13日
	五所川原市立西北中央病院	非常勤医師	四ッ柳高敏	15. 4 . 1 -16. 3 .31	月2回
	むつ総合病院	升 用 割 区 叫	四ツ柳同戦	15. 4 . 1 -16. 3 .31	月2回
	五所川原市立西北中央病院	非常勤医師	山下建	15. 4 . 1 -16. 3 .31	週1回
02年度	北秋中央病院	升 市		15. 4 . 1 -16. 3 .31	週1回
03年度	三沢市立三沢病院	非常勤医師	横井 克憲	15. 4 . 1 -16. 3 .31	週1回
	弘愛会病院	升 用 割 区 叫	大	15. 4 . 1 -16. 3 .31	週1回
	弘愛会病院	非常勤医師	漆舘 聡志	15. 4 . 1 -16. 3 .31	週1回
	むつ総合病院	かの制区師	徐昭 応応	15. 4 . 1 -16. 3 .31	月2回

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

33. 救急・災害医学講座

2002年度から1年間の目標:

上記目標に対する到達度:

全学では共通教育を前期 4 コマ後期 2 コマ、医学部では Pre-SGT、及び SGT の全グループの臨床実習を 1 人の教官で担当していたが、 2 月より救急災害医学講座に教授が専任になった。また、医学部保健学科の医療工学15時間、救急・蘇生医学15時間、専攻科には 7 時間の講義と 2 時間の実習が行われた。

更に弘前市医師会附属高等看護学院の外科総論を7時間,青森県消防学校救急科教育講義並びに病院実習,救急救命財団東京研修所の救命士教育の病院実習,弘前地区,平賀・尾上地区救急救命士生涯教育も実施した。更に,津軽・西北五地域のメディカルコントロール体制における事後検証票評価等も行っており。今後も継続する。設定した社会活動は完全に実行できた。

2003年度から2年間の目標:

救急災害医学講座の設置により、救急災害医学の講義、SGT 教育期間が1週間になった事、卒後研修医の受け入れ等、これまでの教育体制とは様相を異にする。今後の目標の第1は医学部学生の救急医学教育、卒後臨床研修医の教育、救急担当看護師教育、さらには救急救命士を主にした救急隊員教育に主眼をおくことになる。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	0,	助教授	0,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	岍九八 貝	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

該当なし。

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	第49回日本宇宙航空環境医学会	助教授	滝口 雅博		3 日
03年度	第12回青森救急医学会	教 授	奥村 謙		1日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	日本航空医療学会雑誌	助教授	滝口 雅博		1日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員、医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	国土交通省関東地方整備局さがみ縦貫危険 物処理に関する有識者委員会				2 日
	原子力安全研究協会高次被ばく医療ネット ワーク検討委員会	教 授	浅利 靖		2 日
03年度	原子力安全研究協会青森地区緊急被ばく医 療ネットワーク会議				2 日
	青森県地域医療協議会救急医療対策専門部 会(青森県 MC 協議会)	助教授	滝口 雅博		2 日
	津軽·西北五地域 MC 協議会				2 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	21世紀教育•共通教育				2 日
	教育学部養護教諭養成課程	助教授			15日
03年度	医学部保健学科医療工学		滝口 雅博		15日
	医学部保健学科救急蘇生医学				15日
	医療短期大学部専攻科				9 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	弘前市医師会付属高等看護学院	中 * 松	法口 唯抽		7 日
	青森県消防学校	助教授	滝口 雅博		6 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役 職	氏 名	備考	日数
03年度	公立野辺地病院	助教授	滝口 雅博		24日

(12) 国際交流への貢献

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
03年度	国際緊急援助隊総合調節部会	教	授	浅利	靖		2 日

(13) その他

34. 臨床検査医学講座

2002年度から1年間の目標:

日本臨床検査医学会本部および東北支部活動を支え検査医学の振興に努め、地域医療に貢献する。

上記目標に対する到達度:

日本臨床検査医学会本部および東北支部活動を支え検査医学の振興に努め、地域医療に貢献してきた。

2003年度から2年間の目標:

日本臨床検査医学会本部および東北支部活動を支え検査医学の振興に努め、地域医療に貢献する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	3,	研究生	0
03年度	妍 九八貝	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	3,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本臨床検査医学会	理 事			4 日
02年度	日本臨床検査医学会東北支部	支 部 長	保嶋 実		2 日
	日本腎臓学会,日本高血圧学会,他 4 学会	評 議 員			
	日本臨床検査医学会	理 事		東京	4 日
	日本臨床検査医学会東北支部	支 部 長	保嶋 実		2 日
03年度	日本腎臓学会,日本高血圧学会,他 4 学会	評 議 員			
	日本臨床検査医学会東北支部	幹事兼評議員	庄司 優		
	日本内分泌学会	代 議 員	庄司 優		

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏	名	備考	日数
00/7:19	日本臨床検査医学会東北支部例会	会 長	保嶋	実		1 日
02年度	臨床検査技師を対象とした「生涯教育講演会」	事務局長	庄司	優		1 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	Ż	備考	日数
03年度	Tohoku J Exp Med	木芸昌	/日油	中		2 日
	Hypertension Res	査 読 員	保嶋	実		2 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	弘前大学医学部「健康・医療講演会」				1日
02年月	八戸地区病院診療所薬剤師会講演会	講師	保嶋 実		1日
	日本衛生検査所協会東北支部検査月間大会				1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00左座	青森県医師会	理 事			12日
03年度	青森県精度管理専門委員会	委 員			3 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役	:職	氏	名	備考	日数
00年度	医学部保健学科	= #±	ம்க	/日.伯	宝	検査管理概論	1 日
02年度	東北大学医学部	講	師	保嶋	夫	検査医学	1 日
03年度	東北大学医学部	講	師	保嶋	実	検査医学	2 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役 職	氏 名	備考	日数
	木造町成人病センター	非常勤医師	保嶋 実		通年
02年度	木造町成人病センター	非常勤医師	庄司 優		通年
	町立浪岡病院	非常勤医師	佐々木真吾		通年
	木造町成人病センター	非常勤医師	保嶋 実		通年
03年度	木造町成人病センター	非常勤医師	庄司 優		通年
	町立浪岡病院	非常勤医師	佐々木真吾		通年

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

35. 臨床薬理学講座

2002年度から1年間の目標:

学会誌等の査読を積極的に行い、編集業務に協力する。また学会活動に貢献する。

兼業規定範囲内で地域医療に従事する。

医学部医学科以外の講義を積極的に行う。

医薬品開発業務の積極的な支援を行う。

地域での治験推進に対する啓蒙を行う。

上記目標に対する到達度:

学会誌等の査読を積極的に行い、編集業務に協力する:積極的に行った

医薬品開発業務の積極的な支援を行う:積極的に行った 地域での治験推進に対する啓蒙を行う:積極的に行った

2003年度から2年間の目標:

学会誌等の査読を積極的に行い、編集業務に協力する。

医薬品開発業務の積極的な支援を行う。

地域での治験推進に対する啓蒙を行う。

他大学での講義・実習に積極的に協力する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	0,	講師	1,	助手	1,	委員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	切先八貝 	教授	1,	助教授	0,	講師	1,	助手	1,	委員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本臨床薬理学会	評議員	立石 智則		3 日
03年度	Pacific Rim Association for Clinical Pharmacogenetics,	評議員	古郡 規雄		3 日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	第13回日本臨床精神神経薬理学会	事務局長	古郡 規雄		91日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役	:職	氏	名	備考	日数
	臨床薬理	教	授	立石	智則	査読	2 日
	東北ジャーナル	教	1又	77.47	11111111111111111111111111111111111111	査読	2 日
02年度	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry					査読	1 日
	Expert Rev. Pharmacoeconomics Outcome Res.	講	師	古郡	規雄	査読	1日
	Life Science 論文審查 1 件						2 日
	弘前医学論文審査 2 件			立石	智則		4 日
03年度	Tohoku J Exp Med 論文審査 1 件						2 日
	The Pharmacogenomics Journal			古郡	規雄		5 日
	Journal of Chromatography B			白印	<i>分</i> 尤从E		5 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年	度 株式会社資生堂 社内倫理委員会	教 授	立石 智則	倫理委員会委員	2 日

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	青森県立保健大学大学院講義		立石 智則		5 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役	職	氏 名	備考	日数
02年度	治験と自主研究(山形大学医学部附属病院)	教	授	立石 智則	依頼講演	2 日
02平及	非定型抗精神病薬の臨床と薬理	講	師	古郡 規雄	依頼講演	8 日
	薬剤師研究会(青森市)					1日
	医師•薬剤師研究会(大館市)			立石智則		1日
	製薬会社研究会(弘前市)					1日
	新規抗うつ薬の臨床(青森)					2 日
03年度	新規抗精神病薬の薬理と臨床(青森)					2 日
	新規抗精神病薬の薬理と臨床(秋田)			古郡 規雄		2 日
	抗精神病薬の TDM (東京)			白 旬 万兄 居		2 日
	抗精神病薬の TDM(名古屋)					2 日
	抗精神病薬の TDM(東京)					2 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役	職	氏 名	備考	日数
	大鰐町立病院 内科外来非常勤医師	教	授	立石 智則		40日
02年度	黒石あけぼの病院非常勤医師	講	師	古郡 規雄		60日
	町立大鰐病院内科非常勤医師	助	手	高畑 武功		60日
00年度	大鰐町立病院内科非常勤医師			立石 智則		24
103年度 ─	黒石あけぼの病院非常勤医師			古郡 規雄		108

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

36. 歯科口腔外科学講座

2002年度から1年間の目標:

(木村博人) 病診連携の推進。

(小林 恒) 要望があれば積極的に貢献する。

(福井 朗) 社会保険指導医として青森県の保険医療の質的向上に努める。

(佐藤 寿) 地域医療への貢献を積極的に行う。

(楠美昭則) 地域医療への貢献を中心に本業に支障無いように行いたい。

(織田光夫) 地域医療への貢献。

上記目標に対する到達度:

(木村博人) 病診連携の推進。50%。

(小林 恒) 要望があれば積極的に貢献する:要望に応じて地域医療に貢献した。

(福井 朗) 社会保険指導医として青森県の保険医療の質的向上に努める。: 質的向上に努め、100%。

(佐藤 寿) 地域医療への貢献を積極的に行う。: 貢献度70%。

(楠美昭則) 地域医療への貢献を中心に本業に支障無いように行いたい。: 貢献度80%。

(織田光夫) 地域医療への貢献: 貢献度80%。

2003年度から2年間の目標:

(木村博人) 病診連携の推進。

(小林 恒) 要望があれば積極的に貢献する。

(福井 朗) 社会保険指導医として青森県の保険医療の質的向上に努める。

(佐藤 寿) 地域医療への貢献を積極的に行う。

(楠美昭則) 地域医療への貢献を中心に本業に支障無いように行いたい。

(織田光夫) 地域医療への貢献。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	1,	助手	4,	医員	8,	大学院学生	1,	研究生	1	
03年度		教授	1	助教授	1	誰師	1	助手	4	医員	8	大学院学生	2	研究生	0	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
	日本小児口腔外科学会	理	事			香川県	3 日
				木村	博人	大阪府	2 日
02年度	全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議	会	長	71/1/1	付人	札幌市	4 日
						松江市	3 日
	(社)日本歯科技工士会	学術担	当理事	長内	隆	東京都	24日
	(社)日本口腔外科学会					東京都	8 日
	(性) 日平口匠/[村子云		事			富山市	1日
	日本口腔科学会	理				東京都	6 日
	1 平口胚件于公			木村	博人	福岡市	3 日
03年度	日本小児口腔外科学会			71/13	HX	広島市	1日
03千尺						富山市	1日
	全国医学部附属病院歯科口腔外科科長会議	会	長			福岡市	3 日
						高知市	3 日
	(社)日本歯科技工十会	理	事	長内	降	札幌市	1日
	(江/ 日平西竹1又上上云	性	#	IXY)	性	東京都	17日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	第40回日本口腔科学会·第28回(社)日本口腔外科学会北日本地方会	会 長	木村 博人	弘前市	2 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	(社)日本口腔外科学会雑誌編集委員会	委 員	木村 博人	東京都	24日
03年度	(社)日本口腔外科学会雑誌編集委員会	委 員	木村 博人	東京都	24日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	頭と口と地域の健康つくり講演会	講師	木村 博人	佐井村	2 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森県地域保健医療対策協議会歯科保健対 策専門部会	委員	木村 博人	弘前市	2 日
	青森県社会福祉審議会	臨時委員			3 日
	青森社会保険事務局 保険指導医		福井 朗	青森市	48日
	平成15年歯科技工士試験実地試験	担当委員	長内 隆	青森市	1日
03年度	青森県社会福祉審議会身体障害者福祉専門 分科会審査部会	委員	木村 博人	弘前市	2 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	21世紀教育		木村 博人		4 日
	教育学部		八个		5 日
	21世紀教育		小林 恒		1 日
	教育学部		一 小林 恒		1 日
	教育学部		福井 朗		1 目
03年度	保健学科成人看護学演習		木村 博人		1 日
03年度	教育学部臨床医科学Ⅲ-1(前半)	非常勤講師	小竹 時八		8 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役 職	氏 名	備考	日数
	国立弘前病院附属看護学校		木村 博人		2 日
02年度	学校法人城東学園				10日
02平及	学校法人城東学園		小林 恒		2 日
	学校法人城東学園		福井 朗		1日
	国立弘前病院附属看護学校	講師	木村 博人		2 日
	成人看護方法論Ⅲ	一 山山	八竹 時八		
03年度	学校法人城東学園言語聴覚科	非常勤講師			8日
	学校法人城東学園	非常勤講師	小林 恒		2 日
	学校法人城東学園	非常勤講師	福井 朗		2 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役	職	氏	名	備考	日数	
09年度	教育学部附属学校 学校歯科医			小林	后	幼稚園	1日	
02平反	教目子即門属子仪 子仪图符区			71.434	怛	小学校	1 日	

02年度					中学校 養護学校	1日 1日	
03年度	弘前大学保健管理センター	学校歯科医	小林	恒		5 日	

(11) 地域医療への貢献

	件名	役 職	氏	名	備考	日数
	青森市民病院				青森市	12日
	労働福祉事業団青森労災病院		木村	博人	八戸市	12日
	秋田 JA 北秋中央病院				鷹巣町	12日
	公立野辺地病院				野辺地町	45日
	三沢市立三沢病院		مليات ا	ı—	三沢市	2 日
	国立療養所岩木病院 (併任)		小林	恒	浪岡町	16日
	国立療養所青森病院(併任)				浪岡町	7 日
	(社)慈恵会青森慈恵会病院				青森市	18日
	石江歯科クリニック		福井	朗	青森市	8日
02年度	田舎館歯科クリニック				田舎館村	15日
	(財)鷹揚郷腎研究所弘前病院		// -++	-1-	弘前市	24日
	(財)黎明郷リハビリテーション病院		佐藤	寿	碇ヶ関村	47日
	村立上小阿仁国保診療所				上小阿仁村	45日
	国立療養所岩木病院(併任)		楠美	昭則	浪岡町	15日
	国立療養所青森病院(併任)				浪岡町	6 日
	日本原燃(株) げんねん診療所		[.e\ _ 	ппть	六ヶ所村	20日
	石江歯科クリニック		松宮	朋穂	青森市	11日
	日本原燃(株)げんねん診療所		(c±t) → →	Mr. I.	六ヶ所村	20日
	国立療養所青森病院(併任)		織田	光夫	浪岡町	5 日
	青森市民病院				青森市	12日
	青森労災病院	北沙紫瓜尼在		博人	八戸市	11日
	北秋中央病院	非常勤医師	个 们		鷹巣町	12日
	三沢市立三沢病院				三沢市	1日
	公立野辺地病院				野辺地町	50日
	国立弘前病院 (併任)				弘前市	33日
	国立療養所青森病院(併任)	非常勤医師	小林	恒	浪岡町	9 日
	三沢市立三沢病院				三沢市	3 日
	北秋中央病院				鷹巣町	1日
	青森県社会保険事務局(併任)	保険指導医			青森市	55日
	田舎館歯科クリニック		′ / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	фП	田舎館村	20日
	石江歯科クリニック	非常勤医師	福井	朗	青森市	4 日
03年度	北秋中央病院				鷹巣町	1日
03平及	国立弘前病院(併任)				弘前市	3 日
	国立療養所青森病院(併任)				浪岡町	5 日
	(財)黎明郷リハビリテーション病院	非常勤医師	佐藤	寿	碇ヶ関村	26日
	石江歯科クリニック				青森市	9 日
	(財)鷹揚郷腎研究所弘前病院				弘前市	21日
	国立療養所青森病院(併任)				浪岡町	4 日
	日本原燃株式会社げんねん診療所	非常勤医師	楠美	昭則	六ヶ所村	47日
	国立弘前病院(併任)				弘前市	1日
	国立弘前病院(併任)				弘前市	9 日
	国立療養所青森病院(併任)			織田 光夫	浪岡町	24日
	(財)黎明郷リハビリテーション病院	非常勤医師	織田		碇ヶ関村	24日
	石江歯科クリニック				青森市	7 日
	田舎館歯科クリニック				田舎館村	1日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

37. 分子病態部門

2002年度から1年間の目標:

専門性を発揮し、神経病理学の普及に努める。

上記目標に対する到達度:

専門性を発揮し、神経病理学の普及に努める(到達度100%)。

2003年度から2年間の目標:

専門性を発揮し、神経病理学の普及に努める。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	0,	講師	1,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	1,	研究生	0	
03年度		教授	1,	助教授	0,	講師	1,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	1,	研究生	0	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏	名	備考	日数
02年度		評 議 員				1日
	日本神経病理学会	広報委員	若林	孝一		1日
		将来計画委員				1日
	日本神経病理学会	評 議 員	森	文秋		1日
		評 議 員				1日
09年度	日本神経病理学会	広報委員	若林	孝一		1日
03年度		将来計画委員				1日
	日本神経病理学会	評 議 員	森	文秋		1日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	第6回弘前国際医学フォーラム	学術委員	若林 孝一		2 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	査読(Neuropathology)				2 日
02年度	査読 (Clinical Neuropathology)		 若林 孝一		2 日
	査読 (Pathology International)	石怀 子			2 日
	査読 (Brain Research)				2 日
	査読(Neuropathology)				4 日
	査読 (Clinical Neuropathology)				2 日
03年度	査読 (Pathology International)		若林 孝一		2 日
	査読 (Brain Research)				4 日
	弘前医学編集委員				1日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	講演(新潟神経学夏期セミナー)				1日
	講演(弘前大学整形外科夏の研修医会)				1日
	講演(北陸脳腫瘍懇話会)				1日
02年度	講演(日本臨床検査医学会東北支部例会)		若林 孝一		1日
	講演(十勝神経病理研究会)				1日
	講演(東京都城南地区パーキンソン病治療研究会)				1日
	講演(青森労災病院医学集談会)				1日

		講演(慶應大学医学部)		1 日
034	年度	講演(獨協医科大学)	若林 孝一	1 日
		講演(帯広厚生病院)		1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	共通教育	教 授	若林 孝一		4 日
02年度	21世紀教育	教 技	石林 孝一		1 日
00左座	21世紀教育	教 授	若林 孝一		2 日
03年度	21世紀教育	講 師	森 文秋		2 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役 職	氏 名	備考	日数
02年度	福島県立医科大学	非常勤講師	若林 孝一		2 日
00左座	福島県立医科大学	非常勤講師			2 日
03年度	秋田大学医学部	开吊到 神间	石林 子一		2 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役 職	氏 名	備考	日数
02年度	青森県立中央病院	非常勤医師	若林 孝一		3 日
00左座	青森県立中央病院	非常勤医師	芸林 孝一		3 日
03年度	青森市民病院	- 非吊勁医師	若林 孝一		3 日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

	件名	役	職	氏 名	備考	日数
00年度	Brain Cutting(脳肉眼検索)	*Hr	授	若林 孝一		3 日
02年度	法医解剖(脳神経系に関して)	教	177	石林 孝一		4 日
03年度	法医解剖(脳神経系に関して)	教	授	若林 孝一		2 日

38. 脳血管病態部門

2002年度から1年間の目標:

活動の種類にとらわれることなく、積極的に社会貢献を実施していく。

上記目標に対する到達度:

80%

2003年度から2年間の目標:

全ての面で積極的に社会貢献活動を実施していく。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	0,	講師	1,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	7,	研究生	0	
03年度		教授	1,	助教授	0,	講師	1,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	7,	研究生	0	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

該当なし。

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00左座	Neurobiology of Disease	* ==	人自 市清		5 日
03年度	Journal of Leukocyte Biology	査 読	今泉 忠淳		10日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	弘前大学医学部医学科「健康医療講演会」	講師	佐藤 敬		1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
02年度	弘前大学医師会	理	事	佐藤	敬		1 日
03年度	弘前大学医師会	理	事	佐藤	敬		2 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
00年度	弘前市巡回基本健診	教	授	佐藤	敬		10日
02年度	弘前市巡回基本健診	助	手	今泉	忠淳		10日
00左眩	弘前市民基本巡回検診	教	授	佐藤	敬		12日
03年度	弘前市民基本巡回検診	助	手	今泉	忠淳		12日

(11) 地域医療への貢献

		件名	役	職	氏	名	備考	日数
- 1 ()2年度	青森県身体障害者更生相談所嘱託医	教	授	佐藤	敬		52日

(12) 国際交流への貢献

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
02年度	国際協力事業団 (ジャマイカ国南部地域保健 強化プロジェクト)	教	授	佐藤	敬		39日
	国際協力事業団(カリブ海諸国保健研修)						14日

(13) その他

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
02年度	東奥日報(カリブの保健師ら弘大医学部で 研修)	教	授	佐藤	敬		1日
	東奥日報(脳卒中発症後血管保護する因子 の分泌解明)	講	師	吉田	秀見		1日

39. 機能回復部門

2002年度から1年間の目標:

上記目標に対する到達度:

この研究室に2004年2月に赴任しており、2年前の目標設定および、実施には、たずさわっていない。また、研究 内容においても、前任者は臨床系研究であり、私は、基礎研究を中心としており、接点はない。到達度を評価する 立場にはないと思われるが、機能回復の現在の設備、マンパワーのない状態からは、十分な成果をあげたと思われ る。

2003年度から2年間の目標:

研究内容、方法等で、地域産業と共同研究できるものがあれば、進めていく。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	0,	助教授	0,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	听 九八貝	教授	1,	助教授	0,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	3

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

該当なし。

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	Brain Research 査読 2件	教 授	上野 伸哉		3 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

- (5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。
- (6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

40. 神経統御部門

2002年度から1年間の目標:

民間施設との共同研究、神経難病患者に対する検診・援助、などに一層の努力をしたい。

上記目標に対する到達度:

県内神経難病診療体制の充実を図ったが、到達度70%

2003年度から2年間の目標:

民間施設との共同研究の推進すること。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	4,	研究生	1	
03年度	妍 九八貝	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	2,	研究生	0	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役	職	氏	名	備考	日数
	日本神経学会専門医認定委員会	委	員			東京2回	4 日
	日本神経学会生涯教育委員会	安	貝	松永	宗雄	東京1回	2 日
02年度	日本神経感染症学会幹事会	監	事			東京1回	2 日
02平皮	日本臨床神経生理学会 理事会					東京1回	2 日
	神経筋電気診断技術委員会	委	員	馬場	正之	福島1回	2 日
	奨励論文選考委員会					東京1回	1日
	日本臨床神経生理学会 理事会	委員	3 E				2 日
03年度	日本臨床神経生理学会 診断技術委員会	安 身	₹ 大	馬場	正之		2 日
	日本臨床神経生理学会 推薦論文選考委員会	委	員				1日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	Intern Med	査読委員	松永 宗雄		
	Int J Diabetes & Matabol	編集委員			
	J Peripheral Nervous System	棚未安貝			
	Brain Research				
03年度	Diabetes Res Clin Prac	査読委員	馬場 正之		
	Internal Medicine	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			
	J Neurol Neurosurg Psychiatry				
	臨床神経生理学	モノグラフ編集委員長			

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	医学部市民講座		松永 宗雄	十和田市	1日
03年度	青森市市民講座	助教授	馬場 正之		1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	青森県特定疾患審査委員会	会 長			
02年度	青森県社会福祉審議会	委 員	 松永 宗雄		
02+10	クロイツフェルト・ヤコブ病 サーベイランス委員会	専門委員	1A/N /NAE		

03年度	青森県難病審議会	委 員	E担 正力	月一回書類審査	
03平度	青森県公安委員会	専門医師			

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	保健学科電気生理講義・実習 ほか教育の項に記載	助教授	馬場 正之	7 回	
03年度	医学部保健学科	助教授	馬場 正之	筋電図	8 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
02年度	共通教育など(教育の項に記載)					

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	厚労省スモン検診(特定疾患研究班)	班 員	松文 字推	県内数カ所	3 日
02年度	神経難病患者講義•検診	医 師	松永宗雄	弘前•青森	2 日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	黒石市民病院	非常勤医師	松永 宗雄	月2回	
02年度	黒石市民病院	非常勤医師	馬場正之	週1回	
	むつ総合病院	- 非吊勁医師	内场 正之	月1回	
	国保 黒石病院	非常勤医師		月4回	
	むつ総合病院	- 升 用		月1回	
03年度	日本イーライリリー社		馬場 正之		6 日
	日本アストラゼネカ社	外部専門家			2 日
	三和科学研究所				6 日

(12) 国際交流への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	第6回弘前国際医学フォーラム	会計委員	松永 宗雄		

(13) その他

41. 細胞工学部門

2002年度から1年間の目標:

上記目標に対する到達度:

2003年度から2年間の目標:

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	0, 助	助教授	0,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	切九八貝 [教授	0,助	助教授	0,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

該当なし。

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

該当なし。

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

- (5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。
- (6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

該当なし。

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

42. 附属動物実験施設

2002年度から1年間の目標:

医学研究における動物実験が動物福祉の観点から難しくなっているので、動物実験の医学研究における必要性を、 一般社会の理解が得られるように努力する。

上記目標に対する到達度:

動物実験の医学研究における必要性を一般社会の理解が得られるように努力することを前回の目標としたが、社会の理解が得られるにはまだまだ不十分で、到達度は約30%である。近々「動愛法」を改正することが政府で検討されており、法律の内容によっては我々も軌道修正する必要がある。

2003年度から2年間の目標:

長期的には動物実験の医学研究における必要性を一般社会の理解が得られるように努力することであるが、今後2年間の目標として、学内の実際に実験を行っている実験者および関係者に、「社会の理解を得られなければ医学研究における動物実験は益々難しくなる」ことを理解してもらうように努力する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	0,	助教授	1,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	妍 九八貝	教授	0,	助教授	1,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

該当なし。

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	第37回日本実験動物技術者協会総会	会 長	八木澤 誠	さいたま市	2 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

該当なし。

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

- (5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。
- (6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	家畜福祉衛生学	非常勤講師	八木澤 誠	農学生命科学部	15回
03年度	家畜福祉衛生学	非常勤講師	八木澤 誠	農学生命科学部	15回

(9) 医学部医学科以外での講義 (大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

(11) 地域医療への貢献

該当なし。

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

43. 小児外科

2002年度から1年間の目標:

当科に対する社会的要望に対しては積極的に対応したい。また、小児外科の啓発のため、機会があれば公開講座にも参加したい。

上記目標に対する到達度:

地方自治体の医療福祉行政, 自治体病院における診療指導, 検診活動および学会活動においてほぼ目標通り貢献したものと判断している。

2003年度から2年間の目標:

上記のこれまでの目標に加え、機会があれば公開講座を含めた講演活動も行いたい。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	0,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	2,	研究生	0
03年度	岍 九八貝	教授	1,	助教授	0,	講師	1,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	日本小児外科学会	評議員		京都市	2 日
	日本外科学会	計 戦 貝	棟方 博文	札幌市	2 日
	日本外科学会認定医認定実行委員	試験委員		札幌市	2 日
	日本小児外科学会	評 議 員	須貝 道博	京都市	2 日
	日本小児外科学会	評議員		京都市	2 日
00左座	日本外科学会	計 祇 貝	棟方 博文	札幌市	2 日
03年度	日本外科学会認定医認定実行委員会	試験委員		札幌市	2 日
	日本小児外科学会	評 議 員	須貝 道博	京都市	2 日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00左座	第14回青森県静脈・経腸栄養研究会	当番世話人	植古 博士	青森市	1日
03年度	第33回青森県周生期医療研究会	会 長	棟方 博文	青森市	1日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	Surgery Today	査読委員	棟方 博文		2 回
	日本小児外科学会	査読委員	須貝 道博		1回
	Surgery Today		棟方 博文		3 回
03年度	Pediatrics International	宜 武安貝	株刀 株刀		1回
	日本小児外科学会	査読委員	須貝 道博		1回

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	公開講座	教 授	棟方 博文	三沢市	1日
	救急医学講座	助 手	須貝 道博	弘前市	1日
03年度	救急医学講座	講師	須貝 道博	弘前市	1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森県地域保健医療協議会周産星医療対策 専門部会	委 員	持士 持士	青森市	2 日
	周産期情報調査小委員会	委員長	棟方 博文	青森市	4 日
	青森県小児がん等調査委員会	委 員		青森市	2 日
	青森県地域保健医療協議会周産母子医療対 策専門部会	委 員		青森市	2 日
03年度	周産期情報調査小委員会	委員長	棟方 博文	青森市	4 日
	青森県小児がん等調査委員会	委 員		青森市	2 日
	青森小児がん実務検討委員会	委 員	須貝 道博	弘前市	3 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	弘前大学医学部保健学科	非常勤講師	須貝 道博	弘前市	2 日
03年度	弘前大学医学部保健学科	非常勤講師	須貝 道博	弘前市	2 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	国立弘前病院附属看護学校	非常勤講師	棟方 博文	弘前市	1 日
03年度	国立弘前病院附属看護学校	非常勤講師	棟方 博文	弘前市	1日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森県総合検診センター乳がん検診マンモ グラフィー読影委員会	委員	須貝 道博	青森市	10日
03年度	青森県総合健診センター乳がん検診マンモ グラフィー読影委員会	委 員	須貝 道博	青森市	12日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	公立野辺地病院	非常勤医師	棟方 博文	野辺地町	2 回/月
02年度	町立大鰐病院	非常勤医師	須貝 道博	大鰐町	1回/週
	青森県総合検診センター	非吊剔 医刷	須只 担 		10回
	公立野辺地病院	非常勤医師	棟方 博文	野辺地町	24日
03年度	三戸町立病院	非吊 勤医训	株刀 時又 	三戸町	14日
	大鰐町立病院	非常勤医師	須貝 道博	大鰐町	50日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

44. 薬剤部

2002年度から1年間の目標:

学会の委員として、わが国の医学および薬学の教育の発展に努める。

日本病院薬剤師会,青森県病院薬剤師会,青森県薬剤師会等の役員として,薬剤師の生涯教育,地域医療への貢献に努める。

上記目標に対する到達度:

学会の開催,学会の委員としての活動など、わが国の医学および薬学の教育の発展に努め、成果をあげている。 日本病院薬剤師会、青森県病院薬剤師会、青森県薬剤師会等の役員として活動し、薬剤師の生涯教育、地域医療へ の貢献に努め、成果をあげている。

2003年度から2年間の目標:

学会の委員としての活動を続け、わが国の医学および薬学の教育のさらなる発展に努める。

青森県病院薬剤師会、青森県薬剤師会の役員として活動し、薬剤師の生涯教育、地域医療へのさらなる貢献に努める。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	「听九八貝 	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本薬学会東北支部	幹 事		仙台市	2 日
	日本医療薬学会	評議員		福岡市	3 日
02年度	医薬品相互作用研究会	会 長	菅原 和信	山形市,福島市	4 日
	日本病院薬剤師会	理事•学術委員		東京都	7 日
	青森県病院薬剤師会	会 長		青森市	3 日
	日本薬学会東北支部	幹 事		仙台市	2 日
	日本医療薬学会	評 議 員		神戸市	2 日
00左座	医薬品相互作用研究会	会 長	本百 和层	仙台市	2 日
03年度	日本病院薬剤師会	理事•学術委員	菅原 和信	東京都	7 日
	青森県病院薬剤師会	会 長		青森市	7 日
	青森県薬剤師会	理 事		青森市	5 日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年月	第41回日本薬学会東北支部大会	実行委員長	菅原 和信	弘前市	2 日
03年月	第57回医薬品相互作用研究会シンポジウム	実行委員長	菅原 和信	弘前市	2 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	医薬品相互作用研究	審査員	菅原 和信		1日
02平及	医療薬学	新 狂 貝	日/尔 和后		1日
	医薬品相互作用研究				2 日
03年度	医療薬学	審査員	菅原 和信		2 日
	応用薬理				1日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	県民のための薬の講演会	講師	菅原 和信	弘前市	1日
03年度	県民のための薬の講演会	講 師	菅原 和信	七戸町	1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	東北大学薬学部講義	非常勤講師		仙台市	6 日
02年度	青森県立保健大学	非常勤講師	菅原 和信	青森市	7 日
	医学部保健学科	教 授		弘前市	15日
	東北大学薬学部講義	非常勤講師		仙台市	4 日
03年度	青森県立保健大学	非常勤講師	菅原 和信	青森市	7 日
	医学部保健学科	教 授		弘前市	15日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

該当なし。

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

45. 手術部

2002年度から1年間の目標:

手術部安全推進活動を継続する。

麻酔科医として地域医療に貢献するだけではなく、麻酔、麻酔科を理解してもらえるよう教育、講演さらに執筆活動を積極的に行っていく。

上記目標に対する到達度:

ほぼ到達できた。

2003年度から2年間の目標:

安全啓蒙活動を継続する。

【研究人員】

02年度 03年度	1177年11日	教授	0,	助教授	0,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0	
03年度	切九八貝	教授	0,	助教授	1,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	日本静脈麻酔 IT 研究会	評議員	坂井 哲博		2 日
	日本蘇生学会	計 戦 貝	以开 召臣		2 日
03年度	日本麻酔科学会	代議員	坂井 哲博	名古屋	2 日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	日本臨床麻酔学会誌	査読委員	坂井 哲博		7 日
02平及	J Anesthesia	且讥安只	- 松开 台仔		14日
03年度	日本臨床麻酔学会誌	査読委員	坂井 哲博	東京	2 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

		件名	役職	氏 名	備考	日数
02	年度	司法と医療事故現場~青森地方裁判所 裁判官憲治を対象に	講師	坂井 哲博		1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森県医療•福祉関連産業創出育成支援事業	分担研究	坂井 哲博		60日

(7) 産学共同事業への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	静脈麻酔薬の非侵襲的血中濃度測定法の研 究開発	分 担	坂井 哲博		60日

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	岩手大学農学部臨床獣医学講座	非常勤講師	坂井 哲博	集中講義	2 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00左座	西北中央病院	非常勤医師	坂井 哲博	Ė	50日
02年度	西北中央病院	非常勤	橋本 浩	Ť	週一回

(12) 国際交流への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	北京解放軍病院 麻酔科	客員助教授	坂井 哲博		7 日

(13) その他

46. 検査部

2002年度から1年間の目標:

医療関係者および一般市民に対する健康増進の啓蒙活動を行う。

上記目標に対する到達度:

製薬会社の社内研修会で糖尿病と心血管危険因子の講演を行ったのみ。一般市民に対する健康増進の啓蒙活動をする機会には恵まれず、十分には社会に貢献できなかった。

2003年度から2年間の目標:

健康,特に成人病の予防や管理に関心のある一般市民,コメディカル,医師を対象とした一般講演を行い,健康増進の啓蒙活動を行うことで,社会貢献出来るように努力する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	0,	助教授	0,	講師	1,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	岍 九八貝	教授	0,	助教授	0,	講師	1,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

該当なし。

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

該当なし。

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

- (5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。
- (6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義 (大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	青森県臨床衛生検査技師会:生物化学分析検 査部門研修会				1日
02年度	秋田県臨床衛生検査技師会:成人病検診従事者講習会	講師	杉本 一博		1日
	第62回弘前臨床検査勉強会				1日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	木造町立成人病センター	非常勤医師			49日
02年度	十和田市立中央病院	非常勤講師	杉本 一博		9 日
	財団法人鷹揚郷腎研究所弘前病院	非常勤医師			24日
	木造町立成人病センター				49 ⊟
03年度	十和田市立中央病院	非常勤医師	杉本 一博		12日
	財団法人鷹揚郷腎研究所弘前病院				24日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

47. 放射線部

※教官は放射線医学講座で報告。

2002年度から1年間の目標:

設定せず。

上記目標に対する到達度:

2003年度から2年間の目標:

可能な限り社会貢献活動を行う。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0	
03年度	切九八貝	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	日本放射線技術学会	評議員				
	日本放射線技術学会東北部会	役 員				
	日本核医学技術学会	評議員				
	日本核医学技術学会東北地方会	幹 事				
	青森県核医学技術研究交流会	代表世話人	工藤			
	青森県核医学研究会	世話人	上旅	9CTT		
	緊急被ばく医療ネットワーク	青森地区委員				
02年度	青森県放射線技師会	理 事				
		学術企画委員				
		RI部会長				
	日本核医学技術学会東北地方会	幹 事				
	青森県放射線技師会	学術企画委員	 長内	后羊		
		撮影部会長	IXY)	巴大		
	つがる乳腺診断フォーラム	世話人				
	東北 MRI 技術研究会	世話人				
	青森県放射線技師会	学術企画委員)	敏朗		
		MRI 部会長	1 1	英 人区力		
	青森県 MRI 研究会	代表幹事				
	日本放射線技術学会	評議員				
	日本放射線技術学会東北部会	役 員				
	日本核医学技術学会	評議員				
	日本核医学技術学会東北地方会	幹 事				
	青森県核医学技術研究交流会	代表世話人	工藤	喜松		
	青森県核医学研究会	世話人	上版	SEIR		
03年度	緊急被ばく医療ネットワーク	青森地区委員				
	青森県放射線技師会	理事				
		学術企画委員				
		RI部会長				
	日本核医学技術学会東北地方会	幹 事				
	青森県放射線技師会	学術企画委員	上 内	后羊		
		撮影部会長	Xr1	内 恒美		
	つがる乳腺診断フォーラム	世話人				

東北 MRI 技術研究会	世話人			
青森県放射線技師会	学術企画委員	,т.	岩左 百日	
	MRI 部会長	11	敏朗	
青森県 MRI 研究会	代表幹事			

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

該当なし。

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

- (5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。
- (6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

		件名	役職	氏	名	備考	日数
00	左庇	弘前大学医学部保健学科学生40名に対して, X線撮影・核医学・放射線治療技術の臨床実習				臨床実習	140日
03	年度	他施設から6名の研修・実習生を受け入れ, 地域の技術レベルアップに貢献				臨床実習	456日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
02年度	弘前大学医療技術短期大学部診療放射線技術学科学生40名: 1) 臨床実習: X線撮影·核医学·放射線治療技術 2) 臨床講義:講義 3)補足実験:補足関連実験				臨床実習	140日 19回 6 回
	NDD法によるIVR時のX線被ばくの全国調査 全国と新潟県の比較. 第50回新潟県アギオ 画像研究会特別講演(新潟市)2003.11.8		木村	均		
03年度	機器管理総論. 社団法人日本放射線技師会「放射線機器管理士」「放射線管理士」認定講習会(秋田県)2003.8.9		藤森	明		
	放射線関係法令総論. 社団法人日本放射線 技師会「放射線機器管理士」「放射線管理士」 認定講習会(弘前市)2003.8.17		工藤	亮裕		

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

該当なし。

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

48. 救急部

2002年度から1年間の目標:

全学では共通教育を前期 4 コマ後期 2 コマ, 医学部では Pre-SGT, 及び SGT の全グループの臨床実習を 1 人の教官で担当しているが,来年度には救急災害医学講座が発足するのでスタッフが充実される事になる。また,医学部保健学科の医療工学15時間,救急・蘇生医学15時間,専攻科には 7 時間の講義と 2 時間の実習が予定されている。更に弘前市医師会附属高等看護学院の外科総論を7時間,青森県消防学校救急科教育講義並びに病院実習,救急救命財団東京研修所の救命士教育の病院実習,弘前地区,平賀・尾上地区救急救命士生涯教育も随時行う予定である。更に、津軽・西北五地域のメディカルコントロール体制における事後検証票評価も行っており。今後も継続する。

上記目標に対する到達度:

全学では共通教育を前期 4 コマ後期 2 コマ、医学部では Pre-SGT、及び SGT の全グループの臨床実習を 1 人の教官で担当していたが、2 月より救急災害医学講座に教授が専任になった。また、医学部保健学科の医療工学15時間、救急・蘇生医学15時間、専攻科には7 時間の講義と 2 時間の実習が行われた。更に弘前市医師会附属高等看護学院の外科総論を7 時間、青森県消防学校救急科教育講義並びに病院実習、救急救命財団東京研修所の救命士教育の病院実習、弘前地区、平賀・尾上地区救急救命士生涯教育も実施した。更に、津軽・西北五地域のメディカルコントロール体制における事後検証票評価等も行っており、今後も継続する。設定した社会活動は完全に実行できた。

2003年度から2年間の目標:

救急災害医学講座の設置により、救急災害医学の講義、SGT 教育期間が1週間になった事、卒後研修医の受け入れ等、これまでの教育体制とは様相を異にする。今後の目標の第1は医学部学生の救急医学教育、卒後臨床研修医の教育、救急担当看護師教育、さらには救急救命士を主にした救急隊員教育に主眼をおくことになる。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	0,	助教授	1,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本救急医学会	評議員			1日
	日本救急医学会東北地方会	幹 事			1日
	日本臨床救急医学会	評議員			1日
02年度	日本交通科学協議会	理 事	 滝口 雅博		2 日
02平及	日本航空医療学学会	理 事	代日 /住侍	評議員	2 日
	日本集団災害医学会	監 事		編集委員	2 日
	へき地・離島救急医療研究会	幹 事		評議員	1日
	青森救急医学会	幹 事			2 日

(2) 学会などの開催

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	日本救急医学会東北地方会	会 長	送口 唯擂		2 日
02年度	青森救急医学会	幹 事	滝口 雅博	事務局	2 日
00左座	第49回日本宇宙航空環境医学会	助教授	滝口 雅博		3 日
03年度	第12回青森救急医学会	教 授	奥村 謙		1日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	日本航空医療学学会	編集委員長	滝口 雅博		2 日
03年度	日本航空医療学会雑誌	助教授	滝口 雅博		1日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件 名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	救急医学講座	司 会	滝口 雅博	月1回	12日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	津軽地域保健医療圏小児救急医療対策協議会	委 員		会長	3 日
	津軽地域保健医療対策推進協議会医療対策 部会	委員			2 日
02年度	青森県地域医療推進協議会救急医療対策専 門部会	部会員	滝口 雅博	会長	2 日
	青森県緊急被ばく医療検討委員会	委 員			3 日
	青森地区「緊急被ばく医療ネットワーク調査 検討会」	委員			2 日
	国土交通省関東地方整備局さがみ縦貫危険 物処理に関する有識者委員会				2 日
	原子力安全研究協会高次被ばく医療ネット ワーク検討委員会	教 授	浅利 靖		2 日
03年度	原子力安全研究協会青森地区緊急被ばく医 療ネットワーク会議				2 日
	青森県地域医療協議会救急医療対策専門部 会(青森県 MC 協議会)	助教授	滝口 雅博		2 日
	津軽•西北五地域 MC 協議会				2 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏	名	備考	日数
	共通教育				病気の科学	3 日
02年度	医療短期大学部専攻科		滝口	雅博		7 日
	医学部保健学科				医療工学	7 日
	21世紀教育・共通教育					2 日
	教育学部養護教諭養成課程					15日
03年度	医学部保健学科医療工学	助教授	滝口	雅博		15日
	医学部保健学科救急蘇生医学					15日
	医療短期大学部専攻科					9 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	弘前市医師会附属高等看護学院		滝口 雅博		6 日
02千段	青森県消防学校		他口 雅博		6 日
00年度	弘前市医師会付属高等看護学院	助 券 埓	滝口 雅博		7 日
03年度	青森県消防学校	助教授	滝口 雅博		6 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	公立野辺地病院	非常勤医師	滝口 雅博		25日
03年度	公立野辺地病院	助教授	滝口 雅博		24日

(12) 国際交流への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	Japan Medical Team For Disaster Relief	助教授	滝口 雅博		0 日
03年度	国際緊急援助隊総合調節部会	教 授	浅利 靖		2 日

(13) その他

49. 輸血部

2002年度から1年間の目標:

- 1. 当院における輸血事故の発生及び輸血による障害の発生を未然に防止する。
- 2. 輸血による副作用の発生件数を把握する。一部は中央血液センターへ副作用報告をし、所定の検査項目の報告を得る。臨床に還元し、防止出来るものは対策し、安全な輸血の確保に資する。
- 3. 緊急検査当直者及び輸血部オンコール業務の内容を検討し、必要な時期に輸血部当直者を確保したい。

上記目標に対する到達度:

- 1. 青森県の仕事分野である献血の推進に関しては部長が「青森県献血推進協議会」委員に参加して協力した。副 部長は「青森県輸血療法委員会」委員に参加して適正な輸血推進に協力した。
- 2. 日本輸血学会認定医師制度による研修者1名を受け入れた。15年度の第10回日本輸血学会秋季シンポジウムを副部長が会長として開催し、輸血医学の広報に尽力した。副部長は平成15年度日本輸血学会東北支部長から功労賞を贈られた。
- 3. 献血者のリクルートは弘前駅前献血ルームの見学実習の際に医学部学生が協力すること, 献血バス2回の訪問の際に職員が献血することが実行された。以上でこの1年の輸血関連社会貢献活動目標は狭い範囲ではあるが達成した。

2003年度から2年間の目標:

- 1. 安全で効果的な輸血の確保のため、献血者のリクルート(学生・職員など身近な人々の理解を得るように努める)と適正な輸血の実施、国・県・日本輸血学会・赤十字血液センターへの協力を重要視し、法律を遵守するよう努める。
- 2. 輸血の代替療法への切り替えを順次すすめる。16年度から院内の輸血療法委員会での活動の中で長期的に実効を得たい。
- 3. 時代の要請である細胞療法は輸血部の成分採血装置の安全運転がキーポイントであることから輸血部業務を 効率的に整え、新しい医療に向けた病院の発展に追随して輸血部も社会貢献したい。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	0,	助教授	0,	講師	1,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度		教授	0,	助教授	0,	講師	1,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

該当なし。

(2) 学会などの開催

	件 名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	第10回日本輸血学会秋季シンポジウムを弘 前市で開催し400名が参加した	シンポジウム 会 長	木村あさの		1 日

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

該当なし。

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	青森県献血推進協議会	委 員	棟方 昭博		1日
03年度	青森県輸血療法委員会	委 員	木村あさの		1日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	21世紀教育 {生活習慣と健康(C)}	講 師	木村あさの		2 日

(9) 医学部医学科以外での講義 (大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	財団法人清明会鳴海病院で内科診療	非常勤医師	木村あさの		週一回 3 時間

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

50. 集中治療部

2002年度から1年間の目標:

助手定員の削減によって学生の教育はおろか、患者の治療にも支障を来すことが予想される状況で、目標はいかにして事故を起こさないかだけであろう。

上記目標に対する到達度:

おおむね達成できた。

2003年度から2年間の目標:

市民、また他の病院に対して、機会ある毎に情報を発信してゆく。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	0,	助教授	0,	講師	1,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0	
03年度	 切九八貝	教授	0,	助教授	0,	講師	1,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

		件名	役職	氏	名	備考	日数
034	丰度	日本集中治療医学会	評議委員	坪	敏仁		1 日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年	度 Intensive Care Medicine	審査員	Toshihito Tsubo		

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

_					
	件 名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	講義	講 師	坪 敏仁		2 ⊟

(9) 医学部医学科以外での講義 (大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	青森厚生病院	非常勤	坪 敏仁		1年
02年度	弘前記念病院	非常勤	高橋 敏		1年
00左床	青森厚生病院	非常勤	坪 敏仁	毎週木曜	1年間
03年度	五所川原市立西北中央病院	非常勤	大川 浩文	毎週月曜	1年間

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

51. 周産母子センター

2002年度から1年間の目標:

上記目標に対する到達度:

周産期医療における、臨床・教育については、ある程度の技術の向上と合理化ができたが、研究面で充分な成果を 得ることができなかったことから、到達度は60%と判断する。

2003年度から2年間の目標:

青森県の周産期医療水準の向上を目標として、平成16年10月から開設される青森県総合周産期母子医療センターと連携しながら、特定機能病院としての役割を果たすとともに、周産期に関連した、教育・研究をすすめていく。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	0,	助教授	0,	講師	3,	助手	2,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	岍 九八貝	教授	0,	助教授	1,	講師	2,	助手	2,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	日本産科婦人科学会・生殖内分泌委員会	委 員	樋口 毅		2 日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

該当なし。

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森県心臓病のこどもを守る会総会	講師	佐藤 工		1日
00左连	一戸町母親学級	講師	尾崎 浩士		1日
03年度	青森県更年期心身医療懇話会•市民公開講座	講師	樋口 毅		1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	青森県地域保健医療対策協議会周産期母子 医療対策専門部会	委員	尾崎浩士		1日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
			尾崎 浩士		4 日
03年度 保健学科助産学専攻	保健学科助産学専攻	非常勤講師	田中 幹二		3 日
			樋口 毅		2 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00左连	岩手県立一戸高等看護学院	ゴトルち 本にう生 方工	尾崎 浩士		4 日
03年度	岩手県立一戸高等看護学院	非常勤講師	田中 幹二		4 日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	附属小,附属養護学校定期健診	学校医	佐藤 工		6 日
			尾崎 浩士		10日
	子宮癌卵巣癌検診	医 師	樋口 毅		10日
03年度			田中 幹二		10日
	附属幼稚園•小学校•養護学校健診	学校医	佐藤 工		6 日
	乳癌検診	医師	柴田 滋		10日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	金木病院	講師	樋口 毅		50日
	鯵ケ沢町立病院	講師	樋口 毅		50日
02年度	弘前市立病院	講師	佐藤 工		24日
	五戸総合病院	講師	佐藤 工		24日
	一戸病院	講師	田中 幹二		24日
	岩手県立一戸病院産婦人科外来診療		尾崎 浩士		24日
	岩手県立一戸病院産婦人科外来診療		田中 幹二		24日
03年度	鰺ヶ沢町立病院産婦人科外来診療	非常勤医師	桶口 毅		24日
03平及	平内町立病院産婦人科外来診療	かの一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一の一	他口 教		24日
	五戸総合病院小児科外来診療		佐藤 工		24日
	財団法人双仁会厚生病院		柴田 滋		24日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

52. 病理部

2002年度から1年間の目標:

- 1. 高度先進医療の中核として病理診断の精度, 迅速化を図る。
- 2. 卒後臨床研修制度開始に向けて、病理部での臨床研修制度の充実をさらに図る。
- 3. 蓄積されてきた貴重症例の臨床研究の推進を図る。
- 4. 病理担当臨床検査技師の専門化, 技術向上を図る。

上記目標に対する到達度:

医学部医学科以外の講義としての21世紀教育を見直しし、以前よりは充実した講義ができた。

International Journal of Urology の査読委員として十分対応できた。

International Academy of Pathology 日本支部のセミナーで日・米・東アジアの国際交流に十分貢献できた。

2003年度から2年間の目標:

医学部医学科以外の講義としての21世紀教育を、診療業務に支障の来たさない限り、できるだけ担当する。 International Journal of Urology の査読委員として続けて積極的に取り組む。

一般市民などの生涯学習への参加、国際交流へ更に貢献ができるように努める。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	0,	助教授	1,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	1	
03年度	研究人員	教授	0,	助教授	1,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	1	

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	International Academy of Pathology日本支部	助教授	鎌田 義正	セミナー担当委員	3 日
03年度	International Academy of Pathology日本支部	助教授	鎌田 義正	セミナー担当委員	3 日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	International Journal of Urology	助教授	鎌田 義正	査読委員	5 日
03年度	International Journal of Urology	助教授	鎌田 義正	査読委員	7 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

該当たし

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	生物学の基礎 (21世紀教育; 弘前大学)	助教授	鎌田 義正		5 日
03年度	生物学の基礎(21世紀教育;弘前大学)	助教授	鎌田 義正		5 日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森労災病院	H-1 - 147 - 1402	鎌田 美工	2 回/月	24日
	八戸医師会臨床検査センター	助教授	鎌田 義正	(各3時間)	24日
00左庇	青森労災病院	中 松 極	鎌田 義正	2 回/月	24日
03年度	八戸医師会臨床検査センター	助教授	鎌田 義正	(各3時間)	24日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	病理解剖(弘前大学医学部附属病院)	助教授	鎌田 義正		52日
03年度	病理解剖(弘前大学医学部附属病院)	助教授	鎌田 義正		52日

53. 医療情報部

2002年度から1年間の目標:

<羽田> 本務(院内業務)優先

<三上> 公正な奉仕

上記目標に対する到達度:

<羽田>

目 標:病院業務優先

到達度:100% (社会的貢献は0である)

<三上>

目 標:公正な奉仕

到達度:国家公務員として、社会貢献活動に対する目標の設定は、積極的なものではなく、あくまで依頼があれば、

協力する程度でした。

2003年度から2年間の目標:

<羽田>

本務(病院業務)優先

<三上>

教育研究者総覧に記載されているように、疫学調査の設計、統計解析について協力したいと考えます。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	2,	研究生	0
03年度		教授	1,	助教授	1,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	3,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件 名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	日本衛生学会評議員会	評議員	二上 职治	大分	2 日
	日本循環器管理研究協議会評議員会		二二二二三二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	和歌山	2 日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	日本循環器病予防学会誌	評議員	三上 聖治	査読	2 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	大館市立総合病院医局集談会第300回記念講 演会 【特別講演】「医療情報システムの展望と活 用」			秋北ホテル (大館市) 2002 (11/21)	1日
02年度	第16回全国国立大学医学部附属病院材料部長会議 【特別講演】「法人化後の診療部門を生産性部門とするには一医用画像の定量化と CADの開発」	教授	羽田 隆吉	シティ弘前ホテル (弘前市) 2002 (11/21) (12/6)	1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	青森県地域保健医療対策協議会周産期母子 医療対策専門部会 委員	教 授	羽田隆吉		2 日
	青森県保険・医療・福祉 IT 推進会議委員				1 日
03年度	青森県地域保健医療対策協議会周産期母子 医療対策専門部会 委員	教 授	羽田 隆吉		2 日

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	平成14年度第2回先端技術研修会 第1課程「健康食品の有効性に関する研究の デザインと統計解析」 青森県産業技術開発センター	講師	三上 聖治		1日

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	21世紀教育「情報の伝達」			弘前大学	1 日
03年度	平成15年度臨床研修オリエンテーション「診療情報の管理と提供について」	教 授	羽田隆吉	附属病院	1日

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00左座	国立弘前病院附属看護学校一臨床英語	教 授	羽田 隆吉	非常勤講師	15日
02年度	弘前ホスピタリティアカデミー―公衆衛生学	助教授	三上 聖治	非常勤講師	30日
00左座	国立弘前病院附属看護学校一臨床英語	教 授	羽田 隆吉	非常勤講師	15日
03年度	弘前ホスピタリティアカデミー	助教授	三上 聖治	非常勤講師	30日

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	木造成人病センター	教 授	羽田 隆吉	非常勤医師	1回/週(3.5h)
03年度	木造成人病センター	教 授	羽田 隆吉	非常勤医師	45日

(12) 国際交流への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	ジャマイカ国南部地域保険強化プロジェク ト国内委員会	教 授	羽田 隆吉	委員	2 日
03年度	ジャマイカ国南部地域保険強化プロジェク ト国内委員会	教 授	羽田 隆吉	委員	2 日

(13) その他

54. 光学医療診療部

2002年度から1年間の目標:

- 1) 地域医療に貢献し、地域住民の健康の向上に努める。
- 2) 市民公開講座等を通して一般市民の健康増進に寄与する。
- 3) 産学共同事業への積極的に参加する。

上記目標に対する到達度:

1) 地域の関連病院からの特殊内視鏡治療等の要請に積極的に対応していく。

到達度 70% : 関連病院からの紹介率が明らかに向上した。

2) 市民公開講座等を通して一般市民の健康増進に寄与する。

到達度 70% : 公開講座の要請が2件あった。

3) 産学共同事業へ積極的に参加する。

到達度 20% : 内視鏡関連処置具の使用評価に携わることができた。

2003年度から2年間の目標:

1)地域の関連病院からの高度医療(特殊内視鏡治療など)の要請に積極的に対応していく。

- 2) 市民公開講座等を通して一般市民の健康増進に寄与する。
- 3) 産学共同事業へ積極的に参加する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	0,	助教授	1,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	 切九八貝	教授	0,	助教授	1,	講師	0,	助手	1,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	日本消化器内視鏡学会大腸内視鏡検査偶発 症対策委員会	委員	福田 真作	東京	2 日
	日本消化器内視鏡学会東北セミナープログ ラム委員会	委 員		秋田市	1 日
	日本消化器内視鏡学会専門医制度東北支部 認定審査会	指導施設 認定委員	福田 真作	盛岡市	1日
03年度	日本消化器病学会支部評議員会	評議員	1田山 共日	仙台市 福島市	1日 1日
	日本消化器内視鏡学会支部評議員会			仙台市 福島市	1日 1日
	日本消化器内視鏡学会支部評議員会	評議員	三上 達也	仙台市 福島市	1日 1日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	日本内科学会創立100周年記念 東北支部市民公開講座 「青森県民の健康増進を目指して一 胃・大腸がんの予防」	助教授	福田 真作	青森市	1 日
	弘前大学医学部 「健康・医療講演会」―内視鏡の話―	助教授	福田 真作	八戸市	1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	内視鏡処置具の改善 (並木精密宝石株式会社)	助 教 授助 手	福田 真作 三上 達也	附属病院	1 日

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	町立大鰐病院における検査業務	非常勤医師	福田 真作	大鰐町	50日
02年度	木造成人病センターにおける外来診療と検 査業務	非常勤医師	三上 達也	木造町	50日
	町立大鰐病院における検査業務	非常勤医師	福田 真作	大鰐町	50日
03年度	木造成人病センターにおける外来診療と検 査業務	非常勤医師	三上 達也	木造町	50日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

55. リハビリテーション部

2002年度から1年間の目標:

脳性麻痺児の評価尺度に対する知識の普及をはかる。

地域医療の場で高齢者へのリハ的な関わりを通じて、リハアプローチ、特に摂食・嚥下障害に関する理解を高める。

上記目標に対する到達度:

脳性麻痺児の評価尺度に対する知識の普及をはかる

→到達度100%

地域医療の場で高齢者へのリハ的な関わりを通じて、リハアプローチ、特に摂食・嚥下障害に関する理解を高める。

→到達度 80%

2003年度から2年間の目標:

脳性麻痺児の評価尺度に対する知識の普及をはかる。

地域医療の場で高齢者へのリハ的な関わりを通じて、リハアプローチ、特に摂食・嚥下障害に関する理解を高める。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	0,	助教授	1,	講師	0,	助手	1,	医員	1,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度		教授	0.	助教授	1.	講師	0.	助手	1,	医員	0.	大学院学生	0.	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本リハビリテーション医学会	評議員			2 日
02年度	日本リハビリテーション医学会 評価・用語委員会	委員	近藤和泉		4 日
	日本義肢装具学会	評 議 員			2 日
03年度	日本リハビリテーション医学会	評議員	近藤 和泉		2 日
03年度	日本義肢装具学会	計 哉 貝	妊瘀 和永		2 日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	日本リハビリテーション医学会編集委員会	委 員	近藤 和泉		10日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
00年度	平成14年度青森県高齢者等地域リハビリ テーション支援センター研修会	講師	近藤 和泉		1日
02年度	第2回八戸圏域地域リハビリテーション研 修会	講師	八膝 和永		1日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
09年度	21世紀教育・テーマ科目・障害者の健康(C)	扣 水	`F藤 和自		5 日
03年度	21世紀教育・テーマ科目・発達と老化	担当	近藤 和泉		1 ∃

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	小泊村機能訓練教室		1日		
02平皮	義肢・装具仮合わせおよび適合・巡回診療	判定医師	近藤 和泉		4 日
	平成15年度義肢・装具仮合わせおよび適合判定	判定医師			2 日
03年度	平成15年度養護学校等における医療的ケア 専門研修	講師	近藤和泉		1日
	平成15年度義肢・装具仮合わせおよび適合判定	判定医師	細川賀乃子		4 日

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	黒石病院	非常勤医師	近藤 和泉		48日
03年度	みちのく記念病院	北帝勘尼姑	如川畑元子		40日
	青森県立中央病院リハビリテーション科	非常勤医師	細川賀乃子		30日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

56. 総合診療部

2002年度から1年間の目標:

上記目標に対する到達度:

卒後臨床研修における地域の医療・福祉施設との協力体制を構築するため、弘前市医師会、青森県保健所長会議等と協議の上、地域医療研修プログラムを立ち上げ実施した。到達度は80%程度である。

2003年度から2年間の目標:

卒後臨床研修の充実を通じて、地域医療の発展に貢献する。

各教官が、総合診療を地域に根付かせるべく努力する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	0,	助教授	0,	講師	0,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	岍 九八貝	教授	1,	助教授	0,	講師	1,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
	日本臨床救急医学会	評議員			1日
	日本老年医学会	代議員	加藤 博之		1日
	日本救急医学会九州地方会 評 議 員				2 日
03年度	日本腎臓学会	学術評議員			1日
	日本腎臓学会	専門医制度症例評価委員	大沢 弘		1日
	日本内科学会	病歴要約評価委員	// 5A		1日
	日本内科専門医会	東北支部評議員			1日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	九州救急医学雑誌	編集委員	加藤 博之		2 日

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
03年度	佐賀医科大学公開講座「"いざというときの とっさの知恵" ―簡単に身につけられる心配 蘇生法」	実技指導	加藤 博之		1 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む)

該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏	名	備考	日数
03年度	国保平賀病院	非常勤医師	大沢	弘		39日
	鷹揚郷腎研究所弘前病院					39日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

57. 卒後臨床研修センター

2002年度から1年間の目標:

卒後臨床研修必修化に対応すべく、地域の医療機関、福祉施設、研修協力病院との連携体制を構築していく。

上記目標に対する到達度:

地域医療研修の基礎作りが出来、80%は達成された。

2003年度から2年間の目標:

総合診療部教官として、診療・教育を通じ、地域医療の発展に寄与する。

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	0,	助教授	0,	講師	1,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	4	教授	0,	助教授	0,	講師	1,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	日本内科学会資格認定試験病歷評価委員会	委 員	大沢 弘		2 日

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

該当なし。

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

該当なし。

- (5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。
- (6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

	件名	役職	氏	名	備考	日数
02年度	国保平賀病院	非常勤医師	十分日	弘		39日
	鷹揚郷腎研究所弘前病院		大沢			43日

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

該当なし。

58. メディカルスクール研究センター

2002年度から1年間の目標:

メディカルスクール制度への移行に対する普及・広報活動

上記目標に対する到達度:

メディカルスクール制度への移行に対する普及・広報活動

2003年度から2年間の目標:

メディカルスクール制度への移行に対する普及・広報活動

【研究人員】

02年度	研究人員	教授	0,	助教授	0,	講師	1,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0
03年度	妍 九八貝	教授	0,	助教授	0,	講師	1,	助手	0,	医員	0,	大学院学生	0,	研究生	0

【社会貢献活動の実施状況】

(1) 学会などにおける委員としての活動

該当なし。

(2) 学会などの開催

該当なし。

(3) 学術雑誌の編集員及び審査員としての活動(査読も含む)

該当なし。

(4) 一般市民などの生涯学習等への寄与

	件名	役職	氏 名	備考	日数
02年度	平成14年度弘前大学公開講座	講師	松谷 秀哉	大畑町	6 日

(5) 国や地方自治体などにおける審議会・委員会委員としての活動(相談員, 医師会役員も含む) 該当なし。

(6) 新技術の創出など新産業基盤の構築への寄与(特許取得も含む)

該当なし。

(7) 産学共同事業への参加

該当なし。

(8) 医学部医学科以外での講義(大学)

該当なし。

(9) 医学部医学科以外での講義(大学以外)

該当なし。

(10) 学校医, 種々の検(健) 診活動への参加

該当なし。

(11) 地域医療への貢献

該当なし。

(12) 国際交流への貢献

該当なし。

(13) その他

該当なし。

管理·運営

第4章 管 理・運 営

I. 所属委員会

【医学部医学科】(2002年4月現在)

	委 員 会 名	委 員 名 及 び 委 員 数 ◎印は委員長
1	医学部教授会	菅原和夫・正村和彦・加地 隆・泉井 亮・藏田 潔 土田成紀・元村 成・八木橋操六・工藤 一・中根明夫 三田禮造・神谷晴夫・黒田直人・若林孝一・佐藤 敬 佐藤能啓・松永宗雄・棟方昭博・奥村 謙・須田俊宏 水島 豊・兼子 直・伊藤悦朗・福田幾夫・佐々木睦男 藤 哲・花田勝美・鈴木唯司・中澤 満・新川秀一 阿部由直・水沼英樹・松木明知・鈴木重晴・澤田幸正 保嶋 実・立石智則・木村博人・棟方博文・菅原和信 羽田隆吉 計41名
2	医学科会議	菅原和夫・正村和彦・加地 隆・泉井 亮・藏田 潔 土田成紀・元村 成・八木橋操六・工藤 一・中根明夫 三田禮造・神谷晴夫・黒田直人・若林孝一・佐藤 敬 佐藤能啓・松永宗雄・棟方昭博・奥村 謙・須田俊宏 水島 豊・兼子 直・伊藤悦朗・福田幾夫・佐々木睦男 藤 哲・花田勝美・鈴木唯司・中澤 満・新川秀一 阿部由直・水沼英樹・松木明知・鈴木重晴・澤田幸正 保嶋 実・立石智則・木村博人・棟方博文・菅原和信 羽田隆吉 計41名
3	研究科委員会	管原和夫・正村和彦・加地 隆・泉井 亮・藏田 潔 土田成紀・元村 成・八木橋操六・工藤 一・中根明夫 三田禮造・神谷晴夫・黒田直人・若林孝一・佐藤 敬 佐藤能啓・松永宗雄・棟方昭博・奥村 謙・須田俊宏 水島 豊・兼子 直・伊藤悦朗・福田幾夫・佐々木睦男 藤 哲・花田勝美・鈴木唯司・中澤 満・新川秀一 阿部由直・水沼英樹・松木明知・鈴木重晴・澤田幸正 保嶋 実・立石智則・木村博人・棟方博文・菅原和信 羽田隆吉 計41名
4	学科間連絡会	菅原和夫・鈴木唯司・神谷晴夫・松木明知 計 4名
5	医学科運営会議	菅原和夫・鈴木唯司・神谷晴夫・松木明知 計 4名
6	医学部将来計画委員会	◎菅原和夫・鈴木唯司・泉井 亮・元村 成・八木橋操六 須田俊宏・佐々木睦男・鈴木重晴・古川賢一・玉井克人 計10名
7	医学部•附属病院自己評価委員会	◎土田成紀・藏田 潔・元村 成・棟方昭博・鈴木重晴 新川秀一・田中正則・中路重之・玉澤直樹・篠崎直子 石原弘規・佐々木泰輔・安田文子 計13名
8	兼業審査委員会	◎奥村 謙・土田成紀・正村和彦・花田勝美 計 4名
9	教員任期制委員会	◎元村 成・正村和彦・佐藤 敬・棟方昭博・奥村 謙 新川秀一・菅野隆浩・早狩 誠・岡田晶博・玉澤直樹 計10名
10	附属動物実験施設運営委員会	◎神谷晴夫・加地 隆・工藤 一・須田俊宏・花田勝美計 5名
11	附属脳神経血管病態研究施設協議会	◎菅原和夫・松永宗雄・鈴木唯司・若林孝一・佐藤 敬 佐藤能啓・正村和彦・工藤 一・兼子 直・鈴木重晴 計10名
12	附属図書館医学部分館運営委員会	◎工藤 一・正村和彦・中根明夫・木村博人 計 4名
13	医学部医学科図書委員会	◎工藤 一・羽田隆吉・正村和彦・中根明夫・木村博人 松木明知・石田邦夫・丸山英俊 計 8名
14	倫理委員会	◎工藤 一・泉井 亮・奥村 謙・兼子 直・相澤 寛 小田桐弘毅・小林朱実・黒田直人・元村 成 計 9名
15	医学部放射線安全委員会	◎土田成紀・藏田 潔・佐藤 敬・須田俊宏・阿部由直 保嶋 実 計 6名
16	教授団幹事	佐藤 敬
17	医学部外部評価具体化委員会	◎菅原和夫・鈴木唯司・土田成紀・鈴木重晴・元村 成 計 5名

18	定員削減対策検討委員会	◎菅原和夫・鈴木唯司・黒田直人・正村和彦・泉井 亮 棟方昭博・佐々木睦男・鈴木重晴 計 8名
19	医学科情報処理検討委員会	立石智則・羽田隆吉・山岸晋一朗・大川恵三・三浦一志 蒔苗公利・八木澤誠・松谷秀哉 計 8名
20	医学部医学科広報委員会	◎木村博人・正村和彦・若林孝一・佐藤能啓・花田勝美 中澤 満 計 6名
21	医学科情報公開検討委員会	蔵田 潔・黒田直人・佐藤 敬・棟方昭博・佐々木睦男 羽田隆吉 計 6名
22	医学科公開講座推進委員会	◎花田勝美・中澤 満・黒田直人・小林朱実 計 4名
23	医学部医学科予算委員会	◎菅原和夫・泉井 亮・藏田 潔・元村 成・佐藤 敬 棟方昭博・奥村 謙・佐々木睦男・鈴木重晴 計 9名
24	医学部施設管理委員会	◎菅原和夫・鈴木唯司・鈴木重晴・佐藤能啓・花田勝美棟方博文・須藤明子計 7名
25	医学部環境整備委員会	◎中根明夫・工藤 一・黒田直人・花田勝美・羽田隆吉 吉田秀見・瀬谷和彦・橋本敏光・漆舘聡志・佐藤しのぶ 古舘周子 計11名
26	新臨床研究棟再開発委員会	新川秀一・兼子 直・木村博人・中澤 満・佐々木睦男 奥村 謙・阿部由直 計 7名
27	学務委員会	◎鈴木重晴・土田成紀・元村 成・佐藤 敬・棟方昭博 佐々木睦男 計 6名
28	医学研究科学事委員会	◎奥村 謙・土田成紀・佐藤 敬・黒田直人・新川秀一 計 5名
29	医学教育検討委員会	◎菅原和夫・鈴木唯司・鈴木重晴・奥村 謙・元村 成 中根明夫・黒田直人・須田俊宏・福田幾夫 計 9名
30	入試専門委員会	◎元村 成・菅原和夫・土田成紀・佐藤 敬・棟方昭博 佐々木睦男・鈴木重晴・中澤 満 計 8名
31	国際交流研究委員会	◎土田成紀・若林孝一・佐藤 敬・奥村 謙・伊藤悦朗中澤 満 計 6名
32	メディカルスクール研究センター運営委員会	◎泉井 亮・元村 成・佐藤 敬・奥村 謙・兼子 直 新川秀一 計 6名
33	RI学生実験室運営委員会	◎土田成紀・藏田 潔・佐藤 敬・須田俊宏・阿部由直 保嶋 実 計 6名
34	青森医学振興会医学科実務委員会	◎菅原和夫・鈴木唯司・鈴木重晴・木村博人・花田勝美 棟方昭博 計 6名
35	医学部研究推進委員会	◎菅原和夫・鈴木唯司・奥村 謙・土田成紀・佐藤 敬 花田勝美・中澤 満 計 7名
36	医学部動物実験倫理委員会	◎神谷晴夫・八木澤誠・藏田 潔・正村和彦・伊藤悦朗 水沼英樹・森 文秋・石原弘規 計 8名
37	弘前医学会幹事会	◎菅原和夫・新川秀一・土田成紀・元村 成 計 4名
38	弘前医学編集委員会	◎元村 成・加地 隆・黒田直人・土田成紀・八木橋操六 奥村 謙・兼子 直・中澤 満・松木明知・保嶋 実 計10名
39	共通機器センター運営委員会	◎土田成紀・元村 成・八木橋操六・奥村 謙・鈴木重晴 保嶋 実 計 6名
40	臨床中央研究室運営委員会	◎中澤 満・阿部由直・三上達也・小川吉司・中畑 徹今 淳・坂本知巳・吉原秀一・松本智恵 計 9名
41	メディカルイングリッシュセンター運営委員会	◎正村和彦・中根明夫・佐藤 敬・兼子 直・伊藤悦朗 計 5名
42	医学科公式ホームページ開設準備委員会	藏田 潔・木村博人・羽田隆吉・松谷秀哉 計 4名
43	地域医療対策委員会	◎棟方昭博・菅原和夫・鈴木唯司・奥村 謙・佐々木睦男 新川秀一・土田成紀 計 7名
44	本町地区体育館運営委員会	花田勝美・高橋 等 計 2名

【附属病院】

	委	員	会	名	委員名及び委員	数 ◎印は委員長
1	病院運営会議				合木唯司・鈴木重晴・奥村	・新川秀一・須藤明子 計 6名

2	病院科長会	◎鈴木唯司・鈴木重晴・奥村 謙・新川秀一・須藤明子 棟方昭博・須田俊宏・兼子 直・伊藤悦朗・福田幾夫 佐々木睦男・藤 哲・花田勝美・中澤 満・阿部由直 水沼英樹・松木明知・澤田幸正・棟方博文・木村博人 保嶋 実・八木橋操六・羽田隆吉・菅原和信・水島 豊 立石智則・益本俊治・兵藤 進 計28名
3	手術部運営委員会	◎佐々木睦男・坂井哲博・松木明知・中澤 満・橋本 浩 袴田健一・大泉昭良・須藤明子・中島裕子・福沢百合子 益本俊治計11名
4	手術部連絡会議	◎坂井哲博・對馬敬夫・鳴海俊治・石橋恭之・中野 創 川口俊明・水谷英之・松原 篤・田中幹二・村岡正敏 横井克憲・須貝道博・福井 朗・中島裕子・福沢百合子 計15名
5	検査部運営委員会	◎保嶋 実・庄司 優・葛西 猛・八木橋操六・棟方昭博 須田俊宏・土田成紀・三浦一志・嶋村則人・福井 朗 小亀圭司・野呂秀紀・堀川万記子・堀内悦子・小畑昌司 益本俊治 計16名
6	放射線部運営委員会	◎阿部由直・佐々木泰輔・工藤亮裕・福田眞作・伊藤悦朗 須藤明子・佐藤しのぶ・尾崎博一・小島佳也・益本俊治 計10名
7	材料部運営委員会	◎鈴木重晴・石原弘規・福沢百合子・坂井哲博・花田勝美 野田 浩・岡田晶博・須藤明子・中田伸一・齋藤 隆 益本俊治 計11名
8	救急部運営委員会	◎奥村 謙・滝口雅博・松木明知・伊藤悦朗・棟方博文 橋本 浩・福井康三・佐々木睦男・保嶋 実・阿部由直 菅原和信・須藤明子・樋口三枝子・益本俊治 計14名
9	リハビリテーション部運営委員会	◎藤 哲・近藤和泉・須田俊宏・澤田幸正・神成一哉 相馬正始・橋本修一・品川弘子・益本俊治 計 9名
10	輸血部運営委員会	◎棟方昭博・木村あさの・伊藤悦朗・松木明知・保嶋 実 佐々木睦男・水沼英樹・高見秀樹・照井君典・須藤明子 福沢百合子・益本俊治 計12名
11	集中治療部運営委員会	◎松木明知・坪 敏仁・奥村 謙・須田俊宏・佐々木睦男 鈴木重晴・長内智宏・高谷俊一・保嶋 実・阿部由直 羽田隆吉・菅原和信・須藤明子・樋口三枝子・伊藤健一 計15名
12	周産母子センター運営委員会	◎水沼英樹・佐藤秀平・高橋 徹・樋口 毅・須貝道博 伊藤悦朗・佐々木睦男・中澤 満・阿部由直・松木明知 棟方博文・須藤明子・佐々木幸子・益本俊治 計14名
13	病理部運営委員会	◎八木橋操六・鎌田義正・棟方昭博・棟方博文・工藤 一 黒滝日出一・田中正則・玉井克人・森田隆幸・保嶋 実 佐々木睦男・須藤明子・伊藤健一 計13名
14	医療情報部運営委員会	◎羽田隆吉・三上聖治・中澤 満・木村博人・篠崎直子 藤井俊策・佐々木睦男・保嶋 実・阿部由直・鈴木重晴 菅原和信・須藤明子・益本俊治 計13名
15	医療情報部連絡会議	◎三上聖治・佐々木賀広・鎌田孝篤・後藤 尚・岡田元宏 田中 完・小柳雅是・鳴海俊治・石橋恭之・水木大介神村典孝・水谷英之・蒔苗公利・松谷秀哉・藤井俊策村岡正敏・尾金一民・横井克憲・須貝道博・小林 恒吉田 聡・藤田祥子・庄司 優・坂井哲博・佐々木泰輔石原弘規・滝口雅博・熊沢やすし・坪 敏仁・佐藤秀平木村あさの・鎌田義正・福田眞作・小林朱実・兵藤 進計35名
16	附属病院衛星医療情報ネットワーク運営委員会	◎鈴木唯司・花田勝美・中澤 満・藏田 潔・保嶋 実 佐々木睦男・羽田隆吉・小林朱実・益本俊治 計 9名
17	光学医療診療部運営委員会	◎棟方昭博・福田眞作・奥村 謙・阿部由直・佐々木睦男 坂本十一・一戸 学・須藤明子・益本俊治 計 9名
18	人工腎臓センター運営委員会	◎鈴木唯司・奥村 謙・松木明知・大沢 弘・川口俊明 下山律子・下山葉子・樋口三枝子・葛西千鶴子・小畑昌司 計10名
19	高圧酸素治療室運営委員会	◎松木明知・滝口雅博・新川秀一・鈴木重晴・藤田浩史水谷英之・一戸 学・村岡正敏・浅野研一郎・樋口三枝子益本俊治 計11名

20	強力化学療法室運営委員会	◎伊藤悦朗・照井君典・棟方昭博・田村好弘・對馬敬夫 丸山英俊・三浦一志・呉 聖哲・野田 浩・小林 恒 中田伸一・佐々木泰輔・木村あさの・長内尊子・須藤明子 工藤順子・益本俊治
21	臨床テクノロジーセンター運営委員会	◎須田俊宏・伊藤悦朗・水島 豊・中澤 満・棟方博文 金子高英・花田裕之・漆舘聡志・畑中 亮・村上知子 樋口三枝子・小畑昌司 計12名
22	薬事委員会	◎鈴木重晴・兼子 直・棟方博文・田村好弘・松永敏郎 小川吉司・近藤 毅・高橋 徹・鈴木保之・伊藤 卓 熊沢やすし・中野 創・川口俊明・丸山幾代・蒔苗公利 三浦弘行・丸山英俊・村岡正敏・高橋敏夫・横井克憲 須貝道博・小林 恒・吉田 聡・庄司 優・坂井哲博 佐々木泰輔・滝口雅博・坪 敏仁・佐藤秀平・菅原和信 大久保正・藤田祥子・大泉昭良・工藤正純・野呂秀紀 兵藤 進 計36名
23	医薬品等臨床研究審査委員会	◎元村 成・須田俊宏・棟方博文・長内智宏・棟方 護 立石智則・菅原和信・堀内悦子・兵藤 進・三浦秀春 矢島忠夫・三上雅通 計12名
24	治験管理センター運営委員会	◎立石智則・菅原和信・兼子 直・木村博人・保嶋 実 羽田隆吉・須藤明子・兵藤 進 計 8名
25	感染制御委員会	◎鈴木唯司・保嶋 実・菅原和信・中根明夫・三田禮造 須藤明子・佐々木大輔・高梨信吾・玉澤直樹・高谷俊一 須藤俊之・高見秀樹・安田文子・葛西 猛・宇野 司 伊藤健一 計16名
26	病院将来計画委員会	◎鈴木唯司・鈴木重晴・新川秀一・棟方昭博・兼子 直 佐々木睦男・木村博人・保嶋 実・阿部由直・菅原和信 羽田隆吉・須藤明子・益本俊治・兵藤 進 計14名
27	経営管理改善委員会	◎鈴木唯司・鈴木重晴・奥村 謙・新川秀一・須藤明子棟方昭博・須田俊宏・佐々木睦男・木村博人・保嶋 実阿部由直・菅原和信・益本俊治・兵藤 進・松岡實夫小畑昌司・伊藤健一 計17名
28	保険診療に関する委員会	◎鈴木唯司・保嶋 実・菅原和信・坂井哲博・坪 敏仁神成一哉・田中 完・田村好弘・菅原俊之・玉澤直樹栗林理人・高橋 徹・山田芳嗣・袴田健一・岡田晶博今 淳・神村典孝・加藤智博・一戸 学・齋藤陽子丸山英俊・佐藤哲観・高橋敏夫・横井克憲・須貝道博小林 恒・浦田幸朋・益本俊治・兵藤 進・伊藤健一計30名
29	医療材料選定委員会	高梨信吾・佐々木泰輔・佐々木睦男・石橋恭之・坂井哲博 坪 敏仁・福沢百合子・兵藤 進・小畑昌司 計 9名
30	診療環境向上推進委員会	◎花田勝美・奥村 謙・木村博人・羽田隆吉・須藤明子 小川吉司・横山 徹・吉原秀一・坂井哲博・藤田祥子 工藤亮裕・齋藤慶子・村上知子・松岡實夫 計14名
31	診療情報提供委員会	◎鈴木重晴・伊藤悦朗・中澤 満・黒田直人・五十嵐靖雄 三上雅通・安田文子・益本俊治 計 8名
32	臓器移植問題検討委員会	◎鈴木唯司・伊藤悦朗・佐々木睦男・保嶋 実・奥村 謙 棟方昭博・松木明知・八木橋操六・須藤明子・益本俊治 伊藤健一 計11名
33	臓器移植適応検討委員会	棟方昭博・佐々木睦男 計 2名
34	卒後臨床研修等委員会	◎鈴木唯司・新川秀一・奥村 謙・須田俊宏・佐々木睦男 中澤 満・八木橋操六・三田禮造・坂本十一・對馬敬夫 計10名
35	広報委員会	◎鈴木唯司・花田勝美・棟方博文・篠崎直子・蒔苗公利 安田文子・松岡實夫・小畑昌司・伊藤健一 計 9名
36	臨床検査外注検討委員会	◎保嶋 実・葛西 猛・八木橋操六・棟方昭博・須田俊宏 伊藤悦朗・長谷川幸裕・丹藤雄介・水木大介・小畑昌司 計10名
37	業務連絡会	◎鈴木重晴・須藤俊之・長内智宏・玉澤直樹・近藤 毅高橋 徹・高谷俊一・森田隆幸・藤 哲・玉井克人高橋信好・大黒 浩・松原 篤・齋藤陽子・佐藤重美石原弘規・関谷徹治・四ツ柳高敏・須貝道博・小林 恒坂井哲博・庄司 優・佐々木泰輔・滝口雅博・近藤和泉木村あさの・坪 敏仁・佐藤秀平・鎌田義正・三上聖治福田眞作・大久保正・藤田祥子・村上知子・安田文子

		小林朱実・葛西 猛・工藤亮裕・松岡實夫・小畑昌司 長尾義昭・伊藤健一・福村 徳・高谷芳雄・佐々木睦男 福島 勉 計46名
38	附属病院予算委員会	◎鈴木唯司・菅原和信・棟方昭博・佐々木睦男・原田 研 袴田健一・須藤明子・石原弘規・益本俊治 計 9名
39	注射処方箋等の運用に関する委員会	木村博人・菅原和信・羽田隆吉・須藤明子・伊藤健一 十束英志・丸山英俊・藤田祥子・佐藤淳也・安倍よし子 久保田昭子 計11名
40	高度先進医療に関する専門委員会	◎鈴木唯司・棟方昭博・奥村 謙・須田俊宏・兼子 直 伊藤悦朗・福田幾夫・佐々木睦男・藤 哲・花田勝美 中澤 満・新川秀一・阿部由直・水沼英樹・松木明知 鈴木重晴・澤田幸正・棟方博文・木村博人・水島 豊 保嶋 実・菅原和信・益本俊治 計23名
41	リスクマネジメント対策委員会	◎鈴木唯司・鈴木重晴・奥村 謙・新川秀一・須藤明子 益本俊治・砂田弘子・三上雅通 計 8名
42	防災対策委員会	◎鈴木唯司・花田勝美・立石智則・篠崎直子・田中幹二 山内崇生・横井克憲・工藤正純・須藤明子・村上知子 佐々木幸子・久保田昭子・堀川万記子・工藤順子・滝口雅博 益本俊治・兵藤 進・松岡實夫・小畑昌司・長尾義昭 伊藤健一・赤平満彦・木村省二 計23名
43	栄養管理委員会	◎鈴木唯司・益本俊治・兵藤 進・須藤明子・伊藤健一 小畑昌司・平野聖治・須田俊宏・小川吉司・神村典孝 佐藤 工・成田幸子・久保田昭子・工藤順子 計14名
44	放射線安全委員会	◎阿部由直・工藤亮裕・金 正宜・佐々木泰輔・棟方昭博 伊藤悦朗・野田 浩・嶋村則人・佐々木大輔・坂井哲博 庄司 優・滝口雅博・坪 敏仁・須藤明子・佐藤しのぶ 齋藤 隆・益本俊治 計17名
45	脳死判定医会議	松木明知・石原弘規・坪 敏仁・坂井哲博・小谷直樹 橋本 浩・廣田和美・村岡正敏・佐藤哲観・滝口雅博 松永宗雄・馬場正之・神成一哉・冨山誠彦・鈴木重晴 関谷徹治・高橋敏夫・尾金一民・大熊洋揮 計19名
46	附属病院診療奨励賞運営委員会	◎鈴木唯司・佐々木睦男・松木明知・保嶋 実・坂井哲博 尾崎博一・小林朱実・兵藤 進 計 8名
47	医学部・附属病院レクリエーション委員会	三浦一志・梅田 孝・佐々木早苗・五十嵐世津子・古川照美水谷英之・山下 建・佐藤順志・備前 剛・溝江修一成田順一・黒滝孝雄・宮本 茂・工藤正純・辻 敏朗木村正彦・佐藤安一郎・相馬博子・相馬美香子・松岡實夫計20名
48	病理解剖運営委員会	工藤 一・佐々木睦男・黒滝日出一・和田龍一・田中正則 伊藤 卓・小林 恒・樋口 毅・高谷芳雄 計 9名
49	医療ガス安全管理委員会	◎松木明知・高梨信吾・坪 敏仁・坂井哲博・佐々木泰輔 新岡丈典・村上知子・小畑昌司 計 8名
50	卒後臨床研修センター運営委員会	◎新川秀一・大沢 弘・高橋 徹・森田隆幸・佐藤重美 松岡實夫 計 6名

【全学の委員会】

	委員 会 名	委 員 名
1	弘前大学評議会	菅原和夫•鈴木唯司•神谷晴夫•松木明知
2	弘前大学部局長等会議	菅原和夫•鈴木唯司
3	弘前大学全学教育協議会	菅原和夫
4	弘前大学全学教育協議会共通教育棟運営委員会	土田成紀
5	弘前大学全学教育協議会教育改善検討専門委員会	鈴木重晴•元村 成
6	弘前大学全学教育協議会イノベーション・プログ ラム実施準備専門委員会	新川秀一•中根明夫
7	弘前大学国際教育運営委員会	藏田 潔
8	弘前大学短期留学プログラム実施委員会	佐々木睦男
9	弘前大学将来計画委員会	菅原和夫•鈴木唯司
10	弘前大学将来計画委員会21世紀戦略会議	菅原和夫•鈴木唯司
11	弘前大学将来計画委員会八戸地域との交流推進専 門委員会	花田勝美

12	弘前大学将来計画委員会大学の再編・統合に関す る検討専門委員会	藏田 潔・中澤 満
13	弘前大学将来計画委員会国立大学の法人化問題検討専門委員会	黒田直人・兼子 直
14	弘前大学自己評価委員会	菅原和夫・鈴木唯司
15	弘前大学自己評価委員会自己評価専門委員会	土田成紀・棟方昭博
16	弘前大学生涯学習推進委員会	菅原和夫・鈴木唯司
17	弘前大学共同研究推進委員会	菅原和夫·鈴木唯司
10	J. 前十学戊却委员人	☆ +n件⇒1. +()+nH/m
18	弘前大学広報委員会 弘前大学広報委員会入試広報専門委員会	鈴木唯司・松木明知 元村 成
19	弘前大学広報委員会、就版広報専門委員会	佐藤 敬
20	弘前大学広報委員会弘前大学公式ホームページ専	
21	門委員会	藏田 潔
22	弘前大学学術研究奨励基金管理運用委員会	八木橋操六・棟方昭博
23	弘前大学国際交流委員会	土田成紀・中澤 満
24	弘前大学歳出予算学内配分委員会	菅原和夫・鈴木唯司・神谷晴夫
25	弘前大学動物実験委員会	神谷晴夫・須田俊宏・八木澤誠
26	弘前大学施設整備委員会	棟方博文•鈴木唯司
27	弘前大学施設整備委員会施設点検評価専門部会	佐藤能啓・新川秀一
28	弘前大学自然科学共通研究室協議会	中根明夫
29	弘前大学赤外・レーザーラマン分光光度計研究室 運営委員会	木村博人
30	弘前大学質量分析機研究室運営委員会	土田成紀
31	弘前大学核磁気共鳴装置研究室運営委員会	佐藤能啓
32	弘前大学電子スピン共鳴装置研究室運営委員会	土田成紀
33	弘前大学エレクトロンプローブ マイクロアナラ イザ研究室運営委員会	木村博人
34	弘前大学スペース・コラボレーション・システム 事業実施委員会	藏田 潔・羽田隆吉
35	弘前大学環境保全対策委員会	菅原和信
36	弘前大学環境保全対策委員会排水処理専門委員会	保嶋 実・髙垣啓一・大久保正・神村典孝・葛西 猛
37	弘前大学職員レクリエーション委員会	梅田 孝・水谷英之・舛甚 満・相馬博子・相馬美香子
38	弘前大学職員宿舎委員会	立石智則•水島 豊
39	弘前大学厚生補導委員会	棟方昭博
40	弘前大学21世紀教育センター運営委員会	元村 成•黒田直人
41	弘前大学教務委員会	鈴木重晴
42	弘前大学教務委員会インターンシップ専門委員会	元村成
43	弘前大学就職対策協議会	棟方昭博
44	弘前大学学寮委員会	佐々木睦男
45	弘前大学学園だより編集委員会	神村典孝
46	弘前大学大学会館運営委員会	立石智則
47	弘前大学国際交流会館運営委員会	伊藤悦朗・棟方博文
48	弘前大学內学試験委員会 弘前大学入学試験委員会	で原和夫・鈴木重晴
49	弘前大学入学試験委員会採点・評価基準・合否判	佐藤 敬
F0	定基準開示方法検討委員会	
50	弘前大学大学入試センター試験実施委員会	で原和夫・鈴木重晴 中澤、港
51	弘前大学入学者選抜方法研究委員会	中澤満
52	弘前大学放射線安全管理委員会	阿部由直・菅原和夫・鈴木唯司・土田成紀・保嶋 実
53	弘前大学保健管理委員会	菅原和夫・鈴木唯司・阿部由直・保嶋 実
54	弘前大学組換之DNA実験安全委員会	出田成紀・中根明夫
55	弘前大学発明委員会	若林孝一
56	弘前大学大学院委員会	菅原和夫・奥村 謙・兼子 直
57	弘前大学附属図書館協議会	工藤一・加地隆
58	弘前大学附属図書館協議会図書選定委員会	工藤一
59	弘前大学遺伝子実験施設管理委員会	菅原和夫・鈴木唯司
60	弘前大学遺伝子実験施設運営委員会	佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠
61	弘前大学総合情報処理センター管理委員会	菅原和夫•鈴木唯司

62	弘前大学総合情報処理センター運営委員会	元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉					
02		九门 成"須田区丛"伍小奶和"初田隆日					
63	弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデ	松谷秀哉					
	オ・オン・デマンド専門委員会	14 1 7 5 9 4					
64	弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会	伊藤悦朗					
65	大学の教育研究情勢に関する懇話会	若林孝一					
66	弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会	阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一					
67	弘前大学セクシュアル・ハラスメント防止等対策	田田古 1 一					
67	委員会	黒田直人・兼子 直・須藤明子					
68	弘前大学創立50周年記念会館運営委員会	土田成紀•羽田隆吉					
69	弘前大学地域共同研究センター運営委員会	土田成紀					
70	弘前大学情報公開委員会	藏田 潔・羽田隆吉					
71	弘前大学総合文化祭実行委員会	菅原和夫•鈴木唯司					
72	弘前大学総合文化祭企画委員会	對馬敬夫					
73	弘前大学毒劇物管理委員会	若林孝一•菅原和信					

【医学部医学科】(2003年4月現在)

	委	 員 会	名	委	 員	名 及	び	委	員	数	0	印は委	員長	
1	医学部教授会			高垣尾 三田 一	一造雄直美樹	神谷町 棟方町 伊藤竹 ・鈴木町		元黒奥福中澤田村田村田澤田	直幾	· 八木橋 · 充木林田 在	操孝发睦秀	中根明 佐藤 水島	敬豊哲直)名
2	医学科会議			髙垣 三田 松永宗 来子 花田 水沼 水沼 水沼	一造雄直美樹	神谷町棟方町伊藤恒鈴木町	成夫 博朗司 知	元黒奥福中澤田澤田澤田	成人謙夫満正	・八木橋 ・若須田休 ・佐新田休 ・保川!	操力・変に	中根明 佐藤 水島	敬豊哲直)名
3	研究科委員会			髙垣 三田 松永宗 兼子 花田 水沼 水沼 水沼	一造群直美樹	神谷町棟方町伊藤竹・鈴木町	成 青 召 的	元黒奥福中澤田村田澤田	成人謙夫満正	・八木橋 ・若須田休 ・佐新田休 ・保川!!	操六・変とという。というでは、	中根明 佐藤 水島	敬豊哲直)名
4	学科間連絡会					• 鈴木 ⁿ							計 4	-
5	医学科運営会議			菅原和]夫・	鈴木	惟司•	神谷町	青夫・	兼子	直		計 4	名
6	医学部将来計画委員	会		◎菅原和 伊藤竹		• 鈴木『 • 佐々木							^{嬠六} 創 計10)名
7	21世紀構想具体化単			◎兼子水沼英		泉井	亮•	藏田	潔	• 佐藤	敬•	新川秀	}一 計 6	3名
8	医学部•附属病院自	自己評価委員会			美	・中根5 田中I 福田 j	E則•	中路	重之 ·				満 淳 計13	3名
9	兼業審査委員会		·	◎奥村	謙・	土田原		正村和	印彦・	• 花田朋	勝美		計 4	名
10	教員任期制委員会											須田俊 玉澤直)名
11	附属動物実験施設道	運営委員会		◎藏田	潔・	加地	隆•	八木橋	操六	9 須田伯	发宏•	花田勝	美 計 5	3名
12	附属脳神経血管病態	紫研究施設協議	<u></u> -	◎菅原和 正村和		・佐藤 ・藏田						松永宗	K雄 計 9	名
13	附属図書館医学部分)館運営委員会		◎正村和									計 4	名
14	医学部医学科図書家	委員会		◎正村和 松木明		· 羽田區 · 石田邦				• 中根	明夫・	木村博	序人 計 8	3名

1.5	W. TH. Z. P. V.	◎泉井 亮・中根明夫・奥村 謙・兼子 直・相澤 寛
15	倫理委員会	小田桐弘毅・小林朱実・黒田直人・元村 成 計 9名
16	医学部放射線安全委員会	◎土田成紀・阿部由直・藏田 潔・佐藤 敬・須田俊宏 保嶋 実 計 6名
17	教授団幹事	藤 哲 計 1名
18	定員削減対策検討委員会	◎菅原和夫・鈴木唯司・黒田直人・正村和彦・泉井 亮棟方昭博・佐々木睦男・新川秀一 計 8名
19	医学科情報処理検討委員会	立石智則・阿部由直・三戸聖也・胡 東良・横山 徹 石井賢治・八木澤誠・松谷秀哉 計 8名
20	医学部医学科広報委員会	◎正村和彦・髙垣啓一・黒田直人・花田勝美・中澤 満 藤 哲 計 6名
21	医学科情報公開検討委員会	藏田 潔・黒田直人・佐藤 敬・棟方昭博・佐々木睦男 羽田隆吉 計 6名
22	医学科公開講座推進委員会	◎花田勝美・藤 哲・若林孝一・小林朱実 計 4名
23	医学部医学科予算委員会	◎菅原和夫・泉井 亮・藏田 潔・元村 成・佐藤 敬 棟方昭博・奥村 謙・佐々木睦男・新川秀一 計 9名
24	医学部施設管理委員会	◎菅原和夫・鈴木唯司・元村 成・黒田直人・花田勝美 藤 哲・須藤明子 計 7名
25	医学部環境整備委員会	◎黒田直人・髙垣啓一・若林孝一・花田勝美・棟方博文 吉田秀見・瀬谷和彦・黒田令子・漆舘聡志・中畑年子 古舘周子 計11名
26	本町地区体育館運営委員会	菅原和夫・花田勝美・差波拓志 計 3名
27	新臨床研究棟再開発委員会	新川秀一・兼子 直・木村博人・中澤 満・佐々木睦男 奥村 謙・阿部由直 計 7名
28	総合研究棟(現基礎校舎)利用計画検討委員会	◎佐藤 敬・藏田 潔・土田成紀・中根明夫・黒田直人 木村良一・楠美智巳 計 7名
29	学務委員会	◎元村 成・土田成紀・佐藤 敬・棟方昭博・佐々木睦男 花田勝美 計 6名
30	医学研究科学事委員会	◎奥村 謙・土田成紀・佐藤 敬・黒田直人・新川秀一 計 5名
31	医学教育検討委員会	◎菅原和夫・鈴木唯司・元村 成・奥村 謙・中根明夫 黒田直人・須田俊宏・福田幾夫 計 8名
32	カリキュラム調整委員会	◎泉井 亮・元村 成・中根明夫・奥村 謙・須田俊宏 木村博人 計 6名
33	入試専門委員会	◎泉井 亮・菅原和夫・棟方昭博・佐藤 敬・髙垣啓一 水沼英樹・中澤 満 計 7名
34	国際交流研究委員会	◎土田成紀・若林孝一・髙垣啓一・水沼英樹・伊藤悦朗藤 哲 計 6名
35	メディカルスクール研究センター運営委員会	◎泉井 亮・元村 成・佐藤 敬・奥村 謙・兼子 直 新川秀一 計 6名
36	RI学生実験室運営委員会	◎土田成紀・阿部由直・藏田 潔・佐藤 敬・須田俊宏 保嶋 実 計 6名
37	青森医学振興会医学科実務委員会	◎菅原和夫・鈴木唯司・元村 成・正村和彦・花田勝美棟方昭博 計 6名
38	医学部医学科研究推進委員会	◎菅原和夫・鈴木唯司・奥村 謙・土田成紀・佐藤 敬 花田勝美・中澤 満 計 7名
39	医学部動物実験倫理委員会	◎藏田 潔・八木澤誠・中根明夫・正村和彦・伊藤悦朗 水沼英樹・森 文秋・石原弘規 計 8名
40	弘前医学会幹事会	◎菅原和夫・土田成紀・木村博人・中澤 満 計 4名
41	弘前医学編集委員会	◎中澤 満・髙垣啓一・黒田直人・若林孝一・正村和彦 八木橋操六・須田俊宏・伊藤悦朗・松木明知・保嶋 実 計10名
42	共通機器センター運営委員会	◎土田成紀・元村 成・八木橋操六・奥村 謙・新川秀一 保嶋 実 計 6名
43	臨床中央研究室運営委員会	◎阿部由直・伊藤悦朗・下山 克・小川吉司・中畑 徹 菊池 康・坂本知巳・吉原秀一・宮本 茂 計 9名
44	メディカルイングリッシュセンター運営委員会	◎正村和彦・中根明夫・佐藤 敬・兼子 直・伊藤悦朗 計 5名
45	医学科公式ホームページ開設準備委員会	藏田 潔・木村博人・羽田隆吉・松谷秀哉 計 4名
46	地域医療対策委員会	◎棟方昭博・菅原和夫・鈴木唯司・奥村 謙・佐々木睦男 新川秀一・土田成紀 計 7名

【附属病院】

	委 員 会 名	委 員 名 及 び 委 員 数 ◎印は委員長
1	病院運営会議	◎鈴木唯司・新川秀一・奥村 謙・保嶋 実・須藤明子 益本俊治計 6名
2	病院科長会	◎鈴木唯司・新川秀一・奥村 謙・保嶋 実・須藤明子 棟方昭博・須田俊宏・兼子 直・伊藤悦朗・福田幾夫 佐々木睦男・藤 哲・花田勝美・中澤 満・阿部由直 水沼英樹・松木明知・澤田幸正・棟方博文・木村博人 八木橋操六・羽田隆吉・菅原和信・水島 豊・立石智則 益本俊治・椎名幸男 計27名
3	手術部運営委員会	◎佐々木睦男・坂井哲博・松木明知・中澤 満・橋本 浩 袴田健一・大泉昭良・須藤明子・中島裕子・福沢百合子 益本俊治 計11名
4	手術部連絡会議	◎坂井哲博・對馬敬夫・鳴海俊治・石橋恭之・武田仁志 川口俊明・水谷英之・一戸 学・田中幹二・村岡正敏 横井克憲・須貝道博・福井 朗・中島裕子・福沢百合子 計15名
5	検査部運営委員会	◎保嶋 実・庄司 優・葛西 猛・八木橋操六・棟方昭博 須田俊宏・土田成紀・嶋村則人・津田英一・福井 朗 杉本一博・野呂秀紀・堀川万記子・堀内悦子・山崎賢司 益本俊治
6	放射線部運営委員会	◎阿部由直・佐々木泰輔・工藤亮裕・福田眞作・伊藤悦朗 須藤明子・佐藤しのぶ・尾崎博一・小島佳也・益本俊治 計10名
7	材料部運営委員会	◎福田幾夫・石原弘規・福沢百合子・坂井哲博・花田勝美 野田 浩・岡田晶博・須藤明子・中田伸一・齋藤 隆 益本俊治 計11名
8	救急部運営委員会	◎奥村 謙・滝口雅博・松木明知・伊藤悦朗・棟方博文 橋本 浩・福井康三・佐々木睦男・保嶋 実・阿部由直 菅原和信・須藤明子・樋口三枝子・益本俊治 計14名
9	リハビリテーション部運営委員会	◎藤 哲・近藤和泉・須田俊宏・澤田幸正・神成一哉 細川賀乃子・對馬祥子・品川弘子・益本俊治 計 9名
10	輸血部運営委員会	◎棟方昭博・木村あさの・伊藤悦朗・松木明知・保嶋 実 佐々木睦男・水沼英樹・玉井佳子・高橋良博・須藤明子 福沢百合子・田中一人・益本俊治 計13名
11	集中治療部運営委員会	◎松木明知・坪 敏仁・奥村 謙・須田俊宏・佐々木睦男 福田幾夫・長内智宏・高谷俊一・保嶋 実・阿部由直 羽田隆吉・菅原和信・須藤明子・樋□三枝子・伊藤健一 計15名
12	周産母子センター運営委員会	◎水沼英樹・佐藤秀平・高橋 徹・樋口 毅・須貝道博 伊藤悦朗・佐々木睦男・中澤 満・阿部由直・松木明知 棟方博文・須藤明子・佐々木幸子・益本俊治 計14名
13	病理部運営委員会	◎八木橋操六・鎌田義正・棟方昭博・棟方博文・八木橋法登 田中正則・中野 創・森田隆幸・保嶋 実・佐々木睦男 須藤明子・伊藤健一 計12名
14	医療情報部運営委員会	◎羽田隆吉・三上聖治・中澤 満・木村博人・三浦 淳 藤井俊策・佐々木睦男・保嶋 実・阿部由直・福田幾夫 菅原和信・須藤明子・益本俊治 計13名
15	医療情報部連絡会議	◎三上聖治・佐々木賀広・中村典雄・蔭山和則・岡田元宏田中 完・畑中 亮・鳴海俊治・石橋恭之・武田仁志工藤大輔・水谷英之・石井賢治・近藤英宏・藤井俊策村岡正敏・嶋村則人・横井克憲・須貝道博・小林 恒浦田幸朋・藤田祥子・庄司 優・坂井哲博・佐々木泰輔石原弘規・滝口雅博・木村あさの・坪 敏仁・佐藤秀平鎌田義正・福田眞作・小林朱実・椎名幸男 計34名
16	附属病院衛星医療情報ネットワーク運営委員会	◎鈴木唯司・花田勝美・中澤 満・藏田 潔・保嶋 実 佐々木睦男・羽田隆吉・小林朱実・益本俊治 計 9名
17	光学医療診療部運営委員会	◎棟方昭博・福田眞作・奥村 謙・阿部由直・佐々木睦男 坂本十一・欠畑誠治・須藤明子・益本俊治 計 9名
18	人工腎臓センター運営委員会	◎鈴木唯司・奥村 謙・松木明知・大沢 弘・川口俊明 下山律子・下山葉子・樋口三枝子・葛西千鶴子・山崎賢司 計10名

19	高圧酸素治療室運営委員会	◎松木明知・滝口雅博・新川秀一・須田俊宏・藤田浩史 水谷英之・欠畑誠治・村岡正敏・浅野研一郎・樋口三枝子 益本俊治
20	強力化学療法室運営委員会	◎伊藤悦朗・照井君典・棟方昭博・田村好弘・高橋良博 對馬敬夫・丸山英俊・津田英一・神村典孝・野田 浩 小林 恒・中田伸一・佐々木泰輔・木村あさの・長内尊子 須藤明子・工藤順子・益本俊治
21	臨床テクノロジーセンター運営委員会	◎須田俊宏・伊藤悦朗・水島 豊・中澤 満・棟方博文 金子高英・吉町文暢・山下 建・畑中 亮・村上知子 樋口三枝子・山崎賢司 計122
22	薬事委員会	◎新川秀一・兼子 直・棟方博文・玉井佳子・松永敏郎 小川吉司・矢部博興・高橋 徹・鈴木保之・柴田 滋 中村吉秀・武田仁志・川口俊明・大黒幾代・一戸 学 三浦弘行・丸山英俊・村岡正敏・高橋敏夫・横井克憲 須貝道博・小林 恒・浦田幸朋・庄司 優・坂井哲博 佐々木泰輔・滝口雅博・坪 敏仁・佐藤秀平・菅原和信 大久保正・藤田祥子・大泉昭良・工藤正純・野呂秀紀 椎名幸男
23	医薬品等臨床研究審査委員会	◎元村 成・花田勝美・棟方博文・長内智宏・一関一行 立石智則・菅原和信・堀内悦子・三浦秀春・椎名幸男 矢島忠夫・三上雅通 計123
24	治験管理センター運営委員会	◎立石智則・菅原和信・兼子 直・木村博人・保嶋 実 羽田隆吉・須藤明子・椎名幸男 計 8:
25	感染制御委員会	◎鈴木唯司・保嶋 実・菅原和信・中根明夫・三田禮造 須藤明子・佐々木大輔・高梨信吾・玉澤直樹・高谷俊一 須藤俊之・安田文子・葛西 猛・宇野 司・伊藤健一 計152
26	病院将来計画委員会	◎鈴木唯司・新川秀一・奥村 謙・棟方昭博・兼子 直 佐々木睦男・木村博人・保嶋 実・阿部由直・菅原和信 羽田隆吉・須藤明子・益本俊治・椎名幸男 計142
27	経営管理改善委員会	◎鈴木唯司・新川秀一・奥村 謙・保嶋 実・須藤明子 棟方昭博・須田俊宏・福田幾夫・木村博人・阿部由直 佐々木睦男・菅原和信・益本俊治・椎名幸男・松岡實夫 山崎賢司・伊藤健一 計172
28	保険診療に関する委員会	◎鈴木唯司・奥村 謙・菅原和信・玉澤直樹・庄司 優坂井哲博・佐々木泰輔・坪 敏仁・樋口 毅・坂本十一長谷川幸裕・神成一哉・栗林理人・高橋 徹・山田芳嗣 袴田健一・岡田晶博・水木大介・神村典孝・佐藤元哉 一戸 学・場崎 潔・坂本知巳・佐藤哲観・高橋敏夫 横井克憲・須貝道博・小林 恒・浦田幸朋・益本俊治 椎名幸男・伊藤健一 計32:
29	医療材料選定委員会	高梨信吾・佐々木泰輔・佐々木睦男・石橋恭之・坂井哲博 坪 敏仁・福沢百合子・椎名幸男・山崎賢司 計 9:
30	診療環境向上推進委員会	◎花田勝美・奥村 謙・木村博人・羽田隆吉・須藤明子神成一哉・中村吉秀・吉原秀一・坂井哲博・藤田祥子工藤亮裕・齋藤慶子・村上知子・松岡實夫 計145
31	診療情報提供委員会	◎保嶋 実・阿部由直・羽田隆吉・黒田直人・五十嵐靖雄三上雅通・安田文子・益本俊治 計 8:
32	臓器移植問題検討委員会	◎鈴木唯司・伊藤悦朗・佐々木睦男・保嶋 実・奥村 謙 棟方昭博・松木明知・八木橋操六・須藤明子・益本俊治 伊藤健一 計11:
33	臓器移植適応検討委員会	棟方昭博・佐々木睦男 計 2 ² ◎鈴木唯司・保嶋 実・奥村 謙・須田俊宏・佐々木睦男
34	卒後臨床研修等委員会	中澤 満・八木橋操六・三田禮造・坂本十一・對馬敬夫 計102
35	広報委員会	◎鈴木唯司・花田勝美・棟方博文・三浦 淳・石井賢治 安田文子・松岡實夫・山崎賢司・伊藤健一 計 9:
36	臨床検査外注検討委員会	◎保嶋 実・葛西 猛・八木橋操六・棟方昭博・須田俊宏 伊藤悦朗・長谷川幸裕・丹藤雄介・水木大介・山崎賢司 計10:
37	業務連絡会	◎新川秀一・須藤俊之・長内智宏・玉澤直樹・矢部博興 高橋 徹・高谷俊一・森田隆幸・西川真史・中野 創 高橋信好・大黒 浩・松原 篤・青木昌彦・丸山英俊 石原弘規・関谷徹治・四ツ柳高敏・須貝道博・小林 恒

		坂井哲博・庄司 優・佐々木泰輔・滝口雅博・近藤和泉 木村あさの・坪 敏仁・佐藤秀平・鎌田義正・三上聖治
		福田眞作・大久保正・藤田祥子・村上知子・安田文子
		小林朱実・葛西 猛・工藤亮裕・松岡實夫・山崎賢司 長尾義昭・伊藤健一・對馬幸雄・福島 勉・小田桐ミツエ
		石崎孝志 計46名
38	附属病院予算委員会	◎鈴木唯司・菅原和信・棟方昭博・佐々木睦男・武田仁志 袴田健一・須藤明子・石原弘規・益本俊治 計 9名
39	注射処方箋等の運用に関する委員会	木村博人・菅原和信・羽田隆吉・須藤明子・伊藤健一 十束英志・丸山英俊・藤田祥子・佐藤淳也・安倍よし子 久保田昭子 計11名
40	高度先進医療に関する専門委員会	◎鈴木唯司・棟方昭博・奥村 謙・須田俊宏・兼子 直 伊藤悦朗・福田幾夫・佐々木睦男・藤 哲・花田勝美 中澤 満・新川秀一・阿部由直・水沼英樹・松木明知 澤田幸正・棟方博文・木村博人・水島 豊・保嶋 実 菅原和信・益本俊治 計22名
41	リスクマネジメント対策委員会	◎鈴木唯司・新川秀一・須田俊宏・福田幾夫・須藤明子 益本俊治・砂田弘子・三上雅通 計 8名
42	防災対策委員会	◎鈴木唯司・花田勝美・立石智則・三浦 淳・田中幹二 工藤大輔・横井克憲・工藤正純・須藤明子・村上知子 佐々木幸子・久保田昭子・堀川万記子・工藤順子・滝口雅博 益本俊治・椎名幸男・松岡實夫・山崎賢司・長尾義昭 伊藤健一・佐山卓男・畠山清孝 計23名
43	栄養管理委員会	◎鈴木唯司・益本俊治・椎名幸男・須藤明子・伊藤健一 山崎賢司・平野聖治・須田俊宏・小川吉司・神村典孝 佐藤 エ・成田幸子・久保田昭子・工藤順子 計14名
44	放射線安全委員会	◎阿部由直・工藤亮裕・金 正宜・佐々木泰輔・棟方昭博 伊藤悦朗・野田 浩・嶋村則人・佐々木大輔・坂井哲博 庄司 優・滝口雅博・坪 敏仁・須藤明子・佐藤しのぶ 齋藤 隆・益本俊治 計17名
45	脳死判定医会議	松木明知・石原弘規・坪 敏仁・坂井哲博・小谷直樹 橋本 浩・廣田和美・村岡正敏・佐藤哲観・滝口雅博 松永宗雄・馬場正之・神成一哉・関谷徹治・高橋敏夫 尾金一民・大熊洋揮 計17名
46	附属病院診療奨励賞運営委員会	◎鈴木唯司・伊藤悦朗・佐々木睦男・水沼英樹・坂井哲博 中田伸一・小林朱実・椎名幸男 計 8名
47	医学部・附属病院レクリエーション委員会	工藤 悟・渡辺誠二・丹野高三・高橋 元・宮越順二 佐藤元哉・漆舘聡志・菊田頼司・備前 剛・溝江修一 成田順一・黒滝孝雄・宮本 茂・工藤正純・辻 敏朗 木村正彦・佐藤安一郎・相馬博子・相馬美香子・松岡實夫 計20名
48	病理解剖運営委員会	工藤 一・佐々木睦男・黒滝日出一・和田龍一・田中正則 柴田 滋・小林 恒・樋口 毅・福島 勉 計 9名
49	医療ガス安全管理委員会	◎松木明知・高梨信吾・坪 敏仁・坂井哲博・佐々木泰輔 新岡丈典・村上知子・山崎賢司 計 8名
50	卒後臨床研修センター運営委員会	◎新川秀一・大沢 弘・高橋 徹・森田隆幸・丸山英俊 松岡實夫 計 6名
51	褥創対策委員会	◎花田勝美・松井 淳・村田暁彦・四ツ柳高敏・須藤明子 水木大介・田中靖子・塚本利昭・佐藤安一郎・福士涼子 平野聖治・伊藤健一 計12名

【全学の委員会】

	委員 会名	委 員 名 及 び 委 員 数				
1	弘前大学評議会	菅原和夫・鈴木唯司・神谷晴夫・兼子 直				
2	弘前大学評議会ハラスメント対策等検討委員会	兼子 直				
3	弘前大学部局長等会議	菅原和夫・鈴木唯司				
4	弘前大学全学教育協議会	菅原和夫				
5	弘前大学全学教育協議会学部教育委員会	元村 成•棟方昭博				
6	弘前大学将来計画委員会	菅原和夫•鈴木唯司				
7	弘前大学将来計画委員会八戸地域との交流推進専 門委員会	花田勝美				

8 世前大学科末計画委員会大学の再編・統合に関する検討を呼呼を長会 3 仏前大学自己評価委員会自二評価専門委員会 10 仏前大学自己評価委員会自二評価専門委員会 報田 第・使序 海門	8 公前大学日ご評価委員会 9 弘前大学自ご評価委員会 11 弘前大学自ご評価委員会 12 公前大学自ご評価委員会 12 公前大学地域共同研究センター管理委員会 23 弘前大学政報共同研究センター管理委員会 24 公前大学政報委員会 25 公前大学政報委員会 26 公前大学攻部委員会 27 弘前大学政報委員会 28 公前大学政制支援会 29 公前大学政制支援会 20 公前大学政制委員会 20 公前大学政制委員会 21 弘前大学政制委員会 22 公前大学政制委員会 23 公前大学政制委員会 24 公前大学政制委員会 25 公前大学政制委員会 26 公前大学政制委員会 27 公前大学政制委員会 27 公前大学政制委員会 28 公前大学政制委員会 29 公前大学政制委員会 29 公前大学政制委員会 20 公前大学政制委員会 20 公前大学政制委員会 21 公前大学政制委員会 22 公前大学政制委員会 23 公前大学政制委員会 24 公前大学政制委員会 25 公前大学政制委員会 26 公前大学政制委員会 27 公前大学政制委員会 28 公前大学政制委員会 29 公前大学政制委員会 29 公前大学政制委員会 20 公前大学政制委員会 21 公前大学政制委員会 22 公前大学政制委員会 23 公前大学政制委員会 24 公前大学政制委員会 25 公前大学政制委員会 26 公前大学文制会委員会 27 公前大学政制委員会 28 公前大学政制委員会 29 公前大学政制委员会 29 公前大学政制委员会 20 公前大学政制委员会 20 公前大学政制委员会 21 公前大学政制委员会 22 公前大学政制委员会 23 公前大学政制委员会 24 公前大学政制委员会 25 公前大学政制委员会 26 公前大学政制委员会 27 公前大学政党政策協議会 28 公前大学政制委员会 29 公前大学文学政制委员会 20 公前大学文学政制委员会 21 公前大学交出教委员会 22 公前大学政党政党协会员会 23 公前大学文学政制委员会 24 公前大学大学政制委员会 25 公前大学大学政制委员会 26 公前大学大学政制委员会 27 公前大学大学政制委员会 28 公前大学大学政制委员会 29 公前大学大学政制委员会 20 公前大学大学大学交易会会会会人、評価基準・合言判 21 公前大学大学大学大会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会	
9 SU前大学自己評価委員会	9 弘前大学自己評価委員会 10 弘前大学社經共同研究センター管理委員会 密原和夫・鈴木唯可 12 弘前大学建級共同研究センター管理委員会 密原和夫・鈴木唯可 13 弘前大学生經共同研究センター管理委員会 6 密原和夫・鈴木唯可 14 弘前大学生經共同研究センター管理委員会 6 極下和	に関す 蔵田 潔・中澤 満
10 弘前大学上孫平智権進委員会 常原和夫・鈴木唯可 公前大学上孫平智権進委員会 常原和夫・鈴木唯可 公前大学上孫華島自会 常原和夫・鈴木唯可 鈴木県市 新木 直 公前大学広報委員会入試広報自門委員会 株工院博 佐藤 夜 秋本 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大田 大	10	
11	11	
13 以前大字地域共同研究センター管理委員会	12 弘前大学地域共同研究センター管理委員会	
3日	13 弘前大学広報委員会人試広報専門委員会 協加部博 佐藤 敬 協加 京 主印成紀・京本 報委員会の議広報専門委員会 協加 京 主印成紀・藤 哲 哲原和大学広報委員会の議成報専門委員会 協加 京 生印成紀・藤 哲 哲原和大学成世系委員会会 世の成紀・藤 哲 哲原和大学教师李陵都委員会 世の成紀・藤 哲 奇塚木唯一・神谷晴夫 神谷晴夫・花田勝美・八木澤誠 望 玄前大学施設整備委員会施設点検評価専門部会 出 直成 新工学施设整備委員会 地震 大学技术等域 大學 古	
14	14	
16	15 弘前大学広報委員会総職広報専門委員会 佐藤 敬 田成紀・藤 哲 公前大学版報委員会公式ボームページ専門委員会 上田成紀・藤 哲 弘前大学施門李康委員会 上田成紀・藤 哲 宮原和夫・鈴木唯司・神谷晴夫 神谷晴夫・花田勝美・八木澤誠	
16 弘前大学は報委負会公式ホームページ専門委員会 歳田 潔 土田成紀・藤 哲 空原和夫・鈴木唯司・神谷時夫 20 弘前大学施予競争と訴訟を募員会 在 在 在 在 在 在 在 在 在	16 弘前大学は報委員会公式ホームページ専門委員会 担田成紀・勝 哲 弘前大学臨州子学学内配分委員会 管原和夫・鈴木唯可・神谷晴夫 神谷晴夫・花田勝美・八人澤誠	
17 弘前大学園野交流委員会 生田成紀・藤 哲 原和夫・鈴木唯可・神谷時夫	17 弘前大学國際交流委員会 土田成紀・藤 哲 弘前大学成出予算学内配分委員会 菅原和夫・鈴木咋司・神谷晴夫 神谷晴夫・花田勝美・八木澤誠 20 弘前大学施設整備委員会 藤 哲・鈴木咋司 東田直人・新川秀一 公前大学施設整備委員会施設点検評価専門部会 太前大学施設整備委員会施設点検評価専門部会 太前大学核避支持等を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を	委員会 藏田 潔
19 弘前大学施設整備委員会 神谷晴夫・花田勝美・八木澤誠 藤 哲・鈴木唯司 出 弘前大学施設整備委員会 黒田直人・新川秀一 木村博人 弘前大学成分を設置を開発員会 北田成紀 新川秀一 木村博人 弘前大学政府教育 全日 立 公前大学 (1) 公前大学	19 弘前大学施設整備委員会 神谷晴夫・花田勝美・八木澤誠 藤 竹・鈴木唯司 黒田直人・新川秀一 公前大学施設整備委員会施設点検評価専門部会 黒田直人・新川秀一 本村博人 温営委員会 公前大学電子スピン共鳴装置研究室運営委員会 四部大学を設置が表した。 四部大学を設置が表した。 四部大学で変更営委員会 四部大学な受益を対策委員会 四部大学な受益を対策委員会 四部大学な受益を対策委員会 一部大学な受益を対策委員会 一部大学職員の名を担定 一部大学な受益を対策を受ける 一部大学な受益を対策を受ける 一部大学な関連などのである。 一部大学な受益を対策を受ける 一部大学な関係の表します。 一部大学大学入計算の表します。 一部大学大学入計算の表します。 一部大学大学入計算の表します。 一部大学大学入計画を受ける 一部大学大学入計画を受ける 一部大学大学入計画を受ける 一部大学大学入計画を受ける 一部大学大学入計画を受ける 一部大学大学入計画を受ける 一部大学大学入計画を受ける 一部大学大学入計画を受ける 一部大学大学入計画を受ける 一部大学大学入学、	
20 弘前大字施設整備委員会 21 弘前大字施設整備委員会施設点検評価専門部会 翌前大字が外・レーザーラマン分光光度計研究室 選官委員会 23 弘前大字質量分析機研究室運营委員会 24 弘前大字で表述文史鳴装置研究監運営委員会 25 弘前大字で表述文史鳴装置が完選連営委員会 26 弘前大字で上のション・フィクロアナラ イザ研究室運営委員会 27 素実施委員会 28 弘前大字電型会員会 29 弘前大字環境保全対策委員会 29 弘前大字環境保全対策委員会 29 弘前大字環境保全対策委員会 29 弘前大字環境保全対策委員会 20 弘前大字環境保全対策委員会 20 弘前大字職員化全対策委員会 20 弘前大字職員とと対策委員会 21 弘前大字就員を含量会 22 弘前大字記世記教育センター運営委員会 33 弘前大字21世記教育センター運営委員会 34 弘前大字21世記教育センター運営委員会 35 弘前大字入学試験委員会 36 弘前大字大学入談社とター試験実施委員会 37 弘前大字大学入談社とター試験実施委員会 38 弘前大字大学入談社とター試験実施委員会 39 弘前大字外表別教養安全管理委員会 40 弘前大字保護管理委員会 41 弘前大字保護管理委員会 42 弘前大字保護管理委員会 43 弘前大字外等談員会 44 弘前大字保護管理委員会 45 弘前大字保護管理委員会 46 弘前大字保護管理委員会 47 弘前大字保護管理委員会 48 弘前大字保護管理委員会 49 弘前大字保護管理委員会 40 弘前大字保護管理委員会 41 弘前大字保護管理委員会 42 弘前大字保護管理委員会 43 弘前大字外等談員会 44 弘前大字が解國図書館協議会 45 弘前大字が解國図書館協議会 46 弘前大字発師会園書館協議会 47 弘前大字発師会開金書選定委員会 48 弘前大字発信骨報処理センター運営委員会 49 弘前大字総合情報処理センター運営委員会 40 弘前大字総合情報処理センター運営委員会 41 弘前大字総合情報処理センター運営委員会 42 弘前大字総合情報処理センター運営委員会 43 弘前大字社会音傳級処理センター運営委員会 44 弘前大字社会音傳級処理センター運営委員会 45 弘前大字社会音傳級処理センター運営委員会 46 弘前大字社会音傳級処理センター運営委員会 47 弘前大字社会音傳級処理センター運営委員会 48 弘前大字社会音傳級処理センター運営委員会 49 弘前大字社会音傳級処理センター運営委員会 40 弘前大字社会情報処理センター運営委員会 41 公前大字社会日報処理センター運営委員会 42 弘前大字社会音傳級処理センター運営委員会 43 弘前大字社会音傳級理センター運営委員会 44 弘前大字社会音傳級理センター運営委員会 45 弘前大字社会情報処理センター運営委員会 46 弘前大字社会情報処理センター運営委員会 47 弘前大字社会情報処理センター運営委員会 48 弘前大字社会情報処理センター運営委員会 49 弘前大字社会日報の現立・松木明知・羽田隆吉 松谷秀哉 40 弘前大学社会日報の現立・松木明知・羽田隆吉 松谷秀哉 41 弘前大学社会日報の現立・松木明知・羽田隆吉 本校本 七田成紀、新子 直 で原和大・鈴木唯可 で原和大・鈴木唯可 で原和大・鈴木唯可 で原和大・鈴木唯可 で原和大・鈴木唯可 で原和大・鈴木唯可 で原和大・鈴木唯可 で展記を持足を表といる。 で原和大・第二は、大・	20 弘前大学施設整備委員会施設点検評価専門部会 21 弘前大学施設整備委員会施設点検評価専門部会 22 弘前大学育職分析機研究室運営委員会 23 弘前大学核磁気乗鳴装置研究室運営委員会 24 弘前大学核磁気乗鳴装置研究室運営委員会 25 弘前大学下のトロンプロープ マイクロアナライザ研究室運営委員会 26 弘前大学でエンクトロンプロープ マイクロアナライザ研究室運営委員会 27 弘前大学環境保全対策委員会 28 弘前大学環境保全対策委員会 29 弘前大学環境保全対策委員会 29 弘前大学環境保全対策委員会 30 弘前大学環境保全対策委員会 31 弘前大学環境保全対策委員会 31 弘前大学職員で書きる会 32 弘前大学環境で書きる会 33 弘前大学環境保全対策委員会 34 弘前大学職員で書きる会 35 弘前大学記世紀教育センター運営委員会 36 弘前大学入学試験委員会 37 弘前大学入学試験委員会 38 弘前大学入学試験委員会 39 弘前大学入学活験委員会 30 弘前大学入学者選抜方法研究委員会 31 弘前大学科学者選抜方法研究委員会 32 弘前大学入学活験委員会 33 弘前大学入学活験委員会 34 弘前大学入学活験委員会会核点・評価基準・合否判 定基準開示方法検討委員会 35 弘前大学入学活験委員会 36 弘前大学入学活験を登員会教育、評価基準・合否判 定基準開示方法検討委員会 37 弘前大学入学活験委員会会核点・評価基準・合否判 定基準開示方法検討委員会 38 弘前大学入学者選抜方法研究委員会 39 弘前大学大学活験を登員会会 31 弘前大学大学院委員会 31 弘前大学大学校院委員会 31 弘前大学大学院委員会 32 弘前大学大学院委員会 33 弘前大学大学院委員会 44 弘前大学科教会DNA実験安全委員会 45 弘前大学科教会DNA実験安全委員会 46 弘前大学発明委員会 47 弘前大学社会員会 48 弘前大学発明委員会 49 弘前大学教育研究社会の理学委員会 30 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 31 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 31 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 31 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 31 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 32 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 33 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 34 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 35 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 36 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 37 弘前大学報告情報の理センター運営委員会 38 弘前大学報告情報の理センター運営委員会 39 弘前大学を合情報処理センター運営委員会 30 弘前大学を合情報処理センター運営委員会 31 弘前大学をクシュアルハラスメント防止等対策委 41 成前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委	菅原和夫・鈴木唯司・神谷晴夫
21 弘前大学赤外・レーザーラマン分光光度計研究室 本村博人 20前大学森外・レーザーラマン分光光度計研究室 木村博人 20前大学積隆気共鳴装置研究室運営委員会 土田成紀 20前大学核隆気共鳴装置研究運営委員会 土田成紀 26 弘前大学な経気共鳴装置研究運営委員会 土田成紀 27 不村博人 27 公前大学電子スピン共鳴装置研究室運営委員会 土田成紀 28 弘前大学双小ス・ス・コラボレーションシステム事業 実施委員会 30 弘前大学環境保全対策委員会 29 弘前大学環境保全対策委員会 29 弘前大学環境保全対策委員会 29 弘前大学環境保全対策委員会 27 議事 28 弘前大学職員で書きる員会 29 弘前大学職員で書きる員会 20 弘前大学職員で書きる員会 27 弘前大学職員で書きる員会 27 弘前大学職員で書きる員会 27 弘前大学職員で書きる員会 27 弘前大学職員で書きる員会 27 弘前大学は勝郊守協議会 28 弘前大学は勝郊守協議会 28 弘前大学は勝郊守協議会 28 弘前大学以職が実施委員会 27 公前大学は勝郊守協議会 28 弘前大学以職が実施委員会 27 公前大学以上に収費を主との一定営委員会 28 弘前大学以上に収費を主との一定営委員会 28 弘前大学以上に収費を重要委員会 28 弘前大学以上に収費を重要委員会 28 弘前大学以上に収費を重要委員会 28 弘前大学大学人談センター運営委員会 28 弘前大学大学人談センター議を委員会 28 弘前大学大学人談センター議を委員会 28 弘前大学教育研究とを委員会 28 弘前大学外科のアードの下の下の下の下の下の下の下の下の下の下の下の下の下の下の下の下の下の下の下	21 弘前大学施設整備委員会施設点検評価専門部会	神谷晴夫・花田勝美・八木澤誠
22	22 弘前大学森外・レーザーラマン分光光度計研究室 本村博人 23 弘前大学程量分析機研究室運営委員会 土田成紀 26 弘前大学エースピン共鳴装置研究室運営委員会 土田成紀 公前大学エースピン共鳴装置研究室運営委員会 土田成紀 公前大学エースピン共鳴装置研究室運営委員会 土田成紀 公前大学東海委員会 スート スート コラボレーションステム事 議田 潔・羽田隆吉 楽実施委員会 弘前大学環境保全対策委員会排水処理専門委員会 保嶋 実・橋本美貴・大久保正・神村典孝・葛 護邉誠二・富川浩行・田中一人・相馬美香子・相 漆館整志 高川浩行・田中一人・相馬美香子・相 漆館整志 高川浩子・田中一人・相馬美香子・相 漆館整志 高 公前大学戦員会会 位藤 敬 伊藤悦朗・棟方博文 登 京和大・元村 成 生	藤 哲•鈴木唯司
22 運営委員会 木円博人 公前大学技験近共鳴装置研究室運営委員会 一 田成紀 一 田成紀 公前大学電子スピン共鳴装置研究室運営委員会 土田成紀 公前大学電子スピン共鳴装置研究室運営委員会 土田成紀 公前大学電道選委員会 公前大学電道選委員会 公前大学環境保全対策委員会 一 東東施委員会 一 東東施大学環境保全対策委員会排水処理専門委員会 一 東東施大学環境保全対策委員会 一 東東施北学環境企業の表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表面を表	22 運営委員会 木村博人 24 弘前大学養養員分析機研究室運営委員会 円部由直 25 弘前大学電子又ピン共鳴装置研究室運営委員会 土田成紀 26 弘前大学エレクトロンプロープ マイクロアナラ 木村博人 27 弘前大学東境保全対策委員会 土田成紀 28 弘前大学環境保全対策委員会 潜原和信 29 弘前大学環境保全対策委員会排水処理専門委員会 探嶋 実・橋本美貴・大久保正・神村典孝・葛第和信 30 弘前大学環境保全対策委員会排水処理専門委員会 探嶋 実・橋本美貴・大久保正・神村典孝・葛遠龍光・富川浩行・田中一人・相馬美香子・相議龍龍法 31 弘前大学職員宿舎委員会 立石智則・藤 哲 元村 成・黒田直人 佐藤 敬	部会 黒田直人・新川秀一
23	23 弘前大学質量分析機研究室運営委員会	-研究室 木村博人
24 弘前大学稼暖気共鳴装置研究室運営委員会 四部由直 公前大学取予以上のトロンプロープ マイクロアナラ イ村博人 公前大学スペース・コラボレーションシステム事 歳田 潔・羽田隆吉 管原和信 29 弘前大学環境保全対策委員会 管原和信 29 弘前大学環境保全対策委員会 佐藤 数前大学環境保全対策委員会 佐藤 数前大学環境保全対策委員会 位成 二十四十一人 和馬美香子 和馬達奇子 和馬達爾子 公前大学職員宿舎委員会 立石智則・藤 哲原和夫 公前大学以野職政策会員会 世藤俊朗・棟方博文 世藤俊朗 東方博文 近京本	24 弘前大学核磁気共鳴装置研究室運営委員会 土田成紀 土田成紀 公前大学エレクトロンプロープ マイクロアナラ イザ研究室運営委員会 土田成紀 土田成紀 公前大学スペース・コラボレーションシステム事 歳田 潔・羽田隆吉 菅原和信 28 弘前大学環境保全対策委員会 張龍歌志 28 弘前大学環境保全対策委員会 張前大学環境保全対策委員会 張龍歌志 北前大学職員レクリエーション委員会 張龍歌志 近前大学職員官舎委員会 元村 成 黒田直人 北前大学11職人教育センター運営委員会 元村 成 黒田直人 北前大学11職人教育センター運営委員会 伊藤悦朗 棟方博文 電原和夫・元村 成 北前大学入学試験委員会 伊藤悦朗 棟方博文 電原和大・元村 成 北前大学入学試験委員会 世澤 満 北前大学入学試験委員会 世澤 満 北前大学大学入試センター運営委員会 世澤 満 北前大学大学入試センター減験実施委員会 世澤 満 北市大学大学入試センター減験実施委員会 世澤 満 北市大学大学入試センター減験実施委員会 世界 満 北市大学大学入試センター減験実施委員会 世田成紀・中根明夫 北市大学経・全部要委員会 世田成紀・中根明夫 北市大学経・大学経・大学大学、大学大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、	土田成紀
26 弘前大学電子スピン共鳴装置研究室運営委員会 26 イザ研究室運営委員会 イザ研究室運営委員会 30 弘前大学及ペース・コラボレーションシステム事業実施委員会 28 弘前大学環境保全対策委員会排水処理専門委員会 保嶋 実・橋本美貴・大久保正・神村典孝・葛西 猛渡過畝二・富川浩行・田中一人・相馬美香子・相馬博子 落館聡志 30 弘前大学職員官舎委員会 30 弘前大学職員官舎委員会 31 弘前大学職員官舎委員会 32 弘前大学職員官舎委員会 33 弘前大学記職対策協議会 44 弘前大学和勝安元会館運営委員会 35 弘前大学入学試験委員会会 36 弘前大学入学試験委員会会 37 弘前大学入学試験委員会会 38 弘前大学入学社社とター試験実施委員会 39 弘前大学入学者選抜方法研究委員会 30 弘前大学大学者選抜方法研究委員会 31 弘前大学大学各書進方方法研究委員会 32 弘前大学大学教射線安全管理委員会 33 弘前大学保健管理委員会 34 弘前大学保健管理委員会 35 弘前大学大学教射線安全管理委員会 36 弘前大学大学教射線安全管理委員会 37 弘前大学大学路域表DNA実験安全委員会 40 弘前大学発明委員会 41 弘前大学発明委員会 42 弘前大学発展委員会 43 弘前大学光等委員会 44 弘前大学科委員会 45 弘前大学教明経安全管理委員会 46 弘前大学教師設置全員会 47 弘前大学教育委員会 48 弘前大学教育委員会 49 弘前大学総合背報処理センター運営委員会 40 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 41 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 42 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 43 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 44 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 45 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 46 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 47 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 48 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 40 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 41 弘前大学建石子実験施設運営委員会 42 弘前大学建石子実施設理さる景会 43 弘前大学建石子東海南帝がセンター運営委員会 44 弘前大学建石子東海南帝がセンター運営委員会 45 弘前大学建石子東海南帝がセンター運営委員会 46 伊藤悦朗 47 弘前大学建石子東海南帝がセンター運営委員会 48 弘前大学建石子東公市大学工会の大学工会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会会	26 弘前大学電子スピン共鳴装置研究室運営委員会 土田成紀	
26 イザ研究室運営委員会 27 栄実施委員会 28 弘前大学環境保全対策委員会排水処理専門委員会 29 弘前大学環境保全対策委員会排水処理専門委員会 30 弘前大学環境保全対策委員会排水処理専門委員会 30 弘前大学職員レクリエーション委員会 31 弘前大学職員宿舎委員会 32 弘前大学職員宿舎委員会 33 弘前大学和國際交流会館運営委員会 34 弘前大学国際交流会館運営委員会 35 弘前大学入学試験委員会経点・評価基準・合否判定基準開示方法検討委員会 36 弘前大学入学試験委員会終点・評価基準・合否判定基準開示方法検討委員会 37 弘前大学大学人就センター試験実施委員会 38 弘前大学入学試験委員会経点・評価基準・合否判定基準開示方法検討委員会 39 弘前大学入学社センター試験実施委員会 39 弘前大学大学人就センター試験実施委員会 40 弘前大学及者選抜方法研究委員会 41 弘前大学及教籍交全管理委員会 42 弘前大学免財養交会管理委員会 43 弘前大学免財養及入NA実験安全委員会 44 弘前大学予等議員会 45 弘前大学外等委員会 46 弘前大学外等委員会 47 弘前大学大学院委員会 48 弘前大学科院図書館協議会 49 弘前大学科院図書館協議会 40 弘前大学財展図書館協議会 41 弘前大学財展図書館協議会 42 弘前大学教育子院施設管理委員会 43 弘前大学財展図書館協議会 44 弘前大学衛氏子験施設管理委員会 45 弘前大学協会情報処理センター運営委員会 46 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 47 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 48 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 40 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 41 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 42 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 43 弘前大学を合情報処理センター運営委員会 44 弘前大学を合情報処理センター運営委員会 45 弘前大学を合情報処理センター運営委員会 46 弘前大学を合情報処理センター運営委員会 47 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 48 弘前大学を合情報処理センター運営委員会 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 40 弘前大学を合情報処理センター運営委員会 41 弘前大学を会合情報処理センター運営委員会 42 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 43 弘前大学を会合情報処理センター運営委員会 44 弘前大学を会合情報処理センター運営委員会 45 公前大学を会合情報処理センター運営委員会 46 公前大学を会合情報処理センター運営委員会 47 京前大学を会合言の研究を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	26	員会 土田成紀
27 楽実施委員会	27 業実施委員会	アナラ 木村博人
29 弘前大学環境保全対策委員会排水処理専門委員会 保嶋 実・橋本美貴・大久保正・神村典孝・葛西 猛 渡邉誠二・富川浩行・田中一人・相馬美香子・相馬博子 捺舘聡志 立石智郎・藤 哲 32 弘前大学職員宿舎委員会 立石智郎・藤 哲 32 弘前大学記世紀教育センター運営委員会 元村 成・黒田直人 佐藤 敬 3 弘前大学入学試験委員会 伊藤悦朗・棟方博文 電原和夫・元村 成 3 弘前大学入学試験委員会 佐藤 敬 富原和夫・元村 成 3 弘前大学入学試験委員会 佐藤 敬 富原和夫・元村 成 3 弘前大学入学試験委員会 佐藤 敬 富原和夫・元村 成 3 弘前大学入学試験委員会 管原和夫・元村 成 3 弘前大学入学試験委員会 管原和夫・元村 成 4 弘前大学入学表議を安全管理委員会 常原和夫・鈴木唯司・阿部由直・土田成紀・保嶋 実 7 京和大学教授表DNA実験安全委員会 1 弘前大学経会情報及DNA実験安全委員会 1 弘前大学発明委員会 1 弘前大学科院委員会 1 弘前大学科院委員会 1 弘前大学科院委員会 1 弘前大学和委員会 1 弘前大学和委員会 1 弘前大学和委員会 1 弘前大学附属図書館協議会 正村和彦・加地 隆 1 正村和彦・加地 隆 1 五村和彦・加地 隆 1 五村和彦・加地 隆 1 五村和彦・加地 隆 1 五村和彦・加地 隆 1 五村大学遺伝子実験施設管理委員会 1 京原和夫・鈴木唯司 1 一 京原和夫・鈴木唯司 1 一 京原和夫・鈴木唯司 1 一 古 1 五十 一 元 1 五 1 五 1 五 1 五 1 五 1 五 1 五 1 五 1 五 1	29 弘前大学環境保全対策委員会排水処理専門委員会 保嶋 実・橋本美貴・大久保正・神村典孝・葛 渡邉誠二・富川浩行・田中一人・相馬美香子・相 溶館聡志 立石智則・藤 哲 32 弘前大学は職対策協議会 元村 成・黒田直人 35 弘前大学は職対策協議会 佐藤 敬 34 弘前大学は職交債会会 佐藤 敬 36 弘前大学入学試験委員会 菅原和夫・元村 成 36 兄前大学入学試験委員会 菅原和夫・元村 成 37 弘前大学入学試験委員会 菅原和夫・元村 成 38 弘前大学入学表議を会員会 菅原和夫・元村 成 38 弘前大学入学者選抜方法研究委員会 菅原和夫・元村 成 39 弘前大学入学者選抜方法研究委員会 菅原和夫・鈴木唯司・阿部由直・土田成紀・保	(テム事 藏田 潔・羽田隆吉
30 弘前大学職員レクリエーション委員会 渡邉誠二・富川浩行・田中一人・相馬美香子・相馬博子 漆館聡志 立石智則・藤 哲 立石智則・藤 哲 立石智則・藤 哲 立石智則・藤 哲 立石智則・藤 哲 立石智則・藤	30 弘前大学職員レクリエーション委員会 渡邉誠二・富川浩行・田中一人・相馬美香子・相 楽舘聡志	菅原和信
31 弘前大学職員化舎委員会 立石智則・藤 哲 32 弘前大学職員宿舎委員会 立石智則・藤 哲 33 弘前大学記職対策協議会 佐藤 敬 日藤悦朗・棟方博文 菅原和夫・元村 成 一	30 公前大学職員に分りユニンタ貝会 漆舘聡志 31 公前大学以世紀教育センター運営委員会	委員会 保嶋 実・橋本美貴・大久保正・神村典孝・葛西 猛
32 弘前大学21世紀教育センター運営委員会 元村 成・黒田直人 33 弘前大学30職対策協議会 佐藤 敬 日藤悦朗・棟方博文 菅原和夫・元村 成 36 弘前大学入学試験委員会 菅原和夫・元村 成 37 弘前大学入学試験委員会 菅原和夫・元村 成 38 弘前大学入学試験委員会 菅原和夫・元村 成 39 弘前大学入学社会員会 菅原和夫・元村 成 39 弘前大学及對解安全管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司・阿部由直・土田成紀・保嶋 実 40 弘前大学財線安全管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司・阿部由直・全田成紀・保嶋 実 41 弘前大学組換えDNA実験安全委員会 古原和夫・鈴木唯司・阿部由直・保嶋 実 42 弘前大学組換えDNA実験安全委員会 古原和夫・鈴木唯司・阿部由直・保嶋 実 43 弘前大学科與之DNA実験安全委員会 古原和夫・鈴木唯司・阿部由直・保嶋 実 44 弘前大学附属図書館協議会 正村和彦・加地 隆 21 正村和彦・加地 隆 21 正村和彦・加地 隆 21 弘前大学附属図書館図書選定委員会 菅原和夫・鈴木唯司 31 武方学階属図書館図書選定委員会 菅原和夫・鈴木唯司 31 武市大学統合情報処理センター運営委員会 菅原和夫・鈴木唯司 31 武市大学総合情報処理センター運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 菅原和夫・鈴木唯司 31 武市大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 31 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 31 弘前大学和合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 31 弘前大学和子・ディンンド専門委員会 伊藤悦朗 52 太許等所究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 黒田直人・兼子 直・須藤明子	32 弘前大学21世紀教育センター運営委員会 元村 成・黒田直人 33 弘前大学就職対策協議会 佐藤 敬 出前大学科学試験委員会 伊藤悦朗・棟方博文	
33 弘前大学就職対策協議会 佐藤 敬 伊藤悦朗・棟方博文 一	33 弘前大学就職対策協議会 佐藤 敬 34 弘前大学国際交流会館運営委員会	立石智則・藤 哲
34 弘前大学国際交流会館運営委員会 伊藤悦朗・棟方博文	34 弘前大学国際交流会館運営委員会 伊藤悦朗・棟方博文 宮原和夫・元村 成 弘前大学入学試験委員会 宮原和夫・元村 成 佐藤 敬 宮原和夫・元村 成 佐藤 敬 宮原和夫・元村 成 佐藤 敬 宮原和夫・元村 成 佐藤 敬 宮原和夫・元村 成	元村 成・黒田直人
35 以前大学入学試験委員会 菅原和夫・元村 成 公前大学入学試験委員会採点・評価基準・合否判 佐藤 敬	35 弘前大学入学試験委員会 36 弘前大学入学試験委員会採点・評価基準・合否判 定基準開示方法検討委員会 37 弘前大学大学入試センター試験実施委員会 38 弘前大学入学者選抜方法研究委員会 39 弘前大学放射線安全管理委員会 40 弘前大学経管理委員会 41 弘前大学組換えDNA実験安全委員会 42 弘前大学発明委員会 43 弘前大学和野委員会 44 弘前大学附属図書館図書選定委員会 45 弘前大学附属図書館図書選定委員会 46 弘前大学遺伝子実験施設準営委員会 47 弘前大学遺伝子実験施設準営委員会 48 弘前大学遺伝子実験施設運営委員会 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 40 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 41 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 42 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 43 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 44 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 45 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 46 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 47 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 48 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 40 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 41 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 42 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 43 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 44 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 45 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 46 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 47 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 48 弘前大学と上学習教育研究センター運営委員会 49 母藤悦朗 50 公前大学と上学習教育研究センター運営委員会 51 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 53 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委	佐藤 敬
公前大学入学試験委員会採点・評価基準・合否判 佐藤 敬 一定基準開示方法検討委員会 菅原和夫・元村 成 中澤 満 3 弘前大学入学者選抜方法研究委員会 菅原和夫・鈴木唯司・阿部由直・土田成紀・保嶋 実 40 弘前大学保健管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司・阿部由直・土田成紀・保嶋 実 41 弘前大学発明委員会 世田成紀・中根明夫 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3	36	伊藤悦朗・棟方博文
定基準開示方法検討委員会 公前大学大学入試センター試験実施委員会 菅原和夫・元村 成 中澤 満 一	2	菅原和夫・元村 成
38 弘前大学入学者選抜方法研究委員会 中澤 満 菅原和夫・鈴木唯司・阿部由直・土田成紀・保嶋 実 40 弘前大学保健管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司・阿部由直・仕田成紀・保嶋 実 2 弘前大学組換えDNA実験安全委員会 土田成紀・中根明夫 2 弘前大学組換えDNA実験安全委員会 土田成紀・中根明夫 2 弘前大学発明委員会 菅原和夫・奥村 謙・兼子 直 工村和彦・加地 隆 工村和彦・加地 隆 工村和彦・加地 隆 工村和彦・加地 隆 弘前大学附属図書館図書選定委員会 菅原和夫・鈴木唯司 3 弘前大学遺伝子実験施設管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 3 弘前大学遺伝子実験施設運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 菅原和夫・鈴木唯司 47 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 菅原和夫・鈴木唯司 3 五村大学総合情報処理センター運営委員会 大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 公前大学総合情報処理センター運営委員会 大学教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学上学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委員会 黒田直人・兼子 直・須藤明子	38 弘前大学入学者選抜方法研究委員会 中澤 満 電原和夫・鈴木唯司・阿部由直・土田成紀・保 40 弘前大学保健管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司・阿部由直・土田成紀・保 集 弘前大学保健管理委員会 土田成紀・中根明夫 土田成紀・東村 連 東 東 東 東 東 東 東 東 東	合否判 佐藤 敬
39 弘前大学放射線安全管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司・阿部由直・土田成紀・保嶋 実 40 弘前大学保健管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司・阿部由直・保嶋 実 41 弘前大学組換えDNA実験安全委員会 土田成紀・中根明夫 2 弘前大学発明委員会 苫林孝一 花林孝一 2 弘前大学附属図書館協議会 正村和彦・加地 隆 弘前大学附属図書館図書選定委員会 菅原和夫・鈴木唯司 47 弘前大学遺伝子実験施設管理委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 48 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 菅原和夫・鈴木唯司 3 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 公前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 公前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 公前大学と呼びまる懇話会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委員会 黒田直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 黒田直人・兼子 直・須藤明子	39 弘前大学放射線安全管理委員会	菅原和夫•元村 成
40 弘前大学保健管理委員会	40 弘前大学保健管理委員会	中澤 満
41 弘前大学組換えDNA実験安全委員会 土田成紀・中根明夫 42 弘前大学発明委員会 若林孝一 43 弘前大学大学院委員会 菅原和夫・奥村 謙・兼子 直 44 弘前大学附属図書館協議会 正村和彦・加地 隆 45 弘前大学附属図書館図書選定委員会 菅原和夫・鈴木唯司 47 弘前大学遺伝子実験施設管理委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 48 弘前大学総合情報処理センター管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 大学教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学とクシュアルハラスメント防止等対策委員会 黒田直人・兼子 直・須藤明子	41 弘前大学組換えDNA実験安全委員会 土田成紀・中根明夫 42 弘前大学発明委員会 苫林孝一 43 弘前大学大学院委員会 菅原和夫・奥村 謙・兼子 直 44 弘前大学附属図書館協議会 正村和彦・加地 隆 45 弘前大学間属図書館図書選定委員会 正村和彦 46 弘前大学遺伝子実験施設管理委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 47 弘前大学総合情報処理センター管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 48 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 大村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 伊藤悦朗 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 里田直人・兼子、直・須藤田子	菅原和夫・鈴木唯司・阿部由直・土田成紀・保嶋 実
42 弘前大学発明委員会 若林孝一 43 弘前大学院委員会 菅原和夫・奥村 謙・兼子 直 44 弘前大学附属図書館協議会 正村和彦・加地 隆 45 弘前大学間伝子実験施設管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 46 弘前大学遺伝子実験施設運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 47 弘前大学遺伝子実験施設運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 48 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委員会 黒田直人・兼子 直・須藤明子	3	
43 弘前大学大学院委員会 菅原和夫・奥村 謙・兼子 直 44 弘前大学附属図書館協議会 正村和彦・加地 隆 45 弘前大学附属図書館図書選定委員会 正村和彦・加地 隆 46 弘前大学遺伝子実験施設管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 47 弘前大学遺伝子実験施設運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 48 弘前大学総合情報処理センター管理委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデオ・オン・デマンド専門委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委員会 黒田直人・兼子 直・須藤明子	43 弘前大学大学院委員会 菅原和夫・奥村 謙・兼子 直 44 弘前大学附属図書館協議会 正村和彦・加地 隆 45 弘前大学間属図書館図書選定委員会 正村和彦 46 弘前大学遺伝子実験施設管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 47 弘前大学遺伝子実験施設運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 48 弘前大学総合情報処理センター管理委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデオ・オン・デマンド専門委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 里田直人・兼子、直・須藤田子	
44 弘前大学附属図書館協議会 正村和彦・加地 隆 45 弘前大学附属図書館図書選定委員会 正村和彦 46 弘前大学遺伝子実験施設管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 47 弘前大学遺伝子実験施設運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 48 弘前大学総合情報処理センター管理委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 大村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委員会 黒田直人・兼子 直・須藤明子	44 弘前大学附属図書館協議会 正村和彦・加地 隆 45 弘前大学附属図書館図書選定委員会 正村和彦 46 弘前大学遺伝子実験施設管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 47 弘前大学遺伝子実験施設運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 48 弘前大学総合情報処理センター管理委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデオ・オン・デマンド専門委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 里田直人・兼子、直・須藤田子	
45 弘前大学附属図書館図書選定委員会 正村和彦 46 弘前大学遺伝子実験施設管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 47 弘前大学遺伝子実験施設運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 48 弘前大学総合情報処理センター管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデオ・オン・デマンド専門委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 34 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委員会 黒田直人・兼子 直・須藤明子	45 弘前大学附属図書館図書選定委員会 正村和彦 46 弘前大学遺伝子実験施設管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 47 弘前大学遺伝子実験施設運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 48 弘前大学総合情報処理センター管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデオ・オン・デマンド専門委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 黒田直人・兼子 直・須藤明子	
46 弘前大学遺伝子実験施設管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 47 弘前大学遺伝子実験施設運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 48 弘前大学総合情報処理センター管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデオ・オン・デマンド専門委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委員会 黒田直人・兼子 直・須藤明子	46 弘前大学遺伝子実験施設管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 47 弘前大学遺伝子実験施設運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 48 弘前大学総合情報処理センター管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデオ・オン・デマンド専門委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 里田直人・兼子、直・須藤明子	
47 弘前大学遺伝子実験施設運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 48 弘前大学総合情報処理センター管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデオ・オン・デマンド専門委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委員会 黒田直人・兼子 直・須藤明子	47 弘前大学遺伝子実験施設運営委員会 佐藤 敬・吉田秀見・八木澤誠 48 弘前大学総合情報処理センター管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデオ・オン・デマンド専門委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 里田直人・兼子、直・須藤明子	2001.4.1.12
48 弘前大学総合情報処理センター管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデオ・オン・デマンド専門委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委員会 54 黒田直人・兼子 直・須藤明子	48 弘前大学総合情報処理センター管理委員会 菅原和夫・鈴木唯司 49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデオ・オン・デマンド専門委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 里田直人・兼子、直・須藤田子	
49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデオ・オン・デマンド専門委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委員会 黒田直人・兼子 直・須藤明子	49 弘前大学総合情報処理センター運営委員会 元村 成・須田俊宏・松木明知・羽田隆吉 50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデオ・オン・デマンド専門委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 里田直人・兼子、直・須藤田子	
50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデオ・オン・デマンド専門委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委員会 54 最会	50 弘前大学総合情報処理センター運営委員会ビデオ・オン・デマンド専門委員会 松谷秀哉 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 里田直人・兼子 直・須藤明子	
50 オ・オン・デマンド専門委員会 松台秀成 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委員会 黒田直人・兼子 直・須藤明子	50 オ・オン・デマンド専門委員会 松合秀成 51 弘前大学生涯学習教育研究センター運営委員会 伊藤悦朗 52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 里田直人・兼子、直・須藤田子	
52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委員会 黒田直人・兼子 直・須藤明子	52 大学教育研究情勢に関する懇話会 伊藤悦朗 53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 里田直人・兼子、直・須藤田子	松台斧屯
53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 黒田直人・兼子 直・須藤明子	53 弘前大学アイソトープ総合実験室運営委員会 阿部由直・土田成紀・須田俊宏・古川賢一 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 里田直人・兼子 直・須藤田子	
54 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 員会 黒田直人・兼子 直・須藤明子	3. 弘前大学セクシュアルハラスメント防止等対策委 _{里田直人・兼子} 直・須藤田子	
54 員会 黒田直入・兼士 直・須藤明士	5/1 三十 1 • / 1	
		黒田直人・兼子 直・須藤明子
	55 弘前大学創立50周年記念会館運営委員会 髙垣啓一・羽田隆吉	
56 弘前大学情報公開委員会 黒田直人・羽田隆吉		
	57 弘前大学総合文化祭実行委員会	菅原和夫・鈴木唯司

58	弘前大学総合文化祭企画委員会	對馬敬夫
59	弘前大学毒劇物管理委員会	若林孝一•菅原和信
60	弘前大学国立大学法人化委員会	菅原和夫•鈴木唯司•兼子 直
61	弘前大学国立大学法人化委員会組織業務検討委員会	兼子 直・葛西 猛・須藤明子
62	弘前大学国立大学法人化委員会人事制度検討委員会	中澤 満
63	弘前大学国立大学法人化委員会目標評価検討委員会	黒田直人・工藤亮裕・安田文子
64	弘前大学国立大学法人化委員会財務会計制度検討 委員会	鈴木唯司・藏田 潔
65	弘前大学研究推進委員会	菅原和夫•鈴木唯司•佐藤 敬
66	弘前大学サテライト運営委員会	花田勝美
67	弘前大学バイオセーフティ委員会	中根明夫•保嶋 実
68	弘前大学地域貢献推進室	伊藤悦朗•今泉忠淳
69	学生生活委員会	佐藤 敬
70	弘前大学留学生センター運営委員会	水沼英樹
71	弘前大学エネルギー教育推進委員会	阿部由直
72	弘前大学後援会設置検討委員会ワーキンググループ	棟方昭博
73	弘前大学地域共同研究センター兼任教官	髙垣啓一
74	弘前大学体育施設運営委員会	佐藤 敬

II. 医学部医学科及び附属病院役付職員一覧

【医学部医学科】(2002年4月現在)

医学部	長•医学科	長	(評議員)	菅	原	和	夫
評	議	員	(基礎)	神	谷	晴	夫
評	議	員	(臨床)	松	木	明	知
学	务 主	任		鈴	木	重	晴
入試具	專門委員	長		元	村		成
附属動物	物実験施設	提		神	谷	晴	夫
附属脳	神経血管病	態	研究施設長	松	永	宗	雄
附属図	書館医学部	館長	T.	藤			

【附属病院】

附	属	病	院	長	(評議員)	鈴	木	唯	可
副	病	i l	院	長		鈴	木	重	晴
病	院	長	補	佐		奥	村		謙
病	院	長	補	佐		新	Ш	秀	_
病	院	長	補	佐		須	藤	明	子

【医学部医学科】(2003年4月現在)

医学部長 • 医学科長			斗長	(評議員)	菅	原	和	夫
評	請	簑	員	(基礎)	神	谷	晴	夫
評	請	É	員	(臨床)	兼	子		直
学	務	主	任		元	村		成
入討	東門	月委員	長		泉	井		亮
附属	附属動物実験施設長				藏	田		潔

附属脳神経血管病態研究施設長 佐藤 敬 附属図書館医学部分館長 正 村 和 彦

【附属病院】

附属病院長(評議員) 鈴木唯司 副 病 院 長 新川秀一 病 院 長 補 佐 奥 村 謙 病院長補佐 保 嶋 実 須 藤 明 子 病院長補佐

Ⅲ. 学友会所属サークル一覧(体育系及び文化系) (2002年4月現在)

歌畑 平口	サークル名	如吕粉	顧問教官
整理番号	サークル名	部員数	所属講座等 氏 名
1	陸 上 競 技 部	16	衛 生 学 菅 原 和 夫
2	準 硬 式 野 球 部	22	脳神経外科学 鈴 木 重 晴
3	硬 式 庭 球 部 (男子)	26	生 理 学 第 二 藏 田 潔
4	硬 式 庭 球 部(女子)	22	生 理 学 第 二 藏 田 潔
5	ソフトテニス部	31	内科学第三 須田俊宏
6	水泳部	18	放射線医学 阿部由直
7	サ ッ カ ー 部	28	薬 理 学 元 村 成
8	ラ グ ビ ー 部	35	脳血管病態部門 佐藤 敬
9	バ レ ー ボ ー ル 部 (男子)	13	神経統御部門 松 永 宗 雄
10	バ レ ー ボ ー ル 部 (女子)	23	神経統御部門 松 永 宗 雄
11	バスケットボール部(男子)	27	内科学第一 棟 方 昭 博
12	バスケットボール部(女子)	23	内科学第一 棟 方 昭 博
13	バドミントン部	41	臨 床 薬 理 学 立 石 智 則
14	卓 球 部	32	小 児 外 科 棟 方 博 文
15	剣 道 部	18	公 衆 衛 生 学 朝 日 茂 樹
16	柔道部	6	整 形 外 科 学 藤 哲
17	ス キ ー 部	21	解 剖 学 第 二 加 地 隆
18	山 岳 部	4	病 理 学 第 一 八木橋 操 六
19	ゴ ル フ 部	48	内 科 学 第 二 奥 村 謙
20	弓 道 部	17	歯科口腔外科学 木 村 博 人
21	空 手 道 部	13	薬 理 学 元 村 成

整理番号	 サ ー ク ル 名	部員数	顧問教官
登埕街り	y ー ク ル 石	叩貝奴	所属講座等 氏 名
1	写 真 部	42	生 理 学 第 二 藏 田 潔
2	茶 道 部	13	生 化 学 第 二 土 田 成 紀
3	ボランティア部 (コスモス)	19	細菌学中根明夫
4	保 健 医 学 研 究 会	21	衛 生 学 菅 原 和 夫
5	漢 方 医 学 研 究 会	16	老年科学水島豊
6	国際医療研究会	21	老年科学水島豊
7	管 弦 楽 団	22	耳鼻咽喉科 新川秀一
8	Medical Cool Quartet	16	整 形 外 科 学 藤 哲
9	グリーンキャンパスクラブ	10	細 菌 学 中 根 明 夫

(2003年4月現在)

新加 조口	.IL & II. &	如 吕 粉	顧問教	
整理番号	サークル名	部員数	所属講座等	氏 名
1	陸 上 競 技 部	16	衛 生 学 菅	原 和 夫
2	準 硬 式 野 球 部	32	脳 神 経 外 科 学 鈴	木 重 晴
3	硬 式 庭 球 部 (男子)	28	生 理 学 第 二 藏	田潔
4	硬 式 庭 球 部(女子)	25	生 理 学 第 二 藏	田潔
5	ソフトテニス部	38	内 科 学 第 三 須	田 俊 宏
6	水 泳 部	10	放射線医学 阿	部 由 直
7	サ ッ カ ー 部	34	薬 理 学 元	村成
8	ラ グ ビ ー 部	33	脳血管病態部門 佐	藤敬
9	バ レ ー ボ ー ル 部 (男子)	13	神経統御部門 松	永 宗 雄
10	バ レ ー ボ ー ル 部(女子)	24	神経統御部門 松	永 宗 雄
11	バスケットボール部(男子)	26	内 科 学 第 一 棟	方 昭 博
12	バスケットボール部(女子)	26	内 科 学 第 一 棟	方 昭 博
13	バドミントン部	42	臨 床 薬 理 学 立	石 智 則
14	卓 球 部	31	小 児 外 科 棟	方 博 文
15	剣 道 部	17	公 衆 衛 生 学 朝	日 茂 樹
16	柔 道 部	5	整 形 外 科 学 藤	哲
17	ス キ ー 部	26	解 剖 学 第 二 加	地 隆
18	山 岳 部	5	病 理 学 第 一 八 八	木橋 操 六
19	ゴ ル フ 部	47	内 科 学 第 二 奥	村 謙
20	弓 道 部	23	歯科口腔外科学 木	村 博 人
21	空 手 道 部	19	薬 理 学 元	村 成
22	写 真 部	45	生 理 学 第 二 藏	田潔
23	茶 道 部	11	生 化 学 第 二 土	田 成 紀
24	ボランティア部 (コスモス)	50	細 菌 学 中	根 明 夫

整理番号	サークル名	部員数		顧問	教官	
登埕街り	サ ー ク ル 名	即貝奴	所属講座等		氏	名
1	写 真 部	45	生 理 学 第	二	藏田	潔
2	茶 道 部	11	生 化 学 第		土 田	成 紀
3	ボランティア部 (コスモス)	50	細菌	学	中 根	明 夫
4	保 健 医 学 研 究 会	21	衛生	学	菅 原	和 夫
5	漢 方 医 学 研 究 会	16	老 年 科	学	水 島	豊
6	国際医療研究会	30	老 年 科	学	水 島	豊
7	管 弦 楽 団	25	耳 鼻 咽 喉	科	新 川	秀一
8	Medical Cool Quartet	8	整形外科	学	藤	哲
9	グリーンキャンパスクラブ	10	細 菌	学	中 根	明夫

IV. 教官現員並びに諸会議・会合等について

1. 解剖学第一講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	1	0	1	0	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	0	0	2	0	1	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①解剖学第一講座教室運営会議(毎日,昼食時)

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①昼食時連絡
- ②毎日,一日中,顔をあわせる。
- ③連絡事項,注意事項,講座運営に関して気付いたことはすぐに検討する。

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

Medical English Centerの管理・運営をしている。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

解剖学第一講座は Medical English Center の運営をすべて行っている。

2. 解剖学第二講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	0	1	1	0	0	0	2	0	1

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	1	1	0	0	0	2	0	1

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①解剖学第2講座定期連絡会
- ②昼食会
- ③抄読会 研究発表会

主な会議及び会合名:

- ①解剖学第2講座定期連絡会を毎週行っている。
- ②抄読会

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

遺体収集業務

篤志献体団体「白菊会」の事務局

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

遺体収集業務

篤志献体団体「白菊会」の事務局

3. 生理学第一講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	1	1	0	0	0	0	0	1

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	1	1	0	1	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①連絡会議(ほぼ毎日、昼食時に全員で諸々の事柄について話をしている。)

2003年度

主な会議及び会合名:

①毎日、昼食会

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

特になし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

4. 生理学第二講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	0	1	0	1	0	0	0	1

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	1	0	1	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①講座運営会議(運営・教育・研究などすべてを議題とする)

2003年度

主な会議及び会合名:

①講座運営会議(運営・教育・研究などすべてを議題とする)

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

特になし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

特になし

5. 生化学第一講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
0	1	0	2	0	1	1	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	1	0	3	1	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①セミナー

②抄読会

③生化学第一講座運営委員会(月1回)

主な会議及び会合名	ラ	
土 は 六酸 及 () 六 百 4	f t	

①セミナー

②抄読会

③生化学第一講座運営委員会(月1回)

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

6. 生化学第二講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	2	0	5	1	1	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	1	0	4	1	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①実験セミナー

②生化学第二運営協議会

2003年度

主な会議及び会合名:

①実験セミナー

②生化学第二運営協議会

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

特になし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

特になし

7. 薬理学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

研修医 教 授 助教授 講 師 助手 大学院生 研究生 技 官 看護要員 事務官 又は医員 1 1 0 5 3 0 0

(平成15年4月1日現在)

(名)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	2	0	5	2	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①週1回スタッフミーティング, 週1回全体抄読会, 週1回グループ抄読会
- ②2ヵ月一回リサーチミーティング
- ③新年会, 忘年会, 同門会, 医局旅行, 講義・実習打ち上げ等

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①週1回スタッフミーティング,週1回全体抄読会,週1回グループ抄読会
- ②2ヵ月一回リサーチミーティング
- ③新年会, 忘年会, 同門会, 医局旅行, 講義・実習打ち上げ等

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

多数決でないデモクラシーの実践

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

多数決でないデモクラシーの実践

8. 病理学第一講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	0	2	0	2	2	2(非常勤)	0	1(非常勤)

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	0	2	0	1	2	2	3(非常勤)	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①教室会議(月1回)
- ②教室旅行(年1回)
- ③教室リクレーション(年1回)

主な会議及び会合名:

- ①教室スタッフ会議,週1
- ②教室懇談会(技官,事務を含めて) 月1くらい
- ③教室旅行、芋煮会、新年会、忘年会など四季おりおりに

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

特になし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

次のことを教室指針としている。

教室の全員が、良好なコミュニケーションのもと働くことができること。

教室の全員が、医療として病理業務を行うこと、大学として科学すること。

9. 病理学第二講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	1	0	2	0	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
0	1	0	1	0	2	0	3	1	1

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①教室連絡会議
- ②抄読会後のミーティング
- ③剖検検討会後のミーティング

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①教室連絡会議
- ②抄読会後のミーティング
- ③剖検討議会のミーティング

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

教官は附属病院病理部の業務(病理診断・剖検)も兼任している。これらの業務を円滑に進める上で多数の臨床検査技師や補助員が必要であるが,教室連絡会議には教官・大学院生のみならず,これら技師や補助員,事務員の意見も反映される。

管理・運営面に特筆すべき事項:

教室連絡会議には教官・院生のみならず技師・補助員および事務員の意見も反映される。

10. 細菌学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	0	3	0	2	1	0	0	1

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	0	1	2	0	4	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①細菌学講座運営会議

2003年度

主な会議及び会合名:

①細菌学講座運営会議

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

11. 衛生学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	2	0	7	5	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	0	2	0	8	5	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

なし

200	3年度								
主な会議別なし	及び会合名:								
【その他]								
200	2年度								
管理・運営なし	営面に特筆す	べき事項:							
2003	3年度								
管理・運営	営面に特筆す	でき事項:							
12. 公	衆衛生学	講座							
【教官定	員数等】(⁻	平成14年4	月1日現	在)					(名)
教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	0	1	0	4	3	1	0	0
	(-	平成15 年 4	月1日現	在)					(名)
教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	0	1	0	4	3	0	0	0
	及び会合等 2年度	}]							
	及び会合名: 連絡会議								
200	3年度								
主な会議別	及び会合名 : 会議								
【その他]								
200	2年度								
管理・運営なし	営面に特筆す	でき事項:							
200	3年度								
管理・運営 特になり	営面に特筆す	でき事項:							

13. 寄生虫学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	0	1	1	0	0	0	1	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	1	1	0	0	0	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①教室運営会議

2003年度

主な会議及び会合名:

①教室会議 (ミーティング)

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

14. 法 医 学 講 座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	1	2	0	0	2	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	1	2	0	0	2	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

なし

2003年度

主な会議及び会合名:

なし

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

『会議・会合によらなくては講座内の問題解決が図れないという事態は、講座主任のコミュニケーション能力が乏しいことによって発生する。特に、当講座のように少人数の場合、敢えて会合の形をとるよりも、普段から個別の話し合いを随時・頻回に行う方が、効率的・効果的・本質的な意思疎通が可能であるという点で優れている。』という観点から、会議・会合による管理は行っていない。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

『会議・会合によらなくては講座内の問題解決が図れないという事態は、講座主任のコミュニケーション能力が乏しいことによって発生する。特に、当講座のように少人数の場合、敢えて会合の形をとるよりも、普段から個別の話し合いを随時・頻回に行う方が、効率的・効果的・本質的な意思疎通が可能であるという点で優れている。』という観点から、会議・会合による管理は行っていない。

15. 内科学第一講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	3	5	7	8	9	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	3	5	7	7	8	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①総医局会
- ②医局運営委員会
- ③抄読会

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①講座運営委員会
- ②抄読会

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

教室員とのコミュニケーションを大切にし、各自の意見・希望ができるだけ達成できるように努力する。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

教室員とのコミュニケーションを大切にし、各自の意見・希望ができるだけ達成できるように努力している。

16. 内科学第二講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	2	6	2	15	1	0	0	1

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	2	1	6	1	19	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①弘前大学医学部第二内科教室会

2003年度

主な会議及び会合名:

①弘前大学医学部第二内科教室会

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

特になし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

週1の割合で上記教室会議を開いている。

17. 内科学第三講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	2	6	0	0	0	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	2	6	19	9	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①内科学第三講座運営会議
- ②スタッフミーティング, 昼食会
- ③病棟会議

主な会議及び会合名:

- ①教室全体会議(年2回)
- ②昼食会(月1回)
- ③病棟連絡会議(月1回)

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

- 1. 学外への短期出張(トランク)に関しては、各学年代表者からなるトランク委員会で案を作成し、運営会議で承認するシステムをとっている。
- 2. 派遣先病院の状況把握のため、病院代表者との連絡会議を開いている。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

18. 老年科学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	1	1	0	0	1	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

4	教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①老年科学講座運営会議

2003年度

主な会議及び会合名:

①老年科学講座運営会議

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

19. 神経精神医学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	2	5	6	6	22	0	16	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	4	6	0	4	14	0	16	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①定期講座運営会議
- ②卒後研修委員会
- ③人事会議
- ④病棟 Conference

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①定期講座運営会議
- ②卒後研修委員会
- ③人事会議

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

1. 卒後研修システム:

卒後 1 年目~ 5 年目までの研修生を対象に、研修病院群を含むシステムを作り、研修委員会規約を設定し、それに従い運営している。各研修病院へ可能研修内容を問い合わせ、それを研修医に呈示し、それを参考に、研修医が自ら研修先を決めている。

2. 定期講座運営会議:

月1回、講座全体の問題を全員で決定している。学内・学部内情報もこの時にすべての構成員に伝えている。

3. 人事会議:

卒後6年目以降の人事は、当事者・教室マネージャー・助教授・教授で討議し、本人の了解を得た上で決定している。

4. 病棟 Conference:

治療方針・連絡等、月1回 Co-medical staff と意志の疎通を高めるため定期的に討議している。

管理・運営面に特筆すべき事項:

1. 卒後研修システム:

卒後 1 年目~ 5 年目までの研修生を対象に、研修病院群を含むシステムを作り、研修委員会規約を設定し、それに従い運営している。各研修病院へ可能研修内容を問い合わせ、それを研修医に呈示し、それを参考に、研修医が自ら研修先を決めている。

2. 定期講座運営会議:

月1回、講座全体の問題を全員で決定している。学内・学部内情報もこの時にすべての構成員に伝えている。

3. 人事会議:

卒後6年目以降の人事は、当事者・教室マネージャー・助教授・教授で討議し、本人の了解を得た上で決定している。

4. 病棟 Conference:

治療方針・連絡等, 月1回 Co-medical staffと意志の疎通を高めるため定期的に討議している。

20. 小児科学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	1	6	3	3	2	1	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	1	6	3	3	2	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①講座運営会議
- ②病棟症例検討会
- ③抄読会

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①小児科学講座講座運営会議
- ②病棟カンファランス

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

特になし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

21. 外科学第一講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

研修医 教 授 助教授 講師 助手 大学院生 研究生 技 官 看護要員 事務官 又は医員 1 3 5 2 2 0 0 0

(平成15年4月1日現在)

(名)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	3	5	4	3	2	0	20	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①講座会議

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①講座運営会議
- ②術前術後カンファレンス

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

医療事故防止のため、診療科内での安全点検を定期的に行っている(6ヵ月ごと)。

弘前大学医学部附属病院第一外科治療ガイドライン集を作成し、定期的に更新している。

クリティカルパスの開発を行うとともに、定期的に見直して診療の効率化を図っている。

厚生労働省創部感染サーベイランス事業に参加し、データ収集に協力している。

日本胸部外科学会心臓手術データ集収事業に参加し、データ収集に協力している。

22. 外科学第二講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	3	6	9	6	5	0	0	4

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	3	5	6	7	5	0	0	4

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①講座運営会議(毎月1回)
- ②医員連絡会議(毎週月曜日)
- ③卒後研修委員会(年4回:3ヵ月毎)

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①講座運営会議(毎月1回)
- ②医員連絡会議(毎週月曜日)
- ③卒後研修委員会(年4回:3ヵ月毎)

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

23. 整形外科学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	3	4	11	12	23	1	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	2	4	8	9	0	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①教室運営会議
- ②月例研究会
- ③弘前大学整形外科勤務医会

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①教室運営会議
- ②月例研究会
- ③弘前大学整形外科勤務医会

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

スタッフ会議を週3回持ち、連絡の徹底・意思の疎通を計り、できるだけ風通しのいい教室管理・運営に努めている。

医局廃止に伴い弘前大学整形外科勤務医会を立ち挙げ、主として7年目までの研修医の教育方針の決定ならびに実施、研究会などの企画、人事異動などを検討している。

若手研修医は研修医会を作り、研修希望内容などを検討し、大学スタッフに要望するなど、活発な活動をしている。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

スタッフ会議を週3回持ち、連絡の徹底・意思の疎通を計り、できるだけ風通しのいい教室管理・運営に努めている。

医局廃止に伴い弘前大学整形外科勤務医会を立ち挙げ、主として7年目までの研修医の教育方針の決定ならびに実施、研究会などの企画、人事異動などを検討している。

若手研修医は研修医会を作り、研修希望内容などを検討し、大学スタッフに要望するなど、活発な活動をしている。

24. 皮膚科学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	2	4	3	8	0	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	2	4	7	5	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①第1皮膚科学講座運営会議(教授,助教授,講師,助手,医員(研修医),大学院生)
- ②第2皮膚科学講座運営会議(第1皮膚科学講座運営会議から教授を除く)
- ③皮膚科代表者会議(教授,助教授,講師,講座幹事長)

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①第1皮膚科学講座運営会議(教授,助教授,講師,助手,医員(研修医),大学院生)
- ②第2皮膚科学講座運営会議(第1皮膚科学講座運営会議から教授を除く)
- ③皮膚科代表者会議(教授,助教授,講師,講座幹事長)

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

その他講座内・外からの意見、希望に関して、E-mail での連絡も勧めている。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

その他講座内・外からの意見、希望に関して、E-mail での連絡も勧めている。

25. 泌尿器科学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	1	5	3	2	0	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	2	4	2	2	1	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

なし

2003年度

主な会議及び会合名:

なし

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

26. 眼科学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	2	4	4	7	0	0	管轄外	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	2	4	3	6	0	0	管轄外	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- 教室会
- ②スタッフミーティング
- ③抄読会
- ④症例検討会
- ⑤外来蛍光眼底撮影写真読影
- ⑥大学院学生研究抄読会
- ⑦研究会

主な会議及び会合名:

- ①教室会
- ②抄読会
- ③症例検討会
- ④研究会
- ⑤大学院学生研究抄読会
- ⑥外来蛍光眼底写真読み
- ⑦スタッフミーティング

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

27. 耳鼻咽喉科学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	1	5	9	3	0	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	1	5	8	3	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①講座連絡会議
- ②術後カンファレンス
- ③入院前カンファレンス

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①講座連絡会議
- ②リサーチミーティング
- ③術後検討会

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

講座における全てについて、意思疎通を円滑にするため連絡会議を週1回行っている。

管理・運営面に特筆すべき事項:

特になし

28. 放射線医学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	1	6	3	0	3	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	2	1	6	0	1	5	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①講座運営会議(2週に一度)
- ②同窓会総会

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①講座運営会議
- ②スタッフ会議
- ③同窓会総会

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

運営会議の議事録をメイルで配信、欠席者への意思疎通を図る

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

他科との合同カンファランス (1 外, 2 内;呼吸器, 耳鼻科;頭頚部, 1 外;末梢血管)

29. 産科婦人科学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	2	3	5	4	3	1	1	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	3	3	5	7	0	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①スタッフミーティング
- ②教室運営会議

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①教室会議(教室員対象)
- ②症例検討全体会議(手術前、手術後)
- ③各診療グループのカンファランス (名称がない)

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

教室規約を作成した。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

30. 麻酔学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	2	5	18	2	3	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	2	4	15	1	2	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①教室運営会議
- ②教室幹部会議
- ③ティーチングスタッフ会議

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①教室連絡会(毎週月曜日)
- ②スタッフミーティング(2ヵ月に1回)
- ③抄読会(この会議においても、連絡事項を話している)

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

医療の実際面についてのリスクマネジメントについてはとくに注意を払っている。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

- 1. 必要に応じて毎日密接に連絡を取っている。
- 2. トラブルが生じたら、即刻、対処するようにしている。

31. 脳神経外科学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教	授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
	1	1	2	3	0	4	0	0	0	2

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
0	1	2	3	2	3	0	0	0	2

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①定例講座会議(毎週月曜日)
- ②定例術前検討会(毎週月曜日)
- ③合同カンファランス (不定期、看護師参加)

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①講座会議
- ②術前症例検討会
- ③術後症例・病理検討会

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

各人の個性が発揮できるような、いきいきとした講座が形作られている。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

特になし

32. 形成外科学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	3	4	0	0	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	3	4	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①講座運営会議
- ②術前術後カンファレンス
- ③総回診

2003年度

主な会議及び会合名:

なし

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

33. 救急・災害医学講座

【教官定員数等】(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	1	1	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2003年度

主な会議及び会合名:

なし

【その他】

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

2月1日付けで教授が赴任したため、本年度の2ヵ月間は救急部の次年度の運営のために殆どの時間を割いた。

34. 臨床検査医学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

研修医 教 授 助教授 講 師 助手 大学院生 研究生 技 官 看護要員 事務官 又は医員 1 0 0 3 0 0 0

(平成15年4月1日現在)

(名)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	1	0	3	0	0	0	1

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①検査教官会議 (週一回)
- ②検査勉強会(週一回)
- ③検査抄読会(週一回)

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①検査教官会議(週一回)
- ②検査勉強会(週一回)
- ③検査抄読会(週一回)

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

弘前臨床検査勉強会を月一回講師を呼んで開催している。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

弘前臨床検査勉強会を月一回講師を呼んで開催している。

35. 臨床薬理学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	0	1	1	0	0	0	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	1	1	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①教室内連絡会(毎週月曜日抄読会終了後)

主な会議及び会合名:

①抄読会

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

36. 歯科口腔外科学講座

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	1	3	9	1	1	1	1	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	1	4	4	2	0	2	1	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①講座運営会議
- ②抄読会
- ③拡大講座運営会議

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①講座運営会議
- ②拡大講座運営会議
- ③抄読会

【その他】

2002年度

派遣などである。

管理・運営面に特筆すべき事項:

教育,診療,研究,人事などの諸案件に関して,教室員との双方向的伝達を良好なものにするため,平成12年4月より,教授,助教授,講師,助手による教官連絡会議を月1回開催することとした。しかし,教室員全員への連絡・協議事項が多く,意思疎通が図れないため,平成14年1月にこれを廃止し,教室連絡会議(旧医局会)を月2回開催している。平成15年2月からは名称を講座運営会議とし現在に至っている。

また、外来、病棟の診療スタッフ等との意思疎通を図るため、奇数月1回拡大運営会議を開催している。 管理・運営面での主たる案件は、医療事故防止の徹底、診療収支の改善、学生教育の自己点検、関連病院への医師

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

37. 分子病態部門

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	0	1	1	0	1	0	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	0	1	1	0	1	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

① Neuropathological conference

2003年度

主な会議及び会合名:

① Neuropathological conference

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

38. 脳血管病態部門

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教	授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1		0	1	1	0	7	0	0	0	1

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	1	1	0	7	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①脳血管病態部門会議
- ②研究セミナー
- ③勉強会

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①脳血管病態部門会議
- ②脳神経血管病態研究施設運営会議
- ③脳神経血管病態研究施設メンバー会議

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

39. 機能回復部門

【教官定員数等】(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
0	0	0	1	0	0	3	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2003年度

主な会議及び会合名:

①脳研会議

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

40. 神経統御部門

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	0	0	4	1	0	0	パート1

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1(3ヵ月のみ)	1	0	0	0	2	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主	to2	議会	74	7 K	Δ,	\triangle	攵	
т.	12	マルサ	/ Y	() .	7	П.	17	

- ①脳研メンバー会議
- ②脳研運営会議

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①教室会議
- ②研究発表会
- ③ジャーナルクラブ

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

人員不足も甚だしく、教官1人あたりの負担が大きすぎる。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

2003年度初頭に主任教授が退官したが、以来1年以上を経てもなお人員の補充がなく、2004年度の教育、研究、社会活動の全てにおいて重大な支障が生じつつある。

41. 細胞工学部門

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

2003年度

主な会議及び会合名:

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

管理・運営面に特筆すべき事項:

42. 附属動物実験施設

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1(兼)	1	0	1	0	0	0	2	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1(兼)	1	0	1	0	0	0	1	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①水曜ミーティング
- ②施設勉強会

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①月曜ミーティング
- ②施設勉強会 (随時)

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

動物実験施設管理・運営に関わる業務内容

- 1. 施設管理業務
 - 1) 設備に関する業務

電気,給・排気,給・排水設備,空調機(フィルター交換を含む),オートクレーブを含む圧力容器の定期点検,個液分離機,焼却炉などの総括

- 2) 飼育管理に関する業務
 - 1) 飼育用ラックの点検,自動飼育機の点検,購入動物の検収・予定把握,搬入動物の検疫・微生物チェック,遺伝子改変動物の研究機関への手続きチェック・部屋割り・飼育状況確認,イヌ・ネコの搬入・検疫・動物の割り振り,各飼育室の微生物モニタリング,異常動物の摘発,飼育室の状況点検などの総括
 - 2) 青森県に動物の「診療施設」開設届を行い、狂犬病予防注射、イヌの登録業務を施設が行っている
 - 3) イヌ・ネコの県からの譲渡について、県の担当者との情報交換を行った
- 3) 事務

予算・決算書の作成, 予算施行状況の確認, 購入物品の確認, 各種要求書作成のための資料作り, 利用者への案内書作成, 実験者の問い合わせへの返答など

2. 委員会業務

下記委員会の開催、資料作成、議事録作成など

- 1)動物実験施設運営委員会 3回
- 2)動物実験施設利用者委員会 1回
- 3)動物実験倫理委員会 6回
- 3. 対外関係

最近、とくにイヌ、ネコ、サル等を利用した動物実験が、動物福祉の関係から難しくなっている。これら動物を医学実験に利用することの理解を得るために地方自治体、獣医師会等との話し合いを行っている

4. 教育関係. 講習会等

1) 実験者

年 12 回の利用者講習会の開催

2) 施設技官等

毎月1回の施設勉強会の開催

3) 外注職員

担当職員が交代するごとに講習会、とくに洗浄担当は交代回数も多く、施設の衛生管理上重要なので随時講習を行っている。

4) 実験者からの問い合わせ等に対する情報提供

5. 日本実験動物技術者協会

技術者協会は、施設技官等の知識、技術の向上を目的に運営されている協会で、年2回の勉強会および技術 講習会を開催し、広く実験者にも参加を呼びかけている。教官は勉強会および技術講習会の開催をするとと もに、技官等が参加・発表するための支援を行っている。

6. 動物実験計画書関係

委員会がスムーズに運営されるように、年間約 140 部提出される動物実験計画書のチェック、不明箇所の実験者に対する問い合わせなどを行っている

7. 情報公開に対する対応

本学に対して動物実験に関しての情報公開請求に対する問い合わせがあり、動物実験施設として対応した。 また、全国他大学の情報公開に対する情報を収集し、本学での対応の参考にしている

8. 情報の収集. 提供など

内外の動物実験に関する情報を収集し、実験者に提供する。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

動物実験施設管理・運営に関わる業務内容

- 1. 施設管理業務
 - 1) 設備に関する業務

電気、給・排気、給・排水設備、空調機(フィルター交換を含む)、オートクレーブを含む圧力容器の定期点 検、個液分離機、焼却炉などの総括

2) 飼育管理に関する業務

飼育用ラックの点検,自動飼育機の点検,購入動物の検収・予定把握,搬入動物の検疫・微生物チェック,遺伝子操作動物の研究機関への手続き指導・チェック・部屋割り・飼育状況確認,各飼育室の微生物モニタリング,異常動物の摘発,飼育室の状況点検などの総括

3) 事務

予算・決算書の作成,予算施行状況の確認,購入物品の確認,各種要求書作成のための資料作り,利用者への案内書作成,実験者の問い合わせへの返答など

2. 委員会業務

下記委員会の開催、資料作成など

- 1)動物実験施設運営委員会
- 2) 動物実験倫理委員会
- 3. 教育関係, 講習会等
 - 1) 実験者

年 12 回の利用者講習会の開催

2) 施設技官等

施設技官の知識、技術向上のため随時勉強会を開催している。

3) 外注職員

担当職員が交代するごとに講習会、とくに洗浄担当は交代回数も多く、施設の衛生管理上重要なので随時講習を行っている。

- 4) 実験者からの問い合わせ等に対する情報提供および指導
- 4. 日本実験動物技術者協会
 - 1)技術者協会は、施設技官等の知識、技術の向上を目的に運営されている協会で、年2回の勉強会および技術講習会を開催し、広く実験者にも参加を呼びかけている。教官は勉強会および技術講習会の開催をするとともに、技官等が参加・発表するための支援を行っている。
 - 2) 当施設からの発表演題数
 - 一般講演2題
- 5. 動物実験計画書関係

年間約140部提出される動物実験計画書のチェック、不明箇所の実験者に対する問い合わせなど

6. 情報公開に対する対応

動物実験に関しての情報公開請求に対応できる体制作りを行った。また全国他大学の情報公開に対する情報を収集し、本学での参考にしている。

7. 情報の収集. 提供など

内外の動物実験に関する情報を収集し、実験者に提供する。

43. 小 児 外 科

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	0	1	0	2	0	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	1	0	0	2	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①カンファランス

2003年度

主な会議及び会合名:

①カンファランス

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

構成員が3人のみであるため、議題があれば適宜3人の話し合いで決定している。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

構成員が2人のみであるため、議題があれば適宜2人の話し合いで決定している。

44. 薬 剤 部

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	0	0	0	0	14	0	1

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	0	0	0	0	0	14	0	1

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①ミーティング
- ②勉強会
- ③主任会議

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①ミーティング
- ②勉強会
- ③主任会議

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

常に業務の改善、合理化を考えながら業務にあたるようにしている。また、部内のミーティングで全員より意見を 聞き、業務の改善に生かすように努力している。

リスクマネジメントの点から、調剤過誤には十分注意し、事故が起こったときの連絡網の強化を図っている。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

常に業務の改善、合理化を考えながら業務にあたるようにしている。また、部内のミーティングで全員より意見を 聞き、業務の改善に生かすように努力している。

リスクマネジメントの点から、調剤過誤には十分注意し、事故が起こったときの連絡網の強化を図っている。

45. 手 術 部

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
0	1	0	1	0	0	0	0	27	2

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
0	1	0	0	0	0	0	0	27	2

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①手術部連絡会議

主な会議及び会合名:

- ①手術部調整会議
- ②手術部カンファレンス
- ③手術部連絡会議

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

手術業務を効率的に行うため連絡会議は繁回に開催している。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

診療科が集まり手術調整会議を行っている。

46. 検 査 部

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	1	0	0	0	0	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①スタッフ会議
- ②検査部会議
- ③定期カンファレンス

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①スタッフ会議
- ②検査部会議
- ③定期カンファレンス

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

47. 放射線部

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
(1)	1	0	1	0	0	0	20	0	3

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	1	0	0	0	20	0	3

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

なし

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①診療放射線技師の運営会議(週1回)
- ②主任者会議を適宜
- ③部長,技師長会議(週1回)

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

48. 材 料 部

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1 併任	1 併任	0	1	0	0	0	0	3	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	0	0	0	0	0	3 助手含む	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①材料部運営委員会
- ②職員会議(1回/2ヵ月)

主な会議及び会合名:

- ①材料部運営委員会
- ②職員会議(1回/3ヵ月)

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

H14年12月6日全国国立大学医学部附属病院材料部部長会議と5・6日には材料部看護師長会議を当番校として開催した。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

- 1. 国立大学病院材料部部長・看護師長会議等で大学間の運営面について協議し、意思疎通を図っている。
- 2. 「市販アルコール含浸綿の殺菌効力試験」を共同研究で行い、その結果を基に適正使用について検討し管理や経済的節約の視点で改善を図った。

49. 救 急 部

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①弘前大学医学部附属病院救急部内連絡会

2003年度

主な会議及び会合名:

①弘前大学医学部附属病院救急部内連絡会

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1 (併)	0	1	0	0	0	0	3	1	1 (パート)

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1 (併)	0	1	0	0	0	0	3	1 (併)	非常勤事務員1

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①輸血部部門会議

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①輸血部職員ミーテイング
- ②昼食を部内同室で一緒に食べることにした。
- ③休息時間を設けコーヒータイムとした。

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

- 1. 検査部技官と輸血部技官は合同で緊急検査当直を実施し、1人ずつ1年交代で勤務交代し、輸血検査技術、一般検査技術の質の確保を図っている。輸血部技官の3人は緊急輸血業務オンコールサービスを呼び出しで実行し、救急部業務のバックアップ態勢を取っている。
- 2. 医学部・保健学部・研修医の教育(臨床実習)に教官と共に主任検査技師も携わり、輸血部を学生・医師・看護師の見学・実習の場として意義あらしめている。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

- 1. 平成 14 年 11 月から輸血部技官の救急部時間外受付患者様で 24 時間以内に手術するときの輸血準備を時間内と同様のレベルで処理するための輸血部技師呼び出しオンコール業務を開始した。15 年中は3人で平均月6回の呼び出し回数であった。開始時の心・血管(第一外科)手術から脳外科・整形外科・腹部(第二外科)手術にも実施された。
- 2. 血液型・交差試験の時間外検査を検査技師が実施できるようになった。輸血部勤務経験者6人になり、輸血部オンコールが輸血検査であったのは数例に止まった。
- 3. 15年11月から青森県赤十字血液センターでは夜間休日の血小板在庫確保及び青森から2時時間での配送を確約実施することとなった。
- 4. 16年3月から青森県赤十字血液センターからの納品システムを改めた。平成8年からPL法によりセンターで注文を受け伝票作成の時点(発注受付から)で当院の財産としていたのを切り替え、当院職員が受領した時点で当院の財産とすることにした。これは国が「採血あっせん業取締法」の法律名を平成15年7月実施で「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」に変え、内容を改訂する法律になり赤十字血液センターの実務の変更がなされたことによる。
- 5. 平成7年のPL法実施以来輸血部員は忙しすぎ昼食・休息時間をけずっていたが、15年は改善の兆しが見えた。

51. 集中治療部

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	1	1	0	0	0	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	1	1	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①毎朝の meeting (医師間)

②毎朝の conference (医師と看護婦間)

2003年度

主な会議及び会合名:

①毎日朝夕2回カンファレンスを行っている。

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

週に 2, 3回管理面について話し合いをしているので全く問題なく運営されている。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

週に 2, 3回管理について話し合いをしているので全く問題なく運営されている。

52. 周産母子センター

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	3	2	0	0	0	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
0	1	1	2	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

- ①周産母子センター症例検討会
- ②周産母子センター連絡会議

主な会議及び会合名:

- ①周産母子センター症例検討会
- ②外来妊婦健診カンファレンス
- ③産婦人科術前術後検討会

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

53. 病 理 部

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
0	1	0	0	0	0	1	5	0	1

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
0	1	0	0	1	0	1	5	0	1

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①病理部担当者会議

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①病理部担当者連絡会議
- ②抄読会

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

- 1. 専任教官は副部長の1名だけであるため、病理学第一・第二講座教官全員の協力体制のものに病理部が運営されている。即ち、全員で剖検、生検病理診断および凍結迅速診断の業務を定期的に担当している。
- 2. 病理部長は第一および第二病理学講座の教授が3年交代で務め、病院科長会に出席して会の内容を病理部担当者にすみやかに伝えている。
- 3. 技官5名のうち2名は主に剖検業務担当を基に、医学部病理学講座に配属して業務を遂行している。

- 4. 検体のプライバシーへの配慮に十分努めている。残余検体の目的外使用については、医の倫理への配慮を十分自覚しつつ業務にあたっている。
- 5. 卒後臨床研修の必修化に伴い、研修医には剖検への参加と CPC での発表が義務付けられた。CPC の開催と共に研修医の指導に積極的な役割を果たしていきたい。

54. 医療情報部

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	1	0	0	0	2	0	1	0	2(5)[1]

1) 医療情報部専属職員(教官を除く)の内訳

電算室:医事課(兼務)事務官(5)+非常勤職員[1]

病歴室:事務官2+技官1

2) 医療情報部の兼務職員

文部教官(講師)3

看護技官(看護師長)1

主任技官(薬剤師)1

主任技官(臨床検査技師)1

主任技官(放射線技師)1

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1	1	0	0	0	2	0	1	0	2

1) 医療情報部専属職員(教官を除く)の内訳

電算室:医事課(兼務)事務官(5)+非常勤職員「1]

病歴室:事務官2+技官1

2) 医療情報部の兼務職員

文部教官(講師)3

看護技官(看護師長)1

主任技官(薬剤師)1

主任技官(臨床検査技師)1

主任技官(放射線技師)1

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①医療情報部内会議:電算室専属の教官・事務官による定例の業務会議(月1回) ②医療情報部会議:電算室・病歴室の専属並びに兼務職員による業務会議(月1回)

③システム連絡会議:医療情報部全職員とシステムベンダーとの業務打合(月1回)

2003年度

主な会議及び会合名:

①医療情報部内会議:電算室専属の教官・事務官による定例の業務会議(月1回)

②医療情報部会議:電算室・病歴室の専属並びに兼務職員による業務会議(月1回)

③システム連絡会議:医療情報部全職員とシステムベンダーとの業務打合(月1回)

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

個人(患者)情報の保護(守秘)に留意した管理・運営を心掛ける

管理・運営面に特筆すべき事項:

個人(患者)情報の保護(守秘)に留意した管理・運営を心掛ける

55. 光学医療診療部

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
(1)	1	0	1	0	0	0	1	2	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
(1)	1	0	1	0	0	0	1	2	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

なし

2003年度

主な会議及び会合名:

- ①運営委員会
- ②朝のミーティング

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

56. リハビリテーション部

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
0	1	0	1	1	0	0	8	1	1

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
0	1	0	1	0	0	0	7	1	1

【諸会議及び会合等】

2002年度

200	2十尺								
①ミー: ②職員:	及び会合名: ティング 会議 ファレンス								
200	3年度								
①ミー: ②職員:	及び会合名: ティング 会議 ファレンス								
【その他 200	】 2年度								
管理・運行 なし	営面に特筆す	├べき事項 :							
200	3年度								
管理・運行 なし	営面に特筆す	片べき事項:							
	合 診 症損数等】(寮 部 平成14年4	1月1日現	在)					(名)
教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
	(│ 平成15 年 4	│ ↓月1日現	L 在)					(名)
教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
200	 及び会合等 2年度								
200	3年度								
主な会議	及び会合名:	:							
【その他 200									
	ュース 営面に特筆す								

管理・運営面に特筆すべき事項:

58. 強力化学療法室

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
0	0	0	0	0	0	0	0	6	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

	教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
Γ	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①強力化学療法室運営委員会を開催し、管理・運営を行っている。

2003年度

主な会議及び会合名:

なし

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

59. 臨床テクノロジーセンター

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1(併)	0	0	0	0	0	0	3	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技 官	看護要員	事務官
1(併)	0	0	0	0	0	0	3	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①臨床テクノロジーセンター運営委員会

②臨床テクノロジーセンター全体ミーティング

主な会議及び会合名:

- ①実務者会議
- ②連絡会議
- ③共通医療機器購入委員会

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

業務内容として手術室, ICU, 高圧酸素, 人工透析, 光学診療部の支援のほかに, ME 機器の管理, 整備, 修理を行っており, 機器の数も年々増えている。将来的には全ての ME 機器を中央管理としたい。

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

病院内 ME 機器の中央管理を目指して各部署の ME 機器の保守点検を行っている。

60. 治験管理センター

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
2 (兼)	0	0	0	0	0	0	5	0	2 (兼) 2 (専)

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
0	0	0	0	0	0	0	2	3	3

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①業務連絡会(毎週水曜日12時より)

2003年度

主な会議及び会合名:

①治験管理センター会議

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

61. 卒後臨床研修センター

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1 (併任)	0	1	0	0	0	0	0	0	1 (併任)

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

なし

2003年度

主な会議及び会合名:

なし

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項:

なし

62. メディカルスクール研究センター

【教官定員数等】(平成14年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

(平成15年4月1日現在)

(名)

教 授	助教授	講師	助手	研修医 又は医員	大学院生	研究生	技官	看護要員	事務官
0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

【諸会議及び会合等】

2002年度

主な会議及び会合名:

①メディカルスクール研究センター運営委員会

2003年度

主な会議及び会合名:

①メディカルスクール研究センター運営委員会

【その他】

2002年度

管理・運営面に特筆すべき事	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
特になし		

2003年度

管理・運営面に特筆すべき事項: 特になし

弘前大学医学部医学科 · 附属病院自己評価委員会

委員長 藏田 潔(生理学第二講座教授)

委 員 元 村 成(薬理学講座教授)

中 根 明 夫(細菌学講座教授)

伊藤悦朗(小児科学講座教授)

花 田 勝 美 (皮膚科学講座教授)

中澤 満(眼科学講座教授)

古 川 賢 一(基礎教職員会議)

今 淳(基礎教職員会議)

岡 田 元 宏 (臨床科医師代表者会)

福 田 眞 作(臨床科医師代表者会)

坂 井 哲 博 (手術部副部長)

鎌 田 義 正 (病理部副部長)

西 田 均(事務部長)

弘前大学医学部医学科·医学部附属病院 自己評価報告書 =2002年度-2003年度=

2005年3月10日 印刷 2005年3月10日 発行

発 行 者 弘前大学医学部医学科•医学部附属病院

発 行 所 弘前大学医学部医学科•医学部附属病院

医学部医学科 〒036-8562 青森県弘前市在府町 5 医学部附属病院 〒036-8563 青森県弘前市本町 53 電 話 0172-33-5111(大代表)